延喜式

文學博士　物集高見編

新註

皇學叢書

第三巻

廣文庫刊行會

新註皇學叢書第三卷題辭

樞密院議長
法學博士男爵　倉富勇三郎閣下

子爵　清浦奎吾閣下

樞密院顧問官男爵　田健次郎閣下

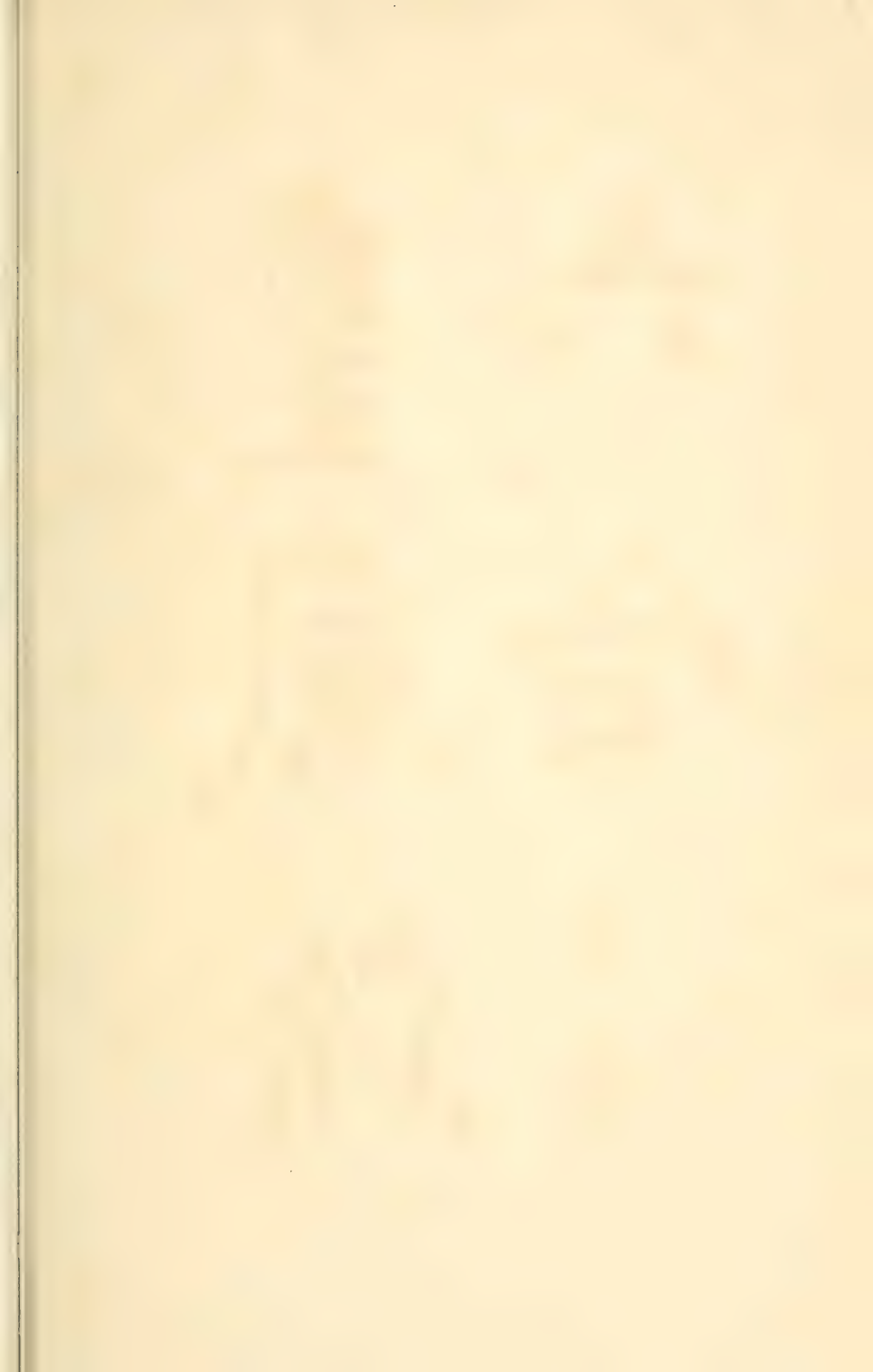
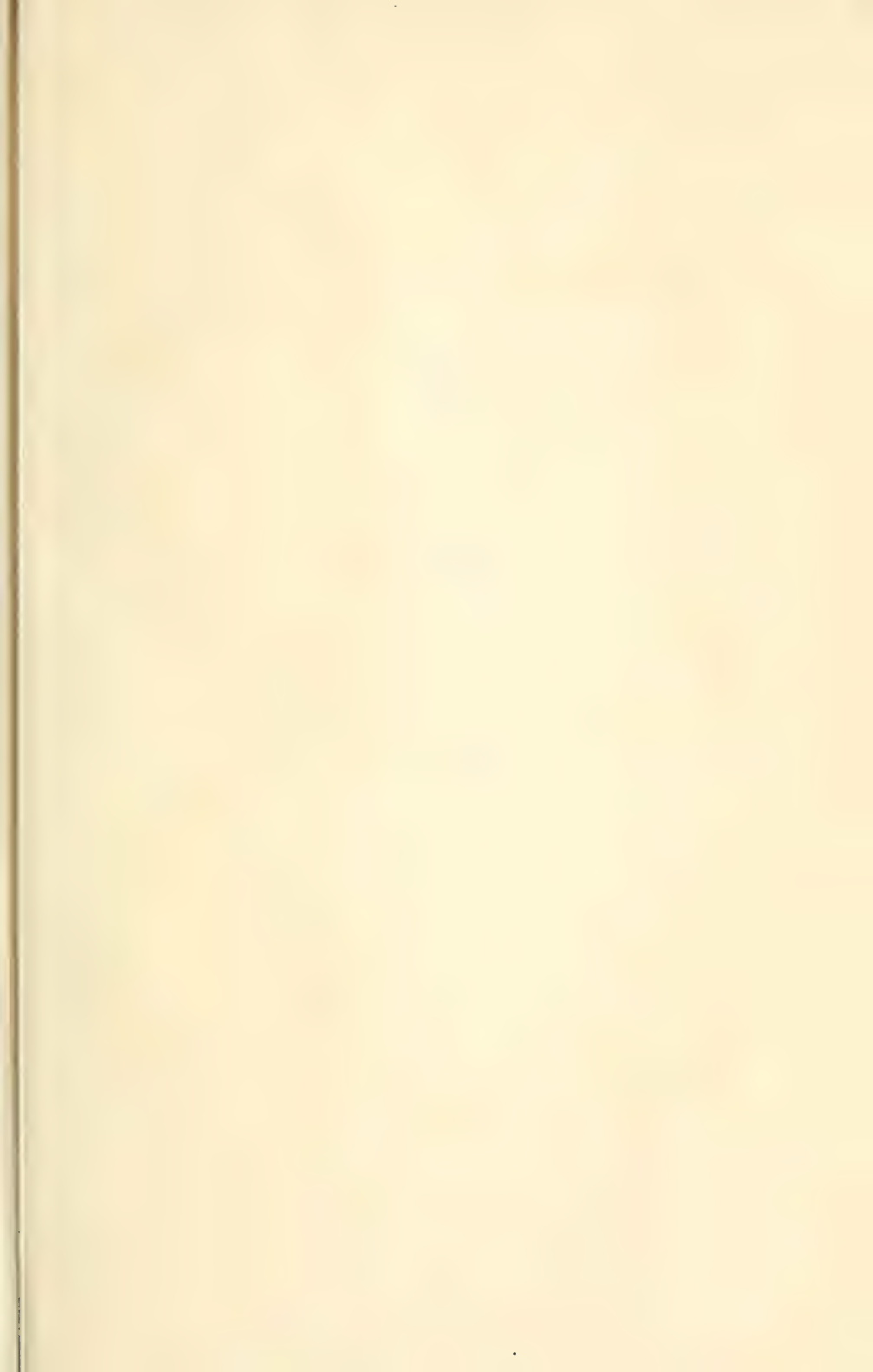
稽古徵今

胤熙

究洞源明
大本

丙寅冬
奎堂題

皇風洽
六合

謙山健

延喜式

例言

一、本書は流布本を底本とし、雲州家校本、井上頼圀博士所藏校本、國史大系本其他を參考して校訂せり。

一、頭註に擧げたる書名は繁を避くる爲め左の如く省略せり。

書名	略稱
雲州家校本	雲本
雲州家校本考異	考異
雲州家校本所引本	京本、貞本、林本、明暦本、亨保本、古本
井上頼圀博士所藏本	井本
同所引古寫本	古寫本
稻葉通邦校本	稻本

一、頭註は左の諸書を參照して註釋を施せり。

日本書紀、續日本紀、日本後記、續日本後記、文德實錄、三代實錄、類聚國史、日本紀略、類聚三代格、政事要略、令集解、令義解、江家次第、貞觀儀式、類聚和名抄、祝詞考、延喜式祝詞講義、神名帳考證、神社覈錄、延喜式裝束鈔、延喜式染鑑、延喜式工事解其他。

一、原本卷首載する所の歷運紀は、雲州家校本の所說に從ひて之を除き、雲州家校本考異第六なる和名考異と共に附錄として卷末に附載せり。

皇學叢書第三卷目次

新註皇學叢書第三卷目次終

延喜式解題

延喜式は今日から平安中世の宮闈や中央及地方政廳の狀態を靜的に觀察するためには至上の寶典である。またそればかりでなく、萬般に渉つたその規定を通して時代人の生活を推究考察し得られることはいふまでもない。本書に先つて同じ使命を持つ官撰の書が二種あつた。卽ち弘仁式と貞觀式とである。しかしそれ等の書は、夙に失はれ去つて、今はたゞ古書の引用するところにより、僅に片鱗を窺ひ得られるに過ぎない。從つて唯一の書なる延喜式の價値は、至貴至重なものといはねばならぬ。

かういふ使命を擔つて、世に傳へられて居る本書の編輯は、容易なものではなかつた。よつて先づ少しくその方面から說き初める。

一

本書の序文に次の一節がある。

弘仁聖主……作二諸司式四十卷一……貞觀天朝……撰二式廿卷一新舊兩存、本枝相待、然猶……事多漏略。

當時弘仁式と貞觀式は、世に嚴存したけれども、そのいづれも、まだすべてを盡したものとはいへなかつた。のみならず、兩書を對照して舊事を考へやうとする有司等には、兩式の卷數が同じでないために、少なからぬ煩はしさがあつたのである。よつて延喜五年八月に、左大臣時平等が命を受けて新式――即ち今日いふ「延喜式」――の編輯を開始することゝなつた。これについては本書の序文に

準據開元、永徽式例、併省兩式、刪成一部

と明言してある。唐朝の兩式及弘仁貞觀兩式を鏡として、適宜に取捨せられる方針であつたことが知られる。

編輯が開始されてから完成に至るまでには、廿餘年の歲月を經過した。その間に於ける事業の消長、編輯官の薨卒などを詳述する遑はないけれども、古人苦心の跡を傳へるのも、本書の價値を知らしめる一端とならう。よつてその大要を記さう。

左大臣時平は延喜九年に薨去し、その他にも「公卿大夫頻年薨卒」の厄に遇つて　事業の進捗は容易でなかつた。延喜十二年二月に大納言忠平等に勅して、先業を繼承完成せしめられ、彼等は鋭意その事に當つた。しかし、延長初年には、まだ成功を見なかつた。貞信公記延長二年の條によ

ると、秋冬にかけて次のやうな記載が殘されて居る。

九月十日　定式事

廿五日　定式

十月六日　定式

十一月六日　定式

十五日　定式、新作式今日定了、但有可相定事

（以上その一端に留る）

當時その進行中であつたことは察せられるけれども、まだ完成の期に達したらしくないのである。或はその草稿本とか略本とかいふ風なものがこのごろに出來たかも知れない。（前文にあげた貞信公記十一月十五日條參照。）とにかく翌三年になつても、事業はつゞけられて居るし、特に令して功を急がせられた證がある。その結果は編輯官の增員となつてあらはれた。貞信公記延長三年三月條に「定式」といふことが散見し。式の序文に

延長三年秋八月重遣ニ大納言……藤原清貫、與ニ前奉レ詔者大中臣朝臣安則、及……大外記臣作宿禰久永、外從五位下行左大史闕リ宿禰忠行等、同催ニ撰緝一、責ニ其成功一。

とある。かうして事業は急に活氣を加へた。同年の九月から十二月までには、かなりの進行速度を見せたらしいのである。延長五年の冬になつて、これまで多くの歳月を費し、關係吏員の數名かを故人たらしめた事業は完成を見ることゝなつた。本書の卷數は五十卷であり、弘仁貞觀式よりも豐富な内容を持つものである。當時の上表に

上延喜格式表

とあつて、表の本文に

搜二古典於周室一、撰二舊儀於漢家一、取二捨弘仁貞觀之弛張一、因二修永徽開元之沿革一、勒成二一部一、名曰二延喜格式一

……式五十卷。撰集總畢。今日上聞。

延長五年十二月廿六日

かう記されてゐる――文にいふ延喜格の方は延喜七年十一月に完成奏覽された。

本書は古くから官省はいふまでもなく、上下の識者に尊重された。從つて部分的な研究註解を試みた書類が極めて多い。神道家の方面では祝詞式や神名帳の考究に努力したし、服飾、染織等の研究者はそれらの部分について著作を殘した。また工匠とか信仰とかさういふ側面だけについて著はされた書類もある。

二

本書は五十卷から成る大著であつて、その初の十卷を神事の制度に費してゐる。即ち一―二、四時祭式。三、臨時祭式。四、伊勢大神宮。五、齋宮寮。六、齋院司。七、踐祚大嘗會。八、祝詞。九―十、神名帳となつて居る。本居翁が、「玉かつま」卷六に

されば朝廷の天の下のもろ〳〵の公事のうち五分が一は神事にて有りし、これを以ても古へ神事のまつりごとの重くしげく盛なりしほどを思ひはかるべし。

といはれたことも思ひ出される。これから本書にあらはれた興味ある記載の一端を述べて置かう。

先づ齋宮と齋院のことから記さう。日本の中世乃至それ以前に於て神祇崇拜の程度を確證する資料は數ふるに遑もないけれども、皇女をして親しく皇祖の大廟に侍せしめられたことなどは、その最も代表的な事實である。

伊勢神宮に奉侍せられる皇女を齋宮と唱へて、新に登極の式あるごとに、適當な御方を物色選定されるのであつた。本書卷五に次の明文がある。

凡天皇即位者、定二伊勢大神宮齋王一、仍簡二内親王未嫁者一卜レ之（若無二内親王者一、依二世次一簡二定女王一卜レ之）。

かういふ制によつて、某皇女（或は王女）が大任にあたらせられるとき、勅使が神祇の官人を隨

へてその家に參向する。さうしてその趣を申し傳へると共に卜部は解除の式を行ひ、神部は賢木を宮家の御殿や内外の門に立てる。それ等の儀式がすんでから、新齋宮の假御所——これを初齋院といふ——が卜定される。そこには齋宮とならせられた翌年の七月まで御住居になる。次で野宮に入御せられ、更に明年の八月まで清淨なる日常生活を送らせ給ふこととなつて居つた。野宮御滯留の期が了つてから、河頭で祓禊の式を行はれ、伊勢へ御下向になる。本書に京都御滯在期に於ける新齋宮の御職務を規定してあるその一節に

凡齋内親王在レ京齋三年、卽每月朔日著二木綿鬘一、參二入齋殿一遙拜大神一。

これでその御樣子が知れやうと思ふ。文に每月朔日とあるけれども、九月と六月十二月にはその事を行はれない。また遙拜のとき齋宮は拍手なさらぬ故實があつた。——神宮に親侍せられるやうになつてからのことも詳しく傳へられてゐる。しかしこゝにはあげない。

當時佛教信仰が上下を風靡してゐたにもかゝはらず、神域ではその禁制があつた。

凡齋宮諸司、及宮中男女佛事……者科中祓

これがその罰則であり、日常用語にも忌詞が多かつた。卽ち左表の通である。

佛　中子（ナカコ）　　經　染紙（ソメカミ）

塔　阿良々岐（アラヽキ）　　　寺　瓦葺

僧　髮長（カミナガ）　　　　尼　女髮長

齋　片膳（カタシキ）

右を內七言と唱へる。別に死をナホルといひ、病をヤスミ、血をアセと呼ぶ類の七種を外七言と稱した。神宮に奉侍せられる皇女と並んで、賀茂の神社に侍仕せられた皇女があつて、それが卽ち齋院である。本書卷六にその規定が委しく出てゐる。要するに皇女の神祇に常侍奉仕せられることは、敬神の古俗を最もよく示したものである。しかしながら、踐祚登極の禮と密接な關係を持つた大嘗の神事は、それにも勝して重大な儀禮であつた。本書卷七にはこれに關する記載がある。

三

最初の十卷で神事の規定を了つた本書は、卷十一以下で太政官各省のことを逐次詳細に規定して居る。先づ太政官の條には辨官の執務時間を明示したところがある。

凡辨官申レ政時刻、自二三月一至二七月一辰三刻、自二九月一至二正月一巳二刻、二八兩月巳一刻。

平安季世となつては、かういふ古例は全然壞滅し去つた。皇族高官の薨去には葬務官が公定され

たことも本條の末節にある。

凡親王及大臣薨、卽任₂装束司及山作司₁……送葬之日、勅使二人（一人持₂詔書₁、一人持₂位記₁……）。

次で中務省の條に入る。（卷十二。）中務省は今日の宮內省に近い。當時別に宮內省の存在したことは、いふまでもないけれども、（本書卷三十一にみゆ。）その所管は狹小であり、勢力もなかつた。中務省の規定には興味のあることが多い。特に女官制度に關しては、その著しきを認める。所謂「女官」の中には一般のそれと氏女及采女がある。氏女と采女とは、他の女官とは全く出身を異にするものとされて居つた。——時代的變化はあるが、本書の規定でいふのである——卽ち氏女については、

凡諸氏貢₂氏女₁、皆簡₂年卅已下卅已上時無ㇾ夫者₁……。

當時一般の女官は、人の室たるものでもよかつたのであるから、氏女が一種別個のそれであつたことを示すものといへやう。その年齡に關する規定もさうである。采女のことは別に述べる。それから皇族と臣民との結婚に關する次の一條も留意すべきであらう。

凡諸王以上娶₂臣家女₁爲ㇾ妻者、不ㇾ得ㇾ准₂夫品位₁、其內親王及女王亦不ㇾ得ㇾ准₂夫品位₁、但五世王者得ㇾ准₂夫位₁。

これによつて夫婦間でも、婚姻以前に於ける身分が正しく比例してゐない場合は、嫁してからも配偶者の地位は、對等とならぬことを確證される。しかし、それは婚姻の不正とか不完備を意味

することはないのである。この規定は、後宮制度を考へる者の觀過すべからざる資料となる。それと共に本條の規定が、男子だけによく定められて居るものでないことも、前條を一讀すれば明白である。更に進んで卷十三に入ると、そこには中宮職の規定があつて、元日、屠蘇白散等の儀式のこと、二日、皇太子の朝賀を受けさせられること、――中宮の正殿は常寧殿である――女官の朝賀等についても明記されて居る。

白馬節會の日には中宮の出御はないけれども、その正殿で同じく御覽の式があつたことがわかる。

七日左右馬寮充處馬醫、寮別各一人、左右近衛十四人率二白馬七疋一度二御殿前一……

十五日には内侍已下女孺已上に、粥と酒肴を下賜せられ、十六日踏歌節に出演した妓女四十六人にも、饗祿を賜はる定めであつた。三月五月七月の節には、公式な御催しはないらしいけれども九月の重陽には菊酒の儀が行はれた。

凡九月九日平旦、供二奉菊酒一如二常儀一。

と記されて居る。御服飾――年中を通じての規定――については卷十四縫殿寮條に委しい。

註

(1)當時三月節は停止せられて居たものと考へられる。五月は武を主とするものであり、七月節は廿五日に行はれて相撲の式であつたから、女儀はそれ等に對する何等の御催しもなかつたのであらうと思ふ。

四

大膳寮の規定は卷三十二――三十三に出て居る。親王内親王に下賜される「月料」(食料品である)や、下級女官や親王奉仕の乳母等に、給與せられる分まで明記してある。次で卷三十七は典藥寮のことが見え、元日、主上中宮に奉獻する白散、度嶂散、屠蘇、千瘡萬病膏などの製法や、奉獻の式が記され、頗ぶる興味をひく。よつてその式の一端を示さうと思ふ。

元日寅一刻宮人率二藥生一就レ井出レ藥、即省輔一人宮人等持レ藥共入、……即用二銀鎗子一煖二屠蘇一(造酒供レ酒、主殿設二火爐一)尚藥執二御盞一率二女孺一昇レ殿令三藥司童女……先嘗一、然後供御……。

屠蘇が温酒に入れて飲用されるものであつたことがこれでよくわかる。

本條の規定にはまだ他にも留意すべきものが多い。御料の牛乳については、

凡供御乳、日別大三升一合五勺……。

とあつて、御料の乳牛は七頭(犢ら七頭)で、一年に與へらるべき食料も定められ、それは山城丹波兩國から納める。御化粧用白粉製造の原料も本書によつて知られる。次に少しく春宮關係の

ことを見やう。卷四十三に春宮坊の規定がある。その中から二三の事實を例示して置く。

(イ)元三獻藥の式

先づその日の定刻に、主殿署（即ち東宮の主殿寮にあたるもの）から出張した吏員が殿庭に火爐を備へつける。御藥をあたゝめるためである。それから典藥の官人が參上して進獻の式が行はれる。本書に左の如く記されて居る。

典藥寮官人侍醫等……即調二藥酒一、侍醫先嘗、……授二典藥一、典藥率二女孺等、並主膳一供二御肴一、采女四人候二殿東廂一、便從二東方一進供。

これで祝酒を奉る作法の大要が知られる。聖上の御料と同じく、冷酒でなかつたところが最も留意を値する。

(ロ)東宮御朝賀

その式は大極殿で行はれた。當日東宮は輦車に駕せられ、傅以下の職員を從へて御參向になる。大極殿東廊の外で御降になつて禮服（ライフク）を着御し、玉冠を召し、御劍を帶ばせられてから、御參進あるべき定めであつた。そのときの狀を記した次の一節がある。

次舍人二人執二紫蓋一以隨レ之、亮帶レ仗率二帶刀舍人等一在二前行一……朝拜訖還宮。

これは元旦の式であるが、毎月に六回類似の式が行はれ、正月二日には中宮に參賀あらせられる例であつた。東宮職員及一般官人の參賀は正月二日に行はれて、その時は皇太子が親しくそれ等の人々を引見せられる。

註

（1）元日朝賀の設備等はすべて式部省の掌るところであつた。本書卷十九に當日參列者の服制規定が詳に記されてある。正月二日の皇后（卽、中宮）の群臣の賀を受けさせられる規定もある。

五

少しく方面を改めて一般庶人にも關係の深い方面を見やう。當時日本の首都であつた「平安京は、東西の兩京に分たれて居り、それに各々「京職」があつて、その行政的實務に當つた。それから左右（左―東、右―西）兩京には、東西市司が置かれた。「市」といふのは今日の「市」とはちがつて、商業地域といふに近い。その地には法定された專門の商店がある。その種類は東市五十一類、西市卅三類で、兩方に共通して存在する者と、さうでない者とがあつた。左に重要な分だけを表示しやうと思ふ。（卷四十二による。）

東　市

東絁座、（即ち東國産のアシギヌを供給するところ）以下一々説明しない。

羅同	錦同	絲同	幞頭同
巾子同	縫衣同	帶同	布同
木綿同	櫛同	針同	衿同
筆同	墨同	珠同	玉同
薬同	太刀同	弓同	矢同
香同	鐵并金器同	漆同	油同
染草同	米同	木器同	鹽同
醬同	索餅同	菓子同	干魚同
馬同	生魚同	麥同等	

西市

絹座	錦綾同	絲同	綿同
紗同	幞頭同	縫衣同	裙同
調布同	麻同	櫛同	針同
維染同	簑笠同	染草同	土器同
油同	米同	鹽同	未醬同
索餅同	糖同	菓子同	干魚同

生魚同　　牛同等

右はその一端である。これ等の座はみな公設のそれであつて、個人の企業ではなかつたやうである。しかし、後にはその制が維持されなかつた。

「國」に大上中下の等級があつたり、遠中近の差別があつたりしたことも忘れてはならぬ。（巻廿二民部上）

犯人を糺彈することについての規定が巻四十一にある。

凡臺彈レ人者、詞容端嚴依レ理糺彈、……受レ彈者、敬二愼容止一……陳レ所レ問。

これで當時に於ける人格尊重の思想がよく知れるし、行路樹や行路病者についても規定されて居る。前者のことは巻五十に見えて、

凡諸國驛路邊植二菓樹一令下往還人得中休息上若無レ水處量レ便掘レ井。

本文によつて考へると、當時の人々は、行路樹（市内のそれは別であるが）を單純な使命を有するものと見てゐなかつたことが察せられる。後者についても巻廿三に次の明文がある。

凡諸國往還百姓在レ路困飢病患無レ由レ達レ郷者……附二隨近村里一、以二正税一收養、得レ療之日、依レ法逆達……。

いふまでもなく、かく委曲を盡した規定だけはあつても、實行されぬことは少なくなかつたと考へる。けれども、季世以前の社會では、これ等が全く空文的なものでなかつたことも餘に明白で

ある。

六

終に本書關係の書史を附記しやう。勿論、これは先年本書撰修記念の祭典が行はれたとき、出品された分だけであるけれども、以て本書がどの位まで後人に研究され貴重されたかを推する資料には充分であらうと思ふ。

先づ傳寫本と板本について見る。――これで盡了されて居るわけでないことは前文に述べた。

九條家本	古鈔本（平安朝末期）一―三九（缺アリ）	二八巻
一條家本	古鈔本（鎌倉時代初期）一―五	五巻
三條西家本	古鈔本巻五〇	一巻
近衛家本	五〇巻	五〇
藤波家本	一―五〇（巻十缺）	四九
壬生本	九―十三、一五―五〇	二一
和學講談所本	五〇巻上表目錄並歷運記一巻	五一
井上本	五〇巻	五〇

以上傳馬

本	内容	巻数
松岡本	五〇巻（巻末付刻ナシ）	五〇
明暦版	五〇巻 明暦三林和泉椽刊	五〇
享保版	五〇巻 享保八（清水濱臣ノ書入アリ）	五〇
井上本	七—八、十四—五〇巻 勢多章甫校	一七
神谷本	五〇巻 神谷克楨校	四八
出雲版	五〇巻 考異七巻附録三巻 松平齊恒校文政一一刊	六一
六人部本	一—一〇五〇 六人部是香書入	

以上刊本

次に本書を研究したものとか、研究者に便するとかいふ意味のそれを列記する。——本文の註釋考證で、特に神名とか神社、祝詞等に關するものは下文にあげる。

（一—六）

延喜式類甫　寫　二

同　類字　寫　二

同名物類聚　壹

書名	著者・備考	冊數
同名物類標	榊原芳野自筆稿本	一
式文神事類要	町尻量原	一
延喜式祝詞神名	地誌課編	一
同祥瑞考證	河村秀根 三巻	一
同祥瑞集傳	河村秀根 (河村秀孝本影寫)	一
同裝束鈔		一
延喜染鑒	弘賢	一折
式內染鑒	寫	一
式內馬品考	寫	一
兵部式考異	寫	一
延喜式工事解	兵庫寮春田永年 三卷文化三刊	一
同工事通解	春田永年 刊	一
同圖翼	一名工事解圖翼 春田永年稿	一
同喪服考	足代弘訓	一
令式服色考	松岡辰方	一

令式服色便覽		一帖
延喜太神宮式	度會延佳 元祿一一刊	一

次に祝詞式——本書卷八である——に關したものをあげる。

祝詞式	古義軒先生鹿持雅澄寫 正則	一
延喜式祝詞	寫	一
祝詞卷	刊	一
祝詞正訓	平田鉄胤 安政五刊	一
祝詞式正訓附天神壽詞	平田鉄胤 明治二刊	一
延喜式祝詞正文並附錄	角田信道 明治一七刊	一
祝詞式	進藤讓 大正一三刊	一
祝詞解	賀茂眞淵寫	五
同考	賀茂眞淵 刊 寫	三
頭書延喜式祝詞		一
祝詞式略註	小野高潔寫	一
延喜式祝詞外誌	松本秀業 寫	一

祝詞愚意	石茂太氏 嘉永六	一
延喜式祝詞講義	鈴木重胤 寫 明治六	三一
頭註延喜祝詞式	神谷永平頭註羽野田敬雄閲 明治一四刊	一
祝詞略解	久保季玆寫	二
同演義	船曳鉄門 明治一七刊	二
同解釋摘要抄	東原永平 明治一九刊	二
訂正祝詞式講義	春山頼母 明治二五刊	一
祝詞切幣	物集高世 明治三二刊	一
祝詞式講義	大久保初雄 明治三四刊	二
祝詞評釋	春山頼母稿本	一
神祓抄	（大秡註）寫	一
大祓註	賀茂眞淵自筆本	一
大祓解	森川安梔（享保三） 寛政一二刊	一
大祓詞後釋	本居宣長 二卷 寛政七刊	二
大祓詞後釋餘考	上田百樹寫文化七	一

書名	著者・刊寫	數
大祓詞正訓	平田篤胤刊	一折
同後々釋	藁井高尚 文化一四刊（書入本）	一
大祓詁訓	森鴨笠臣 寶曆八刊	一
同之註	櫻井政重 寫	一
大祓詞略解	齋藤義彦（吉川家學頭）自筆本 寫天保七	二
同省解	附餘論ノ祝詞種々の考荒木田守訓天保一一刊	一
同天津菅麻	六人部是香二卷 寫	一
同便蒙	附餘論猿渡盛章寫 餘論猿渡容盛嘉永四	一
大祓執中抄	近藤芳樹二卷 元治元刊	二
大祓詞文義考	堀秀成 寫 慶應元	一
大祓燈	北邊御杖 明治六刊	一
大祓詞三會辨	根木眞苗三卷 明治七刊	一
同俚言副註	桂上枝 明治一九刊	一
大祝述義	岡吉胤 明治二四刊	一
同踏分草講說	池田實信 明治三〇刊	二

書名	著者・刊寫	冊數
大祓詞根本義研究	川端金三郎 刊	一
天津祝詞說略	鈴木雅之 刊	
天都詔詞太詔詞考	大國隆正寫	五
天都詔詞太詔詞考	大國隆正 明治三三刊	二
天津詔詞考	平田篤胤 刊	一
出雲國造神壽後釋	本居宣長 寛政五刊	一
祝詞管見	春山賴母稿本	一
祝詞ノ書法	同	一
中臣祓兩部鈔	一名中臣祓訓解（僧空海著）	一
中臣解除聞書	吉田兼倶寫	
中臣祓	寫	一帖
同抄	清原宣賢二卷 慶安四風月刊	一
中臣祓	（注解）寫	一
同考索	和田宗允（峨山）一卷 萬治四刊	二
同集說	橋三喜三卷 寛文二刊	三

同索引	寫一卷	一
同臣祓瑞穗抄	度會延佳 貞享五刊 二卷	二
追加中臣祓瑞穗抄	度會延佳 貞享五刊 二卷	二
中臣註	寫	一
中臣祓白雲抄	白井宗因 寛文一三刊 二卷	二
同風水草	山崎嘉 寫	三
同鈔	山崎嘉 寫	一
同草管鏡	玉木正英寫 亨保五	一
中臣祓類水草抄略	寫	一
同聞書	吉川惟足 寫	一
同講草	桑名松雲寫 (元祿二年鴨祐ノ序アリ)	一
同大全	淺利太賢 元祿二刊	一〇
同講解辨斷	流泉散人 (元祿四刊一卷) 寫	一
同義解	流泉散人 (元祿六刊一卷) 刻	一
同四神考	桑名松雲 寫	一

書名	著者・刊写	
同或問	眞野時綱 三卷 元祿四刊	三
同千利抄	淸水以義 二卷 元祿一二刊	二
中臣說解經營卷	杉井八百道 三卷 寫	一
中臣祓穰卷	同 三卷 同	一
同埋領卷	同 三卷 同	一
同私語卷	同 三卷 同	一
中臣祓囊擶	菅原信圓 二卷 元祿一二刊	一
同辨	寫	一
同淸明抄	高田宗賢（未白） 二卷 寫	三
同句投	葉原勝重 二卷 寬永元刊	二
同要信解	源仲之 三卷 正德三刊	三
同旁觀	龍河永 正德六刊	二
同眞直抄	柏亭カ	一
同鹽土傳	谷重遠 享保三刊	一
同代柯	山角友勝 享保三刊	一

同示蒙説解　小早師永隆　享保五刊　三
同松風鈔　青木永弘　享保五刊　一
同淸淨草　跡部良顯　一
同諺解　寫　二
同訓釋　寫　二
同氣吹抄　多田義俊三卷　寫（元祿四）　一
同古義　松崎義兒　享保一六刊　二
　　留守友信（自筆本カ）寫　享保十九　一
中臣口授　二重潮翁口授岡田正利記寫　享保十九　一
中臣祓祥記　小島清光（）サ寫　享保二　一
同鈔　外顯美曾加草　洗潮齋岸昭之寫　元文二　一
同禊除草　玉木正英寫　一
同辭古訓　度會正身二卷（寶曆七年ノ序アリ）　二
同古訓註鈔　度會正身二卷（寶曆七刊）　二
同舊傳　太神貫道三卷　明和四刊　一

同古說	平景敏 天明二刊	一
同正義	卜部清蔭寛政元寫	一
同和解	鴨祐之寫（文化一四）	一
同竹內羞齋口授	（鵜飼貞義筆記）寫	一
同竹內式部口授	寫	一
同級戶ノ風	萬波雅俊自筆稿本 寫文政二	一
同講義	青山延彝 寫	一
稿本中臣祓詞要解	伴信友寫 文政六	一
神武天皇御製非法中臣祓本義	三木廣隆二卷 文政七刊	二
三　一鎌	（三木廣隆ノ說ヲ駁ス）生田國秀 寫文政八	一
中臣祓纂釋	山田維則寫 天保二	一
同淵源	藤野雅俊二卷 天保	二
同問論	寫（天保七源清房）	一
同略解	雨耕（藤原政敎カ） 寫	一
同獨斷評論	藤原政敎 弘化四刊	一

書名	著者・刊寫	數
同大意示蒙解	藤原政猷　嘉永元刊	一
鳥傳祠詞考	梅辻規清　寫	一
同中臣祓再考	梅辻規清　寫	二
同講釋	同　寫	一
中臣祓私記	度會清在　寫	一
神字中臣祓詞正實	寫	一
中臣大祓圖會	蓬室有常　三卷　嘉永五刊	三
中臣祓略解	藤原政教記（明治一〇、萬延元（寶暦元野津玄昇改訂）	一
八部祓[illegible]	山崎[illegible]　寫	一

次に神名帳に關するものとしては、

書名	著者・刊寫	數
神名帳斷簡	（河内金剛寺古鈔本）	一
神名帳	卷十（首缺）古鈔本	一卷
校本神名式	寫	一
延喜式	神名卷九、十寫	二
神名記	松下見林校八、九、十　寛文七刊	三

延喜式神祇卷	刊	二
延喜神祇式	外題延喜式神名帳卜部兼倶 校訂丁十積王閲版	五
神名記	林和泉掾版	三
延喜式神祇卷	三島吉太郎校 明治四五刊	一
同神名帳頭註	吉田兼倶寫	一
同秘釋	寫	一
延喜式神名帳	(略註)二卷寫	二
延喜神名式略註	寫	一
延喜式神名帳之考	岸大路長之寫 寶曆六	一
同比保古	大山爲起自筆稿本	一五
神名帳考證	桑原弘業 寫	二
神名帳考證	伴信友寫三編 (官許ノ印アリ)	三
同	外題神名帳考 伴信友寫	一
延喜式神名帳考證	伴信友一七卷寫	一七
神名帳考證再考	(伊勢國)度會正身口授 門人船木忠告筆記三卷寫	一

書名	備考	冊數
延喜式神名帳檢錄	畿内東海東山北陸山陰道寫	四
神名帳考證上代	伴信友 寫	六
神名帳考證上代附考	黒川春村二卷 寫	一
同索引	寫	一
延喜式神名帳秘訣	秘訣ト同本	一
神名帳考	寫 卷一、一〇	一
神名帳頭字部類	安田廣治二卷 刊	二
續神名帳頭字部類	安田廣治 寫	一
又續神名帳頭字部類	安田廣治 寫	一
神社考	一名延喜式社考 曾[illegible]寛風自筆本	一
頭註延喜神名式	神谷永平校正頭註 田野徹雄校閲明治一四刊	二
山城國式社考	大島永政	一
攝州式內神社巡覽圖	久保重宣 並文泚	一折
伊賀伊勢神社檢錄	度會正身 寫	一
伊賀國神名帳考	寫	一

安藝國神名帳考　北隣軒祥麿　元文元寫　一
同三社記　一
周防國式內神社考　松平經平寫　二
紀伊國式社考　慶應四寫　三
阿波國內神社考　長谷川貞彥　一
同式社略考　永井五十鈴麿文化一二　一
讃岐國二十四社考　一名讃岐社考　寫　一
同官社考證　松岡調　明治一一刊　三
讃州廿四社順拜案內略記　一
豫州二十四社　寶曆一〇　一
記伊豫國官社考證　松岡調　寫　一
土佐國式社考　谷重遠　寶永二刊　一
壹岐國式社沿革考　吉野光胤　明治三　寫　一
道外神名帳　刊　一
中臣祓略說　寬文九刊　一

中臣祓　吉川惟足（聞書）寫　一

三道引合中臣祓釋解　寫下巻缺　二

以上

右はたゞ九牛の一毛かも知れない。それにしても、右のやうな多くの書目を列ね得られるだけで、充分に本書の價値がどの程度まで古人に知られてゐたかを示すに足りやう。

上延喜格式表

臣忠平等言。竊以天覆地載。聖帝則之育民。陰慘陽舒。明王象之馭俗。雖則朴斲雕至。馳驟之迹。古今不同。然而立法垂規。勸誡之
道。夷隆一致。
嵯峨太上天皇化周天壤。澤覃淵泉。制格式之明文。貽簡冊於昆季。六典詳其綱紀。百寮無所依違。斯固納軌之楷模。經國之准的者
也。貞觀先帝纘受寶命。誕膺洪基。救百王之澆醨。導萬民於富壽。憲章所以疊昞。凡例由其重規。暨乎年代稍遷。質文遞起。莫不變
通之道。南北分岐。號令之流。淺深別派。
皇帝陛下道四三皇。德六五帝。灑甘雨以遍普天之澤。扇淳風而拂率土之塵。重賞輕刑。雲鷹之翮忘鷙。省徭薄賦。野鹿之群不
驚。然猶恐惠化未周。頑民陷法。遂降 沖旨。彌繕隄防。增損往策之科條。裨補前脩之殘缺。臣等謹奉 綸命。忽履薄氷。於是搜
古典於周室。擇舊儀於漢家。取捨弘仁貞觀之弛張。因脩永徽開元之沿革。勒成一部。名曰延喜格式。但格十二卷。筆削早成。往年
奏御。式五十卷。撰集纔畢。今日上聞。臣等識非老彭。勤在祖述。聊窺其腠理。寧達彼奮旨。伏願 洪慈曲降照鑒。特垂允容。謹詣闕
拜表以聞。臣忠平等誠惶誠恐頓首頓首謹言。

延長五年十二月廿六日

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行等上表

延喜式序

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平等奉　勅撰

蓋聞、蒼精黃神之聖、覩人文以化天下。伊川嬀水之靈、則乾象而垂法度。故百官以理、自有高枕之君。萬民以治、乃見擊壤之叟。弘
仁
聖主德照龜圖。化隆鳥運。君唱臣和、風雲之契斯得、上安下樂、魚水之符克諧。爰降綸言、作諸司式卅卷。所謂國之權衡、民之轡策者
也。貞觀天朝。亦降睿旨。商攉古今、撰式廿卷。新舊兩存、本枝相得。然猶後式脩錄、事多漏略。
今上陛下。體元履正。御斗提衡。以為貞觀十二年以來、炎涼已久。文案差積。加以前後之式。事條既同、卷軸斯異。諸司觸事。檢閲多
岐、因茲延喜五年秋八月。　詔左大臣從二位兼行左近衞大將藤原朝臣時平、遣從三位守大納言兼行右近衞大將春宮大夫陸奧出
羽按察使藤原朝臣定國、中納言從三位兼行民部卿藤原朝臣有穗、參議大藏卿正四位下兼行播磨權守平朝臣惟範、參議左大辨從四
位上兼行讃岐權守紀朝臣長谷雄、從四位下行式部大輔兼春宮亮備前守藤原朝臣菅根、從四位下行文章博士兼備中權守三善朝臣
淸行、民部大輔正五位下兼行勘解由次官但馬守大藏朝臣善行。權左少辨正五位下兼行勘解由次官藤原朝臣道明。從五位上行神祇
大副臣大中臣朝臣安則。從五位下行大內記兼周防介三統宿禰理平。外從五位下行明法博士惟宗朝臣善經等、准據開元永徽式例。
併省兩式。削成一部。撰定未畢之間。公卿大夫、頻年薨卒。仍同十二年春二月。　勅從三位守大納言兼右近衞大將行春宮大夫臣藤
原朝臣忠平、從四位下守右大辨兼勘解由長官橘朝臣澄淸等。共隨先業、促其裁成。至延長二年穐八月。重遣大納言正三位兼行民
部卿臣藤原朝臣淸貫、與前奉　詔者大中臣朝臣安則、及從五位上行勘解由次官兼大外記臣伴宿禰久永、外從五位下行左大史臣
阿刀宿禰忠行等。同催撰緝、責其成功。爰蒙　明制。參詳斟酌。搜符案於官曹、摭文記於臺閣。究本尋源。締新隸舊。至如祭祀宴

饗之禮。朝會蕃客之儀，大小流例。內外常典。事存儀式。不更載斯。我后留情庶官。屬想業務。論王道之興衰。驗時俗之厚薄。屈大陽之洪暉。照高問於螢爝。枉滇渤之巨浪。酌下言於牛涔。有利於人可舉行者。有害於物可革去者。悉以制置。垂範來裔。凡起弘仁舊式。至延喜新定。前後綴叙。筆削甫就。惣編五十卷，號曰延喜式。庶使百川之流皆歸於海。萬目之紀俱理於綱。臣等勤非簡要。道謝清通。雖猥銜 慈綸。陶淳風於甲令。然悲僭 嚴制。致肅霜於秋官。謹序。

延喜式目錄

延長五年十二月廿六日

延喜式卷第一　神祇

四時祭上。

凡踐祚大嘗祭爲二大祀一。祈年。月次。神嘗。新嘗。賀茂等祭爲二中祀一。大忌。風神。鎭花。三枝。相嘗。鎭魂。鎭火。道饗。園韓神。松尾。平野。春日。大原野等祭爲二小祀一。風神祭已上並諸司齋レ之。鎭花祭已下祭官齋レ之。但小祀祭官齋者。內裏不レ齋。其遣二勅使一之祭者齋レ之。

凡祈年祭二月四日。大忌風神祭並四月七月四日。月次祭六月十二月十一日。神嘗祭九月十一日。其子午卯酉等日祭各載二本條一。自餘祭不レ定レ日者。臨時擇レ日祭レ之。

二月祭。

祈年祭神。三千一百卅二座。

大四百九十二座。三百四座ハ案上官幣。一百八十八座ハ國司所レ祭。

小二千六百卌座。四百卅三座案下官幣。二千二百七座。國司所レ祭。

神祇官祭神七百卅七座。

幣帛案上神三百四座。宮中卅座。京中三座。畿內山城國五十三座。大和國一百廿八座。河內國廿三座。和泉國一座。攝津國廿六座。東海道伊勢國十四座。伊豆國一座。武藏國一座。安房國一座。下總國一座。常陸國一座。東山道近江國五座。北陸道若狹國一座。山陰道丹後國一座。山陽道播磨國三座。安藝國一座。南海道紀伊國八座。阿波國二座。

社一百九十八所。

〔踐祚大嘗祭〕天皇即位の後、始めて新穀を以て天照大神及び天神地祇を祭り給ふをいふ、即位後必ず行ひ給ふを以て踐祚大嘗祭といひ、普通は單に大嘗祭といふ。

祭祀　大中小

祭日

〔祈年祭〕陰曆二月四日、風雨の災害なく、年穀豐熟せん事を神祇に祈請する祭をいふ、神祇官及び國司廳に於て之を祭る。

風雨　年穀

新年

〔案上官幣〕神祇官に於て祈年、月次、新嘗等の祭に、幣を案上に奠て神を祭るをいひ、案下に奠て祭るを案下官幣といふ。

〔倭文〕沈の義または線の轉なりといふ。楮、麻、苧等その緯を青、赤などに染めて亂れ模樣に織れる古への織物也。

〔庸布〕王朝時代正丁に課して、夫役の代りとして出さしめたる布をいふ。

〔腊〕乾したる肉をいふ。

〔三后〕太皇太后、皇太后、皇后の總稱也。

〔木工寮〕宮內省の被官にして、宮殿の營作、採材等の事を掌り、又た祭器、財具、倚子、床子、案等もこの寮にて調進す。

座別絁五尺。五色薄絁各一尺。倭文一尺。木綿二兩。麻五兩。庸布一丈四尺。倭文纏刀形（三寸。）絁纏刀形（三寸。）布纏刀形（三寸。）各一口。四座置八座置各一束。楯一枚。槍鋒一竿。弓一張。靫一口。鹿角一隻。鍬一口。酒四升。鰒堅魚各五兩。腊二升。海藻滑海藻雜海菜各六兩。鹽一升。酒坩一口。裹葉薦五尺。

前一百六座。

座別絁五尺。五色薄絁各一尺。倭文一尺。木綿二兩。麻五兩。倭文纏刀形絁纏刀形布纏刀形各一口。四座置八座置各一束。楯一枚。槍鋒一竿。裹葉薦五尺。

不レ奠二幣案上一祈年神四百卅三座（並小。宮中六座。畿內山城國六十九座。大和國一百五十八座。河內國九十座。和泉國六十一座。攝津國卅九座。）

社三百七十五所。

座別絁三尺。木綿二兩。麻五兩。四座置八座置各一束。楯一枚。槍鋒一口。庸布一丈四尺。裹葉薦三尺。就中六十五座各加鍬一口、靫一口。卅座各鍬一口。三座各靫一口。（並見神名帳。）

前五十八座。

座別絁三尺。木綿二兩。麻五兩。四座置八座置各一束。楯一枚。槍鋒一口。裹葉薦三尺。

右神祇官所祭。幣帛一依前件。其數中宮。三后皇太子御巫祭神各八座。並奠幣案上。但臨時加減。仍不入恒數。太神宮度會宮各加馬一疋。（布一段。）御歲社加白馬白猪白鷄各一。高御魂神。大宮女神。及甘樫飛鳥石村忍坂長谷吉野巨勢賀茂當麻大坂膽駒都祁養布等山口并吉野宇陀葛木竹谿等水分十九社各加馬一疋。其神祇官人以下鬘料安藝木綿一斤。中臣宣祝詞料庸布五段。短帖一枚。（月次大嘗宣祝詞。新嘗短帖准此。）前祭十五日充忌部八人木工一人。令造供神調度。（但楯者楯縫氏作。槍木者讃岐國所進。前祭五日令木工寮受之。）當官忌部官一人監造。若曹內無

〔神部〕神祇官の役員にして、その員數三十人あり、官內の雜事に奉仕す中臣、齋部、猿女の中より之を任ず

〔掃部寮〕大藏省の被官にして、薦席牀簀、蒲蘭葦、簾等の事を掌る、神代に豐玉姬命海邊にて御產の時、天忍人命陪侍し、帚を以て蟹を掃ひし故事により、其子孫掃部として世々宮中の灑掃を職とせるに基づく。

〔稱唯〕命を承けて「おお」と答ふる答禮の儀也。

〔伯〕神祇官の長官也。

〔官〕儀式になし

雷神

〔散齋〕祭祀の時、神事に預る者、致齋の前後に行ふ物忌也「あらいみ」と讀む

忌部官人。及神部之中忌部不ㇾ足九人ㇾ者。兼取二雜色一充ㇾ之。其潔衣料布人別二丈七尺。官人絹布一端。一人日米二升。酒六合。五位一升。鹽三兩。五位五兩。又加二東鰒一。烏賊煮堅魚各二兩。醬一勺。五位五夕。海藻二兩。但木工者不ㇾ給二潔衣及食一。致齋之日平明。儲二幣帛於齋院案上幷案下一。官司預敷二案下薦一。掃部寮設二座於內外一。諸祭設ㇾ座准ㇾ此。神祇官人率二御巫等一入ㇾ自二中門一就二西廳座一。東面北上。大臣以下入ㇾ自二北門一就二北廳座一。大臣南面。參議以上就二廳東座一西面。王大夫就二廳西座一東面。御巫就二廳下座一。群官入ㇾ自二南門一就二南廳座一。北面東上。神部引二祝部等一入立二於西廳之南庭一。既而神祇官人降就二廳前座一。大臣以下及諸司共降就二廳前座一。中臣進就ㇾ座宣二祝詞一。毎二一段畢一祝部稱唯。宣訖中臣退出。大臣以下諸司拍ㇾ手兩段。不ㇾ稱ㇾ唯。然後皆還二本座一。伯命云。奉ㇾ班二幣帛一。更稱唯。忌部一人進夾ㇾ案立。史以二官次一唱。御巫及社祝各稱唯進。忌部頒二幣帛一畢。太神宮幣帛者。置二案上一。差ㇾ使進ㇾ之。別史還ㇾ座申二頒ㇾ幣訖一。諸司退出。月次祭儀准ㇾ此。

國司祭祈年神二千三百九十五座。

大一百八十八座。東海道卅三座。東山道卅七座。北陸道十三座。山陰道卅六座。山陽道十二座。南海道十九座。西海道卅八座。

座別絲三兩。綿三兩。

小二千二百七座。東海道六百八十座。東山道三百卅座。北陸道三百卅八座。山陰道五百卅三座。山陽道百卅四座。南海道百卅四座。西海道六十九座。

座別絲二兩。綿二兩。

右國司長官以下准ㇾ例。散齋三日。致齋一日。共會祭ㇾ之。祭日幷班ㇾ幣儀並准二神祇官一。其幣皆用二正稅一。

鳴雷神祭一座。十一月准ㇾ此。坐二大和國添上郡一。

絁二丈。絲二絇。綿二屯。五色薄絁各六尺。倭文四尺。調布二端。庸布二段。木綿麻各一斤。鍬四口。白米五斗。糯米二斗。大豆小豆各一斗。酒二斗。稻四束。鰒堅魚雜腊各二斤。鮭五隻。雜鮨二斗。海藻二斤。雜海菜二斤。鹽一斗。菓

〔缶〕「ホトギ」といふは「含坏」(ホホツキ)の約轉又は「含處笥」(ホホトケ)の約轉なりといふ、腹大きくして、口のすぼまりたる瓦器也

〔匏〕「提子」(ヒサケコ)の約也　古は今の杓子の如くして深く、水を汲むに用ひたり。

〔葦籠〕和訓栞に「與にして葛籠なるをいふなるべし」とあり。

〔春日祭〕大和國奈良市春日野の春日神社に祭れる武甕槌神、經津主神、天兒屋命、比賣神の四柱也。

〔大炊寮〕宮内省の被官にして、諸國の春米、雜穀及び諸司の食料分給の事を掌る。

〔酒〕例により補ふ

春日

右鎮、多少隨レ時。明櫃二合、折櫃四合、高案一脚。缶二口、甕四口。片盤廿口。匏四柄。槲一俵、席四枚。食薦六枚。葦籠一口。已上祭新。薦布二段、木綿麻各一斤。甕四口、米一斗。酒一斗。稻二束。鰒堅魚各四斤、腊一斗、海藻六斤、雜海菜六斤。鹽四升。坩二口、坏五口、席二枚、葦籠一脚。已上祭新。祝詞當色袍一領、新紺絁三丈七尺、裏新綠帛三丈五尺。

右差二中臣一人一供レ祭。

春日神四座祭。

祭神新。

安藝木綿大一斤、絁七尺。調布二丈三尺。已上官物。神祇官所レ請。曝布一端八尺。商布十二段。筥八合　已上封物。内膳司所レ請。稻六束。神祇官所レ送。米糯米各三斗、大豆小豆各五升。已上大炊寮所レ送。酒一石五斗。用二社醸酒一。鹽五升。鰒堅魚烏賊平魚海藻各六斤。腊十二斤、鮨三斗、雜菓子二斗、橘子一斗、韓竈四具。由加二口。叩盆四口。盆六口。堝十口。洗盤六口。片盤片坏各卅口、筥坏廿口、梔形卅口、酒壺八口。加二瓶一水椀二口、折櫃四合。匏四柄。杓二柄。箕一枚。籭一口。槲二俵。置簀四枚。食薦十枚。已上大膳職所レ送。

散祭新。

白紙廿張。色紙卅張。曝布一端。已上封物。酒六斗。用二社醸酒一。五色薄絁各二丈。木綿二斤。麻一斤。五色木綿一百枚。五色玉二百枚。絁一疋、絲一絇、綿一屯。已上官物。神祇官所レ請。米糯米各一斗五升、大豆小豆各五升、已上大炊寮所レ送。鰒堅魚平魚各六斤。鮭二隻。海藻六斤、鹽五升、雜菓子三斗、槲一俵、折櫃四合、食薦二枚。已上大膳職所レ送。

解除新。

五色薄絁各二尺。木綿三斤、麻二斤、坏四口。已上官物。神祇官所レ請。神酒七升。用二社醸酒一。鰒堅魚腊雜盛二籠。海藻六斤。鹽一升。盆

〔大膳職〕宮內省の被官にして、諸國の調進物及び膳羞を調進する事を掌る、「大膳」は內膳に對する稱にして臣下に下賜せらるる饗膳をいふ。

〔神祇官〕天神地祇を祭祀し、諸國の官社を總管し、祝部、神戶の名籍等を掌る、八省百官の上に位す。

〔內藏寮〕中務省の被官にして、御座所近き藏を掌る。

〔軾〕疊の下に敷く三尺四方程の薦をいふ。

一口。已上大膳職所レ造。米五升。大炊寮所レ造。稻二束。神祇官所レ造。庸布一段。商布二段。已上封物。

餝二神殿一料、

五色薄絁各二丈四尺、絁四尺、綿一屯、木綿八斤、麻一斤。已上官物。神祇官所レ請。黑葛十斤、檜榑一村。已上木工寮所レ造。琴緒料絲六兩、神祇官所レ造。

釀二神酒一幷驅使等食料。前レ祭請レ之。

黑米四石、調布五尺、匏二柄、杓一柄、籮一口、韓竈一具、槲十把。已上封物。釀二神酒一料。酒缶十四口。酒壺二口。祭日納レ酒料。庸布一段、覆二甕四口缶十四口一料。白米三斗六升、鮨三升。海藻三十把、鹽九合、已上釀レ酒女一人。驅使二人十五日食料。

釀二神酒一解除料、前レ祭請レ之。

五色帛各四尺、絁四丈、絲四絇、綿四屯。木綿麻各二斤。白米一斗、酒二斗、鰒堅魚腊海藻各六斤。鹽四升。稻四束。黃葉八枚。鐵盆堝各四口。坏六口、食薦二枚、匏一柄、槲廿把、庸布四段。祝詞料布一端

釀二神酒一竈祭料。前レ祭請レ之。

五色帛各二尺。倭文一尺。木綿麻各八兩。鍬二口。米酒各四升。鰒堅魚各二斤、腊八兩。海藻二斤。鹽二升。祝詞料布一端。

齋服料、

物忌一人料、夾纈帛三丈五尺。羅帶一條。紫絲四兩。錦鞋一兩。已上封物。錦二條。一條ハ長三尺五寸。一條ハ長六尺。並廣四寸。絁三疋二丈九尺、絲絁一疋。紗七尺、韓櫛二枚。紅花一斤二兩。東絁三尺五寸。綿三屯半。支子五升。神主一人。神祇官人一人。別當色一領。內藏寮所レ充。絁二疋、綿二疋。已上官物。細布二端、調布二端。封物。神主軾料絁二疋。絲三絇。調布二端。彈琴二

人。別絁一疋三丈、綿三屯、膳部八人、卜部二人、別佐渡調布二丈七尺、紅花二両。已上官物。守神殿仕丁二人、別商布二段。已上封物。

右祭料依前件。春二月、冬十一月、上申日祭之。其封物者割下總常陸兩國香取鹿島二神封調布五百端、香取神封二百端。鹿島神封三百端。庸布三百段、商布六百段、麻六百斤、已上鹿島神封。紙六百張、香取神封。送神祇官。仍收官庫。依件充用。其雜給料所司各供請之。其物忌一人、食日白米一升二合、鹽一夕二撮、預神部二人、別日白米一升六合、鹽一夕六撮、仕丁二人。常陸國鹿島神封仕丁。別日黒米二升、鹽二夕、其衣服神部別夏絁四丈五尺、冬絁一疋三丈、綿四屯、並用神封物。

大原野神四座祭。

右祭物同春日祭。春二月上卯、冬十一月中子日祭之。

園并韓神三座祭。園一座。韓神二座。

五色帛各八尺。黄纈帛、紫纈帛、緋帛、淺緑帛、赤纈帛各四尺、帛二丈。緋絲二両、細布四丈、商布二段。安藝木綿一斤。凡木綿八斤。錢一貫文、鍬四口、五色玉一百枚、紙卅張、米二斗、糯米二斗、大豆小豆各五升、酒一斗二升、油二升、橘子一百八十顆、薑二合、施菖八合、食薦四枚、瓮缶各十口。椀四口、瓶六口、杯[illegible]口、酒臺六具、盤四口、匏四柄。柏九十把、葉四籠、薪二擔半、置簀四枚。已上神祭料。五色帛各三尺、朝韓祭料。五色帛各一丈二尺。絁一疋。縹帛四尺、絲二約、八両綿二屯。五色薄絁各二丈。調布一端、庸布二丈、商布四段。凡木綿四斤。麻二斤、紙卅張、色紙卅張、錢八百文、鍬四口、稻八束、神祇官所充。米一斗、酒一斗二升、糯一斗、鹽二顆、杯十口。甕二口、合盛膳四籠、黄蘗卅枚、柏廿把。已上除料。黒米一石、白米五斗、絁一疋、錢五百十二文。已上廣韓神酒料。飯五斗六升、酒一斗八升。已上膳部八人。卜部二人。神山人十人料。

〔膳部〕大膳職の職員にして、史生に次ぐ役也。

〔卜部〕神祇官の職員にして、龜卜の事を掌る。

〔物忌〕神社に仕へて、祭祀に預る童男少女をいふ。童男は宮守、物忌、又は大物忌ともいひ、少女は子良とも稱す。

大原野

〔白〕一本によりて補ふ

園韓神

〔大原野神〕山城國乙訓郡大原野村なる大原野神社に祭れる武甕槌、經津主、天兒屋、比賣神の四座をいふ。

〔園并韓神〕宮内省の祭神にして、園神社と韓神社に祀る、園神社は大物主神、韓神社は韓神及び少彦名命を祭れり。

五色絹各二丈四尺、絲四絇、曝布四端、安藝木綿八斤、麻八斤。裹幣帛料交易商布一段一丈七尺、明櫃二合、筥形一具、朸一枝。已上幣料、官物。神祇官所請。布四端。封物。白米六斗四升、糯米一斗二升、酒七斗、大小豆各四升。鮨一斗。腊四斤、烏賊堅魚各四斤。雜鹽一籠、海藻四斤、滑海藻二斤、生鮭一隻、鹽四升。菓子一斗五升。稻四束、韓竈由加各二具、箕一枚、捲形四口、叩戸二口、瓫四口、堝五口、酒壺二口、洗盤片盤各四口、覆坏廿口、酒盞八口、杯卅口、杓二柄。水桶二口、匏四柄、置簀四枚、食薦十二枚、籮一口、柏三俵、薪五擔。已上用三河內國正稅。

解除料、

五色絁各二尺、凡木綿二斤、麻二斤、鍬四口、交易商布二段、庸布一段。已上官物。神祇官所請。酒一斗。鮨三升。腊二升。烏賊堅魚各四斤、海藻四斤、鹽二升、稻二束、瓫三口、堝三口、缶四口、坏六口、杓二柄。水桶二口。匏二柄、食薦二枚、籮一口。黄蘗十二枚。已上用三河內國正稅。

前祭料、

五色絁各二丈。絁一疋、絲一絇四兩、凡木綿二斤、麻一斤、紙廿張、曝布一端。色紙卅張。五色玉二百丸。五色木綿一百枚。已上神祇官所請。

神殿裝束料、

五色絁各一丈四尺。絁四尺、麻二斤、綿一屯、黑葛十斤、檜榑一材。已上官物。神祇官所請。

釀神酒竈神祭料、前祭請之。

五色絁各二尺、倭文一尺。木綿八兩。鍬二口。已上官物。神祇官所請。

釀神酒解除料。前祭請之。

〔絹〕「かとり」は「堅織」(カタオリ)の約にして、緻密に織れる絹布をいふ。

〔朸〕物を掛けて荷ふに用ふる棒也。

〔籮〕下は角にして上は圓き筐也、今の米揚笊の類なりといふ。

〔正稅〕王朝時代の官稻の一にして、田租の中、官倉に納め、國用に充つるもの即ち經常費也、又た大稅(オホチカラ)ともいふ。

〔解除〕穢に去り淨きに就き、惡を除き善に就き、一切の禍を拂ふ意にて、又は祓の義をいふ。

〔風神祭〕大和國生駒郡三郷村立野なる龍田神社に於て毎年四月及び七月に天御柱神、國御柱神を祭りて、風災を除き五穀の豊熟を祈る祭をいふ。

〔松尾祭〕山城國葛野郡松尾村なる松尾神社に於て毎年四月行ふ祭也。

〔令〕衍字也。

〔貲布〕「しなの木」の皮を績ぎて製せし布也、「さよみ」といふは「狭讀」（サヨミ）の義にして、織糸の數の少きをいふ、「讀み」とは糸を數ふる時の助數詞なり、（一一四頁參照）。

〔平野神〕山城國葛野郡大北村平野なる平野神社に祭る神也。

一疋。祝料庸布一段。是日以御縣六座山口十四座合祭。其幣物者。座別五色薄絁各一尺。倭文五寸。木綿一兩。麻五兩。楉鍬一口。〈料[illegible]用[illegible]社分。〉四座置八座置各一束。楯一枚。庸布一丈四尺。裹葉薦二尺。其酒肴共用社料。但御縣六座別加絁三尺。

風神（カサカム）祭二座。〈龍田社七月准此。〉

絁二疋。絲四絢。綿一屯四兩。五色薄絁各二丈。倭文一丈三尺。布一端一丈。庸布五段。木綿一斤十兩。麻六斤九兩。〈五斤二兩、祭料。一斤七兩、祓料。〉桑八兩。弓四張。箆一連。羽二翼。〈已上三種大和國所進。〉鹿角一頭。鹿皮四張。鐵六斤十兩。鍬二具。多多利一枚。麻笥一合。加世比一枚。〈已上三物並令進。〉漆一升。金漆（コシアブラ）一升。黄蘗三斤五兩。茜十六斤九兩。黑葛廿斤。米酒各一石五斗。稻五束。鰒堅魚烏賊各七斤。鮭七隻。腊七斗。比佐（ヒサ）魚一斗五升。海藻八斤。滑海藻十斤。雜海菜十四斤。鹽一斗。裹葉薦三枚。馬二疋。祝料庸布二段。

右二社差王臣五位已上各一人。神祇官六位以下官人各一人充使。〈卜部各一人神部各二人相隨。〉國司次官以上一人。專當行事。即令諸部別交易令供進贄二荷。其直幷米酒稻並用當國正税。自外所司請供。但鞍隨損供進。

松尾祭。

五色絁各一丈。絹一丈。倭文一丈。絲二絢。綿二屯。木綿大四兩。麻十兩。裹葉薦一枚。錢二百文。〈贄直。〉調布二端。〈拭料。〉貲（サヨミ）布二端。〈當色。〉枌一枚。夫一人。

右夏四月上申日祭之。辨史各一人向社頭行事。

平野神四座祭。〈今木（イマキ）神。久度（クト）神。古（フル）開神。相殿比賣神。〉

五色帛二丈二尺。絹二丈二尺。倭文一丈六尺。絲四絢。綿四屯。木綿麻各十六斤。裹幣料布二丈二尺。〈已上幣料。〉米四

〔治部〕治部省の職員にして、雅楽を掌る人を指していへり。

御門祭

〔内舎人〕帯刀して朝廷に宿衛し、雑使に従事し、天皇行幸には左右前後に供奉して警護する人也、中務省に属し、四位以上の子孫の聡明秀麗なる者を之に任ず。

御川祭

〔大舎人〕大舎人寮の役人也、天皇の行幸に供奉し、警衛駈使の雑事を務む。

霹靂

右夏四月冬十一月上申日祭之。並用官物。其所レ供神物、神祇官請受儲備。其須者所司各供備之。祭日平明所司設皇太子幄及群官幄於祭院。大臣以下各就レ座。訖監祀官進申行事。参議以上即令治部調歌吹。大蔵賜蘰木綿。次神主中臣一人進宣祝詞。訖奏歌舞。先山人、次神祇官一人。次神主中臣一人。次侍従二人。次内舎人二人。次大舎人二人。既而給群官酒食。訖各去。

四面御門祭。十二月准レ此。

五色帛各四丈、絁四丈、絲八絇、木綿麻各八斤、綿八屯、紙二百張、倭文四丈。布八端。錢一百文、鍬十六口、黄蘗五十枚、糯米八斗、大豆小豆各四斗。米八斗。酒五升、糟八斗。稻十六束。鹽十六顆。鮭十六隻、鰒堅魚腊海藻各四斤。席薦各四枚。食薦十六枚。明櫃折櫃各八合。杯八十口。篝籠四脚、匏五柄。槲二俵。

御川水祭。十二月准レ此。中宮亦同。

五色帛各二丈五尺、絁二丈五尺。綿五屯、倭文二尺、絲五絇、木綿麻各五斤。紙一百張、布五端、錢八十文。鍬五口。酒二斗、米糯各五斗、大豆小豆各一斗、糯米三斗。稻五束、鮭五隻、鰒堅魚腊海藻各二斤、鹽五顆、明櫃二合。杯五十口。食薦五枚。席薦各二枚、折櫃五合。篝籠一脚、槲一俵。匏五柄。

右四面祭御門巫。御川水祭座摩巫、各行レ事。

霹靂神祭三座。坐山城國愛宕郡家西北。

五色薄絁各六尺、絹一疋三丈、絲一絇八両、綿一屯六両、倭文六尺、調布一端一丈、庸布三段、木綿麻各大三斤。鍬六口。當色一具、布六端、鮮物雑菓子等直。酒三斗、白米四斗五升、糯米一斗五升、大豆小豆各七升五合。鮭三隻、鮨一斗五升、鰒堅魚腊各二斤。鹽七升五合、海藻雑海菜各三斤。杯十五口、缶三口、堝三口。明櫃二合、折櫃三合。匏三柄。席

〔卜庭神〕天皇の御體を卜ふ時に祀る太詔戸命、久慈眞智命の二神をいふ、また之を卜部の神ともいふ。　〔御贖〕

〔甲堀〕扇の異名也

〔宮主〕神祇官の職員にして、宮中の神事を掌る人也、卜部の中より之を遣補す。　〔卜御體〕

〔延政門〕大内裏内郭十二門の一也、内裡の東、宜陽門の南にあり。

〔宮内省〕諸國よりの貢物及び替来を出納し、官田及び御食產を知り、内外の膳食の事を始め宮中一切の事を掌る。

薦各二枚、食薦四枚、柏六十把、黄蘗一斤、稲三束。

右宮預前祭中、神祇官差卜部一人吉日祭之、十一月亦同。

六月祭〈十二月准此。〉

御贖祭〈中宮准此。〉

五色帛各四丈、絁四丈、絲八絇、綿八屯、布八端、錢一百文。鍬八口、紙一百張。木綿麻各大八斤。米酒糟各八斗、鮭八隻、雜腊八籠、〈[illegible]〉海藻雜魚各八籠、塩八顆、席薦食薦各八枚、黄蘗卅枚、稲八束、明櫃八合、樽二口、杓八柄、坩卅二口。

雜器四荷、

右起従六月一日至于八日、日別御巫行事。其東宮日限并物數並減半。

卜御體〈宮主卜部等候。〉

卜庭神祭二座〈宮主卜部等日祭之。〉

布二端、庸布二段、木綿八兩、麻一斤、鍬二口。酒一斗、鰒堅魚海藻各四斤、鹽二升。盆一口。杯二口、匏一柄、槲四把。

食薦二枚、席一枚〈已上祭料。〉、龜甲一枚、竹卅株。陶椀四口、小斧二柄、甲掘四柄。刀子四枚〈已上卜料。〉

右所司預申官、預告諸司、若有使土者、具注移送。即中臣官二人、宮主一人、卜部八人、並給明衣。〈中臣細布。宮主已下調布。〉

始自朔日、十日以前卜訖奏聞。其日平旦預執奏文、納漆函、置案上、候於延政門外。即副已上執奏案進大臣。大臣昇殿上、宮内省入奏、訖出召神祇官、稱唯、伯與副若祐昇案入置庭中。勅曰參來。伯稱唯共昇案置殿上簀子敷上、中臣官便就版位、自[illegible]退出。内侍取奏文進。御覽畢、勅曰參來、中臣官稱唯就殿上座、披奏案讀奏。勅曰依奏行之。大臣稱唯、次中臣官稱唯退出、闈司昇殿撤案置庭中、神祇官昇出。

九尺。綿一屯。調布六尺。紅花一斤。錢百卅文。

供奉神今食人等祿。

中臣官一人給祿絹四疋。忌部官一人絹三疋。宮主一人絹一疋。中宮准此。供奉御膳采女一人絹四疋。御巫絹三疋。中宮御巫亦同。座摩御門生嶋東宮巫各二疋。

六月晦日大祓。十二月准此。

五色薄絁各一尺。緋帛一丈五尺。絹二疋。金裝横刀二口。金銀塗人像各二枚。已上東西文部所預。庸布三段。木綿五斤二兩。麻卅斤十兩。桑十二兩。烏裝横刀六口。弓六張。箭二百株。鍬六口。鹿角三頭。鹿皮六張。米二斗。酒六斗。稻四束。鰒二斤。堅魚七斤。腊一石五斗。海藻卅斤。鹽六斗。水盆六口。匏六柄。槲廿把。馬六疋。祝詞料庸布五段。短帖一枚。

右晦日申時以前親王以下百官會集朱雀門。卜部讀祝詞。事見儀式。

御贖。

鐵人像二枚。金裝横刀二口。五色薄絁各一丈一尺。絲三兩。安藝木綿二斤。凡木綿一斤。麻二斤。庸布二段。御衣二領。袴二腰。被二條。自餘物見縫殿式。鍬四口。米酒各二斗。鰒二斤。堅魚二斤。腊四升。海藻二斤。鹽四升。水盆坩坏各二口。匏二柄。柏廿把。小竹廿株。徑各二分。長八尺。宮主一人。卜部五人明衣新調布三端三丈六尺。

中宮御贖准此。東宮

鐵人像二枚。五色薄絁各一丈一尺。絲三兩。安藝木綿二斤。凡木綿一斤。麻二斤。庸布二段。御衣二領。裙二腰。東宮袴。被二條。鍬四口。米酒各二斗。鰒二斤。堅魚海藻各二斤。腊四升。鹽四升。水盆坩各二口。坏二口。匏二柄。柏廿

大祓

〔大祓〕贖物を出して禊を修め、犯す處の罪及び觸穢を解除する祭也。

〔十二兩〕貞本十三兩に作る。

〔卅斤〕林本貞本、卅斤に作る。

〔朱雀門〕宮城南面の正門也。

御贖

〔御贖〕祓の時罪の贖として、其身の禍を贖はん爲め出だすものを云ふ、素盞嗚尊の千座置戸の祓より起れるならむと云ふ。

〔鐵人像〕祓の時これを以て御體を撫で、禍を托する爲めに用ふ、卽ち人形（ヒトガタ）也。

〔裙〕裳也。

鎮火 〔鎮火祭〕令義解に、季夏鎮火祭、謂在宮城四方外角、卜部等鑽火而祭、為防火災、故曰鎮火、とあり、即ち火災防止の為め火神を祭る也。

道饗 〔道饗祭〕令義解に、季夏道饗祭、謂卜部等於京城四隅道上而祭之、言欲令鬼魅自外来者、不敢入京師、故預迎於道而饗遏也、とあり六月十二月に吉日を撰びて卜部之を祭る。

鎮火祭。於宮城四隅祭。

五色薄絁各四尺。倭文四尺。木綿五両。麻一斤。庸布二段。鍬四口。米酒各四升。鰒堅魚各一斤五両。腊四升。海藻一斤五両。塩二升。瓫坏各四口。槲四把。匏四柄。藁四囲。

道饗祭。於京城四隅祭。

五色薄絁各一丈。倭文四尺。木綿一斤十両。麻七斤。庸布二段。鍬四口。牛皮二張。猪皮鹿皮熊皮各四張。酒四斗。稲四束。鰒二斤五両。堅魚五斤。腊八斤。海藻五斤。塩二升。水盆杯各四口。槲八把。匏四柄。調薦二枚。

延喜式巻第一

延長五年十二月廿六日

外従五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

従五位上行勘解由次官兼大外記紀伊権介臣伴宿禰久永

従四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大将皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二　神祇二

四時祭下。

九月祭。

伊勢太神宮神嘗祭。

幣帛二箇。内藏寮供之。絁三疋。絲八絇。倭文一端一丈。席二枚。鞍一具。馬四疋。籠頭料布一端一丈四尺。

右當月十一日平旦。天皇臨大極後殿。奉幣。事見儀式。其使諸王五位已上及神祇官中臣忌部官各一人給當色。執幣五人。使從者三人各給調布衣布一端。但齋王初參入之時設御座於大極殿。事見儀式。

御巫奉齋神祭。中宮東宮御巫亦准此。

絁一疋四丈。五色帛各四丈。絲四絇。綿六屯。倭文四尺。調布六端。庸布四段。紙一百張。凡木綿麻各二斤。鍫八口。錢五百文。酒一斗。米六斗。糯米四斗。稻八束。大豆小豆各二斗。鰒堅魚腊海藻各十二斤。鮭八隻。鹽四斗。明櫃二合。折櫃八合。筥八合。杓二柄。瓫𤭖各四口。缶八口。坏八十口。槲五十把。席二枚。薦二枚。食薦八枚。簀二枚。

御門巫奉齋神祭。祈年祭同御巫祭。

座摩巫奉齋神祭。

絁一疋二丈五尺。五色帛各二丈五尺。絲二絇。綿三屯。倭文二尺。調布二端。庸布二段。紙五十張。凡木綿麻各二斤。鍫五口。錢二百文。酒九升。米四斗。糯米二斗。稻五束。大豆小豆各一斗。鰒堅魚腊海藻各六斤。鮭五隻。鹽二斗。

〔伊勢大神宮神嘗祭〕天皇新穀を以て作れる御酒と神饌とを伊勢大神宮に奉らせ給ふ祭也

〔籠頭〕馬の頭より轡にかけて結びたる飾紐也、後世の面繫(おもがい)に當れり。

伊勢

〔大極後殿〕即ち小安殿也。

〔當色〕官位相當に就きて着すべき服色を云ひ、從ふに[illegible]物を云ふ。

御巫

〔御巫奉齋神祭〕天皇の御爲めに八神殿の神を祭る也。

〔御門巫奉齋神祭〕神祇官に豐石窻櫛石窻二神の祭也

〔座摩巫奉齋神祭〕神祇官西院坐摩井神外四座の神祭也。

〔生島巫奉齋神祭〕神祇官西院生島神の祭也。

〔相嘗祭〕山城大和河内攝津紀伊五國の七十一社に新穀を供する祭也、十一月上卯日に行ふ相嘗は天皇と諸共に新穀を饗し奉る意、卽ち相新嘗の略なりと云ひ或は神嘗大嘗の間に行はるゝ故間嘗と云ふともいふ。

相嘗

太詔戸

〔鴨別雷社〕鴨上社也、山城國愛宕郡上賀茂村鴨山の麓に在りて賀茂別雷神を祭る。

加茂

〔鴨御祖社〕鴨下社也、同郡下賀茂に在り、別雷神御母玉依媛及外祖父賀茂建角見命を祭る

明櫃二合。折櫃五合。筥五合。杓二柄。瓫堝各二口。瓼五口。杯五十口。槲四十把。席二枚。薦二枚。食薦五枚。簀二枚。

生島巫奉﹅齋神祭。

絁一疋一丈。五色帛各一丈。絲一絇。綿三屯。倭文二尺。調布三端。庸布一段。紙五十張。凡木綿麻各一斤。鍬二口。錢二百文。米糯米各二斗。酒六升。大豆小豆各一斗。稻二束。鰒堅魚腊海藻各六斤。鮭二隻。鹽二斗。明櫃折櫃筥各二合。杓二柄。瓫堝各二口。瓼二口。坏廿口。槲卌把。席二枚。薦二枚。簀食薦各二枚。

右御巫以下諸祭。並於﹅神祇官齋院﹅祭之。

十一月祭。

相嘗祭神七十一座。

太詔戸社二座。坐﹅左京二條﹅。

絹四疋。絲二絇二兩。綿六屯。調布七端三丈八尺。庸布二段二丈六尺。木綿三斤四兩。鰒一斤四兩。堅魚五斤四兩。腊八斤。凝海藻六斤。鹽二升。海藻四斤。筥二合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓼酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各四口。酒稻百廿束。神稅。

鴨別雷社一座。

絹二疋。絲一絇一兩。綿三屯。調布三端四丈。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩。鮑十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。海藻二斤。凝海藻三斤。鹽一升。筥一合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓼酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏酒盞筥坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

鴨御祖社二座。

絹四疋。絲二絇二兩。綿六屯。調布七端三丈八尺。庸布二段二丈六尺。木綿三斤四兩。鮑一斤四兩。堅魚五斤四兩。海藻四斤。凝海藻六斤。腊八斤。鹽二升。筥二合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波莒醆酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏陶臼各二口。酒稻百束。神稅。

鴨川合社一座。

絹二疋。絲一絇一兩。綿三屯。調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿十三兩。鮑十兩。堅魚二斤。腊四斤。鹽一升。莒一合。海藻凝海藻各二斤四兩。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥醆酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

松尾社二座。

絹四疋。絲二絇二兩。綿六屯。調布七端三丈八尺。庸布二段二丈六尺。木綿三斤四兩。鮑一斤四兩。堅魚五斤四兩。腊八斤。海藻四斤。凝海藻六斤。鹽二升。莒二合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波莒醆酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏陶臼各二口。酒稻百束。神稅。

出雲井上社一座。

絹二疋。絲一絇一兩。綿三屯。調布三端四丈。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩。堅魚二斤十兩。鮑十兩。海藻二斤。凝海藻三斤。腊四斤。鹽一升。筥一合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓶酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏〔小坏〕莒坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

水主社二座。

絹四疋。絲二絇二兩。綿六屯。調布七端三丈八尺。庸布二段二丈六尺。木綿三斤四兩。堅魚五斤四兩。鮑一斤四兩。

〔鴨川合社〕鴨御祖社の南に在りて其摂社なる小社宅神社也、年中行事秘抄に、河合神、是御祖別雷両神苗裔神也、加之此神霊験顕然、而貴賤歸依、奉大神幣帛之時、先奉此神とあり。

〔松尾社〕山城國葛野郡松尾村字上山田に在りて、大山咋神、市杵島姫を祭る、大寶元年秦忌寸都理の創建に係る。

〔出雲井上社〕もと京都一條の北にありし社也。

〔小坏〕貞本林本京本に據り補ふ。

〔水主社〕山城國久世郡水主の北に在り、火明命外九座を祭る。

海藻四斤。凝海藻六斤。鹽二升。腊八斤。莒二合。●𤭖缶水瓮山都婆波小都婆波莒迣酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏陶臼各二口。酒稻百束。神税。

片山社一座。
絹二疋。絲一絇一分。綿三屯。調布三端四尺。庸布一段一丈四尺。木綿十三兩。鮑十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。鹽一升。海藻凝海藻各二斤。莒一合。𤭖缶水瓮山都婆波小都婆波莒●迣酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏酒坏陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

木島社一座。
絹二疋。絲一絇。綿三屯。調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿十三兩。鮑十兩。堅魚二斤。腊四斤。鹽一升。海藻凝海藻各二斤四兩。莒一合。𤭖缶水瓮山都婆波小都婆波莒迣酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏莒坏小坏陶臼各二口。酒稻五十束。正税。

已上八箇社坐山城國。

大和社三座。
絹六疋。絲八絇四銖。調布十二端一丈六尺。庸布三段二尺。木綿八斤四兩。●鰒二斤。堅魚九斤四兩。●鱐魚十九斤十四兩。海藻凝海藻各十三斤四兩。鹽二斗。莒三合。𤭖缶水瓮山都婆波小都婆波莒迣酒垂匜等呂須伎高盤莒坏小坏片盤短女坏陶臼各四口。酒稻二百束。神税。

石上社一座。
絹二疋。絲一絇一兩。綿三屯。調布三端四丈。庸布一段一丈三尺。木綿一斤一兩。鮑十斤十兩。海藻二斤。凝海藻三

（𤭖）もと迣に作る林本、京本貞本により改む。
（迣）もと𤭖に作る、京本、林本、貞本に據り改む。
片山
（木島社）山城國葛野郡太秦村に在り高皇産靈神の苗裔神を祭る。
木島
（大和社）大和國山邊郡朝和村に在り、大國御魂神（主神）八千戈神、御歳神を祭る、垂仁天皇二十五年の創建也。
（鰒）もと鮑に、また下文鱐を脯に作る諸本に據り改む。
大和
（石上社）大和國山邊郡丹波市町に在り、布都御魂の神劔を祭る。
石上

斤。海藻二斤十兩。腊四斤。鹽一升。筥一合。匏缶木盆山都婆波小都婆波筥𥑼酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏
小坏酒坏筥坏陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

大神社一座。

絁三疋。絲三約四銖。調布六端八尺。庸布一段一丈四尺。木綿四斤二兩。鰒一斤五兩。堅魚五斤。與理刀魚三斗。鹽
一升。腊三斤。海藻滑海藻各六斤十兩。筥二合。匏缶木盆山都婆波小都婆波筥𥑼酒垂匜等呂須伎高盤片盤小坏短
女坏筥坏陶臼各二口。酒稻一百束。神税。

宇奈足社一座。

絁二疋。絲一約一兩二分二銖。調布二端四尺。庸布一段一丈四尺。木綿十三兩。海藻二斤十兩。鰒十兩。堅魚二斤
十兩。腊四斤。鹽一升。筥一合。匏缶木盆山都婆波小都婆波筥𥑼酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼
各二口。酒稻五十束。神税。

村屋社一座。

絁一疋。絲一約三分二銖。調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩。鰒十兩。堅魚二斤。腊一斤。海藻一斤
十兩。鹽一升。筥一合。匏缶木盆山都婆波小都婆波筥𥑼高盤片盤短女坏筥坏小坏酒垂匜等呂須伎陶臼各二口。
酒稻五十束。神税。

穴師社一座。

絁二疋。絲一約一分。調布三端四尺。庸布一段一丈四尺。木綿一斤。鰒十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。海藻二斤。鹽
一升。筥一合。匏缶木盆山都婆波小都婆波筥𥑼酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏筥坏陶臼各二口。酒稻五

〔大神社〕大和國磯城郡三輪町の東三輪山に在りて、大物主神を祭る。

〔宇奈足社〕大和國添上郡佐保村に在りて、宇奈足神を祭る。

〔二銖〕貞本三銖に作る

〔村屋社〕大和國磯城郡今川東村大字藏堂に在り、彌富都比賣命を祭る

〔穴師社〕大和國磯城郡穴師に在る兵主神社也、大和國魂神の別宮となす。

〔巻向社〕大和國磯城郡巻向の檜原に在る巻向坐若御魂神社〔大倭本紀巻向穴師社に作る〕也、豐受大神を祭神とす。

〔池社〕大和國磯城郡川東村に在る朝霧黃幡比賣神社也。

〔多社〕大和國磯城郡多村大字多に在り、綏靖天皇の皇兄神八井耳命を祭る。

〔或作大社〕卜本これを缺く、蓋し後人の加筆也。

〔葛木鴨社〕大和國南葛城郡葛城村に在り。

〔葛坏〕卜本、宮本に據りて補ふ。

十束。神税。

巻向社一座。

絁二疋。絲一絇一兩三分。調布三端四尺。庸布一端一丈四尺。木綿十三兩。鰒十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。海藻二斤十兩。鹽一斤。筥一合。甕缶水瓫山都婆波小都婆波筥䃂酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

池社一座。

絁二疋。絲一絇一兩一分三銖。調布三端四尺。庸布一段一丈四尺。木綿十三兩。鰒十兩。腊四斤。堅魚二斤十兩。海藻二斤十兩。鹽一升。筥一合。甕缶水瓫山都婆波小都婆波筥䃂酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

多社二座。「或作大社」

絁二疋。絲三絇四銖。調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩。鰒一斤十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。海藻二斤十兩。鹽一斤。筥二合。甕缶水瓫山都婆波小都婆波筥䃂酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏筥坏陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

葛木鴨社二座。

絁二疋。絲三絇四銖。調布六端八尺。庸布三段。木綿一斤十兩。腊四斤。鰒十兩。堅魚二斤十兩。海藻二斤十兩。鹽四升。筥二合。甕缶水瓫山都婆波小都婆波筥䃂高盤片盤酒垂匜等呂須伎短女坏「筥坏」小坏陶臼各二口。酒稻百束。神税。

飛鳥社四座。

絹八疋。絲十二絇。綿十二屯。調布十二端。庸布六段八尺。木綿六斤八兩。鰒二斤八兩。堅魚八斤十兩。腊二斗。海藻八斤十兩。鹽四斗。筥四合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏酒坏陶臼各八口。酒稻二百束。百八束神稅。九十二束正稅。

甘樫社四座。

絹八疋。絲十二絇。綿十二屯。調布十二端。庸布六段八尺。木綿六斤八兩。鰒二斤八兩。堅魚八斤十兩。腊五升。海藻八斤十兩。鹽四斗。筥四合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏酒盞陶臼各八口。酒稻二百束。正稅。

高鴨社四座。

絹八疋。絲十二絇。綿十二屯。調布十二端。庸布六段八尺。木綿六斤十兩。海藻八斤八兩。凝海藻八斤十兩。鹽四斗。筥四合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏酒盞陶臼各八口。酒稻二百束。正稅。

高天彥社一座。

絹二疋。絲一絇一分二銖。調布三端四尺。庸布一段一丈四尺。綿二屯。木綿十三兩。鰒十兩。腊四斤。堅魚二斤十兩。鹽一升。海藻滑海藻各二斤十兩。筥一合。瓱缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

金峯社一座。

飛鳥　〔飛鳥社〕大和國高市郡飛鳥村に在り、事代主命を主神とす

甘樫　〔甘樫社〕大和國高市郡に在り、祭神は大和志によれば、八十禍津日神、大禍津日神、直毘神、大直毘神也。

高鴨　〔高鴨社〕大和國南葛城郡葛城村大字高鴨に在り出雲國[illegible]高日子根命を祭る

高天　〔高天彥社〕大和國南葛城郡葛城村大字高天に在りて、高天彥神を祀る今彥[illegible]現と稱す

金峯　〔金峯社〕大和國吉野郡吉野山村に在り、祭神金山彥命かと云ふ。

〔葛木一言主社〕今大和國南葛城郡葛城山の東麓に在り祭神は一言主神にしてもと葛城山上に祭れりと云ふ。

葛木

〔火雷社〕大和國南葛城郡笛吹村に在り、一座は火宮と稱し、火雷神を祭り、一座は笛吹連の祖を祀る今笛吹神社と云ふ。

火雷

〔枚岡社〕河内國中河内郡枚岡村に在り、天兒屋命、天照大神、經津主命、武甕槌命を祭ると云へど異說あり。

枚岡

〔凝海藻〕原本藻を葉に作る、林本、貞本に依て改む。

〔恩智社〕河内國中河内郡に在り。

恩智

絹二疋。絲一絇一分。綿三屯。調布三端四尺。庸布一段一丈四尺。木綿十三兩。鰒十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。鹽一升。海藻凝海藻各二斤十兩。莒一合。瓱缶水瓮山都婆波小都婆波莒𤭯酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

葛木一言主社一座。

絹二疋。絲一絇。綿三屯。調布三端四尺。庸布一段一丈四尺。木綿十三兩。鹽一升。鰒一斤十兩。腊四斤。堅魚二斤。海藻凝海藻各二斤。莒一合。瓱缶水瓮山都婆波小都婆波莒𤭯酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏莒坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

火雷社二座。

絹四疋。絲二絇。綿六屯。調布六端二丈。庸布二段二丈八尺。木綿二斤四兩。鰒二斤四兩。堅魚五斤四兩。海藻四斤。凝海藻六斤。腊八斤。鹽二升。莒二合。瓱缶水瓮山都婆波小都婆波莒𤭯酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏莒坏小坏陶臼各二口。酒稻百束。神稅。

已上十七箇社坐大和國。

枚岡（ヒラヲカノ）社四座。

絹八疋。絲十二絇。綿十二屯。調布十二端。庸布六段。木綿六斤八兩。鰒二斤八兩。堅魚八斤八兩。腊二斗。海藻凝海藻各八斤八兩。鹽四斗。莒四合。瓱缶水瓮山都婆波小都婆波莒𤭯酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏莒坏小坏酒盞陶臼各八口。酒稻二百束。正稅。

恩智（オンチノ）社二座。

〔弓削〕弓削社、今河内國南河内郡志紀村大字弓削及び中河内郡曙川村大字東弓削との二所に分る。

〔住吉〕〔住吉社〕攝津國東成郡住吉村（今大阪市）に在り、底筒之男命、中筒之男命、上筒之男命を祀り、後世神功皇后を配祀す。

〔鹽・五升〕一本鹽一斗五升に作る。

〔大依羅〕〔大依羅社〕攝津國住吉郡庭井村（今大阪市の内）に在り、依網我孫の祖建豐波豆羅別王を主神とす。

〔難波〕〔難波大社〕大阪に在る生國魂神社也、天活玉命を祭る。

絹二疋、絲三絇四銖、調布二端四尺、庸布一端一丈三尺。木綿一斤十兩。鰒十兩。堅魚二斤十兩、腊四升、海藻二斤六兩、鹽一升、筥二合、醸缶水瓮山都婆波小都婆波筥𦉥酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏小坏筥坏陶臼各二口。酒稻五十束。神稅。

弓削(ユゲ)社一座。

絹四疋、絲四絇、綿四屯、調布六端、庸布四段、木綿二斤、鰒一斤四兩、堅魚二斤、腊四升、海藻四斤、鹽四升、筥二合。醸缶水瓮山都婆波小都婆波筥𦉥酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各四口、酒稻二百束。正稅。

上二箇社坐河内國。

住吉(スミヨシ)社四座。

絹四疋三丈、絲四絇八兩四銖、綿三屯二兩、木綿二斤十兩、調布八端三丈四尺。庸布一段一丈三尺。齋人潔衣絁二疋、鰒二斤八兩、堅魚六斤十五兩、腊一斗、鹽五升、海藻九斤十兩、凝海藻九斤十五兩、筥四合、醸缶水瓮山都婆波小都婆波筥𦉥酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各八口、酒稻二百束。神稅。

大依羅(オホヨサミ)社四座。

絹八疋、絲十二絇、綿十二屯、調布十二端、庸布六段、木綿六斤八兩、鰒二斤八兩、腊五升。堅魚八斤十兩、海藻八斤八兩、凝海藻八斤十兩。鹽四斗、筥四合、醸缶水瓮山都婆波小都婆波筥𦉥酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶臼各八口、酒稻二百束。正稅。

難波大社二座。

絹四疋、絲六絇、綿六屯、調布六端、庸布一段二丈三尺、木綿二斤、鰒十兩、腊五升、鹽一斗。堅魚四斤四兩、海藻四

斤四兩，凝海藻四斤四兩。筥二合。甁缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤筥坏小坏短女坏
陶臼各六口。酒稻百束。正稅。
下照比賣社一座。或號比賣許曾社。
絹二疋，絲三絇，綿三屯，調布三端，庸布一段一丈七尺。木綿一斤八兩，鰒十兩，堅魚十兩。腊五升。海藻二斤十兩。
凝海藻二斤二兩。鹽一升。筥一合，甁缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏
陶臼各二口，酒稻五十束。正稅。
新屋社一座。
絹二疋，絲二絇，綿二屯。調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿十斤三兩。鰒十兩，堅魚二斤十兩，海藻凝海藻各
三斤十兩。腊四升，鹽四升。筥一合甁缶水瓫山都婆波小都婆波筥瓱酒垂匜等呂須伎高盤片盤筥坏短女坏小坏
陶臼各二口。酒稻百束。正稅。
廣田社一座。
絹二疋，絲一絇一兩。綿三屯，調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩，鰒二斤十兩，堅魚二斤十兩，腊四
斤。鹽一升。海藻二斤十兩。筥一合。甁缶水瓫山都婆波小都婆波酒垂匜等呂須伎高盤片盤短女坏筥坏小坏陶
臼各二口。酒稻五十束。神稅。
生田社一座。
絹二疋。絲一絇一兩，綿三屯，調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩。鰒一斤十兩，堅魚二斤十兩，腊四
斤，鹽一升，海藻二斤十兩，筥一合，甁缶水瓫山都婆波小都婆波高盤片盤短女坏匜等呂須伎酒垂筥瓱筥坏小坏

下照比賣
〔下照比賣社〕大阪市に在り、阿加流比賣を祀る。舊國土女下照姫と混ずるは誤也。

新屋
〔新屋社〕攝津國三島郡に在り、天照御魂神を祭る。

廣田
〔廣田社〕攝津國武庫郡大社村大字廣田に在りて、天照大神の荒魂を祭る、日本紀神功皇后紀、伐新羅之明年條に、天照大神誨之曰、我之荒魂不可近皇居、當居御心廣田國、即以山背根子之女葉山媛令祭、とあり。

生田
〔生田社〕神戸市に在りて、稚日女命を祭る。

陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

長田社一座。

絹二疋。絲一絇。綿三屯。調布三端四尺。庸布一段一丈三尺。木綿一斤十兩。鰒一斤十兩。堅魚二斤十兩。腊四斤。鹽一升。莒一合。海藻二斤十兩。瓱缶水瓮山都婆波小都婆波酒垂匜等呂須伎莒瑳高盤片盤短女坏莒坏小坏陶臼各二口。酒稻五十束。神税。

已上八箇社坐攝津國。

日前社一座。

絹四疋。絲三絇四銖。綿八屯五兩。調布六端八尺。木綿二斤八兩。酒稻百束。神税。

國懸社一座。

絹四疋。絲三絇四銖。綿八屯五兩。調布六端八尺。木綿二斤八兩。酒稻百束。神税。

伊太祁曾社一座。

絹二疋。絲三絇。調布三端一丈七尺。木綿十三兩。酒稻百束。神税。

鳴神社一座。

絹一疋。絲三絇。調布三端。木綿十三兩。酒稻五十束。神税。

已上四箇社坐紀伊國。

右預相嘗祭之社如前。十一月上卯日祭之。其所須雜物。預申官請受。付祝等奉班。酒料稻者用神税及正税。

長田　〔長田社〕攝津國武庫郡林田村に在り、祭神事代主命也、廣田、生田と同じく神功皇后の祭り給ふところ也

日前　〔日前社〕紀伊國海草郡宮村に在り天懸神を祭神とす。

國懸　〔國懸社〕紀伊國海草郡宮村に在りて、國懸神を祭る、前の日前社と同地に相並べり。

伊太祁曾　〔伊太祁曾〕紀伊國海草郡に在りて五十猛命を祭る。

鳴神　〔鳴神社〕紀伊國海草郡鳴神山麓に在り、速秋津日子神速秋津比賣神を祭る。

鎭魂

〔鎭魂祭〕神祇官八神殿の主神及び伊弉諾尊の子神大直神を祭りて、主上の御魂を鎭安し、御世の長久を祈る祭也〔宇氣槽〕中のうつろなる槽也。〔官齋院〕神祇官の西方に在る一郭にして、八神殿、神嘉殿、籾殿等この内に在り。〔伯〕神祇官の長官なり。〔素摺袍〕素の摺衣を用ひし袍也、摺衣とは布又は絹に種々の草木の葉を摺りて模様を表はせるを云ふ。〔青摺袍〕山藍の摺衣にて作れる袍也〔襪〕足に着するものにて、今の足袋に似、指の割目を缺く。〔帛〕諸本皆なし上文に準じて補ふ。

鎭魂祭。中宮准レ此。但更不レ給二衣服一。

神八座。神魂、高御魂、生魂、足魂、魂留魂、大宮女、御膳魂、辭代主。

大直神一座。

太刀一口。弓一張。箭二隻。鈴二十口。佐奈伎廿口。絁一疋。木綿五斤。麻十斤。筥一合。瓮筥一合。明櫃一合。供御飯笥一合。御食析稻二束。案一脚。宇氣槽一隻。臼一口。杵二枚。槲四把。薦一枚。韓竈一具。杓四柄。瓮二口。堝四口。裹葉薦一枚。

右其日御巫於二官齋院一舂レ稻。簸以二瓮筥一。炊以二韓竈一。訖卽盛二闇笥一。納レ櫃居レ案。神部二人執向二祭所一供レ之。

官人以下裝束料。中宮主准レ此。

伯已下史已上七人。宮主一人。已上素摺袍。鎭卜長上二人。彈琴二人。巫部神部一人。各賜二青摺袍一領袴一腰一。史生四人。神部十三人。卜部十二人。使部三人。各青摺布衫一領。已上並殿縫賜。御巫一人。中宮東宮御巫准レ此。御門巫一人。生嶋巫一人。各青摺袍一領。表裏別帛三丈。綿二屯。下衣一領。表裏別帛三丈。綿二屯。單衣一領。帛三丈。表裙一腰。表裏別帛三丈。腰析一丈。綿二屯。下裙一腰。表裏別帛三丈。腰析一丈。袴一腰。帛三丈五尺。綿二屯。單袴一腰。帛二丈。帔一條。巾也又云帔帛二丈。褶一條。加裳上者也緋帛四丈。紐一條。錦三丈。髻髮幷襪料細布一丈。領巾紗七尺。櫛二枚。履一兩。座摩巫一人青摺袍一領。表裏別帛二丈五尺。綿一屯。下衣一領。表裏別帛二丈五尺。綿一屯。單衣一領。帛二丈五尺。表裙一腰。表裏別帛三丈。腰析一丈。綿一屯。下裙一腰。表裏別帛三丈。腰析一丈。袴一腰。帛一丈五尺。綿一屯。單袴一腰。帛一丈。帔一條。帛一丈。褶一條。緋帛一丈五尺。紐一條。錦一丈。領巾六尺。襪料細布五尺。履一兩。

右中寅日晡時中宮鎭魂同日祭レ之。五位已上及諸司官人參二集宮內省一。式部依レ例撿列。大臣若參議已上就二西舍座一。神祇官人已下神部已上著二青摺衣一。官預受備頒給。率二御巫等一人就二廳上座一。御巫南面。伯以下使部以上東面南上。內侍持二御服一自レ內退出。

供新嘗料。
紵一丈二尺。絹二丈二尺。絲四兩。調布三端一丈。曝布一丈二尺。細布三丈二尺。木綿三斤十兩。割鮑御刀子二枚。長刀子短刀子各十枚。筥十四合。籠筥二合。明櫃三合。御飯幷粥米各二斗。粟二斗。陶𤭖五口。平居瓶六口。都婆波酒垂名四口。匜八口。水垸八口。洗盤六口。筥坏廿口。多志良加四口。鉢八口。盤四口。臼二口。土片垸二口。盞十口。小坏十口。高盤廿口。土手湯瓫二口。手洗二口。瓫四口。堝十口。火爐二口。陶坏八口。案十二脚。切机二脚。槌二枚。碪二枚。槲四俵。匏十八柄。小匏二柄。日蔭二荷。紛緒槽一隻。油三升。内膳司供雜味物。
右依前件。並御贖大殿忌火庭火等祭料並准神今食。

十二月祭

鎭御魂齋戸祭。中宮准此。
絁一疋。五色帛各一尺。絲一絇。綿一屯。倭文一尺。調布三端。庸布三段。木綿麻各二斤。米酒各一斗。鰒堅魚腊海藻各六斤。鹽二升。𤭖水瓫各一口。坏八口。匏一柄。槲十把。食薦一枚。
東宮鎭御魂齋戸祭。
絁三丈。五色帛各一尺。絲六兩。綿一屯。倭文一尺。調布一端。庸布一段。木綿麻各一斤。米酒各五升。鰒堅魚腊海藻各三斤。鹽二升。𤭖水瓫各一口。坏四口。匏一柄。槲五把。食薦一枚。
右於此官齋院中臣行事。
毎月晦日忌火庭火祭。中宮東宮庭火准此。但忌火不祭。
五色薄絁各四尺。倭文二尺。木綿四兩。麻大四兩。庸布一段。瓫四口。米酒各四升。鰒堅魚各二斤。腊四升。海藻二

〔平居瓶六口〕齋宮式五口に作る。

〔垸二口〕恐くは二の下、十字脱せるなるべし。

〔紛〕もと蚡に作り京本、貞本、林本紛に作る、雲本により改む。

齋戸

〔鎭御魂齋戸祭〕十一月の鎭魂祭の時結び奉りし御魂緒を十二月に至り神祇官の齋院に鎭め奉る祭也、齋戸は齋處(イハヒド)の義にて神祇官齋院を指す

東宮齋戸

晦日忌火

〔腊〕和名抄に、乾肉也とあり。升は斤の誤りならん。

斤。鹽二升。𤭖二口。坏四口。水瓫二口。

右宮主於内膳司行レ事。但東宮於主膳監行レ之。

毎月晦日御麻。不レ在二此例一。六月十二月

鐵人像四枚。安藝木綿一斤。麻一斤。庸布一丈四尺。鍬二口。酒米各二升。稻二束。鰒堅魚海藻各一斤。腊二升。鹽一升。

中宮晦日御麻。東宮准レ此

鐵人像四枚。安藝木綿一斤。東宮十兩。麻一斤。庸布一丈四尺。鍬二口。酒米各二升。稻二束。鰒堅魚海藻各一斤。腊二升。鹽一升。

右其日中臣率二卜部一進候二延政門一。並著二公服木綿鬘一。大舍人叩レ門。宮内省入奏。退出召二中臣一。稱唯捧二御麻一入就二版位一。勅曰參來。稱唯昇就二簀子敷一。傳二授内侍一降二候階下一。内侍進奉訖授二中臣一即執退出。其中宮東宮奉儀同二六月晦一。

毎月晦日御贖。中宮東宮准レ此。六月十二月不レ在二此例一。

金人像銀人像「各」卅二枚。東宮各八枚。紫帛四尺。五色帛各五尺。絲一絇。調布一端。木綿麻黃蘗各一斤。米一斗。酒六升五合。鮭二隻。雜盛一籠。鹽二升。坏二口。瓫八口。東宮四口。匏一柄。槲十把。食薦一枚。御輿形四具。挿レ幣木各廿枚。

右御巫行レ事。

延喜式卷第二

延長五年十二月廿六日

〔内膳司〕天皇の供御を總監する官にして、宮内省の被官也。

〔主膳監〕東宮の膳部を司る官、東宮坊の被官なり。（毎晦御麻）

〔稱唯〕一本此の上に中臣二字を加ふ。（中宮御麻）

〔傳授〕一本轉授に作る。

〔晦日御贖〕年中行事祕抄に、晦日神祇官供二御贖物一事、古事記云、仲哀天皇時始レ之、とあり。（晦御贖）

〔各卅二枚〕内藏、木工二式によるに各字は衍也。

〔廿枚〕木工式に、幣帛廿四枚とあり

〔延長云々〕以下六行もとなし、古本雲本により補ふ、古本以下これに倣ふ。

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔行〕官には必ずこれに相當せる位あり、これを官位相當と云ふ、されど實際は必ずしもこの相當によらず、もし位、官位相當より高き時は行字低きときは守と署す、例へば左大史の相當は正六位上なる故、從五位下の下に行字を註せる也。

〔藤原朝臣忠平〕基經の第四子、時平の弟也、寛平中叙爵、諸官を歷任し延長八年攝政、天慶四年關白となる天曆三年薨ず。

〔霹靂〕雷を云ふ。倭訓「カンドキ」は雷神（ミ）の義、漢音を云ふ、これを祭るは臨時式に云ふ遷却祟神祭の一也。

［霹靂］

〔漢音云々〕或本、この注なし。

〔海菜〕一本海藻に作る。

〔荒魂和魂〕神靈の働く樣より見て此二つに分つ、荒魂は活働の方面、和魂は靜穩の活きや、人の生命を守り、幸福を與ふる等の働をなすといふ。

［竈鳴］

［水神］

延喜式卷第三　神祇三

臨時祭。

凡常祀之外、奉幣者、隨事祭之。非辨官處分不得輙預常祭。

霹靂神祭　復音諱官說也

絁二疋。五色薄絁各六尺。倭文六尺。庸布二段。木綿八兩、麻四斤、鍬二口、鰒四斤、堅魚六斤、腊四斤。鹽四升。海藻八斤、雜海菜廿斤、米二斗、酒四斗、稻四束。缶瓫各二口、坏六口、水戸二口、鷄二翼、匏二柄。槲廿把。食薦二枚、輿籠一脚、蒭茭布一領、已上祭料。木綿麻各四斤、庸布四段。鍬四口、鹿皮四張、太刀四口。弓四張。矢八隻、米四斗。酒六斗。稻四束、鰒堅魚各六斤、腊六斤、海藻滑海藻雜藻各廿斤、鹽四升、瓫坏各四口、匏四柄、食薦二枚、已上解除料。

右荒魂和魂各中分。並賀祭所祭、若有霹靂神者、依件鎭祭、多弃山野。

鎭竈鳴祭

絹一疋。絲一絢、五色薄絁各四尺、綿一屯、布一端、庸布二段、倭文二尺。木綿麻各一斤、鍬二口。米酒各一斗。稻二束、鰒六斤、堅魚十一斤十兩、腊四斤六兩、海藻六斤、鹽　斗、瓫一口、坏二口、槲六把、匏二柄、食薦二把。

鎭水神祭

五色薄絁各二尺。倭文二尺。木綿八兩、麻二斤、鍬四口。米四斤、酒八升。稻四束、鰒堅魚各二斤、腊一斤十二兩。鹽二升。槲四把。缶二口。坏四口。裹葉薦二枚。布二端。庸布二段。

〔御竈祭〕竈神即ち奧津日子、奧津比賣神を祭るを云ふ、春秋二季に行ひ給ひしが如し。
〔二斤二兩〕貞本二斤三兩に作る。
〔御井祭〕神祇官座摩神御巫祭神五座中の生井神、福井神、綱長井神等の井の神を祭る也
〔腊四斤〕京本、貞本四升に作る、産井の條亦同じ。
〔土公〕土神也、和名鈔に、董仲舒書云、土公、鷲空之反、春三月在レ竈、夏三月在レ門、秋三月在レ井、冬三月在レ庭と見えたり。

御竈祭。
五色薄絁各二尺、倭文一尺。木綿三兩。麻六兩。鍬二口。米酒各二升、鰒一斤、堅魚二斤二兩、腊十四兩。海藻二斤二兩。鹽一升一合。坏蹉各二口。庸布一丈四尺。
御井祭。
絹一疋。五色薄絁各四尺。絲一絇、綿一屯、倭文二尺。木綿八兩、麻一斤、布一端、庸布一段、鍬二口、米酒各二斗、稻四束。赤小豆二合、東鰒一斤。堅魚二斤、腊四斤。海藻三斤。鹽二升、甕一口、盆一口、坏二口、匏二柄、裹葉薦一枚、槲四把、輿籠一脚。食薦二枚。明衣料調布二丈、夫二人。
産井祭。
絹一疋。五色薄絁各四尺。絲一絇。綿一屯。倭文二尺。布一端。木綿五兩。麻一斤、鍬二口、米酒各二斗、稻四束、赤小豆二合、東鰒一斤、堅魚二斤、腊四斤。海藻三斤。鹽三升、瓮坏各二口、盆二口、匏二柄、槲四把、裹葉薦一枚。庸布一段、明衣料調布二丈、輿籠一腰。夫二人。
鎭御在所祭。
絹五疋。五色薄絁各五丈。五色帛各五丈。倭文五丈、布六端、木綿麻各五兩、鍬十口、米酒各五斗。鰒卅六斤、堅魚六十九斤十二兩。烏賊十八斤、腊十三斤二兩。海藻卅斤。雜海菜卅斤、鹽三斗、缶坏各五口、匏五柄、槲十把、輿籠一脚、席五枚。食薦五枚。簀五枚。
鎭土公祭。
絹一丈。五色薄絁各四尺。倭文四尺。木綿一斤、麻一斤。鍬二口。布一端。庸布二段。米五升。酒五升、鰒堅魚各三斤、

〔食薦〕竹を御簾の如く編みて白生絹を裏に付け、白縁を着けしもの也御物を載する机の下に敷く。

川水

〔鑵〕鑁也。

新宮

〔鎌二丁〕京本林本、二張に作り、貞本二口に作る。

〔稻二百五十束〕貞本、京本、林本此六字を缺く。

裝束

〔汗衫〕裝束の下に著る下襲を云ふ、即ち汗取也、後ちには童女の表衣の上に著る服を稱せり。

海藻三斤。腊二斤。鹽二升。瓮一口。坏四口。匏一柄。楉十把。食薦一枚。

御川水祭。

絹四丈五尺。五色薄絁各六尺。布二端。倭文二尺。綿五屯。絲五兩。木綿麻各五斤。紙一百張。錢八百文。鍬五口。米酒糯各五斗。稻五束。大小豆各二升。糯米三斗。鰒堅魚各六斤。腊四斤六兩。鮭五隻。海藻八斤。鹽五升。明櫃二合。折櫃五合。坏五十口。匏五柄。楉一俵。輿籠一脚。席薦各二枚。食薦五枚。

鎭新宮地祭。

金銀各五兩。銅鐵各五十斤。水玉五十枚。絹五疋。五色帛各五疋。倭文九尺。常布五端。庸布廿五段。木綿麻各五十斤。太刀五口。弓五張。矢五隻。鍬六口。鑵一口。鎌二丁。鹿皮五張。黄蘗五十斤。米五石。清酒五缶。各受三斗。稻二百五十束。鰒五斤。堅魚五籠。別受十一斤十兩。腊五籠。別受四斤六兩。海藻五籠。別受六斤。雜海菜五籠。別受六斤。鹽五籠。缶横瓮各五口。坏廿五口。匏五柄。楉五十把。薦十枚。絹衣二領。布衣一領。白褄頭巾一枚。馬五疋。

御巫等遷替供神裝束。

神殿各一宇。長一丈七尺。廣一丈二尺五寸。男神衣四領。袴四領。新絣帛八疋。汗衫四領。袴四腰。新帛二疋。女神衣四領。裙四腰。新紫帛五疋二丈。褶屋新絲帛二疋一丈。汗衫四領。新帛一疋二丈。綿五十四屯。帳一條。新緋帛三疋。床覆二條。幌一條。新黄帛一疋。縫新緋綵絲各二兩。蓋代帊代各一條。新布二端。床二脚。長各六尺。廣三尺三寸。黄端帖二枚。長短准床。韓櫃二合。准擬[illegible]備打立。

右每御巫遷替。神殿以下改換。但座摩御門生島等奉齋神。唯改神殿。不供裝束。其新任御巫皆給屋一宇。長二丈。庇二面長各二丈。

〔御禊〕河原に臨みて御禊い汚穢を祓ふ儀也、主上の御息をかけ、御身を撫で給へる人形を用ふ

御贖

〔三斤〕林本京本、貞本三枚に作る

〔腊二斗〕もと斗を斤に作る、林京貞本等によりて改む。

〔二枝〕京本、貞本二枚に作る。

八衢

〔八衢祭〕前出霹靂神祭及び後出疫神祭と共に遷却祟神祭也、

行幸

神幣

道饗祭が悪霊妖気を防禦し給ふ神を祭るに反し遷却祟神祭にては悪霊妖気そのものを祭り、遠くへ遷し却くる也。

堺祭

御贖〈中宮亦准此。〉

鐵御服一具、緋布二段。五色薄絁各六尺。五色帛各六尺。安藝木綿三斤、凡木綿一斤、麻一斤、鍬四口、黄葉十枚、米酒各二斗、稻四束、鰒堅魚各六斤、腊二斗、海藻六斤、雜海菜六斤、鹽四升、盆坏各八口、匏二柄、槲十把。食薦四枚。輿籠二脚。祝料庸布二段。朸二枝。夫四人。

羅城御贖〈毎世一行。中宮准此。〉

奴婢八人、馬八疋、鞍八具、絲帛襦疋、倭文八尺、常布八十段、木綿麻各八十斤。服八具、被八領、縑帛八條、巾子八口、帶八條、履襪各八兩、鹿皮八張、鍬八十口。白米八石、酒八缶〈別受三斗〉、稻八百束、鰒堅魚各八籠〈別受六斤〉、雜腊八籠〈別受二斤六兩〉、海藻滑海藻各八籠〈別受六斤〉、海松八籠、鹽八石、匏八柄、盞八十口、坩八口、槲八俵、薦八枚。食薦八枚。短帖一枚、簀一枚。

八衢祭〈中宮東宮准此。〉

太刀八口、弓八張、箭八具、鞆八枚、五色薄絁四十疋、腊海藻海松滑海藻各八籠〈別受六斤〉、棚四脚。

行幸，時祭〈若不經衢不祭。〉

路次，神幣。

大社別五色薄絁各一尺、絹五尺、絲一絇、綿一屯。木綿二兩。麻五兩。裹葉薦五尺。小社別五色薄絁各一尺。絹三尺、絲一絇、綿一屯。木綿二兩。麻五兩、裹葉薦三尺。

堺祭。

堺別倭文一尺。木綿五兩、麻八兩。鍬二口、米酒各四升。鰒堅魚各二斤、腊二斤。海藻二斤、鹽二升。瓱坏各二口。柏

〔大殿祭〕神今食、新嘗祭、大嘗祭等の前後、又は皇居の遷移、齋宮齋院卜定の後等に、皇居の久久遲命、屋船豐宇氣姫命及び大宮賣命を祭り宮殿の災變なきを祈る祭を云ふ。

〔八十島神祭〕天皇即位の後、使を攝津國難波津に遣はし、住吉神、大依羅神、海神、垂水神、住道神等を祭るをいふ。八十は多數の義、島は國の義にて、諸國にある神を祭る意なり、元來國々を巡回して祭るべきを略して茲に祭れる也。

四把、食薦一枚。

大殿祭、

安藝木綿八兩、八足几一脚。米酒各一升、薦一合、坏各一口。

御井幷御竈祭。

五色薄絁各三尺、倭文一尺。木綿二兩、麻二兩、鍬一口、米酒各一升。鰒堅魚各一斤、腊一斤、海藻一斤、鹽一升、坏各一口、食薦一枚。柏四把。

中宮御竈祭准此。東宮

五色薄絁各一尺、倭文五寸、木綿一兩、麻二兩、鍬一口、米酒各一升、鰒堅魚各一斤、腊一斤、海藻一升。鹽一升、坏各一口。

八十島（ヤソシマノ）神祭。中宮准之。

五色帛各一疋二丈、絁一疋二丈、絲卌絇、綿卌屯、倭文一端二丈八尺、木綿麻各卌斤、庸布卌段、鍬二百張、挿幣帛木一百廿枝。並御服八具、緋帛布八段。御輿形（ミコシカタ）卌具。覆料紫帛四丈。鍬卌口。錢三貫文。二貫文散料。一貫文鰒堅魚等直。金銀人像各八十枚、金塗鈴八十口、鏡八十二面、二面徑五寸、八十面一寸。玉一百丸、大刀一口、弓一張、箭五十隻、胡籙一具、黃蘗八十枚、金塗鐸各卌口、坏八十口、米酒各一石、稻八斗、缶八口、鰒堅魚腊海藻各八籠、雉五十隻、鹽五籠、[illegible]、稻卌束、席薦各八枚、食薦八枚、輿籠五脚、叩櫃四合、鉤十柄、[illegible]一疋、調布二端。

東宮八十島祭、

五色帛各二丈、絁二丈、絲八絇、綿八屯、倭文二丈、木綿麻各八斤、庸布四段、鍬五十張、御服八具、緋帛布四段、輿形卅具、覆料紫帛二丈。鍬八口。錢六百文。二百文散料、四百文鰒堅魚等直。挿幣帛木六十枝、金銀人像各卅枚、金塗鈴卅口、鏡

宇陀水分社一座。　飛鳥社四座。
飛鳥山口社一座。　畝火山口社一座。
吉野山口社一座。　吉野水分社一座。
丹生川上社一座。已上大和國。
枚岡社四座。　恩智社二座。已上河内國。
大鳥社一座。和泉國。
住吉社四座。　大依羅社四座。
難波大社二座。　廣田社一座。
生田社一座。　長田社一座。
新屋社三座。　垂水社一座。
名次社一座。已上攝津國。
座別絁五尺。五色薄絁各一尺。絲一絇。綿一屯。木綿二兩。麻五兩。褁薦半枚。毎社調布二端裹料。夫一人。丹生川上社貴布禰社各加黒毛馬一疋。自餘社加庸布一段。其霖雨不止祭料亦同。但馬用白毛。
凡奉幣丹生川上神者。大和社神主隨使向社奉之。
名神祭二百八十五座。
園神社一座。　韓神社二座。已上坐宮内省。
賀茂別雷神社一座。　賀茂御祖神社二座。

〔丹生川上社〕大和國吉野郡南芳野村に在り、雨師神彌都波能賣神を祀る。

〔大鳥社〕和泉國泉北郡鳳村に在り、祭神は天兒屋命ならむと云ふ。

〔垂水社〕攝津國豐能郡豐津村に在り住吉の海童神を祭る。

〔名次社〕攝津國廣田社の西丘名次山に在り、祭神詳かならず。

名神

〔名神〕社格の一、全國中有名の社を擧げて全國の社に代はらしむるもの也、此の列にあるものは、悉く大社也。

〔阿波咩命神社〕文德實錄に據り咩字を加ふ、伊豆神津島に在り、三島大神の后妃阿波姫を祭ると云ふ。

〔金佐奈神社〕武藏國[illegible]郡[illegible]村に在り、[illegible]尊を祭ると云ふ。

〔大洗礒前藥師菩薩神社〕常陸國鹿島郡に在りて、大己貴命を祭る、藥師菩薩は天安元年賜はれる菩薩號也

〔小野神社〕近江國滋賀郡に在り、小野氏の祖を祭る。

〔佐久奈度神社〕近江國滋賀郡に在り[illegible]命を祭る

〔建部神社〕同郡神領村に在りて、大己貴命を祭る、或は大[illegible]命とも云へり。

三島神社一座。
物忌奈命神社一座。
楊原神社一座。已上伊豆國。
寒川神社一座。相模國。
氷川神社一座。
安房神社一座。安房國。
玉前神社一座。上總國。
香取神宮一座。下總國。
鹿島神宮一座。
靜神社一座。
吉田神社一座。
稻田神社一座。已上常陸國。
小野神社二座。
佐久奈度神社一座。
川田神社二座。
奧津島神社一座。
水尾神社二座。或水作三。已上近江國。

伊古奈比咩命神社一座。
阿波咩命神社一座。
金佐奈神社一座。已上武藏國。
大洗礒前藥師菩薩神社一座。
筑波山神社一座。
酒列礒前藥師菩薩神社一座。
日吉神社一座。比叡神同。
建部神社一座。
御上神社一座。
伊香神社一座。

（南方刀美神社）信濃國伊那郡上諏訪村の諏訪本宮也、建御名方命、八坂刀賣命を祭る。

（都都古和氣神社）岩代國東白川郡に在り、猿倚男命を祀れるならむ。

（川田神社）次の御上神社と共に、神名帳陸奧國の所になし、近江國の社（前項參照）なるを誤て重出せる也。

（多河神社）神名式多珂に作る、磐城國相馬郡高村に在り、祭神不詳也。

（伊佐酒美神社）神名帳酒を須に作る岩代國北會津郡に在り、祭神不詳也

（若狹比古神社）若狹國遠敷郡遠敷村に在り、上下二社あり、彦火火出見命豐玉姫とも云ふ

仲山金山彦神社一座。美濃國。
南方刀美神社二座。
生島足島神社二座。已上信濃國。
貫前神社一座。或作二拔鋒一。
赤城神社一座。已上上野國。
二荒神社一座。下野國。
都都古和氣神社一座。
志波彥神社一座。
志波姬神社一座。
東屋沼神社一座。
「御上神社一座」
拜幣志神社一座。
多河神社一座。
宇奈己呂和氣神社一座。
子負嵋神社一座。已上陸奧國。
大物忌神社一座。
若狹比古神社二座。若狹國。

穗高神社一座。
伊加保神社一座。
苅田嶺神社一座。
鼻節神社一座。
伊達神社一座。
「川田神社一座」
零羊崎神社一座。
計仙麻神社一座。
伊佐酒美神社一座。
大高山神社一座。
月山神社一座。已上出羽國。

中臣印達神社一座。家島神社一座。伊和神社一座。已上播磨國。
中山神社一座。美作國。
安仁神社一座。備前國。
吉備津彥神社一座。備中國。
速谷神社一座。伊都岐島神社一座。多家神社一座。已上安藝國。
住吉荒御魂神社三座。長門國。
丹生都比女神社一座。日前神社一座。國懸神社一座。伊太祁曾神社一座。
大屋都比賣神社一座。都麻都比賣神社一座。鳴神社一座。伊達神社一座。
志磨神社一座。靜火神社一座。須佐神社一座。已上紀伊國。
淡路伊佐奈岐神社一座。大和大國魂神社一座。已上淡路國。
大麻比古神社一座。天日鷲神社一座。已上阿波國。
粟井神社一座。讃岐國。

〔安仁神社〕備前國邑久郡藤井村に在り、一に久方宮とも稱す、五瀬命、稻氷命、御毛沼命を祀る、安仁は兄の假字にて、五瀬命は神武天皇の御兄なる故に名づくといふ、今は國幣中社也。

〔吉備津彥神社〕備中國賀陽郡、眞金村にあり、孝靈天皇の皇子吉備津彥命を祀る、今は國幣中社也。

〔伊都岐島神社〕今は嚴島神社に作る、安藝國佐伯郡嚴島に在り、市杵島姫命、田心姫命、湯津姫命、相殿に天照大神、國常立尊、素盞鳴尊を祀る。

〔大山積神社〕今は大山祇神社に作る、伊豫國越智郡宮浦村宮浦字御山に在り、又た三島大明神ともいふ、大山積神を祀る、今は國幣中社たり。

〔宗像神社〕筑前國宗像郡田島村に在り、市杵島姫、多岐里姫命、多岐都姫命を祀る、今は官幣中社たり。

〔竈門神社〕筑前國筑紫郡太宰府村御笠村に在り、海神の女、玉依姫命を祀る、今は官幣小社たり。

村山神社一座。
大山積神社一座。
野間神社一座。
阿治美神社一座。已上伊豫國。
志加海神社三座。
住吉神社三座。
宗像神社三座。
八幡神社一座。
筑紫神社一座。
竈門神社一座。
美奈宜神社三座。已上筑前國。
高良玉垂命神社一座。
豐比咩神社一座。已上筑後國。
八幡比賣神社一座。豐前國。
田島坐神社一座。肥前國。
健磐龍命神社一座。肥後國。
住吉神社一座。
兵主神社一座。
月讀神社一座。
中津神社一座。
天手長男神社一座。
天手長比賣神社一座。已上壹岐島。
和多都美神社一座。
和多都美御子神社一座。
高御魂神社一座。
和多都美神社一座。
太祝詞神社一座。
住吉神社一座。已上對馬島。
座別絁五尺。綿一屯。絲一絇。五色薄絁各一尺。木綿二兩。麻五兩。裹葉薦廿枚。其有大社者。加絁五尺。

〔斨〕料と同字、斗の古文なる升を傍となせる也。

遣使

〔郊野〕郊は爾雅釋地に「邑外謂之郊」とあり。

山神

〔遣唐使〕支那唐朝の時、我邦より遣はしたる公使をいふ、其の目的は佛教の傳授、制度文物の輸入に在りたり、孝德四年小山上吉士長丹を大使とし、小乙吉士駒を副使として唐に遣はしたるを嚆矢とす。

開舶居祭

蕃客祭

布一端代絲一絇。

遣蕃國使時祭。（使還之日准此。）

五色薄絁各三疋四丈八尺。絁四疋。倭文二端。木綿十五斤。麻十五斤。布十六端。明衣料庸布八段。鰒堅魚各十連。鮭廿隻。腊十籠。海藻二籠。鮨二斗四升二合。鹽二升四合二勺。缶四口。𤭖五口。坏一百口。槲二俵。白米二斗。飯二石。酒一石。（副案幣盛鞄筥等。）葉薦廿枚。

右擬發使者。惣祭天神地祇於郊野。祭庭。當國司掃脩其地。又所司營苫並設座。所須雜物神祇官申官請。其酒肴等所司各備。會集祭所。神祇官率神部等（並著明衣。）行祭事。大使自陳祝詞。神部奠幣。訖大使已下各供私幣。（神部執奠神座。）

造遣唐使舶木靈幷山神祭。

五色玉二百八十丸。金作鈴四口。鏡四面。絲一絇。絁一疋六尺。綿一屯。五色薄絁各一丈四尺。倭文三尺。木綿一斤八兩。鍬四口。裹薦二枚。（已上京庫所請。）麻一斤八兩。白米一斗四升。稻六束。酒一斗四升。鹽八升。鰒堅魚各六斤。海藻、滑海藻、海松、雜海菜各八斤。（已上用正稅。）酒盞六口。坏四口。匏三柄。柏廿六把。棚二前。（已上用當國物。）使一人。（中臣氏。）

開遣唐舶居祭。住吉社。

幣新絹四丈。五色薄絁各四尺。絲四絇。綿四屯。木綿八兩。麻一斤四兩。

右神祇官差使向社祭之。

唐客入京路次神祭。

幣帛絁五尺。絲一絇。綿一屯。五色薄絁各一尺。木綿二兩。麻三兩。裹料薦四枚。（已上幣料別所充。）差使二人（畿內外國各一人。）並

〔蕃客送堺神祭〕宣長の說に、海外より蕃客に附き從ひ來れる邪鬼を却ふ爲めの祭也といへり。

〔障神祭〕障神とは久那斗神と同神にて、書紀一書には「來名戸之祖神」とあり、道の分岐點に祭らるゝ神にて、また塞神とも書く。此の神は惡靈邪神の侵入を防止する靈を有す、邪鬼惡靈が道路を經て來るものなれば此神を祀りてこれを防ぐ也。

〔各〕諸本此字なし、雲本に據りてこれを補ふ。

中臣。

蕃客送堺神祭

五色薄絁各四尺。倭文二丈八尺。木綿麻各二丈八尺。庸布四段。鍬四口。牛皮熊皮鹿皮猪皮各二張。酒二斗。米四升。鰒堅魚各二斤。海藻四斤。腊八斤。鹽四升。稻十二束。水盆二口。坏四口。匏二柄。薦二枚。藁四圍。楉八把。已上祓料。木綿四兩。麻一斤。酒六升。米四升。鰒堅魚各一斤。雜海菜二斤。腊一斤。鹽一升。水盆各二口。匏一柄。食薦二枚。楉十把。韓竈一口。杌一枚。夫二人。已上祭料。

右蕃客入朝。迎二畿內堺一祭二却送神一。其客徒等比レ至二京城一。給二祓麻一令レ除乃入。

障神祭

五色薄絁各一丈二尺。倭文一丈二尺。木綿麻各十二斤。庸布八段。熊皮牛皮鹿皮猪皮各四張。鍬十六口。米酒各四斗。稻十六束。鰒堅魚海藻各八斤。腊鹽各二斗。水盆四口。坏八口。匏四柄。楉十二把。薦四枚。五色薄絁以下四處等分。

右客等入京。前二日京城四隅爲二障神祭一。

賜二出雲國造負幸物一。

金裝橫刀一口。絲廿絇。絹十疋。調布廿端。鍬廿口。

右任二國造一訖。辨一人。史一人。就二神祇官曹司廳一。辨座設二伯座上一。郎(辨)入レ自レ西就レ座。史座設二南廂一。其史入レ自レ東就レ座。次伯已下祐已上以レ次就レ座。史一人。大錄一人。入レ自二南門一就レ座。錄座設二南廂一。史唱二官掌一仰云。喚二出雲國司并國造一。官掌喚二國司國造一共位。國造就二版位一。國司次立。官掌立レ西。若國司五位者就レ座。史亦喚二神部一人進。著二木綿鬘并手繦一。就二太刀案下一跪之。于レ時辨宣。云出雲乃國造止今定給幣。稱二姓名一。奏二賜負幸之物一止宣久。國造稱唯。再拜兩段。拍手兩段。訖進二太刀案下一跪之。神部取二太刀一授之。拍手賜

〔神壽詞〕出雲風土記には「神吉詞」または「神吉事」とあり、又た續日本紀、日本後紀、類聚國史等には、神賀辭、神賀事、神壽等に作る、考には「カムホギノコトバ」と訓ぜり、出雲國造が新任せられたる時、朝廷に參向して奏聞する御代祝の壽詞也。

〔負幸物〕オヒサチノモノと訓ず。

〔如初儀〕宣長曰く「如二初儀一とあるにて云云、二度ともに獻物も同じき事を知るべし」といへり。

〔十〕綿五十屯の「十」字、京本に據りて補へり。

之。拍手兩段。退授後取之人。即就版位。次大藏錄喚國造。國造就膝下。後取一人進先取祿給國造。拍手一度。賜而授於後取。後取退立本列。絹布鍬亦如之。國造退就版位。更取太刀出。後取前立。國造後立。其國造者喚名。及給祿之時。每度稱唯。

次錄次本官次史次辨退出。

壽詞

國造奏神壽詞。

玉六十八枚。赤水精八枚。白水精十六枚。青石玉卌四枚。金銀裝横刀一口。長二尺六寸五分。鏡一面。徑七寸七分。倭文二端。長各一丈四尺。廣二尺二寸。並置案。白眼鴾毛馬一疋。白鵠二翼。乘軒。御贄五十舁。舁別盛十籠。

右國造賜負幸物。還國潔齋一年。齋內不決重刑。若當校班田者亦停。訖即國司率國造諸祝部幷子弟等入朝。即於京外便處修飾獻物。神祇官長自監視。預卜吉日申官奏聞。宣示所司。又後齋一年。更入朝奏神壽詞如初儀。事見儀式。

凡國造奏神壽詞日之平旦。神祇官試國造奏事。給座料調薦五枚。奏神賀。齋一日在前申官。國造已下祝神部郡司子弟五色人等給祿。但其人數臨時所申。無有定額。祿法國造絹廿疋。調布六十端。綿五十屯。祝神部不論有位無位各調布一端。郡司各二端。子弟各一端。

御贖物

凡御物贖物者。每月十五日以前移於所司。廿七日受備供之。

祭大祓料

凡諸祭幷二季大祓等料物者。五日備供之。

文部

凡東西文部等上大祓太刀者。取諸司主典已上者。

御贖小竹

凡六月十二月晦日御贖料小竹者。月廿五日以前申辨官。令山城國採進之。

宮主

凡宮主取卜部堪事者任之。其卜部取國卜術優長者。伊豆五人。壹岐五人。對馬十人。若取在都之人者自非卜術絕群。不

〔御巫〕「みかんなぎ」と訓ず、巫は神和ぎの義、神を祀り、神樂等を奏して專ら神の御心を和ぐる童女也。

〔庶女〕庶人の女也。

〔座摩〕攝津國西成郡もと八軒屋濱の南石町に在りしを淡路町に遷し、今又之を大阪南渡邊町に移す、住吉の末社也。

〔散齋〕「アライミ」とよむ、祭祀の時神事に預る者、致齋（マヽ）の前後に行ふ物忌をいふ。

御巫　座摩　時服　戶座　遭喪　神戶　穢忌　弔喪　元服殤　懷妊月事　觸穢

得輙充。其食人別日黑米二升、鹽二勺。妻別日米一升五合、鹽一勺五撮、

凡御巫御門巫生嶋巫各一人。（其中宮東宮唯有御巫各一人。）取庶女堪事充之。但考選准散事宮人。

凡座摩巫取都下國造氏童女七歲已上者充之。若及嫁時、申辨官充替。

凡諸御巫者、各給夏時服絁一疋。冬不給。其食人別日白米一升五合、鹽一勺五撮。

凡戶座取七歲已上童男卜食者充之。若及婚時、申辨官充替。

凡諸神宮司及神主等、未滿六年遭喪解任、不得補替。仍令祝部行事。服闋之日復任滿限。其禰宜祝部一補之後不須輙替。

凡神戶百姓不得輙令得度。

凡觸穢惡事應忌者、人死限卅日。（自葬日始計。）產七日。六畜死五日。產三日。（鷄非忌限。）其喫宍三日。（此官尋常忌之。但當祭時、餘司皆忌。）

凡弔喪問病、及到山作所遭三七日法事者、雖身不穢、而當日不可參入內裏。

凡改葬及四月已上傷胎、並忌卅日。其三月以下傷胎忌七日。

凡新年賀茂月次神嘗新嘗等祭前後散齋之日、僧尼及重服奪情從公之輩、不得參入內裏。雖輕服人、致齋並散齋之日、不得參入。自餘諸祭齋日皆同此例。

凡緣無服殤請暇者、限日未滿被召參入者、不得預祭事。

凡宮女懷妊者、散齋日之前退出。有月事者、祭日之前退下宿廬。不得上殿。其三月九月潔齋、預前退出宮外。

凡甲處有穢、乙入其處、（謂著座。下亦同。）乙及同處人皆爲穢。丙入乙處、只丙一身爲穢。同處人不爲穢。乙入丙處、同處人皆爲穢。丁入丙處不爲穢。其觸死葬之人、雖非神事月、不得參著諸司幷諸衞陣及侍從所等。

〔神稅〕また懸稅ともいふ、神戸百姓より獻る新穀の稻をいふ、初穗の稻を神垣に懸けて獻する故也。

〔正稅〕神稅等に對して人民より官に納むる租庸調をいふ

〔神戸〕租庸調を其社司に納むる神社領の民戸也。

一司穢　失火　神稅等帳　社修理　社四至　鴨四至外　神戸調庸　預名神官社　大神宮幣　祭楯板　御卜婆々加木　兆竹　篦　交易祭皮

凡宮城内一司有穢、不可停廢祭事。

凡觸失火所者、當神事時忌七日。

凡諸國神稅調庸帳、及神戸計帳、祝部等名帳、每年勘造送此官。計會知實、即付返抄。

凡諸國神社隨破修理。但攝津國住吉、下總國香取、常陸國鹿島等神社正殿、廿年一度改造。其料便用神稅。如無神稅、即充正稅。

凡神社四至之内、不得伐樹木、及埋藏死人。

凡鴨御祖社南邊者、雖在四至之外、濫僧屠者等不得居住。

凡神戸調庸充祭料、并造神社、及供神調度。其租田租貯爲神稅。

凡諸神預名神官社等者、待官符下、更修下國符、請内印。

凡内侍調備大神宮幣帛之所者、官人率神部、當日早旦參向相共供事。

凡祈年月次神今食新嘗等祭料楯板置座木等之類、仰在畿内諸國神戸百姓、令採進之。山城國楯板二百枚。大和國四百枚。置座木一萬二千五百隻。攝津國楯板三百九十枚。置座木一萬二千隻。又河内國楯板二百卅枚。置座木一萬二千隻。又鞁鍋戸百姓等置座木一千八百卅二隻。和泉國楯板百十一枚。

凡年中御卜料婆波加木皮者、仰大和國有封社、令採進之。

凡年中御卜料兆竹者、植於宮中閑地、臨事採用。

凡年中祭祓料所須篦千三百六十四隻者。大和國以神稅交易、十月以前進之。

凡伊豆紀伊兩國以神稅交易所進祭料雜皮八十五張。伊豆國熊皮五張。猪皮十張。鹿皮卅張。紀伊國熊皮五張。猪皮五張。鹿皮卅張。並付貢調使進此官。即與諸司出納。

凡甲斐信濃兩國所進祈年祭料雜弓百八十張、甲斐國槻弓八十張。信濃國梓弓百張。並十二月以前差使進上。

凡但馬因幡美作三國以神税交易所進弓矢太刀者、充臨時祭幣料。但馬因幡兩國各弓廿八張、征矢五十隻。美作國太刀三柄、征矢五十隻。

凡梓木千二百株門竿、讃岐國十一月以前差綱丁進納。

凡因幡伯耆兩國所進相嘗祭料莞莒八十八合、國別卌四合。毎年以神税交易。十月以前差使進上。

凡出雲國所進。御富岐玉六十連。三時大嘗祭料三十六連、臨時廿四連。毎年十月以前令意宇郡神戸玉作氏造備、差使進上。

凡鷹三百七十八枚、攝津國以神税交易、送此官充年中祭料。

凡年中所用龜甲、惣五十枚爲限。紀伊國中男作物十七枚、阿波國中男作物十三枚、交易六枚。土佐國中男作物十枚。交易四枚。但齋内親王遷入野宮用料、臨時申辨官。仰所出國、送納此官、毎月充之。

凡諸國所進神税交易雜物、幷伊勢國度會多氣飯野三郡浪人調庸等者、按此官諸司出納。

凡園韓神兩社讃岐國封戸調庸租米者、送納此官充修社料。

凡鴨御祖別雷熱田三社神税穀者。社用之外不得用。雖充社用、申辨官待報。

凡松尾社因幡國封租穀者。停收此官。收社充供神料。

凡枚岡社武藏國封戸調庸租穀者、停收此官。收社充修社料。

凡石上社備後國封租穀者、收社家充夏冬祭料。

凡住吉社長門國封租穀者、令封戸傜夫運送。除運功之遺、令進傜分用修社料。但豐浦郡封戸傜夫者、便留充御蔭社。

凡香取神宮樂人裝束者。令國司付領。若有欠夫。拘其解由。樂人六人料袍六領。襖子六領。汗衫六領。白袴六腰。襪六兩。舞妓八人。料袷衣八領。單衣八領。袴八腰。裳八

雜弓　弓矢太刀　梓木　莞莒　富岐玉　鷹　龜甲　神税　香取樂人裝束

〔征矢〕軍陣に用ふる矢也、箆は篠陰、羽は眞鳥の羽を本とし、根は劍尾柳葉鳥舌等を用ふ。

〔枚岡〕今の河内國中河内郡枚岡村に在る官幣大社也、天兒屋命を祀る、枚を「ヒ」、「ヒラ」と訓するは、一片二片を一ひら二ひらと數ふるに出づ。

〔解由〕任期滿ちて其の交替の際に任官中公事の取扱上懈怠なき由を記して新任の人より前司に渡す文書をいふ、解由狀の略なり。

〔廣瀨〕今の大和國北葛城郡河合村大字川合に在り、倉稻魂命を祀る、今は官幣大社也

〔龍田〕大和國生駒郡三郷村立野に在り、天御柱命、國御柱命を祀る今は官幣大社也。

〔轉讀〕大部の經のところ〳〵を回轉しつゝ拾ひ讀みすることをいふ。

〔季祿〕王朝時代春秋二季に一位以下の諸官人を通じて給ふ祿をいふ、春は二月上旬、秋は八月上旬に賜ふ。

石上鑰　春日等社庫鑰　熱田經　官人季祿　不仕粮　史生等粮　神殿守

腰。緋帶八條。綾八兩。

凡石上社門鑰一勾匙二口納二官庫一。臨レ祭在前遣二官人神部卜部各一人一。開レ門掃除供レ祭。自餘正殿并伴佐伯二殿各一口。同納レ庫。不レ得二輙開一。

凡春日廣瀨龍田等社庫鑰匙者。納二置官庫一。祭使官人臨レ祭請取。事畢返納。

凡尾張國熱田社。毎年春秋二節。節別屈二僧六十四口一。轉二讀金剛般若經一千卷一。其布施供養以二神封物一充レ之。

凡官人季祿馬新嘗劇。并供二奉神事一官人裝束。宮主神琴師龜卜長上季祿馬新月粮。及卜部御巫等衣服者。以二神税一充レ之。但宮主月粮以二官田一給レ之。

凡不仕卜部粮米者。充二官中雜用一。

凡史生二人。官掌一人。神部四人粮米者。以二神税物一充レ之。月別各白米一斗五升。

凡平野神殿守者。以二山城國徭丁一人一充レ之。

凡園韓神社神殿守者。以二封丁一人一充レ之。其月粮者。以二神封庸米内一給レ之。月別六斗。

凡八幡神宮司。以二大神宇佐二氏一補レ之。不レ得レ雜二補他氏一。

凡禰宜祝與レ人鬪打。及有二他犯一。詳二其由一移二送此官一。國司勿二輙決罰一。

凡諸神宮司禰宜季祿者。伊勢太神宮禰宜準二從七位官一。度會宮禰宜準二從八位官一。並以二神郡神税一給レ之。下總國香取神宮司。常陸國鹿島神宮司。越前國氣比神宮司。並準二從八位官一。並以二封戸物一充レ之。能登國氣多神宮司。準二少初位官一。以二神封一給レ之。

延喜式卷第三

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔勘解由〕具さには勘解由使といふ、官人遷替の時、前官の人、任中公事の雜怠、官物の缺負なれば、新官より解由狀を與ふるを、此使局に於て勘檢するを職掌とす、長官、次官、判官、主典、史書、書生等の職名あり

延喜式卷第四　神祇四

伊勢太神宮。

太神宮三座。在二度會郡宇治鄕五十鈴河上一。

天照太神一座。

相殿神二座。

禰宜一人。從七位官。大內人四人。物忌九人。童男一人。童女八人。父九人。小內人九人。

荒祭宮一座。太神荒魂。去二太神宮北一廿四丈。

內人二人。物忌父各一人。

右二宮。祈年月次神嘗神衣等祭供レ之。

伊佐奈岐ノ宮二座。去二太神宮北一三里。

伊弉諾尊一座。

伊弉冊尊一座。

月讀宮二座。去二太神宮北一三里。

月夜見命一座。

荒魂命一座。

〔大內人〕小內人と共に物忌以下を率ゐて宿直し、又その祭具を調ふる事を掌る。

〔物忌〕常に大御神に近侍し、祭祀にあづかる童男少女をいふ、童男は宮守物忌、又は大物忌、少女は子良（ラコ）とも稱す。

〔父〕物忌父にて、物忌の輔導役也、物忌の父を任用せり。

〔荒祭宮〕神宮域內にありて、大御神の荒御魂を齋き祭る宮也、從つて本宮と同時に創立せられ、古來大神宮第一の別宮として最も崇敬せらる。

瀧原宮一座。（太神遙宮。在下伊勢與二志摩一境山中上。去二太神宮西一九十里。）
瀧原竝宮一座。（太神遙宮。在二瀧原宮地内一。）
伊雜宮一座。（太神遙宮。在二志摩國答志郡一。去二太神宮南一八十三里。）
右諸別宮。新年月次神嘗等祭供レ之。就中瀧原竝宮伊雜宮不レ預二月次一。其宮別各内人二人。（其一人用二八位已上并蔭子孫一。）物忌父各一人。但月讀宮加二御巫内人一人一。
度會宮四座。（在二度會郡沼木郷山田原一。去二太神宮西一七里。）
豐受大神一座。
相殿神三座。
禰宜一人。（從八位官。）大内人四人。物忌六人。父六人。小内人八人。
多賀宮一座。（豐受大神荒魂。去二神宮南一六十丈。）
内人二人。物忌父各一人。
右二宮。新年月次神嘗等祭供レ之。
凡二所太神宮禰宜大小内人物忌。諸別宮内人物忌等。並任二度會郡人一。（但伊雜宮内人二人物忌父等任二志摩國神戸人一。）
諸社卅座。
太神宮所攝廿四座。
朝熊社。　園相社。　鴨社。　田乃家社。
蚊野社。　湯田社。　大土御祖社。　國津御祖社。

〔山田原〕今の宇治山田市の山田の事也。

〔豐受大神〕「トユケ」と訓ずるは、「トヨウケ」の晉の約也、伊邪那岐伊邪那美二神が生み給ひたる和久產巢日神の御子也、止由氣宮儀式帳によれば、此の神はもと、丹波國比治の眞奈井原に齋き祭りしが、天照大御神が、雄略天皇の御夢に誨し奉りて今の山田に遷し奉りたる也。

〔相殿神〕神社の同殿に二柱以上を併せ祭りたる神をいふ、其の主神を除く外は、何座あつても相殿の神といふ。儀式帳に「同殿に坐す神を相殿と稱す」と見えたり。

〔粟皇子社〕儀式帳には「栗皇子社」に作る。

〔榛原社〕榛の字、原本及び貞本、京本には棒に作る、今、林本副墨及び儀式帳に據りて榛に改めたり。

〔志等美社〕儀式帳には辭野に作る。

〔白散〕白朮、桂心、桔梗、細辛等五色の藥味を調合したるもの也。

〔神衣祭〕皇大神宮並に荒祭宮に和妙荒妙の神御衣を奉る祭にて、大寶令に、孟夏神衣祭、季秋神衣祭とあり、即ち四月と九月十四日に行はる。

朽羅社。伊佐奈彌社。津長社。大水社。
大國玉比賣社。江神社。神前社。粟皇子社。
久具都比賣社。奈良波良社。榛原社。御船社。
坂手國生社。狹田國生社。多岐原社。河原社。
度會宮所攝十六座。
月夜見社。草名伎社。大間國生社。度會國御神社。
度會大國玉比賣社。田上大水社。志等美社。大河內社。
清野非遲社。高河原社。河原大社。河原淵社。
山末社。宇須乃野社。小俣社。御食社。

右諸社並預祈年神嘗祭。

元日

凡元日。諸宮禰宜內人等各奉拜神宮。即供進白散御酒。（其白散國司進之。）訖皆會集御厨。太神宮司率諸宮禰宜內人及神郡司等。遙拜諸宮。（先拜度會宮。次太神宮。次諸宮。）訖即朝拜。然後賜宴。三日早旦拜賀齋宮。

祈年

凡二月祈年幣帛者。（幣色目在四時祭式。）朝使到日。太神宮司引使者。先參度會宮。次太神宮。奉獻幣帛。並如常儀。（高荒祭宮。使自進奉。餘宮令禰宜等奉上。）其二宮所攝諸社幣者。座別絁三尺。木綿麻一兩二分。太神宮司分充。禰宜撿領就社奉班。

神衣

四月九月神衣祭。

太神宮和妙衣廿四疋。（八疋廣一尺五寸。八疋廣一尺二寸。八疋廣一尺。並長四丈。）髻絲。頸玉。手玉。足玉緒。笥襪緒等絲各十六條。縫絲六十四條。（各長五尺。）長刀子一枚。短刀子。錐。針。鉾鋒各十六枚。著絲玉串一枚。韓櫃二合。（一合盛衣。一合盛金物。）一筥一合（盛絲并雜緒。）荒妙衣

八十疋（卌疋廣一尺六寸。卌疋廣一尺。並長四丈。）刀子針各廿枚。韓櫃一合。（盛衣并刀子）荒祭宮和妙衣十三疋。髻絲頸玉手玉足玉緒紫襪緒等絲各八條。縫絲四十條。刀子錐針鋒各八枚。著絲玉串一枚。韓櫃二合。莒一合。荒妙衣卌疋。刀子針各十二枚。韓櫃一合。

右和妙衣者服部氏。荒妙衣者麻績氏。各自潔齋始從祭月一日織造。至十四日供祭。其儀太神宮司禰宜內人等率服織女八人。並著明衣。各執玉串。陣列御衣之後入。太神宮司宣祝詞。訖共再拜兩段。短拍手兩段。膝退再拜兩段。短拍手兩段一拜。訖退出。卽詣荒祭宮供御衣。如太神宮儀。但再拜兩段。短拍手兩段退出。是日笠縫內人等供進蓑笠。太神宮二具。荒祭宮一具。伊佐奈伎宮二具。月夜見宮二具。瀧原宮二具。瀧原並宮二具。伊雜宮一具。朝熊社二具。園相社鴨社田乃家社蚊野社伊佐奈彌社各一具。度會宮八具。及所攝宮幷各一具。

服部等造二時神衣機殿祭幷雜用新。

絲一百絇。倭文二丈一尺。（是一種請官庫。）木綿麻各十三斤四兩二分。（已上祭析。）絹四疋四丈二尺。綿四屯。調布九端一丈。商布七十九段。鐵六廷。砥四顆。（是一種請官庫。）油一斗鹽一石稻六百五十六束。（九月祭析。）防壁四枚。席四枚。神部二人新日米一升二合。

麻績等機殿祭幷雜用新。

麻三十鑒。（圍二尺爲鑒。）絹四丈。倭文三丈。木綿十三斤四兩二分。（已上祭析。）商布七十九段。砥二顆。油八升。鹽一石。稻三百九十七束。（九月祭析。）

右織造神衣新。所須雜物。皆以服織戸廿二烟麻績戸廿二烟調庸及租。各便分充。太神宮司檢挍。若所輸有餘者附帳申上。如有損戸者。太神宮司量充。

〔和妙衣〕神衣とすべき精製せる絹布をいふ、妙は絹布類の總稱にて、「にぎ」は熟の意也。

〔韓櫃〕足を附したる櫃をいふ、長唐櫃は長持の如く二人にて棒にて荷ふ、荷唐櫃は、長唐櫃の半程にて、一人にて二個を擔ぐ、六脚六つありて筥の脚の如し。

〔荒妙衣〕神衣とすべき倭文、木綿、麻の如き荒き織物をいふ。

〔明衣〕光澤のある麗はしき衣服也。

〔商布〕和名抄に「本朝式云商布、和名多通」とあり、太布の類にて粗末なる木綿の布ならんといふ。

〔六月月次祭〕月次は月並にて毎月の意也 月次 毎月あるべき祭を月次祭といふなるも、實は六箇月間取纏めて、六月と十二月の二季の十一日に行はる。

〔赤引絲〕儀式帳には、明曳糸、令義解に、赤引神調糸とあり、麻なりといふ。

〔亥時〕夜の十時をいふ。

〔丑時〕夜の二時をいふ。

〔倭儛〕倭歌に合せて舞ふ雅樂の一種にて、歌を主とす、大和國より出來せる舞なる故に名づく。

凡四月神衣祭。預前一月晦日祓除。九月准此。

六月月次祭。十二月准此。

太神宮赤引絲卅絇。木綿大七斤。麻大十二斤。酒米十石。米三石三斗。神酒廿缶。缶別三斗。當國十五缶。伊賀國二缶。尾張參河遠江等國各一缶。並以神税釀造。雜贄廿荷。副酒所供雜供料米十五石。鹽一石四斗。鐵一廷。

度會宮赤引絲三十絇。木綿大四斤。麻大十斤。酒米十石。米二石。神酒八缶。當國三缶。四國如上。雜贄八荷。雜供料。米十五石。鹽一石四斗。鐵一廷。其所攝神宮祭者亦用同物。

右月十六日祭度會宮。十七日祭太神宮。其儀十五日黄昏以後。禰宜率諸內人物忌等陳列神御雜物。訖亥時供夕膳。丑時供朝膳。禰宜內人等奏歌舞。十六日平旦齋內親王參入度會宮。至板垣門東頭下輿。入外玉垣門就座於東殿。門內東西各有一殿。東殿設齋內親王座。左右設命婦等座。西殿設女孺等座。訖即神宮司執鬘木綿入外玉垣門北向而跪。命婦若女孺出受以奉齋內親王。拍手而執著鬘。神宮司又持太玉串。著木綿賢木。是名太玉串。入同門而跪。命婦亦轉奉齋王。拍手而執捧入內玉垣院門。就座席。命婦若女孺二人陪從。避席進前再拜兩段。命婦不拜。訖玉串授命婦。命婦受轉授物忌。受執立瑞垣門西頭。齋內親王還就本座。然後禰宜乃著明衣。衣冠並用生絁。太神宮司著當色並執太玉串。禰宜立前。太神宮禰宜立左。宇治內人立右。次宮司。次幣雜物并馬。單行陳列。次朝使進入外玉垣門當內玉垣門並皆跪。先使中臣申詔刀。次宮司宣祝詞。訖物忌內人等舁幣帛案入奉置瑞垣內財殿。齋內親王并衆官以下再拜拍八開手。次拍短手再拜。如此兩遍。既而衆官退出。即使及宮司以下向多賀宮。齋王不向。再拜兩段。拍短手兩段。退就辭齋殿給酒食。訖入外玉垣門供倭儛。先神宮司。次禰宜。次大內人。次幣帛使。次齋宮主神。次寮允以上一人。酒立女一人持柏。一人持酒。毎儛了人令飲柏酒。但件酒立女齋王參祭之日采女供奉。或用女孺。不參之時用禰宜內人等

妻子。次禰宜大内人妻、託齋宮女・孺四人供五節儛。次鳥子名儛。十七日參太神宮。其儀一同度會宮。幷荒祭宮同多賀宮。

九月神嘗祭。但朝庭幣數在内藏式。

太神宮。御衣三疋、禰宜預五月收封戸調絲潔齋所織備。調荷前絹一百十二疋一丈二尺、太神宮一百六疋。所攝六宮各一疋。廿四社祈一疋一丈二尺。五色幣新絹一疋。門帳新絹三疋二丈。絲三絇。綿五十三屯、布一端、木綿十斤、麻十八斤、腊廿斤、熬海鼠十二斤、堅魚十四斤、鰒十二斤、鹽六石・油六升。海藻根廿斤、已上諸國封戸調荷前。米三石三斗。酒米十石、雜供新、米廿五石、鹽一石、神酒廿三缶、富國十五缶。度會宮根倉物忌一缶、服織麻續各一缶、伊賀國二缶。尾張參河遠江等國各一缶。並以神税釀造。小税二百卅束。以二把爲束。神麻續一百束。神服織八十束、飯野郡封戸十束。伊賀國封戸卌束、大税一百八十束。以五把爲束。神麻續百束、神服織八十束。斤税一千二百廿二束。太神宮千八十二束、荒祭宮五十束。月夜見宮卅束。瀧原宮廿束。瀧原竝宮廿束。瀧祭十束。朝熊社十束。並用神税下條進此。布一端、帖廿枚。短帖廿枚、席廿四枚。食薦廿三枚。防壁三枚。甕一口。𤭖二口。陶埦三口。酒盞三口。各加酒臺。高盤杯盤酒壺各三口。鐵一延、砥一顆、案十脚、著足折櫃八十合。折櫃二百合。切案十脚。高案八脚。大案十脚。杓廿柄。匏廿柄。雜土器四千五百口。

禰宜内人等明衣。

禰宜大物忌二人。各絹三疋。綿三屯、大内人四人。各絹二疋。綿二屯。宮守地祭鹽燒物忌等三人。各絹一疋三丈。綿一屯・大物忌宮守地祭鹽燒物忌等父四人。幷清酒　酒造山向瀧祭土師器作物忌等五人幷父。及御笥作木綿作忌鍛冶陶器　作御笠縫日祈御巫御馬飼内人二人。等九人。各絹一疋。綿一屯。荒祭宮内人二人。絹三疋。各一疋三丈。綿三屯。各一屯半。物忌一人。絹一疋三丈、綿一屯、父一人絹一疋、綿一屯、月夜見宮内人以下同荒祭宮。但御巫内人一人。

〔鳥子名舞〕天照大御神が天岩戸に隱れ給ひし時、天鈿女命を初めとして八百萬神達の舞ひし舞をいふ、其の舞のさまは、年中行事歌の後に、異本云、鳥子名等組手廻々後、各頭一所聚伏、其後各手合、後退出也、件職掌人忌火屋殿御琴止退出也、とあり。

神嘗

〔海藻根〕根字下文度會宮及び儀式帳に據りて補ふ。

〔斤税〕倭訓栞に「日本紀に斤をよめり、云々、昔は稻も秤にかけし云々」とあり、儀式帳に「斤税所謂大斤以二十把一爲二一束一」とあり。

〔三口〕儀式帳に據りて補へり。

〔各〕一本により補ふべし。

〔高宮〕和漢三才圖會に「多賀宮、或云高宮、在大宮前南山上、一座、伊吹戶主神」とあり。

度會

〔神服織〕三河國赤引の絲にて織る、和妙是也。

〔神麻續〕麻績連織りて奉る、荒妙是也。

〔父〕神社に仕へて祭祀に預かる童男を宮守、物忌、又は大物忌と云ひ、小女を子良と云ふ、總稱して單に物忌と云ふ、父とあるは其等物忌の父の謂也、故に人員物忌に相同じ。

祓祈

御膳年新

絹一疋。綿一屯。伊雜宮内人二人物忌幷父合四人。[各]絹一疋。綿一屯。

度會宮

御衣一疋。禰宜收封戶絲齋織如上。調荷前絹五十五疋四丈八尺。神宮五十四疋。高宮一疋。十六社祈四丈八尺。五色幣絹一疋。門幌料絹二疋三丈。

御膳殿料絹二疋。絲二絇。綿五十二屯。布一端。木綿六斤。麻十五斤。腊廿斤。熬海鼠八斤。堅魚十斤。鰒八斤。鹽四石。海藻根十五斤。祭料米二石。酒米十石。雜供米廿五石。鹽五斗。神酒廿缶。當國十二缶。餘國同太神宮。小稅一百廿束。神服織卅束。神麻續八十束。大稅八十束。神服織卅束。神麻續卅束。斤稅八百束。神宮七百九十束。高宮十束。帖廿枚。短帖廿枚。席廿枚。食薦廿二枚。防壁二枚。陶瓫盤酒盞酒臺高盤酒坩各三口。鐵一廷。砥一顆。

禰宜内人等明衣。

禰宜絹三疋。綿三屯。大内人四人。大物忌一人各絹二疋。綿二屯。御炊鹽燒物忌等二人各絹一疋三丈。綿一屯。根倉菅裁土師器作物忌等三人。幷大物忌御炊鹽燒根倉菅裁土師物忌等父六人。及木綿作御巫忌鍛冶御笠縫陶器作御笥作御馬飼内人二人。等八人。各絹一疋。綿一屯。高宮内人二人。各絹一疋三丈。綿一屯半。物忌一人。絹一疋三丈。綿一屯。父絹一疋。綿一屯。

右月十六日祭度會宮。十七日祭太神宮。禰宜大内人各著明衣。分頭左右。宮司立中。次使忌部捧幣。次馬。次使中臣。次使王。入就内院版位。使中臣申祝詞。訖亦神宮司宣祝詞。餘儀同月次祭。

凡三時祭者。謂六月九月十二月。預前一月晦日爲祓所須各馬一疋鍬十三口。麻十三斤。祝史料商布一段。

凡度會宮禰宜内人等依例供進太神宮及度會宮朝夕御膳。餘宮不供。其御膳殿年料所須。絹二疋。布八端。束席三枚。食單布二端。食薦三枚。神宮司充之。

〔山口〕所謂飛鳥、石村、忍坂、長谷、畝火耳無の六の縣に坐すにして、樹木の伐採に先立ちて此の山神を祭る也。

〔鐵人像〕鐵にて作れる人形也、秡具に用ゆ。

〔中臣忌部〕古語拾遺の所遺十一の條に「天照大神本與レ帝同殿、故供奉之儀君神一體、始自ニ天上一。中臣齋部二氏、相副奉レ禱ニ日神こ」とありて、此の二氏を選びて神宮使とする由來明か也。

〔長刀子〕長刀也、又細刀とも云ふ。

日祈

凡每年七月日祈內人爲祈年風雨、所須絹四丈。太神宮五尺。度會宮五尺。荒祭宮月讀宮荒御玉伊佐奈伎伊佐奈彌瀧原小朝熊多賀久具風神已上十座各三尺。木綿麻各十五斤五兩六分。太神宮三斤。度會宮二斤。十座神四斤。度會郡神卅座六斤五兩六分、各二兩二分。並神宮司充之。

鉏鍬

凡採營神田鉏鍬柄者、每年二月先祭山口及木本、然後採之。所須鐵人像鏡鉾各八十枚。

造營

凡太神宮廿年一度造替正殿寶殿及外幣殿。度會宮及別宮餘社造神殿之年限准此。皆採新材構造。自外諸院新舊通用。宮地定置二處。至遷宮更其舊宮神寶遷收新殿。但絁綿之類、頒給太神宮司及禰宜內人等。神祇祭主處分亦共有分。

凡太神宮年限滿應修造者、遣使判官主典各一人。但使判官任中臣忌部兩氏。孟冬始作之。神宮七院、社十二處、朝熊社。園相社。鴨社。田乃家社。蚊野社。湯田社。月夜見社。草名伎社。大間社。須麻漏賣社。佐那社。櫛田社。其使供給充用神稅、丁近役封戶人夫、粮食便用神稅。若神稅不足用正稅。自餘諸社宮司修理。

山口祭

山口神祭。

鐵人像鏡鉾各卅枚。已上三物度會宮減半。以下祭准此。長刀子廿枚。手鉾一柄。鎌一張。五色薄絁各五尺。木綿麻各一斤。米酒各一斗。堅魚鰒各一斤。雜腊一斗。雜海菜一斗。鹽一升。雞一翼。雞卵十枚。陶器土器各五十口。內人等明衣新庸布五段。度會宮減一段。

採柱

採正殿心柱祭。

鐵人像鏡鉾各卅枚。長刀子卅枚。鉾四柄。度會宮減三柄。加手鉾一柄。鎌二張。小刀子一枚。鉇一枚。五色薄絁各五尺。木綿麻各二斤。米酒各一斗。堅魚鰒各二斤。雜腊一斗。雜海菜二斗。鹽二升。雞二翼。雞卵十枚。陶器土器各廿口。內人等明衣新庸布四段。使忌部明衣新一段。

右造宮使忌部自率內人幷役夫等就山木本祭之。

鎭地

〔小刀子〕小刀也、和名抄に「小刀、加太奈」又「刀子、賀太奈」とあれば、「かたな」と訓むべし。

〔三人〕鎭地の條、「禰宜內人物忌等三人」とあるは、原本五人」に作れり、今儀式帳に據りて三人と改む。

造流船

〔雞〕儀式帳により補ふ。

〔土器〕京林二本により補ふ。

〔船代〕和訓栞に、「一木船酒船等云ふ如くにして蓋ある物也太田命傳の注に、船代則謂天村木戸船之靈」と云へり」とあり。

代造備

〔等〕儀式帳に據り補ふ。

鎭祭宮地。後鎭准此。但除明衣及鍬。

鐵人像以下小刀子以上同心柱祭。鍬二口。五色薄絁各一丈。木綿麻各二斤。酒一斗。米一斗五升。雜腊一斗五升。堅魚鰒各三斤。雜海菜一斗五升。鹽二升。雞一翼。雞卵廿枚。陶器土器各廿口。禰宜內人物忌等三人明衣新絹二疋。度會宮ハ減一疋。築平正殿地禰宜人等八十人明衣新庸布八十段。度會宮減半。

太神宮所攝宮地鎭新。鐵人像鏡鉾長刀子各卌枚。鉾鏑鎌各四柄。鍬八口。木綿麻各四斤。五色薄絁各二丈。米酒腊各二斗。堅魚鰒各四斤。海菜四斗。鹽四升。雞八翼。卵卌枚。宮別等分。內人等十三人明衣新庸布十三段。度會宮所攝宮地鎭新。鐵人像鏡鉾長刀子各十枚。鉾鏑刀子各一枚。鍬二口。木綿麻各一斤。五色薄絁各五尺。米酒腊各五升。堅魚鰒各一斤。海菜一斗。鹽一升。雞一翼。雞卵十枚。陶器土器各十口。內人等三人明衣新庸布三段。

右鎭祭畢地祭物忌淸掃其地。掘心柱穴。禰宜竪柱。其築平殿地之日。以紺布帳奉隱神殿。仍令工夫臨看。

造船代祭。

鐵人像鏡鉾各卌枚。鉾二柄。鉗一張。鎚一枚。長刀子十枚。鎌二張。度會宮減一張。鑽手鉾各二柄。錐二枚。度會宮ハ除之。小刀子二枚。鉾二柄。五色薄絁各五尺。木綿麻各二斤。酒米各一斗。堅魚鰒各二斤。腊魚一斗。雜海菜二斤。鹽二升。雞四翼。雞卵廿枚。陶器土器各廿口。度會宮雞以下並減半。內人等明衣新庸布六段。度會宮減二段。庭作工明衣新二段。

造備雜物。

太神宮船代三具。一具正宮新。長七尺三寸。內五尺七寸。廣二尺五寸。內二尺。高二尺一寸。內深一尺四寸。二具相殿神新。各長七尺六寸。內七尺六分。廣一尺五寸。內深一尺五分。高一尺七寸。內深一尺。樋代一具。正宮新。高二尺一寸。深一尺四寸。內徑一尺六寸三分。外徑二尺。度會宮船代四具。一具正宮新。長七尺五寸。內五尺八寸。廣二尺五寸。內二尺。高二尺一寸。深九寸。二具相殿神新。各長四尺三寸。內三尺九寸。廣一

尺五寸。内一尺一寸五分。高一尺七寸。深一尺。二具高宮析。長四尺。廣一尺五寸。樋代一具。正宮析。徑高各一尺五寸。太神宮和琴一面。燈臺五基。納レ鎰韓櫃一合。從レ幣案二脚。床三脚。一太神析。二相殿神析。天井一蓋。短床二脚。度會宮亦同。但加二床一脚。

右自二山口祭一以下所レ須五色薄絁各九丈。木綿麻各卅二斤。鐵十六廷。鍬十六口。絹三疋。庸布二百二段。紺布八端。並造宮使請二受京庫。自餘太神宮司充レ之。

營造神寶幷裝束使。

辨官五位以上一人。史一人。史生二人。官掌一人。神祇若諸司主典已上可レ堪レ事者四人。史生四人。女孺廿一人。仕女二人。雜使六人。雜工六十三人。自外應レ供作雜色人等隨レ事喚攡。多少堪レ濟。其女孺以上各給二明衣。男各絹四丈五尺。女一疋一丈。雜工以上。男各布二丈六尺。女二丈。五位以下大膳大炊依レ例供給。七月一日神祇官西院始行レ事。

修餝神宮調度。

正殿内張レ帳鎹一百卅二勾。背長各一寸。廣二分半。莖長一寸。厚二分半。足•厚二分。戸引手二勾。環徑各三寸六分。位金二枚。各三寸。引手内塞覆金二枚。花形徑各一寸九分。枚別穴三口。蟹目釘六隻。長各一寸。頭徑一分半。鎹三勾。背長各二寸四分。廣六分。莖長三寸。足長一寸七分。厚四分。廣三分。鎹位金八枚。花形徑各一寸五分。鎹外覆花形金八枚。徑各一寸九分。枚別穴三口。蟹目釘廿四隻。長各一寸。頭徑一分半。雉楯金一枚。長六寸一分。廣三寸六分。穴長一寸九分。廣六分。蟹目釘八隻。各長一寸。頭徑一分半。鰈釘覆金五枚。徑各一寸六分。足各三。鑄立。殿戸上下閫鋪八口。徑各三寸。足三。鑄立。幌懸鐶三枚。長各一寸五分。穴徑三分。頭徑六分。位金三枚。徑各一寸二分。鏁一具。管長四寸五分。管口徑一寸七分。自レ勾至レ末二寸七分。管廣厚各二寸。自二舌莖本一至レ勾一寸四分。根莖徑五分。長八寸。鐶打立二枚。頭徑一寸三分。足長一寸五分。足本廣一寸。穴徑六分。

〔床〕机の如き形の腰掛也、椅子と異なる點は、椅子には、後並に左右に勾欄あるも、床にはなし。

寶裝

〔女孺〕「メノワラハ」とも訓む、禁秘抄に「近代不レ著レ衣、只小袖唐衣也、以二左道姿一御殿御調度觸レ手、上下格子奉仕、是藏人等如在不當故也、御所中持除指油等役女嬬所レ知也」とあり。

調度

〔足•厚二分〕正殿内張鎹の割注一本「足長一寸、厚二分」に作る。

〔棟端金四枚〕下の注に「穴各八口」とありて、其の次の本文に「蟹目釘十六隻」とあれば、二枚の誤なるべし。
〔妻圖塞押木〕窓字原本なし、雲州家校本所引の貞享本林本等に據りて補ふ。
〔徑各〕例により補ふ。
〔釘卌隻〕卌原と卅に作る、上の「高欄鴨居丸桁端金十管」及び注に「穴四口」とあるに據り、卌に改む。
〔一口〕林京貞三本により補ふ。
〔高欄上座玉十八枚〕注に十四枚也、又一本には、黃四の下に「黑四」とあり。
〔一〕林京貞三本により補ふ。
〔花形固釘云々〕注の二寸並十字衍字也。

足廣七分。厚二分半、蓋長三寸。位金二枚。花形徑各一寸五分。匙一枚。長一尺五分。廣五分。鑰一勾。長三尺四寸七分。柄長三寸五分。柄本金廣八分。柄本末徑一寸一分。本末口裏長八分。自柄至勾長五
寸八分、勾金廣七分。自中至下廣六分。自勾至下二尺八分。惣厚三分、柄中花形目抜在。又柄端着鐶。 棟端金四枚。長各七寸五分、廣六寸五分、穴各八口。 蟹目釘十六隻。長各一寸五分、頭徑一分半、
桁端金四枚。長各七寸五分、廣六寸五分、枚別穴八口。 蟹目釘卅二隻。長一寸五分、頭徑一分半。 垂木端金八十六枚。方各三寸一分、枚別穴四口。 蟹目釘三百卌四
隻。長各一寸五分、頭徑一分半。 博風端金四枚。長各七尺。廣三寸、穴四口。 蟹目釘十六隻。長各二寸、頭徑一分半。 鏡形木覆金廿四枚。徑各二寸一分、枚別足鑄立。長一寸五分。
鞭懸木端金十六枚。徑各一寸六分、枚別足三鑄立。長一寸五分。 博風鋪十四口。徑各四寸。別足三立。 妻〔窓〕塞押木打鋪十二口。徑各一寸五分。別足三立。 博風
上鋪廿口。徑各三寸。別足三立。 高欄鴨居丸桁端金十管。各徑三寸三分、長四寸、穴四口。 ●釘卌隻。長各一寸、頭徑一分半、徑一寸半。 高欄中桁端金十枚。長各七寸
廣三寸八分、別穴六口、並花形堺打。 蟹目釘六十隻。長各一寸、頭徑一寸半。 高欄土居桁端金十枚。長各七寸、廣三寸八分、別穴六口、並花形堺打。 蟹目釘六十隻。長各一寸、頭
徑一分半。 高欄長押肱金四勾。長各一尺四寸。片方長七寸、廣三寸六分、勾別穴十四口、花形堺打。 蟹目釘五十六隻。長各一寸、頭徑一分半。 高欄障泥板鋪廿六口。
徑各三寸。別足三立。 高欄貫子數釘覆金一百五十隻。徑二寸一分、別足三立。 高欄鋪九十二口。廿一口。徑各二寸一分。七十一口。徑三寸三分、別足三立。 高欄土座
玉十八枚。赤四。白三。青三。黃四。玉高三寸四分、徑三寸七分。 玉固釘十八隻。長各二寸。 玉位花形金十八枚。徑各五寸五分、花枚六。穴各一口。 又玉位花形下金十
八枚。長各七寸、廣四寸七分、穴各五口。 蟹目釘一百四隻。長各一寸、頭徑一分半。 御橋玉六枚。赤二。白一。青二。黃一。高各三寸四分、徑三寸七分。 玉固釘六隻。長各二寸。 御
橋ノ下ノ位花形六枚。徑各五寸六分。 御橋玉位花形下金六枚。長各七寸、廣四寸、並花形穴各四口。 蟹目釘廿四隻。長各一寸、頭徑一分半。 花形固釘六
隻。長各二寸。 御橋鋪廿八口。徑各三寸。別足三立。 壁角柱ノ長押肱金四枚。長各一尺二寸、廣三寸七分。片方六寸。別穴十四口。 蟹目釘五十六隻。長各一寸、頭徑一分半。
壁柱長押釘覆鋪十四口。徑各三寸。別足三立。 板敷釘覆金一百隻。徑各二寸一分。別足三立。 北御門牒釘ノ覆金五枚。徑各一寸五分。別足三立。

鋪八口。徑各三寸。別足三立。雉楯・一枚。長四寸。穴長一寸、廣三寸。穴口五分。穴六口。蟹目釘六隻。長各一寸。徑一分半。頭鎹外覆金六枚。徑各一寸一分。別穴三口。蟹目釘十八隻。長各一寸。徑一分半。頭鎹二勾。背長各二寸四分。廣六分。足長一寸七分。厚四分。莖長三寸。廣三分。位金六枚。徑一寸五分。幌懸鐶二枚。長各一寸五分。頭徑六分。位金三枚。徑各一寸二分。南草葺御門三間析鋪六十六口。徑各三寸。別足三立。蕃御門一間析鋪八口。徑三寸。別足三立。別御門三間牒釘覆金十五枚。徑一寸半。別足三立。御門四間幌懸鐶十二隻。長各一寸五分。頭徑三分。位金十二枚。徑各一寸半。寶殿二間博風釘覆鋪廿八口。徑各三寸。足三立。御床四具之中二具、用金花形釘卅六隻。徑七分。長一寸。莖肱金八勾。長一尺七分。廣一寸九分。並花形堺打。片方長六寸。片方長四寸七分。穴各十四口。蟹目釘一百十二隻。長各一寸。徑一分半。頭二具用金平釘卅二隻。長各一寸。惣所須熟銅一百三十一斤三兩二分。半熟一百七十一斤。減金八斤四兩。銀一兩二分一銖。

神寶二十一種。

金銅多多利二基。高各一尺一寸六分。土居徑三寸六分。金銅麻笥二合。口徑各三寸六分。底徑二寸八分。深二寸二分。金銅賀世比二枚。長各九寸六分。手長五寸八分。金銅鐏一枚。莖長各九寸三分。輪徑一寸一分。銀銅多多利一基。高一尺一寸六分。土居徑三寸五分。銀銅麻笥一合。口徑三寸六分。底徑二寸八分。深二寸二分。銀銅賀世比一枚。長九寸六分。手長五寸八分。銀銅鐏一枚。莖長九寸三分。輪徑一寸一分。梓弓廿四枝。長各七尺以上八尺以下。塗赤漆、弼纏緑組。征箭一千四百八十隻。長各二尺三寸。羽長二寸五分。以烏羽作之。鏃塗金漆。箭塗朱沙。又箭七百六十「八」隻。長二尺四寸。鏃箭以鷺羽作之。以緋丹漆畫之。玉纏横刀一柄。柄長七寸。鞘長三尺六寸。柄頭横著銅塗金長三寸八分。片端廣一寸五分。片端廣一寸。頭内著仆鐸一勾。徑一寸五分。玉纏十三町。四面有五色玉。著五色組長一丈。阿志須惠組四尺。柄著勾金長二尺。著鈴八口。琥珀玉二枚。金鮒形一隻。長「各」六寸。廣二寸五分。著緋紫組長六尺。袋一口。表大暈繝錦。裏緋綾帛各長七尺。

〔雉楯・一枚〕一本雉楯の下に「金」の字あり、雉楯金は扉の鑰の穴を餝る金具也。

〔金銅多多利〕多多利は和名抄に「絡䋏、多々利」とあり、絲をまくに用ひし具、方形の臺に柱を立てたるもの也、繰臺とも云ふ。

〔賀世比〕本書四時祭式の條に「桛、加世比」とあるに同じ、つむにて取りたる絲を卷く具也。

神寶

〔鐏〕和名抄に「鐏云々、佐比都惠」とあり、草を刈る具にて、鉤の類也。

〔八〕原本九に作る下文によりて改む

〔須賀流横刀〕須賀流は、末枯の義にて、末になりて消え盡きむとする狀に云ふ、こゝは香の末に至りて失せたる樣に燒きし太刀の意也。

〔須賀流云々〕「須賀流橫刀以下著紫組長六尺袋一口」の注迄總字數百二十二字重出す、雲州家校本貞享本に據りて削除す。

〔樓柄〕太刀の柄を樓皮を以つて卷きたるものを云ふ。

〔荏油三合〕雲州家校本所引の林本、京本、貞享本等五合に作る、又下文油五合、掃墨二升の七字なし。

須我流橫刀一柄。柄長六寸。鞘長三尺。其鞘以金銀泥畫之。柄以鵄羽纏之。柄勾皮長一尺四寸。裹小暈繝錦。廣一寸。 押鏡形金六枚。柄枚押小暈繝錦。長三寸一分。廣一寸五分。 四角立乳形著五色組長一丈。阿志須惠組四尺。金鮒形一隻。長六寸。廣二寸五分。 著紫組長六尺。袋一口。長大暈繝錦。裏緋綾帛。各長七尺。 須我流橫刀一柄 柄長六寸鞘長三尺其鞘以金銀泥畫之柄以鵄羽纏之柄勾皮長一尺四寸裹小暈繝錦廣一寸 押鏡形金六枚柄枚押小暈繝錦長三寸一分廣一寸五分 四角立乳形著五色組長一丈阿志須惠組四尺金鮒形一隻 長六寸廣二寸五分 著紫組長六尺袋一口 長大暈繝錦裏緋綾帛各長七尺 雜作橫刀廿柄。樓柄長六寸五分。鞘長二尺七寸。漆塗卽裏以緋帛并倭文。柄以烏羽纏之。節別纏小暈繝錦。阿志須惠 長各三尺三寸。廣各一寸二分、著緋紺帛緒長九尺。廣二寸五分。 姬靫廿四枚 長各二尺四寸。上廣六寸。下廣四寸五分。矢刻口方。二寸九分。以檜作之。以錦黏表。以緋帛著裏。著緒四處並用紫革。長各二尺。廣二寸三分。 箭四百八十隻。以烏羽作之。 蒲靫廿枚。長各二尺。上廣四寸五分。下廣四寸。以檜作之。縫蒲著表。以鹿皮著頂。以丹畫裏。著緒四處。並用紫革。長各二尺。廣一寸。 箭一千隻。以烏羽作之。 革靫廿四枚 長各一尺八寸。上廣四寸五分。下廣三寸八分。以調布緒之。塗黑漆。著緒四處。 並用紫革。廣一寸。 箭七百六十八隻。以鷲羽作之。 鞆廿四枚。以鹿皮縫之。胡粉塗以墨畫之。納持麻筒二合。徑一尺六寸五分。深一尺四寸五分。 著緒一處用紫革。長各一尺七寸。廣二分。 楯廿四枚。長各四尺四寸五分。上廣一尺三寸五分。下廣一尺四寸。厚一寸。桙廿四竿。長各一丈二尺。鋒金八寸五分。廣一寸五分。徑一寸四分。本金長二寸八分。徑一寸四分。木末塗赤漆。 鵄尾琴一面。長八尺八寸。頭廣一尺。末廣一尺七寸。頭鵄尾廣一尺八寸。 摠所須熟銅卅九斤五兩 半熟一百七十一斤十四兩。滅金九斤七兩八分四銖。金四兩二分。銀七兩五銖。鉄薄卅四枚。白鑞五斤。鐵十五廷一兩二分。漆四斗六合。金漆一升二合。矢條蓋翳鏡等所須銀銅之類在此內。 荏油三合。油五合。掃墨二升。篦二千二百五十株。烏羽二千八十枚。鷲羽八百枚 朱沙一兩二分。中烟子二枚。金青同黃青黛各一兩二分。錦一疋八尺。大暈繝錦一丈四尺。小暈繝錦八尺五寸。倭文一丈二尺。緋綾一丈四尺。緋帛一

相殿

〔左神〕天兒屋命を祭る、御靈代刀也。

〔右神〕天太玉命を祭る、御靈代劍也。

荒祭

〔蕃垣門〕蕃垣に藩垣とも書す、「マセガキ」と訓む、竹木にて作れる、低き垣也。

〔「五幅」〕衍字也。

伊雑

〔四寸〕儀式帳により改む。

〔土代細布帷一條〕土代原本及び雲州家校本所引林本壁代に作る、今雲州家校本所引京本、貞享本に據りて改む、又儀式帳床下敷に作る

月夜見

下伊雑諸月夜見の條の土代之れに同じ。

方一尺五分。敷二御道一布廿三端三丈。納裝束一韓櫃八合。所𢭏諸宮裝束同納二此韓櫃一。

相殿神二座裝束。

左神料。絹蓋一口。長七尺二寸。廣二幅。右神料。絹蓋一口。長四尺二寸。廣二幅。絹幌二條。長六尺三寸。廣四幅。四門幌四條。瑞垣門長七尺八寸。廣四幅。蕃垣門長八尺八寸。廣五幅。玉串門長「八尺八寸」廣「五幅」同二蕃垣一。玉垣門長七尺「四寸」。廣三幅。

荒祭宮裝束。

菅笠一枚。徑四尺五寸。今錦納緋袋一。緋綱二丈。蚊屋一條。長七尺六寸。廣十二幅。内蚊屋一條。長七尺。廣二幅。◎土代細布帷一條。長八尺。廣二幅。絹被一條。帛被一條。各長七尺。廣三幅。綿各二端八屯。緋綿衣一領。錦綿衣一領。絹綿衣一領。已上長二尺。錦裳一腰。緋裳一腰。帛裳一腰。各高二尺。齊長四尺。腰緋絁帊一張。長九尺。廣四幅。絹幌一條。長六尺。廣三幅。櫛笥一合。納二櫛四枚一。髻結紫絲二條。長四尺。紫帶二條。長四尺。

伊雑宮二座裝束。

◎土代絹帷二條。長各一丈。廣各三幅。幌二條。長各六尺。廣各三幅。絹被二條。長各七尺。廣各三幅。帛被二條。長廣如レ上。青纐纈綿衣二領。長各二尺。帛裏。絹單衣二領。長各如レ上。帛綿袴二腰。長各一尺六寸。紫紗裳一腰。帛裳一腰。各高一尺六寸。齊長四尺。緣帶四條。長各四尺。髻結紫絲四條。長各四尺。櫛笥二合。各納二櫛四枚一。

月夜見宮二座裝束。

◎土代絹帷二條。一條長一丈。一條長八尺。各三幅。幌二條。一條長六尺。廣三幅。一條長五尺。廣二幅。絹被二條。各長七尺。廣三幅。帛被二條。長廣如レ上。青纐纈綿衣二領。各長二尺。帛裏。絹單衣二領。長如レ上。帛綿袴二腰。長各一尺六寸。緣帶四條。長四尺。髻結紫絲四條。長四尺。櫛笥二合。各納二櫛四枚一。

枚。

瀧原宮装束

絹蚊屋二條。一條長七尺六寸。廣十二幅。一條長七尺。廣十二幅。絹幌一條。廣三幅。長六尺。土代細布帷一條。廣三幅。長七尺七寸。緋衣一領。紫單衣一領。

帛衣一領。各長二尺。裁替裳一腰。帛裳一腰。紫紗裳一腰。各高二尺。腰長二尺。齊長四尺。帛被一條。絹被一條。各長七尺。廣三幅。絹帳一條。

長七尺七寸。廣三幅。生絹天井・覆一條。長七尺六寸。廣十二幅。櫛筥一合。納櫛八枚。髻結紫絲一條。長・四尺。緑帶二條。長・四尺。

瀧原並宮装束。

正殿絹蚊屋二條。一條長五丈。廣十幅。一條長五尺四寸。廣二幅。土代素布帷一條。長五尺八寸。廣二幅。緋衣二領。各長二尺。紫紗裳一腰。帛裳一腰。

各長二尺。帛被一條。絹被一條。各長六尺。廣三幅。絹幌一條。長六尺。廣三幅。櫛筥一合。納櫛四枚。髻結紫絲二條。長四尺。緑帶二條。長・四尺。

伊雑宮装束。

正殿絹蚊屋二條。一條長七尺六寸。廣十二幅。一條長七尺。廣二幅。絹被一條。帛被一條。各長七尺。廣三幅。細布土代帷一條。長八尺。廣二幅。緋單衣一領。

帛單衣一領。各長二尺。帛裳一腰。錦裳一腰。紺裳一腰。各長二尺。絹幌一條。長六尺。廣三幅。櫛筥一合。納櫛四枚。髻結紫絲一條。長四尺。

緑帶二條。長四尺。

度會宮装束。

紫蓋一枚。菅笠一枚。紫翳一枚。菅翳一枚。壁代絹帷一條。一條長六丈。廣六幅。一條長一丈八尺。廣如上。天井上覆帷一條。長一丈五尺。廣九幅。

幅。蚊屋帷一條。一條高一丈四寸。廣十九幅。一條高如上。廣五幅。幌一條。長七尺三寸。廣四幅。戸上壁代帷一條。長八尺五寸。廣二幅。絹給帷一條。長一丈。廣四幅。

土代收細布給帷一條。長二丈。廣五幅。帛被一條。長八尺。廣四幅。刺車錦被二條。長各八尺。廣四幅。船代内敷小綾帛被二條。各長八尺。廣二幅。

瀧原

〔装束〕儀式帳、此下立一に作る。

〔廣〕例により補ふ

〔生絹天井・覆〕生絹傍訓「爪、シ」は「ス、シ」也、天井の下一本「上」の字あり。

瀧原並宮

〔長・四尺〕此の「・」の所一本各に作る、下之れに同じ。

伊雑

〔紫蓋〕蓋の傍訓「イヌカセ」は「キヌカサ」也、周圍を絹にて張りたる長柄の傘を云ふ、一に天蓋と書く。

度會

〔紫翳〕翳(ハヒシ)は、大なる團扇の柄の長きもの、古貴人の他出の時、左右より、顔のほどにかざすに用ゐたり。

〔紺〕林貞二本によりて補ふ。

〔帛裳二腰〕儀式帳一腰に作る。

〔帛絹忍比〕忍比は古事記に「於須比」とあり、上古、頭の上より被りて、襴まで垂れたる絹也。

相殿

〔相殿三座〕多紀理毘賣命、狹依毘賣命、多岐都比賣命の三柱也。

多賀

〔鞆二枚〕鞆字原本柄字に作る、今雲州家校本に據りて改む。

裝束

〔絹幌一條〕此下注「長六尺」雲州家校本所引林、京、貞享諸本「丈」に作る、儀式帳「長八尺、廣三幅」となす。

上覆帛被一條。長八尺、四幅。小綾紫被一條。長八尺、四幅。緋錦衣一領、紺衣一領、小綾綠衣一領。絹衣一領。已上各長三尺。納綿一斤。吳錦衣一領。小綾紫衣一領、小綾帛衣一領、緋衣一領。已上長各三尺五寸、納綿一斤。緋裳一腰、帛裳二腰。紺裳一腰。絹裳一腰。各高五尺。齊長五丈。腰長一丈三尺。吳錦裳一腰、小綾紫裳一腰。紺裳一腰、倭文裳一腰。各高三尺五寸、齊長二丈五尺、腰長七尺。絹比禮四條。各長二尺五寸。帛絹忍比四條。各長二丈五寸。帛巾二條。各長五尺。細布巾二條。各長五尺。帛袜四條。各長二尺。枕二基、櫛笥一合。納櫛四枚。髻結紫絲四條。各長三尺。紫帶二條。各廣二寸、長七尺。錦韈二具、錦沓二兩、敷御道調布十八端、櫛笥三具。各方一尺六寸。幔一條。長六丈、三幅。納装束韓櫃四合。所摂別宮装束同納此韓櫃。

相殿神三座裝束。

帛被三條。絹被三條。已上各長三尺五寸、廣二幅、納綿五斤。帛衣三領、絹衣六領。已上各長二尺七寸。綿各六兩。絹裳九腰。各齊長一丈。腰長三尺、高二尺。絹幌二條。各長七尺二寸、廣四幅。三門幌三條。各長九尺、廣五幅。戈二竿。各長一丈二尺。楯二枚。高四尺六寸、廣一尺四寸。弓二枝。胡籙二具。箭六十隻。鞆二枚。

多賀宮裝束。

絹蚊屋帷二條。一條長五尺四寸、廣二幅。一條長五尺、廣十幅。天井帷一條。長八尺、廣三幅。細布單帷一條。長六尺、廣二幅。帛被一條。絹被一條。已上各長四尺五寸、廣二幅。納綿各五斤。緋衣一領、絹衣一領。紫紗裳一腰、帛裳一腰。櫛笥一合。納櫛四枚。髻結紫絲二條。帶二條。各長四尺。絹幌一條。長六尺。

遷宮禰宜内人等裝束。

太神宮絹明衣五具。男三具、女二具。布明衣六十具。男卅具、女卅具。度會宮絹明衣二具。男一具、女一具。布明衣六十具。男卅具、女卅具。

右裝束雜物造備。訖卽差使辨大夫一人史生二人官掌一人使部二人神祇官史一人史生一人神部一人卜部一人。部領送太神宮。其擔夫皆給桃染衫。九月十四日糚餝度會宮。十五日奉徙御像。同日糚餝太神宮。十

六日奉徙御像。先令祭主申祓禊之狀。若祭主有故。令宮司申。然後奉徙。

凡太神•裝束使差遣伊勢者、預先宮中祓潔。亦差中臣氏遣京畿內及近江伊勢幷太神宮司。左右京一人。五畿內一人。近江伊勢及太神宮司一人。預同祓潔。豐受宮准此。

〔宿直〕凡二所太神宮者、禰宜各一人大內人每旬各一人物忌父幷小內人戶人等分番宿直。

〔仕丁〕凡封戶仕丁者。太神宮三人。豐受宮二人。荒祭宮月夜見宮瀧原宮瀧原竝宮伊佐奈岐宮伊雜宮多賀宮各一人。御厨十六人。齋宮卌八人。祭主十人。

〔馬〕凡二所太神宮櫪飼御馬各二疋。請諸衞馬內。預令養飼。自外馬皆放神牧。

〔器薪炭〕凡供祭祀所設雜器松薪炭等之類。皆使神戶雜徭修備。不得闕怠。

〔修理〕凡神宮諸院及齋內親王參入宮時所舍者、太神宮司常使神戶雜徭隨破修理。不得以致損壞。

〔幣帛〕凡王臣以下不得輙供太神幣帛。其三后皇太子若有應供者。臨時奏聞。

〔出身〕凡三神郡及神戶百姓不得預出身例。但以蔭出身者便直神宮。其上日行事送神祇官。不可輙任內外官。

〔卜部〕凡卜部一人置太神宮司。令卜年中雜事。其衣粮者以神封物給之。

〔驛使〕凡驛使入太神宮堺者。到于飯高郡下樋小河止鈴聲。

〔浮橋〕凡齋內親王參入之日。飯野郡櫛田河浮橋者。太神宮司專當其事。令神郡人臨時營作。歸京之日亦准此。

〔祓祈〕凡齋內親王三箇祭時參入神宮。及向四度祓所者。三箇神郡司互供給之。其料米。國司以公郡正稅舂精送之。夫馬者。三箇郡司當番。度別夫五十人。馬八十疋。

〔調絹〕凡神封調絹一百疋。神嘗祭明日貢進齋宮。

〔凡太神•〕一本に「•」印の處宮にすべしと云ふ。

〔齋宮卌八人〕卌、雲州家校本所引林本、及同林本京本の民部式卅八人に作る、又同京本、貞享本及び民部式齋宮式之れと同じ。

〔櫪飼〕櫪は說文に「椑指也」とありて、櫪梠を云ふ、因て此に飼ふは厩に繫ぐ意也。

〔飯高郡〕今伊勢國飯南郡に併す、和名抄に「上枚、下枚」等の郷名見ゆ。

幣使

〔卜食〕「ウラハミ」と訓む、龜卜の、縦横に裂くるを云ふ。

〔祀承〕祇承に同じ謹みて命をうくるを云ふ。

〔多氣河〕宮川の古稱也、伊勢國にあり、源を多氣郡大臺原山の巴瀧に發し、濁川、大内山川、藤川を合せ、東流して度會郡に入り、横輪川を合せて北轉して、伊勢海に入る、一に度會川又豐宮川とも云ふ。

宮司

〔神郡〕度會、多氣、飯野の三郡を云ふ神領の一、神戸の大なるものにして全部悉く神社領なるに云ふ。

凡神嘗祭幣帛使。取王五位已上卜食者充之。其年中四度使祭主供之。若有故者。取宮并諸司官人及散位中臣氏五位已上充之。五位以上有故障者。六位亦得。齋王初參之時必用五位已上。

凡神嘗幣帛使者給祿。四位王絹十二疋。從者八疋。五位王十疋。從者六疋。中臣忌部並准此。六位以下中臣忌部各八疋。從者各四疋。六位已下卜部四疋。從者二疋。若卜部帶職事者加二疋。初位已下三疋。從者一疋。其祈年月次使。六位以下六疋。從者二疋。祀承國司若四位六疋。五位五疋。掾四疋。目三疋。史生二疋。

凡臨時幣帛使者給祿。四位絹十二疋。從者八疋。五位十疋。從者六疋。六位已下中臣忌部各六疋。從者並絹二疋。六位已下卜部准神嘗祭。祀承國司同上。

凡祈年月次祭使參入者。太神宮司卜部祓候多氣河解除。若有闕怠。奪其衣服。

凡太神宮司一員。大宮司一員。正六位上官。少宮司一員。正七位上官。其季祿以神稅給之。太神宮并豐受宮禰宜帶五位者位祿。同以神稅給之。資人以神郡人補之。

凡太神宮司者准國司交替。初到任年給稻一千束。每年賜絹五十疋米一百斛。若任權司者。以作絹米內平均充之。其以神祇官五位以上中臣任祭主者。初年給稻一萬束。除此之外。不得輙用。

凡二所太神宮禰宜。四月六月日別食米二升。餘月不給。物忌太神宮四人。度會宮三人。給中食新日各米八合。且仕丁准在京給之。

凡三節祭直會日禰宜內人等祿法。五位禰宜被一條。祈絹一疋一丈三尺。綿五屯。六位禰宜襖子一領。祈絹一疋。綿一屯。大內人諸神宮內人物忌汗衫各一領。五節儛人二人絹各一疋。酒立女四人絹各三丈。

若齋內親王參祭之日。以齋庫物給之。不參之時。以神封物給之。

鳥子名　調庸租　郡政　官符　神戸

〔鮮齋〕齋を解く義にて祭事の爲め散齋致齋の物忌ありしを解くを云ふ。

〔三箇神郡〕伊勢國の度會、多氣、飯野の三郡をいふ。

〔六處神戸〕下に見ゆる飯高、壹志安濃、河曲、鈴鹿、桑名の六郡の封戸を指す。

〔諸國神戸〕下に見ゆる、大和、伊賀尾張、參河、遠江志摩の六國の封戸を指す。

凡三節祭并鮮齋直會之日、鳥子名儛童男童女十八人裝束。青摺衣裳在前摺備。臨祭給之、絹布十一端(男二丈八尺、女二丈五尺)。彈琴二人。笛生二人。歌長三人。絹布一端二丈。(人別二丈)年終各給其身。

凡御厨案主十人。司掌一人。鎰取三人。驅使一人。並取三箇神郡并六處神戸百姓充之。其衣食以神封物給之。

凡三箇神郡并六處神戸及諸國神戸調庸田租者。依國司所移之調文租帳等。宮司勘納。其勘納之狀。附國司移送主計主税二寮。

凡三箇神郡校班損不堪佃、及計帳疫死等政。宮司與國宰共行之。其隔郡授田。混給一處。雜務者。起自度會郡宇治郷始行。國司先移名簿。卜食從政。若有使來者。先留當郡界外。卜食後入。(不卜食者。界外行事。)

凡神祇官符。無祭主署者。神宮司等不得奉行。

凡年穀不登。調庸減少。先割留供神料所遺並充宮司俸料并諸使糧。若無遺餘。不必充之。

凡三神郡并六處及諸國神戸者。不出擧正税。

凡三神郡神社溝池堰驛家官舍。若致破損、及桑漆等不催殖者。拘宮司解由。

凡齋宮寮官舍者。預太神宮司令修理之。

凡二所太神宮内不得帶兵仗參入。

凡二所太神宮禰宜大内人以下(禰宜[illegible]大内人以下[illegible])考文者。宮司勘造。九月廿五日以前進神祇官。官則押署進太政官。乃移式部省。三神郡内散位并蔭子孫、神麻續神服織部亦准此。

凡禰宜内人神郡祝等。(已沼位記者。)式部省依數送於神祇官。官則附四度祭使下之。使率神祇史一人。先申叙位之由。即就直會院[illegible]殿南面坐。以位記置案上。史喚名給。(禰宜殿前東向被喚名。禰宜訖則奉拝太神。拍手兩段。内人北上東面重行。)

〔素服〕凶服の汎稱也、
〔服關〕物忌して他事に預らざるを云ふ、關は停止の意也。
〔外院〕齋宮寮の外院也、舍人以下十二司及び諸種の雜舍ありて、其の職を分掌する處也。
〔神田卅六町一段〕原本卅を卌に作る、今雲州家校本所引京本、同林本同貞享本、並に雜例集所載伊勢太神宮式に據りて改む
〔宇陁郡〕今宇陀郡に作る。
〔伊勢國卅二町一段〕原本卅を四十に作る、今雜例集に據りて改む。
〔飯高郡二町〕雜例集に據りて補ふ。

次北向朝拜。但度會宮西向行事。餘儀同太神宮。若禰宜給五位位記者。於中重給之。

凡禰宜大内人雜色物忌父小内人遭親喪。不敢觸穢。及着素服。卅九日之後。祓淸復任。其服關之間。侍候外院。不預供祭物。亦不參入内院。傍親服中亦同。 但物忌父死者其子解任。子死者父亦解任。並非復任之限。

凡二所太神宮大小内人物忌及御厨雜色人等者。不得輙讓所帶之職。別宮内人物忌彈琴笛生歌長織殿神部准此。

凡供祭之料。不載式條者。依舊供用。勿改前例。其雜役人及御厨雜色人等衣食。量事閑要給之。不得空費官物。太神宮雜任卅二人。禰宜一人。大内人四人。物忌九人。物忌父九人。小内人九人。所攝六宮廿五人。宮別内人二人。物忌一人。物忌父一人。月夜見宮加御巫内人一人。 度會宮廿五人。禰宜一人。大内人四人。物忌六人。物忌父六人。小内人八人。所攝宮四人。内人二人。物忌一人。物忌父一人。右雜任人等。皆免調庸。其馬飼丁十八人。太神宮十二人。度會宮六人。 神服織神麻續各五十人。輸調免庸。

神田卅六町一段。

大和國宇陀郡二町。

伊賀國伊賀郡二町。

伊勢國卅二町一段。桑名鈴鹿兩郡各一町。安濃壹志兩郡各三町。〔飯高郡二町〕。飯野郡十一町六段。度會郡十町五段。

右神田如件。割度會郡五町四段。二町四段太神宮。三町度會宮。令當郡司營種。收獲苗子。供用太神宮三時幷度會宮朝夕之饌。自餘依當土估賃租充供祭料。

封戶。

當國。

度會郡。 多氣郡。 飯野郡。

飯高郡卅六戸。　壹志郡廿八戸。　安濃郡卅五戸。
鈴鹿郡十戸。　河曲郡卅八戸。　桑名郡五戸。
諸國。
大和國十五戸。　伊賀國廿戸。　志摩國六十六戸。
尾張國卌戸。　參河國廿戸。　遠江國卌戸。
右諸國調庸雜物。皆輸神宮司。惣領依例供用。其當國地租收納所在官舍。隨事支料。若遭年不登。損田七分已上免徴租稻。並注帳申送所司。

延喜式卷第四

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔壹志郡〕今飯高、飯野と合して飯南郡となす。
〔河曲郡〕今奄藝郡と合して、河藝郡となす。
〔尾張國卌戸〕雲州家校本、寛文本、卌戸に作る。
〔遠江國卌戸〕雲州家校本所引藤本、同貞享本卌戸に作る。
〔調〕王朝時代諸國の土産を規定によりて、朝に納めしむるを云ふ。
〔庸〕王朝時代正丁に課したる役の替として、出さしなる布帛を云ふ。

延喜式卷五　神祇五

齋宮

凡天皇即位者、定伊勢太神宮齋王。仍簡內親王未嫁者卜之。若無內親王者、依世次簡定女王卜之。訖卽遣勅使於彼家告示事由。神祇官已上一人率僚下隨勅使共向、卜部解除、神部以木綿著賢木立殿四面及內外門。〈賢木木綿所司儲之。〉解除祈請。米酒肴等本家儲之。其後擇日時百官爲大祓。〈同尋常二季儀。〉

祓新。

木綿麻各大四斤、鹿皮四枚、鹿角四枝、太刀四口、弓四枝、箭四具。鍬四口。䕃一斤、庸布二段、酒米各四斗。稻四束。鰒堅魚各八斤、腊卅斤、海藻卅六斤、滑海藻十斤、雜海菜八斤。鹽四斗。水戶四口、匏四柄。䡊、薪、庸布九段。短帖一枚、薦一枚、馬一疋。〈已上所司各送大祓所。〉又遣使奉幣太神宮、爲告卜定齋王之狀也。〈其儀同神嘗祭使。〉

凡齋內親王定畢、卽卜宮城內便所爲初齋院、祓禊而入、至于明年七月齋於此院。更卜城外淨野造野宮畢。八月上旬卜定吉日臨河祓禊、卽入野宮。自遷入日至于明年八月齋於此宮。九月上旬卜定吉日臨河祓禊。參入於伊勢齋宮。

凡齋宮諸門、當立著木綿賢木。〈月別立替。所須木綿一斤、麻一斤八兩。〉

凡忌詞。內七言、佛稱中子、經稱染紙、塔稱阿良良岐、寺稱瓦葺。僧稱髮長、尼稱女髮長。齋稱片膳。外七言。死稱奈保留。病稱夜須美。哭稱鹽垂。血稱阿世。打稱撫。宍稱菌。墓稱壤。又別忌詞。堂稱香燃。優婆塞稱角筈。

〔齋宮〕齋王の御居所也、伊勢國多氣郡に在る故ニタケノミヤ」とも云ふ

〔定齋王〕〔齋王〕天皇歷代毎に伊勢神宮に差遣し奉侍の任に當らしむる皇女女王を申す、崇神天皇六年、皇女豐鍬入姫天照太神を倭笠縫邑に祭りしを初めとす。

〔祓新〕

〔殿四面〕齋宮式殿を寢殿に作る。

〔所司〕神祇官を指す。

〔祓禊〕

〔本家〕齋宮の御家也。

〔野宮〕山城國葛野郡嵯峨有栖川に置く假也。（九三頁參照せよ。）

〔木綿賢木〕

〔忌詞〕（五頁參照せよ。）

河頭祓

凡齋王將入于初齋院。臨河頭爲祓。令陰陽寮擇定日時。入野宮伊勢齋宮之時准此。前祓二日。辨官率院別當已下幷陰陽寮及諸司到河濱。點定其地奏之。至于期日齋王駕車赴向。走孺十二人。車副廿四人。取物十人。供膳韓櫃三合。同雜器物二荷。盥器韓櫃各一合。衣服韓櫃二合。雜物韓櫃六合。擔夫並用衞士。膳部六人。舍人二人。荷領十四人。藏人所陪從六人。内侍及院女別當已下並從車後。内侍已下藏人已上乘私車。采女女孺已下乘寮車。勅使參議一人。院別當一人。四位二人。五位二人。六位四人。並前驅。左右近衞。左右兵衞各二人。左右門部各二人。左右火長各十人供奉。左右京職官人率兵士已上迎候。山城國司率郡司候京極路。辨一人。史一人。史生二人。官掌一人率供奉諸司就祓所行事。齋王到幕臨座而坐。神祇官中臣進麻。宮主讀祓詞。訖即賜勅使已下饌幷祿。神祇官錄見參付院別當給之。既而廻歸入初齋院。即卜定供齋井竈等。

祓祈

祓料

五色絁各二尺。安藝木綿大三兩。木綿大四兩。麻大二斤。鐵人像二枚。荒服。緋調布一段。[illegible]二合。酒米各一斗。鰒。堅魚各二斤。海藻四斤。腊四斤。鹽四升。水瓫一口。坏盆各四口。柏四把。匏二柄。黃蘗四枚。食薦一枚。葦籠一腰。祝詞料庸布二段。短帖一枚。夫二人。榜二枚。

祓清

齋王入初齋院祓清料

庸布二段。木綿三斤。麻四斤。烏裝太刀二口。弓二張。矢[illegible]隻。鹿角四頭。鹿皮四張。瓫四口。米酒腊鹽各四斗。鰒。堅魚各五斤。海藻。滑海藻。雜海菜各九斤。柏廿把。稻四束。瓫四口。匏四柄。輿籠一脚。葉薦二枚。馬二疋。祝詞料庸布五段。短帖一枚。夫二人。

大殿祭

大殿祭。野宮伊勢齋宮准此。

〔女別當〕齋宮寮の女官なり。

〔藏人〕爰は女藏人なり。

〔近衞〕近衞府にて番長の下に位する兵士也、舍人とも云ふ、又た下文の兵衞は兵衞府、門部は衞門府の兵士なり。

〔火長〕檢非違使の配下也、衞門府の衞士より選拔す。

〔見參〕現に參るの義、節會其の他の儀に伺候せる人の交名を云ふ。

〔大殿祭〕初齋院卜定の後に、其院の災變なきを祭る也。（第一〇頁大殿祭を參照）

〔裝束〕殿内諸調度の設置、裝飾等を云ふ、衣裳の義に非ず。

〔廾段〕段は端に作るべし、以下これに同じ。

忌火等祭

〔斗帳〕帳（トバリ）の短小なるものを云ふ、帳臺又は神佛の龕の上などに垂る。

庭火祭

〔几帳〕座側に立て内外を遮る具也、下に臺（土居）ありて其上に柱あり、上に横木を設けて帳を垂る。

解除祈

臨時祓祈

裝束

〔平文〕高蒔繪に對して置上げにせざる蒔繪を云ふ。

絲二絇。安藝木綿七兩。米酒各二升。缶一口。筥四合。小坏二口。案二脚。高三尺。給中臣忌部各絁二疋、宮主一疋。
執ㇾ案神部四人、各給調布一段。野宮給二二人一。
忌火庭火御竈井神祭。遷二入野宮一之初所ㇾ祭、每月朔祭二御竈一祈亦准ㇾ此。
五色薄絁各四尺、倭文一尺。木綿八兩。麻一斤。庸布一段、鍬二口、米酒各二升。鰒堅魚海藻各二斤、腊二升、鹽一
升、柏二把。缶坏各一口。已上並神祭料。
晦日庭火祭、野宮齋宮准ㇾ此。
五色薄絁各四尺、倭文二尺。木綿八兩。麻一斤、庸布一段、鍬四口、米酒各四升。鰒二斤、堅魚海藻各三斤、腊四升。
鹽二升二合、缶坏各二口。水瓮一口。
晦日解除祈、野宮齋宮准ㇾ此。
庸布一丈四尺、御麻祈安藝木綿四兩。麻八兩。鐵人像二枚。鍬二口。酒二升。稻二束。鰒堅魚海藻各一斤、腊二升
鹽一升一合、缶坏各二口。
臨時祓祈。
木綿八兩。麻二斤。
初齋院裝束。
白絹十疋。絆中絁二疋。兩面二疋。白綾二疋、東絁八疋。綿二百屯。細布卅段、曝布五十段。紅花大十斤、支子一斛
八斗、商。白木斗帳一具、高八尺、方一丈。几帳六基。四尺二基。三尺二基。二尺二基。五尺屏風四帖、金裝車一具、小行障二具。大翳二枚。
入二平文筥一笠二枚。一日笠盛二絲袋一。一雨笠盛二油絁袋一。並加二志部一。捧壺二口、加二柄并志部一。香筥一合、車榻一脚、膝續四合、各加二榻并袱一。銀飯笥一合、銀水

造野宮畢祓料。
庸布二段。木綿二斤。麻四斤。烏装横刀二口。弓二張。矢卅隻。鹿角四頭。鹿皮四張。鍬四口。米酒各四斗。稻四束。
鰒堅魚各五斤。雜腊四斗。海藻滑海藻各九斤。鹽四斗。瓫四口。匏四柄。槲卅把。輿籠一口。葉薦二枚。馬二疋。祝詞
料庸布五段。

齋王遷入野宮。河頭祓。
其日齋王駕輿。（輿者主殿官人率史生、前祓二日設餝。）輿長八人。駕輿丁卅人。駕馬女廾人。乳母二人。藏人六人。釆女四人。（童女四人。掃部二人。御厠二人。）勅使大納言
中納言各一人。參議二人。四位五位各四人。祓事既畢賜侍并餘饗。（勅使已下五位已上內藏寮。六位已下大膳職。）訖即還歸。使留野宮
更賜祿。（自餘之儀、大略同初齋。）

祓料。
五色絁各一尺。荒服料布一段。筥一合。木綿四兩。麻一斤。鐵人像二枚。黄蘗四枚。鰒堅魚海藻各二斤。腊四升。鹽
二升。米酒各四升。𨏍一口。食薦二枚。柏四把。瓫四口。坏四口。筥籠一腰。匏二柄。鍬四口。祝詞料庸布二段。夫二
人料二枝。

齋王遷入野宮祓清其宮料
庸布二段。木綿麻各二斤。鹿皮二張。鐵二口。米酒各二斗。稻四束。鰒堅魚各五斤。雜腊二斗。海藻滑海藻各十斤。
鹽四升。瓫二口。匏二柄。槲四把。輿籠一脚。裹葉薦二枚。帖一枚。𨏍二口。祝詞料庸布五段。夫二人。

二月新年祭廾一座。（大宮賣神四前。御門神八前。忌火神一前。庭火神一前。竈神二前。御井神二前。地主神一前。）
座別絹五尺。五色薄絁各一尺。倭文一尺。庸布一丈。木綿二兩。麻五兩。槍鋒一口。鐵一口。酒四升。鰒堅魚海藻各
六兩。腊二升。鹽一升。坩坏各一口。

野宮造畢祓

〔鰒〕雲本により補ふ。〔滑海藻各〕京貞二本になし。

河頭祓

〔河頭祓〕齋王の御祓はもと其地一定せざりしが平安朝以後は葛野川鴨河に於て行ふ例なりき。

〔輿長〕駕輿丁即ち輿舁きの壯丁を監督する者にて近衛より選抜す。

祓料

〔御厠〕御厠の掃除を勤むる下司也、

野宮祓清

〔廾一座〕註文十九前を載するのみ。新嘗祭の條の註文に九前を載せ、自余云々とあれば、十九前正しかるべし。

新年祭

右供神新物如レ前。但宮賣神加二馬一疋一。其摠祭所レ須缶二口。匏二柄。裹調薦四枚一丈。短帖一枚。祝詞新庸布五段。造レ幣忌部三人明衣新調布一段三丈五尺。

六月祭。十二月准レ此。

月次祭。

右供神調度准二祈年祭一。但除レ鍬。

大殿祭。

右供新并中臣等祿并准二上例一。但減二莒一合一。

御贖新。

五色薄絁各二尺。絲三兩。倭文二尺。安藝木綿一斤。凡木綿八兩。麻六兩。鍬四口。鐵人像二枚。庸布二段。布御服二領新布一段。裳二腰新布一段。袴二帖新布二段。著レ紐各四屯。自餘物見二縫殿式一。帷二條。袜二兩新布一段二尺。帶二條新絹七尺。履二兩。莒六合。二合方二尺。四合方一尺五寸。米酒各四斗。鰒堅魚海藻各一斤。腊一斗。鹽一升。水瓫坩坏各二口。裹葉薦一枚。小川竹廿株。調布四段。卜部六人明衣新。人別二丈八尺。中臣男一人。女一人。祿新各絹二疋。

野宮六月晦日大祓。十二月准レ此。

庸布二段。木綿二斤。枲八兩。麻四斤。太刀二口。弓二張。箆一百隻。鍬二口。鳥羽二翼。鹿角二頭。鹿皮二張。米酒各二斗。稻四束。鰒二斤。堅魚四斤。海藻滑海藻各十斤。腊鹽各二斗。水瓫一口。匏二柄。薦二枚。馬二疋。其在國之日四疋。祝詞新庸布五段。短帖一枚。

野宮鎮火祭。

[六月] 〔五段〕五端也、端は後世疋の半ばを云ふとは異り、疋と同じく五丈二尺の長さ也、唯絹に疋と云ひ、布に端と云ひて區別せり。

[月次]

[大殿祭]

[御贖新] 〔屯〕綿二斤の重さ也。

〔枲〕麻の類也、和名抄に、麻苧、說文云、云々、枲屬也、爾雅注云、枲、司里反、和名介無之、麻無レ子名也と見えたり。

[大祓] 〔鳥〕もと島に作る、貞本により改む。

[鎮火]

五色薄絁各四尺，倭文四尺。庸布二段。木綿五兩，麻一斤，鍬四口。酒四升，鰒一斤五兩。堅魚一斤五兩。腊四升，鹽二升。海藻一斤五兩。𨏍四口。坩四口，坏四口，槲四把。匏四柄。薦一枚。

野宮道饗祭。

五色薄絁各一丈。倭文四尺，庸布二段，木綿一斤十兩，麻七斤五兩，鍬四口，牛猪鹿熊皮各二張。米酒各四斗，稻四束，鰒二斤五兩。堅魚五斤，腊八升。鹽二升，海藻五斤，瓮四口，坏四口。槀四圍。薦一枚，

十一月祭。

新嘗祭廿八座。炊殿忌火庭火神二前。水部忌火庭火神二前。殿部御竈神一前。御川水神一前。酒殿神一前，膳部御食神一前。大炊竈神一前，自餘供新年祭月次神是。

座別絹五疋，倭文幷五色薄絁各一尺。庸布一丈四尺，木綿二兩。麻五兩。酒四升。鰒堅魚海藻滑海藻各六兩，腊二升。鹽一升。壺坏各一口。馬一疋。宮賣神祈舂二口。匏二柄。短帖一枚。

右供神料物如前。但預祈年神座別加稌鋒一口，其惣祭所須薦六枚。祝詞料庸布五段。造幣忌部三人明衣料布一段三丈五尺。

供新嘗料。

絹二丈。絲二兩。紵一丈二尺。曝布一丈二尺。細布一丈六尺。調布三段一丈。木綿二斤四兩，刀子二枚，長刀子十枚，短刀子十枚。米四斗，粟二斗，筥十四合。徑一尺五寸。篩筥二合，明櫃二合。案十脚，切案二脚，土火爐二脚。槌砧各二枚。土盤椀堝各十口。陶椀八口。盤廿口，鉢八口，𤭯五口，平居𨏍五口，都婆波多志良加各四口。土瓮陶叩盆四口。𨏍八口。土手湯盆陶手洗各二口。洗盤六口。酒盞十口。片垸廿口。陶十口。高坏廿口。陶十口。瓮四口，酒垂四口，筥坏廿口。陶臼二口。蝦鰭槽二隻。匏十八柄。小二。油三升，槲四俵。日蔭二荷。

〔御川水神〕御川水を司る神也，御川水は即ち御溝水也，大宮川の水を一條大宮より南陽明の北の北大垣の内に取入れ禁中諸庭を流せるを云ふ其末は二條の北，郁芳門の南よりまた大宮川に流し入る。

道饗

新嘗祭

〔高坏〕土器に下に捲物の輪を添へたる器にて，食物を盛るに用ふ。

供新嘗料

〔日蔭〕日蔭蔓也，神事の時，冠の笄の左右に掛くる物也，もと女羅(ヒカゲ)を用ひ，後には白青の絹絲にて造り數條に垂る。

〔壁代帳〕壁の代りに垂るゝ「とばり」にして、几帳の類也。

〔斗帳〕帳の短小なるものにして、帳臺の上又は神佛の龕の上などに垂るるもの也。

〔縫殿寮〕中務省の被官也、女王及び內外命婦、宮人の名帳考課、及び裁縫の事を掌る。

〔隼人司〕兵部省の被官也、隼人を撿挍し、歌舞を教習する事を掌る。

〔各〕衍字なるべし

年祈供物

年祈供物。

絹七十二疋五丈五寸、長絹十五疋、白絹十疋、帛卅疋、白綾二疋。綿一百七十二屯。細布一段二丈二尺。絲十斤。已上冬御服料自二九月一迄二二月一。絹六十疋、帛卅疋、綿一百屯。已上夏御服料自二三月一迄二八月一。斗帳一具。壁代帳十一條。幌三條。縫殿寮縫備、每年供レ之、但斗帳骨內匠寮作。一度供レ之。支子一石八斗。紅花廿六斤。酢八斗。簾四張。席二枚。兩面端帖二枚。短帖一枚。綠端帖十枚。已上秋冬料。春夏料亦如レ是。但爲薄帖レ之。掃部寮作備。每年二季供。但簾隼人司供レ之。白布端帖七枚。短帖三枚。已上乳母料。黃布端帖三枚。折薦帖九十枚。短帖十三枚。長帖二枚。席百八枚。長席二枚。調薦二百卅三枚。簀七十五枚。已上官人已下料。油絁一疋四尺。裏料絁一疋四尺。膳部酒部水部所商案杷料。絹一疋一丈九尺五寸。一丈一尺五寸膳部所飾十口料。一丈四尺酒部所飾六口。幷御酒案杷料。五丈水部所飾廿口。案杷料。四尺戶座所飾四口料。白絹六尺。酒部所料。絲七兩。膳部所三兩、水部所二兩、酒部所二兩。細布八段二丈八尺。六段二丈四尺膳部所料。二段四尺酒部所料。望陀布一端。水部所料。曝布一端二尺。一丈二尺酒部所料、三丈水部所料。調布七段九尺。四段八尺膳部所料、三丈一尺酒部所料。一段一丈九尺水部所料、三丈一尺戶座所料。東席六枚。二枚水部所料、四枚戶座所料。調韓櫃五合。一合主神所料、二合膳部所料、一合酒部所料、一合水部所料。飯筥繭筥各五合。折櫃十四合。六合膳部所料。二合水部所料、四合戶坐所料。杓廿三柄。八柄膳部所料。三柄酒部所料。十柄水部所料。二柄戶坐所料。木盤一百八十二口。百六十二口膳部所料。廿口酒部所料。水瓫麻笥「各」六口。二口膳部所料。一口酒部所料。二口水部所料、一口戶坐所料。纚二口。一口酒部所料、二口水部所料。水麻笥十一口。四口膳部所料。二口酒部所料、四口水部所料。一口戶座所料。大筥二合。戶座所料。酒壺五十口。酒盞百五口。酒部所料。楊筥六十合。九合各方一尺五寸、卅一合各方一尺。五合各方一尺二寸。五合長各一尺二寸。廣五寸。二合主神司料、廿合膳部所料、五合酒部所料。二合水部所料、三合戶座所料。供彼祓料帛一疋一丈五尺、綿十二屯。膳部所料。砥二顆。同所料。銀盞一合、銀鋺一合、銀匕四枚。銀銚子一口。並供御料著長用。櫃御巣二枚。戶坐所料。甲一

〔祈〕前文の例により補ふ。

三節祈

〔散位〕内外の諸司の有位にして、執掌する所なき者をいふ、之を散官ともいふ。

〔位子〕六位、七位の人の子をいふ、五位以上の人の子を蔭子といふに對していふ。

齋終行事

〔班幔〕幅毎に各色の布を用ひたる幕にして、今の「だんだら幕」の類也。

造備雜物

正月三節祈。

東鰒堅魚隱岐鰒煮堅魚烏腊烏賊鯛楚割各三斤、楚割鮭三隻、鮭三隻。薄鰒熬海鼠各二斤。紫菜海藻各一斤。鹽三升。醬味醬酢各一升五合、酒六斗、糯米九升。大豆小豆粟黍各三升。小麥胡麻生栗子各六升、糒三升。干柿三連、搗栗子三升。已上供祈。米一石、糯米一石、大豆二斗。小豆三斗。油一斗。雜腊鮨各三斗。鰒堅魚各廿斤、酒一石已上官人以下祈。調布十三段三丈六尺。膳部四人、水部酒部炊部贄部各三人、掃部二人別衫祈二丈。褠襌祈八尺。女孺三人襌祈各四尺。仕丁一人褠襌祈八尺。

五月節。

糯米一斗五升。大角豆三升。酒二斗。口味直錢。數隨時價。已上供祈。糯米五斗。米一石。大角豆一斗五升。已上官人以下祈。調布七段一丈八尺。四段二丈八尺膳部三人水部二人酒部二人衫并襌祈、三丈二尺釆女二人女孺一人褠襌祈二段二丈二尺仕丁三人仕女五人褠襌祈、一丈水邊麻笥二口帊祈、一丈拭布祈。

七月節。九月亦同。

供祈。酒二斗、口味直錢。數隨時價。官人以下祈鮭廿隻。熟瓜一百顆。

凡齋内親王三年齋終。四月上旬任裝束司。五位一人。神祇副以上一人。右少辨以上一人。左六位以下四人。諸司主典以上。諸司史生六人。雜使十人。散位六人。位子四人。雜工卅人。簡取内匠木工隼人等寮司長上以下諸部等爲之。共作廿人。取仕丁女孺充之。女孺廿人。直丁二人。同旬於神祇官西院始行事。五位以下給明衣。史生以上各絹四丈五尺、女孺各三丈、女雜工以上各布二丈六尺。共作及直丁不在給例。其食依常例。

造備雜物。

輿一具。下案一脚。白木。腰輿一具。蓋一具。翳一枚、笠二枚。一日笠一雨笠。胡床二脚。床一脚。白木。御鞍二具。命婦鞍一具。已上毛氈。女孺鞍四具。纈文班幔四條。斗帳一具。高七尺五寸。方一丈二尺。邑頭巾八十八條。綏八十八條。縹布袷衣五十七領。縹

〔脛巾〕「脛裳」の略也、脛に當てて佩くもの、卽ち今の脚絆をいふ、もと裝束に附帶せるものにして、繻子、絹、木綿等にて作る。

〔八〕京貞二本により補ふ。

〔錦〕織物の一種也、糸を諸色に染め、花草を織り成したるものにして、其地質甚だ厚し、和訓に、にしきといふは「丹白黄」（ニシキ）の義なりといへり。

〔木賊〕「とくさ」といふは砥草の義也木賊の字を當つるは、之を木骨を擦るに用ふるが故也

〔伊豫砥〕伊豫國より出す砥石也。

布衣九十六領、布袴一百五十三腰、布帶百五十三條。褶八十條、脛巾八十八條。脛纏八十〔八〕條、襷八十八兩、沐櫝一口。下案一脚。漆塗。洗槽一口。下案一脚。漆塗。小槽一口、彫木一具、納韓櫃一合、輕幄一具、紺絁幕一具。四尺屛風四帖、藥韓櫃一合。下案一脚。漆塗。銀飯筒一合、銀酒盞一具。銀鍋子一口。銀水鋺一合。銀匕一枚。板飯筒二合。小膳櫃一合、膳櫃六合下案六脚、厨韓櫃一合、膳案三脚、酒案一脚、粥案一脚、切案一脚、明櫃一合、加三筥形。柳筥七合。麁筥四合。紵巾一條、絹篩五口、調布篩二口。帒七口、拭布三條。各長一丈。漆柒櫃二合、塗柒遮一口、塗柒手洗二口、轆轤槽二口、捺埦三口。木盤七口。負瓱四口、平瓱二口、陶埦二口、手洗二口、洗盤一口。叢鉢二口、筋埦二口、杓三柄。菀円柄。打刀子一枚。檜杓卅枝、壁代紗帳一具、所須秘錦三尺四寸。錦五丈七尺一寸。紫纈帛一疋、深紫綾三丈八尺、淺紫綾一疋五丈一尺一寸、深紫帛二丈八尺、淺紫帛一疋一丈三尺六寸、緋綾二疋八尺五寸、油絁十疋三尺六寸、練紗三疋二丈。紫絲十三斤五兩、紫革五張、獨犴皮二張、熊皮七張、臈小一斤、白臈大四兩、鍊金小十一兩一分三銖、銀大五斤十一兩、水銀小五斤三兩。青砥二顆、曝黒葛七兩、虫薮格二具、已上請内藏寮。兩面六疋一丈一尺七寸。緋帛十七疋五丈八尺九寸、緋東絁二丈九尺一寸、綠帛五疋九寸。縹帛六疋四丈三尺、紺東絁四疋二丈二尺、黄帛八疋五丈九尺三寸、生綾三丈一尺三寸。白綾一疋三丈一尺二寸、帛八尺、橡東絁二疋、帛廿一疋二丈二尺、生絁十四疋五丈五尺七寸。東絁三丈二尺二寸、白綾三丈七尺、緋絲十九斤一兩、綠絲一斤一兩、紺絲四兩、縹絲一斤三兩、黄絲十四兩、橡絲八兩、練絲二斤九兩二分、生絲一斤二兩、調綿五十三屯一兩、縹細布一丈七尺。紺調布三段一丈四尺、縹調布六十三段三丈一尺、細布一段一丈、調布一百五段三丈五尺。紵布三丈、商布十七段一丈六尺。藍四圍。紅花大廿一斤二兩。漆三斗九升五勺、熬塵大一斤八兩、亭小二斤二分、東席三枚、出雲席二枚、葛野席十一枚。葉薦四枚、洗革三張、牛皮一張、膠大一斤、木賊一斤。伊豫砥七顆、金薄卌枚、熟銅大五十七斤七

〔各〕衍字なるべし〔箆竹云々〕以下廿七字重複なるべし京直二本になし。〔馬寮〕官馬の調習飼養及び供御の乘具、穀草を配合し飼部の戶口名籍等を掌り、併せて諸國の御牧を監す。〔齋內親王〕天皇歷代每に伊勢大神宮に差遣して奉仕の任に當らしむる皇女、女王をいふ。〔齋殿〕野宮の中にあり潔齋して伊勢太神宮を遙拜する所也〔野宮〕齋王として卜定されたる皇女若くは女王が、宮城內の御齋院城より外の野宮に移りて潔齋する所をいふ。（八一頁參照。）

御馬　三年潔齋　辨備雜事　祓料

兩。半熟銅十八斤。鐵五十一斤四兩。調韓櫃七合。薄紙七十二張、紙三百廿四張。墨二廷。筆十管。搗鑿九升一合。
黑葛五斤、油四升五合、一升五合荏。二升樓椒、一升胡麻莨菪四合。糯米八升二合。小麥一斗二升二合。酢三斗五升。榲榑十五材。
柏廿把。匏四柄。筥一百隻、朴十材、各徑一尺、厚三寸、櫻十六材、各長二尺五寸。方三寸。槻卌四材。一材長三尺。一尺二寸、徑八寸。徑九寸。厚三寸。四材各長三尺。一材長厚
方一寸二分。二材各長一尺八寸。一材各方九寸。四材各長一尺八寸。徑八寸。二材各長一尺七寸。厚方一寸一分十二材各長六尺。徑一尺。三材各長一尺。方三寸五分。徑八寸。四材各方
一尺八寸。厚八寸一分十二材各長六尺方三寸五分。箆竹三百七十株。檜榑五十三材、簀子十五枚、步板十枚。五六寸椙四枚。八多板四
枚、知佐木卌五枚。菅廿把。荒炭廿二石二斗、和炭九十四石一斗。針卌枚。頭巾八十八條。已上申官請受。
凡御馬二疋。女孺乘馬六疋、並以左右馬寮馬充之。若有死失者請替。
凡齋內親王在京潔齋三年。即每朔日著木綿鬘參入齋殿、遙拜太神。時先供御膳。次鬘木綿、其料安藝木綿四
兩。麻一斤。別當已下新在此內。別當大夫已下卜食者共再拜兩段。但九月六月十二月不參。至十六七日參入再拜兩段。
長拍手兩段。齋王不拍手。齋終之後、乃向伊勢太神宮。其野宮內外屋并垣之類給神祇官中臣、出居殿御座裝束
之類給主神司中臣。寢殿內雜物給同司忌部。但金銀器及釜甕之類納齋王家。
凡齋內親王向伊勢時、七月以前遣寮允史生各一人於齋宮及國、辨備雜事。
凡齋王出自野宮、入太神宮、臨於川頭。在前爲祓、定日時方同上。
祓料
五色絁各一尺。荒服アラタヘヨカソ、絲布一段。筥一合。長一尺五寸。木綿一斤四兩。麻三斤、鐵人像二枚。黃葉四枚、鰒堅魚海藻各四
斤、腊四升。鹽二升、米酒各四斗。納缶四口、𦉼一口。食薦二枚。柏四把、瓫二口、葦籠一脥。匏二柄、稻二束、鍬四口。
祝詞料庸布二段、夫二人、杌二枚。

大祓使 大祓新 齋宮修理 勢江州忌 頓宮 監送使

〔國司〕朝廷より諸國に置きたる地方官にして國衙にありて政務を掌れる四分官即ち守介掾目の總稱也

〔北辰〕北極星也、されど爰は北斗七星をも含めていへるが如し。

〔頓宮〕齋王が京より伊勢太神宮に往復する途次に休宿する宮也。

〔寮〕齋宮寮也、伊勢齋宮に關する一切の事を處理し、且つ神宮及び神部の雜務を撿挍す。

〔綾〕恐らく衍字なるべし。

〔大殿守〕大字貞京二本になし。

凡齋王將入太神宮、在前七月若八月同時遣大祓使。左右京一人。五畿内一人。七道各一人。

凡齋王將入太神宮、八月晦日朝廷大祓。新庸布二段、木綿麻各大四斤、鹿皮四張、鹿角四枝、大刀四口、弓四枝、箭四具、鍬四口。菓一斤、氈帖一枚、酒米各四斗、稻四束、鰒堅魚各八斤、海藻廿六斤、滑海藻十斤。雜海菜八斤、腊七斗、鹽四斗。水戸四口、莞四枚、槁薦一枚、馬一疋。祝詞軾新庸布五段。

凡齋宮破壞。國司修理、若壞破過多、在前遣使修造。

凡齋王將入太神宮之時、自九月一日迄卅日、京畿内伊勢近江等國不得奏燈北辰及擧哀改葬。

凡頓宮者。近江國國府甲賀垂水、伊勢國鈴鹿壹志、總五所。並國司依例營造。所須稻近江一萬五千束、伊勢二萬三千束。鋪設雜器及供給、總用此内。

凡齋内親王臨行。預定監送使、參議一人。或以中納言任之。辨一人、史一人。六位以下官人二人。即使及齋宮官人以下、皆賜裝束。使四位布十段、五位布五段、六位絁一疋綿一屯、布一段、唯忌部布三段。齋宮頭絹十疋、綿廿屯、布廿段。助絹八疋、綿十五屯、布十五段、主神司中臣忌部寮允舍人司長膳部司長各絹四疋、綿六屯、布五段、寮屬藏部炊部酒部水部女部殿部藥部掃部門部馬部長及二司判官等絹三疋、綿五屯、布四段、宮主舍人藏部膳部門部主典各絁二疋、綿四屯、布三段。史生大舍人寮舍人及諸司番上等各絹一疋、綿二屯、布二段。寮使部各布二段、飼丁今良各布一段、其命婦者雜色綾廿疋、綿卅屯、布廿段、乳母各雜色帛綾十四疋、綿廿屯、布十三段。一等女孺各雜色帛十疋、綿十屯。布五段。二等女孺各雜色帛八疋、綿七屯、布四段。三等女孺各絹六疋、綿五屯、布三段。大殿守各雜色帛四疋。綿四屯、布二段、女丁各雜色帛二疋二丈五尺、貲布一段。綿四屯、戸座火炬小子各絹二疋二丈。綿四屯、布二段、縹布一丈五尺。

給物

〔主神司〕始めは齋宮寮に屬せしが、後神祇官の被官となりて、齋宮寮內院の神殿に關する一切の事を掌る。

神嘗祭使

〔頭〕齋宮寮中院の職員の長也、以下諸司、主典等何れも齋宮寮の役員也

齋發

〔新嘗祭〕天皇新穀を以て作れる御酒と神饌を伊勢太神宮に奉らせ給ふ祭也

御禊

〔大極殿〕大內裡八省院卽ち朝堂院の正殿の名也、天皇臨御政治を見られ、又た國儀大禮を行はるゝ所也。

鎮祓

〔善品〕以下十字旁注の混入ならん。

凡從行群官以下給馬。主神司中臣忌部宮主各二疋。頭四疋、助三疋、諸司主典以上各二疋、番上各一疋。其命婦四疋。乳母并女孺各三疋。輿長(ミコシヲサ)及殿守(トノモリ)各三疋。其監送使及飼丁女丁宮主卜部等家口不在給限。其將從四位六疋、五位五疋。餘准馬數。品官不要者。在前發遣。

九月神嘗祭使。

右尋常之例。十一日參入。而當齋王參入之時、卽陪從參入。其幣并明衣料、與尋常同。更差使中臣一人遣近江伊勢二國、在前祓淸。

齋十八箇日。

右尋常齋三箇日。當此時自一日至十八日齋。但擧哀改葬限月內忌之。

凡齋內親王發日、所司預設御座於大極後殿。天皇御後殿。不警。神祇官左位中臣進御麻。史一人行麻於侍從五位以上。時刻御大極殿。齋內親王下輿入就殿上座。事亦同太神宮。事見儀式。六處堺川供奉御禊。山城近江勢多川、甲賀川、伊勢鈴鹿川、下樋小川、多氣川。御禊服六具、料庸布六段。鐵人像十二枚、木綿麻各六斤。酒米各六升、鰒堅魚各六升、腊六升、鹽六升、海藻雜海藻各六斤、𨫼六口、莒四口、各長一尺七寸、善品漆莒納堅魚鰒等類、席一枚。夫三人。

凡齋內親王在路祓、至山城近江伊勢等堺勢多鈴鹿下樋多氣川等、遣神部卜部各二人在前鎮祓之。所須鐵人像十二枚。布衣六領、裳六腰、以庸布一段作一衣一裳。木綿麻各六斤。米酒各六升。鰒堅魚各六斤。腊鹽各六升、海藻雜海菜各六斤。雜盛六籠、莒𨫼六口。莒四合、方一尺七寸。席薦各一枚、夫三人。其路次社幣料、絹一疋。絲五絇。綿五屯、木綿一斤。麻二斤。又頓宮五處大殿祭料。安藝木綿卅枚。凡木綿一斤。亦路間儲幣料、絁一疋、綿五屯、絲五絇。木綿大一斤、麻大一斤。卜竈甲一枚。並主神司請領祭之。其鎮祓等料、各請受京庫。

〔齋宮新年祭〕伊勢齋宮寮の內院に於て行はるゝ新年祭也。

新年祭

大社

〔御門神〕櫛盤牖命豐盤牖命の二神をいふ。

祭祈

〔御井神〕座摩の御巫の仕へ奉る神にして、祝詞に生井榮井津長井と稱へられたるの神をいふ。

小社

〔地主神〕その土地を主領する神をいふ、一定の神には非ず、神名祕書に依れば伊勢五十鈴川上の地主神は興玉神也。

〔伊蘇上「乃」社〕乃字は衍字なるべし。

齋宮新年祭神百十五座。

大社十七座。在二齋宮内一。

大宮賣神四座。　御門神八座。　御井神二座。

卜庭神二座。　地主神一座。

座別絹五尺。五色薄絁各一尺。倭文一尺。木綿二兩。麻五兩。庸布一丈四尺。鍬一口。楯一枚。八座四座置各一束。

鰒堅魚各五兩。腊一升。鹽一升。海藻滑海藻雑海菜各六兩。酒二斗。坩一口。但加二宮賣神馬一疋一。御門神各槍一竿。

小社九十八座。在二多氣度會兩郡一。

須麻留賣社。　佐那社二座。　櫛田社。

有弐社。　麻續社。　服部伊刀麻社。

相鹿牟山社二座。　奈奈美社。　宇尓櫻社。

宇尓社。　服部麻刀方社二座。　紀師社。

天香山社。　穴師社。　流田社。

流田上社。　石田社。　竹佐佐夫江社。

伊佐和社。　牟禮社。　大國玉社。

佐岐栗栖社二座。　積倉社。　伊蘇上「乃」社。

櫛田槻本社。　牛庭社。　大櫛社。

賀須夜社。　竹上社。　竹仲社。

〔鴨社〕祭神石巳呂和居命、今伊勢國度會郡東外城田村山神にあり
〔園相社〕祭神曾奈比彦命、度會郡東外城村積良にあり
〔田乃家社〕祭神大神御滄川神、度會郡東外城田村矢野にあり。
〔多岐原社〕一に瀧原社と記す、祭神麻奈胡乃神、度會郡瀧原村にあり。
〔湯田社〕祭神鳴震雷神、大歳御祖命度會郡有田村湯田にあり。
〔大土御祖社〕祭神大國玉命、水佐佐良彦命、佐佐良姫命、度會郡四郷村楠部村にあり。
〔祖〕太神宮儀式帳に據りて補ふ。

魚海社二座。
守社。
宇智布部社。
大與杼社。
大分社。
朝熊社。
伊佐奈彌社。
園相社。
草名岐社。
月夜見社。
大水社。
御饗社。
國津御祖社。
川原國生社。
江社。
朽羅社。
清野井庭社。

林社。
大海田社。
社田社三座。
捧屋社。
相鹿社。
荒御玉命社。
蚊野社。
狹田國生社。
礒社。
湯田社。
津長大水社。
大土御祖社。
坂手國生社。
久々都比女社。
神前社。
度會國御社。
志等美社。

相鹿上社。
相鹿中社。
火地社。
國生社。
伊呂上社。已上多氣郡。
伊佐奈岐社。
鴨社。
田乃家社。
多岐原社。
奈良波良社。
大國玉比女社。
田上大水社。
粟皇子社。
大間國生社。
榎村社。
度會大國玉比女社。
川原社。

山末社。　榛原社。　川原大社。
宇須乃野社。　小俣社。　川原淵社。
大神御船社。　雷電社。　萩原社。
大川內社。已上度會郡。

「已上社名本官說」

座別絹三尺。木綿二兩。麻五兩。庸布一丈四尺。楯一枚。八座置四座置各一束。鰒堅魚各六兩。腊鹽各五合。海藻滑海藻雜海菜各一兩二分。酒一升。坩一口。「物祭所」須甕二口。匏二柄。薦五枚。祝詞料庸布五段。造幣忌部二人明衣三段。短帖一枚。

右祭二月四日供祭。其六月十二月月次鎮火竈道大殿御贖大祓。并朔日忌火庭火等「祭供」神物。及明衣祝詞料。皆准「在京」。但月次祭加「火雷神一座」。

齋內親王參三時祭禊料。

五色絁各六尺。安藝木綿十五枚。凡木綿麻各三斤。庸布六段。布衣裳各三具。庸布料。鍬十二口。筥三合。鰒堅魚各六斤。海藻雜海菜各六斤。腊鹽各一斗二升。米酒各三斗。稻十二束。瓮十二口。坏六口。槲十八把。匏三柄。輿籠三脚。食薦六枚。黃蘗十五兩。已上晦日禊料。五色薄絁各九尺。倭文九尺。安藝木綿廿七枚。凡木綿麻各六斤。布衣裳九具。庸布料。鐵人像十八枚。筥九合。鰒堅魚各九斤。腊鹽各九升。海藻雜海菜各九斤。雜盛九籠。米酒各二斗七升。稻九束。薦三圍。已上參日禊并堺祭料。

右五月十一月晦日隨「近川頭」爲禊。八月晦日臨「尾野湊」爲禊。其三時祭月十五日齋內親王向「離宮」行路之

〔宇須乃野社〕祭神宇須乃女神、度會郡御薗村高向にあり。

〔小俣社〕祭神宇賀御魂稻女神、度會郡小俣村小俣にあり。

〔大川內社〕祭神大山祇神、度會郡沼木村にあり。

祭料

〔已上社名云々〕以下六字後人の旁書なるべし。

〔安藝木綿〕安藝國より出す調副物也、賦役令に「其調副物云々東木綿、十二兩、安藝木綿四兩云々」とあり。

三時祭禊

〔尾野湊〕類聚名物考に、小野湊又尾野江、をのの古江とも云ひ、伊勢國にありと云へり。

〔内玉垣院内〕一本内玉垣門内に作る

〔八開手〕彌開手の義にて、手を彌廣に開く狀に云ふ意なるも、儀禮としては、拍手を八度打つを云ふ。

〔拍短手〕短拍手を爲すにて、二度拍手するを普通とす

〔五節舞〕本朝月令に「擧袖五變故謂之五節」と見え、又蒼梧隨筆には左傳昭公元年の條の「先王之樂所以節百事也、故有五節、遲速本末相及中聲以降之後不容彈矣」とあるを引きて歌曲に遲速本末中聲の五節ある故にこの名起ると云ふ。

間有二處堺祭。（宮東堺外及多氣度會兩郡堺。祭之祈物色目在上。）到著祓殿。（神宮司幷忌部司供奉裝束。）主神司中臣爲祓。（祈物神宮司儲之。）太神宮司奉齋王膳。兼賜酒肴勅使已下。次主神司供奉內院大殿祭。（所須祭物神宮司儲之。）然後齋王遷內院。（裝束雜具一同祓殿。）奉夕膳。（神宮司以祈物附所司。但男女官供給辨備行之。）十六日朝饌之後。齋王參度會宮。路邊窮者賑給如常。祓度會河。參入神宮。至板垣門東頭下輿入外玉垣門就東殿。（禰宜幷忌部司供奉裝束。）神宮司執蘰木綿入外玉垣門而跪。命婦出受以奉齋王。拍手而執著蘰。又神宮司持太玉串入同門而跪。命婦亦轉奉。齋王拍手而執捧入內玉垣院內。就座席。（命婦若女孺二人陪從。）避席進前再拜兩段。訖玉串授命婦。受轉授物忌。受執立瑞垣門西頭。齋王還就本座。宮司宣祝詞。訖物忌內人奉幣帛案。齋王幷衆官以下再拜拍八開手。次拍短手再拜。如此兩遍。既而衆官退出就解齋殿。給酒食。訖入外玉垣門供倭舞。先神宮司以下及主神司寮官次第舞。次齋宮女孺四人供五節舞。訖給祿有差。其後齋王還著離宮。主神司中臣候南門奉御麻。十七日參太神宮。祓御裳洗河。自餘之儀同度會宮。（事見太神宮式。）是日神宮司獻物。即賜祿。又奉幣使同賜祿。並各有差。十八日齋王還宮。主神司中臣候南門奉御麻。兼供奉大殿祭。祇承國司賜祿。

卜庭神祭

每月晦日卜庭神祭。（齋王參三時祭。卜庭神祭准此。）

米酒各四升。堅魚海藻各一斤。腊一升。鹽一升。

十月祓禊

凡十月晦日祓禊同三時祭禊。

新嘗祭神

新嘗祭神百十五座。（大十七座。小九十八座。）

右供祭雜物。並准祈年。但鎭炊殿幷忌火庭火大殿祭等皆准在京。

供新嘗禊

供新嘗禊。（卜八男十女。）

兩。以上當國充之。池由加一口。由加四口。叩瓫四口。油瓱一口。油杯盤各二口。鋺形一口。陶鉢一口。以上美濃國充之。

右殿部所請。

拂細布一丈二尺。莒一合。白端帖十二枚。短帖八枚。坂枕二枚。折薦帖二枚。已上寮充之。

右掃部所請。

絁五疋。白絹二丈五尺。綿廿屯。紫小纈帛三丈。細布二丈。曝布一段一丈四尺。莒六合。櫛一具。黃楊。梳案一脚。刀子一具。冠一條。爪磨一枚。沓一兩。出雲席一枚。

右齋內親王神忌御服料。

絹十四疋三丈。十疋被料。四疋三丈青摺衣料。綿一百九十屯。調布六十七段三丈四尺。紅花六斤。已上青摺衣料 絹二疋四丈。曝布六段六尺。已上膳部并女孺等襅襷料。

右小齋人等祭服。寮依例充。其賜祿一准元日。

諸司春祭。秋祭准此。

膳部神祭。

五色薄絁各一尺。倭文一尺。木綿麻各一斤。庸布一段。鍬一口。米五斗。酒四斗。糯米一斗。大豆小豆各二升。腊十二斤。鰒二斤。堅魚煮海鼠海藻各三斤。鮨三斗。鹽五升。醬酢各一升。食薦一枚。

炊部神祭。

五色薄絁各三寸。倭文三寸。木綿麻各一斤。庸布一段。鍬一口。酒四斗。米糯米各三升。鰒堅魚腊各一斤。海藻二斤。鮨二升。鹽一升。大豆小豆各二升。

〔由加〕大瓱也、和名抄に「堈、楊氏漢語抄云、游堈由賀、甕也、今案俗人、呼大桶爲由加乎介是、辨色立成云、於保美加」とあり。

〔鋺〕金屬製の椀を云ふ、水等を盛りて飲む器也、和名抄に「鋺、俗云賀奈萬利」とあり。

一諸司春祭

〔坂枕〕大嘗祭、新嘗祭、神今食等の大祭時に神に供ずる枕、高くして、末の斜なるより云ふ。

一膳部神祭

一炊部神祭

〔出雲席〕[illegible]草紙に「いづもむしろ」と訓めり、粗製の席也。

酒部神祭

〔酒部〕齋宮寮十二司の一、神宮に獻る神酒釀造の事を司る、長一從七位也。

水部神祭

〔水部〕齋宮十二司の一、長一從七位、水部四人あり。

氷室神祭

〔氷室〕氷を貯藏する處にして、山城國葛野郡德岡、同愛宕郡小野、同栗栖野、同土坂、同賢木原、同石崎、大和國山邊郡都介、近江國志賀郡龍華、丹波國桑田郡池邊等にあり。

竈池等祭

太神宮幣

諸神座幣

酒部神祭。

五色薄絁各六寸、倭文六寸、木綿麻各八兩、庸布一段、鍬一口、米酒各六升、糯米四升、大豆小豆各一升、鰒堅魚各一斤、鮨腊各四升、鹽一升、盤五口、食薦一枚。

水部神祭。

五色薄絁各六寸、倭文六寸、木綿八兩、麻四兩、庸布一段、鍬一口、米酒各二升、鰒堅魚各八兩、鮨一升、海藻八兩、鹽五合。

氷室神祭。

五色薄絁各一尺、倭文一尺。木綿四兩。麻三兩、鍬一口、米六升。糯米酒各一升、大豆小豆各二升、鰒八兩、堅魚一斤、鮨腊各六升、海藻一斤、凝海菜四升。

竈炭竈山戸御川池等神祭。

五色薄絁各一尺。倭文一尺、木綿麻各四兩、庸布一段、鍬二口、米四升、酒六升、大豆小豆各一升、鰒堅魚海藻各一斤、腊鮨各六升。鹽二升、食薦四枚。

十二月供二所太神宮幣。

宮別絹一疋、絲一絢、綿一屯、庸布一段。木綿麻各一斤。

右主神司請供之。

齋宮內諸神十七座幣。

座別絹五尺。絲一絢、綿一屯。庸布一丈四尺。木綿二兩。麻五兩。

〔醬六甕〕此の下文「•別大豆三石」とあるは、前例に依り「甕別大豆三合」に作るべし。

〔令尾張國供送〕雲州家校本は京本に據りて此く作る同書所引貞本には送字を「造」に作れり。

〔簾〕原本及び雲州家校本所引京本薦に作る、今同書所引貞本に據りて改む。

〔油絁〕油を引きたる絹也。

〔飯筥〕雲州家校本所引京本及貞享本「板筥」に作る。

齋宮鋪設
年新供物

齋宮鋪設。

齋內親王板牀二張。紫端帖二枚、黃端帖二枚。緣端帖六枚。席廿枚。五位及命婦各板牀一張、黃端帖一枚、乳母各板牀一張。緣端帖一枚。齋助板牀楷牀各一張、折薦帖二枚、自餘官人女孺牀帖各一枚、番上各帖一枚、

右齋內親王向國鋪設。初年當國供之、後年齋司備之、

幄四具。紺布幃二具、蒲防壁十枚。

右以京庫物充之。隨壞替之、

酒卅甕。甕別米三石七斗。酢五甕。甕別三石七斗。醬六甕。•別大豆三石。

右齋內親王初到之年。國司預割可納齋米大豆鹽等、造備供之、若有甕破壞者。令尾張國供送。

年新供物、

寢殿壁代帳新絹十三疋一尺七寸、綿卅七屯、蓋代新調布十五段二丈二尺、承塵新調布一段二丈三尺、蔀新庸布八段、簾新細布三段三丈九尺。斗帳新絹七疋二丈四尺、綿卅屯、床廻帳新絹二疋、綿十屯、床覆新絹一疋二尺。褥新絹三疋一丈六尺七寸、綿廿四屯、被新長絹十二疋、調綿八十四屯。服新絹百十疋、綿百八十屯。襪新絁一疋。絲卌絇、履廿四兩。已上寮供之。

右女部司縫備、其•簾以上隨穢替之

兩面一疋四丈。緋帛五丈七尺、油絁一疋三尺、絹三丈四尺。細布一丈六尺。曝布二丈四尺。綿一屯。絲一絇。麻一斤、水甕二口。水甕麻笥三口、韓竈四具。長刀子二枚、短刀子五枚、砥一顆。以上寮充之。膳案一脚、菓案一脚、筥笥二合。•飯筥二合。筋筥一合。鹿筥五合。切案二脚。掛案二脚。大案二脚。韓櫃三合、明櫃八合。大笥五合、別脚案二脚。橫筥

二合、缶十口、槽一隻、圓槽二隻、席八枚、置簀六枚、臼一口、杵二枝、匏廿柄、笥杓廿柄、箕二枚、革籠四口、已上當國充之。

右贄部司所請。

兩面八尺、緋帛一丈二尺、油絁八尺、調布一段。已上寮充之。碓一腰、杵二枝、箕二枚、枚槽一隻、明櫃三合、足別案二脚。已上當國充之。

右炊部司所請。

兩面四丈一尺九寸、緋帛二丈九尺九寸。油絁五丈。絹一丈九尺。細布二段七尺。調布・三丈五寸。庸布三丈●酒盞卅八具、片盤廿口、洗盤一口。絲二兩。鍬二口、笭十口。以上寮充之。足別案二脚、韓櫃三合。明櫃一合、酒槽二隻、押槽一隻、大案二脚、匏廿柄、笥杓十柄、鐺一口、箕二枚。置簀四枚、薦四枚。以上當國充之。

右酒部司所請

兩面三丈六寸、緋帛二丈四尺七寸、油絁四丈四尺。絹二丈四尺。薄絹一丈二尺、絲一兩。曝布三丈四尺。細布三丈四尺。紵布一丈。錐一柄。小刀子二柄。水甕麻笥二口。以上寮充之。坩一口。陶垸卅口、臼二口、盤十口、已上美濃國充之。外居案二脚、白木手湯槽一隻。供水木盞後盤各四枚。大案一脚、筥一合。鹿筥二合、土火爐一脚。明櫃二合、匏五柄、笥杓五柄。箕十枚。已上當國充之。

右水部司所請。

兩面二丈六尺三寸、緋帛四疋三丈七尺。油絁二疋五丈九尺二寸。白絁六尺。絹五丈三尺五寸。曝布九段二丈一尺七寸、紵布六尺。調布二丈九尺。絲二分、楉案一脚、油坏（アブラツキ）盤各三口。鐵火取堝一口。鐵五廷、鍬二口。已上寮充之。湯槽一隻、洗床一張、大案二脚。木盞五枚。洗頭槽一隻。洗足槽一隻。洗物槽一隻。韓櫃二合。燈臺二具。明櫃二合。筥二一

〔置簀〕「オキス」と訓む、和名抄に、貫簀（ヌキス）の類を云ふものあり、ものゝ蓋の代りに被ふ器也。

〔枚〕雲州家校本所引、京本無し、恐くは衍字也。

〔足別案〕類聚名物考に「アシワケノツクヱ」と訓めり、足の取りはづしの出來る様に作りたる机也。

〔調布〕一本「調布三段三丈五寸」に作る。

〔庸布三丈〕雲州家校本考異に「丈字可疑、庸布大抵稱段」とあり。

合。鹿宮二合、匏三柄。已上當國充之。池由加一口、由加四口、𤭖一口、𤭯一口、缶二口。叩瓮四口。以上美濃國充之。

右殿部司所請。

錦緋帛各一丈七尺六寸。黃帛一疋四丈四尺四寸、油絁一疋四尺。拂細布一丈二尺、已上寮充之。莒一合。當國充之。

右掃部司所請。

合藥劑

合藥十七劑三分劑之一。

四味理中丸七氣丸各二劑、吳茱萸丸芍藥丸溫白丸各一劑、犀角丸三分一劑之一。神明膏萬病膏各一劑、升麻膏賊風膏各三劑。神明白散五十二劑、度嶂散二劑。屠蘇二劑。

所須藥種

所須藥種、

桂心六兩一分。巴豆五十五枚、甘草十兩三分二銖。犀角四分二銖、蜜五升、芒硝七兩四銖、防風一兩二分四銖、麻黃二兩三分四銖。蜀椒九兩一分、石膏一兩三分、芎藭七兩三分、大黃一斤四兩二分四銖、人參十兩。紫菀二兩二分、柴胡五兩、黃芩十一兩二分二銖。黃連一兩二銖。皂莢二分一銖、芍藥六兩、漏蘆六兩一分。連翹十五兩。白薟十兩三分、蘆茹四兩一分。附子九斤十五兩。干薑七兩二分。豬膏六十四斤八兩、白朮七斤十兩二分、烏頭十四斤四兩。半夏二兩二分。桔梗九斤五兩二分。細辛七斤十四兩。吳茱萸一斤六兩、菖蒲二兩二分、茯苓二兩二分。蜀椒二斤二分。桃仁二兩。枳實十二兩一分二銖。葶藶子二兩一分、杏仁二兩三分二銖、厚朴二分二銖。支子百卅枚。升麻十一兩二銖。干藍二分。豉一合一勺。前胡二斤一合。白芷二斤一合。當歸四兩二分、薊藋一斤一分。商陸四兩一分、菊草三斤五兩、黃耆四兩一分、牡丹四兩一分、地楡四兩一分、大戟五兩一分、玄參三兩三分、白頭公二兩一分、躑躅花九兩一分、萎蕤一兩一分、醋二斗五升、砥一顆。兩面九尺六寸。油絁九尺六寸、帛四丈一尺、緋帛一丈五寸。紺八尺、紗二尺、布三丈五尺、絲二兩、木綿七兩、紙八十四張、已上寮充之。陶坩匝盆各四口、陶手洗一口。陶椀二合。盤

〔七氣丸〕和名抄に「七氣丸、治七氣病、七氣者、寒熱之類、其狀各異」とあり。

〔一〕衍なるべし。

〔升麻膏〕和名抄に「升麻膏、治丹腫」とあり。

〔支子百卅枚〕典藥式「一百卅二枚」に作る。支子は梔子也、果實は黃色の染料とす。

〔商陸〕山牛蒡也、和名抄に「商陸、和名、以乎須岐」とあり、或は「タロゴボウ」「イヌゴボウ」とも云ふ。

〔地楡〕和名抄に、「地楡、和名、阿夜女太無、一云衣比須禰」とあり、俗に「われもかう」と云ふ。

〔藥部司〕齋宮寮十二司の一、齋王の醫藥を掌る、長一從八位也。

〔主典以上〕齋宮寮の職員たる勅別當以下寮司主典等を云ふ。

〔今良〕「イマヽキリ」と訓む、主殿寮にもあれども、こゝは齋宮寮に屬する男女の下部を云ふ、一度賤民となり、更に許されて良民に歸せられし者を云ふ一に「ゴンラ」とも訓めり。

〔部〕京貞二本に據りて補ふ。

〔宮主〕「ミヤヌシ」又は「ミヤジ」と云ふ、卜部の事を掌る職官也。

二口。已上美濃國充レ之。筥三合。机二脚。折櫃一合。明櫃一合。大案一脚。臨缶一口。杓一柄。大盥一合。已上當國充レ之。藥刀一具。鑱臼一口。杵一枝。銅鍋一口。銅升一口。藥刀以下長用。合藥時衣析絹一疋。綿二屯。長析。調布二丈。生析。正月供二屠蘇一命婦以下嘗レ藥小兒以上賜析帛十疋。綿廿屯。帛用二齋王生氣色一。亦寮充レ之。

右藥部司所レ請。

緋帛紫帛紬絁各二丈七尺六寸。麻卅斤。已上寮充レ之。

右馬部司所レ請。

月析　節析

凡齋内親王月析。及節析等。皆准二在京一。其宮人主典已上卅六人。番上一百一人。命婦一人。乳母三人。女孺卅九人。御厠人二人。御洗二人別米二升。鹽二勺。仕丁十五人。駈使丁廿五人。飼丁八人。取二神部并神戸今良八人。仕丁二充レ之。別米二升鹽二勺。女丁十人。陪從二百七十三人。別米一升五合。鹽一勺五撮。戸座一人。火炬小女二人別米一升四合。鹽二勺四撮。宮主并卜部家口四人。別米一升五合。鹽一勺五撮。

元日

凡元日齋内親王遙二拜太神宮一。訖開二宮南門一。頭已下於二門外一拜二賀齋王一。其祿法。頭絹四疋。綿廿屯。助絹二疋。綿八屯。允絹二疋。主神中臣忌部舍人藏部膳部門〔部〕長各絹一疋。布二段。寮屬舍人判官諸司長各絹一疋。布一段。宮主諸司主典各絹一疋。番上各布一段。命婦准レ頭。外位者絹三疋。綿十屯。乳母及上等女孺各絹二疋。中等女孺絹一疋。下等女孺布一段。絲一絇。自餘雜色庸布各一段。三日太神宮司等拜賀。給二御衣一領。襧宜被一條。郡司布一段。内舍人各絲一絇。但七日頭給二被一條。十六日青摺袍一領。袴一腰。

六月

凡六月齋内親王參二神宮一陪從皆給二裝束一。十二月准レ此。諸司主典已上。人別絹三丈五尺。供膳官人加二褌祈布一。神部六人。卜部三人。膳部八人。炊部三人。酒部四人。水部四人。藏部六人。殿部六人。掃部四人。今良四人各布二丈。戸座一人布一

〔神稅〕一〇頁を見よ。

〔外位〕外官の人に賜ふ位を云ふ、正五位下より少初位下まで二十階あり、內位よりは稍輕し、民部式に、其の位田は內位の半に減ずとあるにて知るべし。

〔正稅〕八頁を見よ。

〔地子稻〕租稅の一單に地子とも云ふ諸國公田の餘れるを貸して、耕作せしめ、秋に至りて若干の稻を收むる也、貸與の種類により、田地子、畑地子等と稱す。

〔兩面〕大嘗執事に「輪違の紋あり、高麗錦也」とあり。

丈四尺。奏舞女孺四人各絹一疋。自餘不給。

九月

凡向九月祭陪從命婦以下賜裝束。五位絹四疋。綿十屯。外位絹二疋三丈。綿五屯。乳母各絹二疋三丈。綿二屯。上等女孺一人。同乳母中等以下廿三人各絹一疋三丈。綿二屯。自餘不給。

官人祿

凡寮官人以下春秋祿者。以當國神稅充之。夏冬服寮家賜之。夏男各絹四丈五尺。女絹一疋。但中等以下女孺各絹三丈。今良女女丁各絹三丈。庸布二段。火炬小子各絹二疋。調布二丈。冬男各絹一疋三丈。綿四屯。女絹一疋。綿二屯。今良女各絹一疋。布一段。綿二屯。火炬小子各絹四丈。布一段。綿二屯。女丁各絹一疋。綿二屯。庸布一段。自餘駈仕丁夏庸布一段。冬布一段。綿二屯。

正稅

凡齋內親王到國。初年割正稅七百束供用年新之勝。當郡每月舂送寮家。後年用供田稻。其供田二町。一町在多氣郡。一町在度會郡。外供田四町。三町在多氣郡。一町在飯野郡。墾田廿七町八段一百十七步。十七町七十一步在多氣郡。十町八段卅六步在飯野郡。其外供田地子稻者。勘納寮家充供御之闕乏。墾田准鄉土估賃租充寮家雜用。

調庸雜物

凡諸國送納調庸。并請受京庫雜物。積貯寮庫。支配雜用。絹絁七百疋。伊勢三百疋。尾張長絹卅疋。參河白絹卅疋。遠江絹一百五十疋。駿河絹一百疋。相模絹五十疋。美濃絹五十疋。絲三百約。尾張調三百約。遠江庸一百約。庸綿一千一百屯。相模。布一千段。上總細布一百段。常陸調布一百段。相模五百段。下總三百段。庸布八百五十段。上野六百五十段。駿河二百段。倭文二疋。常陸。木綿三百斤。伊豆二百六十二斤。遠江卅八斤。麻四百斤。熟麻一百斤。已上下總。熊皮八張。信濃。龜甲十二枚。志摩。履卅兩。紙一千張。已上伊勢。筆二百廿八管。伊勢一百管。尾張一百管。美濃廿八管。兩面三疋三丈。緋帛七疋三丈。錦一丈七尺六寸。油絁八疋一丈。雜染五十六種。色目在上條。白綿六百屯。鍬二百卅五口。鐵五十廷。砥八顆。墨十九廷。已上京庫。庸米一千六百六十七石五斗。伊賀三百卅二石。伊勢四百七十三石二斗。參河五百五十九石三斗。美濃二百九十三石。舂米一千三百卅四石八斗。伊勢五百卅四石八斗。就中黑米三百九十五

〔楚割〕「スハヤリ」と訓む、「スハエワリ」の略、又約して「スハリ」とも云ふ。魚肉を細く割りて之を乾し、小枝の如きものに爲したるを云ふ、楚割鮭、鯛楚割等云ふは皆鮭鯛等を楚割に作りたるを云ふ。

〔浪人〕王朝時代にて、住地を離れて他國に漂ふ者を云へり、浮浪人の義也。

〔刀禰〕主典以上の諸官人を云ふ、主典以上は長上の官なれば、殿寢の義にて、昵近の意也。

石。以蒙二百石、參河二百石、美濃四百石。糯米十石、小麥十石、大麥一石、粟二石六斗、大豆小豆各六石、醬大豆十八石、胡麻子一石、薑子一石、已上伊勢。黍子一石、參河。鹽八十石、志摩十五石、尾張六十五石。胡麻油二石、遠江。搨榧油四斗四升、伊勢。東鰒三百斤、安房。堅魚五百斤。志摩二百八十八斤、伊豆二百十二斤。煮堅魚一百卌四斤、駿河。堅魚煎四斗、伊豆。猪膏三斗、楚割鮭一百廿隻、已上信濃。煮鹽年魚二石。鮨年魚一石、伊勢。醬鮒三石、近江。鳥腊十斤、尾張。鯛楚割九十斤。貽貝鮨一石八斗、鯛枚乾一百斤、已上參河。雜腊五石、志摩二石。尾張二石。遠江一石。腸漬鰒七斗、相模。雜魚鮨十石、伊勢尾張各五石。熬海鼠一百斤。鮨鰒二石、雜鰒三百卌四斤、海藻三百九斤十四兩。凝海菜三百卌斤。已上志摩。芡菜十圍、尾張。甘葛煎一斗、伊勢。芥子五斗、信濃。山薑二斗、飛驒。陶器六百九十六口。美濃。贄直稻日別二束。伊勢。馬秣稻百廿束。太神宮司所充。三時祭別卅束。蒭四千八百圍。半分太神宮司以神郡浪人刈送。半分國司以國內浪人刈送。

官人入京

凡寮官人緣公事入京者、聽乘驛馬。五位四疋。八位以上三疋、初位以下二疋。女亦同。

戶座炬火

凡齋王到國之日、取度會郡二見鄕礒部氏童男、卜爲戶座。其炬火取當郡童女卜用。但遭喪及長大即替之。

名簿

凡遷入野宮之後。及到齋宮、每月下旬雜色及仕女已上名簿移送於主神司、隨即卜之。亦至六月九月十一月十二月、更亦卜之、預供祭事。但野宮不爲祭卜。其寮史諸司卜食已訖、行列就版位、于時中臣官人命云。此竹折答事秡清供奉。其稱唯退出、內侍采女女孺已下在座承命、不卜食者、不得參供宮中。野宮者內院忌之。齋宮者宮中皆忌。

寂合

凡齋內親王參祭之祓。國司目已上名簿在前移齋宮令卜。其寂合者一人祗承。其三時祭月十五日大秡處申刀禰數。祗承官五位已上令史生申、六位已下自申。

封戶

凡以太神宮封戶百姓、不得輙補寮舍人。

〔中重庭〕「ナカノヘノニハ」にて、俗に中庭と云ふに同じ、内庭とも云ふ。〔大庭〕門前の廣場也。〔門部司〕齋宮寮十二司の一、寮の門衞を司る「カトベノツカサ」と訓む。〔四孟〕孟春、孟夏、孟秋、孟冬の稱也〔帳〕出雲本により補ふ〔上秡〕秡の一、式に秡ふ者の穢れの輕重によりて、大上中下の四等に分てり。〔國哀〕國喪に同じ、皇

神殿勤守　凡内院神殿者、令主神司專一勤守。若致破損、奪其俸新。

諸司雜舍　凡内院及諸司雜舍者、造宮使作畢之後。寮官每季巡檢、若居住官人致損、奪其俸新。寮官懈怠不勤巡撿、譴責之法。亦同諸司。

中重庭　凡中重庭者。須令諸司每晦掃除。寮官遞加巡撿、若致緩怠。譴責同上條。

御膳　凡朝夕御膳、若致闕乏、科責寮官幷膳部司。

殖樹木　凡溝隍四邊列殖松柳、幷掃除大垣廻及大庭等之事者、令門部司加營守。若折損樹木、緩怠掃除、責其官人、亦同上條。

修理　凡仕丁卌八人之中、六人分充造寮幷廚家之新、使寮官一人專當其事、勘納功物。隨其破損、可加修理。其立用帳。請寮史判。若不營小破。妄致大損者、科處勾當官人。但至于非常異損、隨申處分。

雜物注載　凡寮中所納之雜物、用殘未進色目者、注載季帳、四孟差使進官。但被管諸司季帳、寮官覆審押署進上。

月俸衣服　凡諸司男女官月俸、雜色人衣服者、隨當國他國所進之多少、不論上下、每色分別。但須先女官後男官。

勘納　凡馬部司御馬八疋。年新秣稻干蒭者不待寮移勘納木司隨日充用。但其納用帳者。每季勘造請寮勘署。

賜宴祿　凡新嘗解齋日。太神宮司率禰宜内人御廚奉主三郡司神部歌人等參會。賜宴祿各有差。寮頭已下亦賜祿。

毆鬪　凡雜色人已上與人毆鬪者科上秡。

密婚　凡寮官諸司、及宮中男女修佛事私姧密婚者科中秡。

失火　凡隍中有失火穢者、隨之秡淸、其宅人七日不得參入宮中。

齋王相代　凡齋王相代應歸京者。遣使奉幣亦如初。若遭國哀及親喪者、遣中臣一人告其狀。不奉幣帛。

考皇祖及び母皇等の崩御に當り或期間一國擧哀の實を發するを云ふ、此の期間を闇諒と稱す。

〔納印〕

〔遣使奉迎〕

〔近江與二伊勢一云云〕これ常例歸京の路也、凶事の際は、伊賀大和を經て難波に至りて禊して京に入れり。

〔給雜物〕

〔頓宮〕雜物を辨備して、群行の用に供せしむる處也、近江の國府、伊賀垂水、伊勢鈴鹿、同壹志の四所にありし也。

凡齋王歸レ京者。寮印授二山城國一令レ納。寮司任後申レ官請用。主神司印及長例公文。並納二神祇官一備二後勘一。

凡齋王還レ京者。若有レ遭レ故還者不レ用二初入之道一。遣レ使奉レ迎。五位六位各一人。近江與二伊勢一堺上祓候。辨一人。率二史生官掌各一人一。參二齋宮一撿挍歸發。其齋王衣服輿輦之類。官便附レ使送レ之。皆堺上而脫易。衣服之類給二忌部一。輿輦之類給二中臣一。又各加二鞍御馬一疋一。其頓宮及供給准二向レ國之例一。

凡齋內親王還レ京所レ有雜物。寮官以下及近レ宮百姓等普分二給之一。其寢殿物給二忌部一。出居殿物給二中臣一。但金銀器納二齋王家一。又幃幔釜甑之類應二長用一者。皆付二國司一令二收掌一。

延喜式卷第五

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第六　神祇六

（齋院司）賀茂大神に奉仕する皇女を齋院或は齋王とも云ひ、これに關する一切のことを處理する廳を齋院司（イツキノミヤノツカサ）と稱す、嵯峨天皇の弘仁元年五月始めてこれを置く、爾後盛衰興廢あり、後鳥羽天皇以後廢絶す。

（賀茂大神）上下賀茂社の惣稱也。

（院別當）齋院司の長官の上にありて、勅別當とも云ひ、もと親王家の家司の長官なり、齋王に從つてこれに入り遂に其の實權を握るに至れり

齋院司。

定齋王

凡天皇卽位定賀茂大神齋王。仍簡內親王未嫁者卜之。若無內親王者。依世次簡諸女王卜之。卜食訖遣勅使於彼家告示事由。神祇祐已上一人率僚下隨勅使共向。卜部解除。神部以木綿著賢木立寢殿四面及內外門。木綿賢木所司備之。解除祈等本家儲之。事畢賜祿。中臣忌部以下各有差。其後遣參議已上一人於卜上兩社。奉幣告定齋王狀。內藏寮備幣。卜部一人隨使就川頭向社解除。

忌詞

凡忌詞。死稱直。病稱息。泣稱塩垂。血稱汗。宍稱菌。打稱撫。墓稱壤。

凡定齋王畢。卽卜宮城內便所爲初齋院。卽先臨川頭祓潔乃入。

祓物

祓物。

五色絁各四尺。鹽二升。酒米各一斗。鰒堅魚海藻各三斤。匏一柄。葦籠一腰。加杓。曝布一段。食薦一枚。黃蘗五斤。安藝木綿三兩。凡木綿麻各一斤。甕二口。稻二束。夫二人。

右依前件申官請用。其前一日辨官率院別當已下幷陰陽寮及供奉諸司到河邊。點定其地奏之。至于期日齋王駕車赴向。走孺十人。車副十四人。手振十人。取物十人。裝物韓櫃。與器韓櫃各一合。擔夫用院仕丁。供膳韓櫃三合。同雜器物二荷。衣服韓櫃二合。祿物韓櫃六合。擔夫並用衛士。膳部六人。舍人二人。荷領十人。藏人所陪從六人。院女別當已下並從車後。女別當已下藏人已上乘私車。采女女孺以下乘官寮車。勅使參議一人。院別當一人。五位四人。六位四人並

〔火長〕王朝時代、軍團の兵士十人の團隊を火と云ふ、屯營の中十人一房に居て炊焚を共にするを以て名付く其の頭領を火長と云ふ。〔即〕衍字なるべし。

——井祭

〔井祭〕井神を祭る也、井神は古事記傳に、神祇官に坐座摩御巫祭神五座の中生井神、福井神、綱長井神を御井神なるべしと云へり。

——三年齋

〔馬〕貞京本及び齋宮式に據り補ふ。〔在廳東前〕一本に藏人の傍書ならんと云へり。〔野宮〕齋王任に就く初め暫く潔齋の場所也、齋宮は嵯峨の有栖川の邊、齋院は紫野にありたり

——大殿祭

前驅左右近衛、左右兵衛各二人、左右門部各二人、左右火長各十人供奉、左右京職官人率兵士已上迎候、山城國司率郡司候京極路、辨一人、史一人、史生二人、官掌一人率供奉諸司就禊所行事、齋王到、幕臨流而禊、神祇官中臣進廳。宮主讀祓詞、訖即賜勅使已下饌并祿。辨官錄ニ見ユ。付院別當。〔即〕既而廻歸入初齋院、即卜定供膳井立贄木。

井祭新、

五色絁各四尺、絹一疋、絲一絇、倭文四尺、綿一屯、布一端、庸布二段、鍬二口、鹿二斤、木綿大一斤、堅魚鰒各四斤、腊四斤、海藻四斤、鹽五升、酒米各一斗、水戸一口、坏八口、匏一柄、柏五把、

右神祇官申官請取、令宮主祭。

凡齋王於初齋院二年齋畢、其年四月始將參神社。先擇吉日臨河祓禊。供神祇同初度祓。其儀齋王乘輿、輿者主殿官人率史生。前驅使二人、輿長十人黄衣。駕輿丁冊人緋布衣。衛府十二人、左右近衛兵衛門部各二人、並着本府青摺衫。但門部使用院門衛。左右火長各十人、京職并山城國司祇承同初度祓儀。駕馬女十六人、乳母二人、藏人六人、女嬬四人、小女四人、走孺十人。裝物韓櫃、御器韓櫃各一合、供膳韓櫃三合、同器物二荷、衣服韓櫃二合、祿物韓櫃六合、擔夫冊六人。院令良三人。左右衛士冊四人、膳部六人、葡萄染布衣。膳所舍人二人、荷領十人並退紅染布衣。藏人所陪從六人在廳東前。女別當已下並乘車。車事見初度禊條。勅使大納言中納言各一人、參議二人、四位五位各四人、內侍一人、辨一人、外記史各一人。太政官史生一人、辨官史生二人。官掌一人。神祇內藏縫殿陰陽大藏宮內大膳大工大炊主殿掃部造酒主水左右馬等官省職寮司供奉。禊事既畢賜禊并祿。勅使已下五位已上內藏寮饗之。六位已下大膳職。訖即廻歸、便留野宮、更賜祿。

大殿祭。新與神祇式大殿祭同。

右将遷野宮神祇官請祈先祭。

凡齋王毎年四月中酉日、參下上兩社祭。（先參下社。暫留社外。令脱換衣裳。更着淸服。卽乘腰輿。却駕輿丁令就社前左殿。事畢出社外。駕牛車參於上社。先留幄下。次就社前右殿。）勅使內藏寮五位已上官一人。近衞府馬寮五位已上官各一人。（並左右更供。）走馬十二騎。（左右近衞更供。）中宮東宮使五位已上官各一人。內侍幷命婦藏人闈司各一人。中宮命婦藏人各一人。自餘准初度四月禊儀。但加腰輿一具。駕輿丁四人。（事見儀式。）

兩社幣

下上兩社幣帛料。

五色絁各四丈。（三座。座別一丈三尺三寸三分。）

右院司就內藏寮請之。

忌火竈神祭

忌火竈神祭料。

五色絁各一尺。倭文一尺。庸布一段。鍬二口。木綿麻各二斤。東鰒堅魚海藻各一斤。鹽一升。酒米各二升。坏二口。水瓮一口。稻二把。匏一柄。

右神祇官直移所司請取、令宮主祭。

尋常四月禊。

右供神料幷儀式同入初齋院之禊儀。但無勅使。

六月禊。

右宮主於院先供御禊。然後男女官臨河邊解除。但禊物饗料院司具備。

相嘗

相嘗祭。（若七月以前定齋王者當年祭之。八月以後者待明年祭。）

〔下上〕貞觀儀式には上下に作る、桓武紀延暦二年の條には下上に作る。

〔闈司〕「カギノツカサ」とも訓す、後宮十二司の一にて、宮城以內の諸門管鑰の出納及び其諸門より出入する雜物を勘檢する事を掌る。

〔事見儀式〕儀式とは貞觀儀式をいふ。

〔倭文〕栲、麻、苧等其緯を青赤などに染め、亂文に織りなしたる織物の名也、釋日本紀には「有青筋文布也」と見ゆ。

〔庸布〕夫役の替りとして納むる布にて、二丈八尺を以て一端とせり。

神座二前。南面東上。下上兩社祈。
五色帛各四尺。酒二斗。供神祈。請所司。
裝束祈。
小忌宮旨采女各一人。別絹一疋。綿三屯。貲布一丈九尺。采女代七人。絹三丈。貲布一丈九尺。並用卜食者。司人三人。
貲布一丈五尺。
使院司一人。卜食。絹一疋。調綿三屯。布一端。宮主絹一疋。綿一屯。舍人一人布一端。仕丁一人庸布一段。
右毎年十一月上卯日。鷄鳴王潔齋。遂拜奉幣於神社。夕時設上件神座於齋殿。座別設齋王供承座祭之。奉幣使廻後。院司幷宮主各給衣一領。明日夕給酒饌於院裏男女。賜祿各有差。勅使至社奉幣之後。於社前給兩社禰宜祝及忌子等祿。同四月祭例。其用度祈。絹廿疋。調綿二百屯。布卅端。預前申官。請大藏省。
竈神祭祈。
五色帛各二尺。倭文二尺。木綿麻各一斤。鰒堅魚腊海藻海菜各一斤。鹽米酒各二升。坏四口。瓶一口。水戸一口。柏四把。匏一柄。
晦日解除祈。
庸布一丈四尺。鐵二口。安藝木綿十兩。麻八兩。米酒各二升。鰒堅魚海藻各一斤。稻二束。
右祭幷解除祈。神祇官毎月直移所司請取。令宮主祭祓。但六月十二月晦日中臣奉麻。事畢賜祿。中臣被一條。宮主衣一領。
毎年禊祭祈。
齋王祈。呉綾一疋。中縹緋一疋。兩面二疋。蘇芳羅二疋。淺縹絹一疋。白縑五疋。白絹十疋。絹十疋。帛十疋。白紗

〔小忌〕大嘗會。五節會等の時小忌衣を着て神膳等を奉仕する者をいふ、小忌の役を勤むる男子を小忌公達女子を小忌女房と稱す。
裝束祈
〔貲布〕倭訓栞に「さよみ○和名抄に貲布とよめり、狭讀の義也、よみは升の字にて、八十縷なるべしといへり、絲の數に今にいくよみといふ是れなり」とあり江家次第には細美に作る、凶服に此布を用ふる事は類聚國史に見ゆ
竈神祭
晦日解除
〔調〕衍字なるべし
〔白縑〕縑は説文に「并絲繒也」とあり。
毎年禊祭

〔采女〕後宮の宮女にて、天皇に侍御し、飯饌の事を掌る、郡領以上の姉妹子女にて、十六歲以上、三十歲以下の者を用ひたり

〔各一尺〕雲本に據りて補ふ。

〔宣旨〕女房の名、中宮、春宮、齋宮關白の家に仕ふる女房をいふ、初めは宣下の時の宣旨を取り傳へたる女房をいひしが、後には宣旨を取り傳へざるも、上﨟の女房をいふに至れり。

〔一分〕原本三銖とあれども、雲本に據りて改めたり、下文礬石の條を以て證とすべし、下文の注の「一分」亦同じ。

四疋。紫絲四斤。紫革緋革各二枚。蘇芳大三斤。茜大卄斤。紅華大卄斤。紫草百斤。楊筥十合。錦端表帖二枚。各長八尺。廣五尺。兩面端帖十二枚。八枚殿晝座土敷新。四枚二社座新。絁端帖十枚。寢殿座土敷新。錦端茵二枚。社座新。出雲筵四枚。二枚社新。二枚夏座新。絹二疋九尺八寸。几帳五具帷新。

畫祭日服并陪從女衣裳新。金泥四兩一分二銖。銀泥四兩一分二銖。蘇芳大四斤。胡粉五斤三兩三分。綠青三斤十三兩。白綠一斤十二兩二分。空青二斤三兩二分。丹二斤二兩。雌黃五兩一分。同黃四兩四銖。三月十三日付內侍奏請。

人給新絹一百七十八疋三尺卌疋祿新。袞卌條新。卌疋小掛衣八十領新。八十六疋三尺宣旨以下走孺以上祭日裝束新。二疋院司裝束新。卄疋走馬衞府并樂人等祿新。帛十四疋。藏人六人并乘馬女孺四人。采女一人。采女代三人。惣十四人裝束新。白綾七疋四丈六疋四丈宣旨以下女孺以上卄人袴表新各二丈。一疋小女四人袴表新各一丈五尺。赤紫絹四疋。二疋三丈走孺十人衣新各一丈五尺。一疋三丈同給福新各九尺。緋絹五疋五丈五尺。四丈五尺長官當色新。五疋走孺十人裳表新各三丈。一丈同腰捲新〔各一尺〕。藍染夾纈絹三疋。宣旨一人。乳母二人新別一疋。白紗四疋一丈。三疋宣旨以下女孺以上卄人領巾新各九尺。一疋一丈走孺十人同新各七尺。絲卌斤。白赤各卄斤。祭雜用新。調綿四百八十屯十五兩〔一分〕二銖。百八十屯祿新袞卌條別六屯。十五兩一分二銖淺縹地夾纈新絹十五疋二丈新別一兩。二百屯禊日祿新。百屯走馬衞府并樂人等祿新。細布八端三丈七尺。六端一丈二尺。輿長已下苛領已上卅六人袴新別七尺。三丈五尺走孺十八人袴新別三尺五寸。一端三丈禊日取物十人袴新別七尺。紺細布四端八尺。禊日車副十四人。下振十人袴新別七尺。紺調布十八端。四端乳母二人新各二端。十四端駕馬女十四人新別一端。布九十四端二丈五尺二寸。五端宣旨一人新。四端乳母二人新。各二端。五十端駕馬女已下合卄五人新。各二端。十七端六尺駕輿丁卌四人今良二人。擔夫卌四人。合九十人袴新各八尺。二端四尺駕輿丁卌四人脛巾新各二尺。一端一丈五尺二寸。駕輿丁卌四人鬮結新各一尺三寸。十五端雜用新。庸布七百段。二百段諸司番上已下祭日祿新。五百段禊祭雜用新。蘇芳大一斤十四兩二分四銖。淺縹地夾纈新絹十五疋二丈新。黃蘗大十六斤七兩三分。十二斤七兩三分淺縹地夾纈絹十五疋二丈新。四斤辛紅地彩色夾纈絹四疋新。紅華大十六斤。辛紅地夾纈絹四疋新別四斤。茜大七斤十兩二分四銖。淺縹地夾纈絹十五疋二丈新別八兩。黃櫨大七斤十兩二分四銖。同絹十五疋二丈新別八兩。礬石十五兩一分二銖。同絹十五疋二丈新別一兩。楚二斗。辛紅彩色夾纈絹四疋新別五升。

〔夾纈絹〕しぼりぞめの絹をいふ。

〔二丈〕上文に據りて之れを補ふ。

〔五斗三升六合〕原本は四斗三升六合に作る、註釋の文に據りて改む。

〔三銖〕原本になし下文の註に據りて補へり。

〔百五十五具〕原本百五十九具に作る出雲本によりて改めたり。

頓給料

〔鋺〕貞本には鏡に作る按ずるに鋺、鋎、椀は共に正しからず、椀は盌に同じ、椀に作るを正しと爲す。

齋王定畢所請雜物

小麥二斗五升。二斗三升淺縹地夾纈絹十五疋二丈料別一升五合。一斗二升辛紅彩色夾纈絹四疋料別三升。紫草百斤、染紫草染雜物料。錢八十九貫七十二文。一貫二百文宣旨裝束料。六貫文戴人六人料各一貫文。二貫四百文乳母二人料各一貫二百文。四貫文駕馬女擔四人料各一貫文。二貫文小女四人料、各五百文。六貫文駕車女六人料各一貫文　四貫文采女一人代三人并四人料各一貫文。十六貫百文與長已下荷飼已上并卌六人冠直各三百五十文。十三貫二百文駕輿丁卌四人冠直各三百文。五貫八百文夾纈料絹十九疋二丈藍染料別二百文。六十四文辛紅彩色夾纈絹四疋料薪八圍直別八文。六百九十文夾纈料薪卌三荷直別卌文。四貫文灰卌斛直別二百文。二貫三百六十文夾纈料絹十九疋〔二丈〕染作工卌九人小半功料別六十文。一貫二百五十八文。同相作夫卌九人小半功料別卌二文。廿貫文雜用料。白米五十斛七斗八升六合。五十斛禊祭儲料。七斗八升六合夾纈工卌九人小半食料。黑米五十斛七斗八升六合。五十斛禊祭儲料。七斗八升六合夾纈相作夫卌九人小半食料。油五斗。禊祭儲料并雜用料。鹽四斛一升五合七勺。四斛禊祭儲并雜用料。一升五合七勺夾纈師并相作夫單七十八人大半料別二勺。酢六升。辛紅夾纈料絹四疋料別一升五合。酒一斛〔五斗三升六合〕。一斛三斗祭日料。二斗三升六合夾纈師并相作夫單七十八人大半料別三合。鰒、堅魚、干䲧各百斤。禊祭料。雜魚三斛一斗五升七合。三斛禊祭料。一斗五升七合夾纈師并相作夫單七十八人大半料別二合。海藻九斤十三兩〔三銖〕。夾纈師并相作夫單七十八人大半料別二兩。熟食〔百五十五具〕、杌四前。上折櫃廿一合。中折櫃廿一合。大笥廿五合。墨八十八具。

右所司辦備祭日供之。

頓給料。

絹五十疋。錢卅貫文。白米十斛。黑米廿斛。

右齋王初定依件請受。

齋王定畢所請雜物。

膳器。

銀飯〔鋺〕一合。銀箸三具。銀盞一合。銀匕二柄。銀箸臺二口。銀水〔鋺〕一口。銀唾壺一口。銀盤二口。白銅酒壺一合。白

〔臺盤〕食物を盛りたる盤を載する臺をいふ、又た盤臺ともいふ、四足にして、今日の食卓の如きもの也、貞文雜記に「盤は淸みて讀むを故實なり」と見ゆ、長臺盤、切臺盤、小臺盤等の種類あり。

〔小翳一枚〕諸器は總て偶數を以てす一は恐らく二の誤りなるべし。

〔銀平文筥二合〕原本は行障の次にあり、出雲本に據りて改めたり。

〔三端〕此の下恐らくは一丈四尺の四字脫漏なるべし

〔白銅〕原本になし內匠式に據りて補ふ。

銅杓一柄。（加白銅盤。）白銅風爐一具。白銅火爐一具。白木韓櫃三合。（加擔枋。）三尺朱漆臺盤三前。（加臺。）樽二口。行具。

輿一具。（加下案一脚。）腰輿一具。大翳二枚。（入平文筥。加雨皮。）小翳一枚。（入平文筥。加雨皮。）大笠二枚。（加平文柄幷志部。）銀棒壺二口。（加平文柄。）銀平文筥二合。行障六枚。（大四枚。小二枚。）金裝車一具。斗帳二具。輕幄骨二具。蓋二條。（各方一丈四尺。）新深紫淺紫黃帛各五丈六尺。緋帛一疋一丈二尺。同裏新緋帛四疋。紐五十六條新緋帛一丈二尺六寸。綱三條新緋帛一疋。中幡新布一端二丈。袋一口新兩面五尺四寸。裏新絹五尺四寸。帷八條（四條各十幅。四條各八幅。）新赤紫帛十二疋。緋帛十二疋。紐卅六條新紫帛四丈四尺。裏新帛四丈四尺。縫新緋絲一絢。絲四兩。斑幔九條（二條高各五尺。七條高各八尺。）新緋帛十五疋一丈八尺。黃帛十五疋二丈四尺。纈帛十一疋三丈七尺五寸五分。縫新纈絲一絢八兩。黃絲一絢四兩。絲六兩。袋八口新紺布三端一丈四尺。裏新布三端。（並申官請所司。更進内侍。令大藏省縫備。）紺絁幕七條。（緋裏。）同色幔五條。（纈裏。）柱桁四具。（請木工寮。）納服赤漆韓櫃十合。（請大藏省。）几帳十基。（六基三尺。四基一尺五寸。）櫛机一具。屛風六帖。（五尺二帖。四尺四帖。）沐槽一口。浴槽一口。

人給新。

釜五口。（一口受五斗。一口受四斗。三口受三斗。）酒海二合。（各受二斗。）下食盤十枚。臺盤七基。（八尺一基。四尺六基。）白銅箸四具。白銅匕八柄。白銅杓二柄。瓼卅口。藥袋卅四枚。

右依前件並隨損申官請換。下條三年一請之色同共請備。若遷替之日併納齋王家。

時服新。

絹卌疋。（夏廿疋。冬廿疋。）調布卌端。（夏廿端。冬廿端。）調綿二百屯。（夏百屯。冬百屯。）

右隨時申官請大藏省。

〔大炊寮〕神事、佛會、及び宴會等の給米、薪炭、器供、御料の舂米などの事を掌る役所也。

〔主殿寮〕殿庭の掃除、湯沐、薪油等の事を掌る役所也

〔大膳職〕膳羞を調進する役所也。

〔暈繝錦〕日暈の形を模様に織りなしたる錦をいふ、天皇、院の御座の疊の緣に此の錦を用ひたり。

冬料鋪設

三年一請

元日節料
白米廿斛、糯米四斛、大豆小豆各二斛、胡麻實各一斛、請主殿大炊寮。大油六斗、請主殿寮。鹽一斛。請大膳職。
右預前申レ官請受。
冬料鋪設。夏通用四月祭料。
錦端疊二枚、長各八尺、廣五尺。兩面端疊八枚。緣端疊十枚、出雲筵二枚。帳中料。
右齋王座料、每レ年申レ官請受。
緣端疊十枚、黃端疊十枚。
右人給料、與齋王座共受用。
三年一請雜物
暈繝錦四尺四寸、御机覆一條表料。兩面六疋、五丈一尺供膳朱漆臺盤三前覆表料各一丈七尺、四丈二尺同赤漆韓櫃三合覆表料各一丈四尺。四疋二丈七尺納レ服韓櫃十合深淺覆各十具料。緣絁三疋四丈五尺五寸、二丈五尺五寸牀一脚覆表料。三疋二丈納服韓櫃十合綱廿條料。緋絁六疋八尺。五疋五丈取物十人表衣料別三丈、一丈八尺大笠一蓋裏料、赤紫帛三疋五丈二尺、二疋斗帳夏幌二具紕表料。一疋五丈二尺冬幌二具同料。深縹帛四疋三尺五寸、四丈四尺夏幌代紕表料。一疋五丈二尺冬幌代同料。黃帛七疋、五疋與長十人衣料別三丈。二疋雜使女四人衣料別三丈。帛五疋。與長十人衣裏料。絹二百卅八疋一丈七尺九寸五丈一尺供膳朱漆臺盤三前覆裏料各一丈七尺、四丈二尺同赤漆韓櫃三具覆裏料各一丈四尺。五丈一尺供膳朱漆臺盤三前雨皮裏料各一丈七尺。四丈二尺同韓櫃三具雨皮裏料各一丈四尺。二丈取物筥二合袋裏料、四疋二丈七尺納レ服韓櫃十合深淺覆各十具料。一丈八尺大笠二蓋袋中帷料、二丈取物革筥二合雨皮裏料。二丈五尺五寸牀一脚雨皮裏料。四丈五尺五寸膳輿一具雨皮三條裏料。四尺四寸御机一具覆裏料、三疋三丈膳部六人表衣料。十八疋輿長十人取物十人膳部六人荷領十人合卅六人汗衫料別三丈。十二疋同半臂料別二丈。十二疋表日車副十四人手振十人

床子六脚。中床子四脚。大笠二蓋。楊筥六合。薦卌枚。茵百十四領。帖笠九十八枚。馬茵十六領駕女料。蠅茵九十八領。帖笠九十八枚。與長上下料。請內藏寮。

凡齋王參下上兩社祭。祭日、夜山城國儲松明。掾若目一人祇承。其名簿前一日進官。

凡雜色人男卅人、女卅一人、衣服料絹一百九十二疋二丈七十一疋夏料。百廿一疋三丈冬料。調綿二百八十三屯冬料。六丈貲布卌三端五丈五尺女卅一人夏料。布八十二端女卅一人冬料。並請大藏省。

凡作手八人衣服料調綿卅二屯冬料。布五十六端廿四端夏料。卅二端冬料。客作兒二人衣服料庸布六段二段夏料。四段冬料。庸綿八屯冬料。並請大藏省。其食料黑米六斛請民部省。鹽六升請大膳職。

凡門衛陣屋本府造之。垣舍木工寮造之。

凡院裏官舍木工寮修理之。其院司隨監。若不滿十年令致破損者。長官五位已上奪位祿。六位已下奪季祿。

〔掾〕國司の職員にて、介の下、目の上位にあり、國內を糺判し、文案を審署し、稽失を勾へ、非違を察するを掌る。

〔目〕國司の職員にて、掾の下、史生の上に位す、事を受けて上抄し、文案を勘署し、公文を繕寫し、官人の許に行きて文案の署を取る事を掌る。

〔位祿〕五位以上の官人に賜ふ祿をいふ、大寶元年初めて之れを制定せり京都にて之を給す

松明

雜色人衣服

作手客作衣食

齋院修理

延喜式卷第六

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第七　神祇七

〔悠紀〕大嘗祭及び新嘗祭に當りて神饌に新穀を奉るべき地をいふ、中世以後は近江を以て定められたり。

〔主基〕清ぎの意、中世以後は丹波と備中とを交替に定められたり。

〔了〕典藥式内匠式を按ずるに、蓋し七尺ないふ乎。

〔大〕林、貞、京の三本には無し、今補へり。

定月事

大祓使事

供幣

御禊

行幸路次神

踐祚大嘗祭。

凡踐祚大嘗、七月以前即位者、當年行事。八月以後者明年行事。此據受讓即位。非謂諒闇登極。其年預令所司卜定悠紀主基國郡。奏可訖即下知、依例准擬。又定檢校行事。

凡大祓使者、八月上旬卜定差遣左右京一人、五畿內一人、七道各一人。下旬更卜定祓使差遣。左右京一人、五畿內一人、近江伊勢二箇國一人。在京諸司晦日集祓如常儀。

凡大祓使發訖即差遣供幣帛於天神地祇使。太神宮諸王五位以上一人、中臣一人、忌部一人、卜部一人、五畿內一人、七道各一人。中臣忌部兩氏供之。其幣法大所各絹五尺、五色薄絁各一尺。絲一絢。綿一屯。木綿二兩、麻五兩。小所各絹三尺、絲一絢、綿一屯、木綿一兩。麻五兩、裹薦總九十枚。並以大藏物充之。大所小所並諸社預祈年祭者、總七十丁、大五十二人、物五十二枚。

凡天皇十月下旬臨幸川上爲禊、料五色薄絁各八尺、五色絹各八尺、御服庸布四段、祝詞料新庸布二段、安藝木綿八斤、木綿、麻各十二斤、黃蘗十枚、鍬四口。鰒、堅魚各六斤、腊二斗、鮭八隻、鹽八升、雜海菜六斤、酒、米各四斗、稻四束、食薦四枚、柏卅把、坏八口、瓮八口、匏二柄、藿籠二腰、夫六人。

凡行幸爲禊、路次祭神奉幣帛。座別五色薄絁各一尺、絁大五尺。小三尺。絲一絢。綿一屯。木綿二兩。麻五兩。裹薦夫。此二種准幣多少。

〔國郡司〕國司と郡司と也、國司とは、朝廷より諸國に置きたる地方官にして、國衙に在りて政務を掌る四分官即ち守介掾目の總稱也、郡司とは國司の下に屬して郡內の政務を行ふ、其の長官を郡領といふ。

〔鎭魂琴材〕鎭魂祭に用ふる琴の材料也。

〔山神〕日本書紀に據れば、伊弉諾伊弉冊二尊の御子にて、山祇(ヤマツミ)といふ由見えたり。

齋郡祭神

凡齋郡之齋院祭神八前。卜部二人。（兩國各給明衣幷袴。）

拔穗事

凡拔穗者。卜部率國郡司以下及雜色人等臨田拔之。先造酒兒。次稻實公。次御酒波。次雜色人。次庶氏。共拔訖於齋院乾收。先割取初拔四束（四把爲束。）擬供御飯。自餘皆擬黑白二酒。摠盛以籠。籠別一束。以二籠爲一荷。荷別著足。蓋以編茅。挿賢木著木綿。訖令駈使丁荷。每十荷子第一人領之。卜部及國郡司率雜色人以下。前後檢挍運送。其行列者御飯稻在前。自餘物次之。稻實公著木綿鬘引道。九月下旬到京。所卜定齋場院之外預作假屋。整收御稻。

多明米事

凡悠紀主基國各令卜食部辨備多明米卅斛。（多明酒料。）短帖卅枚。帖卅枚。席七十枚。長薦七十枚。簀五十枚。差駈使丁三百人與拔穗稻同領送。

禁守

凡應採大嘗殿材幷御膳柏。山及苅萓草野。齋場地等。八月上旬神祇官共國司卜定。（將卜齋場先爲解除。其所須物當國所輸。）訖即申官令山野所屬郡司一人專當禁守。勿入穢人。（採鎭魂琴材山准此。其鴟尾琴四面。令內匠寮造送神祇官。）

析埋院

凡析埋御膳幷備小齋人食院者。近宮之地隨便卜定。訖即鎭祭。其幣五色薄絁各一尺。倭文一尺。木綿麻各一斤。綿二屯。商布四段。鍬五口。米四升。酒一斗。鰒海藻各一斤。腊・雜調布二端。（並用國物。餘祭不須幣物色數者皆准此。）所作盛屋一宇。酒屋一宇。贄屋一宇。器屋一宇。大炊屋一宇。供御膳屋一宇。析埋雜魚屋一宇。備食屋一宇。（已上屋數及長廣隨事增減。）閇繫皆以板葺。掘井一處。其院四面各開一門。作訖稻實卜部等於院內爲解除。其新物各當國所輸。

齋場

凡在京齋場者。預分設兩處。悠紀在左。主基在右。兩國所送拔穗稻到京。即先鎭祭其地。訖造酒兒先執齋鍬始掃地。幷掘院四角柱埳。卜部率國郡司以下及役夫等。入卜食山採材。即祭山神。訖造酒兒先取齋斧始伐木。然後諸工下手。（採大嘗宮材准此。）又卜部率郡司以下雜色人等。入卜食野苅草。即祭野神。訖造酒兒先苅。次諸人

〔內外兩院〕內院と外院とにて、內院は方十二丈、外院は方四十丈也。

〔承塵〕なげし也。

〔神服〕伊勢神宮にて神衣を織るものをいふ、三河國赤引の糸にて和妙の御衣を織る也。

〔宮內省史生〕「フンビト」とも訓む。公文書を繕ひ寫し文案を署することを掌る、公事の時史生不參の時、召使を以て史生代とすることあり。

〔𤭯〕貞本には䟴に作る。

〔湯瓫〕太政官符にはこの上に「手」の字あり。

下手。大嘗宮草准此。其齋場者、分爲內外兩院、以柴爲垣、編木爲門。內院所造八神殿一宇、稻實屋一宇、黑酒白酒屋各一宇。倉代屋一宇、贄屋一宇、臼屋一宇、大炊屋一宇、麹室一宇。外院所造多明酒屋一宇、倉代屋一宇、供御料理屋一宇、多明料理屋一宇、麹室一宇、已上倉屋長廣隨宜。皆以黑木及草構葺、以草爲籬。但麹室塗壁。裏以長席、其酒屋麹室席爲承塵。曝布爲裏其井一處、卜定御井者造酒兒始掘、造酒兒井者、稻實卜部始掘、其二院營造既訖收御稻於稻實屋、但神饌稻造棚別置、祭御膳八神於內院。其幣准上。

神服

凡織神服者、九月上旬、神祇官差神服社神主一人、給驛鈴一口、遣參河國、召集神戸、卜定織神服長二人、織女六人、工手二人。訖率長以下十人、將當國神服部所輸調絲十絇、歸向京齋場、先祭織屋、然後始織。其作具所須小斧四具、鑿四具、刀子四枚、鉋四枚、錐三隻。火鑽三枚。已上析鐵二廷。鹿皮一張。木綿三斤五兩、麻三斤五兩、筥一編。薦四枚。男女十人明衣料調布四端八尺、並以官物充之。其神服織者兩國各一宇、神服男女憩屋各一宇、祝部憩屋一宇、長廣隨宜。並以黑木及草構葺。

雜器

凡應供神御雜器者、神語曰由加物。所司具注所須物數、預前申官、八月上旬差宮內省史生、遣五國監造。河內和泉一人、尾張參河一人、備前一人。到國先祓後始造作、其幣國別五色帛各一丈、木綿麻各六斤十兩。鍬四口、熊皮二張、並以大藏物充之。

河內國所造、兩笥廿合、大手洗盆十八口、𤭯十八口、小手洗盆九口。短女坏十六口。湯瓫十六口。小盤十六口、片盤廿八口、高盤百廿口。鹽坏十六口、粥盤八口、前下大盤五十六口、酒盞八口、盞廿口。多加須伎八十口。比良須伎八十口、比良加卅口。

和泉國所造、兩笥九口、𤭯由加一口、由加十口、鉢一口、燈坏六口、燈盤六口、油𤭯二口、匝盆六口。

〔酒瓶〕酒を容るゝ甕の稍大なるものをいふ、𨥴は匜と同じくみか也。

〔卌二口〕原本には卌三口とあり、林本、京本、貞本及び儀式帳に據りて改む。

由加物

〔由加物〕由加は齋瓮の義、「カ」は「カハラケ」「クシゲ」などの「ケ」と同じく容器の總稱なり、而して「ケ」は一般的に用ひらるゝも、「カ」は神事に關する場合にのみ用ひらる。

〔二張〕原本は二丁に作る、林本、京本、貞本に據りて改めたり。

尾張國所造。甕八口、缶九十口、筥坏卌口、𤭖八口、瓮十口、短女坏卌二口。酒𨥴八口、匜十六口、片坏卌口。陶臼八口、鐃𤭖八口。高盤卌口、坩十二口、都婆波十二口。酒盞十二口。酒垂八口。

參河國所造。等呂須伎卌口、都婆波卌二口、大十六口 中十六口、多志良加八口、由坏小坏各六十口、已豆伎匜各六十口。

備前國所造。𤭖卌口。水瓮卌口、都婆波六十口 大卌口 小卌口。缶卌口、置盞卌口、酒垂卌口。匜卌口、筥𨥴卌口、短女坏卌口、山坏卌口、片盤卌口、酒盞卌口、小坩卌口。陶臼卌口、已豆伎卌口。

凡應供神御由加物器料者、神語號雜貲、同爲由加物。九月上旬申官差卜部三人、遣三國。先大祓後行事。祈馬一疋、太刀一口、弓一張、箭廿隻、鍬一口、鹿皮一張、庸布一段、木綿八兩、麻一斤、鰒堅魚海藻滑海藻各二斤。鹽二升。米酒各二斗。已上當郡所輸。馬一疋、太刀一口、弓一張、箭廿隻、鍬一口、鹿皮一張、庸布一段、木綿麻各一斤、堅魚鰒各四斤、海藻滑海藻各四斤、酒米各四斗。鹽四升。已上阿波國麻殖那賀兩郡所輸。其供神幣物幷作具、及潛女衣料。人別布一丈四尺。並以大藏物充。但糧以當國正稅給。人別日米二升。紀伊七日。阿波十日。其物造了卜部監送齋場。分付兩國。但阿波國獻麁布木綿付神祇官。

紀伊國所獻、薄鰒四連。生鰒生螺各六籠。都志毛古毛各六籠、螺貝燒鹽十顆、並令賀多潛女十人量程採備。其幣五色薄絁各一尺、倭文一尺。木綿麻各五兩、葉薦一枚、潛女所須鑿十具。刀子二枚。

淡路國所造。瓮廿口。各受二斗五升。比良加一百口 各受一斗。坩二百口。各受一斗。其幣五色薄絁各三尺。倭文三尺。木綿麻各一斤。葉薦一枚。作具钁斧小斧各二具。鎌二張。造訖使當國凡直氏一人着木綿鬘執賢木引導。

阿波國所獻。麁布一端。木綿六斤。年魚十五缶、蒜英根合漬十五缶。乾羊蹄蹲鴟橘子各十五籠。已上忌部所作。鰒鮨五缶、細螺棘甲蠃石花等幷廿坩。已上那賀潛女十人所作。其幣五色薄絁各六尺、倭文六尺。木綿麻各二斤。葉薦一

〔井神〕古事記傳に「神祇官に坐摩御巫祭神五座中の生井神福井神綱長井神と申すもこの御井神を稱へ奉りし三名なるべし云云、井は殊に重くすべき處なれば誰が家にもほどほどに隨ひて此神をば齋奉るべき物ぞ」とあり。

酒米事

灰

大嘗宮

〔酒神〕弘仁私記に「少彦名命是造酒神也」とあり、また酒の古名を久斯とも伎とも云ふ、故に此の神を久志能加美とも申す。

〔一〕貞本に無し、衍字なるべし。

〔龍尾道〕大內裡大極殿前の道をいふ。又た龍尾壇とも稱す。

枚。作具鐇斧小斧各四具、鐮四張、鑿十二具。刀子四枚、鉇一枚、火鑽二枚。並令忌部及酒女等量程造備。

凡紀伊淡路阿波三國造由加物使向京之日、路次之國掃清路祗承。

凡舂黒白酒新米者、造酒兒先下手、次諸女共舂、訖祭井神、次祭竈神、始釀酒日、亦祭酒神。國別所須甕四口。各二口。黒酒各二口。白酒 新二口 直大嘗殿所充、大甌缶四口。臼四腰、杵八枚、箕八枚、槽二口、籮八口、志多美八口、平筥八口、酒槽二隻、明櫃四合、折櫃廿二合。大案一脚。韓櫃二合。大明櫃一合、小麻笥六口、匏七柄、杓四柄。灰簁二張、粉簁二張、篩二口以曝布覆之。其釀多明酒者、用國備米卅斛。

凡造酒司酒部一人、率燒灰一人駈使五人、入卜食山、先祭山神、燒得藥灰一斛、所賚小斧新鎌各一柄。明櫃二合。苫二枚。

凡造大嘗宮者、前祭七日、神祇官中臣忌部二官人依次立率悠紀國司及雜色人等、爲二一列。亦中臣忌部相別率主基國司以下、准上皆單行、各自朝堂院東西腋門入至宮地龍尾道南庭。分列左右。悠紀在東。主基在西。鎭祭其地。國別所備幣物、庸布四段、安藝木綿一斤。凡木綿二斤、麻二斤、鍬八口、米一斗、淸酒二斗、濁酒八升、鰒四斤、堅魚十斤、海藻十斤、腊一斗六升。鹽四升、甕十口、坏十口一國造酒兒各執賢木著木綿、竪於院四角及門處、訖執齋鍬布袋。納以紹以木綿。始搯殿四角柱搯、搯別八米。然後諸工一時起手、其宮東西廿一丈四尺、南北十五丈、中分東爲悠紀院、西爲主基院。宮垣正南開一門、內樹屏籬、東開一門、外樹屏籬。悠紀國作。正北亦開一門、內樹屏籬、西開一門、外樹屏籬。主基國作。一院中垣二國共作、中垣南端去屏一丈開一小門。二國共作。將柴爲垣、押椽八重、垣末插將椎枝。古語所謂志比乃和恵。諸門高九尺、廣八尺。小門准此。編薦爲扉。悠紀院所造正殿一宇。長四丈、廣一丈六尺。棟當南北。以北三間爲室、以南二間爲堂、南開二戸。蔀葺爲扉、甍置堅魚木八枚、著高博風。構以黒木、葺以青草。以檜竿爲天井、席爲承塵。壁蔀以草、表裏以席。地敷束草。所謂

〔兵庫寮〕兵庫の儀仗及び兵器の出納を掌る、敕により兵器を請ふ者あれば覆奏して渡す

〔朱雀應天會昌〕朱雀門は大內裡南面の正門にして、朱雀大路より宮城に入る口に在り、應天門は八省院南面の正門也、會昌門は南面の門にて應天門と相對す。

〔望陀布〕貝文雜記に「望陀布と云ふは、古代上總國望陀郡より調物に奉りし市也」とあり、紫藤の皮を摧き織りて絺綌とせるもの也。

廻立殿　神楯戟　御服　御帖　雜物

阿都加。上加竹簀。其室簀上加席。席上敷白端御帖。帖上施坂枕。（帖枕並掃部寮所設。其裝在彼寮式。）戸懸布幌。（內藏寮所設。）其堂東南西三面並表葦簾。裏席障子。但西面一間卷簾見障。此院東北角造膳屋一宇。（長廣與正殿同。）端當東西。東端二間蔀以椎柴。東壁下作棚閣。西端三間爲盛膳所。膳屋以北造臼屋一宇。（長一丈四尺。廣八尺。）蔀以椎柴。西端開戸。二屋南西並皆樹籬。別爲一院。正殿東南造御廁（ミカハヤ）一宇。（長一丈。廣八尺。）其壁同正殿。西面開戸。主基院殿與上相對。五日之內造畢。卽中臣忌部率御巫等祭殿及門。其幣物五色薄絁各三尺。糸二兩。安藝木綿一斤。筥二合。案一脚。米二升。酒二升。䍃二口。坏二口。並申官請受。（後鎭新亦准此。）

凡木工寮大嘗院以北造廻立宮正殿一宇。（長四丈。廣一丈六尺。棟當東西。其西三間。以席蔀之。東南開戸。）搆以黑木。以苫葺之。席爲承塵。供御雜物並所司依例供之。

凡大嘗宮南北門所建神楯四枚。（各長一丈二尺●。上廣三尺九寸。中廣四尺七寸。下廣四尺四寸五分。厚二寸。）戟八竿。（各長一丈八尺。）左右衞門府九月上旬申官令兵庫寮依樣造備。（楯丹波國楯縫氏造之。戟紀伊國忌部氏造之。祭畢便收衞門府。）又朱雀應天會昌等門所建大楯六枚。戟十二竿。亦令同寮修理。

凡御大嘗殿之時。所服御服二具。衾三條。敷衾三條。緋枕一枚。絹幞頭一枚。望陀布單一張。幌一具。筥三合。預令縫殿寮裁縫辦備。（並盛櫃。）又供同殿衾八條。單四張。令同寮縫備。

凡大嘗殿所須長帖十一枚。短帖六枚。簾十六張。預令掃部寮造備。

凡供神御雜物者。大膳職所備。多加須伎八十枚（高五寸五分。口徑七寸。無蓋。折足四所。別盛隱岐鰒烏賊各十四兩。熬海鼠十五兩。魚腊一升。海菜十兩。鹽五勺。）並居葉椀。●久菩具。覆以笠形葉盤。●此良具。（似笠形。）以木綿結垂裝餝。比良須伎八十枚。（高及口徑裝餝與多加須伎同。但足不折。別盛其物種種別五合。）山坏卅口。

〔貝〕出雲本に據り補ひたり。
〔比良須伎〕平敷にて、天皇御座の疊をいふ、即ち敷き並べたる常の疊の上に主上御座の料に繧繝緣疊二帖を敷き、其上に中唐綾御錦裏打一枚を敷く、又た平敷御座ともいひ、清涼殿の帳臺の前、東廂に敷設す。
〔納〕上文に據れば衍字なるべし。
〔齋服〕袍の上に着る白布の青摺にて其さま狩衣の如く右の肩に二條の赤紐をつけ、袖の中央に紙捻を垂るる也。
〔青摺布衫〕山藍の葉にて、青く模様を摺り付けたる衫也、人々常に之れを着用す。

別盛鰒貝鮮鰒鮓各一升。裝餝與比良須伎同。麁盛日筥三百合。長一尺五寸。廣一尺二寸。深三寸。盛東鰒筥五合。別納十斤。隱岐鰒筥十六合。別納十二斤。蒸海鼠筥十六合。別納十二斤。烏賊筥十二合。別納六斤。佐渡鰒筥四合。別納十斤。煮堅魚筥十五合。別一籠不聞。堅魚筥廿四合。別納十二斤。腊筥五十五合。別一籠不聞。貝理刀魚筥十一合。別納一斗五升。鮭筥三合。別納十隻。昆布筥四合。別納十五斤。海松筥六合。別納六斤。紫菜筥四合。別一籠不聞。海藻筥六合。別納六斤。橘子筥十合。別納十蔭。搗栗子筥五合。別納一升。扁栗子筥五合。別納二十籠不聞。干柿筥三合。別納五十連。梨子筥五合。別納一斗。煠栗子筥六合。別納一斗。削栗子筥三合。別納二斗。熟柿筥三合。別納一斗。楠筥三合。別納三顆。勾餅筥五合。末豆子筥五合。大豆餅筥十合。小豆餅筥十合。捻頭筥五合。粰粇筥九合。已上六種。別納六枚。祭畢山坏已上。皆置山野淨處。餘皆頒給諸司。造酒司所備等呂須伎十六口。日別酒五升。都婆波卅二口。十六口別酒一斗。十六口別五升。各以八口置一案。理八口。口別酒一斛五斗。各置一案。道六十口。小盞六十口。已上各盛筥置案。長女柏一筥。置案。祭畢都婆波已上亦置山野淨地。餘皆准上頒給。

【新理】凡新理所須刀子一百七十枚。長八十八。中二。小八十。並盛筥一合。預令所司造備。及木綿十八斤。手巾新調布三端二丈四尺。並以官物分付兩國。

【語部】凡物部門部語部者。左右衞門府九月上旬申官。預令量程參集。物部左右京各廿人。門部左右京各二人。大和國八人。山城三人。伊勢二人。紀伊一人。語部美濃八人。丹波二人。丹後二人。但馬七人。因幡二人。出雲四人。淡路二人。

【齋服】凡齋服者十一月中寅日給之。神祇官伯以下彈琴以上十三人。伯一人。副二人。祐二人。史二人。宮主一人。卜長上二人。巫部一人。琴彈二人。各榛藍摺綿袍一領。白袴一腰。史生以下神服以上一百卅七人。史生四人。神部廿四人。卜部十六人。使部十二人。阿波國忌部五人。神服七十六人。各青摺布衫一領。其御

〔一〕貞林京三本によりて補ふ。

〔大藏〕大藏省也、諸國の調及び金銀珠玉等を出納し、其他貢獻の雜物等の事を掌る。

〔內藏〕天皇するに供進物を納め置く所也神功皇后の時始めて之を設く。

〔主殿寮〕宮內省の被官也、殿庭の掃除、御湯浴、供御の御輿、蓋帷、帳及び燈燭等の事を掌る。

〔朝集堂〕大內裏八省院十二堂の一にして、大禮の時、百官待朝の所也。

〔大舍人寮〕中務省の被官也、左右あり、禁中に宿直して、雜事に奉仕し、行幸の時供奉する事を掌る。

巫猨女等服者。依新嘗例。小齋親王以下皆青摺袍。五位以上紅垂紐。淺深相副。自餘皆結紐。內親王及命婦以下女孺以上亦青摺袍紅垂紐。五位以上亦淺深相副、自餘皆結紐。親王以下女孺以上皆日蔭鬘。並卜食訖乃給。卯日夜帛被布被各五十領付小齋人等侍宿所。事畢返上。門部語部楯笛工並青摺布衫。物部紺布衫。中務省預支新巾、官請受。神祇官齋服令縫殿寮縫備。自餘縫物各付本司班給。其稻實卜部一人。禰宜卜部一人。各給當色。

凡十一月中寅日卯在朔日用上寅。以前內外庶事整齋已畢。鎮御魂。同新嘗。

班幣

卯日平明。神祇官班幣帛於諸神。謂下祈年預幣案上者上。座別絁五尺。五色薄絁各一尺。倭文一尺。木綿二兩。麻五兩。四座置一束。八座置一束。楯一枚。槍一竿。裹葉薦六尺。庸布一丈四尺。前神除布。是日中臣官人率卜部於宮內省卜諸司小齋人。訖各還私舍沐浴齋服赴集。別差中臣忌部官人各一人。率縫殿大藏等官人奉運衾單於大嘗宮悠紀殿。率內藏官人奉置御服幷絹幞頭於廻立殿。主殿寮供奉御湯二度。一度大嘗湯於當宮供之。二度小齋湯並於廻立殿供之。諸衛立仗。諸司陳威儀物。如元日儀。石上榎井二氏各二人。皆朝服率內物部卌人着紺布衫。立大嘗宮南北門神楯戟。門別楯二枚。戟四竿。木工寮預設格木於二門左右。其楯等祭事畢卽收左右衛門府。訖卽分就左右楯下胡床。門別內物部廿人。左右各十人。五人爲列。六尺爲間。伴佐伯各二人。分就南門左右外掖胡床。待時開門。左右近衛中將以下各引隊仗分衛大嘗宮。左右兵衛督以下各引部隊分衛其方。左右衛門督以下各引其隊分衛其方及門。門部糺察諸門出入。隼人司率隼人分立左右朝集堂前。待開門乃發聲。中務輔丞率大舍人寮及舍人。宮內輔丞率主殿寮掃部寮殿部掃部等。並公服執威儀物。左右分陳。式部設皇太子以下版位於大嘗宮南門外庭。相去丈尺見儀式。巳時主殿寮供奉大齋御湯。同尅南國供物發自齋場向大嘗宮。悠紀在左行。主基在右行。其行列者。神部四人左右前驅。着青摺衣。執賢木。神祇官一人在中頭。當色着木綿鬘。次神服長

〔衛門府〕靱負府ともいふ、宮城の外門を守り、且つ諸門の出入を管し、時々以て所部を巡檢して、不法の徒を戒め、并に隼人、門籍、門榜等の事を掌る。

〔門〕諸本になし、衍なるべし。

〔設〕儀式により補ふ。

〔猨女〕神祇官の職員也、祭祀の時舞を舞ふ事を掌る、猨女氏の女を以て之に任ず。

〔國栖〕大和國吉野郡國栖の人也、應神天皇以來、諸の節會に參りて、贄を獻じ、歌笛を奏する事に預る、之を「國栖の奏」といふ。

麁服案出自神祇官。就縫服案後。立定待內辨畢。衛門府開南二門。如元日儀。神祇官一人引神服男女等。到於大嘗宮膳殿。置酒柏出。又神祇官左右分引兩國供物參入。（除神御物之外。皆留朝集院庭中。各分安於東西堂。）到大嘗宮南門外。即悠紀左廻。主基右廻。共到北門。神祇官引神服宿禰入。奠繒服案於悠紀殿神座上。次忌部官一人入奠麁服案於同座上。訖共引出。乃兩國獻物各收盛殿。訖衛門府閇門。神祇官侍於北門內門左掖。造酒兒先舂御飯稻。次酒波等共不易手舂畢。作造燧火。兼炊御飯。安曇宿禰吹火。內膳司率諸氏伴造各供其職。料理御膳。宮內省官人左右分引大膳職造酒司各陳其所備供神物。高橋朝臣一人。安曇宿禰一人。各擎多賀須伎。其膳部酒部亦依次立。並入大嘗宮。共升殿就案頭。立定前頭先奠案上。自餘以次手傳奠。訖相續退出。（明日撤亦如之。）酉時主殿寮以燎火設燈燎於悠紀主基二院。院別二燈二燎。伴宿禰一人。佐伯宿禰一人。各率門部八人。（着青摺衫。）於南門外通夜設庭燎。悠紀主基二國進御殿油二斗。（夜別五升。）燈盞盤各八口。燈心布八尺。（夜別二尺。）炭八石。（日別二石。）續松三百廿炬。長各八尺。（夜別八十炬。）薪一千二百斤。（日別三百斤。）戌時天皇始警蹕臨廻立殿。主殿寮供奉御湯。即御祭服。入大嘗宮。其道者大藏省預鋪二幅布單。掃部寮設葉薦。且隨御步敷布單上。前敷後卷。（宮內輔以上一人執之。掃部允以上二人卷之。）人不敢蹋。還亦如之。宮中道幷庭者以八幅布單八條敷。大臣若大中納言一人率中臣忌部。（中臣立左。忌部立右。）御巫猨女左右前行。大臣立中央。中臣忌部列門外路左右。宸儀始出。主殿官人二人執燭奉迎。車持朝臣一人執菅蓋。子部宿禰一人。笠取直一人。並執蓋綱。膝行各供其職。還亦如之。御悠紀嘗殿。小齋群官各就其座。訖（大齋群官不入廻立殿院及大嘗宮中。）伴佐伯氏各二人開大嘗宮南門。衛門府開朝堂院南門。宮內官人引吉野國栖十二人。楢笛工十二人。（並着青摺布衫。）入自朝堂院東掖門。就位奏古風。悠紀國司引歌人入自同門。就位奏國風。伴宿禰一人。佐伯宿禰一人。各引語部十五人。（着青摺衫。）入自東西掖門。就位奏古詞。皇太子入自東南掖門。諸親王入自西門。大臣以下五位以上入自南門。並就幄下座。六位

〔八開手〕神を拜する時に手を八度拍つをいふ。

〔采女司〕宮內省の被官也、諸國の貢する采女等を檢校する事を掌る。

〔采女〕後宮の官女也、天皇に侍御し飯饌の事を掌る、名義に就き「嬰部」（ウナベ）、項髮（ウナガミ）等の說あれど未だ決し難し。

〔多志良加〕水を入るゝ器也。

〔一點〕漏刻にて一晝夜を四十八刻に分け、一時を四刻とし、一時の初刻を一點といふ。

〔警蹕〕天皇に御膳を供ふる時、又は出御の時に御先拂ひする聲をいふ。

以下在暉章修式二堂後、依次列立。俳官初入、隼人發聲、立定乃止。進於楯前拍手歌舞。五位以上共起就中庭版位、跪拍手四度。度別八遍。神語所謂八開手是也。皇太子先拍手而退。次五位以上拍手。六位以下相承拍手亦如之。但小齋人不入此例。訖退出。唯五位以上退就幄下位。坐定安倍氏五位二人。六位六人。左右相分共就版位。奏侍宿文武官分番以上簿。主典以上盡姓名。分番唯奏其數。凡奏事於御在所者皆跪。若雨濕則立奏。訖薦悠紀御膳。亥一尅進。四尅退。

薦御膳尅限事

行立次第。最前內膳司膳部伴造一人。執火炬。次采女司采女朝臣二人。左右前駈。次宮主卜部一人。著木綿鬘執竹杖。次主水司水取連一人。執蝦鰭盥槽。水部一人。執多志良加。次采女十人。一人執刷筥。一人執巾筥。一人執神食薦。一人執御食薦。一人執御枚手筥。一人執飯筥。一人執鮮物筥。一人執干物筥。一人執箸筥。一人執菓子筥。次內膳司高橋朝臣一人。執鰒汁漬。安曇宿禰一人。執海藻汁漬。膳部五人。一人執鰒羹坏。一人執海藻羹坏。二人執羹堝案。但一人守不關行列。酒部四人。二人舁酒案。二人舁黑白酒案。皆依次而立。薦享已訖撤亦如之。于時神祇官引內膳膳部等遷於主基膳殿。斯理神御饌。寢儀遷廻立殿。其儀如初。供奉御湯。訖易御服遷御主基帳殿。其儀一如悠紀。又国栖等奏古風。及皇太子以下拍手等並同悠紀儀。寅一尅薦主基御膳。進退如前。事見儀式。辰日卯一點還廻立殿。其儀如初。易御服還宮。警蹕侍衛如常儀。祭事已畢。百官各退。伴佐伯氏入閉門。二點神祇官中臣忌部引御巫等鎮祭大嘗宮殿。其幣如初。訖即令兩國民壞却。後鎮祭所平訖即鎮其地析。幣布四段。木綿二斤。麻二斤十兩。鍬八口。米八升。濁酒八升。鰒四斤十兩。堅魚十斤六兩。海藻十斤六兩。腊一斗六升。鹽四升。坩坏各八口。其御服衾單狹帖短帖席并廻立殿及供奉御湯之屬。並給忌部等。一物已上所用雜物經火之物給宮主卜部。自餘一物已上及雜舍等悉給中臣。四點神祇官進例祭仁壽殿。又悠紀主基兩國倉代等雜物列立於豐樂院庭中。先是所司預掃除豐樂院。悠紀主基二國各設御帳於殿上。悠紀在東。主基在西。諸司內外張設如常儀。式部預置版位。辰二點車駕臨豐樂院御悠紀帳。諸衛陣列如常。皇太子入自東北掖門。待親王以下就位畢乃入。

〔多賀須伎〕食物を盛る器にして、土器の下に捲物（マガモノ）の輪を添へたる臺をいふ。

〔比良須伎〕盆、皿の如き器物也。

〔風俗樂〕諸國の風俗を樂に作りたるものにして風俗歌に和して之を舞ふ、貞觀元年大嘗會の時之を奏せしより、爾來常に之を奏する例となれり。

〔久米舞〕雅樂の一種也、始め久米氏の人々歌ひしより名づく。

〔吉志舞〕神功皇后以來安倍氏世々奏する舞樂也。

遷御主基帳　御悠紀帳　午日　解齋歌事

五位以上入自南門。各就版位。六位以下相續參入。立定神祇官中臣堅賢木副。笏入自南門就版位。跪奏天神之壽詞。忌部人奏神璽之鏡劍。訖退出。（若有雨濕。郎立奏之。）次辨官五位一人亦就版位。跪奏兩國所獻供御及多明物色目。訖退出。皇太子先拍手退出。次五位以上倶拍手。六位以下相承拍手。並如前儀。以次退出。（式部取版位出。）宮内引大膳職造酒司所備多賀須伎比良須伎等物進見於庭。訖將去。是時大臣侍殿上喚五位以上。（先召舍人。郎少納言參入）如常。倶人就顯陽承觀二堂座。六位以下以次參入就觀德明義二堂。訖悠紀國別貢物參入。巳一點悠紀國薦御膳。給饗五位以上。（小齋悠紀國給之。大齋大膳職給之。）如宴會儀。兩國多明物並令辨官班給諸司。悠紀國獻當時鮮味。次國司引歌人入奏國風。訖撤朝膳。未一點遷御主基帳。皇太子以下亦就主基座。別貢物參入獻當時鮮味薦御膳奏國風等。並同前。事訖悠紀國給祿。

巳日辰一點御悠紀帳。三點薦御膳。次奏和舞。其召五位已上給饗。及六位已下參入奏風俗樂等。並同辰日。未二點御主基帳。供御膳之後奏田舞。庶事同前儀。事訖主基國賜祿。

午日卯一點却兩國帳。所司裝束尋常御帳。辰一點御此帳。召五位以上及六位以下參入同前日。四點敍位兩國司及氏人等。（敍位人數依勅處分。）巳一點所司薦御膳。（其器並雜具者。便用前日兩國所供御膳之具。）奏久米舞吉志舞。申一點奏大歌并五節舞。三點供奉解齋舞。先神服女舞。（數限四人。）次神祇官中臣忌部及小齋侍從以下番上以上左右分入。造酒司人別給柏。郎受酒而飮。訖郎爲鬘而舞之。酉一點皇太子已下五位已上給祿各有差。又諸司六位官以下及兩國驅使丁以上給祿。（神祇伯大副及齋郡少領以上加給馬一疋。）其悠紀主基兩國主典以下諸郡司主帳以上把笏者別物敍位者。依臨時處分。諸司六位以下給祿。兩國主典以下敍位或以未日行之。事見儀式。是日小齋侍從以下於宮内省解齋。歌舞如常。大膳大炊造酒及兩國司給酒食。訖脫齋服復常。

凡北野齋場雜舍事畢壞却、

凡大嘗祭畢差神祇官卜部二人、遣南齋園祭御膳神八座、即爲解齋、明日燒却齋場、其供神物皆以當國物充之、

凡晦日在京諸司集祓准二季儀、

凡大殿祭料安藝木綿十六斤、薦一合、米四升、酒二升、鰒一斤、小坏二口、机一脚、又大嘗御竈祭炊殿鎭等之例與尋常新嘗會同、

齋場　〔北野齋場〕宮城の北方の野を卜定して設けたる悠紀、主基の齋場をいふ。

解齋

大祓　〔祓〕祓に同じ、贖物を出して穢を修め、犯す所の罪及びあらゆる禍を解除する儀也。

大殿祭　〔二季儀〕夏冬季月の晦日に行ふ百官の大祓をいふ、文武天皇の大寶元年之を定む。

延喜式卷第七

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第八　神祇八

〔祝詞〕「宣說言」の義にして、神に告げ申す詞也。

〔所司〕神祇官の官伯より史人にて、迄をいふ。

祈年祭

〔進レ官〕官は太政官也。

〔處分〕貞觀政要の注に「區處曰レ處、分別還曰レ分」とあり、令集解に「處分與ニ校定一同義也」と見えたり。

〔神主〕禰宜、祝部等の上に立ち、神事一切の事を掌る人をいふ。

〔皇睦〕天皇の親しき皇祖神をいふ。

〔天社國社〕天神地祇に同じ。

祝詞

凡祭祀祝詞者。御殿御門等祭齋部氏祝詞。以外諸祭中臣氏祝詞。

凡四時諸祭不レ云ニ祝詞一者。神部皆依ニ常例一宣レ之。其臨時祭祝詞。所司隨レ事脩撰。前レ祭進レ官經ニ處分一然後行レ之。

祈年祭、

集侍神主祝部等諸聞食登宣。（神主祝部等共稱唯。餘宜准此。）高天原爾神留坐皇睦神漏伎命神漏彌命以天社國社登稱辭竟奉皇神等能前爾白久。今年二月爾御年祈將賜登爲而。皇御孫命宇豆能幣帛乎。朝日能豐逆登爾稱辭竟奉久登宣。

御年皇神等能前爾白久。皇神等能依左志奉牟。奧津御年乎手肱爾。水沫畫垂。向股爾泥畫寄氏。取作牟。奧津御年乎。八束穗能伊加志穗爾。皇神等能依左志奉者。初穗波千穎八百穎爾奉置氏。瓱閇高知。瓱腹滿雙氏。汁爾母穎爾母稱辭竟奉牟。大野原爾生物者。甘菜辛菜。青海原住物者。鰭能廣物。鰭能狹物。奧津藻菜邊津藻菜爾至氏爾。御服者明妙照妙和妙荒妙爾稱辭竟奉牟。御年皇神能前爾白馬白猪白鷄種々色物乎備奉氏。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

大御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久。神魂。高御魂。生魂。足魂。玉留魂。大宮乃賣。大御膳都神。辭代主登御名者白而辭竟奉者。皇御孫命御世乎手長御世登。堅磐爾常磐爾齋比奉茂御世爾幸閇奉故。皇吾睦神漏伎命神

〔阿須波〕「足場」の義にて、人が足にて踏み立つ地を守る神をいふ。

〔婆比支〕「はひ入君」の義にして、庭を護る神也。「はひり」は門より入りて家に至る間の庭をいふ。

〔湯都磐村〕「湯津」は「五百箇」の約にして、磐村は岩石の群れをいふ。

〔狹度〕[illegible]の義也。

〔谷蟆〕「蟾蜍」をいふ。

〔墜事〕漏れ殘る事をいふ。

〔大海原〕原字雲本により補ふ。

〔荷前〕諸國より朝廷に奉る貢物の初物をいふ。

〔久〕林貞二本により補ふ。

漏彌命登皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

座摩乃御巫乃稱辭竟奉皇神等能前爾白久。生井、榮井、津長井、阿須波、婆比支登御名者白氐、辭竟奉者、皇神能敷坐下都磐根爾宮柱太知立、高天原爾千木高知氐、皇御孫命乃瑞能御舍乎仕奉氐、天御蔭日御蔭登隱坐氐、四方國乎安國登平久知食故、皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

御門能御巫能稱辭竟奉皇神等能前爾白久。櫛磐間門命、豐磐間門命登御名者白氐辭竟奉者。四方能御門爾湯都磐村能如塞坐氐、朝者御門開奉、夕者御門閉奉氐、疎夫留物能自下往者下乎守、自上往者上乎守、夜能守日能守爾守奉故、皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

生島能御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久。生國足國登御名者白氐辭竟奉者。皇神能敷坐島能八十島者、谷蟆能狹度極、鹽沫能留限、狹國者廣久、峻國者平久、島能八十島墜事無、皇神等能依左志奉故、皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

辭別伊勢爾坐天照太御神能太前爾白久、皇神能見霽志坐四方國者、天能壁立極、國能退立限、青雲能靄極、白雲能墜坐向伏限、青海原者棹柁不干、舟艫能至留極。大海〔原〕爾舟滿都都氣氐。自陸往道者荷緒縛堅氐、磐根木根履佐久彌氐、馬爪至留限、長道無間久立都都氣氐、狹國者廣久、峻國者平久。遠國者八十綱打挂氐引寄如事、皇太御神能寄奉波、荷前者皇太御神能太前爾如横山打積置氐、殘乎波平聞看。又皇御孫命御世乎手長御世登堅磐爾常磐爾齋比奉。茂御世爾幸閉奉故、皇吾睦神漏伎神漏彌命登、宇事物頸根衝拔氐。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

御縣爾坐皇神等前爾白〔久〕。高市。葛木。十市。志貴。山邊。曾布登御名者白氐。此六御縣爾生出。甘菜辛菜乎持參

来氐皇御孫命能長御膳能遠御膳登聞食故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

山口坐皇神等能前爾白久。飛鳥。石村。忍坂。長谷。畝火。耳無登御名者白氐。遠山近山爾生立留大木小木乎本末打切氐持參來氐。皇御孫命能瑞能御舍仕奉氐。天御蔭日御蔭登隱坐氐。四方國乎安國登平久知食我故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

水分坐皇神等能前爾白久。吉野。宇陀。都祁。葛木登御名者白氐稱辭竟奉者。皇神等能寄志奉牟奧都御年乎八束穗能伊加志穗爾寄志奉者。皇神等爾初穗波穎毛汁爾母甁閇高知。甁腹滿雙氐稱辭竟奉氐。遺乎波皇御孫命能朝御食夕御食能加牟加比爾長御食能遠御食登赤丹穗爾聞食故。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。諸聞食登宣。

辭別忌部能弱肩爾太多須支取掛氐持由麻波利仕奉留幣帛乎。神主祝部等受賜氐。事不過捧持奉登宣。

春日祭

天皇我大命爾坐世。恐伎鹿嶋坐健御賀豆智命。香取坐伊波比主命。枚岡坐天之子八根命。比賣神。四柱能皇神等能廣前仁白久。大神等能乞賜能任爾。春日能三笠山能下津石根爾宮柱廣知立。高天原爾千木高知氐。天乃御蔭日乃御蔭止定奉氐。貢流神寶者。御鏡。御横刀。御弓。御桙。御馬爾備奉理。御服波明多閇照多閇和多閇荒多閇爾仕奉氐。四方國能獻留御調能荷前取並氐。青海原乃物者波多能廣物。波多能狹物。奧藻菜邊藻菜。山野物者。甘菜辛菜爾至麻氐。御酒者甕上高知。甕腹滿並氐。雜物乎如横山積置氐。神主爾某官位姓名乎定氐獻流。宇豆乃大幣帛乎安幣帛乃足幣帛登平久安久聞食登。皇大御神等乎稱辭竟奉久登白。如此仕奉爾依氐。今母去前母。天皇我朝廷乎平久安久。足御世乃茂御世爾齋奉利。常磐爾堅磐爾福閇奉利。預而仕奉流處處家家王等卿等乎母平久。天皇我朝廷爾伊加志夜久波叡能如久仕奉利。佐加叡志米賜登稱辭竟奉久登白。良久大原野枚岡等祝詞准此。

〔忍坂〕和名抄に「城上郡恩坂郷」とある地にして、神名帳の「忍坂山口坐神社」を指せり。

〔長谷〕和名抄に「大和國城上郡長谷波都勢」とある地にして、神名帳の「長谷山口坐神社」也。

〔水分坐皇神〕速秋津日子、速秋津比賣二神が海河に持分けて座め「天之水分」「國之水分」神をいふ。

〔春日祭〕

〔由麻波利〕「いむ」と同義なる齋む（い）より出でたる「齋まふ」といふ動詞より轉ぜる動詞也。

〔伊波比主命〕書紀に「齋主神號、齋之大人、此神今在于東國檝取之地」とあり、卽ち經津主神をいふ。

廣瀨大忌祭

〔御膳〕「御」は敬語にて、「け」は食物の義なること「うけ」のうを略せる也。
〔持須留〕「持つ」に敬語の助動詞の附きたる「持たす」に「あり」の熟合せる語にて掌る意也。
〔和稻〕稻の粗を揖り去りて米にしたるをいふ。
〔荒稻〕穗の儘なる稻をいふ。
〔辛〕「菜」本によりて補ふ。
〔御刀代〕「御年代」の義にして、神の御料の稻を作る田をいふ。
〔秋祭〕十一月の新嘗祭をいふ。
〔狹久那多利〕「さ」は「眞」と同意の接頭語にて「くなだり」は「下垂」の義也、川が山より落つる狀をいふ。

廣瀨大忌祭

廣瀨能川合爾稱辭竟奉流皇神能御名乎白久、御膳持須留若宇加能賣能命登御名者白氏。此皇神御前爾辭竟奉久、皇御孫命能宇豆能幣帛乎令捧持氏、王臣等乎爲使氏稱辭竟奉久乎。神主祝部等諸聞食登宣。

奉流宇豆乃幣帛者。御服明妙。照妙。和妙。荒妙。五色物。楯。戈。御馬。御酒者。瓱能閉高知。瓱能腹滿雙氏。和稻荒稻爾。山爾住物者毛能和支物。毛能荒支物。大野能原爾生物者。甘菜。辛菜。青海原爾住物者。鰭能廣支物。鰭能狹支物。奧津藻菜。邊津藻菜爾至萬氏置足氏奉久登。皇神前爾白賜部止宣。如此奉宇豆乃幣帛乎安幣帛能足幣帛止。皇神御心平久安久聞食氏。皇御孫命能長御膳能遠御膳乃赤丹能穗爾聞食牟。皇神能御刀代乎始氏。親王等王臣等天下公民能取作奧都御歲者。手肱爾水沫畫垂。向股爾泥畫寄氏。取將作奧都御歲乎。八束穗爾皇神能成幸賜者。初穗者汁爾母穎爾母千稻八千稻爾引居氏。如橫山打積置氏秋祭爾奉牟登。皇神前爾白賜登宣。

倭國能六御縣乃山口爾坐皇神等前爾母。皇御孫命能宇豆乃幣帛乎。明妙照妙和妙荒妙五色物楯戈至萬氏奉。如此奉者。皇神等乃敷坐須山山乃口自狹久那多利爾下賜水乎。甘水登受而。天下乃公民乃取作禮留奧都御歲乎。惡風荒水爾不相賜。汝命乃成幸波閇賜者。初穗者汁爾母穎爾母。瓱乃閉高知。瓱腹滿雙氏。如橫山打積置氏奉牟。王等臣等百官人等。倭國乃六御縣能刀禰男女爾至萬氏。今年某月某日。諸參出來氏。皇神前爾宇事物頸根築拔氏。朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉久乎。神主祝部等諸聞食止宣。

龍田風神

龍田風神祭

龍田爾稱辭竟奉皇神乃前爾白久。志貴島爾大八島國知志皇御孫命乃遠御膳乃長御膳止。赤丹乃穗爾聞食須五穀物乎始氏。天下乃公民乃作物乎。草乃片葉爾至萬氏。不成一年二年爾不在。歲眞尼久傷故爾。百能物知人等乃

卜事爾出牟神乃御心者。此神止白止負賜支此乎物知人等乃卜事乎以氏卜止母。出留神乃御心母無止白止聞看氏。皇御孫命詔久、神等乎波天社國社止忘事無久遺事無久稱辭竟奉止思志行波須乎誰神曾天下乃公民乃作作物乎不成傷神等波我御心曾止悟奉禮宇氣比賜支、是以皇御孫命大御夢爾悟奉久天下乃公民乃作作物乎。惡風荒水爾相都都不成傷波、我御名者天乃御柱乃命國乃御柱乃命止御名者悟奉氏。吾前爾奉牟幣帛者。御服者明妙照妙和妙荒妙。五色乃物楯戈御馬爾御鞍具氏、品品乃幣帛備氏。吾宮者朝日乃日向處。夕日乃日隱處乃龍田能立野乃小野爾。吾宮波定奉氏。吾前乎稱辭竟奉者。天下乃公民乃作作物者五穀乎始氏。草乃片葉爾至萬氏成幸閉奉牟止悟奉支。是以皇神乃辭教悟奉處仁宮柱定奉氏此乃皇神能前爾稱辭竟奉止、皇御孫命乃宇豆乃幣帛令捧持氏王臣等乎爲使氏稱辭竟奉久止皇神乃前爾白賜事乎神主祝部等諸聞食止宣。

奉宇豆乃幣帛者。比古神爾御服明妙照妙和妙荒妙。五色物楯戈御馬爾御鞍具氏。品品乃幣帛獻。比賣神爾御服備。金能麻笥金能樆金能桛「明妙照妙和妙荒妙」。五色能物。御馬爾御鞍具氏。雜幣帛奉氏。御酒者甕能閉高知甕腹滿雙氏。和稻荒稻爾。山爾住物者毛乃和物毛乃荒物。大野原爾生物者甘菜辛菜。青海原爾住物者鰭能廣物鰭能狹物。奧都藻菜邊都藻菜爾至萬氏爾如横山打積置氏奉此宇豆乃幣帛乎安幣帛能足幣帛止。皇神能御心爾平久聞食氏、天下能公民能作作物乎。惡風荒水爾不相賜。皇神乃成幸閉賜者。初穗者甕能閉高知甕腹滿雙氏。汁爾母穎爾母八百稻千稻爾引居置氏。秋祭爾奉牟止。王卿等百官能人等。倭國六縣能刀禰男女爾至萬氏。今年四月七月者云今年七月。諸參集氏。皇神能前爾宇事物頸根築拔氏。今日能朝日能豐榮登爾稱辭竟奉流皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎。神主祝部等被賜氏。墮事無久奉止宣命乎諸聞食止宣。

平野祭

〔皇御孫命〕崇神天皇を指せり。

〔宇氣比〕「太占」(フトマニ)の一種にして、神意を受けて、是非曲直吉凶成敗を豫知するをいふ。

〔天乃御柱乃命國乃御柱乃命〕神名帳に「平群郡龍田坐天御柱國御柱神社二座」とある神にて、天乃御柱乃命は下に比古神とあるに當り、國乃御柱乃命は比賣神とあるに當る。

〔麻笥〕苧を績みて入るゝ器、即ち桶をいふ。

〔樆〕方形の臺に一尺二寸程の柱を立てたる物にて績むに用ふ。

〔明妙云々〕以下八字衍なるべし。

「平野祭」

天皇我御命爾坐、今木與利仕奉來流皇大御神能御前爾白久、皇大御神乃乞志給乃任爾、此所能底津石根爾宮柱廣敷立氏、高天乃原爾千木高知氏、天能御蔭日能御蔭登定奉氏、神主爾某官位姓名定氏進流神財波、御弓、御太刀、御鏡、鈴、衣笠、御馬乎引並氏、御衣波明多閇照多閇和多閇荒多閇爾備奉利氏、四方國能進禮留御調能荷前乎取並氏、御酒波瓺戸高知瓺腹滿並氏、山野能物波甘菜辛菜、青海原乃物波波多能廣物波多能狹物、奧都毛波邊津毛波爾至氏、雜物乎如横山置高成氏獻流宇豆乃大幣帛乎平久所聞食氏、天皇我御世乎堅磐爾常磐爾齋奉利、伊賀志御世爾幸閇奉氏、萬世爾坐御令在米給登稱辭竟奉久登申。

又申久、參氏仕奉流親王等臣等百官人等乎、夜守日守爾守給氏、天皇我朝廷爾伊夜高爾伊夜廣爾、伊賀志夜具波江乃如久立榮之米令仕奉給登稱辭竟奉久止申。

久度古開。

天皇我御命爾坐世久度古開二所能宮氏爾之供奉來流皇御神能廣前爾白久、皇御神能乞比給之任爾此所能底津石根爾宮柱廣敷立。高天能原爾千木高知氏。天能御蔭日能御蔭止定奉氏、神主爾某官位姓名定氏進流神財波。御弓御太刀御鏡鈴衣笠御馬乎引並氏。御衣波明多閇照多閇和多閇荒多閇爾備奉氏、四方國乃進禮留御調乃荷前乎取並氏。御酒波瓺乃閇高知瓺能腹滿並氏、山野乃物波甘菜辛菜、青海原乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物、奧都毛波邊都毛波至未天、雜物乎如横山置高成氏獻流宇豆乃大幣帛乎平久所聞氏。天皇我御世乎堅磐爾常磐爾齋奉利、伊賀志御世爾幸閇奉氏、万世爾御令坐米給登稱辭竟奉久登申。

又申久。參集氏仕奉親王等王等臣等百官人等乎毛。夜守日守爾守給氏。天皇我朝廷爾彌高爾彌廣仁、伊賀志夜具波江能如久立榮氏令。仕奉給登稱辭竟奉良久登申。

〔今木與利云々〕今木たるは、初め桓武天皇の御母天高知日之子姬尊の御本郷なる今木、即ち大和の田村の里の後宮に祭れる神なるを後ち平野に遷し祀れるによりてかくいへり。

〔衣笠〕絹を張れる長柄の傘にして、天皇し若くは貴人の頭上にさしかくるもの也その笠傾き易きを以て左右に綱を通して、兩方より之を支ふ。

〔久度古開〕

〔照多閇〕林貞二本によりて補ふ。

〔伊賀志夜具波江〕「嚴彌孫生」(イカシヤコハエ)の義にして、榮え茂るをいふ。

〔爾〕雲本になし。

六月月次。十二月准レ此。

集侍神主祝部等諸聞食登宣。

高天原爾神留坐皇睦神漏伎命神漏彌命以、天社國社登稱辭竟奉皇神等前爾白久、今年乃六月月次幣帛、十二月者云云今年十二月月次幣帛。明妙照妙和妙荒妙備奉氐、朝日乃豐榮登爾、皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

大御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久。神「御」魂高御魂生魂足魂玉留魂大宮賣御膳都神辭代主登御名者白氐辭竟奉者、皇御孫命乃御世乎手長御世登堅磐爾常磐爾齋比奉、茂御世爾幸閇奉故、皇吾睦神漏伎命神漏彌命登、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

座摩乃御巫、辭竟奉皇神等乃前爾白久、生井榮井津長井阿須波婆比伎登御名者白氐辭竟奉者、皇神能敷坐下都磐根爾宮柱太知立、高天原爾千木高知氐、皇御孫命瑞乃御舍仕奉氐、天御蔭日御蔭登隱坐氐、四方國乎安國登平久知食須故、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

御門乃御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久。櫛磐間門命豐磐間門命登御名者白氐辭竟奉者、四方能御門爾、湯都磐村能如久塞坐氐。朝者御門開奉。夕者御門閇奉氐。踈布留物乃自レ下往者下乎守、自レ上往者上乎守、夜乃守日乃守爾守奉故、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

生島乃御巫能辭竟奉皇神等乃前爾白久。生國足國登御名者白氐辭竟奉者、皇神乃敷坐島乃八十島者、谷蟆能狹度極、鹽沫乃留限「利」。狹國者廣久、嶮國者平久。島乃八十島墮事無久、皇神等寄志奉故、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

辭別伊勢爾坐天照太御神乃太前爾白久。皇神乃見霽志坐四方國者、天乃壁立極、國乃退立限。青雲能靄極、白雲乃

六月月次

〔月次〕「つきなみ」は「月並」の義にして毎月の意也。卽ち毎月あるべき祭を月次祭といふを本義とすれども、實は六箇月間を取り纏めて、六月と十二月の二季の十一日に之を行ふ也。

〔集侍云々〕月次祭の趣旨、祭神、祭儀、祝詞等は殆ど祈年祭と同じきを以て、以下、祈年祭の條を參照すべし。

〔「御」〕諸本になし、衍なるべし。

〔「利」〕雲本になし、林貞京三本之を削す。

〔鵜自物〕鵜の如くにの意にして、下の「頸根衝拔」に係る副詞的修飾語也

〔頸根衝拔〕人が頸を前に突き垂れて神を敬ふ狀をいへる也。

〔御縣〕朝廷の御料の地をいふ。

〔皇御孫之命〕爰は瓊々杵尊を指せり

〔天津高御座〕「天津」は美稱にして、「高御座」は王子の御座の義より轉じて皇位の意にいへり。

〔天津璽乃劍鏡〕天津璽はもとより、劍、鏡、玉の三種の神器なるも、玉は比較的に輕く取り扱ひてかくいへる也

大殿祭

〔壽詞〕酒宴を張りて壽を祝ぐ儀也。

向伏限、青海原者棹柁不干、舟艫乃至留極、大海原爾舟滿都都氣氐。自陸往道者、荷緒結堅氐、磐根木根履佐久彌氐、馬爪至留限、長道無間久立都都氣氐、狹國者廣久、峻國者平久、遠國者八十綱打掛氐引寄如事、皇大御神乃寄志奉波、荷前者皇大御神乃前爾、如横山打積置氐、殘乎波平聞看、又皇御孫命御世乎、手長御世登、堅磐爾常磐爾齋比奉、茂御世爾幸閇奉故、皇吾睦神漏伎命神漏彌命登、鵜自物頸根衝拔氐、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

御縣爾坐皇神等乃前爾白久、高市、葛木、十市、志貴、山邊、曾布登御名者白氐、此六御縣爾生出甘菜辛菜乎持參來氐。皇御孫命乃長御膳乃遠御膳登聞食故、皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

山口爾坐皇神等乃前爾白久、飛鳥、石村、忍坂、長谷、畝火、耳無登御名者白氐、遠山近山爾生立流大木小木乎、本末打切氐持參來氐、皇御孫命乃瑞乃御舍仕奉氐、天御蔭日御蔭登隱坐氐、四方國乎安國登平久知食我故、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。

水分爾坐皇神等乃前爾白久、吉野、宇陀、都祁、葛木登御名者白氐辭竟奉者、皇神等能依志奉牟奧都御年乎、八束穗乃伊加志穗爾依志奉者、皇神等爾初穗者頴爾毛汁爾毛。瓱閇高知、瓱腹滿雙氐稱辭竟奉氐、遺乎波皇御孫命乃朝御食夕御食乃加牟加比爾、長御食乃遠御食登、赤丹穗爾聞食故、皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登諸聞食止宣。

辭別、忌部乃弱肩爾太襁取掛氐、持由麻波利仕奉禮留幣帛乎。神主祝部等受賜氐。事不過捧持奉登宣。

大殿祭

高天原爾神留坐須皇親神魯企神魯美之命以氐、皇御孫之命乎天津高御座爾坐氐、天津璽乃劍鏡乎捧持賜天、言壽 古語云、許止保企。言壽詞、如今壽詞之詞。 宣志久、皇我宇都御子皇御孫之命、此乃天津高御座爾坐氐、天津日嗣乎、万千秋

〔事問之磐根木「根」乃立〕「事問之」は「事騷ぎし」の意にして、「磐根木根乃立」は木の伐り杭や枯木等をいへる也、「根」は衍字なるべし。
〔草能可岐葉〕草の葉の一小片をいふ。
〔屋船命〕宮殿を神格化していへる語也。
〔天津奇護言〕極めて靈妙なる祝言の義にして、下の「敷坐」以下の詞を指せる也。
〔番繩〕柱と橫木とを結合する所を結ぶ綱也。
〔天乃血垂〕「ちたり」は「戸垂」の意にして、前の下津綱根に對して、宮殿の上部を指せる也。
〔爾〕雲本によりて補ふ。

乃長秋爾、大八洲豐葦原瑞穗之國乎安國止平久氣所知食止。古語云。志呂志女須。言寄奉賜比氏。以二天津御量一氏。事問之磐根木「根」乃立知、草能可岐葉毛言止氏。天降利賜比志。食國天下登天津日嗣所知食須皇御孫之命乃御殿乎、今奧山乃大峽小峽爾立留木乎齋部能齋斧乎以伐採氏。本末乎波山神爾祭氏、中間乎持出來氏、齋鉏乎以齋柱立氏。皇御孫之命乃天之御翳日之御翳止造奉仕流。禮。瑞之御殿。古語云。阿良可。汝屋船命爾天津奇護言乎。古語云。久須志伊波比許登。以氏言壽鎭白久。此乃敷坐大宮地底津磐根乃極美。下津綱根古語番繩之類、謂二之綱根一。波府虫能禍無久、高天原波青雲乃靄久極美。天乃血垂飛鳥乃禍無久、堀堅多留柱桁梁戸牖乃錯比。古語云、伎加比。動鳴事無久、引結幣留葛目能緩比、取葺計留草乃噪岐。古語云、蘇蘇岐。無久、御床都比能佐夜伎、夜女能伊須須伎伊豆都志伎事無久、平久安久奉護留神乃御名乎白久。屋船久久遲命。是木靈也。屋船豐宇氣姫命登。是稲靈也。俗詞宇賀能美多麻。今世產屋以二辟木束稲一置二於戸邊一、乃以レ米散二屋中一之類也。御名乎波奉稱氏。皇御孫命乃御世乎堅磐常磐爾奉護利。五十橿御世乃足良志御世爾。田永能御世止奉レ福爾依氏、齋玉作等我持齋利持淨波麻利。造仕禮留瑞八尺瓊能御吹乃五百都御統乃玉爾。明和幣。古語云二爾伎氏多倍一。曜和幣乎附氏、齋部宿禰某我弱肩爾太襁取懸氏、言壽伎鎭奉事能漏落武事乎波。神直日命大直日命聞直志見直氏、平久良氣安久良氣所知食登白。

詞別白久。大宮賣命登御名乎申事波、皇御孫命乃同殿能裏爾塞坐氏、參入罷出人能選比所知志。神等能伊須呂許比阿禮比坐乎。言直志和志。古語云。夜波志。坐氏。皇御孫命朝乃御膳夕乃御膳供奉流比禮懸伴緒襁懸伴緒乎。手躓足躓古語云。麻我比。不レ令レ爲氏、親王諸王諸臣百官人等乎。己乖乖不レ令レ在、邪意穢心無久。宮進米爾進宮勤勤之米氏。咎過在乎波見直志聞直坐氏、平久良氣安久良氣令二仕奉一坐爾依氏。大宮賣命止御名乎稱辭竟奉久登白。

御門祭。

櫛磐牖豐磐牖命登御名乎申事波。四方内外御門爾如二湯津磐村一久塞坐氏。四方四角與利疎備荒備來武。天能麻

我都比登云神乃言武惡事爾、古語云麻我許登。相麻自許利、相口會賜事無久。自レ上往波上護利、自レ下往波下護利、待防掃却言排坐氐、朝波開レ門、夕波閉レ門氐、參入罷出人名乎問所知志、咎過在乎波神直備大直備爾見直聞直坐氐、平良氣久安良氣久令二奉仕一賜故爾。豐磐牖命櫛磐牖命登御名乎稱辭竟奉久登白。

六月晦大祓　十二月准レ之。

集侍親王諸王諸臣百官人等諸聞食止宣。天皇朝廷爾仕奉留比禮挂伴男手襁挂伴男靫負伴男劒佩伴男伴男能八十伴男乎始氐、官官爾仕奉留人等乃過犯家牟雜雜罪乎、今年六月晦之大祓爾祓給比清給事乎諸聞食止宣。

高天原爾神留坐皇親神漏岐神漏美乃命以氐、八百萬神等乎神集集賜比、神議議賜氐、我皇御孫之命波、豐葦原乃水穗之國乎、安國止平久知所食止事依奉伎。如此依志奉志國中爾、荒振神等乎波神問志問志賜、神掃掃賜比氐、語問志磐根樹立草之垣葉乎毛語止氐、天之磐座放、天之八重雲乎伊頭乃千別爾千別氐天降依志奉支。如此久依志奉志四方之國中止、大倭日高見之國乎安國止定奉氐。下津磐根爾宮柱太敷立、高天原爾千木高知氐、皇御孫之命乃美頭乃御舍仕奉氐、天之御蔭日之御蔭止隱坐氐、安國止平氣久所知食武國中爾成出武天之益人等我過犯家牟雜雜罪事波。天津罪止、畔放溝埋樋放頻蒔串刺生剝逆剝屎戶、許許太久乃罪乎天津罪止法別氣氐。國津罪止八、生膚斷死膚斷。白人胡久美。己母犯罪己子犯罪母與子犯罪子與母犯罪畜犯罪昆虫乃災高津神乃災高津鳥災畜仆志。蠱物爲罪許許太久乃罪出武。如此出波。天津宮事以氐、大中臣天津金木乎本打切末打斷氐、千座置座爾置足波志氐。天津菅曾乎本苅斷末苅切氐。八針爾取辟氐、天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮。如此久乃良波、天津神波天磐門乎押披氐、天之八重雲乎伊頭乃千別爾千別氐所聞食武。國津神波高山之末短山〔之〕末爾上坐

〔比禮挂伴男〕領に比禮（首より肩を纏ひ、胸の所に垂れたる巾）を懸けて、陪膳などに仕ふる采女を一大秡いふ。

〔手襁挂伴男〕御膳を調理する事を掌る膳部を指していへり。

〔靫負伴男〕武官を指していへり、靫は矢を盛りて背に負ふ爲の具にして名義は「矢筒」(ヤツ)の轉音なりといふ。

〔天津宮事〕高天原なる天照大御神の朝廷にて行はせらるる儀式に倣ひてその如く行ふをいふ。

〔金木〕葉や小枝を取去りたる細き木をいふ。

〔菅曾〕菅の葉を細く割きたるものをいふ。

〔之〕雲本によりて補ふ。

〔伊穗理〕氣のぼりの義、雲霧を云ふ。

〔科戸之風〕風神級戸邊神に因み云ふ。

〔如久〕雲本に據り久字を補ふ。

〔高山之〕雲本に據り之字を補ふ。

〔瀨織津比咩〕伊弉冊尊の御子八十枉日神也、

〔速開都比咩〕雲本及祝詞考に據り比字を補ふ。

〔耳振立〕馬は耳疾き獸なる故云ふ。

〔三極大君〕三台星なり、

〔司命司籍〕星名也

〔東王父〕西王母と共に氣の名也、老君中經に、東王父者、青陽氣也、とあり、又た西王母者、大陰之氣也、と見えたり。

〔鎭火祭〕

氏。高山之伊穗理短山之伊穗理乎撥別氏所聞食武。如此所聞食氏波。皇御孫之命乃朝廷乎始氏天下四方國爾波。罪止云布罪波不在止。科戸之風乃天之八重雲乎吹放事之如久。朝之御霧夕之御霧乎朝風夕風乃吹掃事之如久。大津邊爾居大船乎舳解放艫解放氏。大海原爾押放事之如久。彼方之繁木本乎燒鎌乃敏鎌以氏打掃事之如久。遺罪波不在止祓給比清給事乎。高山之末短山之末與理佐久那太理爾落多支速川能瀨坐須瀨織津比咩止云神大海原爾持出奈武。如此持出往波。荒鹽之鹽乃八百道乃八鹽道之鹽乃八百會爾坐須速開都比咩止云神持哥呑氏牟。如此久哥呑氏波。氣吹戸坐須氣吹戸主止云神。根國底之國爾氣吹放氏牟。如此久氣吹放氏波。根國底之國爾坐速佐須良比咩登云神持佐須良比失氏牟。如此久失氏波。天皇我朝廷爾仕奉留官官人等乎始氏天下四方爾波自今日始氏罪止云布罪波不在止。高天原爾耳振立聞物止馬牽立氏。今年六月晦日夕日之降乃大祓爾祓給比清給事乎諸聞食止宣。四國卜部等大川道爾持退出氏祓却止宣。

東文忌寸部獻横刀時呪。西文部準此。

謹請皇天上帝。三極大君。日月星辰。八方諸神。司命司籍。左東王父。右西王母。五方五帝。四時四氣。捧以銀人。請除禍災。捧以金刀。請延帝祚。呪曰。東至扶桑。西至虞淵。南至炎光。北至弱水。千城百國。精治万歲。万歲万歲。

鎭火祭。

高天原爾神留坐皇親神漏義神漏美能命持氏。皇御孫命波豐葦原乃水穗國乎。安國止平久所知食止。天下所寄奉志時爾事寄奉志天都詞太詞事乎以氏申久。神伊佐奈伎伊佐奈美乃命。妹背二柱嫁繼給氏。國能八十國嶋能八十嶋乎生給比。八百万神等乎生給比。麻奈弟子爾火結神生給氏。美保止被燒氏石隱坐氏。夜七日晝七日。吾乎奈見給比曾。吾奈妹乃命止申給支。此七日波不足氏隱坐事奇止氏。見所行須時。火乎生給氏。御保止乎所燒坐支。

〔與美津枚坂〕黄泉國と顯國の境に在りと云はるゝ坂也

〔心悪子〕火神也。

〔水神匏云々〕火神荒び給はゞ水神は匏、埴山姫即ち土神は川菜持ちて鎭めよと也、匏は水を入るゝ器川菜は火を消す功ありと云はる。

〔八衢比古云々〕伊弉諾尊邪神に逐はれ給ひし時千引石にてそを防ぎし道反大神を八衢比古等二柱に分ちて申す、又た久那斗の御名義は來莫門也その折、來る莫れと門を塞ぎ邪神を防ぎ給ひし神也。

〔荒妙爾〕寔本、祝詞考に據り爾字を補ふ。

道饗祭

大甞祭

如是時爾、吾名妹乃命能吾乎見給布奈止申乎、吾乎見阿波多志給止比津申給氐、吾名妹能命波上津國乎所知食志倍。吾波下津國乎所知牟止申氐、石隱給氐、與美津枚坂爾至坐氐。所思食久、吾名妹命能所知食上津國爾心悪子乎生置氐來奴止宣氐、返坐氐、更生子、水神。匏、川菜。埴山姫。四種物乎生給氐、此能心悪子乃心荒比留波、水神匏埴山姫川菜乎持氐鎭奉止事教悟給支。依此氐稱辭竟奉者、皇御孫能朝廷爾御心一速比給波志止爲氐進物波、明妙照妙和妙荒妙五色物乎備奉氐、青海原爾住物者鰭廣物鰭狹物奥津海菜邊津海菜爾至万氐、御酒者瓱邊高知瓱腹滿雙氐。和稻荒稻爾至万氐爾、如横山置高成氐、天津祝詞乃太祝詞事以氐稱辭竟奉久止申。

道饗祭。

高天之原爾事始氐皇御孫之命止稱辭竟奉。大八衢爾湯津磐村之如久塞坐皇神等之前爾申久。八衢比古八衢比賣久那斗止御名者申氐辭竟奉久、根國底國與鹿備疎備來物爾相率相口會事無氐。下行者下乎守理、上往者上乎守理、夜之守日之守爾守奉齋奉止禮。進幣帛者明妙照妙和妙荒妙爾備奉御酒者瓱邊高知瓱腹滿雙氐。汁爾母穎爾母山野爾住物者毛能和物毛能荒物、青海原爾住物者鰭乃廣物鰭狹物奥津海菜邊津海菜爾至万氐爾横山之如久置所足氐。進宇豆乃幣帛乎平久聞食氐。八衢爾湯津磐村之如久塞坐氐、皇御孫命乎堅磐爾常磐爾齋奉茂御世爾幸閇奉給止申、又親王王等臣等百官人等天下公民爾至万氐爾平久齋給止部。神官天津祝詞乃太祝詞事乎以爾稱辭竟奉止申。

大甞祭。

集侍神主祝部等諸聞食登宣。

高天原爾神留坐皇睦神漏伎神漏彌命以、天社國社登敷坐留皇神等前爾白久。今年十一月中卯日爾、天都御食乃

〔宇豆乃比〕納受し給ふ也。
〔豐明〕豐は美稱、明は大御酒を聞召して、龍顏赤らみ給ふを申す。
〔皇御孫〕雲本に據り御字を補ふ。

齋戸祭

〔上下〕天皇東宮の御料は御衣と御袴、中宮の御料は御衣と御裳也。
〔宇豆乃〕雲本及祝詞考に據り乃字を補ふ。
〔御坐所〕天皇の御坐所に非ず齋戸即ち八神殿を申す

太神宮

〔山田原〕止由氣宮儀式帳に、今稱二度會宮一、在二度會郡沼木郷山田原村一、とあり、今の山田也。

豐受宮

長御食能遠御食登、皇御孫命乃大嘗聞食牟爲故爾、皇神等相宇豆乃比奉氐、堅磐爾常磐爾齋比奉利、茂御世爾幸閉奉牟依志氐。千秋五百秋爾平久安久聞食氐、豐明爾明坐牟皇御孫命能宇豆乃幣帛乎、明妙照妙和妙荒妙爾備奉氐、朝日豐榮登爾稱辭竟奉久乎諸聞食登宣。

事別忌部能弱肩爾太襁取掛氐、持由麻波利仕奉禮留幣帛乎、神主祝部等請氐事不落捧持氐奉登宣。

鎭御魂齋戸祭。中宮春宮齋戸祭亦同。

高天之原爾神留坐須皇親神漏伎神漏美能命乎以氐。皇御孫之命波豐葦原能水穗國乎安國止定奉氐。下津磐根爾宮柱太敷立。高天之原爾千木高知氐、天之御蔭日之御蔭止稱辭竟奉氐、奉御衣波上下備奉氐。宇豆乃幣帛波、明妙照妙和妙荒妙五色物、御酒波甕邊高知甕腹滿雙氐。山野物波甘菜辛菜、青海原物波鰭廣物鰭狹物奧津海菜邊津海菜爾至万氐、雜物乎如橫山置高成氐獻留宇豆幣帛乎、安幣帛能足幣帛止平久聞食氐。皇我朝廷乎常磐爾堅磐爾齋奉。茂御世爾幸閉奉給氐、自此十二月始來十二月爾至万氐、平久御坐所御坐給止、今年十二月某日齋比鎭奉止申。

伊勢太神宮。

二月祈年六月十二月月次祭。

天皇我御命以氐。度會乃宇治乃五十鈴川上乃下津石根爾稱辭竟奉流皇太神能太前爾申久。常毛進流二月祈年（月次祭准以六月月次之辭相換。）大幣帛乎。某官位姓名乎爲使天令捧持氐進給布御命乎申給久止申。

豐受宮。

天皇我御命以氐。度會乃山田原乃下津石根爾稱辭竟奉流豐受皇神爾申久。常毛進流二月祈年（月次祭唯以六月月次之辭相換。）

〔服織麻續〕服織は天御梓命の裔、麻續は天物知命の裔にて、共に神別也。
〔三郡〕度會郡、多氣郡、飯野郡をいふ、神の御縣也、
〔國々〕大和伊賀志摩尾張參河遠江にある太神の御厨の戸を云ふ。
〔處々〕大和伊賀伊勢等にある神田也
〔御調絲〕神戸より太神に御調ぐ糸を云ふ
〔太玉串〕木綿を賢木に著けしを云ふ。
〔由貴〕斎忌の假字、齋み愼みて調へしを云ふ。
〔命〕京本、林本により補ふ。
〔取〕衍なるべし。

大幣帛乎、某官位姓名乎爲使天令捧持氏進給布御命乎申給止久申。

神衣祭

四月神衣祭。九月准此。

度會乃宇治五十鈴川上爾大宮柱太敷立天高天原爾千木高知天稱辭竟奉留天照坐皇太神乃太前爾申久、服織麻續乃人等乃常毛奉仕留和妙荒妙乃織乃御衣乎進事乎申給止申。荒祭宮毛如是申天進止宣。禰宜内人稱唯。

六月月次

六月月次祭。十二月准此。

度會乃宇治五十鈴乃川上爾大宮柱太敷立天高天原爾千木高知天辭稱竟奉留天照坐皇太神乃太前爾。申進留天津祝詞乃太祝詞乎神主部物忌等諸聞食止宣。禰宜内人等共稱唯。

天皇我御命爾坐、御壽乎手長乃御壽止湯津磐村常磐堅磐爾伊賀志御世爾幸倍給比。阿禮坐皇子等乎毛惠給比。百官人等天下四方國能百姓爾至万天。長平久作食留五穀乎毛豐爾令榮給比、護惠比幸給止、三郡國國處處爾御調絲由貴乃御酒御贄乎如海山置足成天。大中臣太玉串爾隱侍天。今年六月十七日乃朝日乃豐榮登爾稱申事乎。神主部物忌等諸聞食止宣。神主部共稱唯。荒祭宮月讀宮毛如是久申進止宣。神主部共稱唯。

神嘗祭

九月神嘗祭。

皇御孫命御命以伊勢能度會五十鈴河上爾稱辭竟奉流天照坐皇太神能太前爾申給久。常毛進流九月之神嘗乃大幣帛乎、某官某位某王中臣某官某位某姓名乎爲使氏。忌部弱肩爾太襁取懸持齋波理令捧持氏進給布御命乎申給止久申。

豐受宮同祭

豐受宮同祭。

天皇我御命以氏、度會能山田原爾稱辭竟奉流皇神前爾申給久。常毛進留九月之神嘗能大幣帛乎、某官某位某王中臣某官某位某姓名乎爲使氏。忌部弱肩爾太襁取懸持齋波理令捧持氏進給布御命乎申給止久申。

同神嘗祭。

度會乃宇治能五十鈴乃川上爾。大宮柱太敷立氐。高天原爾千木高知天。稱辭竟奉留天照坐皇太神乃太前爾申進留。天津祝詞乃太祝詞乎。神主部物忌等諸聞食止宣。禰宜内人等共稱唯。

天皇我御命爾坐。御壽乎手長乃御壽止湯津如磐村常磐堅磐爾伊賀志御世爾幸倍給比。阿禮坐皇子等乎毛惠給比。百官人等天下四方國乃百姓爾至万天。長平久護惠美幸比給止。三郡國國處處爾寄奉禮留神戸人等能。常毛進留由紀能御酒御贄懸税千税餘五百税爾如横山久置足成氐。大中臣太玉串爾隱侍天。今年九月十七日朝日豐榮登爾。天津祝詞乃太祝詞辭乎稱申事乎。神主部物忌等諸聞食止宣。禰宜内人等稱唯。荒祭宮月讀宮毛爾如此久申進止宣。神主部共稱唯。

齋内親王參入時。

進神嘗幣詞申畢。次即申云。辭別氐申給久。今進流齋内親王波依恒例氐。三年齋比清麻波理氐。御杖代止定氐進給事波。皇御孫之尊乎。天地日月止共爾。常磐堅磐爾平氣久安久御座坐武止。御杖代止進給布御命乎。大中臣茂桙中取持氐恐美恐美毛申給久止申。

遷奉太神宮祝詞。豐受宮進此。

皇御孫命能御命乎以氐。皇太御神能太前爾申給久。常乃例爾依氐。廿年爾一遍比。大宮新仕奉氐。雜御裝束物五十四種。神寶廿一種乎。儲備天。祓清實持忌氐波理預供奉辨官某位某姓名乎差使氐進給狀乎申給久止申。

遷却祟神祭。

高天之原爾神留坐氐事始給志。神漏伎神漏美能命以氐。天之高市爾八百萬神等乎神集集給比。神議議給氐

同神嘗祭

〔懸税〕神戸の百姓より奉獻せる新穀の稲を云ふ、神宮の内外の玉垣に懸けて獻る故此名あり。

〔千税余云々〕奉獻の稲束多きを云ふ

〔御杖代〕行旅杖を倚頼とする故、皇太神の朝廷を離れ他國に坐ますに供奉し給ふ齋王を喩へて申す。

齋王參入

〔常磐〕雲本によりこれを補ふ。

〔茂桙云々〕神と君との御中を取持ちてと也、茂桙は嚴桙也、桙は柄の中を持つ故下文に掛けし也。

〔命〕他本により補ふ。

〔祭〕雲本により補ふ。

遷却祟神

〔天穗日之命〕天照太神の御子也。
〔健三熊之命〕天穗日之命の御子也。
〔高津鳥殃〕天若彦天神の御使名鳴女と云ふ雉を射殺せるより、天神これを射返し給ひ、天若彦死せるを云ふ
〔天御舍〕天皇の御殿を申す。
〔神奈我良〕神なるが故にの意也。
〔宇須波伎〕治め有する也
〔米爾毛云々〕米に和稻、穎は荒稻に當る、稻を米又は粿にて奉る也。
〔八物〕八取机物の義、多くの供物を數多の机に置き獻る也。
遣唐奉幣
〔播磨國云々〕同國揖保郡室津泊を指すならむと云ふ。

我皇御孫之尊乎、豐葦原能水穗之國乎安國止平氣久所知食止、天之磐座放氐、天之八重雲乎伊頭之千別爾千別氐天降所寄奉志時爾、誰神乎先遣波、水穗國能荒振神等乎神攘攘平氣武止、神議議給時爾、諸神等皆量申久、天穗日之命乎遣而平氣武止申支。是以天降遣時爾、此神波返言不レ申氐。次遣志健三熊之命毛隨二父事一氐、返言不レ申。又遣志天若彦毛返言不レ申乎、高津鳥殃爾依氐立處爾身亡支。是以天津神能御言以氐、更量給氐、經津主命健雷命二柱神等乎天降給氐、荒振神等乎神攘攘給比、神和和給氐、語問志磐根樹立草之片葉毛語止氐、皇御孫之尊乎天降所寄奉志支。如此久天降所寄奉志四方之國中止、大倭日高見之國乎安國止定奉氐、下津磐根爾宮柱太敷立高天之原爾千木高知氐、天之御蔭日之御蔭止仕奉氐、安國止平氣久所知食武、皇御孫之尊乃天御舍之内仁坐須皇神等波、荒備給比健備給比、其給事無志氐、高天之原爾始志事乎、神奈我良毛所知食氐、神直日大直日爾直志給比氐、自二此地一波四方乎見霽、山川能清地爾遷出坐氐、吾地止宇須波伎坐世止。進幣帛者明妙照妙和妙荒妙爾備奉氐、見明物止鏡、翫物止玉、射放物止弓矢、打斷物止太刀、馳出物止御馬、御酒者䍃戸高知䍃腹滿雙氐、米毛爾毛穎爾毛、山爾住物者毛乃和物毛能荒物、大野原爾生物者甘菜辛菜、青海原爾住物者鰭廣物鰭狹物奧津海菜邊津海菜爾至万氐爾、横山之如久八物爾置所足氐、奉留宇豆乃幣帛乎、皇神等乃御心毛明爾、安幣帛乃足幣帛止、平久聞食氐、祟給比健備給事無志氐、山川乃廣久清地爾遷出坐氐、神奈我良鎭坐世止稱辭竟奉止申。

遣唐使時奉幣

皇御孫尊乃御命以氐、住吉爾辭竟奉留皇神等乃前爾申賜久、大唐爾使遣佐牟止爲爾、依二船居無一氐、播磨國與理船乘止爲氐、使者遣佐牟止所念行間爾、皇神命以氐、船居波吾作牟止教悟給比支。教悟給比那我良、船居作給部禮、悅已嘉志美。禮代乃幣帛乎、官位姓名爾令二捧賚一氐進奉久止申。

〔八十日云々〕日は多かれど今日こそ吉日と也、生日は生き榮ゆる日、足日は事の成る日也。
〔爾〕雲本に據りこれを補ふ。
〔青垣山〕青山の垣の如く圍繞せる樣を云ふ。
〔日眞名子〕貴き愛子の義、下の熊野大神即ち須佐之男命に掛く。
〔櫛御氣野命〕須佐之男命を申す。
〔天乃美賀秘〕秘は氣の誤、天の御蔭の義と云ふ。
〔如火瓫云々〕飛び散る火の如く虛空に輝く美を云ふ異說極て多し。
〔八百丹〕杵築の枕詞也。
〔乃〕雲本に據い補ふ、次の利も同じ

出雲國造神賀詞。出雲國造者。穗日命之後也。
八十日日波在止毛。今日能生日能足日爾出雲國國造姓名恐美恐美毛申賜久。掛毛畏岐明御神止大八島國所
知食須天皇命乃手長能大御世止齋止。若後齋時者加後字。爲氐。出雲國乃青垣山內爾下津石根爾宮柱太敷立氐。高天原爾
千木高知坐須伊射那伎乃日眞名子。加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命。國作坐志大穴持命二柱神乎始天。百八十
六社坐皇神等乎。某甲我弱肩爾太襷取掛天。伊都幣能緒結天乃美賀秘冠利天。伊豆能眞屋爾麁草乎。伊豆能
席登苅敷天。伊都閇黑益之天能𤭖和爾。齋許母利氐。志都宮爾忌靜米仕奉天。朝日能豐榮登爾。伊波比乃返事能
神賀吉詞奏賜波久奏。高天能神王高御魂神魂命能皇御孫命爾。天下大八島國乎事避奉之時。出雲臣等我遠祖
天穗比命乎國體見爾遣時爾。天能八重雲乎押別氐。天翔國翔氐。天下乎見廻氐。返事申給久。豐葦原乃水穗
國波。晝波如五月蠅水沸支。夜波如火瓫光神在利。石根木立青水沫毛事問天。荒國在利。然毛鎭平天。皇御孫
命爾安國止平久所知坐之米牟止申氐。己命兒天夷鳥命爾。布都怒志命乎副氐天降遣天。荒布留神等乎撥平氣。國作之
大神乎毛媚鎭天。大八嶋國現事顯事令事避支。乃大穴持命乃申給久。皇御孫命乃靜坐牟大倭國申天。己命和
魂乎。八咫鏡爾取託天。倭大物主櫛𤭖玉命登名乎稱天大御和乃神奈備爾坐。己命乃御子阿遲須伎高孫根乃命
乃御魂乎葛木乃鴨能神奈備爾坐須。事代主命能御魂乎宇奈提爾坐。賀夜奈流美命能御魂乎飛鳥乃神奈備爾坐
天。皇孫命能近守神登貢置氐。八百丹杵築宮爾靜坐支。是爾親神魯伎神魯美乃命宣久。汝天穗比命波。天皇命
能手長大御世乎。堅磐爾常磐爾伊波比奉。伊賀志乃御世爾佐伎波閇奉登仰賜志次乃隨爾供齋若後齋時者加後字。仕奉氐。
朝日乃豐榮登爾。神乃禮自利臣能禮自利登。御禱乃神寶獻良久止奏。白玉能大御白髮坐。赤玉能御阿加良毗坐。
青玉能水江玉乃行相爾。明御神登大八嶋國所知食天皇命能手長大御世乎。御横刀廣爾誅堅米。白御馬能前足爪

〔蹈立事〕獻物の馬を神賀の詞を奏する庭に牽き來るを云ふ。
〔志太米〕兆の爲也
〔生御調〕生き物の獻物也。
〔倭文能云々〕倭文の筋模樣の直なる如く御心も亂れず確かに座せと也。
〔須須伎振〕振濯也
〔麻蘇比〕眞澄也、曇なきを云ふ。
〔意志波留志天〕押晴かす也、拭ひ清むるを云ふ。
〔臣禮白利登〕利字雲本に據り補ふ。「禮白利」は禮代也

後足爪蹈立事波、大宮能内外御門柱乎。上津石根爾蹈堅米、下津石根爾蹈凝立振立流事波、耳能彌高爾、天下乎所知食左牟事志太米、白鵠乃生御調能玩物登、倭文能大御心毛多親爾、彼方古川岸、此方能古川岸爾生立若水沼間能彌若叡爾御若叡坐、須須伎振遠止美乃水乃彌乎知爾御袁知爾、麻蘇比乃大御鏡乃面乎、意志波留志天見行事能己登久。明御神能大八嶋國乎、天地日月等共爾、安久平久知行牟事能志太米止、御禊神寶乎擎持氐。神禮白利、臣禮白利登。恐彌恐彌毛天津次能神賀吉詞白賜久登奏。

延喜式卷第八

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔大〕次の小と共に神社の格也、もと神社の格に天社、國社の別あり、其後大中小社の別、律にも見え、世に行はれしが、延喜式に至り中社を除く、古今要覽に、すべて天御中主神の御裔にして、高産魂神、神産魂神の御末の神をすべて大社とし、その係の臣神の裔を小となされしなるべし、と見えたり。

〔神産日神〕日本紀神代卷に、高天原所生神名曰天御中主尊、次高皇産靈尊、次神皇産靈尊、とあり、産靈〔産日〕は物を生成する靈異なる神靈を申す。

延喜式卷第九 神祇九

神名上。宮中。京中。五畿內。東海道。

天神地祇總テ三千一百三十二座。

社二千八百六十一處。

前二百七十一座。

大四百九十二座。

三百四座。並預祈年月次新嘗等祭之案上官幣。就中七十一座預相嘗祭。

一百八十八座。並預祈年國幣。

小二千六百卌座。

四百卅三座。並預祈年案下官幣。

二千二百七座。並預祈年國幣。

宮中神卅六座。

神祇官西院坐御巫等祭神廿三座。並大。月次新嘗。

御巫祭神八座。並大。月次新嘗。中宮東宮御巫亦同。

神産日神。

高御産日神。

〔玉積産日神〕人の魂の浮き離るゝを鎭め給ふ神也。

〔生産日神〕足産日神と共に人の命を永く保たせ給ふ神なり。

〔大宮賣神〕太玉命の御子也、君臣の間を和げ叡慮を悦ばし奉る神徳ある神とせらる。

〔事代主神〕大國主神の長子也。

〔櫛石窓神〕古事記の天孫降臨の條に天石門別神、亦名謂二櫛石窓神一、亦名謂二豐石窓一、此神者、御門之神也、とあり、然れば下の豐石窓神とはもと一柱なるを分ちて祭れる也。

玉積産日神。　生産日神。
足産日神。　大宮賣神。
御食津神。　事代主神。
座摩巫祭神五座。並大。月次新嘗。
生井神。　福井神社。
綱長井神。　波比祇神。
阿須波神。
御門巫祭神八座。並大。月次新嘗。
櫛石窓神。四面門各一座。　豐石窓神。四面門各一座。
生島巫祭神二座。並大。月次新嘗。
生島神。　足島神。
宮内省坐神三座。並名神大。月次新嘗。
園神社。　韓神社二座。
大膳職坐神三座。並小。
御食津神社。　火雷神社。
高倍神社。
造酒司坐神六座。大四座。小二座。

〔並大〕もと並小とありしを一書により補ふ。

〔月次新嘗〕新年祭式及び一書により補ふ。

〔隼神社〕四條坊門千本東に在り、祭神詳かならず。

〔羽束師坐高御産日神社〕古川村の北方に在り。

〔與杼神社〕淀村大字水垂に在り、社記に淀姫神を祭ると傳ふ。

〔大井神社〕祭神在所詳かならず、山城志に在二者掛村一とあるも疑はし、松尾神社の末社堰神を祭れるならむと神社覈録に記けり。

大宮賣神社四座。並大。月次新嘗。

酒殿神社二座。並小。

酒彌豆男神。　酒彌豆女神。

主水司坐神一座。小。

鳴雷神社。

京中坐神三座。並大。

右京二條坐神社二座。並月次相嘗新嘗。

太詔戸命神。　久慈眞智命神。

同京四條坐神一座。月次新嘗。

隼神社。

畿内神六百五十八座。大二百卅一座。小四百廿七座。

山城國一百廿二座。

大五十三座。並月次新嘗。就中十一座預二相嘗祭一。

小六十九座。並官幣。

乙訓郡十九座。大五座。小十四座。

羽束師坐高御産日神社。大。月次新嘗。　與杼神社。

大井神社。　乙訓坐火雷神社。名神大。月次新嘗。

〔石作神社〕もと石作村に在りしが、今社殿廢亡し、大歳神社の相殿に祭らる、祭神石作連祖神かと云ふ。
〔走田神社〕奥海印寺村に在り。
〔向神社〕向日町に在り、向日神を祭る。
〔大歳神社〕灰方村に在りて、大歳神を祭る。
〔久何神社〕下久我村に在りて、賀茂建角身命を祀る、或は久我直祖神を祭るならむと云ふ
〔阿刀神社〕池浦村に在り、祭神阿刀宿禰祖神かと云ふ
〔大酒神社〕大秦村桂宮院内に在り、祭神融通王（安國帝皇子）かと云ふ。
〔元名大辟神〕恐らく後人の傍註混入せしならん。

石作神社。
御谷神社。
向神社。
茨田神社。
[illegible]川神社。
簀原神社。
入野神社。
神足神社。
葛野郡廿座。大十四座。小六座。
葛野坐月讀神社。名神大。月次新嘗。
墮川神社。
松尾神社二座。並名神大。月次相嘗新嘗。
墮川御上神社。
平野祭神四社。並名神大。月次新嘗。
天津石門別稚日女神社。名神大。月次新嘗。
大酒神社。元名大辟神。
愛宕郡廿一座。大八座。小十三座。

走田神社。
國中神社。
大歳神社。大。月次新嘗。
石井神社。
久何神社。
小倉神社。大。月次新嘗。
自玉手祭來酒解神社。名神大。月次新嘗。元名山埼社。
木島坐天照御魂神社。名神大。月次相嘗新嘗。
阿刀神社。
深川神社。
櫟谷神社。
梅宮坐神四社。並名神大。月次新嘗。
伴氏神社。大。月次新嘗。

〔名〕一本により補ふ。
〔出雲井於神社〕下鴨村賀茂御祖神社の邊に在る同社の末社也、祭神御井神かと云ふ。
〔小野神社〕山城志に、在高野村とあるも詳かならず祭神小野氏祖神か
〔太田神社〕上賀茂村に在り、猿田彦大神を祭る。
〔三井神社〕賀茂御祖社の末社にて其社邊に在り、建角身命、伊可古夜日女、玉依日女を祭神とす。
〔飛鳥田神社〕横大路村に在り、別雷神高神を祭る。
〔真幡寸神社〕中島村城南森に在り、別[illegible]神を祭る
〔日向神社〕山城志に、在西山村とあるも不詳也、僙遠日命を祭る。

賀茂別雷神社。亦名若雷。名神大。月次相嘗新嘗。
賀茂御祖神社二座。並名神大。月次相嘗新嘗。
賀茂山口神社。
小野神社二座。鍬靫。
末刀神社。
伊多太神社。
鴨川合坐小社宅神社。名神大。月次相嘗新嘗。
太田神社。
大柴神社。
片山御子神社。大。月次相嘗新嘗。

紀伊郡八座。大三座。小五座。
御諸神社。
大椋神社。
真幡寸神社二座。

宇治郡十座。大五座。小五座。
宇治神社二座。鍬靫。
許波多神社三座。並大。月次新嘗。

出雲井於神社。大。月次相嘗新嘗。
出雲高野神社。
賀茂波爾神社。
久我神社。
須波神社。
貴布禰神社。名神大。月次新嘗。
鴨岡太神社。
三井神社。名神大。月次新嘗。
高橋神社。

稲荷神社三座。並名神大。月次新嘗。
飛鳥田神社。一名柿本直。

日向神社。
天穂日命神社。

〔宇治彼方神社〕宗像神を祭る。
〔山科神社〕勸修寺村に在り、祭神稚武王かと云ふ。
〔雙栗神社〕佐山村に在り、祭神不詳。
〔水度神社〕寺田村に在り、天照高御魂、海神、豐玉姫命を祭る。
〔月讀神社〕大住村に在り、天月神を祭る。
〔咋岡神社〕草内村に在り、祭神不詳。
〔内神社〕内里村に在り、祭神内臣祖かと云ふ。
〔粟神社〕市邊村粟谷に在り、祭神粟直祖神かと云ふ。
〔甘南備神社〕薪村西南甘南備山に在り、祭神甘南備眞人の祖かと云ふ。
〔地祇神社〕神字恐らく衍なるべし。

宇治彼方神社。鍬。
山科神社二座。並大。月次新嘗。

久世郡廿四座。大十一座。小十三座。
石田神社。大。月次新嘗。
水主神社十座。並大。月次新嘗。就中同水主坐天照御魂神、水主坐山背大國魂命神二座預ニ相嘗祭一。
荒見神社。
水度神社三座。鍬。
伊勢田神社三座。鍬。
室城神社。
雙栗神社三座。
旦椋神社。
巨椋神社。

綴喜郡十四座。大三座。小十一座。
樺井月神社。大。月次新嘗。
月讀神社。大。月次新嘗。
高神社。鍬。
粟神社。
佐牙乃神社。鍬。
甘南備神社。
地祇神社。
朱智神社。
咋岡神社。鍬。
内神社二座。
棚倉孫神社。大。月次新嘗。
酒屋神社。
天神社。

相樂郡六座。大四座。小二座。

祝園神社。大。月次新嘗。
綺原坐健伊那太比賣神社。
岡田鴨神社。大。月次新嘗。

大和國二百八十六座。

大一百廿八座。並月次新嘗。就中卅一座預相嘗祭。
小一百五十八座。並官幣。
添上郡卅七座。大九座。小廿八座。
鳴雷神社。大。月次新嘗。
狹岡神社八座。
宇奈太理坐高御魂神社。大。月次相嘗新嘗。
穴次神社。
奈良豆比古神社。鍬靫。
高橋神社。
宅布世神社。
夜支布山口神社。大。月次新嘗。
賣太神社。
赤穗神社。

和伎坐天乃夫支賣神社。大。月次新嘗。
相樂神社。
岡田國神社。大。月次新嘗。
率川坐大神御子神社三座。
率川阿波神社。
和尒坐赤坂比古神社。大。月次新嘗。
和尒下神社二座。
神波多神社。鍬。
太祝詞神社。大。月次新嘗。
大和日向神社。鍬靫。
春日神社。
春日祭神四座。並名神大。月次新嘗。
嶋田神社。

〔和伎坐天乃夫支賣神社〕平尾村に在り、素盞嗚尊五世の孫天之葺根神を祭る。
〔岡田鴨神社〕北村に在り、賀茂建角身命を祭る。
〔率川坐大神御子神社〕奈良子守町に在り、媛蹈鞴五十鈴媛命、大物主命、玉櫛姫を祭る。
〔穴次神社〕古市村に在り、猿田彥命を祭る。
〔太祝詞神社〕所在不詳、天兒屋命を祭る。
〔春日神社〕春日地主神を祭る。
〔赤穗神社〕奈良に在り、考證に祭神倉稻魂命とあり。
〔嶋田神社〕八島村に在り、祭神嶋田臣祖かと云ふ。

御前社原石立命神社。
五百立神社。
天乃石吸神社。
天乃石立神社。

添下郡十座。大四座。小六座。
矢田坐久志玉比古神社二座。並大。月次新嘗。
添御縣坐神社。大。月次新嘗。
佐紀神社。
登彌神社。
伊射奈岐神社。大。月次新嘗。
菅田比賣神社二座。鍬靫。
菅原神社。
菅田神社。

平群郡廿座。大十二座。小八座。
龍田坐天御柱國御柱神社二座。並名神大。月次新嘗。
龍田比古龍田比女神社二座。
平群石床神社。大。月次新嘗。
平群神社五座。並大。月次新嘗。
平群坐紀氏神社。名神大。月次新嘗。
鵜山神社。
神岳神社。
往馬坐伊古麻都比古神社二座。並大。月次新嘗。
伊古麻山口神社。大。月次新嘗。
久度神社。
猪上神社。
御櫛神社。
雲甘寺坐楢本神社。

廣瀨郡五座。大一座。小四座。

〔矢田坐久志玉比古神社〕矢田村に在り、矢田部祖櫛玉饒速日命を祭る

〔菅原神社〕菅原村に在り、祭神菅原朝臣の祖天穂日命かと云ふ。

〔龍田坐天御柱國御柱神社〕立野村に在る龍田社の本宮也、級長津彦命、級長戸邊命を祭る

〔龍田比古龍田比女神社〕龍田町に在る龍田社の新宮也、祭神本宮に同じ。

〔平群石床神社〕越木塚村に在り、饒速日尊を祭る。

〔久度神社〕久度村に在り、葛木田襲津彦を祭る。

〔猪上神社〕信貴山に在り、祭神猪甘首の祖かと云ふ。

〔乃〕一本に依り補ふ。
〔鴨都味波八重事代主命神社〕八重事代主命と下照比賣命を祭る、今南葛城郡御所村にありて縣社也、味字舊事紀によりて補ふ。
〔並〕舊事紀によりて補ふ。
〔相嘗〕相嘗祭に依りて補ふ。
〔長柄神社〕天乃八重事代主命を祭る。
〔巨勢山口神社〕大山津見命を祭る、今、南葛城郡葛村にあり。
〔葛木水分神社〕天水分神、國水分神を祭る、今南葛城郡吐田郷村にあり。
〔片岡坐神社〕豐受大神を祭る、今、北葛城郡王子村にあり。
〔長尾神社〕白雲別命、水光姫命を祭る、今、北葛城郡磐城村にあり。

廣瀬坐和加宇加[乃]賣命神社。名神大。月次新嘗。
讚岐神社。
穗雷命神社。
葛上郡十七座。大十二座 小五座。
鴨都[味]波八重事代主命神社二座。[並]名神大。月次相嘗新嘗。
葛木御歳神社。名神大。月次新嘗。
多太神社。鍬靫。
巨勢山口神社。大。月次新嘗。
鴨山口神社。大。月次新嘗。
葛木大重神社。
大倉比賣神社。「一名雲櫛社」
葛下郡十八座。大十三座 小五座。
葛木倭文坐天羽雷命神社。大。月次新嘗。
長尾神社。大。月次新嘗。
調田坐一事尼古神社。大。月次新嘗。
葛木御縣神社。大。月次新嘗。

櫛玉比女命神社。
於神社。鍬靫。
葛木坐一言主神社。名神大。月次[相嘗]新嘗。
長柄神社。鍬靫。
葛木水分神社。名神大。月次新嘗。
高天彥神社。名神大。月次相嘗新嘗。
大穴持神社。
高鴨阿治須岐託彥根命神社四座。並名神大。月次相嘗新嘗。
片岡坐神社。名神大。月次新嘗。
石園坐多久豆玉神社二座。並大。月次新嘗。
金村神社。大。月次新嘗。
深溝神社。

火幡神社。名神大。月次新嘗。

志都美神社。

伊射奈岐神社。

當麻都比古〔神〕社二座。

當麻山口神社〔大。月次新嘗。〕

大坂山口神社。大。月次新嘗。

葛木二上神社二座。並大。月次新嘗。

忍海郡三座。大二座。小一座。

角刺神社。

葛木坐火雷神社二座。並名神大。月次相嘗新嘗。

宇智郡十一座。並小。

宇智神社。

阿陀比賣神社。

荒木神社。

丹生川神社。

二見神社。

宮前霹靂神社。

火雷神社。

高天岸野神社。鍬。

落杣神社。鍬。

高天山佐太雄神社。鍬。

一尾背神社。

吉野郡十座。大五座。小五座。

吉野水分神社。大。月次新嘗。

吉野山口神社。大。月次新嘗。

大名持神社。名神大。月次新嘗。

丹生川上神社。名神大。月次新嘗。

金峯神社。名神大。月次〔相嘗〕新嘗。

高桙神社。大。

〔神〕一本によりて補ふ。

〔大、月次、新嘗〕一本によりて補ふ。

〔當麻山口神社〕大山津見命を祭る、今、北葛城郡當麻村にあり。

〔葛城二上神社〕武甕槌命、大國魂命を祭る、今、北葛城郡新庄村にあり。

〔阿陀比賣神社〕吾田都姫命を祭る、今、宇智郡南宇智村にあり。

〔火雷神社〕軻遇突智神を祭る、今、宇智郡南宇智村にあり。

〔高天岸野神社〕市杵島姫命を祭る、今、宇智郡牧野村にあり。

〔相嘗〕相嘗祭によりて補ふ。

〔鍬〕一本に依りて補ふ。
〔阿紀神社〕天照大御神を祭る。
〔門僕神社〕天兒屋根命を祭る。
〔丹生神社〕高龗神を祭る。
〔高角神社〕神倭伊波禮比古命、賀茂建角身命を祭る。
〔八咫烏神社〕賀茂建角身命を祭る。
〔劔主神社〕速須佐之男大神を祭る。
〔都賀那木神社〕高龗神、頚那藝神を祭る。
〔穴師坐兵主神社〕素盞嗚尊を祭る、今、磯城郡纏向村にあり。
〔相嘗〕諸本に見えず、衍字なるべし
〔狹井坐大神云々〕大國魂神、大物主神、媛蹈鞴五十鈴姫命、勢夜多々良比賣命、事代主命を祭る、大神神社の攝社也。

川上鹿鹽神社。鍬。
波寶神社。鍬。
宇陀郡十七座 大一座。小十六座。
宇太水分神社。大。月次新嘗。
門僕神社。鍬靫。
御杖神社。
高角神社二座。鍬靫。
味坂比賣命神社。
岡田小秦命神社。
櫻實神社。
室生龍穴神社。
城上郡卅五座 大十五座。小廿座。
大神大物主神社。名神大。月次相嘗新嘗。
穴師坐兵主神社。名神大。月次相嘗新嘗。
他田坐天照御魂神社。大。月次「相嘗」新嘗。
狹井坐大神荒魂神社五座。並鍬靫。
長谷山口坐神社。大。月次新嘗。

伊波多神社。
波比賣神社。鍬。
阿紀神社。鍬靫。
丹生神社。鍬靫。
椋下神社。鍬。
八咫烏神社。鍬靫。
御井神社。
神御子美牟須比命神社。
劔主神社。
都賀那木神社。
神坐日向神社。大。月次新嘗。
卷向坐若御魂神社。大。月次相嘗新嘗。
志貴御縣坐神社。大。月次新嘗。
忍坂坐生根神社。大。月次新嘗。
忍坂山口坐神社。大。月次新嘗。

〔等彌神社〕饒速日命を祭る。

〔水口神社〕大水口宿禰を祭る、今、磯城郡柳本村にあり。

〔玉列神社〕大神御子神を祭る、今、磯城郡朝倉村にあり。

〔伊射奈岐神社〕伊射那岐命を祭る、今磯城郡柳本村にあり。

〔墹倉神社〕大倉比賣神を祭る、今、磯城郡初瀬町にあり。

〔名神〕一本によりて補ふ。

〔宗像神社〕奥津比賣命、多紀理比賣命、邊津比賣命を祭る、今、磯城郡城島村にあり。

〔新嘗〕雲本により補ふ。

〔倭恩智神社〕大御食津神を祭る、今磯城郡川中村にあり。

等彌神社。
水口神社。
曳田神社二座。鍬靫。
玉列神社。
綱越神社。
穴師大兵主神社。
墹倉神社。
宗像神社三座。並名神大。月次新嘗。

城下郡十七座。大三座。小十四座。

村屋坐彌富都比賣神社。大。月次相嘗新嘗。
鏡作坐天照御魂神社。大。月次新嘗。
岐多志太神社二座。鍬靫。
比賣久波神社。鍬靫。
富都神社。鍬靫。
村屋神社二座。
鏡作麻氣神社。

殖栗神社。
桑内神社二座。鍬靫。
宇太依田神社。
伊射奈岐神社。
稔代神社。
若櫻神社。
高屋安倍神社三座。並名神大。月次新嘗。
池坐朝霧黄幡比賣神社。大。月次相嘗新嘗。
千代神社。
倭恩智神社。鍬靫。
服部神社二座。鍬靫。
糸井神社。鍬靫。
鏡作伊多神社。
久須々美神社。

〔飛鳥坐神社〕事代主命、建御名方命、高照比賣命、下照比賣命を祭る。
〔相嘗〕相嘗祭式により補ふ。
〔牟佐坐神社〕生靈神を祭る。
〔畝火山口坐神社〕大山祇命を祭る。
〔鷺栖神社〕天兒屋根命、本牟知別命を祭る。
〔天高市神社〕事代主神を祭る。
〔太玉命神社〕天太玉命、豐磐間戸命、奇磐間戸命、大宮賣命を祭る。
〔名神〕その祭式によりて補ふ。
〔大歳神社〕大歳神大山咋神を祭る。
〔於美阿志神社〕阿智使主を祭る。
〔許世都比古命神社〕許世都比古命を祭る。
〔天津石門別神社〕手力雄神を祭る。

高市郡五十四座。大卅三座。小廿一座。
高市御縣坐鴨事代主神社。大。月次新嘗。
宗我坐宗我都比古神社二座。並大。月次新嘗。
甘樫坐神社四座。並大。月次〔相嘗〕新嘗。
牟佐坐神社。大。月次新嘗。
高市御縣神社。名神大。月次新嘗。
鷺栖神社。鍬。
天高市神社。大。月次新嘗。
太玉命神社四座。並〔名神〕大。月次新嘗。
加夜奈留美命神社。
東大谷日女命神社。
川俣神社三座。並大。月次新嘗。
大歳神社二座。
御歳神社。鍬靫。
鳥坂神社二座。鍬靫。
許世都比古命神社。
波多甕井神社。大。月次新嘗。

飛鳥坐神社四座。並名神大。月次相嘗新嘗。
飛鳥山口坐神社。大。月次新嘗。
稻代坐神社。大。月次新嘗。
畝火山口坐神社。大。月次新嘗。
巨勢山坐石椋孫神社。
輕樹村坐神社二座。並大。月次新嘗。
治田神社。鍬靫。
櫛玉命神社四座。並大。月次新嘗。
飛鳥川上坐宇須多伎比賣命神社。
呉津孫神社。
氣都和既神社。
波多神社。鍬靫。
於美阿志神社。
瀧本神社。
天津石門別神社。
久米御縣神社三座。

〔多坐彌志理都比古神社〕彌志理都比古神を祭る、今、磯城郡多村にあり。

〔十市御縣坐神社〕豐宇氣毘賣神を祭る、今、磯城郡耳成村にあり。

〔目原坐高御魂神社〕高御產日命、神御產日命を祭る

〔竹田神社〕天火明命を祭る、今、磯城郡耳成村にあり

〔坂門神社〕天兒屋根命を祭る、今、磯城郡耳成村にあり。

〔畝尾都多本神社〕啼澤女命を祭る、今、磯城郡香久山村にあり。

〔小杜神命神社〕大朝臣安麿を祭る、今、磯城郡多村にあり。

氣吹雷響雷吉野大國栖御魂神社二座。並名神大。月次新嘗。

十市郡十九座　大十一座。小八座。

多坐彌志理都比古神社二座。並名神大。月次相嘗新嘗。

十市御縣坐神社。大。月次新嘗。

石村山口神社。大。月次新嘗。

耳成山口神社。大。月次新嘗。

坂門神社。鍬靫。

畝尾都多本神社。鍬靫。

皇子神命神社。

小杜神命神社。

下居神社。

目原坐高御魂神社二座。並大。月次新嘗。

畝尾坐健土安神社。大。月次新嘗。

竹田神社。

子部神社二座。並大。月次新嘗。

天香山坐櫛眞命神社。大。月次新嘗。元名大麻等乃知神。

姫皇子命神社。

屋就神命神社。已上四神大社皇子神。

山邊郡十三座　大七座。小六座。

大和坐大國魂神社三座。並名神大。月次相嘗新嘗。

都祁水分神社。大。月次新嘗。

白堤神社。

都祁山口神社。大。月次新嘗。

石上市神社。

石上坐布都御魂神社。名神大。月次相嘗新嘗。

山邊御縣坐神社。大。月次新嘗。

夜都伎神社。

祝田神社。

下部神社。

金山彦神社。
金山孫女神社。
鐸比古神社。
鐸比賣神社。
大狛神社。
若倭彦命神社。〔鍬〕
若倭姫命神社。鍬。
石神社。
常世岐姫神社。

高安郡十座。大四座。小六座。

恩智神社二座。並名神大。月次相嘗新嘗。
都夫久美神社。
天照大神高座神社二座。並大。月次新嘗。元號春日戸神。
玉祖神社。
御祖神社。
鴨神社。
佐麻多度神社。
春日戸社坐御子神社。

河内郡十座。大四座。小六座。

枚岡神社四座。〔並〕名神大。月次相嘗新嘗。
津原神社。
額田神社。鍫。
大津神社。
栗原神社。鍫。
石切劔箭命神社二座。

讃良郡六座。大一座。小五座。

須波麻神社。鍫靫。
御机神社。

〔金山孫女神社〕金山孫命を祭る、今、中河内郡堅上村にあり。
〔鍬〕一本によりて補ふ。
〔恩智神社〕大御食津彦命、大御食津姫命を祭る、今、中河内郡南高安村にあり。
〔都夫久美神社〕宇摩志麻治命を祭る、今、中河内郡北高安村にあり。
〔玉祖神社〕櫛明玉命を祭る、今、中河内郡北高安村にあり。
〔枚岡神社〕天兒屋根命、比賣神、武甕槌命、齋主命を祭る、現今官幣大社也。
〔靫〕傍によりて補ふ。
〔栗原神社〕天兒屋根命を祭る。
〔須波麻神社〕大己貴神を祭る。

〔楯原神社〕赤留比賣命を祭る、今、東成郡喜連村にあり。

〔須牟地曾禰神社〕伊達日命を祭る、今、南河内郡北八下村にあり。

〔止杼侶支比賣命神社〕素盞嗚尊、稻田姫命を祭る、今東成郡墨ノ江村にあり。

〔大海神社〕豐玉彥命、豐玉姫を祭る、今、東成郡住吉村にあり。

〔名〕例によりて補ふ。

〔多米神社〕多米連祖神を祭る

〔細江神社〕住吉大神を祭る、今東成郡住吉村にあり。

〔生根神社〕少彥名命を祭る、今、東成郡住吉村にあり

〔咲國〕一本によりて補ふ。

〔比賣許曾神社〕下照比賣を祭る。

大廿六座。並月次新嘗。就中十五座預相嘗祭。

小卌九座並官幣。

住吉郡廿二座大十座。小十二座。

住吉坐神社四座。並名神大。月次相嘗新嘗。

草津大歳神社。鍬靫。

神須牟地神社。鍬靫。

須牟地曾禰神社。

赤留比賣命神社。

努能太比賣命神社。

多米神社。

生根神社。大。月次新嘗。

大依羅神社四座。並名神大。月次相嘗新嘗。

中臣須牟地神社。大。月次新嘗。

楯原神社。

止杼侶支比賣命神社。

天水分豐浦命神社。

大海神社二座。元名津守氏人神。

船玉神社。

東生郡四座大三座。小一座。

難波坐生國〔咲國〕魂神社二座。並名神大。月次相嘗新嘗。

比賣許曾神社。名神大。月次相嘗新嘗。

阿遲速雄神社。

西成郡一座大。

坐摩神社。大。月次新嘗。

島上郡二座並小。

〔廣田神社〕天疎向津媛命を祭る、現今官幣大社也。
〔伊和志豆神社〕須佐之男命を祭る。
〔保久良神社〕須佐之男命を祭る、今武庫郡本山村にあり。
〔生田神社〕稚日女尊を祭る、今、神戸市下山手通にあり。
〔長田神社〕事代主命を祭る、今、神戸市長田町にあり
〔汶賣神社〕素盞嗚尊を祭る、今、菟原郡岩屋村にあり
〔有馬神社〕大己貴命、少彦名命を祭る。
〔湯泉神社〕大物主命を祭る。
〔野間神社〕饒速日命を祭る、今、豐能郡東鄕村にあり

賣布神社。
武庫郡四座。大二座。小二座。
廣田神社。名神大。月次相嘗新嘗。　名次神社。鍬靫。
伊和志豆神社。大。月次新嘗。　岡太神社。
菟原郡三座。並小。
河內國三座河內國魂神社。　大國主西神社。鍬靫。
保久良神社。鍬靫。
八部郡三座。大二座。小一座。
生田神社。名神大。月次相嘗新嘗。　長田神社。名神大。月次相嘗新嘗。
汶賣神社。
有馬郡三座。大一座。小二座。
湯泉神社。大。月次新嘗。　公智神社。鍬靫。
有間神社。
能勢郡三座。
岐尼神社。　久佐佐神社。
野間神社。
東海道神七百卅一座。

大五十二座。月次新嘗中十九座預祭。
小六百七十九座。

伊賀國廿五座。大一座。小廿四座。

阿拜郡九座。大一座。小八座。

陽夫多神社。　宇都可神社。
波太伎神社。　須智荒木神社。
敢國神社。大。　佐々神社。
穴石神社。　眞木山神社。
小宮神社。

山田郡三座。並小。

鳥坂神社。　阿波神社。
葦神社。

伊賀郡十一座。並小。

木根神社。　田守神社。
比地神社。　大村神社。
比々岐神社。　比自岐神社。
依那古神社。　猪田神社。

〔[illegible]神社〕素盞嗚尊を祭る、今、阿山郡河合村にあり。

〔須智荒木神社〕葛城襲津彦、武内宿禰を祭る、今、阿山郡中瀬村にあり

〔佐佐神社〕大彦命を祭る、今、阿山郡丸柱村にあり。

〔小宮神社〕呉服媛命を祭る、今、阿山郡府中村にあり

〔鳥坂神社〕大稲輿命を祭る。

〔阿波神社〕事代主命を祭る、今、阿山郡阿波村にあり

〔木根神社〕建角身命を祭る。

〔比比岐神社〕比々岐神を祭る、今、名賀郡上津村にあり。

〔乎美禰神社〕三重縣大十區桂村に在り、乎美禰神を祀る。

〔坂戸神社〕名賀郡伊那古村大字才良に在り、坂戸神を祀る。

〔名居神社〕名賀郡下比奈知村に在り名居神を祀る。

〔瀧原宮〕度會郡河上野尻村に在り。

〔月讀宮〕度會郡四郷村大字北中村に在り、月讀命を祀る。

〔蚊野神社〕度會郡東外城田村大字蚊野に在り、大神御蔭川神を祀る。

〔狹田國生神社〕度會郡田丸町に在り速川比古神、速川比女神を祀る。

乎美禰神社。

坂戸神社。

名張郡二座。並小。

名居神社。

伊勢國二百五十三座。

大十八座。就中十四座預月次新嘗等祭。

小二百卅五座。

度會郡五十八座。大十四座。小卌四座。

太神宮三座。相殿坐神二座並大。預月次新嘗等祭。

瀧原宮。大。月次新嘗。

月讀宮二座。荒御魂命一座。並大。月次新嘗。

高宮。大。月次新嘗。

蚊野神社。

狹田國生神社。

草名伎神社。

礒神社。

月夜見神社。

高瀨神社。

宇流富志禰神社。

荒祭宮。大。月次新嘗。

伊佐奈岐宮二座。伊佐奈彌命一座。並大。月次新嘗。

度會宮四座。相殿坐神三座。並大。月次新嘗。

朝熊神社。

鴨神社。

田乃家神社。

蘭相神社。

多伎原神社。

湯田神社。

〔櫛田神社〕飯南郡櫛田村に在り。
〔加須夜神社〕度會郡柏村に在り。
〔竹神社〕多氣郡有原中村に在り、大彥命を祀る。
〔服部伊刀麻神社〕流田郷出間村に在り。
〔奈々美神社〕飯野郡上七見村に在り。
〔相鹿上神社〕多氣郡相可村に在り。
〔宇爾櫻神社〕多氣郡明星村に在り。
〔紀伊神社〕飯南郡射和村に在り。
〔流田上社神社〕流田郷神守村に在り、齋宮式、社字なし、衍字なるべし。
〔火地神社〕飯野郡乙部村に在り。
〔竹大與杼神社〕度會郡[illegible]村字大淀に在り、天照大神を祀る。

多氣郡五十二座小。

須麻漏賣神社。
櫛田神社。
竹神社。
麻續神社。
相鹿牟山神社二座。
魚海神社二座。
相鹿上神社。
宇爾櫻神社。
服部麻刀方神社二座。
相鹿木太御神社。
宇留布都神社。
穴師神社。
畠田神社三座。
石田神社。
佐伎栗栖神社二座。
竹佐佐夫江神社。

佐那神社二座。
加須夜神社。
仲神社。
服部伊刀麻神社。
奈々美神社。
林神社。
守山神社。
宇爾神社。
大海田水代大刀自神社。
紀師神社。
天香山神社。
流田神社。
流田上社神社。
火地神社。
竹大與杼神社。
椎尾神社。

（伊佐和神社）飯野郡射和村西南山下に在り、[illegible]上宮を祀る。
（大國玉神社）飯野郡六根村に在り、大國玉神を祀る。
（横念神社）飯高郡鍬形村に在り。
（伊蘇上神社）多氣郡相可村に在り。
（大櫛神社）飯野郡豊原村に在り。
（神山神社）飯南郡櫛田村大字山添に在り。
（石前神社）飯南郡射和村大字中島に在り。
（立野神社）飯南郡松尾村大字立野に在り、大山咋神を祀る。
（大神神社）深長村に在り、大物主神を祀る。
（丹生中神社）丹生村に在り。

伊佐和神社。　牟禮神社。
有貳神社。　園生神社。
大國玉神社。　大分神社。
國乃御神社。　横倉神社。
伊蘇上神社。　伊呂上神社。
櫛田槻本神社。　牛庭神社。
大櫛神社。

飯野郡四座。並小。
意非多神社。　神山神社。
石前神社。　神垣神社。

飯高郡九座。並小。
立野神社。　大神社。
物部神社。　加世智神社。
意悲神社。　丹生神社。
丹生中神社。　堀坂神社。
久爾都神社。

壹志郡十三座。大三座。小十座。

波多神社。　物部神社。
稻葉神社二座。　須加神社。
阿射加神社三座。並名神大。　波氏神社。
小川神社。　射山神社。
川併神社。　敏太神社。

安濃郡十座。並小。

置染神社。　太市神社。
志夫彌神社。　小丹神社。
美濃夜神社。　阿由太神社。
小川內神社。　比佐豆知神社。
加良比乃神社。　船山神社。

奄藝郡十三座。並小。

伊奈富神社。　加和良神社。
多爲神社。　大乃已所神社。
事忌神社。　酒井神社。
尾前神社。　比佐豆知神社。
石積神社。　彌尼布理神社。

（稻葉神社二座）一志郡稻葉村に在り

（須加神社）一志郡權現前村に在り。

（小川神社）一志郡南小川村に在り。

（敏太神社）風速大明神と稱す、一志郡八太村に在り

（大市神社）安濃郡妙法寺村に在り、大市比賣命を祀る

（美濃夜神社）安濃郡雲林院村に在り祭神は神社覈錄に金山彥命と在り。

（小川內神社）安濃郡河內谷南垣內村宮之內に在り。

（比佐豆知神社）安濃郡草生村に在り比佐豆知神を祀る

[illegible]神社、
久留眞神社、
鈴鹿郡十九座（並小）。
那久志里神社、
川俣神社、
志婆加支神社、
天一鍬田神社、
小岸大神社。
三宅神社、
布氣神社、
長瀬神社。
片山神社、
河曲郡廿座（並小）。
高市神社、
貴志神社、
川神社。
岡太神社。

横道下神社。
倭文神社。
眞木尾神社。
縣主神社。
椿大神社。
大井神社二座。
江神社。
石神社。
忍山神社。
彌牟居神社。
彌都加伎神社。
鬼太神社。
矢橋神社。
奈加等神社。

〔久留眞神社〕河藝郡白子村に在り。
〔那久志里神社〕鈴鹿郡田村名越組に在り。
〔川俣神社〕中富田村に在り。
〔縣主神社〕英多郷川崎村に在り。
〔椿大神社〕山本村に在り。
〔小岸大神社〕小岐須村に在り。
〔三宅神社〕又た千力大明神と稱す、奄藝郡長法寺村に在り。
〔江神社〕堅木大明神とも稱す、國府村に在り。
〔布氣神社〕白鬚大明神とも稱す、野村大字布氣に在り
〔石神社〕惠生大明神とも稱す、三ツ寺村字石加原に在り。

〔久々志彌神社〕河曲郡下箕田村に在り。
〔高岡神社〕河曲郡高岡村に在り。
〔深田神社〕河曲郡北若松村に在り。
〔夜夫多神社〕鈴鹿郡甲斐村に在り。
〔土師神社〕河曲郡中土師村に在り、天穂日命を祀る。
〔大鹿三宅神社〕河曲郡國分村に在り津速魂命を祀る。
〔江田神社〕高野村字江野に在り。
〔加富神社〕山田村に在り。
〔神前神社〕高角村に在り。
〔小許曾神社〕小古曾村に在り。
〔足見田神社〕水澤村に在り。
〔伎留太神社〕西畑村に在り。

小川神社。
俵野神社。
高岡神社。
須伎神社。
阿自賀神社。
土師神社。
三重郡六座並小。
江田神社。
神前神社。
足見田神社。
朝明郡廿四座。並小。
伊賀留我神社。
伎留太神社。
菟上神社。
多比鹿神社。
八十積椋神社。
耳利神社。

都波岐神社。
久久志彌神社。
大木神社。
深田神社。
夜夫多神社。
大鹿三宅神社。
加富神社。
小許曾神社。
椿岸神社。
能原神社。
石部神社二座。
太神社。
鳥出神社。
志氏神社。
耳常神社。

〔小廿一座〕一本に據りて補ふ。
〔阿豆良神社〕丹陽村に在り、阿麻乃彌加都比女命を祀る。
〔田縣神社〕東春日井郡久保一色村に在り、大歳神を祀る。
〔稻木神社〕布袋町に在り、大中津日子命を祀る。
〔石作神社〕稻置村に在り、建眞利根命を祀る。
〔伊賀賀原神社〕布袋町に在り。
〔山那神社〕扶桑村に在り。
〔爾波神社〕丹成村大字丹羽に在り、神八井耳命を祀る。
〔前利神社〕扶桑村字齋藤に在り、神八井耳命を祀る。
〔宮田神社〕宮田村に在り。
〔「日」〕當に衍字なるべし。

丹羽郡廿二座。大一座。小廿一座。
阿豆良神社。
田縣神社。
稻木神社。
石作神社。
伊賀賀原神社。
山那神社。
爾波神社。
前利神社。
諸鑁神社。
阿具麻神社。
針綱神社。
生田神社。
宅美神社。
鳴海杼神社。
側栗神社。
託美神社。
虫鹿神社。
立野神社。
井出神社。
小口神社。
鹽道神社。
大縣神社。名神大。

春「日」部郡十二座。並小。
非多神社。
乎江神社。
外山神社。
片山神社。
川原神社。
牟都志神社。
味鋺神社。
物部神社。

〔伊多波刀神社〕東春日井郡[illegible]村に在り、譽田別尊、息長帯姫尊、玉依姫尊を祀る。

〔高牟神社〕東春日井郡坂下村に在り高皇産靈神を祀る

〔内々神社〕々は衍字なるべし。東春日井郡坂下村に在り建稲種命を祀る。

〔多氣神社〕西春日井郡北里村に在り伊邪那岐、伊邪那美尊を祀る。

〔片山神社〕西春日井郡杉村に在り。

〔大目神社〕東春日井郡水野村に在り

〔羊神社〕西春日井郡小社村に在り、天照大御神、道見土神を合せ祀れり

伊多波刀神社。
高牟神社。
内々神社。
多氣神社。

山田郡十九座小。

片山神社。
大目神社。
羊神社。
深川神社。
川嶋神社。
小口神社。
伊奴神社。
金神社。
和爾良神社。
多奈波太神社。
綿神社。
澁川神社。
太乃伎神社。
尾張神社。
別小江神社。
大井神社。
坂庭神社。
尾張戸神社。
石作神社。

愛智郡十七座。大四座。小十三座。

日置神社。
上知我麻神社。
下知我麻神社。
熱田神社。名神大。
御田神社。
高牟神社。

〔酒人神社〕[illegible]作町に在り。
〔知立神社〕知立町に在り、吉備彦武命を祀る。
〔比蘇神社〕六ッ美村字宮地に在り。
〔久麻久神社二座〕幡豆郡西尾町に在り、稲倉魂神久々能智神を祀る。
〔羽豆神社〕幡豆郡吉田村に在り、建稲種命を祀る。
〔形原神社〕寶飯郡形原村に在り、祭神は穂國國造土[illegible]に埴安神をあはす。
〔菟足神社〕寶飯郡小坂井村に在り菟上王を祀る。
〔砥鹿神社〕寶飯郡一宮村に在り、大己貴神を祀る。
〔石巻神社〕八名郡石巻村に在り。

碧海郡六座。並小。
和志取神社。　酒人神社。
日長神社。　知立神社。
比蘇神社。　糟目神社。
播豆郡三座。並小。
久麻久神社二座。　羽豆神社。
寶飫郡六座。並小。
形原神社。　御津神社。
菟足神社。　砥鹿神社。
赤日子神社。　石座神社。
八名郡一座。小。
石卷神社。
渥美郡一座。小。
阿志神社。
遠江國六十二座。大二座。小六十座。
濱名郡五座。大一座。小四座。
彌和山神社。　英多神社。

〔猪鼻湖神社〕敷知郡下尾奈村に在り武甕槌神を祀る。

〔大神神社〕吉津村に在り、大物主神を祀る。

〔角避比古神社〕角避比古神を祀る、所在は新井驛なりといふも猶考ふべし。

〔岐佐神社〕濱名郡舞坂町に在り、蚶貝比賣命、蛤貝比賣命を祀る。

〔津毛利神社〕湊川林に在り、大綿津見神を祀る。

〔曾許乃御立神社〕濱名郡北庄内村に在り、武甕槌命を祀る。

〔乎豆神社〕中川村大字中川に在り、天照大御神と、止由氣大神とを祀る

猪鼻湖神社。　大神神社。
角避比古神社。名神大。
敷智郡六座。並小。
岐佐神社。　許部神社。
津毛利神社。　息神社。
曾許乃御立神社。　賀久留神社。
引佐郡六座。並小。
渭伊神社。　乎豆神社。
三宅神社。　蜂前神社。
須倍神社。　大致神社。
麁玉郡四座。並小。
於侶神社。　多賀神社。
長谷神社。　若倭神社。
長下郡四社。並小。
長野神社。　大甌神社。
登勒神社。　猪家神社。
長上郡五座。並小。

〔己等乃麻知神社〕明細帳に事任神社、祭神己等乃麻知媛命とす、今縣社、佐野郡鴨方村新坂にあり。

〔阿波波神社〕祭神阿波咩命、今郷社、小笠郡栗本村初馬にあり。

〔比奈多乃神社〕祭神比奈多神、小笠郡土方村上土方にあり、一に夾馬駒神社と稱す。

〔大楠神社〕祭神大己貴命、榛原郡初倉村阪本にあり。

〔敬滿神社〕祭神少彦名命と傳ふ、今郷社、榛原郡初倉村阪本にあり

〔飽波神社〕祭神少彦名神、今郷社、志太郡藤枝町谷津にあり。

眞草神社。　己等乃麻知神社。

阿波波神社。　利神社。

城飼郡二座。並小。

奈良神社。　比奈多乃神社。

秦原郡五座。大一座。小四座。

大楠神社。　服織田神社。

片岡神社。　飯津佐和乃神社。

敬滿神社。名神大。

駿河國廿二座。大一座。小廿一座。

益頭郡四座。並小。

神神社。　飽波神社。

那閇神社。　燒津神社。

有度郡三座。並小。

伊河麻神社。　神田神社。

草薙神社。

安倍郡七座。並小。

足坏神社。　神部神社。

建穗神社。
小梳神社。
大歳御祖神社。
中津神社。
白澤神社。

廬原郡三座。並小。
御穗神社。
豐積神社。
久佐奈岐神社。

富士郡三座。大一座。小二座。
倭文神社。
富知神社。
淺間神社。名神大。

駿河郡二座。並小。
丸子神社。
桃澤神社。

伊豆國九十二座。大五座。小八十七座。

賀茂郡四十六座。大四座。小卌二座。
伊豆三島神社。名神大。月次新甞。
伊賀牟比賣命神社。
佐伎多麻比咩命神社。
阿豆佐和氣命神社。
波布比賣命神社。
伊古奈比咩命神社。名神大。
伊太氐和氣神社。
多祁美加加命神社。

（建穗神社）祭神天照大神、今郷社、安倍郡服織村建穗にあり、馬鳴大明神とも稱す。

（白澤神社）祭神不詳、安倍郡北賤機村牛妻にあり。

（豐積神社）祭神木花咲耶姫命、今郷社、廬原郡由井郷町屋原村にあり。

（倭文神社）祭神健羽雷神、富士郡大宮町星山にあり。

（桃澤神社）祭神建御名方命、駿東郡長泉村元長窪にあり。

（伊豆三島神社）今官幣大社、田方郡三島町にあり。

（伊賀牟比賣命神社）祭神伊賀牟比賣命、三宅島伊賀谷村にあり。

〔阿米都和氣命神社〕原本和字を缺く、今文德實錄嘉祥三年、及仁壽廿四年の條に記載する處に據りて補ふ、類聚國史之に同じ、祭神阿米都和氣命、今郷社、三宅島にあり、一に富賀明神と稱す

〔杉桙別命神社〕一本杉字、扮に作る、字鏡に「杵、須木」とあれば同義也、今祭神杉桙別命、今郷社、賀茂郡下河津村田中にあり。

〔阿波神社〕名神、祭に阿波咩命神社に作る、祭神阿波咩神、今府社、神津島永續山にあり。

〔支理太乎宜神社〕林本頁三本乎字なし、今志理太宜神社と稱す、三宅島神着村にあり。

物忌奈命神社。名神大。
伊波例命神社。
阿米都和氣命神社。
優波夷命神社。
久良恵命神社。
奈疑知命神社。
氐良命神社。
多祁伊志豆伎命神社。
伊波乃比咩命神社。
多祁富許都久和氣命神社。
意波與命神社。
阿治古神社。
阿波神社。名神大。
南子神社。
穗都佐氣命神社。
波治神社。
佐佐原比咩命神社。

波夜多麻和氣命神社。
伊豆奈比咩命神社。
波夜志命神社。
片菅命神社。
夜須命神社。
加彌命神社。
許志伎命神社。
久尓都比咩命神社。
杉桙別命神社。
伊波久良和氣命神社。
阿米都加多比咩命神社。
伊波比咩命神社。
支理太乎宜神社。
伊波氐別命神社。
大津往命神社。
布佐乎宜神社。
竹麻神社三座。

〔今城青八坂稻實神社〕下文荒御魂及池上の兩社の坂の上、恐らくは「八」字を脫せるなるべし。

〔秩父神社〕祭神八意思兼命、知々夫彦命、今縣社、秩父郡秩父町大宮にあり。

〔金佐奈神社〕今官幣中社金鑽神社是也、兒玉郡青柳村二の宮にあり。

〔高城神社〕祭神高皇產靈尊、大里郡市田村高本にあり。

〔后神天比理乃咩神社〕仁明紀承和九年の條に「天比理刀咩」文德實錄仁壽二年の條に「大比理刀咩」三代實錄貞觀元年の條に「天比乃理刀咩」に作る、今縣社、安房郡神戸村洲宮にあり。

長幡部神社、　今城青八坂稻實神社、
今木青。坂稻實荒御魂神社。　今城青。坂稻實池上神社、
秩父郡二座 小。並
秩父神社、　椋神社。
兒玉郡一座。大。
金佐奈神社。名神大。
大里郡一座。小。
高城神社。
比企郡一座。小。
伊古乃速御玉比賣神社。
那珂郡一座。小。
國渭地祇神社、
安房國六座。大二座。小四座。
安房郡二座。並大。
安房坐神社。名神大。月次新嘗。　后神天比理乃咩命神社。大。元名洲神。
朝夷郡四座。並小。
天神社。　莫越山神社

〔薩都神社〕常陸風土記[illegible]社」に作る、祭神立速日男命、今郷社、久慈郡佐都村里野宮にあり。

〔天速玉姫命神社〕命の字、貞本及び三代實錄貞觀十六年の條に無し、祭神天速玉姫命、今郷社、多賀郡水木村泉山にあり。

〔筑波山神社〕祭神筑波男命、筑波女命或は[illegible]二柱神を祭す、今縣社、筑波郡筑波町筑波山にあり。

〔石船神社〕祭神鳥石楠船命、東茨城郡岩船村岩船にあり。

〔羽梨山神社〕祭神木花開耶姫命、今郷社、西茨城郡岩間村岩間上郷にあり。

久慈郡七座。大一座。小六座。
長幡部神社。
天之志良波神社。
靜神社。名神大。
立野神社。
薩都神社。
天速玉姫命神社。
稻村神社。

筑波郡二座。大一座。小一座。
筑波山神社二座。一名神大。一小。

那賀郡七座。大二座。小五座。
大井神社。
吉田神社。名神大。
酒列磯前藥師菩薩神社。名神大。
石船神社。
阿波山上神社。
藤內神社。
青山神社。

新治郡三座。大一座。小二座。
稻田神社。名神大。
佐志能神社。
鴨大神御子神主玉神社。

茨城郡二座。並小。
夷針神社。
羽梨山神社。

主石神社。

多珂郡一座小。

佐波波地祇神社。

〔主石神社〕祭神不詳、鹿島郡大和田村にあり。

〔佐波波地祇〔神〕社〕〔神〕字例に據れば衍字也、山城國綴喜郡及び武藏國入間郡の條參看。祭神天日方奇日方命、今鄕社、多賀郡大津町大宮森にあり。

延喜式卷第九

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位下行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第十 神祇十

神名下。東山。北陸。山陰。山陽。南海。西海。

東山道神三百八十二座。

大卌二座。就中五座預二月次新嘗祭案上一。

小三百卌座。

近江國一百五十五座。大十三座。小一百卌二座。

滋賀郡八座。大三座。小五座。

那波加神社。

倭神社。

石坐神社。

神田神社。

小野神社二座。名神大。

日吉神社。名神大。

小椋神社。

栗太郡八座。大二座。小六座。

葦井神社。

意布伎神社。

小槻大社。

小槻神社。

高野神社。

伊岐志呂神社。

〔案上〕諸例に據ればこの二字を省くを可とす、さもなくば、案上の下に「官幣」或は「幣」の字を付くるを例とす。

〔那波加神社〕祭神天太玉命、今縣社滋賀郡雄琴村苗鹿にあり。

〔倭神社〕恐らくは倭の下「文」字を脫せるなるべし、今森本の社と稱す、滋賀郡[illegible]にあり。

〔神田神社〕祭神彥國葺命、今縣社、滋賀郡眞野村眞野にあり。

〔小槻大社〕祭神於知別命、今郷社、栗太郡[illegible]村下戸山にあり。

〔伊岐志呂神社〕原本伊岐志呂神社に作る、貞貞二本に據りて改む。

〔佐久奈度神社〕祭神瀬織津姫命、今縣社、栗太郡大石村東にあり。

〔建部神社〕今官幣大社に列す、栗太郡瀬田村神領にあり。

〔石部鹿塩上神社〕祭神吉比女神、甲賀郡石部町石部にあり。

〔御上神社〕祭神天之御影神、明治四年官幣中社に列す

ありしも、昔前後詳ならず、社殿なし。

〔上新川神社〕祭神大新川命、今縣社、野洲郡中里村野洲にあり。

〔比都佐神社〕祭神天津日子根命、今郷社、蒲生郡北比都佐村十禪寺にあり。

佐久奈度神社。名神大。

建部神社。名神大。

甲賀郡八座。大二座。小六座。

矢川神社。

水口神社。

石部鹿塩上神社。

川田神社二座。並名神大。月次新嘗。

飯道神社。

川枯神社二座。

野洲郡九座。大二座。小七座。

御上神社。名神大。月次新嘗。

小津神社。

下新川神社。

兵主神社。名神大。

比利多神社。

上新川神社。

馬路石邊神社。

己爾乃神社二座。

蒲生郡一十一座。大一座。小十座。

大嶋神社。

奥石神社。

石部神社。

大屋神社。

比都佐神社。

長寸神社。

沙沙貴神社。

菅田神社。

馬見岡神社二座。

奥津嶋神社。名神大。

神崎郡二座。並小。

〔大羽神社〕考證に在二大濱村一とあり祭神詳かならず。
〔都久夫須麻神社〕竹生島に在り、俗に竹生島明神と云ふ、宇賀御魂神を祭る。
〔伊香郡〕今伊賀國名賀郡の内也。
〔伊香具神社〕伊香津臣命を祭る。
〔乃彌神社〕以下赤見神社まで祭神所在傳はらず。
〔波彌神社〕祭神波美臣祖神かと云ふ
〔佐味神社〕祭神佐味朝臣の祖神かと云ふ。
〔椿神社〕猿田彦大神を祭る。
〔與志漏神社〕古橋村に在り、祭神詳かならず。

上許曾神社。
都久夫須麻神社。
伊香郡四十六座。大一座。小卌五座。
伊香具神社。名神大。
神前神社。
天八百列神社。
走落神社。
波久彌多神社。
意波閇神社。
櫻市神社。
横山神社。
兵主神社。
波彌神社。
甘櫟前神社。
椿神社。
伊香具坂神社。
布勢立石神社。

大羽神社。
乃彌神社。
大澤神社。
乎彌神社。
足前神社。
比賣多神社。
阿加穗神社。
等波神社。
多太神社。
赤見神社。
櫻椅神社。
佐味神社。
佐波加刀神社。
與志漏神社。
乃伎多神社。

〔美集神社〕田中村に在り、祭神不詳。
〔荒方神社〕赤坂町に在り、祭神不詳。
〔花長神社〕名社村に在り、猿田彦大神を祭る。
〔來振神社〕名社村に在り、伊弉册尊を祭る、神龜二年の鎭座也。
〔物部神社〕岐阜稻葉山に在り、五十瓊敷入彦命、渟熨斗媛命、日葉酢媛命、十千根命を祭る、稻葉明神是也。
〔伊波乃西神社〕岩田村に在り、祭神詳かならず。
〔村國神社〕在所詳かならず、祭神村國連祖かと云ふ。
〔加佐美神社〕東島村に、下文御井神社は三井村に在り共に祭神詳かならず。

美集神社。　加毛神社。
安八郡四座。並小。
宇波刀神社。　荒方神社。
墨俣神社。
大野郡三座。並小。
花長神社。　花長下神社。
來振神社。
方縣郡二座。並小。
方縣津神社。　若江神社。
厚見郡三座。並小。
比奈守神社。　茜部神社。
物部神社。
各務郡七座。並小。
伊波乃西神社。　村國神社。二座。
飛鳥田神社。　村國眞墨田神社。
加佐美神社。　御井神社。
賀茂郡九座。並小。

〔縣主神社〕太田町に在り、祭神鴨縣主祖かと云ふ。
〔中川神社〕中津町に在り、祭神不詳。
〔惠奈神社〕惠那嶽の山上に在り。
〔水無神社〕宮村に在り、御年神を祭る、當國の一宮也。
〔槻本神社〕山口村に在り、以下諸社と共に祭神不詳也
〔荏名神社〕江名子村に在り。
〔荒城神社〕宮地村に在り。
〔高田神社〕寺林村に在り。
〔阿多由太神社〕淺井田村の白山社これかと云ふ。

縣主神社。　坂祝神社。
大山神社。　大部神社。(京、村、拯)
阿夫志奈神社。　神田神社。
佐久太神社。　多爲神社。
中山神社。
惠奈郡二座。
中川神社。
坂本神社。
惠奈神社。
飛驒國八座。並小。
大野郡三座。並小。
槻本神社。
水無神社。
荏名神社。
荒城郡五座。並小。
大津神社。　荒城神社。
高田神社。　阿多由太神社。
栗原神社。
信濃國卌八座。大七座。小卌一座。

伊那郡二座。並小。

大山田神社。

阿智神社。

諏方郡二座。並大。

南方刀美神社二座。名神大。

筑摩郡三座。並小。

岡田神社。

沙田神社。

阿禮神社。

安曇郡二座。大一座。小一座。

穗高神社。名神大。

川會神社。

更級郡十一座。大一座。小十座。

布制神社。

波閇科神社。

佐良志奈神社。

當信神社。

長谷神社。

日置神社。

清水神社。

氷鉇斗賣神社。

頤氣神社。

治田神社。

武水別神社。名神大。

水内郡九座。大一座。小八座。

〔阿智神社〕[illegible]村に在り、八意思兼神を祭る。

〔阿禮神社〕塩尻に在り、祭神阿禮首祖神かと云ふ。

〔穗高神社〕穗高村に在り、穗高見命を祭る。

〔川會神社〕十日市場村に在り、祭神川合公の祖神かと云ふ。

〔當信神社〕[illegible]谷村に在り。

〔長谷神社〕長谷村に在り。

〔日置神社〕日名村に在り。

〔清水神社〕祭神清水[illegible]と云ふ。

〔頤氣神社〕[illegible]寺尾村、小島田村兩所に存す、何れに當れるか不明也。

〔武水別神社〕川中島八幡村に在り、水分神を祭る。

〔美和神社〕三輪村に在り、大己貴命を祭る。
〔伊豆毛神社〕神代村に在り、出雲建子命を祭る。
〔妻科神社〕妻科村に在り、稻田姫を祭る。
〔越智神社〕祭神越智直か、と云ふ。
〔笠原神社〕祭神笠原直人祖かと云ふ
〔坂城神社〕北條村に在り、祭神不詳。
〔中村神社〕西條村に在り、祭神中村連祖か、と云ふ。
〔玉依比賣命神社〕東條村に在り。
〔祝神社〕松代に在り、祭神詳ならず。
〔曾波神社〕前山村に在り、祭神不詳。
〔子檀嶺神社〕武石村に在り、祭神詳かならず。

美和神社。 伊豆毛神社。
妻科神社。 小川神社。
守田神社。 粟野神社。
風間神社。 白玉足穂命神社。
健御名方富命彦神別神社。名神大。
高井郡六座並小。
越智神社。 墨坂神社。
小内神社。 笠原神社。
小坂神社。 高杜神社。
埴科郡五座並小。
粟狭神社。 坂城神社。
中村神社。 玉依比賣命神社。
祝神社。
小縣郡五座大二座。小三座。
生島足島神社二座。名神大。 山家神社。
曾波神社。 子檀嶺神社。
佐久郡三座並小。

英多神社。　長倉神社。
大作神社。
上野國十二座。大三座。小九座。
片岡郡一座。小。
小祝神社。
甘樂郡二座。大一座。小一座。
貫前神社。名神大。　宇藝神社。
群馬郡三座。大一座。小二座。
伊加保神社。名神大。　榛名神社。
甲波宿禰神社。
勢多郡一座。大。
赤城神社。名神大。
山田郡二座。並小。
賀茂神社。　美和神社。
那波郡二座。並小。
火雷神社。　倭文神社。
佐位郡一座。小。

〔英多神社〕安原村に在り、祭神不詳。
〔大作神社〕望月町に在り、祭神大伴宿禰祖かと云ふ。
〔小〕例に依り補ふ。
〔小祝神社〕半田村に在り、少彦名命を祭る。
〔宇藝神社〕神成村に在り、保食神を祭る。
〔伊加保神社〕伊香保に在り、大己貴命、少彦名命を祭神とす。
〔榛名神社〕榛名山上の榛名神社也。
〔甲波宿禰神社〕川島村に在り、速秋津日命を祭る。
〔賀茂神社〕下廣澤村に在り、大山咋命を祭る。
〔美和神社〕桐生市に在り、大己貴命を祭る。

〔大國神社〕下淵名村に在り、大國玉神を祭る。
〔大神社〕大己貴命を祭る、次の大國神社も同じ。
〔二荒山神社〕宇都宮市に在り、事代主命を祭る。
〔大前神社〕眞岡大前村に在り、大己貴命を祭る。
〔荒樫神社〕小井戸村に在り、國常立尊、國狹槌尊、豐斟渟尊を祭る。
〔温泉神社〕湯本村に在り、大己貴命、少彦名命を祭る。
〔三和神社〕三輪村に在り、大己貴命を祭る。
〔阿房神社〕粟宮村に在り、天太玉命を祭る。
〔胸形神社〕田心姫命、湍津姫命、市杵島姫命を祭る。

大國神社。

下野國十一座。大一座。小十座。

都賀郡三座。並小。

大神社。　大前神社。
村檜神社。

河内郡一座。大。

二荒山神社。名神大。

芳賀郡二座。並小。

大前神社。　荒樫神社。

那須郡三座。並小。

健武山神社。　温泉神社。
三和神社。

寒川郡二座。並小。

阿房神社。　胸形神社。

陸奥國一百座。大十五座。小八十五座。

白河郡七座。大一座。小六座。

都都古和氣神社。名神大。　伊波止和氣神社。

〔温泉神社〕鳴兒村湯本に在り、大己貴命を祭る。
〔荒雄河神社〕鬼頭村に在り、大己貴命少彦名命を祭る
〔鹿島伊都乃比氣神社〕次の社と共に鹿島村に在り、祭神は共に鹿島の斎神なりといふ。
〔東屋沼神社〕入江野村に在り、大己貴命、少彦名命、日本武尊を祭る。
〔東屋國神社〕中村に在り、伊弉諾尊、倉稲魂命、大山祇命を祭る。
〔白和瀬神社〕上大條生村に在り、日本武尊を祭る。
〔二俣神社〕下小川村に在り、天照皇大神を祭る。
〔鹿島神社〕西本村に在り、大己貴命、少彦名命を祭る。

玉造郡三座。並小。
温泉神社。　荒雄河神社。
温泉石神社。
亘理郡四座。並小。
鹿島伊都乃比氣神社。　鹿島緒名太神社。
安福河伯神社。　鹿島天足和氣神社。
信夫郡五座。大一座。小四座。
鹿島神社。　黒沼神社。
東屋沼神社。名神大。　東屋國神社。
白和瀬神社。
志太郡一座。小。
敷玉早御玉神社。
磐城郡七座。並小。
大國魂神社。　二俣神社。
温泉神社。　佐麻久嶺神社。
住吉神社。　鹿島神社。
子鍬倉神社。

標葉郡一座。小。
苕野神社。
牡鹿郡十座。大二座。小八座。
零羊埼神社。名神大。　香取伊豆乃御子神社。
伊去波夜和氣命神社。　曾波神社。
拜幣志神社。名神大。　鳥屋神社。
鹿島御兒神社。　大島神社。
久集比奈神社。　計仙麻神社。
桃生郡六座。大一座。小五座。
飯野山神社。　日高見神社。
二俣神社。　石神社。
計仙麻大島神社。名神大。　小鋭神社。
行方郡八座。大一座。小七座。
高座神社。　日祭神社。
冠嶺神社。　御刀神社。
鹿島御子神社。　益多嶺神社。
多珂神社。名神大。　押雄神社。

〔鹿島御兒神社〕石卷好日山に在り、祭神不詳なるも鹿島の裔神なるべし

〔飯野山神社〕飯野村に在り、祭神大山祇命かと云ふ。

〔石神社〕素盞嗚尊を祭神とす。

〔高座神社〕高野倉村に在り、倉稻魂命を祭る。

〔日祭神社〕大龜村に在り、祭神詳かならず。

〔冠嶺神社〕大原村に在り、大山祇命を祭る。

〔益多嶺神社〕大井村に在り、祭神大山祇命かと云ふ。

栗原郡七座。大一座。小六座。

表刀神社。　志波姫神社。名神大。

雄鋭神社。　駒形「根」神社。

和我神社。　香取御兒神社。

遠流志別石神社。

膽澤郡七座。並小。

磐神社。　駒形神社。

和我叡登擧神社。　石手堰神社。

膽澤川神社。　止止井神社。

於呂閇志神社。

新田郡一座。小。

子松神社。

磐瀨郡一座。小。

桙衝神社。

會津郡二座。大一座。小一座。

伊佐須美神社。名神大。　蠶養國神社。

小田郡一座。小。

〔表刀神社〕筑立馬場村青柳に在り、日本武尊を祭る。〔駒形「根」神社〕貞林京三本秘釋に據るに根字は衍也。〔遠流志別石神社〕三迫石越村に在り祭神邑志別君祖かと云ふ。〔磐神社〕黑土村に在り、祭神詳かならず、以下諸社亦同じ。〔駒形神社〕上伊澤駒形峰に在り。〔和我叡登擧神社〕下伊澤上衣川村に在り。〔止止井神社〕上伊澤都鳥村に在り。〔伊佐須美神社〕高田村に在り、伊弉諾尊、伊弉册尊を祭る。〔蠶養國神社〕會津鶴城の北に在り、稚産靈命を祭る。

〔配志和神社〕西磐井山目村に在り。
〔儛草神社〕西磐井儛草村に在り。
〔大物忌神社〕吹浦村に在り。倉稻魂命を祭る、當國の一宮也
〔小物忌神社〕山楯村に在り祭神不詳
〔伊氐波神社〕羽黒山に在り、羽黒權現と稱す、祭神明かならず。
〔波宇志別神社〕八澤木村保呂羽山に在り、大和國金峰神を勸請せしものとも云ふ。
〔小〕原作、貞本に據り補ふ。
〔副川神社〕浦大町村に在り、祭神明不詳、或は播磨國廣峯神を勸請せしものなりとも傳ふ。
〔新嘗〕雲林により補ふ。

磐井郡二座（並小）。
配志和神社。　儛草神社。
江刺郡一座（小）。
鎭岡神社。
出羽國九座（大二座、小七座）。
飽海郡三座（大二座、小一座）。
大物忌神社（名神大）。　小物忌神社。
月山神社（名神大）。
田川郡三座（並小）。
遠賀神社。　由豆佐賣神社。
伊氐波神社。
平鹿郡二座（並小）。
塩湯彦神社。　波宇志別神社。
山本郡一座（小）。
副川神社。
北陸道神三百五十二座。
大十四座（並預月次新

小三百卅八座。

若狹國卌二座大三座。小卅九座。

遠敷郡十六座大二座。小十四座。

多太神社。

小浴神社。

石按比賣神社。

波古神社。

彌和神社。

阿奈志神社。

許波伎神社。

苅田比賣神社。

若狹比古神社二座。名神大。

石按比古神社。

椎村神社。

久須夜神社。

丹生神社。

曾尾神社。

苅田比古神社。

大飯郡七座。並小。

青海神社。

香山神社。

日置神社。

佐伎治神社。

伊射奈伎神社。

静志神社。

大飯神社。

三方郡十九座。大一座。小十八座。

〔多太神社〕多太村に在り、大己貴命を祭る。

〔久須夜神社〕堅海浦久須夜嶽下に在り、大己貴命を祭神とす。

〔彌和神社〕賀茂村に在り、祭神大物主神かと云ふ。

〔丹生神社〕多良庄村に在り、祭神罔象女神なるべし。

〔阿奈志神社〕奈胡村に在り、祭神兵主神かと云ふ。

〔香山神社〕下車持村に在り、祭神天香語山命かと云ふ。

〔日置神社〕日置村に在り、日置朝臣の祖神を祭れるならむと云ふ。

〔佐伎治神社〕高濱村に在り、素盞嗚尊、稻田姫、大己貴命を祭る。

〔須可麻神社〕菅濱村に在り、祭神菅竈由良度美神かと云ふ。
〔宇波西神社〕氣山村に在り、鵜鷀草葺不合尊を祭ると云ふも明かならず
〔須部神社〕末野村に在り、一説に蛭兒を祭ると云ふ。
〔彌美神社〕宮代村に在り、祭神室毘古王かと云ふ。
〔常神社〕常神浦に在り、神功皇后を祭る。
〔闇見神社〕成願寺村に在り、祭神沙本之大闇見戸賣かと云ふ。
〔七座〕御食津大神仲哀天皇、神功皇后（以上中殿）、日本武尊（東殿）、武内宿禰（西殿）、應神天皇（惣社）、淀姫命（平殿）これ也
〔志比前神社〕道口村に在り、經津主命を祭る。

須可麻神社。
伊牟移神社。
丹生神社。
和爾部神社。
宇波西神社。名神大。月次新嘗。
仁布神社。
木野神社。
於世神社。
能登神社。
山都田神社。
御方神社。
多由比神社。
織田神社。
佐支神社。
高那彌神社。
須部神社。
彌美神社。
常神社。
闇見神社。

越前國一百廿六座。大八座。小百十八座。
敦賀郡卌三座。大七座。小卅六座。
氣比神社七座。並名神大。
劒神社。
田結神社。
野坂神社。
角鹿神社。
加比留神社。
丹生神社。
久豆彌神社。
志比前神社。
大椋神社。

〔金前神社〕金ヶ崎に在り、祭神宇都志日金拆命か。〔白城神社〕白木浦に在り、祭神[illegible]飯命かと云ふ。〔石田神社〕官社考に疋田郷に在りと云ふも詳かならず、祭神五十日足彥命かと云ふ。〔天八百萬比咩神社〕香浦に在る氣比宮の攝社也。〔天利劒神社〕以下二社と共に氣比社内に在り。〔天國津比咩神社〕文德實錄に據り、津字を補ふ。〔雨夜神社〕丹生郡中古川村下大蟲村に在り、大蟲神の御子を祭る。〔大蟲神社〕上大蟲村に在り、彥火々出見尊を祭る。

和志前神社。　市振神社。
金前神社。　五幡神社。
阿蘇村利椋神社。　白城神社。
横椋神社。　伊多伎夜神社。
横山神社。　伊部磐座神社。
質覇村峯神社。　鹿蒜神社。
高岡神社。　大神下前神社。
[illegible]田口神社。　三前神社。
織田神社。　石田神社。
天八百萬比咩神社。　天利劒神社。
天比女若御子神社。　伊比奈彥神社。
天國津彥神社。　天國津比咩神社。
天鈴神社。　玉佐佐良彥神社。
信露貴彥神社。

丹生郡十四座大一座。小十三座。

兄子神社。　雨夜神社。
大虫神社。名神大。　斗布神社。

〔大山御板神社〕もと大山に在り、後ち丹津神社に合祀す。祭神猿田彥大神也。
〔四座〕官社考に葺不合尊、武位起命、神倭磐余彥尊、椎根津彥命とあり。
〔小虫神社〕下大虫村に在り、豐玉姬尊を祭る。
〔丹津神社〕東鯖江村に在り、大彥命を祭る。
〔山方神社〕祭神山方比古神かと云ふ
〔御門神社〕三戸部村に在り、祭神御門比古神かと云ふ
〔分神社〕在所詳かならず、祭神は別公祖かと云へり。

長岡神社。　麻氣神社。
枚手神社。　大山御板神社。
佐佐牟志神社四座。　小虫神社。
雷神社。

今立郡十四座。並小。
颿山神社。　國中神社二座。
石部神社。　岡太神社。
須波阿須疑神社三座。　丹津神社。
刀那神社。　小山田神社。
鵜甘神社。　加多志波神社。
敷山神社。

足羽郡十三座。並小。
杉杜郡神社。　土輪神社。
苴野神社。　麻氣神社。
登知爲神社。　推前神社。
與須奈神社。　山方神社。
御門神社。　分神社。

〔足羽神社〕福井に在り、祭神は阿須波神と云ひ、或は繼體天皇、阿須波神、波比岐神とも云ふ。

〔篠座神社〕篠座村に在り、大己貴命を祭る。

〔坂門一事神社〕坂戸村に在り、祭神一言主神かと云ふ。

〔久米多神社〕上久米田村に在り、大久米命を祭る。

〔意加美神社〕本郷江上村に在り、金山彦命、都留支日子命を祭る。

〔井口神社〕本庄中番村に在り、生井神を祭る。

〔楊瀬神社〕安島浦雄島に在り、伊弉册尊、應神天皇を祭る。

神傍神社。　於神社。
足羽神社。
大野郡九座。並小。
磐座神社。　篠座神社。
椛神社。　大槻磐座神社。
坂門一事神社。　風速神社。
國生大野神社。　高於磐座神社。
荒島神社。
坂井郡卅三座。並小。
布久漏神社。　坂名井神社。
御前神社。　都那高志神社。
多禰神社。　久米多神社。
意加美神社。　阿治波世神社。
國神神社。　井口神社。
楊瀬神社。　己乃須美神社。
片岸神社。　大溝神社。
比古奈神社。　弊多神社。

〔枚岡神社〕もと平岡山に在り、後ち足羽社内に遷す、祭神天兒屋命也。

〔保曾呂伎神社〕細呂木に在り、祭神は官社考に春日神となす。

〔三國神社〕三國町に在り、祭神三國眞人の祖かと云ふ

〔菅生石部神社〕大聖寺町に在り、彦火々出見尊、豐玉姬命、鸕鷀草葺不合尊を祭る。

〔忌浪神社〕弓波村に在り、倉稻魂命を祭る。

〔潮津神社〕潮津村に在り、鹽土翁を祭る。

紀倍神社。
毛谷神社。
英多神社。
伊伎神社。
横山神社。
石田神社。
高岡神社。
家津神社。
絲前神社。

枚岡神社。
柴神社。
鵜屎神社。
保曾呂伎神社。
三國神社。
味坂神社。
笠間神社。
大湊神社。

加賀國卌二座。並小。

江沼郡十一座。並小。

篠原神社。
御木神社。
服部神社。
忌浪神社。
出水神社。
潮津神社。

刀何理神社。
宮村岐部神社。
菅生石部神社。
日置神社。
氣多御子神社。

〔狄野神社〕在所詳かならず、祭神狭野尊かと云ふ。
〔多太神社〕小松町に在り、衝桙等乎而留比古命、仁徳天皇を祭る。
〔石部神社〕小松町に在り、大物主命を祭る。
〔本村井神社〕村井村に在り、少彦名命を主神となす。
〔額東神社〕粟田彦大神を祭る。
〔御馬神社〕間明村に在り、保食神を祭る。
〔佐奇神社〕鷲森村に在り、神功皇后を祭る。
〔味知神社〕下安江村に在り、武甕槌命を主神とす。
〔神田神社〕御供田村に在り、饒速日命を祭る。

能美郡八座並小。
狄野神社。多太神社。
石部神社。湊上神社。
幡生神社。兎橋神社。
多伎奈彌神社。熊田神社。
石川郡十座並小。
白山比咩神社。本村井神社。
額東神社。額西神社。
御馬神社。佐奇神社。
椙本神社。笠間神社。
味知神社。神田神社。
加賀郡十三座並小。
小濱神社。野間神社。
三輪神社。賀茂神社。
神田神社。下野間神社。
部家神社。須岐神社。
野蛟神社。波自加彌神社。

〔大野湊神社〕寺中村に在り、猿田彦大神を祭る。

〔野蚊神社〕神谷内村に在り、高皇產靈尊、猿田彦大神事代主命を祭る。

〔志乎神社〕萩谷村に在り、素盞嗚尊健御名方命、應神天皇を祭る。

〔氣多神社〕一宮村に在り、天活玉命を祭る、當國の一宮也。

〔名神大〕一本によりこれを補ふ。

〔神代神社〕神代村に在り、倉稻魂命を祭る。

〔羽咋神社〕羽咋村に在り、石撞別命を祭る。

〔能登生國玉比古神社〕所口村に在り、祭神生國神、足國神かと云ふ。

大野湊神社。　野蚊神社。

笠野神社。　志乎神社。

能登國卅三座。大一座。小卅二座。

羽咋郡十四座。大一座。小十三座。

相見神社。　神代神社。

氣多神社〔名神大。〕　瀨戶比古神社。

羽咋神社。　椎葉圓比咩神社。

手速比咩神社。　諸岡比古神社。

奈豆美比咩神社。　久麻加夫都阿良加志比古神社。

百沼比古神社。　大穴持像石神社。

藤津比古神社。

能登郡十七座。並小。

能登比咩神社。　藤原比古神社。

菅忍比咩神社。　加夫刀比古神社。

天日陰比咩神社。　鳥屋比古神社。

荒石比古神社。　久氐比古神社。

能登生國玉比古神社。　白比古神社。

〔伊須流支比古神社〕石動山に在り、伊弉諾尊を主神とする由社傳に見ゆ。

〔久志伊奈太「伎」比咩神社〕一本に據り脫字を補ふ。

〔須須神社〕三崎に在り、瓊々杵尊、木花開耶姫命を祭神とす。

〔高瀬神社〕高瀬村に在り、天活玉命、大巳貴命、五十猛命を祭る。

〔長岡神社〕七社村に在り、鸕鷀草葺不合尊を祭る。

〔林神社〕頼成村に在り、祭神は神社帳に、國狹槌尊、豐斟渟尊、泥土煮尊、沙土煮尊、面足之尊、惶根尊となし考證に林宿彌の祖となす。

〔名神大〕一本により是を補ふ。

伊須流支比古ノ神社。　餘喜比古ノ神社。

阿良加志比古ノ神社。　久志伊奈太伎比咩ノ神社。

伊夜比咩ノ神社。　御門主比古ノ神社。

宿那彦神像石ノ神社。

鳳至郡九座並小。

鳳至比古ノ神社。　石瀬比古ノ神社。

神杉伊豆牟比咩ノ神社。　石倉比古ノ神社。

美麻奈比古ノ神社。　美麻奈比咩ノ神社。

神目伊豆伎比古ノ神社。　奥津比咩ノ神社。

邊津比咩ノ神社。

珠洲郡三座並小。

須須ノ神社。　古麻志比古ノ神社。

加志波良比古ノ神社。

越中國卅四座大一座、小卅三座。

礪波郡七座並小。

高瀬ノ神社。　長岡ノ神社。

林ノ神社。　荊波ノ神社。

〔比賣神社〕中村に在り、伊弉冊尊、田心姫命を祭る。
〔雄神神社〕庄金剛寺村に在り、高龗、闇龗、闇罔象を祭神とす。
〔名神大〕一本に據りこれを補ふ。
〔道神社〕作道村に在り、[illegible]田心命を祭神とす。
〔加久彌神社〕高岡に在り、國常立尊、保食神、天照大神、三毛入野命を祭る。
〔布勢神社〕布勢村に在り、大彦命を祭る。
〔櫛田神社〕清和實録により田字を補ふ、櫛田村に在り、素盞嗚尊、奇稻田姫命を祭る。
〔速星神社〕清川に在り、古大苗日命、素盞嗚尊、倭得玉彦命を祭る。

比賣神社。
淺井神社。
射水郡十三座。大一座。小十二座。
射水神社。名神大。
物部神社。
久目神社。
速川神社。
磯部神社。
草岡神社。
婦負郡七座。
姉倉比賣神社。
白鳥神社。
熊野神社。
鵜坂神社。
新川郡七座。並小。
日置神社。
櫟原神社。

雄神神社。
道神社。
加久彌神社二座。
布勢神社。
櫛田神社。
箭代神社。
氣多神社。
速星神社。
多久比禮志神社。
杉原神社。
建石勝神社。
八心大市比古神社。

（雄山神社）立山の雄山に在り、所謂立山神を祭る、其御本體を伊弉諾神なりとなす說あるも詳かならず。

（奴奈川神社）一宮村に在り、奴奈川彥命、奴奈川姬命、黑姬命を祭る。

（居多神社）居田に在り、大巳貴命を祭る。

（佐多神社）今町村に在り、諾冊二尊及素戔嗚尊を祭る。

（青海神社）青海に在り、椎根津彥命を祭る。

（三宅神社）妙見村に在り、波多武日子命を祭る。

（都野神社）月岡村に在り、紀角宿禰を祭る。

（御島石部神社）北條村に在り、久斯比賀多命を祭る。

日吉神社。　布勢神社。

雄山神社。

越後國五十六座。大一座。小五十五座。

頸城郡十三座。並小。　大神社。

奴奈川神社。　居多神社。

阿比多神社。　物部神社。

佐多神社。　菅原神社。

水島磯部神社。　江野神社。

五十君神社。　圓田神社。

青海神社。

斐太神社。

古志郡六座。並小。

三宅神社二座。　桐原石部神社。

都野神社。　小丹生神社。

宇奈具志神社。

三島郡六座。並小。

御島石部神社。　物部神社。

〔多岐神社〕別山村に在り、大國主命八世の孫苗田々比古命を祭る

〔魚沼神社〕大倉村に在り、魚沼姫命を祭る。

〔坂本神社〕坂戸山麓に在り、武内宿彌を祭る。

〔伊米神社〕鎌野村に在り、天照大神を祭る。

〔宇都良波志神社〕瀧谷村に在り、諾冊二尊を祭る。

〔伊加良志神社〕飯田村に在り、級長戸邊命、級長津彦命を祭る。

〔伊夜比古神社〕彌彦に在り、今彌彦神社と云ふ、當國の一宮にて、天香久山命を祭る。

〔大形神社〕河渡村に在り、大國主神を祭る。

鵜川神社。　多岐神社。
三島神社。　石井神社。
魚沼郡五座。並小。
魚沼神社。　大前神社。
坂本神社。　伊米神社。
川合神社。
蒲原郡十三座。大一座。小十二座。
青海神社二座。　宇都良波志神社。
伊久禮神社。　槻田神社。
小布勢神社。　伊加良志神社。
伊夜比古神社。名神大。　長瀬神社。
中山神社。　旦飯野神社。
船江神社。　土生田神社。
沼垂郡五座。並小。
大形神社。　市川神社。
石井神社。　美久理神社。
川合神社。

磐船郡八座。並小。

石船神社。　蒲原神社。

西奈彌神社。　荒川神社。

多伎神社。　漆山神社。

桃川神社。　湊神社。

佐渡國九座。並小。

羽茂郡二座。並小。

度津神社。　大目神社。

雜太郡五座。並小。

引田部神社。　物部神社。

御食神社。　飯持神社。

越敷神社。

賀茂郡二座。並小。

大幡神社。　阿都久志比古神社。

山陰道神五百六十座。

大卅七座。就中一座。月次新嘗。

小五百廿三座。

〔石船神社〕饒速日命を祭る。

〔蒲原神社〕勝木村に在り、草野媛命を祭る。

〔多伎神社〕[illegible]谷村に在り、罔象女神を祭る。

〔漆山神社〕武動村に在り、經津主命武甕槌命を祭る。

〔桃川神社〕桃川村に在り、矢[illegible]機姫命を祭る。

〔度津神社〕飯岡村に在り、五十猛命を祭る。

〔物部神社〕宇摩志麻治命を祭る。

〔御食神社〕祭神御食津神かと云ふ。

〔並小〕貝本に據り補ふ。

〔小川月神社〕湯尻村に在り、大月神命を祭る。

〔神野神社〕宮傍村に在り、伊可古夜日女命を祭る。

〔阿多古神社〕愛宕山（今山城國葛野郡）に在り、伊弉册尊、火産靈尊を祭る。

〔松尾神社〕保津村に在り、大山咋神を祭る。

〔村山神社〕大山祇命を祭る。

〔蒋田〔野〕神社〕下佐伯村に在り、尙ほ京貞二本に野字を缺く。

丹波國七十一座。大五座。小六十六座。

桑田郡十九座。大二座。小十七座。

出雲神社。名神大。
三宅神社。
三縣神社。
山國神社。
小幡神社。
松尾神社。
大井神社。
奧能神社。
村山神社。
蒋田〔野〕神社。

船井郡十座。大一座。小九座。

船井神社。
出石鹿島部神社。
幡日佐神社。
[illegible]奈貴神社。

桑田神社。
小川月神社。名神大。
神野神社。
阿多古神社。
葦田神社。
伊達神社。
石穂神社。
多吉神社。
鍬山神社。
志多非神社。
島物部神社。
志波加神社。
麻氣神社。名神大。

〔多沼神社〕田原村に在り、祭神詳かならず。

〔櫛石窓神社〕福井村に在り、櫛石窓神、豊石窓神を祭神とす。

〔大賣神社〕祭神所在詳かならず、伴信友は、在ニ寺内村一歟と云へり。

〔佐々婆神社〕宮村に在り、祭神詳かならず。

〔二村神社〕味間村に在り、祭神詳かならず。

〔神野神社〕在所詳かならず、伊可古夜日女命を祭る。

酒治志神社。　多沼神社。

多紀郡九座。大二座。小七座。

櫛石窓神社二座。並名神大。　神田神社。

川内多々奴比神社二座。　大賣神社。

佐々婆神社。　二村神社。

熊鞍神社。

氷上郡十七座。並小。

高座神社。　狭宮神社。

苅野神社。　[illegible]部神社。

知乃神社。　伊尼神社。

佐地神社。　阿陀岡神社。

楯縫神社。　芹田神社。

兵主神社。　新井神社。

奴々伎神社。　蘆井神社。

加和良神社。　伊都伎神社。

神野神社。

天田郡四座。並小。

〔天照玉命神社〕今安村に在り。

〔佐陁神社〕伊弉册尊を祭る。

〔赤國神社〕館村に在り、祭神詳かならず。

〔高藏神社〕井倉村に在り、祭神詳かならず。

〔奈具神社〕在所詳かならず、豐宇氣比女神を祭る。

〔倭文神社〕所在詳かならず、天羽槌雄命を祭神とす。

〔大川神社〕大川村に在り、祭神詳かならず。

〔麻良多神社〕所在詳かならず、豐宇氣持命を祭る。

生野神社。　奄我神社。

天照玉命神社。　荒木神社。

何鹿郡十二座。並小。

須波伎部神社。　阿比地神社。

阿須須伎神社。　御手槻神社。

佐陁神社。　河牟奈備神社。

伊也神社。　赤國神社。

高藏神社。　佐須我神社。

島萬神社。　福太神社。田イ

丹後國六十五座。大七座。小五十八座。

加佐郡十一座。大一座。小十座。

奈具神社。　伊知布西神社。

彌加宜神社。　倭文神社。

高田神社。　大川神社。名神大。

阿良須神社。　笶原神社。

麻良多神社。　三宅神社。

日原神社。

與謝郡廿座。大三座。小十七座。

籠神社、名神大。月次新嘗。
物部神社。
溝川神社、
須代神社。
布甲神社、
宇豆貴神社。
阿知江神社。
久理陀神社、
多由神社。
宇良神社。
矢田部神社。
阿知江𥔎部神社。
倭文神社。
三重神社。
木積神社、
板列神社。
杉末神社。
吾野神社。
大虫神社、名神大。
小虫神社、名神大。

丹波郡九座。大二座。小七座。

大宮賣神社二座、名神大。
咋岡神社、
波彌神社、
多久神社。
稻代神社、
名木神社、
矢田神社、
比沼麻奈爲神社。

竹野郡十四座。大一座。小十三座。

〔籠神社〕中村に在り、住吉神を祭る當國の一宮也。
〔物部神社〕石川村に在り、宇摩志麻治命を祭る。
〔久理陀神社〕栗田上司町に在り、住吉神を祭る。
〔矢田部神社〕山田村に在り、祭神矢田部氏祖かと云ふ
〔倭文神社〕木庄村に在り、天羽槌雄命を祭る。
〔大宮賣神社〕主基村に在り。
〔比沼麻奈爲神社〕久次村に在り、豐宇賀能賣神を祭る

大宇加神社。
奈具神社。
溝谷神社。
久爾原神社。
網野神社。
依遲神社。
大野神社。
竹野神社。大。
生王部神社。
志布比神社。
深田部神社。
床尾神社。
發枳神社。
賣布神社。

熊野郡十一座。並小。

熊野神社。
意布伎神社。
伊豆志彌神社。
矢田神社。
丸田神社。
賣布神社。
葉良神社。
三島田神社。
神谷神社。
村岳神社。
聞部神社。

但馬國一百卅一座。大十八座。小一百十三座。

朝來郡九座。大一座。小八座。

粟鹿神社。名神大。
朝來石部神社。

〔大宇賀神社〕祭神豐宇賀能賣命、竹野郡鄕村鄕にあり
〔溝谷神社〕祭神須佐之男命、竹野郡溝谷村溝谷にあり
〔久爾原神社〕祭神詳ならず、竹野郡深田村國久にあり
〔依遲神社〕祭神伊香色男命、社格鄕社、竹野郡上宇川村遠下にあり。
〔竹野神社〕祭神天照大神、竹野郡竹野村宮にあり。
〔志布比神社〕祭神志夫美宿禰命、竹野郡臨井村の常世浦ならんと云ふ。
〔賣布神社〕祭神大咩布命、熊野郡下佐濃村女布にあり
〔粟鹿神社〕鄕社にて、朝來郡粟鹿村粟鹿にあり。

〔兵主神社〕祭神大己貴命、朝來郡柿坪村宮山にあり。

〔伊由神社〕祭神少彦名命、朝來郡中川村伊由市場にあり。

〔倭文神社〕祭神健羽槌命、朝來郡生野町丸山にあり。

〔佐嚢神社〕祭神大宮大明神と稱す、朝來郡山口村佐嚢にあり。

〔夜夫坐神社〕祭神大己貴命、四座詳ならず、今郷社にして、養父郡養父市場村養父市場にあり。

〔佐伎都比古阿流知命神社〕祭神佐伎津比古阿流知命にて、天日槍の妻の父前津耳なるべしと云ふ、養父郡糸井村寺内にあり

刀我石部ノ神社。
赤淵神社。
倭文神社。
佐嚢神社。
養父郡卅座。大三座。小廿七座。
夜夫坐神社五座。名神大二座。小三座。
水谷神社。名神大。
屋岡神社。
楯縫神社。
男坂神社。
井上神社二座。
坂益神社。
葛神社。
桐原神社。
更杵村大兵主神社。
名草神社。
和奈美神社。
兵主ノ神社。
伊由神社。
足鹿神社。
宇留波神社。
淺間神社。
伊久刀神社。
兵主ノ神社。
佐伎都比古阿流知命ノ神社二座。
手谷神社。
保奈麻神社。
大與比神社。
盈岡神社。
御井神社。
杜内神社。
夜伎村坐山ノ神社。

〔伊豆志坐神社〕祭神伊豆志之八前大神（神璽出石神寶）今國幣中社、出石郡神美村宮内にある、出石神社是也。
〔諸杉神社〕祭神多遲摩母呂須玖、今郷社にして、出石郡出石町にあり。
〔佐々伎神社〕祭神大彦命、出石郡合橋村佐々木にあり
〔日出神社〕祭神多遲摩比泥、出石郡資母村畑山にあり
〔小野神社〕祭神天帶彦國押人命、出石郡神美村小野にあり。
〔多麻良伎神社〕祭神多麻良伎明神、今城崎郡八代村猪爪にあり。
〔御井神社〕祭神御井神、城崎郡國府村土居にあり。

出石郡廿三座。大九座。小十四座。
伊豆志坐神社八座。並名神大。
御出石神社。名神大。
桐野神社。
諸杉神社。
須流神社。
佐佐伎神社。
日出神社。
須義神社。
小野神社。
手谷神社。
中嶋神社。
大生部兵主神社。
阿牟加神社。
比遲神社。
石部神社。
小坂神社。

氣多郡廿一座。大四座。小十七座。
多麻良伎神社。
氣多神社。
葦田神社。
山野神社。
賣布神社。
鷹貫神社。
久刀村兵主神社。
日置神社。
楯縫神社。
井田神社。
思往神社。
御井神社。
高負神社。
佐久神社。

[illegible]門神社。
伊智神社。
須谷神社。
由良神社。名神大。
戸神社。名神大。
雷神社。名神大。
楯縫神社。名神大。

城崎郡廿一座。大一座。小廿座。

物部神社。
久麻神社。
穴目杵神社。
女代神社。
與佐伎神社。
布久比神社。
小江神社。
久久比神社。
耳井神社。
桃島神社。
兵主神社。
深坂神社。
兵主神社二座。
氣比神社。
久流比神社。
重浪神社。
縣神社。
酒垂神社。
西刀神社。
海神社。名神大。

美含郡十二座。並小。

佐受神社。
鷹野神社。

〔[illegible]神社〕祭神武甕島命、城崎郡三方村荒川にあり。
〔伊智神社〕祭神大市比賣命、城崎郡國府村府中市場にあり。
〔[illegible]神社〕祭神大雷神社、城崎郡八條村佐野にあり。
〔與佐伎神社〕祭神宇麻志麻遲命、城崎郡田鶴野村下鶴井にあり、
〔布久比神社〕祭神石衝別命、城崎郡五庄村野江にあり
〔小江神社〕祭神豐玉比古命、城崎郡五庄村江野にあり
〔久久比神社〕祭神天湯河板擧命、城崎郡三江村下宮にあり。
〔[illegible]神社〕祭神天穗日命、今郷社、城崎郡[illegible]にあり。

伊伎佐神社三座。　法庭神社。
美伊神社。　椋橋神社。
阿故谷神社。　桑原神社。
色來神社。　丹生神社。

二方郡五座。並小。
二方神社。　大家神社。
大歳神社。　面沼神社。
須加神社。

七美郡十座。並小。
多他神社。　小代神社二座。
志都美神社二座。　伊曾布神社。
等余神社。　高坂神社。
黒野神社。　春木神社。

因幡國五十座。大一座。小卌九座。
巨濃郡九座。並小。
恩志呂神社。　大神社。
佐彌乃兵主神社。　高野神社。

〔伊伎佐神社〕祭神武甕槌命、城崎郡香住村下濱にあり。
〔美伊神社〕祭神詳ならず、城崎郡奥佐津村三河にあり
〔色來神社〕祭神色來大明神と稱す、城崎郡中竹野村林にあり。
〔二方神社〕祭神大巳貴命、今美方郡濱坂町田井にあり
〔面沼神社〕祭神美尼布神、今郷社、美方郡温泉村竹田にあり。
〔多他神社〕祭神素盞嗚命、美方郡小代村忠の宮にあり
〔伊曾布神社〕祭神不詳、美方郡射添村味取にあり。
〔恩志呂神社〕祭神天津日高日子番邇邇藝尊、岩美郡本莊村恩志にあり。

〔御碕神社〕祭神素盞嗚尊、今日御碕神社に作る、國幣小社、簸川郡日御碕村日御碕にあり

〔因佐神社〕祭神建御雷神、今出雲大社の攝社たり、簸川郡杵築町杵築の北字稻佐にあり。

〔美談神社〕祭神和加布都怒志命、簸川郡國富村美談字荒木にあり。

〔縣神社〕祭神天穗日命、前記美談神社の境内にあり。

〔都武自神社〕祭神速都武自別命、事代主命、神武天皇、今鄕社、簸川郡國富村國富の字旅伏にあり。

同社神韓國伊太氐神社。
同社須佐袁神社。
同社神阿須伎神社。
同社神阿麻能比奈等理神社。
同社阿遲須伎神社。
御碕神社。
久佐加神社。
同社大穴持海代日女神社。
同社神魂伊豆乃賣神社。
同社比古佐和氣神社。
都我利神社。
美談神社。
縣神社。
印波神社。
宇加神社。
布勢神社。
出雲神社。

同社天若日子神社。
同社神魂意保刀自神社。
同社神伊佐那伎神社。
同社神伊佐我神社。
同社天若日子神社。
同社大穴持海代日古神社。
因佐神社。
伊努神社。
同社神魂神社。
意布伎神社。
伊佐波神社。
同社比賣遲神社。
同社和加布都努志神社。
都武自神社。
美[illegible]神社。
意保美神社。
同社韓國伊太氐神社。

〔伊甘神社〕祭神溝織姫、那賀郡下府村下府にあり。
〔大麻山神社〕祭神大麻比古神、今郷社、那賀郡井野村室谷にあり。
〔石見天豐足柄姫命神社〕祭神石見天豐足柄姫命、今縣社、那賀郡濱田町淺井にあり。
〔天津神社〕祭神高皇産靈神、今郷社、邑智郡[illegible]郷にあり。
〔菅野天射若子命神社〕祭神天射若子命、今美濃郡小野村戸田の小野神社に合併す。
〔由良比女神社〕祭神由良姫神、今郷社、知夫郡浦郷村浦郷にあり。

伊甘神社。
石見天豐足柄姫命神社。
大飯彦命神社。
大歳神社。
夜須神社。
邑智郡二座。並小。
天津神社。
大原神社。
美濃郡五座。並小。
菅野天射若子命神社。
染羽天石勝命神社。
小野天大神之多初阿豆委居命神社。

隱岐國十六座。大四座。小十二座。
知夫郡七座。大一座。小六座。
由良比女神社。名神大。元名和多須神。
海神社二座。
眞氣命神社。

大麻山神社。
大祭天石門彦神社。
櫛色天蘿箇彦命神社。
山邊神社。
[illegible]命神社。
佐毘賣山神社。
櫛代賀姫命神社。
大山神社。
比奈麻治比賣命神社。
天佐志比古命神社。

〔佐波良神社〕社村に在り、佐波良命を祭る、以下の六社皆同村に在り、祭神詳かならず。

〔中山神社〕一宮村に在り、祭神は社記鏡作命となし、一宮記大己貴命となす、當國一宮也

〔美和神社〕福里村に在り、祭神大物主命かと云ふ。

〔片山日子神社〕土師村に在り、大山咋神を祭る。

〔安仁神社〕藤井村に在り、祭神不詳

〔鴨神社〕仁堀西村に在り、祭神山城國賀茂上下三座かと云ふ。

〔宗形神社〕是里村に在り、祭神吾田片隅命かと云ふ。

〔石上布都之魂神社〕石上村に在り

大庭郡八座。並小。

佐波良神社。　形部神社。

壹粟神社二座。　横見神社。

久刀神社。　菟上神社。

長田神社。

苫東郡二座。大一座。小一座。

高野神社。　中山神社。名神大。

英多郡一座。小。

天石門別神社。

備前國廿六座。大一座。小廿五座。

邑久郡三座。大一座。小二座。

美和神社。　片山日子神社。

安仁神社。名神大。

赤坂郡六座。並小。

鴨神社三座。　宗形神社。

石上布都之魂神社。　布勢神社。

和氣郡一座。小。

古郡神社。　野俣神社。
鼓神社。　吉備津彦神社。名神大。
下道郡五座。並小。
石畳神社。　神神社。
麻佐岐神社。　横田神社。
穴門山神社。
小田郡三座。並小。
在田神社。　神島神社。
鵜江神社。
後月郡一座。小
足次山神社。
英賀郡二座。並小。
比売坂鍾乳穴神社。　井戸鍾乳穴神社。
備後国十七座。並小。
安那郡二座。並小。
多祁伊奈太伎佐耶布都神社。　天別豊姫神社。
深津郡一座。小。

〔鼓神社〕上高田村に在り、祭神武鼓王かと云ふ。
〔神神社〕在所詳かならず、祭神大物主命かと云ふ。
〔麻佐岐神社〕下秦村眞佐岐山に在り祭神詳かならず。
〔穴門山神社〕高山市村穴門山に在り祭神吉備穴戸武媛かと云ふ。
〔在田神社〕在田村に在り、以下二社と共に祭神不詳也
〔神島神社〕神島外浦に在り。
〔鵜江神社〕式社考に、左ニ鴻島ニとあるも不詳也
〔小〕他本に據りこれを補ふ。

須佐能袁能神社。
奴可郡一座。小。
爾比都賣神社。
沼隈郡三座。並小。
高諸神社。　沼名前神社。
比古佐須伎神社。
品治郡一座。小。
多理比理神社。
葦田郡二座。並小。
賀武奈備神社。　國高依彥神社。
甲奴郡一座。小。
意加美神社。
三上郡一座。小。
蘇羅比古神社。
惠蘇郡一座。小。
多加意加美神社。
御調郡一座。小。

〔須佐能袁能神社〕戸手村に在り、祭神素盞嗚尊か。
〔沼名前神社〕鞆町に在り、素盞嗚尊を祭る。
〔賀武奈備神社〕神社覈録に、出口村神南備明神と見えたり。
〔意加美神社〕稲草村に在り、祭神龗神かと云ふ。
〔多加意加美神社〕向泉村八國見山に在り、高龗を祭る

〔賀羅加波神社〕三原に在る午川社かと云ふ。
〔速谷神社〕上平良村に在り、[illegible]島を祭ると云ふ、當國の二宮也。
〔伊都伎島神社〕嚴島に在り、市杵島姫を祭る、當國の一宮也。
〔多家神社〕當國三宮なるも在所祭神詳かならず。
〔並小〕一本によりこれを補ふ。
〔石城神社〕石城山村に在り、祭神詳かならず。
〔玉祖神社〕右田村に在り、玉屋命を祭る、當國の一宮なり。
〔出雲神社〕二宮村に在り、社傳に天穂日命を祭ると云ふも詳かならず。

賀羅加波神社。
世羅郡一座。
和理比賣神社。
三谿郡一座。小。
知波夜比古神社。
三次郡一座。小。
知波夜比賣神社。

安藝國三座。並大。
佐伯郡二座。並大。
速谷神社。名神大。月次新嘗。　伊都伎島神社。名神大。
安藝郡一座。大。
多家神社。名神大。

周防國十座。一大。九小。
熊毛郡二座。並小。
熊毛神社。　石城神社。
佐波郡六座。並小。
玉祖神社二座。　出雲神社二座。

御坂神社、劔神社。
吉敷郡一座小。
仁壁神社。
都濃郡一座。小。
二俣神社。
長門國五座大三座。小二座。
豐浦郡五座大三座。小二座。
住吉坐荒御魂神社三座並名神大。忌宮神社。
村屋神社、

南海道神一百六十三座。
大廿九座十座月次新嘗。就中四座相嘗。
小一百卅四座。
紀伊國卅一座大十三座。小十八座。
伊都郡二座。大一座。小一座。
小田神社。丹生都比女神社名神大。月次新嘗。
那賀郡三座。並小。
荒田神社二座。海神社。

〔小〕一本により是れを補ふ。
〔仁壁神社〕山口に在る當國の三宮也祭神詳かならず。
〔住吉坐荒御魂神社〕一宮村に在り表筒男命、中筒男命、表筒男命を祭る、當國の一宮也神功皇后同社を創立し給へること日本紀仲哀天皇九年の條に見ゆ。
〔忌宮神社〕府中に在り、仲哀天皇を祭る。
〔小田神社〕小田村に在り、祭神小田連祖神かと云ふ。
〔丹生都比女神社〕諸本に據り生字を加ふ。
〔荒田神社〕森村に在り。
〔海神社〕神領村に在り、豐玉姫命、國津姫命を祭る。

名草郡十九座。大九座。小十座。

日前神社。名神大。月次相嘗新嘗。

國懸神社。名神大。月次相嘗新嘗。

伊太祁曾神社。名神大。月次相嘗新嘗。

大屋都比賣神社。名神大。月次新嘗。

都麻都比賣神社。名神大。月次新嘗。

鳴神社。名神大。月次相嘗新嘗。

香都知神社。

加太神社。

伊久比賣神社。

朝椋神社。

刺田比古神社。

靜爲比賣神社。

竈山神社。

高積比古神社。

高積比賣神社。

伊達神社。名神大。

志摩神社。名神大。

靜火神社。名神大。

堅眞[音]神社。

在田郡一座。大。

須佐神社。名神大。月次新嘗。

牟婁郡六座。大二座。小四座。

熊野早玉神社。大。

熊野坐神社。名神大。

海神社三座。

天手力男神社。

淡路國十三座。大二座。小十一座。

〔伊太祁曾神社〕西山東村に在り、五十猛命、大屋津姫命、抓津姫命を祭る。

〔大屋都比賣神社〕森村に在り、祭神前社に同じ。

〔鳴神社〕鳴神村に在り、速秋津日子神、速秋津比賣神を祭る。

〔刺田比古神社〕和歌山市に在り・佐氐彦命、道臣命を祀る。

〔竈山神社〕三田村に在り、五瀬命を祭ると云ふ。

〔靜火神社〕三田村に在り、火結神を祭る。

〔堅眞音神社〕林京貞三本等により、音字を補ふ。

〔天手力男神社〕熊野本宮末社御戸開社これ也。

〔忌部神社〕徳島市富田浦町に在り、天日鷲命を祭る。

〔天水沼間比古神社〕社字衍なるべし。

〔天石門別豊玉比賣神社〕天野村に在りとも云へど詳かならず。

〔大御和神社〕府中村に在り、祭神大物主命かと云ふ。

〔御間都比古神社〕河内村に在り、観松彦色止命を祭る。

〔多祁御奈刀彌神社〕諏訪村に在り祭神建御名方命かと云ふ。

〔勝占神社〕[illegible]村に在り、祭神詳かならず。

横田神社。　伊射奈美神社。

建神社。　天椅立神社。

天都賀佐毗古神社。　八十子神社。

爾都波能賣神社。　波爾移麻比禰神社。

倭大國玉神大國敦神社二座。

麻殖郡八座。大一座。小七座。

忌部神社。名神大。月次新嘗。或號二麻殖神一。或號二天日鷲神一。　天村雲神伊自波夜比賣神社二座。

伊加加志神社。　天水沼間比古神「社」天水塞比賣神社二座。

秘羽目神足濱目門比賣神社二座。

名方郡九座 大一座。小八座。

天石門別八倉比賣神社。大。月次新嘗。　天石門別豊玉比賣神社。

麻能等比古神社。　和多都美豊玉比賣神社。

大御和神社。　天佐自能和氣神社。

御間都比古神社。　多祁御奈刀彌神社。

意富門麻比賣神社。

勝浦郡八座。並小。

勝占神社。　事代主神社。

山方比古神社。　宇母理比古神社。
阿佐多知比古神社。　速雨神社。
御縣神社。　建島女祖命神社。
那賀郡七座。並小。
和耶神社。　宇奈爲神社。
和奈佐意富曾神社。　室比賣神社。
八桙神社。　賀志波比賣神社。
建比賣神社。
讃岐國廿四座。大三座。小廿一座。
寒川郡五座。並小。
志太張神社。　布勢神社。
神前神社。　多和神社。
大蓑彦神社。
三木郡一座。小。
和爾賀波神社。
香川郡一座。大。
田村神社。名神大。

〔御縣神社〕中之郷村に在り、祭神詳かならず。〔建島女祖命神社〕祭神社所詳かならず、或は中田村竹島明神これなりと云ふ。〔室比賣神社〕在所詳かならず、開化天皇の御孫を室毘古王と申す、祭神は其王子の后にやと云ふ。〔賀志波比賣神社〕見能方村に在り。〔志太張神社〕東山村に在り、天下春命を祭る。〔布勢神社〕石田西村に在り、考證に大彦命を祭ると云へども詳かならず〔神前神社〕社前村に在り、猿田彦大神を祭る。〔和爾賀波神社〕井戸村に在り、豐玉姫、玉依姫を祭る

〔鴨神社〕鴨村に在り、別雷神を祭る

〔飯神社〕東二村飯野山麓に在り、飯依彦を祭る。

〔櫛梨神社〕櫛梨村に在り、神櫛別命を祭ると云ひ、或は武鼓王を祭るとも云ふ。

〔神野神社〕郡家村に在り、伊賀古夜姫命を祭る。

〔大麻神社〕大麻村に在り、天太玉命を祭る。

〔高屋神社〕東高屋村に在り、高稲津美神を祭ると云ふ

〔山田神社〕黒渕村に在り、月讀尊を祭るとも、素盞嗚尊を祭るとも云ふ

〔粟井神社〕粟井村に在り、天太玉命、保食神、八幡大神を祭るとも云ふ。

阿野郡三座。大一座。小二座。

鴨神社。　神谷神社。

城山神社。名神大。

鵜足郡二座。並小。

飯神社。　宇閇神社。

那珂郡二座。並小。

櫛梨神社。　神野神社。

多度郡二座。並小。

大麻神社。　雲氣神社。

苅田郡六座。大一座。小五座。

高屋神社。

加麻良神社。　山田神社。

粟井神社。名神大。　於神社。

黒嶋神社。

大内郡一座。小。

水主神社。

三野郡一座。小。

大水上神社。

〔都佐坐神社〕一宮村に在り、祭神味鉏高彥根神とも、一言主神とも言ひ定まらず、當國の一宮也。

〔朝倉神社〕朝倉村に在り、天津羽々神を祭る。

〔主天〕此の二字衍なるべし。

〔高知坐神社〕戸内村に在り、事代主命を祭るとも云ふ

〔織幡神社〕鐘崎浦[illegible]崎山に在り、武内大臣を祭る。

〔一座〕衍なるべし

〔名神〕名神祭により補ふ。

〔住吉神社〕住吉村に在り、底筒男命、中筒男命、表筒男命を祭る。

土佐郡五座。大一座。小四座。

都佐坐神社。大。　葛木男神社。

葛木咩神社。　郡頭神社。

朝倉神社。

吾川郡一座。小。

天石門別安國玉「主天」神社。

幡多郡三座。並小。

伊豆多神社。　高知坐神社。

賀茂神社。

西海道神一百七座。

大卅八座。

小六十九座。

筑前國十九座。大十六座。小三座。

宗像郡四座。並大。

宗像神社三座。並名神大。　織幡神社「一座」。名神大。

那珂郡四座。並大。

八幡大菩薩筥崎宮「一座」。名神大。　住吉神社三座。並名神大。

〔志加海神社〕祭神底津少童命、中津少童命、表津少童命、糟屋郡志賀村志賀島にあり。

〔志登神社〕祭神豊玉姫命、今縣社、糸島郡波多江村志登にあり。

〔筑紫神社〕祭神筑紫神、今鄉社、筑紫郡筑紫村原田にあり。

〔麻氐良布神社〕祭神伊弉諾尊、今鄉社、朝倉郡志波村志波にあり。

〔美奈宜神社〕祭神素盞嗚命、大已貴命、事代主命、今鄉社、朝倉郡蜷城村林田にあり、〔並〕例により補ふ。

〔於保奈牟智神社〕祭神大已貴命、今縣社、朝倉郡三輪村彌永にあり。

糟屋郡三座。並大。

志加海神社三座。並名神大。

怡土郡一座。小。

志登神社。

御笠郡二座。並大。

筑紫神社。名神大。

竈門神社。名神大。

上座郡一座。小。

麻氐良布神社。

下座郡三座。並大。

美奈宜神社三座。〔並〕名神大。

夜須郡一座。小。

於保奈牟智神社。

筑後國四座。大二座。小二座。

三井郡三座。大二座。小一座。

高良玉垂命神社。名神大。

豐比咩神社。名神大。

伊勢天照御祖神社。

御原郡一座。小。

御勢大靈石神社。

豐前國六座。大三座。小三座。

宇佐郡三座。並大。

八幡大菩薩宇佐宮。名神大。　比賣神社。名神大。

大帶姫廟神社。名神大。

田川郡三座。並小。

辛國息長大姫大目命神社。　忍骨命神社。

豐比咩命神社。

豐後國六座。大一座。小五座。

直入郡一座。小。

健男霜凝日子神社。

大分郡一座。大。

西寒多神社。

速見郡二座。並小。

宇奈岐日女神社。　火男火賣神社二座。

海部郡一座。小。

早吸日女神社。

〔御勢大靈石神社〕祭神御勢大靈石命、今縣社、三井郡三國村大保にあり。

〔八幡大菩薩宇佐宮〕以下二社今宇佐神宮と稱す、官幣大社也。

〔辛國息長大姫大目命神社〕仁明紀承和四年の條に「辛國息長大姫大目命」に作る、又三代實錄貞觀七年の條に「辛國息長比咩」に作る、祭神辛國息長大姫大日命、下忍骨命神社、祭神忍骨命、次の豐比咩命神社、祭神豐比咩命、今三社合併して縣社に列す、田川郡香春村香春にあり。

肥前國四座。大一座。小三座。
松浦郡二座。大一座。小一座。
田島坐神社。名神大。　志志伎神社。
基肄郡一座。小。
荒穗神社。
佐嘉郡一座。小。
與止日女神社。
肥後國四座。大一座。小三座。
阿蘇郡三座。大一座。小二座。
健磐龍命神社。名神大。　阿蘇比咩神社。
國造神社。
玉名郡一座。小。
疋野神社。
日向國四座。並小。
兒湯郡二座。並小。
都農神社。　都萬神社。
宮崎郡一座。小。

〔田島坐神社〕今國幣中社に列す、東松浦郡呼子村加部島にあり。
〔荒穗神社〕祭神瓊瓊杵尊、今鄕社、三養基郡基山村宮前にあり。
〔與止日女神社〕祭神淀姫命、今縣社佐賀郡川上村川上にあり。
〔健磐龍命神社〕今官幣大社、阿蘇神社と稱す、阿蘇郡宮地町にあり。
〔疋野神社〕祭神疋野神、玉名郡彌富村立願寺にあり。
〔都農神社〕今國幣小社、兒湯郡都農村川北にあり。

江田神社。

諸縣郡一座。小。

霧島神社。

大隅國五座。大一座。小四座。

桑原郡一座。大。

鹿兒島神社。「大」

囎唹郡三座。並小。

大穴持神社。

韓國宇豆峯神社。

宮浦神社。

馭謨郡一座。小。

益救神社。

薩摩國二座。並小。

頴娃郡一座。小。

枚聞神社。

出水郡一座。大。

加紫久利神社。

壹岐島廿四座。大七座。十七座。

〔江田神社〕祭神底筒男神、中筒男神、表筒男神、今縣社、宮崎郡檍村江田にあり。

〔霧島神社〕祭神瓊瓊杵命、今縣社、西諸縣郡小林村細野にあり。

〔鹿兒島神社〕今官幣大社、姶良郡西國分村内にあり、下の「大」貞本なし、小社の例によれば衍字也。

〔宮浦神社〕祭神神倭伊波禮毘古命、今縣社、姶良郡福山村福山にあり。

〔韓國宇豆峯神社〕祭神五十猛神、今縣社、姶良郡東國分村上井にあり。

〔枚聞神社〕今國幣小社、揖宿郡頴娃村十町にあり。

〔加紫久利神社〕祭神天照大神、今縣社出水郡中出水村下鯖淵にあり。

〔水神社〕祭神彌都波能賣神、壹波郡鯨伏村立石にあり

〔阿多彌神社〕祭神大巳貴命、少彦名命、壹岐郡鯨伏村立石にあり。

〔國片主神社〕祭神國片主神、壹岐郡國府村にあり。

〔高御祖神社〕祭神高皇産靈神、伊弉諾神、伊弉冊神、壹岐郡田河村諸吉にあり。

〔「同」佐肆布都神社〕但馬國城崎郡出雲國楯縫郡共に一郡同名神社あるも同字なし、本文同字あるは後人筆寫の誤也。

〔中津神社〕祭神中津神、今郷社、壹岐郡香椎村新城にあり。

壹岐郡十二座。大四座。小八座。

水神社。　阿多彌神社。

住吉神社。名神大。　兵主神社。名神大。

月讀神社。名神大。　國片主神社。

高御祖神社。　手長比賣神社。

佐肆布都神社。　「同」佐肆布都神社。

中津神社。名神大。　角上神社。

石田郡十二座。大三座。小九座。

天手長男神社。名神大。　天手長比賣神社。名神大。

彌佐支刀神社。　國津神社。

海神社。大。　津神社。

與神社。　大國玉神社。

彌自神社。　見上神社。

國津意加美神社。　物部布都神社。

對馬嶋廿九座。大六座。小廿三座。

上縣郡十六座。大二座。小十四座。

和多都美神社。名神大。　嶋大國魂神社。

〔能理刀神社〕祭神天兒屋根命、上縣郡可泊村にあり。
〔天神多久頭麻命神社〕三代實錄貞觀十二年の條に「天多久頭麻命神社」となす。祭神多久都玉命、今郷社、上縣郡佐護村にあり。
〔宇努刀神社〕三代實錄貞觀二年の條に「宇努神社」に作る、祭神須佐之男命、下縣郡清水山にあり。
〔波良波神社〕祭神豐玉姫命、下縣郡仁位村にあり。
〔多久頭神社〕祭神多久都玉命、今郷社、下縣郡豆酘村にあり。
〔都都智神社〕祭神都々智神、下縣郡久根田舍村大社矢立山にあり。

能理刀神社。　天諸羽命神社。
天神多久頭麻命神社。　宇努刀神社。
小枚宿禰命神社。　那須加美乃金子神社。
伊奈久比神社。　行相神社。
和多都美御子神社。名神大。　胡祿神社。
胡祿御子神社。　嶋大國魂神御子神社。
大嶋神社。　波良波神社。

下縣郡十三座。大四座。小九座。

高御魂神社。名神大。　銀山上神社。
雷命神社。　和多都美神社。名神大。
多久頭神社。　太祝詞神社。名神大。
阿麻氐留神社。　住吉神社。名神大。
和多都美神社。　平神社。
敷嶋神社。　都都智神社。
銀山神社。

延喜式卷第十

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

文龜三年十二月廿六日

神道長上從二位行神祇大副兼侍從卜部朝臣兼倶

〔神道長上〕吉田家の神道の首領の意にて、官職名に非す、私稱也。

〔兼倶〕卜部兼名の子、天正中神祇官の復興に盡して成らず、吉田神樂岡に八神殿を遷して是れを祭り、神祇管代を起す。

書于神名帳後。

刻本延喜式神名帳文字假名多脫誤。屬者於山背國一寫本乃卜部氏兼永本也。假名多總用文字少誤甚庶不使家渡河矣。今據彼本閒亦下雌黃。如上卷一葉前二百七十一座一行。二十四葉生國國魂一國字。五十七葉藥師菩薩明神社明字皆衍文也。如三葉小六十九座下闕並官幣三字。十葉大倉比賣神社下闕一名雲櫛社五字。二十九葉岡津御下脫祖字。如二十八葉宇流富志彌四十五葉敬滿無訓。如四葉神足。二十三葉開口。下卷四十八葉惠曇及玖潭。五十二葉鹽冶調訛。如六葉水主座三字爲三伴訛。十七葉百堤堤爲堤。二十四葉止杼俗文止爲上。大海神下津守氏氏爲安。三十一葉服部麻刀万万爲方。下卷三十五葉川內內爲田。三十六葉河

牟奈備河爲何。直寫之誤也。如此之類甚多。今有所稽、悉改正之。其他文字異而諸書有併用。則旁記其異。兩存之、恨紕繆顚倒如落葉難掃者。無久延彥之知。亦非子產之博、則莫之別也。建武喪亂以降。古記散亡、普廣院將軍之世論而錄之。蓋奉御者千有餘篇。迨應仁文明、大兵繼起、天下雲擾絲棼、文籍阨於兵燹、凡社事之不明由於此而已。夫神社源委不明、則無以知神德、不知神德則敬心不起、敬心不起。則神道廢矣。且不明也有數端。嘗試論之曰。有不通傳記不可知者。有書之所記古今名稱殊而不昭昭者。有序事異而不決者。有標於常篇而後世謬稱者。有以他事傅會者。有記註異而失事實者。有釋氏立妖名漸不可得辨者。有淫祠爲明神之害者。此八者貫徹古今、議論而後可悟也。今也則得書難矣。式內之神緣多不可知、況式外乎。它日若有験書之路開、一酉之逸典出。則社事幽眇再著。知神之爲神、敬心至而承祭祀如在也。然則人人尊神。復太古之正直。國祚長存、至於千五百秋之久。草茅念在茲。於是乎記于帳末。

寬文七年十二月廿六日

浪速後學松下見林書

〔紕繆〕あやまり也漢書に「政多紕繆則陰陽不調」とあり。

〔久延彥〕古事記に「こゝに多邇具久白さく、こは久延毘古ぞ必ず知りたらむ云々、この神は足は行かねど、天下の事を盡に知れる神になもありける」とあり。

〔普廣院〕足利六代將軍義教の院號也

〔式外〕延喜式に漏れたる神社を云ふ例へば、石清水、吉田、八坂、北野等の諸社は其の由緒社格共に貴きも式に漏れたり。

〔先二神事一〕庶事を措きて神事を先にすることは、我が國の特風也、禁秘御鈔階梯上賢所の條にも「凡禁中作法先二神事一後二他事一」とあり。

庶務 弘

〔御本命日〕山本に「拾芥抄云、本命日二種、或以二中一年一爲二本命一、或以二干支相同一可レ爲二本命一、本命、八卦國史一只以二支干相同一本命宜二[illegible]一說、以レ寅爲二本命一也」とあり。

弘

申政 延

貞 [illegible]

朝堂政 弘

延

〔復日〕[illegible]問答に「以二[illegible]一[illegible]事二皆[illegible]也、更不可爲二凶事一」とあり。

受事 弘

[illegible]

延喜式卷十一

太政官

凡内外諸司所レ申庶務。辨官惣勘申二太政官一。其史讀申皆依二司次一。若申二數事一、各先二神事一。申二神事一史不レ申二凶事一。御本命日 中宮東宮亦同 及前日重日復日亦不レ申二凶事一。

凡庶務申二太政官一。若大臣不レ在者。申二中納言以上一。其事重者臨時奏裁。自餘准レ例處分。其考選目錄及請印六位以下位記一者。中務式部兵部三省不レ經二辨官一直申二太政官一。中務申二夏冬時服一及式部補二文學家令以下傔仗一簡亦直申。

凡諸司申二政於太政官一者。先經二外記一然後令レ申。

凡辨官申レ政時剋。自二三月一至二七月一辰三剋。自二九月一至二正月一巳二剋。二八兩月巳一剋。

凡百官庶政皆於二朝堂一行レ之。但三月十月旬日著レ之。正月二月十一月十二月並在二曹司一行レ之。

凡諸司諸國申レ政之時。史讀申已訖。辨判曰云云。畢。卽史仰云經。讀曰二與志一。

凡左右辨官一人向二上廳一受レ事。若左事右受。右事左受者。並令二相知一。但受レ事辨施行。

凡左右辨官各錄下入奏幷請印文書及請進驛鈴傳符等色目上。牒二送少納言一。少納言外記錄二入奏請印及請進驛鈴傳符訖之數一。牒二辨官一。其式如レ左。

辨官牒二少納言一式

〔右辨位姓名〕山本に、右の字左字に作るべしとあり　弘

〔式部省〕訓「ノリノツカサ」八省の一、國の典章、禮儀、六位以下の文官の奏任、奏授の事、貢擧考課等を掌りし處、多く親王を以て其の卿に充てたり。

〔兵部省〕訓「ツハモノヽツカサ」八省の一、諸國の兵事に關する事を掌りし處也。

〔民部省〕訓「タミノツカサ」八省の一、人民の戶籍、賦役等を始め山川田野等の事を掌りし處也。

右辨位姓名

少納言牒二辨官一式

某國司申二進調庸及中男作物等一帳若干通

式部省申爲レ應レ給二諸司一春夏祿事一通

兵部省申二爲同前一事一通

右若干通某日少納言某奏訖

某國正稅帳使官位姓名所レ進若干剋驛鈴一口

某國守位姓名赴レ任日所レ給若干剋傳符一枚

右驛鈴一口傳符一枚某日少納言某請進訖

下二某國一爲二正稅帳使官位姓名事畢還任一事一通若干剋驛鈴一口

下二某國一爲二位姓名任守一事一通若干剋傳符一枚

民部省下二某國一爲レ給二官位姓名食封一事一通

右內印三通某日少納言某請印幷驛鈴一口傳符一枚奏訖

下二民部官內等省一爲レ給二諸司某月公粮一事一通

下二民部省一爲レ應レ徵二免某年課役一事一通

右外印二通某日少納言某監印訖

牒具件如レ前至請檢領故牒

〔志摩〕雲州家本播磨に作る。
〔志摩〕又本及貞享本志磨に作る。
〔山陽道云々〕山陽道、南海道の三道の意也、西海道は太宰府に所管するが故にこゝに入れず。
〔神宮司〕宮司に同じ、大司，權大司、小司の三員の總稱也。
〔太宰鎭守等府〕太宰府（九州を管す）鎭守府（陸奥を管す）等の意也。

貞　省符貞　免除　弘國司食傳　神宮司　鎰符貞　貞二員秋滿　貞遷　遷任貞　延　一分　受業解文　鎰符印

凡請印文書初入之日。外記細加撿察。明日捺印。
凡免除官物。先下符民部省。省修符請印。不得直下符於國。
凡内外官所申免除之色。自非奉勅。不得免除。
凡新任國司赴任者。伊賀伊勢近江丹波播磨紀伊等六國竝不給食馬。志摩尾張參河美濃若狹越前丹後但馬美作淡路等十國准位給食并馬。山陽道備前以西及南海三道等國竝取海路給食如法。自餘諸國及太宰帥大貳皆給傳符。講讀師赴任准此。唯不給傳符。
凡香取神宮司任符注載可給食馬之狀。不給傳符。自餘神宮司給食馬者准此。
凡少掾轉大掾。少目轉大目之類。鎰符連修一紙。太宰監典諸國郡領亦准此。
凡諸國主典已上。置二員之職。同年秋滿相代者。據到任先後次第相代之。若前司二員同日到國。下居之人先須相替。鑄錢司太宰鎭守等府亦准此。
凡自京官遷任畿内之輩。雖未進本任解由。且聽向國。近江丹波准此。
凡諸國一分已上遷任他國。不責本任放還。直遣任所。若過限不進解由者。所司申應解任之狀。但爲官長者。待分付了。進解由乃給印符。
凡諸國一分已上。遙授兼任之輩。遷任他國并京官者。早下官符停止本任。
凡諸國權史生博士醫師遷任。并依讓相代之輩。其鎰符注所遣歷。
凡諸國受業博士醫師補任解文并鎰符。名下注各本業。
凡諸國史生博士醫師鎰符。外記勘會補任帳。明知其補由。然後請印。

〔若錯云々〕續日本紀和銅五年十二月丁巳の條に「有司奏言、自今以後文錯誤、内印請了、事須改正者、小納言官申長官、然後更奏印」とあり。

〔太政官云々〕一本に云ふ「小野宮年中行事の所引弘仁に太政官勒筆參議以上上日」と、又下文「錄以下云々」も「錄以下及少納言上日」とありと。

弘改印　内印　改造印　弘貞延上日　史生解由　延解由　延押署　貞

凡内印公文有錯誤改者、少納言先申上、然後令請印。

凡踏内印官符者、書其奏畢之下注事由。外印准此。

凡内外諸司印、既盡欲改造者、下符中務省、仰内匠寮令鑄新度。官仰式部省、召書博士就中務省令書印字樣。両少納言相共中務輔以上監造畢進奏、付辨官令給。

凡每月晦日、太政官參議以上上日、少納言來月一日進奏。又錄以下及少納言上日送辨官。辨官惣修符二日下知式部。自餘考文季祿馬料亦同。下知其下中務。門籍時服之類准此。

凡史生已上解任遷替與解由者、先修奏文、少納言外記盡署名、與解由狀送辨官、令下符式部省。左右以上品准此。但參議已上不在此限。

凡内外諸司解由者、各令進二通。其程與者官長任用、各依受領勘知之程並申畢。即下民部省并勘解由使。若不進二通者、返却不下。諸國講讀師諸寺別當三綱等解由准此。

凡被管諸司解由、及不與解由狀、惣官押署進之。太宰管内陸奥鎮守府諸國講讀師等准此。

凡諸國糴米有未進者、返却其官長解由、知無未進、然後令下。

凡諸司諸國交替延期狀、前後人共署進其解文。中記即下式部。武官下兵部。唯聽一度、不得再申。

凡遷替之輩、違申交替延期、引及給位祿限、不在給例。

凡内外諸司任用之輩、有到任後未勘知前、不得輙注未勘知申前司解由與不狀。但到任之間有遷替人可過程期者、乃聽注之。

凡諸國史生已上解退之後、不待解由與不、身去他處及逃避不署不與解由狀、科公事稽留之罪。其狀直下所

〔各し〕上文に随使と並記せば各字は衍字也。

〔豐樂門〕大内裏にあり、内裏の北西隅に當り、朱雀門を入りて左方側にて、前に豐樂門、後に不老門あり。

〔朝集堂〕大内裏にあり、豐樂院の右隣、朱雀門に正面す、内裏の殆んど前面に位し、朝堂を大極殿となす、外門を應天門と云ひ、内門を會昌門と云ふ。

延未納　貞　弘　弘出　貞　貞下　社寺借　貞諸色　弘進薪　弘除　貞召使任官

請勘會。臨時綾煮之使亦同。

凡諸國依異損申請正税雜官未納者、率勘定損田二千町令申未納五萬束以下。奏定後修符下知。

凡蕃客入朝。任存問使掌客使領歸郷客使各一人、隨使各一人、通事一人。（入京之時。令存問使兼領客使。）又預差定郊勞使慰勞使勞問使賜衣使賜服各一人、宣命使供食使各二人。（豐樂院各一人。朝集堂各一人。）賜勅書使賜太政官牒使各二人。（史一人隨官牒使到客館。）

凡出使申報書者、皆作解。

凡應出納官物者。本司錄日申辨官。辨官及中務監物民部主計等、與本司共檢出納。其大藏絹絁布等物。五位以上臨檢案記同署。（若五位以上有障者。先申障由。然後六位以下判官代。）自餘雜物及餘司物者。史并主典以上出納。

凡檢出納絹絁綿布、辨大夫毎旬登庫檢校。若有納物有狼藉者、勘責出納諸司。

凡供御例用。并臨時所須。應給諸司諸家雜物等、下符之後、若無物實、准其價直以錢行之。又或停給甲司更下乙司。或停給內官改賜外國。如此之類。辨官直令進本符。其注改行之由及年月日。即題史名登時返下。

凡諸社寺請借庫物者、不可輙充。若脫漏下符所司申返。

凡諸司當色。七位已上內藏寮行之。八位已下大藏省行之。

凡大臣以下應進薪數、正月十五日下式部省。即辨史及左右史生官掌各一人。就宮內省與式部兵部及本司共檢校。諸司應進薪數。（事見儀式。）事畢諸司返去。其後式部兵部勘造惣目申送辨官。

凡國司秩滿者、式部造簿。正月一日進太政官。外記覆勘訖進大臣。奏聞并除。（事見儀式。）自餘解闕臨時奏補。

凡太政官並左右辨官史生召使等。毎年一人除諸國主典。（召使拜五畿內志摩伊豆飛驒佐渡隱岐淡路等十一國。）其勞成任官者、並不依年勞。

〔日〕例に據れば衍字也。

〔諸國目〕地方の國衙にありて政務を司る四分官の一にして、守、介、掾の次に位す、上官の事を受けて文上抄し、文案を勘署し、稽失を檢出し、公文を讀申することを掌る。

〔中申酉祭〕是所謂賀茂の國の祭也、中の申日は本祭、中の酉日は臨時祭也。

三省史生　内記史生　鎭守權任延　新年延弘　六延貞弘　八延弘　三祭弘延日　三延貞　五　四　七延　賀茂大祭貞弘延　御體卜十

只計上日。

凡式部民部兵部等省史生。每年一人任諸國目。

凡内記史生勞滿十年者。准太政官史生任諸國目。

凡鎭守府權任官人籤符注替人姓名。

凡二月四日奉班祈年幣帛。大臣及參議以上赴神祇官。辨外記史各一人。及諸司五位以上六位以下各一人共集。（事見儀式。）

凡大忌風神二社者。四月七月四日祭之。式部省四月七日朔日點定社別王臣五位已上各一人。申送辨官。辨官下知大和國。（事見神祇式。）

凡平野祭。四月十一月上申。參議以上赴集。或皇太子親近奉幣。（事見儀式。）

凡春日祭。二月十一月上申「日」。參議以上參會。（事見儀式。）

凡大原野祭。春二月上卯。冬十一月中子。參議以上參。（事見儀式。）

凡春日大原野薗韓神平野祭。辨外記史左右史生官掌各一人參祭所行事。

凡薗幷韓神祭。二月春日祭後丑。十一月新嘗會前丑。參議以上一人參。（事見儀式。）

凡松尾祭者。四月上申。辨史幷左右史生官掌各一人參行事。其幣物者。神祇官請内大藏省供之。諸司同供奉。

凡賀茂二社四月中申酉祭。齋内親王向社。史一人左右史生各一人。官掌一人。向祭所撿挍諸事。山城國司預錄祭日申官差勅使令奉幣。幷有走馬。（事見内藏及左右馬寮式。）前一日大臣侍殿上召諸衞府次官已上於殿前庭而仰警固事。後日解陣亦准此。（事見儀式。）

凡御體卜者。神祇官中臣率卜部等。六月十二月一日始齋卜之。九日卜竟。十日奏之。（神祇官候上諸司可令供申状。預申官官召諸司）

仰之、即令外記先申大臣。神祇副若祐持奏案進大臣。訖大臣就殿上座。中臣官人奏聞。（事見神祇式。）

凡六月十二月十一日月次祭奉班幣帛、大臣以下集神祇官、如新年儀。其應供神今食及新嘗小齋中納言已上一人。參議一人。（若中納言已上不卜食者。定參議二人。）散齋之日外記錄名付神祇官令卜。（但親王者中務注名令卜。）少納言辨外記史史生官掌等亦同之。其次侍從五位已上中務錄率其身向神祇官卜定。訖即並中務奏之。諸司六位已下及女孺等、致齋之日。本司各錄歷名送宮內省。即神祇官卜。（事見宮內式。）訖各歸舍沐浴。晡後入內供奉其事。

凡六月十二月晦日於宮城南路大祓。大臣以下五位以上就朱雀門。（若雨泥日。仰所司設稿於門東掖。事見式部式。）辨史各一人率中務式部兵部等省申見參人數。（太政官人數亦錄下式部入惣目。）百官男女悉會祓之。臨時大祓亦同。（事見儀式。）

凡九月十一日行幸八省院。奉幣於伊勢大神宮。其使者。太政官預點五位以上王四人卜定。（用卜食者一人。）大臣奏聞。宣命授使王、其神祇官中臣忌部發遣。（事見儀式。）

凡鎭魂新嘗等諸祭之日、並辨及史等向祭所加檢校。其鎭魂者十一月中寅於宮內省祭之。大臣以下赴祭所。（中宮亦同。但東宮用巳日。）新嘗者中卯祭之。齋日申官如常。致齋之日。諸司各宿本司。仍錄名申官。至夜左右史生等分頭巡檢。若有不宿。依法勘當。（臨時行幸應宿者亦准此。）辰日賜宴於五位已上。大臣行事如常。（事見儀式。）

凡祭祀日所司預申官、前散齋一日少納言奏聞。

凡供奉神事諸司。每司惣官一人專當其事。當加任者、令其專當人名簿齋月之前月申送辨官。

凡平野祭者。桓武天皇之後王。（改姓爲臣者亦同。）及大江和等氏人並預見參。

凡參春日祭幷藥師寺最勝會及興福寺維摩會王氏藤原・五位已上六位已下。見役之外。給往還上日四箇日。

參大原野祭藤原氏給上日二箇日。其散位五位以上。外記錄見參歷名下式部省。

〔神祇官下〕宮內式及儀式の文に據れば、「神祇官卜」と作るを可とすべし。

〔宮城南路〕朱雀門と、羅生門とを通ずる路にて即ち朱雀大路也。

〔八省院〕朝堂院を云ふ。一に中臺、八省、大極殿院とも云ふ。

〔臨時行幸云々〕鎭魂新嘗諸祭條下の末文依法勘當の割注。山本に「政事要略作臨時行事」とあり。

〔藤原〕一本藤原氏に作る。

弘貞延　月次十一小忌
大祓
伊勢使
弘鎭魂延
弘祭禮
貞事諸司
延
貞參日會上延

凡興福寺國忌幷維摩會者。藤原氏行事大夫點定氏中無位之輩。即〔付〕•外記。外記申大臣令參。事畢之後。錄見參歷名奏聞。若有不參者。下式兵二省。五位已上不預節會。六位以下官人奪季祿。王氏參藥師寺最勝會亦同。

凡大極殿正月御齋會始終日。幷東西兩寺國忌〔之〕日。外記史等不列式部。直入著座。

凡春秋二仲月上丁釋奠先聖先師。親王以下群官。就大學寮親講經。少納言辨外記史率左右史生官掌等。同向檢校。講畢給酒食。事見儀式。

凡踐祚之初有大嘗祭。七月以前即位者。當年行事。八月以後明年行事。此據受讓即位。非謂諒闇登極。大臣奉勅召神祇官卜定悠紀主基國郡。並用卜之。奏可訖。即下知依例准擬。又定檢校行事。八月遣使兩國。卜鉾穗田及齋場雜色人令行事。幷仰諸國造供神器。九月造齋場。織神服。備供神物。十月遣諸國大祓。及差奉幣使發遣。即天皇臨幸川上爲禊。十一月爲散齋月。自朔至晦。月內致齋三箇日。自丑至卯。前〔祭〕七日造大嘗宮。寅日以前內外庶事整齊已畢。卯日且神祇官班幣帛於諸神。小齋人率所司供擬大嘗宮服御物諸衞立仗。司陳威儀物如元日儀。兩國供物發自齋場向大嘗宮。神祇官引神御物入收大嘗宮。所司各供其職。

凡物置朝集堂。天皇始臨廻立殿。供奉御湯入大嘗宮。吉野國栖奏古風。悠紀國司引歌人奏國風。語部奏古詞。群官入拍手。安倍氏奏侍宿官名簿等並如舊儀。辰日祭事畢。鎭祭大嘗宮即令壞却。車駕臨豐樂院群官入就位中臣奉天神壽詞。辨大夫奏獻物數。史預給諸司。兩國薦御膳。給饗五位以上及六位。奏國風亦如常儀。巳日薦御膳給饗奏國風並同辰日。但亦奏和舞田舞。午日召五位已上及六位同前日。叙位兩國司及諸氏人等。又奏久米舞吉志舞幷大歌五節舞。供奉解齋和舞。訖賜祿皇太子已下五位已上有差。又諸司六位

貞

外記史不列 延

釋奠 弘延

大嘗 弘延

〔興福寺〕大和國奈良市にあり、藤原鎌足の創立する處、法相宗の大本山春日社を管掌し、藤原氏の氏寺也。

〔維摩會〕十月十日より十六日迄、興福寺にて維摩經を講じて供養する法會を云ふ、和銅七年、不比等、父鎌足の爲に行ひしを濫觴とす。

〔付•外記〕原本及び林本「付符外記」に作る。

〔之〕原本なし、貞享本に據り補ふ。

〔祭〕原「七日前」とあり、踐祚大嘗式及び儀式により改む。

已下及兩國騎使等已上給祿。諸司六位已下給祿。兩國主典已下叙位。式及未日參議一人行事。弁大夫宣命。遣使兩齋國解齋。晦日在京諸司集祓如二季儀。事見儀式。

凡踐祚大嘗會。十月下旬天皇臨川禊。禊而齋。預令陰陽寮勘申禊日。前卅許日任御裝束司幷次第司。御裝束司長官一人。三位。次官一人。五位。判官二人。一人弁。一人史。主典二人。並六位已下。次第司御前長官一人。三位。次官一人。五位。判官二人。主典二人。並六位已下。御後亦准此。前五日大臣及參議已上。定五位以上應陪從幷留守歷名奏聞。訖下式部及裝束次第等司。事見儀式。

凡天皇初即位者。定伊勢太神宮齋內親王。簡未嫁者令所司卜。若內親王不卜者簡女王。訖卜宮城內便處為初齋院。秡禊而入。更卜城外淨野造齋宮。畢明年八月上旬卜吉日秡禊而移入之。太政官定從行五位以上名數。前十日任前後次第司。各長官一人。五位。判官主典各一人。六位以下。依時尅出自初齋院臨川上禊。禊即入野宮。事見齋宮式。潔齋三年。五月以前任齋宮寮官人及主神司。其諸司七月以前任之。即依例准擬庶事。九月上旬卜定吉日向伊勢太神宮。預任裝束司。五位二人。一人神祇副以上。一人左右少弁以上。六位以下四人。神祇弁官史幷殿允[illegible]司主典。前行日點定監送使四人。參議若中納言一人。弁史各一人。以下官一人。齋王臨川禊之。卽入野宮禊儀。事見儀式。

凡齋內親王向伊勢時。七月以前遣寮允史生各一人於齋宮及國。辨備雜事。

凡天皇即位。定賀茂大神齋王。仍簡內親王未嫁者卜定。事見齋院式。

凡天皇即位。請仁王般若經。一代一講。設百高座一日朝晡講畢。預任行事司。中納言一人。參議及辨各一人。五位二人。六位以下臨時定之。五位以上奏任。六位以下申大臣任。預仰天下。當齋會日禁斷殺生。事見玄蕃式幷儀式。

凡天皇孟月臨軒視朔。大臣預點殿上侍從四人奏事者二人。所司各供其事。其日辨一人執公文函。太政官告朔文者。辨官

〔式及未日〕踐祚大嘗式に「或以未日」に作る。

〔兩齋國〕悠紀國、主基國を云ふ。

〔二季儀〕六月十二月の大祓の儀を云ふ。

〔禊而齋〕原本「潔而齋」に作る上文十月禊十一月齋の文に據りて改む

〔秡禊〕原本祓潔に作る、今齋宮式に據りて改む。

〔潔齋〕原本禊齋に作る、今齋宮式に據りて改む

〔仁王般若經〕大極殿紫宸殿清涼殿などにて此の事あり朝家の御祈の爲め也。

定齋王弘延

向伊勢貞

賀茂齋王延

仁王會弘

視朔弘

〔就版各置案上〕中務式に「諸司大夫進置函於案上、奏者奏畢復本列」とあり

〔諸節會〕大儀（卽位、拜賀等）中儀（白馬、端午、豐明等）小儀（元日、踏歌等）の三種あり

〔後內辨大臣・座〕山本に「臣座間恐脫落字」ことあり

〔春秋二季云云〕所謂季御讀經也、毎年二月八月の二季日を定めて四ヶ日間、衆僧を宮中に請じて、大般若經を轉讀す。

朝賀貞弘　元宴弘　七日弘　任官弘　十六日弘　大射弘　季讀經

勘造入記。卽大臣自署姓付辨官令進。率諸司。五位以上執函者若無五位者臨時儀定。就版各置案上。事見儀式。若不臨軒者。辨官告知式部。其函令進辨官。卽納中務令進奏。

凡諸節會日。乘輿未出之前。諸司毎事辨備。宸儀御殿之後。一一供奉。若有致怠者。殊祿除考。

凡元日天皇受皇太子及群臣朝賀。辨官預仰諸司。弁備庶事裝束。辨史等行事。餘節准此。前月十二日大臣預點殿上侍從四人。左右各二人。三位二人。或以親王爲之。四位二人。少納言二人。若有闕者權任。奏賀奏瑞各一人。簡四位已上堪事者爲之。奏聞定之。事見儀式。

凡元日朝賀畢。賜宴次侍從以上。大臣侍殿上行事。事見儀式。

凡正月七日。賜宴於五位已上。若有敍五位以上者。前一日大臣及參議以上於御所擇定應敍位人。卽令書位記仰之。事見儀式。

凡內裏任官者。少納言弁各一人率式部兵部行事。若於朝堂。卽外記史共預。事見儀式。

凡正月於大極殿講說最勝王經。始自八日終十四日。內弁大臣・座初若有行香後弁及史等專當行事。其供養新雜菜等。并下符畿內諸國令供進。初後兩日。皇太子已下參議以上。及諸王五位已上就殿上座。自餘分就東西廊。齋會畢卽有宣命并布施。事見玄蕃式并儀式。

凡正月十六日。賜宴於次侍從以上。大臣侍殿上行事。如元日儀。事見儀式。

凡正月十七日大射。所司預設御座。弁備庶事。大臣侍殿上如常儀。若諸衞不射畢。十八日遣參議一人行事。事見儀式。

凡春秋二季。於大極殿修讀經。弁史專當行事。初後兩日親王已下參議以上就殿上座。遣近衞少將勞問。臨時

（騎射并走馬云々）續日本紀天平十九年五月庚辰の條に「天皇（聖武）御ニ南苑一、觀ニ騎射走馬一、是日太上天皇（元正上皇）詔曰、昔者五日之節常用ニ菖蒲一爲レ縵、比來已停、此事從レ今而非ニ菖蒲縵一者勿レ入ニ宮中一」とあり又兵部式に「凡同節會（五月五日）文武群官著ニ菖蒲縵一」とあり

（進）貞本及儀式によりて補ふ。

弘　五月五日
貞　負馬
弘　相撲延
弘　盆供
弘　九月九日
祿目錄
貞　非侍從預人會
貞　俘囚交名
御會見參
弘貞　山陵延幣

讀經亦同。

凡五月五日天皇觀騎射并走馬。弁及史等檢校諸事。所司設御座於武德殿。是日內外群官皆著菖蒲鬘。諸司各供其職。（事見儀式。）

凡五位已上不堪進五月五日走馬。四月卅日以前申送其狀。已進不堪狀之後。若當日若前日進馬之類。並爲負馬。

凡七月廿五日天皇御神泉苑觀相撲。前一月任左右相撲司。簡定中納言參議並次侍從奏聞。（人數左右十二人。）中務任之。如式部儀。兵部行事。（事見儀式。）

凡七月十五日盂蘭盆供養進諸寺。命史檢校。（事見大膳式。）

凡九月九日御神泉苑賜菊花宴於次侍從已上及文人。大臣行事。所司供設如常。（事見儀式。）

凡節會之日。弁大夫奏目錄。（元日弁大射元作奏。）

凡左右弁外記史內記侍醫等。大夫弁左右近衞少將已上。左右衞門左右兵衞佐已上。雖非侍從。臨時宴會得預見參。

凡正月七日十一月新嘗二節。預給祿俘囚交名別紙而奏。雖帶五位。猶同此例。

凡諸節會五位已上見參者。未名刀禰之前。式部省書其簿進太政官。有新叙者。注別紙追申進之。又中務省所進宴會次侍從以上見參亦准此。

凡季冬獻幣於諸山陵及墓。皆用當年調物。中務省預擇大神祭後立春前之吉日。十二月五日以前申送[進]太政官。又式部點散位已上。進其交名。（爲補侍從不參之闕。）當日參議已上少納言弁外記史等著別供幣所幄行事。其幣者內

【儺】追儺也、朝廷年中行事の一、毎年十二月晦日に、疫鬼を拂はんが爲に朝廷にて行はる儀式也、「鬼やらひ」とも云ふ、文武天皇の慶雲三年に諸國疫癘あり、百姓多く死せるを以て、十二月始めて土牛を作り、大儺したること續紀に見えたるを起原とす。

弘 追儺

弘延 行幸

【[illegible]負印馬】印字原本申に作り、貞本申となす、今主鈴式、馬寮式、近衞式を考合して印字に改む。

弘延 季祿

【[illegible]時服】[illegible]を認めたる名簿也、「[illegible]一日給[illegible]也」とあり。

時服給 外國

藏寮供撰。（色數見內藏寮式。）至時赴天皇御建禮門前禮拜奉斑。但常帶者參議已上一人并外記史等向大藏省奉班。其使者中務式部差定移送治部。（事見儀式。）

凡十二月晦日儺者。中務預點親王及大臣已下次侍從已上分配諸門。并錄舍人大舍人等亦同。（事見中務式。）當日戌時、親王并大臣已下著承明門外東庭幄座。少納言并外記史候之。依例行事。（事見儀式。）

凡行幸應經宿者、弁史一人、左右史生各二人、官掌一人陪從。若不經宿者、減左右史生各一人。預擇行日并備庶事。前數十日奏之。（臨時）定遣行宮使。（使人官品臨時隨事處分。）任裝束司。長官一人。（三位。）次官二人。（五位。）判官三人。（並六位以下。）任前後次第司。御前長官一人。（三位。）次官一人。（五位。）判官二人。主典二人。（並六位以下。）御後亦准此。（定畢奏聞。）又預定陪從留守五位以上。人數（臨時處分。）若便撿校行宮。前十餘日仰下諸國令進國飼御馬。（左右馬寮定數奏之。）左右馬寮儲負印馬。（用下諸國所置驛[illegible]近牧者上）飼馬牧仰京職諸國令進擔夫。（其數臨時處分。）前五六日仰大藏儲祿新絁布等。令運收便處。又給陪從五位以上朝服及袍衫。其覆太政官印櫃皮。并擔夫二人及黃衫者。裝束司充之。事畢返上。若諸司鑰匙有勑付留守官者。大臣若大納言率侍從五位以上內裏令典鑰等就櫃所出收。其行幸路傍百姓窮困者賑恤。長老者賜物。側近社寺奉幣諸社。臨御特迴。即有宣命。賜當國郡司等祿有差。（或有敍位。）行宮側近高年八十以上及陪從人等賜物有賞。（事見儀式。）

凡諸司春夏祿及皇親時服者。中務式部兵部等省錄人物數。二月十日辨官三省申太政官。（太政官祿者。當月一日錄送辨官惣造目。）三日下圖錄三省所申惣目。十五日少納言奏之。廿日官符下大藏。廿二日出給。（女官祿者。廿五日給之。）辨大夫宣命。其辭曰。今宣波久。常毛給布春夏祿賜波久宣。（女官者中務輔宣命。）秋冬准此。（事見式部式。）

凡諸王時服用官符給外國者。仰本司。令進其歷名帳。每有闕補。隨即令注其側。一如式部兵部二省補任

【女官時服云々】山本に「江次第御藥條曰、行事藏人給供奉女房女官當色新」稱之飾物ことあり。

【上日】廳に出勤する日を云ふ、宿直を上夜と云ふ。

【番上】隔日に交代して勤仕するを云ふ、官位相當あるものは皆日詰すれ共其他の者は交替して勤務する也、之を番上官と云ふ。

【無品親王】品位を賜はらざる親王也、品位は加冠の親王に賜はる特別の位階也。

（弘　女官時服）（弘　諸司時服）（弘　位祿　延）（弘　馬料）（弘　月料　大粮　貞　延）（弘　紙筆）（弘　年料　貞）

帳。

凡後宮并女官時服及餝物新者。夏四月十日。冬十月十日。中務省申官。廿日官符下大藏省。廿二日出給。

凡諸司時服者。起十二月盡五月。計上日一百廿以上。及番上八十以上。令給春夏料。中務省錄人物數。六月七日申太政官。其太政官時服者。當月一日錄送辨官。惣造目。四日下符中務。九日奏聞。廿日官符下大藏。廿二日出給之。其日辨官一人就大藏省行事。事見中務式。其無品親王及乳母時服。同月十日官符下大藏。十五日出給。秋冬准此。

凡給位祿者。中務式部兵部三省錄應給人物數。十一月十日申太政官。即造惣目。十五日少納言奏之。廿日官符下大藏。廿二日出給。事見儀式。其身在外國及國司者。以當國正稅給之。

凡諸司馬料者。起正月盡六月。計上日一百廿五以上給春夏料。中務式部兵部等省錄人物數。七月十日辨官率三省申太政官。其太政官馬料者。當月一日錄送辨官。辨官惣造目。三日下符式部。即錄三省所申惣目。十五日少納言奏之。廿日官符下大藏。廿二日出給。秋冬准此。事見式部式。

凡親王以下月料。并諸司要劇及大粮等。每月申官出充。其月料者。錄來月數。每月十日申太政官。十七日官符下宮內省。廿五日出給。要劇者錄當月應給官人及物數。每月四日申官。即加官要劇造惣目。同日申太政官。五日官符下宮內省。十三日出給。但給田者下符勘解由使。大粮者每月十六日申太政官。廿日官符下民部。廿二日出給。若逢雪雨臨時改日。

凡應充諸司月料紙筆。中務錄數申官。官即下符中務。令充諸司。每月下旬受來月料。

凡太政官及辨官年料雜物。十二月上旬下符所司。即遣使請受。但紙筆等圖書寮擇精者。每月副解文進。莫令吏使受。

〔長上〕王朝時代、毎日春職して官衙に務むるを云ふ、其諸官を長上官といふ。
弘　完座
考　弘貞定延
〔少納言辨大夫云々〕政事要略に「少納言辨史」に作る、本書下文の「史昇自西側階」云々とあるを以つて考ふるに要略の文是也。
〔立安筥於砌上〕原本「安立云々」に作る、今政事要略に據りて改む。
〔仕奉賜留數若干〕政事要略「仕奉賜留日數若干」となす。
〔「局本注有此條」〕山本に此六字刪るべしと注す、又政事要略には此に下文注「讀申云云」の卅一字を載す。
樣注

凡大臣以下及番上座等、三年一度支、新充用。事見掃部式。

凡太政官考選文者、八月一日少納言辨外記史等別當勘抄成案畢。長上考文。十一日申大臣。其儀大臣已下就曹司廳考選史、持短冊筥。又史一人持札并紙文、外記史生一人持朱硯筥。少納言辨大夫俱率就版位。大臣宣喚。少納言辨稱唯昇、自西南階就座。史昇自西側階、立第一間。史生立史後壇下持短册。史進跪居筥於地。執短册置大臣前机上。執筥而退還。當階而立。安筥於砌上。執硯筥進亦置机上而還。史生執筥西却出候之。持札并紙文。史進授札於少納言。授紙文於弁大夫。訖兩史共西却出候。少納言續申曰、太政官長上能某年爾應預考并不預若干、此中爾考能列爾不在留若干、所不定第若干。中上若干。其大臣仕奉賜留・數若干。增減去年若干、不行事。納言卿仕奉禮留日數若干、增減去年若干、弁大夫讀申曰、仕奉禮留政若干條。增減去年若干條。「局本注有此條」中給申。大臣宣縱之。少納言辨大夫共稱唯。讀申之日、下亦效此。但三位稱卿。四位稱姓。五位先名後姓。六位已下去姓稱名。弁大夫召考選史名。史共稱唯。俱入立如前。一史進執硯筥還立同處。召史生。稱唯走至史後置筥於史前。○取硯筥而立。史執案筥進入置册而退。一史又進執札并紙文而退。訖史生先却出。次史相列退出。次少納言弁降就版。揖而退出。次參議以上著聽食處。少納言弁大夫等候之。厨家備酒饌。次大臣已下史已上謝座著座。大臣入自北戶。納言已下入自西廊。列立南庭。但六位在三二獻。訖參議已上出著東廊。頃之入自北戶。史著穩座。少納言弁候南廂。盃巡之後召堂下。昇自西側階。其座在西廊。次召內記及近邊諸司。中務民部宮內勸解由使等也。其座在西壁下。次雅樂寮作音樂。此間進史生。史生列立庭中。謝座著座。其座在東廊。拜頭。式部各見參。事見儀式。其番上者、十二日少納言弁大夫外記史等定之。使部者亦後日定之。

凡列見定考祿者、太政大臣安易布七百段、左右大臣各五百段、大納言四百段、中納言三百段、三位參議二百五十段、四位參議并左右大弁二百段、少納言中少辨一百五十段、外記史一百段。內記准此。史生加段官掌卅段、內

〔神壽詞〕神に奉る詞に云ふ、こゝは祝詞式に載する、出雲國造神賀詞を指して云へり。

〔管戶〕所管する處の戶の意也，こゝには鼓吹戶を指して云へり。

〔鼓吹〕「クスキ」と訓む、軍陣に吹く鼓角の意也、兵庫寮にて每年十月一日より二月卅日迄所管の鼓吹戶をして敎習せしめて用に備ひたり。

〔一書七〕原本及某略に據れば衍字也

國造弘　鼓吹延弘　斷罪延弘　四度公文貞　調庸帳弘　四度使弘　弘　貞

大夫及史各一人就二神祇官一給二齎幸物一。還レ國一年齋。畢國司率二國造一入朝奏二神壽詞一。初到停二於京外便所一。修二飾獻物一申二神祇官一。預擇二吉日一申レ官奏聞。依レ例供進。後齋亦准レ此。其日史二人入二朝堂院一勘二獻物數一。依レ例頒二充所司一。事見二神祇式及儀式一。

凡陰陽寮造二新曆一畢。中務省十一月一日奏進。其頒曆者。付二少納言一令レ給二大臣一。大臣轉付二弁官一令レ頒二下內外諸司一。

凡兵庫寮召二使發一管戶一。自二十月一至二來年二月一教二習鼓吹一。其初發レ聲日者。寮預申レ官。官仰二陰陽寮一令二擇定一。然後少納言并二史一之。事畢之日右辨一人史一人兵部輔丞錄各一人就二本司一試二其業一。事見二兵部式一。

凡刑部省所レ申斷罪文「書」者。造二二通一十月四日進二辨官一。卽日史讀申。外記覆勘造レ論奏。廿日以前奏聞。謂二流罪以上及除免官當一。若有レ依レ奏及恩降一改二其狀一錄二刑部解一後印レ之。訖附二弁官一。一通留二弁官一。一通下二刑部一。

凡諸國四度公文。進レ官之日。比二校日錄一。若有二未到公文一卽從二返却一。

凡諸國調庸等帳進レ官。卽太政官惣計數國造レ日。少納言奏レ之。

凡諸國稅帳調葉等使。向レ京在レ路事故延緩過レ期者。非レ有二當國驗一卽依レ法科處。其所レ輸贓物收二刑部省一。但貢調使者。不レ得レ追二喚在京諸使一若有二違遲一。勘當如レ法。

凡諸國大帳調集稅帳公文。進レ官之後。外題下二文殿使并雜掌一。經二一个月一不二參着一。直下二所司一。

凡諸國使公文下二民部省一。後省非レ理拘留致二使愁一者。尋二其所由一科處。

凡太政官及左右文殿雜書不レ得レ出二闡外一。

凡厨家雜物。別當外記史與二諸司一共出二納之一。諸司謂二藏物主一。

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔門籍〕朝廷にて、宿直勤番の識口が、姓名を名のるを云ふ。

〔女樂〕内教坊の宮人の樂也、續紀天平寶字三年正月の條に「作女樂於舞臺、奏内教坊踏歌」とあり、教訓抄に「皇帝（樂曲の名）六人、天長寶壽樂十人、玉樹後庭花十二人、赤白桃李花十二人」等の曲目見ゆ。

〔最勝王經齋會〕宮中にて、金光明最勝王經を講じ、天下太平を祈る儀式也。

門籍　謝座　七十已上　省輔　酒番　二日拜　伊勢祭主　樂前　御弓奏　命婦祿　最勝會

賜御被一條。事見儀式。

凡應入宮閤門諸司門籍。毎月一日正月用三日。但停朝拜年元日進之。以下如此之類。皆倣此。十六日進省。省覆勘訖。丞一人加署。即喚左右衛門及左右兵衛等府分付。但前番門籍返付本司。

凡節會日。次侍從已上。不預謝座謝酒之禮。不得賜祿。但參議已上幷當日有職掌者及羸老扶杖之輩。不在此限。

凡次侍從已上年七十以上者。雖身不參給節會祿。

凡省輔雖非侍從預節會幷臨時宴行幸等祿。

凡酒番侍從。及次侍從。毎年定十二人。一日持番。番別四人。若致闕怠。封門籍卅箇日。見直二人已上不以爲闕。其封籍之間。不預節會。但中宮東宮賀禮不在制限。

凡省輔雖非酒番。率侍從上殿行酒。

凡酒番侍從。及次侍從。當遣藥殿番別二人。有闕者隨即解却。

凡雜大夫帶次侍從已上者。不得差酒番。

凡正月二日。拜賀中宮幷東宮。點檢次侍從已上。

凡伊勢大神祭主帶侍從及次侍從者。不得差他神和儛。

凡女樂幷踏歌前行擇侍從有容儀者二人令供奉。若遁隱不供。無給當日祿。

凡正月七日。兵部供御弓者。預簡内舍人令奏。事見儀式。

凡正月七日。十一月新嘗會。命婦賜祿。一同男官。祿法見大藏式。

凡供奉最勝王經齋會内舍人十二人歷名。正月八日早旦移送式部。

〔堂童子〕大法會の時、藏人及び五位殿上人にて、花筥を取る者を云ふ。童子は、塵添壒囊抄に「凡そ白衣にて、必務の處に專ら佛典を誦し、落髮を希ふ者を號して童子となす」とある義に依れり。

和儛

大祓

相撲司

〔平供ニ祭事ニ〕一本に「平字可レ疑、或平字歟」とあり、上は釋義に見え廣韻に「互俗作レ下」とあり。

九月十一日

進曆

〔引〕貞本により補ふ、儀式「率」に作る。

鎮魂

〔南〕雲本、貞本なし。

〔云々〕雲本により補ふ。

新嘗青摺

凡供奉諸祭和儛及法會堂童子等、次侍從已上有闕怠不預節會（正月七日十一月大嘗會。移式部省拘留之。）幷臨時宴會。其內舍人奪一季祿。

凡簡點侍從及次侍從堪儛者十人、預令調習。平供祭事。

凡藥師寺三月最勝會堂童子、王氏內舍人六人、興福寺三月國忌御齋會（若有閏月者、卽修其月也。）十月維摩會等堂童子、藤氏內舍人各六人、前五日差點、其名簿入太政官。

凡六月十二月晦日大祓、輔丞錄共集祓所、申女官數。（事見儀式。）

凡相撲司、前節一月任堪事者、大臣給召名於輔、卽於外記廳召之。仍除目儀（可任用人色見太政官式。）

凡七月廿三日、丞四人內舍人廿人歷名分送左右相撲司、廿五日寅尅丞率內舍人等向相撲司 卽五位以上及丞內舍人等行列〔引〕相撲人樂人等、進入東西門、左右相付共入各立幄前、五位已上立大旗（オホハタ）下、共揖著座、然後左奏獻儛訖、左方六位已下著座、右亦如此。事了還如入儀。（事見儀式。）

凡幸伊勢太神者、九月十一日平旦、未行幸前、錄率省掌入大極殿院、置版位於後殿東〔南〕庭。（事見儀式。）

凡十一月一日平旦、輔丞一人將陰陽寮進曆。（事見儀式。）

凡鎮魂祭、前五日簡點和舞人侍從四人（其名移送式部。）舍內人大舍人各四人（闕者補平野等祭儛人准此。）令赴宮內省。祭畢卽諸司依次奏舞。（神祇官先舞、次宮內省、次侍從、次內舍人、次大舍人〔云々〕。）其神祇官（六人。）榛摺帛袍十二領、袴十二腰、靑摺布衫卅二領。預前給之。

凡新嘗祭小齋諸司靑摺布衫者、親王一領、太政官十一領、中務省一領、侍從二領、內舍人四領、內記一領、臨時一領、主鈴一領、典鑰一領、中宮十五領、大舍人十二領、內藏四領、縫殿四領、宮內二領、木工五領、大炊一領、主殿廿

二領、首業司一領、掃部七領、内膳八領、造酒一領、主水八領。中宮。二領　左右近衛府各卌七領。各十二領中宮料。　左右兵衛府各十領、各四領中宮料。　藏人八領、御膳前釆女氏一領。内竪八領、女孺已上一百卌領。卌領中宮女孺。

平野物忌

平野祭物忌三人裝束新絁九疋、綿九屯、紅花小九斤。錢一貫八百九十文。裝束香等直。　但王氏者、加増絁三疋、綿七屯、紅花小三斤、錢一貫文。

右依内侍司移申官請受。

詔式

詔書式。

詔云云主者施行

年月御畫日

中務卿位臣姓名宣

中務大輔位臣姓名奉

中務少輔位臣姓名行

慰勞詔書式。

天皇敬問云云。大蕃國云、天皇敬問。小蕃國云、天皇問。

年月御畫日

中務卿位臣姓名宣

中務大輔位臣姓名奉

中務少輔位臣姓名行

〔二領〕原本皆四に作る、政治要略卌七となす、今左近衛府の「供奉新嘗官人並近衛青摺布衫卌五領、但有ニ中宮之際一時加ニ十二領」とあるを考合して改む。

〔藏人八領〕政治要略二領となす、儀式、並大嘗會官符等「二領藏人」と見ゆ。

〔一百卌領云々〕並に下注卌領、原本「一百廿領、廿領」となす、雲州家校本考異に「按上文書服名注内侍以下一百人、縫殿式中宮女孺四十人因知下並本作ニ廿者誤上今改、注亦同」とあり。

〔云々〕貞本傍注に「一作ニ某事ニ」とあり。

奉詔　〔閤門〕原本閤内に作る今京本に據りて改む、承明門の別稱也。（三〇四頁頭注承明門參看）

叙位

位記印　〔中務輔〕京本により、「務」を補ふ、又雲本「中務省輔」に作る。

飛驛　〔神位〕神に奉る位階、品位、勳位を云ふ。

任女官　〔飛驛函〕急用の文書を收めたる函也、飛驛は、早馬使を云ふ、扶桑略記廿元慶元年四月二十八日の條に「藤原朝臣興世飛驛奏言」とある飛驛の意也。

宮人考

凡奉詔書者、侍從内豎喚省。輔先唯入閤門、進就版位、即奉勅執詔書筥退出。事見儀式。別寫一通印署送太政官。慰勞詔書不在此限。

凡叙内親王以下品位者、卿叙品及三位已上。輔叙五位已上。其授宮人位畢、下知縫殿寮。其六位已下位記者、申太政官請印。事見儀式。

凡捺印五位以上并勳六等以上位記者、書位記日、少納言預告中務輔。輔不在者、近衞少將代之。若丞并主鈴持印令候、兼令掃部寮立案於版位邊。即少納言率輔一人進就版位奏請。事見儀式。其位案者内記送省附位帳。即具注本位年紀并令授位階等申送太政官。官申大臣下知所司。授神位及授僧尼滿位已上亦同。

凡在外官上飛驛函者、少納言奏進。若不在者見在丞已上奏進。其報下飛驛者、少納言并輔已上一人、内記二人、共入内裏行事。事見儀式。

凡任女官者、隨内裏喚丞以上入候。事見儀式。

凡女官補任帳、毎年正月七月一日進太政官。若有遷任卒死之類、以朱點側。更寫一通、六月十二月廿日進藏人所。

凡尚藏尚侍補任、并薨任之由者、申送太政官。

凡長上及宮人考選文者、十月一日輔率考選丞錄并所管諸司、共進弁官。諸司考選文、省卿押署。便以省印印之。番上考選文者、二日輔率丞錄送式部省。其宮人考選文者、官即返下。然後校定訖即造別記二通。一通留省爲案。一通副成選短冊。納漆櫃。置漆案。正月十日輔一人、丞錄各一人、率史生省掌等進内侍。其詞曰、宮人考選文進登申。内侍執遷昇殿奏。事畢覽訖返給。即丞進出、造目錄。與式部兵部共申太政官。

〔宮人〕「クニン」と訓む、宮仕する人を云ふこゝは內侍以下女孺に至る女官の總稱に云へり。

〔搢笏〕笏を大帶に差し挾むを云ふ。

〔神泉苑〕京都上京區門前に舊蹟あり、拾芥抄に「二條南、大宮西八町、三條北、壬生東」と見え、天子御遊覽の御料たりしなり

〔不動倉〕王朝時代、非常用の米穀を貯ふる處を云ふ。

成選位記　凡宮人成選位記者、准男官叙之。其新物、十月廿日申官請受。

上表　凡五位已上有上表者、置表函於高案。以函蓋為筥。案上敷布。卿輔已下就曹司廳座。即身若子弟四人執表函案、進安版位後、即共退出。須臾大輔已上一人宣奉表收之、錄稱唯、即令史生四人共降自西階、並立案邊。搢笏持案進置。退立復本座。錄進案下、執表筥置卿若大輔前、開筥復本座。輔以上開函見了。即錄進執筥置案上復座。訖共下座退。丞先入內裏、以狀申內侍。然後入進。事見儀式。

神壽　凡出雲國造應奏神壽辭者、前二日差點內舍人十六人。前一日置版於大極殿南庭。事見儀式。

行幸　凡行幸者、丞以上率內舍人、候閤門外、分列左右。供奉御前。其次第在近衛陣前兵衛陣後。其幸近處不裝束。謂豐樂院、神泉苑之類。

行幸留守　凡行幸經宿者、差定留守徒、付公卿奏之。

陪從　凡應供奉城外行幸陣侍從次侍從者、除留守外咸悉陪從。若無故不陪者、不預節會。

戶籍　凡京職及諸國所進戶籍、皆令染黃蘖。但太宰管內諸國不在此限。若有未進者、移送民部省、拘留調庸稅帳返抄。

凡納庫戶籍、令諸司出納、更勿載年終帳。

鑄印　凡應改鑄諸司國印者、隨太政官符到、即下符內匠寮。寮錄用度申省、省申官。其字樣者、官仰式部令書博士就省書之。即少納言輔及寮助以上共檢按令鑄造。少納言輔不在者、寮頭監鑄訖即造奏文。少納言執進內侍。

不動鑰　凡諸國所進不動倉鑰者、官副國解下省、省即勘收庫。若應出下者、待官符下、然後出充。

侍從員　凡次侍從員。百人爲限。正侍從八人在此員中。但參議已上不入此員。中納言已上奉勅任之。若不在者。輔已上任之。其名簿付省。其正侍從遷任者、雖無闕猶爲次侍從。以理解任亦同。

〔雷鳴陣〕カンナリノヂン。朝廷に於ける臨時の儀式、古へ夏期雷鳴の時、大聲三度以上に及べば、大將以下近衛の大將等、武裝して御殿の孫廂に候して、御門を守護し、將監以下は皆簑笠を着て、紫宸殿の前庭に候ふを云ふ。

〔山階〕天智天皇の御陵也、山城國宇治郡山科村にあり

〔深草〕仁明天皇の御陵也、山城國紀伊郡深草村にあり

〔後田邑〕光孝天皇の御陵、山城國葛野郡花園村にあり

遷任解由　凡帶官次侍從已上有遷任者。待式兵兩省移。知進解由。乃預節會。

上日　凡侍從幷內舍人上日者。毎日丞錄率內舍人向侍從所給之。其籍者。公卿未着座前置之。但雨泥休暇等日。令史生注見直。

雷鳴　凡內舍人恭雷鳴陣者立春興殿西廂。

勞問　凡毎月十五日遣內舍人勞問常住寺十禪師。兼奏修法行事。

准夫品　凡諸王以上娶臣家女爲妻者。不得准夫品位。其內親王及女王。亦不得准夫品位。但五世王者得准夫位。

氏女　凡諸氏貢氏女。皆簡年卅已下卅已上無夫者。造解文。親眷共署申省。作奏文。奏之畢勘。送內侍司。即下符縫殿寮。若貢後適人依例擇替。

采女　凡諸國所貢采女名簿者。弁官經奏下知省。訖錄其由送內侍。若相替者。具顯其由。

荷前使　凡十二月奉諸陵幣者。令陰陽寮擇日。訖即申官。其別貢幣者。臨幸使所奉送。其使參議已上及非參議三位太政官定之。自餘省點之。山階柏原長岡深草田邑嶋戸後田邑小野八陵。參議已上若非參議三位一人。四位若五位一人。內舍人內豎大舍人各一人。後田原八嶋二陵。後宇治愛宕後愛宕葛野後葛野小野後小野七墓。四位若五位一人。內舍人內豎大舍人各一人。多武岑墓藤氏內舍人一人內豎大舍人一人遂參。其使侍從四位已下差之。以十二月五日入太政官。當日平旦。丞錄率史生省掌等候御在所幔外。史生微聲計列內舍人幷大舍人等。丞率內舍人等入就幔內座。即遂點五位已上訖。使人進執獻物。若帶劍者。暫解從事。入置御所。出候御幔外。隨闈司告進執幣物。退出授內豎大舍人等。但諸墓獻物不置御所。便執退出。

凡供諸陵幣使大舍人者。依治部移令本寮差定移送歷名。

凡荷前使次侍從已上、若有闕怠者、移式部省、不預正月七日節、兼從解却。

凡後田原八島陵荷前使侍從次侍從徃還定五箇日。若此內當元會者、雖身不參、猶預見參。

凡荷前使內舍人有闕怠者、奪一年季祿、大舍人奪夏冬衣服。

凡臨時遣山陵使侍從次侍從若致闕怠、一准闕荷前使之例。

追儺

凡年終行儺者、前晦一日。少輔已上、點定親王幷大臣以下次侍從以上及丞錄內舍人等應預事者、造奏文。當日平旦、令內侍進奏。又仰寮令進大舍人歷名。其分配閤別參議以上二人、侍從十人、省丞一人。錄一人・內舍人四人。史生四人。大舍人五人。昏時省輔丞錄率史生省掌等、列於承明門外東庭。點撿儺人、依次列立、錄喚四位五位。「史生」史生喚丞及內舍人。但史生大舍人者、計列惣數、開承明門、闈司傳宣時率侍從內舍人大舍人入而列立、未傳宣之前、以桃弓葦矢桃杖〈陰陽寮作進之。〉「也」頒充儺人。事見儀式。

凡親王以下次侍從以上、門追儺陣者、不預元日節祿。

儺陣不參

凡〔供〕奉十二月大祓之公卿者、不可更責儺陣之不參。

勞帳上日

凡內舍人歷七箇年、始載勞帳。但雖歷十箇年、上日不滿二千四百者、不得載之。

時服

時服。

諸司員

神祇官卜部廿人宮主。卜長上。齋宮寮宮主。卜部等。在此數內。太政官九人大外記二人。少外記二人。史生五人。左辨官十五人大辨一人。中辨一人。少辨一人。大史二人。少史二人。史生八人。右辨官准此。中務省一百八十八人卿一人。大輔一人。少輔一人。大丞二人。少丞二人。大錄一人。少錄三人。史生十人。侍從八人。次侍從九十二人。內舍人卅人。大內記二人。少內記二人。史生一人。大監物二人。中監物四人。少監物四人。史生四人。大主鈴二人。少主鈴二人。大典鑰二人。少典鑰二人。中宮職一百六十二人大夫一人。亮一人。大進一人。少進二人。大屬一人。少屬二人。史生四人。

〔荷前使〕朝廷にて諸國より奉る貢物の荷の初穗を、帝陵及び外戚の墓に獻らるゝ使を云ふ。

〔八島〕光仁天皇の皇子早良親王の陵墓也大和國添上郡東市村八島にあり。

〔昏時〕凡年終行儺者云々の文中「昏時」太政官式「戌時」、大舍人式「戌刻」儀式帳「戌二刻」に作る。

〔「史生」〕衍字也、雲州家校本及び京、貞二本見えず。

〔「也」〕衍字也、貞本に無し。

〔供〕雲州本に據りて補ふ。

〔作手卅二人〕內藏寮式に「才卅人」とあり。

〔大炊寮五人〕別本に「大炊寮恐脫文歟、職員令云、大炊寮頭一人、助一人、缺一人、大屬一人、少屬一人、大炊部六十人、使部廿人、直丁二人、駈使丁卅人云々」と見えたり。

〔少屬一人〕原本なし、今本文に「掃部寮廿五人」とあるに考へ增補す。

〔大〕他寮職制記載の例に照して補ふ。

舍人一百五十人。大舍人寮一百七人頭一人。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬二人。舍人一百人。但大歌生十人在二舍人內一。圖書寮九人頭一人。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。造紙長上二人。造墨長上一人。內藏寮八十五人頭一人。助一人。大允一人。少允二人。大屬一人。少屬二人。典履一人。史生四人。藏部十人。舍人卅人。作手卅二人。縫殿寮十八人頭一人。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。史生二人。縫部四人。染手六人。陰陽寮十六人頭一人。助一人。允一人。大屬一人少屬一人。陰陽師六人。陰陽博士一人。曆博士一人。天文博士一人。漏尅博士二人。內匠寮一百卅四人頭一人。助一人。大允一人。少允二人。大屬一人。少屬二人。史生六人。才長上廿人。番上工一百人。隼人司廿三人正一人。佑一人。令史一人。隼人廿人。大藏省廿一人藏部廿人。價長二人。織部司四十八人正一人。佑一人。令史一人。挑文師二人。織手四十人。機工相作在二此數內一。絡絲女三人。宮內省十人卿一人。大輔一人。少輔一人。大丞一人。少丞二人。大錄一人。少錄三人。大膳職十七人屬一人。膳部十四人。作器手二人。木工寮一百卅四人頭一人。助一人。大允一人。少允二人。大屬一人。少屬二人。生史十人。竿師四人。大工一人。少工一人。長上十三人。將領十人。工部五十人。飛驒工卅七人。大炊寮五人●炊部。主殿寮三百九十六人頭一人。助一人。允一人。大屬一人。少屬一人。史生四人。殿部廿人。今良男一百四十一人。今良女二百廿六人。典藥寮五人乳長上一人。得業生四人。掃部寮廿五人頭一人。助一人。允一人。大屬一人。[少屬一人]。史生四人。掃部八人。作手八人。內膳司六十六人奉膳二人。典膳六人。令史一人。膳部卌人。作器手十七人。造酒司十二人正一人。佑一人。令史一人。酒部九人。采女司二人正一人。采部一人。主水司卅三人正一人。佑一人。令史一人。水部廿四人。守御井六人。左近衞府四百廿五人大將一人。中將一人。少將二人。將監四人。將曹四人。府生六人。醫師一人。番長六人。近衞三百人。駕輿丁一百人。右近衞府准レ此。左衞門府六百八十一人督一人。佐一人。大尉二人。少尉二人。大志二人。少志二人。府生四人。醫師一人。門部六十六人。衞士六百人。右衞門府准レ此。左兵衞府二百六十七人督一人。佐一人。大尉一人。少尉二人。大志一人。少志二人。府生四人。醫師一人。番長四人。兵衞二百人。駕輿丁五十人。右兵衞府准レ此。左馬寮廿八人頭一人。助一人。[大]允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。馬醫二人。史生四人。騎士一人。馬部十五人。右馬寮准レ此。兵庫寮六人頭一人。助一人。大允一人。少允一人。大屬一人。少屬一人。春宮坊十一人傅一人。學士二人。大夫一人。亮一人。大進一人。少進二人。大屬一人。少屬二人。舍人監一百四人正一人。佑一人。令史二人。舍人一百人。主膳監四人正一人。佑一人。令史二人。主藏監准レ此。主殿署二人首一人。令史一人。主馬署准レ此。修理職三百九十人史生八人。長上十人。將領廿二人。工部六十人。仕丁二百

〔上日〕雲州家校本なし、重復聞えず、衍字ならん。

〔春縹絁〕原本春纈絁とす、今貞享本、抄本に據りて改む。

〔綿三屯〕原本「綿二屯」となす、貞享本に據りて改む。

〔解文〕單に解とも云ふ、八省以下內外の諸司が、太政官又は所管に上る場合に用ふる公文書を云ふ。

〔後宮〕大內裡仁壽殿の後にある七殿五舍の總稱也、轉じて後宮に住せらるゝ皇后及び後宮に在りて奉仕する婦人に云へり、卽ち妃、夫人、嬪、女御、內侍等是也。

廿七人。飛驛工六十三人。

初任　上日

右雖レ有ニ定員一。待ニ本司解一。臨時知ニ見直一然後給レ之。其自ニ十一月一日一至ニ五月卅日一。上日長上百廿以上。番上八十以上。給ニ春夏時服一。秋冬准レ此。但木工寮修理職飛驛工者春以ニ三月一秋以ニ九月一爲レ限。四月十月給レ之。其計ニ夜一者。侍從次侍從限ニ四十以上一。省丞內舍人五十以上。六衞府官人已下舍人以上八十以上。兵庫左右馬寮五十已上。自餘不レ須レ計レ夜。其親王及參議已上者。不レ在ニ給限一。侍從者並依ニ侍從一給レ之。若帶ニ六衞府及左右馬寮兵庫一者。宜レ依ニ本司日夜一。其臨時別給。皆依ニ官符一。若初任者。起ニ自ニ任日一至ニ于限月一。計ニ其上日一。上日長上不レ滿ニ三分之二一。番上不レ滿ニ三分之一一。不レ在ニ給限一。帶ニ初任一者。謂ニ五月及十一月以前任者一。其服色者五位已上。春縹絁三丈七尺。秋同。帛一丈五尺。秋一丈七尺。綿四屯。秋同。中務丞史內舍人。絹五丈一尺。秋絁一疋四丈四尺。綿四屯。諸司官人已下絹四丈五尺。秋絁一疋三丈。綿四屯。今良男女。各絁三丈。調布一端。秋絁一疋。布一端。綿三屯。但女綿二屯。除正火長。調布一段。秋二段。綿三屯。衞士駕輿丁商布一段。秋二段。綿三屯。六月十二月一日。惣造ニ解文一。七日申ニ太政官一。九日奏聞。事見ニ儀式一。

無品親王時服

無品親王時服。內親王亦同。絹五十疋。細布四十七端一丈一尺。冬加ニ綿二百屯一。

右五月十月廿一日解文進ニ省一。六月十二月五日省造ニ解文一進レ官。

後宮時服

後宮時服。

妃絹六十疋。調布四十端。曝布五十端。冬加ニ綿二百屯一。夫人。絹五十五疋。細布卅端。曝布五十端。冬加ニ綿二百五十屯一。嬪。絹四十疋。細布廿端。曝布卅端。冬加ニ綿二百屯一。女御。絹廿疋。曝布卅端。冬加ニ綿一百屯一。前件時服。夏四月五日。冬十月五日。內侍具錄ニ人數一及物色一移。省造ニ解文一申レ官。

宮人時服。

〔尚掃一人云云〕掃司［宮人時服一員］十三人下の分注「尚掃以下十六字」令に據りて補ふ。

〔內敎坊〕朝廷に於て女樂、踏歌、舞伎等を養成する所。長官を別當と稱し納言以上にて音律に通じたる人これを兼ね、上東門內の北、大宿直寮の東、茶園の南に在り、南北四十丈、東西三十五丈の地を占め、南に面す。

〔前件云々〕一本に「經［女官馬新］亮云、前件以下當ニ一字低書ス、下同」とあり。

〔賜色目〕古寫本に「賜物本色目」に作る。

內侍司一百十人。尚侍二人。典侍四人。掌侍四人。女孺一百人。藏司十七人。尚藏一人。典藏二人。掌藏四人。女孺十人。書司九人。尚書一人。典書二人。女孺六人。藥司七人。尚藥一人。典藥二人。女孺四人。兵司九人。尚兵一人。典兵二人。女孺六人。闈司十九人。尚闈一人。典闈四人。女孺十人。殿司九人。尚殿一人。典殿二人。女孺六人。掃司十三人。［尚掃一人。典掃二人。女孺十人。］水司九人。尚水一人。典水二人。采女六人。膳司卌八人。尚膳一人。典膳二人。掌膳四人。采女卅一人。酒司三人。尚酒一人。典酒二人。縫司一百七人。尚縫一人。典縫二人。掌縫四人。女孺一百人。中宮女孺九十人。

右五位已上。夏絹一疋。冬加綿二屯。女孺已上。絹三丈。冬加絹三丈。綿二屯。

內敎坊。未選女孺五十人。

右夏絹三丈。冬加絹三丈。綿二屯。貲布一端。冬調布二端。

女丁。人別夏絹三丈。冬加絹三丈。綿二屯。縹調布二丈一尺。庸布一段。冬亦同。

前件時服。夏四月二日。冬十月二日。內侍司具錄人數幷賜色目移省。省造解文。十日申官。官符下大藏省。內侍司請受。依件班給。

女官馬新。

尚藏一人。准正三位。

右一人給錢八貫文。

尚侍二人。准從三位。

右二人。各錢七貫五百文。

尚膳一人。　尚縫一人。並准正四位。

各二人各錢三貫五百文。

典侍四人。　典藏二人並准從四位。

右六人。各錢三貫文。

掌侍四人。　典膳二人。　典縫二人。並准從五位。

右八人。各錢二貫文。

尚書一人。　尚殿一人。　尚酒一人。並准六位。

右人別錢一貫二百五十文。但尚酒一人一貫百七十文。

掌藏四人。　典書二人。　尚藥一人。　尚兵一人。

尚闈一人。　尚掃一人。　尚水一人。並准七位。

右人別錢一貫一百七十五文。但典書二人各一貫一百文。尚藥一人一貫二百五十文。

掌膳四人。　尚縫四人。　典藥二人。　典兵二人。

典闈四人。　典殿二人。　典掃二人。　典水二人。

典酒二人。並准八位。

右廿四人。各錢一貫一百文。

前件女官。自正月至六月。上日一百廿五以上者。給春夏馬新錢。初任官計日。准給季祿法。秋冬准此。春夏折七月十日。秋冬折正月十日。與式部兵部共。共有上日共等。勞劇亦同者。依官位次作差分給。滿限日貪濁有狀者。不須給與。如帶二官者。申太政官。

〔典侍〕内侍司の次官にて、准六位なりしが、後從四位に高上す、「ナイシノスケ」とも、又單に「スケ」とも稱せり。

〔尚縫四人〕尚縫は縫司の長にて、上文に「尚縫一人、並准正四位」と見ゆ、こゝは、縫司の「掌縫」の誤也。

〔季祿〕王朝時代春秋二季に一位已下の諸官人に通じて給ふ祿を云ふ、春は二月上旬、秋は八月上旬に賜ふ。

〔滿限日〕古寫本「縱滿限日」に作る。

〔一高〕もと一等に作る、雲州家校本に據りて改む。

〔「五月五日」〕雲州家校本に衍文なれば刪るべしとなす。

〔女孺十三人〕もと十一人に作る、今新嘗の條文の帛綿の數によりて推改す。

從二一高一給。其員外官者亦准二正員一。

諸司諸家門文　凡諸司諸家衣服門文。移二送大藏省一。

權官衣服　凡諸司權官衣服。別錄與二正官一共申。

女官餝物　女官雜用新。

賀茂祭。四月。

使命婦二人。女孺二人裝束新。帛十疋。絹十六疋。細布五端。紺細布廿端。紅花十四斤。褶四腰。直。

春日祭。春冬同。

使命婦一人。女孺三人裝束新。絁十一疋。綿十四疋。紺細布十四端。

大原野祭。春冬同。

使命婦一人。女孺三人裝束新。絁十一疋。綿十四屯。紺細布十四端。

六月神今食八姬裝束新。絹八疋。大嘗會。絹十疋。綿廿屯。通二用十二月神今食一。

「五月五日」

命婦已下今良已上一裝束新。絹一百六十九疋。調布一百端。貲布(サヨミヌノ)二百十六端。八丈爲レ端。纈布廿五端。殿司燈守(トノモリアブラモリ)四人。掃司(カモリ)女孺十三人裝束新。纈絁八疋三丈。人別三丈。火炬二人。黃絁一疋。人別三丈。

皇后宮定額女孺九十人裝束新。絁卅五疋。貲布卅九端三丈。四丈爲レ端。今良十五人裝束新。絹七疋三丈。人別三丈。纈布七端二丈。人別二丈。

新嘗會。

〔東豎子〕公事根源女叙位の條に「中にも東豎子と云ふは、内侍司の被官にあるものにて、行幸の時姫松とてをかしき馬に乗りて供奉する是れが事なり、これは三子を用ひらるゝにや、三子は天子のまはりにてあるよし、由緒も侍る故とかや、年毎に申文して必ず五位を賜ふなり、是は昔より同じ名字を相傳して、紀朝臣季明と名のる、いと不思議なる事にこそ」とあり。

藏司

書司

命婦已下今良已上裝束料、絹三百卅八疋、綿六百七十六屯、調布六百卅一端、縹布廿五端。殿司燈守四人。掃司女孺十三人裝束料、縹帛八疋三丈、人別三丈。帛八疋三丈、人別三丈。綿卅四屯、人別二屯。火炬二人。黃帛一疋、人別三丈。帛一疋。人別三丈。綿四屯。人別二屯。

東豎子四人裝束料、人別緋絁四丈、帛二疋、綿四屯、元日亦准レ此。但五月五日帛一疋、貲布四丈。紅花小二斤。並依二内侍司移一請充。

皇后宮女孺九十人裝束料、絁九十疋、綿一百八十屯、調布一百八十端。今良十五人裝束料、絁十五疋、人別一疋。綿卅屯、人別二屯。縹布七端二丈。

十二月晦日雜給料。

命婦已下料、米八十斛、糯米廿斛、大豆小豆各廿斛、油四斛五斗。

皇后宮女孺等料、米十五斛、糯米五斛、大小豆各五斛、油二斛。

藏司。

五月五日續命縷絲五十絇、紅花大三斤、年料、槽四隻。麻笥二口、樽一口、水䑕一口、大案一脚、杓二柄。

書司。

元日拜二天地四方一料、御褥一條料、絹一疋、調綿四屯。御案覆三條、二條各長六尺、一條長七尺。料、絹五丈七尺、周帶六條、各長六尺。料、縹帛六尺、香二兩、細布三端、柳筥四合、色紙十二張、白紙十二張、高盤二基、窪坏十口、油一升。

供奉行幸御琴硯綱料、緋帛四丈五尺、調布一端三尺、御琴硯案袋覆緒綱料、絁五丈八尺五寸、緋帛五丈、油絹五丈八尺五寸。調布一端三尺。並隨レ故損請換。

薬司。
九月九日褁呉茱萸料。緋帛一疋。緋絲二絇。皇后宮亦同。年料。豉廿籠。細布一端。庸布一段。柳筥二合。明櫃二合。麻笥二口。杓二柄。由加一口。陶盤廿口。手洗二口。署壺二口。筥坏卅口。盞坏廿口。𨔬一口。椀廿口。叩盆二口。已上年料。油絁一丈。兩面一丈八尺。絁一丈八尺。緋帛四丈。緋絲一兩。細布一丈六尺。調布三丈四尺。酒薬筥案幷韓櫃覆綱料。並隨損請換。

閤司。
閤司 襪料。東絁五疋。細布五端。紅花「大」八斤。

殿司。
御厠殿料。兩面絹各五丈一尺五寸。緋帛三丈。調布三丈。漆櫃二合。小一合。中一合。床案覆料。帛黄帛各一疋一丈二尺。並隨損請換。

内教坊。
春神祭五色薄絁各二尺。木綿一斤。商布二段。鍬二口。酒三斗。米五斗。糯米二斗。秋三斗。大豆小豆各五升。鹽三顆。鰒堅魚腊海藻各一籠。秋祭准之。七日節女樂五十人裝束料。絹一百卅四疋三丈。綿一百五十屯。年料。庸布四段。鍬六口。白木韓櫃二合。明櫃四合。折櫃廿合。笥五十合。輿籠四口。槽一隻。箕四枚。筵十枚。食薦廿枚。椀卅口。坏一百口。

女樂厨。
春神祭料。五色絁各三尺。木綿麻各一斤。調布一端。鍬三口。秋二口。酒三斗。米五斗。糯米二斗。大豆小豆各一斗。鹽三顆。鰒堅魚腊海藻〔各〕一籠。秋祭准此。柏三俵。自十一月至正月料。

〔呉茱萸〕和漢三才圖會に「呉茱萸 和名加波波乃加美 云々、其用有三、去胸中逆氣滿塞一、止心腹感寒疗痛二、消宿酒三、爲白豆蔻之使三、也 云々」とあり、菊花の宴に、御帳の左右にこれを入れたる嚢をかけ消災の意を表せり。

〔豉〕豆に鹽を配しねかして味の成れるもの、味噌の類を云ふ。

〔「大」〕衍字也、京本、貞享本に見えず。

〔腊〕乾肉也、「ホシ」と訓む。

〔各〕上文例に據りて補ふ。

年新。曾布五段。鍬六口。白木韓櫃六合。案四脚。切案二面。同櫃六合。折櫃一百合。瓶筥八口。筥一百合。斗一口。升二口。杓八柄。縄筥六合。櫃二隻。箕四枚。簀廿枚。匙一口。叩盆六口。坏三百口。陶椀盤各一百口。

右雜用新。依前件。待内侍移申官請受。臨時所須亦准此。但神今食御巫平野祭等物忌裝束。縫殿神祭新物。及季新紙。女官讀案新等類。各見本司式。

内記

凡節會及尋常詔旨者。内記預書。元日賜群臣宴。及七日叙位賜宴。十六日踏歌。九月九日賜宴。十一月大嘗會等詔旨。當日進參議已上。正月十四日齋會。四月成選位記。同月任郡司等詔旨。内記前一日付内侍奏之。内侍執奏了。即時返授内記。内記當日早旦進大臣。其詞各見儀式。但臨時詔勅者。承旨即内記作詔書畢。納筥令參議已上若内侍進於御所。

凡元日朝賀依有滯故。延用二三日者。其宣命之辭猶稱朔日。

凡神社山陵宣命。大臣奉勅令内記作之。内記作了進大臣。大臣給使。

凡宣命文者。皆以黃紙書之。但奉伊勢大神宮文以縹紙書。賀茂社以紅紙書。

凡賀茂祭日宣命。前一日書。付内侍奏之。

凡天皇御大極殿視告朔（カウサク）者。諸司大夫進置函於案上。次者亦畢復本列。訖侍從令舍人喚内記。預候龍尾道階下。内記二人稱唯。昇東西階就版位。立侍從宣日進文收之。稱唯案下搯笏。昇案退降東階。出蒼龍樓掖門。公文惣進中務省。

凡應授位五位及勳六等以上者。内記執覆紙筥昇殿上書位記。授訖即以位案進中務省。神階尼位案亦同。但臨時位記。中納言以上奉勅便於宣陽殿及陣邊令書之。

〔陶椀盤各一百口〕原本「一百合」に作る、今古寫本に據りて改む。

〔依〕林京二本になし。

〔視告朔〕毎月朔百官の行事上日等を記したる文を天皇の御覽ぜらるる儀、告朔の文を見ると云ふ義也。

〔龍尾道〕大内裏大極殿前の道を云ふ龍尾壇とも稱す。

〔蒼龍樓〕「シヤウリウロウ」と訓む、大内裏八省院内四樓の一、左樓、東樓、龍尾道東樓青龍樓とも云へり。

宣命文紙

告朔函

授位

〔内記〕「ウチノシルスツカサ」と訓む、詔勅を作り、禁中の動靜を錄することを掌る、故に能文を以つて之に任ず、廳宜陽門の南にあり、内記所、又は内記局とも云ふ。

〔主鈴〕官職備考に「主鈴、少納言の下司なり、大主鈴は正七位下、少は正八位下なり、少納言の下知を受けて驛路の鈴、並に天子の寶印關所の符契等を支配す」とあり。

飛驛

凡在外官飛驛奏事者。大臣奏畢。卽令內記作勅符。大臣自持昇殿上奏覽。畢。少納言中務輔內記主鈴等請印封函發遣。事見儀式。

勅符

凡封驛傳　勅符式。少納言中務輔主鈴請印准飛驛式。內記主鈴封函。官史發遣。事見儀式。

神位記式

神位記式。

勅

無位某神　今奉授某位

年月日

僧綱位記

僧綱位記式。

某位名

右可某位

勅云云可依前件主者施行

年月甲日

中務卿位臣姓名宣

中務大輔位臣姓名奉

中務少輔位臣姓名行

奉

勅如右牒到奉行

〔乙日〕其月の十干の乙に當る日也。

〔丙日下〕丙の日に位記を下すの意也

僧尼位記

〔僧尼位記式〕僧位を授くる證書の書式也、僧位は朝廷より僧に賜はる位階を云ふ、天平寶字年間に四階貞觀年間に八階の制見ゆ、式には、勅授六階、僧綱判授二階を定む。

位記

年月乙日

治部卿位名

治部大輔位名

左大辨位名

告某位名奉

勅如右符到奉行

大錄名

治部少輔位名　少錄名

年月丙日下

僧尼位記式。

勅

某位僧名年若干臈若干

今授某位

年月日

延暦寺棲山一紀僧位記式。

某位僧名年若干臈若干　延暦寺

今授某位

〔五位已上位記式〕續日本後紀承和九年丁丑菅原清公傳に「弘仁九年有ニ詔書一天下儀式男女衣服皆依レ唐、從五位以上位記改從ニ漢樣一」とあり。

〔中務云々〕位記ロ宣考に「仁和二年正月二日無位藤原朝臣時平に正五位下を可す位記に曰く、（中務、伯禽封レ魯、辟彊侍レ中、若爾時平、名文之子、功臣之嫡、及ニ此良辰一、加ニ汝元服一、鳳毛隋似、待命宜レ殊、可下依ニ前件一、主者施行上、式に中務云云と云へるはかゝる文を記すことなり」とあり。

勅云云

年月日

五位已上位記式。

某位姓名

右可ニ某位一

中務云云可レ依ニ前件一主者施行

年月甲日

中務卿位臣姓名宣

中務大輔位臣姓名奉

中務少輔位臣姓名行

大納言位臣名

大納言位臣名

中納言位臣名

中納言位臣名

中納言位臣名等言

制書如レ右請奉

レ制付レ外施行謹言

〔月丙日云々〕一本に「按月丙日之上脫二年字一歟」と云あり。

〔命婦位記亦同〕此の六字原本大字となす、今雲州家校本に據り、注文に改む。

〔綠縹〕深縹の重色を云ふ、元來六位の當色也、「ミドリノフデ」は義訓也、八雲抄に「六位」の異稱とす。

〔位記　裝束〕

制可　　年月乙日

月丙日辰時大內記姓名

左中辨名

左大臣位朝臣

右大臣位朝臣

式部卿位名

式部大輔位名

左大辨位名

告某位姓名奉

制書如右符到奉行

大錄名

式部少輔位名　少錄名

少錄名

年月丁日下

右文官位記式如件。命婦位記亦同。但武官位記以兵部代式部、以右辨代左辨。

凡裝束位記式。

神位記三位已上者。縹（ハナダノ）紙、綠（ソチクセ）く縹䌯（ノカムハタノ）綺、帶（ツケノ）黃楊軸。親王位記者。白紙、表白呉綾（クレノアヤノ）裏紫羅、縹綠、綾裏䌯、綺、

〔帶〕下文「凡五位以上位記料雜物、色紙羅綾綺帛帶軸等」とあるに據りて意補す。

〔「帛字恐白帶」〕此の五字後人傍注の纔入也。

〔鐵尺〕これを「クロカ子ノタカハカリ」と訓むは、もと物差は竹材を用ゐたるにより、竹量の意なとれり、和名抄に「尺、竹量也、太加波可利」とあり。

〔預被鞍御馬〕京本及貞享本「領被鞍御馬云々」となす。

答書

供奉行幸

位記紙

位記筥

文書

年新紙筆

帶赤木軸。三位以上者。縹紙縹綺帶黃楊軸。五位以上者。白紙白縹帛〔帶〕厚朴軸。「帛字恐白帶」女亦同。但僧綱已上准三位。律師准五位。

凡五位以上位記料雜物。色紙羅綾綺帛帶軸等。量其可用之數。作奏進內侍奏覽畢。羅綾綺帛帶者即自內侍所行之。色紙者受藏人所。赤木黃楊厚朴等軸受內匠寮。

凡造位記料。板二枚。長各八尺。廣二尺四寸。厚二寸。鐵尺一隻。長一尺二寸。刀子二柄。長五寸。廣一寸。机二脚。並受木工寮。砥一顆。受大藏省。柳筥四合。受內藏寮。隨損請換。

凡賜渤海答書日。內記從使赴于客館。

凡供奉行幸。遠處內記二人史生一人。內記分在左右。●預被鞍御馬宮人之後。駄鈴馬主鈴之前。近處內記一人。史生一人。

凡書位記料麻紙者。上總國一百五十張。下野國一百張。每年進之。詔書料黃紙者。隨用直奏受藏人所。

凡納位記料革筥八合。緣絹八尺。結筥帶料。並隨損付內侍奏受內藏寮。

凡納贈位記料柳筥。臨時受內藏寮。

凡雜公文。使史生進省。

恒例解文進省式。

右正月廿日春夏祿文。五月廿一日夏衣服文。六月神今食兆人一人文。同月廿日夏馬料文。七月廿日秋冬祿文。八月十日內記并史生考日行事文。十一月新嘗會兆人內記一人文。同月廿日馬料文。又依上日請要劇文。每月申送。

凡從圖書寮所請紙二百張。筆十管。月料。墨六廷。年料。

凡內記身候陣頭令記錄。

凡賜渤海國勅書函賜上書封字。函上頭書中務省三字。

監物

凡請官司管鑰者。每旦監物幷典鑰等共候延政門外。近衛開門。大舍人就闈司（掃部寮設座）叩門一聲。其詞曰。美可度能都可佐。闈司問曰誰。大舍人稱姓名曰。鑰給良牟（給登）監物姓名典鑰姓名等候門登申。闈司進就版位奏。其詞曰。鑰給良牟（給登）監物姓名典鑰姓名等叩門故爾申。勅曰。令奏。闈司稱唯復本座宣曰。令進姓名等奏。大舍人共稱唯。即監物引典鑰大舍人等入王就版位（但大舍人留於在掖門）。監物奏曰。司司乃賜物下牟鑰給登申。勅曰取之。共稱唯退出。典鑰史引大舍人等。進就鑰櫃下出管鑰授大舍人。退出轉授監物。夕時進鑰儀亦如之。其奏詞曰。給（禮）留司司乃鑰進登申。勅曰收之。即共稱唯退出。但國忌幷奉伊勢太神幣帛日及齋日。不擧聲奏。只請鑰狀告於闈司申於內侍。內侍微聲奏訖。即闈司宣曰令入。即監物典鑰等入就內侍所。內侍宣曰給之。即監物典鑰等微聲共稱唯退卻就鑰櫃前。典鑰引大舍人等開櫃出鑰。並如上儀。

凡請進管鑰當降雨之日。於承明門壇上奏之。

凡應出納大藏物者。少辨已上一人。中務民部大藏三省錄各一人。監物一人。主計助已上一人。同會就諸司廳。本司錄申曰。雜物出納登申。（絁絹絲帛綿布錢等類）。辨判命之。錄稱唯。主鑰申曰。給鑰止申。監物命曰給之。即稱唯受鑰。諸司共赴立正藏前。主鑰引藏部等申曰。開藏登申。監物命曰開之。即稱唯令藏部開。諸司檢校出納。了即監物加封。主鑰申曰。事畢。諸司乃還。其出納鐵鍬等類及自餘諸司物者。官史一人。三省錄各一人。監物及主計屬各一

記錄

函上書

〔渤海國〕周時に肅愼、漢魏時に挹婁、南北朝に勿吉、隋の時靺鞨と云ふ、今のスンガリ河流域に國を成せり、唐の時其族人大祚榮自立して高勾麗の故地を略定し、唐睿宗の封冊を受けて渤海王となる、是より渤海を國號とす、我國へ入貢せしは聖武天皇の時にて桓武天皇以後定期入貢ありたり。

管鑰

出納大藏物

〔等〕原本なし、貞享本示に作る、今雲州家校本に據りて補ふ、又貞享本の示字は等字之誤なるべし

〔「以」〕貞享本なし雲州家校本亦之れに據れり。

口勅

〔蓑〕年新所請の條下、「馬蓑」雲州家校本「馬装」に作る、考異に「國俗蓑作穴、會意也」とあり。

年新　宿直　假文

人。若錄屬不在者。以丞充代之。倶會出納。

凡奉口勅出大藏物者。本司奉勅。經中務省。省輔一人。監物一人。與本司輔已上一人相共出之。（省輔不在者。丞代之。）三司共入奉進。即錄物數。三司同署。便附本司申送辨官。其出鎰鑰等物者。省錄已上一人。監物一人。與本司錄已上二人共出奉進。申送於官亦同上例。

年新所請。馬蓑十領。藺笠十枚。（並官人新。）登美蓑八領。（裏倫新。已上並請內藏寮。）鍬一口。笠一枚。明櫃一合。筥一合。缶一口。土器卅枚。

凡宿直者。大監物以下。少監物以上二人。

凡官人請暇文。有見直五人以上者。得互判許。若不滿此數。請省處分。

主鈴

〔漆簏子〕一本に「[illegible]當作簏、經亮曰、和名抄簏、老谷切、韻云簏音祿、和名須里、箱類也」とあり。

〔火鉗〕貞享本「大鉗」に作る。

請印　從駕內印　年新　飛驛儲新

凡下諸國公文。少納言奏請印狀。訖主鈴印之。但勅符幷位記。少納言印之。

凡行幸從駕內印。幷驛鈴傳符等。皆納漆簏子。主鈴與少納言。共預供奉。其駄者左右馬寮充之。

年新所須。朱沙十二兩。膠八兩。（位記新。）練絲三兩。苧一斤。貲布一丈。（敷印板新。）柳筥二合。（納印板新。）赤土一斗。年終申省請受。但銅盤二口。印板漆案二脚。緋氈一枚。並隨損請換。

飛驛儲新。銅鈴子二口。（一大有蓋有脚。一小。）火鉗一枚。虎文革袋十口。（各長二尺。廣一尺二寸。）洗革十條。（裹緒新。各長五尺五寸。廣一寸。）生絲二兩二分。（結袋新。）檜函廿合。短冊廿枚。松脂三斗。虎文革袋一口。（納印板筥新。長六尺五寸。廣四尺五寸。）絡新洗革七條。（各長三尺。廣一寸。）虎文革一張。（覆駄新。長六尺。廣四尺。）並隨用盡及破損請受。

凡飛驛并驛傳函、及遣渤海國勅書、太政官牒者、主鈴封之、勅書具内記共裹之。

典鑰

凡諸司并諸國庫鑰匙、毎日與監物共申請進、（中務省民部省大藏省式部寮大膳職主殿寮大炊寮鑰。）但兵庫鑰、臨時請進。

凡鑰袋、皆以牛革縫造。若有損破者申省請換。

凡納御鑰辛櫃匙、納典鑰局。

〔頭書〕雲州本・貞享本「典鑰」に作る、上下文皆同じ、考異本に「鑰正字也、按和名抄已書匙、叢書用鑰字、本書鑰史以下皆作々有之、其承用已久、故今不改」とあり

延喜式卷第十二

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔中宮職〕「キサイノミヤノツカサ」又「ナカノミヤノツカサ」と訓み、略して「ミヤツカサ」とも云ふ。此卷已に散逸して首文多く闕く處あり、一本に首行に「元日御藥」を補せり。

〔度嶂散〕一本に「度嶂散」とす、又其の下に「典藥寮進之」の五字あり。

〔典藥一人〕一本此の下に「奉進畢」の三字を補ふ。

〔舍人廿人〕一本此の上に「内」一字あり。

〔拜禮〕一本此下に「事」字あり。

〔太子昇自〕一本此下に「東階」、又賀訖の上に「朝」の字を補ふ。

延喜式卷第十三　中宮職　大舍人　圖書

中宮職

　屠蘇日散度嶂散・　内侍率典藥一人・　引御輿候於南庭　一人臣氏四位二人五位二人職大夫并亮立左右　・舍人廿人候於内裏。左右近衛次將各一人率將監將曹府生各一人近衛卅人陣於左右　門陪從大夫左右相分列　率志府生各一人兵衛廿人　大廿人亮已下屬已上　舍人廿人賷服御物列　大極殿後殿群官拜禮・訖。便御豐樂院　日給侍者藏人等前食女孺已下折櫃食百合。

二日受皇太子朝賀。

其日早朝職官設皇太子版位於當寢殿　西南　南若退設司賓位。又南退設司賛位。　司賓引太子入。立定司賛唱再拜。太子再拜。司賓引太子到東階。太子昇自　賀訖俛伏興。引降復位。内侍進承令。降詣太子前東面稱令旨。太子再拜。宣命訖又再拜。司賛唱再拜。太子又再拜。司賓引太子出。事見儀式。

群官朝賀

同日早朝受群官朝賀。

同日早朝所司鋪設於玄暉門外西廊。親王以下諸王五位於東上。諸臣五位於廊下南面。式部置典儀位於同門東。差東北退設贊者位並西面南上。設職大夫位於門西南面。依時剋式部引五位以上六位以下列於同門外南面。典儀曰再拜。贊者

〔女藏人三人〕貞享本「女藏人二人」に作る。

〔同日早朝〕此上の注文、西宮記に引ける中宮職の文に「事見儀式」の下に「掛綿六百屯受大藏省」の九字あり。

女官朝賀

〔闈司〕「カギノツカサ」とよむ、爾雅に「宮中謂之闈」注「謂相通小門也」とあり、後宮十二司の一、宮城以內の諸門管鑰の出納及び其諸門より出入する雜物を勘檢することを司る。

白馬

〔御匣殿〕貞觀殿の別名、內藏寮の外に御服を裁縫する所也。

年新御藥

承傳。群官俱稱拜。職大夫出就位。爲首者進南向跪稱賀詞。訖復位。群官俱再拜。職大夫入中內侍。內侍奉令旨傳宣。大夫奉令旨退出。就位南面傳宣。群官稱唯再拜。訖退出。但中務輔引次侍從以上著座。于時內侍一人率女藏人三人。納祿物於櫃一合。令持職舍人四人置廊下上東。（自親王座東去一許丈）綿六百屯受大藏省置廊下。（掃部寮設座）養。亮進屬各一人。史生二人。侍祿所座。（所司設）事訖賜祿。親王以下大納言已上各白掛衣二領。中納言三位參議白掛衣一領。非參議三位幷四位參議掛衣一領。四位小掛衣一領。五位綿一連。亮唱四位五位名賜之。（參議已上令女藏人賜之。五位已上令宮司賜之。）若亮有闕。臨時權任。（事見儀式）同日早朝。中務省召職司給次侍從已上見參。即別錄四位已上名簿進內侍。（爲令辨備祿物）

同日。受女官朝賀。

其日內侍仰闈司置版位於殿上及殿庭。（版位十枚。方五寸厚一寸）內親王以下。女官命婦以上以次入立殿上。闈司引六位以下以次入立於庭。爲首者當御前跪賀。內侍進承令退。隨便而立稱令旨。再拜訖退出。先是內侍令所司鋪座立臺盤。女御以上先著座。次尙侍以下四位以上。次內外命婦（北面）。次闈司引六位以下北面列座。昇殿者留著座。不昇殿者退出。賜宴。訖賜祿。（妃白掛衣一襲。夫人內親王各白掛衣一領。三位以上六幅被一條。四位四幅被一條。五位衣一領。三位已上妻四幅被一條。四位以下妻衣一領。）女孺之中給折櫃食百合。祿調綿二百屯。（事見儀式）

三日給省幷典藥官人已下酒肴幷祿。五位衾一條。六位小掛衣一領。典藥史生一人布二端。生十二人各一端。

七日。左右馬寮允屬馬醫。寮別各一人。左右近衞十四人牽白馬七疋度御殿前。訖職司於廳前儲酒肴饗之。其祿允各綿十屯。屬八屯。馬醫六屯。近衞四屯。

同日。典藥寮候年新御藥。內侍啓之。進以上奉。寮納御匣殿。八日平旦。更請出送於八省御齋會所令加持。十

〔生一人各綿五屯〕一本云ふ、「生上恐脱＝兼字」とあり。〔絹屯綿六百屯〕京本「細長綿六百屯」に作る、以下皆同。〔預〕京本には京本に據りて「預」に作れり。〔昇＝案〕京本「擧＝案」に作る。〔常寧殿〕大内裏の一殿、後宮にて皇后中宮女御等の居所也。〔絹一疋〕以下「已上舍人料」迄、考異に「貞觀儀式春日祭條舍人與史生降殺、又内裏式春日祭條大原野條降殺、竟與史生舍同者、蓋有＝誤」とあり。

卯杖

門日進賁如＝初儀。此日給＝供奉宮人以下議＝五位衾一條、六位小襖衣一領・生一人各綿五屯。

凡正月上卯、當日職官設＝案一脚於南廊、左右近衛次將率＝將監以下近衛已上陣＝列常寧殿左右、訖職大夫已下舍人已上供＝進御杖擧具。安＝於案上＝退出。次皇太子進之。内侍傳取奏＝覽。次大舍人。次左右兵衛。訖内侍令＝職官撿＝收、即近衛引退。

粥

十五日、粥幷酒肴給＝内侍已下女孺已上。（餘節給＝酒肴等准＝此。）

踏歌

十六日、踏歌妓女嘗六人、纏頭料綿六百屯。預請＝大藏省。（儀畢班賜有＝差。）

春日

凡二月上申日、（准＝此。）十一月上子、奉＝春日祭幣帛。五色薄絁各一丈、木綿二斤、曝布二丈一尺。（裹＝幣料。）其使者五位已上官一人。若大夫帶＝參議、不＝預。史生一人、舍人一人。前一日、當國使官奉＝史生舍人。令＝持＝幣帛＝入＝自＝玄暉門、安＝左腋庭門案上。（預請＝高案。）史生舍人等共昇＝案、使官相扶以付＝藏人、候＝常寧殿東。宮主奉＝御麻＝解除畢退出、即藏人持＝幣案＝授＝使者。史生舍人昇＝案。與＝宮相隨退出、乃達＝前所。當日馬寮牽＝供御馬一疋。

裝束料。

絹五疋、綿十屯、細布五端、調布五端、當色一具。（已上五位使料。若四位者加＝絹二疋。）絹一疋、綿二屯、細布二端、調布二端、當色一具。（已上史生料。）絹一疋、綿二屯、細布二端、調布二端、當色一具。（已上舍人料。）細布一端。（持＝幣仕丁新。）並請＝所司＝充＝行之。

凡二月上卯日、（子准＝此。）十一月中子、奉＝大原野祭幣帛。五色薄絁各一丈、木綿二斤、曝布二丈一尺。（裹＝幣料。）其使進一人、史生一人、舍人一人、其儀同＝春日祭。餘祭亦准＝此。

裝束料。

絹一疋、綿六屯、細布五端、當色一具。（已上使料。）絹一疋、綿二屯、調布二端、當色一具。（已上史生料。）細布一端。（持＝幣仕丁料。）

絹三疋、綿六屯、細布五端。當色一具。已上使料。 絹一疋。綿二屯。曝布三端。當色一具。已上史生料。紺布一端。持レ幣仕丁料。

凡四月中酉。奉二賀茂上下松尾三社幣一使者。五位已上官一人。若大夫參議一不レ預。史生一人。已上啓二名簿一。舍人二人。仕丁六人。其日遣明使史生率二舍人等一裹二幣六捧一。社別二捧。賀茂上下社別五色帛各六尺。絲一約、曝布一端。木綿麻各大二斤。已上幣料。商布一丈三尺五寸。裹レ幣料。五色絁各三疋。阿禮三具料。楊筥三合。盛二阿禮一料。絁一疋、絲一約。曝布一端。已上禰宜軾料。絁一疋、曝布一端。已上祝軾料。松尾社。五色絁各六尺。絲一約。曝布一端。木綿麻各大二斤。已上幣料。商布八尺。裹レ幣料。絁一疋。絲一約。曝布一端。已上禰宜軾料。絁一疋。曝布一端。已上祝軾料。使官率二史生等一各レ持二幣帛一入レ自二玄暉門一安二左腋庭門案上一。[illegible]史生及舍人惣八人。共舁二幣案一進。使官相副扶レ之、付二藏人一候二常寧殿東一。次宮主奉二御麻一。解除畢退出。郎藏人持レ・案授、使者受取罷出。更於二廳前一宮主解除。畢使官已下向二內藏寮一就二庭座一。松尾社禰宜祝候二於內藏寮一。史生一人。舍人一人。各捧二幣帛一進授二禰宜等一。即內藏寮給レ祿。畢各達二前所一。

裝束料。

絹一疋。纈纈二丈。褶表料。帛一疋。三丈褶裏料。三丈下褶料。表褶一腰。直。帶一條。直。沓一兩。直。紅花四斤。已上上社物忌料。下社亦同。絹五疋。細布五端。曝布五端。當色一具。已上五位使料。四位者加二絹二疋一。絹一疋、細布五端。曝布一端。當色一具。已上史生料。八丈貲布二端。紅花二斤。已上舍人一人料。紺布四端。袍料。曝布一端三丈。一丈六尺布帶料。以二八尺一充二二人一。一端四丈一尺袴料。人別一丈四尺。並持レ幣仕丁六人料。細布二端。調布六端。紅花二斤。左右馬寮御馬牽者[illegible]二人料、[illegible]絹廿六疋五丈。縑二疋四丈三尺。紅花卅八斤。紗一疋。細布七端。錢十七貫六百廿文。已上命[illegible]絹八疋・縑一疋五丈二尺。紗四丈。調布四端二丈。紅花卅八斤。錢十貫三百廿文。已上藏人料。

右依二前件一。男官料請二大藏內藏等二寮一。但賜二馬人并女使一料。以二織庫物一充レ之。

凡六月神今食小齋亮若大夫一人、進屬各一人。史生二人。舍人十人。向二宮內省一卜食。事見二神祇式一。晝時入レ候二內裏一。戌

〔絹三疋〕原本「緋二疋」とす、京林二本及び上文大原祭條、內藏式等に據りて改む。

賀茂

〔不レ預〕雲本「不レ須」に作る。

〔舍人二人〕原本・「舍人四人」とす、今下文裝束料の條及內藏寮式に據り改む。

〔阿禮〕阿禮宮の意也、賀茂の御生(ミアレ)に供御を盛る宮を云ふ。

〔郎藏人持レ案〕一本に「郎藏人持二幣案一」に作る。

〔褶表料〕內藏寮式「袍料」に作る。

〔縑一疋五丈二尺〕此の上京本一字空間あり、蓋或は其色を別くるを脱せるか

神今食

〔左右近衛次將〕もと「左右兵衛次將」に作る、今雲本に據りて改む。
〔各〕六本に據りて補ふ。

御贖
〔東簷下〕雲亮云ふ「贖當レ作レ御」となり

九月九日

鎭魂
〔二人〕原本なし、雲林二本に據りて補ふ。
〔召繼舍人〕舍人の取り繼ぎ等をなす卑役也。

新嘗祭
〔宜陽門〕内裏の内廓、十二門の一、内裏の東、延政門と嘉陽門との間にて、建春門の裏にあり。

殿祭

進暦

門主殿引御輿入、建右廊庭門、候常寧殿内。左右兵衛尉各一人率志府生各一人兵衛廿人陣列陰明門。左右近衛次將[各]一人率將監將曹各一人近衛廿人左右分陣。御輿出自陰明門、女孺已上降從陣中。召繼舍人二人在左右小車中。擎几帳在女孺後。亮已下行立近衛兵衛陣間。御輿到蔣殿、縫殿寮率小齋舍人等候幕下。預備鋪設。召讀舍人二人候左近衛陣側。神事畢御輿還宮。同日辰時小齋官人向宮内省解齋、訖歸來、司進之。十二月准之。

凡六月晦日晡時、神祇官率卜部等候西廊殿南。縫殿亮若進一人立東簷下、對内侍密啓曰。御麻又御贖進奉登神祇官姓名候登申。内侍啓之。奉令令召。事見神祇式。

凡九月九日平旦、供奉菊酒如常儀。

凡鎭魂祭日、亮及當屬史生各一人、舍人[二人]向宮内省。又史生一人率召繼舍人四人雜使舍人二人入候。戌剋内侍令史生并召繼舍人持御服案。案覆以紬帛一條、并宮一合。秉燭。召繼四人共舁、案覆帛。内侍一人藏人一人女孺等列立案後、雜使二人秉燭分左右立案前。史生立燭後、至宜陽門北候之。乘輿御服案自内裏出、相共陣列、向宮内省入自南門、就於鎭座。御巫等受御服案如常。祭畢以次和舞。先神祇官、次宮内丞、次侍從、次亮。次内舍人、次大舍人、次縫舍人。次還儀如前。

凡新嘗祭日、小齋官人率史生舍人等向宮内省卜食。卜食訖着青摺衣、晝時入候閤内。大齋人等自内裏退出。小齋官人俱入、辰日暮向宮内省解齋和舞。人數次第並同鎭魂。

凡六月十二月神今食、十一月新嘗祭神態畢、後日平旦神祇官祭御殿。亮若進一人相副傳内侍令啓。然後祭之。

凡十一月一日、陰陽寮進暦。納漆函、安漆高案。其日平旦、中務輔率寮官候玄暉門外。進一人率省輔并寮官入披庭左門、立御殿前。即出候南廊外。舍人四人便舁案相副状。内侍率女孺等傳取啓畢、即以函案返給舍人。

〔啓〕裏儲の下注「啓用職物」とあるを、纂註云ふ「啓恐當作幣」又「職」字原本「織」に作る今雲本に據りて改む。

墓使　月晦鞋　御贖　月新米　年新布

〔請受〕原と「請奏」となす、今雲本に據りて改む。

大舍人　元正

〔人〕儀式帳に據りて補ふ。

〔其〕林東二本及び官本に據りて補ふ。

權舍人

〔笠二枚〕林東官三本及び内藏式に據りて補ふ。

暦氷

〔閤〕儀式内裏式に據れば衍字也。

凡十二月擇日奉幣於墓。預定使人。五位六位官各一人。舍人二人。仕丁二人。吉日内侍率藏人等裹儲。啓用職物。其日遲明、使官令持幣入安福殿南庭。訖畢退出進發。

凡毎月晦日進錦鞋一兩。但雜給新臨時定之。

凡毎月神祇官進御麻御贖。亮若進一人相副令内侍啓。

凡毎月十一日、請來月新米一百斛。白五十石。黑五十石。

凡十二月二日。來年雜用新調布一千端。預申辨官請受。

大舍人寮

凡元正者。六位以下官人四人。史生二人。將舍人一百卌六人。左右分頭、各執威儀物。入自東西廂門。陣列大極殿前庭近衞陣以北。左陣所執屏繖一具。鬪翳十具。鬪羽十柄。横羽八柄。弓八張、箭八具、各有胡籙。太刀八口。桙四竿。杖二枚、如意二枚、蠅拂二枚、笠二枚、挂甲一領。弓以下並納袋。鬪翳以下分爲兩行。其屏繖立兩行首。挂甲袋立兩行尾。官人立屏繖側。右陣亦如之。其威儀物、前二日受内藏寮。事畢返納。

凡朝拜日豫定舍人十人。爲權内舍人。其名簿十二月五日申省。

凡元日賜次侍從已上宴。豐樂儀鸞兩門「閤」開訖。闈司二人出自青綺門。分坐逢春門南北。舍人四人詣門外。第一者叫門曰。御暦進牟止中務省官姓名等門候止申。闈司就版奏。勅曰令申。闈司還傳宣云。姓名等乎令申與。舍人稱唯。所司奉進御暦。訖撤案。又舍人進叫門曰、氷樣進牟止宮内省官姓名等門候止申。闈司奏之。舍人稱唯如前。闈司奏進亦同。訖縣都水部等取氷樣腹赤御贄退出。又舍人四人與少納言候同門外。大臣喚舍人二聲。

〔稱唯〕「チチ」と應ふるたいふ、口を閉ぢたるまゝに聲を出し、口を漸々に開きて去聲に云ふ、文選注に「唯應辭也」と見えたり。

〔牟〕雲本、林京二本に據り「毛」に作る、下文皆同じ。

〔東宮式〕正月上卯日の條末尾注文「東宮式」官本「兩宮式」に作る。

〔草〕林京二本に據りて補ふ、儀式帳「菖蒲草」に作る。

〔依ニ神祇官一〕一本に「[illegible]」とあり。

舍人共稱唯。[illegible]少輔[illegible]入。儀見ニ儀式一。

弓矢

凡正月七日節會、兵部省進ニ弓矢一、舍人叩門。其詞曰、御弓奏申給牟止、內舍人姓名門候止申。

卯杖

凡正月上卯日供ニ進御杖一、其日質明、頭率ニ舍人一候ニ承明門外一。舍人叩門曰、御杖進牟止、大舍人寮官姓名門候止申。訖持ニ御杖一、[illegible]案於中庭一、頭以下舍人以上各執レ杖分爲ニ南行一、入至ニ案下一立。去レ案三尺。頭進奏曰、大舍人寮申正月能上卯日能御杖仕奉氐進良牟止申給波久止申。勅曰、置之。屬以上共稱唯、隨次相轉置ニ案上一。畢即退出。其杖曾波木二束。比比良木棗牟保許桃梅各六束。爲レ束。已上二株。燒椿十六束。皮椿四束。黑木八束。爲レ束。已上四株。中宮。比比良木棗牟保許桃梅各二束。燒椿皮椿各五束。但春宮儀見ニ東宮式一。挿[illegible]料布四丈五尺、[illegible]張、木綿六斤、木賊十五兩。十二月五日申レ省。

新年

凡二月四日平旦、官人二人五位一人、六位一人。參ニ神祇官新年祭所一。

菖蒲

凡五月五日、典藥寮進ニ菖蒲草一、舍人叩門。其詞曰、漢女草進良牟止、宮內省輔姓名門候止申。

月次

凡六月十一日、供ニ月次祭所一小忌官人一人、史生一人、舍人十人申レ省、祭日早朝、大忌官人二人、五位一人。六位一人。向ニ神祇官一。日中小忌人等向ニ宮內省一卜食、若有ニ不合者一、更差ニ定數一、戌時幸ニ於齋院一、御輿長幷副鈴所ニ小忌人一。亥時進ニ御體一。舍人叩門、其詞曰、御體進止某親王門候止申。寅時退ニ御體一叩門。同ニ亥時一。畢卽東舍遷ニ宮一、明旦依ニ神祇官一叩門。其詞曰、鎭ニ御殿一事申給止、宮內省輔姓名門候止申。鎭ニ御殿一畢。小忌人向ニ宮內省一解ニ祭一、畢退ニ寮一。

相撲

凡任ニ相撲司一後、六位官人二人率ニ大舍人廿人一向ニ彼司一。左右各官人一人、舍人十人。

盂蘭盆供養

凡七月十四日、奉ニ盂蘭盆供養一使舍人七人、選レ省。

番上粮

凡每月一日、官人前月上日幷番上粮文ウテナミ大月新白米廿四斛。但小月減ニ八斗一。上番門籍文申レ省。正月者二日。但朝拜止者如レ恒。同日有ニ衞府番奏一。

〔凡每晦日〕一本「凡每月晦日」に作る。

追儺

〔所進〕凡年終追儺の條中、東御殿の下文「所進」もと「前進」となす、今林京二本及び政事要略に據りて改む。

〔郎方相首親王〕政事要略「郎方相爲首親王」に作る。

告朔

〔闈司〕重複す、衍文也、林京二本なし。

奏事

〔令〕雲本及び林京二本に據りて補ふ。

管鑰

〔阿誰〕たれと呼びかくるを云ふ、何誰に同じ。

行幸

舍人叫門。其詞曰。番事申給止左近衛少將姓名等門候止申。下番並同。

凡每月晦日。神祇官供御麻。舍人叫門。其詞曰。御麻事申給止宮內省輔姓名門候止申。

凡十二月與奪諸陵幣帛者。差使舍人。小寒之日名簿申省。其數隨省處分。

凡年終追儺。前一日錄供事官人舍人等名申省。及裝束御殿。所進舍人十人。當日戌刻官人率追儺舍人等候承明門外。待省處分頒配四門。東宣陽門。南承明門。西陰明門。北玄暉門。亥一刻舍人叫門。其詞曰。儺人等率參入止某官親王門候止申。郎方相・首親王已下隨次入立中庭。陰陽寮儺祭畢。親王已下執桃弓葦箭桃杖儺出宮城門。東陽明門。南朱雀門。西殷富門。北達智門。其方相假面一頭。黃金四目。後帔赤布面四尺。若有損壞者。內匠寮修理。緋皀袷袍各一領。緋皀單裳各一腰。折皀緋帛各一疋。侲子八人。緋布衣八領。折緋布四端。楯一枚。長五尺。廣一尺五寸。桙一枚。長九尺。緋幡一流。折帛二尺。並納寮庫。當時出用。侲子裝束受主殿寮。事畢返納。若有破壞申省受替。其弓箭杖受陰陽寮。

凡視告朔日。舍人四人候書殿東北。于時殿上侍從喚舍人二聲。舍人共稱唯。少納言替昇。事見儀式。

凡諸司奏事者。舍人四人詣閤門。第一者再唱。闈司闈司。〔令〕問曰阿誰。舍人稱姓名。即申曰。某事申給牟登某官姓名門候奏事申。闈司就座奏曰。某事申給牟登某官姓名叫門故爾申。勅曰令奏。闈司傳宣云。令姓名等申。舍人共稱唯。但神今食新嘗祭取小齋人。

凡監物請進諸司管鑰者。差舍人七人朝夕供奉請進。事見監物式。

凡車駕行幸者。舍人四番以十二人為一番。供奉御輿長八人。駄鈴四人。並著緋袍白布袴帶。若皇后有行幸。又供御輿長。裝束同前。其叫門者。便取副鈴舍人。惣緋袍卅八領。布帶卅八條。緋布衫准此。並納寮庫。臨時充用。若有破損。返故請新。

先進發火爐。寮官人左右各一人進就榻下。共燒香一擧。畢即共復本列。所須香小六斤十二兩。盛遣。預前請受。

（香遣爐榻及禮服並在寮家。）

凡桑涼佛像經典者。起七月上旬盡八月上旬。其所須綿紙并鋪設等。臨時請受。

桑涼

齋會

正月最勝王經齋會堂裝束。

盧舍那佛并脇侍菩薩壇像一龕（佛座車綱錦褥一條）。金字最勝王經一部。納金銅函一合。敷錦。 經囊一口。納黑漆金銀泥繪細筥一合。在白綾經立。 墨字最勝王經卅部。分十部置案。立佛座壇左右。白銅火爐三口。一口佛前析。二口行香析。白銅遣八合、同七十六枚（並行香析）。金銅花盤四口、二口盛紙花。二口盛菲草藥。 金銅佛器一具（十一口加盖。花盤四枚。鐃四口。箸一具）。 玉幡一枚。備臺。 金銅鐘一口。備臺杵。 金銅大花瓶四口。敷綵帛小褥四條。置佛座四角。插柳筒花。紫帛帶十六條。結著柳筒。 幡五十二旒（大四十四旒殿母屋析。小八旒高座析）。花蔓代卅枚（大廿二枚殿母屋析。金輪小八枚高座析）。 緋綱十一條。懸幡析。

經臺卅五基。赤漆鷲足圓机四脚。花瓶析。黑漆案一脚。佛供析。帊一條。帶二條。繪別足高案八脚（二經案。二花盤案。二散花。二行香案）。 雜色褥八條（二條經案。二條花盤案。二條散花案。二條行香案）。 白羅繡帊二條。經案析。 赤紗析二條。散花案析。 雜色緂雜帶八條（經案花案別二條）。細布二條。行香案地敷析。

［図］置佛座壇下四角。備漆榻四脚。短帖四枚。青兩面褥四條。漆案四脚。青兩面褥四條。帊四條。帶八條。白銅火爐四口。居四合。金銅鉢四口加輪。盤十六枚。鐃十六口。漆繪花盤十六口。箸四具。

聖僧座一具（塗丹榻一脚。短帖一枚。白褥一條。漆案一脚。帊一條。帶二條。金銅鉢一口。盤四枚。鋺四口。箸一具）。 高座二具（蓋二條。天井一枚。柱八枚。令內匠寮搆立。帽額（モカウ）一條。幡八旒。短帖二枚。蓮華座二枚。赤兩面褥二條。漆案二脚。褥二條。前垂二條。大床二脚。但講師加案並座尾）。 禮版座二具（漆案二脚。短帖二枚。褥二條。輿一具。白蓋一枚。綱四條。茵一枚）。敷土析。調布卅六端（敷佛座境下）。 三寶布施細布綿十屯。大藏省異綵帛。畢日進之。寮官人置高案上。衆僧布施之時供之。 香三斤（淺香七兩。薰陸香七兩。青木香二斤二兩。奏請內藏寮）。 紙花二百十筒（十七日析。日別三十筒。請受書司）。 梅柳雜花（諸衛採進）。 佛聖供（內膳寺備之。但佛器案等從寮度之）。 燈油（主殿寮供之）。 火爐火（主殿寮弁備。齋堂亞子供之。但始終之日寮官人供之）。 堂內鋪設。掃部寮敷儲。 香水

凡一日齋會始日分置堂前左右邏堂上人。終日亦同（主水司儲之。但度者香水寮儲之）。 其御藥八日始充之。楊枝並藥一兩

〔東〕諸本には見えざれども、今雲本に據り、又先例を考へて補ふ。

〔白銅〕諸本には見えず今雲本に據り、本文上下の文を案じて補ふ。

〔盛菲草案〕原本「盛菲草藥」に作る、今京林二本に據りて改む。

〔金銅鉢〕京本「金銀鉢」に作る。

〔高座〕佛事修法の時、席より一段高く設けたる處を云ふ、講師などの座する處也、八講の時に、佛前の左右に二箇の高座を設く、之を八講壇とも云ふ。

〔梅柳雜花〕原本に「梅柳繹花」に作る、今本書近衛々門等の文に據りて改む。

〔花筥二枚〕原本に上文「佛名」灌佛の條、玄蕃式仁王般若の條共に「花筥五枚」に作る。

〔冊延〕原本「冊延」に作る、今京林二本に據りて改む。「仁王會」

〔供〕京本に據りて補ふ。

〔淺香〕沈香の惡しきもの、質致密ならず水に入るれば浮ぶと云ふ。「布施」「香花」

〔香〕本書の文例により意補す。「舊經」

〔各二卷〕原本「一卷」の二字とす、今雲本に據りて補訂す。

御持佛一龕、蒔繪案一脚。已上在內裏。便供奉。但寮供紙平文案一脚。一腰立左右安置裁物佛一基、水精塔形一基。一脚立右牙作一基。 佛供案一脚、加褥幷帊帶。 花香析金銅花盤二口、火爐一口。 金銅花瓶二口。菊側花二枚。左右近衞各進一枚。寮受供之。 一万三千佛像一鋪。十六佛名經一部。平文案三脚。一脚經案。一脚散花案。一脚行香案。並加褥幷帊帶。 聖僧座褥一條。聖供案一脚、加褥幷帊帶。 幡十六旒。佛供內膳備進。但佛器幷案寮度之。 禮版一基、磬一枚。加槌、拜 經案一脚、錫杖四枚、如意一柄。已上二種講讀人料。

右十二月三箇夜。始十九日。 禮佛供備御在所。

講說仁王般若經裝束。

釋迦牟尼佛幷菩薩羅漢像一鋪。褥幷幃一具。 仁王般若經一部二卷。經臺一口。經卷一基。經櫃一合。 五大力菩薩像五鋪、料五脚加褥。花案一脚、褥及帊各一條、帶二條。花筥二枚、花瓶二口。 香案一脚。褥一條。香二兩、火爐一口、盞二合。 佛供案一脚。褥及帊各一條。帶二條。燈臺一基。五大力菩薩供案五脚。褥及帊各五條、帶十條。● 行香案一脚。褥一條、火爐一口。盞四合。七八枚。 布施案一脚。褥及帊各一條。帶二條。鎮子鐵冊延。● 敷地新調布廿端。

右一代一講仁王會。大極殿裝束如件。自餘雜具如正月御齋會。紫宸殿准此供奉。臨時亦同。事見玄蕃式。

凡宮中禮佛三寶布施者。收納寮庫、聽官處分。

凡國忌齋會、五位一人、六位已下一人、史生一人向寺、率諸司史生四人行事。冬月用紙花。東寺廿筥、西寺廿筥。餘月採時花供之。便令貝香侍寺採。十二兩。淺香二兩、薰陸香二兩、青木香八兩。

凡寫年新仁王經十九部各二卷、用紙七百一十張、計年中日數。一日充二張。但有閏月者、准日加之。自餘雜物亦同。 標紙十九張。書損新紙廿七張、兎毛筆七管。鹿毛筆二管。新。界墨二延半。界新亦在此中。 紙六十張、裝用新。軸卅八枚。直。 綺五丈八尺五寸、直。 黃蘗大七斤。直。 書手七人。日寫二七張。裝潢手一人、校生一人。日校二卅張。再校。各給淨衣絁四丈。布衫幷袴新。 調布四丈五尺、衣袴幷湯帷手巾料新。 頭巾一條、綿一兩、驅使丁一人衫袴新。庸布一段。食新人別日米二升。驅使丁本粮。 大豆小豆鹽醬末醬各一合。酢芥子

〔「井」〕雲本京本に據りて削る。

〔東寺〕山城國京都下京區九條町にあり、教王護國寺、又は左寺と稱す八幡山、祕密傳法院是也、朱雀門の東にあるによりて東寺と俗稱す。

〔斐皮〕和訓栞に、「がんぴ、木の名、又山かごと云ふ、山楮也と云へり云々、今鳥子紙に當る者是也、云云、延喜式に斐の紙麻と云ひ、和名抄に斐の薄紙と云へる是也云々」とあれば雁皮を云へるにや。

〔橫〕京本に據りて補ふ。

年料墨

凡年料所造墨四百廷。（長五寸。廣八分。）絹七尺八寸。（篩墨料。）綿八兩。（拭墨料。）調布一丈六尺。（袋并覆料。）紺布四端。阿膠小六斤八兩。席一枚。食薦二枚。（並干）墨紙。長上一人。造手四人。給衣服。各庸布一段。其食人別日米一升六合。鹽一勺六撮。海藻二兩。醬滓一合。惣單九十三人。

裝潢料

凡年料裝潢用度。絹五尺。（篩糊料。）大豆五斗。（糊料。）大竹廿株。（標紙料。）小刀四枚。（切紙端料。）砥一顆。

紙花

凡年料染造紙花二百六十八箇。（御料十八箇。最勝王經「井」齋會料二百十箇。東寺國忌料廿箇。崇福寺國忌料廿箇。）所須紙一千四百九十張。（白九十九張半。雜色千三百九十張半。）

紅花大四斤。（二斤染紙二百張料。一斤支子下染料。）黃蘗大五斤。（三斤染紙二百張料。二斤藍下染料。）支子三斗。（染紙二百張料。）淺蒲蘭汁一斗。（染紙二百八十張料。）黃櫨大二斤。（染紙二百五十張料。）紫草小十斤。（染紙百二十張半料。）藍二圍。（染紙一百卌張料。）酢六升五合。綿小三兩。藁三圍。椿灰一斗二升。水麻笥二口。杓二柄。籮一口。薪卅二斤。每年六月上旬具注用度申請。九月內付書司令染。其染所雜使等食。臨時申請內侍。

筆

凡兎毛筆一管寫眞行書一百五十張注一百張。墨一廷書三百張。鹿毛筆一管。界六百張。

功傭

凡寫經功傭。以布一端充紙卅張。（注經卅張充一端。）校以一端充一千張。（注經亦同。）裝潢以一端充四百張。（謂黏續界截及著標安帶軸。）題以一端充一百卷。

紙料

凡造紙者。調布大一斤。斐皮五兩。造紙三十張。穀皮斐皮各一斤。造上紙各卅張。

寫書

凡寫書者。發首皆留一行。卷末留一行。空紙。然後題卷。其裝裁者。〔橫〕界之外。上一寸一分。下一寸二分。惣得九寸五分。

凡寫書上穀紙。大字長功日寫一千七百言。中功日一千五百言。短功日一千三百言。小字長功日寫二千三百言。中功二千一百言。短功一千七百言。其麻紙書各減穀紙一百言。上穀紙義疏長功日寫二千言。中功日一千八百言。短

〔造レ墨〕墨を「スミ」と訓むは、染の義にて「ソミ」の轉也、又「マツノケブリ」とも、松烟（ショウエン）とも云ふ、和名抄に「墨、和名須美、以=松烟-和膠合成」とあり、即ち其の「焼=得烟-」とは、松を焼きて烟を採る也「煮レ烟」とは、松烟を膠汁に合せて煮ながらよく練り合はすを云ふ。

造筆

凡造レ筆、長功日兎毛十一管、狸毛同レ上。鹿毛卅管、中功日兎毛十管。鹿毛廿五管、短功日兎毛八管、鹿毛廿管。

造墨

凡造レ墨、長功日焼=得烟-一石五升、煮レ烟一斗五升。二日二夜乃得レ熟。中功短功亦同。成墨九十三廷。長五寸、廣八分。新膠一斤。中功日焼=得烟-九斗、煮レ烟九升、成墨八十廷、短功日焼=得烟-七斗五升、煮レ烟七升五合、成墨六十六廷。

長案紙

凡太政官長案新紙、留年新内三百張、毎年打進。其新物者、用=寮家不仕新-。

凡辨官長案新紙、便留=月新内一百張-、毎月打進。左右各一百張。其堺法者縦用=廣堺-。横上四下一。但其食新白米一斛二斗。大炊寮。酒三斗九升。造酒司。海藻十二斤、雜魚二斗六升、塩一升二合。大膳職。毎年十一月請=受来年新-。

諸司紙筆墨

紙筆墨充=諸司-。

神祇官紙卌張、筆一管。斎宮寮紙七十張、筆三管。勅旨所紙五百張。筆五管。供御紙一百張。内侍司紙三百張。筆四管。藏人所紙一千八百張。年新。藥司紙一百五十張。年新。太政官紙五千五百張。年新。筆十五管。左辨官紙一千二百六十張。筆廿管。右辨官紙一千七十二張、筆十二管。中務省紙四百三十張、筆十一管。内記紙二百張、筆十管。監物紙一百五十張、筆三管。主鈴紙六十三張。年新。筆一管。典鑰紙六十三張、筆一管。年新。中宮職紙一百卅張、筆二管。大舎人寮紙十張、筆一管。圖書寮紙七十五張、筆一管。内藏寮紙卅張、筆一管。縫殿寮紙卌張、筆一管。陰陽寮紙一百張、筆一管。内匠寮紙百張、筆二管。式部省紙一百十張。筆三管。大學寮紙五十張、筆一管。治部省紙一百七十張、筆二管。雅樂寮紙八張、筆一管。玄蕃寮紙五十張、筆一管。諸陵寮紙五張、筆一管。但調所紙八張、筆一管。民部省紙六百七十三張、筆十管。主計寮紙六十六張、筆二管。主税寮紙一百六十八張。筆一管。年新。兵部省紙一百張、筆二管。隼人司紙十張、筆一管。刑部省紙二百卌張、筆二管。判事新在=此内-。囚獄司紙十張、筆一管。大藏省紙二百五十張、筆八管。織部司紙五十張、筆一管。宮内省紙五百張。筆十管。大膳職紙一百張、筆二管。木工寮紙二百五十

張。筆一管。大炊寮紙一百張。筆二管。主殿寮紙卅張。筆二管。掃部寮紙五十張。筆二管。典藥寮紙卅張。筆二管。正親司紙四張。筆一管。內膳司紙九十張。筆二管。造酒司紙廿張。筆一管。采女司紙八張。筆一管。主水司紙卅張。筆一管。彈正臺紙卌張。筆一管。左右京職各紙五十張。筆一管。東西市司各紙十五張。筆一管。勘解由使紙一千張。〈年新〉筆十六管。齋院司紙五十張。筆二管。左右近衛府各紙一百張。筆二管。左右衛門府各紙廿張。筆一管。左右兵衛府各紙廿張。筆一管。左右馬寮各紙卅五張。筆一管。兵庫寮紙卌八張。筆四管。春宮坊紙一百八十張。筆四管。內教坊紙一百張。筆二管。

右月料紙筆、其依前件本司預受。八月一日依例頒充。其年料季料亦准例充之。

神祇官疊一延。春宮坊三延。敕旨所一延。〈月新〉侍御十二延。〈每月進一延〉內侍司十二延。〈每月一延〉太政官十二延。左辨官卅一延。右辨官廿四延。中務省卅延。內記六延。監物五延。主鈴一延。典鑰一延。中宮職五延。大舍人寮二延。圖書寮三延。內藏寮二延。縫殿寮三延。陰陽寮三延。內匠寮五延。式部省十延。大學寮二延。治部省四延。雅樂寮二延。玄蕃寮二延。諸陵寮一延。僧綱所二延。民部省十四延。主計寮六延。主稅寮二延。兵部省六延。隼人司一延。刑部省九延。囚獄司一延。大藏省十二延。織部司二延。宮內省十二延。大膳職四延。木工寮三延。大炊寮三延。主殿寮二延。典藥寮四延。掃部寮五延。正親司一延。內膳司四延。造酒司二延。采女司一延。主水司二延大半。彈正臺三延。左右京職各二延。東西市司各一延。左右近衛府各四延。左右衛門府各三延。左右兵衛府各二延。左右馬寮各二延。兵庫寮五延。春宮坊一延。〈月新〉勘解由使十二延。齋院司二延。內教坊卌八延。

右年料疊、其依前件正月總充。但月料八月一日依例充之。

〔正親司〕一に、「オホギマチノツカサ」又「オホキシタチノツカサ」と訓む、唐名宗正寺、宮內省の被官、皇親、諸王の名籍を掌る處也、文武天皇大寶元年、初めて置く、後世は五位の王氏專ら其の長官に任ぜられたり。

〔采女司〕宮內省の被官、諸國貢する采女等を檢校する事を掌る、上代采女臣代々長官たり、文武天皇大寶元年始めて制して司を置き宮內省に屬せしむ。

〔兵庫寮〕左右あり唐名武庫署、大內裏安嘉門の西方、諸陵寮の東方にあり、天武の朝始めて置く處也。

延喜式卷第十三

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔紅花〕「クレナキ」と讀む、「べにばな」より採れる、赤色に似たる染料也。

神今食

〔御贖服〕秡の時に天皇、皇后、皇太子等の用ひ給ふ贖物の服也。

御贖服

〔備〕一本に、「履二兩注（備）字內藏寮辨備之義歟」とあり。

新嘗御服

〔汗衫〕もと裝束の下に着くる服なるふ、下襲にして汗取也、事物紀原に「實錄云、古昔朝燕之服、有中單、郊饗之服、又有明衣、漢高祖與項羽戰爭、汗透中單、遂有汗衫之名」とあり。

鎭魂齋服

櫛二枚。履一兩。已上三種內藏辨備。餘條縫殿寮進之。帛把帛二條。別四丈六尺。納服白木韓櫃一合。敷細布二條。別五尺。暴布綱二條。別長二丈。黑葛筥二合。各長一尺五寸、廣一尺三寸。紙十張。秡麻大一兩。並附神祇官。紅花大三兩二分。支子一斗四升。酢三合六勺。薪百廿斤。藁六圍半。

同月神今食中宮新十一月新嘗會進此。但以衾代襖。被二條。褥一條。枕一枚。調布二端。白胡葛四合。紙十枚。練絲一兩。櫛二枚。履一兩。白木韓櫃一合。

六月晦日御贖服。十二月亦同。中宮東宮進之。皇帛襆頭一條。別三尺四寸。暴布袍二領。別三丈二尺。帛紐十二條。袍別六條。長三尺三寸、廣四寸七分。袴二腰。別八尺。中宮褶二腰。別一端。帶二條。別長六尺五寸、廣九寸。暴布被二條。別一端三尺八寸。一丈綿廿屯。別十屯。暴布帷二條。別二丈四尺六寸。暴布袜二兩。別三尺。著帛紐。練絲二分。生絲一兩二分。櫛二枚。履二兩。備。柳筥六合。大二合、小四合。紙六張。裹雜物一葉薦一枚。木綿一兩。麻大一分。[illegible]一具。

新嘗會御服。

帛袍二領。別一疋一丈五尺。綿六屯。別三屯。帛襖子二領。別一疋八尺五寸。綿六屯。別三屯。汗衫二領。別三丈七尺五寸。袴二腰。中袴二腰。綿六屯。褌二腰。被二條。綿卅屯。敷被一條。綿十屯。單被一條。綿十屯。帛帷一條。帛枕一枚。四尺一折。暴布帷一枚。陸巾一條。帛袜二兩。綿一屯。帶二條。別五尺五寸。練絲一兩三分。生絲一分三銖。櫛二枚。履一兩。蘇芳帛一條。納服韓櫃一合。敷隨布二條。暴布綱二條。黑葛筥十四合。紙十張。木綿二分。秡麻一兩。

右御服依前件。其丈尺各同上條。十二月神今食通用此服。其縫備所鋪設就所司請。

鎭魂齋服。新嘗祭同用之。

神祇官伯已下彈琴已上十三人。榛摺帛袍十三領。別一疋一丈二尺。袴十三腰。別三丈。綿五十二屯。袍別三屯半、袴別一屯半。絲二兩一分

〔帶四條〕京貞二本「帶四條」に作る。

〔山藍五十四圍半〕京貞二本に「四」字なし。

〔帶別二銖〕生絲五兩三分二銖の下注原本「帶別二兩」に作る、今雲本に據りて改む。

〔蔀〕これを「ミカマキ」と訓むは、「御竈木」の義也。

〔講師〕文武天皇以後、諸國にありて僧尼を司り、佛教を講說することを掌る僧の職名、始め國師と云ひ、寶龜十四年講師に改む。

〔衆僧法服〕

〔讀師〕經綸講說の法會に、講師と相對して、佛前の高座に上り、經題を讀み上ぐる事を司る。

二銖、獲女四人 綠袍四領、綠表帛裏、別三丈。綿八屯、屯別二兩。面紐四條、別長一尺九寸、廣五寸。汗衫四領、別三丈。綠裙四腰、綠表帛裏、別三丈。裙腰新緑帛四條、別一丈五尺。綿八屯、屯別二兩。下裙四腰、帛別三丈、別一丈五尺。袴四腰、別三丈。綿四屯、屯別一兩。縹帶四條、別長六尺、廣四寸五分。細布髮鬘四條、別二尺。緋帔四條、緋表帛裏、別一丈五尺。細布襪四兩、別三尺。線鞋四兩。

新嘗祭小齋諸司青揩布衫三百十二領、細布一百卅領。作塞布一百八十二領。並別一丈二尺。緋紐料四丈。貲布六端一丈二尺。別長二尺二寸、廣六寸。山藍五十四圍半。樸樕新。米二斗四升八勺。生絲四絇。紅花大十五斤五兩。薪六荷。藁六圍。酢六升四合。調布一丈四尺。帛被廿五條、別一疋。綿三百七十五屯、別十五屯。調布被廿五條、別五丈一尺。庸綿三百七十五屯、別十五屯。納被纂布袋五十口、別一丈二尺。練絲四兩四銖。生絲五兩三分二銖。布被別四銖、帶別二銖。中宮小齋人青揩細布衫四十九領。亮進屬各一人、左右近衞官人四人、左右兵衞官人二人、女孺十人。作塞布衫竝領。史生二人、舍人廿人、左右近衞各十人、左右兵衞各三人、主水司水部二人。緋紐新。貲布一端三丈三尺七寸。山藍十五圍。樸樕新。米七升四勺。紅花大七斤六兩二銖。酢一升九合。薪三荷。藁三圍。帛被十條。綿一百五十屯。布被十條。庸綿一百五十屯。布俗廿口。練絲一兩二分四銖。生絲十三兩五分五銖。

右依前件。但帛布被通用十二月神今食。待内侍處分三年一度頒給。

正月齋會衆僧法服。

講師讀師七條袈裟二條。講師淺紫綾。讀師深紫綾。並深淺紫帛裏。別四丈。甲新深紫綾五丈、別二丈五尺。絲四兩二分。緒組新紫絲一絇。深紫羅帔二條、別一丈六尺。深緋綾蔭脊二條、蔭兩表帛裏、別三丈。赤白橡座具四條、別一丈四尺。袍二領、講師深支子綾表、帛裏。讀師白橡綾表、淺綠帛裏。別三丈。綿四屯、別二屯。褌子二領、蔭兩表帛裏。別三丈四尺。綿四屯。赤練汗衫二領、別三丈四尺。黃櫨裳二腰、別四丈。裳腰新縹帛八尺、別四尺。袴二腰、黃櫨表、帛裏。

〔紙廿張〕雲本「紙卅張」に作る。

〔白橡〕「シラツルバミ」と訓む、白ばみたるつるばみ色を云ふ、「つるばみ」は櫟の實より取れる染色にて濃き鼠色也。

年中御服

春季

〔紫〕春季の條中、「半臂十領」の下注中の「紫六領」京本の傍注に「一作蒲萄六領」とあり。

〔別四銖〕絲三兩一分二銖の下注原本「別三銖」に作る、今雲本に據りて改む。

別一丈五尺。綿四屯。褌二腰。別一丈五尺。纈帶二條。別長六尺。廣四寸。赤練被四條。別一疋。二條八日施。二條十四日施。綿四十屯。赤練敷被二條。別一疋。綿四十屯。別卅屯。橡布湯帷二條。別一丈六尺。頭巾二條。別三尺。唾巾四條。別一丈四尺。手巾四條。別三尺。赤練帛袜布袜各二兩。帛別三尺五寸。布別三尺。烏皮履二兩。納服漆韓櫃四合。布綱八條。別長九尺。廣一尺二寸。柳筥二合。納履小筥二合。聽衆僧卅口赤練被六十條。卅條八日施。卅條十四日施。綿六百屯。曝布湯帷卅條。手巾六十條。紙廿張。雜用。

右法服依前件若應縫九條者。用帛一疋一丈二尺二寸。袈裟三丈九尺六寸。甲折三丈二尺六寸。絲五兩。五條用帛四丈二尺四寸。袈裟二丈二尺。甲折二丈四寸。絲四兩。其縫備所充席四枚。

年中御服。

春季。

正月新。二月三月亦同。袍十領白橡六領。淺紫四領。十一月一領。十二月二領。並用白。新。絹十五疋四丈八尺。別一疋二丈四尺八寸。絲二兩二銖。別五銖。襖子十領藍四領。蒲萄六領。十一月一領。十二月二領。並用白。新。白絹十三疋四丈。別一疋二丈二尺。絲一兩二分四銖。別四銖。半臂十領藍四領。紫六領。十一月一領。十二月二領。並用白。新。絹八疋。別四丈八尺。絲一兩一分。別二銖。汗衫十領藍四領。蒲萄六領。十一月一領。十二月二領。並用白。新。白絹六疋五丈。別四丈一尺。絲一兩一分。別三銖。袷襦單襦各十領並紅。新。絹十三疋一丈五尺。袷別五丈三尺。單別二丈六尺五寸。綿五十屯。別五屯。絲一兩二分四銖。別四銖。表袴中袴各十腰新。絹十六疋四丈。別五丈。絲三兩一分二銖。別四銖。袷褌單褌各十腰新。絹十一疋二丈。袷別四丈。單別二丈。腰新八尺。絲二兩三銖。別五銖。被衣八領白四領。紅四領。三月減二二領。新。絹十二疋。別一疋三丈。綿六十四屯。別八屯。絲一兩一分二銖。別四銖。被十二條並紅。三月減二四條。新。絹廿四疋。別二疋。綿一百廿屯。別十屯。絲三兩。別一分。褥四條並白。新。絹六疋五丈六尺。別一疋四丈四尺。綿廿屯。別五屯。絲二分。別三銖。襪

正月新、二月三月亦同。袍十領白一領、白橡九領。作日新、白絹四疋一丈、別二丈五尺。絲一兩一分、別三銖。背子十領白一領、橡九領。白新。絹五疋。別三丈。絲一兩一分、別三銖。單衣十領。白一領、韓紅二領、葉芳三領、[illegible]二領、藍二領。新、絹二疋五尺、別一丈二尺五寸。絲三分二銖。別二銖。領巾四條新、紗三丈六尺。別九尺。絲四銖。別一銖。表袴襠二腰。白一腰、夾纈并作日一腰。新、絹二疋一丈、別一疋五尺。絲一分二銖。別四銖。同腰新、絹一丈。別五尺。絲二銖。別一銖。下裙二腰白。新。白絹二疋一丈。別一疋五尺。絲一分二銖。別四銖。同腰新。絹一丈。別五尺。絲二銖。別一銖。袴十五腰紅。新、絹十二疋三丈、別五丈。絲一兩三分三銖。別三銖。單袴廿腰紅。新、絹八疋五丈、別二丈六尺五寸。絲一兩二分四銖、別二銖。袿衣單袿衣各二領。新、絹五疋三丈七尺五寸、袷別一疋一丈五尺、單別三丈七尺五寸。綿廿四屯、別八屯。絲二分、別四銖。被六條三月黃二條。新、絹十一疋二尺四寸。別一疋五丈四寸。綿六十屯、別十屯。絲一兩二分。別一分。褥三條新、絹五疋、別一疋四丈。綿十五屯、別五屯。絲一分三銖、別三銖。御匣殿新、絹十疋。綿卅屯。

夏季。

四月新。五月六月同七月。袍十領白一領、白橡九領。作日袷袍六領、藍并朽葉之類。新、絹五疋。別五丈。絲一兩二分。別一分。單衣十領。白一領、韓紅三領、葉芳四領。藍二領。領巾四條、羅裙二腰白一腰、夾纈并作日摺一腰。新。羅一疋五尺。別三丈二尺五寸。絲一分二銖。別四銖。同腰新、絹一丈。別五尺。絲二銖。別一銖、紗裙二腰白一腰。夾纈并作日摺一腰。新。紗一疋五尺。別三丈二尺五寸、絲一分二銖同腰新、絹一丈、絲二銖下裙四腰白。新。絹二疋一丈。別三丈二尺五寸。絲一分四銖、同腰新、絹一丈。絲四銖。袴十五腰。單袴廿腰。袿衣單袿衣各二領。綿十二屯。別六屯。絲一分二銖。別四銖。被四條。綿卅二屯。別八屯。褥三條。綿九屯。別三屯。御匣殿新、絹十疋、綿卅屯。

〔韓紅〕韓より渡來せし染色なるにより名付く「カラクレナヰ」と訓む、紅花にて幾しほともなく濃く染めたる色に云ふ、即ち深紅色也。

〔五寸〕雲本に據りて補ふ、同考異本には、本文の例を案じて補ふと云へり。

夏季

〔別一銖〕本文例に據りて意補す。

〔絲一分二銖〕本文例に據りて、意補す。

秋季。

七月料〈八月亦同、九月同二四月一〉單衣卅領〈白三領、蘇芳十七領、緋紅十領。裏十領、〉領巾四條〈羅結二疋、面別料絹一丈、紗帯二十條、以上料絹一丈、〉下裙四腰〈同腰料絹二丈、〉袴十五腰、〈單袴卅腰、〉但衣單袴衣各二領、綿十屯〈別五屯、〉被二條綿十二屯〈別六屯。〉襟三條、御匣殿料絹十疋、綿卅屯、

冬季。

十月料同二三月一。十一月十二月並同二正月一。

月右四季御服並依二前件一。毎年依レ數從二內藏寮一受レ之、准レ例染縫、臨時定レ色。月別一日十六日兩般均分供進。若數不レ等者上般加レ之。

斗帳。

斗帳一具〈高八尺〉。帷八條〈四條七幅、四條六幅、並長一丈〉料絹十七疋二丈〈表裏各八疋四丈〉、綿八十四屯〈七幅四條、別十一屯、六幅四條、別十屯、夏不レ須〉、帽甲一條料絹一疋一丈五尺〈表裏各三丈七尺五寸〉。紕六十四條料絹二疋〈條別長七尺五寸、廣四寸五分〉、絲一約。斗帳一具〈高七尺〉、帷八條〈四條六幅、四條五幅、並長九尺〉。料絹十三疋一丈二尺〈表裏各六疋三丈六尺〉、綿七十六屯〈六幅四條、別十屯、五幅四條、別九屯、夏不レ須〉、帽甲一條料絹一疋一丈五尺〈表裏各三丈七尺五寸〉、紕六十四條料絹一疋五丈二尺〈條別長七尺、廣四寸五分〉、絲八両。

裁縫功程。

九條袈裟、長功日五人、中功日六人、短功日七人、七條、長功日三人、中功日四人、短功日五人、五條、長功日一人半。中功日二人。短功日三人。

秋季　〔同〕本文例に據りて意補す。

冬季　十月料　〔斗張〕和名抄に「釋名云、帳、豬高反、此間音長、張也、施二張於床上一也、小張曰レ斗、俗云二斗帳一、一云二屛幔一、形如二覆斗一也、今按、帳屬有二几帳之名一、所出未レ詳」とあり。

斗帳

裁縫功程　〔絹一疋五丈二尺〕原本「絹一疋五丈一尺」に作る、今雲本に據りて改む。

〔長功日大半〕大半の下に、雲本には人字あり、考異本に「雲本加レ之者依二蔭脊條一改作歟、雖レ然下文大丸組條人字无、猶可レ考」とあり。

〔新羅組〕組は、和名抄に「綬、音受、和名久美、所下以貫二玉一相受承上也、又用二組字一、音祖」とありて、綬に同じ、其の新羅組とは、組型の形式による名なるべし、類聚雜要には「臥組唐組」等の名も見えたり。

〔襪〕束帯の時の、靴の下履にて、其のさま、今の足袋に似たり、和名抄に「襪、和名、之太久頭、足衣也」とあり。

蔭脊座具。并實亦同。長功日大半人。中功日一人。短功日一人大半。

袍。袍子及女袍、幡六幅四幅襪准レ此。長功日大半。中功日一人。短功日二人。

單衣。汗衫亦同、但羅新各減二小半人一。長功日一人小半、中功日一人大半。短功日三人。

綿袴。褌及女袴亦同。長功日小半。中功日大半。短功日一人。

表袷褶。長功日三人。中功日四人。短功日五人。

單褶、襪亦同。長功日四腰。中功日三腰。短功日二腰。

布袍。長功日三領。中功日二領。短功日一領。

布衫。長功日六領。中功日四領。短功日三領。

單布袴。長功日八腰。中功日六腰。短功日五腰。

八尺斗帳一具。七尺亦准レ此。長功日十三人。中功日十五人。短功日廿人。

新羅組一條。長一丈。餘組准レ此。絲一絇八兩。長功日廿八人。中功日卅二人。短功日六十八人。

絞組一條。絲一絇四兩。長功日十四人。中功日十六人。短功日廿人。

大丸組一條。絲五兩。中丸組減レ半、細組減二四分之三一。長功日大半。中功日一人小半。短功日二人。

綺一條。長五丈。廣三分。絲五兩。長功日六人。中功日八人。短功日十人。

二日纈帛一疋。一日纈減レ半。長功日十四人。中功日十七人。短功日廿人。

榛摺帛一疋。長功日大半。中功日一人小半。短功日二人。

青摺布一端。長功日小半。中功日大半。短功日一人。

〔[illegible]〕中[illegible]、深[illegible]の三色と[illegible]、[illegible]もいふ、共に[illegible]び半臂を染むるに用ふ、袍は參議以上、半臂は五位以上に通用す。

〔紫草一斤〕內藏式には「紫草二斤」に作る、北方從ふべきに似たり。

〔茜大卌斤〕雲本は京本に據りて「茜大卅斤」に作れり。

〔薪卌斤〕雲本は京本に據りて「薪卅斤」に作れり。

〔薪卌斤〕雲本は京本によりて「薪卅斤」とせり、此の他中紅花、[illegible]、深[illegible]の條にあるもの皆同じ。

淺縹絲一絇、藍草一斤、灰一升、薪三斤。

深緋綾一疋、[illegible]、茜大卌斤、紫草卌斤、米五升、灰三石、薪八百卌斤、帛一疋、茜大廿五斤、紫草廿三斤、米四升、灰二石、薪六百斤、貲布一端丈四。茜大十六斤、紫草十四斤、米三升、灰一石五斗、薪三百六十斤、葛布一端、茜大七斤、米八合、灰四斗、薪九十斤。紫草七斤。

淺緋綾一疋、綿紬東絁貲布亦同、茜大卌斤、米五升、灰二石、薪三百六十斤、帛一疋、茜大廿五斤、米四升、灰二石、薪三百六十斤、葛布一端、茜大十斤、米一升、灰四斗、薪九十斤。

深蘇芳綾一疋、蘇芳大一斤、酢八合。灰三斗、薪一百廿斤、帛一疋、蘇芳大十兩、酢七合、灰二斗、薪六十斤、纈帛一疋、蘇芳大十兩、酢七合、灰二斗、薪六十斤、絲一絇、蘇芳小十三兩、酢二合、灰六斗、薪廿斤。

中蘇芳綾一疋、蘇芳大八兩、酢六合。灰二斗、薪九十斤、帛一疋、蘇芳大六兩、酢一合、灰一斗五升、薪卌斤、絲一絇、蘇芳大二兩、酢一合、灰五升、薪廿斤。

淺蘇芳綾一疋、蘇芳小五兩、酢一合、灰八升、薪六十斤、帛一疋、蘇芳小三兩、酢五夕、灰五升、薪卌斤、絲一絇、蘇芳小一兩、酢三夕。灰二升。薪廿斤。

葡萄綾一疋、紫草三斤、酢一合、灰四升、薪卌斤、帛一疋、紫草一斤、酢一合、灰二升、薪廿斤

韓紅花綾一疋、紅花大十斤、酢一斗、麩一斗、藁三圍、薪一百八十斤、帛一疋、紅花大六斤、酢六升、麩六升、藁二圍、薪一百廿斤、纈一疋、紅花大七斤、酢七升、麩五升、藁二圍半、薪一百五十斤、紗一疋、紅花大二斤、酢二升、麩二升。藁大半圍、薪卌斤、絲一絇。紅花大一斤、酢七合、麩二升、藁半圍、薪卌斤、貲布一端、紅花大四斤、酢一升二合、藁一圍、薪六十斤、細布一端、紅花大五斤、酢六升、藁一圍、薪百五十斤、調布准此。

中紅花貲布一端。紅花大一斤四兩。酢八合。藁一圍。薪卅斤。
退紅帛一疋。紅花小八兩。酢一合。藁半圍。薪卅斤。絲一絇。紅花小二兩二分。酢三夕。藁小半圍。薪廿斤。細布一端。
紅花大四兩。酢二合。藁半圍。薪卅斤。調布一端。紅花大十四兩。酢一合六夕。藁半圍。薪卅斤。
深支子綾一疋。紅花大十二兩。支子一斗。酢五合。藁半圍。薪卅斤。帛一疋。紅花大八兩。支子七升。酢四合。藁半圍。薪卅斤。絲一絇。紅花小一斤。支子三升。酢一合五夕。藁小半圍。薪廿斤。
黄支子綾一疋。支子一斗。薪卅斤。帛一疋。支子八升。薪廿斤。絲一絇。支子三升。薪廿斤。
淺支子綾一疋。支子二升。紅花小三兩。酢一合。藁半圍。薪卅斤。帛一疋。支子三升。紅花小三兩。酢八夕。藁小半圍。薪六斤。絲一絇。支子七合。紅花小一兩。酢五夕。藁小半圍。薪三斤。
橡綾一疋（東絁亦同）。搗橡一斗五升。茜大二斤。灰七升。薪二百廿斤。帛一疋。搗橡一斗五升。茜大二斤。灰五升。薪二百廿斤。絲一絇。搗橡六升。茜大六兩。灰二升。薪卅斤。
赤白橡綾一疋（綿紬絲紬東絁亦同）。黄櫨大九十斤。灰三石。茜大七斤。薪七百廿斤。帛一疋。黄櫨大七十斤。茜大五斤。灰二石。薪六百斤。絲一絇。黄櫨大五斤。灰一斗三升。茜大五兩。薪卅斤。貲布一端。黄櫨大十五斤。灰三斗五升。茜大一斤八兩。薪一百廿斤。
青白橡綾一疋（綿紬絲紬東絁亦同）。苅安草大九十六斤。紫草六斤。灰三石。薪八百四十斤。帛一疋。苅安草大七十二斤。紫草四斤。灰二石。薪六百六十斤。絲一絇。苅安草大二斤。紫草一斤。灰七升。薪廿斤。貲布一端。苅安草大卅八斤。紫草五斤。灰一石一斗。薪六十斤。
深緑綾一疋（綿紬絲紬東絁亦同）。藍十圍。苅安草大三斤。灰二斗。薪二百卌斤。帛一疋（貲布亦同）。藍十圍。苅安草大二斤。灰一斗。

〔紅花大四兩〕「大」字考異本に、「小」字に作るべしと云へり。
〔大十四兩〕例によれば「小十四兩」とすべし。
〔紅花小三兩〕考異本に「紅花二兩」に作るべしと云へり。
〔赤白橡綾〕赤白橡は、白ばみたる橡色にて、鴇花の白ばみしに似たり、この條下に見ゆる薪の下には、園大曆貞和四年九月の條の記によれば「准ニ生木一定レ之」の五字を註せり。
〔青白橡綾〕青白橡は、青ばみたる橡色にて、俗に山鳩色とも云ふ。
〔紫草〕根は濃紫色にして其の絞汁をひさかきの灰汁を交へて紫色を染むる料とす。

〔「大」〕「大」字二處共に例によれば衍字也。

〔絲一絇〕原本「三絇」に作る、例によりて改む。

〔二斤〕此の下及び青淺綠絲の條共に薪を脫せり。

〔深縹綾〕深縹は濃き縹色にて、古くは八位の服の色目也、中頃以來六位にも用ゐたり。

〔纐帛一疋云々〕此以下十一字原本脫せり、今京貞二本に據りて補ふ。又本條各色目の下に薪の目を脫せり。

薪一百廿斤、絲一絇。藍三圍。苅安草大九兩。薪六十斤。

中綠綾一疋。（綿紬絲紬東絁亦同。）藍六圍。黃蘗大二斤。薪九十斤。帛一疋。藍五圍。黃蘗大一斤八兩。薪卅斤。絲一絇。藍一圍。黃蘗大九兩。薪卅斤。

淺綠綾一疋。藍半圍。黃蘗二斤八兩。帛一疋。藍半圍。黃蘗大二斤。纐帛一疋。藍半圍。黃蘗「大」二斤。絲一絇。藍小半圍。黃蘗「大」二斤。

青綠帛一疋。藍四圍。黃蘗二斤。薪廿斤。

青淺綠絲一絇。（黃淺綠絲亦同。）藍小半圍。黃蘗八兩。

深縹綾一疋。藍十圍。薪六十斤。帛一疋。藍十圍。薪一百廿斤。絲一絇。藍四圍。薪卅斤。貲布一端。乾藍二斗。灰一斗。薪卅斤。

中縹綾一疋。藍七圍。薪九十斤。帛一疋。藍五圍。薪六十斤。絲一絇。藍二圍。薪卅斤。

次縹帛一疋。藍四圍。薪六十斤。絲一絇。藍一圍大半。薪廿斤。

淺縹綾一疋。藍一圍。薪卅斤。帛一疋。藍半圍。薪卅斤。絲一絇。藍大半圍。薪廿斤。

深藍色絲一絇。藍一圍小半。黃蘗十四兩。薪廿斤。

中藍色絲一絇。藍一圍。黃蘗十四兩。薪廿斤。

淺藍色綾一疋。藍半圍。黃蘗八兩。帛一疋。藍半圍。黃蘗八兩。纐帛一疋。藍半圍。黃蘗八兩。絲一絇。藍小半圍。黃蘗八兩。

白藍色絲一絇。藍小半圍。黃蘗七兩。

〔淺黄綾〕淺黄色に染めたる綾也、無品親王の袍服の用に供す、淺黄色は薄黄色を云ふ、中古以來、淺葱色と混同するに至れり。

〔長五尺〕此下、下文に據れば、「廣二尺五寸」の五字を脱せり。

〔紙三百六十張云々〕此の條文、三書式には「縫殿寮紙三十張筆一管（注月料）墨三挺（注年料）」とあり。

〔各〕例に據りて補ふ。

〔陶由加〕陶器の大甕也。

深黄綾一疋。綿紬絲紬東絁亦同。苅安草大五斤。灰一斗五升。薪六十斤。帛一疋。苅安草大三斤、灰八升。薪卅斤。絲一絇。苅安草大一斤。灰三斗。薪廿斤。

淺黄綾一疋。綿紬絲紬東絁亦同。苅安草大三斤八兩。灰一斗二升。薪卌斤。帛一疋。苅安草大二斤。絲一絇。苅安草大十一兩。灰二升。薪廿斤。

練絁用度。

絁十疋。綾絹亦同。藁五圍。薪百廿斤。絲卅絇。藁四圍。薪六十斤。

年料雜物。

御筥四合。盛御服料二合。雜袷料二合。刀子十五枚。鉇一枚。釘五千一百六十枚。砥二顆。熨炭卅六石。擣衣料。調布五端一丈。下纏綿一屯。曝絁緒等十二斤。裁衣板六枚。長五尺。厚三寸。陶由加四口。染槽四隻。已上二色隨損請替。轆轤杓四柄。水瓺麻笥四口。席三枚。請內藏寮。紙三百六十張。上紙百卌張。凡紙二百卌張。筆十二管。墨三挺。帛三疋一丈二尺。一疋四丈八尺。盛褥案二間帊料。二疋二丈四尺。熨袴二領料。縹帛八尺。盛褥案四間帊紐四條料。別二尺。綿十屯。熨袴二領料。絁四丈。襌四條料。細布十端一丈八尺。九端謹御服牀九脚敷料。一端一丈八尺納御服厨子二基敷料。黄端茵四枚。折薦二枚。長帖十枚。長席二枚。

三年一度雜物。

黄絁四丈八尺。帛五疋。緋兩面一疋一丈六尺。生絁三疋五丈二尺。調綿十二屯。暴布八端。緋油絁四丈八尺六寸。貲布九端五丈四尺。絲十兩。白木脚別机二前。各長三尺五寸。高三尺。筥三合。各方二尺。裁板三枚。各長五尺。廣二尺五寸。厚三寸。

右御服所雜物依前件。

染槽四隻。各長一丈。槽二口。一口受一石。一口受五升。水瓺麻笥四口。水麻笥五口。各受三斗。轆轤杓五柄。大三。小二。川戸五口。

〔兩面染覆〕染字原本深字に作る、京貞二本によりて改む。
〔熨炭卅六斛〕京貞二本此れに同じ、主殿寮式「卅六斛」に作る。
〔各〕例によりて補ふ。
〔水瓱廊筥五口〕水瓱以下十字京貞二本共に脱す、今原本の傍註を引用して補ふ、條中の註文「各長二丈」一に四尺に作る
〔八枚短疊〕この四字京貞二本なし。
〔飼鷹〕鷹甘部とも云ふ、狩の鷹を飼育する職也
〔胡桃衫〕胡桃は、表は香色、裏は青の重色也

帳帷料物　御禮服　位祿季祿　春秋祿　職事已下

右御服染作所雜物依前件。

御服床敷料。紫端疊四枚。各長八尺。廣五尺。兩面染覆三條料。兩面五丈七尺。裏料生絹長同表。雨覆三條料。緋油絁五丈七尺。裏料生絹長同表。緋綱六條。各長二丈。料。緋絁一疋。調布一端二丈。中子料。黃覆一條長八尺三幅。料。黃絁二丈四尺。裏料帛長同表。雨覆一條長同上料。緋油絁二丈四尺。裏料生絹長同表。同覆帶四條。各長八尺。料。縹絁八尺。割四。柳筥二合。黑葛筥四合。各方三尺。筥覆四條。二條黃絁、二條油絁。表料。黃絁二丈四尺。緋油絁二丈四尺。裏料帛二丈四尺。生絹二丈四尺。帷七條。御衣床幷御衣韓櫃等覆料。料帛三疋三丈八尺。東絁二疋。褌襷料。練絲五兩。縫糸料。裁板二枚。各長四尺、廣二尺。熨板一枚。各長三尺五寸、廣二尺四寸。熨斗二口。熨炭卅六斛。請主殿寮。擣衣料、調布二端二丈四尺五寸。下纏料。調綿一屯。席一枚。染槽六隻。漆手洗四口。各受二斗。水瓱廊筥五口。陶池由加四口。檜槫四枚。各長二丈。漆絁張廿具。轆轤杓十柄。大五、小五。紺布端長疊八枚。短疊四枚。筆十二管。墨三挺。

右中宮御服所料依前件。女官申內侍、即付辨官行。

凡洗御帳帷料物。申內侍給之。其載帳車、就馬寮請用之。

元日御禮服。前二日受內藏寮熨脩、即付本寮。同日節會。賜親王已下被一百條。別一疋一丈五尺。綿八百屯。別八屯。預前縫備。當日侍候。中務唱名、寮即頒給。其有殘者依例行之。

行幸供奉飼鷹胡桃衫料。細布人別二丈一尺。袴別八尺。袴料帛、以八尺充五腰。割五。飼犬人別押幡子一口。別紺細布一尺。紺布衫一丈八尺。袴七尺五寸。縫縹絲五銖。衫別三銖、袴別二銖。並每年七月內縫備進內裏。其數臨時定之。

凡命婦位祿宮人職事季祿馬料等。請受頒給。季祿馬料春秋臨時有增減。

凡定額女孺已下宮人已上春秋祿。請受頒給之。

凡職事已下宮人已上造祿文料紙申省。春秋各五十張。

凡脊力婦國養物、勘納頒給。

女孺月析

凡女孺七十人月粮、不レ經ニ女官廚一、直受ニ大炊寮一。

賜地

凡地六町〈左京北邊三坊一町、右京北邊二坊三町、一條二坊二町。〉四町賜ニ內侍司東竪子女孺脊力婦一、二町賜ニ寮女孺已下一。

染手

凡染手六人、各日黑米一升五合。

菜直

凡宮人已下女孺已上春夏二季新菜直、錢一貫文、幷漬新鹽四石二斗八升。〈各受ニ所司一。〉

今良衣服

凡寮直今良廿四人〈男二人、女廿二人。〉其衣服幷粮米、不レ經ニ主殿寮一、寮家直受充。

仕女養物

凡仕女二人日功養物、勘ニ納寮家一充給。

〔凡寮直云々〕古本及古寫本の傍書に「謂放レ賤從レ良也官奴司隷ニ此寮一、仍有ニ此事一」とあり。

〔主殿寮〕唐名、尙舍局、大內裏內上東門の北大宿の北、御湯舍、釜殿、內侍所等あり、又神二十三座を祀る、宮內省の被官、殿庭の酒掃、御湯沐、供御の御輿、輦、帷、帳及び燈燭、松柴、炭燒等の事を掌る、「寮」字原本なし。出雲本に據りて補ふ。

延喜式卷第十四

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第十五

內藏寮

諸祭幣帛。

伊勢太神宮祭。

錦一疋。（寮物。）兩面一疋。深紫綾淺紫綾緋綾中縹綾黃綾各一疋。（已上五綾若無者用二生綾一。）白綾一疋。（以上太神宮幣祈。）緋中縹黃皂帛各一疋。（以上度會宮幣祈。）盛裹緋柳筥二一合一。（各方一尺四寸。宮別一合。餘祭筥准レ此。）庸布二一段一。木綿小二斤。葉薦一枚。（分二用兩宮一。已上官物。）

右件幣預前依レ例擬備。九月十一日平旦。寮官一人率二史生一人藏部二一人一。執二件幣物一於二大極後殿下一候レ之。內侍已下四人從レ內退出依レ例裝修。訖。寮取置二案上一立二葉薦上一。臨時幣帛亦同。

春日祭。

五色薄絁各二一丈四尺一。安藝木綿大八斤。絲四絢。曝布四端。麻小八斤。裹緋商布二段一丈七尺。葉薦一枚。付木四枝。明櫃二合。加二筥形杓一。（已上官物。）

使儲幣。五色帛各一丈五尺。安藝木綿大一斤。麻小一斤。紙卅張。付木二枝。巾緋洗布一丈二尺。（已上寮物。）

使等裝束。

外記一人。史生一人。辨官史一人。史生官掌各一人。喚使二人。

寮五位助已上一人。史生二人。舍人一人。仕丁一人。

〔伊勢太神宮祭〕二月新年、四月、九月の神衣、六月十二月の月次、九月の神嘗、十一月の新嘗等の諸祭也

〔春日祭〕二月、十一月の上申日に行ふ。（幣祈）

〔葉薦〕菰の葉にて織りたるむしろ也案の下に敷くに用ゆ。

〔依レ例裝修〕一本に依レ例裝備」に作れり。（春日祭）

〔大〕原本なし、今使儲幣並に率川大原野兩條に據りて補ふ。

近衛少將若中將一人、近衛十二人、馬寮左位助已上一人、馬部一人、御馬十二疋。

使官人別當色一領（寮物）絹七疋、寮官析。（自餘官見大藏式、已下准此）調綿七屯、細布五端、史生別當色一領、絹一疋、調綿二屯、調布三端。（已上官物）近衛別緋黄布袍一領（寮物、但絹各准此）（損損隨用他祭）帛一疋、綿一屯、調布一端、刀緒緋帛七尺五寸、布帶布細一丈四尺、馬部黄布四丈。紅花大一斤、（析）淺々賣幣仕丁衣商布一段、御馬別結頷緋、淺緋絲二兩、轡鞚腹帶各一條（轡鞚長四尺二寸、腹帶長七尺）曝布三端一丈四尺四寸、（已上官物）舍人細布二丈一尺、紅花大一斤、賣幣仕丁衫緋、商布一段。（已上寮物）女使緋緋絹一疋、緑絹一疋、縹絹一疋、調綿一百屯、（已上內侍析）調綿卅屯、闈司女史女孺幷三人各十屯。（並用寮物）

右春二月冬十一月、並上申祭之。前一日使人率史生、累備幣物、訖就內侍、申進發之由、著寮饗所。然後向社頭、下諸祭准此。

率川祭。

五色薄絁各二丈四尺、安藝木綿大八斤、裹緋商布二段一丈七尺、絲四絇、曝布四段、麻小八斤、付木三枝、明櫃二合。加宮形杓。（已上官物）

使儲幣、五色帛各一丈五尺、安藝木綿大一斤、麻小一斤、紙卅張、巾緋洗布一丈三尺、賣幣仕丁衫緋商布一段。（已上寮物）

右春二月冬十一月、並上酉祭之、春日祭使便參。

鹿島香取祭。

鹿島社。宮司禰宜祝各一人、物忌一人。

香取社。宮司禰宜各一人、物忌二人。

〔細布五端〕大藏式には、此の下に「布五端」の三字あり。

〔轡鞚〕玉篇に「轡、馬縻」即はづな、「轡、馬勒」即くつわとあり、共に馬の用器也、和名抄に「轡云々俗云久都和也、楊氏漢語抄云、轡鞚也」とあり。

〔縹絹一疋〕（率川）一本に「縹絁一疋」に作る。

〔曝布四段〕率川祭の條中「曝布四段」雲本「曝布四端」に作る。

〔二人〕香取（鹿島香取）社註「二人」原本「一人」に作る、京貞二本によりて改む。

社別五色薄絁各一丈。安藝木綿廿枚。盛裹紵商布一段。布綱三條。一條長一丈二尺。二條各長五尺。廣六寸。已上官物。明櫃二合。調布二丈。
敷横苛覆二條。禰宜人別絹一疋。物忌人別夾纈帛。淺綠帛。各二丈。已上寮物。紫纈帛三丈。纁帛六尺。絹一疋。綿一屯。
宮司當色一領。禰宜祝人別當色一領。社別雜給紵。絲廿絇。已上官物。

使等裝束。

藤原氏六位已下一人。

寮史生一人。齎幣夫二人。

使紵當色一領。夾纈紅纐纈支子帛各一疋。中纁帛二疋。[絹二疋]。調綿廿屯。細布三端。已上官物。淺綠綾淺綠帛各一疋。已上寮物。史生當色一領。絹二疋。調綿六屯。曝布二端。齎幣夫別衫一領。紵紺調布一丈。布帶一條。長八尺。已上官物。使等上道日餞紵錢一貫文。

右其使名簿。前二月春日祭廿日。大臣下當官。寮差點史生申官。預裹備幣物。其使等當日齎幣發寮向國。

大原野祭。

五色帛各二丈四尺。絲四絇。曝布四端。安藝木綿大八斤。麻小八斤。裹幣紵商布二段一丈七尺。付木四枝。明櫃二合。加筥形杓。並官物。

使儲幣。五色絹各一丈五尺。安藝木綿大一斤。麻小一斤。付木二枝。紙卅張。巾紵洗布一丈三尺。寮物。

使寮允一人。史生一人。近衛將監一人。近衛十人。馬寮允一人。騎士二人。御馬十疋。

使等裝束。

使寮官當色一具。寮物。絹三疋。綿六屯。細布五端。史生當色一具。絹一疋。綿二屯。曝布一端。齎幣仕丁商布一段。

〔藤原氏云々〕此の兩神社に、藤原氏の特に參向するは稱德天皇神護景雲中、藤原氏此兩社祭神を春日神社に祀りしより後、立后任大臣等のある時、必ず神寶幣帛を奉り、其の因にて此の時この制を定めたる也。

〔絹二疋〕原本なし、大藏寮式に據りて補ふ。

大原野

〔付木〕檜の材を薄片として、その一端、又は兩端に硫黃を塗りつけ、火を燃し移すに用ふ。

〔五色絹各一丈五尺〕原本「一丈」を「一疋」に作る春日祭使の條によりて改む。

〔枚岡社〕例に據れば、「枚岡祭」に作るべし。

〔祭〕京貞二本及び江家次第になし、衍字也。

〔錢三百文〕（枚岡）中宮式に據れば、「錢三百廿文」とすべきか。

〔一段〕（御灯）中宮式「二段」に作る。

〔夏祭〕（大神祭）四月上の卯の日の祭を云ふ若し此の日三あらば、中の卯の日を用ふ。

〔紙卅張〕原本「冊張」とす、貞京本に據りて改む。

並官物。賣雜仕丁衫析商布一段。寮物。

女使析絹一疋。緋絹一疋。纁絹二疋。調綿百屯。已上內侍析。調綿卅屯。闈司女史女孺各十屯。並用寮物。

右春二月上卯。冬十一月中子祭之。其日祿析。交易商布春五百段。冬一百段。

枚岡社。

夾纈絁三丈五尺。錦九尺五寸。紗七尺。紫絲四兩。並寮物。

右付神祇官。

春御「祭」燈析。秋亦同。

錢三百・文。調布六尺。已上御灯析。錢五文。五色絹各二尺。木綿三兩。已上供神析。絹一疋。調綿十二屯。調布三端三丈四尺。已上布施析。白米一斛一斗四升。鹽五升。錢四百文。已上供養析。安藝木綿四枚。麻一斤。酒四升。雜海藻各一斤。已上解除析。調布一端。庸布一段。已上宮主輔析。細布一端。庸布四段。商布五段。已上使已下仕丁已上淨衣析。

大神祭。

夏祭析。

緋帛二丈五尺。安藝木綿大三斤。已上大神幣析。盛筥一合。帛三丈。黄布三丈。紅花大四斤。染黄布析。紫紗九丈。纁帛四丈五尺。已上大神御裝束析。盛筥一合。忍冬花鬘一合。盛柳筥析。緣絲小四兩。安藝木綿大一斤。布綱析。曝布一丈二尺。已上大神析。緋帛二丈。日向王子幣析。盛筥一合。緋帛一丈五尺。玉列王子幣析。盛筥一合。褁析調布一端八尺。明櫃二合。筥形幷杌二具。官物。但冬祭減明櫃一合筥形杌各一具。神主當色一領。寮物。

使儲幣。五色薄絁各一丈。安藝木綿大三斤。淺紫帛一疋。調布一端。紙卅張。已上寮物。

〔曝布一丈〕原本「曝布一端」に作る、當宗杜本社の條に據りて改む。

〔緋絹三丈五尺〕原本に此の下文「綿十屯」並に、「神主料生絹一疋」の下に作る、非也、緋絹、綿は物忌料なれば神主料に非る也。

〔一丈〕原本「一段」に作る、今、當宗杜本社の條に據りて改む。

使等裝束料。

寮允一人。史生二人。仕丁一人。

近衞將監一人。近衞十人。馬寮允一人。馬部一人。衞士二人。御馬十疋。

使官人絹三疋。細布五端。當色一具。史生別絹一疋。曝布三端。紅花大二斤。當色一具。

近衞官人絹三疋。細布三端。曝布二端。馬寮官人絹三疋。曝布五端。近衞同二春日祭一。但馬部減二紅花八兩一。賷レ幣衞士別縹調布衫一領。布帶一條。前駈仕丁商布一段。御馬別結レ額料淺緋絲二兩。韉鞚帶各一條韉鞚長四尺二寸、腹帶長七尺、料曝布一端三丈二尺。已上官物。

冬祭料。

五色薄絁各五尺。安藝木綿小一斤。盛二柳筥一合一。裹料調布二丈。布綱料布一丈。明櫃一合。已上官物。神主當色一領。寮物。

使等裝束料。

寮屬一人。史生一人。衞士二人。仕丁一人。

右件祭。夏四月冬十一月上卯。裹二備幣物一。前二日使等依レ時進發。冬祭前一日。其使官人以下當色雜物。並同二春日祭一。

山科

山科祭。

五色絁各二尺。安藝木綿四枚。曝布一丈。葉薦半枚。付木一枝。已上官物。物忌料緋綾二尺。赤紫綾四尺。赤紫絹二尺。兩面九尺五寸。緋絹三丈五尺。紫絲四絇。綿十屯。神主料生絹一疋。絲一絇。調布二端。禰宜料綿四屯。調布二端。祝料調布二端。已上寮物。

使儲幣。五色絁各二尺。緋油絹五尺。安藝木綿四枚。調布一丈。付木一枝。已上寮物。

使等裝束。
寮屬一人當色一具。橡綿十屯。已上寮物。生絹三疋。調綿六屯。曝布五端。舍人長一人當色一具。生絹一疋。調綿二屯。
曝布一端。賣幣仕丁一人交易商布一段。已上官物。
右夏四月冬十一月。並上巳祭之。預前裝備幣物。使等進發。

當麻祭。
五色絁各二尺。安藝木綿四枚。曝布一丈。葉薦半枚。付木一枝。已上官物。物忌斷緋綾二尺。赤紫綾四尺。兩面九尺五寸。赤紫絹二尺。緋絹三丈五尺。紫絲四絇。綿十屯。神主斷生絹一疋。生絲一絇。調布二端。祝斷調布二端。已上寮物。
使儲幣。五色絁各二尺。緋油絹五尺。安藝木綿四枚。調布一丈。付木一枝。已上寮物。
使等裝束。
寮屬一人當色一具。橡綿十屯。已上寮物。生絹三疋。調綿六屯。曝布五端。舍人長一人當色一具。生絹一疋。調綿二屯。
暴布一端。賣幣仕丁一人交易商布一段。已上官物。
右夏四月冬十一月。並上申祭之。預前裝備幣物。使等進發。

杜本（モリモトノ）祭。
五色絁各二尺。安藝木綿四枚。曝布一丈。葉薦半枚。付木一枝。已上官物。蓋斷緋綾二尺。赤紫綾四尺。赤紫絹二尺。物忌斷兩面九尺五寸。緋絹三丈五尺。紫絲四絇。綿十屯。神主斷生絹一疋。生絲一絇。調布二端。禰宜斷綿四屯。調布二端。祝斷調布二端。已上寮物。
使儲幣。五色絁各二尺。緋油絹五尺。木綿四枚。調布一丈。付木一枝。已上寮物。

〔五端〕原本「六段」に作る、下文の例によりて改む。

當麻

〔二尺〕原本「四尺」に作る、山科、杜本、當宗社等の條例によりて改む、又其の記す所、上文、「兩面九尺五寸」の上に配すべし。

杜本

〔生絲一絇〕原本「紫絲一絇四兩」に作る、是物忌料と混ず、山科、杜本等の例に依りて改む。

〔二尺〕原本「二疋」に作る、「三丈五尺」又「三尺五寸」に作る、例に據りて改む。

使等裝束。

寮屬一人當色一具。裌綿十屯。已上寮物。絹三疋。調綿六屯。曝布五端。舍人長一人當色一具。絹一疋。調綿二屯。曝布一端。賣レ幣仕丁一人交易商布一端。已上官物。

右夏四月冬十一月。並上申祭之。預前裝備幣物。使等進發。

當宗祭。

五色絁各六尺。安藝木綿十二枚。曝布三丈。薦一枚。付木三枝。賣レ幣仕丁交易商布一段。已上官物。物忌料緋綾六尺。兩面九尺五寸。●紫綾一丈二尺。赤紫絹六尺。緋絹三丈五尺。絲四絇。綿十屯。神主料絹一疋。絲一絇。調布二端。已上寮物。

使儲幣。五色絁各六尺。緋油絹一丈五尺。木綿十二枚。調布三丈。付木三枝。賣レ幣仕丁交易商布一段。●已上寮物。

右夏四月冬十一月。並上酉祭之。預前裝備幣物。社本使便參。

賀茂祭。

下社上社松尾社。社別禰宜祝各一人。下上兩社物忌一人。下社別五色薄絁各六尺。絲二絇。曝布一端。安藝木綿二社各大二斤。已上幣料。裹料商布一段二丈一尺。二社各二丈三尺。松尾社八尺。阿禮料五色帛各六疋。下社二疋。上社四疋。盛阿禮料筥八合。下社三合。上社五合。並方一尺六寸。布綱十二條料調布一端一丈四尺。明櫃四合。已上官物。

物忌裝束。人別夾纈●三丈。袍料。表袴一腰。充レ布。帛一疋。袍袴裏并袴腰料。下袴一腰。紫絲十二兩。白紗一丈八尺。赤紫帛四尺二寸五分。兩面一尺五寸。絲四兩。並紫帶料。帶一條。履一兩。紅花四兩。已上官物。禰宜祝人別當色料貲布四丈。絹一疋。絲一絇。祝除「絲」。調布各一端。

使儲幣。

〔兩面九尺五寸〕當宗祭條中にあり、考異本に「當レ在二紫絹之次緋絹之前一」とあり。

〔紫綾一丈二尺〕此の二當宗上、山科杜本、當麻社等の例によれば當に、「赤」字を附すべし。

〔一丈〕原本なし、今雲州家校一賀茂本に據りて補ふ、卽ち「五尺」は一座料にて、三座料は一丈五尺也此の下文註「已上寮物」の上に、一本「禰宜祝料綿四屯調布二端、祝料調布二端」の十六字あり。

〔「絲」〕例によれば衍字也。

〔合〕原本なし、今雲州家校本に據りて補ふ、考異本に「諸本脱合字、不可疑、故補合字」とあり。

〔鈒綾八尺〕「鈒字」上文春日祭及び大藏寮式に「刀字」に作る。

〔轡〕上文に「韁鞚」に作る、和名抄に「轡、和名久豆和都良、俗云久都和」とあり。（三六二頁頭註參考）

〔四尺〕上文に據りて補す。

五色帛各五丈。調布一端。安藝木綿大三斤。麻大一斤。紙七十張。已上寮物。

使等向祭日解除料。曝布一端。商布二段。安藝木綿麻各大一斤。鍬二口。白米三升。酒四升。〔合〕盛腊一籠。鹽一升。已上官物。

使等裝束料。

寮官人五位已上一人絹七疋。細布五端。曝布五端。已上官物。緋貲布一端。四位深緋。下同。寮物。

史生二人各絹一疋。細布二端。曝布一端。藏部一人絹一疋。貲布一端。曝布一端。紅花大一斤。持幣帛衞士四人料紺調布二端。衫料。曝布一端。布帶幷袴料。已上官物。

近衞府五位已上官人一人絹五疋。細布五端。並官物。緋貲布一端。寮物。近衞十二人。二人松尾社。其料充寮物。各絹一疋。綿一屯。曝布一端。調布二丈四尺。鈒綾八尺。左近緋。右近纈。已上官物。

馬寮官人五位已上一人絹五疋。細布五端。並官物。緋貲布一端。寮物。馬部一人貲布一端。紅花大一斤。並官物。御馬十二疋。二疋松尾社料。結額料緋絲二絇。轡幷腹帶料曝布三端一丈四尺〔四寸〕。並官物。

中宮五位已上官人一人絹五疋。細布五端。並官物。緋貲布一端。寮物。史生一人。舍人二人。裝束料同寮使。持幣帛衞士。同御。

女使料白縑四疋。色縑四疋。緋絹二疋。纈絹二疋。纈油絁一疋。錢五貫文。竹大笠一蓋。已上內侍料。白縑二疋。色縑二疋。白絹一疋。白綾一丈五尺。緋絹一疋三丈。纈油絁一疋。望陀布一端二丈。錢四貫文。已上命婦料。白縑一疋。色縑一疋。白綾一丈五尺。緋絹一疋。纈油絁一疋。望陀布一端一丈。紺細布三端。已上藏人料。白縑一疋。色縑一疋。已上闈司料。並用寮物。

右夏四月中酉祭之。當日巳一尅。寮使就內侍申龍狀給宣命。然後使內侍已下退出。於寮廳前與使官人

〔供奉〕京貞二本に「供事」に作る。

〔油二升二合〕原本「油一升二合」となす、主殿寮式に據りて改む、

〔「巾」〕踐祚大嘗式・縫殿式、彈正式、儀式（大嘗會の條）共に「巾」字なし、衍字なるべし。

〔法華寺〕一に國分尼寺又は法華滅罪寺と稱す、大和國添上郡佐保村字法華寺にあり、中世律宗西大寺末なりしが今は古義眞言宗の金剛峰寺末に屬す。

〔阿志須惠〕神宮式に「阿志須惠組四尺柄着二勾金一」とあり。

大神宮鞍　神今食幞頭　御巫裝束　平野炊女　法華寺神子　大歌裝束　新嘗會祿

等共解除訖、松尾社幣使附二禰宜祝等一。卽使等再拜兩段退各就レ座、掃部主水等寮司並供奉。寮家供レ饌、行レ酒乃發、山城國

司率二騎兵等一。於二京外路一前驅祇承。

縫二作伊勢大神宮祭鞍一具一料。馬皮一張。張別長五尺五寸、廣四尺三寸。作レ皮料雜物直料錢一百廿三文。油二升二合、革四張小半。張別長一尺五寸、廣二尺。調布二端一丈四尺。絲一兩一分。木綿三斤八兩。麻八兩。席一枚小半。薦一枚小半。已上官物。

右神鞍料物。每年二月申レ省請受。卽令二典履縫作一。訖送二神祇官一。

六月十二月神今食料絹幞頭巾。新嘗祭亦同。

御巫六月神今食裝束料、白紗一疋、赤紫絹三丈。深紫絹二丈。紫絲一絇。進二内侍司一。十二月亦同。

平野神炊女四人裝束料絹二疋。錢一百文。春料。絹二疋。綿八屯。錢二百文。冬料。

平城法華寺大神神子（ミカンノコ）二人春秋裝束料。絹六疋五丈八尺、襪料調布八尺。沓四兩直。

新嘗會節大歌人等裝束料。

淺紫帛二疋二丈八尺。同色綾深綠帛六疋四丈五尺。深縹帛六疋四丈五尺。支子六斗三升。緋紬九疋。黃帛九疋、藍色帛廿五疋五丈四尺、裏料。絲一絇、琴絃料。紫絲一絇、阿志須惠料。已上寮物。絹八十四疋。綿一百十屯。紅花大一斤五兩。酢四升二合。薪六十斤。藁一圍。已上官物。紅紙四張。承二琴絃一料、受二藏人所一。

右彼所レ錄色目申二官幷内侍一。直受二所司一充之。

供二奉新嘗祭一等祿。六月十二月神今食亦同。

宮主一人絹一疋。中宮亦同。釆女一人絹四疋。六位已下三疋。並新嘗祭。中臣一人絹四疋。六位已下三疋。忌部一人。御巫一人各三疋、座摩一人。御門一人、生島一人各二疋。中宮御巫一人二疋。已上官物。東宮御巫准レ此。

六月大祓賜祿。十二月准レ此。

中臣一人。中臣女一人。各絹四疋。中宮亦同。但男三疋。東西史部二人各二疋。已上官物。

右事畢明日神祇官率二廳一賜二祿人等於內裏一候之。寮允已上侍之。唱レ喚レ名賜。

奉二諸陵一幣。

錦綾各二丈八尺。別各二尺八寸。兩面二丈。別二尺。夾纈䕨纈帛各二疋二丈。別各一丈四尺。中綠淺綠帛各一疋四丈。別各一丈。白絹五丈五尺。別五尺五寸。生絹三疋二丈。別三丈。絁九丈。別五丈。蘇芳緂紫緂支子緂紅花緂白橡緂帛各一疋五丈。別各一丈一尺。綠緂紅花緂蘇芳緂紫緂絲白絲各四絢二兩。別各五兩。橡二緂一絲皀絲生絲各一絢八兩。別各二兩。蘇芳緂紫緂紅・緂支子緂縹緂綿各三屯四兩。別各四兩。雜色緂木綿大三斤二兩。別五兩。細屯綿十屯。別一屯。三嶋木綿卌枚。別四枚。鴨頭草木綿廿枚。別二枚。色紙百五十枚。別十五枚。細布二端二丈五尺。別一丈五寸。曝布二端二丈五尺。別一丈五寸。

已上陵十所料

緋縹黃皀白等帛各一疋五丈。別各一丈一尺。綠緋縹黃等絲各二絢六兩。別各三兩。橡絲生絲皀絲各十兩。別各一兩。練絲白絲各三絢四兩。別各四兩。雜色緂木綿大二斤八兩。別四兩。苧麻各大三斤二兩。別五兩。安藝木綿八十五兩。別一兩二分。紙百五十張。別十五張。

已上陵十所雜給料。

錦綾各一丈九尺六寸。別各二尺八寸。兩面一丈四尺。別二尺。夾纈䕨纈帛各一疋三丈八尺。別各一丈四尺。中綠淺綠帛各一疋一丈。別各一丈。白絹三丈八尺五寸。別五尺五寸。生絹二疋二丈。別三丈。絁三丈五尺。別五尺。蘇芳緂紫緂支子緂紅花緂白橡緂帛各一疋一丈七尺。別各一丈一尺。綠緂蘇芳緂紫緂紅花緂絲白絲各二絢十一兩。別各五兩。橡絲皀絲生絲各一絢二兩。別各二兩。蘇芳

〔大祓祿〕（中臣女）一に節折藏人（ヨチリノクラウド）又は「節折の命婦」と云ふ。大祓の時天皇の祓事の用に奉仕する役也。

〔諸陵幣〕（「緂」）雲州家校本なし、又考異本に「十陵雜給七墓幣等可レ證因削レ之」とあり。

（紅・緂）例によれば此の二字の間に花字を脫せり。

（陵十所）三代實錄に據れば、「山階、後田原、柏原、長岡八島、深草、楊梅、田邑、後山階、島戸」の十山陵とす。

緂紅花緂紫緂支子緂縹緂等綿各二屯四兩。別各四兩。雜色緂木綿・二斤三兩別五兩。細屯綿七屯。別一屯。三島木綿廿八枚。別四枚。細布一端三丈三尺五寸。別一丈五寸。色紙百五枚。別十五枚。鴨頭草(ツユクサノ)木綿十四枚。別二枚。〔曝〕布・一端・三丈三尺五寸。別一丈五寸。

已上墓七所料。

緋縹黄皂白等帛各一疋一丈七尺。別各一丈一尺。緑緋縹黄絲各一絇九兩。別各三兩。橡絲皂絲生絲各七兩。別各一兩。練絲白絲各二絇四兩。別各四兩。雜色緂木綿大一斤十二兩。別四兩。苧麻各・二斤三兩。別五兩。安藝木綿大十兩二分。別一兩二分。紙百五張。別十五張。

已上墓七所雜給料。

五色帛各二尺。安藝木綿大十兩。苧麻各大十兩。庸布一段一丈。葉薦半枚。

已上多武岑料。

練染用度絹六尺。絲三兩。調綿六兩。調布五尺。庸布一丈八尺。紫草八十斤。蘇芳大三斤。支子五斗五升。茜大十斤。紅花大十斤。橡一斗六升。黄櫨大五十斤。黄蘗大十斤。苅安大十五斤。椿灰二石七斗。眞木灰七斗。小麥七升。麸二斗。松脂二斗。酢一斗。炭六斗。薪十五荷。藁十圍。胡麻油一斗。染藍功錢。數准時估價。白木韓櫃二合。盛雜物料。調布二端二丈八尺。供奉獻物所史生四人明衣袴等料。商布十四段。擔夫五十二人袴料。人別七尺。

已上陵十所。墓七所。幷多武岑幣等練染用度料。

右陵墓幣料。預前支料具錄色目。十二月上旬申省。即待官符請受。依件練染。又小刀廿柄。燈臺廿基儲之。自木工寮受用。前一日晚差史生四人。色別備賣於縫殿寮南院候之。内侍已下從内裏退出。通夜裁成。達曉畢。所別盛柳筥一合。裹以夾纈長褑緑裏。結以縹帶一條。史納漆櫃。安漆高案。帊以紫綾表緋裏。其雜給料所別

〔木綿・二斤三兩〕下文雜給苧麻條と共に、「大二斤三兩」の誤なるべし。

〔曝〕上文の例に據りて補ふ、下の一端三丈三尺五寸原本「二端一丈七尺五寸」に作る、今上文陵幣の條及注文「別一丈五寸」とあるに據り、七所を算出して改む。

〔多武岑〕大和國磯城郡多武峰村に在る、外戚藤原氏の祖、鎌足の墓を云へり、此地に談山神社あり、鎌足を祭る、別格官幣社に列せり。

〔通夜裁成〕成字、京貞二本「盛字」に作る。

莒一合。裹以黄表帛裏、結以緑帶一條、更以緑帶著木。但多武岑析者、裹以蘘薦半枚著木。陵別以駕輿丁三人充擔夫。二人幣物。多武岑一人別著橡衫布袴。衫事了返上。

毎月御贖

凡毎月晦日御贖御輿形覆析、紫弁汁染絹四尺、行神祇官。中宮東宮並同。

晦日御贖中宮東宮並同。金人銀人・十六枚、輿形四具、挿幣木十六枚以上木工寮。紫弁汁染絹四尺、輿𢆉析。寮物。瓮四口。官物。

右毎月晦日御贖、依件擬備進闈司。

凡毎年六十一十二三箇月、起自一日迄于八日并八箇日、御贖御輿形覆析、紫弁汁染絹四尺。毎度行神祇官。中宮同此。

祭析錦

凡諸祭析所用錦者、請藏人所充行之。

正月最勝王經齋會講讀師及僧綱。各施蘇一壺十黄二兩、自餘聽衆、各十黄一兩。

維摩會綿

凡興福寺維摩會・施析、調綿六百屯、寮毎年送彼寺。

最勝會講師布施

凡藥師寺最勝會講師布施析。絹十一疋、綿五十屯。調布廿端、韓櫃一合、加臺。寮毎年送彼寺。

元正大極殿裝束

元正預前裝飾大極殿。鳳形九隻、幡鏡廿五面、玉幡八流。玉冑甲十六條、鄣子十二枚、韓紅花綾表白綾裏、帳二條、淺紫綾表緋綾裏。上敷兩面二條、下敷布帳一條、已上高御座析　錦幔一條、緋綱八條、漆土居桁柱二具、土敷布帳卅七條、鎭子鐵一百廿廷、延別納帒。與內匠主殿掃部等寮共依例裝束、從小安殿至高御座之間敷兩面為御道。其日駈使以左右衞士各十人充之。

威儀物

同節威儀屛繖二具。圓翳圓羽各廿柄。横羽十六柄。杖如意蠅拂各四枚。笠四枚、挂甲二領、刀十六口、桙八口、弓十六張、胡籙十六具、色別有帒并樻。並待省符到充大舍人寮。前節二日、胡牀一張付掃部寮、柳筥八合付大藏省、又八合

〔金人云々〕四時祭式に據れば、「金人銀人各十六枚」に作るべし。

〔挿幣木十六枚〕木工式に「十六枚」を「廿四枚」に作る。

〔•施析〕興福寺維摩會の條中「•施析」は、例に據れば、「布施析」に作るべし。

〔帒〕元正預前云々の條中、鎭子鐵一百廿廷下の注「延別納帒」の帒字原本「紙」に作る、今雲本に據りて改む、下文「同節威儀云云」の條中の注文「帒」字亦同じ。

寮允屬各一人、率藏部八人、懸頸抱胸、列左威儀。藏部著當色。楊筥納錦囊。

御禮服

元日御禮服玉冠牙笏等、當日平旦、寮官人於大極後殿下持候之、隨內侍宣進之。

高御座帊

大極殿高御座帊一條、黃表帛裏。長一丈五尺。六幅。若有破損、隨即申省。

卯杖撿收

大舍人寮左右兵衛府獻卯杖訖、寮頭已下率史生藏部、進庭撿收。

七日舞臺設

凡正月七日、節前一日、寮官人率史生藏部、裝餝舞臺。設胄甲四條、下敷兩面帳一條、鎭子鐵廿挺。並納布袋。花形新、絲一絇、綿半屯、緣絹一丈四尺、熏革半枚。綴雜餝新。餘節設舞臺同之。是日兵部省所獻御弓矢等、寮官亦同進庭撿收。

武德殿餝

凡四月駒引、及五月節、預前一日、裝餝武德殿、綴雜餝新、熏革半枚、絲五兩。車駕行幸者、懸御在所帳幔。

昌蒲

造五月五日昌蒲珮所支子一斗七升、橡一斗七升、黃蘗八斤、紫草五十斤、茜五十斤、汁灰一斗七升、醋七升、藁十圍、薪八荷。折櫃廿合。十五合納諸寺昌蒲珮新。五合雜用。敷新調布二端、安藝木綿十二枚、商布一段、紙廿張、土器百枚、錢百五十文、油一升、生絹一丈、油絹一疋三丈、調布一丈。筵一枚。已上寮物。飯六斗、糟三斗、雜魚一斗五升、陶由加二口、酒槽二隻。已上官物。四衛府駕輿丁十二人、左右近衛各四人。左右兵衛各二人。充雜駈使。

右新物、送絲所造備、但件昌蒲珮。供御并人給新外十五條、內竪爲使供諸寺。東。西。梵釋。崇福。常住。東寺也 東名。出雲。聖神。法觀。廣隆。東薬。珍皇。佐比。嘉祥。寶皇。

凡諸衛府所獻昌蒲并雜彩時花、寮官率史生藏部等撿收、附絲所。

凡典藥寮所獻菖蒲并艾、奏進之後、寮允已下參入撤之。若官人已下不足者、召加內竪。

宴會文臺紙筆

宴會召文人者、乘輿未御之前、立文臺、紙人別二枚。其紙筆墨。預受圖書寮。

〔當色〕官位相當に就きて著すべき服色を云ふ、令に「凡服色者、白黃丹紫蘇芳緋黃橡蒲萄綠紺縹桑黃揩衣紫橡墨、如此之屬、當色以下各兼得服之」とあり。

〔玉冠〕金玉を以て飾りたる冠也、禮冠とす、天子、公卿の二種あり、こは天子の玉冠を云へり、裝束抄に「天子玉冠には纓結あり、公卿紫也」とあり。

〔同進庭〕凡正月七日の條の末尾「同進庭云々」の「同」字京貞二本及雲本無し。

內宴儲新。革莒楊莒各一合。硯五口。事了返納。紙屋紙二帖。筆卅管。祿綿卅屯。

右筥幷紙筆硯。當日早朝進ニ藏人所一。寮儲ニ王卿及殿上男女房饗一。兼亦給ニ內敎坊音聲人等一。飯酒所司儲レ之。事訖積ニ祿綿於舞臺下一。

御服新。

小許春羅(アサミドリノ)二疋。白綾十四疋。吳服文六疋。七窠文五疋。薔薇文三疋。色綾六疋。新羅文。用度生藍八十六圍大半。直。紅花百卅九斤五兩二分。搗橡(カチツルバミ)五斛五斗七升。薪二千七百荷。直。菓三千八百十八圍四斤八兩。酢一斛四斗一升四合六撮。錢四貫二百文。已上官物。茜三百十九斤十四兩四銖。紫草一万三百七斤十兩二分。苅安草百七十圍小半。黃櫨大七千八百斤。灰百五十六斛三斗八升。支子卅七斛七斗九升。已上寮物。

御服穀廿疋。交易每レ年送ニ縫殿寮一。御服新調絹三千四百七十八疋。橡廿疋。帛一百疋。白絹六百疋。絹二千七百五十八疋。調綿三千二百屯。絲廿八絢二兩三銖。縫ニ御服一幷練ニ染帛一新。用度調布二端二丈。一端造ニ下纒一新。二丈縫ニ續暴絁端一新。一端紫草紅花帒新。調綿一屯。造ニ下纒一新。熟麻大五斤暴レ絁緒新。席一枚。暴染鋪設新。由加二口。自餘染草用ニ寮物一。若無者具注申レ省。下條准レ此。

中宮御服新。調絹七百疋。白絹二百十一疋。絹四百八十九疋。羅六疋三丈。紗十五疋一丈二尺。絲廿絢。十八絢縫絁。二絢縫レ端新。調綿二千五百屯。用度調布一端三丈二尺。三丈二尺造ニ下纒一新。一丈曝絁新。三丈紫草紅花帒新。綿一屯。造ニ下纒一新。熟麻大三斤。曝レ絁緒新。席一枚。暴染鋪設新。由加一口。

右明年御服新。及練染用度。每年九月具錄ニ色目一申レ省。待ニ官下一。各就ニ所司一請受。貯ニ收寮藏一。每年隨ニ內侍宣一出ニ充縫殿寮一。其雜給新亦在ニ此內一。

中宮御服新。

〔小許春羅〕縫殿寮「小許春」を「淺綠」に作る、綠色の薄き色を云ふ、一に「うすもえぎ」と云へり、七位の當色也。

〔紅花百卅云々〕貞京本「紅花百卅九斤五兩二分」に作る。

〔支子卅云々〕貞本及び京本「支子卅七斛七斗九升」に作る。

〔具注・申レ省〕一本「具注數申レ省」に作る。

中宮御服

〔中宮〕皇后の別稱、もと紫宸殿より仁壽殿、承香殿、常寧殿、貞觀殿及び其左右の諸殿舍を併せたるもの、總稱にて、三后ここに座せり。

〔雇〕原本「戸」に作る、今雲本に據りて改む、考異本に「作レ戸不レ爲レ義今改、一本云、戸藍恐藍戸歟」とあり。

御殿油

〔油六升〕考異本に「主殿式所載胡麻油六升五合蓋指レ之乎」と云へり。

年中梳

〔舁〕貞京本「擧」に作る

〔安〕原本「置」に作る、林京二本により改む。

月新御料靴

〔啓狀〕申文也、申請文と云ふが如し。

〔錦寮云々〕此の十字衍字也。

白樊石小九斤四兩。小麥二斛九斗六升。紅花大百廿一斤二兩。黄蘗大八百九十四斤十二兩。生藍卌六圍。直。薪九百廿七荷廿五斤。直。藁六百七十八圍九斤。白米一斗四升八合。錢廿二貫二百文。雇藍功。酢一斛一斗六升八合。已上官物。茜大百四斤十四兩。蘇芳小八十一斤十五兩。紫草二百八十五斤六兩。莉安草卌七圍六斤。支子十斛八斗二升。灰五十八斛一升。黄櫨大三百廿八斤。已上寮物。

織御服絁六百疋白五百疋。色一百疋。料。白絲一千五百絇。色絲三百絇。各疋別三絇。

右年料御服幷儲料。依前件每年以寮絲付河内國。依作雇織貯收寮庫。其雇功者。用寮商布一千八百段充給。疋別三段。

御殿灯料。油六升每月供之。

年中所造御梳三百六十六枚。二百枚御料。百枚中宮料。六十枚春宮料。並六月十二月各半分進之。六枚神今食新嘗祭等料各二枚。皆用由志木。所須調布一丈六尺。紙四十八張。木綿大五兩二分。木賊大三兩。柳筥四合。三月中旬具數申省。仍令工手依例造備。訖。每十枚分爲一裹。裹以白紙。結以木綿。十裹盛柳筥。納漆樻。敷白褥。安漆牙牀案。覆以黄表帛裹。結以縹帶二條。訖。六月一日十二月准此。先進奏狀。内侍執奏。即寮官四人執案進立殿庭。少退而立。于時内侍參來。寮官一人稱唯。共舁案進詣階下。執筥進内侍。訖。舁案退出。亦准此。獻中宮。但六月十二月神今食。十一月新嘗料。各付縫殿寮。其東宮御梳。裹以白紙。結以木綿。訖。盛柳筥。安高案。敷白布。先進啓狀。坊官執啓。即寮官二人執案進立殿庭。退出。舍人受案送寮。

月別縫造御靴一兩。挿鞋一兩。已上御料。「錦寮月別縫造御靴一兩」錦鞋三兩料。中宮雜給錦鞋五兩。御料。盛漆樻。敷白褥。安漆牙牀案。肥用黄表帛裹。結以縹帶二條。每月晦日先進奏狀二紙。一紙御料。一紙雜給料。内侍執奏。即寮官四人舁案奏進藏人所。訖即退出。中宮准此。但雜給料盛柳筥進内侍。六月十二月神今食。十一月新嘗料。別挿鞋一兩送縫殿寮。不御祭所之時。

以雁鼻沓代挿鞋。

縫作雜履料、

靴一兩料、牛革・練絲二分、漆四勺、薦一兩二分、麻・油一合、酢五合。

造御靴料、猪毛十兩、麻子一斛二斗五升、牛皮六張半、深紫綾二丈四尺三寸、深紫絲六兩三分、淺綠絹一疋二丈六尺四寸。青砥一顆。

挿鞋十五兩。三兩神態料。

兩別料。田淺紫綾。長九寸、廣一尺七寸。裏白綾。長九寸。廣一尺五寸。中黏絹。長九寸。廣一尺七寸。調布。長一尺五寸。廣二尺二寸。紙三張、糯米一合、縫紫絲一分、

底牛革二條。條別長九寸。廣二寸。漆二勺、纈白綾。長九寸。廣五寸。綿一分、調布。長九寸。廣五寸。炭一斛五斗、以一斗充一兩。刀子三柄。以一柄充五兩。

針卌隻、以二隻充一兩。東筳大半、伊豫砥一顆、皺文革一張。長七尺。廣五尺五寸。裁得靴一兩。絁鞋武十二兩。

皇后錦鞋三十九兩、三兩神態料。

兩別錦七寸。中縹絹八寸、生絹七寸、調布二尺、練絲一分。調綿一分。紙三枚、漆二勺、糯米一合。針一隻。炭一斗、東筳一枚小半、刀子三柄、以一柄充五兩。伊豫砥一顆、樗榑一村、波多板一枚、調布一丈二尺、覆履料。已上五種十五兩料。

牛皮一張。長六尺五寸。廣五尺五寸。除毛一人、除膚肉（タナシヽヲ）二人。浸水潤釋（ウルヲシクタハ）一人、曝涼踏柔四人、

染皺文革一張。長廣同上。採樫皮一人、合和麴鹽染造四人

鹿皮一張。長四尺五寸。廣三尺。除毛曝涼一人、除膚完浸釋一人、削橥和腦搓（タモミ）乾一人半。

染皂革一張。長廣同上。燒柔熏烟一人、染造二人、

造威儀御鞍二具料。錦六尺、紫帛二丈、細布二丈、薦五兩。獨彩氈（カモ）方三尺五寸。

〔雁鼻沓〕「カリハナノクツ」と訓む、淺履也、大臣大將及公卿以下平常用ふる履、桐の材を彫りて作り漆を塗る、一に鼻切沓（ハナキレクツ）とも云ふ。　作履料

〔麻・油〕主殿式には「麻子油」に作る。

〔牛革・〕例によれば牛革の下、廣長の注を脱せり。

〔別〕例によりて補ふ。

〔燒柔熏烟一人〕この燒字は「橈」とすべし。

〔獨彩〕民部式交易雜物中に「獨犴皮」奥羽所進也」などあるに考ふれば、獨犴の誤なるべし。　一威儀　一鞍

〔帛卌疋〕京貞二本「卌」を「卅」に作る。

〔薪七百廿一荷〕「廿」字原と「卅」に作る、京本により改む。

〔「各」〕雲州家校本によりて補ふ。

〔●藁三百圍〕一本「●」印の所に「絲十一絇六兩三銖（縫纈端）」の十一字あり。

〔苅安草〕王芻、青茅、藎草、黄草とも書く、禾本科に屬する草にて、葉の形「ス、キ」に似たり、黄色の染料とす。

〔條別〕京貞二本「並別」に作る。

雜染。

紫染綾一百疋。（深紫廿疋。淺紫八十疋料。）絹一百六十疋。（深紫卌疋。淺紫一百廿疋料。）帛●卌疋。（淺紫纈料。）絲一百絇。（深紫淺紫各七十絇。深滅紫淺滅紫中滅紫各廿絇料。）錢十二貫文。篩廿口。（料絹一疋二丈。口別四尺。）帒二百六十二口。（料庸布卅二段二丈一尺。口別三尺五寸。）糟二斛八斗。（染手等料。）席廿枚。（染手座料。）絲八絇四兩。酢一斛七斗。藁二百十三圍小半。薪七百●廿一荷。灰百五斛六斗。水瓱桶四口。水桶十三口。杓十二柄。（大四。小八。）已上官物。紫草一萬五千四百卅斤。（寮物。）

右每年起二月一日至五月卅日。依件染畢。以寮仕丁充駈使。其染手二人各給橡帛衣一領。（別三丈。）調布袴一腰。（別七尺。）褌一條。（別六尺。）染女四人。各橡帛衣一領。襷一條。（長並同上。）但纐纈絲准量所須充。

藍染綾一百疋。（深緑淺緑淺縹藍色各十疋。中緑深縹中縹各廿疋料。）絹四百疋。（深緑青緑次緑各廿疋。中緑深縹中縹淺縹各卌疋。藍色百廿疋。淺緑五十疋。纐淺縹藍色各廿五疋料。）藍束帛六十疋。（深緑紺各卌疋料。）絲六百絇。（深緑中緑次緑深縹中縹各五十絇。紺淺緑黄淺緑淺縹白縹各卌絇。黑緑七十絇。次縹九十絇。深藍色中藍色淺藍色白藍色各十絇料。）貲布八十端。（深緑深縹各卌端料。）錢卅六貫文。絞帷二條。（料絁二丈四尺。別一丈二尺。）槽帊二條。（料商布二段。）帒二口。（料商布二丈。）押帷二條。（料調布二丈五尺。）水篩二口。（料調布二丈八尺。）●藁三百圍。黃蘗大七百卌四斤六兩三銖。（縫殿絹染料。）眞木灰八斛。灰十二斛。苅安草二百卌圍。水瓱麻笥三口。水麻笥五口。杓十五柄。（大五。小十。）席十枚。折薦十五枚。（官人并命婦已下座料。）白米九斛六斗。（命婦以下料。）黑米七斛二斗。（仕丁料。）鹽五斗六升八合。海藻大一百九十一斤四兩。糟二斛八斗八合。

右每年起六月一日至八月卅日染畢。亦以仕丁充駈使。其命婦以下駈使以上各賜祿。惣調綿五十屯。供事藏部十人。染手一人。各給佐渡布衫一領。（別二丈七尺。）染女六人。各調布衫一領。（別一丈六尺。）襷一條。褌一條。（「條別」六尺。）仕丁二人。商布衫一領。（別一段。）其染物者。預錄用度申省請受。寮允屬各一人。專當撿挍。染訖貯收寮庫。依宣出用。（染法並見縫殿式。）

駕輿丁褶料、大纈紫絹十五疋四尺、染料紫草四百五十斤、（寮物。）酢一斗五合、灰三斛七斗五升、薪廿二荷、（已上官物。）具錄申レ省。

白紗卅疋料絲卌五絇、（疋別一絇六兩。）

右儲料依二前件一、用二寮絲一充二織部司一令レ織之、訖收二寮庫一、其功所レ用商布六十段、（疋別二段、）錄レ數申レ省、以二官物一充、年料所レ造色紙四千六百張、（厚三千二百八十張、薄千二百廿張。長五十張。廣五十張）其料常陸調布卌端、（十六端紫、九端紺。五端縹。）紗五丈八尺、鐵二廷、砥一枚、每年差二圖書長上一人一、遣二美濃國一造レ之。

季料。

兩面十疋。色綾十疋。緋帛紺帛黃帛橡帛各十疋、白綾五疋、五色帛各五疋、纁帛五疋、黃帛廿五疋、白絹帛各五十疋、五色絲各五絇、橡絲五絇、纁絲五十絇、白綿二千屯、（越中石見各五百屯、太宰一千屯、）錢三百貫文、細布九十三端三丈、調布七十五端、紺調布十端、庸布五百端、庸綿五百斤、（石見太宰各二百斤。凡一百斤。）紅花大一百斤、木綿廿斤、（安藝凡各十斤。）紙二千張、緋革十張。鹿皮十張、亭熟麻各大廿斤、麻大十斤、黃蘗大二百五十斤。漆五斗、搗橡五斛、鹿角五十隻。砥十顆、膠十斤。鍬五百口、鐵五百廷、美濃長席廿枚、調薦一百枚、木賊十斤、

右一季料依二前件一、季別申レ省受二大藏省一。（中宮料色別減レ半。）

諸司年料供進。

御冠羅四疋。（一疋無文。）羅廿三疋。綾卅疋。（白廿疋。色廿疋。）紗卅疋、二色綾八疋、錦卅疋、兩面十二疋、

右織部司所レ進、其料絲從レ寮行レ之。

油絹六十疋。（緋卅疋。縹廿五疋。白五疋。）竹笠十四枚。（大小各七。）

〔褶〕和名抄に「褶、和名、宇波美、襲也、覆二袴上一衣之也」とあり。

〔絇六兩〕原と、六字四となす、今本文に據り改む。

季料

〔用〕古本「須」に作る。

諸司年料供進

〔二色綾八疋云々〕原と「二色綾卌疋（白廿疋、色廿疋、）錦卌疋、兩面卌疋に作る、今織部式によりて改む。

〔一具•角云々〕「一具」の下、角の上に一本「細」字あり
〔一百疋云々〕以下廿字並に、淺緋卅端一の四字、原本になし、今民部式によりて補ふ。
〔六〕もと「五」に作る、今民部式によりて改む。

諸國供進

〔茜大二千斤〕「大」字恐らくは衍字、二千斤もと「二十斤」に作る、京貞二本によりて改む。
〔赤木〕皮を削りたる木、黑木に對して云ふ。
〔藺帖笠〕藺草にて編み帖を付けたる笠也、一に綾藺笠、藺笠とも云ふ。

右隼人司所レ進。

紙二万張。

右圖書寮所レ進。

革筥廿合。柳筥一百六十八合。

右內匠寮所レ進。

梓弓一張。矢四具。一具太角伊太豆伎。一具•角伊太豆伎。一具太木伊太豆伎。一具万万伎。鞆一枚。

右兵庫寮所レ進。

諸國年料供進。

雜染綾二百疋。深紫淺紫緋各五十疋。中紫廿疋。深緋卅疋。緋纐纈絁卅疋。已上以二寮庫納綾東絁一注二載官符一。毎年下遣。返納之日。勘二會本數一。絹二百疋。帛一百五十疋。深紫五十疋。淺紫一百疋。緋紬一百疋。深緋廿四疋。淺緋六十六疋。緋一十疋。貲布一百五十端。深紫廿端。淺紫廿端。深緋卅端。淺緋卅端。白貲布五十端。並盛二漆韓櫃十四合一。雜染革一百六十張。紫革卅張。緋革卅張。纈革卅張。畫革廿張。白革卅張。洗革一百張。已上盛二漆韓櫃三合一。銀大廿四斤十五兩。調十八斤十一兩。交易六斤四兩。朱砂一千兩。麥門冬煎二斗。海石榴油一十斛。紫草四千六百斤。就中野草一千七百斤。•茜大二千斤。牛皮廿四張。赤木廿村。有二增減一。青砥二百顆。櫃椰馬蓑六十領。同蝮蓑百廿領。藺帖笠一百卅蓋。

右太宰府所レ進。

細貫筵六十枚。小町席三百枚。食筵一枚。

右上野國交易所レ進。

曝黑葛百斤。近江國卅斤。越前國卅斤。越中國廿斤。丹波國廿斤。

白玉一千丸。志摩國所㆑進。臨時有ニ増減一。
麻子二斛。常陸國七斗。下總國七斗。武藏國六斗。
氈十枚。下野國所㆑進。
莇安草一千圍。近江國五百圍。丹波國五百圍。並交易所㆑進。
胡粉廿斤。綠青廿斤。丹六十斤。
　右長門國交易所㆑進。
砂金百五十兩。下野國所㆑進。
水銀小四百斤。伊勢國所㆑進。
絁八百五十疋。
　調二百疋。白一百疋。參河國所㆑進。色一百疋。近江國所㆑進。
　交易六百五十疋。遠江美濃出雲因幡武藏上總上野七箇國各五十疋。但馬二百疋。播磨一百疋。
絲四千七百七十四絇。
　調三千百八十絇。
　白絲二千八百八十絇。二千絇參河國所㆑進。八百八十絇伊勢國所㆑進。
　色絲三百「卅八」絇。伊賀國所㆑進。
　交易一千五百九十四絇　七百五十絇丹波國所㆑進。八百卅四絇但馬國所㆑進。
調布三百六端。下野國交易。

〔白玉〕和名抄に「珠云々、日本紀私記云、眞珠、之良太麻」とあり。
〔丸〕民部式「顆」に作る。
〔氈〕和名抄に「氈、和名、賀毛、毛席撚㆑毛爲㆑席也」とあり。
〔圍〕韻會に「一抱曰圍」とあり。
〔小〕民部式になし
〔交易云々〕本文七字、注三十一字、民部式に載せず、遠江以下六ヶ國の交易物は、地子交易の物也。
〔八百〕京貞二本なし。
〔「卅八」〕王計式によれば、衍字也、雲本これを删す。

商布一万八千段。交易。武藏下總二國各三千段。上總常陸二國各四千段。上野下野二國各二千段。

熊皮廿張。出羽國交易。

●羚羊角。諸國所ㇾ進。其數隨ㇾ所ㇾ出。

榅子。伊豆甲斐相摸武藏安房上總下總常陸信濃上野下野能登越後因幡伯耆出雲石見美作備前備中備後安藝周防長門讃岐土佐廿六箇國各四合。

榑。伊賀伊勢尾張參河遠江駿河近江美濃若狹加賀丹後播磨紀伊阿波伊豫十五箇國各二合。

蜜蘇。諸國所ㇾ進。

蜜。甲斐國一升。相摸國一升。信濃國二升。能登國一升五合。越中國一升五合。備中國一升。備後國二升。

蘇。諸國貢進番次幷數等。具在二民部式一。

青木香二百七十斤。尾張國一百六十斤。相摸國八十斤。美濃國卌斤。

蓽蔆香大廿四斤卅把。淡路國卅把。阿波國廿四斤。

石硫黃。信濃國二百斤。下野國二百斤。

干薑小一百斤。薑種十石。

右遠江國交易所ㇾ進。

藺笠卅六枚。和泉國調。

畿內國營田舂米六百五十四斛七斗三升一合。山城國百八十五斛一斗。大和國百四斛五升六合。河內國百卅斛。攝津國二百九斛七斗九合。和泉國十五斛八斗六升七合。

黑米二百斛。近江越前二國各五十石。美濃丹波備前三國各廿石。播磨國卅石。

龍鬢筵卅枚 細貫筵卅枚。

〔羚〕雲本「零」に作る。

〔榅子〕菓子鉢の類高杯に似て、緣高く、外は、黑漆にて塗り、内は朱塗にして、螺鈿等をまく、上は「ぬりなけ」の蓋を仰向にしたるが如し。

〔龍鬢筵〕藺草にて織りたる筵を云ふ藺の一名を龍鬢草と云ふより名づくと云ふ、長さ七尺五寸、廣さ緣ともに三尺六寸なり。

右武藏國交易所レ進。

大鮑卅口、遠江國卅口。常陸國十口。

紫草二萬二百斤、甲斐國八百斤、相摸國三千七百斤。武藏國三千二百斤、下總國二千六百斤。常陸國三千八百斤。「武藏國」信濃國二千八百斤。上野國二千三百斤、下野國千斤。

漆五斗。越後國所レ進。

御履・皮四枚、能登國所レ進。

斑竹千六百隻。遠江國所レ進。

支子。數有二損益一。

山城國二圍五斛八斗六升、大和國圍卅斛、河內國圍八斛、遠江國一圍五十四斛、一圍四斛、一圍五十斛。一美濃國圍一斛、

右諸國年新供進雜物、並依二前件一。

營二藍陸田一新。

陸田五町。惣單功九百九十二人。別米二升。鹽二勺、海藻二兩、功錢、臨時量充。鍪「二口鹽二勺海藻二兩功錢」卅口。三年一請。

藍種始蒔日祭神新。五色絹各一尺、雜魚鮨一斗、鹽四升。海藻六斤、白米一斗、酒一斗、鮑六斤、堅魚六斤。

凡年新油絹新、寮請取充隼人司、疋端捺二寮印一、其結解帳使司每年造二進二通一、一通留レ寮、一通押署返充。

凡寮庫雜物者。先種別自二正倉一移二納於別庫一、而後下用、未二下用盡一之前。亦復移納勿レ令二斷絕一、開二正倉一者。助以上一人與二允屬一開レ之。

凡藏匙者。屬已上一人。先觸二左近陣官一、率二史生一入二日華門一請納。

〔常陸國〕京貞二本「常陸國三千八百斤、信濃國二千八百斤」の十六字なし。

〔「武藏國」〕上に「武藏國三千二百斤」とあれば、こは衍字也。

〔越後國〕漆五斗の注、「越後」原本に「越前」に作る、民部式に「越前越中二國各一石五斗、越後五斗」とあるに依りて雲本之れを改む、今是に從ふ。

藍陸田

〔御履・皮四枚〕民部式「御履牛皮四枚」に作る。

油絹

〔「二口鹽云云」〕鍪の下「二口以下十一字」衍なるべし。

寮庫物

藏匙

〔東檻〕紫宸殿東廂と身舍の間にある格子也、檻は欄子を云ふ。
〔音聲人〕治部省の被官雅樂寮の歌人歌女等の總稱也。
〔今良〕一度過ちて賤民となり更に許されて良民に編入せられしをいふより轉じて、新參者を云ひ、主殿寮に屬する男女の下部也。
〔內侍召繼〕內侍の雜事を務むる職也、取次と云ふが如し。
〔國〕雲本には、民部式に據りて删除す。

日奏
凡日奏者。充已上一人。升二南殿東階一進。內侍臨二東檻一轉取奏レ之。若不レ御二南殿一時封付二內侍一。

七日音聲人裝束
正月七日儛人并音聲人等裝束料。紗十二疋四丈。今良料冠三條。巾子三口。充二內教坊一。

踏歌裝束
踏歌人等裝束料。女藏人四人。白絹八疋二丈。帛三疋四丈。絹四疋。支子一斗二升。內教坊歌頭四人。白絹二疋。絹八疋。帛一疋二丈。紗四丈。綿十六屯。水司女孺二人。白絹一疋。絹四疋。東竪子四人。正月節裝束料。人別冠一條。巾子一口。絹三丈七尺。汗衫料。深紫絹二丈。半臂料。白絹三丈。袴料。五月節亦准レ此。

內侍召繼料
內侍召繼四人料。絹六疋。冬料各一疋。夏料各三丈。貲布四端。各一端夏料。裘四領。各一領。笠四蓋。各一蓋。

臨時御服
織部司臨時所レ織進二御服一八十一疋料。絲大百十一斤十兩二分。

臨時所定額衣服
同臨時所定額廿八人。夏冬衣服絹六十三疋。綿百十二屯。季祿料綿五百卅屯。春冬季別百四十三屯。夏秋季別百廿二屯。

機覆
同所機覆并襷襁料。布五端。及等第祿絹綿庸布。並三年一充。人數給法隨二司解文一充レ之。

國營田
凡畿內諸國國營田收納帳。每レ年進レ寮。其獲稻除二營料一之外。舂レ米送レ寮。

食米
凡番上史生四人。藏部十人。勅旨舍人廿五人。別米一升。

雜作手
雜作手卅三人。
造二御櫛一手二人。夾纈手二人。臈纈手二人。暈繝手二人。造二油絁一手二人。織レ席手一人。燒レ灰四人。燒レ炭二人。作二埴器一四人。作二陶器一三人。作二木器一五人。採二黃櫨一一人。各日黑米二升。仕丁五十一人。日米二升。

染手
染手五人。日米一升五合。
鹽惣四斗九升三合五勺。
右寮中駈使雜作手等依二前件一。

御藏守

〔御藏〕內藏寮所管の金銀、珠玉、寶器、錦綾、雜綵、氈褥及び諸蕃の貢獻物等及び年新供進の御服、別勅の用物等を藏する處也。

凡御藏幷門守火長等月粮寮請班給。

延喜式卷第十五

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第十六

〔漏刻〕水時計なり、水槽に箭を立て、水の流れ入るに從つて時刻を計る。

〔延政門〕大內裡內廓十二門の一、內裏の東、宣陽門の南十二間の所にありて南角に至る十二間、土門一間の兩扉とす。

〔承明門〕大內裡內廓門の一、又た閤門と稱す、拾芥抄に「謂之南面內門」とあり。

鎭害氣

漏刻

進曆

陰陽寮

凡新年鎭害氣者、預前勘錄害氣在處幷所須鎭物申省、東流水沙三石、清酒三斗、匏一柄、缶一口、杵一枚、横木一具、鉏一柄、藁萬十枚、繩十斤。擔夫十五人。外鎭料物亦同、正月上寅日遲明、官人率陰陽師設鎭處於害氣之地、宮門內外各一處、坑方深三尺、訖申內侍、兼亦移告諸司所司。五位已上及宮人等取杵讀呪曰、害氣消除、人無疾病、五穀成熟。築二七杵、其外鎭處、庶人已上取杵築之如內鎭。但御忌當害氣在所者、不行內鎭。

凡漏刻燈油、隨月大小請受所司。從三月至八月夜別四合、從九月至二月夜別五合。年料所請帛三丈六尺、拭漏刻器巾料、月別三尺。絁曝布各三丈六尺、並水簡料。調布三丈六尺、燈心料、月別三尺。油坏一口、盤一口、麻笥一口、杓四柄、炭十二石、溫解龍口凍料、起十一月迄正月、日別一斗。

凡進曆者、具注御曆二卷、六月以前爲上卷、七月以後爲下卷。納漆函安漆案。頒曆一百六十六卷、納漆樻著臺、十一月一日至延政門外、中宮東宮御曆供進准此。其七曜御曆、正月一日候承明門外、並見儀式。

凡造曆用度者、御曆二卷、二卷具注、一卷七曜、料上紙一百廿張、卌七張具注曆料、廿三張七曜曆料、五十張破損料、雖有閏月、不加其料。請圖書寮。麻紙四張、標紙料。請內藏寮。上墨大半廷、請圖書寮。上朱沙三兩。請內藏寮。兎毛筆十二管、請圖書寮。膠一兩、請大藏省。花軸二枚、請木工寮。白綺三條、別長一尺六寸。請內侍所。中宮東宮各二卷、其料亦准此。破損料在御曆料五十張內。頒曆一百六十六卷料紙二千六百五十六張、卷別十六張。有閏月年、卷別加二張。標紙料紙五十六張、以一枚充三卷。草案料一百廿九張。曆草廿四張、日度草十五張、月度草十五張、交蝕草五張、五星度草五十張、五星行草廿張。曆本三卷料九

十張。四十七張具注本新。廿四張七曜本新。十九張頒曆本新。墨十二廷半。頒曆幷草本新。以一廷充二百卌張。鹿毛筆九十八管。已上紙筆墨並請圖書寮。糊新大豆三升三合。請大炊寮。檜軸一百六十六枚。請木工寮。竹十六枚山城國所進。切續紙新机二前。長四尺。廣一尺八寸。厚三寸。高七寸。隨損受木工寮。座新長疊四枚。請掃部寮。砥一顆。請大藏省。裝潢手單四十五人。寫御曆手單五十五人。並圖書寮人。食米人別日一升六合。鹽一夕六撮。醬滓二合。雜魚二合。寫頒曆手卅一人。諸司史生廿三人。內豎四人。大舍人四人。並不在給食之限。

右並具勘錄。五月一日申省請受。

黑漆函三合。長各一尺二寸。廣三寸八分。深二寸四分。

黑漆机二脚。

別足一脚。長三尺。廣一尺三寸七分。高三尺。

榻足一脚。長三尺。廣一尺三寸。高三尺。

已上納御曆。

納頒曆赤漆韓櫃一合。長二尺三寸。廣一尺三寸。深一尺三寸。居黑漆筥形加杭。

布綱三條。一條長一丈二寸。廣二寸四分。二條長各四尺六寸。廣一寸二分。

右漆函等收寮庫。至奏日出用之。若有破損申省修造。

凡曆本進寮具注御曆八月一日。七耀御曆十二月十一日。頒曆六月廿一日。並爲期限。

凡密奏新紙筆墨等臨時申省。

凡中星曆者。八十二年一度造進。其用途者。博士臨事勘錄進寮。卽申省請充。

〔具注〕具注曆也、類聚名物考に「具注曆、之れは日の吉凶その外、忌諱の事など、大概今の普通の曆の如くくはしく書き記せしものなり、」と見ゆ。

〔本〕其數卽ち頒曆草案に據れば曆本三新也、故に今之れを補ふ。

〔頒曆〕類聚名物考に「頒曆、是は諸司百官及び天下にわかち賜はる曆本なり、書きざまも省略の事と見ゆ」と見えたり。

〔七耀御曆〕延武年中行事略解に「日月火水木金土、謂之七曜」と見えたり。

〔密奏新〕

天文奏　日蝕　學生

（内記）中務省に屬し、詔勅を作り禁中の動靜を錄する事を掌る、大内記、中内記、少内記ありしが、大同元年中内記を廢したり。

行幸　藥童　御忌　荷前日　土牛

（守辰）陰陽寮の下司にて、漏刻を見て毎時鐘鼓をうちて之れを報知するを職とす、また「ときもり」ともいへり。

諸門鼓

（偉鑒）大内裡外郭門の一、不開の門ともいふ北面の一門にて、一條大路に通ずる方に在り。

凡天文博士。常守觀候。每有變異日記進寮。寮頭卽共勘知密封奏聞。其日記者。加署封送中務省令附內記。

凡太陽虧者。曆博士預正月一日申送寮。寮前蝕八日以前申送於省。

學生卅人〔陰陽生十人。曆生十人。天文生十人。〕其得業生。陰陽三人。曆二人。天文二人。並取生內人。右得業生選性識聰慧令專精學。其名申官給衣食。成業年限依令。未成業者不得趁入他色。若未終業其師遷外官者。從之終業。

凡觀天文生一人不立年限。其衣服食米。准諸得業生給之。

凡撞漏刻鐘新松木一枝。本周三尺。長一丈六尺。隨損令左右衞門府卒採送。其綱新熟麻卅斤。隨損申省請大藏省。

凡行幸陪從屬已上二人率陰陽師二人。漏刻博士一人。守辰丁十二人。直丁一人供奉。立於右兵衞陣後右衞門陣前。其守辰丁裝束。紺布衫十三領。別一丈九尺。調布袴十三腰。別八尺。調布帶十三條。別長九尺。廣一尺二寸。並隨損請換。

凡應供元日御藥童女年并衣色者。舊年十二月上旬與御忌共奏之。

凡來年御忌者。寮預令陰陽師等勘錄。十二月十日進內侍司。中宮東宮准此。

凡獻荷前日者。前擇定大神祭後立春以前十二月五日申省。

凡土牛童子等像。請內匠寮。大寒之日前夜半時立於諸門。陽明待賢二門各青色。美福朱雀二門赤色。郁芳皇嘉殷富達智四門黃色。談天藻壁二門白色。安嘉偉鑒二門黑色。立春之日前夜半時乃撤。

擊開閉諸門鼓。

起大寒十三日至冬至十五日日出辰一刻三分。日入申四刻六分。

卯四刻六分開諸門鼓。

辰二刻七分開二大門一鼓。
午一刻六分退朝鼓。
酉一刻二分閇門鼓。

起二小寒一日一至二十二日一。日出辰一刻一分。日入申四刻七分。
卯四刻五分開二諸門一鼓。
辰二刻六分開二大門一鼓。
午一刻五分退朝鼓。
酉一刻三分閇門鼓。

起二小寒十三日一至二大寒七日一。日出卯四刻終。日入酉一刻一分。
卯四刻四分開二諸門一鼓。
辰二刻六分開二大門一鼓。
午一刻五分退朝鼓。
酉一刻六分閇門鼓。

起二大寒八日一至二十五日一。日出卯四刻七分。日入酉一刻二分。
卯四刻二分開二諸門一鼓。
辰二刻五分開二大門一鼓。
午一刻二分退朝鼓。
酉一刻八分閇門鼓。

起二立春一日一至二八日一。日出卯四刻五分。日入酉一刻五分。
卯三刻九分開二諸門一鼓。
辰二刻五分開二大門一鼓。
午一刻一分退朝鼓。
酉二刻一分閇門鼓。

起二立春九日一至二雨水一日一。日出卯四刻二分。日入酉一刻七分。
卯三刻六分開二諸門一鼓。

〔小寒〕二十四氣の一、冬至の次に當り、陽曆にて十二月二十二日より、一月五日に至る間をいふ。二十四氣とは五日を一候とし三候を一氣として一年に割り當てたるもの也。

〔大寒〕小寒の次に來る季節にて、小寒後十五日間をいふ。

〔立春〕日本歲時記に「立春は正月の節也、大寒の後十五日、斗柄艮に指すを立春といふ、立は始めて建つ也云々」と見ゆ。

辰一刻七分開大門鼓。巳四刻八分退朝鼓。酉二刻二分閉門鼓。

起雨水二日至九日。日出卯四刻。日入酉二刻一分。

卯三刻四分開諸門鼓。辰一刻五分開大門鼓。巳四刻六分退朝鼓。酉二刻六分閉門鼓。

起雨水十日至驚蟄二日。日出卯三刻七分。日入酉二刻八分。

卯三刻一分開諸門鼓。辰一刻二分開大門鼓。巳四刻四分退朝鼓。酉二刻八分閉門鼓。

起驚蟄三日至十日。日出卯三刻五分。日入酉二刻五分。

卯二刻九分開諸門鼓。辰一刻一分開大門鼓。巳四刻二分退朝鼓。酉三刻一分閉門鼓。

起驚蟄十一日至春分二日。日出卯三刻二分。日入酉二刻七分。

卯二刻四分開諸門鼓。卯四刻七分開大門鼓。巳四刻退朝鼓。酉三刻三分閉門鼓。

起春分三日至九日。日出卯三刻。日入酉三刻。

卯二刻四分開諸門鼓。

〔雨水〕立春の次の季節なり、立春後十五日間をいふ。

〔卯三刻〕卯刻とは今の午前五時半より七時半までの二時間をいひ、之れを四分して一刻、二刻、三刻、四刻とす、故に卯の第三刻とは六時半をいふ。

〔驚蟄〕また啓執に作る、雨水後、十五日間をいふ。

〔酉三刻〕午後六時半をいふ、前項參看すべし。

〔春分〕啓執後十五日間をいふ。

卯四刻五分開大門鼓。
巳三刻八分退朝鼓。
酉三刻六分閉門鼓。

〔清明〕春分より十五日間をいふ、陽曆の四月五日頃に當る。

起春分十日至清明二日。日出卯二刻七分。日入酉三刻二分。
卯二刻一分開諸門鼓。
卯四刻二分開大門鼓。
巳三刻六分退朝鼓。
酉三刻八分閉門鼓。

起清明三日至十日。日出卯二刻五分。日入酉三刻五分。
卯一刻九分開諸門鼓。
卯四刻開大門鼓。
巳三刻四分退朝鼓。
酉四刻一分閉門鼓。

〔穀雨〕清明の次の季節、四月廿日頃に當る。

起清明十一日至穀雨三日。日出卯二刻二分。日入酉三刻七分。
卯一刻六分開諸門鼓。
卯三刻七分開大門鼓。
巳三刻二分退朝鼓。
酉四刻三分閉門鼓。

起穀雨四日至十一日。日出卯二刻一分。日入酉四刻。
卯一刻四分開諸門鼓。
卯三刻五分開大門鼓。
巳三刻退朝鼓。
酉四刻六分閉門鼓。

〔立夏〕穀雨後十五日間をいふ、五月五日頃に當る。

起穀雨十二日至立夏四日。日出卯一刻七分。日入酉四刻二分。
卯一刻一分開諸門鼓。

〔小滿〕立夏後十五日間をいふ、陽曆六月廿一日頃に當る。

〔芒種〕小滿の後十五日間をいふ、陽曆六月五日頃に當る。

〔夏至〕京本、貞本になし、古寫本にも亦なし、衍字なるべし、芒種の後十五日間をいふ、夜の最も短かき時なり。

卯三刻二分開大門鼓。
巳二刻八分退朝鼓。
酉四刻八分閉門鼓。

起立夏五日至十二日。日出卯一刻五分。日入酉四刻五分。

寅四刻九分開諸門鼓。
卯三刻開大門鼓。
巳二刻六分退朝鼓。
戌一刻一分閉門鼓。

起立夏十三日至小滿五日。日出卯一刻二分。日入酉四刻七分。

寅四刻六分開諸門鼓。
卯二刻七分開大門鼓。
巳二刻四分退朝鼓。
戌一刻三分閉門鼓。

起小滿六日至十五日。日出卯一刻一分。日入酉四刻終。

寅四刻四分開諸門鼓。
卯二刻五分開大門鼓。
巳二刻二分退朝鼓。
戌一刻五分閉門鼓。

起芒種一日至「夏至」十二日。日出寅四刻七分。日入戌一刻一分。

寅四刻二分開諸門鼓。
卯二刻二分開大門鼓。
巳二刻退朝鼓。
戌一刻七分閉門鼓。

起芒種十三日至夏至十五日。日出寅四刻六分。日入戌一刻二分。

寅四刻開諸門鼓。

〔小暑〕夏至の次の十五日間をいふ。

〔大暑〕小暑の後の十五日間をいふ、俗に暑さの最も激しき時とす。

〔立秋〕大暑後十五日間をいふ、之れより秋風立ちて秋の季節に入る。

〔處暑〕立秋より十五日間をいふ、陽暦八月廿三日頃に當る。

卯二刻開ニ大門鼓。
巳一刻八分退朝鼓。
戌一刻九分閉門鼓。

起ニ小暑一日至ニ十二日。日出寅四刻七分。日入戌一刻一分。
寅四刻二分開ニ諸門鼓。
卯二刻二分開ニ大門鼓。
巳二刻退朝鼓。
戌一刻七分閉門鼓。

起ニ小暑十三日至ニ大暑七日。日出卯一刻一分。日入酉四刻終。
寅四刻四分開ニ諸門鼓。
卯二刻五分開ニ大門鼓。
巳二刻二分退朝鼓。
戌一刻五分閉門鼓。

起ニ大暑八日至ニ十五日。日出卯一刻二分。日入酉四刻七分。
寅四刻六分開ニ諸門鼓。
卯二刻七分開ニ大門鼓。
巳二刻四分退朝鼓。
戌一刻三分閉門鼓。

起ニ立秋一日至ニ八日。日出卯一刻五分。日入酉四刻五分。
寅四刻九分開ニ諸門鼓。
卯三刻開ニ大門鼓。
巳二刻六分退朝鼓。
戌一刻一分閉門鼓。

起ニ立秋九日至ニ處暑一日。日出卯一刻七分。日入酉四刻二分。
卯一刻一分開ニ諸門鼓。

〔酉四刻〕京本は酉二刻七分に作る。

〔卯二刻〕貞本には卯三刻に作れり。

〔白露〕處暑後十五日間をいふ、陰暦八月節にて、陽暦九月七日頃に當る

〔秋分〕白露後十五日間をいふ、陰暦八月中にて、陽暦九月二十三日頃に當る。

卯三刻二分開大門鼓。
巳二刻八分退朝鼓。
酉四刻八分閉門鼓。

起處暑二日至九日。日出卯二刻一分。日入酉四刻。
卯一刻四分開諸門鼓。
卯三刻五分開大門鼓。
巳二刻退朝鼓。
酉四刻六分閉門鼓。

起處暑十日至白露二日。日出卯二刻二分。日入酉三刻七分。
卯一刻六分開諸門鼓。
卯三刻七分開大門鼓。
巳三刻二分退朝鼓。
酉四刻三分閉門鼓。

起白露三日至十日。日出卯二刻五分。日入酉三刻五分。
卯一刻九分開諸門鼓。
卯四刻開大門鼓。
巳三刻四分退朝鼓。
酉四刻一分閉門鼓。

起白露十一日至秋分二日。日出卯二刻七分。日入酉三刻二分。
卯二刻一分開諸門鼓。
卯四刻二分開大門鼓。
巳三刻六分退朝鼓。
酉三刻八分閉門鼓。

起秋分三日至九日。日出卯二刻。日入酉三刻。
卯二刻四分開諸門鼓。

〔寒露〕秋分の後十五日間をいふ、陰暦九月節にて、陽暦十月九日頃に當る。

〔二〕出雲本、古本に據りて今之れを補へり。

〔霜降〕寒露の次の十五日間をいふ、陰暦九月中にて、陽暦十月廿三日頃に當る。

〔立冬〕霜降の次の十五日間をいふ、陰暦十月中にて、陽暦十一月七日頃に當る、之れより冬の季節に入る。

卯四刻五分開大門鼓。
巳三刻八分退朝鼓。
酉三刻六分閉門鼓。

起秋分十日至寒露二日。日出卯三刻二分。日入酉二刻七分。
卯二刻六分開諸門鼓。
卯四刻七分開大門鼓。
巳四刻退朝鼓。
酉三刻三分閉門鼓。

起寒露三日至十日。日出卯三刻五分。日入酉三刻五分。
卯二刻九分開諸門鼓。
辰一刻一分開大門鼓。
巳四刻二分退朝鼓。
酉三刻一分閉門鼓。

起寒露十〔二〕日至霜降三日。日出卯三刻七分。日入酉二刻二分。
卯三刻一分開諸門鼓。
辰一刻二分開大門鼓。
巳四刻四分退朝鼓。
酉二刻八分閉門鼓。

起霜降四日至十一日。日出卯四刻。日入酉二刻一分。
卯三刻四分開諸門鼓。
辰一刻五分開大門鼓。
巳四刻六分退朝鼓。
酉二刻六分閉門鼓。

起霜降十二日至立冬四日。日出卯四刻二分。日入酉一刻七分。
卯三刻六分開諸門鼓。

辰一刻七分開大門鼓。
巳四刻八分退朝鼓。
酉二刻三分閉門鼓。

起立冬五日至十二日。日出卯四刻五分。日入酉一刻五分。

卯三刻九分開諸門鼓。
辰一刻七分開大門鼓。
午一刻一分退朝鼓。
酉二刻一分閉門鼓。

起立冬十三日至小雪五日。日出卯四刻七分。日入酉一刻二分。

卯四刻二分開諸門鼓。
辰二刻五分開大門鼓。
午一刻二分退朝鼓。
酉二刻八分閉門鼓。

起小雪六日至十五日。日出卯四刻終。日入酉一刻一分。

卯四刻四分開諸門鼓。
辰二刻五分開大門鼓。
午一刻四分退朝鼓。
酉一刻六分閉門鼓。

起大雪一日至十二日。日出辰一刻一分。日入申四刻七分。

卯四刻五分開諸門鼓。
辰二刻六分開大門鼓。
午一刻五分退朝鼓。
酉一刻三分閉門鼓。

右依前件撃鼓各二度。度別十二下。從細聲至大聲。

諸時撃鼓。

〔小雪〕立冬後十五日間をいふ、陰暦十月中にて、陽暦十一月廿二日頃に當る。

〔二刻五分〕京、林の二本は二刻六分に作れり。

〔一刻六分〕京、林の二本は一刻三分に作れり。

〔大雪〕小雪後十五日間をいふ、陰暦十一月節にて、陽暦十二月七日頃に當る

〔諸時鼓〕

〔時上直事〕貞觀儀式にはこの下に、「一人一事」の四字あり。

儺祭

〔疋〕原本には人とあり、貞觀儀式に據りて改めたり。

〔桃弓杖葦矢〕桃の弓、桃の杖、葦の矢にて、皆追儺に群臣之れ等を持ちて鬼を儺ふものなり。

神祭

〔庭火幷平野竈神祭〕平野の祭神なる古開神は庭火の御竈、即ち內膳司に置かれて主上の朝夕の御饌を調進する爲めの御竈の靈なるを以て之れを祀る祭也。

子午各九下。丑未八下。寅申七下。卯酉六下。辰戌五下。巳亥四下。並平聲。鐘依刻數。

儺祭新。

五色薄絁各一尺二寸。飯一斗。酒一斗。脯醢堅魚鰒乾魚各一斤。海藻五斤。鹽五升。柏廿把。食薦九枚。匏二柄。缶一口。陶鉢六口。松明五把。祝新當色袍一領。袴一腰。

右預前申省請受。依件辨備。十二月晦日昏時。官人率齋郎等候承明門外。郎依時剋共入禁中。齋郎持食薦安庭中陳祭物訖。陰陽師進讀祭文。其詞曰。今年今月今日今時。時上直府。時上直事。時下直府。時下直事。及山川禁氣江河谿谷二十四君。千二百官。兵馬九千萬疋。已上音讀。位置衆諸前後左右。各隨其方。諸定位可候。大宮內爾神祇官宮主能伊波比奉里敬奉留。天地能諸御神等波。平久於太比爾伊麻佐布倍志登申。事別氏詔久。穢惡伎疫鬼能所所村村爾藏里隱布留乎波。千里之外。四方之堺。東方陸奧。西方遠値嘉。南方土佐。北方佐渡與里乎知能所乎奈牟多知疫鬼之住加登定賜比行賜氏。五色寶物海山能種種味物乎給氏。罷賜移賜布所所方方爾急爾罷往登追給登詔爾。挾奸心氏留里加久良波。大儺公小儺公持五兵氏追走刑殺物曾登聞食登詔。

凡追儺新。桃弓杖。葦矢。令守辰丁造備。其矢新蒲葦各二荷。攝津國每年十二月上旬採送。

庭火幷平野竈神祭。坐內膳司。

神座十二前。各六前。

名香二兩。紙六十張。布一丈六尺。黍稷飯各一斗二升。酒二斗。鯉魚四隻。乾魚鮮各二斤。東鰒二斤。堅魚六斤。鼓鹽各二升。赤白餠各卅六枚。棘栗各二升。精米鳥穀各二斗。挽十二口。坏卅口。盤卅口。折櫃六合。桶一口。杓二柄。缶一口。中取一脚。柏六把。炭五斗。松明廿把。席四枚。食薦八枚。淨衣六具。新庸布六段。巾二條。福酒新錢一貫文。

右毎月癸日之中擇二其吉日一祭。若當二御忌一避レ之。其料物者。前レ祭申レ省。省移二所司一請受。

御本命祭。

神座廿五前。

名香廿五兩。紙七百五十張。作二錢形二万五千文。鞍形二百五十疋。馬形五十疋一料。筆一管。墨一廷。小刀一柄。布一端。敷布料。脯廿五胸。酒醴各三斗。米三斗。筵七枚。食薦十三枚。坏二百口。盤五十口。折櫃八合。桶二口。杓五柄。中取二脚。松明卅把。炭五斗。缶二口。瓮二口。錢二貫文。淨衣六具。巾二條。中宮准レ此。

右料物前レ祭請二內藏寮。毎レ年六度祭レ之。其中取年中一度請二木工寮一通用。

三元祭。

神座九前。

名香三兩。紙三百張。錢形九千文料。菓子五升。脯九胸。油七合。燈臺七基。高各三尺。布一尺。燈炷料。茅一束。為レ薦料。酒醴各二斗。白米二斗。折櫃九合。坏五十口。盤廿口。薦七枚。食薦九枚。中取三脚。桶一口。杓四柄。缶二口。炭五斗。松明十五把。錢二貫文。淨衣四具。巾十條。

右料物前レ祭請二內藏寮。毎年三度祭レ之。其燈臺中取年中一度請二木工寮一通用。

幕二條。一條橡東絁。一條紺調布。並隨二破壞一請換。

凡講レ書博士以下座料。紺布端茵四枚。長疊三枚。並隔二三年一申レ省請受。

勸學田十町。河內國五町。攝津國五町。

右件田依二當土估賃租一以充二諸生等食料一。

御本命

〔御本命祭〕主上が本命に當る日を祀る祭をいふ、御本命の日は御生誕の年と同支干に當る日を申す、之れは至尊に限らず、平人にもいふ事なり、例へば甲子の年に生れたる人は甲子の日を以て本命日とするが如し、禁祕鈔に「御本命日、必可レ有二御精進一、神所善事等又同不レ可レ有二懈怠一云々」と見えたり。

三元

〔錢形〕紙にて錢の形に造り、燈臺又は神座として敷くもの也、和名抄には加美勢爾、又た勢爾加太とあり。

年新撰式延

月新紙一百張。奏紙五十張。凡五十張。筆一管。

延喜式卷第十六

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔奏紙〕原本には「參紙」とあり、出雲本によりて改めたり。

延喜式卷第十七

內匠寮（タクミノレウ・ウチノタクミノ）

凡每年元正。前一日宮人率木工長上雜工等。裝飾大極殿高御座。蓋作八角。角別上立小鳳像。下懸以玉幡。每面懸鏡三面。當頂著大鏡一面。蓋上立大鳳像一隻。惣鳳像九隻。鏡廿五面。幔臺一十二基。立高御座東西各四間。又敷設立南庭白銅大火爐二口。備擎入盛火袋。中階以南相去十丈。東西之間相去六丈。又建烏像幢等之處。率同工一人。其蕃客朝參之時亦同。元日高御座餝物收內藏寮。當時出用。幔臺及火爐收寮。

凡正月齋會。前一日長上率雜工等。從圖書寮運高座具。搆立大極殿。事了返送本寮。

凡諸節。前一日官人率雜工等。豐樂殿立軟障臺六基。三基立高御座東三間。一基立西一間。二基立母屋西二間。小安殿以信濃布張東隔蓋代。事了卸收。倚擎臺泥板方三丈。行幸之前二日令畫所繪。但蕃客之時畫方六丈。

凡五月五日節。前一日武德殿搆立斗帳又軟障臺二基。立御座壇以南西二間。其神泉苑立斗帳亦同。但軟障十基。御帳東西各五基。

銀器。

御飯笥一合。徑六寸。深一寸七分。 新銀大二斤八兩。炭一石二斗。和炭二石。油三合五勺。長功日十六人。火工五人。轆轤工四人。磨三人。夫四人。中功日十九人。工十四人。夫五人。短功日廿二人。工十六人。夫六人。

酒盞一合。受二斗五升。 新銀大七斤八兩。炭二石。和炭七斛五斗。油八合六勺。長功卅四人。火工十二人。轆轤六人。磨四人。夫十二人。中功卅九人。工廿六人。夫十三人。短功卌三人。工廿九人。夫十四人。

〔軟障臺〕軟障を引きたつる臺也、軟障とは帷幕の如き物にて、壁に立て引くもの也、河海抄に「軟障、有レ圖ニ畫松一也、謂ニ高松軟障一、堂上立ニ軟障一、堂下引レ幔、又堂下有レ立ニ軟障一內宴妓樂之時云々」と見えたり。

〔武德殿〕朝廷にて武技を演ずる所大內裏殷富門內に在り。

〔信濃布〕信濃國より產する布にてしなといふ木の皮の纖維より製したる太く粗き絲にて織りたる布なる由安齋隨筆に見ゆ。

大極殿飾　弘貞

齋會

武德神泉

銀器

弘貞

杓一柄堇長一尺七寸。受二三合一。新、銀大十兩。和炭七斗。油七勺。長功四人。火工一人。磨三人。中功四人半。短功五人。

酒臺一口高六寸三分。廣六寸。新、銀大一斤四兩。炭六斗。和炭一斛三斗。油一合四勺。長功一十人。火工五人。轆轤一人。磨二人。夫二人。中功一十二人。工九人半。夫二人半。短功十三人大半。工十一人。夫二人大半。

盞一口受二三合一。加二盞盤一。新、銀大一斤。炭六斗。和炭一石二斗。油一合五勺。長功一十人。火工二人。轆轤三人。磨二人。夫三人。中功一十一人。工八人。夫三人。短功一十二人。工九人。夫三人。

水鋺一口徑六寸五分。深一寸五分。新。銀大一斤二兩。炭五斗。和炭一石二斗。油一合五勺。長功九人。火工二人半。轆轤二人。磨二人。夫二人。中功一十七人半。工一十二人大半。夫四人大半。短功十二人。工一十人。夫二人。

盤一口徑七寸五分。新、銀大十四兩。炭四斗。和炭八斗。油一合六勺。長功七人。火工二人。轆轤二人。磨一人。夫二人。中功七人小半。短功七人大半。

漆器

漆供御雜器。

膳櫃一合。長三尺三寸。深八寸五分。廣二尺三寸。下案一脚。長五尺四寸。廣二尺四寸。高一尺七寸。並塗二赤漆一。新、漆一升二合。荏油四合。綿六兩。絁布一尺二寸。炭一斗五升。功六人半。

手湯戶一口周五尺八寸五分。高二尺五寸五分。盞一枚周三尺五分。新、漆三升。掃墨五合。貲布九尺。綿一斤四兩。絁布各一尺二寸。油二合。功五人大半。

水槽一口周三尺五寸。高一尺二寸五分。新、漆一升一合。貲布四尺。掃墨三合。綿十兩。絁布各一尺二寸。油二合。炭一斗。功二人。

手洗槽一口周七尺一寸。高九寸。已上四種。木工寮所レ作。新、漆二升五合。貲布八尺五寸。掃墨五合。綿一斤。絁布各一尺二寸。油二合。炭二斗。功四人。

〔一斛〕夢溪筆談に「鈞石之石、五權之名、石重百二十斤、後人以二一斛一爲二一石一、自レ漢已如レ此、飲酒一石不レ亂、是也、挽二蹶弓弩一、古人以二鈞石一率レ之、今人乃以二粳米一斛之重一爲二一石一、凡不者以二九十二斤半一爲レ法、乃漢秤三百四十一斤也」とあり。

〔荏油〕えごまの實より製したる油也。

〔木工寮〕宮殿の營作採材の事を掌る又、祭器、財具、倚子、床子、案等も此寮にて調進す。

大椀一口（徑八寸六分。深三寸。）新漆一合七勺。貲布一尺。掃墨四勺。綿二兩。功半人。

中椀一口（徑七寸八分。深二寸。）新漆一合四勺。貲布九寸。掃墨四勺。綿二兩。功半人。

盤一口（徑八寸。）新漆一合一勺。貲布五寸。掃墨三勺。功半人。

窪坏一口（徑五寸。深一寸五分。）新漆七勺。貲布三寸。掃墨二勺。功小半人。

朱漆器。

臺盤一面（長八尺。廣三尺三寸三分。）新漆一斗一升二合。朱沙一斤四兩。帛四尺。綿三斤十二兩。貲布二丈。調布六尺。掃墨二升。油二合。小麥一升。青砥伊豫砥。（其數隨レ用。下條不レ顯ニ顆數一者亦准レ此。）炭一石。長功卅八人。中功卅四人。短功五十人。

臺盤一面（長四尺。廣三尺二寸五分。）新漆五升六合。朱沙十兩。帛二尺。綿二斤。貲布一丈。調布三尺。掃墨一升。油一合。小麥五合。青砥伊豫砥。炭五斗。長功十九人。中功廿二人。短功廿五人。

八尺臺盤臺一脚（長七尺六分。廣二尺五寸七分。高一尺五寸五分。）新漆五升。絹一尺五寸。布二尺。綿一斤十兩。掃墨一升。油二合。細布五尺。（結新。）伊豫砥青砥各小半顆。炭五斗。單功廿五人。

四尺臺盤臺一脚（長三尺二寸。廣二尺三寸。高一尺五寸五分。）新漆二升五合。絹布各一尺。綿十三兩。掃墨五合。油一合。細布三尺。（結新。）伊豫砥青砥各小半顆。炭二斗五升。單功十三人。

酒海一合（受二一斗五升一。）新漆一升六合。朱沙六兩。貲布五尺。絁布各二尺。綿八兩。掃墨二合。油一合。長功卅四人。中功卅人。短功卅六人。

花盤一口（徑九寸。）新漆一合五勺二撮。朱沙一分四銖。貲布九寸。絁布各二寸。綿三分。掃墨二勺。油一勺。長功一人大半。中功二人。短功二人小半。

〔盤〕食物を載する器にて、「丸盆」に似たる皿の類なりと云ふ、今昔物語にも「夕べの食物まゐらせんと、盤にとゝのへて」とあり

朱漆器

〔臺盤〕盤を載する臺也、四足にして今日の食卓の如きもの也、貞丈雜記に「盤は清みて讀むを故實なりと云へり、長臺盤（長八尺、二人以上の料）切臺盤（長四尺、一人の料）小臺盤（切臺盤より小なり）等あり云々」とあり。

〔青砥〕和名抄に、「青礪、唐韻云、礛䃴、和名阿乎度、青礪也」とあり、合磨石、中砥等に用ふ。

倭椀一口徑八寸。新漆一合二勺、朱沙一分、貲布五寸、絁布各一寸、綿三分。掃墨二勺、油一勺、炭一升、長功一人大半。中功二人、短功二人小半。

羹椀一口徑七寸。新漆一合二勺、朱沙一分。貲布五寸。絁布各一寸、綿三分。掃墨二勺。油一勺炭一升長功一人小半。中功一人大半。短功二人。

[illegible]
擎「王」子一口徑七寸。新漆一合一勺。朱沙一分、貲布五寸。絁布各一寸。綿二分、掃墨一勺、油一勺、炭一升、長功一人。中功一人小半。短功一人大半。

盞一口徑五寸。新漆「一合」七勺。朱沙一分。貲布二寸四分。絁布各一寸。綿二分。掃墨一勺、油一勺、炭一升。長功一人。中功一人小半。短功一人大半。

盤一口徑八寸。新漆一合一勺。朱沙一分、貲布五寸。絁布各一寸。綿二分。掃墨一勺、油一勺、炭一升、長功一人。中功一人半、短功二人。

盤一口徑七寸。新漆一合。朱沙一分、貲布四寸、絁布各一寸、綿二分、掃墨一勺、油一勺、炭一升。長功一人中功一人半。短功二人。

盤一口徑六寸。新漆七勺。朱沙一分、貲布二寸四分、絁布各一寸、綿二分、掃墨一勺、油一勺、炭一升、長功一人、中功一人小半。短功一人大半。

盤一口徑五寸。新漆六勺。朱沙一分、貲布二寸、絁布各一寸。綿一分、掃墨一勺、油一勺、炭一升、長功一人、中功一人小半。短功一人大半。

割「瓜」刀子廿枚双長五寸。每年五月一日七月一日兩度。盛二瑞笥一合一進レ之。其笥用二年新內一。　新　堅鐵大六斤四兩、膠小十二兩、木賊小八兩、伊豫砥二顆

〔朱沙〕天工開物に「凡朱砂、水銀、銀朱、原同一物、所二以異レ名者、由二精粗老嫩一而分也」とあり、續日本紀、文武天皇二年九月の條に「乙酉、令三近江國獻二金青、伊勢國朱沙雄黄、常陸國備前伊豫日向四國朱沙一云々」とあるを初見とす。

〔「王」子〕貞京二本に據れば、衍字也一本に「擎子似二銚子一也」とあり。

〔「一合」〕貞京二本に據れば衍字也、古本なし、異本これを載す。

〔割レ瓜〕雲州家本に「割レ菰」に作る。

革筥

〔鷹鼻〕原本「鴈鼻」に作る、京貞二本に據りて改む、下「刀子筥」の註亦同じ。

〔三合〕主殿式五合に作る。

〔皮刀〕一本に皮字なし。

柳筥

〔六十二人〕及「六十三人」は上の「花形釘四百卌四人」とあるを以つて考ふるに、「六十二人」及び「六十一人」に作るべし。

〔和炭〕和名抄に「和炭、邇古須美今案一云。加知須美」とありて、松尾筆記に「延喜式に和炭あり、炭(アラスミ)と別に出せり、炭は今の堅炭也、和炭は鍛冶炭也」とあり。

〔二分〕分注に據れば衍字也。

檜小半村。新。紙十張。敷刀子筥新。和炭三斛。單功七十五人。工七十人。夫五人。

年料革筥廿合。就中衣筥四合。二合各長二尺。廣一尺八寸五分。深五寸。二合各長二尺。廣一尺七寸。深四寸。衣筥六合。鷹鼻。各長一尺五寸五分。廣一尺三寸。深二寸五分。劒緒筥一合。長一尺二寸二分。廣一尺一寸二分。深二寸。巾筥二合。各方一尺二分。深八分。唾巾筥二合。各長一尺五分。廣八寸。深八分。櫛筥四合。各長一尺一寸五分。廣一尺三寸。深一寸五分。刀子筥一合。鷹鼻。長一尺二寸。廣一尺。深一寸二分。新。牛皮十張。各長八尺已下。七尺已上。鹿皮十張。各長五尺已上。漆六斗六升四合。熟麻廿斤七兩。張縄新。帛一丈五尺。石見庸綿廿二斤十兩。掃墨二斗四合。黏料信濃調布四端二丈五尺。小麥二斗四合。伊豫砥五顆。青砥四枚。橡絁一疋三丈。革筥工三人衣袴新。苧四斤九兩。縁新。絹六尺四寸。油三升三合。鐵二廷。皮燒并皮刀新。調布八尺八寸。炭九斛二斗五升。和炭二斛二斗三升。歩板六枚。筥形新。單功七百六十一人。工七百十人。夫五十一人。

年料柳筥一百六十八合。一尺六寸已下。一尺以上。料柳一百三連。山城國進之。織筥料。生絲一十二斤。巾料。調布一丈。浸柳料。商布一段。長功三百卅六人。中功三百九十二人。短功四百卌八人。

年料五尺屛風骨五十帖料。榲榑大七十五村。以一村半宛一帖。五十村近江國所進。廿五村上奏所請。檜榑十村。料七村押木一千二百枚料。三村鑄釘押形料。波多板四枚。作鑄形料。押形料。熟銅百卅二斤十三兩二分。卅九斤十三兩二分作肱金一千二百枚料。以十二兩充廿四枚。斤別加損分一兩。九十三斤鑄五分花釘一万八千六百隻料。以一斤得二百隻。滅金百三兩四銖。五十兩塗肱金料。以一兩充廿四枚。五十三兩四銖塗花形釘料。以一兩宛三百五十隻。滅銀廿五兩「二分」。鏤肱金料。以二分充廿四枚。水銀八十三兩二分二銖。廿五兩塗肱金料。卅九兩三分二銖塗釘料。十八兩三分合銀滅料。鐵四廷。三廷鑄釘易鎌料。一廷鑄釘押形固料。漆一斗二升五合。以二合五勺充一紐押木廿四枚。絹一丈。布一端二丈。石見綿四斤二兩。麻大十斤。掃墨四升。油一升。酢九升三合。猪髮十把。筐百五十株。塗花形釘金料。筆十五管。畫肱金料。鑄二廷料。洗革四枚。伊豫砥七顆。青砥三枚。炭七十一斛七斗。和炭六十七斛九斗。單功二千八十四人。作骨工二百五十人。以二人一帖充五人。作肱金工千三百人。火作四百人。錯磨四百人。鏤打押並五百人。作花形釘四百卌四人。鑄六十二人。錯三百十人。塗並六十三人。夫百人。

〔熟新〕絹物其他布帛類を熟練する料也。

〔鑄〕古本傍書に「鑄或說云、帶石之總名也、只可レ用ニ音讀一」と、又一本傍訓に「オヒノイシ」とす。（御帶）

〔鐵三廷〕原本二廷に作る今京貞二本に從ふ。（御鏡）

〔白鑞〕白鐵に同じ、「シロミ」又は「シロメ」と訓む、鉛と錫の合成にして、金物を繼ぎ合はす料也。（御劔）

（內印）

〔臈〕臘の俗字也、雨刃也と云ふ。（外印）

年新几帳八基。四尺四基。三尺四基。新、檜榑八村。土居并桟柱等新採二榮柚一。熟銅十四兩。滅金一兩一分。水銀二分。漆二升。帛一尺二寸。絹二尺。布一尺二寸。石見綿十兩。掃墨六合。油三合。伊豫砥半顆。青砥一枚。炭八斗。和炭一斛。單功七十七人。木作工卅人。漆塗工廿二人。作二金物一工十五人。

御鏡一面。方七寸。新。熟銅大四斤。白鑞大一斤四兩。銀大十二兩。熬炭五斗。和炭五斗。伊豫砥青砥鐵精二分。帛二尺五寸。綿四兩。調布二尺。油一合。長功廿二人。鑄工二人。磨十八人。夫二人。中功廿五人大半。工廿三人小半。夫二人小半。短功廿九人小半。工廿七人。夫二人小半。

馬瑙御腰帶一條。六道。馬革一條。長七尺。廣六寸。縫新生絲一分。拭新調布五寸。入ル革脉ニ新学小一兩。張レ革繩新麻小七兩。黏（ネヤシノ）新米一合。作レ革新油一合。鹽三合。糟三升。染新酢一合。漆三勺。炭五升。鑄具石一顆。方四寸。切レ石新大坂沙一石。鐵三廷半。裏并鉸新銀大六兩。長功一百七十五人。革工七人。石七十二人。銀十五人。夫八十一人。中功二百四人小半。工一百九人大半。夫九十四人半。短功二百卅三人小半。工一百廿五人小半。夫一百八人。

御太刀一口新。堅鐵十斤五兩。裝新銀大五兩。鮫皮一條。長六寸。廣三寸五分。椎一枚。長二尺五寸。廣三寸。厚一寸。鹿革一條。長三尺五寸。廣七寸。膠小二兩。漆二合。絞レ漆帛二尺。綿六兩。調布三尺。長功卅三人。鐵工十八人。銀九人。革二人。漆六人。夫八人。中功五十人小半。工四十一人。夫九人小半。短功五十七人半。工卅七人。夫十人半。

內印一面新。熟銅大一斤八兩。白鑞大三兩。臈大三兩。調布二尺。炭三斗。和炭二斗。長功七人。取二臈樣一工二人。鑄二人。磨三人。中功八人小半。短功九人大半。

外印一面新。熟銅大一斤。白鑞大二兩。臈大二兩。調布二尺。炭二斗。和炭二斗。長功七人。臈工二人。鑄二人。磨二人。中功八人小半。短功九人大半。

諸司印一面料。熟銅大十四兩。白鑞大一兩二分。鑞大一兩二分。調布二尺。炭二斗。和炭二斗。長功六人。磨工二人。鑄二人。磨二人。中功七人小半。短功八人大半。

諸國印一面料。熟銅大十二兩。白鑞大一兩一分。鑞大一兩一分。調布二尺。炭二斗。和炭二斗。長功五人。磨工一人。鑄二人。磨二人。中功六人大半。短功七人小半。

御斗帳一具。高八尺一寸。方一丈二尺二寸。土居料六七寸榍二枚。柱料簀子十四枚。天井料檜榑八材。熟銅大八斤。滅金小六兩二分。水銀小三兩一分。鐵二廷。膠小十二兩。漆一斗四升。掃墨四升。洗刷料油四合。木賊四兩。筐十株。洗革方一尺。酢二合。天井裏料白綾一疋五丈三尺。表料帛一疋五丈二尺。縫料絲三兩。絞漆料帛三尺。石見綿四斤。調布三尺。下銅湯料調布三尺。巾料布二尺。黏料糯米二升。伊豫砥一顆半。青砥一枚。合漆料燒土一斗四升。炭二斛。和炭十一斛七斗五升。長功二百卌二人。木工七十一人半。銅四十二人半。鐵八人。畫三人。漆百一人。張二人。夫十四人。中功二百八十二人小半。工二百六十六人。夫十六人小半。短功三百廿三人。工三百四人。夫十九人。

御輿一具。長一丈四尺。廣三尺一寸。柱高四尺八寸。斗內長。三寸。廣三尺二寸。脚高六寸。障子四枚。一枚長五尺。高二尺。一枚高四尺三寸。廣三尺五寸。二枚各高三尺二寸。廣九寸。蓋一枚。長六尺。廣五尺四寸。長桁幷梁間等料五六寸榍二枚。壁代幷平帖束柱等料步板二枚。枌料簀子二枚。柱桁幷蓮花等料榥十三枚。簀子敷幷棉梠障子押等料檜榑二材。骨料榲榑二材。蓋椽料簀子木廿六枚。笠縫氏供。蓋下棧料川竹十株。蓋料菅一圍。山城國進。熟銅大廿三斤。水銀小十五兩。銀大一兩二分。滅金小一斤十四兩。釘料三廷。膠小四兩。漆一斗。掃墨三升。油四合。伊豫砥一顆半。青砥一枚。障子料緋綾四丈。下張料東絁三丈五尺六寸。緣料錦一丈三尺。縫料緋絲一兩。生絲六兩。絞漆料帛三尺。石見綿三斤。調布一尺五寸。下銅湯料調布六尺。巾料調布六尺。浸漆幷拭料商布一段。黏緣料薄紙十六張。糯米一升三合。小麥五合。燒土一斗。炭二斛七斗。和炭五十二斛五斗。長功三百卌人

諸司印

〔析二枚〕枚字、貞本「枚」に作る。

諸國印

〔二百卌二人〕原本「二百卌二人」とす、下註によりて改む。

御帳

〔斗內長・三寸〕・印の所脱字あるべし、斗內は齋宮に「輿斗內長三尺一寸」「腰輿斗內長三尺」とあれば、恐らくは尺數を脱せり。

御輿

〔棉〕「簀子敷幷棉梠障子押等」の棉字原本「榥」に作る、京貞二本及和名抄によりて改む

〔榲榑〕杉材也、榑は和訓栞に「くれ　材木に云ふは木斷(キレ)の約にや」とあり。

〔四百五十三人半〕下註に「工四百一人大半、夫五十人」とあり、其の是非考ふべし、又「夫五十人」の下、例によれば、大小半の區別を脱せり。

腰輿

〔腰車〕一本に「腰車近代不レ知二其樣一、或云唐車也、今按輦也」とあり。

腰車

〔滅金〕和訓栞に「めつき、延喜式に滅金と見えたり明の書に磨薄を鍍金と云ふが如し、金めつきは鍍金云々、鍍は字彙に以金飾物也と見えたり」とあり。

牛車

〔四〕原本なし、今京貞二本に據りて補ふ。

木工五十五人，銅百卌七人。鑪七人。漆六十人。鑪七人，張五人，繩笠廿人，夫卌九人。中功三百九十四人大半。工三百五十一人小半。夫卌三人半。短功四百五十三人小半。工四百一人大半。夫五十人•。•。

御腰輿一具。桁長一丈四尺，廣二尺九寸，高五寸。桁榻新蓋子一枚，不帖束柱新步板一枚，鳥居高欄新檜榑一材。熟銅大一斤十兩，滅金小一兩一分。水銀小二分三銖。鐵一延。漆四升。掃墨一升五合。油二合。帛一尺二寸。石見綿一斤八兩。調布四尺二寸。伊豫砥半顆。青砥一枚。燒土七升。炭六斗。和炭三斛二升。長功七十八人。木工廿四人，銅九人，鐵二人。畫半人，漆卅六人，夫六人半。中功九十一人。工八十三人小半。夫七人大半。短功一百四人。工九十五人半。夫八人半。

腰車（コシクルマ）一具。屋形長六尺，廣五寸。障子六枚二枚各高二尺六寸，廣二尺，四枚各高二尺六寸，廣六寸五分新榻廿四枚。四枚各長八尺五寸，方二寸五分，四枚各長三尺，方二寸五分八枚各長四尺五寸。方一寸五分，二枚各長五尺，廣一尺一寸，厚二寸五分，四枚各長三尺五寸，方二寸五分，二枚各長二尺，徑七寸。轅并高欄新榑七十二枚，柱并高欄鳥居等新檜榑二村。桁并椽箕形新步板四枚。熟銅大十一斤二兩。滅金小十兩三分。水銀小三兩三分三銖。鐵十一延。漆四升。掃墨一升五合。胡麻荏油各三合。帛一尺二寸。石見綿一斤八兩。伊豫砥二顆半。青砥一枚。白綾四丈。油絹二丈八尺。兩面一丈一尺二寸。錦一尺五寸。東絁二丈二尺四寸。練絲二兩。調布三丈二寸。東席二枚。苧大五兩。毛斯草二圍半。糯米一升。小麥一升。炭（フラスミ）九斗。和炭（ニギミ）廿四斛六斗。熟炭五斗。燒土五升。長功二百九十二人半。木工一百十九人。銅五十六人半。鐵卅五人半。畫三人。釘四人，鐵十二人，漆廿二人，夫卅八人半。中功三百卅一人。工二百九十四人，夫卅七人。短功三百八十九人大半。工三百卅六人。夫五十三人大半。

牛車一具。屋形長八尺，高三尺四寸，廣三尺二寸。轅新榑廿八枚，轅輻新榑九十七枚，椿新榑二枚。博風四枚新步板四枚。檜榑五村。軸（ヨコカガ）木一枚。熟銅大卌斤。滅金小廿兩。水銀小八兩。鐵四延。漆五升。胡麻油荏油各四合。掃墨二升五合。帛三尺。石見綿八兩。調布一端一丈二尺。伊豫砥二顆。青砥二枚。燒土五升。白綾五丈。油絹五丈。練絲五兩。出雲席二枚半。毛斯染苧卌四兩。炭十一斛。和炭五十斛。銀小八兩。鐵三斤物二斤洗革一枚。木賊七兩。糯米三升。猪髮二把。釘一具。絹

檉一具。柱十八株。六株各長一丈四尺、圍一尺二寸、十二株各長二丈、圍一尺。析。漆四升五合。掃墨二升。單功七人。長柱一枚長一丈、圍七寸。析。漆二合二勺。掃墨一合。功少半人。幕桁一枚。長一丈三尺。柱二枚各長九尺、圍一尺五分。析。漆七合。掃墨五合。功一人。

雕木一脚。長一尺七寸、廣一尺三寸。高一尺一寸。木工寮作之。桶一合。高九寸、徑九寸五分。帽子一合。析。漆二升四合。雕木八合。油一升二合。鹵子四合。石見綿一斤。絹一尺五寸。貲布八尺。調布一尺五寸。掃墨一升。油二合。伊豫砥半顆。青砥半枚。炭八斗。單功十七人。雕木六人。漆八人。鹵子三人。

凡五月六日毬子廿九●管。盛ニ褐。預造備。騎射畢。即當ニ武德殿南階西邊。允已上一人率ニ番上一人ニ持候。隨ニ殿上喚ニ進之。

大寒日立ニ諸門ニ土偶人十二枚。各高二尺。土牛十二頭。各高二尺、長三尺。析。青土二升。赤二升。白二升。黄四升。掃墨二升。酒一升。糯米一斗二升。藁八圍。板廿四枚。十二枚立ニ偶人ニ各方一尺五寸。厚二寸。十二枚立ニ牛ニ各長三尺五寸、廣一尺五寸、厚二寸。木工寮毎年充之。功一百卌四人。工九十六人。夫卌八人。

伊勢初齋院裝束。

白木斗帳一具。高八尺、方一丈。析。五六寸桁一枚。鐶子十枚。檜榑四村。熟銅大七斤。滅金小五兩。水銀小一兩二分。鐵一延半。調布五尺五寸。伊豫砥。膠小六兩。木賊小三兩。帛一疋五尺。白絁一疋五尺。練絲三兩。糯米三升。炭七斗五升。和炭九斛二斗五升。長功一百十三人。木工五十三人半。銅卌一人半。鍛七人。畫二人。夫九人。中功一百卌二人。工一百卅一人小半。夫十人大半。短功一百五十一人。工百卅八人大半。夫十二人小半。

几帳六基。四尺二基。三尺二基。二尺二基。析。檜榑三村。枝柱等析。尺九寸桁一枚。長三尺。六七寸桁一枚。長五尺。土居析。並熟銅大八兩。滅金小一兩。水銀二分。漆一升五合。絹一尺五寸。細布一尺五寸。綿十兩。掃墨五合。油三合。伊豫砥半顆。青砥一枚。炭六斗和炭五斗。單功五十三人。木作工廿人。漆塗廿人。銅十三人。

毬子

〔毬子廿九〕例によれば此の下「丸」字を脱す、或は「九」は「丸」の誤か

偶人

〔武德殿〕朝廷にて武技を覽ずる所、駒牽、御馬奏、騎射等行はるる時、天皇臨御せらるる也、馬採殿、弓場殿、馬場殿等の稱あり、大内裏殷富門内にあり。

初齋院裝束

斗帳

〔糯米三升〕原本に「三」を「二」に作る、今京貞二本に據りて改む。

几帳

〔銅卌一人半〕「卌」原本「卅」に作る今京貞二本に據り又上記合算人員「一百十三人」とあるに照して改む

〔鎭子〕おもし也、簾のすそ、壁代等のはしに置き押となすもの也。

〔廣〕槻十三枚の下註「廣」原本「方」に作る、雲本の説によりて改む。

〔九〕長功三百廿九人の「九」恐らくは誤りなり、下註細別人員を考ふべし。

〔六〕原本なし、御輿の條によりて補ふ。

〔腰輿〕和名抄に「腰輿、和名太古之」とあり手輿の意手にて舁く輕便なる輿也

〔漆四升〕本「升」を「斗」に作る。

〔長功一百五十人半〕下註の人員細別によれば、「百四十一人半」也。

野宮裝束

斗帳

輿

腰輿

床一脚（方六尺）。料、漆四升、絹三尺。綿十二両。細布三尺。信濃布六尺。掃墨一升。焼土一升。伊豫砥半顆。青砥一枚。炭五斗。單功十二人。

鎭子十二枚料、熟銅大十四斤。白鑞十二両。鐵二廷、炭十二斛。和炭二斛。單功百人。

藥袋卅四枚料、六七寸桁一枚。白鑞薄十七枚、（方八寸）。阿膠九両、炭一斛。漆六升八合。絹五尺。綿二斤。調布二丈。掃墨三升。焼土二升、油五合。炭一斛、單功百人。（木工四十八人、漆工卅四人。白鑞十八人。）

野宮裝束。

白木斗帳一具。几帳四基。（三尺二基。二尺二基。）五尺屛風四帖。韓櫃四合。奩盤四面。（各四尺、）雕木一具。大壺一合。（已上七種料物單功同初齋院。）

輿一具。（長一丈四尺、廣三尺、高五尺四寸。斗内長三尺一寸）障子四枚（一枚長四尺八寸、廣一尺八寸。一枚高四尺一寸。廣三尺三寸五分　二枚各高三尺。廣六寸五分。）料、五六寸桁二枚、壁代束柱鳥居等料、歩板二枚（各長五尺、方二寸、但一枚廣一尺。）平桁料檜榑二村、楣十二枚、杉料、簀子二枚、障子骨料檜榑二村、熟銅大四十六斤。鍍金小一斤十二両。銀大一両。水銀小十四両。鐵三廷、炭二斛一斗。和炭五十斛五斗。漆九升。掃墨二升、焼土一斗、絹三尺、油三合。淺紫纐帛三丈六尺。東絁三丈六尺、錦一丈三尺。紫絲二両。生絲六両。石見綿三斤。調布一丈三尺五寸。商布一段、漆小一斤、薄紙十五張、膠小四両、伊豫砥一顆。糯米一升三合。小麥五合。長功三百廿九人。（木工卅七人。銅一百卌七人、鍛七人、漆六十人。畫七人、裝五人。縫十人、夫卅八人。）中功三百八十四人。（工三百卌八人半。夫卅五人半。）短功四百卌八人。（工三百九十五人。夫五十三人。）

腰輿（タゴシ）一具、（長一丈二尺、廣二尺九寸。斗内長三尺。高五寸。）障子二枚（一枚長五尺、廣二尺。一枚長五尺、廣二尺二寸。）料、簀子二枚。壁代梁料歩板一枚、高欄鳥居等料檜榑半村。障子骨料檜榑一村、熟銅大十二斤。鍍金小七両、水銀小三両二分、鐵一廷、漆四升。掃墨一升、帛一尺二寸。石見綿一斤八両。調布七尺二寸。油二合、淺紫纐帛二丈六尺。東絁二丈六尺、錦八尺、淺紫絲二分。纐絲二

〔幕柱二枚〕例によれば「各長」を註するを脱せり。

〔廿九人〕原と「一人」に作る、今下註細別人員を算して改む。

〔金裝車〕内親王以上、及四位以上の孫嫡妻子、大臣の孫女に限りて、乗用を許されたり。

〔樽一荷〕齋宮式に依れば、「樽二合」とすべし。

〔四分〕雲本には、言貞[illegible]二本に據りて「八分」に作れり。

〔銀唾壺〕唾壺は、唾はく具、今の灰吹の類也、二階棚の上に置く、和名抄に「澡浴具」に入れたり。

〔麻繩一丁〕一本に「丁疑斤歟」とあり。

幕横三人。夫五人。

塗油黒漆御輿前横一合。長三尺。廣九寸。深八寸。小幸横一合。長一尺五寸。廣一尺一寸。深八寸。花壺二合。各周一尺九寸。高六寸。柄二枚。各長八尺。大笠柄一枚。長八尺。幕柱二枚。桁一枚。長一丈五尺五寸。幔柱廿四枚。各長八尺六寸。料。漆六升。石見席綿一斤。黏料調布二尺七寸。一尺五寸黏漆料。一尺二寸拭漆料。油五合。掃墨一升。炭一斛五斗。單功廿九人。御輿前横四人。小幸横二人。花壺五人。柄二人。大笠柄一枚。幕桁一枚六人。幔柱廿四枚六人。夫四人。

加茂初齋院井野宮裝束。

斗帳二具。白木一具。漆一具。几帳十基。三尺六基。一尺五寸四基。

屏風六帖。五尺二帖。四尺四帖。金裝車一具。小行障二枚。大翳二枚。入平文筥。大笠柄二枚。平文加志部。銀挿壺二口。加平文柄井志部。平文筥二合。輿一具。腰輿一具。屏繖二枚。大行障四枚。小翳筥一合。輕幄骨二具。已上料物單功並見上。

楊机一具。長一尺五寸。廣一尺三寸。足高九寸。料。波多板一枚。檜榑半村。阿膠十兩。炭二斗一升。切釘廿隻。漆一升二合。掃墨三合。

燒土三合。綿六兩。絹一尺。手作布一尺。單功九人。木工六人。漆三人。

唾樽二合。加平文井志物。樽一荷。銀飯椀一合。銀水鋺一合。銀盞一合。銀盤二口。以上料物單功並見上。

銀箸三具。各長八寸四分。料。銀小十二兩。和炭三斗。長功三人。中功四人半。短功六人。

銀匕二柄料。銀小十八兩。和炭二斗。油一合。長功四人。中功六人。短功八人。

銀箸臺二口料。銀小卅八兩。炭四斗。和炭一斛。油二合。鹽二升。長功八人。中功十人。短功十二人。

銀唾壺一口。口徑八寸五分。料。銀小七十八兩。炭二斗。和炭一石五斗。油一合五夕。鐵半廷。長功五人。中功六人。短功七人。

白銅酒壺一合。受二斗。料。白銅大廿斤。油五合。鐵三廷。炭卅斛。和炭一斛。信濃布一丈五尺。麻繩一丁。伊豫砥一顆。

〔火爐〕和漢三才圖會に「火爐、今云火波知、三才圖會云、周禮天官冢宰之屬宮人凡寢中共爐炭則爐亦三代之制、今火爐、按火爐俗云火鉢是也其製不一可以禦寒可以焙物」とあり。

〔朱塗臺盤〕和名抄に「風土記云、毖俗、歡宴鼓樂、稗鷄樂取廣尺五六寸者地以著頭、以右手五指彈之、舞者應節而舞、今按、杵郎棠字也、亦作盤、此間云、朱塗盤、黑塗盤是也、又丟盤之盤」とあり、卽ち朱塗盤の漆也。

〔土佐圖七枚〕民部式に「七」を「六」に作る。

親王頭斫　位記軸　黃楊

長功五十人。中功五十五人。短功六十人。

白銅杓一柄〔加盞〕。料、白銅大十兩。炭四斛。油一合。信濃布一丈。長功十人。中功十二人。短功十四人。

白銅風爐一具料、白銅大三斤。炭四斛。油一合五夕。信濃布七尺五寸。長功十人。中功十二人。短功十四人。

白銅火爐一具料、白銅二斤。炭四斛。油一合五夕。信濃布七尺五寸。長功十人。中功十二人。短功十四人。

朱漆臺盤三面〔各長三尺加脚〕料、漆九升。朱砂卅兩。持墨三升。油五合。燒土五升。綿三屯。絹七尺。細布一丈二尺。信濃布一丈二尺。調布一丈五尺。伊豫砥一顆。青砥一枚。阿膠十兩。炭一斛。單功廿五人。

酒海三合〔各受二斗〕。二合料、漆四升。朱砂十六兩。貲布一丈。細布各四尺。綿一斤。油四合。炭一斛。一合料、漆二升。掃墨七合。燒土八合。貲布五尺。細布各一尺五寸。油一合。炭二斗五升。單功十三人〔朱漆八人。黑漆五人。〕

下食盤十枚〔各方一尺七寸〕。料、漆五升。朱砂十二兩。持墨二升。燒土二升。油三合。貲布一丈。絹六尺。綿三屯。炭一斛。單功卅人。

白銅箸四具料。白銅大八兩。細布三尺。信濃布五尺。油二合。炭一斛。長功十二人。中功十四人。短功十六人。

白銅匕八柄料、白銅大九十六兩。鐵一挺半。細布五尺。信濃布七尺。油四合。炭八斗。長功六十四人。中功七十二人。短功八十人。

白銅杓二柄。臺盤七面〔八尺一面。四尺六面。〕葦袋卅四枚。〔已上人給料、但白銅杓已下料并單功見上。〕

凡親王頭斫、斗帳一具〔高八尺。方一丈。〕五尺屛風十帖〔料物功程并見上。〕

凡內記局所請位記料、赤木軸七枚。黃楊軸廿枚。厚朴軸百枚。每年十二月充行之。

凡年料所納黃楊木者。參河國六枚。土佐國七枚。

〔賭射〕「ノリユミ」と訓む。射禮の後朝に左右近衞兵衞が、射を試みる儀式を云ふ、正月十八日この儀あり、淸和天皇貞觀二年正月十八日始めてこれを行ふ
〔騎射〕馬上にて弓射る式を云ふ、步射に對しての稱、また「ウマユミ」と訓む、文武天皇の大寶元年五月五日始めて之れを行ふ、以後例となれり。

的　番上工　史生以下　雜工　寮匠　縫物　粮米

凡木工寮造大射賭射騎射等的、皆差向畫師使塗畫。
凡番上工補八人。各日黑米二升。
凡長上番上給作物衣者。五月十一日奏之。以調布給之。
凡史生以下雜工已上給等第祿、五月十六日奏之。以庸布給之。
凡雜工自非寮中文不聽遷他色。其年老身疲不堪出仕、永許還鄕。然後申補其替。
凡典藥醫師一人令直於寮。
凡六衞府舍人各二人令直於寮。
凡有可縫調之物者移大藏省、不限多少、受令宮人縫。
凡粮米并間食不仕新、充寮中雜用。

延喜式卷第十七

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣淸貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第十八

式部上（ノリノツカサ）

凡賀正之日、內外諸司五位已上解任之輩。未得解由。但宴會不在聽限。五位郡司亦同。 諸司雜色人。諸國四度使雜掌及入京郡司、皆轉同拜。卽于冬下旬。大月廿八日。小月廿七日。省集諸司。預令習禮。其參議及三位以上不在集例。

凡元正之日。若有不朝者。五位以上錄名申官。七十以上者。不在此限。六位以下奪春夏祿。六位以下若有申故者。不在此例。 但宮內主殿典藥內膳造酒采女主水等省寮司。莫責不參。侍從東宮學士亦同。

凡元正行列次第。參議以上在左。太政大臣獨列之時。右大臣在西。 親王諸王及餘官三位已上在右。自外五位以上隨便左右。其四位參議雖是下階。列同色上。孫王諸王同色先列孫王。六位已下次以位階。不依官秩。外位不得列內位上。

凡諸節會行列次第。親王及參議已上。幷諸官三位已上在左。諸王左右行列在諸臣上。其申政之時。以官秩次。但五位已上位色不同。雖是下官。猶先高色。

凡非執政三位者。列中納言之下三位參議之上。三位者列四位參議上。

凡前參議以上。被召見參。及預朝參者。致仕者在本位見任上。以理解者在同位下。

凡正月一日七日。十一月大嘗節會。點檢五位已上。但參議以上左右大辨八省卿彈正尹。及三位以上。幷左右近衞少將以上。左右衞門左右兵衞督。並遣點。但佐令府生已上申階陣之由。自餘皆就敍位受點。

凡五位以上侍宴。衣冠不正。容儀違禮者。遣錄糺之。但殿上侍臣不在此限。其在朝堂者。四位以上遣史生已

賀正　〔東宮學士〕東宮の職員にして、定員二人、經をとりて東宮に[illegible]し奉ることを司る。卽ち侍[illegible]也、官員令義解に東宮[illegible]事也、とありたれどもその下司の官にして、きて[illegible]あり、

行列次第　[illegible]傳、學士、此二必不字た用也」とのい。〔諸官〕政治要略校本に「諸臣」に作る、下文「在右」「在右」とな[illegible]す。

點檢　〔參議上〕[illegible]京貞二本及び[illegible]

容儀違禮　事[illegible]略列字なし。

〔若元日云々〕此の十字一本には、末尾「亦聽」の下に在り。

〔謝座〕朝廷にて宴を群臣に賜ふ時堂上著座を謝するために、群臣の行ふ拜也。

〔謝酒〕朝廷にて宴を群臣に賜ふ時群臣が宴酒を謝する爲行ふ拜也。

〔朔〕一本朝に作る。

〔兩度節〕卽ち正月十七日の謝禮、五月五日の端午節也。

〔司〕原本「使」に作る、京貢古三本に據りて改む。

上。五位追喚。其身隨狀教喩。

免不參
凡內記幷內藏內掃近部等寮。莫責諸節會不參。

國司歌節
凡國司五位已上就朝集使入京者。皆聽預節會。但五畿內及近江丹波等國司者、雖非奏使亦聽者。若元日不朝並不聽
也。預參。其賀茂兩社祝禰宜。若帶五位者亦聽。

凡諸節會日。供奉諸司若有致怠者。奪祿降考。

不預謝座
凡諸節會五位已上預參之後。不預謝座謝酒之禮。及離本列任意左右者。莫給當日祿。但參議已上、幷當日有職掌者。及羸老扶杖之輩不在此限。

凡點散位五位已上十人。補荷前使侍從不參之闕。其名簿預前進太政官。

荷前使闕
凡闕荷前使之侍從。及次侍從者。待中務移無預正月七日節。非侍從者奪位祿。亦無預同節。

七十以上
凡諸節會五位以上年七十已上者。不論參不。直入見參簿。其身見參聽從掖門參入。

朔參闕
凡散位五位以上、闕四月七月朔參者、勿預新嘗會。

凡正月十七日。五月五日。兩度節不參五位已上。待兵部移無預新嘗會。六位已下官人奪季祿。

諸節權補
凡諸節會可取權輔。點定前一日申太政官。若被點不參者。不賜當日祿。

召名札
凡正月七日。幷新嘗會等。祿召名札令大藏省寫取。

新嘗祿
凡十一月新嘗會日。諸司六位已下官人給祿。若蕃客來朝可會賀正。正月七日給之。

凡施藥院司給新嘗會祿。

除日奏
凡除日奏者莫過當日。若日暮不堪書者明日早朝奏之。

〔除目簿案〕〔朝堂座〕

〔昌福堂〕大内裏八省院十二堂の一、師元記には章福堂に作る、大極殿の東南、第一の堂にて、長さ七間、龍尾道の南九丈二尺に位し、東廊壇を距る四丈二尺にあり。

〔含章堂〕大内裏八省院十二堂の一、昌福堂の南四丈にありて第二の堂、長さ九間あり。

〔明禮堂〕大内裏八省院十二堂の一、承光堂の南四丈にて、長さ十五間あり。

〔延休堂〕大内裏八省院十二堂の一、龍尾道の南、長さ七間あり。

凡除目簿案一通。除目後五日内加勘合進弁官。

凡朝堂座者。昌福堂太政大臣左右大臣。含章堂大納言中納言参議。承光堂中務図書陰陽。明礼堂治部雅楽玄蕃諸陵。延休堂親王。含嘉堂弾正。顕章堂刑部判事。延禄堂大蔵宮内正親。已上八堂以北為上。暉章堂少納言以東為上。左右弁官。以中為上。康楽堂民部主計以西為上。主税。以東為上。修式堂式部以東為上。兵部以西為上。永寧堂大学以東為上。其長官次官前行。判官主典中行。史生後行。

凡在京文官。皆就朝座。陰陽主計主税寮。毎旬著。　但神祇官及監物中宮大舎人縫殿内蔵内近隼人囚獄織部大膳木工大炊主殿典薬掃部内膳造酒采女主水左右京職東西市司春宮坊并官司修理職勘解由使及諸武官皆無朝座。

凡就朝座者。昌福堂北階太政大臣。中階左右大臣。南階大納言中納言参議少納言左右弁。延休堂北階一品。中階二品以下四品以上。各当其座昇降。含章堂北階大納言。中階中納言参議。南階少納言左右弁。皆至於階下北向而揖。退亦如之。東堂昇先右足。降先左足。西堂昇先左足。降先右足。並不聚足。不可歴階。至於床下進退皆揖。餘堂准此。但北向堂昇降皆避馳道。其親王及太政大臣任從前階後階昇降。諸司五位以上皆從前階。若任判官以下者。從後階昇降。　但暫出入者任從後階。六位以下皆從後階。不在揖限。

凡朝堂座者。昌福堂北端太政大臣。次左右大臣大納言中納言参議。並西面北上。少納言及左右弁並一列。北向東上。但勅使座当大臣座北面。含章堂大納言以下参議以上。並一列西面。大納言以下。必先就含章堂座。大臣就昌福堂座。訖乃大納言先進就昌福堂座。于時大臣喚召使二声。称唯就版而立。大臣命曰召大夫等（マウチキンタチ）。召使称唯退就含章堂版北向召之。中納言以下共称唯。進就昌福堂座。若大臣不参者。大中納言当堂聴政。　訖左右弁官了政。五位以上於堂前降立。六位以下於堂西降立。少納言左右弁先進就前版而揖。外記左右史後走就後版。並北向。以東為上。

〔詞云〕原本なし、儀式に據りて補ふ。

〔就庇案下〕庇字原本「座」に作る、上文及び儀式に據りて改む。

〔三省〕一本に據れば、式部、兵部、民部の三省なりと云ふ。

〔省臺卿尹〕八省の長官卿也、彈正臺の長官尹也。

〔卽起也〕也字原本「之」に作る、儀式により改む。

〔含嘉堂〕大内裏八省院十二堂の一、院の西方、延休堂の南四丈にあり、長さ二間あり。

立定、大臣命曰召之。五位以上倶稱唯。次六位以下倶稱唯。五位以上依色昇階就座。訖乃六位以下倶引就庇案下。北向而立。辨一人申云。司司能申世留政申給止申。史依次讀申。每一事畢。大臣處分。隨事稱唯。訖六位以下先以次退。至於堂後而立。次五位已上亦退。皆於階及庇下。排至於堂前。立定五位以上依次排昇就座。六位以下倶昇就座。訖左史一人申曰。申世留政。辨宣曰任申。〔詞云〕原字世留麻底爾。史倶稱唯。若亦如之。參議以上隨次而退畢。少納言辨依次退出。諸官乃退。

申政

凡應引諸司申政太政官者。少納言左右弁及省輔。先進就前版。次外記左右史及省丞錄後走就後版。立定大臣命曰召之。五位以上倶稱唯。次六位以下倶稱唯。訖五位以上依色就座。六位以下依官次進就庇案下。三省申政了。大臣處分。輔及丞錄稱唯。訖以次退出。然後弁官申政。

朝座禮儀

凡在朝堂座見親王及太政大臣者。皆磬折而立。若見左右大臣及左右大臣見親王及太政大臣者。並起座。卽就座及出門。訖乃以次就座。其少辨以上初就座者。外記左右史以下皆起。若大辨一人先就座者。見後來大辨以下不起。中辨以下先就座者。見後來大辨卽起。省臺卿尹初就座者。輔弼以下及所管寮司長官以下皆起。刑部大判事准此。輔弼初就座者。省臺寮司主典以下並起。判事准此。若長官先在座者不起。寮司長官就座者。主典以下不起。但於曹司廳卽起也。

開門後就座

凡參議以上及左右大弁八省卿彈正尹者。開門之後。猶聽就座。

政未了退

凡弁官政未了前。諸司不得無故輙退。

度馳道

凡諸司在朝堂申政者。聽度馳道。

凡彈正在朝堂失禮儀者。省加敎正。

置版位

凡昌福堂含章堂及含嘉堂版位。並置前庭。向正北。除司各置堂後。其版位皆一枚。公事就前。私事就後。

〔顯章堂〕大内裏八省院十二堂の一院の西方、含嘉堂の南四丈にありて、長さ九間あり。

〔暉章堂〕大内裏八省院十二堂の一次の東堂とも云ふ、卯西の堂也、明禮堂の西六丈にて、長さ七間あり。

〔承光堂〕大内裏八省院十二堂の一また承香堂と書く、院の東方、含章堂の南四丈にて、長さ九間あり

〔凡告朔云云〕京貞二本によりて補ふ。

諸堂官人　弁官史已下　空座　元朝座者　行幸闕朝座　告朔文　上廳申政　上日　與他省共申政　習禮　親王任卿尹

凡含嘉堂并顯章堂官人不得從暉章堂修式堂後通東門。承光堂官人不得通西門。

凡弁官史已下直丁已上出入、聽用東方掖門。

凡諸司皆先上朝座、後就曹司、不得經過他處以闕所職。若無故空座。及五位以上頻不參經三日以上者。並省推科附考。其節會雨泥日。及正月二月十一月十二月。並停朝座。但三月十月旬日著之。

凡諸司五位已上朝堂無座者、皆毎朔日就省受點。散五位已上亦准此。其停朝座月、有座無座皆就曹司受點。但太政官不在此限。勘解由使亦同。毎旬一遣史生撿之、直不。若不在者隨使當日。

凡次侍從帶職事陪從行幸闕朝座者、待中務移乃聽之、近處行幸者、朝座畢後追參。

凡應弁告朔文案者、其日平旦簡差諸司官人六位七位容儀合禮者令候。

凡應進告朔文諸司無五位以上官者、其文申送弁官、即仰省、令差他司五位諳官執文。天皇不御之日。先申其由於弁官。令判官已上執之。

凡告朔日陪從五位以上預朝參之例。

凡上廳申政時者、外記立於弁官史上。八省丞亦立史下。但因老選被率日者立式部下。

凡諸司毎月一日、差五位以上前月上日。其參議以上、及少納言、並聽通計内裏上日。皆收置省不可奏聞。

凡省與他省共申政之日、不得申補案司及傔仗。

凡毎月朔望、於曹司廳前引省上下番史生省掌、令習進退容止。

凡親王任省卿寮尹就曹司廳者、五位已上並立床前。六位已下磬折而立。就座訖乃以次就座。其雜公文令錄疏取署。

〔姓一〕此の上、古寫本「稱字」あり
〔內豎〕「チヒサワラハ」又は「チサワラハ」とも稱し、內豎所に出仕す、未冠の童にして殿上の駈使に充つ。
〔神祇等不參〕一本「神祇」を「神事」に作る。
〔勿預大嘗會節云云〕鎭魂は大嘗祭に奉仕せんが爲めに先づ身心を靜鎭せしむるものなれば、これに預らざるものは、大嘗に預らしめざる也

召名時詞

凡親王及諸王諸臣三位以上帶職事者。諸節會召名之時。以其官號加姓上稱之。（尋常奏聞之詞亦同。）但授位任官之日。並依常例。

太政官召

凡於太政官已下下國已上。喚諸王五位以上辭稱大夫。●姓一准諸臣。

內侍召

凡太政官召省者。丞稱唯。弁官召者。錄稱唯而參。其會集之日。大臣召者。輔稱唯承參。（大納言以下行事亦准此。）但內侍召者。

省臺相喚

輔或丞稱唯而參。省臺緣事相喚者。亦錄稱唯而起。其詞曰某省召。其省召臺稱疏名。（大臣遣召使。內侍遣內豎。官及省臺皆遣使部喚。）

宣命

凡於朝廷宣命者。群官降座立堂前庭。（謂成選授位并任郡司及臨時宣詔之類。事見儀式。）

公服

凡朝廷會集者。職事散位皆服公服。不得服私服就版中事。

勳位

凡勳位朝參者。服文位服。列當位次第。若無文位著黃袍。

諸衛預文會

凡諸衛官人預文會者。五位已上不帶弓箭。六位已下勿著脛巾。

行幸陪從

凡車駕行幸應宴集及出京外者。輔以上一人。丞一人。錄一人陪從。

新年月次

凡祈年月次兩祭所參諸司者。先大臣就座之後不得參着。

免神事不參

凡內膳司勘解由使齋院司。莫責神祇等不參。

鎭魂

凡鎭魂祭夜。省率諸司參入之時。外記史屏下相待就列而入。

凡中務所移鎭魂儛人侍從。若有不參者。勿預大嘗會節。（諸祭和儛人亦皆同。）

凡御并中宮鎭魂所。弁官中務輔。和儛侍從四人。式部輔治部輔雅樂頭大藏輔宮內輔。及預御膳諸司五位已上。令必參集。若闕忌者。停預節會。其有障者。先申其由。（東宮准此。）

侍從闕役

凡次侍從已上闕神今食并法會堂童子等之役者。待中務省移。不預正月七日若新嘗會等節。

大忌風神使

〔釋奠〕孔子及び十哲の祭也、「サクテン」又は「セキテン」と讀む、每年二月、八月の上丁の日、大學寮にて行へり。

深履

大歌召

御齋會

釋奠

〔釋奠宴〕西宮記八月釋奠の條に引用せる、式の本文には「講論」の二字に作れり

國忌

〔无レ故〕此の下、弘仁式及び小野宮年中行事には「三度」の二字あり。

〔興福寺國忌〕十月六日藤原內麿の忌日に依り、九月三十日より七ケ日法華會を行ふを云ふ

凡大忌風神二祭使。王臣五位王二人。臣二人。若王五位不レ足者。聽レ差二王四位一。但其名簿。四七兩月朔日點定申二送辨官一。

凡神事及齋會之處。不レ得レ著二深履一。

凡被レ召二大歌所一之輩。起レ自二十月廿一日一至二于正月十六日一。一向二直所一。若无レ故不上者。五位已上不レ預二節會一。六位已下奪二季祿一。散位雜色等責以二違勅一。

凡五位已上闕二正月御齋會職掌一每レ度奪二位祿絹一疋一。若絹盡以レ布准奪。其六位已下每度奪二季祿布一端一。

凡主稅寮勘解由使。莫レ責二正月御齋會不參一。

凡釋奠都堂講論之日。後參少納言弁外記史聽下自二掖門一參入上。

凡釋奠宴親王大臣參入者。諸司皆起レ座。退出亦同。

凡國忌齋會者。諸司五位已上一人。六位已下一人。但東西二寺。六位已下三分之二參。春宮坊三月十七日廿一日。八月二度參。諸寮已上史生一人向レ寺供レ事。但中務縫殿民部主計隼人大藏宮內左右京等。並五位若六位一人參。其散位五位已上无レ故・不レ向者。勿レ預二節會一。謂下東西二寺闕二二度已上一。興福寺闕中一度上之類。七十已上者不レ在二此限一。參議已下弁中宮內藏陰陽內匠主稅織部大膳木工大炊主殿掃部內膳造酒采女主水彈正勘解由及諸武官不レ在二此限一。文官帶二武官一亦同。其崇福寺唯圖書治部玄蕃六位已下官一人。史生一人向レ之。

凡典藥寮不レ參二興福寺國忌一。

凡參二國忌一五位已上。待二會事訖一乃皈却。若不レ然者同二不參例一。其六位已下闕二職掌一者。奪二季祿布一端一。

凡參二興福寺國忌一官人已下。并散位五位已上給二上日五箇日一。廣瀨龍田祭使亦同。參二春日祭并維摩最勝會一散位

〔十二月國忌〕天智天皇の御國忌也、崇福寺にて行ふ、朱鳥二年より始まれり。

〔藥師寺最勝會〕天長七年より藥師寺にて毎年三月七日に、最勝經を講ずるを云ふ。

〔季祿〕王朝代春秋二季に一位已下の諸官人を通じて、祿を賜ふを云ふ、春は二月上旬、秋は八月上旬に賜ふを例とせり。

五位已上准此。但待太政官所下名簿乃給之。

凡諸司五位已上。十二月國忌不參者。停預節會。散位五位已上亦同。

凡參藥師寺最勝會王氏五位以上。免三月十日國忌不參。

凡參興福寺國忌御齋會藤原氏六位已下。不論有職無職聽著堂前之座。

最勝維摩會參

凡可參藥師寺最勝會興福寺國忌幷維摩會王氏藤原氏若不參者。五位已上不預新嘗會節。六位已下奪季祿。其參不者。待太政官所下簿知之。

蕃客

凡賜宴蕃客者。弁官史省錄。竝就會所檢察諸事。

任大臣

凡諸王諸臣任太政大臣者。不得以親王爲左右大臣。但得任八省卿。諸臣任太政大臣者。不得以諸王爲左右大臣。親王任左大臣者。得以諸王爲右大臣。但親王諸臣不得爲左右。

選任

凡選任者。奏任以上者。省注可用人名。申送太政官。但官判任者。銓擬而申太政官。

權任

凡正員之外特任權官者。不論正權。依位階次。

復任

凡遭喪解任之人。復任本官者。依宣旨行之。不更給召名。其國司者不在此限。

擬使

凡擬使者。承申大臣之後。其名簿令祿進太政官史生進辨官。

凡遣諸國使。諸司官人。申官之後。不上本司。

凡諸使所請主典等師者。使人簡諸司主典已下應堪事者。錄名申省。省申太政官。

凡諸司官人。及雜色等擬使。直申太政官。其後若稱病者。省勘虛實。相換更申。若有欺詐者。依法科罪。

敘位

凡依內侍宣敘位者。更經大臣乃應授。

凡五位已上歷名帳。每年正月待二敍位官符一。即奏二內裏一。更寫二一通一進二太政官一。

凡郡司。幷禰宜祝及夷俘等五位歷名帳。別卷錄レ年進レ之。

凡五位已上歷名及補任除目。幷年中宣旨。並錄レ色抄二寫熟紙一以爲二長案一。但郡司及俘囚五位歷名作二別卷一。郡司俘囚位祿文亦准レ之。

凡諸司史生者。神祇官四人。太政官十一人。權一人。左右辨官各十八人。各權二人。中務省廿人。內記二人。監物中宮職各八人。大舍人寮四人。圖書寮五人。權一人。內藏寮十人。權二人。縫殿寮陰陽寮各四人。內匠寮七人。權一人。式部省廿人。大學寮八人。權四人。其二人以二省扶省掌一兼任。治部省十人。雅樂寮玄蕃寮諸陵寮四人。民部省廿人。主計寮十一人。權一人。主稅寮七人。權一人。兵部省廿人。隼人司五人。權三人。其二人以二兵部扶省掌一兼任。刑部省十人。判事四人。囚獄司二人。大藏省廿人。織部司四人。權二人。宮內省十八人。大膳職八人。木工寮十一人。權一人。大炊寮主殿寮各五人。各權一人。典藥寮四人。掃部寮五人。權一人。正親司內膳司各二人。造酒司四人。采女司主水司各二人。彈正臺六人。左右京職各十一人。各權一人。東西市司各二人。東宮坊四人。舍人監主膳監主藏主殿署主馬署各二人。齋宮寮五人。權一人。齋院司三人。修理職十人。權二人。勘解由使十二人。施藥院使四人。其式部民部兵部三省史生者。以二試練景迹一然後取用。亦不レ得下輙補二織外人一。但太政官左右弁官內記中宮內藏織部木工主殿掃部修理春宮等官職坊寮司史生待二宣旨一補任。勘解由齋院施藥〔院〕等使司史生待下從二官下一名簿上不レ試直補レ之。兵部省春宮坊監署等史生。待二本司移一補レ之。大學寮權史生。待下寮進二名簿一不レ試直補上。

凡在二外國一諸司史生。准二諸國史生一申二補任一。

凡雜色輩。頗有下耐二書筆一者上。省課試補二任諸司史生一。

歷名

諸司史生

〔夷俘〕もと蝦夷人にて皇化に歸し、內地に住するものを云ふ、單に夷とも稱す、江次第抄に「俘囚本是王民、而爲二夷所一レ略、遂成二賤隷一、故云二俘囚一、或云二夷俘一、其屬在二陸奥出羽一、後分二居諸國一、」見二類聚國史風俗部一ことを云へるも、俘囚とは自ら異也、弘仁二年十月十一日征夷將軍文室綿麿に下せる勅に「蝦夷者依レ請須レ移二配中國一、唯俘囚者思二量便宜一、安二置當土一」とある、中國に移配されたる蝦夷人即夷俘也。

〔院〕京貞二本によりて補ふ。

〔大國〕中務省式に、大和以下十三ヶ國あり。

〔上國〕中務省式に、山城以下三十五ヶ國あり。

〔中國〕中務省式に、安房以下十一ヶ國あり。

〔下國〕中務省式に和泉以下九ヶ國あり。

〔遠江云々〕此の三國上國也。

〔甲斐云々〕此の六國亦上國也。

〔土佐〕中國也。

〔若狹佐渡〕此の二國亦中國也。

〔負名氏〕物部の名を負ふ、卽ち物部氏也。

年勞任官

凡主計主税勘解由等寮使史生。勞十年爲限。以外諸司史生。廿年爲限。並補諸國史生。

凡大舍人勞廿年爲限。每年一人任諸國史生。

諸國史生

凡諸國史生者。大國五人。上國四人。中國三人。下國二人。但遠江美濃讃岐等國准大國。甲斐出羽安藝周防紀伊等國准中國。土佐國准上國。若狹佐渡等國准下國。並不得任當國人。

錢司

凡不得周防國人任鑄錢司官人。

囚獄物部

凡囚獄司物部者。通取負名氏幷他氏白丁補四十人。帶兵仗。其東西市各亦取負名氏入色十人。白丁十人。若不足者更取他氏白丁。

諸司雜色

凡白丁緣才伎補諸司雜色。遭喪解退者。服闋復補。不得輙聽留省更取白丁。

但預把笏者。不用此例。

凡官省判補雜色之輩。遭喪解任。若有才用者。聽奪情復任。

諸司使部

凡諸司使部者。神祇官十五人。太政官卌二人。左右弁官各卌人。中務省卌人。中宮職廿人。大舍人寮圖書寮縫殿寮內藏寮陰陽寮內匠寮各十人。式部省卌人。大學寮十人。治部省廿人。雅樂寮玄蕃寮諸陵寮各十人。民部省卅人。主計寮主税寮各十人。兵部省卌人。隼人司四人。刑部省卌人。囚獄司六人。大藏省廿人。織部司四人。宮內省廿人。大膳職十五人。木工寮大炊寮主殿寮典藥寮掃部寮各十人。正親司內膳司造酒司采女司主水司各六人。彈正臺左右京職各十五人。東西市司各六人。春宮坊廿人。舍人監六人。主膳監主殿署主工署各四人。主馬署六人。勘解由使二十人。齋院司六人。齋宮寮十人。

出家

凡親王已下。五位已上出家入道。其帳內資人考滿六年。留省。若還俗幷敍位。以舊人充之。舊人若遷他色。以

新人充之。

凡職分資人本主亡及以理去官者、不限年數並聽留。若有復任者、通以舊人充之。舊人若遷他色、以新人充之。

凡外散位六位、勳七等以下情願者、聽充帳內及職分資人。七位以下者、聽充位分資人。

凡嬪以上位分資人不在減限。

凡諸外考者、經一選然後聽遷中宮職舍人春宮坊舍人。其舍人遭喪者、奪情補之。•遷補之後、未經一選、充故及依病不上者、直還本色。

凡採鑄錢新銅所雜色人四人、太宰府染生一人、並預勘籍例。

凡內匠寮雜工自非本司申文、不聽輙遷他色。其年老身尫不堪出仕、永許還鄕、卽補其替。

凡五畿內國別書生二人預勘籍。•但擇用京畿之人。•外國人不在此限。

凡諸國雜色人、近江國卅人。越前國廿人。石見國二人。每年名與考、載朝集帳言上。但與兵部省通計。

凡飛驛陸奧出羽及太宰府所管諸國人、皆不得補帳內職分位分資人。亦陸奧人不聽補雜色。

凡諸司番上把笏者不與公驗。其舍人使部伴部之類、皆與公驗。其式如左。

式部省

位姓名年若干 某國某郡人

右人元某色。今補某司某色、任爲公驗。

年月日　　錄位姓名

資人　〔通〕原本「廻」に作る、今雲本に據りて改む。

外考　〔位分資人〕資人は京官の雜役を勤むる役にて一位に百人、正四位まで順次二十人を減じ從四位三十五人、正五位二十五人、從五位二十人の定め也、正六位以下其他の京官は半減也、これを位分資人と云ふ也。

預勘籍　內匠雜工　書生勘籍　諸國雜色人與考　補雜色　公驗

〔遷補之後〕古本此の上に「若」字あり

〔但〕又この下條の「人」字共に京貞二本なし。

〔同門〕一家族也、別に家を建てず、住居を同くする意也。

〔大隅〕今鹿兒島縣の所管也、式に「遠國、大隅」（上十二日下六日）と注す。

郡司

〔馭謨〕郡衙屋久島にあり、推古天皇元年始めて歸化す、舒明天皇元年始めて田部連を掖玖島に遣る、後ち益救、馭謨二郡を置き、多褹島に隷す、天長元年九月省して馭謨郡とす、和名抄に「謨賢、信有」の鄉を載す、今熊毛郡に入る。

〔熊毛〕郡衙、多褹島にあり、天武天皇六年二月の條に初見す、和名抄に「能毛、幸毛、阿枚」等の鄉を載す。

輔位姓名

右印署訖告知本司令附考帳。仍即給與。隨身爲驗。

凡郡司者。一郡不得併用同姓。若他姓中无人可用者。雖同姓除同門外聽任。神郡陸奥緣邊郡大隅馭謨熊毛等郡者。不在制限。謂伊勢國飯野度會多氣。安房國安房。下總國香取。常陸國鹿島。出雲國意宇。紀伊國名草。筑前國宗形等郡爲神郡。

凡大領闕處以少領轉任。以今擬者爲少領。其大少領並闕。先擬少領。

凡郡司有闕。國司銓擬歷名附朝集使申上。其身正月內集省。若二月以後參者。隨返却。厥後擬文者。四月卄日以前奏聞。但陸奥出羽及太宰管內唯進歷名。若以白丁銓擬副勘籍簿。其病患年老及致仕者、國司解却、具狀申官。更不責手實。

凡諸國郡司。補任之後。皆移民部省。

凡郡司遭父母喪者。服闋之後。申官復任。若三年以上不申復任。便補其替。權任之輩。亦得復任。

凡年七十已上卄四已下。及帳內職分位分資人不得銓擬郡司。但有主許牒者聽之。

凡郡領之民。不得任主政主帳。

凡諸衞之人銓擬郡司。向省之日。勿脫兵仗。

凡畿內郡司患解服解侍解等。聽復任本職。

凡畿內郡司。六年成選。

凡補任郡司者。六月卅日以前爲限。

凡緣銓擬郡司事。須奉大臣宣。莫奉內侍宣。

凡銓擬郡司緣失錯返却之類。明年重被銓擬者。不可更入京。但返却之後。若經一年重無言上乃以爲闕。

凡敍位郡領之日。承賣名簿授外記。外記執之進大臣。

凡郡司補任之後。二年頻不附考帳者解任。

凡諸國郡司補任帳。每年正月一日。與諸司諸國史生已上補任帳共進太政官。

凡喚主政帳知勝船事並用音。

凡太宰府書生帶郡司者。莫責同門一從。

凡主政帳廿一人。每年充太政官。待所下名簿乃補之。

選內出入法。

內長上四考。　內分番六考。　外長上八考。　外分番十考。

右長上分番。選限各異彼此。出入遠近不同。內分番入內長上。經一考者同四考例。經二考以上者。以五考爲限。外長上入內長上者亦同　外長上入內分番。經一考者同六考例。經二考以上者。以七考爲限。外分番入內長上。經一考者。以五考爲限。經三考以上者。以六考爲限。外分番入內分番。經一考者同六考例。經三考以上者。以七考爲限。外分番入外長上。經一考者同八考例。經三考以上者。以九考爲限。其有從近出遠者。亦准此法。設如下內長上出內分番。經三考者亦同四考例。經二考以下者。以五考爲限之類上。

結階法。

三階　中上中上　中上中上

二階　中上中上　中上中中

一階　中中中中　中中中中

〔敍位〕古本及古寫本「敍任」に作る。

用音

〔主政帳〕主政、主帳の意也、共に郡司に隷屬す、主政は郡內を糺判し、文案を審署し、稽失を勘へ、非違を察す、主張は文案を勘へ署し、公文を讀む、皆職田を給ふ也。

主政帳

選內出入

〔知勝〕大藏式「知乘」に作る。

結階

〔中〕二階の下注の末尾の「中」原本「上」に作る、今林京二本に據りて改む。

〔鑄錢司〕ジュセンシと訓む、貨幣を鑄造し、又改鑄することを掌る職員は時によりて一定せず、臨時の官にて、鑄錢の時毎に置く、持統天皇八年三月大宅麿臺八島、黄書本實等を鑄錢司に補したるを初見とす。

〔傔仗〕王朝時代、兵器を持して官吏を護衛する人を云ふ、卽ち護衛兵也、玉篇に「傔、苦念切、音欠、侍從也、傔仗使屬、猶ニ今承差一也、又仗、直兩功、長上聲、兵器刀戟總名也」とあるにて知るべし、專ら邊境の官吏に給す。

右同ニ長上選叙法一。若四考上下以上。進ニ五階一叙。四考上上。進ニ七階一叙。

三階　上上中　上中上　　二階　中中上　中上中上

一階　中中中中　中中中中

右分番經ニ一考ニ入ニ長上一叙法。

三階　上上中　上中上　　二階　中中　中上中下

一階　中中　中中中中

右分番經ニ二考以上ニ入ニ長上一叙法。

考選

凡考選文者。太政官長上番上。並作レ符下レ省。諸司諸國長上者。作レ解進レ官。官亦下レ省。諸司番上者。作レ移送レ省。但諸國作レ解。其被管考選文。皆惣官長官押署。便以ニ司印一印レ之。

凡諸司考選文送ニ官及式部兵部一者。五位以上長官次官將送。若不レ在者。臨時聽ニ處分一。

凡鑄錢司考文附ニ周防國朝集使一。

凡選人長上於レ官引唱。番上於レ省引唱。若三日之内不レ到者。降ニ一階一叙。其諸國郡司及外散位於レ國引唱。具錄申レ省。不レ在ニ赴限一。

凡選人兼有ニ上考下考一而欲ニ止計ニ上考一成選一者聽レ之。

傔仗

凡太宰帥大貳。幷陸奧出羽按察使及守等傔仗者。申ニ太政官一補レ之。不レ得ニ輙取ニ白丁一。若情願ニ以レ子補一レ之者。聽レ取ニ一人一。但身不レ赴レ任者不レ給レ之。

諸家司

凡諸家司。雖レ無レ位猶聽レ補。

把笏　諸國史生　官掌省掌等　神宮司　拜官　內外諸司補任帳　解却名帳　內膳長部　諸衞任官　三色資人

「官掌」神祇大政兩官のつかさ也。〔省掌〕八省のつかさ也。「臺掌」彈正臺のつかさ也。〔職掌〕左右京職のつかさ也。〔坊掌〕春宮坊のつかさ也。「寮掌」左右馬寮・左右兵庫寮、齋宮寮のつかさ也。〔司掌〕齋宮司等のつかさ也。〔自餘者判補之〕「者」字、古寫本一本「省」に作る。

凡新補諸國史生、皆先身自向省申本色位姓名、然後比校考帳知實申官。

凡內外諸司。官掌省掌臺掌職掌坊掌寮掌使掌司掌各一人。但中務治部民部兵部大藏彈正中宮修理等、並待本司移補之、自餘者判補之、

凡內外諸司史生官掌省掌臺掌職掌坊掌寮掌使掌司掌、伊勢太神宮司、同度會神宮禰宜、賀茂二社禰宜祝、住吉神主、宇佐宮司祝、氣比神宮司、筑摩長等、以雜色人補之、並把笏、

凡諸神宮司、并橿日廟司、以六年爲秩限。

凡諸神宮權宮司、秩滿年終解任、

凡拜官之日、其人見在作、聞唱喚不肯起集、莫預參例。經百廿日錄名申之、若有故者、不在此限。

凡內外諸司主典已上、及諸國史生博士醫師陰陽師弩師補任帳。每年正月一日七月一日進太政官、但藏人所析六月十二月廿日進。若有改官及歷名錯謬者、以朱側注。其解闕帳者、正月一日進参議已上不注解闕。又諸國秩滿帳者。正月一日進、藏人所析亦十二月廿日進。

凡緣隱截事解却國司醫師已上名帳、別卷收署。

凡內膳司長官、除高橋安曇二氏以外爲正、

凡左右近衛長上十五年、番上廿年爲限。每年各二人、左右兵衛各一人、左右衛門隔年各一人、任諸國史生、其任郡領者。左右近衛各二人、左右兵衛各一人。待本府移勘錄譜第。奏擬文之日。副奏文進之。諸衛同衛通任郡領及主政帳。左右衛門若有移送府別郡領一人。隔二年補之、並以佐已上共署文任之、

凡中宮春宮舍人、及三色資人等、待考帳放出、

外考

凡外考之人、未叙內位者、自非才藝殊擢、不得輙任把笏、唯任郡司軍毅者聽之。若有殊藝之輩、依令待本主擧試業。先叙內位。後乃任之。

〔軍毅〕軍團の主職にて大小兩毅あり、部內の散內の散位勳位若くは庶人の武藝に長じたる者を選任す。

郡司名簿

凡諸國擬任郡司名簿、每年附朝集使令進。若不進者、拘朝集返抄。

朝集

凡太宰及國司、並依番朝集。其史生者不在朝集之限。自餘雜事、並聽附申。若目已上不足者、聽申官差充。

死亡

凡諸國雜色人死亡帳、每年附朝集使送省。

朝集使

凡朝集使事了還國者、皆待神祇治部民部兵部等移。而後錄上日。申官請印。

解移

凡解移者、進太政官及弁官解文。令錄申送。諸司移文令史生送。

改易

凡改易常例、及立爲永式之事、非官符不得奉行。

〔非官符〕改易の條中にあり、此文の上に、政事要略には「有」字あり。

內侍仰

凡內侍仰事。若非緣詔勅、勿輙承行。

〔承〕內侍仰事の條中、京貞二本此の字なし。

寫曆手

凡陰陽寮寫曆書手者。簡取諸司史生充。其頒諸國曆者。省令朝集雜掌寫之。

得考雜

凡諸司諸家去年得考人數、并可進薪等勘定。正月十五日移宮內省。訖史惣注考人色目及薪數進官。

凡省內雜色每年進薪限二千擔。其三百擔分充春宮坊。自此以外不得更徵。若有違徵者、省掌解任永不叙用。

太宰試才

凡日向大隅薩摩壹岐對馬等國島博士醫師者。太宰准大學典藥生。試才補任。副勘籍狀言上。省載季帳申官。待考滿叙內位。其遷替皆以六年爲限。其六國學生醫生皆集府下分業教習。

〔省〕日向大隅云々の條にある、此の字、古本「者」に作る。

四季徵免

凡四季徵免課役帳。每季造三通。丞錄各一人。勾當其事。精加覆勘。四孟月十六日。一通進外記。一通進左辨官。若有失錯者。勾當之官。准法坐之。

〔解由〕内外官、任期充ちて其交替の際に任官中公事の取扱上毫末も懈怠なかりし由を誌して、新任の人より、前司に渡す書付を云ふ、故に解由狀とも云ふ、「トクルヨシ」と訓む。【解由】

〔造二以解一〕「造」字、京貞二本に「爲」字に作る。

〔具レ狀申レ官〕凡諸司諸國進二解由一者云々の條中「具レ狀申レ官」の上に、京貞二本「省」字あり。

解由式。在京諸司准レ此。

某國司解申與二前司解由一事

官名姓名

右件人某年月日因レ事（得替遷任遭喪等類）解任。仍與二解由一。即附二某名一申上謹解

年月日　　大目位姓名

守位姓名　　大掾位姓名

介位姓名　　少掾位姓名

少目位姓名

右主典以上解由如レ件。其史生以下皆造二以解一申レ官。官判下レ省。但京官史生直移レ省。

凡被レ管史生解由。●造二以解一進二惣省一。惣省押署送レ省。其署一准二移式一。

凡諸司諸國解由。長官署名。判官主典或病或假一二許人不レ加二署名一。及不レ知二遷任一。誤稱二解任一之類。勿二更返却一。

凡判事解由。大判事以下。雖二一兩人不一レ署。更勿二申返一。內記監物准レ此。

凡諸司諸國。交替分付。若違過限者。具レ狀申レ官。官即判下レ省。

凡諸司諸國進二解由一者。諸司長官六十日。次官以下及史生卅日爲レ限。諸國長官百廿日。任用六十日爲レ限。但長官任用同時解任者。交替了後。與二長官一共言上其與不之狀一。其諸國除二装束行程之日一。若任二他司一者。依二任日一始計。限內聽二齋務一。其季祿位祿。皆依二給例一。亦聽レ預二諸節會一。若限滿未レ得二解由一者。●具レ狀申レ官。其伊勢太神宮。豐前宇佐宮。越前氣比神宮司。諸神主亦責二解由一。但遙任及陰陽大學典藥等諸博士諸司不レ預二公文一之類。並不レ責二解

由。

凡侍從女官等厨別當。四年爲歷。責其解由。預亦同之。但不立歷限。

凡藥園師乳師等歷六年爲限。遷替之日。責其解由。

凡諸國非業博士醫師。以四年爲秩限。但出羽太宰管内諸國五年爲限。

凡内膳司，近江，筑摩御厨，長歷。六年爲限。

凡職事次侍從遷任他司。其解由與不之狀。移送中務。

凡次侍從已上年滿七十者。移送中務省。

凡權任國司并史生博士醫師等。一任之内遷任他國者。通計前後歷。秩滿之由。年終申太政官。

凡諸國博士醫師補任解文。并補任帳。姓名之下。受業者注各本業。

凡諸國博士醫師受業非業兩色。毎年三月一日移送民部省。「仁和元年三月十五日官符」

凡諸國非業權任博士醫師，秩滿。年終申太政官。

凡大學諸博士。六位已下兼任諸國權博士。但先奏後補。典藥醫針博士准之。兼任權醫師。

凡諸道博士得業生等兼國之輩。若讓他人者。雖學生醫生不得任當國之人。

凡諸國司及史生博士醫師等。若特被許相讓者令竟前人遺歷。「延喜四年壬三月四日符」

凡勘解由使主典一人輪轉令兼國博士得業。待使局所送名簿乃補。

凡諸衞府官人已下并舍人兼任諸國史生已上者。具注任日及計歷由移兵部省。

凡諸國司及史生博士醫師。秩限未滿。任他國及遭喪之徒。服闋復任者。並通計前歷。若任於京官。更遷外官。

任限

〔藥園師〕典藥寮の役名也、學生教授の任に當れり。

職事侍從

〔非業〕受業の對、役ありて、職無き也。

權任國司

注本業

非業

〔「仁和元年云々」〕此れ傍注の誤記也、この官符三代實錄卷四十七「仁和元年三月十五日庚午、式部省言、式云」の條に詳也

博士兼任

〔「延喜四年云云」〕此の注文「延喜云々」は、傍注の混入也雲本これを削れり。

兼國

計歷

〔遷〕凡諸國博士醫師の條中、「各遷本司」の「遷」字、續日本後紀に「還」に作る。

熟本業　復任

〔擧〕大學の試驗を云ふ、これに級第せるものを擧人と云ふ也。

受業非業　醫生　白讀

〔明法生〕明法は、法律を明かにする意にて、明法生は、王朝時代、大學にて明法博士の下にありて和漢の律令を教ふる者を云へり。

課試

〔取下第已上云云〕「下」古本「丁」に、又下の「若下第」の「下」は「不」に作れり。

及從番上轉職事。如此之類不計前歷。

凡諸國博士醫師解任之後。既進解由者。各遷本司。令熟本業。各注上日。每年申省與考。若望更任者聽之。不勞覆試。其被試及第。既任遭喪者不待服闋復任（業生緣侍醫舉任者亦准此。）其秩滿任解之後更任者。亦同此例。但先不經課試者。不在此限。

凡諸道學生。才學頗長。其道博士共擧爲諸國博士。醫師者雖非奉試及第。皆爲受業。自餘爲非業。

凡雜色之輩。願習醫療。下典藥寮。令學醫術。其學生准大學生例。聽補醫生。

凡陰陽寮諸生典藥寮醫生預考。并免徭役。

凡試（讀音也）讀諸生者。除大學典藥擧之外。非奉勅宣不得奉行。

凡明法生。課試通六七條者任國博士。

凡藥生等。雖不奉試而習合藥療治者。侍醫等共擧申省任國醫師。

凡試雜生者。試博士之外。必須令省證博士一人。若證博士無其人遂應致妨者。聽一人試之。但諸道白讀者。各以得業生一人爲試博士。其紀傳者。又聽以文章生爲試博士。

凡試雜生十二箇月內爲程限。若无故過限者。除先試條。更始爲試。

凡得業生。補了更學七年已上可課試之狀。依本司解申官。

凡擬文章生者。春秋二仲月試之。試了喚文章博士及儒士二三人。省共判定其等第。奏聞即補之。文章得業生試了判定奏聞亦同。

凡補文章生者。試詩賦取下第已上。若下第之輩。猶願一割者。不限度數試之。

〔筭得業生〕大學にて算博士の下にありて算道を學生に教ふる者、算道とは、大學式に「漢晉律曆志、大衍曆議、九章、六章」等の科を以つて充てたり。

〔周髀〕算道の事を說ける書也、宋書の天文志一に、漢の蔡邕が上書の文を擧げたる中に「周髀術數具存」とあり。

〔乃〕京貞二本に據りて補ふ。

〔但白丁舍人〕京貞二本、舍人の上に「可」字あり

試判

凡應參判奉試文之庭諸儒。无故不參。五位已上不預正月七日若新嘗會節。六位以下奪季祿。

秀才出身

凡秀才出身上下第大初位上。中上第大初位下。明經上下第大初位下。中上第少初位上。

筭得業生留省

凡筭得業生。不解周髀者。雖得及第不須敍位。但聽留省。

大學典藥生

凡大學典藥諸生。計年入課。及限滿解退者。並載季帳。比滿年卅時聽留學。若登卅一不堪貢學者。乃還本貫。但可任國博士醫師者不限年齒補之。

醫生

凡醫生。皆讀蘇敬新修本草。

凡藥生十人之中。五人取白丁。勘籍補之。五人用入色。

召使

凡太政官召使者。省取散位年卅九已下有容儀者。每月爲一番。番別五人。計召正身以令供承。其上日每番外記送省。

扶省掌

凡省掌之外。置扶省掌二人。令習儀式。以備其闕。即任大學寮權史生。把笏行事。

凡中務治部民部兵部大藏彈正等省臺正員之外。扶省掌以入色者各置一人。令習儀式。皆待本司所送名簿乃補之。若正員有闕者。以扶省掌補之。但兵部省扶省掌一人。本省便任隼人司權史生。令把笏。自餘不把笏。

遷任色

凡勘解由使勘籍書生及雅樂寮雜色生。自非次官以上許文。不得輙遷他色。

諸宮舍人

凡補諸宮舍人者。中宮入色一百五十人。外位一百人。白丁一百五十人。東宮入色四百人。外位一百人。白丁一百人。齋宮入色白丁各十人。其外位隨解闕補之。但白丁舍人未敍之前无故不上之替。聽補白丁。其敍位之後依病不上幷遷他色之替。以雜色人補之。

凡中宮春宮仕丁舍人并三色資人者、以本貫勘籍解文補之。

凡中宮春宮舍人。非有本司計文、不得遷他職。

凡諸司伴部者、各以負名氏入色者補之、不得輙取仕丁。若其氏无入色者、本司錄狀請官處分。但主殿寮殿部。掃部寮掃部。主水司主水部。並取負名外異姓白丁五人、預勘籍例。亦主殿寮殿部十人。造酒司酒部廿人。並負名外取異姓入色補之。

凡諸司、幷畿內司不進考文者。五位以上不預節會。六位以下徇留季祿。

凡考問之日有不參司。其五位已上不預節會。六位已下奪季祿。但一度加敎喩。諸國考問一日一道有不參國者。除使者敍。

凡中宮內近內藏織部木工主殿大炊掃部造酒內膳主水采女修理勘解由齋院等職寮司使官人已下番上已上者。勿責考問考唱不到。春宮坊舍人亦莫考唱。

凡給太政官考人者、左右大辨各廿人。少納言左右中少辨各十五人。外記左右史各十人。左右史生各四人。左右官掌各三人。

凡織部司雜色十人、掃部寮雜色五十人與考。

凡木工寮長上工、木工七人。土工一人。瓦工二人。轆轤工一人、檜皮工一人、鍛冶工一人。石灰工一人。並與考。

凡修理職長上工、木工五人。檜皮工一人。瓦工二人。石灰工一人、將領廿二人、並預考、又工部六十人、待職移勘籍補之。同預考。

凡勘解由使雜使八人。以散位留省等色定額之外與兵部省通計與考。

〔三色資人〕位分資人、（前に見ゆ）職分資人、（官職によりて賜はるもの、太政大臣三百人左右大臣二百人の如し）授資人（授刀によりて賜はる資人也）の三を云ふ。

伴部

考文

考問不參

〔負名氏〕職名を氏とする者を云ふ、姓氏錄卷十二、天孫、三技部連の條に「額田部湯坐、同祖、顯宗天皇予時、三蘂之草、生於宮庭、採以奉獻、仍負姓三技部造」の類也。

〔各廿人〕「廿」京貞二本「十」に作る。

〔大臣武內宿禰〕上の樞日廟（今官幣大社、香椎宮と稱す、筑前國糟屋郡香椎村にあり。）の祭神の一也、廿二社注式に「香椎宮者神功皇后、宿禰大臣、在此廟宮」云々」とあり。

〔「或本作列」〕是れ「得考之例」の例字の傍注也、雲本には貞本に據りて削れり。

〔按〕古寫本「授」に作る

〔「者」〕京貞二本なし、雲本之に據りて衍字として削れり

〔內位〕在京の官人に賜ふ位を云ふ。

軍士敘位　功臣　恩除　改姓爲臣　大臣曾孫　遣唐使

凡施藥院雜使十二人。以補新考人內死之。

凡伊勢大神宮大內人永預內考。

凡樞日廟宮舍人一人。大臣武內宿禰貢人一人預得考之例。「或本作列」。

凡氣比神宮司考錄神祇官。

凡右大臣以上不在考例。止錄上日。其五位以上不定考第。其錄善最。

凡長官次官並無者。判官主典亦考。但在身功過。其錄申官。其國目以上若不在者。史生亦錄上日行事申官。不得經年。

凡唱示考第者。京官皆赴集於省。若被唱不到過三日者降考一等。披訴有理者。省本按前任判昇之。但畿內及諸國司不在集限。

凡伊勢太神宮司考選者准長上官。自餘神宮司者准番上例。

凡軍士以上重敘文位勳位者除當年考。

凡奉使絕域。遭賊及沒海以致死「者」應贈位者子孫蔭法。一同生官。

凡臨時恩敘。若正六位上迴敘一子者敘嫡子。若六位已極者敘庶子。其六位上雖年九十以上不得除簿。

凡改姓爲臣之徒。五世已上同敘正六位上。七世已上承嫡敘正六位下。自餘同庶人。

凡大臣曾孫者敘從八位下。

凡遣唐使下無位者敘一階。

凡遣唐及渤海等使。歸朝之日。特被敘位。頓除前勞。其水手應敘位者。京畿之人。皆敘內位。

（外位）諸國の官人に賜ふ位を云ふ内位の對也

（位子）六位七位の者の子を云ふ。

（束帶）例に據れば「束帶」に作るべし。

（蔭子孫）蔭位を受くべき子の意にて、五位以上の人の子孫を云ふ、「オンシ」と訓む。

「擬郡司」郡司に闕ある時、臨時に任ぜられたる郡司を云ふ。

外位内位

凡外位任内職事者。卽改入内位。若内位任外職事者。亦改外位。若内番上附外考帳者。雖帶八位以上、不聽貢位子。

國造叙位

凡初任出雲國造者進四階叙。其請畢奏神壽詞。又進四階叙。進加應至五位者。聽勅處分。

五位

凡六位以下授五位者。猶除前考。但不除當年上日。

擬才叙位

凡擬才授叙者。有位成選之日通計前勞。无位猶除前考。其加級不及選階者。聽從一高。其別勅授位者。聽計前勞。

雜師

凡雜師有生者同博士之最。若無生及才伎長上准諸官之最。

使上日

凡散位及雜色人奉使内外。事了之日。名錄上日申官。官卽下省。

禮儀

凡諸司官人禮儀違失及過任意衣冠束帶等不正者。校考之日。惣加糺正。若不依糺者。便與下等。

在京勳位

凡在京勳位者。上下於省考選。叙法並同散位之例。

譯語

凡渤海譯語生者。簡學生容貌端正者一人充。應得其業者預得考之例。

渤海事

凡遣渤海下部。准陰陽師令把笏。

書生考

凡書生者。隨紙多少以定考第。其無注者限六百紙。有注及疏限四百紙。並與上考。

位子

凡京國每年所貢位子者。勘會籍帳下其歸村。乃聽預考。雜色出身亦准此。但蔭子孫不在此限。

蔭子孫

凡陸奥出羽太宰管内諸國蔭子孫位子。雖不向省。聽預出身。

神戸百姓

凡伊勢太神宮神戸百姓者。勿聽進仕。其緣蔭出身者。便直神宮。上日行事送省預考。其選叙法同内分番。

請印

凡考選目及位記請外印。補任文學家令。銓擬郡司者。並直申太政官。

〔五位自參〕凡位祿者云々の條下「五位自參」の五位の下に、一本及び政事要略「者」字あり。

〔郡司帶五位云々〕郡司は、大領從八位上、小領從八位下也、國司は、大國守從五位上、上國守從五位下、中國守正六位下、下國守從六位也、依つて郡司にても五位のものは、國司の職に准じて優遇する意也。

凡准擬位記等、一度以廿枚已下為請印之限。

位記署 凡位記署名不必自為。

位祿 凡位祿者。毎年十一月十日申太政官。廿一日給之。預具錄歷名移彈正臺。其四位五位・自參而受。參議及散位年七十以上不在此例。若當日不參者。惣錄歷名移大藏省。

五位以上卒 凡五位以上卒者。聽給當年位祿。其十二月卒者。不給明年之祿。

凡散五位已上卒者。申送弁官。

凡五位已上卒者。待卒去官符乃除歷名。

在外位祿 凡在外五位已上位祿者。准當土估便給正稅。

散位上日 凡散位五位已上位祿。上日不滿廿不在給限。但未得解由者。下解由後。上日及三分之二給之。若無可役之日。雖上日不足。未申日錄之前。猶預給例。新叙者亦同。但七十以上者不計上日預給例。

五畿內郡司 凡畿內郡司帶五位者位祿准國司以京庫物給之。

知太政官事 凡親王知太政官事者。其季祿准右大臣。預議政者。一品二品准大納言。三品四品准中納言。

初任祿 凡令稱初任者是无祿任有祿。其有祿遷有祿者。不入初任之例。但別勅才伎長上諸司者任職事官。與初任同。馬術亦准此。其在外官人。遷任京官會給祿者。聽入給例。謂正月七日卅日以前上日隨身者。

才伎長上 凡准令以別勅才伎長上諸司者。其位主典以上准少判官。以下准大主典。與主典見階相當以下准大主典。以上准少判官。其木工等師准一寮筆師。鉦鼓師准雅樂師。諸司雜色長上並准少初位官。

兼官上日 凡一人帶數官者。若高官上日不足。而卑官上日滿限者。祿從多給。馬術准此。但公卿兼諸司者。以太政官上日為

〔管〕凡內記監物云云の條末尾「不得混」雜管省」の「管」字、原本「官」に作る、今京貞二本に據りて改む。

〔之〕凡太神宮云々の條末の「之」字、雲本なし。

〔皇親〕天皇の親屬を云ふ、親王、王、內親王、女王等是也、令には皇兄弟姉妹及び皇子皇女を親王とし皇孫、皇曾孫、皇玄孫までを諸王とす、以下は王と稱するを得るも皇親にあらず。

季祿解文　王祿　祿馬新　賀正　大射執旗　解退人　召使　夷祿

定。太政官幷官及中務式部民部主計主稅等官人兼他司者。依本官見任上日給之。
凡諸司春秋季祿解文注載交名。
凡內官兼外官者。位祿季祿並給兼國。
凡六位諸王任職事者。王祿官祿從一高給之。
凡內記監物主鈴典鑰等四箇局官人季祿馬新。別錄令申。不得混雜管省。
凡太神宮司及齋宮官人季祿者。便以伊勢國神稅給之。
凡奪情復任之輩。雖上日滿祿限。而任在奏祿文日之後。不得更給。
凡季祿缺者。八位官十口。
凡皇親時服者。與季祿共給之。
凡諸司官人。奉使出外者。季祿馬新遶日並給。若有功過者。隨狀與奪。
凡太宰及對馬官人季祿者。於太宰府給之。其大唐通事祿准大初位官。
凡釋奠執經執讀侍講等祿。省具祿人物數申官。其數見大學式。
凡賀正者。預擇諸國朝集使及散位容儀所可取者惣八已上五十人已下。以擬威儀權官。
凡大射者。預點召使四人擬執旗。
凡諸司諸國解退之人者附帳。
凡太政官召使者。每月朔日十六日。當番人正身參省。即錄交名進太政官。
凡諸夷入朝給祿者。第一等絁六疋。綿十二屯。布十二端。第二等以下。等別減絁一疋。綿二屯。布二端。即參向皇

〔文〕此の條の「文」字すべて原本になし、今雲州本校本に據りて補ふ、考異に「蓋寫手省略、今據-中務兵部二式-補」とあり。

〔八位官一人〕中務省云々の條の注文の末尾、「八位官一人」を、雲本「八位官三人」に作る、總數卅二人とあるに據れば、一人を正しとすべし、或は總數誤あるか是非を知らず。

朝-准-此法-給。自餘不-用-此式-。

馬新。

神祇官十人。伯六貫。大副四貫。少副二貫五百[文]。若叙-五位-者四貫。大祐少祐各二貫五百[文]。大史少史各二貫二百文。

宮主二貫五百[文]。諸宮主准之。卜長上各二貫二百[文]。

右以-神税-給-之。

一位官五十貫。　二位官卅貫。

正三位官廿貫。　從三位官十五貫。

正四位官七貫。　從四位官六貫。

正五位官五貫。　從五位官四貫。

六位官二貫五百[文]。　七位官二貫三百五十[文]。

八位官二貫二百[文]。　初位官二貫五十[文]。

太政官廿九人。一位官一人。二位官二人。正三位官二人。從三位官三人。從四位官二人。正五位官四人。從五位官三人。六位官六人。七位官六人。

中務省卅二人。正四位官一人。正五位官二人。從五位官一人。六位官四人。七位官一人。八位官三人。內記六位官二人。七位官一人。監物從五位官二人。六位官四人。七位官四人。初位官一人。主鈴七位官二人。八位官二人。典鑰七位官一人。八位官一人。

中宮職八人。從四位官一人。從五位官一人。六位官三人。八位官三人。

大舍人寮四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。八位官一人。

圖書寮四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。八位官一人。

内藏寮六人。從五位官一人。六位官二人。七位官二人。八位官三人。

縫殿寮四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。八位官一人。

陰陽寮十一人。從五位官一人。六位官一人。七位官九人之中允一人。陰陽博士一人。暦博士一人。天文博士一人。漏刻博士一人。陰陽師二人。初位已上官一人。

内匠寮六人。從五位官一人。六位官一人。七位官二人。八位官二人。

式部省七人。正四位官一人。正五位官一人。從五位官一人。六位官二人。八位官已上官二人。

大學寮十九人。從五位官三人。六位官一人。助博士二人。七位官十三人之中允一人。博士十一人。八位官一人。

治部省六人。正四位官一人。從五位已上官一人。六位官二人。八位已上官二人。

雅樂寮八人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。八位官五人之中屬一人。歌師四人。

玄蕃寮四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。八位官一人。

諸陵寮三人。六位以上官一人。七位官一人。八位官一人。

民部省十一人。正四位官一人。正五位官一人。從五位官一人。六位官四人。七位官一人。八位官三人。

主計寮十人。從五位官一人。六位官一人。七位官三人。八位官五人。

主税寮八人。從五位官一人。六位官一人。七位官二人。八位官四人。

〔内匠寮〕内匠寮。「ウチノタクミノツカサ」又は「タクミノツカサ」と訓む、唐名少府、藻壁門内、左馬寮の北、右兵衛の南東西三十五丈、南北四十丈、中務省の被官にて、令外官也、巧匠技巧の事を掌り、公事の鋪設等を兼ね行ふ

〔雅樂寮〕「ウタマイノツカサ」と訓む、唐名大樂、治部省の被官、文武雅典正儛及び雜樂男女の樂人、音聲人等の名帳與度課試事等、其他節會、祭禮、釋奠、饗宴、佛會等のことを掌る。

〔諸陵寮〕「ミササギノツカサ」と訓む、唐名崗陵署、山陵皇親外戚の墓に關する事を掌る

兵部省六人。正四位官一人。從五位已上官一人。六位官二人。八位已上官二人。

刑部省十四人。正四位官一人。從五位已上官一人。六位官二人。八位已上官二人。判事正五位官二人。從六位官四人。八位已上官二人。

大藏省六人。正四位官一人。從五位已上官一人。六位官二人。八位已上官二人。

織部司一人。六位已下初位已上官。

宮內省七人。正四位官一人。從五位已上官三人。八位已上官三人。

大膳職三人。從五位已上官一人。七位已上官一人。八位官一人。

木工寮十人。從五位官一人。六位官一人。七位官二人。八位官六人之中屬算師各二人。大小工各一人。

大炊寮三人。從五位官一人。七位已上官一人。初位已上官一人。

主殿寮四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。初位已上官一人。

典藥寮十五人。從五位官一人。六位已下官人之中侍醫四人。助允[各]一人。初位已上官一人。七位官七人之中醫博士一人。

掃部寮四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。初位已上官一人。

內膳司五人。六位官一人。七位官三人。初位官一人。

造酒司二人。六位已下初位已上官。

采女司一人。六位已下初位以上官。

〔織部司〕「オリベノツカサ」又「オンベノツカサ」と訓む、唐名織染署大藏省に屬し、綿綾紬羅を織り、及び雜染の事を掌る

〔主殿寮〕「トノモリノツカサ」「トノモツカサ」又「トノモンレウ」「スデンレウ」と訓む、唐名尙舍局、宮內省の被官、湯沐、灑掃、裝飾のことを掌る

〔各〕典藥寮の條下の注「各」字、原本なし、今雲本に據りて補ふ、又、同注「初位已上官一人」原本「二人」に作る、古本に據りて改む。

〔采女司〕宮內省の被官、諸國貢する采女等を檢校する事を掌る。

主水司一人。六位以下初位以上官。
彈正臺七人。從三位官一人。從四位官一人。正五位官一人。六位官二人。八位以上官二人。
春宮坊八人。從四位官一人。從五位官一人。六位官三人。八位官三人。
左京職八人。從四位官一人。從五位官一人。六位官一人。七位官二人。八位官三人。右京職准此。
修理職八人。從四位官一人。從五位官一人。六位官三人。七位官一人。八位官二人。
勘解由使九人。從四位官一人。從五位官二人。六位官三人。七位官三人。
齋宮寮廿四人。從五位官一人。六位官四人。七位官七人。初位官十二人。
齋院司四人。從五位官一人。六位官一人。七位官一人。八位官一人。
凡權官馬新、准正員給之。
右自正月至六月、上日一百廿五以上者、給春夏馬新錢。秋冬准此。但春夏七月十日、秋冬正月十日、與中務兵部共申太政官。其有上日共等。勞劇亦同者。依官位次第作差分給。縱滿限日貪濁有狀者。不須給與。如帶二官者。從一高給。若有大學頭陰陽頭不解經術者。隨便停給。其齋宮寮馬新者。以神稅給。若不足者。通用比國。

延喜式卷第十八

〔春宮坊〕「ミコノミヤノツカサ」又「ミヤツカサ」とも訓む、一に坊官と云ふ、唐名詹事府皇太子の內政を取行ふ所也。

〔左京職〕京職の一「ヒダリノミサトノツカサ」と訓む京師の朱雀大路より東部を管す、官舍は、朱雀の東、三條坊門の南にあり、又右京職（下注にあり）は、朱雀大路の西部を管す官舍は朱雀の西、三條坊門の北にあり。

〔修理職〕「テサメツクルツカサ」又は「ツクリチサムルツカサ」と訓む唐名匠作監、宮城の造營、及び修理の事を掌る、令外の官也。

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第十九

式部下

新年月次二祭。

前散齋一日。左辨官召諸司宣示齋日。錄進受宣復省擧申。輔命召所管司而宣之。錄稱唯命史生喚省掌。省掌稱唯就版位。丞命召大學寮省掌稱唯復座。令召之。寮屬就版位。丞命如弁官宣。屬稱唯退告本局。餘祭准此。其日平旦。輔以下就神祇官齋院外座。省掌執版位進當丞座而置之。五位已上就版受點。弁大夫不在此例。事見儀式。

鎭魂祭。

其日所司依例供備。各有常儀。是日晡時。輔以下就宮內省南門外座。省掌置版位。五位已上受點如常。事見儀式。

踐祚大嘗會。

卯日質明。掃部寮設輔以下座於便處。點檢五位以上。如賀正儀。錄率史生省掌。大嘗宮南庭置皇太子已下及奏宿禰語部歌人等版位。辰日點檢五位以上於豐樂院立標。引列如常。巳午日同之。但午日亦引叙人。宴會訖輔執札互唱名。事見儀式。

新嘗會。

辰日質明。掃部寮設座於便處。輔已下就座。五位已上就版受點。其後丞錄率史生省掌立標。輔已下率五位已上列立門外。餘節亦同。事見儀式。

【新年月次】〔神祇官齋院〕一に西院と云ふ、東西二十三丈、南北三十七丈あり、構内には、八神殿、正廳、南廳、西廳、東舍、齋部殿、御幣殿、及び高藏等あり

【鎭魂】〔宮內省南門〕郁芳門の通りにて、廩庫に對する處にあり。

【大嘗會】〔語部〕上文神祇式に「語部十五人」云々、入レ自ニ東西掖門一、就レ位奏ニ古詞一」とあり、

【新嘗會】臨時の役にて、大嘗祭の時、古詞を奏する者也。

〔舍〕京貞二本及び儀式に无し、衍字也。

〔文宣王〕孔子の謚號也資治通鑑に「追ニ謚孔子ニ爲ニ文宣王ニ」とあり。

〔顏子〕孔子門下十哲の一也、名は回、字は子淵、魯の人、孔子家語に「孔子曰、自ニ吾有ㇾ回、門人日益親、回以ニ德行ニ著ㇾ名、孔子稱ニ其仁ニ焉」とあり。

〔九哲〕所謂論語先進篇の「(德)(行)顏淵、閔子騫、冉伯牛、仲弓、(言語)宰我、子貢(政事)冉有、季路、(文學)子遊子夏」とある十哲の內、顏淵を除きたる他の九人也。

神壽

大祓

釋奠

御齋會

出雲國造奏神壽詞

新任國造。一如前儀。其叙位賜祿並有常式。齋畢率諸祝部更復入京奏神壽詞。(闕以後畢奉列立會昌門外。後齋亦同。)其日諸司廢務。若應叙位者。預令省書位記。前一日錄率史生省掌置龍尾道以南版位。(事見儀式。)

六月十二月晦日大祓。

其日所司陳列祓物。各有常儀。百官男女會集朱雀門。外記史中務式部兵部並坐東使舍。彈正坐西使舍。大臣已下五位已上坐壇上東舍方。(南階東一間爲四位已下階。二間爲參議已上階。但雨泥日仰所司設橋於東方墻下。)女官亦就同壇上西方。隔以班幔。三省省掌各置版位。諸司就版進濟上以上見參簿。(事見儀式。)

釋奠。

每年春秋二仲之月上丁。釋奠先聖文宣王先師顏子幷九哲於大學。預享諸司依例辨備。其日未明。有司行事。齋享如式。享畢寮屬就省版位申享畢。錄亦申官。其後設輔已下座於便處。皇太子入都堂就座。省率諸大夫及六位已下列立南門外。參議已上入自東掖門。著座後召使出自南門召省。于時輔稱唯。丞代入。丞奉上宣出命錄。錄命省掌率諸大夫幷六位已下參入就座。(五位已上就堂上。六位已下就東西舍。)講論畢皇太子已下退出。次所司設座賜饌。省率諸大夫以下分列如前。參議已上列立門外。然後共入謝座謝酒著座。酒觴三行。訖親王已下五位已上暫以起座。六位已下退出。五位已上更就宴座。省率六位以下文人於庭中。再拜昇就堂上座。賜題賦詩。明經明法算等道博士喚竪義學生論義。文人獻詩。讀畢群官退去。省錄五位已上見參簿。附內侍奏之。(事見儀式。)

正月講最勝王經。

每年正月始自八日迄十四日。講說金光明最勝王經。前五日省預定專當官人。(輔丞錄各一人。史生二人。省掌一人。)諸司各注六

〔生〕[illegible]年正月云々の符に、圖書寮雜色生四人の「生」字、原本「手」に作る、考異本に「諸本作手、據儀式及仁[illegible]十三年改、下文試補史生注亦作生、圖書式作人」とあり。

國忌

〔散花〕四個法要の一、花を散らして佛を供養すること、惡神降伏の爲なりと云ふ。

〔行香〕香を僧衆にくばること。

朝賀

朝廷の大法會に、殿上人、必ずこの役に立つ。

〔咒願〕法會の時、導師が施主の願ひに從ひて施主の幸福を祈ること。

〔蘂〕京貞二本により補ふ。

位以下官一人史生一人內舍人十二人大舍人卅人圖書寮雜色生四人名簿。移送省。省申送專當辨官。又省專當官依元日朝參五位以上及諸司申送官人名簿准擬職掌。前一日所司各依例辨備。掃部寮設輔已下及諸司官人座於便處。當日昧旦輔以下就座。省掌置版位。五位以上就版受點。諸司預事官人以下亦皆就座。錄執名簿宣示職掌。各受其事。分向預所。其齋會之間。省錄五位已上及闕怠之由。毎日附內侍奏之。（事見儀式。）

國忌齋會。

毎至其日。諸司各向其寺。省差輔丞錄史生省掌令向之。三綱依例辨備於佛殿前。又設輔以下座於廊下。昧旦輔以下就座。省掌置版位。五位以上就版。且命職掌。六位以下著到於省掌所。史生且依著到分配職掌。上抄已訖。錄執簿唱示。諸司官人稱唯。各向其所。其職掌者左右堂童子各五位四人。六位以下六人。左右執行水各六位以下八人。左右衆僧前各五位二人。六位以下二人。（治部玄蕃在此員內。）擊鐘三下。省掌撤版。輔以下就堂前座。衆僧就座。禮佛散花行香咒願。訖衆僧退出。群官散去。省依諸司見參造奏文。（五位以上具注歷名。六位已上但顯物數。）付內侍令奏。

元正朝賀。（卽位准此。）

元日丑一刻。掃部寮設輔以下省掌以上座於便處。輔以下就座。省掌置版位。五位以上服禮服。（四位已下非有職掌。不著禮服。）就版受點。（具見其儀式。）其禮冠者。親王四品已上並漆地金裝。以水精三顆琥珀三顆青玉五顆。交居冠頂。以白玉八顆立櫛形上。以紺玉廿顆立前後押鬘上。其徽者立額上。一品青龍。尾上頭下。右出左顧。二品朱雀。右出左顧。三品白虎。尾上末卷。頭下右向。四品玄武。爲蛇所纏。並右出左顧。（立玉者有蘂並座。居玉者有座無蘂。）諸王一位紫地金裝。以赤玉五顆綠玉六顆交居冠頂。以黑玉八顆立櫛形上。以綠玉廿顆立前後押鬘上。二位以白玉一顆綠玉五顆交居冠頂。以赤玉八顆立櫛形上。自餘並准一位。三位以黃玉八顆立櫛形上。自餘並准二位。四位漆地縚形櫛

〔玉座〕飾玉を嵌むる處に置き下敷とする具也。

〔櫛形〕古代の櫛の背の如き形、即ち富士山の頂の如き形のもの、禮冠の巾子を云ふ。

〔朔平門〕大内裏外郭門の一、縫殿陣とも云ふ、内裏の北正面に位し、玄暉門と相對す。

后受賀

〔計〕古本「列」に作る。

〔玄暉門〕大内裏内郭門の一、或は玄輝門、玄龜門に作る、内裏北面の正中門也。

太子賀

〔且〕儀式「賛」に作る。

〔再拜〕京本及儀式に「再」字なし。

形押鬘、玉座皆金装。自餘銀装。以赤玉五顆緑玉六顆交居冠頂。以白玉十顆立前押鬘上。以青玉十顆立後押鬘上。不立櫛形上。正五位漆地銀装。以黒玉十顆立前押鬘上。以青玉十顆立後押鬘上。自餘准四位。其徽者鳳。三位已上。正位正立仰頭。從位正立低頭。正四位上階左出右向。下階右出左向。從四位上階左出左顧。下階右出右顧。五位准四位。諸臣一位以紺玉八顆立櫛形上。自餘並准王一位。（玉色交居玉臣各異。）二位以緑玉五顆白玉三顆赤黒玉三顆交居冠頂。以赤玉八顆立櫛形上。自餘准一位。三位以黄玉八顆立櫛形上。自餘准二位。四位以赤玉六顆緑玉五顆交居冠頂。自餘准王四位。五位以緑玉五顆白玉三顆赤黒玉三顆交居冠頂。自餘准王五位。其徽者麟。正從出向皆准諸王。

二日皇后受賀。

當日早旦。掃部寮敷座於便處。輔以下就座。省掌置版位。五位以上就版受點。省掌召計六位以下。訖輔以下共興引進列立於朔平門外。史生執簿召計五位以上。（先是參議以上在玄暉門外廊下。）訖即引入。（録立朔平門内。稱容止。）列玄暉門外。南面西上。次六位已下入列五位之後。（省掌且稱容止。）立定群官共再拜。職大夫出自內裏。傳宣令旨。群官共稱唯再拜退出。

同日皇太子受賀。

當日后宮禮畢掃部寮設座於便處。輔已下就座。五位已上就版受點。先是録率史生入樹版標。訖輔已下倶興列立。史生執大籍計列於南門外。左右分立。開門即丞録史生東西分執版位入置如標而退。省掌二人置六位已下版位於門外左右。訖群官五位已上入就門內版。（録二人立門外互稱容止。）六位以下就門外版位。東宮降座立。掌儀唱再拜。賛者承傳。群官皆再拜。令群官首者一人。昇自西階進東宮前東面跪賀申。訖降復位。群官共再拜、亮

宣令。訖群官再拜。東宮即座。亮復位。掌儀唱再拜。贊者承傳。群官再拜。訖退出。亮亦退。掌儀贊者以次退出。撤版如初。（事見春宮式并儀式。）

孟月告朔。

前一日。省置龍尾道以南版位。告朔大夫預習儀式。其日質明。省令省掌立漆案於中庭。（事見儀式。）乘輿不御之日。省掌直立弁官廳前。立曹司廳亦同。

諸司申送朔日見參人數。

毎月朔日。（正月ハ三日。）諸司物計見參初位以上長上番上。造簿。各令主典申送省。（無位番上亦同。但勘解由使不在送限。）其日平旦。省掌於門外計列諸司。輔已下就座。省掌引諸司入。且稱容止。就版位。立定。其中一人進申云。司司申久刀爾能數能札進登申。丞命曰進之。諸司共稱唯。隨簿多少二三許人。分取進置錄傍。復本列。錄物計其簿讀申。輔判命之。錄俱稱唯。丞次命之。諸司俱稱唯。自上退出。省掌且稱容止。

諸司送五位以上上日。

毎月二日。（正月ハ三日。）諸司各計五位以上前月上日。造簿。令主典申送省。（太政官上日下待於省。以下諸條皆放此。）令專當史生抄諸司五位以上朝座上日及還昇集會請假等簡置丞座前。其日平旦。省掌於門外計列諸司。輔已下就座。省掌引諸司入。且稱容止。就版位。立定。其中一人進申云。司司申久五位與利已上能日數能文進登申。丞命曰。進之。諸司俱稱唯。以簿傳授。在寮下二人總取就錄後。進之復本列。諸錄分取依次讀申。若有所違者。丞勘問申。輔隨判令改。命錄曰返給。錄稱唯。命曰參來。被勘問者稱唯。進受退出。讀申已訖。輔判命之。錄俱稱唯。丞次命之。及省掌引退亦同前儀。

〔質明〕正旦ないふ、質は正也、早旦、早朝などいふに同じ、儀禮に、「質明行事」とあり。

告朔

〔見參〕「ゲンザン」又は「ゲザン」と訓む、人の前に參りて對面するをいふ。

朔日見參

〔造簿〕見參文なり、安齋隨筆に「げざんの文とは見參文なり、云云、今日參らぬ人もある故、今日あらはれて參る人の名のみ書きたる故、見參の文と云ふ也」とあり。

上日

〔容止〕振舞の義にて、樣子の事也。

〔請假〕毎月二日の條中「諸」に作る。

〔叙位〕五位以上の位階を勅授する儀式也、天智天皇十四年正月始めて此の事あり、古くは正月中に行はるるのみにて日定まらず、光仁天皇の御宇より七日白馬節會の時にこの事ありしより例となりしが、後ち村上天皇の天德五年より五日に改めたり。

〔逢春門〕原本「建春門」に作る、雲本及内裏式によりて改む。

〔收薪〕此事天武天皇四年正月十五日初めて見えたり「薪」は「かまぎ」（釜木の意）と訓む。

七日叙位

正月七日叙位賜宴。

當日質明。掃部寮設座於便所。輔以下就座。點檢五位以上。兼仰八日御齋會職掌。又丞錄率史生省掌立標退出。叙位標間立之。（兵部共參。）其後有喚丞參入。大臣賜可叙人歷名。其退出唱計。又輔依喚入。自逢春門立左近陣西南頭。（兵部共參。若參）位記筥丞隨。即大臣喚之稱唯。昇殿賜位記筥。置庭中案。先是省率四位已下刀禰等列立門外。于時少納言出喚五位已上。分頭參入。錄正容止。次六位已下參入。省掌正容止。宣後者比到堂下。省官亦率叙人入立。宣命之後。叙訖省官先退。叙人拜舞退出。丞入自逢春門撤筥而出。宴會訖大少輔及錄相分執札唱名。（事見儀式。）

任官

任官。

其日太政官預仰省令候。于時丞一人依召參入。（兵部共參。）大臣賜可任人歷名。其後於建禮門以南唱計任人。（參議已上不在唱限。）輔已下令持版位相率入候承明門外。或於太政官廳及外記候廳唱之。（事見儀式。）若於省唱者。大臣召省付除目簿。輔若丞受還本局。令史生授錄丞。命錄曰。令召省掌。錄稱唯。命史生喚省掌。史生稱唯。召省掌一聲。省掌稱唯。進就版位。丞命曰。率候人參來。省掌稱唯退出。即引入。輔若丞命曰唱之。錄起稱唯。開簿唱。被唱者稱唯。（若不在者。省掌代稱唯。）畢引退出。

收薪

收薪。

正月十五日質明。輔以下就宮內省。檢收諸司畿內進薪。（事見儀式。）

考選

二月十日考選目錄申太政官。

當日平旦。弁官未申政之前。中務式部兵部三省輔各引其丞就太政官版位。如弁官申政儀。輔讀申內外諸司諸家考目錄。丞讀申選目錄。次兵部次中務。並如式部儀。訖退出。（事見儀式。）

列見

十一日諸司長上成選人列見太政官。

當日早朝。掃部寮設座於辨官南門內。輔已下就座。省掌預計列專當官朝集使及選人等。弁官申政。訖輔已下列立南門前。召使出召。輔稱唯。丞參入就版位。大臣宣率成選人等參來。丞稱唯出還本列。輔率丞錄各二人入就版位。省掌取版位率選人等入屯立屏下。訖大臣宣召之。輔已下稱唯。昇就座如常。史生等執研筥并短冊筥置大臣前案。及省掌置版位。錄唱選人名有常儀。事見儀式。

番上列見

諸司番上成選人列見省。

諸番史生抄選人名以授省掌牓示。諸司依期會集。當日質明。省掌計列選人。卿已下以次就座。錄持別記及諸司申不參文。史生各持短策筥就座。即各置筥把笏。卿命丞令成選人等參入。丞稱唯命錄令召省掌。錄稱唯命史生。史生稱唯召省掌。省掌稱唯進就版位。丞命率成選人等參來。省掌稱唯退出引諸司專當官及選人入且稱容止。選人屯立屏下。訖史生持第一筥進授在上錄。錄執筥進置卿案下。出取短策舒陳案上。執筥復座。卿命召之。錄共稱唯唱之。每唱畢則錄執筥納短策復座。史生進就錄後受筥復座。訖亦史生依次持受同前。選人稱唯進就版位。若有不參者。專當官人代稱唯申其所由。錄勘會申中不參簿。畢申。若專當官不在者。省掌代稱唯。并申所由。每滿十人。省掌稱直立。選人共稱唯就直立位。每滿五十人。丞命省掌退之。初給時召省掌名命之。中間不須。省掌稱唯傳告。選人共稱唯退出。唱畢丞召省掌名。省掌稱唯。丞命罷之。省掌稱唯告罷。選人依次退出。

史生捧筥退出。卿已下以次退出。

成選短冊

四月七日奏成選短冊。

諸司選人無故不到者判降。已訖解散。短冊即依階及年以次綴貫。訖丞錄各執別記計會盛筥納櫃。又造擬階簿進太政官。官即勘會更造奏文奏之。其日質明。二省以冊櫃於宣陽門外候之。事見儀式。

〔列見〕朝廷にて、六位以下の器量容儀を列見する儀式、毎年二月十一日、太政官にて行ふ。

〔南門〕太政官の南門にて、正廳の正面、郁芳門通りの外郭にあり、民部省に對す、八足門也。

〔成選短冊〕叙位さるべき人の名を記したる札也、陽成天皇元慶五年四月九日、式兵部二省これを奏せしを初見とす。

〔冊櫃〕短冊を入るゝ櫃也、冊は、こゝにては短冊の意也。

十五日授成選位記。

奏短冊訖。令諸蕃各寫其貫。立位案。訖令書位記。丞錄共執位記案別記等。令省生賷冊。計會訖申送太政官。十一日請印。外記覆勘印之如常。當日式部兵部引成選人赴官就座。宣命畢。卽選人稱唯升殿。其後唱授如常。若當賀茂祭日者。改用他日。(事見儀式。)

九月九日菊花宴。

應召文人者。前一日省簡定文章生幷・諸司官人堪屬文者。造簿預令宣告。當日質明。掃部寮設座如常。輔以下就座。計列文人。卽造名簿。卿若輔以名簿奏進內侍。(事見儀式。)餘節應召文人者准此。(九月九日。文人賦詩未進奏。且令參入。又賜詩人省點之移中務省。同注記其名。丞錄共至積祿所。授大藏省。共監給祿事。)

受諸蕃使表及信物。

其日式部設使者版位於龍尾道南庭。設庭實位於客前。諸衛立仗。各有常儀。群官五位以上及六位以下左右分入。使者服其國服。入如常儀。(事見儀式。)

賜諸蕃國使宴。

前一日輔丞錄率史生省掌等置版位幷立標。當日參議已上就延英堂。省率四位已下刀禰列立堂前。(六位已下分在西。)依召五位已上參入。錄正容止。次六位以下參入。省掌正容止。各著座。次治部玄蕃引客徒參入。拜舞之後。輔丞錄入自儀鸞門。立治部西邊。宣命後叙客徒。宴畢輔丞錄唱名。大藏省賜祿。(事見儀式。)

諸司進祿文幷給。

正月七月下旬。文官各惣計當司及所管官人上日。依例勘錄。諸家准此。二月八月三日。各令主典申送。其日平明。省

〔授位記〕〔十一日請印〕太政官式には「式部四月十日」とあり。

〔菊花宴〕〔井・諸司官人〕政事要略「井學生諸司官人」に作る。

〔諸蕃〕〔庭實位〕諸蕃の信物を置く位置を云ふ、庭實は、左傳莊公二十二年の「庭實旅百」の註に「庭之所實陳有百品言物備也」とありて、庭中に陳ぬる貢物の充備せるをいふ。

〔蕃使祿〕

〔諸司祿〕〔延英堂〕大内裏豐樂殿九堂の一、儀鸞門外の東にあり、故に又儀鸞門外東堂とも云ふ。

〔色〕當色を云ふ、即ち、親王、有品諸王、及び諸王諸臣一位は深紫、諸王五位以上、諸臣三位以上は淺紫、諸臣四位、緋、同五位淺緋、同六位深綠、同七位淺綠、同八位深縹、同初位淺縹の類是也。

〔曹司廳〕太政官の正廳を云ふ、或は曹司、官廳、廳事上廳、官曹司等と稱す、廣さ東西七間、南北四間、南北各廂と三級の石階三箇あり、七間にて、東西に廊を設く、又東西に同形の廳あり、列見定考の儀式を擧ぐる處にして、中世以後は即位式、大嘗會をここに擧げたり。

掌於門外。計列諸司、引就版位。且稱參上、立定。其中一人進申、丞命曰進之。諸司俱稱唯。傳取、在最下一人趨取進之。錄總計其卷數讀申。輔判曰勘之。錄稱唯、丞命曰候之。諸司俱稱唯。共退亦側申。其五位以上上日僕訖令專當錄并史生惣勘造。其十日平旦。進錄就左弁官版位、申曰。省申祿文於上。亦如之。中務兵部三省輔各引丞錄直度馳道。至左右弁官引。就太政官前版位。六位以下就後版位、立定。大臣宣召之。五位以上俱稱唯。六位以下亦俱稱唯。五位以上隨色就堂上座。六位以下依次就庭下。立定、式部錄先讀申。兵部次之、中務次之。大臣若有所問。即三輔隨狀辨答。大臣判命之。三輔俱稱唯。次丞錄俱稱唯引退。三輔起座就版位以退出、著於曹司廳即亦准此儀。訖造解文。十三日進左辨官。廿一日平旦、分史生爲六番。預遣省掌於大藏省、召計諸司。令進直丁運積祿物。掃部寮設省掌以上座於殿下、輔以下引就座。省掌置版位。六番史生分當諸司、計會祿文。大藏錄執名簿、引史生以下藏部以上就版位進之。唱祿物畢大藏官就位、申積祿訖。弁令官掌召省。錄稱唯進。弁大夫命曰祿進令給。錄稱唯退申輔。俱就列隨色、重行立定。弁大夫進出宣命。五位以上六位以下稱唯再拜舞蹈如常儀。初掃部寮設諸司座於祿物下。弁官以下依次就座。訖弁大夫命曰令給。二省輔稱唯。即命諸番史生云給之。史生共起稱唯、趨自一番披簿唱之。諸司主典隨唱稱唯進。史生宣示給物色數。藏部承命計授。且申其數。史生各記之、大藏亦如之。諸番給訖、各依次申給訖狀。錄起進申曰祿給訖。弁官判命之。錄稱唯退。諸司以次退。事見儀式。其後大藏注殘祿數、移省。即計會報移。

位祿

給位祿。

毎年十一月、惣按目錄。同月十日申太政官。訖責錄名帳、申送弁官。注可給祿物數、下符大藏省。廿二日省輔已下向大藏就座。大藏積祿物於庭中。掃部寮敷座於祿下。大藏積祿畢、即申辨官、令官掌召省。錄稱唯進、弁

〔藏部〕大藏省の職員にて、六十人を定員とす。

〔物〕原本祿となす京貞二本に據りて改む

馬新

〔申丞訖〕古本「申丞給訖」となす。

〔退去〕一本「退出」に作る。

長上考

〔外國〕五畿以外諸道の國の意也。

番上考

〔十月二日〕原本「二」を「一」に作る雲本に據りて改む。

諸家考

〔集省〕原本進省となす、京貞二本によりて改む。

〔南外〕一本に「南下恐脱門字」とあり。

大夫命曰、依例令給録。省唯、還而就座。畢丞以下依次就座下座。輔命史生曰給之。史生稱唯、執簿唱之、藏部給之。訖史生申其状、輔以下起去。其後本司主典受物、量事輸送、亦如上例。

諸司進馬料文并給。

六月十二月下旬。文官各勘計當司并所管官人上日造簿。正月七月二日平旦。各令主典申送等事如季祿儀。十日質明、錄就左辨官版位申曰、省申馬料文於上。中務兵部亦如之。三省輔各率丞錄就太政官版位等事、亦如季祿儀。廿二日質明、省掌囘大藏省召計諸司、掃部寮設丞錄以下座於庭下。丞錄史生就座。大藏積新錢、掃部寮又設二省并大藏座於其物下。大藏積於下以中弁官、令省掌召二省。二省稱唯進。弁大夫命曰、馬料其給錄受宜退。申丞訖引就庭座。丞命曰給之。史生稱唯、以次唱給、亦如季祿儀。史生申訖状、即引退去。

諸司畿内長上、考選文進左弁官。

在京諸司及五畿内國司。勘造考選文印署。十月一日（外國十一月一日。）進左辨官。事見儀式。

諸司畿内番上考選文進省。

文官及畿内國司勘造番上考選文。十月二日（外國十一月一日。）集省。省掌隨次計列、引就版位令進。並如長上考文進儀。立定少輔命召五位以上、俱稱唯、隨色就座。錄讀申。訖輔判曰勘之。錄稱唯。大輔命曰給之。諸司稱唯、以次退出。

諸家考選文進省。

十月三日平旦、諸家各以家司并帳内資人及定額雜色人等考選文案、齎會集。省掌計列於南外。次以其主品位、訖引就版位。其中一人進申、丞命進之。家司俱稱唯、以次進、置於錄前案。訖錄讀申、輔判曰勘之。錄稱

〔參〕原本「奉」に作る、京本に據りて改む、（前頁「令參上候司」參照）

〔有不當〕「當」字一本「審」に作る。

〔以次考〕「次」字要略「下」に作る。

〔貢人〕國學の學生にして、貢擧を受くるものを云ふ、昔學生は郡司の子弟にして、大國五十人、上國四十人、中國三十人、下國二十人の定めにて定員に滿たざる時は庶人の子弟をも取れり。

試生

〔俯問頭〕「俯」字京本「俟」に、貞本「備」に作る。

儀。職事唱了、丞判命之。俱稱唯退出。錄復披番上考文唱之、史生以下稱唯就版位。錄亦宣示日數行事。每滿十人亦稱直立。唱了丞唱省掌名曰退之。省掌傳告。考人俱稱唯、以次退出。其不到者引唱之後、限以三日。如列見儀。遂不到者、判除考第。他司准此。自餘諸司不論前後隨勘了且問。其日質明。省掌鋪設床疊於曹司廳并省掌座東、共皆北面。輔以下就座。訖中務輔丞錄以次就省掌東座。丞命錄令參上候司。錄稱唯命史生。史生命省掌。省掌承傳。中務輔以下依次稱唯進就版位。丞命召之。以次稱唯登就座。省掌命所管諸司以次參上。所管進就版位。丞命召之。昇就座。及丞命錄讀申。並如前儀。若有不當。即問其由。所管不辨、乃問中務。亦如前儀。輔判與奪。丞承傳。中務輔稱唯。一司六位以下俱稱唯。訖丞判命之。所管稱唯退出。所管諸司以次考問訖亦退出。省掌引中務并所管諸司六位以下職事分番考人入唱如前儀。職事唱了。丞判命之。俱稱唯退出。次唱番上。每滿五十人。丞命省掌且令退之。自餘諸司亦准此。但太政官不在考問引唱之例。其在京諸司及畿內國司十月卅日以前按定了。太宰及七道諸國司。十一月卅日以前按定訖。十二月卅日以前勘定考選目錄。已訖以二月十日申送太政官。考番史生各寫考別記。選番史生亦寫選別記。兼書短册。專當丞執册。錄執別記。令史生讀案。共相計會。知無失謬。以候列見。

試貢人及雜色生。

文章得業生者。依本司解具狀申太政官。下符訖預定試日宣示本司。其日質明。卿以下就座。本司就省掌東座。座定丞承卿處分。命錄曰令參上候司。錄稱唯命史生。史生稱唯命省掌。省掌稱唯命曰候司參上。本司稱唯引貢人就版位。貢人在屏下。錄披簿唱之。其稱本色位姓名。貢人稱唯就後版位。丞名日召之。本司稱唯昇自西階就座。丞亦命曰侍座。貢人稱唯昇就座。使部置筆硯於貢人前。卿若輔自俯問頭。輔以上不自俯、則待上宣、令當時文人堪事者問之。令史

〔進士〕時務策、讀書等の試驗に及第したる貢人或は擧人を云ふ、甲第は從八位下、乙第は大初位上に敍す。

〔文選〕六朝文學の粹にして、梁の昭明太子蕭統の撰也、詩賦を初とし、辭引序誌に至るまで、駢驪八股文を編して、三十卷となす。

試補史生

〔爾雅〕周公の作と云ふも詳ならず、釋詁、釋言、釋訓、釋親、釋宮より釋鳥、釋獸、釋畜に至る十九篇あり、支那に於いては訓詁の祖とも云ふべき書也。

試郡司

〔綱例〕古寫本「經例」となす。

生授之。每日承以上業畢試訖者、省並就業後受之。授貢人當日對了。（其進士時務策更取他日。試所讀文選爾雅。）後更定日。卿以下與文章博士及儒士二三人等共評定之。及第者具狀申太政官。（其閒敍位、試補文章生亦准此儀。）其明經明法算等得業生者、亦依本司解、可試之狀申太政官。并進退就座等、並准上儀。若諸國貢人隨辨官下各依其業試之。其前試官定日令候。其日平旦卿以下就座、大學若朝集使與博士共就省掌東座。承命錄及試官學生就座等儀同上。訖史生以所試書置卿若輔前。（案大給卷日之外。若輔不在置丞前。）學生以讀本置博士前。訖丞命博士令讀。博士稱唯舉申試條。即命學生。學生稱唯披書讀之。博士問義。學生每問稱唯答述。畢博士申文義得不之狀。卿命錄記之。錄稱唯申所記之狀。（若卿不在史生記之。）但畢日更總申試條得不之數。訖丞判命之。博士稱唯退出。次學生退出。其及第者、申奏敍位如前。（試諸國博士醫師亦准此儀。但不申官。）

試補諸司史生

諸司番上有讀律令格式維城典訓并工書算者、省召其身試之。被召之人就省掌東座。承錄史生轉命。省掌承傳、並如上儀。候人稱唯進立庭下。錄披簿唱之。候人稱唯就版位。錄讀申其才。訖丞命日傳座。候人稱唯昇就座。史生置所試書於丞座側。直丁置被試人前。（若工書算者、陳紙筆等。）丞命讀其書。候人稱唯披書而讀。丞略問綱例。訖丞判命之。候人稱唯退出。其試書算者、寫書乘除。訖監試之官、具錄其狀進署、傳記、隨才擢用諸司史生。（試圖書寮裝潢色生亦准此。）

試諸國郡司主帳以上

諸國銓擬申上大少領并主政帳等、每年正月卅日以前集於省。預差承錄史生省掌專當其事。訖設輔以下座於省內便處。令史生勘造其簿、具顯功過、寫其名簿以授省掌。每日召計習其申詞。案成之後更寫四通。（主政帳寫一）

〔東海道云々〕此の條一本に「畿內（ウチツクニ）東海道（ウミツミチ）東山道（ヤマノミチ）北陸道（クヌカノミチ）山陰道、山陽道、南海道（ミナミノミチ）西海道（ニシノミチ）」の傍訓あり。

〔自臨〕一本「自監」に作る。

〔府國解〕府は陸奧鎮守府、太宰府の意、國は出羽をいふ、解は解狀にて諸府國より太政官に上申する公文也。

〔大少領〕國司の下に屬して郡の政務を行ふ郡司也、郡の長官にて（大少領）、一に郡領と云ふ、大領は外從八位上小領は外從八位下となす。

通。以擬丞以上之選。四月廿日以前。勘籍已訖。省掌預命諸國朝集使令集。其日平旦。輔以下皆就座。省掌置版位。又預定國司座。訖輔命丞。丞命錄。錄命史生令召省掌。省掌稱唯就版位。丞命曰率候郡司等參來。省掌稱唯退出。先引東海道一國朝集使及郡司等入。屯立庭中。省掌就版位。讀簿先唱國司。國司稱唯就版位。五位先入而召就座。（錄唱起座稱唯。）次唱郡司。依次稱唯進立使傍。唱了丞命侍座。國司稱唯就座。輔命省掌令申譜第。省掌稱唯傳命。郡司俱稱唯。依次申訖。丞命候之。國郡司俱稱唯。省掌引退出。更引次國入。唱申如前。六道（除西海道。）勘訖。更定日以申卿。預前國郡司令參集。其日平旦。省掌設郡司座并硯於西庭左右廳。（多少隨人數。）卿以下就座。史生盛筥四筥。以次進置於輔以上前及丞座傍。（親王任卿者。置勘籍前。）各有常儀。卿命丞曰令郡司等參入。丞稱唯。令喚省掌。如常儀。省掌稱唯就版位。丞命率候郡司等參來。省掌稱唯退出。引一道國郡司進屯於庭下。立定。卿命召之。錄稱唯。省掌進立版位。錄持簿唱畢。丞命國司侍座。卿命省掌令申譜第。（若親王任卿者。大輔命之。）省掌傳告。郡司俱稱唯依次申。並如前儀。訖丞命國司曰候之。稱唯退出。乃命省掌令郡司侍座。省掌傳告。郡司俱稱唯就座。省掌退出。訖他省掌執筥進。丞受筥受問頭。降就郡司傍授之。訖置筥於西階上復座。郡司執筆各答其問。隨了且進納筥退出。每一道訖。他省掌遞引進如前。儀諸道已訖。省掌進執筥試狀筥置丞座傍退出。聚其狀書。卿自臨判等第。隨其黜陟。（陸奧出羽西海道等郡司不在此限。依府國解定其等第。）但主政主帳者。卿以下唱試其身。不召國司。

敍任諸國郡司大少領。

對試才能。計會功過。訖三月廿日以前。輔若丞自成奏案。令史生寫。四月廿日以前。令外記申奏之狀於大臣。當日輔以下令持文簿候於內裏。大臣引奏。御覧已訖。即勘籍書位記。申太政官請印。專當丞自書除目。錄抄歷名。六月卅日以前。申太政官補任之。前一日。錄率史生省掌。置版位。并補遣位記筥案。（標如常。事見儀式。）

従四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔古人云ヽ〕此の注文元字、後人の傍註の攙入也、雲本これを削る。

〔堅鹽〕雜式「石鹽」に、周禮「形鹽」に作る。

〔醢〕醢字な雲本「醯」に、雜式「醢」に作る、唐書これに同じ、周禮「醓」に作る。

〔脾析菹〕一本に「脾析ヨコシノヒラキ、豚胉豚肩也」とあり。

〔稷飯〕京本「稻飯」に作る。

〔簋〕廣韻に「簠簋祭器受ニ斗二升一内圓外方日レ簋」とあり周禮冬官考工記の疏に「祭ニ宗廟一用ニ木簋一」と見ゆ。

延喜式卷第二十

大學寮

釋奠十一座。「古人云、此式多用ニ漢音一」二座。先聖文宣王。先師顏子。座別籩十。堅鹽。乾魚。乾棗。栗黃。榛子人。菱人。芡人。鹿脯。白餅。黑餅。豆十。韭菹。醓醢。菁菹。鹿醢。芹菹。兔醢。筍菹。魚醢。脾析菹。豚胉。簠二。稷飯。黍飯。簋二。稻飯。黍飯。鉶三。大羹。鉶三。內羹。俎三。三牲。宍。

從祀九座。閔子騫。冉伯牛。仲弓。冉有。季路。宰我。子貢。子游。子夏。座別籩二。栗黃。鹿脯。豆二。葵菹。鹿醢。簋一。稷飯。簠一。黍飯。𤮊一。大羹。鉶一。宍羹。俎一。牲肉。

先聖酒樽罍三具。犧樽二。明水。醴齊。象樽二。明水。醍齊。罍二。玄酒。清酒。爵三。在ニ洗所一坫一。坐レ坫。罍實同杓六。加レ上。罍別

先師樽罍三具。並同上。

爵卅。十座各三。福酒爵二。反ニ坫一。已上爵同　胙宍俎一。籩一。豆一。別加盥罍一。加レ杓。洗一。爵巾篚一。幣篚二。

右禮器在ニ祭家一。當ニ祭時一出ニ充諸司一。

白帛三丈六尺。二座幣。各一丈八尺。暴布三條。各長四尺。拭ヒサヤノハン爵并手巾料。楸版一枚。各長一尺二寸。廣七寸。厚六分。

〔腐臭〕腐臭に同じ。臭は玉篇に「俗臭字」とあり。

〔三牲〕書經の疏に「經傳多言二三牲一知二牲是牛羊豕一也」とあるも、ここは、下文の「鹿、豕、菟」を云へり。

〔五十隻〕「隻」字一本「喉」に作る。

〔「並籩豆」〕雲本之れを削る、考異に「案豆實有二鹿醢一乃見レ下、未レ言レ有二鹿脯一恐傍注混入當レ削」とあり。

〔醓醢〕詩經大雅の疏に「醓醢、用レ肉爲レ醢、特有二多汁一故以レ醓爲レ名」とあり。醢は、和名抄に「醢、和名、之々比之保、肉醤也」とあり。

右申省所受。

名香二兩。油二升〈盞八口〉。庭燎料新布八條。炭一籠。松明六束。

右所司供設。

三牲〈大鹿。小鹿。豕。各加五臟。〉　菟〈醢新。〉

右六衞府別大鹿小鹿豕各一頭。先祭一日進之。以充牲。其菟一頭。先祭三月致大膳職。乾曝造醢。祭日辨貢。

其貢進之次。以左近衞爲一番。諸衞輪轉。終而更始。

凡諸衞所進之牲。若致斃悴。早從返却。令換進之。

凡享日在園韓神幷春日大原野等祭之前。及與祭日相當。停用三牲及菟。代之以魚。其魚毎府令進五寸以上鯉鮒之類五十隻。鮮潔者。

凡魚醢者。大膳職造備。臨祭辨貢之。

凡籩實。堅鹽五顆。乾魚。乾棗。栗黄。榛子。菱人。芡人各一升。大鹿脯。小鹿脯〈並籩豆〉各一斤八兩。白餅。黑餅各用米二升。〈黑餅以黑黍。〉豆實。韮葅一升。醓醢五合。菁葅一升。鹿醢五合。芹葅一升。菟醢五合。笋葅一升。魚醢五合。脾析葅五合。〈用牛百葉。〉豚胉五合。葵葅一升。簠簋實。稷飯用米六合。黍稻粱飯各用米七合。大羹肉羹皆盛甄鉶。樽罍皆一斗爲量。牲者皆載右胖。體十一。前脚三節。肩臂臑節一段皆載之。後脚三節。毎節一段。去下一節。載上肫骼二節。又取正脊脡脊横脊短脇正脇代脇各二骨。以並。餘皆不設。〈餘者左方也。獸臥下左。故不用左也。〉盛別貢物韓櫃二合。各有〈箇形。〉結粧木綿二斤八兩。曝布二條。各長一丈。〈二幅。〉絲帛一條。各長一丈。〈五幅。〉白紗帊一條。各長一丈。〈四幅。〉纁帛帶四條。各長二丈四尺。廣二寸。盛清酒漆壺二合。各受二斗八升。安壺案二脚。各長三尺一寸。廣一尺七寸。高二尺六寸。杓二柄。酒盞二口。〈備盞。〉白紗帊一條。各長八尺。〈三幅。〉纁帛帶四條。各長八尺。廣二寸。

寸五分。

右器幷幄帳等在祭家。當祭時出充。

前享廿日、其注享日及幣帛、幷掃除寮内夫等數申省。春一百人。秋二百人。若上丁、當國忌及祈年祭日蝕等、改用中丁。

其諒闇之年。雖從吉服享停。「從吉服者或易以日月或依遺詔止素服之類也然而恭年之闇已心喪也仍祭一切止之也」

前享十日。講經幷執經執讀侍講者等名申省。但侍講者十人已下。六人已上。

預享之官。散齋三日。致齋二日。散齋皆於正寢。致齋一日於本司。一日於享所。其無本司者皆於享所。散齋理事如舊。唯不弔喪問疾。不作樂。不判署刑殺文書。不行刑罰。不預穢惡。致齋唯享事得行。其餘悉斷。其享官已齋而闕者通攝行事。餘館官學官及諸學生、雅樂工人、皆清齋於學館一宿。諸享官致齋之日給朝夕酒食。各習禮於齋所。致齋日給酒食。合一百人。但大藏掃部木工人。左右京兵士等不入此數。左右三獻・三人。掌奠幣三獻事。著冠冕和衣縫掖。謁者三人。掌導引獻官事。大祝二人。掌授幣奠祭文賜福胙事。廟司一人居廟中東方。掌開閉廟戶。安置聖賢像幷廟室鋪設事。郊社令三人。掌設幣神位及陳饌樽坫事。但二人著青衿服。奉禮郎一人。掌設廟庭位及儀式事。贊者二人。掌受辭贊唱事。贊引五人。彈正一人。觀者二人。學生二人。並掌導引事。協律郎一人。掌執麾節樂事。以上十六人。並著縫衣裳皂緣。齋郎五十人。掌奠饌俎豆事。並著青衿服。館官一人。學官一人。彈正忠疏各一人。掌省饌具行掃除、撿瘞幣彈非違事。大藏省一人。掌設廟幷都堂院簾幷陳饌具所等幕事。掃部寮一人。掌廟室幷享官鋪設事。大膳職一人。掌設饌具事。幷著縫衣裳皂緣。木工寮一人。工四人。掌爲瘞埳亦瘞幣、幷作陳設饌具之机事。大炊寮一人。掌取明火以爨事。主殿寮一人。掌灑掃堂上供燒香燎燭庭燎事。造酒司一人。掌設「清酒醴齋湯」三事酒事。主水司一人。掌設明水事。雅樂寮一人。工人廿人。掌奏樂事。左右京兵士各四人。掌衞廟門禁譁亂事。

陳設。

〔享停〕雜式に「一從停止」の四字に作る。

〔從吉服云々〕此の分注三十五字、雲本に闕る、考異に「其文非式文之體裁、後人旁注混入者」とあり。

〔散齋三日〕「三」京本「二」に作る。

〔三獻三人〕雜式に「三獻官三人」に作る。

〔廟〕大學寮の廟堂を云ふ。

〔都堂院〕大學寮内にあり、一に北堂と云ふ、紀傳道の學舍也。

〔清酒云々〕造酒司一人の注文の中「清酒云々」の七字京林貞三本亦同じく誌すれども、これ「三事酒」の傍書の混入也。

陳設

〔「水精玉」〕雲州家校本之れを削る、考異に「旁注混入、蓋陽燧之旁注入之、陰鑒下亦錯其地也」とあり。

〔望瘞位〕地を祭る場所也、望は、書經舜典に「望于山川」とありて、地を祭るに云ふ、瘞亦儀禮の覲禮に「祭川沈、祭地瘞」とあり。

〔犧樽〕犧牛を彫刻せる樽也、禮記の禮器に「犧尊疏布」の疏に「刻犧牛之形、用以爲尊」とあり。

〔象樽〕鳳凰の飾りを施したる樽也、左傳定公十年の疏に「象尊以象鳳凰」とあり。

前享三日、掃部寮設獻官以下次於齋坊。

前享二日、寮官差定享官。元文章得業生以下入自南門、立門屛內。東上重行。屬執札在座唱數。隨卽稱唯就版。每通十人。寮掌稱直立隨卽版東。北面北上。十人成列。立定允命云。明日候廟門。稱唯退出。

同日雅樂寮設樂懸於廟庭。用風俗樂。主殿寮灑掃廟內外。掃部寮鋪設廟內。滿筵爲期。木工寮爲瘞埳於院內堂之壬地。方深取足容物。

前享一日。大膳職到大學寮。灑滌器物。新理饌具。大炊寮取明火於陽燧。以供爨。主水司取明水於陰鑒。「水精玉」以供實樽罍。奉禮郎設三獻位於東門之內道北。設執事位於道南。每等異位。俱西面北上。設望瘞位於堂之東北。當瘞埳之東西向。設彈正忠位於廟堂之下西南東向。疏陪其後。設奉禮位於樂懸東北。贊者二人在南。差退俱西面。設郊社令廟司大膳職位於奉禮東。西面。又設奉禮贊者位於瘞埳東北。南面東上。設大祝一人位於瘞埳西南。東面。設忠疏贊引位於瘞埳西。東面。疏陪其後。設協律郎位於廟堂上前楹之間近西。東面。設館官位於懸東執事西南。西面。設學官位於懸西。當館官。東面。設學生位於館官學官之後。俱重行北上。設觀者位於南門內道之左右。重行北面相對爲首。設三獻門外位於東門之外道南。設執事位於其後。每等異位。俱北向西上。設館官學官位於三獻東南。俱重行北向。以西爲上。設酒樽之位於堂上。

先聖犧樽二。象樽二。罍二。在前楹間。北向東上。先師犧樽二。象樽二。罍二。在先聖酒之樽東。西上。樽皆加勺冪。有坫以置爵。其十座之爵。同置於一坫。設洗東階東南。北向。罍水在洗東。篚在洗西南肆。篚實先聖爵三幷巾。執樽罍篚冪者各位於樽罍篚冪之後。

設幣篚二。各於樽坫之所。

同日午一尅。寮官率享官會集廟門。屬執札唱計。獻者只載禮不唱名。若六位博士被充職掌。其唱稱唯。謁者以下隨卽稱唯。然後習禮。

座。與少退北向再拜。登歌止。謁者引頭降復位。初獻既升獻畢。大樂奏出。•進饌者奉饌陳於東門之外。頭降復位。大膳職引饌入。俎初入門。樂作。饌至階。樂止。饌升。大祝迎引於階上。各設於神座前。（升東階。設先聖及先師及東四座。升西階。設西五座。其饌皆蓋羃先徹乃升。簋簠既奠却其蓋於下。籩居右。豆居左。簠簋居其間。大鹿小鹿二俎橫而重於右。豕俎特於左。）設訖大膳以下降復位。大祝還罇所。謁者引頭詣罍洗。盥手洗爵。訖引升自東階詣先聖酒罇所。執罇者擧羃。頭酌醴齊。樂作。引入自中戶詣先聖神座前。北向跪奠爵。俛伏興少退北向立。樂止。大祝持版進於神座之右。東面跪讀祝文曰。維某年歲次月朔日子。天子謹遣大學頭位姓名。敢昭告于先聖文宣王。惟王固天攸縱。誕降生知。經緯禮樂。闡揚文教。餘烈遺風。千載是仰。俾茲末學。依仁遊藝。謹以制幣犧齊粢盛庶品。祇奉舊章。式陳明薦。以先師顏子等配。尙饗。大祝興。頭再拜。初讀祝文。訖樂作。大祝進跪奠版於神座。興還罇所。頭拜。訖樂止。謁者引頭詣先師酒罇所。取爵於坫。執罇者擧羃。頭酌醴齊。樂作。謁者引頭進先師首座前。北向跪奠爵。興少退北面立。樂止。（頭奠首座爵。餘座皆齋郎助奠。左升東階。右升西階。相對共入。其亞獻終獻齋郎助奠亦如之。）大祝持版進於先師首座之左。西向跪讀祝文曰。維某年歲次月朔日子。天子謹遣大學頭位姓名。昭告于先師顏子等十賢。爰以仲春。（仲秋。）率遵故實。敬修釋奠于先聖文宣王。惟子等。或服膺聖教。德冠四科。或光闡儒風。貽範千載。謹以制幣犧齊粢盛庶品。式陳明薦。從祀配神。尙饗。大祝興。頭再拜。初讀祝文。訖樂作。祝奠版於神座。興還罇所。頭拜。訖樂止。謁者引頭詣東序。西向立。大祝各以爵酌罍福酒。合置一爵。一大祝持爵進頭之左。北向立。頭再拜受爵。跪祭酒啐酒。奠爵俛伏興。大祝帥齋郎進俎。跪減先聖及先師首座前三牲胙肉。（皆取前脚第二骨。）加於俎。又以籩取黍稷飯興。以胙肉各共置一俎上。又以飯共置一籩。大祝先以飯籩授頭。頭受授齋郎。又以俎授頭。頭受以授齋郎。頭跪取爵遂飮卒爵。大祝受爵復於坫。頭俛伏興再拜。謁者引頭降復位。樂作。立定樂止。初頭降將畢。謁者引助詣罍洗。盥手洗爵。訖謁者引升自東階詣先聖酒罇所。執罇者

〔登歌〕奏樂を云ふ。古樂府の註に「奏樂曰登歌曰升歌」とあり。

〔進饌者〕雜式「饌進饌者」に作る。

〔東四座〕「神座前」の下注「東四座」原本「東五座」となす、今雲本に據りて改む。

〔爵〕儀禮の時酒を盛りて獻ぐる器也、說文に「禮器也、象爵之形、中有鬯酒、又持之也、所以飮器象爵者、取其鳴節々足々也」とあり。

〔東面跪〕「東」字、原本「北」に作る、雜式に據りて改む、又下文「進於先師首座之右西面跪」とあるを考合すべし。

〔俾茲末學〕「俾」字、京本に「伊」に作る。

〔福酒〕胙肉を以つて製したる酒也、釋名に「祭祀胙肉曰福」とあり、こゝは上文、先師樽罍三具の條にある、福酒を云へる也、又下文注に「福」とあるも「福酒」の意也。

〔少移〕五行目分注「少移於故處」貞本「少暫移於故處」に作る。

〔胙〕爾雅釋天の疏に「胙祭肉也」とあり。

講論

〔可瘞埳〕一本の頭注に「可瘞二字高辟稱、埳一字不稱」とあり。

〔若天子云々〕これより「學生等」迄卅一字、注文の混入なるべし。

擧冪、助酌盎齊。訖樂作。謁者引助進先聖神座前。北向跪奠爵興。謁者引少退。北向再拜。訖謁者引助詣先師酒樽所取爵於坫。執樽者擧冪、助酌盎齊。謁者引助進先師首座前。北面跪奠爵、興少退。助再拜。訖謁者引助詣東序西向立。大祝各以爵酌罍福酒。合置一爵。一大祝持爵進助之左。助再拜受爵。跪祭酒、遂飮卒爵。大祝進受爵復於坫。助興再拜。謁者引降復位。初助獻將畢。謁者引博士詣罍洗盥洗、訖升酌盎齊。如亞獻之儀。訖引降復位。樂止。大祝等各進跪撤豆。興還樽所。撤者。籩豆各一。少移於故處。　奉禮曰。賜胙。贊者唱。衆官再拜。衆官在位、及學生皆再拜已飮福受胙者不拜。　樂作。奉禮曰。衆官再拜。衆官在位者。及學生皆再拜。樂一成止。謁者進頭之左白。請就望瘞位。謁者引頭就望瘞位。西面立。奉禮贊者轉就瘞埳東北位。初在位者將拜訖。大祝各執篚進神座前跪取幣、興降自西階。詣瘞埳以幣置於埳。訖奉禮曰。可瘞埳。東西廂木工各二人實土半埳。謁者進頭之左白禮畢。遂引頭出。謁者贊引各引享官已下以次出。初白禮畢。奉禮師贊者還本位。贊引忠疏大祝以下俱復執事位。立定奉禮曰再拜。忠疏以下皆再拜。贊引引出。諸學生以次出。共祝版燔於齋所。

講論。

享畢。諸司裝束都堂院。皇太子於東門外下輦。入自都堂院東掖門、升北東階。入堂戶就座。式部省率諸大夫及學生已上列立南門外。參議已上入自東掖門就座。諸大夫已下依喚參入就座。次贊者（著緋衣褰皂緣。）引執經執讀。（各著緌腋服。）從各八人。（著青衿服。）入自南門。就庭中贊之西北向。曰再拜。執經執讀就同贊再拜。訖引升堂就講座。訖執讀讀所講經。執經釋義。訖寮官人執如意授若天子幸者。頭執授皇太子。允授大臣以下。屬授侍講五位以上。及諸博士官人學生等。顧問疑者受如意。與進詣論義座之南。立稱官位姓名再拜就座問所疑。執經爲之通。訖置如意退還本座。諸侍講者以次問難。皆如上儀。講論訖退出。所司設座備饌。式部省先率諸大

〔看督長火長〕雲本「看督火長」に作り京貞二本「看督長」に作る。

〔一一論義〕京本「義」字を「議」字に作る。

〔執當官人〕雲本には、京本により「當」字を「掌」に作る

〔毛詩〕詩經を云ふ、毛公が傳へ作りしにより齊韓の二家の詩に區別せんが爲に稱せり

〔大經〕唐書選擧志に「凡禮記、春秋左氏傳爲大經云云、易、尙書、春秋公羊傳、穀梁傳爲小經」とあり。

問者　禁過　祿　內裡論議　交名　執掌　神座　祭器服　講書

夫以下。分列如前。次參議已上行立門外。共入謝座謝酒。各以著座、觴行三巡。五位已上晉以起座。六位已下退去。五位已上更著宴座。省率六位已下文人、於庭中再拜著堂上座。文章博士隨上貢獻題。文人賦詩。此間明經明法算等道博士率學生論議。其後文人獻詩。改座讀畢、群官散去。

凡問者昇座之時、其次第者、諸博士文章得業生文章生明經明法算業生、散位諸道學生。

凡釋奠祭日、左右檢非違使各一人率看督長火長等、勤糺廟院都堂濫惡之輩。

凡講論畢。中省給祿。執經絁六疋。綿十屯。布八端。執讀絁四疋、綿十屯、布六端。侍講者絁二疋、綿五屯、布二端。

凡釋奠秋祭、座主博士引問者等候於內裏。隨召昇殿一一論義。

凡釋奠祭供奉職掌學生已上、祭畢之後具錄交名申於別當。

凡釋奠祭大膳職執當官人名、自官下知寮家。若有奠祭不法之事言上其狀。

凡神座每。至夏每月一度曬曝。

凡祭器弊則埋。祭服弊則燒。

凡應講說書籍者。先錄講書幷博士名申省。始日本司設座於堂上。省輔已下學生已上各著座。諸博士皆集講場相共論議。終日儀亦同。若有不通義者、講畢之日、注其所疑申省。

凡應講說者。禮記左傳各限七百七十日。周禮儀禮毛詩律各四百八十日。周易三百一十日。尚書論語令各二百日。孝經六十日。三史文選各准大經。公羊穀梁孫子五曹九章六章綴術各准小經。三開重差周髀共准小經。海島九司亦共准小經。

凡博士講說者依日數給食料。日米二升。酒一升。鹽一合。東鰒二兩。雜鮨二兩。雜鮨二兩。海藻一兩。油夜別一合。講說訖准經賞錢。大經卌貫、中經卅貫

小經一十貫、論語孝經共一十貫。其三史文選律各准大經。令孫子五曹九章綴術各准小經。三開重差周髀共准小經。海島九司亦共准小經。

座新

凡講書博士已下座新、黃端茵四枚、折薦茵四枚、長疊廿八枚、並隔三年申省請受。

留學

凡學生入學經九年不成業者、錄名送省。但雖過年限才近成立者、量狀聽留。

時服

凡得業生者、明經四人。文章二人、明法二人。算「道」二人、並賜夏冬時服。人別夏絁一疋、布一端。冬絁二疋、綿四屯、布二端、申省給之、食法見大膳大炊式。

凡漢語師并生、並賜時服。人別夏絁四丈五尺、冬絁一疋三丈、綿四屯、食法見大膳大炊式。

得業試

凡得業生者、補了更學七年已上、不計前年、待本道博士舉、錄可課試之狀、申省、因貢學生准此。

入學

凡學生入學者、總錄名簿。每日點檢勸習業。

學生試

凡試貢舉學生者、初日官人一人奉受試學生向省、後日不須。

凡遊學之徒、情願入學。不限年多少。總加簡試。其有通一經、聽預學生。但諸王及五位已上子孫不煩簡試。

講經

受業師

凡須講經生者三經、傳生者三史、明法生者律令。算生者漢晉律曆志大衍曆議九章六章周髀定天論、並應任用諸國博士被任之後。所給公廨十分之一。每年割留、隨國所出交易輕物、付貢調使。送寮令充本受業師。若有未進、拘使返抄。但諸道博士得業生等兼國并非受業人不在此限。

文章生試

凡擬文章生每年春秋簡試、以下第已上者補文章生。縱落第之輩、猶顧一割。聽任舉之。

凡擬文章生以廿人爲限。補其闕者、待博士舉、即寮博士共試一史文五條。以通三以上者補之。其不任寮家者、不得貢舉。

〔律〕下文「令」共に運用して、制度の總稱とせい、意を差別すれば、律は、專ら犯罪者を刑する法に云ひ、令は權利義務に關する法に云ふ、弘仁格の序に「律以懲肅爲宗、令以勸戒爲本」とあり

〔九章〕後漢書鄭康傳の注に「九章算術、周公作也、一方田、二粟米、三、差分、四少廣、五均輸、六方程、七傍要、八盈不足、九鉤股云々とあり。

〔「道」〕雲本、貞京二本に據り削る。

〔明經博士〕大學寮の別當、令外官也、頭の上にありて、大學の事を總べ掌る、もとは式部少輔を以て之を兼ねしが、醍醐天皇以後は、親王大臣の兼職となれり、經書を教授す、一に大博士とも云ふ、後世中原清原兩氏位次に依て任ぜり

〔音博士〕唐名音儒、漢音を教授す

〔稱稻〕京本「稱」字を衍字となせり。

食口 凡學生請食口者、令明經生文章生等各以其業試之。五條之中通二以上為及第。〈音生書生博士試之。〉但明經明法算等生先准遂學試補學生歷寮試者、不更試之。

灯油錢 凡諸博士學生等計宿給燈油薪錢。明經博士夜別各廿文、餘博士十五文、先生十文、後生五文、用越後國欒田五十町地子物充之。

博士卒死 凡諸博士卒死無資殯葬。賻物之外殊給官物。但其數臨時處分。

諸國博士 凡諸國博士、待解由到省之日、即令下寮、以本業讀書取寮中送日數、令得其考。

寮書 凡寮家雜書不得輙借與他人。但聽學生於寮中讀閱之。

曝書 凡寮家官書三年一度曝涼。諸學生役其事。

目錄 凡寮家官書目錄造三通。其一通進省、一通送勘解由使。

醫師 凡典藥醫師一人令直於寮。

音試 凡試年分度者、遣音博士一人。就僧綱所試漢音。

權史 凡權史生二人、預諸國庄事。若有闕者、申省補之。

修理 凡木工寮工部一人。飛驒工一人。充寮令修理少破官舍。

道石 凡都堂院中庭并東西兩道石者、式部兩省隨損敷之。

諸國稻 凡常陸國稱稻五萬四千束。近江越中備前伊豫等國各一萬束。預國司出擧。以其息利舂米并交易輕物。每年附貢調使送。勘充於寮家雜用。若有未進移主計寮、拘使返抄。

凡丹後國稻八百束。預國司每年出擧。以其息利交易味物。送寮充學生等菜料。

〔卌〕京貞二本「卅」に作る。

〔白田〕原本「畠」一字に作る、今京貞二本に據りて改む、「白田」の語、晉書休變傳に見えたり水田に對して陸田を云ふ。

〔閑〕原本「開」字となす、今貞享本に據りて改む。

凡官人已下月析米、前月廿五日受大炊寮、其閑官不仕析充寮中雜用。

凡寮家月析米者。不更待口宣而受之。

凡諸堂食庫析、長疊十枚。三年一度請替。

凡越中國礪波郡墾田地壹拾捌町肆段貳佰步。就中熟田十三町二段卌步。未開地五町二段百六十步。播磨國印南郡墾田地壹拾漆町佰捌拾步。就中熟田五町一段二百八十八步、未開地九町七段二百五十二步、荒田一町九段三百卌四步、山城國久世郡七町。

右田准鄕價賃租、以充學生食。

山城國久世郡白田一町、未爲菜園、其在京中閑地者、任令學生等居住。若有餘地者、種殖雜菜以充食析。

學生寮年中食析料者、仰諸國司毎年出正稅一千束、以其息利充用合鏹。

延喜式卷第二十

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十一

治部 雅樂 玄蕃 諸陵

治部省

祥瑞。

景星。德星也。或如二半月一。或如二大星一而中空。 慶雲。狀若レ烟非レ烟。若レ雲非レ雲。 黃眞人。仙人也。又曰玉女也。 河精。人頭魚身。 麟。仁獸也。麕身羊頭牛尾一角。端有レ肉。 鳳。狀如レ鶴。五綵以文。雞冠燕喙蛇頭龍形。 鸞。狀如レ翟。五綵以文。 比翼鳥。狀如レ鳧。一翼一目。不レ比不レ飛。 同心鳥。 永樂鳥。五色成レ文。丹喙赤頭頭上有レ冠。鳴云天下太平。 富貴。鳥形獸頭。 吉利。鳥形獸頭。 神龜。黑神之精也。五色鮮明。知二存亡一明二吉凶一也。 龍。被二五色一以遊。能幽能明。能小能大。 騶虞。義獸也。狀如レ虎。白色黑文。尾長二於身一。不レ食二生物一也。 白澤。一名澤獸。能言語知二萬物情一。 神馬。龍馬。長頸骼上有レ翼。蹈レ水不レ沒。 騰黃。其色黃。狀如レ狐。背上有二兩角一。 飛兎。日行三萬里。 騕褭。赤喙黑身。日行三萬里。 澤馬。 白馬赤鬣。 白馬赤髦。 青馬白髦。 騊駼。狀如レ馬。出二於北海一。 駃騠。自能言語。 周币。神獸也。知二星宿之變化一也。 角端。日行萬八千里。能言語。曉二四夷言一。 解廌。如レ牛一角。或狀如レ羊。角一。知二性曲直一。有レ罪則觸。 比肩獸。前足鼠。後足兎。不レ比不レ行。 六足獸。瑞獸也。 兹白。形似二白馬一。鋸牙。食二虎豹一。 白象。其形岐身六牙。 一角獸。麟首鹿形。龍鱗共レ色。 天鹿。純靈之獸也。五色光耀洞明。一角長尾。 鼈封。若レ彘。前後有レ首。 酋耳。身若二虎豹一。尾長二於身一。食二虎豹一。 豹犬。鉅口赤身。四足三日。 露犬。能飛食二虎豹一。 玄珠、明珠 夜有レ光如二月之照一。及珠鏡珠其並同。 玉英。不レ琢自成。光若二明月一。玉璧同。 山稱萬歲。 慶山。 山車。自然之車。 山藏之精。 象車。山精也。 烏車。山精也。 根車。山木根連象レ車也。 金車。 朱草。如二小桑一。莖長三四尺。枝葉皆丹。葉如二珊瑚一。 屈軼。生二帝之庭若階一。佞人入朝則草屈而指レ之。 蓂莢。夾レ階而生。隨レ月生死。 平露。如レ蓋。生二於庭一。以爲二四方之正一也。一方不レ正則底二一方一而轉傾也。 萐莆。樹名也。其形似レ蓬。枝多葉少。葉如レ扇。不レ搖自動轉而風生。 蒿柱。蒿茂大可レ爲二宮柱一。 金牛。瑞器也。 玉馬。瑞器也。 玉猛獸。大如二六十日犬子一。食レ氣飲レ露也。 玉甕。不レ汲自滿。 神鼎。不レ汲自滿也。一云。不レ爨自沸。 銀甕。不レ汲自滿。 瓶甕。不レ汲自滿。 丹甑。不レ炊自熟。 醴泉。美泉也。其味美甘。狀如二醴酒一。 浪井。不レ鑿自成之井。

祥瑞

〔德星〕國に德有あれば出づと云ふ星、前漢書郊祀志に「望氣王朔言候獨見二塡星出一如レ瓜有司皆曰、陛下建二漢家封禪一天其報二德星一云」とあり、史記に「德星則塡星」とあり。〔黃眞人〕唐六典に「黃星眞人」に作る。〔白澤〕三才圖會に「東望山有二澤獸一、一名白澤、能言語、王者有德明照幽遠則至、昔黃帝巡狩至二東海一此獸有レ言除レ害」とあり。〔兹白〕和漢三才圖會に「駮、音博、兹白、本綱、按三才圖會云、中曲山有レ駮狀如レ馬白身黑尾一角虎爪鋸牙、能食二虎豹一」とあり。

國忌

〔天宗高紹天皇〕第四十九代光仁天皇を申し奉る。

〔東寺〕山城國京都下京區九町の教王護國寺の稱也、一に左寺とも云ふ、山號八幡山、院號秘密傳法院也。

〔西寺〕京都市右京西大宮東、九條坊門の南、壬生の北〔今山城國葛野郡七條村唐橋〕に在り、淨土宗禪林寺末也。

〔皇太后〕桓武天皇の皇后、藤原乙牟漏なり、御謚天之高藤廣宗照姫尊と稱す。

〔贈皇太后〕上の皇太后は江次第抄に據るに、光孝天皇御生母藤原澤子也、下の皇太后は、醍醐天皇の御生母藤原胤子也。

雀、五色者也。又大如鷃雀。黄喉白頸黒背腹斑文也。冠雀、戴冠者也。黒鳩、白鵲。

右下瑞。

國忌。

天智天皇。十二月三日忌。崇福寺。

天宗高紹天皇。十二月廿三日忌。東寺。

桓武天皇。三月十七日忌。西寺。

皇太后。二月十日忌。若有閏月。依其月作。崇福寺。

仁明天皇。三月廿一日忌。東寺。

文德天皇。八月廿七日忌。西寺。

贈皇太后。六月晦日忌。東寺。

光孝天皇。八月廿六日忌。西寺。

贈皇太后。六月晦日忌。東寺。

凡國忌日、各請當寺僧一百口。轉經禮佛。省丞錄各一人。玄蕃寮五位一人。六位已下官二人。皆詣寺以供事。事見式部式。

其布施物、三寶絁卌約、約別十裹、斷調布九尺、木綿二分、衆僧庸布一百六段、並自大藏省下充之。事畢錄見僧并奉讀經數付內侍奏。

凡國忌者、前忌三日、具狀申送辨官。其應供齋會省輔丞錄及寮五位并允屬各一人歷名亦同申送。

〔穀倉院〕大内裏大學寮の西、朱雀大路の西、二條の南にあり、方二町の地を占む。王朝時代畿内諸國の調錢、諸國の無主、位祿及沒官田、太宰府の稻等、諸雜の物を納むる倉を云ふ。

〔陰陽・弩師〕例に據れば「陰陽師弩師」に作るべし

〔省〕貞享本に據り補ふ。

〔本貫〕もと貫は量に云ひ、轉じて、錢を算するに稱へ、更に知行高の意に云へり、こゝは本の知行高の意也。

服　凡妻爲夫服一年、夫爲妻無報服。

賻物　凡應給賻物者、省受申官、官下符、在京賻以穀倉院所納物給之、但不給錢。

凡外五位賻物者、准內位減半給之、但五位國司准職事例、以正税給之。

凡外國官人賻物、以正税給之、若未赴任所身亡者、以京庫物給之。

凡齋宮寮官人賻物、以伊勢國正税給之。

凡陸奧出羽鎭守府史生傔仗博士醫師陰陽弩師、太宰府傔仗史生并管國史生等賻物、並以當國物給之。

凡官人職事身死者。皆給賻物。其散事者不在給限。

凡僧綱賻物者、僧正准從四位。大小僧都各准正五位。律師准從五位。並准職事給之。

立嫡　凡立五位以上嫡子者、父申省。省移本貫、知實狀、後申官。

國分公文　凡諸國附朝集税帳等使所進國分二寺雜公文、勾勘畢卽具狀移式部民部等省。

凡蕃客入朝者、差領客使二人、掌在路雜事。隨使一人、掌記錄及公文事。掌客二人、掌在京雜事。有史生二人。供食二人、掌饗日各對使者飲宴。自餘使見太政官式。

補任帳　凡威儀師已上并從儀師及諸國講讀師補任帳各一卷、年終勘作、正月一日進太政官。

度緣請印　凡度緣請印者、不經辨官、直申太政官。

雅樂寮

節會　凡諸節會日、省輔丞錄各一人、將寮屬以上及雜樂歌人歌女等、候閤門外、若非節會御在所奏樂者、省亦預之。

〔花嚴經〕華嚴經に同じ大方廣佛華嚴經の略、釋迦成道後二七日に、文殊普賢等の聖者に對して自證のありの儘を說きたる經典也、佛陀跋陀羅譯(六十卷)實叉難陀譯(八十卷)般若三藏譯(四十卷)の三譯あり。

〔在大和云云〕恐らくは後人の加注なるべし、城下郡、今磯城郡に併す。

〔和笛〕一に神樂笛とも云ふ。

行幸

行幸之所。屬已上率雅樂人祗候。

諸祭

凡園韓神平野等祭、幷御及中宮東宮鎭魂祭、省丞錄各一人率充屬各一人歌人歌女等供奉。鎭魂祭。五位已上官各一人供之。春日大原野祭官人一人率同歌人等供之。

釋奠

凡春秋釋奠、屬一人率歌人等供奉。

佛會

凡正月最勝王經會。始終日官人率樂人等左右相分供奉。

凡東大寺三月十四日花嚴經。及九月十五日大般若經等會。竝官人史生各一人率樂人等供奉。

凡西大寺三月十五日成道會、大安寺四月六七兩日大般若會。官人史生各一人率樂人等供奉。

凡四月八日。七月十五日齋會、分充伎樂人於東西二寺。並寮官人詣寺撿挍、前會三日。官人史生各一人就樂戶鄕簡充、在大和國城下郡杜屋村。

大饗

凡中宮東宮正月二日饗宴。官人率樂人等供奉、大臣大饗亦同。

競馬標

凡五月五日、省寮率樂人候。又競馬標粫、戈二竿。立第三的南十丈。六日亦同。

相撲

凡七月上旬差官人幷雜樂人等分配左右相撲司。左唐樂。右高麗樂。

列見定考

凡太政官列見定考日。官人率樂人等祗候。

蕃客

凡賜蕃客宴饗日。官人率雜樂人供事。所須樂色。臨時聽官處分。

樂師

凡雜樂師有闕者、不問生徒及入色。簡取伎業優長者申省。省丞已上試訖具狀申官。其生者。簡才申省。省亦試練申官補之。歌女者取庶女容貌端正有聲音者充之。

笛師

凡雜樂橫笛師等。不解和笛不得任用。

凡毎年六月晦、凉林邑并雜樂具、豫申省、省申官、令監物就撿、省丞錄各一人、相共撿校。

凡樂器并裝束等物、若有破損、其錄申省、省申官。

凡樂器絃新絲、和琴一面、長六尺二寸、新絲二兩。琴一面、長三尺七寸、新絲五兩一分。箏一面、長六尺四寸、新絲三兩。琵琶一面。長三尺七寸、新絲三分。阮咸一面。長一尺九寸、新絲三分。箜篌一面、長五尺、新絲二兩。竪箜篌一面、長六尺四寸五分、新絲二兩。新羅琴一面、長五尺、新絲四兩。

右計所須、絲二年一度請受。

凡蕃樂人新、飯四斗、日別永給。

歌女卅人、各日黒米八合。

歌女居地一町、在右京三條四坊八町。

公廨田一十町、在近江國。

甲賀郡二町。　野洲郡五町。

愛智郡三町。

右件田地子米充年中用度。

玄蕃寮

凡毎年起正月八日迄于十四日、於大極殿設齋會、講說金光明最勝王經。請僧卅二口。講師讀師咒願各一口。法用四口。聽衆廿五口。沙彌卅四口、講讀咒願各二口、咒願以下從各一口。其講師者、經其撰寺維摩會講師者便請之。讀師者、内供奉十禪師、及持律持經、久修練行、一色僧、遂以請用。但當用之時、具錄其名簿并次第、先申官聽處分。不得輙恣。聽衆者、均擇六宗學

〔凉具〕「凉」字恐らくは「阮」の誤、阮咸は、秦の琵琶なりと云ふ、晉阮咸の作る所、故に此の名ありと云ふ、杜氏通典に「阮咸は秦の琵琶なり、頂長くして今の制に過ぐ、十有三絃を列す」とあり。

〔箜篌〕上の「箜篌」の一種也、樂器考に「竪箜篌を箜篌となりと云へり、箜篌は、和名抄に長さ(本文參照)云云と見えたり、」とあり。正倉院御物には箜篌と稱して絃の數廿絃より廿三絃に至る物あり。

〔凉具 樂具〕〔樂器 裝束〕〔絃糸〕〔日食〕〔田地〕〔御齋會〕

〔十禪師〕朝廷にて海內より廣く撰びたる戒律智德高き十人の僧を云ふ、內供奉十禪師、又は單に、內供奉、內供とも云ふ、內道場に供奉する故に名付く。

修法

安居

〔眞言院〕朝廷の御修法及び念誦を勤むる所、修法院又は曼陀羅道場とも云ふ、大內裏內八省院の北、皇居の西にあり。

〔招提寺〕唐招提寺の略、大和國生駒郡都跡村五條にあり、十五大寺の一、律宗の本山也。

大般若

〔師〕貞享本に據りて補ふ。

業有聞者次第請之。天台宗僧。及四天王梵釋常住等寺十禪師各一人亦預之。前齋四日。錄名申省。省申官。事見儀式。

凡眞言法每年正月起八日至十四日一七箇日。於眞言院修之。

凡大元帥法。每年正月。起八日至十四日一七箇日。於省修之。

凡十五大寺安居者。寺別請講師讀師。及法用僧三口。咒願散花唄各一口。幷定座沙彌一口。講讀師沙彌各一口。其法用以上者。僧綱簡點。但講師者。寮允以上相共簡定。普請諸宗。三月下旬牒送治部申官。四月上旬請之。並起四月十五日盡七月十五日。分經講說。東大寺。法花最勝仁王般若經各一部。理趣般若金剛般若經各一卷。興福元興大安藥師西大法隆新藥師本元興招提西寺四天王崇福等十二寺。法華最勝仁王般若經各一部。弘福寺。法華最勝維摩仁王般若經各一部。東寺法華最勝仁王般若守護國界主經各一部。其施物三寶絲卅絇。裹料調布九尺。木綿三分。講師絹五疋。綿十七屯。調布廿端。讀師絹四疋。綿十屯。調布廿端。法用三口。別絹二疋。綿四屯。調布四端。定座沙彌調布四端。綿四屯。講讀師沙彌。綿二屯。調布二端。並用本寺物。但東西二寺。猶用官家功德分封物。但供養見主稅大膳式。

凡招提寺安居講師。以當寺淨行僧次第請用。不得請他寺僧。

凡東大興福元興大安藥師西大法隆新藥師招提本元興弘福四天王崇福東西法華梵釋等諸大寺僧尼。每年自四月一日迄八月卅日。齋時便於食堂各讀大般若經一卷。

凡大安寺大般若經會。每年四月六七兩日請僧一百五十口。轉讀大般若經。其施物。三寶絲三絇。裹料調布九尺。木綿三分。衆僧別絹一疋。布施用本寺物。供養用官物。供養數見主稅大膳式。

〔安居〕訓「アンゴ」僧徒が四月十六日より七月十六日迄九十日の間、安居禁足して業を修するを云ふ、其の初日を入安居終日を解安居と云ふ。

壯年

〔安樂寺〕和漢三才圖會に「國分寺、在國分村、今號福德寺、昔伽藍也、礎尚存矣、初名安樂寺、承和六年勅為國分寺」とあり、即ち今の和泉國泉北郡南池田村國分の國分寺是也

國分寺

〔多度神宮寺〕法雲寺と稱す、天平寶字七年僧滿願の創立也、多度神宮は今國幣大社に列す、桑名郡多度村にあり。

仁王會

凡國分寺僧度緣無公驗者、不得預正月安居等請。

凡僧綱、每歲首遍訪求諸大寺僧情願國分僧者。不論多小、細記年臈幷願因。正月卅日以前經省寮申官。若中國分寺僧死闕。即便補之。

凡諸國國分寺僧有死闕者、簡擢京諸寺僧堪為法師者申省、省申官補之、諸寺僧無心願者。擇百姓年十六已上者新度補之、但寺別令有壯年者五人。若見僧心願之內壯年滿此數。不聽更新度。其尼者。講師與國司簡定申官度之。

凡大和國國分二寺者。便以東大寺為僧寺。以法華寺為尼寺。其僧尼者。各依本數分配二寺。若有闕者、各取當寺僧操履可稱者申省補之。

凡和泉國安樂寺、伊豆國山興寺。加賀國勝興寺。能登國大興寺、並各為國分寺。置僧十口。壹岐島直氏寺為島分寺。置僧五口。

凡國分二寺田。令三綱耕營。永奉三寶之用。

凡諸國所徵塡修理國分二寺新稻率分之數。移送主稅寮。

凡伊勢國多度神宮寺僧十口。度緣戒牒准國分寺僧。勘納國庫。補替之日。副解文進官。

凡　天皇即位則講說仁王般若經。一代一講。　一日朝晡二座講畢。宮中諸殿省寮等廳隨便莊嚴設百高座。或近京諸寺。及畿內國分寺。或廣及七道諸國分寺行之。其齋會日。或遠近共用同日。或以行到裝束畢日為限。　其一堂設高座一具、請七僧。講師。讀師。咒願。三禮。唄。散花。維那。　一沙彌。定坐。堂別當童子四人。並六位以下。佛供養前二人。大極殿及紫宸殿後宮院。並五位王。自餘用六位王。及諸司主典以上。　講讀師幷衆僧前。或四人。或二人。大極殿講師前五位王二人。六位以下官人二人。讀師及衆僧前各五位二人。六位以下官人二人。紫宸殿後宮院東宮並講讀師衆僧前各五位二人。六位以下二人。自餘或五位二人。六位以下二人、或六位以下二人。　預任行事司。中納言一

人。參議及少納言以上各一人。五位二人。六位以下臨時定之。五位以上奏任。六位以下申大臣任。郎行事司差充職掌。各供其事。裝束堂及僧房。出納並以京官及諸國司等。便在京者充之。其人數者量事定之。當齋會日。禁斷殺生。大炊供養司等預。

堂裝束。

釋迦牟尼佛并菩薩羅漢像一鋪。備高座一具。蓋一基。幡并机一具。小幡四條。仁王般若經一部二卷。備經臺一口。經臺一基。經櫃一合。香華案一脚。備幡一條。香二兩。火爐一口。香二合。花筥二口。燈臺一基。散花案二脚。各二條。花筥各十枚。行香案一脚。備幡一條。火爐一口。香四合。七八枚。幡旋廿蓋一基。加鐘一口。加撥丸五枚。取火盤二口。懸幡緋綱十條。高座一具。禮佛榻二脚。茵二枚。疊二枚。並黃帛縁。法用座料。敷地新庸布十段。若幸有座者。更加防壁充之。菓子新錦廿延。折薦茵十枚。定座沙彌料。席二枚。子料。諸堂悉依此數。但大極殿者。佛臺便用高御座。又有五大力菩薩像五鋪。幅別加撥一枚。擬僧榻一脚。加擬撥。香案一脚。花案一脚。布施案一脚。加幡并花筥。

又有菓子鐵薦延敷地新改用調布廿端。自餘雜物所司供設。

右諸堂所設如件。其佛像經等雜調度。及高座榻案等類者。京畿諸國依件借備。當有會事。便以供用。

講師法服。

九條袈裟一條。新絹三丈。七條袈裟一條。三丈八尺八寸。五條袈裟一條。二丈七尺五寸。除脊一條。三丈。被一領。一丈二尺二幅。座具二枚。四丈。衫一領。三丈。汗衫一領。三丈。浴衣一領。二丈二幅。裳一腰。三丈四尺。表袴一腰。二丈五尺。綿袴一腰。二丈五尺。綿一屯。褌一腰。帶并袴腰新六尺。湯巾新望陀布一條。二丈一尺。襪一兩新東絁三尺四寸。鐵鉢一口。鉢袋一口新絹六尺二寸。綿九兩。巾納新調布九尺五寸。烏子瓶一口。烏子瓶袋一口新絹一條。長九寸五分。廣六寸三分。袋新油絹一尺四寸裏新絹一尺四寸。剃髮刀子一枚。刀子一具。針一枚。針筒一合。漆豆盛一合。頭巾一條。剃髮巾一條。受剃髮巾一條。手巾一條。各長三尺。菓細唾巾曝布一條。一丈四尺。高鼻履一兩。

〔羅漢〕梵語阿羅漢の略稱、應供、殺賊、無生、不生等と漢譯す、三界の見思の煩惱を斷盡し、盡智、無生智を得て、無學位に住し、世間の供養を受くるの意にして、如來十號の一也。

〔高御座〕もと天皇の御即位、朝賀、蕃客朝參等の大禮の時に着かせ給ふ大極殿なる玉座を云ふ。

〔五大力菩薩〕金剛吼、龍王吼、無畏十方吼、雷電吼、無量力吼の五吼菩薩を云ふ。　法嚴

〔針筒〕和名抄に「針管、和名波利都々」とあり、「筒」恐らくは「筩」或は「管」の誤也。

〔布施〕僧侶に惠與するものを云ふ、布施に三種あり、財施、心施、法施是也、こゝには財施の意也、祇園事苑に「以ニ財實一布施、是名ニ下布施一」とあり。

布施

〔定座沙彌〕法會の行道の時、香爐を執りて前行することを掌るを定座と云ふ、其婆法師の形にて、小僧を以て之に充つれば、定座沙彌と云ふ、導師の下に定座する義也。

〔佛頂尊勝陀羅尼〕「義漢要訣續帝」等と稱する眞言の類也。

旱災 尊勝陀羅尼 燈油 定座沙彌 新藥師修法 東大寺 國忌座

讀師法服。

九條袈裟一條、除脊一條、帔一條、座具二枚、衫一領、汗衫一領、裳一腰、綿袴一腰、綿一屯、褌一腰。帶幷袴腰料絁六尺、湯巾料曝布一條、襪一兩、頭巾一條、手巾一條、唾巾曝布一條。已上丈尺並同ニ上條一。高鼻履一兩。

右講讀二師三衣。什物依レ件儲供。若倉卒不レ堪ニ縫作一者、即以ニ絁綿等一相換供レ之。講師絁三疋、庸綿卅斤。讀師絁二疋、庸綿十斤。

布施。

三寶布施。細屯綿十屯。唯供ニ大極殿講堂一。自餘不レ須。講師絹三疋。調布十端。或以ニ庸綿五十斤一代レ之。讀師絹二疋、調布六端。或以ニ庸綿卅斤一代レ之。法用調布二端。或以ニ庸綿十斤一代レ之。定坐沙彌商布一段。或以ニ庸綿二斤一代レ之。

右布施者、以ニ京庫物一充レ之、其諸國者、准ニ當土法一以ニ正稅一買用。

凡天下若有ニ旱災一、令下ニ京畿內諸寺僧尼一限ニ三箇日一讀經悔過上。

凡天下僧尼、誦ニ佛頂尊勝陀羅尼一日滿ニ廿一遍一。其諸國每レ至ニ年終一、具錄ニ遍數一、附ニ朝集使一言上。

凡諸寺燈油者、大寺用ニ當寺物一。但東西寺用ニ官家功德分封物一。其諸國國分二寺幷諸定額寺、別稻一千束已下五百束已上出擧、以ニ息利一買用レ之。長夜二合、短夜一合五勺。八月九月十月十一月十二月正月爲ニ長夜一。二月三月四月五月六月七月爲ニ短夜一。年別附ニ稅帳一使申ニ送官一。下レ寮勘會。

凡新藥師寺每年修法料、米一十七斛四斗二升六合、大和國送ニ寺家一。

凡東大寺四天王像幷東西兩塔破損者、用ニ寺家例修理料封戶調庸雜物之內一修ニ理之一。

凡東大寺大佛安居布施稻、每年納ニ寺家一充ニ修理料一。

凡東西二寺國忌御齋會座料、兩面端疊七枚、黃端疊四枚、黃端狹帖三枚、折薦帖廿枚、長帖廿枚、席十五枚、長席

〔平〕儀式に據りて補ふ。
〔入位〕僧位を賜りたる僧の意也。
〔修式堂〕大内裡八省院十二堂の一、長秋記「酒式堂」に作る、北の堂とも云ふ、卯西の堂也、古本拾芥抄に「スシキ」と訓めり、暉章堂（前出）の西十一丈の處にあり、長さ七間あり。
〔會昌門〕大内裡八省院二十五門の一、南内門とも云ふ、南面の門にて、應天門と相對す。
〔弘福〕川原寺と云ふ、大和國高市郡高市村川原にあり。

綱所　任綱　辭表　卒去　威從　從僧　大威儀師

廿枚。簀十五枚。並以二各寺官家功德分物一。造備供レ之。
凡僧綱所者當寺修理。
凡任二僧綱一者。必簡二其人一。奏レ勅定レ之。辨官定レ日預告二式部治部一。其日〔平〕旦僧綱請二集在京大寺入位已上僧。於二綱所一設二衆僧幷勅使參議及少納言辨官式部治部省等座一。亦設二宣命座一。衆僧依レ次就レ座。被レ任者亦在二其次一。勅使以下進就レ位。坐定宣命者進就二宣命座一。以宣命。其詞曰。　天皇我詔旨登法師等爾白登左閇勅命乎白久大僧都在須某法師乎僧正爾任賜事乎白登左閇詔勅命乎白。臨時隨レ事有レ詞。　訖衆僧倶稱唯。宣命者復レ位。被レ任者進下二座前一謝二命之辱一。訖勅使以下還飯。然後太政官牒二送僧綱一。牒式見二太政官式一。
凡僧綱勘二知大寺雜事一。
凡僧綱辭レ任者上表。其表盛レ筥置二案上一。玄蕃史生一人。執レ簀敷二暉章堂修式堂間一。進レ北二丈許。史生二人。執レ案自二會昌門東戶一入置二簀上一退出。中務受取奏聞。
凡律師以上。有二卒去者一申二送於省一。
凡威儀師六人。從儀師八人。有レ闕者。僧綱簡二定辭事者一。申レ官補レ之。
凡僧正從僧五人。沙彌四人。童子八人。大少僧都各從僧四人。沙彌三人。童子六人。律師各從僧三人。沙彌二人。童子四人。威儀師各從僧一人。沙彌一人。童子二人。從儀師各沙彌一人。童子二人。東大寺別當從僧沙彌童子各二人。興福元興大安藥師西大法隆弘福四天王崇福等寺別當。幷法華寺大鎭各從僧一人。沙彌一人。童子二人。三綱少鎭沙彌一人。童子二人。並用二本寺物一供レ之。其童子各米一升二合。鹽五夕。
凡公會請二用僧綱一之日。使二大威儀師預一レ之。其座次者。不レ依二年臈一。加二於凡僧之上一。

凡近都諸寺。東拜志以北。西石作以北。停預講師。僧綱撿察。

凡諸國講讀師者。察其僧綱。俱孟冬一日簡定牒送省。（其牒僧綱盡署。便捺綱所印。）但其牒不留寮家。副寮解送省。省亦加解文共進官。即經奏聞。明年二月以前下任符。其裝束程准俗官法。若有事故安居以前不到。便令前講師或國分僧堪之者且爲講說。其供養布施料者。隨各講經日數分充。

凡諸國講師擇年卅五已上。讀師卅已上者補之。但雖階業已滿之輩。而年限未及。不可擬補。

凡諸寺僧夏講供講者。依維摩最勝兩會竪義之次第行之。然後擬補講師。又果三階之後。任讀師之僧秩滿。皈本寺。即果遺一階。任講師者歷一選之後擬補。

凡安祥寺果階業僧。擬補諸國講讀師。

凡天台眞言兩宗學生階業帳。三年一度不經三司。直進辨官。

凡天台眞言兩宗僧。并元慶寺年中最初闕所補諸國講讀師者。解文進官。經奏補任。然後下知於省。

凡天台宗分講讀師者。以年分并臨時別勞遂階業者次第擬補。但年分臨時科第同者。先盡年分。後及臨時。

凡延曆寺三綱。一任之後任諸國講讀師。其上座寺主任講師。都維那任讀師。

凡諸國講讀師。任意留連。遲向任國。延引日月之類。一切不得選用并預公請。

凡太宰觀音寺講讀師者。預知管內諸國講讀師所申之政。

凡諸國講讀師不與解由狀。前後司連署踏印。國司押署。限內言上其與不之限。講師者准俗官受領。讀師者准任用。

凡諸大寺并有封寺別當三綱。以四年爲秩限。遷代之日。即責解由。但廉節可稱之徒不論年限。殊錄功績申

近都寺　[illegible]　夏講　階業帳　初最闕　天台分　別當三綱

〔東拜志〕和名抄、山城國紀伊郡に「拜志、（波伊之）」の鄕名見ゆ。

〔西石作〕和名抄、山城國乙訓郡に、「石作（伊之都久利）」の鄕名見ゆ、今同郡大原野村に石作あり

〔夏講供講〕政事要略に「夏講者、夏中之安居講也、供講者、元興時法華供之類也」とあり。

〔元慶寺〕山城國宇治郡山科村北花山にあり、世花山寺と云ふ、初め天台宗、今眞言宗也

〔并不盡〕理を犯して人に迫る事にて無理無意の樣なるを云ふ、貊峯問史にも「不與解由狀、依理不盡、返却者」などと見えたり。

〔五師〕社僧の役名、春日及び石淸水等の宮寺に置く、春日大宮若宮御祭禮圖に「五師とは、寺僧五人を選んで一寺の事を掌しむる役僧也、一年替りに別會をつとむ次座を權別會と云ふ」とあり。

〔氏人〕某氏の族人の謂にて、こゝには藤原氏を指す。

〔或案云々〕以下云々迄四十五字雲本に「是旁注混入」とあり。

官裏、自餘諸寺依官符任別當及尼寺鎭、並同此例。其未得解由輩、永不任用、亦不預公請。但僧綱別勅任別當者、不在此限。

凡諸寺以別當爲長官、以三綱爲任用。解由與不、勘、幷覺擧遺漏、及依理不盡返却等之程、一同京官。其與不之狀、令綱所知之。

凡諸寺別當三綱等任符、出後下永知符於省、省下知於寮、寮亦令綱所押署。

凡諸大寺別當三綱有闕者、須五師大衆簡定能治廉節之僧、別當三綱共署申送、僧綱覆審具狀牒送寮、寮申省、省申官然後補任、若臈擧不實科貴擧者、兼解却見任、東大寺知事亦同。

凡任諸大寺三綱者、省寮共知補任、勿令僧綱專任。有封寺皆同。

凡氏寺別當三綱者、不依諸大寺之例、隨氏人簡定補之。

凡僧綱不得輙任諸寺別當、若不獲已者、待別勅任之　或案云先代僧綱等以提賞之人任意任諸寺別當仍立此制然則此文非謂以僧綱拜任之謂僧綱之任人也云云

凡東西寺三綱、並以定額僧補之、但西寺用講堂僧。不得任他僧、其一任之後、並任諸國講讀師。

凡四天王梵釋常住仁和等寺三綱、各以十僧內補之。

凡諸定額寺別當、元來依官符任者、有闕則檀越氏人等擇定能治可稱之僧、連署陳牒郡司、郡司牒送講讀師。講讀師修狀牒送國司、國司申官補任。

講讀師解由

諸國講讀師解由式。

東國講師牒與前講師解由事　讀師亦同

位名　某寺

牒某月日因事解任（遷任亦同）仍與解由申送謹牒

年　月　日

講師位名

讀師位名

國司

寺位姓名（介亦同）

諸寺別當三綱解由式。

某寺。

與前別當解由事（三綱亦同）

位名　某寺

牒某月日因事解任（遷任亦同）仍與解由牒送謹牒

年　月　日　　都維那位名牒

別當位名

上座位名

寺主位名

僧綱

僧正位名律師已上亦同

〔都維那〕三綱の一、或は維那とも云ふ、梵語、羯磨陀那の略にて、授事とも譯す、寺規を施行する職也。

〔上座〕三綱の一、寺中の僧を統轄し庶務を辦理する僧を云ふ、老僧を以つて任ず。

〔寺主〕三綱の一、梵語、毘訶羅沙彌の譯、寺院の維持者の意。

別當三綱解由

度緣式。

沙彌某甲年若干（某京國郡郷戸主某戸口里子某處某邑）

右太政官某年月日符偁右大臣宣奉　勅云云

若干人例得度省寮僧綱共授度緣如件

師主某寺僧位名

年　月　日

僧綱

僧正位名（若無者律師以上一人署）　威儀師位名

威儀師位名

玄蕃寮

頭位姓名　允位姓名

屬位姓名

治部省

輔位姓名　丞位姓名

錄位姓名

判授位記式。

僧某甲（年若干臈若干）　某寺

〔度緣〕一に度牒とも云ふ、僧尼得度のとき官より與ふる許可の證を云ふ、支那にては玄宗天寶六年、本邦にては養老四年始まる。

〔威儀師〕授戒又は法會の時、儀式の指圖をなす僧を云ふ。

〔判授〕叙位三等級の一、奏聞せずして、大臣以下計ひて、位階を授くるを云ふ、外人位、大少初位是也、以下特別の階位又此れに准ぜり。

〔勅授〕叙位の三等の一、勅命によりて位を授くるを云ふ、五位以上は勅授とす、以下特殊の階位又此れに准ぜり。

〔傳燈〕法燈を傳ふる義、法脈を相承け傳ふを云ふ。

〔度者〕得度の者の義、度は梵語、波羅密の譯、生死海を渡りて涅槃の岸に至ることゝ、その波羅密を得るものを度者と云ふ也、轉じて僧となる者に云ふ。

〔[illegible]〕[illegible]なるものの意也。

〔僧綱〕真貞二本に據りて補ふ。

今授傳燈入位

年　月　日

僧正位名　　威儀師位名

大僧都位名　　威儀師位名

小僧都位名

律師位名

右滿位以上勅授。入位以上僧綱制授。其依修行被授位者。以修行代傳燈。

凡年分度者。試業訖更隨所業。且令各論擇其翹楚者。乃聽得度。其應度者正月齋會畢日令度。畢省先責手實申官與民部共勘籍。卽造度緣一通。省寮僧綱共署。向太政官請印。卽授其身。其別勅度者勘籍度緣亦宜准此。但沙彌尼度緣者用省印。

授戒

凡授戒者。每年三月十一日始行之。月內令畢。其應行事之省寮綱所三司交名。當月五日進官。

凡沙彌沙彌尼應受戒者。限三月上旬集於僧綱所。先勘會度緣。然後受戒。畢其錄僧數。使幷十師連署進官上奏。卽省於度緣末注受戒年月日。幷官人署名。卽捺省印以爲記驗。其外國沙彌沙彌尼者。皆請當國文牒。東海道足柄坂以東。東山道信濃坂以東。並於下野國藥師寺。西海道於筑紫觀世音寺受戒。卽當處官司案記印署。並准上例造歷名二通。一通留國。一通附使進官。官付所司。

凡受戒時。省丞錄寮允屬各一人率史生各一人。與威從共向戒壇院子細勘會官符度緣。便收取受戒者戒牒。其注受戒以其本貫姓名。卽省寮相共押署。捺以省印。五月以前下於僧綱。[僧綱]六月一日頒給。若有持白紙

〔授戒〕戒律を授くるをいふ、其の初めて受くる者を受戒人位と稱す。〔戒壇〕戒を授くる壇場也、戒場中、別に土を封じて壇となし、之に登りて戒を授く、印度那爛陀寺に於いて已にこれあり、本邦にては、天平勝寶六年鑑眞が、東大寺に築きしに始まる、舊くは、東大寺、藥師寺(下野)觀音寺(筑前)等に限られたりしが、後には延曆寺にも置きたり。〔新藥師寺〕大和國奈良市高畑井之上町にあり

寺院一并准此。

凡授戒使省官丞已下、錄已上八箇日、日給米、省一石二斗六升四合。白五斗六斤。黑七斗四合。丞一人。錄一人。日各白二升。史生一人、省掌一人、日各白一升。直丁二人、日各黑二升。仕丁六人。日各八合。并一石二斗六升四合、細用同省。大和國舂正税穀。二月卅日以前送東大寺。但綱所其寺家充之。

凡戒壇十師并沙彌等供料、以大藏省并大和國所送物。其見大藏省并主税式。但大和國二月卅日以前送納。令東大興福元興大安藥師西大法華新藥師等寺各配一日辨備。

凡以七大寺僧為師主之童、不聽向延曆寺授戒。

臨時度者

凡除年分度者之外、臨時度者省僧卅人尼十人、省執申。

徵課

凡應徵免度人還俗僧等課役者。毎年申省。

收度緣

凡僧尼并沙彌等、有死及犯罪因事還俗者、收其度緣、年終申官毀之。寮案具注事狀。

死闕

凡諸大寺僧有死闕者、毎月申送僧綱、僧綱勘取度緣、毎年春、送於寮、寮即申省、省年終申官。

凡延曆寺僧身死者、其度緣戒牒三綱勘收、令本主毀、所毀名數、作目署印、備之檢閱。

舊佛像

凡諸寺舊佛像、若在破所無當國司者、取集一二寺像、安置一淨寺、以令燒香散花禮拜供養。若檀越等願置淨所供養者聽之。

禪院經論

凡禪院寺經論、三年一度曝涼、省寮僧綱三綱檀越等相共撿挍。

東西寺非違

凡毎年四月八日七月十五日、彈正察察東西寺非違。充屬相隨祗承。

論事

凡應對僧綱論事者、充屬各一人、就綱所相論。若無者省錄亦聽。

諸國寺交替

常住寺禪師

天台僧供

齋會

誦經

諸蕃

〔常住寺〕山城國愛宕郡に舊址あり天台宗、園城寺門址の一也。

〔近江國分寺〕近江國滋賀郡石山村國分にあり。

〔賀茂〕同諸祝詞式の「葛城木乃鴨能神奈備爾坐」神社にて、葛城郡葛城村鴨神にある縣社高鴨神社是也。

〔恩智神社〕河内國中河内郡南高安村恩智にあり、祭神大御食津彥命、大御食津姬命二柱也。

〔安那志〕穴師神社也、和泉國泉北郡穴師村豐中にあり、祭神天忍穗耳尊、栲幡千々姬命二座也。

凡諸國寺交替解帳、不改舊案、勘署進官。即副官符下國。

凡常住寺十禪師并從沙彌童子等供養者、威儀師一人。專當其事。各令本寺每月運送。

凡天台宗住山僧卅口日供料、日別米二升、割近江國分寺供新充之。

凡公私齋會講師已下平等行食。

凡王臣已下誦經布施物者、親王一品商布五百段已下。二品三品四品各二百段已下。諸王諸臣一位五百段已下。二位三百段已下。三位二百段已下。四位一百段已下。五位五十段已下。六位已下卅段已下。並三七若七七日一度、遍修不得連誦。非商布者亦准此數。若相勞之人、必有可諷誦、只許二等已上親。其布施物不得過本位數。

凡諸蕃使人、將國信物應入京者、待領客使到。其所須駄夫者、領客使委路次國郡量、獻物多少及客隨身衣物准給迎送。仍令國別國司一人部領人夫防援過境。其在路不得與客交雜。亦不得令客與人言語。所經國郡官人、若無事亦不須與客相見。停宿之處勿聽客浪出入。自餘雜物不須入京者、便留當處庫。還日出與。其往還在路所須駄夫等、不得令致非理勞苦。

凡蕃客往還、若有水陸二路者、領客使與國郡司相知、逐便預定一路。明注所須船駄人夫等數、及客到時日、遞牒前所。應須供客之物、令預備擬。不得臨時改易及有停滯。如有事故必須停滯及改帳者、速遣前所。勿致費損。

凡新羅客入朝者、給神酒。其醸酒料稻、大和國賀茂意富纏向倭文四社。河内國恩智一社。和泉國安那志一社。攝津國住道伊佐具二社、各卅束、合二百四十束、送住道社。大和國片岡一社。攝津國廣田生田長田三社、各五十束。

〔[illegible]〕[illegible]按、[illegible]の條[illegible]名見ゆ、「須武[illegible]」[illegible]、此の[illegible]に[illegible]の[illegible]たりしなるべし。

〔難波館〕所謂「鴻臚館」をいふ、王朝時代に外國人を接待するために設けたる官舍にて、太宰府にては博多、攝津にては、難波に設け、京にては、東西兩市に設けたり。

〔陵戶〕山陵を守るを職とする者にて調庸及び雜傜を除かる、陵戶は賤民にて、良民と婚する能はざりし也。

〔高屋〕古事記に「高千穗山」に作る今式によりて稱すとす、大隅國始良郡溝邊村麓にあり。

合二百束。送生田社。並令神部造。差中臣一人充給酒使。醸生田社酒者、於敏賣崎給之。醸住道社酒者、於難波館給之。若從筑紫還者、給酒肴。使付使人。其肴物隱岐鰒六斤。螺六斤、腊四斤六兩。海藻六斤。海松六斤。滑海藻六斤。凡卅八口。擔十柄。菜六膳。（從貢遣者不給。）諸客從海路來朝、攝津國遣迎船。（王子來朝遣一國司。餘使郡司。但大唐使者迎船有例。）客船將到難波津之日、國使著朝服、乘一裝船、候於海上。客船來至。迎船趁進。客船迎船比及相近。客主停船。國使立船上。客等朝服出立船上。時國使喚通事。通事稱唯。國使宣云、日本爾明神登御宇天皇朝庭登某蕃王能申上隨爾參上來留客等參近奴登。攝津國守等聞著氐水脈母教導賜幣登宣隨爾迎賜波久登宣。客等再拜兩段謝言。訖引客還泊。

諸陵寮

日向埃山陵。天津彥彥火瓊瓊杵尊。在日向國。無陵戶。

日向高屋山上陵。彥火火出見尊。在日向國。無陵戶。

日向吾平山上陵。彥波瀲武鸕鶿草葺不合尊。在日向國。無陵戶。

已上神代三陵。於山城國葛野郡田邑陵南原祭之。其兆域東西一町。南北一町。

畝傍山東北陵。畝傍橿原宮御宇神武天皇。在大和國高市郡。兆域東西一町。南北二町。守戶五烟。

桃花鳥田丘上陵。葛城高丘宮御宇綏靖天皇。在大和國高市郡。兆域東西一町。南北一町。守戶五烟。

畝傍山西南御陰井上陵。片鹽浮穴宮御宇安寧天皇。在大和國高市郡。兆域東西三町。南北二町。守戶五烟。

畝傍山南纖沙溪上陵。輕曲峽宮御宇懿德天皇。在大和國高市郡。兆域東西一町。南北一町。守戸五烟。

掖上博多山上陵。掖上池心宮御宇孝昭天皇。在大和國葛上郡。兆域東西六町。南北六町。守戸五烟。

玉手丘上陵。室秋津島宮御宇孝安天皇。在大和國葛上郡。兆域東西六町。南北六町。守戸五烟。

片丘馬坂陵。黑田廬戸宮御宇孝靈天皇。在大和國葛下郡。兆域東西五町。南北五町。守戸五烟。

劒池島上陵。輕境原宮御宇孝元天皇。在大和國高市郡。兆域東西二町。南北一町。守戸五烟。

春日率川坂上陵。春日率川宮御宇開化天皇。在大和國添上郡。兆域東西五段。南北五段。以在京戸十烟每年差充令守。

山邊道上陵。磯城瑞籬宮御宇崇神天皇。在大和國城上郡。兆域東西二町。南北二町。守戸一烟。

菅原伏見東陵。纒向珠城宮御宇垂仁天皇。在大和國添下郡。兆域東西二町。南北二町。陵戸二烟。守戸三烟。

山邊道上陵。纒向日代宮御宇景行天皇。在大和國城上郡。兆域東西二町。南北二町。陵戸一烟。

狹城盾列池後陵。志賀高穴穗宮御宇成務天皇。在大和國添下郡。兆域東西一町。南北三町。守戸五烟。

惠我長野西陵。穴門豐浦宮御宇仲哀天皇。在河內國志紀郡。兆域東西二町。南北二町。陵戸一烟。守戸四烟。

狹城盾列池上陵。磐余稚櫻宮御宇神功皇后。在大和國添下郡。兆域東西二町。南北二町。守戸五烟。

惠我藻伏崗陵。輕島明宮御宇應神天皇。在河內國志紀郡。兆域東西五町。南北五町。陵戸二烟。守戸三烟。

百舌鳥耳原中陵。難波高津宮御宇仁德天皇。在和泉國大鳥郡。兆域東西八町。南北八町。陵戸五烟。

百舌鳥耳原南陵。磐余稚櫻宮御宇履中天皇。在和泉國大鳥郡。兆域東西五町。南北五町。陵戸五烟。

〔畝傍山南纖沙溪上陵〕高市郡白橿村池尻にあり。

〔輕曲峽宮〕大和國高市郡白橿村大輕にありといふ。

〔掖上博多山上陵〕南葛城郡三室村にあり。

〔掖上池心宮〕南葛城郡掖上村玉手に舊址あり。

〔玉手丘上陵〕南葛城郡三室村掖上村にあり。

〔室秋津島宮〕南葛城郡秋津村室に舊址あり。

〔春日率川坂上陵〕奈良市三條通油坂の北、林小路にあり。

〔纒向日代宮〕磯城郡纒向村穴師の邊にありしと云ふ。

〔百舌鳥耳原中陵〕泉北郡舳松村にあり。

〔磯長山田陵〕南河内郡山田村にあり。

〔難波長柄豐碕宮〕西成郡豐崎村とも大坂城の地なりしとも云ふ。

〔越智崗上陵〕高市郡越智岡村にあり。

〔飛鳥川原宮〕高市郡岡村の邊と云ふ。

〔檜隈大内陵〕高市郡高市村にあり。

〔藤原宮〕高市郡鴨公村高殿に舊趾あり。

〔眞弓丘陵〕天武天皇第一皇子、草壁親王の御陵也、高市郡越智岡村にあり。

〔檜前安古岡上陵〕高市郡坂合村にあり、「占」字續日本紀慶雲四年の條及び紹運錄に「古」に作る、同天平勝寶七年の條、其に同じ、今「占」字を用ふ。

磯長山田陵。小治田宮御宇推古天皇。在河内國石川郡。兆域東西二町。南北二町。陵戸一烟。守戸四烟。

押坂内陵。高市崗本宮御宇舒明天皇。在大和國城上郡。兆域東西九町。南北六町。陵戸三烟。

大坂磯長陵。難波長柄豐碕宮御宇孝德天皇。在河内國石川郡。兆域東西五町。南北五町。守戸三烟。

越智崗上陵。飛鳥川原宮御宇皇極天皇。在大和國高市郡。兆域東西五町。南北五町。陵戸五烟。

右卌遠陵。

山科陵。近江大津宮御宇天智天皇。在山城國宇治郡。兆域東西十四町。南北十四町。陵戸六烟。

右一近陵。

檜隈大内陵。飛鳥淨御原宮御宇天武天皇。在大和國高市郡。兆域東西五町。南北四町。陵戸五烟。

同大内陵。藤原宮御宇持統天皇。合葬檜隈大内陵。陵戸更不重充。

眞弓丘陵。岡宮御宇天皇。在大和國高市郡。兆域東西二町。南北二町。陵戸六烟。

檜前安古岡上陵。藤原宮御宇文武天皇。在大和國高市郡。兆域東西三町。南北三町。陵戸五烟。

奈保山東陵。平城宮御宇元明天皇。在大和國添上郡。兆域東西三町。南北五町。守戸五烟。

奈保山西陵。平城宮御宇元正天皇。在大和國添上郡。兆域東西三町。南北五町。守戸四烟。

佐保山西陵。平城朝太皇太后藤原氏。在大和國添上郡。兆域東西十二町。南北十二町。守戸五烟。

佐保山南陵。平城宮御宇勝寶感神聖武天皇。在大和國添上郡。兆域東西七町。南北七町。守戸五烟。

〔佐保山東陵〕聖武天皇の皇后、光明皇后の御陵にて、添上郡佐保村法蓮にあり。

〔淡路陵〕淳仁天皇の御陵にて、三原郡賀集村にあり。

〔高野陵〕孝謙（稱德）天皇の御陵にて、生駒郡平城村にあり。

〔田原西陵〕天智天皇第二皇子、施基親王の御陵にて、添上郡田原村にあり。

〔吉隱陵〕田原（施基）天皇の后にて、御名は紀橡姫の御陵にて、磯城郡初瀬町角柄にあり。

〔天宗高紹天皇〕光仁天皇也。

〔井上內親王〕光仁天皇の皇后也。

〔高野氏〕桓武天皇の御生母也。

佐保山東陵。平城宮御宇皇太后藤原氏。在大和國添上郡。兆域東三町。西四段。南北七町。守戶五烟。

淡路陵。廢帝。在淡路國三原郡。兆域東西六町。南北六町。守戶一烟。

高野陵。平城宮御宇天皇。在大和國添下郡。兆域東西五町。南北三町。守戶五烟。

田原西陵。春日宮御宇天皇。在大和國添上郡。兆域東西九町。南北九町。守戶五烟。

吉隱陵。皇太后紀氏。在大和國城上郡。兆域東西四町。南北四町。守戶五烟。

右十三遠陵。

田原東陵。平城宮御宇天宗高紹天皇。在大和國添上郡。兆域東西八町。南北九町。守戶五烟。

右一近陵。

宇智陵。皇后井上內親王。在大和國宇智郡。兆域東西十町。南北七町。守戶一烟。

大枝陵。太皇大后高野氏。在山城國乙訓郡。兆域東一町一段。西九段。南二町。北三町。守戶五烟。

右二遠陵。

柏原陵。平安宮御宇桓武天皇。在山城國紀伊郡。兆域東八町。西三町。南五町。北六町。加丑寅角二岑一谷。守戶五烟。

高畠陵。皇太后藤原氏。在山城國乙訓郡。兆域東三町。西五町。南三町。北六町。守戶五烟。

八島陵。崇道天皇。在大和國添上郡。兆域東西五町。南北四町。守戶二烟。

右三近陵。

河上陵。贈皇后藤原氏。在二大和國添下郡一。兆域東西四町。南北四町。守戶五烟。

宇波多陵。贈皇太后藤原氏。在二山城國乙訓郡一。兆域東西四町。南一町。北三町。守戶五烟。

石作陵。贈皇后高志內親王。在二山城國乙訓郡一。兆域東西三町。南三町。北六町。守戶五烟。

嵯峨陵。太皇太后橘氏。在二山城國葛野郡一。兆域東西六町。南二町。北五町。守戶三烟。不レ入二頒幣之例一。

楊梅陵。平安宮御宇日本根子推國[高]彥尊天皇。在二大和國添上郡一。兆域東西二町。南北四町。守戶五烟。

右五遠陵。

深草陵。平安宮御宇仁明天皇。在二山城國紀伊郡一。兆域東西一町五段。南七段。北二町。守戶五烟。

田邑陵。平安宮御宇文德天皇。在二山城國葛野郡一。兆域東西四町。南北四町。守戶五烟。

右二近陵。

後山科陵。太皇太后藤原氏。在二山城國宇治郡一。假陵戶五烟。

右一遠陵。

中尾陵。贈皇太后藤原氏。在二山城國愛宕郡鳥部鄉一。陵戶五烟。山四町五段。四至東限レ谷。南限レ田。西限レ陸。北限レ谷。

後田邑陵。光孝天皇。在二山城國葛野郡田邑鄉立屋里小松原一。陵戶四烟。四至西限二芸原岳岑一。南限二大道一。東限二清水寺東一。北限二大岑一。

小野陵。贈皇太后藤原氏。在二山城國宇治郡小野鄉一。陵戶五烟。四至東限二百姓口分幷觀音院山一。南限二小栗栖寺山幷道一。西限二檑尾山岑一。北限二松尾山尾幷百姓口分一。

右三近陵。

〔贈皇后藤原氏〕藤原帶子にて、百川の女、平城天皇の皇后也。

〔皇太后藤原氏〕旅子を申す、淳和天皇の御母也。

〔高志內親王〕桓武天皇の皇女にて、淳和天皇の皇后也

〔太皇太后橘氏〕嘉智子を申す、嵯峨天皇の皇后にて、仁明帝の御母に在します。

〔日本根子推國高彥尊〕即ち平城天皇也。

〔高〕日本後紀に據りて補へり。

〔太皇太后藤原氏〕順子を申す、冬嗣の女にて、仁明天皇の皇后、文德天皇の御母也。

〔贈皇太后藤原氏〕澤子を申す、總繼の女仁明の女御也

〔太皇太后藤原氏〕藤原明子にて、良房の女、文德天皇の皇后也。
〔中宮藤原氏〕藤原高子、良房の女にて、清和天皇の皇后、陽成天皇の御母也。
〔飯豐皇女〕市邊押磐皇子の皇女にて母は荑媛、弘計、億計二皇子の姉也、紀には「青海皇女、一曰ニ飯豐皇女ニ」とあり。
〔春日山田皇女〕仁賢天皇の第六皇女也。
〔手白香皇女〕仁賢天皇の第四皇女也
〔石姫皇女〕宣化天皇の第一皇女也。
〔五十瓊敷入彦命〕垂仁天皇の第二皇子也。
〔大伴皇女〕欽明天皇の第二皇女也。

白河陵。太皇太后藤原氏。在ニ山城國愛宕郡上粟田郷。陵戸三烟。四至東限ニ勝隆寺東谷。南限下自ニ御在所南去十一丈上。西限ニ贈正一位源氏墓北。北限ニ白河。
後深草陵。中宮藤原氏。在ニ山城國紀伊郡深草郷。守戸三烟。東限ニ貞定寺。南限ニ大墓。西限ニ極樂寺。北限ニ佐[illegible]谷。
右二造陵。
能裒野墓。日本武尊。在ニ伊勢國鈴鹿郡。兆域東西二町。南北二町。守戸三烟。
埴口墓。飯豐皇女。在ニ大和國葛下郡。兆域東西一町。南北一町。守戸三烟。
古市高屋墓。春日山田皇女。在ニ河內國古市郡。兆域東西二町。南北二町。守戸二烟。
衾田墓。手白香皇女。在ニ大和國山邊郡。兆域東西二町。南北二町。無ニ守戸。令ニ山邊道勾岡上陵戸兼守。
竈山墓。彥五瀨命。在ニ紀伊國名草郡。兆域東西一町。南北二町。守戸三烟。
磯長原墓。石姫皇女。在ニ河內國石川郡敏達天皇陵內。守戸三烟。
息長墓。舒明天皇之祖母名曰ニ廣姫。在ニ近江國坂田郡。兆域東西一町。南北一町。守戸三烟。
成相墓。押坂彥人大兄皇子。在ニ大和國廣瀨郡。兆域東西十五町。南北廿町。守戸五烟。
押坂墓。田村皇女。在ニ大和國城上郡舒明天皇陵內。無ニ守戸。
宇度墓。五十瓊敷入彥命。在ニ和泉國日根郡。兆域東西三町。南北三町。守戸二烟。
宇治墓。菟道稚郎子。在ニ山城國宇治郡。兆域東西十二町。南北十二町。守戸三烟。
押坂內墓。大伴皇女。在ニ大和國城上郡押坂陵域內。無ニ守戸。

片岡葦田墓。茅渟皇子。在大和國葛下郡。兆域東西五町。南北五町。無守戸。

檜隈墓。吉備姫王。在大和國高市郡檜隈陵域內。無守戸。

磯長墓。橘豐日天皇之皇太子名云聖德。在河內國石川郡。兆域東西三町。南北二町。守戸三烟。

押坂墓。鏡女王。在大和國城上郡押坂陵域內東南。無守戸。

三立岡墓。高市皇子。在大和國廣瀨郡。兆域東西六町。南北四町。無守戸。

平城坂上墓。磐足媛命。在大和國添上郡。兆域東西一町。南北一町。無守戸。令楯列池上陵戸兼守。

淡路墓。當麻氏。在淡路國三原郡。兆域東西二町。南北二町。守戸正丁五人。

牧野墓。太皇太后之先和氏。在大和國廣瀨郡。兆域東西三町。南北五町。守戸一烟。

大野墓。太皇太后之先大枝氏。在大和國平群郡。兆域東西六町。南北四町。守戸一烟。

阿陁墓。贈太政大臣藤原朝臣良繼。日本根子推國〔高〕彥尊天皇〔外〕祖父。在大和國宇智郡。兆域東西十五町。南北十五町。守戸一烟。

村國墓。贈正一位安倍命婦。同天皇外祖母。在大和國添下郡。兆域東西四町。南北五町。守戸一烟。

右廿三遠墓。

平群郡北岡墓。山背大兄王。在大和國平群郡。兆域東西三町。南北二町。墓戸二烟。

龍田清水墓。間人女王。在大和國平群郡。兆域東西三町。南北三町。墓戸二烟。

龍鉏廐部墓。石前王女。在大和國平群郡。兆域東西二町。南北二町。墓戸二烟。

〔吉備姫王〕紹運錄に「吉備姫王、欽明天皇孫、櫻井皇子之女」とあり。

〔鏡女王〕天武天皇の皇妃にて、額田姫王の御母也。

〔高市皇子〕天武天皇の皇子也。

〔藤原良繼〕式部卿宇合の第二子なり初め宿奈麻呂と稱す。

〔高〕此字原本になし、日本後紀に據りて補へり。

〔外〕出雲本及び古本に據りて補へり。

〔山背大兄王〕聖德太子の子、母は蘇我馬子の女、刀自古郎女也。

〔間人王女〕舒明天皇の第一皇女也。

右三墓不ㇾ入二預幣之例一。

多武岑墓。贈太政大臣正一位淡海公藤原朝臣。在二大和國十市郡一。兆域東西十二町。南北十二町。無二守戶一。

右一近墓。

後阿陁墓。贈太政大臣正一位藤原朝臣武智麻呂。在二大和國宇智郡一。兆域東西十五町。南北十五町。守戶一烟。

相樂墓。贈太政大臣正一位藤原朝臣百川。淳和太上天皇外祖父。在二山城國相樂郡一。兆域東西三町。南北二町。守戶一烟。

後相樂墓。贈正一位藤原氏。同天皇外祖母。在二山城國相樂郡贈太政大臣墓內一。無二守戶一。

巨幡墓。贈一品伊豫親王。在二山城國宇治郡一。兆域東一町。西一町。南二町五段。北三町。守丁一人。

加勢山墓。贈太政大臣正一位橘朝臣淸友。仁明天皇外祖父。在二山城國相樂郡一。兆域東西四町。南北六町。守戶一烟。

小山墓。贈正一位田口氏。同天皇外祖母。在二河內國交野郡一。兆域東西三町。南北五町。守戶二烟。

後宇治墓。贈太政大臣正一位藤原朝臣冬嗣。文德天皇外祖父。在二山城國宇治郡一。兆域東西十四町。南北十四町。守戶二烟。

次宇治墓。贈正一位藤原氏。同天皇外祖母。在二山城國宇治郡贈太政大臣墓內一。

愛宕墓。贈正一位源氏。淸和太上天皇外祖母。在二山城國愛宕郡一。兆域東二町。南一町。西一町五段。北一町五段。守戶一烟。

大岡墓。桓武天皇夫人從三位藤原氏。在二山城國葛野郡大岡鄕一。守戶一人。

後愛宕墓。太政大臣贈正一位美濃公藤原朝臣。在二山城國愛宕郡一。守戶一烟。

深草墓。贈正一位藤原氏。陽成太上天皇外祖母。在二山城國紀伊郡一。守戶一烟。

〔伊豫親王〕桓武天皇の第四皇子にて御母は藤原吉子なり。

〔橘朝臣淸友〕好古の子にて、橘諸兄より十三代の孫なり。

〔同天皇外祖母〕藤原冬嗣の妻都美子を申す。

〔淸和太上天皇外祖母〕淸和天皇の御母は、藤原良房の女、明子也、依て良房の妻をいふ。

〔美濃公藤原朝臣〕藤原良房をいふ、良房は年六十九にて薨じ、正一位を贈り、美濃公に封じ、忠仁と諡せらる。

〔陽成太上天皇外祖母〕陽成帝の后高子の母、卽ち良房の妻也。

右十二遠墓。

高畠墓。贈一品太政大臣仲野親王。在二山城國葛野郡一。墓戸一烟。

河島墓。贈正一位當宗氏。在二山城國葛野郡一。墓戸一烟。

八坂墓。贈正一位藤原氏。在二山城國愛宕郡八坂鄉一。墓地十町。墓戸一烟。

拜志墓。贈正一位藤原朝臣總繼。在二山城國愛宕郡鳥戸鄉一。墓地四町。墓戸一烟。

次宇治墓。贈正一位太政大臣越前公藤原朝臣。在二山城國宇治郡一。墓戸一烟。

小野墓。贈太政大臣正一位藤原朝臣高藤。在二山城國宇治郡小野鄉一。

後小野墓。贈正一位宮道氏。在二山城國宇治郡小野鄉一。

右七近墓。

又宇治墓。贈太政大臣正一位藤原朝臣時平。在二山城國宇治郡一。墓戸一烟。

右一遠墓。

凡毎年十二月奉二幣諸陵及墓一。其陵別五色帛各三尺。庸布一段一丈四尺。倭文三尺。木綿四兩。麻一斤。近陵別五色帛各一丈。絁一疋。絲一絇。調布一端。倭文一丈。木綿十二兩。麻三斤五兩。裹薪蔦五尺。黑葛三兩。遠墓及近墓幣。各同二遠陵例一。其別貢幣物色目見二内藏式一。同月上旬錄二幣物數幷伊勢近江紀伊淡路等國使名鈴數一申レ省。國別二遣驛鈴一口一。不レ限二位高下一。省申レ官。頒レ幣日。差二各陵墓預人一奉。但神功皇后陵。差二寮主典已上一奉。其日依二時刻一省輔丞錄各一人率二寮屬以上及使者一集二大藏省一。參議已上一人率二弁官一就二版位一。大藏省進レ中積二幣物一訖。事見二大藏式一。即參議已上令下召二使喚一治部省上如レ常。丞進

〔仲野親王〕桓武天皇の第十二皇子、御母は藤原河子と申す。

〔藤原朝臣總繼〕藤原魚名の孫、末茂の子也。

〔藤原朝臣時平〕世に本院左大臣と稱す、基經の長子也時平文に長じ、和歌に秀でしも、性奸惡、菅原道眞の權勢を妬みて之を讒したり。

〔神功皇后陵〕大和國生駒郡平城村大字山陵狹城盾列池上陵也。

陵戸

〔陵戸〕山陵を守る賤民をいふ、原來五戸にて一山陵を守るべき制なれども、或は六戸なるあり、又一戸なるありて一ならず。

〔墓戸〕墓守の謂なるべし。

〔守戸〕陵戸少き時附近の百姓を點じ、一定の年を限りて庸徭を除き、陵戸の役をなさしむる良民也。

就版位。即宣曰。率使者等参來。兩省輔寮屬已上進共就座。省掌率使者等列於庭中。西面北上。先是大藏丞錄各一人就頒幣之座。治部輔先就稱陵號之座。然後寮允取使人名札授輔。以次擧諸陵號。始擧陵號。群官下座。及唱使名。大藏授幣。使人受退。事畢。群官共退。其頒幣之時申詞。陵稱獻出。墓稱申出。

凡山陵者。置陵戸五烟令守之。有功臣墓者。置墓戸三烟。其非陵墓戸差點令守者。先取近陵墓戸充之。

凡陵戸及守戸計帳者。寮差專當人。注名申省。分遣本鄕。與國司共相知勘造。其戸籍亦差遣專當官人勘造。

凡陵墓側近有原野者。寮仰守戸幷移所在國司。共相知燒除。

凡諸陵墓者。每年二月十日。差遣官人巡検。仍當月一日錄名申省。其兆域垣溝。若有損壞者。令守戸修理。專當官人巡加検校。

延喜式卷第二十一

延長五年十二月廿六日

從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣淸貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十二

民部上

畿內。

山城國。上。管 乙訓。葛野。愛宕。紀伊。宇治。久世。綴喜。相樂。

大和國。大。管 添上。添下。平群。廣瀨。葛下。忍海。宇智。吉野。葛上。城上。山邊。高市。宇陀。城下。十市。

河內國。大。管 錦部。石川。古市。安宿。高安。河內。讃良。茨田。大縣。若江。志紀。交野。澁川。丹比。

和泉國。下。管 大鳥。和泉。日根。

攝津國。上。管 住吉。百濟。東生。西成。島下。豐島。河邊。武庫。島上。八部。能勢。菟原。有馬。

東海道。

伊賀國。下。管 阿拜。山田。伊賀。名張。

伊勢國。大。管 桑名。員辨。朝明。三重。河曲。鈴鹿。奄藝。安濃。壹志。飯高。飯野。多氣。度會。

〔添下〕平群郡と合して今は生駒郡といふ。
〔廣瀨、葛下〕今は此の二郡を合して北葛城郡といふ。
〔忍海〕葛上郡と合して今は南葛城郡と稱す。
〔城上〕城下と合せて今は磯城郡といふ。
〔十市〕今は磯城郡の內に入る。
〔錦部、石川、古市、安宿〕この四郡は今、南河內郡といふ。
〔高安、河內〕今は中河內郡に入る。
〔讃良、茨田〕今は北河內郡の中に入る。
〔阿拜、山田〕今は阿山郡といふ。
〔伊賀、名張〕今は名賀郡といふ。

志摩國。下。管 答志。英虞。

尾張國。上。管 海部。中島。葉栗。丹羽。春部。山田。愛智。知多。

參河國。上。管 碧海。賀茂。額田。幡豆。寶飫。設樂。八名。渥美。

右爲近國。

遠江國。上。管 濱名。敷智。引佐。麁玉。長上。磐田。山香。周智。山名。佐野。長下。蓁原。城飼。

駿河國。上。管 志太。益頭。有度。安倍。廬原。富士。駿河。

伊豆國。下。管 田方。那賀。賀茂。

甲斐國。上。管 山梨。八代。巨麻。都留。

右爲中國。

相摸國。上。管 足上。足下。餘綾。大住。愛甲。高座。鎌倉。御浦。

武藏國。大。管 久良。都筑。多磨。橘樹。荏原。豐島。足立。新座。入間。高麗。比企。横見。埼玉。大里。男衾。幡羅。榛澤。那珂。兒玉。賀美。秩父。

〔答志、英虞〕二郡を合せて今は志摩郡といふ。

〔春部〕今は西春日井郡といふ。

〔山田〕今は東春日井郡となる。

延喜三年八月二日割寶飫郡置設樂郡

〔賀茂〕今は西加茂東加茂の兩郡に分る。

〔設樂〕今は北設樂南設樂の二郡に分る。

元慶五年十月五日割蓁原郡置山香郡

〔敷智〕今其の一部は引佐郡となり、一部は濱名郡に編入せらる。

〔麁玉〕今は引佐郡に入る。

〔長上〕今は濱名郡となる。

〔山香〕今は周智郡に入る。

〔平群云々〕今はこの四郡を合して安房郡と稱す。

〔市原、海上〕今は二郡を合せて市原郡と稱す（延喜四年十二月十日改岡田郡爲豐田郡）

〔畔蒜〕今は望陀郡の中に入る。

〔夷灊〕今は夷隅に作る。

〔上總國埴生〕今は上埴生郡といふ。

〔葛餝〕今は東中北の三郡に分る。

〔下總國埴生〕今は印幡郡に編入せらる。（貞觀十二年十二月八日割大野郡置絵田郡）

〔猨島〕今は猿島に作る。

〔豐田〕今は結城郡に編入せらる。

安房國中　管　平群。安房。朝夷。長狹。

上總國大　管　市原。海上。畔蒜。望陀。周淮。天羽。夷灊。埴生。長柄。山邊。武射。

下總國大　管　葛餝。千葉。印幡。匝瑳。海上。香取。埴生。相馬。猨島。結城。豐田。

常陸國大　管　新治。眞壁。筑波。河內。信太。茨城。行方。鹿島。那珂。久慈。多珂。

右爲遠國。

東山道。

近江國大　管　滋賀。栗太。甲賀。野洲。蒲生。神崎。愛智。犬上。坂田。淺井。伊香。高島。

美濃國上　管　多藝。石津。不破。安八。池田。大野。本巢。席田。方縣。厚見。各務。山縣。武義。郡上。賀茂。可兒。土岐。惠奈。

右爲近國。

飛驒國下　管　大野。絵田。荒城。

信濃國上　管　伊那。諏方。筑摩。安曇。更級。水內。高井。埴科。小縣。佐久。

右爲中國。

上野國。大。管　碓氷。片岡。甘樂。多胡。綠野。那波。群馬。吾妻。利根。勢多。佐位。新田。山田。邑樂。

下野國。上。管　足利。梁田。安蘇。都賀。寒川。河内。芳賀。鹽屋。那須。

陸奥國。大。管　白河。磐瀨。會津。耶麻。安積。安達。信夫。刈田。柴田。名取。菊多。磐城。標葉。行方。宇多。伊具。亘理。宮城。黑川。賀美。色麻。玉造。志太。栗原。磐井。江刺。膽澤。長岡。新田。小田。遠田。登米。桃生。氣仙。牡鹿。

出羽國。上。管　最上。村山。置賜。雄勝。平鹿。秋田。山本。飽海。河邊。田川。出羽。

右爲二遠國一。

北陸道。

若狭國。中。管　遠敷。大飯。三方。

右爲二近國一。

越前國。大。管　敦賀。丹生。今立。足羽。大野。坂井。

加賀國。上。管　江沼。能美。加賀。石川。

能登國。中。管　羽咋。能登。鳳至。珠洲。

〔片岡〕今は群馬郡となる。

〔多胡〕今は多野郡となる。

〔綠野〕今は多野郡となる。

〔那波〕佐波となる

〔佐位〕今は佐波郡となる。

延喜六年正月九日分安積郡置安達郡

〔白河〕今は東西白川の二郡となる。

仁和二年十一月十一日分最上郡置村山郡

〔磐城〕今は石城郡となる。

〔標葉〕今は雙葉郡となる。

〔宇多〕今は相馬郡となる。

〔色麻〕加美郡に編入せらる。

〔小田〕今は遠田郡となる。

〔村山〕東西南北の四郡に分る。

〔頸城〕東、中、西の三郡に分る。

〔蒲原、沼垂〕二郡を合せて、今は一市五郡（東西中南北）郡に分る。

〔羽茂云々〕以下三郡を合せて今は佐渡郡といふ。

〔桑田〕今は南北の二郡に分る。

〔巨濃〕今は、法美邑美、高草の一部を合せて岩美郡といふ。

〔八上、智頭〕今この二郡を合して八頭郡といふ。

〔氣多〕今は高草の一部と合して氣高郡と稱す。

越中國。上。管 礪波。射水。婦負。新川。

右爲中國。

越後國。上。管 頸城。古志。三島。魚沼。蒲原。沼垂。石船。

佐渡國。中。管 羽茂。雜太。賀茂。

右爲遠國。

山陰道。

丹波國。上。管 桑田。船井。多紀。氷上。天田。何鹿。

丹後國。中。管 加佐。與謝。丹波。竹野。熊野。

但馬國。上。管 朝來。養父。出石。氣多。城崎。美含。二方。七美。

因幡國。上。管 巨濃。法美。八上。智頭。邑美。高草。氣多。

右爲近國。

伯耆國。上。管 河村。久米。八橋。汗入。會見。日野。

出雲國。上。管意宇。能義。島根。秋鹿。楯縫。出雲。神門。飯石。仁多。大原。

右爲中國。

石見國。中。管安濃。邇摩。那賀。邑知。美濃。鹿足。

隱岐國。下。管知夫。海部。周吉。穩地。

右爲遠國。

山陽道。

播磨國。大。管明石。賀古。印南。餝磨。揖保。赤穗。佐用。宍粟。神崎。多可。賀茂。美囊。

美作國。上。管英多。勝田。苫東。苫西。久米。大庭。眞島。

備前國。上。管和氣。磐梨。邑久。赤坂。上道。御野。津高。兒島。

右爲近國。

備中國。上。管都宇。窪屋。賀夜。下道。淺口。小田。後月。哲多。英賀。

備後國。上。管安那。深津。神石。奴可。沼隈。品治。葦田。甲奴。三上。惠蘇。御調。世羅。三谿。三次。

〔意宇〕今は八束郡の中に入る。

〔島根〕今は八束郡の内に入る。

〔秋鹿〕今、八束郡となる。

〔楯縫〕今は簸川郡となる。

〔出雲〕今は簸川郡の内に入る。

〔神門〕今は簸川郡の内に入る。

〔苫東、苫西〕今二郡を合して苫田郡と稱す

〔大庭、眞島〕今は二郡を合して眞庭郡といふ。

〔磐梨〕今は赤坂と合して赤磐郡といふ。

〔御野、津高〕今この二郡を合して御津郡といふ。

〔都宇、窪屋〕今は二郡を合して都窪郡と稱す。

右爲中國。

安藝國。上。管　沼田。賀茂。安藝。佐伯。山縣。高宮。高田。沙田。

周防國。上。管　大島。玖珂。熊毛。都濃。佐波。吉敷。

長門國。中。管　厚狹。豐浦。美禰。大津。阿武。

右爲遠國。

南海道。

紀伊國。上。管　伊都。那賀。名草。海部。在田。日高。牟婁。

淡路國。下。管　津名。三原。

右爲近國。

阿波國。上。管　板野。阿波。美馬。三好。麻殖。名東。名西。勝浦。那賀。

讃岐國。上。管　大內。寒川。三木。山田。香川。阿野。鵜足。那珂。多度。三野。刈田。

右爲中國。

〔沼田〕今は沙田郡と合して豐田郡といふ。
〔高宮、高田〕今この二郡を合して高田郡といふ。
〔在田〕今は有田郡に作る。
〔牟婁〕今は東西南北の四郡に分る。
〔三木、山田〕今この二郡を合して木田郡といふ。
〔阿野、鵜足〕今この二郡を合して綾歌郡と稱す。
〔那珂、多度〕今この二郡を合して仲多度郡と稱す。
〔三野、刈田〕今にこの二郡を合して三豐郡といふ。

寬平八年九月五日分名方郡東名爲西郡

〔周敷、桑村〕今この二郡を合して周桑郡といふ。

〔野間〕今は越智郡の內に編入せらる

〔風早、和氣〕今は溫泉郡の內に入る

〔久米〕今は溫泉郡の內に編入せらる

〔浮穴〕今は伊豫郡と合して上浮穴、伊豫の二郡となる

〔喜多、宇和〕喜多郡の一部と合して東西南北の四郡となる。

〔企救郡〕今書規矩郡

〔怡土、志麻〕今この二郡を合して糸島郡といふ。

〔那珂、席田〕今は筑紫郡の一部となる。

〔嘉麻、穗浪〕今この二郡を合して嘉穗郡と稱す。

伊豫國。上。管　宇摩。新居。周敷。桑村。越智。野間。風早。和氣。溫泉。久米。浮穴。伊豫。喜多。宇和。

土佐國。中。管　安藝。香美。長岡。土佐。吾川。高岡。播多。

右爲遠國。

西海道。

筑前國。上。管　怡土。志麻。早良。那珂。席田。糟屋。宗像。遠賀。鞍手。嘉麻。穗浪。夜須。下座。上座。御笠。

筑後國。上。管　御原。生葉。竹野。山本。御井。三潴。上妻。下妻。山門。三毛。

豐前國。上。管　田河。企救。京都。仲津。築城。上毛。下毛。宇佐。

豐後國。上。管　日田。球珠。直入。大野。海部。大分。速見。國埼。

肥前國。上。管　基肆。養父。三根。神埼。佐嘉。小城。松浦。杵島。藤津。彼杵。高來。

肥後國。大。管　玉名。菊池。阿蘇。合志。山本。飽田。託麻。益城。宇土。八代。天草。葦北。球磨。山鹿。

日向國。中。管　臼杵。兒湯。那珂。宮崎。諸縣。

（菱刈）今薩摩國伊佐郡に編入せらる

（桑原）今は始良郡に編入せらる。

（贈於）一部は始良郡となり、他は日向國南諸縣郡を編入して贈唹郡といふ。

（大隅）一部は肝屬郡となり、一部は薩摩國鹿兒島郡に編入せらる。

（始羅）今は肝屬郡に編入せらる。

（馭謨）今は熊毛郡に編入せらる。

郡戸

（高城）今は薩摩郡に編入せらる。

郡里名

（甑島）今は薩摩郡に編入せらる。

貢限

（伊作）今は薩摩郡に編入せらる。

大隅國。中。管 菱刈。桑原。贈於。大隅。始羅。肝屬。馭謨。熊毛。

薩摩國。中。管 出水。高城。薩摩。甑島。日置。伊作。河邊。頴娃。揖宿。給黎。谿山。鹿島。

壹岐島。下。管 壹岐。石田。

對馬島。下。管 上縣。下縣。

右爲遠國。

陸奥國。出羽國。佐渡國。隱岐國。壹岐島。對馬島。

右四國二島爲邊要。

凡郡不得過千戸。若餘五十戸以上者。分隷比郡。地勢不宜分者。隨狀立別郡。其不滿百戸者。隷入他郡。若不得已而應分者。別錄申官。

凡諸國部内郡里等名。並用二字。必取嘉名。

凡諸國貢調庸者。越後佐渡隱岐三國。並限明年七月。長門國限四月。伊豫國限二月。但宇和喜多兩郡限三月。土佐國限一月納訖。自餘如令。其陸奥出羽兩國。便納當國。西海道納太宰府。其出納帳並附正稅帳使申送。

凡未進調庸物。長門國伊豫國宇和喜多兩郡。明年六月卅日。越後佐渡隱岐等國。十二月卅日以前進訖。自餘具交替式。

凡諸國調庸米鹽者。令條期後七箇月内納訖。

〔絹絁〕尺

〔調絲〕

〔調國使〕

〔大帳〕王朝時代四度公文の一、一國内所轄の戶口、課不課の戶口、見不輸、見輸、半輸、全輸並に其年所の調庸、雜物の數等を記す帳簿をいふ

〔調帳〕王朝時代四度公文の一、調庸雜物の現數を記したる帳簿をいふ、調庸帳とも稱す、調庸の品物と共に官に送る。

〔少領〕郡司の次官にて、大領に次ぐ「スケノミヤツコ」とも訓む、從八位下也。

〔小郡〕大化中は三里以下の郡、大寶令には二里以上四里以下となれり。

凡諸國調絹絁。六丈之外。令ㇾ足ㇾ裹疋。不ㇾ限二尺寸一。

凡練染調絲者。國使脩夫簡二去麁惡一。合二四絲一以爲二一縷一。練染訖更絡。然後爲ㇾ絇。

凡大帳調庸正稅損益者。勘二抄惣目一。大帳稅帳明年正月。調帳七月並申ㇾ省。省即押署申ㇾ官。（自餘損益准ㇾ此。）

凡諸國調庸專當者。差下目以上幷郡司少領已上强二幹于事一者上。每年相換。但小郡者。一年差ㇾ領。一年差二主帳一。其歷名附二大帳使一申二送官一。

凡畿內調物者。專當國司部領納二京庫一。其郡司者。不ㇾ可二入京一。

凡調庸及中男作物。送ㇾ京差二正丁一充二運脚一。餘出二脚直一以資。脚夫預具二所ㇾ須之數一。告下知應ㇾ出之人上。依ㇾ限撿領。准ㇾ程量ㇾ宜設二置路次一。起二上道日一迄二于納ㇾ官給。一人。日米二升。鹽二勺。還日減ㇾ半。剩者廻充二來年所ㇾ出物數一。別簿申送。

凡貢二調庸一使者。物之與ㇾ帳同領入ㇾ京。不ㇾ得二先後寄二留脚夫一苦上ㇾ久。

凡調庸專當郡司到ㇾ京者。使國司引見ㇾ省。若有二私還者一。省錄二歷名一。九月卅日以前申ㇾ官。

凡勘二納調庸物一者。郡司見參之日。省錄率二史生等一向二大藏省正倉院一。與二大藏錄一共勘二會見物一。然後可ㇾ納二調物一狀移二大藏省一。

凡違ㇾ期貢二調庸一郡司。應ㇾ決ㇾ罪者。徒罪止杖一百。杖罪以下各減二一等一科決。但期月後十日教喩不ㇾ坐。

凡畿內諸國。差二目已上一人一令ㇾ申二四度使政一。

凡參議及左右大弁八省卿彈正尹遙授國司者。不ㇾ得ㇾ差ㇾ使。

凡志摩國四度使惣付二一使一。

〔四度使〕王朝時代地方廳より政績を中央政府に上申する四種の使、卽ち大計帳使、正稅使、調使、朝集使をいふ、中央政府は之によりて地方政治を按撿す。

〔貢調使〕調使に同じ、卽ち四度使の一、調帳を上る使也、調帳は調庸物を記せるもの也。

〔主計寮〕民部省の被官也、調及び雜物を計納して國用を度り、用度を勘考することを掌る。

〔大帳〕四度公文の一也、五七三頁頭註を見よ。

凡諸蕃人任國司者、不得差四度使。

凡諸國四度使、可就事還國者、待奉勅宣旨乃許。

凡諸國使請暇文、輔已下共判署下寮。

凡貢調使公文下省、卽直主計寮。若不直者、始自外題日責其不上。

凡朝集使終事還國者、令二寮勘合官舍溝池桑漆種麥陸田鷄鉀設等帳。然後移送式部省。

凡陸奧出羽兩國朝集使、雖濟朝集政、無調返抄者、不移式部省。

凡佐渡國大帳、聽使附去年貢調使。

凡太宰府管內諸國島大帳調帳稅帳、令府雜掌勘申。但筑前筑後豐前豐後肥前肥後等國、副當國雜掌。各得勘辨。

凡下野讃岐等國、准大國聽卅九戶例損。

戶損

凡吉野國栖、永勿課役。

凡美濃國坂本土岐大井三驛、信濃國阿知驛子、課役並免、其畿內驛子亦免課徭。

免除徭役

凡飛驒國金山河渡子二人免徭役。

凡太宰及陸奧國漏刻守辰丁各六人、課役俱免。每年相替。

凡人生五男、成正丁、免父課役、雖一人闕、猶從免除。

凡勳九等以下任長上者、皆免課役。

凡諸國朝集稅帳雜掌各一人、上日百廿已上免其調庸。

〔大角〕角の一種也「はらのふえ」とよむ、征陣の時に之を用ふ、長さ五尺にして形竹筒の如し。

〔小角〕角の一種也「くだのふえ」とよむ長さ一尺五寸、竹筒の如く小柄の空管を指し込みて之を吹く。

〔春宮坊〕皇太子の内政を取り行ふ所にて、啓令を吐納し、宮人の名籍考叙、宿直等の事を掌る

凡諸國國別置鼓生二人。大角生五人。小角生三人。並免徭役。

凡諸國健兒。皆免徭役。唯志摩駿河武藏飛驒上野下野佐渡播磨長門阿波讃岐等國免徭。畿內免課役。其食畿內用桑田地子。餘以國營健兒田充之。出羽國出擧給之。隱伎國以國造田三町地子充之。

凡伊勢齋宮者。差神戸百姓一百卅二人爲番令守衛。仍免其庸。

凡飛驒國。毎年貢匠丁一百人。其返抄准諸國調庸例。

凡飛驒匠丁役中身死者。勿貢其代。役畢還國者。免當年徭役。

凡諸國客作兒。役畢還國者。免當年徭。其不堪見役者。以徭分并功稻交易當土所出。二月以前令送役所。若有未進。拘調庸返抄。

凡諸國所貢脊力婦女免其房徭。并給田二町。以充資粮。

食封

凡食封者。東宮二千戸。無品親王二百戸。內親王減半。中納言四百戸。參議八十戸。以理解官及致仕者減半。

凡封戸以正丁四人。中男一人爲一戸。率租毎戸以四十束爲限。毎郷滿課口二百人。中男五十人。租稻二千束。若不滿此數。通計國內令塡。但遭損之年。不聽通計滿給。悲田分封五十戸亦准此。其神寺封丁依五六丁之例。准人封。不可增減。

凡諸家封戸。各爲三分。一分充輸絁國。二分輸布國。但伊賀伊勢參河近江美濃越中石見備前周防長門紀伊阿波等國不得充封。

凡中宮封。若當有損年。令當國以正稅交易辨進。春宮坊准此。

凡中宮封租者。春進白米。其春功運賃。用同租內。春宮坊准此。

職封

凡職封者。解官并身薨卽還收。若解薨在納調物限月以後聽給。別勅封物准此。品位封者。薨年之新。全納喪家。無品

〔廝丁〕五七九頁頭註を見るべし。

〔衛士〕各國軍團兵士の每年交替上京して禁闕を守護する者をいふ、令義解に「凡兵士向レ京者〔諸丁事力〕名二衛士一」とあり、左右衛士府の掌る所也。

〔仕丁〕廝丁に同じ

〔沽價〕估價とも書す、物品を賣買する價格也。

〔本府〕左右衛士府を指していへり。

封亦准レ此。

凡別勅賜レ封。若其人授レ位任レ官。便即廻充。

凡任レ官叙レ位及薨卒。應レ收二給封用一者。官下二符省一。進二奏文一付二內侍一令二直奏一。訖即施行。稱二直奏一者。他皆准レ此。省覆レ便給レ之。

不レ得二囘容一。

凡功臣封傳レ子者。無レ子不レ傳。但以二兄弟子一爲二養子一者。聽レ傳二其養子一。得二傳封一者。無レ子者亦聽レ傳二於養子一。其計世

如二正子一。但以二嫡孫一爲レ繼者。不レ得レ傳レ封。

凡裁二省符一所レ行。諸院諸家官丁者。各注二其散行之頭附一。

凡點二仕丁一者。每二五十戶一二人。采女採薪守舍不レ入二此數一。不レ點二廝丁一。其大替前年四月。省預勘二錄應レ點人數一申レ官。下二符國司一。

計帳之日點定。十二月下旬以前附レ綱送レ省。月內相替。令レ得レ給レ粮。其名簿先附二大帳使一進レ省。但志摩飛驒陸奥

出羽佐渡隱伎長門太宰管內並不レ在二點限一。近國者十月中旬。中國者十一月。遠國者十二月下旬以前所貢。

凡點二女丁一者。惣計二諸國一不レ得レ過二九十人一。但志摩飛驒陸奥出羽佐渡隱岐及太宰管內並不レ在二點限一。

凡神寺封丁。不レ得レ點二衛士仕丁事力一。

凡左右馬寮刈レ草仕丁百卌八人。均充二二寮一。

凡諸司仕丁。逃走死去者。每レ季勘錄。符二下諸國一。其替人來即配二本司一。但逃走者。准二當時法一徵二其日功一。

凡衛士仕丁養物者。隨二鄉所出一。正丁七人半。惣所レ輸條分稻一百五十束。准二當土沽價一。交二易輕物一。及春レ米所レ得

之數。專入二正身一。女丁亦同。其撿納之事。委二各本司本家一。皆附二貢調使一申二送省一。但衛士各送二本府一。其逃人資物。各給二替人一。若無二

替人一者。入レ官。諸家封戶仕丁者。不レ論二逃不一。皆給二主家一。

〔于〕京貞二本に依りて補ふ。

〔神郡〕神領の一也神戸の大なるものにして、全郡悉く神社の所領なる故に名づく、伊勢大神宮を始め、香取鹿島、出雲、日前等の大社には何れも神郡を置けり、爰は伊勢神宮の神郡也。

〔公廨田〕職分田（又た職田ともいふ）の一種也、太宰帥、諸國守以下史生に至るまで、其職の差等に從ひて各職分田を給するものをいふ、之を在外諸司職分田ともいふ、不輸租田也。

〔朝集院〕大内裏八省院十二堂の一にして、大禮の時、百官待朝の所也。

凡判衞士仕丁大粮内、自正月至于六月給商布。自七月至〔于〕十二月給綿。木工工部准此。

凡給公粮者、本司毎月十一日錄移送省、省惣勘錄、十六日申官、待印書到給。但六九十二月各三箇月、以十三日爲申省期。

凡仕丁女丁遭父母喪者、國司勘實差替申送、令得終服。

凡諸國匠丁還鄕者、本司錄移送省、省申官給路粮、一人日米一升、鹽一勺、仕丁准此。

凡仕丁重病不堪驅使者、本司移省。撿實申官、充給食馬、遞送本鄕。諸家仕丁令諸家送之。令隨即差替。

凡伊勢齋宮仕丁卅八人、以神郡幷神戸百姓等充之。

凡國司事力、皆充副丁、人別六人。

凡國司已下、判任之徒、留京者停給事力幷公廨田。但殊被徴召、未經一年歸國者、不在此限。

凡攝津國堀江寺、充土人二人、浪人十人。令護佛經、並免課役。有死闕者。隨即差替。

凡太宰府鼓吹丁、筑前肥後各七十二人。筑後肥前各五十四人、豐前豐後各卅六人、並免其徭役。

凡太宰府幷九國二島選士賁丁賜傜丁一人。

凡朝堂幷朝集院場、皆使諸司仕丁芸掃。太政官左右弁官幷内記内膳造酒主水等仕丁。並免掃除。

凡毎月晦日。令諸司仕丁掃除宮中。主殿寮仕丁者。以廿五人充之。若有闕怠者、留其月粮一斗。申官返上、但太政官左右弁官内記主鈴中宮内膳造酒主水等職司仕丁。並免掃除。内藏寮從三月至九月亦免之。其將領左右衞門左右兵衞府生交名移送彈正臺。

凡太政官内者。割晦掃仕丁廿人掃除。

〔關市令云々〕此の分注、京貞二本傍注となす、雲本之を削す。

造籍

〔蔭子孫〕五位以上の人の子孫をいふ、蔭位を受くべき子と孫といふ意也、蔭位は父祖の蔭に因りて得る位階の義也。

〔位子〕六位七位の人の子をいふ、蔭子に對していへる稱也。

勘籍

〔雜色〕無位の役人にして、雜役驅使の事を勤むる者をいふ、服色の定めある衣袍を着する事能はざる者なるが故にしか名づくといふ。

〔門部〕衞士を率ゐて宮廷の諸門を守り、監當の所を禁察し、配流決杖等の事を掌る。

入色課役

凡大學寮者、得陰式省請、補十八人掃除。

凡應造籍者、限前一年省錄申官、待報施行、職國官司依例勘造、其諸國附貢調使、太宰付貢綿使申送。擬領訖即錄白返抄。〔關市令云、行人賫過所出入關者、關司勘過錄白案記。義云、直於白紙錄之、不點朱印、故云錄白也。謂云錄白白紙也〕

凡籍書者、國家重案、其所須紙、染黃蘗必須堅厚。有不如法、隨即勘却。但西海道諸國書白紙。

凡五位已上子孫者、造籍之日、各顯父祖位名。

凡蔭子孫者、本貫貢送、勿更勘籍。若有冒名被蔭、登孫爲子之類、所貢官人依法科處。

凡八位已上嫡子。他色出身者、雖有庶子、不在貢位子例。

凡勘籍者、位子并雜色三比、諸衞五比、若有不合、隨即還却。

凡雜色人等應勘籍者、式部治部兵部具注交名申官、官下省訖、省先遣史生告可勘籍之狀、即承錄各一人、相共對勘。訖更造解文同署申官。

凡雜色人勘籍有不合者、不得改勘。若有奉勅官符、乃得奉行。但前後兩籍符合。

凡間籍不合、依中納言以上宣行之。

中入色之輩得度、并補左右近衞兵衞門部等、勿更勘籍。補自餘色者亦同。

凡得度者勘籍三比。若有一比相合者聽之。

凡勘籍之徒、或轉貫部姓注丹比部、或變本吉名爲長善。如此之類、莫爲不合。

凡式部治部兵部等入色之徒、應徵免課役季帳者。四孟月十六日各申官。官符并帳下省、省更勘辨每國造符、至後孟月申官行下。

〔位田〕品階及び位階五位以上を有する者に給與する田地をいふ、大寶令に始めて等差を設く。

〔功田〕國家に勳功ある者に賜はる田をいふ、輸租田也。

〔賜田〕別勅を以て功勞ある人に賜ふ田をいふ、故に別勅賜田ともいふ、輸租田也。

〔乘田〕六二三頁頭註見るべし。

雜色人數

凡每年所載錄符雜色人數、大國五十人。式部省卅四人、治部省四人。兵部省十二人。上國四十人。式部省廿七人、治部省三人。兵部省十人。中國卅人、式部省廿一人、治部省二人。兵部省七人。下國廿人。式部省十三人、治部省一人。兵部省六人。

破除

凡春季破除者全免、夏季破除者徵調、秋季以後破除者全徵。

官田

凡官田者、山城國卅町、宮内省營八町、國營廿二町。大和國廿六町、省營九町、國營十七町。河内國廿八町、省營八町、國營廿町。和泉國二町、國營。攝津國卅町、省營十五町、國營十五町。其營種新稻。町別一百五十束。和泉國一百廿束。所獲苗子五百束。和泉國四百束。國別長官主當其事。

位田　品田

凡位田功田賜田及神寺等田者、各據本地、不須輙改。

凡外五位位田者、減內位半。

凡位田者、各爲三分。二分給畿內、一分給外國。其一處所置、不得過十町。但授給之後、偏號成川、不可必改給。若非常流損之國、町成淵潭之處。依曹許相換。荒田不在此限。

凡但馬紀伊阿波等國不得置位田。

凡別勅賜田者、其人授位。便滿位田之數。職田亦同。

凡位田者、薨卒之後、一年勿收。

凡授品田者。親王內親王其數一同。

凡乘田可充品位田者、以全町給之。

凡六月十二月、御體御卜之間不得奏行封戶及田。

凡諸國品位田帳。附稅帳使每年進之。

凡無主品位田。移穀倉院令收其地子。

〔其〕京貞二本に依りて補ふ。

〔主税寮〕民部省の被官也、倉庫の出納及び諸國の田租、舂米、碾磑等の事を掌る。

〔遙授〕其身京都にありて地方官を帶するをいふ、また遙任ともいふ

〔㤜獨田〕王朝時代、官より孤獨の民を賑救する爲に設けたる田地をいふ、不輸租田也。

〔職田〕職分田ともいふ、大納言以上及び地方官に授くる田地にして不輸租田也。

〔國〕衍字なるべし。

凡畿外諸國無主職田者、毎有其國式部省移送主税寮、納其地子、請令正税。

薗田

凡掃部寮薗田一町、量置山城國便近之處、其營料、以當國正税一百束、毎年充之、刈收者即用本司仕丁。

凡遙授國司、不給公廨田幷事力。

巫田

凡諸御巫、各賜畿內田一町。中宮東宮御巫亦准此。

日置田

凡出雲國置內外日置田二町。

養田

凡貢采女郡者、各置養田三町、仍令郡司主帳已上作其營種、各割獲稻以充、但新所殘舂米若交易輕物送納其主。運資便用稻內路程僻遠傭賃甚多、仍割一町之內。

放生田

凡出羽國生田一町。割乘田永充之。

㤜獨田

凡攝津國㤜獨田、國司營種、所獲苗子、毎年申官、待有處分、然後充用。

職田

凡文章博士職田五町、筭博士四町。

凡志摩國司不充事力、其職田五町、以伊勢國田給之。

凡甲斐國牧監給職田六町。上野國牧監職田亦同。

凡權任郡司不給職田、但太宰府書生帶郡司者、不在此例。

凡陸奧鎭守太宰等府司國府掌各一人、毎人給職田一町。

凡佐渡國雜太團給軍毅職田一町、主帳一町。

按田

凡諸國按田者、皆按應堪耕營之田、其崩荒成川不用等地、各造別簿、並俱申上、不得隱沒、若有違犯者、隨狀科罪。

〔營田〕王朝時代に於て、官府より營作せしむる田地、若しくは私費を以て開墾する田地をいふ、卽ち公營田私營田の二種あり

〔地子〕租稅の一種、公田及び官田を民に賃與し、これに對して納めしめたる賃租をいふ。

〔造酒司〕宮內省の被官也。酒、醴、酢を釀して皇室の供御、饗宴の用に供す。

主計勘會抄帳。

凡畿內國營田地子米、有未進者。拘調返抄。

凡供御及中宮東宮季料稻粟糯等、並用省營田所獲、待官符到仰畿內令進。但粟山城國進之。

凡畿內御酒米舂功運賃、若有不足充用正稅。但有省營田稻用殘者。不在此限。

凡十一月新嘗會黑白二酒料米。九月下旬省下符畿內。卽舂省營田稻送造酒司。

凡正月三節及十一月新嘗會等料酒。預仰畿內。用正稅釀送造酒司。山城國四石二斗一升。大和河內攝津等國各四石。

延喜式卷第二十二

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十三

民部下

凡御贖幷中宮御贖、及祭忌火庭火御竈神料雜物、神祇官所受、待彼官移文充之、（春宮坊幷齋院司所祭亦同）但陰陽寮所祭者、待中務省移充之、

凡諸社祠主禰宜祝者、擇八位以上及六十以上堪祭事者補之、雖充采定氏之社幷神戸百姓、而先盡八位及六十以上、然後及壯年白丁、卽免課役、

凡東大寺大佛一參供養料、稻百十束、法隆弘福寺二寺佛供養、各料一束四把、並以大和國官田稻、毎季別送寺家、

凡延暦寺從十二月廿三日迄正月十四日、合二十七箇日修法料、白米一十斛、同寺定心院正月一七箇日修法料、白米九斗二升、糯米一斛七升、大小豆各七斗七升、胡麻子三斗八升五合、並十二月十日以前、試年分度者證師幷使、從八月廿四日迄廿七日、合四箇日料、白米四斛七斗七升六合、七月卅日以前、同寺西塔院試年分度者證師幷使、從三月廿三日迄廿五日、合三箇日料、白米八斗八升二合八夕、二月卅日以前、並割近江國年料進官內、官長主當送彼寺、

凡延暦寺定心院十禪師、幷釋迦堂五僧料、炭者令近江國以徭丁燒備、毎年起十一月一日迄來年二月卅日、計日人別充一斗、十月廿日以前惣送寺家、

〔齋院司〕齋院一切の事を處理する役所也、弘仁九年始めて之を置けり　（忌火）

〔陰陽寮〕天文を觀、暦數を稽へ、日月星辰の變、風雲氣色の祥を知る事を掌る。　（日上・宣旨）

〔延暦寺〕近江國比叡山上にあり、天台宗の總本山也、延暦四年、僧最澄之を草創す。　（佛事）

〔釋迦堂〕また轉法輪堂ともいふ、西塔の本堂ともいふべきものにて、天長二年、僧圓澄の建立する所也。　（炭）

〔兵庫寮〕兵庫の儀仗及び兵器の出納を掌り、勅により兵器を請ふ者あれば覆奏して渡す。

〔隻〕兵庫式によりて補ふ。

〔京職〕左右二京職あり京中を分管し、戸口、田宅、租税商業、道路橋梁及び、訴訟、司法等の事を掌る。

〔義倉〕窮民を賑救せんが爲に穀を蓄ふる倉也

供御

凡供御笋蔣及雜菜楡皮等。仰畿內令供進。

仰畿內

凡神祇官卜竹、及諸祭諸節等所須蓍竹柏生蔣山藍等類、亦仰畿內令進。

凡兵庫寮造箭幹篦四百卅隻。隼人司油絹斮一百隻、並仰大和國毎年交易令送。箭幹篦以時採乾。箭取強好。價幷運賃。並用正稅。其蒸篭籠等斮竹。令山城河內攝津等國送。

諸司雜具

凡諸司年中所須甑臼箕杵匏槽箒籠筥簀者、省即檢收。隨官符到便與分充、自非破損、不得輙換。年終惣計。如有剩者、廻充後年。

用正稅

凡用正稅者、十束以上。皆請內印。但用畿內官田稻者請外印。

義倉

凡京職正稅義倉穀者、省與主計主稅共知出納。正稅主稅。義倉主計。義倉用度帳。京職毎年三月進官。即經省下寮。

穀倉院納

凡穀倉院所納穀者、載京職稅帳申之。其匙一枚省收掌。糒庫匙亦同。

畿內調帳

凡五畿內國調帳一通。送穀倉院。

正稅帳

凡進正稅帳者、皆限二月卅日以前並申送官。但西海道諸國幷島。二月卅日以前送太宰府。府以加覆勘。五月卅日以前申官。

計帳

凡計帳者。陸奧出羽兩國太宰府。九月卅日以前申送。餘國如令。

損益

凡諸國大帳正稅帳損益者。主計主稅勘定畢。即可給返抄之狀申省。省修解進官。但調帳者。待收物訖乃送。

使雜掌

凡諸國大帳朝集四度帳公文。從官下之後。依無使幷雜掌。不得勘會。及遲怠違期。具錄其由。載結解帳申官。

隱首括出

凡隱首括出者、畿內十月一日。外國十一月一日。主計寮載功過帳申省。省押署進官。得度除帳者。移主稅寮不申省。

凡京畿諸國大帳者。每至班田之年。五歲已下男女顯注年紀。

凡義倉幷官田地子等帳。並附正税帳使。義倉帳付主計。官田帳付主税。出擧帳幷鄕戸課丁帳。並附大帳使。付主計。鄕戸課丁帳留省。大帳出擧帳附主税。田租帳附貢調使。付主税。但明年貢調國者附税帳使。正倉官舍溝池桑漆等帳。並附朝集使。

凡諸國依進[illegible]籍戸籍幷鄕戸課丁位田等帳。若有未進者。拘留庸幷税帳返抄。

凡諸國地子帳造三通。一通送主税寮。一通主計寮。一通官。其錄田上中下及損益。附正税帳使申送。若不填去年勘出物者。拘留税帳返抄。神税帳造二通。一通進神祇官。一通送省。

凡雜公文結解者。正税帳大帳出擧帳明年正月一日。田租帳四月一日。調庸帳七月一日。主計主税並申送省。即同月上旬申官。但出擧帳留省。

凡承知官符省不行直下寮。

凡免除雜官物符下省者。即承知符先下所司。若有執申。十五日内令勘申。過此之後。請印下符。以承知符日為施行符日。

凡季祿位祿時服之類。及諸國地子等。承知官符。省即奉行直下所司。

凡備中長門豐前等國。送鑄錢司銅鉛返抄者。副税帳進之。

凡官物進京應差綱領者。米三百石已上。差國司史生已上勝任者充。不滿此數。差郡司及子弟。並百姓殷富家口重大者。自餘雜物亦准此數。若有損失官物者。科處如法。其物以五分論。三分徵綱。二分徵脚。但漂失物者。檢計所乘之人。半分已上死者。經告隨近官司。請致驗證署。分明乃從免除。送承告之司。檢實與驗。若不加勘知。輙與公驗者。並與同罪。

〔大帳使〕四度使の一にて、正税[illegible]帳を上る使をいふ。[illegible]税帳は正税の穀類雑用を記すもの也。

〔朝集使〕四度使の一にて、朝集帳を上る使也。朝集帳は地方廳の政を記せるもの也。

〔季祿〕[illegible]朝時代春秋二季に一位以下の諸官人を通じて賜ふ祿也。

〔位祿〕官人五位以上に賜ふ祿也。大寶元年に之を制定す。

大帳　附四度使等帳　依未進拘返抄　地子帳　公文結解　承知　免除符　省符行　[illegible]　綱領　漂失物

〔大歌所〕諸國風俗歌及び神樂、催馬樂等の歌曲を掌り、新大嘗會、新嘗會等に舞姫參入の時大歌所の人初音を發する例也。

〔藥師寺〕下野國河內郡にあり、日本三戒壇の一也、稱德天皇の神護景雲四年弓削道鏡を此に貶して之を創建せしむ。

〔帥〕太宰府の長官也、管內の神社を保管し、政務を總掌す。

（大歌所稻）凡內酒殿稻。黒米百九十斛并大歌所稻卌八斛七斗二升三合一夕左撮受於省。

（舂米）凡諸國所進舂米者隨到即收。且給日收便申省印既進畢日。返抄申官。

（封家借物）凡諸院諸家封戸所進物主計寮勘通之數每年申省。省移大藏省。

凡諸司諸家所請廩院米一百石以上者。非奉勅官符。莫以奉行。

（勘出免除）凡所司勘出諸國舊年雜物。自非奉勅官符。不得免除。

（減直）凡諸國交易進上絁絹綿布等類。所司准品定直。即附返抄。令填減直。

（作大字）凡諸國進官雜物返抄稱其年功者。皆作大字。

（蕃客儲料）凡太宰府蕃客儲米三千八百斛石。若經年致損。便充公用。廻舊收新供事。其修理府中館舍料稻四萬束。每年出擧六國。取其息利充用。若利滿一萬束者停擧。

（藥師寺會料）凡下野國藥師寺。四月八日七月十五日兩齋會布施。便以當國庸布一百六十三段充。但供養用正税三百八束四把六分。

（郡司戸）凡郡司戸者。不得編附他戸。其子弟非可別籍者。據實聽之。

（在路飢病）凡諸國往還百姓在路飢病患無由達鄉者。專當國司一人巡看。附隨近村里。以正税收養。得瘥之日。依法遞送。若有死去者。斂埋便處。具顯貫屬姓名。牓示其上。有漏京者。國郡司等隨事科處。其專當國司者。錄名申官。

（新任國司儲設）凡新任國司到任者。皆給鋪設。以俻儲備。但太宰府帥已下傔仗已上。以調庸中男作物充。並一給之後。不可更賜。

〔贄〕「新嘗」の義にして初物の御膳をいふ。

〔大貳〕太宰府の職員にして、帥に次ぐ役也、正五位上相當官也、後世には參議散二三位等を之に任ず。

〔小貳〕從五位下相當官職掌帥、大貳に同じ、後世諸大夫五位之に任ず。

〔主神〕正七位下相當官にして、太宰府管內諸社の祭祀を掌る。

（大税馬）凡諸國大税馬。若無國造田者、以正税買用。其價不得過五十束。但太宰府及肥前肥後日向三國。並以牧馬充之。

（廣瀬龍田贄）凡廣瀬龍田兩社祭贄、以當國租穀充價買用。

（太宰府仕丁）凡太宰府充仕丁者。帥卅人。大貳廿人。少貳十二人。大小監各八人。主神主工大小典博士明法博士主厨各六人。音博士陰陽師醫師筭師主船各五人。大唐通事四人。史生新羅譯語弩師傔仗各二人。府衞四人。學授二人。藏司二人。税倉二人。藥司一人。匠司一人。修理器仗所一人。守客舘一人。守辰六人。守驛舘一人。儲薪廿人。並准諸國事力。其食皆充庸米。若有仕丁情願輸傭者、並以黑綿卅斤爲限。不得因此過收。其香椎宮守戸一烟。藥園驅使廿人。主船一百九十七人。厨戸三百九十六烟。

（國司赴任）凡山陽南海西海道等府國、新任官人赴任者、皆取海路。仍令縁海國依例給食。但西海道國司到府、即乘傳馬。其大貳已上。乃取陸路。

（諸國進馬革）凡諸國所進兵庫寮修理甲新馬革者、尾張六張。近江十七張。美濃廿四張。但馬十一張。播磨卅二張。阿波十張。並以驛傳牧等死馬皮熟而送之。若不足者買備滿數。其直充正税。

（兵庫寮用皮帳）凡兵庫寮用皮帳、令所司勘。

（諸司移二寮）凡諸司觸事移主計主税寮者。不經省直送。

凡勘解由使所令勘事、不經省直仰二寮。

（年新米）年新春米。

伊勢國。大炊一千七十石。糯廿石。

尾張國。大炊一千八十石。糯廿石。

〔糯〕米の一種也、炊けば「ねばり」あるものをいふ「粳」(ウル)に對していへる名也。

〔郡司〕國司の下に屬して郡内の政務を行ふ、その役所を郡家とも郡院ともいひ、長官を郡領といふ。

〔公廨〕公廨田に同じ、五一六頁頭註參照。

租春

參河國。大炊七百石。
美濃國。内藏廿石、大炊一千四百石、糯廿石、
越前國。内藏五十石、大炊六百五十四石、糯廿石。
丹波國。内藏廿石、大炊五百石、糯廿六石。
但馬國。大炊五百石。
播磨國。内藏卌石。大炊一千一百石、糯廿四石。
備前國。内藏廿石、大炊一千一百七十石。
備後國。大炊一千一百九十五石四斗三升五合。
紀伊國。大炊二百石。
伊豫國。大炊一千四百石。糯廿石。
近江國。内藏五十石、省五百石。大炊一千二百石、糯卅石。
若狹國。大炊二百石。
加賀國。大炊四百五十五石、糯十石。
丹後國。大炊五百石。
因幡國。大炊四百石。
美作國。大炊一千百石、糯十石。
備中國。大炊一百五石五斗九升、糯廿石。
安藝國。大炊六百石。
讚岐國。大炊一千四百石。糯廿石。
土佐國。大炊四百石。

右廿二國各以正稅春運。白米送大炊寮。黑米送省及内藏寮。其運送傭夫並給路粮。

凡諸國春米運京者。伊勢近江丹波播磨紀伊等國二月卅日以前、尾張參河美濃若狹越前加賀丹後四月卅日以前。但馬因幡美作備前讚岐六月卅日以前。備中備後安藝伊豫土佐八月卅日以前。並送納訖、若有未進者。准數奪專當郡司職田直。若不足者亦沒國司公廨。

年新租春米。

尾張國。一千石。　參河國。一千石。　遠江國。一千三百石。　近江國。二千石。
美濃國。二千三百斛。　若狹國。八百石。　越前國。一千三百石。　加賀國。一千三百石。
丹波國。一千石。　播磨國。二千斛。　美作國。一千斛。　備前國。二千斛。
備中國。一千石。　備後國。一千石。　安藝國。一千斛。　讚岐國。二千斛。
伊豫國。二千斛。　土佐國。五百石。

右十八國各以租穀内一春收。隨官符到進之。其精代連貢用正税。不得妄爲篇關本也。

年料別納租穀。

伊賀國。二千石。　伊勢國。四千五百斛。　駿河國。三千五百斛。　伊豆國。一千五百斛。
甲斐國。三千五百斛。　相模國。三千五百石。　武藏國。一萬二千石。　上總國。四千六百九十斛。
〔下總國。一萬四千石。〕　常陸國。一萬二千斛。　信濃國。一萬二千斛。　上野國。一萬七百卅五石。
下野國。一萬一千斛。　能登國。四千斛。　〔越中國。四千石。〕　越後國。七千斛。
丹後國。九百八石。　但馬國。二千九石。　因幡國。二千五百斛。　伯耆國。四千六百卌斛。
出雲國。四千五百斛。　石見國。二千五百石。　長門國。三千卌七石。　紀伊國。三千百石。
淡路國。一千六百斛。

右廿五國。各別納租穀内。隨官符到充位祿季祿衣服等新

〔官符〕太政官より八省及び諸國に下す符なり、符とは、被管または僚を以て言上すべき者に對し、その上官より下せる公文也、唐制より出でたるものにして唐六典に「凡上之所以逮下其制有六、曰云云符」とあり。

〔別納租穀〕

〔下總國〕以下八字政治要略に依りて補ふ。

〔越中國〕以下六字政治要略によりて補ふ。

〔青木香〕本草綱目に「青木香乃木香也、然後人呼ニ馬兜鈴根一爲ニ青木香一」とありて、和漢三才圖會に、「按倭出ニ青木香一（又以爲ニ和木香一）然倭無ニ馬兜鈴一故採下似ニ蘿摩一而有ニ香氣一者上、爲ニ青木香一」とあり。

〔零羊角〕羚羊の角也、和漢三才圖會羚羊の條に「角云、明レ目、治ニ小兒驚癇大人中風搐搦筋肝臟之病一云、辟ニ邪氣不祥一解ニ諸毒一」とあり。

〔長海松〕海松の長きものゝ意、海松は、和名抄に「海松、云々、水松、狀如レ松而無レ葉、和名美流」とあり。

〔紙麻一百斤〕京貞二本に據りて補ふ。

年新別貢雜物、

伊賀國、紙麻五十斤。

伊勢國、筆百管、紙麻一百十斤、

尾張國、筆一百管、紙麻九十斤、青木香一百六十斤、馬革六張。

參河國、筆一百五十管、紙麻十斤。黃楊六枚。

遠江國。筆一千管、零羊角四具。

駿河國。筆一百管。零羊角四具。

伊豆國。零羊角四具、甘葛汁二斗。

甲斐國。筆卅管、零羊角六具。胡桃子一石五斗。

相模國。筆一百管。零羊角四具。青木香八十斤。牧牛皮。

武藏國。筆一百管、膠五十斤。麻黃五斤。麻子六斗。

安房國。長海松六籠。

上總國。筆一百管、牧牛皮六張。

下總國。筆一百管。牧牛皮六張。牛角十二具、麻子七斗。

常陸國。筆三百管。麻子七斗。

近江國。筆二百管、紙麻一百十斤、零羊角四具、馬革十七張。

美濃國、筆一百五十管、紙麻六百斤。支子二石。青木香卅斤。零羊角六具、馬革廿四帳。

信濃國。筆一百卅管、零羊角六具。木賊二圍、樺皮二圍。

上野國、筆一百管、零羊角六具、杏仁三斗。膠十二斤、樺皮四張。

下野國。筆一百管。麻紙一百張、麻子三斗。

陸奥國。筆一百管。零羊角四具。

出羽國。零羊角十具。〔紙麻一百斤。〕

若狹國。零羊角十具。紙麻一百斤。

越前國、筆五十管。紙麻一百斤。零羊角十具、甘葛汁一斗。

越中國、零羊角二具、

越後國、零羊角六具。

丹波國、墨二百廷、紙麻七十斤、漆一斗七升、柏一百廿俵以ニ五十把一爲レ俵、把別五十枚。掃墨一石、表紙麻一百斤。

〔朱漆酒海〕酒海は和名抄に「韻云、樽酒海也、今案、俗所レ用鐏具二酒海一各異、故別集レ之」とあり、酒を容るゝ具の一也。

〔羹椀〕あつものを盛る食器也、其の訓は和名抄に「羹、和名、阿豆毛乃」「椀、古語謂レ椀爲二磨利一云々、」とありて、「アツモノノマリ」也。

〔貢蘇番〕

〔蘇〕野菜の名、紫蘇に同じ、和名抄に「野王案云、葉大而有レ毛、其實白者曰レ荏（和名衣）、又云、葉細而香、其實黒者曰レ蘇（和名、乃良衣、一云奴加衣）此二種雖二一類一、其狀不レ同」とあり。

凡太宰所レ貢調綿、除二諸断五百絢一之外、毎年附二貢綿使一進レ之、

凡太宰府年料所レ進朱漆酒海六合、三合徑二尺。三合徑一尺六寸。下食盤八十枚、徑一尺七寸。中盤八十八枚、徑一尺。飯椀一百口、徑七寸。羹椀二百口、百口徑六寸五分。百口徑六寸。盤四百五十枚、卅枚徑七寸、二百廿枚徑六寸。二百枚徑五寸五分。盞二百五十口、百五十口徑五寸。百口徑四寸五分。黒提盞十四口。

右以二正税一充レ新造進。

諸國貢レ蘇番次。

伊勢國十八壺。七口各大一升。十一口各小一升。　尾張國十五壺。五口各大一升。十口各小一升。

參河國十四壺。四口各大一升。十口各小一升。　遠江國十四壺。四口各大一升。十口各小一升。

駿河國十二壺。四口各大一升。八口各小一升。　伊豆國七壺。竝小一升。

甲斐國十壺。竝小一升。　相摸國十六壺。六口各大一升。十口各小一升。

右八箇國爲二第一番一丑未年。

伊賀國七壺。竝小一升。　武藏國廿壺。七口各大一升。十三口各小一升。

安房國十壺。竝小一升。　上總國十七壺。七口各大一升。十口各小一升。

下總國廿壺。八口各大一升。十二口各小一升。　常陸國廿壺。十口各大一升。十口各小一升。

右六箇國爲二第二番一寅申年。

近江國十八壺。七口各大一升。十一口各小一升。　美濃國十七壺。七口各大一升。十口各小一升。

信濃國十三壺。五口各大一升。八口各小一升。　上野國十三壺。五口各大一升。八口各小一升。

〔卯酉年〕卯を文字あるに、干支の卯と酉に當れる年にする意也、以下の干支名皆同じ

〔備後國云々〕本文五字、註文十二字、政治要略によりて補ふ。

下野國十四壺、五日各大一升、九日各小一升。　若狹國八壺、並小一升。

越前國十五壺、六日各大一升、八日各小一升。　加賀國十五壺、六日各大一升、九日各小一升。

右八箇國爲二第三番一、卯酉年。

能登國七壺、三日各大一升、六日各小一升。　越中國十壺、四日各大一升、六日各小一升。

越後國十一壺、四日各大一升、七日各小一升。　丹波國十一壺、三日各大一升、八日各小一升。

丹後國八壺、二日各大一升、六日各小一升。　但馬國十一壺、三日各大一升、八日各小一升。

因幡國十一壺、三日各大一升、八日各小一升。　伯耆國十一壺、三日各大一升、八日各小一升。

出雲國十一壺、三日各大一升、八日各小一升。　石見國八壺、二日各大一升、六日各小一升。

右十箇國爲二第四番一、辰戌年。

太宰府七十壺、十五日各大一升、廿日各小一升、廿五日各大五合。

右爲二第五番一、巳亥年。

播磨國十五壺、六日各大一升、九日各小一升。　美作國十一壺、三日各大一升、八日各小一升。

備前國十壺、二日各大一升、八日各小一升。　備中國十壺、二日各大一升、八日各小一升。

〔備後國七壺、二日各大一升、五日各小一升。〕　安藝國八壺、二日各大一升、六日各小一升。

周防國六壺、並小一升。　長門國八壺、並小一升。

〔阿波國云々〕本文五字、註文十二字政治要略によりて補ふ。

〔中擎子〕江次第抄に「擎子、靑瓷之居也云々」とあり。又和訓栞に「擎子と云ふは御飯の土器の下に敷くものを云ふとぞ」とあり、中は型の大小を區別せる也、

年料雜器

〔十口〕雲本に據りて補ふ。

〔交易〕租稅に交へて物を致すを云ふ。

交易雜器

〔匱簀〕和訓栞に「ひきす、延喜式に匱簀と見ゆ、貫簀の類なるべし」とあり。

紀伊國七壺。二口各大一升。五口各小一升。淡路國十壺。四口各大一升。六口各小一升。

［阿波國十壺。四口各大一升。六口各小一升。］讃岐國十三壺。五口各大一升。八口各小一升。

伊豫國十二壺。四口各大一升。八口各大一升。土佐國十壺。四口各大一升。六口各小一升。

右十四箇國爲二第六番一。子午年。

凡諸國貢レ蘇。各依二番次一。當年十一月以前進了。但出雲國十二月爲レ限。輪轉陁レ次。終而復始。其取レ得レ乳者。肥牛日大八合。瘦牛減レ半。作レ蘇之法。乳大一斗。煎得レ蘇大一升。但飼レ秣者。頭別日四把。

年料雜器。

尾張國瓷器。大椀五合。徑各九寸五分。中椀五口。徑各七寸。小椀［二口］。徑各六寸。茶椀廿口。徑各五寸。盞五口。徑各四寸七分。中擎子五口。徑各五寸。小擎子五口。徑各四寸五分。花盤十口。徑各五寸五分。花形盤坏十口。徑各三寸。𨒨十口。大四口。小六口。長門國瓷器。大椀五口。徑各九寸五分。中椀十口。徑各七寸。小椀十五口。徑各六寸。茶椀廿口。徑各五寸。花盤卅口。徑各五寸五分。花形盤坏十口。徑各三寸。𨒨［十口］。大四口。小六口。

右兩國所レ進。年料雜器。並依二前件一。其用度皆用二正稅一。

交易雜器。

山城國酒槽卅一隻。圓槽七隻。臼十腰。杵十五枚。槽八口。匱簀十二枚。匏三百卅柄。葉籠五十四脚。大和國酒槽七隻。二隻長各八尺。廣二尺三寸。深八寸。手長一尺。五隻長各六尺。廣二尺五寸。深八寸。手長九寸。圓槽二隻。口徑各二尺五寸。手長一尺。槽二口。一口高二尺七寸。口徑二尺一寸。一口高二尺二寸。口徑二尺。臼三腰。高各二尺二寸。徑二尺一寸。杵六枚。長各三尺。輿籠廿口。瓢三百廿五柄。匱簀四枚。河内國酒槽卅四隻。十一隻長各一尺。廣二尺五寸。深八寸。手長一尺三寸。十一隻長各六尺。廣二尺三寸。深八寸。手長一尺。十二隻高二尺七寸。口徑二尺一寸。手長九寸。臼六腰。杵六枚。輿籠卅口。匏二百廿五柄。匱簀卅枚。長各八尺。廣

〔輿籠〕和訓栞に「こしご、延喜式に輿籠をよめり、輿にしてかごなるを云ふべし。」とあり。

〔酒〕板本二本に據りて補ふ。

雜物

〔荏子〕白蘇の實也、本草綱目に「荏、形狀與紫蘇無異、但面背皆白者即白蘇乃荏也、其子可取油」とあり。

〔那乃利曾〕莫鳴菜也、海草にて、莖細く平にて、長さ三四尺程、葉の間に圓く小さき果をつく、和名抄に「莫鳴菜、奈々里曾、漢語抄云、神馬藻三字、云奈乃里曾、今案、本文未詳、但神馬莫騎之義也」とあり。

四尺。和泉國酒槽七隻。長各九尺。廣二尺七寸。手長一尺三寸。圓槽二隻。槽二口。臼三腰。杵六枚。輿籠十一口。匏一百五柄。置簀廿枚。攝津國酒槽十七隻。長各八尺、廣二尺三寸。手長一尺。圓槽四隻。槽六口。輿籠五十口。臼八腰。杵十四枚。匏一百七十五柄。置簀五十四枚。

凡五畿內丹波等國。例進雜器幷槲。十月以前充進。若致未進。移式部省。不聽國司預考會節。

交易雜物。

山城國。大麥三石。小麥卅石。大角豆六石。胡麻子四石。荏子四石。

大和國。大麥三石。小麥十一石七斗三合。薑子六斗。大角豆四石。

河內國。大麥三石。小麥卅五石。薑子五斗、[illegible]二千五百枚。

和泉國。小麥廿五石。

攝津國。大麥三石。小麥卅五石一斗。薑子九斗。薦一千五百枚。

伊賀國。白絹十二疋。鹿皮廿張。樽二合。加赤漆杓。以下皆同。

伊勢國。白絹十二疋。絹三百疋。木綿四百斤。樽二合。鹿角菜二石。青苔五十斤。海松五十斤。凝菜卅斤。於期菜卅斤。鳥坂苔五斤。海藻根十斤。那乃利曾五十斤。

志摩國。大凝菜卅四斤。白玉千顆。

尾張國。白絹十二疋。絹百五十疋。油三石。樽二合。苧一百五十斤。鹿革廿張。鹿皮十枚。鹿角十枚。薭子五石。胡麻子四石。荏子四石。鹿尾菜三石。凝菜卅斤。於胡菜卅斤。

參河國。白絹百廿疋。鹿革六十張。樽二合。苧九十斤。黍子廿石。胡麻子三石。鹿角菜二石。海松五十斤。凝菜卅斤。海藻根十斤。青苔五十斤。鳥坂苔五十斤。於胡菜卅斤。那乃利曾五十斤。

〔烏坂苔〕鷄冠菜也　海藻の名、海中の石につきて生ず、形鷄冠に似たり、食用とす、和名抄に「鷄冠菜、土里佐加乃乎、式文用ニ烏坂苔ニ」とあり。

〔於胡菜〕海藻の名　磯邊の岩に生ず、形、亂れたる髪の如し、色黒く、青みを帶ぶ、料理のつまに用ひらる、一に頭髪菜と書く、又和名抄に「本朝式云、於期苔」とあり。

陸奥國。葦鹿皮獨犴皮數隨レ得。砂金三百五十兩。昆布六百斤。索昆布六百斤。細昆布一千斤。

出羽國。熊皮廿張。葦鹿皮獨犴皮數隨レ得。

若狹國。烏賊三百斤。小鰯腊一石一斗。樽二合。

越前國。絹二百六十二疋。履析牛皮六張。漆一石五斗。熟黑葛廿斤。

加賀國。絹一百六十二疋。履析牛皮二張。漆一石五斗。荏油二石。樽二合。

能登國。絹十二疋。鹿皮十張。履析牛皮四張。海鼠腸一石。樻子四合。

越中國。絹百疋。商布一千二百段。履析牛皮四張。熟黑葛二斤。絹笥三百十九合。綾笥廿八合。漆一石三斗。

越後國。商布一千段。漆五斗。樻子四合。履析牛皮八枚。

丹波國。白絹十二疋。赤絹五百五十疋。絲七百五十絇。油三石。鹿革十張。栗十石。大豆廿石。胡麻子五石。薑子卅石。熟黑葛廿斤。刈安草五百圍。隔三年進醬大豆五石。

丹後國。絹二百五十疋。白絹十二疋。鹿革十張。樽二合。小鰯腊十二籠。

但馬國。絹七百卅七疋。絲一千斤。鮨皮一百五十斤。醬大豆廿六石。隔三年進醬大豆五石。

因幡國。絹二百疋。白絹十二疋。席三百五十枚。荒筥廿五合。樻子四合。鮨皮八百廿五斤。醬大豆廿六石。隔三年進醬大豆五石。鹿皮十張。

出雲國。絹二百卅七疋四尺。鹿革卅張。席三百枚。青苔卅斤。海松一百斤。海藻根十斤。烏坂苔五斤。紫草一百斤。鹿皮廿張。樻子四合。

石見國。綿六百八十七斤八兩。青苔卅斤。海松一百斤。海藻根十斤。烏坂苔五斤。紫草一百斤。樻子四合。鹿革卅張。

播磨國。白絹十三疋。絹三百五十疋。大豆廿六石。胡麻子三石。油二石。鹿革五十張。樽二合。小豆三石。鹿角菜二石。青苔卅斤。於胡菜廿斤。那乃利曾卅斤。

〔胡粉〕繪具の名、白く彩色するに用ふ。

〔菅圓座〕菅にて造れる圓座也、圓座は「ワラフタ」と讀む、和名抄に「圓座、一云、和良布太、圓草褥也」とあり、元來藁を以つて渦形に平たく卷きて造るものなるを、菅草にて造れば特に如此に云へり。

〔紫菜〕甘苔也、海苔の一種にして、冬、綿の如く凝りて石上に生ず、色紫なり、神仙菜とも云ふ、和名抄に「神仙菜云々、紫菜狀如紫帛凝生石上、是物有三四種、以紫色爲勝、俗呼曰神仙菜、漢語抄云、阿末乃里」とあり。

美作國。絹四百七十五疋。油三石。猪脂一斗。櫑子四合。鹿革十張。鹿皮廿張。鹿角十枚。大豆十石。小豆六石。醬大豆廿石。隔三年進醬大豆十五石。

備前國。絹二百疋。白絹十二疋。油三石四升。胡麻子三石。櫑子四合。苫十五枚。鹿革廿張。鹿皮十張。鹿角十枚。小豆十九石七斗。醬大豆廿五石。大豆卅四石七斗。秫析八十石。隔三年進醬大豆十石。

備中國。白絹十二疋。油一石四斗。朴消一百斤。小豆一石六斗。苫廿五枚。櫑子四合。鹿皮九十張。大豆廿八石。醬大豆卅四石。隔三年進醬大豆七石。小豆十六石。

備後國。白絹十二疋。油二石。櫑子四合。鹿角十枚。大豆十六石七斗。小豆一石七斗。胡麻子二石。醬大豆六十石。隔三年進醬大豆十石。

安藝國。白絹十二疋。絲八百絇。木綿二百五十斤。油三石四升。苫廿五枚。櫑子四合。鹿皮廿張。鹿革廿張。

周防國。鹿革卅張。席三百五十枚。苫廿五枚。櫑子四合。

長門國。鹿革廿張。胡粉廿斤。綠青廿枚。丹六十斤。海藻一百五十斤。苫廿五枚。櫑子四合。

紀伊國。白絹十二疋。絹二百疋。鹿革十張。鹿角菜二石。青苔五十斤。海松卅斤。海藻根十斤。鳥坂苔五斤。那乃利曾五十斤。樽二合。大凝菜一百斤。於胡菜卅斤。大豆廿石。小豆卅石。胡麻子五石。醬大豆十石。隔三年進醬大豆三石。

阿波國。絹三百疋。白絹十二疋。油三石四升。龜甲六枚。鹿皮十張。粟廿石。小豆十六石。秫析大豆八十石。胡麻子四石。小麥七十石。凝菜七斗。青苔廿斤。海藻根一□。於期菜六斗。鹿角菜二石。苫廿五枚。樽二合。醬大豆廿二石。隔三年進醬大豆五石。

讃岐國。白絹十疋。鹿革廿張。苫廿五枚。菅圓座卅枚。櫑子四合。鹿子皮十五張。金漆一斗五升。醬大豆卅二石。隔三年進醬大豆五石。大豆十八石。

伊豫國。鹿革五十枚。鹿皮十張。砥一百八十顆。大豆十八石。海藻根十斤。那乃利曾五十斤。苫五十枚。樽二合。胡麻子五石。醬大豆卅二石。隔三年進醬大豆五石。

土佐國。龜甲四枚。煮鹽年魚五缶。紫菜一百五十斤。苫廿五枚。櫑子四合。

太宰府。絹四千疋。履析牛皮廿四張。狸皮十張。鏤三百兩。金漆五缶。朱砂一千兩。茜二千斤。紫草五千六百斤。猪膏二石。雜油卅石。檳榔馬蓑六十領。同[illegible]一百廿領。蘭幘笠百廿蓋。黑漆鞍十具。[illegible]鐙廿隻。

右以正税交易進。其運功食並用正税。但下野國砂金者。使傜夫採。食亦充正税。其太宰雜油卅石。中男作物。

若漏此數者。更不交易。

凡諸國雜交易。不論正稅地子。使附貢調使。不差專使。

凡諸國年料雜交易物者。當年充進。不得踰年。若有未進。拘調庸返抄。

凡有雜交易未進者。准雜米未進例。奪郡司職田直。若不足者。沒[illegible]司公廨。

凡諸國大未進小未進等帳者。勘錄國司功過。每年正月五日以前進官。

凡京職諸國郡司功過帳。主計主稅。勘定進省。畿內十月二日。外國十一月二日申官。

凡勅旨交易絹。幷商布減直者。去年料附當年使。待充前年使乃放後年返抄。其運賃用減直內。穀倉院交易准此。

〔貢調使〕四度使の一也、又調使とも云ふ調帳を掌る役也、調帳は調庸物を記せるもの也〔職田〕職分田とも云ふ大納言以上及び地方官に授くる田地を云ふ不輸租田也大寶令に始めて定めたり。

雜交易
未進帳
郡司功過帳
勅旨交易

延喜式卷第二十三

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣淸貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十四

〔主計〕調及び雜物を計納して、國用を計り、用度を勘勾する意にして、民部省の被官、主計寮の管する處也

〔丁〕擧男の一、これに、正丁次丁の二種あり、即ち令制にては、二十歲以上六十迄を正丁とし、癈疾老殘の者を次丁とせり。

〔「受斗」〕貞本「受一斗」に作り、京本皆無し。

〔各、回〕共に雲本により補ふ。

〔無坏〕あへ物を盛る器也、韲は、和名抄に「韲、訓安布、一云阿倍毛乃、擣薑蒜以醋和之」とありて、蔬菜をものにあへたるを云ふ。

主計上

凡左右京五畿內國調。一丁輸錢隨時增減。其畿內輸雜物者。一丁藺笠二枚。四丁狹席五枚。長一丈。廣三尺六寸。黃薦五枚。長二丈。廣四尺。三丁廣席二枚。長一丈。廣四尺。二丁黑山席一枚。長一丈二尺。廣四尺。折薦三枚。長二丈。廣三尺六寸。一丁食薦七枚。長六尺。廣二尺五寸。五丁明櫃四合。長三尺六寸四分。廣二尺二寸。深九寸。三丁柳筥一合。長二尺二寸。廣二尺。深四寸。一丁藺筥二合。徑六寸。深五寸。筐二枚。明櫃二合。長二尺二寸四分。廣一尺七寸。深一尺一寸。明櫃六合。長二尺。廣一尺六寸。深一尺一寸。折櫃五合。長二尺。廣一尺四寸。麻笥六合。徑一尺五寸。深二寸五分。板笥廿五合。徑五寸。深二寸五分。圓笥七合。徑二尺八寸。深二寸。陶器。八丁池由助甖各一口。受五石。二丁甕一口。受一石二斗。缶三口。受五斗。一丁由加一口。受一石。爐瓮二口。受三斗。脚短杯有蓋十三合。「受斗」無蓋廿口。[各受三合。]筥杯卅四口。受四合。水椀有蓋十三合。無蓋廿五口。各受一斗。多志羅加二口。受一斗。大山甖二口。受一斗五升。叩瓮二口。受三升。甕十口。受五升。水瓮三口。受二升。大甖三口。受一斗。洗盤三口。受一斗已上。中甖四口。受八升。平甖四口。受五升。酒壺四口。受五升。等呂須伎四口。受五升。缶蓋六口。徑六寸。高盤七口。高六寸。徑一尺二寸。小甖八口。受三升。鉢八口。受五升。臼八口。受三升。水甖十口。受五升。酒垂十口。徑一尺二寸。祭壺十口。受三升。匜女坏廿口。小坏廿六[口]。各受三合。片盤廿五口。徑九寸。無坏、小蓋各五十口。受二合已上。土師器。一丁小爐蓋八口。徑一尺五寸。平鍋五十口。受二升。玉手土師鉢五十口。受一斗。間坏一百口。受五合。贄土師鋺形五十口。徑六寸。片盤五十口。徑一斗。傳飾器二口。

瓮、[illegible]笥盤各八口。大盤十二合。瓫𤭯八口。筥𤭯。臼。各廿四口。鉢卅口。首𤭯下[illegible]。有柄首𤭯。小盤。筥杯。樣脚短坏。

凡椀。各卌口。小甕。小壺。廿四口。有蓋椀。小𤭯。各廿口。御椀廿口。有柄中𤭯。中壺。各十六口。小盤廿二合。有柄小𤭯卅口。片椀卅八口。瓷壺。片盤。八十四口。深坏六十口。御取坏。大小筥坏。葉坏。片坏各八十二口。西海道片坏二百口、盤坏百口。有蓋五十四口。燈盞二百口。猴膝𤭯二口。清坏八十口。淺坏一百廿口。乳戶四口。後盤卅四口。赤土一斗五升。米六斗。壹岐島小麥〔一〕小豆二斗。大豆四斗。鹽三斗。海石榴油一升二合。壹岐島一升三合三勺。御取鰒。着耳鰒各四斤。躭羅鰒六斤。鳥子鰒。都都伎鰒各二斤。放耳鰒三斤五兩。長鰒。短鰒。凡鰒。串鰒。橫串鰒。細割鰒。葛貫鰒。火燒鰒。羽割鰒。蔭鰒。薄鰒各六斤。壹岐島三斤。乾鮹九斤十三兩。乾螺十斤十兩。堅魚九斤。西海道諸國十一斤十兩。烏賊十斤。久惠腊。鮫腊。各卅三斤五兩。煮堅魚六斤七兩。熬海鼠八斤十兩。棘甲蠃。甲蠃各六斗。鮭廿隻。雜魚腊廿六斤。鯖腊四斤。醬鮒。鮨鮒各卅二斤。腐耳鰒十四斤。甘鮨鰒廿八斤。鮨鰒。貽貝富耶交鮨各卅六斤。貽貝鮨三斗。雜魚鮨八十斤。海鼠腸十五斤十兩。雜魚楚割。鮫楚割。鯛腊。鰯腊各十六斤十兩。雜魚臡卅三斤。漬鹽雜魚。乾鰯。各卅六斤。海藻。海松。各卅三斤。但壹岐國卅三斤五兩。紫菜。海藻根。各十六斤。大凝菜。小凝菜。角俣各卅斤。滑海藻八十六斤十兩。於期菜廿六斤十兩。鹿角菜卅三斤五兩。澤蒜。島蒜各七十二斤。已上斤兩並大。下條亦同。

凡諸國輸庸、壹岐對馬等島並不輸。一丁布一丈四尺。二丁成段。三丁成端。上絲二兩。中絲二兩二分。麁絲二兩二分。並二丁成絇。綿五兩二分西海道諸國五兩成屯。米三斗。乾鹽三斗三升三合三勺。橡四斗五升。鹽一斗五升。鮭十隻。二丁白木韓櫃一合。長五尺以下四尺五寸以上。廣二尺三寸以上。深二尺以下。一尺八寸以上。國作小平釘。著專當郡司名。三丁塗漆韓櫃一合。長三尺四寸。廣三尺二寸「六分」。著脚從端入三寸。深一尺四寸。板厚六分。手取長一尺三寸四分。廣二寸三分。厚一寸六分。底下〔橫〕木廣一寸五分。厚一寸二分。從橫底至地二寸。從橫上一尺一四丁塗漆著鑞韓櫃一合。薩摩國寸四分。蓋深二寸。上板緣端出二分。廉取六分。橫表裏皆赤漆。四角〔及〕緣手取黑漆。

〔後盤〕盃を載する臺、又酒宴の際、呑み餘れるを捨つる器也、和名抄に「酒臺子、辨色立成云、酒臺子、志利佐良」とあり。

〔一〕雲本に據りて補ふ、按ずるに小麥の量を脫したるなるべし。

〔躭羅鰒〕躭羅は地名也、今の朝鮮の濟州島の三韓時代の古稱也、其處より產する鰒の意也

〔熬海鼠〕いりこを云ふ也、和名抄に「海鼠、和名、古、本朝式加熬字、云伊里古、似蛭而大者也」とあり。

〔「六分」〕衍字也。

〔橫〕〔及〕貞京本に據りて補ふ。

〔枲〕熟麻に對して未だ精練せざる麻の皮を云ふ。

〔中男〕

〔脯〕魚肉等のあへづくりを云ふ、和名抄に「脯、今按、鹿□、俗云阿閇豆久利、切肉合拌也」とあり。

〔內子鮭〕孕子の鮭の意、「コ、モリ」と訓むは、「子籠り」の義にして、孕みたるを云ふ。

〔鹿角菜〕布苔也、海草の類にて、洗料、糊料に用ふ。

〔防壁〕和名抄に「釋名云、縛壁以レ席、縛二著於壁一也、漢語抄云防壁多都古毛」とありて、壁に縛著して風雨寒暑を防ぐに用ふる也。

二丁席三枚。一丁紙七十五張。自餘雜物准レ此輸二一分調之一一。

凡中男一人輸作物。紙者陸奥出羽壹岐對馬等國島不レ輸絹三尺七寸五分、紙卅張。紅花二兩。東木綿苧、各一斤。備後安藝木綿八兩。斐紙麻三斤。穀皮三斤二兩。茜。熟麻。枲各二斤。麻黃蘗皮黑葛各五斤。鹿脯。猪脯。腸腊。雉腊。短鰒。薄鰒各一斤。火乾年魚。押年魚。煮乾年魚。烏賊。乾鯛。雜魚楚割。許都魚皮。鮭皮。鮭冶・魚肉久惠。鹽雜魚腊各二斤。楚割鮭二斤八兩。內子鮭一隻。鮭二隻。小三隻。鮨猪鮨鮭。鮭腸各一斤八兩。鮭醬小鰯阿米魚各六斤。周防國小鰯七斤。大鰯鮨十五斤。手綱鮨十二兩二分。堅魚一斤八兩三分。西海道諸國二斤。鯖鮨鮭鮨醬鮒各八斤。鰒鮨二斤十兩。腐耳鰒。腸漬鰒。鮭子各三斤八兩。漬鹽年魚煮鹽年魚各七斤。鮨年魚五斤十兩。貽貝鮨四斤十兩。雜魚鮨九斤十兩・鮭氷頭。背腸一斤十兩。煎堅魚煮汁各十二兩二分。貝鮹鮨六斤八兩。與理度魚脂二斤。蒜。紫菜。各二斤。海松五斤。鹿角菜。大凝菜。海藻。各六斤。相摸國一斤十一兩。小凝菜。雜海菜。各八斤。滑海藻十二斤。海藻根四斤。海老一升。漆。金漆。各一合五勺。胡麻油七合。麻子。荏。樱椒油。各五合。海石榴。呉桃。閇美油。各三合。猪膏一升。橡。麻子。呉桃子。生栗子。各一斗五升。山蒜。芥子。各二升。蜀椒子。椎子各一斗。平栗子四升。搗栗子七升。破鹽七升五合。砥二顆。長一尺三寸。廣六寸五分。厚二寸七分。鹿角二隻。鼉甲一枚。黄薦一枚。長二丈。廣四尺。菅薦二枚。長一丈二尺。廣四尺。二人席一枚。長一丈。廣三尺六寸。苫一枚。長一丈二尺。廣七尺。四人韓薦一枚。長四丈。廣七尺。六人防壁一枚。長四丈。廣七尺。簣一枚。長八尺。廣四尺。

凡貢𧇸絲者。伊賀三百約。伊勢八百八十約。白絲。參河二千約。大頭絲。越前一百約。安藝五百約。阿波一千五百約。並七月卅日以前納訖。

伊勢。　參河。　近江。　美濃。　但馬。　美作。

備前。　備中。　備後。　安藝。　紀伊。　阿波。

右十一國並上絲。

伊賀。尾張。遠江。若狹。越前。加賀。
能登。越後。丹波。丹後。因幡。伯耆。
出雲。播磨。長門。讃岐。伊豫。土佐。
筑前。筑後。肥前。肥後。豐前。豐後。
日向。

右廿五國中絲。

駿河。伊豆。甲斐。相摸。武藏。上總。
下總。常陸。信濃。上野。下野。

右十一國麁絲。

伊賀。伊勢。尾張。參河。遠江。近江。
美濃。若狹。越前。加賀。能登。越後。
丹波。丹後。但馬。因幡。〔伯耆〕。出雲。
播磨。美作。備前。備中。備後。安藝。
紀伊。阿波。讃岐。伊豫。土佐。

右廿國輸絹。

駿河。伊豆。甲斐。相摸。武藏。上總。

〔上絲〕上は絲質を區別せる等級也、下文「下絲」「麁絲」皆同じ。

〔相摸〕今相模と書す、和名抄に「佐加三」と訓み、古事記には「相武」と書きて、「サガム」と訓めり、諸國名義考に、賀茂眞淵の說を引きて、此の邊もと身狹（ムザ）と稱せしを、身狹上（相模）、身狹下（武藏）の二に分ちたるに起ると云へり。

〔伯耆〕下文に右廿國とありて、一國少し、今本式を案じて補ふ。

下總。　常陸。　上野。　下野。

右十國輸絁。

〔輸錢〕貢を通貨に交ふるを云ふ、一に「地子錢」と云ふ。

京

左右京。

調輸錢。

畿內

畿內。

山城國。

調。廣席二百八十枚。狹席五百九十枚。折薦八百五十八枚。葉薦四百六枚。食薦一千五百枚。隨時損益。餘國准此。自餘輸錢。

大和國。行程。一日。

調。箕一百卅枚。鍋二百二口。玉手土師坏五十口。間坏百口。贄土師竈廿八口。筵子卅四口。讃州四口。瓮三百五十八口。片坏七十二口。自餘輸錢。

〔玉手土師坏〕玉手の土師の造れる坏の意也、玉手は、今大和國南葛城郡掖上村玉手の地也、土師は「ハシ」と訓み、古へ、土器を作るを職とせし者を稱せり。

河內國。行程。一日。

調。黑山席五十枚。折薦一千二百八十二枚。葉薦二百枚。圓笞一合。蘭笥大十合。贄土師鋺形二百七十口。片盤二百七十六口。手洗盤廿二口。手湯瓮四百十二口。水椀八十八合。鍋二百口。大高盤五十口。陽盤十四合。酒盞三百廿口。汁漬坏六十口。中片坏八百六十一口。吐盤六口。坏作土師酒盞七十六合。小高盤百廿四口。中片坏六百六口。自餘輸錢。

攝津國。行程。一日。

調。葉薦五百枚。折薦一千卅枚。明櫃十合。大明櫃二百卅五合。小明櫃一百八十四合。折櫃一千二百九十六合。麻笥三口。板笥六百三合。圓笥一百廿四合。大笥四百五十合。陶爐瓮四合。脚短坏卅六合。筥坏二百七十二合。水椀卅九合。蓋坏七十合。自餘輸錢。

和泉國。行程。〔上〕二日。〔下一日〕。

調。蔺笠卅六枚。蔺笥十合。大五合。小五合。陶池由加三口。𤭯二口。瓱百十口。缶百卅二合。由加十六口。脚短坏八十六口。酒壺八口。筥坏廿六口。乡志羅加十二口。大山瓱八口。叩瓮七十七口。水瓮九十二口。大瓱十二口。洗盤廿口。中瓱九十口。平𤭯百十口。酒壺十四口。等呂須伎九十二口。缶蓋五十七口。高盤百四口。小瓱九十八口。山瓱二口。臼九十六口。水𤭯九十九口。酒垂百六口。紘壺四百廿九口。短女坏九十二口。小坏百卅五口。𤭯八口。片盤百六口。𤭯盞十二口。自餘輸錢。

東海道。

伊賀國。行程。上二日。下一日。

調。一窠綾二疋。二窠綾一疋。絹二百疋。數内輸白絹十疋。餘輸絹國皆准此。橡絲廿絇。練絲一百絇。國以傜夫練染。他皆准此。夫絲三百絇。夏調。自餘輸絲。布。

庸。白木韓櫃九合。自餘輸米。

中男作物。紅花七斤八兩。紙。茜。胡麻油。蜀椒。

伊勢國。行程。上四日。下二日。

調。兩面十疋。一窠綾。二窠綾。各十六疋。三窠綾六疋。薔薇綾四疋。帛二百疋。白絹百疋。白絲八百八十絇。夏調。赤引

〔上〕、原本には無し、今、和名抄に據りて補ふ。

〔下一日〕原本に無し、和名抄に據りて補へり。

〔等呂須伎〕類聚名物考に「とろすは地名歟、參河國にもさいふ地名有り、その國より出る鉏なるべし」と見えたり

東海道

〔瓱〕和名抄に「本朝式云、瓱、佐良介、今按所出未詳」とあり。

〔短女坏〕ひめつきと訓す。

〔傜夫〕傜は役に同じ、役夫也。

〔紅花〕圖書集成、考工典に「紅花、場圃撒子種、二月初下種云々、紅花入夏即放綻、花下作棣、彙多刺花出棣上、採花者、必侵晨帶露摘取云々、則黃汁淨盡而眞紅乃現也、云々」とあり。

〔雜鮨〕鮨は「ししびしほ」也、雜魚の鹽漬にしたるものをいふ。

〔海松〕海中の石上に生ずる海草、徑二分許、圓く枝多くして棒蘭の如く綠色なり、長さ六七寸食用に供す。

絲百十絇、神服絲一百絇、御巾絲卅絇、自餘輸絹、綿。
庸韓櫃卅三合。塗漆盛鏁八合 白木十五合。自餘輸米。鹽。
中男作物。紙。木綿。麻。紅花。胡麻油。椿油。雜魚腊。煮鹽年魚。雜魚鮨。滑海藻。

志摩國。行程。上六日。下三日。

調。御取鰒。雜鰒。堅魚。熬海鼠。雜魚楚割。雜魚脯。雜腊。雜鮨。漬鹽雜魚。紫菜。海松。鹿角菜。海藻。海藻根。小凝菜。角俣菜。於期菜。滑海藻。
庸。槌鮑。堅魚。鯛楚割。
中男作物。雜魚腊。

尾張國。行程。上七日。下四日。

調。兩面八疋。緋纈。鼠纈羅。各一疋。二窠綾廿疋。三窠綾五疋。七窠綾二疋。薔薇綾五疋。帛一百疋。緋絲。縹絲。綠絲。各卅絇。白絲廿絇。練絲二百卅二絇七兩二分。生白鹽一斛六斗。其二簡席共進。自餘輸絹。絲。鹽。
庸韓櫃十五合。塗漆盛鏁五合 白木十合。自餘輸米。鹽。
中男作物。麻一百斤。黃蘗二百斤。紙。紅花。胡麻油。雉腊。雜腊。煮鹽年魚。雜魚鮨。

參河國。行程。上十一日。下六日。

調。䌷羅。漢綾。各一疋。一窠綾十五疋。二窠綾五疋。犬頭白絲一千絇。夏調。雜魚楚割二千五百五十一斤。鯛脯一百斤。鯛楚割九十斤。貽貝鮨三斛六斗。自餘輸白絹。
庸。韓櫃十合。塗漆盛鏁二合 白木八合。自餘輸米。鹽。

〔窠綾〕窠の模樣ある綾をいふ、窠はまた窠紋ともいふ、木瓜を輪切りにしたる形を寫したるより、瓜の紋といふといひ、或は蜂の巢の如き形したるよりいふともいへり、續紀に窠子錦、本朝式に小窠錦など見えたり、一窠綾、二窠綾などいふは、窠の紋の一つ又たは二つあるをいふ。

〔年魚〕河魚の一種也、和名抄に「鮎云々、貌似レ鱒而小、有二白皮一無レ鱗、春生夏長秋衰冬死、故名二年魚一也」と見えたり。

中男作物。麻二百斤。黄蘗三百斤。紙。紅花。席。胡麻油。鰒腊。雜魚腊。海藻。

遠江國。行程。上十五日。下八日。

調。一窠綾十三疋。二窠綾八疋。三窠綾廿疋。七窠綾廿五疋。小鸚鵡綾廿七疋。薔薇綾廿四疋。菱核綾百十疋。赤廿疋。呉服綾百廿疋。赤十五疋。御衣新白絹十二疋。緋帛卅疋。纁帛十五疋。橡帛廿五疋。貲布十二端。自餘輸レ絹。但由香郡調庸輸レ布。

庸。韓櫃廿合。塗レ漆者十合。白木十合。自餘輸レ綿。

中男作物。木綿。胡麻油。與理等魚腊。

駿河國。行程。上十八日。下九日。

調。一窠綾六疋。二窠綾五疋。三窠綾四疋。小鸚鵡綾一疋。薔薇綾三疋。帛一百廿疋。橡帛十二疋。纁帛八疋。皂帛十疋。倭文卅一端。煮堅魚二千一百卅斤十三兩。堅魚二千四百十二斤。自餘輸レ絁。

庸。白木韓櫃廿合。自餘輸レ布。

中男作物。手綱鮨卅九斤十三兩二分。紙。紅花。火乾年魚。煮鹽年魚。堅魚煎汁。堅魚。

伊豆國。行程。上廿二日。下十一日。

調。一窠綾三疋。二窠綾二疋。冠羅一疋。緋帛十五疋。皂帛十疋。自餘輸二絁。堅魚一。

庸。輸レ布。

中男作物。木綿。胡麻油。堅魚煎汁。

甲斐國。行程。上廿五日。下十三日。

〔茜〕山野に生ずる蔓草の一種也、春舊根より生ず、その根は細條多く簇いて黄赤也、採りて赤色に染むる料とす、故に「あかね」といふ也。

〔長鰒〕和漢三才圖會に「長鰒、延喜式所載、安房伊豫等之長鰒、今稱ニ熨斗一者是也、造法、生鰒去レ腸、從ニ耳端一薄切剝、至ニ中肉一成レ條、如下剝ニ乾瓢一法上、暴乾、取ニ生乾者一引伸令レ長云々」とあり。

〔丸鰒〕鰒は鮑に同じ、貞丈雜記に「丸あはびといふは、丸のまゝのあはび也、これは乾しあはびなり、のし鮑に對してまるあはびといふ也」とあり。

調。緋帛卅疋。紺帛六十疋。皂帛廿五疋。橡帛十疋。自餘輸レ絁。
庸。輸レ布。
中男作物。紙。熟麻。紅花。芥子。胡桃油。鹿鮨。猪脂。

相摸國。行程。上廿五日。下十三日。
調。一窠綾五疋。二窠綾三疋。三窠綾五疋。七窠綾五疋。橡帛十二疋。黄帛八十疋。紺布六十端。縹布卅端。自餘輸ニ絁布一。
庸。輸ニ綿。布一。
中男作物。紙。熟麻。紅花。茜。短鰒。堅魚。海藻。

武藏國。行程。上廿九日。下十五日。
調。緋帛六十疋。紺帛六十疋。黄帛一百疋。橡帛廿五疋。紺布九十端。縹布五十端。黄布卅端。自餘輸ニ絁。布一。
庸。輸レ布。
中男作物。麻五百斤。紙。木綿。紅花。茜。

安房國。行程。上卅四日。下十七日。
調。緋細布十二端。細貲布十八端。薄貲布九端。縹細布二百五十端。烏子鰒。都都伎鰒各廿斤。放トレル耳鰒六十六斤四兩。著ツケル耳鰒八十斤。長鰒七十二斤。自餘輸ニ細布。調布。丸鰒一。
庸。輸ニ海松四百斤。自餘輸レ布。
中男作物。紙。熟麻。枲。紅花。堅魚。鰒。

〔細貲云々〕「細貲布六十三端、小堅貲布五十一端」の文字は原と注文となしあり、然して貲布の字この底本になけれど、出雲本及び上文によりて補へり。

〔熟麻〕粗のまゝの麻に對して、よく精製せる麻をいふ。麻は和訓栞に「あさ、麻をいふは淺き義なり、麻の衣などいへり、或は青割の義、白栲にむかへたる名也栲を白栲幣となし麻を青和幣となすなり」とあり。

東山道

上總國。行程。上卅日 下十五日。

調。絁百疋。緋細布廿端。薄貲布百十四端。細貲布六十三端。小堅貲布五十一端。紺望陁布五十端。縹望陁布七十三端。縹細布三百八十端。望陁貲布百端。長八丈。廣一尺九寸。貲布一百卌八端。自餘輸望陁布。細布。調布。鰒。

庸。輸布。

中男作物。麻二百斤。紙。熟麻。白暴熟麻。衾。紅花。漆。芥子。雜腊。鰒。凝海藻。

下總國。行程。上卅日。下十五日。

調。絁二百疋。紺布六十端。縹布卌端。黃布卅端。自餘輸布。

庸。輸布。

中男作物。麻四百斤。紙。熟麻。紅花。

常陸國。行程。上卅日。下十五日。

調。緋帛七十疋。緋纈絁卅疋。紺帛七十疋。黃帛一百六十疋。絁一千五百廿五疋。長幡部絁七疋。倭文卅一端。自餘輸絁。暴布。

庸。輸布。

中男作物。麻四百斤。苧。紙。熟麻。白暴熟麻。紅花。茜。麻子。腊。鰒。

東山道。

近江國。行程。上一日。下半日。

調。二色綾卅疋。九點羅二疋。白絹十疋。緑帛廿疋。帛百卅疋。柳筥一合。缶六十口。酒壺八合。𤭖瓫四口。水椀四百

八十合、大筥坏一千二百六十口。小筥坏百六十口。深坏六十口、麻笥盤廿四口、自餘輸ㇾ絹。
庸、韓櫃卅三合。塗ㇾ漆者繚五合。白木廿八合。自餘輸ㇾ米。
中男作物。黃蘗三百斤。紙、胡麻油、鮨鮒。阿米魚鮨、煮鹽年魚。
美濃國。行程。上四日。下二日。
調、白絹十疋、黃帛百疋、廣絁十疋、帛三百疋。長絹百疋、絲廿一約。長席三百七十五枚、瓱二口、瓱十六口。由加十二口。缶廿七口。酢𤭖八十口。水椀廿五合。深坏蓋四口、客盞十四口、麻笥盤十四口。片杯腑六口、洗盤十二口。手白髮𤭖四口。水鉢廿五口、𤭖𤭖四口。𤭖十口、油𤭖一口、大𤭖七口、有蓋境卅五合、高盤十七口、雜坏廿口、甘盞十一口。酒盞十口、臼六口、清坏廿口、足下坏五十口、油坏卅六口、裴坏六十口。乳戸四口。堆瓮八口、筥瓱十口、後盤卅四口。酒坏卅八口。比太爲𤭖五口。大盤卅五口。池由加一口。小坏十口。叩戸廿二口。自餘輸ㇾ絹。
庸、韓櫃卌四合。塗ㇾ漆者繚五合。白木廿九合。自餘輸ㇾ米。
中男作物。紙、金漆、胡麻油、荏油、煮鹽年魚、鮨年魚。鯉、鮒鮨。
飛驒國。行程。上十四日。下七日。
調、不ㇾ輸。但浮浪人輸二商布一。
庸、輸二商布一。
信濃國。行程。上廿一日。下十日。
調、紺布六十端。緣布卅端。緋革五張。自餘輸ㇾ布。但浮浪人調庸輸二商布一。
庸、輸ㇾ布。

〔阿米魚〕鯇とも書す、形ち鱒に似て背より尾にとほりて黑き巾の如きものあり、また肉は白きもの、うす赤きものあり。

〔由加〕祭に用ふる甕也、「ゆ」は齋み淸むる意、「か」は、容器の總稱也。

〔浮浪人〕住地を離れて他國に漂ふこと、物の浪にゆられて寄る方なきが如き人をいひ、後世轉じて、扶藤を失ひ、主家を去りたる士人をいふことゝなれり、單に浪人ともいひ、牢人とも書す、前者は王朝時代より鎌倉時代にかけての語にして、後者は室町時代以後の語也。

〔橡布〕橡即ち櫟（俗にドングリといふ）の實を以て染めたる黒き布也後世の鈍色即ち是れ也、實を本につきたる皮（ヨメガ合器といふ）を煮て、其汁にて染むといふ、搗橡、青白橡（青みを帯びたるもの、山鳩色也）白赤橡（白色を帯びたるもの）あり、令制にて此衣は家人奴婢の着用するものと定めたり、後には專ら喪服に用ゆるに至れり。

〔細町〕出雲本なし恐らくは「細貫筵」小町席」の中の三字脱せしか或は後人の傍注の攙入か。

北陸道

中男作物。紙。紅花。麻子。芥子。猪膏。脯。鳥臘。鮭楚割。氷頭。背膓。鮭子。

上野國。行程。上廿九日 下十四日。

調。緋帛五十疋。紺帛五十疋。黄帛八十疋。橡帛十二疋。絁三百十疋。紺布五十端。縹布十五端。黄布卅端。橡布卅五端。緋革十五張。自餘輸布。

庸。輸布。

中男作物。麻一百五斤。細町席。漆。紙。紅花。

下野國。行程。上卅四日。下十七日。

調。緋帛五十疋。紺帛六十疋。黄帛五十疋。橡帛廿五疋。絁一百疋。紺布八十端。縹布十五端。橡布十端。自餘輸布。

庸。輸布。

中男作物。麻一百五斤。紙。紅花。麻子。芥子。

陸奥國。行程。上五十日。下廿五日。

調。廣布廿三端。自餘輸狭布。米穀。

庸。廣布十端。自餘輸狭布。米。

出羽國。行程。上廿七日。下廿四日。海路五十二日。

調庸。輸狭布。米穀。

北陸道。

若狭國。行程。上三日。下二日。

調絹、薄鰒、烏賊、熬海鼠。雜腊、鰒甘鮨、雜鮨、貽貝保夜交鮨、甲蠃、凝菜。鹽。
庸布、輸レ米。
中男作物。紙。蜀椒子。海藻。鯛楚割、雜鮨、雜腊。
越前國。行程、上七日。下四日。海路六日。
調。兩面十疋。九點羅二疋。一窠綾二疋。二窠綾五疋。白絹十疋。帛一百九十疋。緋帛廿疋。橡帛廿五疋。綠帛黃帛各廿疋。絲一百絇夏調。白餘輸レ絹。
庸。韓櫃廿一合。塗レ漆著レ鏁五合。白木十六合。白餘輸レ綿。米。
中男作物。紙。熟麻。麻。紅花。茜。黃蘗皮。黑葛。漆。胡麻油。荏油。呉桃子。并油。蕈。海藻。雜魚腊。
加賀國。行程、上十二日。下六日。海路八日。
調。小鸚鵡綾二疋。薔薇綾四疋。緋帛十疋。黃帛廿疋。橡帛[十]二疋三丈。帛八十疋。白絹十疋。白餘輸レ絹。
庸。白木韓櫃八合。白餘輸レ綿。米。
中男作物。紙。茜。紅花。熟麻。呉桃子。荏油。海藻。雜魚腊。
能登國。行程。上十八日。下九日。海路廿七日。
調。一窠綾二疋。呉服綾一疋。白絹十疋。熬海鼠三百卅五斤。海鼠腸六十二斤八兩。白餘輸レ絹。
庸。白木韓櫃十七合。白餘輸レ綿。
中男作物。席。韓薦。折薦。菅薦。漆。胡麻油。雜魚腊。鯖。
越中國。行程。上十七日。下九日。海路廿七日。

〔保夜〕海產の動物也、寄生木（ホヤ）の根を託する所とその體似たれば名づくといふ、狀革の袋の如く、太さ拳の如し。

〔楚割〕楚（スハエ）と割（ワリ）との約にて「そわり」といふは更にその約也、魚肉を細そく割りて、乾して小枝（スハエ）の如くなせるものをいふ、之を削りて食用となせしが如し。

〔韓櫃〕足を附したる櫃をいふ、長韓櫃と荷韓櫃の二種あり、長韓櫃は長持の如く、二人にて棒にて荷ひ、荷韓櫃は長韓櫃の半分にて、一人にて二個を荷ふ。

〔十〕一本によりて補ふ。

〔氷頭〕和名抄に「氷頭、本朝式云、年魚氷頭背腸、年魚者、鮭魚也、氷頭者、比豆也、」とありて、氷頭に「ヒヅ」と訓めり和訓栞に「ひづ、魚腦の氷の如くなれば云ふにや、もはら鮭に云ふめり」とあり、頭蓋の骨、透明なること氷の如くにして、脆く軟かにして刻みて食用とすべし、

〔鮭、鮭兩字混用す、又年魚と書く、共に「サケ」魚を云ふ也〕

山陰道

〔小許春〕寫本傍註に、近代人皆以光レ知、或云、傳聞アセミトリとあり。三七四頁頭注參照

調。白畳綿二百帖。自餘輸ニ白細屯綿。浮浪人別輸ニ商布四段一。

庸。韓櫃卌六合。塗レ漆居レ鏁五合。白木四十一合。自餘輸ニ綿。韓櫃並塩ニ畳綿及白綿一。其横底各敷ニ布一段一。折ニ庸綿一充ニ布價一。段別ニ屯。

中男作物。紙。紅花。茜。漆。胡麻油。鮭楚割。鮭鮨。鮭氷頭。鮭背腸。鮭子。雜腊。

越後國。行程。上卅四日。下十七日。海路卅六日。

調。白絹十疋。絹。布。鮭。

庸。白木韓櫃十合。自餘輸ニ狹布。鮭一。

中男作物。黃蘗三百斤。布。紙。漆。鮭内子。幷子氷頭背腸。

佐渡國。行程。上卅四日。下十七日。海路卌九日。

調庸並輸レ布。

中男作物。布。鰒。

山陰道。

丹波國。行程。上一日。下半日。

調。兩面五疋。小許春羅一疋。一窠綾七疋。二窠綾七窠綾各五疋。白絹十疋。緑帛十疋。帛二百廿疋。自餘輸ニ絹。綿一。

庸。韓櫃卌二合。塗レ漆著レ鏁五合。白木卅七合。自餘輸レ米。

中男作物。黃蘗四百斤。紙。黑葛。漆。胡麻油。蜀椒。平栗子。搗栗子。

丹後國。行程。上七日。下四日。

調。兩面五疋。二窠綾五疋。三窠綾七窠綾薔薇綾各三疋。小鸚鵡綾一疋。白絹十疋。緋帛纁帛各廿疋。自餘輸ニ絹。綿一。

庸。白木韓櫃廿合。自餘輸綿。米。

中男作物。紙。黑葛。漆。胡麻油。椎子。烏賊。雜魚腊。海藻。

但馬國。行程。上七日。下四日。

調。九點羅二疋。一窠綾十三疋。二窠綾九疋。三窠綾三疋。薔薇綾四疋。白絹十疋。緋帛卅疋。縹帛十五疋。皀帛五疋。帛三百卅疋。自餘輸絹。

庸。韓櫃十合。塗漆著鏁五合。白木五合。自餘輸絹。

中男作物。黃蘗一百斤。紙。漆。胡麻油。榎椒油。搗栗子。煮鹽年魚。雜腊。鮨皮。海藻。

因幡國。行程。上十二日。下六日。

調。白絹十疋。緋帛卌疋。緑帛黃帛各十疋。橡帛十二疋。皀帛十五疋。帛二百疋。自餘輸絹。

庸。白木韓櫃八合。自餘輸綿。

中男作物。紙。席。紅花。胡麻油。黑葛。漆。海石榴油。平栗子。火乾年魚。鮨皮。雜腊。海藻。

伯耆國。行程。上十三日。下七日。

調。白絹十疋。緋帛縹帛各廿五疋。橡帛十二疋三丈。皀帛廿疋。帛二百六十疋。自餘輸絹。綿。鍬。鐵。

庸。白木韓櫃九合。自餘輸綿。鐵。

中男作物。紙。紅花。席。椎子。鮨皮。煮乾年魚。雜腊。

出雲國。行程。上十五日。下八日。

調。白絹十疋。緋帛廿疋。縹帛十疋。緑帛八十疋。橡帛十二疋三丈。帛一百疋。緋絲十五絇。縹絲緑絲橡絲各五絇。

〔中男〕令制に「凡男女三歲以下爲レ黃、十六以下爲レ小、廿以下爲レ中、其男廿一歲爲レ丁、六十一爲レ老、六十六爲レ耆」とあり、天平寶字二年七月の勅に「自今以後、宜十八爲二中男一、廿二歲成二正丁一云云」とあり。

〔合〕匣、櫃等を數ふるにいふ語也、箇、口の如し、說文に「合口也」とあり、度量に用ふる「合」は又別義也。

〔鮨皮〕鮨は、正字通に「河豚別名」とあり、和名抄に、「河豚、和名布久」とあり。

皂絲五絇。烏賊卅斤。鰒廿四斤。自餘輸二絹絲一。

庸。白木韓櫃十二合。自餘輸レ綿。

中男作物。紙。海石榴油。荏油。胡麻油。薄鰒。雜腊。紫菜。海藻。

石見國。行程。上廿九日。下十五日。

調庸並輸レ綿。

中男作物。紙。紅花。薄鰒。雜腊。紫菜。

隱岐國。行程。上卅五日。下十八日。

調。御取鰒。短鰒。烏賊。熬海鼠。鮨腊。雜腊。紫菜。海藻。島蒜。

庸。輸レ布。

中男作物。雜腊。紫菜。

山陽道。

播磨國。行程。上五日。下三日。海路八日。

調。兩面十疋。九點羅二疋。一窠綾十疋。二窠綾。三窠綾。小鸂鶒綾。薔薇綾。各二疋。呉服綾四疋。白絹十疋。緋帛卅疋。纁帛。皂帛。各十疋。緑帛廿疋。帛百五十九疋。池由加五口。受二五石一。中由加五口。受二一石一。𤭖二口。𤭯四十八口。小由加十六口。酒壺四合。缶一百七十五口。著レ乳瓫十八合。洗盤七十七口。有レ柄大𤭯卅九口。大壺中壺各八合。負𤭯二口。大高盤九十九口。有レ柄中𤭯卌口。叩瓫八十七口。麻笥盤四口。大盤七十五合。臼卅六口。鉢卅二口。有レ柄醋𤭯廿口。無レ柄醋𤭯卌口。筥坏二百九十口。様筥坏凡坏各八十口。椀五百五十合。片椀百五十二口。小𤭯廿口。小盤有

〔皂絲〕黒く染めたる絲也、皂は皁の俗字、皁は、玉篇に「皁、色黒也」とあり。

〔島蒜〕和名抄に「島蒜、阿佐豆木本朝式文用レ之」とあり、一に淺葱、胡葱とも書く、膾に和して食するを好しとす、和漢三才圖會に「正巳日、和レ膾食」ともあり、葱の類にて、葉甚だ細く、色淺緑也。

山陽道

〔兩面〕和訓栞に、「りやうめん、兩面と書けり、輪違の紋あり、高麗錦なりと、大饗雜事に見ゆ」とあり。

蓋八十合、無蓋椀五十口、片盤六十七口、椀、下盤。各五十口、深坏五十九口。大筥坏卅口。小筥坏。菜坏。各七十一口、麁坏八十合。燈盞八十口、赤土五斛一斗、自餘輸絹、布、鹽。

庸。韓櫃卅二合、倉漆著纈五合。白木卅七合。　自餘輸米。

中男作物。紙、薄紙、黃、黑葛、蜀椒、胡麻油、雜腊、煮鹽年魚、鮨年魚。

美作國。行程上七日。下四日

調。白絹十疋、緋帛廿五疋、緋絲卅絇。綠絲。纁絲、皂絲、各五絇、黃絲、橡絲、各廿絇、練絲二百絇、自餘輸絹、鍬、鐵。

庸。白木韓櫃九合、自餘輸綿、米。

中男作物。紙。茜。苫、黑葛、搗栗子、胡麻油、樓椒油。

備前國。行程上八日。下四日。海路九日。

調。白絹十疋、橡絲廿絇、䍃一口、䍃八口。由加八口。瓫六十六口、水瓫八十四口。爐瓫八口。陶瓫卅三口。御埦二百口。猨膝研十八合。小䍃廿四口。䍃十二口、臼廿四口、負䍃六口、水䍃、大酒䍃、平䍃。筥䍃各廿四口。大壺廿四合。中壺卅二合。小壺六十合。酢䍃卌口。麻笥盤十六口。洗盤六十口。片盤一百十四口、椀四百六十合、片椀卌合。脚短坏廿六口、樣足短坏二百八十口、筥坏四百廿六口。凡片坏一千五百六十口、自餘輸絹。絲。鹽。

庸。白木韓櫃十三合。自餘輸米、鹽。

中男作物。絹。苫。胡麻油。許都魚皮。押年魚、煮鹽年魚、雜魚鮨。

備中國。行程上九日。下五日。海路十二日。

調。纁帛十五疋、緋絲六十絇、綠絲、纁絲。各十絇。黃絲卅絇、皂絲五絇、練絲五十絇、自餘輸絹、鍬、鐵。鹽。

〔盞坏〕五三九頁頭註を見るべし。

〔年魚〕雲本に據りて補ふ。

〔雜腊〕腊は、令義解に「謂二全干物一」とあり。

〔猨膝研〕研は硯也、好古小錄に東大寺古陶に猨頭研あり、又朝野群載にも此名見え、延喜式にも、猨題硯とあるも、石研にはあらざるべし、瓶形、硯瓶などの類なるべしと云へり。

庸、白木韓櫃六合、自餘輸米、鐵。

中男作物、黃蘗三百斤、茜、胡麻油、椶椒油、漆、搗栗子。許都魚皮。押年魚、煮鹽年魚。大鰯。比志古鰯。

備後國。行程、上十一日。下六日。海路十五日。

調。白絹十疋、帛一百絇。絲九十絇。縹絲廿絇。自餘輸絹、鍬、鐵、鹽。

庸。白木韓櫃三合。自餘輸米。鹽、鐵、鍬。

中男作物。紙。木綿。紅花、黃蘗皮。黑葛、漆、胡麻油。押年魚。煮鹽年魚、許都魚皮。大鰯、雜腊。

安藝國。行程。上十四日。下七日。海路十八日。

調。兩面五疋。一窠綾十七疋。二窠綾。三窠綾、各四疋。薔薇綾三疋。白絹十疋。帛四百疋。緋絲卌絇、綠絲十絇、縹絲廿絇、橡絲卌絇。練絲二百五十絇、絲五百絇、夏調。自餘輸絹。絲。鹽。

庸。白木韓櫃十合、自餘輸絲。鹽。

中男作物。紙、木綿。紅花、茜。黑葛、胡麻油。脯。比志古鰯。

周防國。行程、上十九日。下十日。

調。短席六百卌枚、自餘輸綿。鹽。

庸。輸綿。米。

中男作物、紙。茜。黃蘗皮。海石榴油。胡麻油。煮鹽年魚。鯖。比志古鰯。

長門國。行程。上廿一日。下十一日。海路廿三日。

調。綿、絲、雜鰒。但大津阿武兩郡浮浪人調充採銅鉛料。

〔比志古鰯〕和名抄に「鯷魚、今之鰛魚也云々、鰛、漢語抄云、比師古以和之、小鮎魚黑而少味也」とし、和訓栞には「ひしこいわし、式に見ゆ和名抄に鰛魚を訓せり、其註せる所は、なまずの事なるはいぶかし、醬鰯の轉ぜるなるべし、今ひしことのみも云へり」とあり。

〔大津〕和名抄に、「三隅、深川、日置、三島、向國、二處、神戸、驛家、稻妻等の九郷を載す、今、豐浦郡に屬す。

〔阿武〕和名抄に、「阿武、椿木、大原、宅佐、多萬、住吉、神戸、驛家」等の八郷を載す、今、見島郡を合併す。

庸。輪綿。米。

中男作物。紙。胡麻油。薄鰒。雜腊。海藻。

南海道。

紀伊國。行程。上四日。下二日。海路六日。

調。兩面五疋。鼠跡羅二疋。二窠綾四疋。一窠綾五疋。薔薇綾二疋。白綾廿疋。纁帛卅疋。緑帛十疋。緋絲卅五絇。纁絲。緑絲各廿絇。橡絲十絇。皂絲五絇。自餘輸絹。絲。綿。鹽。鮨鰒。堅魚。久惠腊。滑海藻。但浮浪人調庸輸錢。

庸。白木韓櫃五合。自餘輸綿。米。

中男作物。黄蘗三百斤。亀甲十七枚。絹。綿。紅花。胡麻油。鹿鮨。猪鮨。堅魚。押年魚。煮鹽年魚。鯛楚割。大鰯。海藻。滑海藻。

淡路國。行程。上四日。下二日。海路六日。

調。宍一千斤。雜魚一千三百斤。自餘輸鹽。

庸。輸米。

中男作物。雜鮨。

阿波國。行程。上九日。下五日。海路十一日。

調。兩面五疋。四窠羅一疋。二窠綾九疋。三窠綾五疋。七窠綾。薔薇綾。各四疋。白絹卅疋。緋絲五十五絇。緑絲。纁絲。各廿絇。皂絲五絇。練絲二百五十絇。絲一千五百絇。夏調。御取鰒二百斤。細割鰒三百卅三斤。横串鰒卅九斤。堅魚五百卅五斤八兩。自餘輸絹。絲。

〔纁帛〕淡赤色の帛也、纁は、説文に「淺絳也」とあり又絳は、同書に「大赤也」とあり

南海道

〔各〕雲本に據りて補ふ。

〔久惠腊〕和訓栞に「くゑ、延喜式に久惠腊あり魚の名也」とあり。

〔横串鰒〕串を横に貫きて乾したる鰒也、本朝食鑑に、「乾者串鰒云々、此亦乾鰒之類也、串者貫也、以竹木制串子、貫生鰒、去甲腸而乾者、今通稱串鰒焉」とあり。

庸。白木韓櫃十二合。自餘輸米。

中男作物。紙。黄蘗三百斤。鶏甲十二枚。苫。胡麻子。閇彌油。槾椒油。胡麻油。短鰒。猪脯。久惠膓。鰒腸漬。鮨鰒。鮨年魚。

煮鹽年魚。雜魚鮨。海藻。鹿角菜。凝海菜。

讃岐國。行程。上十二日。下六日。海路十二日。

調。兩面五疋。二窠綾十二疋。七窠綾。小鸚鵡綾。各八疋。薔薇綾四疋。三窠綾五疋。白絹十疋。緋帛。縹帛。各卅疋。陶瓫十二口。水瓫十二口。瓫八口。壺十二合。大瓶六口。有柄大瓶十二口。有柄中瓶八十五口。有柄小瓶卅口。鉢六十口。撓卅合。麻笥盤五十口。大盤十二合。大高盤十二口。椀下盤卅口。椀三百卅口。韲坏一百口。大筥坏三百卅口。小筥坏一千口。自餘輸絹。鹽。（阿野郡輸熬鹽。）

庸。白木韓櫃廿合。自餘輸米。

中男作物。黄蘗百五十斤。紙。胡麻油。乾鮹。鯛楚割。大鰯。鮨。鮹。海藻。

伊豫國。行程。上十六日。下八日。海路十四日。

調。兩面五疋。九點綾二疋。二窠綾。三窠綾各六疋。小鸚鵡綾二疋。七窠綾八疋。薔薇綾四疋。「緋四疋」緋帛卅五疋。縹帛十疋。皀帛五疋。白絹十疋。長鰒卅六斤。短鰒三百卅斤。自餘輸帛。絹。鹽。

庸。白木韓櫃廿八合。自餘輸米。

中男作物。黄蘗百五十斤。紙。胡麻油。鮨。短鰒。鮨鰒。煮鹽年魚。貽貝鮨。鯖。海藻根。海藻。雜海菜。

土佐國。行程。上卅五日。下十八日。海路廿五日。

調。緋帛卅疋。縹帛十五疋。堅魚八百五十五斤。自餘輸絹。

〔閇彌油〕和名抄「椙・倍美」とあり、今丹波にて、へみのきといふ、又和訓栞増補語林に「へみ、本草莢迷、今がますみと云ふ、八雲御抄、ねりそ草木など云ふかつらのやうなる物也、本也、」とありて、式の主計式の中男作物閇美油、及びこの阿波國中男作物閇彌油を例載せり。

〔阿野郡〕和名抄に「新居、山田、羽床、甲知、鴨部、氏部、山本、林田松山」の八郷名を載す、鶏足郡を合して今綾歌郡とす。

〔「緋四疋」〕衍字也貞本なし。

〔貽貝鮨〕貽貝は和名抄に「貽貝、一名黑貝和名、伊加比」とあり。

庸。白木韓櫃十四合。自餘輸二綿、米一。

中男作物。鼈甲十枚、紙、胡麻油。堅魚、雜魚腊、煮鹽年魚、鮨。

西海道。

太宰府。行程。上廿七日。下十四日。海路卅日。

筑前國。去レ府行程一日。

調。絲卅九絢、貲布卅五端、綿紬五疋、席三百六十三枚。大甕九口。小甕百九十五口。缶一百九十五口。麻笥盤五十六口。水椀三百廿口。海石榴油一斛四斗六升四合。御取鰒二百六十斤。羽割鰒六斤。葛貫鰒一百八斤。蔭鰒一百卅五斤。鞭鰒廿四斤。腐耳鰒一百八十二斤。醬鮒一百廿八斤。鮨鮒二百八斤。海藻三百六十八斤二兩。自餘輸二絹、布。鍬、鐵、短鰒、薄鰒、鮨鰒、火焼鰒、鹽一。

庸。煞海鼠八百廿八斤。鹽三石九斗七升五合。自餘輸二綿、布、鐵、米、鹽、薄鰒、火焼鰒、雜魚腊一。

中男作物。木綿、穀皮、麻、席、防壁、蒲薦、韓薦、苫、簀、漆、胡麻油、海石榴油。荏油。鹿脯。鹿鮨。押年魚、烏賊、鯛腊、雜魚楚割、腐耳鰒、鮨腸、腸漬鰒、鮨鮒、醬鮒、醬漬年魚、海藻。

筑後國。行程一日。

調。綿紬十八疋、貲布卅二端。自餘輸二絹、絲、綿、布一。

庸。輸二綿、米一。

中男作物。穀皮。席。防壁、苫薦、蒲薦、簀、漆、胡麻油。海石榴油。荏油、椶椒油、醬鮒、雜魚楚割。雜腊、押年魚、煮鹽年魚、鮨年魚、漬鹽年魚、鮨鮒。

〔去レ府〕太宰府を去るの意也。

西海道

〔海石榴油〕椿油也、海石榴は、萬葉集に「ツバイ」と訓めり、和名抄に「椿和名、豆波木」とある「ツバキ」の音便也。

〔鞭鰒〕本朝食鑑に「鞭者、鞭レ之以作レ軟也」とあり。

〔防壁〕五四二頁頭注見よ。

〔羽割鰒〕本朝食鑑に、羽割者割ニ開一片ニ連ニ續一片一而披レ之、則如レ振ニ蝶之羽一也、とあり、乾鮑の一種也。

〔雜〕雲本に據りてこれを補ふ。

〔蔭鰒〕蔭乾にせる鮑也。

〔葛貫鰒〕葛を以て貫ける乾鮑也、本朝食鑑に、縄貫葛貫者用ニ草縄葛蔓一而貫レ之也、と見えたり。

肥前國。行程。上二日。下一日。

調。綿紬十八疋。貲布廿六端。御取鰒三百六十四斤。短鰒五百卅四斤。長鰒廿四斤。羽割鰒廿四斤。熬海鼠三百一斤十四兩。鹽卅五斛。自餘輸ニ絹。絲。綿。席。薄鰒一。

庸。輸ニ綿。米。薄鰒一。

中男作物。麥皮。葉薦。苫。防壁。韓薦。蒲薦。折薦。簀。胡麻油。荏油。鮨鰒。腸漬鰒。

肥後國。行程。上三日。下一日半。

調。絹二千五百九十三疋。綿紬廿五疋。貲布卅七端。布一百廿端。甁羅鰒卅九斤。熬海鼠二百卅二斤十四兩。鯛腊三百卅二斤八兩。乾鮹一百六十六斤十三兩。雜魚腊四百三斤。自餘輸ニ綿。絲一。

庸布八十端。自餘輸ニ綿米一。

中男作物。木綿。麻。熟麻。席。韓薦。蒲薦。防壁。折薦。苫。簀。黑葛。胡麻油。海石榴油。荏油。鹿脯。押年魚。鮫楚割。鳥腊。煮鹽年魚。鮨年魚。漬鹽年魚。破鹽。

豐前國。行程。上二日。下一日。

調。綿紬十七疋。自餘輸ニ絹。綿。絲。貲布。烏賊。雜魚楚割一。

庸。輸ニ綿。米一。

中男作物。防壁。韓薦。折薦。黑葛。黄蘗皮。海石榴油。胡麻油。荏油。烏賊。[雜]魚楚割。鹿鮨。猪鮨。漬鹽年魚。鮨年魚。

豐後國。行程。上四日。下二日。

調。絲卌八絇。綿紬十七疋。貲布廿端。御取鰒五十二斤。短鰒七十二斤。蔭鰒卅斤。羽割鰒十二斤。葛貫鰒十二斤。

耽羅鰒十八斤、堅魚卅四斤十四兩、小凹席廿張、自餘輸絹、綿、布、薄鰒。
庸、輸綿布、米、薄鰒。
中男作物、熟麻、穀皮、黑葛、漆、椶櫚油、海石榴油、胡麻油、荏油、鹿脯、押年魚、堅魚、雜魚腊、魚鮨、鮨年魚、煮鹽年魚、

日向國。行程。上十二日。下六日。

調。絲十八絇、自餘輸綿、布、薄鰒、堅魚。
庸。輸綿、布、薄鰒。
中男作物。麥紙、麻、熟麻、茜、胡麻子。

大隅國。行程。上十二日。下六日。

調。綿。布。
庸。綿。布。
中男作物。紙。

薩摩國。行程。上十二日。下六日。

調。鹽一斛三斗、自餘輸綿。布。
庸。綿。紙。席。
中男作物。紙。

壹岐島。海路行程三日。

調。大豆廿三斛。小豆十一斛。小麥廿斛一斗。自餘輸海石榴油。薄鰒。

（薄鰒）薄く切りて作れる乾鮑也、本朝食鑑に、薄者生時薄切而暴乾也、とあり。

（椶櫚油）賦役令に曼椒油とあり、同物なるべし、曼椒は犬蓼也。

（麥紙）麻皮紙ならむと云ふ、和名抄に麥の薄紙とあるも同じ。

〔銀〕日本紀天武紀三年の條に、三月庚戌朔丙辰、對馬國司守忍海造大國言、銀始出ニ于當國一、卽貢上、云々、凡銀在ニ倭國一、初出ニ于此時一、とあり、對馬は爾來銀の産地として名高かりき。

對馬島 海路行程四日。

調銀。

延喜式卷第二十四

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十五

主計下

凡勘大帳者。皆據去年帳勘其出入。但死亡篤癈殘疾服侍隱首括出。幷中男鄕戶課丁等色。計會別簿。其依苻入課。及雜色等類勘合省苻。若違苻過免。幷可進而不進者。並即勘出徵其課役。次計會去年大帳後死帳與今年死亡帳。若名在後死帳不載死亡帳者。亦勘出之。次勘神寺諸家封戶。幷應定納官人數及賦物。即勘抄損益惣目。明年正月一日申省。訖勘造應給返抄之狀送主稅寮。即勘出擧帳之狀。便錄主計狀尾。官人署名返送。訖即申省。其依苻所免爲苻損。八位蔭子。四位孫。大舍人。三宮舍人。諸司史生。事業。藥生。歌儛。琴鼓吹生。諸司雜部。番上工。左右近衞。兵衞。門部。主政帳。軍毅。帶刀帳內資人。神主。禰宜。祝部。陵戶。大宰廚戶。吉野國栖。得度。並爲不課。朝集稅帳雜掌。衞士。仕丁。事力。軍士。鎭兵。采女守廬。採蘿。復人。流人。徒人。美濃國坂本驛戶。信濃國阿知驛戶。太宰陸奧漏刻守辰丁。爲見不輸。初位位子。學生。典藥生。價長。坊鄕牧長帳。驛長。驛子。烽長。渡子。兵士。爲半輸之類。其遷就幾內不復。依苻所進爲苻益。苻損等人依苻還本之類。依議所免爲議損。多男父全免之類。逃亡滿六年除帳。「依例所損以爲例損」依議所進爲議益。議損等人還課。及放賤從良之類。依例所損以爲例損。死亡篤癈疾。老丁殘。中男殘全免。正丁老丁調庸各半。正丁殘調半。服侍逃亡半輸之類。依例所進以爲例益。中男進正丁。小子進中男。隱首括出之類。

凡勘大帳損益者。皆須相折損進。檢其損益。其調丁有益。而庸丁有損者。調丁一人以補庸丁二人。中男補損一如令條也。若損進同數無所增益者。即申官省返却其帳。但通計數年有益無損者聽之。假令二年有益廿人。三年有損十人相准元年有益無損之類。

凡諸國大帳課丁之數有損者。隨即返帳。若使等可塡之狀申官。被下外題。注載返抄後年令塡。

〔大帳〕計帳に同じ（五七三頁「勘大帳」參照）。

〔封戶〕皇室又は諸王諸臣の勳功位階職分ある者に賜はれる戶口也。

〔蔭子〕五一七頁頭註を見よ。

〔三宮舍人〕三宮に仕ふる舍人也、三宮とは太皇太后宮皇太后宮、皇后宮を申す。

〔位子〕五一七頁頭註を見よ。

〔依例云々〕以下八字衍字なるべし。

〔括出〕戸籍に無き名を官司の見出すを云ふ、令集解に、謂ニ籍帳无レ名、而官司勘出者一、とあり、隱首（五七六頁參照）と共にこれを隱首括出帳に記し、調庸帳に附して上す。

〔調庸帳〕又た調帳と云ふ、五一二頁頭註參照すべし

〔朝集帳〕國內の池溝、官舍、國衙の器仗、驛傳馬、神社、僧尼の事を記せる帳簿也。

〔四度公文〕大帳、正稅帳、調庸帳、朝集帳を云ふ。

〔雜掌〕一本雜色に作る。

陵戸帳

賀茂絹縑

秣新米大豆

凡隱首括出一色。先補例損。所餘爲功。假令大帳注年中死二千廿人。隱首二千廿一人。相折損進只置例益一人。而至進調帳注後死六百十一人。率彼年中死。無有勘出。仍補損之餘爲功口。

凡諸國所申戸口增益。不得以不課爲功。

凡諸國申損田年損戸得戸課丁。彼此同率。例損戸亦准此。

凡諸國大帳後死與年中死相准。其數若過者徵其調庸。假令近國貢調限十月卅日以前。然則所謂帳後者。七八九三箇月也。行程日數在九月內。其中年中死一百廿人。分充十二月。月別各十人。准後死月。可有卅人。而今有卅一人。所徵一人。仍徵調庸之類。

凡勘調庸帳者。皆據大帳人數。若大帳之後。更有出入。依實勘之。卽除神寺諸家封戸。據應定納官物。卽造損益帳二通。一通留寮。一通下國。

凡太宰管內。筑前筑後肥前肥後豐前豐後等六箇國大帳調帳者。准稅帳令當國雜掌勘申。卽附雜掌。收大帳返抄并調帳損益等。朝集帳及自餘國島四度公文。令府雜掌勘之。

凡調庸雜物納官訖。卽與使國司共勘會。收帳及神寺諸家封物返抄。訖具錄事狀送主稅寮。卽據勘租帳。便錄狀尾。返送主計郞中省。

凡諸國調庸年新雜物有未進者。每年勘錄申送省。當年調庸明年四月內。雜物及舊年調庸六月內錄申。

凡左京五畿內。伊勢近江紀伊淡路等職國陵戸帳。諸陵寮勘畢後。待彼寮移收大帳返抄。

凡大和國交易所進齋院。四月賀茂祭料。絁絹十五疋。河內國白縑卌疋。每年二月送之。其直用正稅。並以彼院返抄勘會抄帳。

凡左馬寮秣料米。近江國百五十斛。備前國大豆八十斛。右馬寮料。播磨國米百五十斛。阿波國大豆八十斛。並以

彼寮請文勘會抄帳。

凡左右馬寮牧田地子、除例用遺、國司交易輕物所送、以彼寮返抄勘會抄帳。

凡諸國所進修理職交易檜皮幷瓦粉魚鹽海藻等、待彼職日收勘會抄帳。

凡諸國進納齋宮寮調庸雜物者、待彼寮移返抄勘會抄帳。

凡造酒司年中用途雜器者、先令進官、即加外題下勘於寮。若因精好、忘稱無庸者、移式部省、五位奪位祿、六位留季祿。

凡出納官物諸司、每日給百度食、所司惣計百度之精一度請受供給、寮隨日用、且與返抄、用盡之日、本司惣錄途送寮等勘會訖、即官人相署返送本司、更令申請。

凡給義倉穀者、一位五斛、二位四斛、三位三斛、四位二斛、內五位一斛、外五位五斗。上上戶二斛、上中戶一斛六斗、上下戶一斛二斗、中上戶一斛、中中戶八斗。其帳奉寮即更造帳一通、一通申省、一通留寮。若有損去年返却其帳、若實應給者國司無量貧乏人別准給一斛已下一斗已上、惣所給用不得過二年所輸數。若應過此數、即言上聽裁。

凡諸國申損田年損戶、三分論之、七分已上戶一分已下、五分已上戶二分已下、以爲定例。若過此限者、執申返帳。

凡諸國所申疫死幷流死者、先計其數、准平年死、割流疫二死丁。加例損數相折損進帳。

凡諸國言上疫死幷流死人數者、惣計國所申、三分論之、課口一分已下、不課二分已上、以爲定例。若過此法者。執申返帳。

牧田地子

〔抄帳〕領收券に合契せし帳を云ふ、今云ふ元帳の類也

檜皮瓦析

齋宮調庸雜物

造酒司用帳

〔外題〕下より奉れる解狀の端に書したる裁決文を云ふ。

諸司百度

義倉

〔返抄〕後世の請取書に同じ。

〔筭師〕算師也、主計寮の役人にして專ら計算の事を管掌す。

申損

疫死

〔疫死〕流行病にて死せるを云ふ。

〔流死〕水難にて死せるを云ふ。

〔鑄錢司〕貨幣の鑄造、改鑄を掌る臨時の官也。

〔綱丁〕調庸等の物を運ぶ人夫の長を云ふ。

〔調〕衍字なるべし。

〔官宣〕太政官より其の被管の諸司又は寺社等に下せる公文書也、太政官符、太政官牒に代れる簡易の手續也。

綿絹　凡諸國貢調綿絹郡司入京之日，被率使國司參集，

塡納　凡去年勘出調庸物，令當年使咸皆塡納，即收返抄。

調帳損益　凡調帳損益帳者，先令貢調使進納調庸雜物十分之九。然後待主稅寮租帳勘畢移，署印下國，以爲憑准。造二通。一通留寮。

調錢帳　凡京職調傜錢用度帳，待從官下勘會。已訖乃申返抄。

凡畿內諸國所進調錢，勘定調帳之日，具錄錢數移送穀倉院令納。其收文待從官下勘會。

鑄錢　凡鑄錢年新銅鉛者，備中長門豐前等國每年採送鑄錢司，即以司返抄勘會調庸抄帳。銅鉛數見主稅式。

凡鑄錢司所進年新錢，隨所進數，且附綱丁收收文，至十年終令進惣帳。勘會已訖乃與返抄。

勅旨交易　凡諸國所進勅旨交易雜物，使等取內藏寮返抄。不經省直勘會。

桑漆　凡桑漆帳，率戶數。有闕者，其帳令補塡。

帳除　凡大帳六年一除。調庸死亡條因隱首季帳。及調諸司返上等帳者，三年一除。雜任帳者一年一除。

失文　凡諸國貢調幷雜物綱丁等，若失諸司收文，有申官者，官先令所司勘之，即加外題，經省下寮，更寫前收文，具注其由。允屬共署，捺寮印與之。

勘公文　凡勘公文附人之物，得多數，假令至勘大帳隱首括出損疾等丁之類，或大帳多數，名帳少數。則依大帳以爲定數。或大帳少數，名帳多數。猶依名帳勘付之類也。除免之物從少數。大帳後死損戶丁等之類、或大帳多數。名帳少數。此依並據此例勘申雜簿。名帳。或大帳少數、名帳多數。依大帳勘除之類、

人物數　凡京畿內諸道惣七十國，人物之惣數，自非有勅，輙不勘申。但十國已下，依官宣勘之。

大帳　某國司解申預計某年大帳事

〔郷〕郡の下に在りて村を統ぶるもの也、もと里と云ひしが、條里の里と混ずる故これを改めし由、條里圖帳考に見えたり、元明天皇和銅六年の詔に、郡郷と見え、出雲風土記に、依ニ霊龜元年式一改レ里爲レ郷、とあれば此の頃改めしものなるべし。

〔驛長〕驛の長にして驛馬驛船の事を掌る、令に、凡驛各置ニ長一人一、取ニ驛戸內家口富幹レ事者一爲レ之、と見えたり。

〔烽長〕各地の要所に置ける烽（トブヒ）を統べたる者也、國司より部內にて家口富める者を任す、定員二人、三年每に代替す、烽は變事の起りたる時知らす爲めにおきし也。

國府在ニ某郡一。去レ京若干里

合管郡若干郷若干

合管戸若干欠ニ乗去年一若干

戸若干不課欠ニ乗去年一若干

戸若干八位已上

戸若干大舍人

戸若干伴部

戸若干使部更有ニ餘色一准レ此。各爲ニ一項一。

戸若干耆老

戸若干篤疾

戸若干小子

戸若干寡婦

戸若干課欠ニ乗去年一若干

戸若干不合差科

戸若干驛長

戸若干烽長

戸若干衞士

戸若干仕丁（更有ニ條色一准レ此、各爲ニ一項一）

戸若干合差科

管口若干欠ニ乘去年一若干

口若干不課ニ欠乘去年一若干

口若干課欠ニ乘去年一若干

口若干見不輸

口若干見輸

口若干半輸

口若干全輸

某郡在ニ國東一去ニ國府一若干里

管郷若干

合今年管戸若干欠ニ乘去年一若干

戸若干不課欠ニ乘去年一若干

戸若干課欠ニ乘去年一若干

合今年管口若干欠ニ乘去年一若干

戸若干不課欠ニ乘去年一若干

戸若干欠ニ乘去年一若干

〔見不輸〕或る期限中課役を免ぜらるるを云ふ。衛士、仕丁、事力、徒人、在役中の者の如きこれ也。

〔見輸〕見不輸に對し現在課役するを云ふ。

〔半輸〕調を輸して徭役を免ぜらるゝを云ふ。健兒、兵士、郷長、侍人、遣喪、中男老丁以外の殘疾これに屬す。

〔全輸〕調庸雜徭を盡く輸するを云ふ通常の正丁、次丁これ也。

去年計帳定戶若干、
戶若干不課
戶若干帳後除
戶若干死絶
戶若干配流
戶若干移郷
戶若干去狹就寛
戶若干帳後入課
戶若干進丁
戶若干損疾入丁
戶若干八位除名
戶若干見在
戶若干課
戶若干帳後除
戶若干死絶
戶若干割附二某國一
戶若干從貫合貫

〔移郷〕人を殺して死刑に處せらるべき者赦に會ひて罪を免されし場合、これを他國に移して戶を成さしむるを云ふ、死家の父子親族等の復讐を慮りて也。

〔去狹就寛〕狹郷を去りて寛郷に遷るを云ふ、田令に、凡國郡界內、所部受田、悉足者爲二寛郷一、不足者爲二狹郷一とあり。

〔合貫〕籍を合するをいふ。

〔篤疾〕戸令に、惡疾、癲狂、二支癈、兩目盲、如レ此之類皆爲ニ篤疾ーとあり惡疾は癩病也。

〔癈疾〕戸令に、癡瘂、侏儒、腰背折、一支癈、如レ此之類、皆爲ニ癈疾ーとあり、集解に、謂、瘖疾也、癈ニ於人ー、故曰ニ癈疾ーと見ゆ、心身に故障あるも、篤疾より其度輕きものとす。

戸若干配流
戸若干帳後入不課
戸若干新老
戸若干新篤疾
戸若干帳內
戸若干新寡妻
戸若干見在
去年帳後已來新附戸若干
戸若干不課
　戸若干隱首附口舊
　戸若干新老口舊
　戸若干新篤疾口舊
　戸若干新癈疾口舊
　戸若干奴婢主放賤良口舊
　戸若干妻妾弃放別立爲戸口舊
戸若干課
　戸若干隱首附口舊

戶若干括首附口舊

戶若干進丁口舊

戶若干某國某郡割來口新

戶若干寡妻戶內割得課丁口舊

戶若干某國某郡割來口新

戶若干乘總口舊

都合今年計帳新舊定見戶若干欠二乘去年一若干

戶若干不課

戶若干舊

戶若干新

戶若干八位已上

戶若干大舍人

戶若干作部

戶若干使部

戶若干帳內

戶若干資人

戶若干耆老

〔使部〕太政官、八省、寮、司、職、台、坊以下の諸官にて駈使せらるゝ卑職也、六位以下八位以上の子息の年二十以上なるを選びて、上中下の三等に分ち、上を大舍人、中を兵衞、下を使部となす例なり。

〔資人〕朝廷より在京の諸臣に賜へる舍人を云ふ、位分資人、職分資人の二あり、位分資人とは位階ある人に賜はれるものにして、一位は百人、以下從五位迄各差等あり、職分資人とは高官者に賜へるものにして、太政大臣三百人、左右大臣二百人、大納言百人となす。

〔計帳〕又た大計帳大帳と云ふ、一國内所管の戸口、課不課の戸口、見不輸、見輸、半輸、全輸並に其の年所の調庸雜物等の數を記せる帳簿也。

〔伴部〕臣連以外の姓を帶し、伴雄を率ひて朝廷に仕ふる京官を汎稱す、即ち伴造に同じ、賦役令の集解に、伴部、謂諸司友御造也、とあり。

戸若干小子年十七若干 年十六若干

戸若干寡婦

戸若干課

戸若干舊

戸若干新

去年計帳定口若干

口若干不課

口若干死亡

口若干割附某國

口若干還本土

口若干女出嫁某國

口若干奴婢割附某國

口若干入課

口若干見在

口若干男

口若干八位已上

口若干伴部

口若干帳內
口若干耆老
口若干小子年十七若干 年十六若干
口若干篤疾
口若干癈[疾]
口若干放賤從良
口若干女
口若干妻妾
口若干寡婦
口若干奴
口若干婢
口若干課
口若干死亡
口若干割付二某國一
口若干移鄕
口若干配流
口若干入不課

（癈疾）諸本に據りて疾字を補ふ。

（放賤從良）奴婢、などの賤民を良民となし戸貫に附するを云ふ。戸令に、凡官奴婢、年六十六以上、及癈疾、若被二配沒一令レ爲レ戸者、並爲二官戸一、至二年七十六以上一、並放爲レ良、云々、反逆緣坐、八十以上、亦聽レ從レ良、凡放二家人奴婢一爲二良及家人一者、仍經二本屬一、申牒除附、云々、凡官戸、家人、公私奴婢、被二抄略一沒二在外蕃一、自拔得還者、皆放爲レ良、云々、凡官戸、陵戸、家人、公私奴婢、與二良人一爲二夫妻一、所レ生男女、不レ知レ情者、從レ良、云々、と見えたり。

〔不課〕戸令に「戸内有ニ課口一者、爲ニ課戸一、無ニ課口一者、爲ニ不課戸一、不課、謂皇親、及八位以上、男年十六以下、并蔭子、耆、癈疾、篤疾、妻妾女、家人、奴婢」とあり。

〔耆老〕禮記曲禮篇に、「六十曰レ耆指使」、「七十曰レ老而傳」とあり、又た釋名に、「六十曰レ耆、耆指也、不レ從ニ力役一、指レ事使レ人也」と見ゆ、我國にても令には耆と老とを分ち、「六十一爲レ老、六十六爲レ耆」とせしが、天平寶字二年これを改め、六十歲を老丁と稱し六十五歲を以て耆老と稱す。

口若干伴部
口若干使部
口若干帳內
口若干新老
口若干新篤疾
口若干新癈疾
口若干見在
口若干見不輸
口若干見輸
口若干半輸
口若干全輸
去年帳後以來新附口若干
口若干不課
口若干男
口若干八位已上
口若干耆老
口若干小子 年十七若干 年十六若干

〔隱首〕戸籍の上に名のなき者、自から來りて白すを云ふ、考課令の集解に、謂ニ无名之民自來而首一也、と見えたり。

〔秋季附不輸〕秋季雜任を解かれしものゝ課役を免ぜらるゝを云ふ、賦役令に、凡春季附者、課役並徵、夏季附者、免レ課從レ役、秋季以後附者、課役俱免、とあり、集解に、穴云、附謂下除ニ本司名一附中本國帳上とあり。

口若干篤疾
口若干癈疾
口若干隱首附
　姓名年若干
口若干括首附
　姓名年若干某郡某鄉勘當某官位姓名。下皆准レ此。
口若干女
口若干妻妾
口若干寡婦
口若干隱首附
　姓名年若干
口若干括首附
　姓名年若干
口若干奴
口若干婢
口若干課
口若干秋季附不輸

〔内外初位長上〕内外とは内官と外官と也、内官とは在朝の官をいひ、外官とは地方官をいふ、初位とは從八位下の次の位階にて、大初位、小初位に分れ、之れが各上下に分る、長上とは毎日奉職して官衙に勤むる者をいふ。

〔主政寮〕四二八頁頭註を見よ。

〔大小毅〕四三一頁頭註「軍毅」を見よ。

口若干半輪
口若干全輪
口若干隱首附
　姓名年若干
口若干括首附
　姓名年若干
都合今年計帳定見良賤大小口若干欠ニ乘去年ー若干
口若干不課
口若干舊
口若干新
口若干男
口若干內外初位長上
口若干主政帳
口若干大小毅
口若干八位已上
口若干三宮舍人
口若干藥生

口若干諸司新部番上
口若干左右近衛
口若干帳内
口若干資人
口若干耆老
口若干篤疾
口若干小子
口若干放賤從良
口若干女
口若干妻妾
口若干寡婦
口若干奴
口若干婢
口若干課
口若干舊
口若干新
口若干見不輸

〔新部番上〕新は或は雑の誤りなるべし、番は京本に已に作る、諸本皆之れと同じ。

〔帳内〕舎人の異稱にて、王朝時代天皇又は皇子等の左右に近侍して雑役な勤仕するものをいふ。

〔口若干奴、口若干婢〕この二行出雲本に據りて補へり。

〔見不輸〕五六九頁參照すべし。

〔仕丁〕また使丁、厮丁に作る、召使ないふ、波炊、火焚等雜役に使はるゝ凡卑の者也、また「ツカヘノヨボロ」と讀む、主殿寮に屬して禁中を掃除し、或は庭火を焚く等の雜役を掌る、又親王、大臣家、諸寺院にも皆之を置けり。

〔衛士〕五一五頁頭註を見よ、

〔正丁〕令制に「廿一爲丁」とあり、天平勝寶九年より、二十二歲以上の者を云へり。

〔次丁〕老丁と殘疾とをいふ、老丁とは、六十歲以上をいふ。

口若干徒人在役
口若干仕丁
口若干衛士
口若干使蕃
若干放賤從良
口若干去狹就寬
口若干歸化
口若干見輸
口若干封
口若干半輸若干正丁 若干次丁 若干中男
口若干鄉長
口若干正丁
口若干次丁
口若干遭喪
口若干正丁
口若干次丁
口若干中男

〔兵士〕持統天皇三年八月、諸國司に詔したる内に「其兵士者、毎ニ於一國ニ四分、而點ニ其一ニ令レ習ニ武事ニ」と見え、大寶令に據れば二十歳以上六十歳以下の正丁の三分の一を徵する事に改められたり。

〔牧長〕廐牧令に「凡在レ牧駒犢至ニ二歳ニ者、毎年九月、國司共ニ牧長ニ對以ニ官字印ニ印ニ左髀上ニ」と見ゆ諸國牧の長をいふ、御牧の牧監に相當するもの也。

〔牧子〕御牧、諸國牧、近都牧などの下司をいふ。

口若干侍人
口若干正丁
口若干次丁
口若干中男
口若干兵士
口若干中男
口若干全輸
口若干正丁
口若干次丁
口若干官
口若干半輸若干正丁　若干中男　若干次丁
口若干牧長
口若干正丁
口若干次丁
口若干牧子
口若干正丁
口若干次丁

〔驛子〕驛馬を取扱ふ驛夫をいふ、また驛丁とも稱す、驛長に屬する也、令義解公式令に「謂驛子騎ニ馬爲ニ先行一者」と見えたり。

〔鄕長〕王朝時代に於て一鄕を管するもの、即ち其の鄕の長也、鄕內の戸口を檢校し、農業を課殖し、非道を禁察し、賦役を催促することを司る、又た鄕司ともいひ「さとをさ」とも訓す、令制には里長とあり、鄕長は徭役を免じ、半輸租なりき。

口若干驛子

口若干正丁

口若干次丁

口若干中男

口若干遭喪

口若干正丁

口若干次丁

口若干中男

口若干侍人

口若干正丁

口若干次丁

口若干中男

口若干鄕長

口若干正丁

口若干次丁

口若干兵士

口若干中男

口若干[illegible]

口若干正丁

口若干次丁

部合今年計帳調絹絁布若干疋端、庸布若干段、其物若干斤

以前去年大帳依例勘造、具状如前、仍錄事状、附某位姓名申上謹解

〔一〕日本書紀に「孝德天皇大化二年正月甲子朔、賀正禮畢、即宣改新之詔曰」云々、其四曰、凡絹絁糸綿、並隨鄕土所出、田一町絹一丈、四町成疋、長四丈、廣二尺半、絁二丈、二町成疋、長廣同絹、布四丈、長廣同絹絁、一町成端」と見えたり。

延喜式卷第二十五

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位下行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十六

主稅上

〔寺田〕寺院の所領田をいふ、官より口地を寄せ、或は王臣より其私墾地若くは功田を捨入して、其收穫を以て寺用に供せしむる也。

〔布薩戒本田〕布薩戒を授受するの費用に充つる田地をいふ、布薩とは、身口意を清淨にして如法に住し、戒を修業するをいふ。

〔放生田〕放生のために諸國に充て置く所の田をいふ、不輸租田也。

〔勅旨田〕勅旨を以て官開地荒廢地等を開墾したる田地をいふ。

勘稅帳

凡勘稅帳者、先據去年帳勘會今年帳、次計會出擧租地子驛傳馬池溝救急公廨考俸在路飢病、及倉附等帳、次亦待神祇兵部主計玄蕃左右馬等官省寮移、然後返抄送省、若當年勘出物、大國滿一萬束、上國八千束、中國六千束、下國四千束、卽返帳。但造損益帳一通留寮、仍錄返由申省、其未納幷交替闕、及去年勘出物未塡者、雖見束把亦猶返帳、唯當年勘出不滿差數、卽顯勘出不須返帳。

勘租帳

凡勘租帳者、皆據當年帳、卽通計國內、十分以七分已上爲定、若有不堪佃者、聽除十分之一、如過此限者、各申官聽裁。其神田寺田布薩戒本田放生田勅旨田公廨田御巫田采女田射田健兒田學校田諸衞射田左右馬寮田飼戶田賙急田勸學田典藥寮田節婦田易田織寫戶田膂力婦田惸獨田船瀨功德田造船瀨料田、並爲不輸租田。其位田職田國造田采女田膂力婦女田賜田等、未授之間、及遙授國司公廨田沒官田出家得度田逃亡除帳口分田乘田、並爲輸地子田、自餘皆爲輸租田。

輸地子不輸租

凡大和國平城京內閑廢私地者、爲輸租田。

凡諸國中、過分不堪佃田年租者、納官封家一同割充之。

諸國本稻

諸國出擧正稅公廨雜稻。

山城國正稅公廨各十五万束、國分寺料一万五千束、嘉祥寺料一千七百卅六束四把、海印寺料二千束、元慶寺料

一千束。圓覺寺新一千束。東光寺新一千束。文殊會新二千束。修理驛家新一千束。池溝新三万束、救急新六万束。
交易,窮直八千三百卅三束三分也。
大和國正稅公廨各廿万束。國分寺新一万束。豐山寺新二千四百束、壺坂寺新三千束。松尾寺新二千八百束、靈安寺新四千束、八島寺新一万束。子嶋寺新四百束。文殊會新二千束。修理官舍新二万束、池溝新四万束、救急新六万束。
河內國正稅公廨各十四万九千四百七十七束。國分寺新一万束。文殊會新二千束。修理池溝新二万束。堤防新一万束。救急新六万束。
和泉國正稅公廨各八万束。國分寺新五千束。文殊會新一千束、卷尾寺觀音堂新五百束。勅旨庄御佃一千束。修理官舍新一万束。池溝新二万束。救急新三万束。
攝津國正稅公廨各十八万五千束。國分寺新一万五千束。大日寺新五千束。修理池溝新三万束。救急新六万束。
伊賀國正稅公廨各十三万五千束國分寺新五千束、文殊會新一千束。修理池溝新一万束、堰河防新一千束。救急新三万束。
伊勢國正稅公廨各卅万束。國分寺新四万束。修理志摩國國分寺新三千束、文殊會新二千束。修理池溝新四万束、救急新四万束、俘囚新一千束。
志摩國正稅穀一千二百斛。救急新五百斛。
尾張國正稅公廨各廿万束。國分寺新二万束。文殊會新二千束。修理池溝新二万束。救急新二万束。
參河國正稅公廨各廿万束、國分寺新二万束。修理志摩國分寺新三千束。文殊會新二千束、修理池溝新二万束。
救急新二万二千束。

〔圓覺寺〕山城國愛宕郡鳥居小路西二條、今は葛野郡水尾村に在り、初め粟田院と稱し、藤原良相の山莊なりしが、元慶二年清和天皇此所に御し遂に出家せられてより圓覺寺と名づく。
〔大和國分寺〕奈良の東大寺をいふ。
〔壺坂寺〕南法華寺と號す、高取町大字坪坂村の南方壺坂山にあるを以て俗に其名を稱ふ。
〔松尾寺〕補陀洛山と號す、生駒郡矢田村字山田に在り養老二年僧永業の創建する所たり。
〔修理志摩國云々〕以下二千束迄、林、京、貞の三本に據りて補へり。

遠江國正稅公廨各卅八万束。國分寺料三万束。大安寺料四万九千束。文殊會料二千束。修理池溝料三万束。救急料六万束。俘料二万六千八百束。白羽官牧馬直四千四百六十束。藥分料一万束。

駿河國正稅卅三万束。公廨卅五万束。國分寺料二万束。大安寺料四万一千束。藥師寺料八千束。文殊會料二千束。修理池溝料三万束。救急料六万束。俘囚料二百束。官牧牛直一千三百卌四束。

伊豆國正稅公廨各六万五千束。三島神料二千束。國分寺料一万束。大安寺料二千束。禪院料一千束。國分二寺供養料一万束。三神寺料二千束。文殊會料一千束。修理池溝料一万束。救急料一万束。

甲斐國正稅公廨各廿四万束。國分寺料二万束。大安寺料一万二千束。文殊會料二千束。堤防料二万束。救急料八百束。俘囚料五万束。

相摸國正稅公廨各卌万束。國分寺料四万束。大安寺料二万六千九百束。文殊會料二千束。藥分料一万束。鎮守府公廨五万四千卌七束。修理池溝料二万束。救急料七万一千束。俘囚料二万八千六百束。官牧馬牛直五千五百八十三束。

武藏國正稅公廨各卌万束。國分寺料五万束。藥師寺料四万二千束。梵釋四王料七千七百束。文殊會料二千束。藥分料一万束。修理池溝料四万束。救急料十二万束。悲田料四千五百束。俘囚料三万束。勅旨藥飼御馬秣料二千卅束。神埼牧牛直五千五百卌四束。

安房國正稅公廨各十五万束。藥師寺料二万束。文殊會料一千束。安居僧供料一千束。修理池溝料二万束。

上總國正稅公廨各卌万束。國分寺料四万束。藥師寺料二万四千束。文殊會料二千束。藥分料一万束。修理池溝料四万束。救急料十二万束。俘囚料二万五千束。

〔大安寺〕大和國添上郡大安寺村字大安寺に在り、百濟大寺、大官大寺ともいふ、萬葉には「おほてら」とあり又た東大寺に對して南大寺とも稱す、聖德太子の創建に係り、舒明天皇の御宇、百濟大寺と號す。

〔藥師寺〕大和國生駒郡都跡村字六條砂村に在り、法相宗の本山にして、天武天皇の御宇の創建たり。

〔梵釋四王〕梵天と帝釋天と四王天とをいふ。

〔安居僧〕安居の行をなする僧也、安居とは僧徒が四月十六日より七月十六日に至る九十日の間安居禁足して修業するをいふ。

〔俘囚〕もと蝦夷人にて皇化に歸し、内地に住する者をいふ、單に夷とも亦夷俘とも稱す、江次第抄に「俘囚本是王民、而爲夷所略、遂成賤隷、故云俘囚、或云夷俘、其居在陸奧出羽、後分居諸國」と見えたり

〔淨福寺〕京都市上京區篠屋町に在り廿五大寺の一にて延曆年間一誓の建立する所たり。

〔學生〕少年の寺院に寓して外典を學習する者をいふ、寄歸傳に「凡諸白衣詣苾芻所、若專誦佛典、情希落髮、畢願緇衣、號爲童子、或求外典、無心出離、名曰學生」とあり。

下總國正稅公廨各卌万束。國分寺新五万束。藥師寺新三万五千束。文殊會新二千束。藥分新一万束。修理池溝新四万束。救急新七万束。俘囚新二万束。

常陸國正稅公廨各五十万束。國分寺新六万束。大安寺藥師寺新各五万束。文殊會新二千束。藥分新一万束。交易新卌二万束。大學寮新五万四千束。修理池溝新四万束。救急新六万束。俘囚新十万束。

近江國正稅公廨各卌万束。大學寮新一万束。國分寺新六万束。崇福寺修理新五千束。同寺傳法會一万束。梵釋寺新六百七十六束。國興寺修理新一千束。淨福寺新七千束。延曆寺定心院新二万束。西塔院新一万五千束。文殊會新二千束。造院新二万束。修理國府新四万束。勢多橋新一万束。池溝新四万束。救急新五万一千七百束。俘囚新十万五千束。

美濃國正稅公廨各卌万束。國分寺新四万束。藥師寺新二万七千束。延曆寺惣持院新四万束。同寺四王堂新四万束。文殊會新二千束。藥分新一万束。修理官舍新二万束。池溝新四万束。救急新二万束。俘囚新四万一千束。

飛驒國正稅公廨各四万束。國分寺新五千束。文殊會新一千束。救急新二万束。

信濃國正稅公廨各卌五万束。國分寺新四万束。興福寺新四万束。文殊會新二千束。修理池溝新三万束。救急新八万束。俘囚新三千束。

上野國正稅公廨各卌万束。國分寺新五万束。興福寺新三万束。文殊會新二千束。藥分新一万束。學生新一万束。修理池溝新四万束。救急新十二万束。俘囚新一万束。勅旨御馬秣新四千七百廿束。同繫飼御馬秣新五千九百束。古市牧牛直四千三百十五束。

下野國正稅公廨各卌万束。國分寺新四万束。興福寺新二万二千束。文殊會新二千束。修理池溝新三万束。救急新八万束。俘囚新十万束。

〔鹽竈神〕陸前國宮城郡鹽竈に祀る、祭神は健御雷神經津主命、鹽土老翁大神也。

〔月山大物忌神〕羽後國飽海郡吹浦村に月山神社として祭る、即ち稻倉魂神也、欽明天皇の二十五年に創建せらる

〔四天王修法僧〕四天王を本尊として災厄を拂ひ、福德を請ふ僧をいふ、この修法は西大寺に於て行はるゝを例とせり、四天王とは持國天、增長天、廣目天、多聞天也、

〔救急料〕凶荒に窮急する者を救ふための料也。

陸奥國正稅六十万三千束。公廨八十万三千七百十五束。國司料六十四万一千二百束。官料十六万二千五百十五束。鎭祭鹽竈神料一万束。國分寺料四万束。學生料四千束。文殊會料二千束。救急料十二万束。

出羽國正稅卅万束。公廨卅四万束。月山大物忌神祭料二千束。文殊會料二千束。神宮寺料一千束。五大尊常燈節供料五千三百束。四天王修法僧供養幷法服料一千六百八十束。健兒粮料五万八千四百十一束。修理官舍料十万束。池溝料三万束。救急料八万束。國學生食料一千束。

若狹國正稅公廨各九万束。國分寺料一万束。京法華寺料一万束。文殊會料一千束。修理池溝料一万束。救急料三万束。

越前國正稅公廨各卅万束。國分寺料二万束。京法華寺料二万束。文殊會料二千束。藥分料六千束。修理池溝料四万束。救急料十二万束。俘囚料一万束。

加賀國正稅公廨各卅万束。京法華寺料一万五千束。國分寺料二万束。文殊會料二千束。藥分料四千束。修理池溝料一万束。救急料三万束。俘囚料五千束。

能登國正稅公廨各十五万束。國分寺料五千束。京法華寺料一万束。文殊會料一千束。修理池溝料一万束。救急料六万束。

越中國正稅公廨各卅万束。大學寮料一万束。國分寺料三万束。京法華寺料二万五千束。文殊會料二千束。修理池溝料三万束。救急料十三万束。俘囚料一万三千四百卅三束。

越後國正稅公廨各卅三万束。國分寺料二万束。京法華寺料一万八千四百五十五束。西隆寺料一万束。神宮寺觀音院料四千束。文殊會料二千束。修理池溝料三万束。救急料八万束。俘囚料九千束。

佐渡國正稅三万八千束、公廨八万束、國分寺料一万束。同寺新造藥師佛燈分料五百束、文殊會料一千束、修理池溝料一万束。救急料三万束、俘囚料二千束。

丹波國正稅廿三万束、公廨廿五万束。國分寺料四万束、文殊會料二千束、圓成寺料一千束、鷄闌寺料一千束。修理池溝料三万束。救急料四万束。修理驛家料二万束。官舍料四万束。造院料一万束。

丹後國正稅公廨各十七万束、國分寺料二万束。文殊會料一千束。大學寮料八百束。修理池溝料一万束、救急料六万束。

但馬國正稅公廨各卅四万束。國分寺料二万束、文殊會料二千束、修理池溝料二万束。救急料一万八千束。

因幡國正稅公廨各卅万束、國分寺料三万束、文殊會料二千束。修理池溝三万束、救急料四万二千八百七十八束。俘囚料六千束。

伯耆國正稅公廨各廿五万束。國分寺料三万束、藥分料一万束、文殊會料二千束、修理池溝料二万束。救急料八万束。俘囚料一万三千束。

出雲國正稅廿六万束、公廨卅万束。國分寺料四万束、文殊會料二千束、藥分料一万束。修理池溝料三万束。救急料四万束、俘囚料一万三千束。

石見國正稅公廨各十五万五千束、國分寺料二万束。文殊會料一千束、修理池溝料二万束。救急料四万束。

隱岐國正稅二万束。公廨四万束、國分寺料五千束、文殊會料一千束、修理池溝料三千束、救急料一千束。

播磨國正稅公廨各卌四萬束、國分寺料四萬束。文殊會料二千束。平等寺料一千束。施藥院料一萬束。藥分料一萬五千束。學生料一萬五千束。修理驛家料四萬束。池溝料四萬束。道橋料一萬束。救急料一十一萬束。俘囚料七

〔文殊會〕每年七月八日東寺、西寺に於て、文殊菩薩を供養する儀式をいふ、仁明天皇の天長十年七月八日に大法師泰善が文殊會を行ひしを其の創めとす。

〔圓成寺〕山城國愛宕郡鹿谷村に在りしが、中世亂後大和國忍辱山に移すといふ、今は其の舊蹟を止むるのみ也、宇多法皇の御宇、僧正益信の開基にかゝる。

〔施藥院〕王朝時代諸國の藥種を集めて、窮乏の病人を養治する所をいふ施藥院司とも稱す天平二年光明皇后始めて之れを設けらる。

〔院〕原本になし、今、京本に據りて之れを補ふ。

〔二〕原本に無し、京、貞の二本によりて補ふ、和名抄には、廿萬八千百束と見えたり。

〔鑄錢司〕四二九頁頭註を見よ。

〔一〕林、京、貞の三本、及び和名抄に據りて補へり。

〔金剛峯寺〕紀伊國伊都郡河南に在り眞言宗古義派の總本山にして、嵯峨天皇の弘仁七年僧空海の開基たり。

萬五千束。

美作國正稅公廨各卅萬束。國分寺料四萬束。文殊會料二千束。修理池溝料三萬束。道橋料一千束。救急料八萬束。停囚料一萬束。施藥院料一千束。

備前國正稅公廨各卅八萬一千一百五十束。國分寺料四萬束。淨福寺料七千束。文殊會料二千束。造院料一萬束。大學寮料一萬一千束。修理池溝料三萬束。救急料八萬束。停囚料四千三百卅束。修理驛家料一萬束。

備中國正稅公廨各卅萬束。國分寺料三萬束。蓮嚴寺料一千束。文殊會料二千束。修造堰溝料一萬七千束。驛家料一萬束。救急料八萬束。停囚料三千束。

備後國正稅公廨各廿四萬束。國分寺料二萬束。文殊會料二千束。鑄錢司俸料二萬八千束。修理池溝料一萬五千束。救急料八萬束。

安藝國正稅廿三萬束。公廨廿二萬八千八百束。國分寺料二萬束。文殊會料二千束。修理池溝料一萬束。救急料十萬束。驛子粮料三萬一千二百束。

周防國正稅公廨各廿一萬束。國分寺料二萬束。文殊會料二千束。鑄錢司俸料二萬八千束。修理池溝料一萬束。救急料八萬束。

長門國正稅公廨各十二萬束。國分寺料一萬束。文殊會料一千束。修理官舍料二萬束。池溝料一萬束。救急料六萬束。兵粮料四萬束。

紀伊國正稅公廨各十七萬五千束。國分寺料二萬束。金剛峯寺料五千六百十六束。同寺燈分并佛聖料二千八百束。南海寺料四百束。文殊會料二千束。修理池溝料三萬束。救急料六萬束。

淡路國正稅三萬五千束。公廨四萬五千束。國分寺料五千束。大和大國魂神祭料八百束。文殊會料一千束。修理池溝料一萬束。救急料三萬束。

阿波國正稅公廨各廿萬束。國分寺料一萬四千束。文殊會料二千束。修理池溝料三萬束。道橋料五百束。救急料六萬束。

讃岐國正稅公廨各卅五萬束。國分寺料四萬束。彌勒時敬寺燈分料五百束。五大菩薩供養料一千束。文殊會料二千束。藥分料一萬束。造院料一萬束。修理池溝料二萬束。救急料八萬束。俘囚料一萬束。

伊豫國正稅公廨各卅萬束。大學寮料一萬束。國分寺料四万束。文殊會料二千束。鑄錢司俸料二萬八千束。修理池溝料三萬束。救急料八万束。俘囚料二萬束。

土佐國正稅公廨各廿萬束。國分寺料一萬束。文殊會料一千束。修理安祥寺寶塔料五千束。修理池溝料二萬束。救急料六萬束。俘因料三萬二千六百八十八束。

筑前國正稅公廨各廿萬束。國分寺料二萬二千二百九十三束。修理觀世音寺料一萬束。文殊會料二千束。府官公廨十五萬束。衞卒料二萬二千四百束隨二日數一有二增減一。下皆同之修理府官舍料六千束。池溝料三萬束。救急料八萬束。俘因料五萬七千三百七十束。

筑後國正稅公廨各廿萬束。國分寺料一萬三千二百九十四束。修理觀世音寺料一萬束。文殊會料二千束。府官公廨十萬束。衞卒料一萬八千一百五束。修理府官舍料六千束。救急料一萬束。俘因料四萬四千八十二束。

肥前國正稅公廨各廿萬束。國分寺料三萬三千三百九十四束當國壹岐島各一萬六千六百九十七束。文殊會料二千束。府官公廨十五萬束。衞卒料一萬八千一百五束。修理府官舍料六千束。池溝料三萬束。救急料四萬束。俘因料一萬三千九十

〔大和大國魂神〕今は大和神社といふ。山邊郡朝和村大字新泉村に在り、垂仁天皇の二十五年の創建にかゝる。

〔安祥寺〕山城國宇治郡安祥寺村に在り、もと如意山壇の谷にありしが、慶長中今の地に移りしといふ、仁壽中清和天皇の御母、五條后順子の本願として創立せられし所なり。

〔肥後國分寺〕飽託郡出水村大字國分に在り。

〔豐前國分寺〕京都郡豐津村大字國分に在り。

〔豐後國分寺〕大分郡賀來村大字國分に在り。

〔日向國分寺〕兒湯郡下穗北村に在り

〔大隅國分寺〕始良郡國分村字上小川に在り。

〔薩摩國分寺〕薩摩郡東水引村字宮内に在り。

官稻

束。

肥後國正稅公廨各卌萬束。國分寺料四萬七千八百八十七束、文殊會料二千束。府官公廨卅五萬束。衞卒料三萬五千七百九十五束。修理府官舍料一萬束。池溝料四萬束、救急料十二萬束、俘囚料十七萬三千四百卅五束。

豐前國正稅公廨各廿萬束。國分寺料一萬四千二百七十四束、文殊會料二千束、府官公廨十萬束。衞卒料一萬七千五百五十四束。修理府官舍料六千束。池溝料三萬束。救急料四萬束。

豐後國正稅公廨各廿萬束。國分寺料二万束、文殊會料二千束。府官公廨十五萬束。衞卒料一萬六千四百七十二束、修理府官舍料六千束。池溝料三萬束、救急料八萬束、俘囚料三萬九千三百七十束。

已上六國出擧府公廨惣一百萬束。若不堪擧。隨即減之。

日向國正稅公廨各十五萬束。國分寺料一萬束、文殊會料一千束。修理池溝料二萬束。救急料四萬一千束。俘囚料一千一百一束。

大隅國正稅八萬六千卌束。公廨八萬五千束。國分寺料二萬束。文殊會料一千束。修理池溝料二萬束、救急料三萬束、

薩摩國正稅公廨各八萬五千束、國分寺料二萬束、同寺十一面觀音菩薩燈分料一千五百束 文殊會料一千束 修理官舍料二萬束。救急料三萬束、

壹岐島正稅一萬五千束、公廨五萬束。修理池溝料五千束。救急料二萬束、

對馬島正稅三千九百廿束、

凡出擧官稻者皆擇人多少。若可加減者、正稅公廨各須同數。其出擧帳附大帳使申送官。

〔次官〕介をいふ、職掌は凡て守と同じにて、守なき時は、介が國の吏務を總裁せり、殊に上總常陸上野の三箇國は親王の任國なりし故に常に介が專ら政務をとれり。

〔判官〕國司の掾をいふ、職掌は大寶令に「掌糺判國內、審署文案、勾稽失、察非違」とあり。

〔主典〕國司の目をいふ、大小の二目あり、大寶令に「掌受事上抄、勘署文案、檢出稽失、讀申公文」とあり。

凡諸國醫師申請補任者、不可減施藥院藥分稻。

混合

凡諸國四度使、依官旨預他事、及不寛使事違國之輩者、其析出混合正税。

凡衛士仕丁日功養物未進者、主計寮待本司本家移文、與調庸未進移之數、即催未進數、没國司史生已上公廨、混合正税。

疫死交易

凡疫死并流死百姓口分田、未班之間、徵其地子、便充價直。隨色交易。備進其調庸并中男作物等、但輸庸米者、其料舂米進之。

俘囚析

凡俘囚析稻置六年儲之外、混合正税。

處分公廨

凡國司處分公廨式法者、大上國、長官六分、次官四分、判官三分、主典二分。史生一分、中國無介則長官五分。下國無掾則長官四分。員外司者、各准當員。其國博士醫師准史生。但陸奧國博士醫師陰陽師並准目。鎮守府將軍准守、軍監准掾、軍曹准目。醫師弩師准史生。若帶國者、不須兩給。其按察使准當國守。記事准掾。

凡諸國一分已上、遙授兼任之輩。遷任他國并京官者、不得受用公廨。若待任官符未到之前處分已畢有妨改帳者、使加國解。

凡志摩國公廨析、用尾張國緣海部正税穀給。守三百石。目百五十石。史生七十五石。

凡鎮守府公廨給當國并相模國。

凡太宰府處分公廨、帥十分。大貳六分半。少貳五分。監三分。典二分。主神主工博士明法博士音博士一分大半。主城陰陽師醫師筭師主船主廚一分半。大唐通事一分少半。史生弩師新羅譯語傔仗一分。

借貸

凡鑄錢司鎮守府官人已下到任之日、准國司給四分之一借貸。

〔防人〕上朝時代、西海道邊要を守る兵士をいふ、「サキモリ」又「セキモリ」とも訓む、諸國軍團の兵士より之を徵發せり。

〔公田〕位田、職田、賜田、口分田及び墾田を除きたる外の田をいふ、即ち剩餘田なるを以て乘田とも稱す

〔官田〕供御に充つる田地をいふ、御稻田にて昔の屯田に同じ、後世の禁裏御料の類也。

對馬粮

凡筑前筑後肥前肥後豐前豐後等國。毎年穀二千石。漕送對馬島、以充島司及防人等粮。其島領粮。船賃挾抄水手功粮、並用正税。

穫稻品

凡公田獲稻。上田五百束。中田四百束。下田三百束。下下田一百五十束。地子各依田品令輸五分之一。皆惣計國內。所輸不滿十分之九者。勘出令塡。但不堪佃田聽除十分之二。其租一段穀一斗五升。町別一石五斗。皆令營人輸之。

官田地子

凡五畿內國官田地子。令耕種人依數舂納。毎年附帳言上。

地子

凡五畿內伊賀等國地子、混合正税。其陸奧充儲糒幷鎭兵粮、出羽狄祿、太宰所管諸國充對馬島司公廨之外。交易輕貨。送太政官厨。自餘諸國交易送亦同。但隨近及緣海國舂米運漕。其功賃便用數內。

交易費

凡諸國交易雜贄、直用地子者。以太政官厨返抄勘會。

齋宮納

凡諸國進齋宮寮調庸雜物、若有未進者。隨彼寮年終移送未進之數。沒國司公廨。

凡非有官符。輙減正税數者。返却其帳令更改正。然後勘之。但除耗之分。不在此限。

返却帳

凡諸國税帳返却帳。雖多年帳一度下。而毎年造申。不得惣造一卷。

租帳損益

凡租税損益帳者。以堅厚熟紙書之。即其縫皆注某國某年某帳損益帳。

年除

凡正税倉附帳。租日錄帳。同損益帳。三年一除。官舍幷池溝帳十年一除。

損田

凡諸國申損田。縱國內田有一萬町。出擧稻五十萬束。遣使勘定損田。千町令申雜稻未納五萬束已下。自外率此數爲定準。但其未納者。依官符勘定。

勢田橋

凡近江國修理勢多橋用途帳。附朝集使毎年進上備之勘會。

〔國〕貞本に據りて補へり。

〔大原野神社〕乙訓郡大原野村に在り、祭神は藤原氏の祖神大和春日神四座也。桓武天皇長岡遷都後、舊都の春日明神に遠くして后妃夫人の參詣に便ならず、且つ王城鎮護のために嘉祥三年を此地に勸請せるに創まる。

〔大和國春日社〕奈良市春日野にあり。

返帳事
凡諸國税帳、不載用別納租穀并租舂料及例交易雜物直者、返却其帳。

凡諸國租帳、注過分損并過分不堪佃田者、返帳令改正、然後勘之。

封租
凡神寺諸家封租、交易輕貨并舂米進之、其舂運功賃亦用租内、若家有請受者聽之。

租率
凡諸家封租、若當不三得七之年、戸別所輸不滿册束率數者、通以他郷塡之、若損過三分及神寺封租、不在此限。

管欠
凡穀未下盡、及經檢税使勘定、並不得除耗、其不動倉、算勘國不待下盡、令當時人塡納。

全物
凡虫食并燒遺穀及惡糒等、毎年申官、遷換以爲全物。

出擧
凡諸國所貯正税穀者、自非申官、不得出擧。

收穎
凡國内官稻數少、出擧雜用不足者、預前申官、聽當年租收穎、諸封戸租、只聽收穎。

雜穀租博
凡雜穀租博、粟小豆各二斗當稻三束、大豆一斗當稻一束、自餘如令。

齋王向伊勢用
凡齋内親王向伊勢國者、造頓宮并雜用料稻、近江國一萬二千束、伊勢國二萬二千束。

舂功
凡諸官年料并國中雜用等米、不充舂功、以外皆充、白米五斗稻三束、黒米一束、但地子白米五斗三束。黒米二束、令作營田家便舂輸之。

月料
凡諸司諸家月料粮料之類、停給京庫、可給外國者、雖可行白米、而猶充黒米。

神祇官料
凡神祇官臨時祭料稻四百束、以山城國正税充之。

賀茂祭使食
凡賀茂祭使食料、以山城國正税五百卅束充之。

神殿守食
凡山城國大原野社神殿守二人、粮米日各二升、預從一人日八合、大和國春日社神殿守二人日各二升、預從一

〔十五大寺〕東大寺、興福寺、藥師寺、元興寺、西大寺、法隆寺、法華寺、新藥師寺、本元興寺、招提寺、東寺、西寺、四天王寺、崇福寺大安寺をいひ、又東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、藥師寺、西大寺、法隆〔一〕安居寺、太后寺、不退寺、新藥師寺、招提寺、超證寺、京法華寺、宗鏡寺、弘福寺をいふ。

〔一〕一本に據りて補へり。

〔茶〕出雲本に據りて補ふ。

二仲 讀經

人日各八合、並以當國寺田地子充之。

凡十五大寺〔其寺見玄蕃式〕安居供養料、寺別廿一石六斗二升七合。但大安寺加大般若經會料六石八斗。並以當國舂正稅充之。其舂運功亦用正稅。

凡諸國國分二寺、各起正月八日迄十四日、轉讀最勝王經。其布施、三寶絲卅斤、僧尼各絁一疋、綿一屯、布二端、定坐沙彌尼各布二端。但供養用寺物。

凡諸國自正月八日至十四日、請部內諸寺僧於國廳、行吉祥悔過法。惣計七僧布施、絁七疋、綿七屯、調布十四端、法服絁廿一疋、綿十四屯、混合准價米等布施、其布施供養並用正稅。但太宰觀世音寺法服布施並用府庫物、數同諸國例、稱聖供養料稻五百卅七束五把二分。以筑前國正稅充之。

凡諸國金光明寺安居者、三寶布施絲卅斤、講讀師法服各絁五疋、布施講師絁十疋、綿廿斤、布廿端。讀師絁五疋綿十斤、布十端。咒願散花唄等僧各絁二疋、綿四斤、布四端。聽衆僧尼各絁一疋、布二端、定坐沙彌綿二斤、布二端。講讀師從沙彌各布二端。其供養、講讀師日米各六升四合〔飯料二升、饘粥四合、雜餅四升〕。大豆小豆各五合、油二合。醬酢末醬各一合、海藻滑海藻於期菜各三兩。大凝菜芥子各一兩、紫菜二合、鹽一合二勺、定座沙彌講讀師從沙彌各一日米一升五合〔飯料〕、餘物減半。並用正稅。太宰觀世音寺用筑前國正稅。

凡志摩國講讀師安居法服布施供養以尾張國正稅充之。其所請用讀師以參河國正稅充之。正月轉讀最勝王經會亦同。

凡諸國春秋二仲月各一七日、於金光明寺請部內衆僧轉讀金剛般若經。其布施、三寶綿十屯、僧各布一端。但供養用本寺物。若無國分寺及部內無物寺者、並用正稅。

國分寺僧尼供　戒壇十師等供　諸寺料物

凡諸國講師年中供養。日米二升四合。二升夜料。四合讀經料。鹽六勺。醬酢各六勺。末醬一合。海藻三兩。大凝菜芥子各一兩。從沙彌一口。日米一升五合。餘物減半。童子一人米一升。鹽一勺。其料用國分寺物。若不足者用部內寺物。讀師亦同。

凡諸國分寺僧尼者。待玄蕃寮移。隨其定數。許行布施供養。

凡戒壇大少十師。并沙彌等供料。白米七斛四斗六升七合六勺。糯米一斛一斗七升六合。大和國每年二月卅日以前運送東大寺。

凡東大寺年料油七斛四斗八升五合。大佛殿燈料七斗六升八合。千手堂觀音堂呂堂戒壇堂各三斗八升四合。萬燈料四石。戒壇十師供養料一斗八升一合。並九月以前送。興福寺南圓堂料。三斛一斗七升二合五勺。並大和國交易送寺家。其直用正稅。

凡本元興寺每年六月十五日萬花會。十月十五日萬燈會等料。以大和國油一斛。正稅三百束充之。

凡延曆寺燈分油一斛八升。同寺寶幢院燈油二斛六斗四升。僧供料黑米六十九斛一斗二升。隨自意三昧堂佛燈油五斗四升。僧供料白米卅六斛。楞嚴院燈油三斗六升。僧供料白米十四斛四斗。千光院燈油四斗五升。勸修寺五大尊燈油一石八升。僧供料白米卅三斛六斗。並近江國以正稅交易并舂備。每年十月以前送納寺家。

凡延曆寺灌頂料白米五石。以近江國年料進官米之內充之

凡藥師寺最勝會料黑米。大和國六十斛。近江國六十斛。並以舂正稅。每年正月卅日以前送納寺家。

凡新藥師寺每年二月修法料米一十七斛四斗二升六合。大和國舂備。先期送納寺家。

凡仁和寺燈分油。每日三合。但正月十四箇日每日一升。佛聖四座。每日白米八升。座別二升。別當一口。每日白米六升。三綱定額僧合九口。每日白米三斗六升。口別四升。並以丹波國正稅充之。受領之吏專當其事。每年計日在前交易舂運。其功賃准

〔沙彌〕出家して十戒を受けし男子の稱也、
〔日〕出雲本は貞京二本に據りて之れを補ふ。
〔萬花會〕萬燈會に同じ
〔萬燈會〕萬燈を點じて佛に供養する法會也、仁明天皇承和十年五月勅し元興寺に於て六月十五日に萬華會、十月十五日に萬燈會を修せしめしより每年恒例となれり。
〔僧〕古本に據りて之れを補へり。
〔最勝會〕每年三月七日より七ヶ日最勝王經を講ずる法會をいふ。

〔貞觀寺〕山城國紀伊郡深草村に廢跡あり、文德天皇仁壽の初めの創建に係り、初め嘉祥寺西院と稱せしが、清和天皇の貞觀十四年、眞雅の奏請に據り貞觀寺と號せり、廢頽の年代詳かならず。

〔尊勝佛〕また尊勝佛頂といふ、五佛頂の隨一にして、尊勝陀羅尼の本尊即ち釋迦如來の佛頂より現出せる輪王形也。

〔延命菩薩〕延命菩薩法の本尊にして即ち金剛薩埵なり

〔各〕出雲本の例に從ひて補へり。

例。

凡貞觀寺佛供幷燈油料。白米日六升。小豆日九合。油夜三合。尊勝佛延命菩薩理僧合三座料。華山寺觀中院燈油四斗五升。同院五大尊料七斗二升。鶴原寺料一斛八升。以二山城國正稅稻一交易幷舂備。每年送二寺家一。

凡石淸水八幡宮護國寺年料米四十二斛。停レ受二運民部大炊等省寮一。以二山城國正稅一舂送。其舂功運賃依レ例充レ之。

凡神護寺寶塔院佛燈油一斛四斗四升。幷七禪師供米。丹波國以二正稅一交易及舂備。每季送二寺家一。長官專當其事。無二長官者。次官亦同。

凡伯耆國四王寺修法料稻四千四百九十束三把。用二當國正稅一充レ之。

凡出雲國四王寺春秋修法。每季七箇日供養幷燈分料。四王四前。一前一日供飯料稻四把。粥料稻八分。餅餉料各稻三把。煎餅料油二合八勺。雜菓子四升。燈油二合。僧四口。一口一日供飯料稻四把。粥餉料稻八分。鹽一合二勺。芥子五勺。菜料大凝菜醬末醬酢各一合。海藻滑海藻各三兩。大豆小豆各五合。童子四人。一人一日飯料稻二把。鹽二勺。海藻三分。年料。除二春秋修法日。當燈日別二一。油二計長夜短夜。所レ行四王供飯粥。四僧供飯海藻滑海藻鹽酢。童子四人飯鹽海藻等。准二修法日供一行レ之。以二正稅一充行。若請二用國分寺僧一除二一季之外供養本寺充レ之。

凡長門國四王寺修法料稻四千六百六十八束四把。三百束四王燈油料。八百六十二束四把同四王供。幷四僧童子四人食料。千七百八十二束僧四口二季法服料。千七百卅四束同僧布施料。以二當國正稅一充之。

凡修二理延曆寺總持院一料穀七百斛。令二近江國每年出擧一。以二其息利一舂レ米運二送彼院一。其舂功運賃用二同穀內一。

凡度二天台宗年分一日。衆僧供養者。近江國每年三月上旬送二延曆寺一。其米幷菜直運賃等料稻七十一束一分二釐。以二滋賀郡正稅一充レ之。

〔吉祥悔過〕吉祥王經を誦して罪過を懺悔する法をいふ

〔釋奠先聖先師〕釋奠とは孔子及び十哲を祭るをいふ、先聖孔子の神座は廟室の内中楹の間に設け、先師顏子を主座とし、東西に其座を設けて祭る。

供御餅　薦直　諸國釋奠　或具新度

〔懸緒〕冠の緒にて、また組懸ともいふ、蹴鞠の時、冠の落ちざらん爲めにつくるものなり。

〔弭〕釋名に「弓中央曰弭、弭撫也、人所持撫也」とあり、ゆづか也。

凡金剛峰寺九月廿四日修功德新米十斛。油一斛、以紀伊國正稅辨備、國司撿挍、前會十日運送寺家。

凡太宰彌勒寺燈分新、以豐前國地子稻三百束、每年充之、

凡壹岐島分寺法會布施供養新稻一萬二千九百七十一束一把一分五毫、最勝王經新一千八百八十七束五分五毫。吉祥悔過新三千三百六十四束二把、崇道天皇春秋讀經新八百束。安居新六千九百十九束八把六分。太宰府以管內諸國正稅通計以充行、筑前國八百八十束、肥前國二千七百六十六束、肥後國三千六百廿束九把一分五毫。豐後國三千九百四束。日向國一千八百束。

凡壹岐島分寺佛聖供新稻一千三百卅二束八分、講師當供四千七百廿六束、以筑前國正稅每年充行、

凡山城國所進供御葛野餅新稻、每年二百束以正稅充之、

凡河內攝津兩國交易薦一枚直二束、

凡諸國春秋釋奠先聖先師二座、別米二升、酒一升、脯一斤、鰒一斤。薑直稻一束 雜腊一升、直五把 雜菓子各一斤、直一束。燈油五合、幣絹一丈八尺。

國司以下學生以上、人別米酒各一升、脯鰒各五兩、雜腊九合、明衣布衫四領、別二丈一尺 布袴四腰、別五尺五寸。食單十一枚。十枚別三尺八寸三分。一枚三尺八寸 其明衣以下、破穢乃換、

造革短甲冑一具新。鐵大二斤、牛革二張 並中、若大二張 馬革鹿革各一張。並大、頂牒新帛一條、長一尺五寸。廣一尺三寸。調布一條。長三尺二寸、廣一尺五寸。綿一斤、縫頂牒新絲一分、苧二兩、懸緒新鹿革五張、漆四升、綾綿二兩、商布一尺。

造太刀一口新、長二尺四寸。新。鐵十斤五兩、鞘新鐵一斤、馬革一條、長二尺五寸、廣五寸、 絲一兩、膠一兩、漆一合、綾綿一兩。緒新鹿洗革一條。長三尺。廣六寸。

造弓一張新、漆二勺、弦麻一兩二分、弭新絲二銖、弭鹿革一條、闊四寸、

〔全縷〕全く破れつゞれるをいふ。

一窠綾折度

〔新綜〕綜は烈女傳に「推而往、引而來者綜也」とあり、新しき「をさ」をいふ。

志摩國司食

班田使食

〔班田使〕五畿内に在りて班田の事を掌る者をいふ、臨時任命せらるゝものにして、後ちには長官・次官を置きたり、畿外は國司之を掌る。

渤海客食法

損不堪使

〔等〕諸本になし、衍字なるべし。

造₂征箭五十隻₁料、鐵九斤七兩、金漆五撮、漆三勺、絲二分、造₂胡籙一具₁料、黑葛一斤、漆三勺、絲一分、緒料鹿革一條。長四尺、廣五寸。諸國織₂雜綾₁機一具料、絲料、一窠綾鸚鵡綾廻₂草綾廿五斤、苧小二斤、膓大六兩一分、膠大二兩、二窠綾廿一斤十兩、苧小二斤、膓大五兩一分、膠大二兩、三窠綾十八斤、苧小二斤、膓大四兩二分、膠大二兩、七窠綾小鸚鵡綾薔薇綾十一斤、苧小二斤、膓大二兩三分、膠大六兩。除雜綾准ㇾ此。兩面十斤、羅七斤八兩。苧膓膠亦准ㇾ此。並有₂破損₁者、先換₂經年₁乃聽₂造換₁。國司撿₂校舊綜之中₁。若有₂全縷₁、必用₂新綜₁。

諸國織₂成綾一疋₁單功。一窠二窠卅日、雜綾羅卅四日、兩面卅日、其織手給食日米二升。鹽二勺、手力米一升五合。鹽一勺。

凡志摩國新任國司給食十日。餘國不ㇾ在₂此限₁。

凡畿内校班田使食法。長官日稻七束三把、次官五束。判官三束、主典筭師各二束、史生一束五把、傔人一束。長官三人。次官二人。判官主典筭師各一人。從三把五分。長官三人。次官判官各二人。主典筭師史生各一人。但進₂公文₁之間准₂國司巡行法₁。

凡國司便任₂校班田使₁其食同₂巡行法₁。

凡渤海客食法。大使副使日稻各五束、判官錄事各四束。史生譯語天文生各三束五把、首領梢工各二束五把。

凡撿損幷不堪佃田賑給疫死等使程限、山城河内攝津伊勢遠江駿河甲斐相摸信濃加賀丹波但馬因幡伯耆出雲美作備前備中備後安藝周防長門紀伊阿波讃岐筑前筑後肥前豐前豐後等國、損田百日、不堪佃田八十日、大和武藏上總下總近江美濃上野下野出羽越前越中播磨土佐等國。損田百廿日。不堪佃田百日。和泉尾張參河安房能登丹後石見日向大隅薩摩等國。損田八十日、不堪佃田六十日。伊賀國、損田九十日、不堪佃田卅日。志摩、等

國。損田卅日。不堪佃田廿日。伊豆飛驒若狹佐渡隱岐等國、損田六十日。不堪佃田卅日。常陸越後伊豫肥後等國。損田百卅日、不堪佃田百廿日。陸奧國。損田一百日。不堪佃田百六十日。淡路國壹岐對馬島等損田卅日。不堪佃田卅日。其賑給疫死、並准不堪佃田

凡諸使食法。官人日米二升、鹽二勺、酒一升、番上日米二升、鹽一勺、酒八合。傔從日米一升五合、鹽一勺五撮。國司巡行食料准此。

凡驛傳充食者、路次國中二三國有相合者、更莫勘返。

凡按察使及記事季祿衣服。廝丁衣服、以陸奧國正稅交易充之。遞送之人不在給限。

凡諸國司賻物、以正稅給之。

凡陸奧國兵士間食料米二千八百八十斛。人別日八合。割年中所輸租穀內、每年充之。

凡陸奧國七團軍毅主帳卅五人糧米、准太宰府統領、以正稅給之。

凡齋宮官人以下女孺以上食料、以伊勢國糒米充之。若不足者、春正稅送充。

凡元日設宴、國司已下軍毅已上、別米八合、鹽一勺、酒一升。

凡太宰及國司巡行部內者。師傔從十人、貳六人。監以下三人、史生一人、國介以上三人。掾以下二人、史生如前。

凡在京僧入諸國國分寺者、路次國充馬、食僧日米二升、鹽二勺、童子一人日米一升五合、鹽一勺五撮。

凡志摩國供御贄潜女卅人、御厨廿人。中宮十人。步女一人、仕丁八人、其糧料穀四百八十斛、雜用料二百五十六斛八斗二升、潜女衣服料稻二千七百七十三束九把、並以伊勢國正稅充之。

凡工匠役夫。人別日加給醴六合。魚一合。和布一把。

〔其〕要略に據りて補ふ。

〔番上〕令制にて交替して或る事務を勤仕するをいふ、又た分番ともいふ、官位相當ある者は毎日勤仕すれども、其他の者は交替して勤仕する也、之を番上官といふ。

〔按察使〕國司及び京官の内にて、適任の人を選び、地方政治の得失を視察巡省せしめ、人民を巡撫する臨時の官也、畿內に置くを攝官といふ、異名同職なり

食法

諸國賻物

兵士食

兵粮

齋宮食

元宴食法

巡行傔從

僧入國分

志摩雜用

工匠加給

銅鉛

凡鑄錢年料銅鉛者、備中國銅八百斤、長門國銅二千五百十六斤十兩二分四銖、鉛千五百十六斤十兩二分四銖、豐前國銅二千五百十六斤十兩二分四銖、鉛千四百斤。每年採送、即以鑄錢司收文進官、下所司令勘會稅帳。

凡備中長門豐前等國、採銅鉛料稻、斤別充二束九把六分五毫七厘。

營繕料

凡營繕部寮蘭田一町料稻三百束、每年以山城國正稅充彼寮。

運氷　薪

凡運主水司年料氷駄稅料稻一百卅九束八把、以山城國正稅充之。

布直

凡商布一段直五束、信濃國洗布八束。

渡船買替

凡渡船經卅年以上者聽買替。

祿價

祿物價法。

畿內。絹一疋直稻卅束。絲一絇六束、綿一屯三束。調布一端十五束、庸布一段九束。鍬一口三束、鐵一廷五束。伊賀伊勢志摩相摸四箇國。絹六十束。絲十束、綿六束。調布卅束、庸布廿束、鍬三束、鐵七束、餘國不須物直者。皆准此。尾張參河兩國、絲八束、遠江國。絹八十束、駿河國。絹八十束、絲八束、鐵五束、伊豆國。絲八束、鐵五束、甲斐國絹八十束、絲八束。武藏〔國〕上總安房下總常陸五箇國。絹八十束。綿八束。近江美濃兩國、鐵五束、信濃國、絹九十束、綿八束、鐵六束、上野國絹九十束、綿八束、下野國絹九十束、綿八束、鍬一束五把鐵九束。陸奧國絹百六十束、綿十三束、絲十五束。調布五十束、庸布卅束、鐵十四束。出羽國、絹百五十束。綿十五束、絲十五束。調布五十束。庸布卅束、鐵十四束。若狹越前加賀能登四箇國。鐵六束。若狹國。絲八束。越中國、絹七十束。鍬一束五把、鐵七束五把、越後佐渡兩國、絹七十束、綿八束、鍬一束、鐵六束、丹波丹後因幡伯耆播磨美作備前備後周防長門淡路十一箇國、絹五十五束、絲八束、鐵六束。備後國絲十一束。但馬備中兩國。絹五十五束、絲八束、鐵五束、出雲石見隱岐三箇國、絹五十五束、絲八束。鍬

〔銖〕天武天皇大寶令制定の時、唐法に據り、秬黍中百黍の重さを以て一銖と爲す而して二十四銖を以て一兩とす、今一匁を二銖四絫として權衡せば一銖は今の四分一厘六毫六絲六忽強にて、三百黍、然れども之れ大兩にして、小兩の時は、今の一分三厘八毫八絲強にて、大の三分の一也。

〔絹〕今出雲本に從ひて補へり。

〔國〕恐らくは衍字なるべし。

〔鍬〕集解に「鐵古作鍬」とあり、鐵の古字也。

〔法服〕僧尼の衣服の總稱、又法衣、僧服、衲衣ともいふ、初め印度の袈裟のみを稱したるも後ち種々の衣服を著するに至り是等をも合せ云ふに至れり。

〔青馬〕黑に青みを帶びたる毛色の馬にて、白馬節會の料の馬也、延長の末頃より白馬と變じ文字も白馬と書くに至れり。

二束、鐵四束、安藝國、絹五十五束、絲八束、鐵四束、紀伊國、絹五十五束。絲八束、鐵八束、鍬四束。阿波國。絹五十束、鐵六束、讚岐國。絹五十五束、鐵六束、伊豫國、絹五十五束、鐵五束、土佐國。絹五十五束、鐵十束、太宰及管內國、絹八十束、絲十束、綿六束、調布卌束、庸布卅束

右位祿價直、各依前件。緇均并布施法服季祿等直亦准此、其官交易准當時估。但畿內諸國布施法服直、絹五十束、絲八束、綿四束、

位祿賃

凡五位已上位祿。給諸國者、東海道駿河以東、東山道信濃以東、北陸道能登以北。山陰道伯耆以西給運賃。自餘諸國及在國司者。不在此限。

流人粮

凡諸國流人、不論良賤男女大小給粮、人日米一升、鹽一勺、至來年春耕給種子、一秋之後、粮種共停、

凡佐渡隱岐壹岐對馬等國島、驛子渡海途使各給食、日稻四把。

國飼秣

凡國飼馬秣米者、畿內外國共起十月迄三月、疋別日四升、起四月迄九月二升。其牽青馬夫者。畿內及近江丹波起十二月廿五日迄正月八日。人別日米一升二合、鹽一勺二撮、牽走馬夫者、畿內及近江丹波起四月廿五日、伊勢美濃等國起同月廿一日迄五月七日並給食。

凡諸國牧馬不堪貢進者、申官賣却、混雜皮直、每年出擧、用其息利。以充貢馬經國之間。及牧秣馬料。但信濃國者、便用牧田地子。其皮直送左右馬寮。

諸國馬入京秣

凡諸國牧馬入京路次飼秣者、甲斐武藏等國、疋別日四把、信濃上野等國一束、并日行二驛。遣父馬亦准此。其長牽馬者。不在此限。

凡諸國驛馬飼秣者、國司量路遠近嶮岨、并使往還閑繁。十月以後三月以前爲例飼養、其嶮路使繁、疋別十七束。

〔上馬〕唐にては細馬といふ、唐六典に「典厩令掌下繫二飼馬牛一、給二養雜畜一之事上、丞爲二之貳一、凡象一給二二丁一、細馬一、中馬二、駑馬三、云々」と見ゆ、延喜式四十八巻左馬寮の條に細馬と見えたるは、此の上馬をいふ、六一〇頁參照。

〔驛馬直〕

〔束〕稻十把を以て一束となす、一把は農夫の鎌を以て禾を刈揚ぐる時、其の掌の中の一握を三つ合せたるもの也、古へ稻六十束の地を以て一反歩と定めたり。

〔對〕兵部式、林、京の三本及び要略になし、衍字なるべし。

使稻十束。中路使繫八束、使稻六束。但美濃國坂本、信濃國阿智兩驛並定別册五束。

驛馬直法。

畿內國。上馬二百五十束。中馬二百束。下馬一百五十束。

伊賀志摩近江飛驒若狹丹波丹後但馬因幡伯耆備前備中備後阿波等十四國。上馬三百束。中馬二百五十束。下馬二百束。其傳馬直者。各遞減二五十束一。餘國准レ此。

伊勢美濃二國。上馬三百五十束。中馬三百束。下馬二百束。

尾張出雲二國。上馬三百五十束。中馬二百五十束。下馬二百束。

參河遠江駿河播磨安藝周防長門等七國。上馬三百五十束。中馬三百束。下馬二百五十束。

甲斐相摸武藏安房上總下總上野越前加賀能登越中越後筑前筑後豐前豐後肥前肥後等十八國。上馬四百束。中馬三百五十束。下馬三百束。

常陸下野二國。上馬五百束。中馬四百束。下馬三百五十束。

信濃出羽二國。上馬五百束。中馬四百束。下馬三百束。

陸奧國。上馬六百束。中馬五百束。下馬三百束。

佐渡國上馬二百束。中馬一百五十束。下馬一百廿束。

石見紀伊淡路等三國。上馬三百束。中馬二百束。下馬百五十束。

大隅薩摩日向等三國。上馬四百束。中馬三百束。下馬二百束。

壹岐「對」島不レ論二上下一。但一百束。

〔驛馬死損〕〔皮直〕〔傳馬〕〔課欠駒〕〔牧馬直〕〔運漕功賃〕

〔傳馬〕六一〇頁頭注〔傳〕を見るべし。

〔欠駒〕驛には各々定數の驛馬を置きたり、然るに死馬又は使用に堪へざるが爲めに定數を缺くをいふ、若し欠駒あれば、驛稻を以て買ひ補はしめたり。

驛馬死損。

山城河內攝津和泉伊賀伊勢尾張參河遠江駿河甲斐相摸安房上總近江美濃飛驒信濃上野下野出羽越前加賀越後丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見播磨備前備中備後安藝周防長門紀伊阿波伊豫土佐筑前豐前豐後肥前肥後大隅薩摩日向等五十國。十分許損一分。

志摩武藏下總常陸陸奧若狹能登越中佐渡淡路讃岐筑後壹岐等十三國。十分許損一分。

凡驛馬不用直。疋別稻卅束。死皮直。張別五束。

凡伊勢國度會郡驛馬有死損者。國司准例損數充。貢令太神宮司貢備莫責其死馬皮。

凡諸國驛傳馬率四疋除。不用馬一疋。死馬三疋。卽待兵部省移。勘會稅帳。

凡課欠駒直者。疋別徵七十束。待左右馬寮移勘出。

凡諸國牧馬皮直。五尺已上稻五束。四尺已上三束。三尺已上一束。

諸國運漕雜物功賃。

畿內。

山城國。正別稻一束五把。大和河內攝津等國。三束。和泉國。五束。

東海道。

伊賀國。正別稻六束。伊勢國。十二束。志摩國。十八束。尾張國。廿一束。參河國。卅三束。海路米一石充賃稻十六束二把。遠江國。卅五束。海路米一石充賃稻廿三束。駿河國。五十四束。伊豆國。六十束。甲斐國。七十五束。相摸國。七十五束。武藏國。八十束。安房國。百束。上總國。百束。下總國。九十束。常陸國。百束。

〔水手〕日本書紀神功皇后五年の條に「竊分ニ船及水手一載ニ微叱旱岐一」とみえ、「ふなこ」と訓みたりしが、應神天皇の頃より「かこ」と云へるが如し、應神紀に「凡水手曰ニ鹿子一、蓋始起ニ于是時一也」と見えたり。

東山道。

近江國。駄別稻十二束。美濃國。十一束。飛驒國。卌五束。信濃國。六十六束。上野國。九十束。下野國。百五束。陸奧國。二百十束。出羽國。百卌一束。

北陸道。

若狹國陸路。駄別稻十束五把。海路。自ニ勝野津一至ニ大津一船賃。米石別一升。挾杪功四斗。水手三斗。但挾杪一人。水手四人。漕ニ米五十石一。越前國陸路。廿四束。海路。自ニ比樂湊一漕ニ敦賀津一船賃。石別稻七把。挾杪卌束。水手廿把。但挾杪一人。水手四人。漕ニ米五十石一。加賀能登越中等國亦同。自ニ敦賀津一運ニ鹽津一駄賃。米一斗六升。自ニ鹽津一漕ニ大津一船賃。石別米二升。屋賃石別一升。挾杪六斗。水手四斗。自ニ大津一運レ京駄賃。別米八升。自餘雜物斤兩准レ米。加賀國陸路。廿四束。能登國陸路。七十八束。海路。自ニ加島津一漕ニ敦賀津一船賃。石別二束六把。挾杪七十束。水手卌束。自餘准ニ越前國一。越中國陸路。七十八束。海路。自ニ亘理湊一漕ニ敦賀津一船賃。石別二束二把。挾杪七十束。水手卌束。自餘准ニ越前國一。越後國陸路。百五束。海路。自ニ蒲原津湊一漕ニ敦賀津一船賃。石別二束六把。挾杪七十五束。水手四十五束。但水手人別漕ニ八石一。自餘准ニ越前國一。佐渡國陸路。百八束。海路。自ニ國津一漕ニ敦賀津一船賃。石別一束四把。挾杪八十五束。水手五十束。自餘准ニ越前國一。

山陰道。

丹波國。駄別稻三束。但氷上天田何鹿三箇郡十束。丹後國。廿一束。但馬國。廿四束。因幡國。卌六束。但海路米一石運レ京賃稻十四束五把三分。伯耆國。卌一束。出雲國。卌九束。石見國。九十束。隱岐國。百八十束。

山陽道。

播磨國陸路。駄別稻十五束。海路。自レ國漕ニ與等津一船賃。石別稻一束。挾杪十八束。水手十二束。自ニ與等津一運レ京車賃。石別米五升。但挾杪一人。水手二人。漕ニ米五十石一。美作備前亦同。美作國。廿一束。但從レ國運ニ備前國方上津一駄賃五束。備前國陸路。廿四束。海路。自レ國漕ニ與等津一船賃。石別一束。挾杪廿束。水手十五束。自餘准ニ播磨國一。備中國陸路。廿四束。海路。自レ國漕ニ與等津一船賃。石別一束二把。挾杪廿三束。水手廿束。自餘准ニ播磨國一。但挾杪水手各漕ニ米十石一。備後國陸路。廿三束。海路。自レ國漕ニ與等津一船賃。石別一束三把。挾杪廿四束。水手一人。漕ニ米十斛一。自餘准ニ播磨國一。安藝國陸路。

〔難波津〕大阪市西成區、東成區淀川流域の總稱にして今の大阪市の古名也、また難波大津とも、難波ともいへり、神功皇后三韓征伐の時も此港より發船し給ひし也。

駄荷

卌二束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束三把。挾杪卌束。水手廿五束。但水手一人。漕米十五石。自餘准播磨國。周防國陸路。五十七束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束三把。挾杪卌束。水手卌束。自餘准播磨國。但挾杪一人。水手二人。漕米五十石。長門國亦同。長門國陸路。六十三束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束五把。挾杪卌束。水手卌把。自餘准播磨國。

南海道。

紀伊國陸路。駄別稻十二束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束。挾杪十二束。水手十束。自餘准播磨國。淡路國陸路。十二束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束。挾杪十二束。水手十束。但挾杪水手各漕米八斛二斗。自餘准播磨國。阿波國陸路。廿七束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束一把。挾杪十四束。水手十二束。但挾杪水手各漕米十斛。自餘准播磨國。讚岐國陸路。卌束。海路。自國漕與等津船賃。石別六束三把。挾杪卌束。水手十六束。但挾杪水手各漕米十斛。自餘准播磨國。伊豫國陸路。卌束。海路。自國漕與等津船賃。石別一束二把。挾杪卌束。水手廿五束。挾杪水手各漕米十斛。自餘准播磨國。土佐國陸路。百五束。海路。自國漕與等津船賃。石別二束。挾杪五十束。水手卌束。但挾杪水手各漕米八斛。自餘准播磨國。太宰府海路。自博多津漕難波津船賃。石別五束。挾杪六十束。水手卌束。自餘准播磨國。

右運漕功賃並依前件。其路粮者。各准程給。上人日米二升。鹽二勺。下人減半。

凡一駄荷率。絹七十疋。絁五十疋。絲三百絇。綿三百屯。調布卅端。調布卌段。商布五十段。銅一百斤。鐵卅廷。鍬七十口。

延喜式卷第二十六

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

従四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大将皇太子傅臣藤原朝臣忠平

（正税帳）正税とは、王朝時代、官稲の一、田租の中、國用に充つるもの即ち經常費也、又大税とも大租ともいふ五二四頁（正税帳使）參照。

正税帳

（不動）六一一頁頭註見るべし。

（動用）六一一頁頭註見るべし。

（國司解申）國司が公文書を以て所管に申請又は言上することをいふ、解には一定の樣式あり。

延喜式卷第二十七

主税下

某國司解申收納某年正税帳事

管郡若干

合某年定穀穎若干束

穀若干石

不動若干石

動用若干石

粟穀若干石

不動若干石

動用若干石

穎稻若干束。

不動倉底敷新若干束

定若干束

糒若干石

鹽若干石

酒若干石　若有二諸色一者、各爲二一項一。

當年出擧幷借貸若干束

出擧若干束

正稅若干束

利若干束

公廨若干束　返二納本倉一

修理國分寺料若干束　返二納本倉一。若有二諸色一。各爲二一項一。

借貸若干束　返二納本倉一

新任國司四分之一料若干束

某官位姓名若干束

書生料若干束

塡納勘出若干束

依二太政官某年月日符一塡納若干束

依二民部省某年月日符一塡納若干束

驛家若干處　大路若干　中路若干　小路若干

馬若干疋

〔出擧〕王朝時代、公私の財物を貸與して、利息を取るを云ふ。

〔公廨〕公廨稻の略也、王朝時代、官衙にて出擧の用に供する稻を云ふ。

〔國分寺〕王朝時代朝廷より諸國に分置せる僧寺及尼寺の總稱也、僧寺を光明四天王護國寺、尼寺を法華滅罪寺と稱し、又略して前者を國分寺、後者を國分尼寺又は法華寺とも云へり。

〔驛家〕驛馬、驛船傳馬等を取扱ふ家を云ふ、一に驛戸とも云へり。

〔馬〕驛馬也、官使の公用に充つる爲め、各驛に備へ置く馬を云ふ。

若干處若干疋（上馬若干疋中馬若干疋下馬若干疋）

不用馬若干疋

價若干束疋別若干束

死馬皮若干張張別若干尺

價若干束張別若干束

傳若干處

馬若干疋

若干處若干疋（上馬若干疋中馬若干疋下馬若干疋）

不用馬若干疋

價若干束疋別若干束

死馬皮若干張張別若干尺

價若干束張別若干束

牧馬牛皮若干張

馬皮若干張張別若干尺

價若干束張別若干束

牛皮若干張張別若干束

價若干束張別若干束

〔上馬〕驛馬の等級に、其の價法は諸國によりて異なるも、陸奧の例を以つてすれば、上馬直稻六百束、中馬五百束、下馬三百束とし、佐渡尤も賤しく、上馬二百束、中馬百五十束、下馬百二十束に充てたり。

〔傳〕傳馬の略也、王朝時代官使の乘用に供する爲に備へたる馬也、文德天皇の時の令制に「驛傳馬は公使之に乘る、事急なれば驛に乘り、事緩なれば傳に乘る、傳馬一日の行程凡そ七十里を準とす」とあり。

〔牧馬〕御牧（左右馬寮）近都牧（同）諸國牧（兵部省）にて公飼せる馬也。

〔田租〕田地に課したる稅、其收穫米の若干を納めしむるを云ふ、又「タチカラ」とも云ふ「チカラ」は民力の成す所を輸すの謂也。

〔不動〕正稅の穀、粟糒等の動用すべからざるものを收めて、國貯のものとなし、官裁を得るに非れば容易に開用せざるものを云ふ、之を納むるを不動倉といふ。

〔動用〕米穀を出入して、諸般の用に供するを以て名付く、不動に對せりふ、其倉を動用倉といふ、出擧して利を取る、本は穎にて取り、利は穀にて取る也。

當年田租穀穎若干束

[illegible]若干束

神封戸若干束

某神封戸若干束

寺家封戸若干束

某寺封戸若干束

諸家封戸若干束

某位姓名封戸若干束

納官若干石

都合正穀穎若干束

穀若干石

不動若干石

動用若干石

穎若干束

不動穀倉底敷若干束

定若干束

糒若干石

〔名神〕春秋說題の「名、大也」又同解題の「名、功也」或は釋名の「名、分明也」等の義に據りてとれるなるべし後世、明神號と混用するに至れるも其の義相近き爲なるべし、式制の社格の一にして、總て三百九座あり、全國中有名の社を擧げて、全國の社に代らしむるの意なるべし。

〔吉祥悔過〕最勝王經を誦して、罪過を懺悔する法也、本邦の始めは、濫觴抄に「吉祥悔過昌泰二年（醍醐天皇の二年）十二月九日符、應三諸國勤二修之一」と見えたり。

鹽若干石

酒若干石

雜用穀穎若干束

穀若干束

穎若干束

酒若干石

例用穎若干束

供奉名神祭幣帛料若干束

神社若干處（大社若干處　小社若干處）

絲若干絇（大社若干兩　小社若干兩）

價稻若干束（絇別若干束）

綿若干屯（大社若干兩　小社若干兩）

價稻若干束（屯別若干束）

始正月八日迄十四日二七日轉讀最勝王經三

會并僧尼布施料若干束（吉祥悔過并安居講說金剛般若經若講師年中供養等准此各爲一項）

三寶布施絲若干絇價若干束

〔先聖〕公事根源には、古くは周公を先聖と云ふも、今は孔子を云へりと見えたり。

〔先師〕公事根源に古くは孔子に云ひしが、今は顏囘を稱せりとあり。

〔春秋四座〕卽ち春の釋奠に祭る先聖先師の二座と、秋季の釋奠に祭る同二座を合せて四座たるの謂也。

僧若干口尼若干口布施

絹若干疋（口別若干疋）價若干束（疋別若干束）

綿若干屯（口別若干屯）價若干束（屯別若干束）

沙彌若干口布施

調布若干端（口別若干端）價若干束（端別若干束）

釋奠料若干束

先聖先師春秋四座料若干束

飯料米若干斗（座別若干升）

料若干束（諸色准レ此。各爲二一項一。）

國司已下學生已上若干人料若干束

食料米若干斗（人別若干升）

料若干束（諸色准レ此。各爲二一項一。）

元日朝拜國司已下郡司已上若干人

食料若干束（人別若干把。諸色准レ此。各爲二一項一。）

修理器仗料若干束

甲若干具料若干束

牛皮若干張（具別若干張）

價若干束（張別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。）

横刀若干口新若干束

韉新麑皮若干張（張別若干尺）

價若干束（張別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。）

年新進上　御履牛皮新若干束

牛皮若干張（長若干尺　廣若干尺）

價若干束（張別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。）

擔夫若干人程粮新若干束

（向レ京若干日日別若干把　還レ鄕若干日日別若干把）

年新交易雜物價新若干束

東絁若干束（諸色准レ此。各爲二一項一。）

價若干束（疋別若干束）

運駄若干疋（疋別二若干一負　菜色若干疋）

功若干束（疋別若干束）

畏新雜物價若干束

菓物若干枚價若干束（枚別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。）

年新進上雜米新若干束

〔横刀〕太刀に同じ。和訓栞に「たち、日本紀、倭名抄に大刀をよめり、神代紀に横刀、萬葉集に劍などをよめり」とあり、和漢三才圖會に「太刀横刀、和名太知」とありて「按太刀大將之外不レ許レ佩レ之」と云へり。

〔擔夫〕王朝時代、賦役の一にして、運送脚夫の雜役に從事するものを云ふ。

〔運駄〕驛傳馬を使用したる勞に報ゆる運賃也。

〔一若干一〕京貞二本なし。

〔海船〕下の川船と共に驛船の一也、水驛に備へ、官使の往來に便にしたる船舶を云ふ、文武天皇大寶元年制定して、繁閑を量りて、驛別に船四隻以下二隻以上を置き、船に隨て驛丁を置き、驛長は陸驛に準じて、船舶の事を掌らしめたり。

〔津〕和名抄に「津和名、豆、渡レ水處也」とあり、水路に便ある處を云ふ、驛の一にして、陸驛に對して、水驛を云ふ。

〔水手〕「フナコ」又は「カコ」と訓む、楫櫓などとりて船中の事にたづさはる者を云ふ、此の名神功紀五年に初めて見えたり。

輸官米若干石穎若干束 雜色准此。各隨二其項一。

運賃穎若干束

海路行程若干箇日 向レ京若干日 還レ鄉若干日

海船若干艘 勝若干石 從二某津一迄二某津一

賃若干束 石別若干束

川船若干艘從二某津一至二某津一

賃米若干石 石別若干升 穎若干束

雇車若干兩從二某津一迄二某處一

賃米若干石 兩別若干升 穎若干束

水脚若干人 挾杪若干人 水手若干人 人別漕若干石

功若干束 挾杪各若干束 水手各若干束

程粮若干束 向レ京日別若干把 還レ鄉日別若干把

綱丁若干人

程粮若干束 日別若干把

帆薦若干枚 價若干束 枚別若干束

苫若干枚 價若干束 枚別若干束

貢上御馬若干疋

〔綜〕雲本に據りて補ふ。

〔單〕織物の單（ヒトヘ）なるをいふ。

〔驛使〕官使の用を達する爲めに驛より出す使用人の意にて、通例は三驛毎に交代するも、若し山路險惡なる所は驛毎に之を給ふ也。

飼秣若干束。疋別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。

驛馬若干疋

飼秣若干束疋別若干束

買立驛馬若干疋價若干束

上馬若干疋疋別若干束。中下馬准レ此。各爲二一項一。

買立傳馬若干疋價若干束

上馬若干疋疋別若干束

織二諸羅綾一料若干束

羅，機若干具

綜，料絲若干絢價若干束絢別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。

羅若干疋疋別織若干日織單若干人粮料若干束人別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。

替綜若干具纏二若干年一替料若干束

某羅綾〔綜〕若干具料絲若干絢

價若干束絢別若干束作單若干日粮料若干束日若干把

纏紡單若干日

作綜單若干日

驛使幷將從單若干人主典已上若干人史生若干人從若干人　食料若干束

飯斷若干束史生已上日若干把從日若干把
鹽若干升史生已上日若干勺從日若干勺
酒若干石主典已上日若干升史生日若干合
三度使單若干人目已上若干人史生若干人從若干人雜掌若干人
朝集使單若干人目已上若干人史生若干人從若干人雜掌若干人餘使准レ此。各爲二一項一。
某國使官位姓名賫若干刻驛鈴若干口。
上下單若干人目已上若干人史生若干人從若干人雜掌若干人
臨時使單若干人主典已上若干人史生若干人從若干人
當國某使官位姓名賫若干刻驛鈴若干口。
經若干日單若干人主典已上若干人史生若干人從若干人
撿某國某事使官位姓名賫若干刻驛鈴若干口
上下單若干人主典已上若干人史生若干人從若干人
傳使幷將從單若干人主典已上若干人史生若干人從若干人食斷若干束
飯斷若干束史生已上日若干把從日若干把
鹽若干升史生已上日若干勺從日若干勺
酒若干斗主典已上日若干升史生日若干合
新任國司單若干人目已上若干人史生若干人從若干人

〔三度使〕次項に、「朝集使」の例式を舉げ、其の注文に「餘使准レ此」とあるに據れば「四度使」の誤記なるべし。

〔臨時使〕地方廳より四度使以外に臨時に出す使を云ふ

〔傳使〕驛使の專ら驛馬に關するに對して、傳馬に關する用を官使に達する者を云ふ。

某國官位姓名賚若干剋傳符若干枚

下單若干人 目已上若干人史生若干人從若干人

新任講師單若干口 講師若干口沙彌若干口童子若干口

某國講師位名

下單若干口 講師若干口沙彌若干口童子若干口

貢上御贄使單若干人 使若干人從若干人

某國某物使姓名

上下單若干人 使若干人從若干人

貢上御馬使官位姓名

上下單若干人 使若干人從若干人

巡行國司單若干人 目已上若干人史生若干人從若干人

食料若干束

飯料若干束 目已上日若干升史生日若干合

鹽若干斗 目已上日若干升史生日若干合

酒若干斗 目已上日若干升史生日若干合

春夏出擧使單若干人 目已上若干人史生若干人從若干人 諸色准ㇾ此。各爲二一項一。

一度 守若干人 介若干人 掾若干人 目若干人 史生若干人 從若干人

〔沙彌〕行事抄に、「沙彌、是梵語、此云二息慈一、息二其世染一慈二濟群生一」とあり、又、元亨釋書沙彌乘遵傳に「國俗剃髮、不ㇾ全二梵儀一、有二妻子一者、在家稱二沙彌一」ともありて、其の義は息慈の意にして男子の出家して十戒を受けたるものの俗稱也。

〔童子〕玄應音義に「究摩羅者是彼土八歲未ㇾ冠者童子總名」とありて、寄歸傳に「專誦二佛典一情希二落髮一、畢願二緇衣一、號爲二童子一」とありて、八才未滿い者の稱なるも佛家にて、出家を希ひて師僧に寄侍する若者を云へり。

〔卒去〕五位、四位の者の死に云ふ、禮記曲禮に「天子死曰レ崩、諸侯死曰レ薨、大夫死曰レ卒、士曰二不祿一、庶人曰レ死」とあるに出で、私が國にては、故實拾要に「薨御は親王、女御、攝家大臣以上を云ひ、薨去は大中納言を云ひ、逝去は殿上人、卒去は諸大夫」とあり、卽ち國司は五位に叙され、諸大夫と同階なれば云ひし也。

〔賻物〕珠璣藪に「以二財物一資二助喪家一謂二賻儀一」とあり、死者の遺族におくる香奠を云ふ

單若干人日已上若干人史生若干人從若干人

卒去國司賻物料價若干束

官位姓名某月日卒死　新若干束

絹若干疋價若干束疋別若干束。諸色准レ此。各爲二一項一。

釀酒新若干束

得酒若干石

臨時用若干束

依二太政官符一用若干束

依二某年月日符一給二某官位姓名一祿新若干束

絹若干疋價若干束疋別若干束

綿若干屯價若干束屯別若干束

調布若干端價若干束端別若干束

鍬若干口價若干束口別若干束

依二某年月日符一交易進上絹若干疋

價若干束疋別若干束

擔夫若干人功粮若干束

功若干束人別若干束

粮糒若干束向レ京若干日日別若干把 還レ郷若干日日別若干把

某年殘定穀穎若干束

穀若干石

不動若干石

動用若干石

粟穀若干石

不動若干石

動用若干石

穎若干束

不動倉底敷若干束

定若干束

糒若干石

鹽若干石諸色准レ此。各爲二一項一。

酒若干石

甕若干口

正倉若干宇

倉若干宇

〔正倉〕諸倉の重なるものにて、貴重品を納むる處也、大藏省を始め、官衙、諸國、諸寺にあり、大藏省の正倉は、其管理する租庸調等を納め、諸國の正倉は、正税の穎穀等を收む、朝集使の管する處也、又寺院の正倉にして、現存するものに東大寺正倉院あり、三口あるを以つて三ツ倉とも云ふ、又藏院、甲倉雙甲倉、甲雙倉の稱あり。

法倉若干宇甲倉若干 板倉若干
瓦倉若干宇
土倉若干宇
屋「倉」若干宇
借倉若干宇
借屋若干宇
都合若干宇
不動若干宇糓倉若干 糒倉若干 粟倉若干 糓屋若干 糒倉若干
動用若干宇糓倉若干 穎倉若干 粟倉若干 穎屋若干
空若干宇倉若干 屋若干
不動倉鎰若干勾鑰若干勾 匙若干隻
動用鎰若干勾
倉印若干面已上郡亦准此。
某郡
第一板倉某長若干丈尺廣若干丈尺 高若干丈尺
木長若干丈尺 廣若干丈尺
柴基長若干丈尺廣若干丈尺 高若干丈尺

〔甲倉〕又校倉と書く、「アゼクラ」と訓めり、「アゼ」は、「交」の義、木を交叉して作る故に名づく。

〔板倉〕上古以來倉庫と稱するものは皆木又は板を叉へて造る、これを「伊多久良」と云ふ。

〔土倉〕後堀河帝の時京師の商賈始めて今の如き土倉を作れる事史に見ゆ、然してこの土倉は上古の土屋倉也、仁明天皇の朝始めて其の名見ゆ、其の建築の樣式詳ならず、後世の「アケッチ」の如きものなるべしと云ふ。

〔「倉」〕雲本になし

〔不輸租田〕租稅を政府に納めずして其の領主に輸する田を云ふ、又不稅田とも云ふ、即ち神田、寺田、悶急田、放生田、勅旨田、公廨田等の類是也。

〔應輸租田〕又輸地子田とも云ふ、地子を輸さしむる田を云ふ、位田、職田、國造田の未授の間のもの等の類是れ也。

〔口分田〕令制によれば、全國の田地を官田として、それを國民一人毎に平均に班ちたる田を云ふ、男は二段女は其の三分の二の率なり、本式其の制を詳にせず、延喜十四年三善清行の口分田に關する意見書に依れば其制甚だ亂れたり

租帳

末長若干丈尺
廣若干丈尺

收納正稅若干束

收納穀若干石積高若干丈尺某年月日官位姓名所委　諸色准此。各爲一項。

以前某年正稅穀頴幷雜用等勘錄附官位姓名申上如件謹解

某國司解申收納某年租帳事

合國內田若干町段若干町舊　若干町新欠乘去年若干町

不輸租田若干町

神田若干町

寺田若干町餘雜色田准此。各爲一項。

定田若干町

應輸租田若干町

郡司職田若干町餘雜色田准此。各爲一項。

口分田若干町

某國百姓若干町

當土百姓若干町

墾田若干町

應輸地子田若干町

除帳人口分田若干町
　乘田若干町〈餘雜色田准レ此。各爲二一項一。〉
不堪佃・若干町
　應輸租田若干町
　口分田若干町
　墾田若干町〈餘雜色田准レ此。各爲二一項一。〉
　應輸地子田若干町
　乘田若干町〈餘雜色田准レ此。各爲二一項一。〉
堪佃若干町
　應輸租田若干町
　郡司職田若干町
　口分田若干町
　墾田若干町〈餘雜色田准レ此。各爲二一項一。〉
　應輸地子田若干町
　乘田若干町〈餘雜色田准レ此。各爲二一項一。〉
　應輸租田若干町
　損若干町

〔除帳人口分田〕又逃亡除帳口分田とも云ふ、口分田を班授せられたるもの行方不明にて、帳簿より除名されたるものゝ口分田を云ふ、輸地子田に屬せり。

〔乘田〕公田とも云ふ、即ち位田、職田、賜田、口分田及び墾田等を除きし外の田を云ふ、賃租田にして、租を輸さず、地子を以て佃らしむ、地子は四等の品田によりて、各其穫稻の五分の一を輸さしむ、即ち上田百束、中田八十束、下田六十束、下々田三十束とす。

〔不堪佃・〕別本に「不堪佃田」に作る

八分戸若干烟

田若干町

七分戸若干烟

田若干町

五分戸若干烟

田若干町

四分已下戸若干烟

田若干町

得若干町

輸租穀穎若干石

雜散若干束

神封戸若干烟

租若干束

某神封戸若干烟

租若干束

寺家封戸若干烟

租若干束

〔八分〕以下「七分」「五分」「四分」の數は、應輸租田の豐凶の割合にて、これは諸國の上司に命じて調査せしめ主計寮に送付せしむべき、損益の形式を示したるもの也。

〔輸租〕租を輸す意にて、口分田、位田、賜田、功田、墾田の類に課せり其の割合は、時代によりて變改あるも、式には、穫稻上田五百束、中田四百束、下田三百束、下々田百五十束、其の租は上田三公九十七民、中田四公九十六民、下田五公九十五民、下々田一公九十九民の割合也。

某寺封戸若干烟

租若干束

某宮封戸若干烟

租若干束

諸家封戸若干烟

租若干束

某品親王封戸若干烟

租若干束

官位姓名封戸若干烟

租若干束

納官若干石

應輸地子田若干町

損若干町

乘田若干町 餘雜色田准此。各爲二一項一。

得若干町

闕郡司職田若干町

乘田若干町 餘雜色田准此。各爲二一項一。

〔宮封戸〕雲本「官封戸」に作る、宮封戸は祿令に「中宮湯沐二千戸」とある類を云ふ。

〔某品親王封戸〕祿令に「凡食封者、一品八百戸、二品六百戸、三品四百戸、四品三百戸、内親王減半」とある類是也。

〔得〕應輸地子田の穫稻量の意也、弘仁式に據れば、其の標準率は、一町步に對して上田五百束、中田四百束、下田三百束、下々田百五十束也。

〔闕郡司職田〕元來闕郡司職田は、諸國の大領以下に給するものにて不輸租田也、擬郡司には給せず、又郡司に雜米の未進あれば其の職田の直を沒す、而して闕郡司職田は輸地子田として、租の代りに地子を輸さしむる制也。

〔郡帳〕所謂正稅使の主管する、一郡の官田地子等の帳及び當田收納帳等を云ふ。

〔青苗簿帳〕所謂朝集使の主管する朝集帳の一にして耕田立毛の調査を記せる簿帳也。（青苗帳）

輸地子稻若干束

闕郡司職田若干町餘雜色田准此。各爲一項。

上田若干町町別若干束

中田若干町町別若干束

下田若干町町別若干束

下下田若干町町別若干束

件國租帳據郡帳准此、但不輸半輸等交名具注如左

若干町不輸

某郡某鄕戶主姓名若干町遭洪水、損五分以上封

若干町半輸

某郡某鄕戶主姓名若干段遭旱、損四分以下官

右惣合鄕帳會郡帳、惣合郡帳會國帳

若多交名。各爲別項

以前某年租帳依例勘造如件、仍附貢調使官位姓名申上謹解

某國司解申進某年青苗簿帳事

合國內雜田若干

不輸租田若干

神田若干
　毎色可錄
定田若干
　應輸租田若干
　　口分田若干
　　　毎色可錄
　應輸地子田若干
　　乘田若干
　　　毎色可錄
　　　　右目錄
某郡雜田若干
　不輸租田若干
　　神田若干
　　　毎色可錄
　定田若干
　　應輸租田若干
　　　口分田若干

〔神田〕神社の用途に充つる田地、又「みとしろ」といふ、御戸代、御刀代、神戸田地とも稱す、單純なるものと、神戸内のものとの二種あり、共に不輸租田にて賣買を禁ず、單純なるは地子田を云ひ、神戸内は多く口分田にて、地子田或は神社に自ら耕作するもあり。

〔毎色〕各種也。

〔定田〕制規に據りて給されたる一定の田の意也。

「某鄕戶主某」は令の里に當る、令集解に「里者如レ鄕也」とあり、而して一鄕を組織するものを戶となす、戶令に「凡戶、以二五十戶一爲レ里」とあり、戶主即ち各戶の統領を云ふ、同じく令に「戶主、皆以二家長一爲レ之」とありて、義解に「家長、謂嫡子也、凡繼嗣之道、正嫡相承、縱有二伯叔一、是爲二傍親一、故以二嫡子一爲二戶主一也」とあり

「賣口分田」口分田は元來賣買すべきものに非ざるも、宇多天皇實錄にも「惣依下民不レ堪二躬耕一、沽中却口分田上也、」等ありて既に賣買の弊起りたり、今此の式を定むるを見るに至れり。

毎色可錄
墝埆地子田若干
上田若干
中田若干
下田若干
乘田若干
上田若干
中田若干
下田若干
除帳田若干
上田若干
中田若干
下田若干
毎色可錄
某鄕戶主姓名戶田若干
賣口分田若干
某里某坪

買人姓名

見營田若干

租田若干

口分田若干

某里某坪

毎色可錄

買田若干

口分田若干

某里某坪

姓名戸田

毎色可錄

地子田若干田品可錄

乘田若干

某里某坪

毎色可錄

浪人姓名營田若干

口分〔田〕若干

〔見營田〕賣口分田に對して、現在耕作する口分田を云ふ也。

〔買田〕賣口分田に對して、一定の口分田の他に、他より買入れたる口分田を云ふ。

〔地子田〕公田及び官田を民に貸與して賃租を納めしむる田を云ふ、皆地子帳を備へて之れを監督せり、主税寮の管下にして、正税帳使の掌る處也。

〔田〕貞享本及び京本に據りて補ふ。

某里某坪
姓名戸田
　毎色可錄
地子田若干田品可注
乘田若干
某里某坪
　毎色可錄
以前具㆑狀如㆑右、仍附㆓大帳使官位姓名㆒言上如㆑件、謹解
　年月日
某國司解申不堪佃田事
合國内田若干
不輸租地子田若干
　毎色可錄
定田若干
租田若干
不堪佃田若干
堪佃田若干

〔田品〕田の等級也上田、中田、下田、下々田の品別を云ふ。

〔不堪佃田〕風雨水害等の災害によりて耕作し能はざる田を云ふ、田令に「凡田爲水侵食、不依舊流、新出之地、先給被侵之家」の解に「謂、不堪田新出之地堪佃者云」とあり。

〔堪佃田〕耕作し得る田を云ふ、田令に「三年以上、有能借佃者、經官司判借之」などとあり。

地子田〔幷〕若干

右得ㇾ管諸郡司解ㇾ偁云云、國司巡撿、仍注ㇾ不ㇾ堪佃田幷堪佃田ㇾ申上、如ㇾ件謹解

年月日

某國司解申田損事

合國內田若干

不輸租地子田若干

　每色可錄

定田若干

不堪佃田若干

租田若干

地子田若干

堪佃田若干

損田若干

見損田若干

五分已上損戶得田若干

得田若干

租田若干

〔幷〕雲本になし。

〔國司巡撿〕卽ち不堪佃田、堪佃田に關しては、租稅に關する事項なれば、其の改廢を忽かせにすべからざるにより、實地巡撿の制を定めし也。

〔損田〕

〔見損田〕現在不作にして損害の生ぜし田の意也。

〔五分以上損戶得田〕損失被害の五分以上の田を有せる戶の實際所得高の意也、この五分とは制規の標準の率にして、實收穫の割合に非ず、得田とは其の田より生ずる實收穫を云へり。

〔烟〕和訓栞に「民戸を民烟と云ふは東鑑に見え、一戸を一烟と書きしは延喜式に見え、朝野群載に神社に奉レ寄二封戸一にも幾烟と出たり、今幾竈と云ふが如し」とあり。

地子田若干

八分已上戸若干烟

七分戸若干烟

五分已上戸若干烟

四分已下戸若干烟

右得二管諸郡司解一偁云云者。國司巡撿所レ申有レ實。仍注二損得田一申上如レ件。謹解

年月日

延喜式卷第二十七

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十八 兵部 隼人

兵部省

〔幢旗〕幢は說文に「旌旗之屬」と見え、旗は左傳閔二年の註に「旗表也」とあり、ここは幢は、月像、銅烏、日像の諸幢、旗は、玄武、白虎、朱雀、蒼龍の諸旗を云へり。

〔七日〕此日白馬節會あり。

〔十五日〕此日「献御薪」の儀あり。

〔十七日〕此日建禮門にて射禮の儀あり。

〔十八日〕此日の賭弓の儀は、校書殿の東なる弓場殿に天子臨御ありて行ふ也

〔者〕貞本に據り補ふ。

元日

元日平旦。丞録各一人東西相分率史生省掌等。共入八省院。撿校兵庫幢旗諸衛儀仗及隼人等陣。若有闕失者。即令改正。後日追勘。本司准此。閤外大臣就朝集堂召兵部省。即丞入受命。出令兵庫寮撃外弁鼓。事見儀式。

七日

七日平旦。丞録率史生省掌立武官叙位標。其後献御弓。輔以下率兵庫寮候逢春門外。若御内裏候承明門外。内舍人奏畢。省寮舁弓矢案。入立庭中。輔已上一人留奏進。其詞云。兵部省奏久兵庫寮乃供奉禮流正月七日乃御弓。又種種矢献良久乎奏給止奏。無勅答。即退出。又率叙人参入。式部叙後省亦叙之。訖共退出。事見儀式。

十五日

十五日平旦。輔已下向宮内省撿武官薪。事見儀式。

十七日

十七日大射。前月廿日。省點親王以下五位以上卅人。前二日簡定能射者廿人。若不足者通取六位已下。於省南門射場令調習。其諸衛射手。本府各簡定造簿移省。其數見衛府式。當日丑刻。掃部寮設省掌已上座於便所。輔已下行點撿。事訖聞喚鼓聲引刀禰参入。其座如常。次射手参入。即令親王已下射之。卿輔丞執札奏射者官姓名。卿唱親王。大輔唱参議以上。少輔唱五位以上。丞唱六位以下。其給禄法者見大藏式。射畢後日勘録人數并中不給禄第色日申送弁官。事見儀式。

凡大射五位已上箭透觸的皮者。猶爲中例。

賭射

凡十八日賭射。録一人率史生省掌等候之。毎有中的〔者〕。省掌申之。

五月五日騎射。前月左右近衛左右兵衛等府。右試練應射人。造簿移省。其數見衛府式。射畢即録中的人數申官。毎

〔同節〕即ち五月五日左右近馬場の騎射を云ふ、公事根源に「五月三日は左近の荒手結(アラテツガヒ)四日は右近の荒手結、五日は左近の眞手結、六日は右近の眞手結あり、昔はまた左右近の馬場にて、騎射のこと侍りしにや」とありて足利時代にはこの事絶えたり。

〔走馬結番〕走馬の番組也、結番は番を相組むを云ふ。

〔菖蒲蘰〕菖蒲を以つて作れる蘰也

中一的給布一端。

走馬　同節五位已上進走馬。親王一品八疋。二品六疋。三品四品四疋。太政大臣八疋。左右大臣六疋。大納言四疋。中納言三疋。三位四位參議二疋。一位二位三疋。三位一疋。四位五位一疋。前十日走馬結番文從太政官賜省。其馬毛色各令諸家申。記造奏文。(載五位已上結番并走馬毛色。)前一日朝齎奏文付內侍令進。若輔不在者。輔得之。更寫毛色簿一通進太政官。又造奏札三枚。(一枚五位已上馬日錄。輔奏。一枚親王已下參議已上姓名并馬毛。大輔奏。一枚王臣四位已下五位已上姓名并馬毛。少輔奏。各納緋油絹袋。事見儀式。)

次第　凡同日節五位已上走馬者。擬非違使等就埒北頭。與省整列次第。一一令馳。

菖蒲蘰　凡同日節會。文武群官著菖蒲蘰。

點撿　凡正月十七日。五日五日。七月廿五日。並點撿五位已上。(事見儀式。)其遺結并申障陣由等之事。一同式部。

三節不參　凡正月十七日。五月五日。七月廿五日三度節不參名簿。移送式部。五位已上莫預新嘗會節。六位已下奪季祿。(但兵庫舍守不在責限。)

免不參　凡典鑰官人并侍醫。莫責五月五日節不參。

考選　凡位記請印。及內外武官考選敍位除目。并季祿馬料等類。一准式部。

威儀不足　凡諸儀所須武官不足者。本府預錄人數移省。省申太政官權任。

器仗　凡諸儀所須器仗者。衞府府別貯庫。臨時出用。其拄申者。預申官。官下符兵庫。府別分付。事畢返納。

立仗日　凡諸門立儀仗日。衞府人等見皇太子及親王太政大臣出入者。皆坐胡床而揖。

行幸宿　凡經宿行幸之時。皆遣史生點撿諸衞府留守人。若在內裏者。令錄點撿。

漆弓　凡武官人等。皆用漆弓。其正月十七日大射節。文官人亦同。

〔襴〕衣冠の縫腋袍の裾の下に連ねて、特に左右に四五寸許り出でたる部分を云ふ。

〔軍毅〕軍團の職にして大少兩毅あり、大團には大一人、少二人、中團には各一人、小團には小毅一人を置けり。

〔官〕貞京二本に據り補ふ。

〔射田〕射藝を奬勵せんが爲めに、諸衞府に充て置く田を云ふ、一に射騎田とも云ふ也。

武官襴　移彈正　省符　曝器仗　鼓吹　武官分　使部馬部　扶省掌　射田預　書生　勘籍補

凡武官五位已上聽[illegible]著襴。但立仗日不須。

凡每年具諸司官人應把笏者上八位已下名簿、移彈正臺令糺服色違濫。

凡應請御馬驛家軍毅兵士器仗等者、造省符副內案進官、請印施行。但留案捺省印。

凡兵庫器仗應須曝涼者、本司預移省、省申官。官令中務擇日。訖就庫監曝十日使了。所須人力本司申官。官仰左右衞門府。府奏聞然後充之。

凡鼓吹初發聲者、兵庫寮預申省、省申官。令陰陽寮擇日。仰下然後乃發。限滿之日、弁史各一人輔丞錄各一人就寮共監試能不。訖後放却。

凡隼人司史生五人（權三人。但二人以扶省掌補之。）左右近衞府府生各六人。左右衞門府左右兵衞府各四人。左右馬寮馬醫各二人。史生各四人。但六衞府府生幷馬寮馬醫史生待官旨補任。自餘省補之。

凡左右馬兵庫等寮掌使部馬部、並省補之。

凡省掌之外、置扶省掌二人。習儀式、以備其闕。即任隼人司權史生。把笏行事。

凡隼人司權史生一人、兵庫寮權史生二人。省擇補預近江丹波備前三箇國射田。

凡書生不經式部省。省試身才。勘籍便補之。

凡左右馬寮騎士每寮十人、兵庫寮工部卅人、鼓吹生卅四人。隼人司作手隼人廿人。省隨其解移申官、勘籍補之。其考帳者、每年送省。

凡出身之徒、勘籍不合者、除諸衞異能外。不得更申。

凡入色人須勘籍者、就民部省勘合。（事見民部式。）

〔職許文〕中宮職の許狀也。

〔白丁〕傘持、沓持、口取等の仕丁を云ふ、白布(白張)狩衣を著る故に名づくる也。

〔負名入色人〕負名は「負名氏」の負名と同じく、職に據りて、名を負ふ者、入色は、雜色の對にして、官位ありて、色服を着する者を云ふ。

近衛

凡中宮職舍人、待職許文、然後補、被管及兵庫寮史生使部春宮坊舍人准此。

凡近衛兵衛者、本府簡試。省幷式部位子留省勳位等便習弓馬者。奏聞補之。若蔭子孫情願者亦准此。其外考及白丁異能者、京職諸國具狀申送官。官下衛府試之。並得及第。其錄奏聞。若日進者亦准此。即遣勅使覆試。及第同署更奏。然後補之。其遭喪解任服闋願仕者、本府奏聞。訖副奏文以移送省。

門部

凡衛門府門部、先簡負名入色人補之。若不足者、三分之一通取他氏。

府生

凡諸衛府生已上新補任者。省具錄移本司。奏聞然後帶仗。但舍人本府奏聞補之。不待省移帶仗。其左右馬寮兵庫寮史生已上、補任之後、省移本司。即令帶仗。自餘雜任本衛判帶。

移式

凡補任武官番上以上者。移送本司。其式如左。

兵部省移某司

位姓名 年若干 某京人　元某司某官

右人某月日任若番上把笏稱補某司某官訖、仍移送如件、移到任用、故移

年月日　錄位姓名

輔位姓

右署印訖即送本司。

舍人解部

凡六衛府舍人被解却者、得考選數季帳。其外直移送本貫職國。

季苻

凡四季徵免課役帳者、承錄各一人勾當制造。每季造三通。孟月十六日一通進太政官、一通進右弁官。若有失錯、准法坐勾當之官。

〔門部〕齋宮寮門部司の職員にして衛門府より派遣するもの、寮にて補する二種あり、門衛を任とす

〔馬部司〕齋宮寮十二司の一にて神馬等の事を司る。

〔別祿〕定祿の外に特別に給する祿也。

〔次侍從〕侍從の定員以外に、殿上を許されて天皇の御前に候するものを云ふ、侍從次（ナミ）の義也。

〔側〕政治要略に據りて補ふ。

齋宮武官

凡齋宮門部司長官一人、從六位官。主典一人、大初位官。門部十六人、左右衛門府、并各四人、各八人。馬部司長一人、從七位官。馬部四人、並本官判位上、季祿、斯並准諸衛府。但季祿馬料以國司給之。

補任帳

凡武官補任帳、准式部省、毎年正月七月一日進太政官。若有遷官卒死之類、以朱注側。其内裏料、更寫一通、六月十二月進藏人所。

馬寮史生

凡左右馬寮史生、准諸衛府生、給季祿。

祿鐵

凡諸衛舍人祿鐵者、有位八口、無位四口、其門部者、有位無位並一口。

異能

凡武藝優長性志敢介、不問水火、必達所向。勿顧死生、一以當百者、並給別祿。左右近衛各十二人、左右兵衛各四人、別春夏絁一疋、調布一端、秋冬絁二疋、綿一屯。調布一端、並准季祿日數給之。又月別白米一石、鹽一斗。長上十三日、番上十日以上給之。

功過相折

凡諸衛人等、兼預歩射騎射、而互有功過、各聽相折。假如歩射兩箭雙空、而騎射三箭全中之類、可與上考。或歩射已空兩箭、或騎射只中一箭之類、仍降其考。或其馬驟不中、及避走去的者、不入功過。

謹愼

或雖弓馬不灼然、而恭勤謹愼宿衛如法之輩、弓若馬便習一藝、同與上考。

武官侍從

凡武官帶次侍從、遷任他官者、解由與不、移送中務省。

遷任

凡武官史生已上、遷任文官者、解由到來之日、移送式部省。

不進考文

凡諸司不進考文、并有考問不參之司者、准式部行之。

遣唐射手

凡遣唐使射手無位者、省與使共試練申官、然後與式部授位記。

衛士相替

凡衛士相替三年爲限、其替人至京、省試練身才。雖無四才、身體強壯可得習者、並檢閲或共、即令帶仗。分配二府。尫弱之輩、返却本國。若有舊人才灼然情願留者、本府移省。知實便聽。其應還人、省對見令解仗、即給

〔鎮守府〕初め鎮所と云ふ、陸奥國宮城郡（今陸前國）多賀城（今同郡多賀村市川に城址あり）にありしが、延暦年間羽後國膽澤郡に遷せり、陸奥出羽兩國の蝦夷を鎭撫することを掌る、大將軍一人、副將軍二人なりしが、後ち權副各一とし更に之れを廢して大將軍の下に軍監軍曹等を置きたり

〔牧監〕牧場を監督し、專ら牧馬の調貢貢獻の事を掌る。

〔所部國島〕九國二島の意、二島とは壹岐、對馬、を云ふ。

軍毅

鎮守官人

牧監

國國帶仗

太宰射田

還抄還本鄕。

凡軍團置毅者。兵士滿千人。大毅一人。少毅二人。六百人以上。大少毅各一人。五百人已下毅一人。其主帳者。大團二人。以外一人。

凡軍毅者。國司銓擬器量。辨了身材勇健者。言上奏聞然後補之。無位及白丁各叙一階。其見任少毅若高位者。轉任大毅。其大少領三等已上親不得任同郡軍毅并勘諸國譜牒之事。先移式部省。待返移然後補之。

凡軍毅其身尫弱不堪武藝者。國司解任。具狀申官。下知省除簿。

凡鎮守府官人不得任陸奥國人。

凡鎮守府陰陽師醫師。待彼道博士。及侍醫等舉狀補之。

凡鎮守府權任官人。待代人到乃從解任。其補任帳具注替人姓名。

凡鎮守將軍傔仗二人。並補八色人若願將子者聽一人。

凡任牧監者。甲斐國一人。信濃國二人。上野國一人。並令兼牧。秩限六年。准國司責辭由。其考左右馬寮按定。十一月卅日以前送省。

凡太宰府官并品官史生。使部得考書生。及所部國島。武藏安房上總下總常陸上野下野陸奥出羽越後佐渡因幡伯耆出雲石見隱岐長門等國郡司書生等並聽帶仗。

凡太宰府管内諸國射田。毎郡置二町。其一町賜步射之上手。一町賜騎射之超勝。自餘有兵士國。毎郡置一町。其田地子交易輕貨。國司簡試上番兵士。不限騎步。人別令射十箭。毎日所試勿過廿人。斟量能不隨狀給之。其能射人及所給物數附朝集使送省。

〔太宰府〕周禮の天官上に「太宰之職、掌建邦之六典」とあるに出づ。標註職原抄校本に「太宰府、聖武天平十五年始置筑紫鎭西府、先是有太宰府號云々」とありて、「寶龜十一年勅太宰、任限爲五箇年云々凡當府都管九國二島、別帶筑前也」とあり。

〔烽〕和名抄に「烽燧、度布比、邊有警則舉之、唐式云、諸置烽之處、置火臺、臺上插擲、俗云、保久之」とあり。

統領
凡太宰府統領者、待府銓擬補之。其遭喪復任者亦依府解。

防人
凡壹使對馬防人。府官量事差所部諸國百姓強健者、作番令守。

放烽
凡太宰所部國放烽者、明知使船、不問客主、舉烽一炬。若知賊者放兩炬。二百艘已上放三炬。

器仗帳
凡諸國器仗帳、勾勘訖錄狀、三月卅日以前移送式部。

驛家
凡諸國驛家舍屋、及鋪設等帳、與兵庫帳共會。若有欠損者、隨即返帳。

射田
凡射田卅町 近江國八町。丹波國六町。備前國六町。 充大射射手親王已下五位已上調習之資。

馬䉼
馬䉼。

從三位官卅五貫。日分十五貫。夜分十貫。

從四位官九貫。日六貫。夜三貫。

正五位官七貫。日五貫。夜二貫。

從五位官六貫。日四貫。夜二貫。

六位官二貫八百文。日二貫五百文。夜三百文。

七位官二貫六百五十文。日二貫三百五十文。夜三百文。

八位官二貫五百文。日二貫二百文。夜三百文。

左近衞府十三人。從三位官一人。從四位官一人。正五位官二人。六位官四人。七位官四人。八位官一人。右近衞府准此。

左衞門府十一人。從四位官一人。從五位官一人。六位官二人。七位官二人。八位官五人。右衞門府准此。

左兵衞府九人。從四位官一人。從五位官一人。六位官一人。七位官二人。八位官四人。右兵衞府准此。

左馬寮六人。從五位官一人。六位官一人。七位官二人。八位官二人。右馬寮准レ此。

齋宮寮門部司二人。從六位官一人。初位官一人。

馬部司一人。七位官。

右自二正月一至二六月一上日上夜、各一百廿五以上者給二春夏馬新錢一。秋冬准レ此。其春夏七月十日、秋冬正月十日、但與二中務式部一共申二太政官一。雖レ滿二限日一貪濁有レ狀者不レ須二給與一。若帶二一官一者、從二一高一給、其齋宮門部司新者、以二伊勢國神税一給與、不レ給夜新。如不レ足者。通二用比國一。

諸國健兒。

山城國卅人。　大和國七十人。

河內國卅人。　和泉國廿人。

攝津國卅人。　伊賀國卅人。

伊勢國一百人。　志摩國卅人。

尾張國五十人。　參河國五十人。

遠江國六十人。　駿河國五十人。

伊豆國卅人。　甲斐國五十人。

相摸國一百人。　武藏國一百五十人。

安房國卅人。　上總國一百人。

下總國一百五十人。　常陸國二百人。

〔上夜〕夜勤番直するを云ふ、官職難儀に「晝仕ふるを上日と云、夜を上夜と云、除目の時、滿日勘案などが勞帳も、是を記したる物侍り」云々とあり。

健兒

〔健兒〕諸國の兵庫又は鈴藏及び國府等を守衞する事を掌る兵士の通稱なり、天智紀二年八月の條に「日本國之救將廬原君率二健兒萬餘一」云々」とあるを初見とす。

近江國二百人。　美濃國一百人。
飛驒國卅人。　信濃國一百人。
上野國一百人。　下野國一百人。
陸奥國三百廿四人。　出羽國一百人。
若狹國卅人。　越前國一百人。
加賀國五十人。　能登國五十人。
越中國五十人。　越後國一百人。
佐渡國卅人。　丹波國五十人。
丹後國卅人。　但馬國五十人。
因幡國五十人。　伯耆國五十人。
出雲國一百人。　石見國卅人。
隱岐國卅人。　播磨國一百人。
美作國五十人。　備前國五十人。
備中國五十人。　備後國五十人。
安藝國卅人。　周防國五十人。
長門國五十人。　紀伊國六十人。
淡路國卅人。　阿波國卅人。

〔諸國馬牛牧〕牧に御牧、諸國牧、近都牧あり、其内諸國牧は兵部省に他は左右馬寮に屬す。

〔相摸國〕例により國字を補ふ。

〔高野馬牛牧〕足柄上郡千島斑目二村の附近に在りき。

〔大野馬牧〕夷隅郡大野村に在り。

〔負野牛牧〕望太郡飯富村に在り。

〔高津馬牧〕香取郡高津原村に在り。

〔大結馬牧〕葛飾郡船橋附近に在り。

〔本島馬牧〕北葛飾郡大島村に在り。

〔長洲馬牧〕猿島郡長須村に在り。

〔宇養馬牧〕豐浦郡宇賀村に在り。

〔鹿島馬牧〕藤津郡鹿島に在り。

鎭兵

諸國牧

讃岐國一百人。　伊豫國五十人。

土佐國卅人。

凡鎭兵陸奥國五百人、出羽國六百五十人。

諸國馬牛牧

駿河國、岡野馬牧。蘇彌奈馬牧。　相摸國、高野馬牛牧。

武藏國、檜前馬牧。神埼牛牧。　安房國、白濱馬牧。鈴鯛馬牧。

上總國、大野馬牧。負野牛牧。　下總國。高津馬牧。大結馬牧。本島馬牧。長洲馬牧。浮島牛牧。

常陸國。信太馬牧。　下野國。朱門馬牧。

伯耆國、古布馬牧。　備前國、長島馬牛牧。

周防國、竈合馬牧。垣島牛牧。　長門國。宇養馬牧。角島牛牧。

伊豫國、忽那島馬牛牧。　土佐國。沼山村馬牧。

筑前國、能臣島牛牧。　肥前國、鹿島馬牧。庇羅馬牧。生屬馬牧。柏島牛牧。樫野[illegible]牧。早埼牛牧。

肥後國。二重馬牧。波良馬牧。　日向國、野波野馬牧。堤野馬牧。都濃野馬牧。野波野牛牧。長野牛牧。三原野牛牧。

右諸牧馬五六歳。牛四五歳。毎年進左右馬寮。各備秣刷剉。其西海道諸國。送太宰府。但帳進省

凡牧牝馬牛廿歳已上者。不在責課之例。

凡肥後國二重牧馬、若有超群者進上。餘充太宰兵馬及當國他國驛傳馬。

凡太宰府定額兵馬廿疋之中十疋、牧馬十疋、並分置鴻臚館、備急速之儲

齋宮祭馬　諸國器仗

〔大祓馬〕四時祭式六月晦日大祓の條（一七頁）に、馬六疋とあるは是れ也、大祓詞講義に、雄略紀十三年三月、狹穗彦玄孫齒田根命、以ニ馬八匹大刀八口一、祓ニ除罪過一、既而歌曰云々、と有るは、古くより祓柱に出せりし例を以て、馬を令レ出給ひし者なり、云云、倍他祓柱は、大川道に持出て流すを、馬は唯神等の耳聽く聞食む表物として、出す所なれば、馬祓事畢て後は、馬寮に收めらるゝなるべし、と見えたり。

〔横刀〕太刀に同じ

凡伊勢齋宮春宮賣祭馬二疋。大祓馬八疋。以ニ下總國牧馬一充。

諸國器仗

伊賀國。甲一領。横刀四口。弓廿張。征箭卅具。胡簶卅具。
伊勢國。甲六領。横刀廿口。弓六十張。征箭六十具。胡簶六十具。
志摩國。横刀二口。弓十張。征箭十具。胡簶十具。
尾張國。甲六領。横刀十六口。弓卅張。征箭五十具。胡簶十具。
参河國。甲三領。横刀七口。弓卅張。征箭卅具。胡簶卅具。
遠江國。甲四領。横刀七口。弓五十張。征箭五十具。胡簶五十具。
駿河國。甲三領。横刀七口。弓卅張。征箭卅具。胡簶卅具。
伊豆國。甲一領。横刀三口。弓卅張。征箭卅具。胡簶卅具。
甲斐國。甲一領。横刀三口。弓六十張。征箭卅具。胡簶卅具。
相模國。甲四領。横刀九口。弓六十張。征箭六十具。胡簶六十具。
武藏國。甲六領。横刀廿口。弓六十張。征箭六十具。胡簶六十具。
安房國。甲二領。横刀四口。弓十二張。征箭十二具。胡簶十二具。
上總國。甲四領。横刀十六口。弓卅八張。征箭卅八具。胡簶卅八具。
下總國。甲五領。横刀十六口。弓五十張。征箭五十具。胡簶五十具。
常陸國。甲六領。横刀廿口。弓六十張。征箭六十具。胡簶六十具。
近江國。甲六領。横刀廿口。弓卅張。征箭卅具。胡簶卅具。
美濃國。甲六領。横刀廿口。弓卌張。征箭卌具。胡簶卌具。
飛驒國。甲一領。横刀二口。弓廿張。征箭十具。胡簶十具。
信濃國。甲二領。横刀三口。弓卌六張。征箭卌六具。胡簶卌六具。
上野國。甲六領。横刀廿口。弓卅張。征箭卅具。胡簶卅具。
下野國。甲三領。横刀九口。弓六十張。征箭六十具。胡簶六十具。
陸奧國。甲六領。横刀廿口。弓六十張。征箭六十具。胡簶六十具。
若狹國。横刀二口。弓十六張。征箭十六具。胡簶十六具。
越前國。甲四領。横刀十口。弓廿張。征箭卌具。胡簶卌具。
能登國。甲一領。横刀三口。弓七張。征箭十具。胡簶十具。
越中國。甲二領。横刀四口。弓廿張。征箭廿具。胡簶廿具。
越後國。甲三領。横刀六口。弓卌張。征箭卌具。胡簶卌具。
佐渡國。甲一領。横刀四口。弓十張。征箭十具。胡簶十具。
丹波國。甲四領。横刀六口。弓十張。征箭十具。胡簶十具。
丹後國。甲三領。横刀四口。弓十張。征箭十具。胡簶十具。

〔征箭〕軍陣に用ふる矢を云ふ、其義につき或は敵を征する矢なるによるとなし、或は直矢（ヤタ）の義、雁股に對して云ふとなし、或は箙に負ふ故背矢の義にて云ふとなす、軍防令に、凡兵士毎人云云、征矢五十隻、とあるは書に見えし初め也。

〔胡籙〕矢を盛りて背に帶ぶる武具也三種あり、儀式に用ふるを平胡籙、主として征戰に用ふるを壺胡籙、狩に用ふるを狩胡籙と云ふ。

〔國解文〕國司より太政官に差出す書付を云ふ。

〔樣器仗〕

但馬國。甲三領。横刀八口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
因幡國。甲三領。横刀七口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
伯耆國。甲四領。横刀十口。弓廿張。征箭卅具。胡籙卅具。
出雲國。甲五領。横刀十口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
石見國。甲二領。横刀五口。弓十張。征箭十具。胡籙十具。
隱岐國。横刀四口。弓十張。征箭十具。胡籙十具。
播磨國。甲三領。横刀廿口。弓卅張。征箭卅具。胡籙卅具。
美作國。甲三領。横刀十口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
備前國。甲二領。横刀十口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
備中國。甲四領。横刀十口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
備後國。甲五領。横刀廿口。弓卅張。征箭卅具。胡籙卅具。
安藝國。甲三領。横刀十口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
周防國。甲二領。横刀五口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
長門國。甲二領。横刀五口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
紀伊國。甲二領。横刀五口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
淡路國。横刀四口。弓十張。征箭十具。胡籙十具。
阿波國。甲二領。横刀七口。弓廿張。征箭廿具。胡籙廿具。
讃岐國。甲二領。横刀七口。弓卅張。征箭卅具。胡籙卅具。
伊豫國。甲五領。横刀十口。弓卅張。征箭卅具。胡籙卅具。
土佐國。甲一領。横刀六口。弓廿張。征箭十具。胡籙十具。
筑前國。甲四領。横刀十口。弓廿張。征箭卅具。胡籙卅具。
筑後國。甲三領。横刀十口。弓廿張。征箭卅五具。胡籙卅五具。
肥前國。甲三領。横刀八口。弓廿張。征箭卅五具。胡籙卅五具。
肥後國。甲四領。横刀十口。弓廿張。征箭卅具。胡籙卅具。
豐前國。甲二領。横刀八口。弓廿張。征箭卅具。胡籙卅具。
豐後國。甲二領。横刀八口。弓十五張。征箭卅具。胡籙卅具。
日向國。甲二領。横刀六口。弓十五張。征箭廿五具。胡籙廿五具。

右毎年所ㇾ造具依二前件一。其様仗者。色別一箇。附二朝集使一進ㇾ之。但其伊賀伊豆飛驒能登土佐等國不ㇾ在二進限一。筑前筑後肥前肥後豐前豐後日向等國送二太宰府一。府官勘按貯二納府庫一。具錄二色目一附二朝集使一申送。

凡諸國樣器仗者。省與二兵庫一撿按定ㇾ品了。副二國解文一奏二進內裏一。閲二定其品一了。省更申ㇾ官。官下二符兵庫寮一。即諸

〔山埼〕乙訓郡に在り。

〔楠葉〕北河内郡に在り。

驛傳

〔驛馬〕下文に准じ馬字を補ふ。

〔河曲〕今河藝郡の内也。

〔朝明〕今三重郡の内也。

〔飯高〕今飯南郡の内也

〔愛智〕今の愛知郡なり。

〔寶飫〕郡今の寶飯郡也。

〔數智〕今引佐郡及び濱名郡に併す。

〔佐野〕今小笠郡の内也。

〔蒲原〕三代實錄貞觀六年十二月の條により蒲字を補ふ

司就庫收之。其器仗鐫題專當官人姓名。若撿閲有不如法。隨事科貶。

凡諸國司造官器仗之日。不得造私器仗。

諸國驛傳馬。

畿內。

山城國驛。山埼廿疋。

河內國驛。楠葉。槻本。津積。各七疋。

和泉國驛。日部。呼唹。各七疋。

攝津國驛。草野。須磨。各十三疋。葦屋十二疋。

東海道。

伊勢國。驛馬 鈴鹿廿疋。河曲。朝明。榎撫。各十疋。市村。飯高。度會。各八疋。傳馬。朝明。河曲。鈴鹿郡。各五疋。

志摩國。驛馬。鴨部。磯部。各四疋。

尾張國。驛馬。馬津。新溝。兩村。各十疋。傳馬。海部。愛智郡。各五疋。

參河國。驛馬。鳥捕。山綱。渡津。各十疋。傳馬。碧海。寶飫郡。各五疋。

遠江國。驛馬。猪鼻、栗原。□摩。横尾。初倉。各十疋。傳馬。濱名。敷智。磐田。佐野。蓁原郡。各五疋。

駿河國。驛馬。小川。横田。息津。蒲原。長倉。各十疋。横走。廿疋。傳馬。益頭。安倍。廬原。富士。駿河郡。並横走驛。各五疋。

甲斐國。驛馬。水市。河口。加吉。各五疋。

相摸國。驛馬。坂本。廿二疋。小總。箕輪。濱田。各十二疋。傳馬。足「柄」上。餘綾。高座郡。各五疋。

武藏國。驛馬。店屋。小高。大井。豐島。各十疋。傳馬。都筑。橘樹。荏原。豐島郡。各五疋。

安房國。驛馬。白濱。川上。各五疋。

上總國。驛馬。大前。藤潴。島穴。天羽。各五疋。傳馬。海上。望陀。周淮。天羽郡。各五疋。

下總國。驛馬。井上。十疋。浮島。河曲。各五疋。茜津。於賦。各十疋。傳馬。葛餝郡。十疋。千葉。相馬郡。各五疋。

常陸國。驛馬。榛谷。五疋。安侯。二疋。曾禰。五疋。河內。田後。小田。雄倉。各二疋。傳馬。河內郡。五疋。

東山道。

近江國。驛馬。勢多。卅疋。岡田。甲賀。各廿疋。篠原。清水。鳥籠。横川。各十五疋。穴太。五疋。和爾。三尾。各七疋。鞆結。九疋。傳馬。栗太郡。十疋。滋賀。甲賀。野洲。神埼。犬上。坂田。高島郡。和邇。鞆結〔驛〕各五疋。

美濃國。驛馬。不破。三疋。大野。方縣。各務。各六疋。可兒。八疋。土岐。大井。各十疋。坂本。卅疋。武義。加茂。各四疋。傳馬。不破。方縣。各務。可兒。武義郡。各四疋。大野郡。三疋。土岐郡。五疋。惠奈郡。十疋。

飛驒國。驛馬。下留。上留。石浦。各五疋。傳馬。大野郡。五疋。

信濃國。驛馬。阿知。卅疋。育良。賢錐。宮田。深澤。覺志。各十疋。錦織。浦野。各十五疋。亘理。清水。各十疋。長倉。十五疋。麻績。亘理。多古。沼邊。各五疋。傳馬。伊那郡。十疋。諏波。筑摩。小縣。佐久郡。各五疋。

上野國。驛馬。坂本。十五疋。野後。群馬。佐位。新田。各十疋。傳馬。碓氷。群馬。佐位。新田郡。各五疋。

下野國。驛馬。足利。三鴨。田部。衣川。新田。磐上。黑川。各十疋。傳馬。安蘇。都賀。芳賀。鹽屋。那須郡。各五疋。

陸奧國。驛馬。雄野。松田。磐瀨。葦屋。安達。湯日。岑越。伊達。篤借。柴田。小野。各十疋。名取。玉前。栖屋。黑川。色麻。玉造。栗原。磐井。白鳥。膽澤。磐基。各五疋。長有。高野。各二疋。傳馬。白河。安積。信夫。刈田。柴田。宮城郡。各五疋。

〔足柄上〕足上に作るをよしとす、足柄上は正保圖以後の稱也。

〔餘綾〕今中郡の內なり。

〔海上〕今市原郡の內也。

〔相馬〕今東葛餝郡及北相馬郡に屬す

〔河內郡〕今稻敷郡の內也。

〔鞆結驛〕例に依りて補ふ、以下これに同じ。

〔方縣〕今本巢、稻葉兩郡に屬す。

〔各務〕今稻葉郡の內也。

〔大野郡〕今揖斐郡の內也。

〔白河〕今磐城國西白河、東白川二郡也。

〔安積信夫〕今岩代國に屬す。

出羽國。驛馬。最上。十五疋。村山。野後。各十疋。避翼。十二疋。佐藝。四疋。船十隻。遊佐。十疋。蚶方。由理。各十二疋。白谷。七疋。飽海。秋田。各十疋。傳馬。最上。五疋。野後。三疋。五隻。由理。六疋。避翼。一疋。船六隻。白谷。三疋。船五隻。

北陸道。

若狹國。驛馬。彌美。濃飫。各五疋。

越前國。驛馬。松原。八疋。鹿蒜。濟羅。丹生。朝津。阿味。足羽。三尾。各五疋。傳馬。敦賀。丹生。足羽。坂井郡。各五疋。

加賀國。驛馬。朝倉。潮津。安宅。比楽。田上。深見。横山。各五疋。傳馬。江沼。加賀郡。各五疋。

能登國。驛馬。撰才。越蘇。各五疋。

越中國。驛馬。坂本。川合。亘理。白城。磐瀬。水橋。布勢。各五疋。佐味八疋。傳馬。礪波。射水。婦負。新川郡。各五疋。

越後國。驛馬。滄海。八疋。鶉石。名立。水門。佐味。三島。多太。大家。各五疋。伊神。二疋。渡戸。船二隻。傳馬。頸城。古志郡。各八疋。

佐渡國。驛馬。松埼。三川。雑太。各口疋。通充傳馬。

山陰道。

丹波國。驛馬。大枝。野口。小野。長柄。星角。佐治。各八疋。日出。前浪。各五疋。傳馬。桑田。多紀。氷上郡。各五疋。

丹後國。驛馬。勾金五疋。

但馬國。驛馬。粟鹿。郡々。養耆。各八疋。山前。五疋。面沼。射添。各八疋。春野。各五疋。傳馬。朝来。養父。二方。七美郡。各五疋。

因幡國。驛馬。山埼。佐尉。敷見。柏尾。各八疋。傳馬。巨濃。高草。氣多郡。各五疋。

〔丹生〕今丹生、南條二郡に分る。

〔坂井郡〕例により郡字を補ふ。

〔礪波〕今東西礪波二郡に分る。

〔射水〕今射水、氷見二郡に分る。

〔新川郡〕今下中上新川三郡に分る。

〔古志郡〕今古志、三島二郡に分る。

〔各口疋〕脱字恐らくは五なるべし。

〔郡々〕林、京、貞三本に據り、々字を補ふ。

〔二方七美郡〕今美方の一郡となす。

〔巨濃〕今岩美郡に屬す。

〔高草〕今下の氣多郡と共に氣高郡に屬す。

伯耆國。驛馬。笏賀。松原。清水。和奈。相見。各五疋。傳馬。河村。久米。汗入。會見。八橋郡。各五疋。

出雲國。驛馬。野城。黑田。宍道。狹結。多伎。千酌。各五疋。

石見國。驛馬。波禰。託農。樟道。江東。江西。伊甘。各五疋。

山陽道。

播磨國。驛馬。明石。卅疋。賀古。卌疋。草上。卅疋。大市。布勢。高田。野磨。各廿疋。越部。中川。各五疋。

備前國。驛馬。坂長。珂磨。高月。各廿疋。津高。十四疋。

備中國。驛馬。津峴。河邊。小田。後月。各廿疋。

備後國。驛馬。安那。品治。者度。各廿疋。

安藝國。驛馬。眞良。梨葉。都宇。宇鹿。附□。木綿。大山。荒山。安藝。伴部。大町。種箆。濃唹。遠管。各廿疋。

周防國。驛馬。石國。野口。周防。生屋。平野。勝間。八千。賀「寶」。各廿疋。

長門國。驛馬。阿潭。厚狹。埴生。宅賀。臨門。各廿疋。阿津。鹿野。意福。田宇。三隅。參美。埴田。阿武。「宅」佐。小川。各三疋。

南海道。

紀伊國。驛馬。荻原。賀太。各八疋。

淡路國。驛馬。由良。大野。福良。各五疋。

〔河村〕今久米、八橋兩郡と共に、東伯郡に屬す。

〔汗入〕今會見と共に西伯郡に屬す。

〔附□〕此上下恐らくは脱字あるべし

〔賀寶〕林、京、貞三本に據り、寶字を補ふ。

〔宅佐〕京、貞二本に據り、宅字を補ふ。

〔荻原〕日本後紀弘仁二年萩原に作る

〔舟治川〕もと丹治川に作る、日本後紀延暦十六年の條に據り改む。

〔御笠郡〕今筑紫郡の內也。

〔御井〕今三井郡に作る。

〔上妻郡〕例に依り郡字を補ふ、今八女郡の內也。

〔狩道驛〕例により驛字を補ふ。

〔大野〕今南海郡と云ふ。

〔海部〕今北海郡と云ふ。

〔佐職〕雲本によりて補ふ。

〔石田〕石字を補ふ

阿波國。驛馬。石濃。郡頭。各五疋。

讃岐國。驛馬。刈田。松本。三谿。河內。甕井。柞田。各四疋。

伊豫國。驛馬。大岡。山背。近井。新居。周敷。越智。各五疋。

土佐國。驛馬。頭驛。吾椅。舟「治」川。各五疋。

西海道。

筑前國。驛馬。獨見。夜久。各十五疋。島門廿三疋。津日廿二疋。席打(ムシロウチ)。夷守。美野。各十五疋。久爾。十疋。佐尉。深江。比菩。額田。石瀨。長丘。把伎(ハギ)。廣瀨。隈埼。伏見。綱別。各五疋。　傳馬。御笠郡。十五疋。

筑後國。傳馬。御井。葛野。狩道。各五疋。　驛馬。御井。上妻[郡]。狩道[驛]。各五疋。

豐前國。驛馬。社埼。到津。各十五疋。田河。多米。刈田。築城。下毛。宇佐。安覆。各五疋。

豐後國。驛馬。小野。十疋。荒田。石井。直入。三重。丹生。高坂。長湯。由布。各五疋。　傳馬。日田。球珠。大野。海部。大分。速見郡。各五疋。

肥前國。驛馬。基肄。十疋。切山。佐嘉。高來。磐氷。大村。賀周(カス)。逢鹿(アフカ)。登望(トモ)。杵島。鹽田。新分。船越。山田。野鳥。各五疋。　傳馬。基肄驛五疋。

肥後國。驛馬。大水。江田。坂本。三重。蚊高。高原。蠶養(コカヒ)。球磨。長埼。豐向。高屋。片野。朽網。[佐]職。水俣。仁主。各五疋。　傳馬。大水。江田。高原。蠶養。球磨。豐向。片野。朽網。佐色。水俣驛。各五疋。

大隅國。驛馬。蒲生。大水。各五疋。

薩摩國。驛馬。市來。英禰。納津。田後。櫟野(イイヒノ)。高來。各五疋。　傳馬。市來。英禰。納津。田後驛。各五疋。

日向國。驛馬。長井。川邊。刈田(カリタ)。美禰。去飛(コヒ)。兒湯。當磨。[石]田。救麻(タマ)。救弐(クニ)。亞椰(アヤ)。野後。夷守。眞斫(マサキ)。水俣。島津。各五疋。　傳馬。長井。川邊。刈田。美彌。兒湯。去飛驛。各五疋。

壹岐島。驛馬傳馬各五疋。

太宰府。兵馬廿疋。

凡諸國驛家令國郡司專當。具名每年附朝集使申上。其公私行人停宿致損者。令使錄名申上。自餘違事科決。若專當官司。及驛長等妄行許容。亦處重科。

凡諸國驛馬。皆買百姓馬堪騎用者置之。不得買用國司私馬。

隼人司

凡元日即位及蕃客入朝等儀。官人二人。史生二人。率大衣二人。番上隼人廿人。今來隼人廿人。白丁隼人一百卅二人。分陣應天門外之左右。蕃客入朝天皇不臨軒者不陣。群官初入自胡床起。今來隼人發吠聲三節。蕃客入朝不在吠限。其官人著當色橫刀。大衣及番上隼人著當色橫刀白赤木綿耳形鬘。自餘隼人皆著大橫布衫襟袖著兩面襴。布袴著兩面襴。緋帛肩巾橫刀白赤木綿耳形鬘。番上隼人已上橫刀私備。執楯槍並坐胡床。

凡踐祚大嘗日。分陣應天門內左右。其群官初入發吠。悠紀入官人并彈琴吹笛擊百子拍手歌儛人等。彈琴二人。吹笛一人。擊百子四人。拍手二人。歌二人。儛二人。從興禮門參入御在所屏外。北向立奏風俗歌舞。主基入亦准此。

凡遠從駕行者。官人二人。史生二人。率大衣二人。番上隼人四人。及今來隼人十人供奉。番上已上並帶橫刀騎馬。但大衣已下著木綿鬘。今來著緋肩巾木綿鬘。帶橫刀執槍步行。其駕經國界及山川道路之曲。今來隼人爲吠。

凡行幸經宿者。隼人發吠。但近幸不吠。

凡大儀及行幸給裝束者。大衣各紅鬘木綿大二分。白木綿二分。隼人各肩巾緋帛五尺。紅鬘木綿一分。白木綿一

〔各〕衍なるべし。

驛家

〔隼人司〕隼人を撿挍し歌舞の教習等を掌る司、大寶令の所定にてもと衞門府に屬せしが後ち兵部省の被官となる、隼人は上代大隅薩摩地方に蕃殖せる敏捷勇猛なる種族也、その一部は早くより皇化に服して朝廷に奉仕し、宮門の衞護、歌舞の演奏、竹器の製作に從ふ

大嘗

〔發吠聲〕犬の如き吼聲をなす也警護の意に出づ。

駕行

〔興禮門〕大內裡八省院二十五門の一也。

〔諸國隼人〕隼人はもと大隅薩摩の部族なるが、朝廷に隼人として仕へたるは、その子孫五畿內、近江、丹波紀伊等に住せる也。

〔大衣〕大兄の義、畿內及近國の中より、左右の長に補されしを云ふ。

〔大隅〕大隅に住む隼人の義にあらず近き國なるをも先祖の出たる地を以て呼ぶ也、下文阿多亦同じ。

〔阿多〕薩摩隼人を云ふ、神代以來薩摩を吾田國と云へるより名づく。

分。衣料調布二丈一尺。袴料七尺。並揩大横。襟袖幷袴襴料兩面四尺四寸。衣四尺。袴四寸。並具所須申省請受。但肩巾衣袴隨損申請。

喚集

凡大儀者。預前申官喚集諸國隼人。令供其事。仍給間食。

習吠

凡今來隼人。令大衣習吠。左發本聲。右發末聲。惣大聲十遍。小聲一遍。訖一人更發細聲二遍。

十五日大衣

凡正月十五日。史生一人。幷大衣率今來隼人就主殿寮發聲一節。乃進御薪。

凡大衣者。擇譜第內。置左右各一人。大隅爲左。阿多爲右。教導隼人。催造雜物。候時令吠。若有闕者申省。省即申官補之。

番上

凡番上隼人廿人。有闕者取五畿內及近江丹波紀伊等國隼人幹了者。申省補之。不在給時服及粮之限。

今來時服

凡今來隼人給時服及鹽。春夏男別絹一尺。袴腰料。布二端。二丈一尺朝服一領料。一端衣二領料。二丈一尺袴三腰料。庸布一段。履直。絲三銖。縫衣袴料。鹽一斗。漬菜料。女絹三丈。下裙料。布二端三丈。三丈衣二領料。一端表裙二腰料。一端下裙二腰料。庸布一段。履直。絲三銖。縫衣裙料。秋冬男絹一疋一尺。綿三屯。布二端。庸布一段。絲三銖。鹽一斗。女絹一疋。綿三屯。布二端三丈。庸布一段。絲三銖。其粮每月一給。男日黑米三升。鹽三勺。女日黑米二升。鹽二勺。其三年一給布衾及鋪設。人別調布一端。綿十三屯。席一枚。薦一枚。折薦一枚。女同。並限一身。若有死者給賻物。人別絁一疋。調布二端。庸布一段。白米五斗。酒一斗。腊一斗五升。鹽三升。

死亡

凡今來隼人身亡者。擇取畿內隼人充之。廿人爲限。其時服。春夏人別庸布一段。秋冬庸布二段。庸綿三屯。粮人別日黑米二升。鹽二勺。亦三年一度給布衾。人別調布一端。綿十三屯。

造進用途

凡每年造進油絹六十疋。緋卅疋。縹廿五疋。白五疋。其料絹自內藏寮請取。即捺寮印行之。但荏油一斛三斗八升。疋別充二升三合。練絲二兩二分。縫絹端料。疋別一銖。調綿三屯。絞油料。苧二斤十三兩。張絹料繩。簀一枚。席一枚。並置絹料。調布一端二丈。一端一丈二尺。作手

隼人二人衣新八尺巾二條新、摩油新田具卅口。以一口充絹二疋。薪八千二百八十斤。煎油新。以六十斤充一升。篦二百枚。張絹新。大和國所進。十一月以前進。造功七百廿人。疋別十二人。其絹結解帳。每年造二通、一通送內藏寮。一通取寮押署收司。

凡應供大嘗會竹器熬笥七十二口。煤籠七十二口。新篦竹口別十別六株。乾索餅籠廿四口。口別十三株。籮六口。口別十五株。預前造備送宮內省。

年新竹器。

薰籠大一口。口徑二尺二寸。高二尺七寸。新篦竹五十株。中一口。口徑一尺八寸。高二尺。新篦竹卅株。漉紙簀十枚。長各二尺四寸。廣一尺四寸。新篦竹各廿株。茶籠廿枚。方二尺。新篦竹各六株。

凡造竹綾帉帙。長功十八日一張。長二尺。闊一尺五分。作竹樣絲成帙。中功廿一日一張。短功廿五日一張。

凡年新雜籠新竹四百八十株。用司園竹。

凡威儀所須。橫刀一百九十口。楯一百八十枚。枚別長五尺。廣一尺八寸。厚二寸。頭著馬髮。以赤白土墨畫鉤形。木槍一百八十竿。長一丈一尺。胡床一百八十脚。並收司臨時出用。若有破損。申省修理。

凡隼人計帳者。五畿內幷近江丹波紀伊等國。每年一通附大帳使進官。官下省其班田之年。亦進田籍。

凡隼人等不仕新。及傜分絕戸田地子等。充修理新幷雜用。

延喜式卷第二十八

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

〔索餅〕小麥と米とにて製せる菓子にて節會に供す、其形索繩の如く細長に縒れたるより此名あり。

〔畫鉤形〕彥火々出見尊、兄火酢芹命の鉤を海に失ひ海宮に游行しこれを得て、兄に還し給ふに兄の命怒りて受けず、依て尊これを懲し給ひしより遂に屈し、子孫永く俳人狗人として仕へん事を誓ふ

威儀

隼人は火酢芹命の裔なる故、此緣により其の楯にも鉤形を畫くと云ふ

計帳

不仕

〔胡床〕後世の床机の類也。

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第二十九　刑部　判事　囚獄

刑部省

佛像

凡盜取佛像改作衣物。雖渝其色猶送本處。若不知主者、便入寺家。毀金像作鏡鑄亦隨見在入寺。若作釜及雜器者。本是佛像添造佛像。菩薩添造菩薩、不須交雜。

僧尼犯罪

凡僧尼犯罪應訊者。皆據衆證定刑不須捶拷。其應還俗者、其注本貫姓名年紀臈數。移送治部民部等省除附帳籍。

凡訴訟人注僧尼爲證人者。遣省丞錄及判事屬各一人。就寺勘問虛實。

諸寺三綱

凡緣有勘事應請諸寺三綱者。移送治部。

五位已上犯

凡五位以上犯罪應推者。皆設床席。

斷罪

凡流罪以下。隨發且斷。其死刑者。皆惣斷十月四日申官。即斷文令判事屬申送。

流移

凡流移罪人者、省申官遞請左右兵衛爲部領。即授省符。路次差加防援令達前所。其返抄者。從官下省。

格式立制

凡格式立制不定其罪。律有本條。依律罪之。不緣違式科。

柵戸逃亡

凡有柵戸逃亡。若元差平民爲柵戸者。以戸口逃亡罪論。若特宥死罪配柵戸者、准兵士逃亡法。

私鑄錢

凡私鑄錢。其作具并錢銅等物皆沒官。

會赦

凡犯罪會赦及降合免者。並據赦降出日免罪。

〔刑部省〕罪人の裁判、良賤の名籍及び囚禁、負債の事を掌る省、大寶元年始めて之を置く。

〔臈數〕凡そ僧の法歳を數ふるはその生年に據らず、受戒後の安居の數を以てし是れを臈と云ふ。

〔三綱〕上座寺主、都維那等、各寺に設けし三人の役僧を云ふ。

〔流罪〕罪人を邊地に放遣する刑名也、五刑の内死に次で重し。

〔判事〕鞫狀を按覆し刑名を斷定し、其他凡て訴訟を判定する刑部省の役人也、明法道の人を以て任ず、大寶の制、大中少の判事を定む。

〔內印〕天皇の御印にして方三寸、天皇御璽と刻す、少納言其請進を掌る

〔外印〕太政官印と刻す藏人これを監す。

〔市司〕京職の被官にして京都市內の事を司る、東西二司あり。

〔衆人〕京、貞二本に據り衆字を補ふ

凶惡

告罪名

決杖

罪人位記

遠近

死囚

凡罪人會赦合免者。省即免之。不可申官。

凡決告犯罪推勘無罪及徒人役滿者。依法合免。其爲人凶惡。衆庶共知者。不須放免。禁固獄中。理應放者申官免之。

凡告囚罪名者。囚獄司引罪人就省版位。即判事屬讀示判狀。少判事以上覆問服不。

凡犯罪之人。或尫或弱。決杖之時。且寒且熱。重加頓杖。恐致死亡。須量其貌。滿役之間准折決畢。

凡諸國不進犯罪人位記。移式部省。拘留朝集使返抄。

凡應毀罪人位記者。省收位記。申送弁官。官以位記返付省。更定日申官。其日丞錄與中務式部兵部等省。共就太政官。三省錄各持位案筥。刑部錄持位記筥。共入列立庭中。北面東上。大臣命召。稱唯就座。弁官申可毀位記之狀。訖即刑部錄以位記筥進付外記。外記申云毀位記若干枚。大臣命毀之。稱唯毀。畢錄進取位記筥復座。訖即退出。事見儀式。

凡流移人者。省定配所申官。其錄犯狀下符所在幷配所。良人請內印。賤隷請外印。其路程者。從京爲計。

伊豆去京七百七十里。安房一千一百九十里。常陸一千五百七十五里。佐渡一千三百廿五里。隱岐九百一十里。土佐等國一千二百廿五里。爲遠流。

信濃五百六十里。伊豫等國五百六十里。爲中流。

越前三百一十五里。安藝等國四百九十里。爲近流。

凡決死囚者。省預移送彈正衞門。其日會集市司南門。共監行決。其彈正左衞門官人列門外東。各西面北上。相去一許丈。刑部右衞門官人列門外西。各東面北上。相去同上。市獄兩司列於南庭。自衞府南去卅許丈。各北面中上。東西牛頭相去三許丈。囚人當中間而跪。自兩司南去三四許丈。物部分陣防援。列囚左右。北向中上。立定錄進於兩司中間北面宣告犯狀罪名示衆。[衆]人稱唯畢還於本列。即丞

〔囚獄司〕罪人を禁獄、徒役功程及び配決の事を掌る刑部省の被官。東西兩京に置く。

決罪

〔物部丁〕囚獄司の下司也。

〔徒罪〕罪人を拘置して服役せしむる罪名也。律に一年、一年半乃至三年の五等に分つ。

徒役

罪人勘籍

〔朝堂〕朝堂院即ち八省院也。

醫藥

〔會昌門〕八省院の內門にて南應天門に對す。

良賤判

〔修式堂〕八省院の一堂にして暉章堂と東西相併ぶ。

〔囚獄司〕古寫本に據り獄字を補ふ。

贖銅

召兩司仰云。依例行之。兩司稱唯以還本列。轉告物部。物部稱唯案劔襲之。（絞者用縄。）其殘骸者。令授近親斂之。若無親者。令兩司埋城外閑地。兼樹牓示。（注國郡姓名。）

凡弁官所下罪人。到省付囚獄司。司即易其徽纆。其有行決者。隨罪輕重於市若囚獄司決之。行決之日。丞錄各一人引囚獄官人幷物部丁赴向市司。便令本司喚集市人。列立司南門示衆決之。於囚獄司決者。於廳前決之。

凡徒罪以上具錄犯狀移送民部

凡徒人年限者。從入役日始計。其徒役滿者。省具錄事狀遞送本鄉。

凡徒以上罪人應勘籍者。具錄姓名移送民部。待報乃斷。

凡諸國申送流移人及家口未發遣間。固禁獄中。其粮以贓贖物給之。（人別日米一升。鹽一夕。）

凡罪人逃亡者。申官追捕。

凡獄囚應給衣粮薦席醫藥。及修理獄舍之類。用贓贖物者。申官聽裁。然後給之。在外者先用後申。

凡宣良賤判者。卿引錄以上列於西行。大判事引屬以上列於東行。囚獄司一人當兩頭中間二許丈却立。次主若寺檀越一許丈却立。次賤男東列跪。賤女西列跪。物部丁挾立於賤東西。自朝堂會昌門入各如前列。卿已下當修式堂東北角列立。大判事已下當暉章堂東北角列立。並北向。各立定當宣判事。自中間進二許丈。宣告判狀畢還立本列。若判爲良者。主若檀越幷囚獄司西側避立。即囚獄司教示賤等。令再拜舞蹈。然後從下退出。若判爲賤者。囚獄司西側避立。主若檀越再拜舞蹈退出。

凡贖罪無銅。准價徵錢。

〔贖銅錢〕罪人をして銅又はその代物を納めて罪を贖はしむるを云ふ。老幼、癈疾其他罪人の境遇及び罪の性質により此特典を與ふ。

〔省錄〕刑部省の主典にて大、少の別あり。

〔笞杖〕共に罪人を捶撻する刑なるも、笞は杖より輕罪にして、其の打器及び打數を異にす。

〔盤枷〕首械也。

〔鈦〕足械也。

〔杻〕手械也。

凡贖銅錢者、收因獄司、省相共出納。

因事相喚　凡應因事相喚者、省承使召判事之屬。判事得召省錄。其相送文書者各爲牒。

諸司乖務　凡諸司治務或乖法式、有司守法皆須因脩、若有乖違律令者、依法科處。

大臣薨　凡左右大臣以上薨者、發哀三日內。諸司理事如常。不可閙獄行刑。

判事

凡訊獄訟者、其錄訴狀。其申官解文者。少除繁辭。宜判之日。必須委曲。

彈正移　凡彈正臺移送罪人、若有事不分明者。遣刑部錄判事屬就臺諮問。若明知臺之所枉乃追就省勘問。其撿非違使所送罪人亦准此。

隱截　凡國司稅帳之外隱截租稅者。隨辨官宣下斷其罪。其錄事狀及物數。年終申太政官。

僧尼會赦　凡僧尼犯徒以上還俗應徒。若會赦免罪者。聽爲僧尼。

良賤訴　凡判良賤訴者、其錄事狀申官奏聞。

斷徒　凡斷徒以上盜人者、必勘前年盜人歷名。然後依法科斷。

平贓布　凡平贓布者。長五丈二尺、廣二尺四寸爲端。

因獄司

凡司內所須笞杖。每年十一月役物部丁令採備。笞杖各一千枚。

著鈦　凡禁人者、隨罪輕重著鈦若盤枷。故燒公私倉舍盜。私鑄錢強奸之類居作者即著鈦。雜犯徒罪之類著盤枷。其鈦或四人或三人爲連。至暮著杻。明

〔物部〕囚獄司の下司也、令に掌ニ主當罪人、決罸事一とあり、集解に、穴云、問、物部與ニ物部丁一行事何、答、物部、主ニ當罪人一也、丁者、就ニ手決人一也、と見えたり。

〔直丁〕各司に置ける駈使也。

死亡　巡撿　搜監　役人　物部

日、脱而役之。

凡罪人死亡者、具注ニ姓名年居並入徒年月日一申省。

凡禁囚之處、當宿官人恆將ニ物部并物部丁等一、夜巡撿。従ニ三月一至ニ七月一四三度。従ニ八月一至ニ二月一別四度。

凡縁看ニ侍獄囚一及餉ニ衣食一家人入ニ禁所一者、搜ニ監雜刀及他物以堪ニ自害一并文書筆墨等類一。

凡徒役人者。令作ニ路橋一及役ニ雜事一。又司毎ニ六日一將ニ囚人等一使ニ掃除宮城四面一、其雨後且亦掃ニ清宮内穢汚并廁溝等一。

凡徒人役滿。具錄ニ役日并作物色目一申ニ送於省一。

凡應戮罪人者、注ニ頭并物部歷名一進省。即官人共奉ニ供事一。

凡物部十人、申省移ニ式部一勘籍補之。其物部丁八人准ニ諸司直丁一給粮。

延喜式卷第二十九

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔大藏省〕諸國の調及び金銀、錢、珠玉其他の物を出納し、權衡、度量、賣買の估價及び諸國より貢獻せる雜物の事を掌る省也。

元正

〔豐樂殿〕豐樂院の正殿也、豐明節會を爰にて行はせらる。

八日最勝會

〔呪願師〕法會の時呪願文を誦する役僧也、大導師これを勤む。

〔內裏南庭〕安福殿の前方也。

女王祿

〔女王等云〕卽ち女王祿とて、每年正月八日女王に祿を賜ふ儀也

十七日大射

園韓神祭

延喜式卷第三十 大藏 織部

大藏省

元正。前二日丞錄率史生藏部等懸繡額於大極殿。黃絹析緋絲一絇。前一日殿東南庭設皇太子及大臣輕幄。諸門懸屏幔。南三大門不須。又就內藏寮受柳筥八合。收省家臨時出用。當日平旦官人率藏部八人執筥列大極殿前庭右方。又豐樂殿張庇蓋懸繡額。縫著析絲同大極殿。東西廊門南左右并諸門懸屏幔。入幄。七日十六日新嘗會准此。但七日立樂十六日有蕃客之時亦立之。七日前一日大膳職備節食所立五丈紺幄一宇。木工預竪幄幔柱桁。他皆放此。

八日最勝王經齋會。丞錄各一人率史生藏部等裝束講堂僧房及所司供事所並懸幔。其布施物者預前請受。三寶細屯綿十屯。析裹綠絁六尺。細布六尺。講師絹廿疋。綿六十屯。調布卅端。盛韓櫃三合。布綱十二條。讀師絹十五疋。綿卅屯。調布廿端。盛韓櫃二合。布綱八條。呪願師絹五疋。綿廿屯。調布十端。盛韓櫃一合。布綱四條。法用及僧綱各絹三疋。綿十屯。調布三端。衆僧別絹二疋。綿五屯。調布二端。裹析商布九段一丈六尺。木綿大一斤八兩。沙彌別綿二屯。調布一端。定座沙彌加二一端。會終之日班送。呪願師已上輔丞以文奉之。餘僧諸司判官以下持物送之。

同日內裏南庭西方立五丈紺幄二宇。女王等所侍。十一月新嘗會亦同。

十七日大射。立七丈紺幄一宇懸幔。蕃客入朝之日。設幄幔處并數。並聽官處分。其所須熟麻二斤。掃墨一升五合。酒二升。已上造鹿皮十六張。析牛皮二張。染射席析。已上事畢返上。

二月十一月園韓神祭懸幔。又所須臺析安藝木綿二斤。五位已上析。凡木綿四斤。六位以下析。丞率屬官依例班給。

〔五丈幄〕大學寮正廳前庭の東側に設く。

〔駒牽〕諸國の牧場貢進の御馬を叡覽ある儀也

〔神今食〕月次祭の夜天照大神を神嘉殿に請して、主上御自ら新炊の飯を供し御自身も喫し給ふ儀也。

〔相撲節〕毎年七月諸國の相撲人の取組を叡覽あり群臣に宴を賜ふ儀

〔乾臨閣〕神泉苑の正殿にして法成就池の池邊に在り。

大原野　二月十一月大原野祭懸レ幔。其十一月祭祿新。綿五百屯。二百屯。氏人新。三百屯供奉諸司新。

釋奠　二月八月釋奠祭。立二五丈幄一宇一縣レ幔。又廟都堂南門及脇門等懸レ幔。

列見　太政官二月十一月列見。八月十一日定考日懸レ幔。

平野　四月十一月平野祭。立二紺幄三宇一。七丈一宇。五丈二宇。並懸レ幔。臺新安藝木綿四斤。凡木綿五斤。輔率二屬官一班給。輔奉二皇太子一。永給二親王已下參議已上一。錄給二五位已上一。史生給二六位已下官人一。其十一月祭祿新。調綿五百屯。

賀茂　四月賀茂祭日。立二七丈幄四宇。五丈幄八宇一。懸レ幔。上社七宇。下社五宇。給二諸司祿新一。庸布二百段。送二齋院司一令レ班二給之一。

駒牽　四月廿八日小月二十七日。駒牽。武德殿南北立二七丈幄五宇。五丈幄六宇一。懸レ幔。

五月五日　五月五日節。立二七丈幄七宇。五丈幄七宇一。平張二宇。懸レ幔。

六日　六日立二七丈幄六宇。五丈幄六宇一。懸レ幔。

神今食　六月十二月神今食。中院東西廂殿懸レ幔。中門及掖門懸二屏幔一。又立二幄三宇一。五丈幄一宇在二中門外一。七丈幄二宇在二中和門外一。新嘗祭亦同。

盆供　七月十四日。大膳職備二盂蘭瓫供養所一立二五丈紺幄一宇一懸レ幔。

相撲　七月廿五日相撲節。神泉苑立二幄十二宇一。平張二條。幕一張。
廿六日紫宸殿前庭東西各立二幄二宇一。

重陽　九月九日節。神泉苑乾臨閣中庭立二幄四宇一。東二宇次侍從已上。西二宇文人。又立二樂人幄一宇一。

伊勢幣　十一日奉二伊勢太神宮幣一。八省昭慶門東腋廊內懸レ幔。又同門及東西腋門懸二屏幔一。

所々幔　十月一日。左右近衛陣懸レ幔。三月卅日返納。同日外記幷辨官所所懸レ幔。三月卅日返納。同日幔六條充二勘解由使一。三月卅日返納。

〔須給〕當に頒給に作るべし。

〔五丈〕もと五尺に作る京本に據り改む。

〔一人〕攝政關白を云ふ、攝關たる人は必ず一座の宣旨を蒙り、朝廷公事の時、位の順序に拘らず、第一の座に着くが故に此の名あり。

〔使人〕卽ち荷前使なり

鎭魂木綿

鎭魂祭。依宮内省請縵。結神新木綿一兩。頒送神祇官祭日當幸屬官須給藝木綿。所須安藝木綿二斤。凡木綿卅斤。中宮職安藝木綿二斤凡木綿十斤。東宮職安藝木綿一斤凡木綿廿斤。

新嘗

新嘗會前一日。裝束豐樂院如常。

大嘗

踐祚大嘗。朝堂院祭場立幄八宇。又豐樂院宴會殿庭左立兩面七丈幄一宇。右立紺幄一宇。自餘同新嘗會。

齋王禊

伊勢初齋院幷入野宮之祓日。川上立幄十宇。

諸陵幣

十二月供諸陵幣。其物納調之日。別收正倉。供幣數見諸陵式。其儀隨符到。前一日與諸陵寮依例裝備。又設御座於建禮門外。立五丈紺幄二宇。次立七丈五丈紺幄各一宇。幷懸縵。又於正倉院立七丈紺幄一宇。列置幣物。立五丈紺幄二宇。一宇東面懸縵。設參議以上一人座。一宇北面設辨官以下座。當日早朝。掃部寮設幄下座及所司座。又鋪積幣物薦於幄前。訖卽與諸陵寮共積幣物。參議以上及辨官就座。丞進就版位。治部預置版位。申積畢狀。治部輔就座。省輔一人進就座。丞錄各一人共進就座。諸陵寮亦就座。訖治部輔唱使人名。省丞錄二人。取幣物付使人。

荷前

凡荷前物裝備之日。縫殿寮南庭立五丈紺幄一宇懸縵。

大祓

凡臨時大祓所。立五丈幄二宇。七丈幄一宇。五丈一宇設參議已上一人座。一宇設辨官座。七丈一宇諸司立祓。

諸節會

凡諸節會日。所懸之縵。令左右衞門府守之。若不勤守致破損者。申官拘留官符要劇馬料。

漏刻新舊

凡懸陰陽寮漏刻臺新舊縵二條。隨破損即充行。

幄縵

凡在省紺幄十一宇。五丈紺幄八宇。紺輕幄七宇。布縵百廿四條。皆收別倉。隨事供設。若有破壞者申官縫換。但故幣者。任充公用。

凡春日祭。外記史各一人。別絹二疋。綿二屯。細布二端。布二端。太政官史生辨官史生各一人。別當色一具。絹一疋。綿二屯。布二端。官掌一人。召使二人。各當色一具。使內藏五位官一人。絹七疋。調布七屯。細布五端。布五端。史生二人。各當色一具。絹一疋。調綿二屯。商布三端。賫幣仕丁一人衣。商布一段。近衛少將一人。絹六疋。綿六屯。細布五端。布五端。近衛十二人。別帛一疋。綿一屯。布一端。刀緒䌷緋帛七尺五寸。布帶䌷細布一丈四尺。馬寮五位官一人。絹六疋。綿六屯。細布五端。布五端。馬部一人。貲布四丈。紅花大一斤。（染衣䌷。）御馬十二疋。別結額䌷淺緋絲二兩。韁鞚腹帶各一條。（韁鞚長四尺二寸。腹帶長七尺。）䌷曝布三端一丈四尺四寸。

凡大原野祭。使內藏允一人。絹三疋。綿六屯。細布五端。史生一人。當色一具。絹一疋。綿二屯。曝布一端。賫幣仕丁一人。商布一段。近衛將監一人。絹二疋。綿二屯。細布二端。近衛十人。別帛一疋。綿一屯。布一端。刀緒䌷緋帛七尺五寸。帶䌷細布一丈四尺。馬寮允一人。絹二疋。綿二屯。信濃布三端。布二端。御馬十疋。結額䌷緋絲一絇八兩。韁鞚腹帶䌷布二端三丈二尺。

凡奉鹿島香取社幣帛之日。結物忌三人。（鹿島一人。香取二人。）別紫纈帛三丈。纈帛六尺。絹一疋。綿二屯。每社宮司禰宜祝各一人。別當色一具。社別雜給䌷。緋絲廿絇。使藤原氏六位已下一人。當色一具。夾纈紅膈纈。紅支子帛各一疋。中縹帛二疋。絹二疋。調綿廿屯。細布三端。內藏寮史生一人。當色一具。絹二疋。調綿六屯。曝布二端。賫幣夫二人。別衫一領䌷。紺布二丈。帶䌷布八尺。

凡正月最勝王經齋會講讀師法服。并衾䌷絹綿等。先會下充令裁縫之。（其見二從儀式一。）

凡年分度者布施。人別布二端。預前請取。正月齋會。終日與講師以下共施。

凡正月修眞言法所。三寶布施。絲廿絇。綠絁四丈。細布一端。阿闍梨一口布施。絹三疋。綿十屯。布三端。僧十四口。

〔韁鞚〕手綱也、韁は釋名に、韁疆也、言、不ㇾ得二出疆限一也とあり、鞚は玉篇に馬勒也、と見えたり。（諸祭裝束）

〔紅〕內藏式になし衍字ならむ。

〔布施〕梵語檀那の譯にて、布襯捨施の義、廣く人に福利を施與する義なるも、爰は僧に與ふる祿を云ふ。

〔眞言法云々〕正月八日より七日間大內裏眞言院に於て金光明最勝王經を講說して、國家平安五穀豐饒を祈請せらるゝ儀也、これを眞言院御修法又は後七日御修法と云ふ。（御齋會法服）

〔大元法〕正月八日より七日間治部省に於て大元帥明王を本尊として行ふ大法會也嘉祥四年より朝廷に於てこの事あり。

大元布施

〔定心院〕延曆寺九院の一也。

十寺住僧

〔西塔院〕延曆寺の一寺域にして、東塔の西北横川の南に在り〔釋迦堂〕又た法華延命釋迦院と云ふ西塔の本堂にして、天長二年の建立也。

悔過料

寺々菜料

〔戒壇十師〕比丘の具足戒を受くる時列する戒和尚、羯磨師、教授師及七人の證師これ也。

別絹二疋。綿五屯。布二端。沙彌十五口。別絹一疋。綿二屯。布一端。辨備佛供沙彌四口。別布二端。綿二屯。褁布施料商布四段。木綿大一斤。

同月修大元法所。三寶布施。細布一端。阿闍梨一口布施。絹三疋。綿十屯。布三端。僧十四口。別絹二疋。綿五屯。布二端。沙彌十五口。別絹一疋。綿二屯。布一端。辨備佛供沙彌四口。別布二端。綿二屯。褁布施料商布三段。木綿大一斤。

凡布施東西兩寺幷畿內諸寺常住僧尼料綿九千二百屯。內供奉十禪師料五百屯。毎年九月以前付綱請取。平等施之。延曆寺料八百屯。不經綱所直充。若十禪師住此寺者割其料內同充。

凡梵釋崇福兩寺僧料綿二百屯。毎年九月五日以前送之。

凡延曆寺定心院正月悔過布施料細屯綿卅四屯。（三寶幷脇侍菩薩梵釋四王合十一座布施料。座別四屯。）十禪師布施絹廿疋。（別二疋。）綿百屯。（別十屯。）布施卅端。（別三端。）毎年十二月廿日以前送之。

凡延曆寺西塔院釋迦堂正月悔過布施者。三寶料細屯綿十二屯。（座別四屯。）五僧料絹十疋。（人別二疋。）綿五十屯。（人別十屯。）調布十五端。（人別三端。）毎年十二月廿日以前申請運送之。

凡戒壇十師幷沙彌菜料。昆布十三斤十二兩。紫菜青苔海松凝菜鹿角菜於期菜各十一斤八兩。海藻廿七斤九兩。滑海藻十三斤十二兩二分。小豆七斗七升九合一勺。芥子五升八合八勺。糟醬末醬各二斗二升五合。醬四斗四升一合。鹽六斗六升一合五勺。油一斗四升七合。炭十一斛。薪廿八荷。二月卅日以前申官受省充之。

凡延曆寺三月試度年分沙彌四人幷試師幷使等菜料直布四端。二月以前省家申請運送寺家。

凡延曆寺八月試度年分沙彌四人幷試師幷使等菜料直布四端。及九月十五日修灌頂一業僧菜料商布五端。合九

〔地藏悔過〕地藏菩薩に對して罪過を懺悔する法也。

〔海印寺〕山城國乙訓郡神谷村に在る寺也、弘仁十年僧道雄の開基にして、千手觀音を本尊とす。

〔華嚴宗〕華嚴經を所依として開きし宗派也、我國には天平八年唐の道璿律師始めてこれを傳ふ。

〔年分沙彌〕年分度者也、每年人員を限り度牒を與へて僧となるを許し高僧に附せるを云ふ。

〔給納〕京貞二本に據り給字を補ふ。

端、省家申請。七月以前送彼寺。

凡延暦寺西塔院三月試度沙彌一人、說師使等菜料直布二端、省家申請。二月以前送彼寺。

凡嘉祥寺三月十月兩度地藏悔過、布施料細屯綿卅屯、佛聖二座料。布卅八端。庸布十二段、僧沙彌十二口布料。絹十二疋。庸綿五十屯、布廿六端、庸布十二段、同僧沙彌冬料。錢四貫文、二貫文二度客僧布施料、二貫文二度雜用料。會月以前送之。

凡海印寺試華嚴宗年分沙彌一人日、衆僧菜料直布一端、二月以前送之。

凡掃正倉院料、米二斛、滓醬一斗、鹽五升。每年六月申官受用。

正倉守

凡巡撿正倉院衛府等、巡否之狀。每日召問御倉守等。若不巡撿者、卽申官。

受納調庸

凡受納調庸雜物者、國帳在省、先可納狀申官。期月之後、廿日以前隨次收納。假令近國十一月廿日以前。中國十一月廿日以前收訖之類。其絁絲綿布者、每國品別割置僞樣、至于後年以此比挍、違卽勘返。

凡調庸雜物、所司撿覆、如有麁惡、隨事勘却、且撿且納、莫致民苦。

出納

凡受納出納者、先申辨官。辨官仰諸司、共集然後給納。諸司官人見臨物式。

返上雜物

凡諸司返上雜物者、並待符到撿納正倉。若印書到後一月不進者、具錄色目。每月申官不勤催納。致有亡失、交替之日勘解由。

出納帳

凡出納庫物者、諸司各作出納帳。共署卽頭記受人姓名。

日收

凡諸國所貢調庸物。本司勘訖、諸司會集之日使國司引部司進就。版進日收文。

麁惡買換

凡諸國所進調庸等物。緣麁惡短狹及欠失等若有買換者、撿納之日、使捺省印。

別納

凡諸國所貢絹、擇其最美一千疋。每年別納。

〔國印〕公式令に、諸國印、方二寸上京公文、及案、調物則印、とあるはこれ也

〔一端〕古本及び雲本一字を缺く、衍字なるべし。

〔結政所〕「カタナシ」と訓む、外記廳の南に在りて外記政始の儀を行ふ所也。

〔正月三節〕白馬、踏歌、射禮を云ふ

〔五月以後三節〕端午、重陽、豐明を云ふ。

染布　國解文　商布　漆　錢　舊納　出給　出御服日　忌火等祭　膳部當色　充倉

凡諸國所貢染布、先割當年新紺細布八十五端、紺布二百六端、緑布百七十四端、以其所遺充臨時用。

凡諸國例進交易雜物、非有國解文、不可輙納。

凡諸國所進交易商布者、其端別注某國郡年月日色直稲若干束、外端捺國印二處、內一端一處。

凡諸國交易商布、洗曝進之、若猶有違返却其物。

凡諸國所進年新漆、先令內匠寮定其品、卽蓋上記定品之人名、然後納庫。

凡鑄錢司所貢錢、雖文字不明、而不失體勢、無妨行用者莫擇弃。

凡筑摩御厨舊納不進者、不得充行新造新物。

凡應出給者、皆隨符到。其出給總目、每朔日朝進結政所。

凡每月十三日廿七日、爲出御服雜物之日。

凡奉行御服物之日、出納諸司與內藏寮官人相共入庫選進。

凡御。幷中宮御贖、及祭忌火庭火御竈神平野御竈神新雜物、神祇官所受者、待彼官移文充之、春宮坊。幷齋院司所祭亦同。陰陽寮所受、待中務省移文充之。

凡進物所膳部六人、正月三節。五月以後三節、當色新絹三疋、紺望陀布三端、每年兩度充行。

凡絁百廿疋、調綿二百屯、每年十二月申官充穀倉院。

凡遣太宰府染新綾二百疋、每年四月以前擇定付內藏寮。

凡綿一百五十屯、古幣幄四宇、每年冬季充施藥院、均分給彼院及東西悲田病者孤子等。

凡諸司給春夏祿者、辨官式部兵部彈正並集積祿物畢、彈正巡撿、卽省申辨官、辨官宣命、訖式部兵部唱名、省

（内外命婦）一節祿 五位以上を帶せる婦人を內命婦と云ひ、五位以下の人の妻を外命婦と云ふ。

十六日（十六日節）踏歌の節也

（未レ冠）未だ元服せざるを云ふ。

十七日（十七日節）射禮の儀也。

五月五日（內規）的の中央也規とは的に畫いたる三重の輪廓を云ふ。

正月七日節。十一月新嘗准此。

皇太子絁八十疋、綿五百屯。一品絁卌五疋、綿三百五十屯。二品絁卌疋、綿三百屯。三品絁卅五疋、綿二百五十屯。四品絁卅疋、綿二百屯。無品絁廿疋、綿一百屯。太政大臣絁七十疋、綿五百屯。左右大臣各絁五十疋、綿四百屯。大納言絁卅疋、綿二百屯。中納言絁廿五疋、綿一百五十屯。三位參議絁廿疋、綿一百屯。四位參議絁十五疋、綿六十屯。一位絁卅疋、綿二百屯。二位絁廿五疋、綿一百五十屯。三位絁十五疋、綿八十屯。四位絁六疋。綿卅屯。五位絁四疋、綿廿屯。外五位絁三疋、綿十屯。內命婦准此。六位女王絁一疋、綿四屯。女王明日給之、若帶官亦同。

十六日節。

皇太子綿三百屯。一品一百七十屯。二品一百五十屯。三品一百卅屯。四品一百十屯。無品七十屯。未レ冠減二廿屯一。太政大臣二百五十屯。左右大臣各二百屯。大納言一百卅屯。中納言一百屯。三位參議七十屯。四位參議五十屯。一位一百卅屯。二位一百屯。三位五十屯。四位卅屯。五位廿屯。內命婦准レ此。

十七日節。

大嘗著諸衛裝束者、一品一箭著內規布卅五端。中規廿端。外規廿五端。二品著內規卅端。中規廿五端。外規廿端。三品四品著內規廿五端。中規廿端。外規十五端。無品准レ此。諸王諸臣三位已上各准當品。其四位著內規廿端。中規十五端。外規十端。五位著內規十六端。中規十二端。外規六端。六位七位著內規八端。中規六端。外規四端。八位以下白丁以上著內規五端。中規四端。外規三端。著レ皮者。五位已上一端。六位已下庸布一段。二箭並著倍給。

五月五日節。

九月九日

〔文人〕文章生の別稱、また進士とも云ふ、擬文章生の省試に及第したる者の稱也。

賭物日祿

〔賭弓〕射禮の翌日即ち正月十八日主上弓場殿に臨幸、左右近衛・左右兵衛の舍人の競射を叡覽する儀也、貞觀二年始めてこの儀ある。

諸使給法

〔按田使〕土地の災害、荒廢、新生等の檢査、班授の零畳、開墾の成否の按勘、私田の隱沒の勘出をなす爲めの使也。

〔征夷使〕蝦夷を鎭撫する使也、養老四年征夷の稱始めて起る。

騎射近衛兵衛祿者、每中一的給布一端。

九月九日節。

皇太子綿三百屯（賞文人者。加二一百屯。）一品一百九十屯（文人加二七十屯。）二品一百七十屯（文人加二六十屯。）三品一百五十屯（文人加二五十屯。）四品一百卌屯（文人加二卌屯。）無品七十屯（文人加二卌屯。）太政大臣二百五十屯（文人加二七十屯。）左右大臣各二百屯（文人加二六十屯。）大納言一百卌屯（文人加二五十屯。）中納言一百屯（文人加二卌屯。）三位參議七十屯、四位參議五十屯、一位一百卅屯、二位一百屯、三位五十屯。（已上文人各加二卌屯。）四位卅屯（文人加二卌屯。）五位廿屯。外五位十五屯（文人加二十屯。）六位已下文人十屯。

凡諸節會日給祿者、中務式部隨簡名省即頒給、（大射祿省獨頒給。）若有殘者、辨官幷省共修奏狀、附內侍司殘。（賭弓畢後納之藏人所。）

凡武官賭走馬輪物日祿綿六十屯。若有遺即進內侍司。

諸使給法。

畿內按田使。

長官絁六疋、綿十四屯、布八端、次官絁五疋、綿十屯、布五端、判官絁三疋、綿六屯、布三端。主典絁二疋。綿四屯。布二端。

班田使。

長官絁十疋、綿廿屯、布廿端、次官絁九疋、綿十屯、布十端、判官絁三疋、綿六屯、布六端。主典絁二疋。綿四屯。布四端。

征夷使。

〔大將軍〕朝臣として出征の時三軍を統率する者即ち征夷大將軍、鎭守大將軍、征隼人大將軍等の泛稱なるが、爰は征夷大將軍即ち征夷使の長官を指す。

一蕃使

〔入唐大使〕遣唐使の長也、唐に使を遣すは白雉四年に始まり、承和元年に至るまで歷代概ね其事ありしが、其後唐の國勢衰へしより遣唐のこと全く絕えたり。

〔半臂〕兩袖の極めて短く、丈亦短き下着也、束帶の時袍と下襲との間に着す。

大將軍絁五十疋、綿一百五十屯、細布十端、布卅端、副將軍絁廿疋、綿六十屯。布廿端。軍監絁八疋。綿卅屯。布十五端。軍曹絁四疋、綿十二屯、布六端。明法師醫師陰陽師中臣忌部各絁三疋、綿八屯、布四端。大將軍已下忌部已上傔從各絁二疋、綿四屯、布四端。

入諸蕃使。

入唐大使絁六十疋。綿一百五十屯、布一百五十端、副使絁卌疋、綿一百屯、布一百端。判官各絁十疋。綿六十屯。布卌端。錄事各絁六疋、綿卅屯、布廿端。知乘船事譯語請益生主神醫師陰陽師畫師各絁五疋。綿卅屯、布十六端、史生射手船師音聲長新羅奄美等譯語卜部留學生學問僧傔從各絁四疋、綿廿屯、布十三端。雜使音聲生玉生鍛生鑄生細工生船匠柂師各絁三疋、綿十五屯、布八端、傔人挾杪各絁二疋。綿十二屯、布四端。留學生學問僧各絁卌疋、綿一百屯、布八十端。還學僧絁廿疋。綿六十屯、布卌端。已上布各三分之一給上總布。水手長絁一疋、綿四屯。布二端。水手各綿四屯。布二端。柂師挾杪水手長及水手各給帷頭巾巾子腰帶貲布黃衫著綿帛襖子袴及汗衫褌貲布半臂。其渤海新羅水手等。時當熱序者、停綿襖子袴。宜給細布袴。並使收掌臨入京給。其別賜。大使彩帛一百十七疋。貲布廿端。副使彩帛七十八疋。貲布十端。判官各彩帛十五疋。貲布六端。錄事各彩帛十疋。貲布四端。知乘船事譯語各彩帛五疋。貲布二端。學問僧還學僧各彩帛十疋。

入渤海使絁廿疋。綿六十屯。布卌端。判官絁十疋。綿五十屯。布卅端。錄事絁六疋。綿卌屯。布廿端、譯語主神醫師陰陽師各絁五疋。綿卅屯。布十六端。史生船師射手卜部各絁四疋。綿廿屯。布十三端、雜使船工柂師各絁三疋。綿廿屯、布十端、傔人挾杪各絁二疋、綿十屯、布六端。水手各絁一疋、綿四屯。布二端。

入新羅使絁六疋、綿十八屯、布十八端。判官絁四疋。綿八屯。布八端。錄事大通事各絁三疋。綿六屯。布六端、史生

十人。

布幕一宇、〈六幅、長〉料細布二端二丈二尺、裁帛六條〈長各一丈九尺五寸〉、二斤〈長〉料細布一端一丈九尺五寸。〈已上並白布裏、其數各准表〉裁得六條、〈長各七尺九寸、片別四條〉紐卅條〈長各一尺二寸、廣六寸四重〉料細布九尺、縫料生絲大二兩、長功日六人、中功日七人、短功日九人。

袍幔一條〈長六丈、四幅〉表裏料帛各四疋〈其色隨時處分〉、貫柱紐卅二條〈長各一尺、廣八寸〉料帛一丈二尺六寸、囲柱紐一條〈長各一尺九寸、廣三寸〉料帛三丈二尺、縫料練絲三兩。長功日三人、中功日三人半、短功日四人。

布幔一條〈長四丈二尺、三幅〉表裏料細布各三端、紐廿條〈長各二尺八寸、廣三寸〉料細布六尺、綱五丈二尺、料熟麻大一斤、縫料生絲三兩。長功日二人半、中功日三人、短功日三人半。

五行器。大鈎卅一枝。樽卅二口。木杓七十口。

織部司

七月七日織女祭。

五色薄絁各一尺、木綿八兩、紙廿張、米酒小麥各一斗、鹽一升、鰒堅魚腊各一斤、海藻二斤、土椀十六口。加盤。坏十口。席二枚。食薦二枚。錢卅文。

右祈物請諸司辨備。造棚三基〈二基司家祈、一基臨時所祈〉。祭官一人、祭郎一人。供事祭所。祭郎先以供神物次第列棚上。祭官稱再拜。祝詞訖亦稱再拜。次稱禮畢。

年祈。

〔廿條〕もと一條に作る、雲本に據りてこれを改む。

〔織部司〕綾錦羅の織出及雜染の事を掌る司也、允恭天皇の御宇始めてこれを置く。

五行器

〔織女祭〕七月七日の夕織女牽牛の二星を祭る儀にて、又た七夕祭と云ふ。

織女祭

〔盤〕其物を盛る器其形丸盆に似たりと云ふ。

年祈

〔冠羅〕冠に用ふる羅也、冠は位階によりて色と紋とを異にし、吉兇慶弔によりて型式を別にせり、羅は「ウスモノ」と訓み、うすく織りたるものゝ總稱也。

雜織 羅 紗 綾

〔熟線綾〕貞丈雜記に「熟線綾と云ふは、熟したる線にて織りたる綾なり熟の字の心は隨分精しく念を入れるを云ふなり、糸のこしらへに念を入れ、極上の糸にて織りたる綾を、熟線綾と云ふ也」とあり。

冠羅四疋。一疋無文。[illegible]廿二疋。白綾廿疋。色綾廿疋。二色綾八疋。錦[illegible]疋。兩面十二疋。白廣紗卅疋。

右依前件。若有改換者。支度功程別錄送省。

雜織。

冠羅一疋。長四丈。廣二尺六寸。 絲五斤十兩。織手一人。共造一人。長功日一尺一寸。無文二尺。 中功日九寸。無文一尺七寸。 短功日七寸。無文一尺四寸。

雜羅一疋。長四丈。廣二尺。綾錦兩面長廣准此。 絲二斤。織手一人。共造一人。長功二尺二寸。中功一尺九寸。短功一尺六寸。

紗一疋。長六丈。廣二尺。 絲一斤二兩。織手一人。長功八尺。中功七尺。短功六尺。

縠綾一疋。長四丈。廣二尺。 絲五斤。織手一人。共造二人。窠縠綾長功三尺五寸。中功三尺。短功二尺五寸。片行縠綾長功三尺。中功二尺五寸。短功二尺。

蟬翼綾一疋。長四丈。廣二尺。 絲二斤十兩二分。織手一人。共造二人。長功五尺。中功四尺五寸。短功四尺。

師子鷹葦遠山等綾各一疋。 絲三斤八兩。織手一人。共造二人。長功四尺五寸。中功三尺五寸。短功二尺五寸。

一窠二窠。及菱小花等綾各一疋。 絲三斤八兩。織手一人。共造二人。長功五尺五寸。中功四尺五寸。短功三尺五寸。

單綾一疋。長四丈。廣二尺。 絲三斤二兩。織手一人。共造二人。窠單綾長功四尺。中功三尺五寸。短功三尺。片行單綾長功三尺五寸。中功三尺。短功二尺五寸。

熟線綾一疋。長四丈。廣二尺。 絲六斤二分。織手一人。共造二人。功程同上。

浮物一疋。長四丈。廣二尺。 絲六斤二分。織手一人。共造二人。長功三尺。中功二尺五寸。短功二尺。

〔白地襪錦〕襪に用ふる白地の錦也、襪は「シタウヅ」と訓む、「下沓」の義也、履の下にはくものなれば云ふ。

〔大暈繝錦〕疊のへりに用ふ、暈繝は白地に種々の糸を以て花類を織り付たる織物を云ふ、一に繧繝と書く、貞丈雜記に「繧繝本字は、暈繝也、繝は錦の名、色々の糸を以て文を織る、文形一定せず、暈は「カサ」にて、錦の文形の廻を同色にて濃、中、薄と重ねて三重にへりを取りて織る、色、日月の廻の暈の如くなるを以て暈繝錦と云ふ、天皇院の御座に此疊を敷く」とあり。

二色綾一疋。新絲四斤十一兩。織手一人。共造二人、長功五尺、中功四尺五寸。短功三尺五寸。
長副錦一疋、新絲十一斤十一兩。織手一人。共造一人。長功一尺八寸。中功一尺五寸。短功一尺二寸。
緋地繡錦一疋。新絲十斤。織手一人。共造一人。長功一尺九寸、中功一尺六寸。短功一尺三寸。
白地襪錦一疋、新絲七斤。織手一人。共造一人。長功二尺八寸。中功二尺五寸。短功二尺二寸。
緋地五窠錦一疋、新絲七斤一兩。織手一人。共造一人。長功二尺八寸。中功二尺五寸。短功二尺二寸、
大暈繝錦一疋。新絲六斤一兩一分。織手一人。共造一人。長功三尺。中功二尺七寸。短功二尺四寸。
白地高麗錦一疋。新絲七斤四兩。織手一人、共造一人。長功二尺七寸、中功二尺四寸。短功二尺一寸。
韓紅地二窠錦一疋、新絲十一斤十三兩。織手一人。共造一人。長功一尺八寸。中功一尺五寸、短功一尺二寸、
小珠暈錦一疋、新絲十三斤三兩。織手一人。共造一人。長功一尺七寸。中功一尺四寸。短功一尺一寸。
一窠錦一疋、新絲十六斤十四兩。織手一人。共作一人。長功一尺一寸。中功八寸。短功六寸、（次二種錦功程准此。）
襪腰錦一疋。新絲十五斤十四兩。
床子錦一疋。新絲廿七斤十兩。
黑綠地唐五窠錦一疋。新絲九斤十四兩。織手一人、共作一人、長功一尺九寸。中功一尺六寸。短功一尺三寸。
中縹地唐綬錦一疋、新絲九斤。織手一人。共作一人。長功二尺四寸、中功二尺。短功一尺五寸。
韓紅地細落葉錦一疋。新絲八斤。織手一人。共作一人。長功二尺八寸、中功二尺五寸。短功二尺二寸。
白地覆盆錦一疋、新絲六斤十二兩。織手一人。共作一人、長功三尺。中功二尺五寸。短功二尺。
中縹地四窠錦一疋、新絲八斤、織手一人。共作一人。長功一尺九寸。中功一尺六寸。短功一尺三寸。

〔韓紅地火打錦〕韓紅の濃色の地にて火打模様の錦也、和訓栞に「延喜式に火打錦あり、袋に用ふる錦なるべし」とあり。

〔縠皮兩面〕縠織物にて裏せる包裝用兩面の帛の表裏兩面の意也、縠は、和名抄に「縠、和名古女、其形鑛々、視レ之如レ粟也」とあり、縑に似たる薄織物也。

〔遠山〕備案抄に「きぬ等のすりには多く遠山を摺るものなれば云々」などあれば、摺形の名也。

韓紅[illegible]円窠錦一疋。新絲六斤十二兩。功程同レ上。
繝暈錦一疋。新絲十一斤。織手一人。共作一人。長功一尺五寸。中功一尺三寸。短功九寸。
蟬形繝暈錦一疋。新絲十八斤三兩。功程同レ上。
蒲萄地縹納錦一疋。新絲十斤十二兩。織手一人。共作一人。長功二尺六寸。中功二尺三寸。短功二尺。
黑絲地軟錦一疋。新絲八斤十二兩。織手一人。共作一人。長功二尺七寸。中功二尺四寸。短功二尺一寸。
中縹地後四窠錦一疋。新絲十一斤。織手一人。共作一人。長功一尺九寸。中功一尺六寸。短功一尺三寸。
韓紅地火打錦一疋。新絲六斤八兩。織手一人。共作一人。長功二尺九寸。中功二尺六寸。短功二尺三寸。
縠皮兩面一疋。新絲六斤八兩。織手一人。共造二人。長功五尺。中功四尺。短功三尺。
一窠二窠幷小花等兩面一疋。新絲各六斤八兩。功程同二縠皮兩面一。

絡絲。

生絲一斤。長功三人。中功四人。短功五人。練絲一斤。長功二人。中功三人。短功四人。
右雜織新絲幷功程依二前件一。其絲錄レ數申レ省。待二官符到一請受。練染訖即織レ之。

雜機綜絲。

冠羅綜一具。新絲九斤十二兩三分。織六疋。絁損更加二四斤一。織六斤。
師子鷹葦遠山等綾綜以二一具一通用。新絲七十五斤。織十五疋。絁損更加二卅斤一。織十五疋。
一窠綾綜一具。新絲廿五斤。織廿疋。絁損更加二十二斤一。織廿疋。
二窠綾綜一具。新絲廿一斤十兩。織廿疋。絁損更加二十斤一。織廿疋。

〔鸚鵡形羅綾綜〕此の中、「羅綾」兩字の中何れか衍字なるべし。

〔筬竹〕竹を小刀の如き形に削り、緯飯(ぬき)等を押すに用ふる者也。

〔河竹〕眞竹に同じ和名抄に「苦竹、辨色立成云、苦竹、加波多計、本朝式、用河竹二字云々竹名也」とあり。

〔錦綾織手〕內藏寮織錦綵羅手二十人の中にて、錦綾等を織る事を掌る職也。

織手衣粮

襆錦綜一具、新絲十六斤八兩。

六窠錦綜一具。新絲十五斤。

大暈繝錦綜一具、新絲十三斤、綾十七疋。絁損更加六斤。綾十七疋。

縠皮兩面綜一具、新絲十六斤八兩。綾廿疋。絁損更加五斤。綾[illegible]疋。

腰錦二疋綜一具、新絲廿四斤十四兩二分。隔六年請。

鸚鵡形羅綾綜一具。新絲卅七斤十二兩二分。

大菱形羅綜一具、新絲七斤三兩。

九點羅綜一具。新絲七斤三兩。

四窠綾綜一具。新絲十九斤。

右件十三具等綜、新造之後、經三箇年修理、更經三箇年改換。其新物具錄經奏請受所司。

凡雜機用皮新筬竹河竹各百株、每年山城國進、又筬六百株大和國進。

織手共造機工卅五人、各給粮日黑米二升。間食四合、薄機織手五人。各日白米一升六合。絡絲女三人。各日米一升五合、并夏冬時服申省請受、其今良男十人女廿人、衣粮不經本寮便受所司。

凡定額作手并今良加物布綿代、以讚岐國庸米運送於司家。

凡內藏寮錦綾織手、勘籍廿人直司家。其考文送彼寮。

凡宮人三人不給考祿。

凡不仕物、并定額人帶衛府者衣粮充司家雜用。

延喜式巻第三十

延長五年十二月廿六日

外従五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

従五位上行勘解由次官兼大外記紀伊権介臣伴宿禰久永

従四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位左近衛大将皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第三十一

〔小齋人〕特に齋戒を嚴にして、物忌する人を云ふ、服裝は（小齋卜）小忌衣を着る和訓栞に「小忌は新嘗大嘗の時に云ふ詞也、小齋とも書けり、大忌に對す、此大小、麁細を云ふ也、小忌は致齋の如く眞忌也」とあり（神今食小齋）

〔八男八女〕八人の小齋男、八人の小齋女の意也、男女小齋人のありし事は、江次第に「小忌公達、小忌女房」等の名あるを以つても知るべし。（新嘗小齋）

宮內省

凡卜供奉神事小齋人者、其日神祇官副祐各一人。率宮主卜部等、先就宮內廳座、次中務丞錄幷宮內丞錄各一人。率史生等分就西廂舍座、時中務引女官等就其名簿移送宮內、次文武官各引官人已下雜色已上等亦送名簿、記宮內錄申諸司名簿進了之狀於神祇官、其詞曰、宮內省司司能兆人能名簿進了申。神祇副宣始自八男八女至御膳司人等次次令參進、錄稱唯復本座、時中務官人已下退出。卽隨次令昇、讀、先卜八男已下御膳司人等、次諸司人等訖散去。

供奉神今食小齋。

神祇官卅人 伯已下御巫已上 太政官六人、中務省三人、侍從三人内舍人四人内記一人。監物一人、主鈴一人。典鑰一人。大舍人寮十二人、内藏寮六人、縫殿寮二人。命婦已下宮人已上卅人。命婦十人。宮人廿人。宮內省三人、主殿寮廿二人、典藥寮四人、掃部寮七人、内膳司八人、造酒司二人、采女司十二人、主水司六人、左右近衞府官人各五人。近衞各卅人、兵衞各六人。駕輿丁各八人。已上供奉御。女五位三人、女孺已下十七人、左右近衞府官人各二人、近衞各十人、駕輿丁各八人、主水司官人已下四人、左右近衞各二人。已上供奉中宮。

供奉新嘗小齋。

命婦已下宮人已上卅四人。御巫五人。采女十人。

〔新嘗之寅日〕新嘗は卯の日を以つて行ふを例とす、其の寅日は、前一日也。

〔鎭魂祭〕令に「寅日鎭魂祭」と見え、式に新嘗の前日に掲げたり。

〔神八前〕四時祭式に「鎭魂祭、神八座、神魂、高御魂、生魂、足魂、鎭留魂、大宮女、御膳魂、辭代主」とあり。

〔史生二人二〕京貞二本に據り補ふ。

已上給食二度。

直相五位已上卅人。六位已下二百五十五人。兆人樂工。上卅人。下百八十七人。

已上給食一度。

中宮職。亮一人。進一人。屬一人。史生二人。舍人十人。左右近衞府將監各一人。府生各一人。近衞各十人。左右兵衞府尉各一人。兵衞各三人。

已上給直相食。

同宮兆人卌二人。女五位三人。女孺已上十七人。駕輿丁各八人。外記一人。史生一人。史一人。史生一人。主水司二人。

凡先新嘗之寅日。供御並中宮鎭魂祭。神八前。大直神一前。供奉諸司上十人。中卅人。下二百六十人。並給食。新嘗之後巳日。東宮鎭魂祭神并大直神。及人數亦准此。

大嘗小齋

供奉踐祚大嘗小齋。

神祇官一百五十人。伯已下。史已上七人。史生四人。宮主一人。彈琴二人。巫部一人。神部廿四人。卜部十八人。使部十二人。忌部五人。神服七十六人。太政官十人。中納言已上一人。參議一人。外記二人。史生二人。史二人。史生二人。中務省七人。輔一人。丞二人。錄二人。史生二人。次侍從已上廿人。內舍人十人。內記二人。監物二人。主鈴二人。典鎰二人。大舍人寮卌二人。官人二人。史生一人。舍人卌九人。圖書寮四人。官人二人。書手二人。內藏寮廿人。官人六人。史生四人。藏部十人。縫殿寮十人。官人四人。番上六人。宮內省五人。大小輔並錄各一人。史生一人。大膳職八十四人。官人二人。史生二人。膳部八十人。大炊寮廿六人。官人二人。炊部廿四人。主殿寮廿二人。官人二人。史生已下十八人。火炬小子二人。典藥寮六人。官人二人。侍醫二人。藥生二人。掃部寮十人。官人二人。掃部八人。內膳司十六人。官人二人。膳部十四人。造酒司卅人。官人二人。酒部卅八人。釆女司四人。官人二人。釆女二人。主水司十二人。官人二人。水部十人。左右近衞府各官人四人。府生一人。近衞卌人。駕輿丁八人。左右兵衞府各官人二人。兵衞廿人。左右衞門府各官人二人。府生一人。門部廿人。語部十五人。門部

八人。內侍已下數同二每年新嘗一。

大齋。

內膳司十四人。典膳一人。膳部十三人。采女司廿八人。官人二人。采部六人。采女廿人。主水司廿三人。官人一人。水部廿二人。園柄十二人、笛工五人。

供奉神事諸司行列。

第一前頭內膳司膳部伴造一人。執二庭燎一。次采女司采女朝臣二人。左右分列。次宮主一人。執二竹杖一。次主水司水取連一人。執二蝦鰭槽一。次水部一人。執二多志良加一。次采女八人。一人執二刷筥一。一人執二巾筥一。一人執二神食薦一。一人執二御食薦一。一人執二神八枚手筥一。一人執二御枚手筥一。一人執二鮮物干物筥一。一人執二御菓子筥一。但新嘗祭加二二人一分執二箸筥干物筥一。次內膳司高橋朝臣一人。執二鰒汁漬一。次安曇宿禰一人。執二海藻汁漬一。膳部五人。一人執二[illegible]坏一。一人執二海藻羹坏一。二人舁二[illegible]案一。但一人守レ棚不レ行レ列。次造酒司二人。官人一人、酒部一人。舁二酒案一。但新嘗祭加二二人一。舁二黑白酒案一。

凡踐祚大嘗會夜。輔二人於二廻立殿下一候之。天皇御二悠紀主基殿一。各分二左右一膝行。且舖二御前道葉薦一。遷二御廻立殿一亦如レ此。具見二掃部寮式一。

凡神今食新嘗祭夜。丞錄各一人與二神祇官一共侍二內裏一。檢二校御膳進退一。

凡新嘗祭所レ供官田稻及粟等。每年十月二日。神祇官史各一人率二卜部一。省丞錄各一人率二史生一。共向二大炊寮一卜二定應レ進二稻粟一國郡一。卜了省丞以二奏狀一進二內侍一。內侍奏了下レ官。官卽仰下。

凡神今食新嘗祭明日平旦大殿祭。省輔已上率二諸忌部等一至二延政門一。令二大舍人叩一レ門。闈司傳宣如レ常。輔入奏。諸奏事皆輔奏之。其詞曰。宮內省申久。大殿祭此云二於保登能保加比一。供奉牟神祇官姓名率二忌部一氏候登申。

凡神今食新嘗會所レ須。卜坏廿口。卜竹廿株。日影二擔。並申レ官請受。

凡釀二新嘗黑白二酒一者。每年九月二日省與二神祇官一共赴二造酒司一卜下應レ進二酒稻一國郡上。訖省丞以二奏狀一進二內侍一。內

〔高橋朝臣〕高橋朝臣の內膳司を職とすることは、姓氏錄第二左京皇別上に「高橋朝臣、同祖、大稻輿別命之後也、景行天皇、巡二狩東國一、(駿字)供二獻大蛤一、于時、天皇喜二其奇美一、賜二姓膳臣一、天渟中原瀛眞人天皇(諡天武)十二年、改二膳臣一賜二高橋朝臣一」とあり、其の緣由を知るべし。

〔安曇宿禰〕姓氏錄第十五卷、地祇に「安曇宿禰、海神、綿積豐玉彥神子、穗高見命之後也」とあり。

〔齋〕京貞二本に據り補ふ、

齋王祓禊

凡賀茂齋內親王四月祓禊之日、丞錄各一人、史生一人、省掌一人、率供奉諸司赴祓所。

御贖

凡神祇官年中所須、月別晦日御贖料、金人銀人各二百卌枚、鐵人廿八枚、笛笛廿枚、各仰所司色別造備、隨請充之。中宮東宮准此、其見木工式。

御卜奏

凡六月十二月奏御卜、其詞曰、宮內省申久、御體此云於保美麻。御卜供奉禮留事申給乎登申。

諸節雜器

凡供奉諸司所請、諸節幷年料雜器、皆起十一月、盡十月所用、中取机幷舂臼杵槽等、隨損請替。

最勝會

凡正月最勝王經齋會、丞錄各一人、率史生四人、日別臨檢校。

盂蘭盆

凡七月十四日早朝、丞錄各一人、率史生二人、向大膳職、檢校七寺盂蘭盆供物。

氷樣腹赤

凡藏氷之處、收氷多少、及氷厚薄、每處具錄、元日群臣未拜賀之前、省輔已上將本司人奏幷進氷樣。ヒノタメシ其詞曰。宮內省申久、主水司能今年收留太氷合若干處、氷若干室、厚者十寸已下、若干寸已上、益自去年若干室、減自去年若干室。供奉禮留事申給久。又太宰府進上留腹赤乃御贄一隻、長若干尺、進乎久申給登申。

巡行

凡車駕巡行京外、還宮日、神祇官進御贖者、省丞以上一人候宮門外奏、其詞曰、宮內省申久、御麻進牟登神祇官姓名候登申。若遊覽經宿還行宮者亦同。

菖蒲

凡典藥寮五月五日進菖蒲、省輔已上與本司共入奏進、其詞曰。宮內省申久、典藥寮能進五月五日能菖蒲、又人給乃菖蒲進登申。

藥

凡十二月晦日平旦、輔以上率典藥寮奏進年新御藥幷人給白散、及處藥樣。色目見本司式。其詞曰。宮內省申久、典藥寮能供奉留元日御藥、臘月御藥、人給白散、又處藥樣進登申。

諸節

凡諸節賜群官祿者、正月一日十六日九月九日等三節、親王已下次侍從已上及命婦、大歌立歌人國栖笛工、九月九日

〔四月祓禊〕賀茂齋王初齋院にて三年間祓禊齋終りて後、四月上旬吉日を選びて野宮の齋院に入る、當日齋王輿にて祓所に向ふ、勅使大納言以下供奉し、儀衛盛なり、儀畢つて齋院にて賜祭を行ふ、祓所は仁明天皇以來鴨河と定まれり、此れを四月祓禊と云ふ。

〔寮〕一本に據りて補ふ。

〔月〕典藥式に據りて補ふ。

〔大歌立歌人〕大歌と立歌を仕ふる人の意也、大歌は五節の時、舞妓殿上人等の奏する歌曲なるを云ふ、續紀天平元年の條に「十一月丁卯御二太政官一、行二大嘗會事一云々、己巳宴二五位以上一、奏二雅樂及大歌於庭一」云々とあり、又立歌は、古代より傳はりたる本邦固有歌曲、樂師等階下に立ちながら奏する故に名付く、大嘗會及び正月元日、同七日の節會の時奏す

〔御薪〕

貞觀儀式の元日豐樂院宴會儀の條に「掃部寮二立歌座一、治部雅樂省寮、率二工人一參入奏歌」と見えたり。

〔諸國贄〕

笛工大歌立歌人四十人。正月七日十七日五月五日七月廿五日十一月豐節會等。親王已下五位已上及内命婦大歌立歌人國栖笛工。[illegible]

凡諸節會給饗者。當日平旦陳二設饗具於便處幄下一。大膳官人已下膳部已上執饌。承[illegible]率二史生等一檢二校饗具一。群官未レ入之前。大膳職造酒司預陳。

凡正月五月兩節供奉諸司伴部者。預前申レ官。並給二衫襷一。色目見二本司式一。

凡諸司供膳人等給二潔衣并褌一。

凡供奉雜物。送大膳大炊造酒等司者。皆駄韉上竪二小緋幡一以爲二標幟一。其幡一給之後。隨レ破請替。以二内侍印一印之。

凡毎年正月十五日。辨官及式部兵部會二集於省一。相共檢二校諸司所レ進御薪一。訖省丞錄各一人率二史生二人一。就二主殿寮一。檢二校御薪數并好惡一。其行事諸司給二粥并酒食一。

凡正月十六日。於二省廳一給二男女饗一。丞宣命。其詞曰。今宣久常毛給大食給波久登宣。

凡遭穢之人御薪者。過二穢限一後令レ進。

凡彈正巡檢之日給二百度食一。

諸國所レ進御贄。

山城大和攝津河内和泉志摩近江等七國。年中節料。大和志摩若狹紀伊淡路等五國。年中旬料。參河若狹紀伊淡路等四國。正月三日節料。並付二内膳司一。伊賀尾張美濃越中丹波丹後播磨美作備前紀伊阿波等十一國。同三節雜給料。付二大膳職一。

諸國例貢御贄

〔國〕一本によりて補ふ、以下の國字皆同じ。

〔鱸〕和名抄に「鱸 和名、須々木、似鱖而[illegible]大[illegible]者也」とあり。

〔榛子〕和名抄に「榛子 云々、和名、波之波美、榛栗也」とあり。

〔礒礪〕礪の小さきものを云ふ。

〔甘葛煎〕甘葛を煎じ出したる汁にて甘味の料也、甘葛は和名抄に「千歳藁、和名、阿末都良、俗甘葛」とあり。

〔甘子〕和訓栞あまごの條に「伊勢の菰野と云ふ所に出でたる魚にて年毎に六月の十六日に内宮に奉る者也」とあり。

〔府〕雲本によりて補ふ。

山城國〈平栗子、氷魚、[illegible]〉。大和國〈干棗。榛子〉。河内國〈[illegible]、木蓮子〉。攝津國〈皮蘭。[illegible]〉。和泉國〈[illegible]〉。伊勢國〈椎子。[illegible]〉。志摩國〈[illegible]〉。尾張國〈雉腊。〉遠江國〈甘葛煎。甘[illegible]〉。駿河國〈甘葛煎。甘子〉。伊豆國〈甘葛煎〉。甲斐國〈青栗子〉。相摸國〈甘葛煎、[illegible]子〉。近江國〈椿子、氷魚、鮒、[illegible]、木魚〉。信濃國〈梨子、干棗、[illegible]〉。越後國〈甘葛煎〉。陸奥國〈昆布、[illegible]〉。若狹國〈毛都久、於期、[illegible]、生鮭〉。越前國〈甘葛煎、椎子、[illegible]〉。丹波國〈甘葛煎、椎子、平栗子、搗栗子〉。丹後國〈甘葛煎、生鮭〉。但馬國〈搗栗子、年魚、生鮭、[illegible]〉。因幡國〈甘葛煎、椎子、甘子、栗子、干棗、[illegible]〉。播磨國〈椎子、栗子〉。美作國〈甘葛煎、搗栗子、鮨年魚〉。備前國〈甘葛煎、水母〉。備中國〈甘葛煎、諸成〉。阿波國〈甘葛煎、甘子〉。太宰府〈甘葛煎、木蓮子〉。

右諸國御贄、並依前件。省卿檢領、各付所司。例貢御贄、直進内裏。其甲斐相摸信濃太宰等進抄申官行下。〈納御贄年准此。〉自餘諸國省與返抄。

凡太宰府所貢御贄者、調物一千二百九十二斤、中男作物及梁作并厨作等物。斤物一千七百七十八斤。斗物二石二斗八升。並收贄殿。其收贄之日、省丞録各一人、史生一人共就贄殿檢納。畢申官給返抄。

諸王

凡給諸王時服者、歳滿十二年、毎年十二月京職具録名簿進省。省付正親司勘會。訖卿率丞録申官。省丞録申官下符給之。

凡給男王春秋時服者、丞録史生各一人、向正親司勘見參者給之。若不參過百日者、申官返上。〈女王不在此限。〉

凡親王諸王名籍者、皆於正親司案記。其有品内親王若有請事者申省。省受申官。即勘參及勅召者、申諸殿寮。又内侍知之。

凡無位諸王卒者、待京職移下符正親司勘會申省、省即申官。

〔省營田〕官田也、下文の「營官田」とあるに同し、官田とは、供御に充つる田を云ふ、御稻田にて、昔の屯田に同じ、後世の禁裏御料の類也、不輸租田とす、之れを宮內省或は國司に於て營耕すれども、皆人に付して佃らしめ、地子地價等を納めしめて公用に充つる也、宮內省にて營むを省營田と云ひ、國司にて營むを國營田と云ふ、本式に山城、大和、河內、和泉、攝津五ヶ國にて、省營田四十町、國營田四十六町を置きたり。

〔國栖〕大和國吉野郡國栖より獻る舞人を云ふ。（一三一頁參照）

凡省營田卅四町〈大和國九町。山城河內二國各八町。攝津國十五町。〉獲稻町別百束。割其苗子充省料。其造酒司新米二百十二石九斗二升六合九勺九撮、國司各割獲稻之內充功賃令春運之。

凡省營田稻踰年之後、不任供御者悉售糙收納別倉。莫混正稅。

凡省營田收納帳、自宮下省、即令大炊寮支度年中供御稻糯粟等數申省。省即申官。官下符民部省令省奉充。〈中宮東宮亦同。〉

凡營官田者、當國長官專當行事。若有遭損者、省遣丞已下一人、史生一人巡檢。其收獲多少及用殘數、並省奏聞。其詞曰、宮內省申久、內國今年供奉一宅田合若干町、獲稼若干束、其年以往古稻若干束、惣若干束供奉流[illegible]事乎申給登波久申。

凡應給諸司月料魚宍者、省司每月臨勘廚庫見物多少、及可獲之物申官充用。仍致盡官。臨時雜用准此。

凡出納官物者、諸司及本司並給日度食。〈諸司官人預見監物式。但每司各率史生一人。〉

凡諸司可返上之雜物、官符到後一月不進者、其錄色目申官。若省遺漏致怠者、交替之日、拘其解由。

凡諸國女丁者、省抄接分配諸司。其粮每月准仕丁移民部省。〈諸陵大膳之女丁、抽出充造酒司令春酒米。〉

凡諸節會、吉野國栖獻御贄奏歌笛。每節以十七人為定。〈國栖十二人、笛工五人、但笛工二人。在山城國綴喜郡。〉其十一月新嘗會給祿。〈有位調布二端。無位庸布二段。〉

凡被管諸司考選文、幷內親王家令已下考文、六年一除。

凡典藥寮味原牛牧帳、一通年終令進。其課欠乘并斃死及用遺等、省共勘知。

凡蕃客貢其雜物者、各納本司庫、待客徒入朝之時令出用。

延喜式卷第三十一

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第三十二

大膳上

御膳神八座。

五色薄絁各五尺。倭文二尺。木綿麻各八兩。簽二口。白米五斗。糯米二斗。大豆小豆各五升。酒二斗。鹽一升。東鰒十二斤。烏賊熬海貝・蛸雜腊各六斤。堅魚九斤。雜鮨六十斤。海菜十二斤。食薦四枚。祝史料庸布二段。

醬院高部神一座。

竈神四座。

五色薄絁各二尺。倭文一尺。木綿麻各八兩。緋帛五尺。盛新。簽一口。白米三斗。糯米一斗。大豆小豆各三升。酒一斗。鹽六升。雜鰒二斤。堅魚熬海鼠腊各六斤。雜鮨十六斤。煮鹽年魚十二斤。海藻四斤。祝史料商布二段。

菓餅所火雷神一座。

五色薄絁各二尺。倭文一尺。木綿麻各八兩。簽一口。白米三斗。糯米一斗。大豆小豆各三升。酒一斗。鹽六升。雜鰒二斤。堅魚雜腊各六斤。雜鮨十二斤。海藻四斤。祝史料商布一段。

竈神四座。

五色薄絁各三尺。倭文二尺。木綿麻各八兩四分。簽四口。白米二斗。糯米一斗。大豆小豆各二升。酒一斗。鹽四升。雜鰒二斤。堅魚腊八斤。鮨五斤。海藻四斤。

御膳神

〔大膳〕「オホカシハデ」の意にして、元來食器の義也、轉じて職名となれり、是れを大膳職と云ひ、廳は待賢門の南掖、大炊寮の北、主水司の東にありて、宮内省の被官也、諸國の調雜物及び膳羞を調進することを掌る。

〔東鰒〕あづまより産するあはびの意也、鰒は、和名抄に「鰒、一名鰒、和名阿波比、云々食レ之心目精了」とあり。

〔貝・蛸〕二字の間「干」字を脫せるか。

右四祭春祈依二前件一。秋亦准レ此。但御膳帝二月十一日上酉日祭レ之。

六月神今食。十二月准レ此。

輿籠四脚。納二供神物一。簀四枚。置二供神物一。薦二俵。僕着新。

小齋給食總二百六十二人。五位已上卅人、六位已下二百人、命婦十人、女孺采女合卅七人、御巫五人。五位已上一人。醤各五勺、鹽一合、東鰒一兩、堅魚烏賊各一兩、熬海鼠腊各二兩、雜鮨九兩、鮨二兩、海藻一兩、漬菜二合、六位已下一人、醤五勺、鹽五勺、東鰒二兩、堅魚一兩、熬海鼠一兩、鮨一兩、鮨七兩。海藻二兩、漬菜一合。皇后宮小齋六位官人已下采女已上總六十八人食法准レ此。櫛二俵、箸竹八十株。

鎭魂。皇后宮東宮同。

大直神一座。

座別東鰒十二兩。大直神倍レ之。烏賊二兩一分。大直神三兩二分。堅魚六兩二分。大直神加二十二兩一。鮭一隻。大直神倍レ之。鯛楚二斤五兩。腊二斤二兩。大直神倍レ之。海藻十兩。大直神加二十一兩一。鹽一合八勺。糯米二升。大豆一合八勺七撮。小豆二合八勺。生栗子二升。搗栗子二升。干柹子一升二合。橘子二蔭。已上七種盛二四座東漢一新。自餘不レ須レ之。酒四座別甕一口。各受二一斗一。四座別坩一口。各受二五升一。大直神一缶。受二五升一。木綿二分四銖。鹿角十二合。各長一尺四寸。廣一尺二寸。深三寸。食薦五枚。居二神食一。筥新。輿籠二脚。納二筥一新。菅蓋二枚。櫛二俵。

右職司料理與二神祇官一供レ之。

雜給料。

參議已上。

人別糯米一升四合。大豆一合八勺七撮。小豆二合八勺。韲酒一合。醋四勺。醤三合。滓醤二合九勺。東鰒一兩二

「神今食」

「大直神」大直日神に同じ、伊弉諾尊、筑紫の日向の橘の小門の檍木原に禊し給ひし時に出で座せし神にて、心身を清め鎭むる事を掌り給ふ神也、一に天照大神の和魂とも申す。

〔撮〕說文に「四圭也」とあり、又、圭は、前漢書、律歷志の註に「六十四黍爲レ圭」とあり量の極めて小さきもの也、本邦古制勺の十分一となす。

〔鮨〕恐らくは腊の字の誤なるべし。

〔人〕諸本に無し、貞、京二本の六位已下の條人の字あり、據つて今之を補ふ。

〔各〕貞本に據りて補へり。

〔槲〕かしはにて、くぼてにする料なり、くぼてとはくぼてきに同じく、類聚名物考に「槲の葉をならべて竹のひごにてさしとほして丸く蓮華のやうにしたるもの」とあり。

〔六位〕今出雲本に據りて補ふ。

汁、隱岐鰒五兩、堅魚二兩一分二銖、烏賊二兩、熬海鼠二兩二分、與理刀魚五兩二分、鮭二分茎之一。雜魚楚割三兩、堅魚煎汁二兩二分、鮨三斤四兩、雜鮨十一兩、紫菜海松各三分。海藻二兩。漬菜二合、漬蒜房蒜英韮搗各二合。生栗子一升四合、搗栗子六合。干柿子三合、橘子卅三顆。木綿二分四銖。

五位已上卅人。

一人別糯米七合五勺。大豆七勺。小豆一合五勺。醴酒三勺。酢一合。醬二合、鹽二合九勺。東鰒一兩二分。隱岐鰒四兩二分、堅魚二兩一分二銖、烏賊二兩、熬海鼠二兩二分、與理刀魚五兩、鮭一分茎之一、雜魚楚割三兩。堅魚煎汁一兩一分、鮨二斤四兩、腊十兩、紫菜海松各三分、海藻二兩、漬菜二合、漬蒜房蒜英韮搗二合。滓醬二合、生栗子五合、搗栗子二合五勺。干柿子一合五勺、橘子十五顆。木綿二分四銖。

六位已下二百六十人。

一人別糯米六合七勺。大豆四勺七撮、小豆六勺、醬五勺、鹽一合七勺、東鰒二兩、堅魚二兩一分二銖。鮨二兩。鮭三兩二分、海藻二兩、漬菜二合、生栗子三合、橘子五顆。

籠筥十五合、菓筥九合、菓餅筥四合、納二肴鹽一筥二合、各長一尺四寸、廣一尺二寸、深三寸。陶高盤大盤各十口。參議已上盛二槲三枚、菓子一析、食籠二百六十合。各長一尺二寸、廣八寸。深二寸。箸竹二百六十株、筥坏二百卌口。參議已上別八口、五位已上別五口。

右依二前件。其五位已上食並盛筥。菓子雜肴盛以干柏、結以木綿。〔六位〕以下食用籠。其籠山城國所レ進。

新嘗

新嘗祭。

輿籠二脚。置簀二枚。並供神祇。

小齋給食惣三百卌四人、五位已上卅人、六位已下二百五十五人、命婦十人、女孺采女卅四人、御巫五人。五位已上一人、醬酢鹽各一合。東鰒七兩。堅魚一

兩、烏賊十二兩、熬海鼠・腊各五兩、鮨八兩、海藻十二兩、漬蒜・房蒜英各二合、漬菜一合、韮搗二合、六位已下一人、醬五勺、鹽五勺、東鰒七兩、熬海鼠・腊各五兩、海藻四兩、鮨六兩、韮搗五勺、漬菜一合、

右依二前件一、其男辰日、女卯日夕辰日日給レ之、

同小齋解齋給食總二百廿七人、五位已上卌人、六位已下百八十七人、五位已上一人、醬九勺、鹽二合二勺、東鰒二兩二分、隱岐鰒二兩、烏賊十二兩、熬海鼠二兩、雜魚楚割二兩二分、紫菜・海松各二分。海藻十一兩、漬蒜・房蒜英各一合。韮搗五勺、漬菜二合、六位已下一人、醬九勺、鹽一合二勺、大鰒三兩三分、東鰒二兩三分、海藻十一兩。

右依二前件一、辰日夕於二省家一給レ之

同會皇后宮小齋人卌二人。命婦并女孺卅人、尾張丁已上十六人。外記已下主水官人已上六人。五位一人醬五勺、鹽一合、東鰒七兩、烏賊十二兩、熬海鼠五兩、腊五兩、海藻四兩、漬菜・房并蒜花韮搗各二合、六位已下一人、醬鹽各五勺、東鮑六兩、熬海鼠四兩、鮨六兩、鯖三兩二分。海藻四兩、

同宮神態直相給食卌七人、后宮亮一人、進已下諸衛府舍人已上卅六人。五位一人醬五勺、鹽一合二勺、東鮑二兩二分。熬海鼠四兩。烏賊一斤八兩、隱岐鮑四兩、雜魚楚割五兩、海藻十一兩、六位已下一人醬五勺、鹽一合二勺、東鮑二兩三分、鯖三兩二分、海藻十一兩。

宴會雜給。

親王以下三位已上幷四位參議、

人別餅析粳米糯米各八合、糯糒三合、糖二合六勺、小麥四合、大豆二合、小豆二合、胡麻子二合。油一合。釜酒醅各四勺、醬二合、鹽四合、豉一勺、東鰒二兩、隱岐鰒二兩一分、堅魚一兩二分、烏賊一兩一分。熬海鼠繩貫鰒各二兩

熬海鼠、和名三才圖會に「熬海鼠、鮮者去レ腸、煮レ之、則鹹汁自出而焦黑、取出候レ冷曝乾、所謂如二小兒臂一、云云」とあり。

〔六兩〕兩は大兩と小兩との二種あり大兩に於ける一銖は今の四分强、二十四銖を以て一兩と爲す故に、六兩は五十七匁六分强となる。小兩の一銖は二分弱也、故に六兩は二十八匁八分弱也。

〔菜〕出雲本此下に蒜字あり、一本は出雲本を以て正しとすれども、今暫く舊の儘に存す　已上一弘

〔一兩〕京、貞の二本に據りて補ふ。

〔纏傳〕纏は、手次の義、古事記に見ゆ、日本紀には手繦と書けり〔賀茂〕
中山傳信錄には手巾を譯せり、纏は濕曲
拾葉抄に「千早は袖のなき羽織のやうなるもの也、凡そ長貳尺許なり、神事を行ふ時、神官著用之、大和錦又は練衣布にても之を認むる也、又、巫の舞衣をもちはやといふ、是れには袖有り云々」と見えたり。

〔窪坏〕又た窪手といふ、神に物を盛りて供ふる土器をいふ、初めは槲の葉にて造りたり。〔已上弘〕〔弘貞春日〕

〔粮〕貞、京二本に據りて補ふ。

冬加二由加二口。同。食薦八十枚。冬同。箸竹七十株。冬同。鮮魚菓子。直。冬加試料商布三段。別四尺。膳部官人今良雇夫合卅二人雜給料商布人別九尺。冬加八人料。駈使丁夫單五十人食料黑米人別日二升、鹽二勺、功直隨時。

賀茂卓祭齋院陪從等人給食料。

東鰒堅魚隱岐鰒煮堅魚各五斤四兩。雜平魚雜魚楚割各七斤十四兩。鯖百十三隻。海藻十六斤二兩。鹽八升五合九勺。醬四升二合。酢盞酒各一升。滓醬三升。醬滓一升五合。生栗子一斗六升八合。搗栗子八升四合。干柹子十連半。芋子八升四合。笋子廿一把。折櫃卅一合。大笥廿五合。「覆」敷折櫃廿一合料調布一端二丈一尺。薪五荷。炭五斗。青柏六俵。鮮物菓子。直布五端。干柏二俵。平坏二百五十二口。窪坏盞坏各八十四口。食薦卅枚。筋竹一圍。東油二升。白米三斗。膳部等食料。夫十五人。京職所レ進。黑米一斗八升。夫食料。

同祭齋院司別當已下四人食料。

東鰒堅魚隱岐鰒煮堅魚平魚楚割各十一兩。鮨腊各四斤。鹽六合。盞酒酢各六合。生栗子四升。笋子八把。覆盆柏廿把。鮮物菓子。直布五端。食薦四枚。醬六合。片盤廿四口。窪坏十六口。盞坏十六口。覆敷案四脚料曝布一端二尺。青柏一荷。薪一荷。炭二斗。夫四人。京職所レ進。黑米四升八合。鹽四勺八撮。醬滓四合。並夫食料。

春日祭雜給料。春冬並同。

白米二斛。五斗贄使糧料。一斛膳部間食料。一斗藁料。四斗祭料。酢醬各一斗五升。鹽三斗五升。東鰒卅七斤。隱岐鰒堅魚各卅七斤。縄貫鰒廿八斤。煮堅魚熬海鼠各廿九斤。雜脯卅四斤。蛸廿五斤。烏賊廿七斤。鮭六十四隻半。雜腊百廿八斤。鯖百廿斤。雜鮨五缶。堅魚煎汁三升。雜海菜五升。海藻六十二斤。芥子三升二合。雜盛腊一籠。覆敷案料信濃布四端三丈。敷折櫃一百合。布七端二丈三尺。大笥一百合。蒜一斗四升。葱三斗。蘿蔔七十把。萵苣七斗。葵三斗。芹三斗。蔓菁三

〔五〕原作六とあり今、出雲本に據りて改む。

貞大原

〔二丈〕原本には一端六尺とあり、注文及び上文覆敷料に據りて改めたり。

貞後松尾

〔漬蜀椒〕山椒の漬けたるもの也、山椒は古名を「はじかみ」といふ。

〔十〕原本には二百四口とあり、今、注文に據りて改めたり。

〔六十〕原本に無し注文に據りて補ふ。

釋奠

〔石鹽〕和漢三才圖會に「戒鹽生ニ土中一、石鹽生ニ于石一」とあり。

〔葅〕原本になし、出雲本に據りて補ふ。

斗。胡麻五升、蘭十把、已上九種内膳司所ㇾ進。弓弦葉廿七擔、青柏六俵。炬油六升。竹三擔。黑葛六斤。簀四枚。干柏三俵。食薦七十八枚、鮮魚充ㇾ直。鮮物菓子雜器等之直并運賃料布卄端。宮人當色一領。史生膳部等明衣料佐渡調布九端。染料紅花小一斤五兩。襷拭布料商布六段。

大原野祭雜給料。

右同ニ春日祭。但加ニ片埦卌八口、小盤千二百口、片盤百卌口、窪坏五百十四口、炭三斛、薪三百六十斤。

松尾神祭雜給料。

折櫃卌五合。大筥卌三合。東鰒十斤。熬海鼠烏賊各十六斤五兩。雜鮨腊各六十四斤十二兩。雜乎魚廿一斤、鮭八隻半。鯖卌斤、芥子一升、海藻廿斤六兩、鹽一斗一升六合二勺、醬五升一合、酒酢各五升七合。机別二合。櫃別一合。折陶大盤卅片各五口。調布三端九尺、各三尺。櫃覆料。曝布一端〔二丈〕四尺。机覆料別五尺。櫃覆料別六尺。篩料絹三尺、商布五端。襷并巾料。覆瓮柏卅把。机別五把。食薦五十枚、青菜一斛。内膳司所ㇾ進。漬蜀椒子五升。折櫃油一斗一升。八升菓子料。三升炬料。干柏卅俵。裹ㇾ飯料。片埦九十三口。机別八口。櫃別一口。折窪坏二百〔十〕六口。机別六口。櫃別四口。折平坏三百〔六十〕口。折櫃別八口。筋竹五十株。調布三端。鮮物并雜菓子料。

糯米四斗二升。机別一升。櫃別八合。折白米二斗六升一合。菓子料。机別六合。折櫃別五合。大小豆各一斗、胡麻子一斗、小麥六升。糯糒糖各五升七合。机別二合。櫃別一合。折炭一斛、薪二荷。夫五人。請ニ京職一。雜魚卌斤、滓醬二斗。已上机六前。折櫃卌五合。大筥卅三合。裹飯百廿口等。及百度料。

釋奠祭料。

石鹽（カタシホ）十顆。乾魚二升。鹿脯卅斤。鹿醢一升。魚醢一升。兎醢一升。豚拍一升。鹿五藏一升。脾析葅一升。羊脯十三斤八兩。代用ニ鹿脯一。糯米四升、大豆胡麻子乾棗子各二升。黍子四升。栗黃一斗一升、榛人菱人芡人韮葅蔓菁葅芹〔葅〕筍葅各二升、葵葅九升。鹽一升五合、醬三升。三牲宍各一頭。鹿一斗五升、大羹料。鹿一斗、灌料。

同祭別供料。

〔串貫羽割阿波鰒〕本朝食鑑に「串者貫也、以竹木削串子、貫生鰒、生甲臈而乾者、今通稱串鰒焉云云、羽割者割開一片、連續一片而披之、則如振蝶之羽也」とあり。

〔六衛府〕左兵衛府右兵衛府、左衛士府、右衛士府、衛門府、中衛府をいふ。

已上弘

延

東鰒十斤、薄鰒五斤。隱岐鰒十八斤。串貫羽割阿波鰒押鮎熬海鼠腊各六斤。筑紫鰒二斤。薩鰒烏賊各四斤。火干鮎十八斤、堅魚十六斤。煮堅魚八斤。雜魚楚割卅八斤、腊六十斤。海藻卅六斤。鮭廿隻。紫菜六斤。木綿二斤。

同祭雜給料。

鰒堅魚。享官五位二人。六位已下九十八人別二兩。 煮堅魚烏賊。五位二人別二兩。 雜鮨。享官百人別二合。學生二百五十人別四合。 海藻。百人別二兩。 醬。二人別一合。九十八人別五勺。酢。二人別二勺。九十八人別一勺。 鹽。二人別四勺。九十八人別三勺。學生三百五十人、別一勺五撮。 漬蒜房蒜英韮搗。五位已下官人已上卅人別一合五勺。 漬蜀椒子、人別一勺。 漬菜。始日享官五位已下一百人別二合。朝夕料。畢日學生三百五十人別一合。

籩坏盤各九十口。匏十五兩。箸竹百卅株。

右春料依前件。秋亦准此。

凡六衛府輪轉所進釋奠祭醢料兎一頭、先祭三月送大學寮清乾暴造醢。至祭日供之、其貢進之次。以左近衛府為一番。依次貢進。終而更始。

延喜式卷第三十二

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第三十三

大膳下

東寺中台五佛左方五菩薩右方五忿怒料。生道鹽日別五合七勺。海藻六兩。滑海藻十一兩。末醬四合五勺。醬一合五勺。

右毎年十二月以前計來年日數申官行之。

聖神寺季料。常住寺准此。

佛聖二座別日菜料。糯米一升。米小麥各七合。大豆小豆胡麻子各五合。醬一合六勺。滓醬末醬酢各一合五勺。胡麻油二合。鹽三合六勺。海藻三兩。滑海藻二兩。芥子四勺。

右季別隨月大小請受送入寺家。

正月最勝王經齋會供養料。臨時齋會供養料准此。但干柏薪炭箸竹松明油等隨僧員申。僧別日菓菜料。米七合。甘物料五合。菜料二合。糯米一升。糯糒二合。甘物料七勺。菜料三勺。糖一合。索餅一藁。小麥六合。甘物并薄餅菜料各二合。大豆二合五勺。餅料一合五勺。菜料一合。小豆四合。餅菜料各二合。大角豆白大豆各一合。胡麻子三合。胡麻油二合五勺。麻子三勺。醬三合。滓醬鹿醬豉各一合。鹿味醬二合。酢一合五勺。鹽三合。細昆布。以一卷充廿口。索昆布二條。〔昆布〕以一帖充廿口。紫菜三分。海藻二兩。於期菜鹿角菜角俣菜各二兩。稚海藻三兩。海松一兩二分。海藻根一兩。滑海藻二兩二分。大凝菜三分。青海菜。以一帖充十口。古毛一合。干薑四撮。芥子勺。蓋酒一合。醬瓜糟漬瓜茄裹各一顆。味醬漬糟漬冬瓜。各以一顆充三口。末醬漬糟漬醬漬茄子各二顆。漬薑七勺。蘘荷

（生道鹽讀云イクチ堅鹽也。大如豆大（豆京本多似是）元一顆搗得鹽一斗許。生道尾張國郡里名也。（案元丸通））

〔寺家〕寺の家人を云ふ、奴婢の如きもの也、坊及故實記に「寺家は其山に居住の寺院住侶學侶とを稱するなり」と見ゆ。

〔昆布〕京、貞の二本に據りて補ひたり。

〔一〕內膳式になし、衍字なるべし。
〔菁葅〕菁の漬けたるものをいふ。
〔蔓菁〕かぶらをいふ。
〔莉根〕また「かうぼね」ともいふ、池水に生ずる草の名、一根より生じ葉は芋に似たり。
〔根蓴〕ぬなは即ち蓴菜を根の長きに延ぶに就きていふ語也。
〔子〕例に據りて補へり。
〔菓子〕京、貞二本に據りて補ふ。
〔太元帥法〕正月八日より十四日まで七日間、治部省に於て、大元帥明王を本尊として行ふ大法會をいふ。
〔若〕他本になし衍字なるべし。
〔百〕貞、京の二本に據りて補へり。

漬菁根漬各二合、菁須須保利〔一〕漬一合、菁葅二合、蔓菁一升、蘿蔔萵苣各一把、莉根一圍。根蓴二把、蕓薹二合。胡荾一合五勺、胡桃子六顆、生栗子六合。（菓料四合。菜料二合。）干柹子一合。梨子一顆、柑子一顆、橘子六顆。署預宅各二合。芋六合。（菓子并菜料各三合。）荷藕年節、干柏十八俵。（職十四俵。菓子所四俵。）菓箸竹八十株。（職五十六株、菓子所廿四株。）荏油七升。（職并菓子所各三升五合。）薪四千二百斤。（職二千五百廿斤。菓子所一千六百八十斤。）炭廿四斛五斗。（職十四石。菓子所十石五斗。）松明三百六十斤。（職并菓子所各一百八十斤。）

右毎年起正月八日盡十四日并一七日、佛聖二座、四王四座、講讀師二口、衆僧卅口、沙彌卅四口料、依前件。

其佛聖四王各以二僧料供之、沙彌減僧半。

正月修眞言法料、鹽七斗二升八合、醬四斗一升七合、（並味醬漬及菹料。）滓醬四斗六升、醬滓二斗八升、滑海藻、和布各五十五斤、胡桃子一斗二合四勺、汁糟二斗五升。（佛聖僧沙彌供料。）叩戸、手洗各十口、明櫃十合、折櫃廿一合、匙笛櫃二口、瓮卅口。

同月修太元帥法料。心太一斗九升、紫苔十二斤、鹿角菜一斛九斗、海藻、滑海藻各廿斤、海松、角俣菜各廿四斤、細昆布六十斤、於期名乘曾、鳥坂苔、若海藻根各廿四斤、青苔五百八十條、索昆布三百九十條、芥子七升八合、胡桃子千七百顆、鹽五斗八升、醬三斗、滓醬一斗九升、瓮五口。（已上僧沙彌各十五日料。）明櫃二合、折櫃廿合、叩戸、𨫼各五口。（已上護摩壇供所料。）

右隨內藏寮請行之。

延曆寺定心院料。鹽日別一升五合。

右毎年計日支度申官、正月卅日以前運送。

同寺試年分度者三度料。醬三升九合。（僧供料。）滓醬三斗一升二合。（二斗四合僧供料、一斗八合使料。）醬滓二斗六升、（使料。）鹽二斗二

升二合。一斗六升八合僧供析。五升四合使析。和布廿七斤。廿一斤僧供析。六斤使析。滑海藻十五斤。僧供析。

同寺西塔院試年分度者析。醬一升三合。僧供析。滓醬一斗四合。六升八合僧供析。三升六合使析。和布九斤。七斤僧供析。二斤使析。鹽六升八合。五升僧供析。一升八合使析。滑海藻五斤。僧供析。

同寺西塔院釋迦堂五僧析。鹽一日析七合五勺。每年計日支度申請。正月卅日以前依員進送。若致違怠者官人季祿。

大安寺讀大般若經齋會供養析。佛聖已下座別日鹽一合三勺。醬二合五勺八撮。末醬一合二勺八撮。酢七勺。紫菜大凝菜各三分。海松一兩。海藻二兩。芥子二勺。

右每年四月六七日兩日佛聖二座衆僧一百五十口析。依前件隨治部移充之。

嘉祥寺春悔過析。海藻十九斤。海松九斤。凝菜一斗四升。紫菜三斤。布乃利九升六合。細昆布十六把。末醬一斗四升四合。醬八升。芥子四升八合。鹽一斗九升三合六勺。冬亦准此。

試海印三昧寺年分度者析。醬一升。僧供析。滓醬六升。四升僧供析。二升使析。醬滓二升。使析。鹽四升。三升僧供析。一升使析。和布五斤。三斤僧供析。二斤使析。海藻二斤。僧供析。荒布一束。使析。

安祥寺試年分度者證師六人菜析。醬一升。醬滓四升。滓醬四升。和布三連。鹽三升。使析滓醬二升。醬滓二升。和布二連。荒布一束。鹽一升。

七寺盂蘭盆供養析。東西寺。佐比寺。八坂寺。野寺。出雲寺。聖神寺。寺別餅菜析米一斗四合。糯米二斗。籠杵米二升四合。糯糒四升。糖三升。黍米各五升。小麥一斗四合。大豆五升。大角豆一升。小豆一升二合。胡麻子六升。胡麻油七升。醬八升一合。滓醬四升。味醬二升五合。酢三升六合。糟四升一合六勺。豉二升。鹽七升八合四勺。昆布半帖。細昆布十四兩。紫菜

〔同寺西塔院〕略して西塔ともいふ、根本中堂の西北十餘町に在り、元と山城國に屬せしが近時改めて滋賀郡に入る、釋迦堂、相輪堂、法華堂、椿堂、常行堂等あり。

〔證師〕また證誠師又は證義者といふ法華會等の時に探題者が高座に昇りて竪義の問答の是非を判斷する役也中世以來は題者之れを兼ねたり。

〔各〕京、貞二本にはなし、出雲本にはこれを削る、恐らくは衍字なるべし

〔鹿角菜〕ふのりをいふ、今は布海苔と書く、磯の石に叢生する海草にして、其枝、鹿角の如きより名く。

〔角俣菜〕鹿角菜に似たる海草にて、多く東海に産す、色、蒼灰にして、乾せば黑色となる食用となれども、大抵煮て糊に用ふ。

〔物〕出雲本にもあれども恐らくは衍字なるべし。

〔各〕例に據りて補へり。

一斤三兩二分。海藻二斤五兩。鹿角菜角俣菜於期菜大凝菜海藻根各二斤。滑海藻三斤。漬薑一升一合。干薑三兩。生薑六房。芥子四合。青大豆卅把。青大豆三束。熟瓜卅六顆。青瓜一百十顆。茄子二斗。水葱二圍。蓼蘭各二把。胡桃子八升。青橘子廿顆。李子梨子桃子各四升。支子一升。荷葉三百枚。炭六斗。薪二百卌荷。瓮六口。明櫃二合。缶七口。瓶廿一口。

右大藏省預設幄於職內。辨史各一人。史生二人。專當其事辨備。生料每寺差大舍人充使供送之。

仁王經齋會供養料。

僧一口別菓菜料米六合五勺。熬菓料四合。熬菁料一合五勺。海菜料一合。糯糒三合二勺。菓餅料二合。甘物料七勺。好物料五勺。舂米二合。亂絲料。佛菩薩聖衆同。糯糵糯各一合。煎菓餅料。糖三合六勺。菓餅料二合。好物料五勺。海菜料七勺。生菜料一勺。索餅料三勺。白大豆五勺。好物料。黑大豆一合五勺。菓餅料一合。好物料五勺。小豆一合六勺。菓餅料二勺。好物幷羹料各四勺。汁物幷索餅料各三勺。荏子七勺。菓餅料。胡麻子一合五勺。菓「物」餅料一合。好物料五勺。豉一合二勺。好物料九勺。海菜料七勺。酒一合六勺。好物料六勺。海菜料三勺。汁物料二勺。生菜料二勺。羹料一勺。漬菜料二勺。搗糟二勺。漬菜料。汁糟五合六勺八撮。漬菜料。酢一合四勺。好物料五勺。海菜料三勺。生菜料三勺。索餅料一勺。汁物料二勺。醬三合。生菜料三勺。薄餅料三勺。好物料四勺。茹菜料二勺。海菜料一勺。漬菜料一合二勺。汁物料二勺。羹料一勺。索餅料二勺。鹿醬九合二勺五撮。好物料四合。熬菁料五勺。茹菜料二勺。海菜三合五勺。漬菜料三勺五撮。薄餅料二勺。汁物料四勺。味醬四合五撮。好物料一合。茹菜料四勺。漬菜料二合五撮。汁物料二勺。羹料一勺。菓餅料三勺。鹽九合八勺八撮。好物料五勺。茹菜料二合。生菜料二勺。薄餅料三勺。海菜料二勺。汁物料二勺。漬菜料五合二勺八撮。菓餅料一勺。索餅料六勺。羹料五勺。細昆布。海菜料。以一把充六口。廣昆布。海菜料。以一帖充廿口。海藻二兩四銖。海菜料一兩二分。生菜料二分四銖。紫菜一兩二分四銖。海菜料一兩。汁物料二分四銖。海松一兩。海菜料。於期菜一兩。好物幷生菜料「各」一兩。鳥坂菜二分。生菜幷海菜茹菜等料各四銖。鹿角菜一兩。好物料。海藻根一兩三分。青海菜三分二銖。角俣菜一兩二分。好物料一兩。茹菜料二分。大凝菜六兩一分四銖。汁物料。滑海藻二兩。好物料。芥子一合二勺。好物料五勺。茹菜料三勺。汁物料四勺。干薑四銖。海菜幷汁物料各二銖。生薑一合九勺五撮。好物料一勺。

〔薢〕また野老に作る、やまいもに似たる蔓草の一種にて、根も亦やまいもに似、味甘く或は苦し、甘野老、鬼野老などの種類あり。

〔蘘荷〕また茗荷に作る、めうが也。

〔折櫃〕檜の薄板を折曲げて筥に作りたるものをいふ、餅類肴等を盛る具にて、四隅に作り花を立て飾る事あり、俗に折と云ふ。

〔七斗〕京、貞の二本に據りて補ふ。

〔計〕恐らくは殿に作るを誤りたるものなるべし。

菁葉新二勺。汁物新五撮。索餅新一勺。漬菜新五勺。醬汁一合。右。葉生薑一房。生菜新。山蘭一合。漬菜新。蜀椒子六勺一撮。好物新一撮。漬菜新六勺。瓜五顆。醬漬糟漬好物菜生菜等新各。茄子六顆半。醬漬新一顆。糟漬新二顆。菜蔥新一顆。花蔥新一顆。中子新半顆。冬瓜。漬菜。醬漬糟漬新。各以二一顆一充二十口一。顆長一尺。生菜新以二一顆一充二廿口一。顆長一尺。蔥半把。生菜新。薑一把。充二四口一。

薢。生菜新以二一圍一。蒜〔茎〕半把。六葉。好物新六葉。蕪菁根四根。漬菜一升。薊四葉。好物新。蘘荷一合。漬菜新。生大豆二合。漬菜新。水蔥。漬菜新以二一圍一。荊根一節。節長二尺。好物新。根芋一把。漬菜新。干茄子五勺。干水蔥。干花各三勺。已上漬菜新。干蘭。干蓼。生菜新。各以二一把一充二廿口一。

胡桃子卅一顆。好物新廿顆。索餅新六顆。漬菜新三顆。汁物新二顆。搗栗子五勺。菓餅新。生栗子三合五勺。菓餅新二合。好物新一合五勺。薯蕷三根半。根長一尺。徑一寸。菓餅新二根。好物新一根。生菜新半根。梨子桃子各二顆。柑子柚子各一顆。橘子三房。已上菓餅新。

右一日供新依二前件一。其佛聖幷涉僧供養准二最勝王經齋會法一。

年新。

索餅新。小麥卅石。御幷中宮各十五斛。粉米九斛。同新各四斛五斗。紀伊鹽二斛七斗。御幷中宮各卅二口。別四尺。承塵帳四條。別二丈一尺。三年一請。裹麦調布單一條。別三尺。水䗶調布四條。別五尺。裹干薑各六枚。韓櫃四合。明櫃折櫃〔竹〕筥壺各四合。缶洗盤各四口。瓮坩各十六口。水麻笥八口。匏十六柄。槽一隻。笊四枚。臼一腰。杵一枚。別打案四脚。中取案四脚。刀子四枚。鐺四口。乾索餅籠十六口。長三尺。廣二尺。鐵二口。竹一百五十株。襷十條。別五尺。褌十條。別六尺。頭巾廿條。別三尺。薪日卅斤。所レ採。仕丁

右從二十一月一日一至二來年十月卅日一。供御新。女孺率二女丁一向二內膳司一。與司精理日別供レ之。但臺內膳備。

手束索餅新。小麥十七斛〔七斗〕。御幷中宮各八石八斗五升。粉米五石三斗一升。紀伊鹽八斗九升。醬。未醬各一斛四斗二升六合。酢七斗一升二合。薪日別卅斤。請二主計寮一。

〔手東索餅〕今詳かにし難けれども、索餅は小麥を多くし、米粉を少くして作るものにて、手東索餅は之れと反對に、米粉を多くして、小麥を少く交ぜて作るといへり。

〔糖〕揚雄に「餳謂之糖」と見えたり今の所謂飴をいふ

〔醬〕「ひしほ」と訓ず。醬の事を掌る所を醬院と稱し大寶の制に主醬二人をして掌らしめしが、後ち大膳亮等をして醬院勾當たらしめたり。

右起二三月一日一盡二八月卅日一供御料、其雜器通二用上條一。

同手東索餅料、小麥十七斛七升。御并中宮料日供五升、兩レ餘臨時用レ之。粉米五斛一升、紀伊鹽八斗八升五合、醬一斛五升一合。末醬一斛五斗三升一合、酢五斗四升、薪卅斤。已上請二官一。

右起二九月一日一盡二來年二月卅日一、供御料如レ前。

糖十斛八斗九升四合六勺。御并中宮各一斛六斗八升三合、東宮一斛六斗七升八合八勺、雜給五石六斗四升九合八勺。 甜鉤九口、別三尺。絞レ糖布袋十二口、別四尺。 覆二瓮一綿八兩二分。調布二丈一尺。 覆二瓮十口一料。日別一尺。 紙五十八張、燈油三升六合、明櫃十五合、折櫃六合、由加六口、瓮卅口、簀六枚。韓櫃二合。中取六脚、薪一萬四百卅斤、調布衫九領、別一丈七尺。 曝布各九條、別四尺。 手巾四條、別五尺。

糯糒四斛六斗八升。御并中宮各一斛六斗二升。東宮一石四斗四升。 粟糒一斛二斗八升六合二勺八撮。御并中宮各四斗四升四合、東宮三斗九升八合二勺八撮。 明櫃十二合、簀二枚。長席四枚。折薦二枚、雜糒通用。

醬一百五十石。供御料七十五石。雜給料七十五石。 甕一百口、別受二三石一。 添醬六十五石。甕五十口、末醬五十石。甕十口 醬鰒二百卅九斤三兩。卅斤三兩中宮料。

神事并諸節儲料糯糒八斛。

造二年料醬一料酒米卅斛。中宮請用。

荿四斛七斗六升。直。鹽一石一斗四升二合四勺、滓醬二斛一斗四升一合六勺。

右正月最勝王經齋會醬荿料。

荿二石九斗一升五合。直。鹽七斗二合三勺三撮、滓醬一斛九斗二合。

右從二八月一日一迄二來年七月卅日一供御醬瓜料。中宮同レ之。

〔米〕例に據りて補へり。

〔乾大棗〕大棗の實を乾したるもの也、大棗は和名抄に「棗、本草云、大棗一名美棗、音早、字亦作䰞、和名奈豆女、蘇敬註云、醆棗一名樲棗、上音貳、和名佐祢布止、大棗之中味酸者也」とあり。

〔醬鰒〕鮑の甲と腸とを取り去り、鹽に合したるものをいふ。

造雜物

菹八斛五斗七升。直。鹽二斛四升九合六勺。滓醬五斛六斗三升六合四勺。

右糟醬瓜料。

造雜物法。

索餅料。小麥粉一石五斗。米粉六斗。鹽五升。得六百七十五藁。粉一升得四藁半。藁別料得三合。手束索餅亦同。

糫料。糯米一石。煎小麥二斗。得三斗七升。

糒料。糯米一石。得八斗。用薪一百廿斤。

米粉料。〔米〕一石。得二石。

麥粉料。小麥一石。得一石五斗。

熬大豆粉料。大豆一石。得一石七斗。薪六十斤。

炊小豆粉料。小豆一石。得二石。薪一百廿斤。

乾大棗料。大棗一石。得三斗三升。薪三百斤。

平栗子料。生栗子一石。得一斗二升五合。

供御醬料。大豆三石。米一斗五升。蘖料。糯米四升三合三勺二撮。小麥酒各一斗五升。鹽一石五斗。得一石五斗。用薪三百斤。但雜給料除糯米。滓醬料。醬滓一石。鹽三斗五升。得六斗五升。用薪六十斤。

未醬料。醬大豆一石。米五升四合。蘖料。小麥五升四合。酒八升。鹽四斗。得一石。

醬鰒料。東鰒六十斤。鹽六斗四升八合一勺八撮。滓醬一石四升四合二勺。

等伊料。大豆一石四斗二升六合。海藻四斤八兩。得一石。

〔吳桃子〕胡桃に同じ、くるみの實をいふ。

〔龍葵子〕いぬほほづきの實也、犬酸漿は一年生の草本にて、凡て酸漿に似、たがらしの花に似たる五瓣の花を咲き、南天の實の如く初め青くして後紫黑となる實を結ぶ、一名、うしほほづきともいふ。

諸節

〔粽〕黍米或は糯の粉をねりて茅にて包み飯の中に入れて蒸熟したるものをいふ、後世は茅の代りに篠などの葉を用ふ、俗間端午には今尙ほ之れを製して食す。

豉料。大豆一石六斗六升七合。海藻四斤八兩。得一石。

右造法依前件。

蒜房蒜英各一斛。韮擣一斛。

右神事料。造法見內膳式。

笋子一圍擇得二升。料。鹽九合。擣糟三升。

右釋奠料。

醬茄子一千四百廿八顆。末醬茄子一千四百廿八顆。荏裹四百七十六顆。吳桃子二斗。生薑六升。山蘭 龍葵子各一斗。香就一斗。末醬汁苽廿五顆。漬生薑一斛。適用料、惣料。漬蘘荷九斗五升二合。漬糟冬苽廿四顆。漬蔓菁根九斗五升二合。葅蔓菁四斗七升六合。

楡皮蔓菁九斗五升二合。

右雜菜正月最勝王經齋會料。夏時造儲。其造法見內膳式。

正月四節料。

親王已下食法並同新嘗會。餘節准此。但除雜餅并蒜。

五月五日節料。

粽料。糯米。參議已上別八合。五位已上別四合。大角豆。五位已上一合。擣栗子。參議已上四合。五位已上二合。甘葛汁。五位已上一合。枇杷。參議已上二合。五位已上一合。笋子五圍。箸竹串竹各二圍。青蔣十一圍。生絲三兩一銖。鮮物臨時買用。參議及三位已上料。七月九月准此。大陶盤洗盤各四口。叩瓫五口。并納煮臘雜物。

九月節盤瓮亦同。

七月廿五日節料。

粢餅。親王已下五位已上別二顆、醬五勺、未醬四勺、鹽一勺、堅魚一分、生大豆大角豆。五位已上二把、熟瓜。參議已上四顆、五位已上二顆、李子。參議以上四合。五位已上三合。桃子。參議已上五顆、五位已上四顆、蓮子。參議已上五房、五位已上二房、青橘五合、枸杞一枝、菊五枝、細節二口、別二尺。箸竹串竹各二圍。青楊十五擔。

九月九日節料。

生大豆五位已上二把。生栗子。參議已上一升、五位已上五合。桃子。參議已上五顆、五位已上四顆、柿子。參議已上七顆、五位已上五顆、蓮子。參議已上六顆、五位已上五顆、菱子。參議已上八合、五位已上六合。

同節文人料。

五位一人鹽一合五勺、醬酒醋各四勺、醋一合、[illegible]東鰒隱岐鰒堅魚烏賊熬海鼠各一兩、雜魚臘幷楚割各二兩、押年魚與理刀魚各二兩、鮭五分隻之一、腊錯各一斤、海藻一兩、青大豆一把、生栗子五合、桃子四顆。梨子五顆、熟柿子四顆、蓮子三顆。菱子六合。

六位已下一人、滓醬五勺。鹽二勺、鮭六分隻之一、腊錯各二兩。

諸節差權膳部。正月三節幷大嘗會卅人、餘節各卅人、並給粮。一人日米一升二合、鹽一勺二撮。大嘗會五日。餘節三日。

菜料鹽秋亦准此。親王五十斛、內親王同。太政大臣卅石、左右大臣各十石、大納言六石、中納言五石。參議三位四位各三石。中宮職五十石、春宮坊六石、侍從所春一石一斗四升、秋一石九斗。縫殿寮四石一斗四升八合、內匠寮一石五斗。木工寮七石、主殿寮六斗、掃部寮六石、左右近衞各八石。左右兵衞府各六石、左右衞門府各二石、隼人司一石四斗三升七合二勺、左右馬寮各春夏季二石四斗八升、漬菜料一石。造馬藥醬料一石。藥料四斗八升。內教坊二石五斗、女官厨五石、命婦已下六百籠。三百籠各納三斗、三百籠各納二斗。堅鹽一千五百顆。

〔脯〕衍字なるべし。

〔親王〕上古は男子は某尊、某命など稱し、初めて親王の稱の見えたるは天武天皇の時也、然れども名の下に連署するに至れるは天武天皇四年の條に刑部親王とあるを初めとす、以後は生れ年にして親王たりしが、淳仁天皇以後親王宣下初まり、爾來皇子皇女は宣下によりて始めて親王たる事を得るに至れり。

〔內親王〕天皇の姉妹皇女などを稱す上古は媛、姬又は皇女など云ひしが持統天皇の御代に內親王の名初めて見えたり、なほ前項を參照すべし。

〔末醬〕味噌也、和名抄に「末醬、未醬、末訛爲未、未轉爲味」と見え、塵添壒囊鈔に「今の世には未の字に口偏を加へて、味と書き、醬をば曾となして、當字になりたる樣也」とあり。〔月料〕〔賀茂內親王料〕

〔賀茂齋內親王〕賀茂大神に奉仕する皇女をいふ、單に齋王とも云ふ。〔妃〕

〔二升〕分注に據りて補ふ。〔夫人〕

〔隱岐鰒〕和漢三才圖會隱岐國土產の條にも「和布、鮑、鰲」等とありて古來同國の名產にして其名尤も著はる、現に支那に輸出す。〔女御〕

右依前件、毎年二月八月隨符給之。其參議已上月別上旬充之。但命婦已下者內侍一人臨職班給。

親王以下月料。

無品親王內親王。

醬一斗二升、日四合。末醬六升、日二合。鹽一斗五升、日五合。東鰒九斤六兩、日五兩。堅魚七斤八兩、日四兩。鮭十五隻、日二分之一。腊十五斤、日八兩。鮨十五斤、日八兩。堅魚煎紫菜各一斤十四兩、日一兩。海藻七斤八兩。日四兩。

賀茂齋內親王月料。

東鰒卅斤、堅魚廿九斤十兩。堅魚煎汁紫菜一斤十三兩、醬鹽末醬各一斗五升。海藻十斤十兩。

同院雜給料鹽月別二斗〔二升〕六合。小月二斗一升八合四勺七撮。

妃。

醬一斗二升。日四合。末醬六升。日二合。鹽一斗五升。日五合。東鰒九斤六兩。日五兩。隱岐鰒煮堅魚烏賊海藻各七斤八兩、日四兩。鮭十五隻、日二分之一。腊十八斤十二兩。日十兩。鮨廿五斤十兩。日十三兩二分一銖。堅魚煎紫菜海松各一斤十四兩、日一兩。

夫人。

醬一斗二升。日四合。末醬六升。日二合。鹽一斗五升。日五合。東鰒八斤。日四兩三分。隱岐鰒煮堅魚烏賊海藻各六斤、日三兩二分。堅魚七斤。日三兩二分五銖。鮭十隻。日三分之一。腊十八斤。日九兩三分三銖。鮨廿斤。日十兩二分四銖。堅魚煎紫菜海松各一斤、日三分二銖。

女御。

醬末醬各六升、日二合。鹽六升、腊五斤十兩、日三兩。鮨九斤六兩、日五兩。紫菜海松各一斤十四兩、日一兩。海藻七斤八兩。日四兩。

女官月料。

〔及〕貞京二本に據りて補ふ。

〔末〕貞京二本に據りて補ふ。

〔荷葉〕蓮の葉也、侍中群要に「御手水時有二荷葉一」などあれば、ものを容るゝに用ひし也。

〔案新紙〕

〔菜海藻〕副食物の新とする海藻の意也、「菜」は「ナ」と訓み、「菅」の義にて、專ら副食物に云ふ。

女孺二百七十五人。醬六升。滓醬六斗。鹽一斛六斗五升。人別日二勺。

內教坊命婦已下一百人。鹽三斗。

大藏縫女廿六人。鹽七升八合。

親王乳母。海藻八斤二兩。鹽六升。

侍從卅人。七人參議已上。自餘五位已上。

三位已上〔及〕四位參議。醬二合。五位已上減二一合一。醋鹽各四勺五位已上同。東鰒二兩五位已上減二一兩一。隱岐鰒煮堅魚各一兩。堅魚二分。

烏賊一兩。鮭六分隻之一。五位已上並同。堅魚煎汁一勺五位已上除。雜鮨二兩一分二銖。海藻二分〔末〕滑海藻四勺。五位已上並同。

東宮青槲干槲各日別廿五把。荷葉卅枚。侍從所青槲干槲各日別十五把。

右青槲荷葉。大和河內攝津等國所進。干槲播磨國所進。

內舍人廿五人。人別鹽二勺。雜腊二兩。鮨三兩。

凡打左右辨官長案新紙菜海藻十五斤。雜魚一斗六升。鹽一升五合。每年充二圖書寮一。

出二納官物一諸司五位已下主典已上。人別鹽二勺。滓醬五勺。鮭一兩。雜鮨二兩。史生准レ此。

右一度新依二前件一。月別總二計百度之新二一度請受。用盡之日。先進二前月費用帳一勘勾。然後更請。如レ有二殘者一。通充二

後新一。

勘解由使百度新。

長官以下書生以上。日別各魚四兩。滓醬一合。鹽二勺。

撿二納薪一諸司廿八人。辨一人。史一人。史生二人。式部輔一人。丞錄各一人。史生五人。兵部輔一人。丞錄各一人。史生五人。宮內輔一人。丞錄各一人。史生五人。五位一人。醬一合。鹽二勺。

〔薄鰒〕魚鑑に「ウスアハビ」と訓む、此他式に、壹岐、日向、肥後、耽羅、出雲、石見、長門、隱岐等の薄鰒の名を載せたり、本朝食鑑の薄鰒の集解に「薄者生時薄切而暴乾也」とあり。

〔雜〕例によりて補ふ。

〔晝所〕朝廷の繪畫等の事を掌る處、別當五人あり、多くは五位藏人頭之に補して預る、廳は西宮記に「式乾門內東腋御書所の北」とし、拾芥抄中「建春門內東腋御書所の北、蘭林坊の內」とす。

〔楊梅子〕「やまもも」の果實也、其の核の中仁は、脚氣を治すと云ふ。

〔「捧」〕雲本なし。

薄鰒一兩三分。烏賊二兩。雜腊鮨各三兩。六位已下一人。鹽二勺。薄鰒一兩。雜腊鮨各二合。但史生雜腊二合。鹽一勺。

右一人食料依前件。

曝曬兵庫寮器仗監物一人。兵部官人二人。五位一人。六位以下一人。史生一人。雜使二人。各限二十日給食。准百度法。

諸講書博士各日別鹽一合。鰒雜魚腊鮨海藻各二兩。諸得業生鹽二勺。〔雜〕魚鮨三兩。海藻二兩。漢語師并生鹽二勺。生減八撮。滓醬一合。雜魚腊海藻各二兩。

主鈴典鑰滓醬二斗四升。小月二斗三升二合。

內豎二百人料。鹽三斗六升。小月三斗四升八合。

晝所年料。鹽二斛。

采女卅七人料。鹽二斗一升一合五勺。小月二斗四合四勺五撮。

藏人所料。月別腊魚卅斤。滓醬六升。長人日別鹽五勺。鮭半隻。鮨十五兩。海藻七兩。

諸衛異能士。月別鹽一斗。小月亦同。

凡稱雜盛(マセモリ)一籠者。鰒堅魚海藻各盛一斤。稱海菜雜盛一籠者。大小凝菜鹿角菜各盛一斤。

凡諸國交易所進醬大豆并大豆等類。隨到量收。訖即申省。諸司赴集依實檢納。其數見民部式。駿河國堅魚煎汁一斛。

擇好味者別器進之。若當年所輸中男作物不滿此數者。正稅充直交易進之。

諸國貢進菓子。

山城國。郁子四擔。蔔子一擔。覆盆子一捧。楊梅子三擔。平栗子十石。大和國。蔔子一擔。楊梅子二擔。「棒」榛子。河內國。蔔子一擔。覆盆子一捧。楊梅子一擔。椎子一擔。花橘子一籠。蓮根五百六十節。未蓮子。攝津國。蔔子二擔。覆盆子四擔。楊梅子四擔。花橘子二擔。和泉國。楊梅子一擔。伊賀國。甘葛煎一斗。伊勢國。椎子二擔。遠江國。甘葛煎一斗。柑子四擔。駿河國。甘葛煎一斗。柑子七擔。

〔署預〕署蕷也、一に山藥とも云ふ、和名抄には「署預、一名山芋、和名夜萬都以毛、俗云山乃以毛」とあり。
〔甘栗〕大饗の時に用ゐる也、特に使を遣して求めたるもの也、枕草紙に「大饗のあまぐりつかひ」なぞの名見ゆ。
〔子〕例に據りて補ふ。
〔椎子〕京貞二本に據りて補ふ。
〔諸成〕胡頽子（グミ）也、和名抄に「胡頽子、和名、久美、一云毛呂奈里、本朝式、用諸生子三字」とあり。
〔醬院〕大膳職の管する處にして、令に「主醬」とあり釀醬を掌る所也。
〔院〕雲本に據りて補ふ。

伊豆國。甘葛煎二斗。甲斐國。青梨子五擔。相摸國。橘子十擔。柑子。近江國。郁子二輿籠。出羽國。甘葛煎二斗。越前國。甘葛煎一斗。署預二擔。署預子二捧。椎子。加賀國。甘葛煎。能登國。甘葛煎。越中國。甘葛煎一斗。越後國。甘葛煎一斗。丹波國。甘葛煎六升。甘栗子二捧。搗栗子一石一斗。平栗子。〔椎子〕菱子二捧。丹後國。甘葛煎一斗。但馬國。搗栗子七斗。因幡國。甘葛煎一斗。平栗子五斗。椎子一擔。梨子二擔。柑子干棗。出雲國。甘葛煎二斗。播磨國。椎子一擔。搗栗子。美作國。搗栗子七斗。甘葛煎。備前國。甘葛煎。備中國。甘葛煎一斗。諸成。紀伊國。甘葛煎七升。阿波國。柑子二輿籠。數四百顆。甘葛煎一斗五升。太宰府。甘葛煎七斗。但木蓮子者。筑前國部內諸由及壹岐等島所レ出之中擇二好味者一年中貢。

右依二前件一其數臨レ時增減。隨レ到撿收附二內膳司一。但甘葛煎直進二藏人所一。

年料雜器。

薄絁篩八口。別二尺。調布水篩四口。別四尺。構十二條。別四尺。襷五十二條。別六尺。頸巾六條。別二尺。衫六領。二領別二丈。四領別一丈四尺。拭巾七條。別四尺。手巾五條。別二尺。絲二兩。縫二襷袴一料。

右造二菓餅醬味醬一及料二理魚宍等一料。

輿籠八十脚。匏六十柄。杓卅柄。食薦四百枚。簀卅枚。苫十枚。中取案卅八脚。職廿七脚。醬院三脚。菓子所四脚。百度所侍從所各二脚。切案卅八脚。職卅脚。百度侍從所各四脚。大槽十五隻。職七隻。醬院。菓子百度侍從各二隻。小槽十五隻。職七隻。醬二隻。菓子三隻。百度二隻。侍從一隻。木臼八口。職三口。醬菓子各一口。侍從一口。杵十六枚。職五枚。醬三枚。菓子三枚。大厨三枚。侍從二枚。甑二口。陶臁笥盤十二口。壺十二口。由加六口。水甖三口。瓫十口。叩瓫六口。洗盤十四口。蓋坏廿口。瓺二顆。

右職家料。

折櫃十二合。陶叩瓫四口。水椀十二口。加レ盤。坏八十口。柏十五把。日料。

〔侍從所〕侍從局也侍從の詰所にて、外記廳の南にありて、一に南所、食所或は南厨とも云ふ。

〔勾當〕大膳職の屬官の、率分勾當（諸國より獻上する調雜物等を別けて納むる職掌）、醬院勾當（令の主醬に當り、釀醬を掌る）等を云へり、字義は專ら其の事に當ること也。

〔官〕貞京二本に據りて補ふ。

右百度料。

折櫃卅合。陶由加二口。杓四柄。陶片盤百八口。麓坏九十口。坏百八十口。洗盤叩瓮各四口。壽酢甦各四口。瓺一顆。置簀二枚。盛案一脚。絁篩二口。別一尺。布襌襷各五條。明櫃一合。納二篩并作柏等一料。

右侍從所料。

麁筥一百五十合。各長一尺二寸。廣一尺一寸。諸國所レ進。

右年中供御。幷神事料依二前件一。

造器二人。一人木器。一人土器。月別所レ造折櫃卅合。平片坏八百口。其粮料。黑米日二升。鹽二勺。

凡神事幷供御料雜物者。進屬各一人勾當。若有レ忌者科責。

凡釋奠祭始レ自二歲首一差充執當官一人。在前儲二備享物一官人名申レ官。官即下二知大學寮一。若有二奠祭不法之事一。隨即科責。

凡諸節神態幷職內所レ須炭松明薪。令二仕丁儲備一。大炊主水造酒等司准レ此。

延喜式卷第三十三

延長五年十二月二十六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式巻第三十四

木工寮。

鞍二具料。鐙二具。鞦着八隻。鐙着四具。鈌四具。腹帶着四隻。和此良金二百隻。長各一寸。同金着釘二百隻。

右伊勢太神宮料。九月十日以前造備充神祇官。

卜鑒四柄。鍬二口。

右十一月新嘗會御卜料充神祇官。六月十二月神今食亦同。

牀三脚。方四尺。高九寸。定別一脚。御湯殿御座料。

大牀二脚。各長一丈二尺。廣四尺。高三尺。一脚積神御帖料。一脚刻同帖料。並通用之。

右十一月新嘗會六月十二月神今食料。充掃部寮。

著幣帛木卅六枚。長各八尺。方一寸五分。

四枝賀茂下上祭料。各二枝。二枝松尾。四枝春日。四枝率川。二枝大原野。四枝大神。二枝山科。四枝當麻。二枝杜本。二枝當宗料。就中四枝賀茂臨時祭。二枝同松尾祭料。

供神料。

楉。長三尺六寸。廣八寸。厚四分。長功一人日卌枚。中功日卅五枚。短功日卅枚。

四座置。八座置。以木爲之。長者二尺四寸。短者一尺二寸。各以八枚爲束。名稱八座置。長短各以四枚爲束。名稱四座置。長功六百束。中功五百束。短功四百束。

〔和此良金〕和訓栞に「わしらがね、本式大神宮鞍の事に和此良金二百隻長各一寸と見えたり、此は比の誤なるべし」とあり。

〔二枝松尾〕二枝は祭神大山咋神、市杵島姫命二座なるに依る。

〔四枝春日〕四枝は祭神四座なれば各座一枝宛の意也。

〔四枝率川〕四枝とあるは、率川坐大神御子神社三座と、率川坐河波神社一座とに獻ずる也

〔二枝大原野〕祭神四柱座なれば二枝と記せり。

倭文纏刀形。長二尺三寸。廣一寸五分。絁纏布纏亦同。長功六十口。中功五十口。短功卌口。

金裝太刀一口長二尺三寸。廣一寸五分。新鐵四斤。金薄六枚。長功廿三人。工十八人。夫五人。中功廿六人。工廿人。夫六人。短功廿八人。工廿二人。夫六人。

烏裝太刀長廣同上。新鐵四斤。長功廿人。工十五人。夫五人。中功廿三人。工十七人。夫六人。短功廿六人。工十九人。夫七人。

金裝太多利一基其方二寸。柄長六寸。廣五分。厚二分。新鐵八兩。金薄三枚。長功一人半。工一人。夫半人。中功二人。工一人半。夫半人。短功三人。工二人。夫一人。

金裝麻笥一口徑深各四寸。新鐵十二兩。金薄十枚。長功二人半。工二人。夫半人。中功三人。工二人。夫一人。短功四人。工三人。夫一人。

金裝加世比一枚柄長一尺。手長八寸。廣各五分。厚各三分。新鐵一斤。金薄七枚。長功一人。工大半二人。夫小半人。中功同上。短功一人半。工一人。夫半人。

御贖新。

金銀人像一枚長一尺。廣一寸。新鐵四兩。金薄銀薄各三枚。長功工一人。夫一人。廿枚。中功十八枚。短功十六枚。木人像。長八寸。廣八分。其面餝以金銀。長功七十枚。中功六十枚。短功五十枚。

御輿形。長九寸。廣四寸。高七寸。長功廿具。中功十八具。短功十五具。

鐵偶人卅〔六〕枚。押金銀薄各十六枚。無餝四枚。木偶人廿四枚。御輿形四具。挿幣帛木廿四枚。

右每月晦日御贖新。中宮亦同。東宮押金銀薄鐵偶人各八枚。

木偶人三百八十四枚日別卌八枚。御輿形六十四具。日別八具。挿幣帛木三百八十四枚。日別卌八枚。

右十一月新甞祭從一日迄八日御贖新。六月十一月神今食前八箇日新亦同。

神事幷年新供御。

土火爐。長三尺五寸。廣二尺五寸。高七寸。長功二人。中功二人半。短功三人。

〔倭文纏刀形〕鞘を倭文にて纏き飾れる刀也、此の外絁纏、布纏等も式に見ゆ。

〔烏裝太刀〕烏頭の太刀の類なるべし貞丈雜記に「烏頭太刀と云ふ物は、古鷹飼の佩きし太刀也、江家次第に見えたり」とあり、又安齋隨筆には、熊野神寶の圖の中に「烏頭の太刀あり」ともあり、皆同じ類なるべし。

〔六〕京貞二本に據りて補ふ。

〔案〕「ツクヱ」と訓むは「坏居」の義、始めは飲食物を載する臺なりしかば名付く。

〔楉案〕「シモトツクヱ」と訓む、蔆机の義、祭祀に用ひる机にて、細き木の枝に結び束ねて造りたるもの、古今要覽稿には、菓子酒肴を盛るに用ひ、檜木又は黒木を結びて作ると云へり、又下文注を參照すべし。

〔枌〕「あふこ」と訓す、和名抄に「枌 和名、阿布古、枝名也」とあり、兩端に物を付けて擔ふ棒をいふ。

案。長一尺八寸。廣一尺六寸。高三尺。樸長廣亦同。高一尺六寸。 長功四人。中功四人半。短功五人。

棚案。長三尺。廣一尺三寸。高二尺五寸。 長功五人。中功七人。短功九人。

別脚案。長三尺。廣一尺七寸。高一尺九寸。厚八分。長功一人。中功一人半。短功二人。

楉案。以レ檜爲レ之。長五尺三寸。廣三尺四寸。高二尺五寸。 長功三人。中功四人。短功五人。

水案。長三尺六寸。廣一尺八寸。高二尺一寸。厚八分。 長功四人。中功五人。短功六人。

膳槽。長三尺三寸。廣二尺三寸。深八寸五分。長功四人。中功五人。短功六人。

膳槽牀。長五尺九寸。廣二尺四寸。高一尺七寸五分。厚一寸。長功四人。中功六人。短功八人。

外居案。長三尺六寸。廣一尺八寸。高三尺。厚八分。 長功六人。中功七人。短功八人。

懸案。長五尺八寸。廣一尺八寸。高二尺五寸。左右着枌長各八尺。 加切板二枚。各長三尺。廣一尺八寸。 案二脚。各長三尺二寸。廣一尺八寸。厚八分。 蓋二枚。已上以爲ニ一具一。 長功九人。中功十一人。短功十三人。

擇案。長四尺。廣一尺八寸。高八寸。厚八分。 長功一人小半。中功一人大半。短功二人。

板案。長三尺三寸。廣一尺八寸。高八寸。厚八分。 長功一人。中功一人小半。短功一人大半。

切案。長三尺。廣一尺七寸。高八寸。厚八分。 長功半人。中功大半人。短功一人。

居水隧ニ案。長四尺五寸。廣二尺。高二尺。厚八分。 長功二人。中功二人半。短功三人。

盛案。長四尺。廣一尺八寸。高一尺。厚八分。 長功一人。中功一人半。短功二人。

中取案。長九尺。廣一尺八寸。高一尺九寸。厚一寸二分。長功一人。中功一人半。短功二人。

無レ手中取案。長八尺。廣一尺八寸。高二尺。厚一寸。 長功一人。中功一人小半。短功一人大半。

板蓋。徑二尺五寸。長功六枚。中功五枚。短功四枚。
轆轤手湯戸釜。口徑一尺八寸。高一尺三寸。長功四人、工一人。夫三人。中功四人半。短功五人。
圓槽。徑二尺。深八寸。長功三人、工一人。夫二人。中功三人大半。工一人小半。夫二人半。短功四人半。工一人半。夫三人。
冷槽。徑一尺五寸。深五寸。加椀一合。徑一尺一寸。深七寸。長功三人。工一人。夫二人。中功三人大半、工一人小半。夫二人半。短功四人半。工一人半。夫三人。
手洗。徑一尺五寸。深五寸。長功三人。中功三人半。短功四人。
九寸盤。長功工一人。夫二人十六枚。中功十二枚。短功十枚。
八寸盤。長功工一人。夫二人廿枚。中功十六枚。短功十二枚。
六寸盤。長功工一人。夫二人廿四枚。中功廿枚。短功十六枚。
杓。長功六柄。中功四柄。短功二柄。
沐　　槽。長三尺。廣二尺一寸。深八寸。長功六人、中功七人。短功八人。
浴　　槽。長五尺二寸　廣二尺五寸。深一尺七寸。厚二寸。長功八人、中功十人。短功十二人。
牀。長八尺。廣五尺。高一尺三寸。厚二寸四分。長功十人、中功十二人。短功十四人。
牀。長六尺。廣四尺。高一尺三寸。厚二寸四分。長功八人、中功十人。短功十二人。
牀。方四尺●。長功三人。中功四人。短功五人。
熨御衣牀。長六尺。廣三尺六寸。高一尺。長功三人、中功四人。短功五人。
貯帖大牀。長一丈二尺五寸。廣三尺。高三尺。長功四人、中功六人。短功八人。
造帖牀。長一丈二尺五寸。廣三尺。高三尺。長功四人。中功六人、短功八人。

〔半〕下注に據りて補ふ。
〔九寸盤〕九寸は盤の大きさを示したるもの、以下、八寸六寸皆同じ、盤は「サラ」にて、椀の一種、極めて淺く、食物を盛る器也、和名抄に「盤、佐良」と訓めり。
〔沐槽〕訓「カシラアラフフネ」は、頭を洗ふ槽の意也、洗面器と云ふが如し。
〔牀〕ものを置く臺を云ふ。
〔方四尺●〕此の下上文の例に據れば「高九寸」を脱せり
〔熨御衣牀〕火熨斗臺也。

彫木。長一尺六寸。廣一尺四寸。高一尺一寸。厚五分。長功二人。中功二人半。短功三人。

雜作。

飛驛函。長一尺一寸六分。廣三寸。深二寸三分。長功小半。中功半人。短功一人。
大籰。軸長四尺。高二尺。長功三人。中功四人。短功五人。
紙槽。長五尺。廣三尺五寸。深一尺五寸。長功四人。中功五人。短功六人。
板部。方一丈。長功七人。中功九人。短功十人。
板部。廣八尺。高九尺。長功六人。中功七人。短功八人。
席杼。長四尺五寸。廣三寸。厚二寸半。長功四人。中功五人。短功七人。
騂射的。徑一尺五寸。長功卅枚。
歩射的。徑二尺五寸。中功卅五枚。三尺的准此。
採桁。廣六尺。高七尺。山形。方二丈。以簀子為之。各中功一人。
鉦簴。長六尺五寸。廣四尺。高五尺五寸。長功六人。中功八人。短功十人。
鼓簴。長六尺五寸。廣六尺。高五尺五寸。功同鉦簴。
七尺札六枚。新。書奏方八寸版位七枚。元日朝拜新。

右年新造充中務省。

土偶人土牛各十二枚。新。板廿四枚。

右毎至大寒預前充内匠寮。

〔飛驛函〕飛驛の狀を入るゝ函也、「函」を「フヒツ」と訓むは、「文櫃」の義にて、「文箱」の意也。

〔大籰〕絲を繰りて卷き付くる者、籰は、和名抄に「籰、説文云、籰、收絲者也、字亦作㒹、唐韻云、和名、和久之江、籰江也」とあり。

〔席杼〕席を織る機の器具の一にて、藁、菅、藺草等を打ち締むるもの、席の經緯を貫く數箇の穴横列し、上下に動き得る樣に造れり。

〔鉦簴〕鉦を懸くる器也、天上の神獸とて、鹿頭、龍身等を刻みて飾れり。

（三尺的）訓「マト」圓（マト）の義、又古くは「イクハ」と訓みたり「射食」の義也、其の三尺とは、經三尺の意にて、大さを示したり、以下、二尺五寸、一尺五寸等ある皆同じ。

研案

（大倚子）椅子は「イシ」と訓む、公卿の着く腰掛の類也、名目抄に「初任公卿着座之時、撰吉日作之（椅子）令立聽也」とあり、「大」及び下文の「小」は椅子の大さを示したる也。

鐵工

（研案）文机也、江家次第には、「書案」と書す。

三尺的十枚。二尺五寸的百七十枚。

右正月十七日大射節料。內匠寮預前來畫。即寮官率長上工部等供之。

一尺五寸的三百卅四枚。

右五月五日四衛府騎射料。內匠寮預前來畫。即付諸府。

大倚子一脚高一尺三寸、長二尺。廣一尺五寸。析。切釘十二隻、各長一寸五分。膠一兩。長功七人、中功八人。短功九人。

小倚子一脚高一尺三寸。長一尺五寸。廣一尺三寸。析。切釘十二隻、各長一寸五分。膠一兩。長功五人。中功六人。短功七人。

大床子一脚長四尺五寸。廣二尺四寸。高一尺三寸。析。切釘卅隻、四隻各長二寸。廿六隻各長一寸五分。膠一兩、長功八人。中功十人。短功十二人。

小床子一脚高一尺三寸、長二尺。廣一尺五寸。析。切釘八隻、各長一寸五分。膠一兩。長功四人。中功四人半。短功五人。

檜床子一脚長四尺、廣一尺四寸、高一尺三寸。析。切釘廿六隻、四隻長各二寸。廿二隻長各一寸五分。膠一兩。長功三人。中功三人半、短功四人。

研案。

太政大臣案。長四尺五寸。廣一尺七寸。高二尺三寸。左右大臣案。長三尺五寸。廣一尺六寸。高二尺一寸。三位准此。四位五位案。長三尺二寸。廣一尺二寸。高一尺七寸。各長功一人。中功一人半。短功二人。

鐵工。

五寸刀子一枚析。鐵五兩。四寸已下每寸減一兩。長功四枚、中功三枚、短功二枚。

一尺刀子一枚析。鐵十一兩。九寸已下每寸減一兩。長功一人、中功一人小半。短功一人大半。

鰒切一枚。長一尺。廣一寸。析。鐵二斤十五兩。長功三人。工二人。夫一人。中功四人。工二人半。夫一人半。短功五人。工三人。夫二人。

舉鍐一隻莖三寸。環六寸。析。鐵十三兩。長功一人四隻。中功一人小半三隻。短功一人大半二隻。

鎹舌一枚長八寸。廣九寸。新鐵七兩。長功三枚。中功二枚半。短功二枚。

一尺打合釘一隻新鐵十四兩。長功五隻。中功四隻。短功三隻。

九寸打合釘新鐵九兩三分。長功七隻。中功五隻。短功四隻。

八寸打合釘新鐵七兩一分。長功十二隻。中功十隻。短功八隻。

七寸打合釘新鐵七兩。長功十七隻。中功十五隻。短功十三隻。

六寸打合釘新鐵六兩一分。長功廿五隻。中功廿三隻。短功廿二隻。

五寸打合釘新鐵三兩一分。長功卅隻。中功廿五隻。短功廿隻。

四寸打合釘新鐵二兩。長功卅五隻。中功卅隻。短功廿八隻。

三寸打合釘新鐵一兩一分。長功五十隻。中功卌隻。短功卅七隻。

二寸呉釘新鐵三分。長功六十隻。中功五十隻。短功卌隻。

一尺平釘頭徑二寸。新鐵一斤三分。長功四隻。中功三隻。短功二隻。

九寸平釘頭徑一寸八分。新鐵十三兩二分。長功六隻。中功五隻。短功四隻。

八寸平釘頭徑一寸七分。新鐵十二兩二分。長功七隻。中功六隻。短功五隻。

七寸平釘頭徑一寸五分。新鐵九兩。長功十五隻。中功十二隻。短功十隻。

六寸平釘頭徑一寸四分。新鐵七兩三分。長功十七隻。中功十五隻。短功十二隻。

五寸平釘頭徑一寸二分。新鐵五兩。長功廿五隻。中功廿隻。短功十八隻。

四寸平釘頭徑一寸一分。新鐵三兩一分。長功卅隻。中功廿五隻。短功廿隻。

〔鎹舌〕掛金に用ひ又は兩端同様に曲りたる釘の如きものにて、物の合目を繋ぎ止むる具也金屬製、木製等あり、鎹は字鏡に「鎹、加須加比」と訓めり。

〔一尺打合釘〕合釘は板等の績合に用ふる釘、兩端突りて板の緣に打ち込みて相方相繋ぎ合すもの也、一尺及び下の九寸、七寸等は釘の長さを示せり。

〔二寸呉釘〕呉釘は「鑽」に同じ、頭なく、打ち込みて見えざる様にせるもの也、訓「クレクギ」は「キリクギ」の訛也、和名抄に「鑽、和名、岐利久木、無蓋釘也」とあり。

三寸平釘（頭徑一寸）、釿鐵二兩三分。長功卅五隻、中功卅隻、短功廿五隻。
二寸半平釘（頭徑八分）。釿鐵一兩、長功五十隻、中功卅隻、短功卅五隻、
七寸丸頭釘釿鐵一斤九兩、長功四隻、中功三隻、短功二隻、
釘座（徑三寸）。釿鐵三兩、長功八枚、中功六枚、短功四枚、
右雜釘工一人所造依前件。但錯手者毎一尺釘十隻。九寸十二隻。八寸十五隻。七寸廿隻。六寸廿五隻。五寸卅隻。四寸卅五隻、三寸卅隻、二寸半六十隻。釘座四枚。各充一人。其鐵三斤五兩充和炭一石。

土工。

方丈壁一間一重棧（シタギノ）釿梠（ノモト）三擔。稾三圍。繩七十五丈。編棧（カク）夫一人。塗工一人。夫二人。二重棧釿梠四擔、稾四圍半。（麁塗一圍半。中塗三圍。）繩一百丈、編棧夫一人、麁塗夫一人半。中塗工大半、夫一人小半。間度材（アヒダシノ）工一人。穿著廿枚。表塗釿。白土二石。洗馬矢一石、粥汁釿白米二升。塗工大半。夫二人、椽間准方丈。中塗釿、稾一圍半、塗工一人、夫二人、表塗釿。白土一石。洗馬矢五斗。粥汁釿白米一升。塗工一人、夫三人。（不充麻柱功。）夫一人洗馬矢長功一石五斗、中功一石三斗。短功一石一斗、搗（カチフルフ）篩白土長功五斗、中功四斗五升、短功四斗。

葺工。

葺瓦工一人。夫三人。葺長十二丈以稾一圍充長三丈。提瓦以蘗瓦（サイカハラ）一枚爲一重。（其數隨屋大小。）
五丈屋八重。工一人。夫三人、充長一丈七尺。
九丈屋十二重。工一人半。夫四人半。充長一丈。
葺檜皮七丈屋一宇（葺厚六寸）。釿。三尺檜皮九百圍。（三尺三寸爲圍。）釘繩一千丈。葺工七十人。（無飛檐者減七人。檜皮八百圍。繩八百七十五丈。）

〔三寸平釘〕ひらたく打ちたる釘也、三寸及び下の二寸半、七寸等は長さを示せり。

〔七寸丸頭釘〕鋲釘の如く、頭にまるみある釘、七寸は長さを示す。

土工

〔釘座〕釘を打ちてよく締むる爲に敷く金具也。

〔方丈壁〕一丈四方の壁也。

葺工

〔間度材〕壁の小まひを造る横木也訓「マワタシ」和名抄に「壁帶」を充てたり、注に「今按末和多之、功程式云間度謂壁中之横帶也」とあり。

堀埴

〔飛檐〕高く聳えたる檐也、洛陽伽藍記に「飛檐峻宇」などとあり。

作瓦

〔瓺瓦〕牝瓦也、屋根の棟に仰向に乘せ置く瓦、和名抄に「瓺、和名、女加波良、牝瓦也」とあり。

築垣

〔鐙瓦〕鐙の如き形なしたる瓦、花瓦とも云ふ、和名抄に「花瓦、辨色立成云花瓦、鐙瓦也、阿布美加波良」とあり。

〔筒瓦〕牡瓦也、形竹筒を二つに割りたるが如し、屋根の端の方に、一列若しくは二列に敷く、和名抄に「乎加波良」と訓めり

五丈屋一宇（葺厚六寸）。新。檜皮六百圍。釘繩七百五十丈。葺工五十人。（無飛檐者減五人。檜皮五百五十圍。繩六百廿五丈。）

掘埴。

掘開埴土二人一日立方五尺。（堅埴減一尺。）一人一日取埴大二千斤。（堅埴減一千斤。）

工一人作埴槌十五柄。夫一人作運埴葛籠十五口。

作瓦。

夫一人一日打埴大三百斤。（雇人加一百斤。）以沙一斗五升交埴四百斤。以一千八百斤為一擧。以四擧充一夫。工一人日造瓺瓦九十枚。（筒瓦亦同。但彫端八十三枚。）宇瓦廿八枚。鐙瓦廿三枚。以埴十一斤造瓺瓦一枚。筒瓦九斤。宇瓦十八斤。鐙瓦十五斤。夫一人。築干雜瓦三百五十枚。

作瓺瓦新。商布一尺四寸。（宇瓦一尺五寸。鐙瓦筒瓦各二尺二寸。）並充二千枚。薴小一兩充雜瓦六百枚。

工卌人。夫八十人。作瓦窯十烟。烟別工四人。夫八人。燒雜瓦一千枚新。薪四千八百斤。（柔埴加一千二十斤。）

築垣。

高一丈三尺。（本徑六尺。末徑四尺。）長一丈。築工十三人。上土夫四人半。

高一丈二尺。（本徑五尺六寸。末徑三尺六寸。）長一丈。工十一人。夫四人。

高一丈一尺五寸。（本徑五尺五寸。末徑三尺五寸。）長一丈。工九人。夫三人。

高一丈。（本徑四尺五寸。末徑三尺。）長一丈。工四人半。夫二人半。

高九尺。（本徑四尺。末徑二尺六寸。）長一丈。工四人半。夫二人。

高八尺。（本徑四尺。末徑二尺六寸。）長一丈。工四人。夫一人。

〔本徑〕築垣の下敷の幅を云へり。
〔末徑〕築垣の上面の幅を云へり。

垣繩析苧

高七尺。本徑三尺。末徑二尺。長一丈。工一人半。夫一人。

垣繩析苧。

高一丈三尺。長廿丈。高一丈二尺已下一丈一尺五寸已上。長廿五丈。高一丈已下七尺已上。長卅丈垣並用大二斤。

〔材〕材木の長さ又は體積の單位、其の單數は物によりて等しからず、石材には一尺四方を單位とす。

削材

削材。

五六寸已上材。長功一人六千材。中功五千材。短功四千材。

作石

作石。

山作計六面積以一千二百材充工一人。中功短功並以二百材爲差減之。其庭作計五面積以九百材充工一人。

人擔

人擔。

巨材積一千四百材以上一千六百材以下。（應二人以上共擔者准此爲率）

雜材積三千二百材以下二千六百材以上。瓸瓦十二枚。筒瓦十六枚。鐙瓦九枚。宇瓦七枚。白土赤土各三斗。沙二斗五升。並爲一擔。若應准積者。大六十斤爲一擔。

〔宇瓦〕檐瓦にて、屋根の裾の四方へ垂れ出でたる處を葺くに用ふ、宇は、和訓栞に「のき和名抄に檐をよめり、又宇字、軒字をよめり、退の義なるべし」とあり。

車載

車載。

舊材積三萬材。（除彫穿積）雜材積一萬七千材。（但飛擔養子等爪ノクレ類並准舊材）榲榑十六材。瓸瓦一百廿枚。筒瓦一百卌枚。鐙瓦八十枚。宇瓦六十枚。大坂石積七千九百廿材。（小石九千材）讃岐石積六千三百材。（小石七千二百材）白土三石三斗。藁五十圍。四尺檜皮十二圍。三尺檜皮十八圍。各載一兩。（馱減三分之二）

〔榑〕和漢四才圖會に「榑、柱壁柱也、功程式云、有檜榑、椙榑、接、榑爲壁柱、則今云與屋板不同、據功程式注、則屋板也、今多用槇榧、而檜椙爲官家之用耳、皆薄片爲小板、層層襲葺、以竹釘固、細密者謂柿葺云々」とあり。

桴擔

〔小野栗栖野〕今の山城國愛宕郡の地をいへり、萬葉第六大納言旅人卿の「さし杉のくるすの小野の萩の花云」とあるも此地也。

年料

凡山城國宇治津雜材直并運賃錢者。五六寸歩板。一丈四尺柱直各卅六文。簀子一丈二尺柱直各廿一文。榑一材直七文。自同津至前瀧津榑一材功一文半。

凡近江國大津雜材直并桴功錢者。五六寸歩板一丈四尺柱直各卅文。簀子一丈二尺柱直各十七文。榑一材七文。自同津至宇治津榑一材桴功一文半。

凡丹波國瀧津額雜材直并桴功錢者。五六寸歩板一丈四尺柱直各卅七文。簀子一丈二尺柱直各廿二文。榑一材直七文。自同津至大井津。榑一材桴功一文半。

凡山城國大井津雜材木直并車賃錢者。五六寸歩板一丈四尺柱直各卅五文。榑一材直九文。簀子一丈二尺柱直各廿六文。自同津至寮車一兩賃五十文。

凡自小野栗栖野兩瓦屋至宮中車一兩賃卅文。

桴擔。

檻榑五十材各長一丈二尺。廣六寸。厚四寸。積一十二萬材。簀子卅五枚。各長二丈一寸。方四寸。積一十一萬七千六百材。七八寸桁八枚。各長二丈二尺。積九萬八千四百材。各爲一桴。自餘雜材大者准七八寸桁。小者准簀子。

年料。

生絲十八斤五兩。十八斤工等墨繩料。五兩纏大柀刀料。油一升一合。一升塗轆轤軸料。一合瑩大柀刀料。鐵百廿四廷二斤。鐵轆轤鉋刃料。并造充諸司雜鐵物料。熟銅四斤八兩二分三銖。作大柀刀料。伊豫砥五顆。木賊大二斤。磨床桌等料。膠二斤十二兩一分。作大柀刀并小刀等鞘料。小刀鞘料鹿革一張。鞘緒料鹿革一張。塗鞘漆一升一合。絁一尺五寸。綿四兩。調布一尺五寸。已上絞漆料。太刀鞘料馬革二張。各長五尺。瑩太刀猪膏五合。練金一兩。銀一兩。水銀一兩。御贖鐵人像料。金薄千四百卅枚。銀薄千四百卅枚。並廣三尺。

〔吹皮〕ふいごをいふ、和漢三才圖會に「按鞴、鍛冶家皆用ㇾ之、吹革也、以二狸皮一爲ㇾ上」とあり。

鍛冶

〔左京〕平安城の東の京をいふ、桓武天皇の平安城を制し給ふや、其全市を朱雀大路を界として、東西に分ち東を左京、西を右京といへるに始まる。

九月一日申ㇾ省請受。

凡鍬五十口。幷鍛冶吹皮料牛皮十五張。申ㇾ省三年一請。

鍛冶戸。

左京十九烟。　右京五十八烟。

大和國一百二烟。　山城國十烟。

河內國卌六烟。　攝津國五十八烟。

伊賀國三烟。　伊勢國三烟。

近國卌四烟。　播磨國十六烟。

紀伊國十三烟。

右鍛冶戸每年當國計帳進ㇾ官。官先下二主計寮一令ㇾ計二損益一然後下ㇾ寮。即從二十月一日一至二二月卅日一爲二番役一使。

凡五畿內及伊賀伊勢近江丹波播磨紀伊等國鍛冶戸百姓調庸條分者。附二貢調使一送之。

諸國所ㇾ進雜物。

商布七百六十二段。三千七百九十二段內。配二修理職一之遺。

駿河國七百段。下野國六十二段。

綿七百六十二把。三千七百九十二把內。配二修理職一之遺。

出雲國。

〔見二本司式一〕本司とは上文の東宮主膳、主殿などを指す、それ等の事を記したる式にありとの意也。

〔幄幔〕幄は小爾雅に「覆レ帳謂二之幄一」とあり、又た釋名に「幄屋也、以二帛衣一板施レ之、形如レ屋也」と見ゆ。引き延す幕也、幔は廣雅に「帳也」とあり、とばりをいふ。

〔不レ得二參差一〕不揃なる事が出來ぬ、相共に揃はざる可らずと也。

鹽廿斛。六十四斛內。配二修理職一之遺。

備前國。

庸米千斛。三千斛內。配二修理職一之遺。

越前國三百斛。丹波國一百斛。備中國三百斛。阿波國三百斛。

海藻二千九百五十斤。八千八百五十斤內。配二修理職一之遺。

紀伊國千五百斤。阿波國千四百五十斤。

魚鮨七斛二斗。一百卅一斛六斗內。配二修理職一之遺。

淡路國廿三斛六斗。伊豫國廿三斛六斗。

右並諸司出納依二官符一受用。

凡造二伊勢齋內親王野宮一支度者。工單一千四百六十五人半。夫單五千二百七十二人半。稾三百五十一圍。以二五畿內近江丹波等國所一レ進充レ之。莫レ過二此限一。

凡供神雜物。幷節新年料。諸司所レ儲雜器等。並依レ例造備待二官符幷宣旨一充レ之。東宮主膳主殿所レ儲雜器准レ此。其數各見二本司式一。

凡諸節及公會處應レ設二幄幔一者。寮依レ例預樹二柱桁一。

凡應二修理一諸司雜器物本司運二送於寮一。若應レ塗二朱及漆一者。令二內匠寮塗一。

凡工部五十人各日黑米二升。

凡工部一人。飛驒工一人。充二大學寮一令レ修二理小破官舍一。

凡飛驒國匠丁卅七人。以二九月一日一相共參二著寮家一。不レ得二參差一。

凡史生將領等月粮、便以秦庫物充之、

延喜式卷第三十四

延長五年十二月二十六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第三十五

大炊寮

竈神八座。

五色薄絁各四尺。商布八段。鍪八兩。木綿八兩。麻一斤。東鰒二斤。猪宍雜腊堅魚海藻各二斤八兩。鹽一斤六合。米酒各八升。稻八束。（但稻請神祇官。）

右春祭料依前件。冬祭准此。

六月神今食。

稻八束。粟四束。（用宮田稻粟。春備付神祇官。新嘗准此。）臼一腰。杵二枚。箕一枚。中取案二脚。納米粟。暴布帒二口。（別八尺。）女丁二人。各潔襷一領。（別五尺。）褌一條。（別六尺。）縫絲五銖。

右雜物依前件。十二月准此。但袋及襷褌等常便用。迄于新嘗會請替。（帒并襷褌中宮東宮亦同。）

供奉小齋諸司雜給。

官人以下及命婦已上。人別米一升。薪一百五十斤。（十二月准此。）

右一度食料。（人別見大膳式。）

鎭魂祭。（東宮亦同。）

神八座。

〔中取案〕食器を舁ぎ、又は祿綿などを積むに用ふる案（ヱツク）をいふ。

〔別〕例によりて補へり。

〔帒〕說文に「囊也」と見え、又た廣韻には「囊屬也」と見えたり。

〔飯器〕飯を盛る器也、玆に飯といふは所謂強飯をいふ

〔蘭笥〕飯を盛る器也、蘭を編みて作りたるものなるべし。

〔並〕恐らくは衍字なるべし。

〔夏冬並同〕本文の注を見るに夏冬不同也、故に衍字なるべし。

〔土〕原本には云に作る、下文に據りて改めたり。

大直神一座。

右座別米一升。用官田稻二束。付神祇官。

供奉諸司。人別米八合。人數見大膳式。薪一百五十斤。

中宮鎭魂。

官人已下雜色已上料。米五斗四升四合。人別八合。薪卅斤。

新嘗祭料。

臼一腰。杵二枚。箕一枚。中取案三脚。八脚机一前。明櫃一合。調布二端一丈六尺。一端八尺納御幷中宮御米粟帶料。二端八尺御幷中宮女丁八人襌襷料。

右祭料依前件。但袋襷襌等常便用。迄于來六月神今食請替。

供奉小齋諸司雜給。

官人以下御巫以上卌七人。別米二升。五十九人。別一升五合。並二度。五百二人。別一升。薪四百卅斤。

宴會雜給。

親王三位以上。四位參議。別米一升二合。命婦三位以上同之。自餘諸節亦同。四位五位幷內命婦大歌別八合。笛工國栖別二升。

其飯器參議已上並朱漆椀。五位以上葉椀。命婦三位以上蘭笥。加笥。五位以上命婦並同椀。加盤。大歌立歌國栖笛工並葉椀。五月五日青柏。七月廿五日荷葉。餘節干柏。

平野祭料。夏冬並同。

雜給米五石八斗九升。廚飯一石一斗五升。平飯十三石料。但夏冬祭米五石三斗二升。盛飯土埦夏七十合。冬一百合。鋺形。夏六十口。冬百廿口。覆盆柏九十八把。薪

〔春日祭新〕この項に柏薪の新なし、恐らくは脱漏なるべし。

〔裹飯〕また屯食ともいふ、今の所謂強飯のにぎりめし也鳥の卵の形に握りなどするより、強飯鳥の子などともいへり、江記別記には屯食五十など見えたり。

〔炊部〕大炊寮の下司也。

三百十斤。盤七十枚。

園韓神祭新。夏冬亦同。

稻八束。受神祇官。雜給米二斛六斗二升八合。磨飯五斗。平飯五石八斗二升新。 土埦六合。加盤。鋺形六十口。柏卅把。薪百五十斤。

春日祭新。春冬亦同。

稻八束。受神祇官。雜給米七斛。磨飯三石三斗。平飯十三石五斗新。 大小豆各一斗。糯米四斗。土埦十合。鋺形一百口 已上令大和國供之。

大原野祭新。春冬亦同。

米七斛。磨飯三石。平飯十三石七斗五升新。 土飯埦七十口。加盤。鋺形百廿五口。覆瓮葉柏九十把。薪四百廿斤。

松尾祭新。

米二石九斗二升八合。一石四斗二升八合机六前、折櫃卅五合。大笥卅三合。裹飯百廿口新。一石五斗百度新。 飯椀五十一口。覆瓮柏卅五把。

薪五荷。夫五人。

釋奠新。春秋亦同。

稻米粱米各一升四合。並先聖先師二座新。稷米六升六合、黍米七升七合、先聖先師九哲十一座新。

魚笥四合。韓竈一具。並十一座新通用。

米四石五斗。享官一百人。學生三百五十人新。人別一升。 薪三百九十斤。

右諸祭新依前件。其當祭日允屬史生各一人率炊部使部等、共赴祭所供事。

齋内親王從初齋院遷野宮時新。雜給米二石。土埦百口。薪卅斤、柏十把、允屬各一人率史生炊部等祗供。其向伊勢日亦同。

齋內親王參賀茂祭日雜物。

米一石三斗八升六合、陶埦卅一合、盤卅一口。○印埦廿二口、薪卅斤。

正月最勝王經齋會料、

米十斛一斗一升二合。佛聖二座、四王四座、日各四升、講師以下卅二口各二升、沙彌卅四口各一升六合、並七箇日、得度沙彌十二口各一升二合、一度供之、燈油二升一合、松明廿一把。

薪七百廿斤。供奉官人以下十三人各給潔衣一領。官人一人、史生一人、各調布二丈、使部五人、女孺二人、各庸布一段、仕丁四人、各商布一段。

同會終日、白米黑米糯米黍稗胡麻大麥小麥大豆小豆各四斛、東西寺預請備供、

同會給米卅一石六斗〔六升〕八合、諸司間食料米廿四石五斗、童子等料七石一斗六升八合、炭料薪千四百卅斤。

正月修眞言法料米廿斛六斗七升二合、糯米五石三斗三升、大豆一石八斗九升七合、小豆一石一斗八合。胡麻五斗七升五合。大小麥各四斗二升。

同月修太元帥法所料米十七石六斗四合、糯米四石四斗七升。大麥四斗二升。小麥一石七斗八升。大豆五斗八升、小豆一石五斗七升八合、胡麻一石三升五合。

東寺春秋修法。秋灌頂佛供料、各米十石。

同寺中台五佛左方五菩薩、右方五忿怒供料、米日六升九勺。

七寺盂蘭盆料。寺號見大膳式。

米一石二斗六升、新舊各六斗三升。寺別九升。糯米四斗七升六合。別六升八合。黍米三斗五升、別五升。大豆二斗八升。別四升。

聖神寺季料、常住寺准此。

佛聖二座。日別米二升。

〔印〕貞本は仰に作る、恐らくは片の字の誤りなるべし。

〔細布〕また細美ともいふ、貲布(サヨ)に同じ、「さよみ」を轉訛して「さいみ」と訓むに依りて細布に作る也、詳しくは一一頁頭注を見よ。

〔六升〕今、貞、京の二本に據りて補ふ。

〔東寺春秋修法〕東寺に於ける春の修法は正月七日より七日間、秋の修法は九月十七日より七日間に行ふ。

〔年分〕此の下に度者の二字、大膳式に見ゆ、恐らくは脱漏せるなるべし

〔主膳監〕唐名典膳局、春宮坊の被官にして東宮の膳部の事を掌る。

〔稻〕要略に糯とあり。

〔擇案一脚云々〕以下別脚案一脚の九字、貞、京の二本に無し。

〔正月四節〕元日節會、白馬節會、踏歌節會、射禮とをいふ。

嘉祥寺地藏悔過新米二石四斗。糯米四斗六升。大豆二斗。

右每年三月十月中旬修㆑之。其佛聖以下沙彌已上一度料。當月上旬運㆓送寺家㆒。其夫申㆑官令㆓京職進㆒。

海印三昧寺試㆓年分㆒。料米八斗。四斗衆僧料。四斗使等料。

講㆓說仁王經㆒供養料。

佛菩薩聖僧以下沙彌以上。並同㆓最勝王經法㆒。

凡供御稻米粟米舂備。日別送㆓內膳司㆒。中宮亦同。但東宮送㆓主膳監㆒。

凡供御料稻粟並用㆓官田㆒。中宮東宮齋宮亦同。但齋宮者在京之間供㆑之。其舂得米一束二把五升。糯米亦同。一人日舂三束。但藥充㆓內膳司㆒。其舂㆑米女丁八人。御幷中宮各三人。東宮二人。各給㆓衣服㆒。夏人別黃帛三丈。紺布二丈。庸布一段。冬黃帛一疋。紺布二丈。庸布一段。庸綿二屯。日別給㆓粮米二升㆒。

供御年料。中宮亦同。

臼三腰。各高三尺。口徑二尺六寸。杵十枚。槽三隻。各長一丈二尺。闊三尺。箕廿枚。中取案三脚。擇案一脚。別脚案一脚。明櫃一合。已上二種東宮亦同。

緋地兩面一丈二尺。緋絹一丈二尺。生絹一丈二尺。絲一分五銖。調布一端五寸。

右十一月新嘗會始用。迄㆓來年新嘗會㆒請換。但臼杵槽案隨㆑損請受。

凡正月四節。五月五日。七月廿五日。九月九日節給食法。並同㆓大嘗會㆒。正月七日以外諸節並除㆓無位女王㆒。

凡正月四節料薪一千四百七十斤。元日二百卌斤。七日八百七十斤。十六日二百七十斤。十七日九十斤。

五月七月九月節各一百五十斤。

四月一日侍從已上儲料米一斛。十月亦同。

〔番長〕近衛府と兵衛府とにあり、其の職掌稍々同じければ、茲には近衛府の番長を說く、近衛の長にて、舍人中より撰用す、上皇執政の時若くは兵仗を給ひし時及び大臣大將は必ず之を召使ふ、卽ち近衛隨身の上﨟也、また「つがひのをさ」ともいへり。

〔勘勾〕勘は說文に「校也」とあり。勾は說文に「曲也」と見ゆ、是非曲直をくらべ正す也。

中務史生十人。省掌一人。監物史生四人。大學寮官人六人。博士十五人。史生四人。學生五十人。民部史生廿人。宮內史生十人。春宮坊史生二人。舍人五十人。左右近衛府生各六人。番長二人。近衛二百人。左右兵衛府生各二人。番長二人。兵衛百五十人。左右衛門府生各二人。門部五十人。

右依前件人別日米一升。但大學官人博士。並諸衛府生以下日各二升。大學史生學生日各一升二合。

內豎二百人。月新人別日米六合。

出納官物諸司百度新。一月所受米六斛。五位已下六合。史生四合。用盡之日。先進前帳。勘勾然後更請。如有所殘者。廻充後新。

撿納御薪官人給飯。五位八合。六位已下史生已上六合。

寮家年新。

中取案六脚。櫓二口。高各三尺。口徑三尺。有蓋。槽四隻。長一丈。深九寸。箕十枚。輿籠五脚。置簀六枚。匏十柄。明櫃五十合。板笥一百合。斗四口。升廿口。

收供御米粟舍天井新。調布四端。隨損請換。行幸供奉仕丁二人裝束。人別紺布衫一領。長二丈一尺。袴一腰。長七尺。布帶一條。長九尺。中割。練絲二分。縫衫袴新。並三年一請。

凡諸國年新所進糯米。寮官撿挍。勿令他粒雜糅。又雜穀隨到量收。訖即申省。

諸司共收糯十斛。

右每年干收諸司撿納。

延喜式卷第三十五

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣淸貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第三十六

主殿寮

神卄三座。（案家四座。釜殿三座。松山三座。炭山十三座。）

五色薄絁各五尺。倭文三尺。木綿三斤。麻二斤。鍬五口。酒三斗。飯一斛。米四斗。糯米二斗。大豆四升。鹽一斗五升。鰒。堅魚各一籠。腊三籠。雜腊一缶。海藻四籠。滓醬二斗。糟四斗。食薦四枚。柏一俵。商布五段。（並用寮物。但釜殿神料自內藏寮請之。）

右春祭料依前件。秋祭准此。

釋奠料。（春秋並同。）

名香二兩。（受藏人所。）胡麻油二升。油𨁽一口。燈盞八口。（加盤。下皆准此。）燈炷布二寸。松明七十把。（五十把燎五所料。廿把燒幣物料。）

鎮魂料。（東宮亦同。）

槾椒油二升四合。燈盞八口。油𨁽一口。燈炷布二寸四分。

園韓神祭料。

油二升。油𨁽一口。燈盞八口。燈炷布二寸。

加茂神祭料。

油二升。油𨁽一口。燈盞八口。燈炷布二寸。續松五十把。

松尾祭料。

〔木綿〕安齋隨筆に「式に見ゆる木綿は布帛類には非ず其の木綿はかちの木あま皮白くして裂けざれば紙の如し、大學寮式に韓櫃を結ぶとあれば、是れを繩にするなるべし、かぢの木は穀木なり、神事に用ふる「ゆふ」といふ、かぢの木のあま皮なりとぞ今は紙を用ふ」とあり。〔燈炷布〕燈の心にする布をいふ。

釋奠

鎮魂

園韓神

賀茂神

松尾

〔廣一幅•〕幅の下、半の字脱漏なるべし。〔廣〕今出雲本に據りて補ふ。〔油飾一口一尺〕京貞の二本に依り補ふ。

新嘗會

〔油〕今、出雲本に依りて補ふ。〔護摩壇〕護摩を修する爐を据うるものをいふ。大壇、水壇、木壇の三種あり、實際地を掘りて牛糞を塗り、式の如く大作法を行ひしを大壇と云ひ、掘地等の事をなさず、但灑水を以て其地を淨めたるを水壇と云ひ、木を以て作りたるを木壇といふ。

最勝會

眞言法

大元法

諸寺年新

續松卅把。炭一石。

新嘗會供奉新。中宮准此。

沐槽一隻。加案。覆絁帷一條。長五尺。廣三幅。浴槽二隻。加案、覆綦布二條。長五尺。廣二幅。下敷調布帷二條。各二端、白綿一分。池由加一口。覆一條。表綦布長四尺、廣二幅。裏絁長四尺、廣二幅。由加十口。覆十條。表綦布各長三尺、廣一幅•。裏絁各長三尺、廣一幅半。板蓋十一枚。圓槽二隻。覆綦布二條。各長四尺五寸。〔廣〕一幅。楉案一脚。覆綦布一條。長六尺二寸。廣二幅。匏十柄。受八升已上。絁飾六口。圓飾四口各四尺。油飾一口三尺。〔油飾一口一尺〕。洗槽布一條。二尺四寸。拭布一條。七尺。筥一合。鹿筥一合。御巾紵布六尺。生絲二兩三分。一兩三分縫雜物新。一兩縫衣裳新。小豆三升。新。澡豆新。土鋺形一口。土唾盤二口。陶鉢三口。明盆六口。庭火新。明櫃二合。麻笥三口。燈樓六具。各加案。紗四丈八尺。燈臺二基。案三脚。置御巾別脚案一脚。居櫃板案二脚。櫚案一脚。油瓱二口。燈盞十四口。六口忌火新。八口解齋夜新。並別加盤。菲三兩。今木人女四人衣裳新。調布五端。各一端一丈五寸。絲一兩。油三升四合。一升八合小齋侍從候所三度新。一升六合解齋夜新。青摺袍廿二領。細布二領。調布廿領。踐祚大嘗會加細布二領。請縫殿寮。

右新嘗會新依前件。其二度神今食者並用件物。更不請新。事訖之後充神祇官。

正月最勝王經齋會新。油四斗二升。堂僧房新。燈炷布一尺五寸。燈盞卅六口。六口佛供新。卅口僧房新。炭廿九斛四斗。薪卌九荷。

調布二端。供奉官人一人。史生一人。殿部二人淨衣新。行事所油三斗六升。

正月修眞言法新。油一斛四斗二升五合三勺。二斗二升二合三勺五大菩薩并十二天新。九斗六升三合佛供并僧沙彌卌二口新。二斗一升僧房新。三升行事所新。寮家運送。

同月修大元帥法新。〔油〕一斛四斗五升一合。八斗六升一合護摩壇供新。三斗四升僧供新。二斗四升僧十五口房新。一升行事所新。寮家運送。

諸寺年新油。

聖神寺四季新。季別三斗五升二合。

法華寺月別三斗。小月減二一升一。
靈巖寺料月別三升、小月減二一合一。
東寺年料一斛六斗六升六合。一斛六升五合眞言中台五佛左方五菩薩右方五忿怒從二正月一迄二十二月一燈料。三斗春修法料。三斗秋灌頂料。
神護寺燈料月別三升、小月減二一合一。
常住寺季料三斗五升二合。
延曆寺灌頂料一斗。寮家送レ之。
嘉祥寺春地藏悔過料三升、冬料准レ此。
七箇大寺盂蘭瓫料胡麻油四斗九升。寺別七升。
諸司所請年料。
典藥寮胡麻油四升一合。煎二供御地黃一料。猪膏二百十三斤十五兩。造二供御并中宮春宮坊御藥及人給一料。
大膳職胡麻油一升二合。供御并中宮御索餠糖料。
內藏寮胡麻油二斗八升七合、麻子油二升五合。二升二合伊勢太神宮御鞍二具用途料。五合造二年料御靴并絲鞋等一料。二斗盛山陵并所々荷前料。六升五合。麻子油二升
圖書寮油三升。二升元日御并中宮御藥東所燈料。一升奉寫年料漸寫仁王經所料。
陰陽寮油一斛五斗九升三合。漏刻所料自二三月一迄二八月一六箇月。夜別四合。自二九月一迄二二月一六箇月。夜別五合。
兵庫寮胡麻油六合。五合修二理甲一百領一料。一合造二大稅太刀并伊勢神宮祭鞍一料。猪膏五合。同造二大稅太刀并神宮鞍一料。猪膏小廿斤。造二鼓吹生等藥一料。
隼人司荏油一斛三斗八升。造二年料油絁一料。

〔秋灌頂〕九月之れを行へり、灌頂とは佛道に行ふ法にて、香水を人の頂に灌ぐ儀をいふ、受戒又は修道昇進の時、又た結緣の時等にも行ふ。

〔新翻仁王經〕不空の譯にて、仁王護國般若波羅蜜多經といふ、二卷あり仁王とは當時の十六大國の國王を指す、佛、諸王に對して、各其の國を護りて安穩ならしむるために般若波羅蜜多の深法を說きし經文也、謂く此經を受持講說すれば七難起らず、災害生ぜず萬民豐樂なりと、故に古來公私共に禳災祈福の爲めに讀誦する也。

諸司年料

〔造酒司〕「みきのつかさ」とも「さけのつかさ」とも稱す、宮內省の被官にして、酒、醴酢を釀して皇室の供御、饗宴の用に供す、正、佑、令史、史生、酒部、使部・直丁、酒戸等の職名あり。

〔乳牛院〕內藥寮に屬し、供御の乳牛を養ひ置く所也、右近馬場の西に在り、職員に別當・乳師・預等あり。

內匠寮油三升五合。造革筥年新。猪膏十五斤。造雜工等料新。

木工寮胡麻油一升一合。猪膏五合。並造年新雜物新。猪膏卅斤。造雜工已下仕丁已上藥新。

縫殿寮油五升。御服所幷寮中十二月晦夜新。

造酒司油四升。御酒殿十二月晦夜新。

左右馬寮車油三斗八升二合。寮別一斗九升一合五勺。飼青御馬所新油一斗六升四合。寮別三升二合。季新胡麻油三斗二升。寮別一斗六升。樧樧油一斗六升。寮別八升。猪膏六升四合。寮別三升二合。

乳牛院油一升。十二月晦夜新。

畫所油五升。

作物所油三斗。

內侍司。命婦已下女孺已上。十二月晦夜。雜給新油六斛五斗。二石中宮新。

侍從所月新油三升。小月二升九合。

賀茂齋院新油一斛一斗。正月元日節新六斗。四月御祓新五斗。

賀茂齋內親王月新二斗一升。小月減二七合一。

親王幷妃夫人各月別九升。小月減二三合一。

女御六升。小月減二二合一。

親王頓新六斗。下二知名號一之日所レ行。

〔壁代〕壁の代りに垂れ用ふる布帛也禁中及び高家にて使用す、雅亮裝束抄に、壁代、面は例の木丁（几張）の樣にて、裏は白く埜して、紐は表すはうながら、こきうちながらを合せてあり、內の紐は皆白きなり、廣さ三寸ばかりにて面の紐、壁代に同じとあり。

〔釜殿〕內膳司に在りて釜を置く所也

凡諸祭及節會等所須油。皆待印書出充。數各見本司式。

凡供御薪用胡麻油。自餘充雜油。

凡量收諸國進中男作物雜油。中男一人胡麻油七合。荏油五合。海柘榴油三合。麻子油三合。呉桃子油三合。槾椒油五合。猪膏五合。

凡油十斛。別納以爲不動。

凡量收油直丁二人。每年各給調布衫一領。襷一條。褌一條。

年中薪

年中所用御薪。

湯殿薪一百八十荷。御匣殿御洗薪七十二荷。御沐薪一百八十荷。御脚水薪二百卅荷。

御炊薪七百八荷。儲薪二百荷。中宮准此。御贄殿五荷。

御輿一腰綱廿六條新。緋絁四疋四丈六尺。腰輿二丈五尺。心新調布十二端四尺。腰輿一端八尺。帊一條新淺紫綾二丈八尺。表新。緋綾二丈八尺。裏新。壁代帷三條新淺紫綾一疋。表。緋綾一疋。裏。並隨損請。

年新

供奉年新。中宮准此。

沐槽一隻。加案。覆絁帷一條。長八丈。廣三幅。浴槽二隻。覆綦布二條。長五尺。廣二幅。下敷調布帷二條。別條二端。洗牀一脚。覆綦布一條。長六尺。廣二幅。池由加二口。一口湯殿。一口釜殿。覆絁二條。各長五尺。廣二幅。由加廿口。覆廿條。表綦布各長三尺。廣一幅。裏絁各長三尺。廣一幅半。板蓋廿枝。圓槽一隻。楉案一脚。覆綦布一條。長六尺。廣二幅。匏卅柄。絁篩七口。圓篩五口各四尺。泔篩一口三尺。油篩一口一尺。薄絁篩三口。各長一丈。洗槽綦布二條。各六尺。打掃布一條。六尺。拭布一條。一丈二尺。筥二合。麁筥二合。御巾布紵六尺。生絲一兩。泔薪白米月別二斗。土絁

形一口。土唾盤三口。土瓫八口。土火蓋十口。𤭯三口。覆瓮布三條。(各二尺。)乳缶四口。覆布四條。(各一尺。)油𨏍二口。(隨損請替。)陶瓫八口。箸揖十五口。洗盤三口。鉢二口。叩瓫廿口。叩樻六合。持廁筥廿六口。杓六柄。砥一顆。燈樓粁紗二疋二丈四尺。(春秋各一疋一丈二尺。)油𨏍二口。燈盞廿口。燈炷調布十二端三尺六寸。(長夜一尺六寸。短夜減三寸。)燈油隨夜長短。(從二月至七月。夜別三升三合。從八月至正月。夜別三升八合。)簀敷調布一條。(二丈四尺。)洗拭御殿庸布十端。御川殿巾布二條。(別一丈。)洗粁酒日別五升。糟一斗。筥二百卅把。(月別廿把。寮所備。)稾七百十一圍。御沐粁蒋七十二圍。(月別六圍。受掃部寮。)

右起十一月一日。迄來年十月卅日粁。

三年一請。

漆槽二隻。漆大案一脚。覆帷一條。(油絁表。生絁裏。各長一丈七尺五寸。)漆榻二脚。漆剪二柄。絁圓簾二口。(各長四尺。)緋絲二銖。覆敷細布單二條。(各長二丈八尺。)浴槽下敷曝布帷二條。(各二端。)貫簀一枚。調席二枚。今木人衣裳粁。曝布卅一端一丈二尺。(男卅六人各三丈二尺二寸。女四人各四丈三尺。)

生絲一約二兩。白筥二合。韓樻三合。

寮家年粁。

大鏁十九口。鎰二柄。(已上請木工寮返故。)鐵十口。鋤一口。砥一顆。等美蓑廿五領。藺笠廿五枚。漬菜鹽一斛二斗。

毎日早朝頭率僚下。掃治御前及宮妓所所。正月元日燒香史生左右各二人。其禮服者冠袷袍。(表緋。裏白。)下襲袷衣。(表緋。裏白。)白袴帶。鼻切履。執威儀物。殿部左方十一人。一人執梅枝。二人紫繖。三人紫蓋。二人菅繖。三人菅蓋。右准此。其裝束各黄帛袷袍一領。(並一備之後隨破請替。)

〔[illegible]〕庇又は母屋の天井に懸くる方形の燈具也。

〔御川殿〕御廁也。

〔二寸〕貞・京二本になし、恐らく衍字なるべし。

〔燒香〕四方拜の儀に行ふ。

〔三年一請〕

〔袍〕正禮束帶の時用ふる表衣也、盤領にて長さ股膝に至り、綾地に種々の文を織る、文官の着用するを縫腋、武官の着用するを襖と云ひ、各其製を異にす。

〔寮家年粁〕

〔下襲〕半臂の下に着する服也、形小袖の如く、後に腰より續きたる裾ありて長く引けり。

〔燈臺〕燭臺に似たる燈具也、貞丈雜記に、燈臺は木にて作り、漆にてぬる、白木にもする也、形は燭臺の如く也、云々、燈臺には油火を點す也とあり。

〔秦氏〕秦主政二世の孫孝武王より出づ、孝武王の子功滿王仲哀天皇八年來歸し、其子弓月王應神天皇の御宇來歸す、秦氏は是等の子孫也。

〔內侍宣〕勾當內侍が勅を奉じて直に藏人頭に仰せて宣下する宣旨を云ふ

五月五日節供奉殿部五人、各紅染曝布二丈一尺、洒水今良男十六人、各紺調布二丈一尺。調布袴各一腰。布帶調布四尺五寸。持麻筥八口。杓八柄。七月廿五日准此。

十二月晦夜供奉內裏并大極殿豐樂殿武德殿儺料等雜物、榛椒油七斗六升六合。胡麻油四斗。油瓱廿六口。燈盞一千百六十六口。二百五十三口加燈。燈炷調布一丈九尺三寸。燈臺八十基。紫宸殿并御在所新。中宮油八斗。油坏八百口。盤百卅口。瓶十六口。燈炷布一丈三尺。追儺今良男卅人。女十六人。女五人奉中宮。各給衣服。表桃染布。裏調布。各二丈一尺。女減五尺。庸綿二屯。生絲一分。

十二月晦夜宮人。當日晚頭率史生殿部今良等。大內前庭。東西相分立燈臺。各相去八尺。隨即燃燈。于時追儺。已畢供奉御湯。

車駕行幸供奉殿部十人。各給紅染細布衫一領。細布帶一條。袴一腰。今良卅人。各紺調布袴一領。調布帶一條。調布袴一腰。已上隔三年請。仕丁十二人。各紺布衫一領。布袴一腰。布帶一條。已上隨破請替。

燈樓九具。盤形燈臺三基。並隨損請替。

斑幔卅四條。大卅條。小四條。並廿年一請換內藏寮。

火炬小子四人。中宮不在此限。取山城國葛野郡秦氏子孫堪事者為之。齒及冠婚申省請替。其給時服者。各夏絁一丈七尺六寸。袴料七尺一寸。絲四銖。冬絁三丈五尺二寸。袴料一丈四尺二寸。綿三屯。絲四銖。履一兩。

凡充諸司炭松者。皆令寮家仕丁燒採。其薪者依內侍宣。以收寮薪充之。

凡今良男一百卅一人。女二百廿六人。並給月粮。男別日黑米二升。鹽二勺。女別減米五合。鹽五撮。但諸司所散不經此寮請之。

延喜式卷第三十六

延長五年十二月廿六日

外從五位上行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式巻第三十七

典薬寮

元日御薬。中宮准此。

白散一剤。「白散歳旦以温酒服五分匕。一家有薬則一里無病。帯是散病気皆消。若他人有得病者、便温酒服方寸匕。若四五日以散三方寸匕、永三升煮三沸、服一升、取汗愈」　度嶂散一剤。「度嶂散辟嶂山悪気。若有黒霧鬱勃及西南温風、皆為疫癘之平旦以温酒服一銭匕。辟諸毒気。夜冒霧行、彌宜服之」　屠蘇一剤。「屠蘇酒治悪気温疫。辟邪風毒気。度嶂山三人一人服酒一人服粥一人空腹也。服酒者免。又往至長安中時気不免者。比門華佗以此方与曹武帝、作此酒。他分布者民家悉並者験。及江東蔡司徒家用至有良験。名屠蘇酒也。朱本云云」　千瘡萬病膏一剤。供薬漆案三脚。一脚安散膏。一脚安屠蘇餝子。足。一脚安酒盞。花銀盞一合。銀盤一口。白銅鋺一合。白銅盞子四合。「兼名苑云盃一名卮。注云盞盃之最小者」朱漆下食盤八合。径八寸。並収寮。嚢一口。長二尺三寸。　嚢緒絲一両。紙廿張。木綿三分。所須人参七両三分。甘草六両二分。桂心三分。請内蔵寮。白朮二両三分。大黄一両二分。附子三両二分。蜀椒一両二分。防風三分。烏頭一両二分。細辛三両。呉萸一分。干薑「養性要集云乾薑一名定薑。音居良反」一分。麻黄一両一分。桔梗二両一分。当帰一両。大戟二両。升麻一両。白芷一両。芍薬一両。莽草一両。黄芩「黄芩音琴一名戟天」一両。独活一両。蛇銜一両。生地黄「地黄一名地髄」五両。薤白廿茎。已上自寮庫行之。苦酒四升。猪膏十斤。薬篩絹四尺。大笥二合。折櫃二合。炭一石。

右起十一月下旬盡十二月下旬。依例造備。所須雑物。十月十五日申省。省申官下符所司。十一月上旬請備。其雑物数随時増減。造薬官人已下使部已上。各賜潔衣。官人已下薬生已上人別絁一疋三丈。綿三屯。未選生使部調布一端。綿二屯。　限廿八日

〔白散〕白朮、桂心、桔梗、細辛各一匁を合せし物也。

〔白散云々〕以下註文古寫本、京貞二本傍註となす、蓋し後人の竄入ならむ、以下之に同じ

〔度嶂散〕麻黄、山椒、細辛、防風、桔梗、乾薑、白朮、肉桂を合せし薬也

〔屠蘇〕白朮、桔梗、山椒、防風、肉桂、大黄、小豆を分せし薬也。

〔華佗〕後漢の末の名醫にて、字は元化、譙の人也。

〔曹武帝〕魏の曹操なり。

〔千瘡萬病膏〕所謂膏薬（タウヤク）也

〔花足〕机、臺等の足を花形に彫りたるを云ふ。

〔尚藥〕後宮藥司の女官也。

〔御生氣云々〕所謂吉方に從ふ也、例へば東方其の年の吉方に當らば青色を用ふる類也。

〔卽〕京本に據りて補ふ。

〔藥司童女〕小女の未だ嫁せざる者を撰ぶ、藥子これ也屠蘇は小兒より飮むと云ふ本文ある故、小女を撰びて先づ飮ましむるならんと云ふ。

〔三朝而畢〕第三日には其外膏藥を供する也。

〔傷寒〕熱病の類也

給酒食。其元日供奉御藥尚藥一人。（中宮東宮各典藥一人。）女孺五人。釆女二人賜潔衣。各絁一疋。綿二屯。（其色隨御生氣。預移陰陽寮待報知之。然後請受。中宮東宮亦同。）十二月晦日卯一刻宮內省幷寮共候延政門之外。闈司奏訖。寮官人率藥生等昇御藥案相共入置庭中版南。共以次退出。省奏訖。更入昇案退却。〔卽〕付尚藥。但屠蘇者官人將藥生同日午時封漬御井。令主水司守。元日寅一刻官人率藥生就井出藥。卽省輔一人幷寮官人等持藥共入進置。卽用銀鎗子煖屠蘇。（造酒供酒。主殿設火。）尚藥執御盞。率女孺昇殿令藥司童女（殿上平定。）先嘗。然後供御。次白散度嶂散三朝而畢。（中宮東宮准此。）卽賜祿。五位襖子。允屬侍醫女醫博士各綿一連。史生幷生十七人各綿三屯。尚藥及女孺六人各綿五屯。

臘月御藥。

犀角丸六劑。（犀角丸治一切毒腫痛膿化。）芍藥丸三劑。（芍藥丸治寒食或府有客好爲熱往來寒熱胃氣不平。）溫白丸四劑。千瘡萬病膏一劑。升麻膏二劑。耆婆膏一劑。調仲丸一劑。（調仲丸治大病之後腹中不調寒熱不適也。）芒消黑丸一劑。（治水病身體腫。）豉丸一劑。（解寒食散有頭痛目疼作寒小便不利用之作熱面目黃黑及傷寒也朱本云云）供藥漆案四脚。小韓櫃四合。中取案四脚。（血漆塗收寮家。）所須犀角一斤三兩二分。甘草七兩一分。巴豆十一兩一分三銖。桂心四兩。薰陸香一兩二分。楓香一兩二分。蜜小二斗五升七合。（已上幷受內藏寮。）升麻十兩二分。黃芩一斤五兩。當歸七兩。防風六兩。麻黃六兩。人參八兩。黃耆八兩。女子人九兩。干藍六兩。防葵四兩。黃連十兩。芍藥九兩三分。葶藶子九兩。杏仁十二兩。柴胡八兩。大黃二兩十五兩二分。烏頭十兩。紫菀二兩。吳茱萸二兩。呂藿二兩。厚朴二兩。桔梗二兩。皂莢二兩。茯苓六兩。干薑二兩。蜀椒三兩。前胡二兩。蘆子六兩。龍骨一兩二分。鼈甲四兩。䗪蟲六十枚。枳實八兩。細辛三兩。芒硝一斤二兩。栝樓根一兩。龍膽一兩。苦參一兩。豉六兩二分。大戟二兩。芻草一兩。芎藭一兩。獨活一兩。蛇銜七兩。附子一兩。生地黃五兩。薤白廿莖。白斂六兩二分。漏蘆四兩。

〔白薇〕葉柳に似たる草也、婦人藥に用ふと云ふ。

〔猪膏〕和漢三才圖會に「俗云末年天伊加、通小便黃疸水腫、治皹裂及諸瘡」とあり。

〔四味理仲丸〕四味を調合せる理仲丸也、理仲丸は霍亂下痢の藥也。

〔烏梅丸〕丁腫下痢を治すと云ふ。

〔耆波膏〕耆婆草より作れる膏藥也、和名抄に、「治一切風毒」と見えたり。

〔桃仁〕桃の核仁也これより採れる油を醫藥となす、和漢三才圖會に、その四効を舉げ、「故通月水、通潤大便、消心下堅硬」と云へり。

連翹四兩。萹蓄八兩。松脂一兩二分。白薇一兩二分。青木香三兩。已上自寮申官、受庫行之。猪膏一斤十兩三分、酒酢各五升。油絁二丈。絁一丈。紗二丈、綿一斤、調布三丈、安藝木綿大四兩、紙卌張、陶椀三合、壺三合。盤三口。筥坏十合。洗盤三口。叩盆二口。麻笥盤二口。水麻笥二口。杓三柄。大笥二合。匏一柄、折櫃二合。炭一石五斗、砥一顆、長席四枚。長薦四枚。涌二用中宮幷雜給藥。

右與元日御藥共造備。晦日奏進、其用途雜物。同在元日新內。但件御藥八日更受送於八省御齋會所。十四日返貢。

中宮臘月御藥。

四味理仲丸。七氣丸。八味理仲丸。干薑丸。烏梅丸。呉茱萸丸。當歸丸。芍藥丸。神明膏。大萬病膏。千瘡萬病膏。枕仲膏。耆婆膏。賊風膏一劑。所須人參八兩三分、甘草八兩三分。桂心三兩。薫陸香一兩二分。楓香一兩二分。干薑九兩一分。白朮十一兩。大黃十二兩二分。蜀椒十四兩三分。半夏三分。葶藶子二兩。桔梗三分。細辛五兩三分。呉茱萸一斤一兩三分、昌蒲三分。茯苓二兩一分。芎藭七兩三分。紫菀三分。石膏三分。桃仁三分、烏頭七兩一分。小麥二兩。杏人四兩。豉二兩。黃連一兩。黃蘗一兩。黃芩五兩一分。熟艾四兩。烏梅卅枚。枳實一兩一分。當歸五兩。白芷十三兩二分。前胡十三兩二分。附子一斤四兩二分。連翹三兩。蘆茹一兩。白斂四兩二分、萹蓄二兩。商陸二兩。菊草一斤三兩。升麻一兩二分。黃耆一兩。柴胡二兩。地楡二兩。牡丹二兩。大戟三兩二分。芍藥六兩三分。玄參一兩三分。白頭公一兩二分。支子二分。蛇銜一兩。獨活一兩、生地黃五兩。薤白卄莖。松脂一兩二分。龍骨一兩二分。青木香三兩。白薇二兩二分。躑躅花三兩。甘葛煎小一斗一升一合。猪膏五升、油絹一丈三尺。絹一丈。綿一屯、調布三丈。安藝木綿大三兩。紙卌張。陶壺六合。同椀二分。盤二口、筥坏十合。叩瓮二口。大笥二口、折櫃三合。酒酢各

〔疊綸〕錦所談に、西宮記に盤綸に作る是なり、盤綸は凡て鳥獸草花の形狀一物二物を盤桓をめぐらし貫く綸く故盤綸といふなるべし、盤を濁音に唱へしより、後世疊にかき誤りしならむ、とあり。

〔甘草〕豆科に屬する草にて、根を藥用となす。

〔萱草〕百合に似たる草也、和漢三才圖會に、其苗花（甘涼）作蒩食、利胸膈、安五臟、とあり。

〔桃人〕桃仁に同じ

五升。炭二斛五斗。

東宮白散一劑。度嶂散一劑。屠蘇一劑。並盛同上。七氣丸二劑。四味理仲丸四劑。供藥漆案二脚。一脚安屠蘇、一脚安白散。白銅銚三口。疊綸下食盤四口。緋囊一口。長二尺。蠹緒絲一兩。紙十張。木綿二分。所須人參九兩二分。甘草九兩二分。桂心三分。干薑九兩三分。白朮十兩三分。大黃五兩二分。附子二兩二分。桔梗四兩三分。蜀椒三兩一分。防風三兩。菝葜二分。烏頭四兩。細辛三兩三分。麻黃二兩一分。半夏一兩二分。吳茱萸一兩二分。昌蒲一兩二分。茯苓一兩二分。芎藭一兩二分。紫苑一兩二分。石膏一兩二分。柴胡一兩二分。桃人一兩二分。油絁七尺。折櫃二合。餘器。通用御藥。

右新理供進依上例。但寮頭已下醫生以上共執入進。

每年十二月造元日新白散四百十五劑。令醫針生裹帖并書標題。其新絹篩二口。別二尺五寸。裹紙五百三張。以一張充一升。木綿大二斤五兩。漬附子新酢八斗二升六合。以一合漬一兩。炮附子炭八斗二升六合。以一合炮一兩。削刀子四枚。槍樽五村。挾散木怨五百三枚新。長各六尺已下五尺已上。五百三枚長各一尺五寸。已下預申省請受。但隨人數每年增減。晦日白散樣五斗進內裏。紙五十張。盛漆小韓櫃。置白木高案。同日供殖藥樣廿五種。麻黃。丹參。地黃。黃芩。伍岡。萱草。麥門冬。天門冬。瞿麥。黃菊。枸杞。地膚。地楡。紫苑。蕪白。赤小豆。百合。芎藭。大黃。商陸。大黃。山茱萸。吳茱萸。烏梅。桃人。各四兩。其調度同上。並省輔已下寮頭已下案別六人。醫生在此中。共執入進。訖退出。輔留奏之。詞見省式。奉下條舁昌蒲案亦同。

中宮東宮白散進此。寮頭已下醫生已上共執入進。人數如上。是日給五位已上白散。中務式部兵部等省預送歷名。親王已下一位已上各三升。三位二升。四位一升。五位五合。

雜給新。

四味理仲丸卅劑。七氣丸十二劑。十薑丸七劑。烏梅丸卅劑。吳茱萸丸三劑。當歸丸十劑。芍藥丸十劑。神明膏三劑。

〔駐車丸〕和名抄に治下痢。とあり。

〔升麻膏〕升麻にて作れる膏藥也、丹腫を治す、升麻は其葉麻に似たる山草也。

〔半夏〕草名也、根を治痰藥に用ふ。

〔桔梗〕根を藥用とす。和漢三才圖會に、淸肺氣。利咽喉。與甘草同行。爲丹楫之劑。とあり。

〔獨活〕しゝうど也、根を藥用とす、和漢三才圖會に、足少陰行經氣藥也、とあり。

〔地黃煎〕地黃の根に餡を加へ製煉したる藥也、腸胃を潤し氣血を益す効ありと云ふ。

大萬病膏三劑。千瘡萬病膏三劑。駐車丸十劑。牽牛子丸五劑。黃連丸四劑。十三物呵唎勒丸二劑。大黃膏二劑。升麻膏三劑。所須人參四斤七兩三分。甘草三斤十四兩三分。桂心十兩。呵唎勒四兩。檳榔子四兩。干薑八斤八兩三分。白朮四斤九兩。大黃七斤八兩。蜀椒四斤十四兩三分。半夏九兩三分。桔梗九兩三分。細辛一斤二兩三分。皂莢四斤四兩三分。昌蒲九兩三分。茯苓十一兩三分。莨菪二斤十兩三分。紫菀九兩三分。石膏九兩三分。柴胡一斤十三兩三分。桃人一斤七兩三分。烏頭一斤六兩一分。小麥十四兩。杏人二斤二兩。豉一斤。黃連五斤八兩。黃檗一斤五兩。黃芩三斤八兩。熟艾一斤四兩。烏梅四百枚。枳實十二兩三分。當歸三斤十五兩。白芷五斤一兩。前胡二斤八兩二分。附子三斤八兩。連翹十五兩。蘆茹六兩。白斂十二兩。胡藿一斤二兩。商陸六兩。芍草九兩。升麻十三兩二分。黃耆六兩。地楡六兩。牡丹六兩。大戟十兩二分。芍藥一斤十三兩二分。玄參五兩一分。白頭公四兩二分。支子人百五十枚。蝱衛十二兩。獨活三兩。生地黃十五兩。薤白五十二莖。橘皮九兩。芒硝一斤四兩。豬苓一兩二分。牽牛子三斤十三兩。葶藶子一斤四兩。漏蘆六兩。阿膠一斤十四兩。甘葛煎小五斗一升一合。豬膏五斤。酒九升。酢二斗八升。糯米一石。蘗三斗。油絁一疋一丈五尺。絁二丈二尺。紗八尺。調布二端一丈五尺。綿一屯四兩。安藝木綿大一斤四兩。紙百九十五張。壺十四合。盆四口。折櫃七合。大笥五合。匏一柄。水桶一口。杓一柄。炭四石。薪一千二百斤。造御藥薪在此內。

右依前件造備。訖與臘月御藥同日進之。

地黃煎料。

生地黃廿石十石和泉。十石攝津。絹一疋二尺。漉篩絁六尺。壺帊絁六條。別長一尺。廣九寸。椀一合。帊絁一條。長一尺。廣九寸。釜口帊綿一屯半。絞地黃調布二端四丈。綿二屯。商布一段。由加帊調布三條。別長四尺。二幅。轆轤綱熟麻廿斤。隨損請受。調布潔褌五

條。別六尺。褌五條。別六尺。手巾一條。長五尺。燈油六升。曝煎麪三石。沫羅二口。納汁由加六合。盛煎陶臺十六合。受大五升已上。受殘汁叩盆六口。盛様煎陶椀一合。盛細麻笥二口。杓三柄。紙十六張。覆盛口料。結訂臺口末綿大一斤。薪二千四百斤。炭廿石。官人三人。侍醫四人。已上日人臨時料理。史生二人。潔衣各絁一疋。綿一屯。藥生十人。駕輿丁二人。各調布二丈七尺。衣二丈。袴七尺。

右件雜物。九月一日申省請受。但地黃有多少。所須薪隨亦增減。其造煎之間限十六日給酒食。

凡五月五日進菖蒲生蒋。典藥寮家先之。黑木案四脚。二脚供御。二脚人給。典藥官人進之。茅六兩。黑葛四斤。中省 省輔已下寮頭已下共執人進。訖卽退出。輔留奏之。詞見省式。中宮東宮黑木案各一脚。一脚供御。一脚人給。

凡合藥所須麴、糵、小麥一石。御藥料二斗。雜給料八斗。蒸乾黃芩五十斤。料糯米七斗。每年申省請受。

凡九月九日吳茱萸廿把。附藥司供之。

凡供御乳日別大三升一合五勺。其年料用度絹三丈一尺六寸。篩廿一口料。八口別一尺。十三口別一尺四寸。綿帛四丈二尺。裹料。綠帛四丈二尺。立案二脚覆料。長各七尺。二幅。調布二丈四尺。南日覆案料。長各六尺。二幅。像束絁三匹。執案夫三人衣料。人別一匹。曝布五端二丈五尺。三丈三尺。同夫三人布帶各四尺袴七尺料。三端三尺取乳夫三人潔衫各三丈六尺袴七尺料。一端三丈一尺。同夫二人小袖二條別四尺。褌二條別五尺。拭陶鉢布三條別三尺。水筒二口別四尺。巾二條別三尺。繫牛足布一丈。懸牛腹布七尺。拭乳布三條別三尺料。

生糸九兩。縫篩幷夫等衣袴料。陶鉢五口。平蹉臺各二口。陶叩盆由加匜洗盤各一口。高案一脚。明櫃一合。中取案一脚。木蓋一枚。藍取乳料。槽一隻。飼牛粥料。油一升。塗料。十二月薪日別一百五十斤。煮牛粥料。乳牛七頭秣料米大豆各日一斗四升。別頭二升。每月申省請受。

〔菖蒲〕菖蒲綬、藥玉及宮殿の葺料也。傳には端午の節に菖蒲を用ふるは邪氣を拂ふ爲め也。

〔生蒋〕眞菰也、粽を作るに用ふ。

〔黑木案〕皮付の細木にて編める機案なり。

〔黃芩〕紫草に類せる草也、根は諸熱を去る効あり。

〔吳茱萸〕九月九日の節に袋に入れて御帳の左右に懸くる料也、昔南桓景と云へる人、費長房の教に從ひ、九月九日茱萸袋を肱に懸けて山に登り災厄を免れしと云ふ故事に起る。

〔豉〕大豆より製せる調味料也、又た傷寒、頭痛等を治するに用ふ、淡豉鹹豉の二種あり、病を治するには黑大豆の淡豉を多く使用す。

〔行幸〕天子の御出ましを幸と申す義につき、獨斷に、幸者宜幸也、云々、車駕所至、臣民被其恩澤、以僥倖、故曰幸也、と見えたり。

〔七氣丸〕和名抄に治七氣病、七氣者寒熱之類、其狀各異、とあり。

凡乳牛七頭犢七頭年料。乾蒭四千四百卌四斤。白田蒭二千三百卌二斤。野蒭五百斤、山城國進之。白田蒭一千六百二斤 丹波國進之。

造儲御藥料、

胡麻二石。練料。豉一斗、造雜藥料。粟二斗。煮湯料。鹽三斗。湯并豉料。調布帳一條。長七尺。三幅。明櫃一合、臼一口。加杵。薪七百廿斤、

右鹽已上每年十二月中旬申省。但帳并明櫃臼等並隨損請受、

造供御白粉料。

糯米一石五斗、粟一石。申請內侍。帛袷帒十六口 料帛二疋。御并中宮料。篩白粉帛帷四條、料帛二疋。細篩四條、別五尺。調布二端、帷四條料。縫絲三兩、上紙卅張、明櫃四合、水麻笥四口、已上。受五斗杓三柄、簀二枚、折席二張、女醫座、由加四口。酒槽二隻、中取二脚。已上三種隨損請替。共作女醫十四人、人別日飯一升、鹽一勺、滓醬一合。酒三合。並限卅日給。

凡行幸者、官人一人、侍醫一人。率藥生四人齎御藥從之。若應經宿者、亦率醫生一人齎草藥一擔及雜方經并新度等物候之。其藥種色目臨時量定。擔夫申省。但直丁擔夫等裝束及食同亦申省。

凡踐祚大嘗禊行幸陪從、職掌官人一人、侍醫一人。並給當色。五位六位並從其色。藥生二人各給細布紅衫一領。白袴一腰。布帶一條。直丁二人亦各給調布黃衫一領。白袴一腰。布帶一條。仕丁二人紺布衫一領。白布袴一腰。布帶二條。並申省請大藏省。

凡齋內親王向太神宮、充長途使藥十二劑。七氣丸、吳茱萸丸、芍藥丸、四味理中丸、干薑丸、遊東丸 各二劑。所須藥種各依方經。其用度裹藥油絁六尺五寸、紙十八張。木綿五兩。篩二口。料絹四尺。治篩一口、料紗一尺。酢二升。炭五斗 納藥小折櫃一合、搗藥夫十二人。人日搗一劑。食米二斗四升。人日二升。鹽二合四勺。人日二勺。

諸司年料雜藥。

〔二枚〕二の字京本及齋宮式になし、衍字なるべし。

〔二斤一分〕原本は二升一合に據る、今雲本に據りて改む、又下の白芷の條も同じ。

〔一斤〕原本二斤に作る、今京貞二本に據りて改む。

齋宮寮五十三種。

芒硝七兩四銖、防風一兩二分四銖。麻黃二兩三分四銖。蜘衛九兩一分。石膏一兩三分、芎藭七兩三分、大黃一斤四兩二分四銖。人參十兩、紫菀二兩二分、柴胡五兩、黃芩十一兩二分二銖。黃連一兩二銖、皂莢二分一銖、芍藥六兩。漏蘆六兩一分。連翹十五兩。白斂十兩二分藘茹四兩一分。附子九斤十五兩、干薑七兩二分。猪膏六十四斤八兩。白朮七斤十兩二分、烏頭十四斤四兩。半夏二兩二分。桔梗九斤五兩二分。細辛七斤十四兩。呉茱萸一斤六兩、昌蒲二兩二分、茯苓二兩二分。蜀椒二斤二分、桃人二兩。枳實十二兩一分二銖、葶藶子二兩一分、杏人二兩三分二銖。厚朴二分二銖。支子百廿[二]枚、升麻十一兩二銖、干藍二分、豉一合一勺。前胡二斤一分。白芷二斤一分。當歸四兩二分、葫蘆一斤一分、商陸四兩一分、菊草三斤五兩、黃耆四兩一分、牡丹四兩一分、地楡四兩一分。大戟五兩一分、玄參三兩三分。白頭公三兩一分、躑躅花九兩一分、菝葜一兩一分。

内匠寮廿五種。

細辛白朮各一斤二兩、桔梗十四兩、附子一斤。藺茹半夏白斂商陸菊草柴胡牡丹地楡烏頭大戟玄參各三兩、蜀椒十兩。大黃七兩。呉茱萸二升、茯苓紫菀當歸芎藭各四兩。白芷六兩、桃人二升、石膏一兩。

木工寮卅種。

細辛十斤。白朮十二斤、桔梗十斤、附子十八斤、菝葜六兩。大黃二斤十兩　防風十四兩。丹參藍染石膏青木香紫菀柴胡各一斤、當歸二斤八兩、薯蕷厚朴呉茱萸白芷楡皮茯苓干地黃杏人木蘭白斂商陸杜仲各二斤。蜀椒升麻黃芩黃連桃仁葛根各三斤。山茱萸二兩。石　斛　四斤。獨活牛膝各五斤。芎藭二斤八兩。前胡八兩、夜干　昌蒲各十兩。

左右近衛府各卌七種。
大黃蜀椒各二斤八兩。人參木防已各十兩。半夏桔梗紫菀皂莢各五兩。石膏蚰衜各三兩。柴胡桃人芍藥黃蓍秦膠連翹靑木香蘆茹牡丹牛膝各八兩。吳茱萸茯苓白芷熟艾甘遂各一斤八兩。昌蒲葶藶子各四兩。芎藭一斤五兩。烏頭四斤。黃芩黃連防風前胡枳子菊芋黃蘗各十四兩。杏人千五百枚。厚朴升麻麻黃各一斤。當歸二斤八兩。白朮三斤。大戟十三兩。菊草麴獨活各一斤四兩。細辛一斤三兩。

右府別白散八十八劑。茯苓散三劑。水道散七劑。芍藥丸二劑。大黃丸黃連丸各七劑。六物十蓮丸四劑。當歸丸十五劑。萬風膏萬病膏各二劑。千瘡萬病膏三劑新。

左右衛門府各卅四種。
大黃十五兩。甘草五兩二分。人參七兩。白芷十四兩。半夏五兩。烏頭二斤二兩二分。桔梗紫菀各三兩二分。石膏桃人木防已防風各一兩二分。吳茱萸一斤一兩。柴胡六兩。昌蒲大戟獨活各二兩。茯苓八兩。細辛十兩三分。蜀椒一斤十兩二分。芍藥葶藶子杏人厚朴各四兩。芎藭一斤二兩二分。白朮十二兩二分。當歸八兩二分。黃芩四兩三分。麻黃三兩。黃連皂莢菊草各二分。前胡十一兩二分。麴一斤二兩。

右府別白散卌八劑。茯苓散百毒散各三劑。七氣丸芍藥丸吳茱萸丸四味理仲丸各二劑。溫白丸一劑。神明膏千瘡万病膏各二劑新。

左右兵衛府各卅種。
吳茱萸四升五合。前胡白芷各一兩二分。白朮十兩二分。芎藭六兩一分。蜀椒五升三勺。細辛三兩三分。當歸八兩。附子芍藥黃芩杏人各四兩。大黃十三兩二分。大戟蚰衜菊草獨活葶藶子麴各二兩。人參七兩三分。半夏一兩。桔

〔石膏〕解熱劑也。

〔芍藥〕醫藥には一重の白芍藥をよしとす、其根は食毒を制する効あり。

〔白芷〕よろひぐさ也、根を藥用とす和漢三才圖會に、氣味芳香能通ニ九竅一表汗不レ可レ欠、凡療レ風通用、と見えたり。

〔當歸〕花葉芹に似たる草也、又たつやまぜり」と云ふ、根を婦人藥となす

〔木防已〕葛に似たる蔓草也、凡そ防已に漢防已、木防已の二種あり、風熱を治するには木防已の根、水熱を治するには漢防已の根を用ふ。

梗三分、茯苓紫菀石膏桃人昌蒲各三分。甘草八兩三分、柴胡一兩一分、枳實十枚、

右府別白散五十劑、七氣丸芎藭丸吳茱萸丸干薑丸各一劑、四味理仲丸當歸丸各二劑。神明膏一劑。千瘡萬病膏二劑新。

左右馬寮、

馬藥石硫黃各六升四合。季別一升六合。

兵庫寮四種。

神明膏萬病膏茯苓散各一劑。百毒散半劑、其新桂心干薑各二兩二分。猪膏廿斤。酢九升一合。篩新絹一尺。絞新調布四尺、裹レ藥新紙四張、木綿一兩。陶壺二口。炭五斗。申レ省請受。

遣諸蕃使。

唐使十一種。

犀角丸大戟丸各四劑。七氣丸八味理仲丸百毒散度嶂散各十二劑。茯苓散十六劑。神明膏六劑。萬病膏升麻膏各八劑。黃良膏四劑。所レ須藥種各依ニ本方一。其用度雜物、篩六口、新絹一丈二尺。裹油絁一丈三尺六寸五分。紙九十八張。木綿二斤十四兩。酢七斗七升。調布一端四尺。拭レ臼布二丈。陶壺廿三口。炭七斛九升。

草藥五十九種。

芍藥白朮地楡桔梗各八斤。獨活前胡升麻夜干栝樓牛膝茯苓柴胡烏頭附子天雄茵陸蜀椒黃耆松脂石南草各六斤。大戟防已黃蘗紫菀苦參昌蒲各四斤。石葦澤寫玄參藁本熟艾漏蘆藺茹廿遂蛇衘梨蘆干地黃枳實桑白皮丹參各二斤。杏人五味子兎絲子葶藶子蛇床子半夏蒲黃麥門冬僕奈各四斤、練胡麻一斗六升。桃人一石二斗。

〔紫菀〕根を藥に用ふ、和漢三才圖會に、氣味苦溫、療ニ欬唾膿血一止ニ喘悸一五勞體虛ニ補ニ不足一治ニ兒驚癇一とあり。

〔枳實〕枳殼と同じく、「からたち」を云ふも、醫家其實小なるを枳實、大なるを枳殼と云ひて區別す、和漢三才圖會に、枳殼云云、破レ氣勝レ濕、化レ痰泄レ肺、走ニ大腸一、蓋枳實枳殼氣味効用俱同無ニ分別一とあり。

遣諸蕃使

〔地楡〕草名也、根を藥用とす、和漢三才圖會に、除ニ下焦熱一、治ニ大小便血證一云々、とあり。

黄芩麻黄各八斤。黃連芍芋呉茱萸防風橘皮各六斤。白斂四斤。盛雜藥韓櫃四合、著鏁。裹横席八枚、黑葛四斤。

麻繩四丁。杓四枚。

渤海使十七種。

素女丸半劑。五香丸三兩。練仲丸呉茱萸丸干薑丸犀角丸四味理仲丸各一劑。七氣丸八味理仲丸〔各〕二劑、大戟丸半劑。度嶂散百毒散各二劑、茯苓散三劑。黄良膏升麻膏各一劑。神明膏二劑。萬病膏三劑。所須藥種亦依本方。用度雜物。篩三口。新絹六尺。治篩紗一尺五寸。裹油絁六尺五寸。紙廿三張。木綿八兩。綾綿五兩。調布六尺五寸。酢二斗四升。炭二石五斗。陶壺四口。陶椀四合。叩盆二口。

草藥八十種。

練胡麻大五升。桃人一斗四升。黄芩薜荔黄連白朮石斛藍漆細辛桔梗獨活當歸夜干牛膝茯苓白芷升麻橘皮附子烏頭天雄黄蓍松脂石南草防已黄蘗白斂紫菀麥門冬苦參鬼臼芎藭干地黄根實葛根各二斤。芍藥地楡前胡白頭公栝樓防風柴胡芍芋商陸大戟芍芋菖蒲藁本甘遂石葦澤寫玄參漏蘆蘭茹蛇梨蘆桑根白皮皂莢丹參蒲黄半夏龍膽各一斤。龍骨石硫黄石膏各一斤。蜀椒四斤。呉茱萸五升。「升麻」杏人五味子兎絲子葶藶子蛇床子各二升。烏梅大棗麹各五升。瓜蔕四升。羚羊角十枚。熟艾二斤。僕奈女萎各一斤。盛雜藥韓櫃一合、著鏁。裹横席四枚。黑葛二斤。麻繩八丁。杓二枚。裹藥庸布二段。篩二合、各方一尺五寸。紙八張。木綿三兩。

新羅使六種。

八味理仲丸七氣丸各一劑。百毒散二劑。茯苓散四劑。神明膏方病膏各二劑。所須藥種並依本方。其用度篩二口。新絹三尺。裹油絁二尺五寸。紙十二張。木綿三兩。綾調布五尺。酢一斗六升。盛膏藥陶壺四合。炭一石五斗。叩盆

〔防風〕根を藥に用ふ、古今醫統に、主大風頭眩痛、惡風風邪、目盲無所見、風行周身、骨節疼痺煩滿、頭面去來四肢攣急、金瘡內痙、とあり。

〔犀角丸〕一切諸毒を消す効あり。

〔各〕貞本に據りてこれを補ふ。

〔龍膽〕筳に似たる葉の山草也、根を藥用となす。

〔龍骨〕和漢三才圖會に、龍骨、味甘平、避鬼魅、定魂魄之藥、とあり。龍の骨と傳ふるも實の木の化石に過ぎずと云ふ。

〔升麻〕重出也、衍なるべし。

〔五味子〕實を採りて補强藥とす。

〔伏苓〕松の根に寄生する塊狀の菌類也、古來松脂地に入りて千年を經れば即ち生ずと云ひ諸病を治する靈藥となす。

〔大素經〕支那最古の醫書黃帝著の內經の內素門九卷を云へるならむ。

〔八十一難經〕黃帝の醫書內經の要旨を擧げこれを推明せる書也。

〔新修本草〕神農の諸藥草に就て究めし所を、後ち錄して本草と云ひしが、漢の張華に至り始めて新說を附して編述せり、新修本草はこれを云へるならむ。

座　衣食　公廨　授業新物　年新雜物

二口。

草藥卅四種。

半夏吳茱萸僕奈五味子各五升。升麻夜干白朮當歸厚朴石硫黃茯苓黃芩麴各五斤。橘皮四斤、黃連桃人杏人各一斗。薺苨細辛地楡各三斤。麥門冬七升、昌蒲一斤。蜀椒一斗、䕡茹二斤、盛雜藥韓櫃一合。席四枚。黑葛二斤。麻繩二丁。机一枚。給客徒白散漆高案一脚。白筥一合、夾纈覆一條。各二幅。帶四條。敷布一條。並三日之後依數返上黃袍四領。執案醫生新。

凡應讀醫經者。大素經限四百六十日。新修本草三百十日。小品三百十日。明堂二百日。八十一難經六十日。其博士准大學博士給酒食并燈油賞錢。

凡大素經准大經。新修本草准中經。小品明堂八十一難經並准小經。

凡講書座新。折薦茵一枚。醫針博士新。長疊三枚。生新。並三年申省請受。

凡得業生四人衣食同大學得業生。

凡諸國醫師公廨人別所給十分之一。毎年割留隨國所出交易輕物附貢調使送之。若有未進移主計寮令拘使返抄。但侍醫并醫鍼博士兼任及非業者不在此限。

凡諸國所送授業師新物者。勘納寮庫。即醫針生新各充其博士。藥生新分充侍醫。

凡五位已上有須草藥者。就寮請之。

年新雜物。

紙二百張。鐵臼一口。鍋子一口。白筥一合。刀子四枚。各長七寸。鍬卅五口。卅口藥園。五口寮家。砥一顆。缶叩盆椀各四口。

〔岑山〕葛野郡中川村の北東にあり。

儲物

〔堀越山谷口〕葛野郡嵯峨村大字堀城の地にして、丹波道の峡谷にあり。

牛牧

地黄地

勸學田

〔勸學田〕中古學業勸勵の爲め、典藥寮、勸學院及び大學寮に寄せて、學生の供給に充てたる田地を云ふ、不轉租田とす。

〔王不留行〕和名抄に、「加佐久佐」と訓めり、今、道觀草と云ふ、石竹科に屬す、其の果、瘡疾に利くを以つて名あり。

右依前件。其鍬砥三年一充。舊鍬返上。臼鍋子宮隨破請換。

寮家儲物。

稱一箇。藥斗一口。藥升一口。鐵臼十口。鐵杵十枚。鐵匕五枚。藥刀六枚。漆中取案一脚。藥殿承塵橡絁幔一條。長三丈。十幅。行幸儲橡帛一條。紺布幕一條。並隨破損申省請替。

凡味原牧爲寮牛牧。其生産牡牛。便充耕作藥園。幷爲父牛。

凡味原牛牧死牛皮者。賣用寮修理料。但所賣得數。附年終帳申送之。

凡山城國地二町在葛野郡十三條水谷下里。四至。東限岑山。南限堀越山谷口。西限岑。北限幸河合。永爲殖供御地黄地。

勸學田十八町。

十三町。大和國九町。近江國四町。

右以其地子加月料。共充醫鍼生食。

五町。大和國。

右以其地子充藥生等食。

諸國進年料雜藥。

畿内。

山城國卅二種。

王不留行十二斤。獨活十斤。白朮廿五斤。地楡黄蓍各十斤。牛膝苦參各廿五斤。桔梗卅斤。香薷夜干各十五斤。昌蒲三斤。根實漏蘆藁本各九斤。薺苨菊草小蘗各六斤。龍膽通草各五斤。紫菀三斤。商陸八兩。芍藥四兩。厚朴

十八斤。白斂二斤二兩。葛根卅二斤。鼠尾草三斤。桃人九升。杏人一斗八升。赤小豆四斗六升。蜀椒一斗二升。鼈甲一枚。白粟大一斗。

大和國卅八種。

前胡十二斤。王不留行二斤。槀本升麻各八斤。獨活廿五斤。紫菀六斤。大青廿斤。芍草牛膝各七斤。桔梗廿一斤。黄檗十一斤。香薷澤蘭各十五斤。白朮卅斤。枳實通草大戟各十斤。拔葜卅斤。厚朴九斤。龍膽三斤。薺苨桑根白皮各五斤。澤瀉當歸各四斤。薏苡仁十五兩。白芷十八斤。橘皮十斤。地楡十六斤。茵芋一斤。榧子一斗六升。署預七斗。桃人蜀椒各二斗。車前子二斗八升。茺蔚子六升。鬼箭三升。呉茱萸三斗。白花木瓜實廿三斤。

攝津國卅四種。

獨活漏蘆各五斤。菊苺松脂桑根白皮各四斤。橘皮六斤。薔薇根烏賊骨各四斤。桔梗廿三斤六兩。香薷七斤。白朮廿三斤。枳實黄檗玄參人參茯苓升麻各三斤。厚朴[十斤]。杜仲三斤十二兩。菝葜萆薢地楡桑螵蛸各二斤。桃花十兩。夜干五斤。茵松一斤。蜂房七兩。菟絲子二升。署預六升。桃人一升。車前子葶藶子葵子蜀椒各三升。荏子二升五合。胡麻子各四升五合。杏人一斗九升。鼈甲四枚。鹿角四具。莽子大五升。枸杞六斤。

河内國三種。

枸杞十斤。蒲黄一斤。黑大豆大五斗。

東海道。

伊賀國廿三種。

前胡八斤。王不留行玄參升麻各八斤。獨活苦參各廿斤。連翹瞿麥各六斤。桔梗卅斤。吕藉木斛夜干各十斤。

〔鼠尾草〕三才圖會に「和名、美曾波木、俗云水掛草、花葉、古方療レ痢」とあり。

〔桃人〕桃仁也、桃の果にて、熱の血室に入るを治すと云ふ。

〔杏人〕杏仁也、杏の果にて、食積を消し、滯氣を散じ、風熱咳嗽を除き、便秘を治す効ありと云ふ。

〔槀本〕(くさ)和名抄に「白芷一名白止、和名加佐毛知一云與呂比久佐」とあり、白芷を云ひしなるべし、表汗を治すと云ふ。

〔「十斤」〕京貞二本に據りて補ふ。

大青廿七斤。茯苓七斤。栝樓五斤。當歸十一斤。蛇脫皮一兩。署預桃人各五升。麥門冬四升。車前子七升。半夏二斗。蜀椒子一升。

伊勢國五十種。

前胡一斤四兩。梨盧二斤四兩。王不留行六斤。獨活卅五斤。菥蓂卅二斤。牛膝八斤。桔梗九斤四兩。高良薑十一斤。昌蒲一斤。恒山十斤。藺漆一斤。龍膽三斤四兩。苦參卅三斤。人參三斤八兩。五加十六斤十兩。躑躅花十斤。杜仲十五斤。白芷卅四斤。細辛十一斤。栝樓十九斤。木斛廿斤。白薇一斤四兩。松脂十六斤。大戟五斤四兩。地楡十五斤十兩。楡皮五斤。厚朴十九斤八兩。茯苓十一斤十兩。蜂房一斤十二兩。升麻卅九斤二兩。當歸四斤八兩。黃耆十一斤。葛根十斤。秦皮三斤十二兩。夜干卅五斤。橘皮五斤。牡丹七斤十兩。桑螵蛸一斤。白殭蠶十兩。菊草十一斤。馬刀七斤。蕤子一升。菟絲子五斤。胡麻子二升。胡桃子二斗。半夏六升。牡蠣一斗九升。水銀十八斤。雄黃四斤。

尾張國卅六種。

黃芩十四斤。莒蒻廿二斤。白蘞十三斤。前胡廿斤。白芷十斤。椅杞廿斤。柴胡玄參各十二斤。王不留行牛膝地楡升麻各十斤。昌蒲一斤。獨活十六斤。蛇銜大黃各五斤。桔梗六十六斤。白朮卅斤。藺漆五斤。龍膽八斤。大戟十一斤。五加皮茯苓各七斤。杜仲厚朴茯神薕蒿各六斤。黃蓍蛇脫皮各四斤。夜干廿四斤。連翹八斤。桑螵蛸二兩。干地黃六斗四升。榧子四斗。署預海蛤各一斗。麥門冬四升。桃人二斗九升六合。蛇床子一升。菟絲子紫蘇子各五升。山茱萸大一斗五升。亭藶子二升。半夏大五升。蜀椒二斗五升八合。青木[香]十八斤。

參河國廿一種。

廿遂十斤。獨活薺苨各二斤。桔梗卅八斤。白朮卅[八]斤。五茄厚朴各三斤。木斛五斤。松脂四斤八兩。地楡黃蓍各

〔大青〕和名抄に「大青、和名波止久佐、一云久流久佐」とあり、其の莖葉は三四月頃とりて陰乾しにして、傷寒、黃汗、黃疸等の病を治すに用ふ。

〔五茄〕五加木とも書す、和漢三才圖會に「五加、和名無古木、今云宇古木」とあり、其の根皮は、疝氣腹痛に効ありと云ふ。

〔杜仲〕和名抄に「杜仲、一名木緜、和名、波比末由美、折之多白絲者也」とあり、果及び木皮は皮膚の荒るゝを防ぐに効ありと云ふ。

〔香〕雲本によりて補ふ。

〔八〕雲本になし。

一斤。茯苓六斤。桑螵蛸三兩三分。署預一斗。麥門冬五升。桃人一斗。胡麻子二合。蜀椒一斗。榧子人一斗九合。白殭蠶二兩。支子大一斗。

遠江國十三種。

黄芩十斤。芎藭三斤。桔梗廿二斤。黄蘗茯苓各卅斤。桑螵蛸一斤七兩三分。署預三斗。麥門冬六升九合。桃人二斗四升。蜀椒八升。榧子人七升。干薑八十六斤。支子大一斗。

駿河國十七種。

桔梗廿斤。白朮十兩。木斛橘皮各五斤。茯苓防風夜干防已各十斤。桑螵蛸五兩。署預附子蜀椒各二斗。麥門冬決明子各五升。桃人一斗。亭藶子二升。零羊角四具。

伊豆國十八種。

藍漆四斤六兩。商陸白石脂各五斤。白薇七斤。防風十五斤。木斛二斤。石斛十一斤。瓜蔕五兩。木防已赤石脂各十斤。黄礬石二斤一兩。榧子署預蜀椒各一斗。桃人一斗一升。決明子二升。菴䕡子一斗。牡荊子四升。

甲斐國十二種。

黄菊花十兩。藍漆五斤。人參四斤。升麻十斤。黄耆十斤。榧子署預各二斗。杏人七斗五升。亭藶子五升。蜀椒二斗。

椅杞當歸各十斤。

相摸國卅二種。

黄芩十斤五兩。芎藭廿斤。茵蔯桑菊苺茎茄芍藥黄耆前胡各一斤。椅杞十八斤。藍漆七斤。紫菀八兩。菴䕡子二斤。防風三斤。橘皮十五斤十兩。瓜蔕二兩。欵冬花九斤。白頭公一斤。麻黄六斤八兩。署預一斗。麥門冬一升。桃人胡麻

〔榧子〕榧子仁也、榧の果にて、和漢三才圖會に「肝經氣分藥也」とあり栢は俗に「兒手柏」とも「阿須奈呂」とも云ふ樹也。

〔芎藭〕川芎也、本草綱目に「芎藭以ニ蜀川者一爲レ勝因稱ニ川芎一」とあり、血液の循環を良くするに効ありと云ふ。

〔決明子〕芍藥の類也、字鏡に「茯、衣比須久佐」とし、和漢三才圖會に、「決明子、和名衣比須久佐、俗云波天豊貝草、馬蹄草之訛」とあり、果は眼疾に効ありと云ふ。

〔白薇〕一に「クロクサ」とも「アマナ」とも云ふ、婦人病を治すと云ふ

〔「大」〕雲本衍字となす。

〔虵銜〕醫心方には「蛇含、宇都末女」とあり、葉は、ちなはいちごに似て春の末、莖を出し、枝を分ちて五片の黄色花を咲かす。

〔土瓜〕烏瓜也、蔓草にて、秋果を結ぶ、瓜に似たり、肌膚のあれ、火傷に効ありと云ふ。

〔地膚子〕地膚は、和名抄に「地膚、一名地葵、和名邇波久佐、一云末木久佐」とあり

〔莔蕿〕同蒿に同じ春菊とも云ふ、「カウレムカウ」は高麗菊の訛也、心氣を安じ、胃脾を養ふ効ありと云ふ。

子各三斗。干地黄三升。附子一斗八升。「大」虵床子一升。菖蒲子二升。菴子二斗。亭藶子五合。石硫黄一斗。猪蹄一具。丹參四斤。豉大五斗。

武藏國廿八種。

黄芩卅五斤十兩。芎藭五斤。丹參廿五斤。虵銜三斤十兩。茹蕂一斤。枸杞十斤。芍藥三斤。桔梗四斤十二兩。細辛廿斤。大黄二斤。土瓜三斤十四兩。當歸十四斤。甘遂一斤。款冬花十兩。瓜蔕五兩。干地黄五斗七升六合。桃人四斗。烏頭一斛二斗。附子八斗。決明子。牡荊子。亭藶子各三斗。虵床子一斗。地膚子一斗五合。莔蕿子二升。蜀椒三斗。麻黄五斤。豉大一斗。

安房國十八種。

王不留行。虵銜。葛花。旋覆花各一斤。獨活四斤。枸杞二斤十兩。白朮六斤十兩。杜仲五斤。地榆二斤。白頭公三斤。木防已一斤。貝子八兩。麥門冬。菖蒲子各一升。署預五升。桃人六升。決明子二升。龍骨卅斤。

上總國廿種。

虵銜一斤。白頭公三斤。枸杞。木防已各十斤。杜仲。地榆各四斤。瞿麥。貝子各三斤。茯苓廿八斤。葛花。旋覆花各二斤。白鮮六斤。蒲黄四斤。菴子二斗二升。署預四斗。麥門冬一斗四升。桃人六斗。附子八斗。菖蒲子一升。升麻三斤。

下總國卅六種。

青木香一斤八兩。芎藭八斤。前胡。連翹。黄精。白芷。藁本。白薇各二斤。獨活。薺苨。桔梗。木斛。白鮮。大戟各五斤。枸杞。松脂各十斤。白朮三斤五兩。蜀漆五斤。茵芋一斤。芍藥十兩。瞿麥六斤。地榆十四兩。白頭公九斤。茯苓六斤。續斷四兩。瓜蔕三兩。蒲黄一斤。菴子大一斗。署預。桃人各一斗。麥門冬。蜀椒各四升。附子大五升。菴子二斗。地膚子一升。獺肝

〔巻柏〕和名抄に「巻柏、和名、伊波久美、一名、伊波古介」とあり、古今要覧に「いはまつ、いはぐみ、いはひば、豹足、萬歳、千秋、長生草」等の別稱を載す、下血及び脱肛を治し、月經を通じ、百邪鬼魅を治すと云ふ。

〔貝母〕和名抄に「貝母、和名波々久里、形似二聚貝一、故以名レ之」とあり、心胸欝結の氣を散じ、肺の痿の藥なりと云ふ。

〔菟絲子〕一に「ネナシカヅラ」と云ふ、酒と共に用ふれば、男女の虚冷を治すに効ありと云ふ。

〔蕪荑〕無夷仁也、食を化し、五痔を治すと云ふ。

黄芩芎藭各十四斤、柴胡大黄龍膽括樓商陸楡皮升麻各十斤。王不留行牛膝莨菪地楡紫菀白斂石南草各廿斤。蜀漆五斤、白頭公四斤、蛇銜九斤、枸杞蒴藋杜仲芍草續斷各五斤、桔梗細辛松脂茯苓各卅斤、獨活十斤、木斛十五斤、白朮卅八斤、丹參十四斤、白芷廿斤、芎藭桑螵蛸卷柏各二斤、石斛七十斤、厚朴一斤、巴戟天五斤、貝母三斤、蝟皮一兩、干地黄一斛、薏子一斛五升、署預二斗、麥門冬一斗七升、桃人八斗三升、半夏二斗八升、秦椒葵子各一斗五升、附子大八升、五味子三斗二升、菟絲子二斗一升、葶藶子五升、蛇床子九升、柏子人八升、蜀椒九斗三升、青礬石九斗、獺肝三具、熊膽四具、猪蹄十具、鹿茸七具、熊掌二具。

飛驒國九種。

芎藭廿斤、當歸十斤、菴閭子四斤八兩、白朮卅斤、藜蘆十斤、牡衡十斤、白礬石二斗一升。猪蹄二具、零羊角卅具。

信濃國十七種。

黄連十斤。細辛卅五斤、白朮廿六斤九兩、蘆漆五斤、大黄卅斤、女青六斤、蘭茹卅七斤、干地黄二斗四升、附子三斗、蜀椒一斗六升、茱萸一斗。石硫黄三斗八升、熊膽九具、鹿茸十具。枸杞廿斤。杏人六斗。大棗人一斛。

上野國十五種。

青木香黄芩黄蘗各十斤、細辛六十四斤、芎藭當歸各卌斤、升麻二斤十兩、防風六十斤、荊子五斤、干地黄胡麻蜀椒各一斗、麥門冬八升、附子四斗、猪蹄四具。

下野國十四種。

青木香廿斤、芎藭十五斤、枸杞二斤八兩、黄菊花五兩、蘆漆九斤、石斛廿斤、秦膠十六斤。干地黄桃人烏頭各二斗、附子四斗、决明子一斗、牡荊子八升、石硫黄二斗三升。

〔黃芩〕和漢三才圖會に「和名、如會乃波久佐」とも訓めり。諸血病及び寒熱毒癰腫等を治する藥なりと云ふ。

〔蔓荊〕和名抄には「蔓荊、一名小荊、和名、波末波非」とあり、和漢三才圖會に「蔓荊子、治筋骨間寒熱濕痺拘攣、利九竅、明目堅齒、頭痛腦鳴目淚出良」とあり。

〔黃連〕和名抄に、「黃連、一名王連、和名、加久末久佐」とあり、和漢三才圖會に「黃連出賀州金澤者最良、越前者次之、俗呼曰蝦夷黃連、佐渡、越後、奥州、羽州、因州、信州、皆次」とあり、胃腸の病に効ありと云ふ。

陸奧國六種。
甘草十斤。桑腰卅斤。大黃百卅斤。石斛八十斤。人參卅五斤。附子百廿斤。猪脂二斗。
出羽國二種。
甘草五斤。零羊角卅具。
北陸道。
若狹國廿四種。
人參三斤。黃菊花二兩。茯苓四斤。桔梗。漏蘆。杜仲。芎藭各二斤。枳實十斤。龍膽。白薇各一斤。澤瀉六兩。續斷四兩。榆皮十四斤。秦皮廿九斤。白鮮一斤二兩。菊花三兩。榧子二斗。麥門冬。車前子。吳茱萸。蜀椒各二斗。桃人八斤。蔓荊子三斗。黃礬石一斗。
越前國十八種。
黃連五十七斤。獨活四斤。牛膝十七斤。桔梗六斤。白朮五斤三兩。昌蒲廿六斤。人參十四斤。茯苓四斤。細辛五斤。大黃廿六斤。升麻六斤。夜干廿斤。黃芩十二兩。榧子一斗六升。署預一斗。桃人七升五合。菟絲子四升。蜀椒二斗七升。
加賀國七種。
黃連七斤。枳殼。茯苓各一斤。芎藭卅斤。藍漆十二兩。干地黃四斤十一兩。署預一斗。
能登國五種。
黃連三斤。榧子四斗。署預一斗。桃人二升。蜀椒三斗。

越中國十六種、
白斂白芷各十一斤、藍漆大黃各五斤、苦參夜干各十斤、黃耆三斤、梔子五升、署預二斗九升、桃人六升、附子三斗。
蜀椒四升、甘葛煎三升、獺肝二具、熊膽四具、零羊角四具。
越後國七種、
細辛黃蘗各十斤、僕奈二斤十三兩、茯苓二斤、蜀椒八升。零羊角卅具。
佐渡國四種、
黃連十五斤十兩、藍漆廿五斤、細辛卅八斤、蜀椒三斗。
山陰道。
丹波國卅三種。
芎藭石韋栝樓石南草升麻夜干各十斤。黃連三斤一兩、前胡藁本秦皮各五斤、柴胡十二斤。王不留行十九斤。獨活卅四斤、菥蓂五斤、萆薢六斤、白朮十一斤三兩二分。藍漆十五斤八兩。漏蘆十三斤、人參二斤、龍膽商陸各七斤、玄參四斤、黃蘗廿四斤、白芷地榆各九斤。石斛廿七斤。厚朴廿斤、芍藥恒山各八斤、連翹四斤八兩。蛇脫皮五兩。梔子五斗五升、署預二斗二升二合、麥門冬一斗。桃人六升、車前子二斗五升五合、菟絲子二升一合、麻子三斗五升、鬼箭一斗三升二合、吳茱萸一斗三升、蜀椒二升、鹿角一具、白殭蠶二兩。
丹後國廿四種、
黃連卅八斤十四兩二分、白朮四斤十一兩、藍漆五斤八兩、昌蒲四斤、黃蘗廿斤、龍膽一斗三升、苦參木斛續斷各十斤。白芷十斤、茯苓七斤三兩。升麻二斤八兩、蛇脫皮二兩、梔子一斗一升、署預一斗、麥門冬大一斗三升五合。桃

〔大黃〕和名抄に、「大黃、和名、於保之」とあり、和漢三才圖會に「大黃、沉而降陰也、須ニ速下一者生用、若邪氣在レ上非ニ酒不レ至、必用ニ酒浸一引レ熱而下、若用ニ生者一則遺ニ至高之邪熱一也、云々、凡病在ニ氣分一及胃寒血虛幷姙娠産後勿ニ輕用一」とあり。

〔苦參〕和名抄に「苦參、一名苦識、和名、久良々、一云、末比里久佐」とあい、風熱瘡瘍を治し、心腹の結を除き、瘡蟲を殺す効ありと云ふ。

〔獺肝〕水獺の肝也。和漢三才圖會に、「獺肝、治ニ虛勞咳嗽傳尸病一」とあり。

〔續斷〕雲本になし。

人一斗五升。車前子一斗六升。葶藶子一斗三合。吳茱萸蜀椒各一斗七升。乾棗一斗。細辛十五斤。甘葛煎三升。白殭蠶二兩。

但馬國廿一種。

黃連十八斤三兩。白芷三斤五兩。前胡杜仲續斷各一斤十兩。獨活蜀椒乾漆滑石各五斤。白朮藁本各二斤十兩。石斛十斤九兩。升麻六斤十兩。當歸十斤。榧子四斗。[illegible]柏子人各一斗。桃人一斗五升。麥門冬八升。牡荊子二升。白殭蠶二兩。

因幡國廿種。

前胡茯苓續斷乾漆各一斤。獨活白芷當歸各十斤。升麻二斤四兩。蘗木香[illegible]各一斤。萆薢十斤四兩。藁本二斤一兩。木斛十三斤。栝樓七斤。[illegible]十斤四兩。榧子一石。[illegible]四斗。桃人一斗。蜀椒四升。甘葛煎六升。白殭蠶二兩。

伯耆國廿種。

獨活十二斤。乾漆四斤。牛膝五斤。白朮十斤。昌蒲桑根白皮各一斤。蘼蕪三斤。杜仲茯苓紫菀各二斤。石斛廿四斤。松蘿一斤。升麻九斤。榧子二石六斗。[illegible]九升。吳茱萸三斗九升。蜀椒九升。桃人七斗。百合一斗一升。

出雲國五十三種。

前胡萆薢楡皮車廻各二斤。王不留行一斤七兩。獨活苦參各十一斤。枸杞九兩。牛膝四斤。乾漆一斤八兩。昌蒲一斤。白芷防葵桑茸各三斤。蘗木香十兩。白朮五斤。狼牙一斤。龍膽一斤。玄參一斤十兩。藁本松蘿松脂地楡桑柏女萎各一斤。躑躅花二兩。澤寫一斤二兩。商陸一斤五兩。細辛一斤八兩。雚[illegible]一斤六兩。白頭公二斤三兩。茯苓六斤。

〔車前子〕和名抄に「車前、和名、於保波古」とあり、其の果は、和漢三才圖會に「利小便、而不走氣、數難產、又治目赤痛」とあり。

〔葶藶子〕和名抄に「葶藶子、和名、波末太加奈、一云阿之奈豆奈、又云波末世里」とあり、氣を降し、腫氣を導く効ありと云ふ。

〔榧子〕和名抄に、「榧實、一名榧子、和名、加倍」とあり、五痔を治し、寸白蟲を降すに効ありと云ふ。

〔桑根白皮〕桑の根に付く白き「コケ」にて、水腫を治し、小兒の癲癇等に効ありと云ふ。

〔大戟〕和名抄に「波夜比止久佐」と訓めり、其の根は苦寒小毒有れども、大小便を利し十二水の腹滿急痛を治すと云ふ。

〔黄精〕和名抄に「於保惠美」一云「夜末惠美」と訓めり、和漢三才圖會に「補レ中、益レ氣、除二風濕一、安二五臟一、久服輕レ身、延レ年、不レ飢補二五勞七傷一」とあり。

〔茵芋〕和名抄に「一云乎加豆々之」と訓めり、其の葉莖は、風を治するに効ありと云ふ。

〔烏賊骨〕和漢三才圖會に「烏賊骨、能治二婦人血閉不足症一、唾血下血又止二瘡多膿汁不一レ燥」とあり。

十四斤。大戟三斤四兩、厚朴紫菀各三斤十兩、牙膝十斤、澤瀉一斤三兩、黄精二斤十兩、茵芋十一兩、桑耳二斤、[illegible]子一斗二升、署預十五兩、秦椒蜀椒各七兩、麥門冬二斗四升、桃人七升。車前子三升、吳茱萸一斗、乾棗一斗五升、鹿角一具、白殭蠶二兩、

備前國卅種、

柴胡十斤、白朮卅斤、黄蘗烏賊骨各十斤、王不留行瞿麥各八斤、獨活五斤、鮑脩芍藥地楡升麻馬刀各三斤、桔梗五十斤、薺苨龍膽白頭公各二斤、昌蒲一斤、黄耆九斤、菊草十一兩、商陸四斗、漏蘆七斤、蕪脂六斤、大戟牡丹天門冬桑螵蛸各一斤、梔子一斗五升、署預牡荊子各四升、麥門冬秦椒各二升、桃人車前子亭藶子蜀椒各六升、吳茱萸三斗、乾棗八升、白芷四斤、澤瀉十斤、白殭蠶一兩。

備中國卅二種。

黄連卅二斤、女萎四斤。前胡槀本芍藥各三斤、白朮卅六斤、黄蘗十斤、鮑脩八斤、桔梗廿八斤、菊蕪八兩。補杞地楡各一斤、白頭公三斤、狼牙續斷黄精各五斤。紫菀當歸各六斤、白芷五斤、澤瀉一斤八兩。厚朴二斤、卷柏六斤十兩、茯苓一斤二兩、白斂七斤、黄耆八斤五兩、蒲黄一斤、石膏六十六斤、鍾乳床六十斤、桑螵蛸十兩、秦皮一斤八兩。麥門冬桃人各一斗。署預五升、決明子一斗二升、牡荊子一升四合、車前子一升、吳茱萸三升、蜀椒六升、獺肝三具。猪蹄二具、鹿角二具、朴消大三斗。

備後國廿八種、

白頭公五斤、石斛卅九斤、桔梗卅五斤、白朮卅四斤六兩、細辛卅斤、昌蒲四斤、黄蘗十斤、當歸六斤、薺苨廿三斤。芍藥二斤、木斛十五斤。茯苓五斤。升麻一斤、紫菀十三斤、夜干廿一斤、赤石脂三斤八兩、桑螵蛸十兩、署預一斗四

〔麻子〕麻仁也、和漢三才圖會に「麻仁、治中風汗出、逐一切風氣、通乳汁、產後餘疾、催生難產亦用、又陽明病汗多胃熱便難三者、皆燥也、用之以可通潤」ことあり。

〔巴戟天〕一に不凋草又は三蔓草ともいふ、腎經血分の藥にして、筋骨を強くし、精を益し五臟を安ずる効ありと云ふ。

〔防已〕和名抄に「防已、和名、阿乎加豆良」とあり一に解離、石解とも書す、風水を療する良藥なれば、大小便を利し、能く血中の濕熱を瀉し、其の滯塞を通ずと云ふ。

升。麥門冬二斗六升。桃人二斗一升。車前子二斗三升。蒺藜子三升。麻子一斗四合。亭藶子一斗六合。蜀椒一斗三升。獺肝二具。猪蹄五具。朴消大三斗。

安藝國卅二種。

黄連四斤十一兩。前胡柴胡白朮藍漆菖蒲商陸各六斤。獨活牛膝各十八斤。桔梗廿一斤。黄芩廿斤。玄參藁本白頭公夜干各三斤。細辛十五斤。苦參當歸茜根各十斤。石斛卅斤。地楡續斷各二斤。天門冬十二兩。梔子二斗。署預吳茱萸蜀椒各一斗。桃人三升。麥門冬一升六合。五味子三升。亭藶子四合。白殭蠶二兩。

周防國十九種。

獨活八斤。牛膝七斤。白朮一斤四兩。藍漆石斛升麻各五斤。苦參十斤。茵茹四兩。細辛一斤八兩。巴戟天茯苓各一斤。夜干卅斤八兩。防已六斤。滑石廿斤。梔子五升。署預六斗。麥門冬七升。桃人四升五合。吳茱萸四升。

長門國十三種。

牛膝芍藥茯苓各三斤。白朮二斤。藍漆巴戟天茜根各一斤。細辛七斤。白礬石三斤。蛇床子五升。桃人四升。亭藶子蜀椒各二升五合。

南海道。

紀伊國卅五種。

獨活松脂各十斤。牛膝楡皮厚朴各九斤。萆薢五兩。白朮一斤。藍漆茵茹地楡各三斤。菖蒲六斤。玄參葛花各一斤。苦參廿六斤。白芷一斤四兩。躑躅花二斤。木斛廿五斤。石斛二斤五兩。大青茯苓各四斤。栝樓一斤十四兩。升麻十兩。葛根十一斤。天門冬八斤。夜干一斤九兩。滑石一百廿斤。署預六升。桃人一斗。牡荊子二合。車前子蜀椒各五

獨活細辛各二斤。牛膝三斤。菖蒲升麻各四斤。苦參九斤。大斛十三斤。栝樓七斤。署預一斗二升。桃人車前子各四升。秦椒一升。决明子二斤。呉茱萸二斗。

西海道。

太宰府十二種、

木蘭皮百五十斤。土瓜百部各十斤。龍骨六十斤。白[illegible]百斤。代[illegible]各一斗。[illegible]四升。狸骨二具。檳榔子人參各廿斤。石斛十斤。

右依前件附貢調使進納、收色目錄返抄、其太宰便附別貢使。

〔栝樓〕和名抄に「和樓、一名瓠瓠、和名、加良須宇里」とあり、和漢三才圖會には、これを否として「比左古宇里」となせり、其の果は、圖書に「潤ニ肺燥一能降ニ上焦之火一、使ニ痰氣下降一治レ嗽之要藥也」とあり。

〔木蘭皮〕木蘭は、一に木蓮、杜蘭、林蘭、黃心とも書けり、和名抄に「木蘭、一云林蘭、和名毛久良迩」とあり、樹は柳の如く、葉は桂に似て、花の狀、花の香、蓮華に似たるを以つて名付くと。

延喜式卷第三十七

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔廻立殿〕大嘗宮開闔の北にある殿にして天皇の御沐浴及び御齋服、又、著御の所也。

（折薦帖者世業帖是也）

〔南宮正殿〕即ち大嘗宮の謂にして、東を悠紀殿、西を主基殿と稱す、祭に先き立つこと七日、始めて工を起し、五日内に造り畢るを例とす、東西二十一丈、南北十五丈あり、外を繞らすに柴垣を以てし、内は隔つるに屏籬を以つてす。東西南北に各小門を設く。

（百子帳[illegible]）

主基殿亦如之。訖自廻立殿至南宮正殿道、鋪布單。（事具神祇式。）上安卷葉薦。宮人已上持湯殿御楊、候於廻立殿西幔内。（女孺已上持、宮人隨宜設之。）御悠紀御膳所、東折薦帖八枚。折薦八枚。折薦疊八枚、葉薦八枚、山城食薦八枚。寮造食薦八枚、付内膳司。（主基亦同。）戌刻天皇御於廻立殿。典掃退出喚寮、寮敷御浴席。（薦一在御所、不敷高席。）典掃官御楊持來。宮人蔣帷、卽界（カイテ）自殿北方至廻路東、轉授女孺、訖復本所。掃部四人便留、餘皆退出、候大嘗宮北門東腋。天皇幸悠紀殿、宮内輔於御前左右膝行、隨御步兩敷葉薦、宮人二人於御後左右膝行、隨御步卷。訖退出候於本所。卽設小齋侍從座一枚於光堂南廊下、文武官座一枚於大嘗宮南庭。天皇還御於廻立殿、宮内幷寮供奉如初。卽幸主基殿、供奉亦如悠紀。辰日官人分率掃部入豐樂院、於悠紀所備御座、與圖司共設殿上御座。悠紀在左、主基在右。五位已上座設於顯陽承歡兩堂、供奉如常儀。巳日夕悉撤兩殿斗帳及御座、更設寮家御座於殿中央。午日官人各執置位記案一脚、左右分入、自儀鸞門東西扉、立殿前中庭。事畢入撤。五節舞訖、立積綵床。

凡踐祚大嘗會設饗所輕幄、百子帳、歡醉大床子、屛風、帳、茵等、皆納寮家、臨事出用。

凡二月八日上丁釋奠祭、廟堂敷葉薦、長席。祭畢之後、親王公卿座設都堂東方、西面北上。五位已上座設西方、東面北上重行。諸司座設東廊、六位以下幷諸博士學生等座設西廊。講畢改座賜饌。東第一二三間設參議已上座。西去一許丈五位已上座、並南北相對、以東爲上。東西夾座如前。次設宴座。

凡齋内親王入伊勢齋宮、天皇御於大極殿高御座。在西東戶、設御座東向。（薦帖各二枚。上鋪六尺御帖一枚。）後樹屛風。自御前東去一間設道、鋪葉薦一枚。自北方東戶南進一間、鋪内親王座。南面。（緣帖二枚、上加兩面短帖一枚。）後樹屛風。

出雲國造奏神事。設御座、同告朔儀。

最勝王經齋會、衆僧座設於大極殿。鋪設中省受、事畢返上。初終日行幸者、設御座於高御座左寅角及小安殿、又東階

〔南榮〕南簷に同じ。簷、大極殿の南簷の意也、榮は禮記の喪大記に「升レ自東榮、降レ自西北榮」の註に「榮屋翼也」とあり

〔宣命大夫座〕宣命使の座席也、宣命使は五位以上のものを遣すを以つてかく云ふ也。

〔草墪〕草にて作りたる敷物の類なるべしと云ふ。

〔出居中少將座〕出居座は、嚴儀の時に用ふる座、即ち儀式等を行ふ所を臨時に稱ふる也、この座に侍するもの侍從なれば、出居侍從、少將なればは出居少將等と稱する也。（以醫證侍從少納言乃稱出居或云作宮量之其上々）

〔帛三丈〕貞京二本なし。

上北道一許丈、更西折一許丈北面皇太子座。御座東去一許丈西面內辨大臣座。參議已上座於南榮東方。北面西上。王五位已上座於南榮西方。北面東上。堂童子五位已上座於殿東西壇上。以外諸司座分在東西廊壇下。

無行香者設於壇上。總日設座同之。又日高堂設衆僧布施座幷宣命大夫座。堂西庭設公卿已下座。

御齋會總日。設講讀師座於內裏御前。各調座立几子。問答者座亦各立几子。其前置草墪。香水机下敷筵。聽衆座立中床子於黄子敷。威儀師座幕邊立床子一脚。又親王公卿及出居中少將座敷帖。

春秋二季御讀經。太極殿設座略如正月御齋會。若於紫宸殿及御在所轉讀之時。衆僧幷王卿近衛次將出居座設於殿上。臨時亦同。

一代一講仁王會。太極殿紫宸殿御在所太政官廳外記廳中宮東宮各設僧座等。紫宸殿御在所設王卿及近衛次將出居座。但太極殿不設次將座。臨時設於十一箇所。

奉山陵幣御座設於建禮門前壇下。大臣已下及辨官已上座設於東壇下。設幣帛下敷葉薦二枚。帖四枚。

凡辨備山陵幣之座。設於縫殿寮南院。并大藏省正倉院。

元日平旦設奉拜天地四方御座。前庭鋪長筵立御屏風。二所敷半帖。元正前一日設御座於太極殿高御座。去御座左右各一丈二尺。褰御帳命婦座。其後左右各去一丈五尺。更北折五尺威儀命婦座。相去御階南北各去二丈五尺。以南爲上。侍從位氈於南廂第一第二間。並東西相對。執翳者座於東西戶前。皇太子座於殿東南。壇大臣座於其巽角。壇又後殿以布幔十一枚。爲南榮之屏中間隔殿內鋪葉薦上加調席。鋪御帖八枚。立五尺御床上施兩。左右立五尺御屏風四帖。

元日供奉威儀掃部二人。分列左右。其裝束人別黄帛三丈。「帛三丈」。白袴一腰。布帶一條。隨損請換。朝賀畢賜。

〔豐樂殿〕豐樂院の正殿也、後房に淸暑堂あり朝廷の宴會を行ふ御殿也。

長一丈二尺高七尺許上下帳並內張絲人著

〔簟〕字鏡に「簟、太加介」とあり、竹笥の義、ものをうくる竹製の器具なりと云ふ。

其躰面圓如須笥長三尺廣一尺五寸高一尺許有三尺[illegible]寮內侍爲女座

〔軟障〕帷幕の如きものにて、壁に立て引くものを云ふ河海抄に「軟障、有圖畫松也、謂高松軟障、堂上立軟障、堂下引幔、又堂下有立軟障內宴妓樂之時云々」とありて、源氏水滴抄に「軟障障子、唐綾にて張る、纐纈にて巡り構ふ」とあり。

侍從已上饗。官人率掃部昇豐樂殿供御座。南廂西第二間敷簟四枚。（爲御酒臺下敷。）北廂中央西間敷細貫席二枚。立御屛風二帖。小倚子爲御裝物所。高御座東三間懸軟障。西二間立通障子。西一間并西身屋妻二間懸軟障。並內匠寮立之。御座西第一間南面設皇后御座。東第二間西面皇太子御座。第三四間東南行參議已上座。相對以乾角爲上。通障子內立草墪囊床子。并敷帖爲內侍已下座。殿東階下少納言辨外記史內記等座。西階下侍臣座。逢春門內南北鋪蘆蓆。置草墪爲闈司座。顯陽承歡兩堂侍從座。以北爲上。樂人座於庭中。（臨奏樂時設之。）又淸暑堂東局鋪滿葉薦席。立御屛風十帖。中央鋪毯代。雙立塵蒔大床子二脚。（東西妻。）其上鋪錦茵二枚。南壁外鋪葉薦并帖。西局鋪滿葉薦并長帖。爲女官候所。（餘節亦同。）

上卯日獻御杖。大舍人叩門後立案二脚於殿庭版位東西。（相去二丈。）

七日設座與元日同。但設六位已下座於觀德明義兩堂。又版位以南左右相分立置位記筥案。叙位訖徹案。女樂拜舞之後立積祿床。

八日女叙位。（隔不讀）紫宸殿南廂立漆案。

同日賜女王祿。御座以西設皇后御座。以東設女御已上座。（用兀子。）立孫王尚侍典侍等床子。（以下同用中床子。）東廂立散事床子。祿東頭立內侍床子。西立女史床子。前立空床子一脚。西立掃部女孺床子二脚。前立班祿臺一脚。（用長案。）掃部座西南立闈司床子。闈司西北立來著床子六脚。祿西南立正親司別當已下令史已上床子。幄下立女王床子。

內裏任官。裝束紫宸殿如常。但案一脚立大臣座前。（置除日薄新。）

十五日勘御薪之日。設辨官并三省輔已下座於宮內省廳上。又設式兵二省座於西細殿。並用中床子卅脚。

〔阿禮幡〕古、禁中にて、正月十七日豐樂院の射禮の時立てられしものにて旗の類也。

〔兩侯射席〕二侯と射席との意也、射禮には、二ヶ所の侯を構ふ、第一侯は射席を去る西行三十六步の處に設け、親王已下五位以上、及び左右近衞、左兵衞の射る處也、第二侯は其の南に構へ、右兵衞、左右衞門の射る處也、侯は鹿の皮を以ってつくり的を懸くるものを云ふ。

〔灌佛〕灌佛會の略四月八日の釋迦降誕日を祝して行ふ法會也。

十六日踏歌設座與元日同。踏歌訖拜舞後即立祿床。

十七日觀射豐樂殿。坤角幔下東面北上設兵部兵庫省寮官人已下座。阿禮幡北一丈唱射者名座。兩侯射席東南各七許丈立賞物床。前鋪蘆蓆。其西南大藏省官人已下座。兩侯之後奏的并擊鉦鼓者座 自餘與七日同。

十八日賭射。按書殿東廂北第一間供御座。紫宸殿西北廊設參議已上座。南面西上。神仙門內設侍臣座。御前屏幔下西面北上出居中少將座。射場東砌西面北上錄的者座。差南退屏幔內西面北上四衞府刻籌者座。其南積祿所鋪蘆蓆。安福殿南第一間東面北上兵部錄已下座。同殿巽角東面立床子一脚。爲奏的者座。屏幔東設四衞府官人已下射手座。

凡太政官二月十一日列見、八月十一日定考、立床子肆鋪設。

凡三月三日御潔齋。設錦端半帖一枚。東筵一枚。事畢即徹。九月准此。

凡四月一日徹冬座供夏御座。十月一日徹夏座供冬御座。

七日奏成選短冊。紫宸殿設參議已上并式兵二省卿座。

八日殿上灌佛下敷調席一枚。從僧座東筵一枚。參議已上并出居中少將座並用帖。

十五日太政官聽給成選位記之時立床子。奏銓擬郡領日。紫宸殿設參議已上并式部輔以上座。大臣及省官前各立机。

廿八日小月廿七日。牽駒。武德殿供御座。并設親王已下出居已上座。又後殿供御座。設女官座幄下。御膳所立輕幄。

五月五日武德殿設御座并親王已下參議已上之座。又御膳所立輕幄肆鋪設。

六日裝束同牽駒日儀。

七月廿五日相撲。神泉苑殿上供御座。及設參議已上座。又設左右相撲司并大夫等座。廿六日內裏供御座。及

設王卿已下座。

八月釋奠明日内論義。紫宸殿南廂東第四間設答者座。當其後貫子敷問者座。其東差退博士已下座。當北面西上並用床子。王卿及近衛次將出居座如常。

九月九日菊花宴。神泉苑殿上供御座。及設參議已上座。又幄下侍從文人等座。

十二月晦夜追儺。當承明門東南庭中。大藏省立七丈幄一宇。設親王已下侍從已上座。隔幄内東一間敷辨大夫并外記史等座。但雨濕之時設廊上。

天皇即位設御座於太極殿。同元日儀。

凡御座者。清涼後涼等殿設錦草墪。高麗錦表、黑地縁。緋東絁裏。紫宸殿設黑柿木倚子。行幸赤漆床子。東敷錦褥。其神事并仁壽殿等座設短帖。如常儀。中宮草墪亦同御。

凡設座者。皇太子錦草墪。襪錦表。長副錦縁。縹東絁裏。并白木倚子。敷錦褥。殿上并行幸並通用。親王并大臣兩面草墪。葡萄減紫兩面表縁。紺調布裏。赤漆小床子。敷褥。殿上行幸通用。大納言兩面草墪。藍染兩面表縁。紺調布裏。赤漆小床子。東敷黃端茵。殿上行幸通用。參議已下侍從已上中床子。東敷黃端茵。殿上行幸通用。妃夫人錦草墪。黃地覆瓮錦表。紫地車前子兩面縁。縹東絁裏。尚侍女御錦草墪。縹地散花錦表。青褐車前子兩面縁。縹東絁裏。襪床子。敷二色綾褥。四位命婦及更衣藏人兩面草墪。藍染兩面表縁。紺調布裏。左位命婦及藏人青白橡草墪。青白橡摺綟東絁表縁。紺調布裏。殿上其座次第如常儀。

凡諸國所貢調并交易席薦等。色目見主計式。寮先檢定。與諸司共收納。若有年中用多。支度不足者。申省聽裁。

凡供御并中宮東宮雜用料鋪設。及諸陵褁諸陵幣物薬薦等。待官符到與諸司共出充。自餘出給亦准此。

〔内論義〕釋奠の時都堂院にて講論の後、文章博士題を學じて、文人詩を賦す間に、明經、明法、算道等の博士學生を率ゐて論議するを云ふ、又正月十四日御齋會の時もこのことあり。

〔答者座〕内論義に當りて論題に對して答ふる者の座席也、明經、明法、算等の學生これに當る。

〔差退博士〕問者の任に當らずして差し控ゆる博士の意也。

〔諸陵褁〕京貞二本に據りて補ふ。

凡聽座者，親王及中納言已上倚子。五位已上漆床子。自餘白木床子。
凡朝堂院昌福含章延休等堂，并太政官曹司及廳座者，並以官新鋪之（諸堂座但三月至十一月。曹司座年中。）
凡暉章堂告朔諸司五位已上座者，每朔日以官新鋪之（曹司座准此。）但皇帝臨軒不須。
凡太政官聽政廳，并侍從所，及大藏省出納官物諸司座，並日別鋪之，其參議已上座，從穢造替。
凡辨官收諸司考選文之日，設五位已上座。式兵二省收番上考選文亦同。
凡諸祭及節會所須席薦，預前具數申省請受，事畢返上。
凡行幸神泉苑之日，設參議已上座於西門。四月告朔設御座如朝賀儀（不設少納言位甎并執翳女孺等座。但皇太子及大臣座設東廊下。）蕃客朝拜設御座同元日儀（但不設少納言位甎。）行幸之所，設座如內裏儀。但內侍司座臨時設之。
凡諸司座者，隨官人員三年一充。五位以上黃帛端茵，六位以下主典以上紺布端茵，史生不裹端茵。其朝堂有座者，朝堂并曹司座並充。無朝座者，唯充曹司。
凡諸處立幄隨事設座。其臨時所須依官處分。

年祈鋪設。
六月神今食。十二月神今食。十一月新嘗祭亦同。御祈黃帛端短帖一枚（方四尺）白布端帖二枚（各長一丈二尺五寸。廣四尺）白布端帖二枚（各長九尺。廣四尺五寸）一枚無裹布。白布端帖二枚（各長九尺。廣四尺。）白布端帖一枚（長八尺。廣四尺。）白布端帖四枚（各長六尺。廣四尺二寸。）一枚無裹布。折薦帖一枚（長八尺。廣四尺。）折薦帖八枚。白布端坂枕一枚（長三尺。廣四尺。）蒋席二枚。葉薦八枚。折薦八枚。蒋食薦八枚。山城食薦八枚。簀八枚。床一脚。
湯殿打拂布二條（各長一丈三尺。）柳筥二合（納拂布。）新。但中宮白布端帖四枚（各長八尺。廣四尺。）折薦帖一枚。白布端坂枕一枚。蒋席二

〔昌福含章延休〕昌福堂は、大極殿の東南第一の堂、長七間あり、其の南四丈に含章堂あり第二の堂也、長さ九間とす、延休堂は、大極殿の西方北より第一の堂にて龍尾道の南にあり、長さ七間也。
〔暉章堂〕大內裡八省院十二堂の一、次の東堂ともいふ卯酉の堂也、長さ七間也。
〔告朔〕毎月朔、天皇大極殿に出御ありて、前月の百官の行事、上日等を記したる文を御覽ぜらるゝ儀なり、唐の毎朔の賀に倣へるものなり。
〔年祈鋪設〕以將二十閒以赤絲編也今以荒薦作也方四尺許亦只稱食薦云竹苔何別稱得食薦之故

〔張席〕張筵也、打ち張りて物のおひとせるむしろ也、枕草紙にも「雨降らぬ日、はりむしろしたる事、降る日はりむしろせぬも云々」とあり。

〔狹席〕訓「サムシロ」は、サは發語にて「ムシロ」の意とも、又は字義により、せまき席とも云ふ。

〔御巫等奉齋神〕所謂祝詞式の「大御巫の稱辭竟奉る神祇官の八神・座摩の御巫の稱辭竟奉る生井榮井等の皇神」其他御門神・生國足國の神等を指して云へり。

〔贖〕貞・京二本に據りて補ふ。

枚。

右預前儲備。事畢即充神祇官。

供御白地錦端帖四枚。夏冬各二枚。長一丈。廣五尺。縁纈端帖十枚。夏八枚。長八尺。廣五尺。冬二枚。長廣同上。同端帖四枚。夏冬各二枚。長六尺。廣四尺。同端短帖六枚。夏冬各三枚。長四尺五寸。廣四尺。兩面端帖十六枚。南殿御帳下敷。長八尺。廣四尺。長疊席七十二枚。月別六枚。張席十具。其中宮御料亦同。但加下敷兩面端帖六十四枚。夏冬各卅二枚。長八尺。廣四尺。

右依前件預儲之。夏薄冬厚。

雜給兩面端帖十六枚。厚薄各八枚。女御已上料。緣端帖七十枚。厚薄各卅五枚。黄端帖三百十三枚。厚一百五十八枚、薄一百五十五枚。紺布端帖一百枚。厚薄各五十枚。折薦帖九十二枚。並長八尺。張席五枚。簀十五枚。中宮雜給黄端帖廿枚。夏冬各十枚、同端茵四枚。夏冬各二枚。紺布端帖卅六枚。夏冬各十八枚。

諸司年料。

神祇官諸祭料。狹席(サムシロ)五十八枚。鳴雷神春秋祭料十二枚。御卜所廿枚、同所短帖料三枚。御巫等奉齋神祭十枚。御川水神春秋祭料四枚。四面御門神春秋祭料八枚。六月十二月大祓祝詞座短帖料一枚。折薦四十四枚。御井東宮鎭魂料二枚。御巫等奉齋神祭料十二枚。四面御門神春秋祭料八枚。六月十二月御卜所料十八枚。道饗祭料四枚。葉薦十六枚。鎭花祭料四枚。春秋大忌風神二祭十枚。御井東宮鎭魂祭料二枚。食薦一百八十五枚。平野春日大原野春秋祭料各廿四枚。四面御門神春秋祭料廿二枚。鳴雷神春秋祭料十二枚。六月十二月御卜所料四枚。御巫等奉齋神祭料卅一毎月晦御贖料廿四枚。御川水神春秋祭料十枚。簀十六枚。御巫等奉齋神祭料十二枚。六月十二月御卜所料四枚。圖書寮寫年料仁王經所。狹席十二枚。折薦廿四枚。造年料墨所。席一枚。食薦二枚。縫殿寮縫正月齋會講讀師等法服所。狹席四枚。縫新嘗會御服所。黄端短帖一枚。折薦帖四枚。席二枚。通用十二月神今食。六月十二月晦晨御〔贖〕物料。葉薦二枚。中宮東宮亦同。内藏寮年料藍染所席十枚、折薦十五枚、

〔未醬大豆〕未醬を製するに用ふる大豆の意也。

〔東西悲田〕東西兩悲田院の意也、悲田院は、王朝時代孤兒、病者を養ふ所にして、施藥院今世所謂佐七黑也山城[illegible]所百の別所なり、左右の京職九ヶ條の令に依りて、京中路邊の孤兒病者を見るに隨て、こゝに收容する也、天平二年五月、光明皇后の御創立し給ふる處也。

〔齋會〕古來多くの僧尼を集めて、讀經供養する法會を云ふ、推古天皇十四年始めて行はる正月八日の大極殿の最勝會等是也。

年料供御并雜給屋席料、小町席、其數臨時定レ之。陰陽寮十二月晦日儺料。食薦五枚、典藥寮造二臘月御藥一所。長席四枚、折薦四枚、苫一枚、造二年料白粉一所、席一枚、簀一枚、織部司織女祭所、席二枚、食薦二枚。大膳職食薦一千九十枚。御并東宮鎭魂百十枚。平野春秋祭料一百六十枚。春日大原野春秋料各一百五十六枚、織女神春秋祭料八枚。最勝王經齋會所一百枚、雜用料五百枚。狹席六枚。年料供御四枚。造二素餅一所二枚。長席八枚、干二供御年料一所二枚。曝二干未醬大豆一所六枚折薦十枚、供御年料四枚。造二供御年料素餅一所二枚、干二供御年料大棗一所四枚。苫十枚、內膳司狹席十六枚、折薦十六枚、並供御料。造酒司食薦廿四枚、供御四枚。雜用廿枚。隼人司造二油絹一所、席一枚、簀一枚。大歌所食薦十五枚、內教坊食薦廿枚、

右年中所レ充。並依二前件一。若有二增減一者、臨時處分、餘條准レ此。

試二延曆寺年分度者一座料、黃端茵一枚、黃端帖二枚、葛野席帖一枚、席四枚。六年一充。

內膳司造二供御粉熟一料。席二枚、簀二枚、三年一充。

供二奉大射節一五位已上肄習之間座料。兩面端茵三枚。綠端綠二枚。黃端帖八枚、席六枚。長席四枚。五年一充二兵部省一。

凡大學諸堂學生食座料。長疊十枚、隔二三年一行レ之。

凡主鈴典鑰等座料。以二古弊疊六枚一、每二年終一充レ之。

凡東西悲田每年冬季所レ給古弊疊卅枚者、下二行施藥院一。總二計彼院及兩悲田當時所レ養病者孤兒定數一、均令二分給一。

儲料兩面端茵十枚、綠端茵四枚、黃端茵六枚、黃端帖十枚、折薦帖百六十枚。長帖五十枚、

右諸祭及齋會節會等座、以二件儲料一鋪レ之。畢二收寮家一、隨レ事出用、隨レ損料度申レ省造換。

倚子床子、隨レ損申レ省、令二木工寮修理一。

諸節并行幸奉供仕丁卌一人。裝束各給二紺布衫一領。一丈八尺。袴一腰。七尺。白布帶。五尺。隨レ損請替。

打掃布四條。各長一丈二尺。盛筥二合。各長一尺六寸。廣四尺四寸。紙一帳。並毎年所ㇾ請。陶由加一口。槽一隻。張席料檜榑百枚。木工寮造進。三年一請。
殖ㇾ藺田一町。在ニ山城國一。耕殖料一人。以ニ當國正税一雇充。刈得藺三百八十圍。寮家仕丁刈運。蔣沼一百九十町。在ニ河內國茨田郡一。刈得蔣一千圍。菅二百圍。並刈運夫以ニ當國正税一雇役。莞五百圍。攝津國係夫刈運。

造ニ鋪設一功程。

神事料白端狹帖一枚。長九尺。廣四尺五寸。端料暴布一條。各長九尺五寸。廣六寸。裏料暴布一丈八尺。麻八兩一分。木綿二兩二分。織席一枚。編薦二枚。細縄十五丈。長功日一人半。中功日二人。短功日二人半。

狹帖一枚。長八尺。廣四尺。端料暴布二條。各長八尺五寸。廣六寸。裏料暴布二條。一條廣二尺四寸。一條廣一尺六寸。長別八尺。麻八兩。木綿二兩。織席一枚。編薦二枚。細縄十三丈。長功一人。中功一人半。短功二人。

狹帖一枚。長一丈二尺五寸。廣四尺三寸。端料暴布二條。各長一丈三尺。廣六寸。麻五兩一分。木綿二分。黑山席一枚半。編薦二枚。細縄十五丈。長功一人半。中功二人。短功二人半。

狹帖一枚。長六尺。廣四尺。端料暴布二條。各長六尺五寸。廣六寸。裏料暴布二條。一條廣二尺四寸。一條一尺六寸。長各別六尺。麻六兩。木綿二兩。織席一枚。細縄十丈。編薦一枚。長功一人。中功一人半。短功二人。

折薦帖一枚。長八尺。廣四尺。厚五寸。料調折薦六枚。黑山席一枚半。席料木綿二兩一分。細縄十丈。御坂枕一枚。長三尺。廣四尺。料編薦一枚。織席一枚。端料暴布一尺七寸五分。麻二兩。木綿一兩三分。長功一人小半。中功一人大半。短功二人。

打拂布三條。各長一丈三尺。筥三合。各長二尺六寸。廣一尺四寸。

新嘗會菅葢酒殿料菅八枚。殿別四枚。薦八枚。殿別四枚。事訖給ニ神祇官一。其下形并押桙木工寮預備之。

〔蔣沼〕眞菰を植うる沼也、蔣は玉篇に「菰蔣」と見え眞菰草を云へり、禾本類に屬し、沼澤に繁殖す。

〔茨田郡〕仁德天皇紀十一年十一月の條に初めて見ゆ、和名抄に「幡田、佐太、三井、池田茨田、伊香、大窪、高瀨」の八郷を載す、今、交野、讃良兩郡と合して、北河内郡と稱す。

〔莞〕藺草の類、俗に細藺と云ふ草也疊表に用ゆ、又その心は、燈心とし、皮は「キガラ」とて縄又は笠にも作れり。

〔三寸〕京本に據りて補ふ。

右六月十二月神今食新嘗祭供御新。

供御新。

狹帖一枚。長八尺。廣五尺。新織席一枚、葉薦四枚、端新錦生絁各五條。一條長九尺。八尺五寸、廣並三寸。四條各長 帖裏新曝布一丈六尺。又一條。長八尺。廣三寸。紫絲一分。苧大五兩。紫革一條。方七寸。細縄十五丈。長功日二人、中功日二人半。短功日三人。

狹帖一枚。長八尺。廣四尺。新出雲席一枚。葉薦四枚。端新兩面生絁各五條。一條長九尺。八尺五寸。廣並三寸。四條各長 著裏新布二條。一條長八尺、廣二尺四寸。一條長八尺、廣一尺六寸。緑絲一分。紫革一條。方六寸。苧大四兩。細縄十五丈。長功一人半。中功二人。短功二人半。

狹帖一枚。長六尺。廣四尺。新織席一枚。葉薦四枚。端新帛纐生絁各五條。一條長七尺。六尺五寸。廣並三寸。四條各長 著裏新曝布二條。各長六尺。一條廣二尺四寸。一條廣一尺六寸。紫絲一分。紫革一條。方六寸。苧四兩。細縄十丈。長功一人半。中功二人。短功二人半。

短帖一枚。長四尺五寸。廣四尺。新織席一枚。葉薦二枚。端新帛纐生絁各五條。一條長五尺五寸。各長五尺、廣並三寸。四條 曝布四尺五寸。又一條。長四尺五寸。廣一尺六寸。紫絲三銖。紫革一條。方四寸。苧三兩。細縄七丈。長功一人。中功一人半。短功二人。

雜給新。

狹帖一枚。長八尺。廣三尺六寸。新調席一枚。調折薦三枚。端新綵帛五條。一條長九尺。八尺五寸。廣並三寸。四條各長 色絲一分緋革一條。方五寸。裏新庸布二條。各長八尺。一條廣二尺四寸。一條廣一尺二寸。熟麻八両。細縄十三丈。長功一人半。中功二人。短功二人半。

短帖一枚。長三尺五寸。廣三尺二寸。新織席一枚。調折薦一枚。端新綵帛五條。一條長四尺五寸。四條長四尺。廣並三寸。庸布二條。各長三尺五寸。一條廣二尺四寸。一條廣八寸。色絲三銖。緋革一條。方四寸。熟麻四兩。細縄五丈。長功一人。中功一人半。短功二人。

〔狹帖〕狹きとばり也、帖は、釋名に「牀前帷曰レ帖」とある意によりしなるべし、卽ち窓、壁等に垂るゝ᷈に對して、牀に垂るる帷を云ふ也。

〔長功〕功は人功也、令義解、營繕令第廿に「凡計ニ功程一者、四五六七月、爲ニ長功一、布一常得ニ四功一、二月三月八月九月、爲ニ中功一、一常得ニ五功一、十月十一月十二月正月、爲ニ短功一、一常得ニ六功一」とあり、一常は一丈三尺也。

〔熟麻〕「ウミソ」と訓み、精練したる麻の義にて、績みたる麻を云ふ。

〔綵帛〕色どりたる布帛を云ふ。

〔坂枕〕和訓栞に、「さかまくら、大甞新甞には、八重疊の上にそなふ坂枕と書り、式に𧃴の編薦一枚生絲一兩（本文參照）と見ゆれば、薦枕也、又式に帛坂枕見え、貞觀儀式には、白羅草木鳥獸繡緣御坂枕とも見えたり枕の方高くて床の上斜なれば、坂枕の名ありと云へり」とあり。

〔軾〕「ヒザツキ」と訓む、膝突の義、帛布にて作れると、薦を用ひしと種々あり、禮拜の座とす、江家次第には軾帛と見え、侍中群要には「以レ薦爲二膝突一」とあり。

玉篇稺音除致反爾雅稚也乃音秕小也説文幼木也和字也或云稀取稺中子々作食薦云云

右厚帖用度具依レ件、其薄帖、𧃴絁帛幷葉薦各減レ半、短帖減二少半一。功程毎レ色減二半人一。短帖減二少半人一。餘皆同レ厚。

狹帖一枚。長八尺。廣三尺六寸。𧃴調席一枚、調折薦二枚、端𧃴紺布二條。別長八尺五寸、廣四寸、熟麻八兩。木綿二兩。細繩十丈、長功一人半。中功二人。短功二人半。

狹帖一枚。長二丈。廣三尺六寸。𧃴長席一枚、調折薦四枚、端𧃴紺布二條。各長二丈五尺、廣四寸、熟麻十二兩。木綿三兩、細繩十丈、長功一人半。中功二人。短功二人半。

狹帖一枚。長二丈。廣三尺六寸、𧃴長席一枚。調折薦四枚、端𧃴紺布二條。各長二丈五寸、廣四寸、熟麻十三兩、木綿五兩、細繩廿丈、長功三人大半。中功五人、短功六人、貫雜色革長功一人百廿條、中功一百條。短功八十條。

坂枕一枚。長二尺五寸、廣三尺、𧃴編薦一枚、生絲一兩、長功一人少半、中功一人大半、短功二人。

軾一枚。長二尺五寸。廣一尺。𧃴編薦一枚、生絲一兩。苧二兩。長功一人。中功一人少半。短功一人大半。

張席一具。長二丈。廣七尺二寸。𧃴長席二枚、曝布一端。生絲六兩一分二銖、麻一斤九兩、縱繪析十三兩。繩料十二兩。縫宮人單六人。

織席一枚。長九尺。廣五尺。𧃴擇エリ藺一圍、苧十五兩。長功十人。五人織手。五人刻レ藺手。中功十二人。短功十四人。

織席一枚。長九尺。廣四尺。𧃴擇藺二尺八寸、苧十三兩。長功十一人。中功十一人。短功十二人。

織席一枚。長九尺。廣三尺六寸。𧃴擇藺二尺四寸、苧四兩。長功八人、中功十人、短功十二人。

織席一枚。長九尺。廣三尺二寸。𧃴擇藺二尺四寸。麻十三兩。長功八人。中功十人、短功十二人。

編食薦一枚。長六尺。廣三尺。𧃴擇藺一尺五寸。生絲五銖、長功一人。中功一人半。短功一人大半。

稺ワカコモノ蔣食薦一枚。長六尺。廣三尺。𧃴稺蔣二尺。麻十三兩。長功半人。中功大半人。短功一人。

薦一枚。長二丈四尺。廣四尺。長功一人。中功一人少半。短功一人大半。

〔功〕貞京二本に據りて補ふ。

〔小町席〕和訓栞に「こまちむしろ、延喜式に、小町席と見ゆ、小區席なるべし」とあり、長席なとに對して短矩の席を云ひしなるべし。

〔「薦三枚席云々」〕此れ以下一尺四寸迄の十二字、京貞二本に無し、上文と重複すれば、衍字なり。

薦一枚、長三丈廣三尺。長功一人。中功一人少半。短功一人大半。
草墪一枚、高一尺三寸徑一尺六寸。新蔣二圍。苧八兩。大、長功一人大半。中功二人。短功二人半。
草墪一枚、高八寸徑一尺六寸。新蔣一圍大半。苧七兩。大、長功一人少半。中功一人大半。短功二人。縫裏功程臨時量定。
倚子茵一枚。長二尺廣一尺八寸。厚二寸。新小町席一條、長二尺四寸。廣一尺九寸。黄薦七尺。黄帛一條、長八尺廣七寸五分。調布一條、長二尺一寸。廣一尺九寸。黄絲二銖。苧一兩。緋革一條、長四寸廣二寸。細繩二丈。長功二枚。中功一枚大半。短功一枚小半。
三位已上床子茵一枚。長二尺廣一尺五寸。厚二寸。新小町席一條、長二尺四寸。廣一尺六寸。葉薦七尺。黄帛一條。長七尺二寸。廣七寸五分。調布一條。長二尺一寸。廣一尺六寸。黄絲二銖。苧一兩。緋革一條。長四寸。廣二寸。細繩二丈。長功三枚。中功二枚半。短功二枚。
五位已上床子茵一枚。長四尺。廣一尺四寸。厚一寸五分。新席一條、長五尺。廣一尺四寸。折薦六尺。黄布一條。長四尺四寸。廣四寸。苧大二分。細繩二丈。長功十枚。中功八枚。短功六枚。
主典已上床子茵一枚。長四尺。廣一尺四寸。厚一寸五分。新席一條。長五尺。廣一尺四寸。折薦一丈。紺布一條。長四尺四寸。廣八寸。苧大一兩。細繩二丈。功程同上。
史生床子茵一枚、長四尺廣一尺四寸厚一寸五分。新席一條、長五尺廣一尺四寸。折薦一丈。細繩三丈。功程同上。
一位短帖一枚、長六尺廣四尺。二位短帖一枚、長五尺廣三尺。並新黒山席一枚。葉薦四枚。端新黄帛二尺三寸一分。裏新調布一丈。黄絲一分。黄革一條。方四寸。苧四兩。細繩六丈。長功一枚半。中功一枚四分之一。短功一枚。
三位短帖一枚。長四尺六寸廣四尺。一云不ㇾ著二裏布一。新黒山席六尺六寸。葉薦三枚。席端新黄帛一尺四寸。「薦三枚席端新黄帛一尺四寸」薦端新黄調布一尺三分。黄絲一分。黄革一條。方四寸。苧四兩。細繩六丈。長功二枚。中功一枚大半。短功一枚小半。

〔長廣同五位〕即ち、六位已下短帖も、五位已上と同じく「長四尺、廣三尺六寸」とすべしとの意也、只その製り方に精粗の差ありしなり、即ち其の著しき點は五位以上は、黄調布の端を付くれども、六位下には無端也。

〔菅圓座〕菅にて作れる敷物也、大臣大饗考に「大納言參議座不敷菅圓座依苦熱也、正月大饗敷之也」とあり。

五位已上短帖一枚。長四尺、廣三尺六寸 緋調席五尺。葉薦一枚。端緋黄調布一尺五寸。苧一兩。細縄二丈。長功五枚。中功四枚。短功三枚小半。

六位已下短帖一枚。長廣同五位 緋凡席五尺。折薦一枚。細縄二丈。長功廿枚。中功十七枚。短功十三枚。

長帖一枚。長一丈九尺、廣三尺六寸。緋長席一枚。折薦三枚。細縄十丈。長功六枚。中功五枚。短功四枚。

狹帖一枚。長八尺。廣三尺六寸 緋短席一枚。折薦二枚。細縄四丈。長功十枚。中功八枚小半。短功六枚半。

藺圓座一枚。徑三尺。 緋藺。以一圍作八枚。 長功一人。中功一人半。短功二人。

菅圓座一枚。徑三尺。厚一寸。長功一枚半。中功一枚四分之一。短功一枚。

蔣圓座一枚。徑二尺五寸。厚五分。 長功十五枚。中功十二枚半。短功十枚。

細縄。長功百五十丈。中功百丈。短功七十五丈。

造鋪設所須高棚一枚。隨破請換。刀子一枚。長針四枚。宮人日績麻八兩。

右依前件。其縫席端幷績麻宮人者。內侍充之。造作之間並給間食。人別日白米八合。鹽八撮。滓醤一合。四月一日申省受之。

作手八人。各日黑米一升六合。

延喜式卷第三十八

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔正親司〕「オホキミノツカサ」又「オホギマチノツカサ」「オホキミタチノツカサ」と云ふ、宮內省の被官にして親王諸王の名籍を掌る、正、佑、大令史、小令史、史生、使部、直丁などの職員あり。

〔時服〕親王以下諸臣に春秋或は冬夏二季の服料を給ふを云ふ。

〔月華門〕大內裏の一門にて、安福、校書兩殿の間に在り、又た月花門に作る。

〔鐵〕衍字なるべし。

〔女王二節祿〕正月八日、及十一月新嘗會の二節の祿也

延喜式卷第三十九 正親 內膳

正親司

凡諸王年滿十二。每年十二月。京職移宮內省。省以京職移即付司令勘會名簿。訖更送省。明年正月待官符到。始預賜時服之例。

凡賜時服王定四百廿九人。待其死闕依次補之。但改姓爲臣之闕。不補其代。隨即減定額數。

凡諸王計帳者。令造二通。司加押署東京職判畢一通留司待年足符即勘會申省。

凡給季祿男女王。同世之中有同名者。速令申換載帳進之。但新名下注本名。

凡正月八日給祿女王。所司設座於殿庭。立幄一宇於安福殿前。積祿於版位南。亦供奉殿上裝束。天皇御紫宸殿。內侍率女官就座。本司官人引女王自月華門參入。女王先就幄下座。以世爲次。不據長幼。次官人共起就前庭座。佑一人執簿唱曰。某親王之後。卽一祖之胤皆下座。共稱唯就庭中座。座定執簿一一喚名。女王卽稱唯進受祿退出。餘亦如之。其祿法人別絹二疋。綿六屯。十一月新嘗會准此。

凡賜祿女王定二百六十二人。其隨闕補代。代及改姓不爲闕。事並同上條。

凡諸王給春夏時服者。二世王絹六疋。絲十二絇。調布十八端。鍬卅口。四世王以上並如令。正月廿日錄送省。秋冬准此。（鐵但以綿代絲。以鐵二廷代鍬五口。）皆向大藏受之。不得遣人代請。

凡給女王二節祿。見參簿當日早旦奏之。

凡參二平野祭所一官人幷諸王見參歷名進二太政官一。

凡參二藥師寺最勝會一王氏無官六位已下、廿人已下十六人已上。司預差定、三月一日名簿進二太政官一。

凡諸王有二出家一停レ給二時服一。其女王節祿亦停。

凡六位已下諸王死去者。喪家申レ司、司卽申レ省。

凡女王地一町。在二左京北邊三坊一。

凡闕官及不仕官人已下要劇番上料者、充下修二理司中小破一幷雜用上。

內膳司

春日春祭。

絁一疋。綿二屯。官人一人當色料。調布四端。膳部八人衫料各二丈一尺。紅花一斤。染二膳部衫一料。紺布一端。女丁裳料。商布六段。四段仕丁擔夫各二人衫料。二段膳部仕女等巾料。

右雜物預前申レ省、自二大藏省一請受。但供神物見二神祇式一。官人率二膳部仕丁等一赴二向祭所一以供二其事一。秋祭准レ此。擔夫臨時申レ省。

大原野祭。

右一物以上同二春日祭一。

月日春祭。

高案二脚。木工寮所レ充。調布四條。各長五尺。覆敷案料。陶高盤八口。筥匜二口。飯笥二合。木綿小一斤。已上內藏寮所レ充。

右雜物申二請內侍一。其供神物者、割二取供奉月料雜物未レ御者一料理盛二備高案一送二縫殿寮一。秋祭准レ此。

〔節祿〕朝廷より節會の時、親王及び臣下に給ふ祿をいふ、十一月新甞祭九月大射に給ふ節祿は、清寧天皇の朝に、正月七日、同十六日、九月九日の節祿は天武天皇の朝に、七月七日の節祿は持統天皇の朝に、見えたるを初めとす。

〔內膳司〕十六頁頭註を見よ、

〔高案〕雜具を置くに用ふ、高机ともいふ、朝廷の例にて云はゞ御劍、御璽、琴等を置きたる事あり、また臺盤所にも使用したる事も見ゆれば、其他各種の物を載せたる事知らる、形、後世の經机の如しといふ。

園神祭。春秋並同。

十四座。京北園二座。長岡園三座。奈良園三座。山科園一座。羽束志園三座。奈癸園一座。政所一座。

右五位一座。京北園。六位十三座。

五位神一座料。

五色絁各三尺。倭文二尺。木綿麻各八兩。鍬二口。白米三斗。糯米一斗。大小豆各二升。酒一斗。鰒二斤。堅魚腊各六斤。雜鮨十一斤。海藻四斤。鹽六斤。

六位神料。

座別五色薄絁各一尺。倭文一尺。鍬一口。木綿麻各一兩。米二升。酒七合。鰒堅魚腊海藻各五兩。鹽七合。祝料庸布二段。

諸祭雜菜 春秋並同。

園韓神祭三斛。春日祭四斛。平野祭三斛。大原野祭三斛。釋奠祭四斗。色目見大膳式。

六月神今食料。十二月准レ此。

淡路鹽二升。東鰒七斤五兩。薄鰒六斤十兩。堅魚五斤。干鯛六隻。干鯵卅隻。鮨鰒煮鹽年魚醬鮒各二升。甘鹽鯛四隻。海松海藻各六斤十兩。干棗子生栗子搗栗子菱子各二升。十二月以ニ橘子一代ニ菱子一。盆四口。堝十口。大四。小六。松明八束。供奉官人二人。膳部六人。各給ニ暴布褌一條一。長八尺。

新嘗祭供御料。

鹽二升。東鰒六斤十兩二分四銖。堅魚五斤。鮨鰒煮鹽年魚醬鮒各二升。甘鹽鯛四隻。海松海藻各六斤十兩二分四銖。干棗子二升。干栗子二升。搗栗子四升。生栗子一斗。椎子菱子各四升。橘子四蔭。盆四口。醬油各五升。

〔奈癸園〕癸字恐くは美の誤なるべし、和名抄、久世郡に奈美鄕あり。

〔五位神〕五位の神階にある神をいふ

〔各二升〕原作三升、京貞本により改む。

〔六位神〕六位の神階にある神をいふ 文德實錄に「仁壽元年正月甲戌朔庚子、詔天下諸神、不レ論ニ有位無位一、叙ニ正六位上一」と見えたり。

〔醬鮒〕古本、煮鹽大豆交鮨鮒に作る

〔子〕出雲本に據りて補へり。

右夜料。

米二斗。糯米二斗。糯粟子等糒各二升。糯稻十束。小麥四升。大豆二升二合。小豆一升六合。胡麻子二升八合。荏子三升。清酒濁酒各一斗。酢醬各五升。鹽二升。東鰒一斤十兩二分四銖。薄鰒十三斤五兩一分二銖。隱岐鰒二斤五兩一分二銖。煮堅魚螺各十三兩一分二銖。烏賊十兩二分四銖。腊五升。紫菜十兩二分四銖。海松海藻各六斤十兩二分四銖。干薑三兩。干羊蹄一籠。干棗二升。搗栗子六升。干栗子二升。生栗子二斗二升八合。干柿子二連。椎子四升。菱子蓮子各二升。橘子廿四蔭。梓橘子十枝。明櫃十合。陶大盤十九口。麻笥盤十二口。鉢廿六口。大躂七口。筥躂六口。酢躂十口。洗盤十二口。燵瓫・臼各八口。土熬堝卅口。大洗盤小洗盤各四口。大盤八口。火盞十二口。瓫十口。堝五十口〔大十二口。小卅八口。〕。柏[illegible]二俵〔一度惣請。宜二用七節一。〕

右解齋料、但雜器年中七節通用。〔次條准レ此。〕

米一斗。糯米二斗。粟子糒二升。小麥四升。胡麻子二升八合。荏子三升。鹽二升。東鰒六斤十兩二分四銖。堅魚五斤。海松六斤十兩二分四銖。海藻十兩四分八銖。鮨鰒煮鹽年魚醬鮒各二升。干羊蹄一籠。干棗干栗子各二升。搗栗子四升。生栗子一斗。干柿子二連。椎子菱子各四升。橘子四蔭。梓橘子十枚。明櫃十合。陶大盤十九口。麻笥盤十二口。鉢廿六口。大躂七口。筥躂六口。酢躂十口。洗盤十二口。燵瓫臼各八口。土熬堝卅口。大洗盤小洗盤各四口。大盤八口。火盞十二口。瓫十口。松明八束。炭四石。薪六百斤。供奉官人二人。膳部六人。各給二衫褌一。

右豐樂料。

鹽二升。東鰒六斤十兩二分四銖。堅魚五斤。海松海藻各六斤十兩二分四銖。鮨鰒醬鮒煮鹽年魚各二升。干羊蹄一籠。搗栗子四升。生栗子一斗。椎子四升。菱子二升。橘子四蔭。明櫃十合。陶大盤十九口。麻笥盤十二口。鉢廿六

〔羊蹄〕しのね、又たいぐさ、俗にぎしぎしといふ、和漢三才圖會に、「案羊蹄似二薺菁葉一狹長、夏起レ薹、小青三尖萼攅著二枝華一、杪如レ穗開二黄花一云々、能治二小瘡一、謂二羊蹄根一、爺之瘡藥一是也」とあり。

〔臼〕京本には此の上に上の字あり。

〔卅〕京、貞の二本卅に作る、非也。

〔七節〕正月四節即ち元日、白馬、踏歌、射禮と端午、重陽、豐明とをいふなるべし。

〔最勝王經齋會〕最勝王經を講じたる後に大極殿に於て僧を會して齋食を施すをいふ、稱德天皇の神護景雲二年正月後七日より七日間大極殿に於て行はれしより每年の例となれり。

〔盂蘭盆〕佛の弟子目連尊者其母の餓鬼道に墮ち倒懸の苦を受け居るを見て、之を救ふ法を佛に問ふ、佛每年七月十五日卽ち僧の安居の竟れる日に、百種の供物を三寶に供へて其威を請はゞ七世の父母を救ひ得べしと敎へしより起りたる法會也、我が國にては聖武天皇の天平五年七月盂蘭盆供を宮中に置き立てゝ常式とせり

口。大𧄍七口。宮𧄍六口、酢𧄍十口。洗盤十二口。臼八口。土熬堝卅口、大洗盤小洗盤各四口。大盤八口。火盞十二口、瓮十口、松明八束、炭四石、薪六十斤。

右同中宮豐樂料。

最勝王經齋會料。雜菜六石五斗四升五合。充大膳職、同會料理佛聖供養宮人二人 膳部四人。各給調布衫一領 別二丈一尺 調布四條、長各八尺。膳部四人料

七寺七月十五日盂蘭盆料、菜三石二斗、寺別四斗五升七合 菓子二石四斗三升、寺別三斗四升七合。

諸節供御料、中宮亦同。下皆准此。

正月三節。

米三斗。糯米四斗六升五合。糯稻十五束、糯糒三升。粟子糒六升、小麥一斗二升。萑子九升。胡麻子八升四合。大豆三升三合。小豆二升四合、清酒濁酒酢油各一斗五升、醬三斗、鹽六升。東鰒八斤四兩、隱岐鰒十一斤一兩、煮堅魚四斤一兩、螺四斤一兩。紫菜一斤、干薑一斤、干棗子三升 搗栗子九升、生栗子六斗四升二合、干柿子六連、椎子六升、菱子三升。橘子卅六蔭、梓橘子十五枝、擬橘子一斗、長橫五合、熬堝十八口、竹三圍、料理所炭十二石。薪一千八百斤。供奉膳部卅人、卅人御。十人中宮。各給紺布衫一領。通用三節。其下番膳部卅人。節別各限三箇日給食、人別日飯米二升、餘節准此。

右三節料依前件二度請受。節別分供。但射禮料用此內。又十八日賭射辨備肴物給王卿及近衞次將等。

蘿蔔味醬漬瓜糟漬瓜鹿宍猪宍押鮎煮鹽鮎瓷盤七口。高案一脚。長三尺五寸。廣一尺七寸。高四尺。

右從元日至于三日供之。

〔大角豆〕ささげをいふ。

〔蔣〕說文に「菰蔣」とあり、まこもをいふ。

〔物〕原本には荷の下に在り、今京本に據りて改む。

〔七日〕一本には此の下節の字を補へり。

〔子〕原本になし、今、出雲本によりて補へり。

糯糒糯米一石（日別一升九合）大角豆六斗（日別六合六勺）、苧大一斤、薪六十荷直。薪六十束料。

右從三月十日迄五月卅日供新。

五月五日節。

米一斗二升、糯米一斗七升、糯粉五束、糯米、粟糯各二升、大豆二升、小麥四升、胡麻子、荏子各四升、酒一斗、酢油各五升、醬一斗、鹽二升、烏賊一斤、東鰒一斤十両、長門鰒、阿波鰒、出雲鰒、隱岐鰒各二斤五両、鮭一隻、烏賊一斤五両、煮堅魚、螺各十二両、腊五升、紫菜五両、海藻二斤五両、干棗子一斗、生栗子一斗七升四合、筥二合、生絲二分四銖、青蔣十圍、竹一圍、炭四石、薪六十斤、供奉膳部雜人（廿人御、十人中宮）各給紺布衫一領。

七月七日。

米糯米各六升、糯糒六斗、麥糒一斗、索餅小麥各六升、小豆二升、酒二斗。酢油各五升、醬一斗、鹽一升。東鰒一斤十両、隱岐鰒一斤五両、烏賊螺各一斤五両、煮堅魚十二両、腊五升、紫菜四両、海藻一斤、竈一具、炭四石、薪六百斤。

九月九日節。

米二斗三升。糯粉五束、糯糒一斗、粟子糯二升。小麥胡麻子各四升。大豆二升、小豆一斗。荏子六升。酒一斗、酢油各五升、醬一斗。鹽二升、東鰒一斤十二両。隱岐鰒二斤五両、烏賊一斤五両、煮堅魚螺各十二両、押年魚、鳥腊各八両、腊五升、紫菜五両。海藻一斤五両、炭三石、薪六百斤。

供御月新。

糯米二斗四升七合五勺、粟三斗四升五合、糯糒一斗二升七合五勺、粟糒三升七合五勺、米三斗六升四合、秫米

「薑子」齊民要術に「薑菜似レ蒜生ニ水邊一」とあり、邦國にては、みの、又はみのごめと稱す、其色、裝に似たれば也、廢田などに生ずる草にて形麥に似て夏の初め實を結ぶ、飯として食ふ。

〔□〕考異には「已云ニ醤八斗三升一何再云ニ醤耳、豈以レ顆量レ之、因按恐蒟醤之蒟字脫、補仁和名、和名抄、醫心方等、蒟醤、和名太々比、下文漬秋菜中有ニ和太々ニ、備可レ證、然式中无ニ用ニ蒟醤字一者、因加一」と云へども今姑く疑を存して出雲本に從ふ。

一斗五升、黍子三斗、糒一斗四升二合五勺、小麥一石四斗一升、薑子七升五合、大小豆各二斗二升五合。胡麻子、荏子各一斗一升二合五勺、大角豆一斗三升五合、酒七斗五升、搗糟六斗七升五合、汁糟六斗、酢三斗七升七合五勺、胡麻油一斗五升、未醤一斗五升、醤八斗三升、滓醤七升五合、鹽一石一斗八升五合、脯九斤、鳥腊押年魚各十六斤八兩、東鰒卌五斤。薄鰒十一斤四兩、隱岐鰒卌五斤、醤鰒廿一斤、堅魚二百廿五斤、煮堅魚、熬海鼠各八斤四兩。蛸、烏賊各廿三斤四兩、鮭卌五隻。腊四斗五升、乞魚皮廿斤十三兩、堅魚煎、海鼠腸各四升五合、安房雜鰒廿三斤四兩、腸漬鰒二斗三升二合五勺、久惠脯十三斤八兩、雜鮨二斗三升二合五勺、鮨皮廿一斤十二兩、能登鯖一百卌二隻、紫菜十二兩、海松二斤四兩、滑海藻十三斤八兩。海藻廿二斤八兩、大凝菜四斤八兩、於期菜四斤四兩。鹿角菜十二斤、伊祇須九斤、芥子、豉各四升五合、□醤廿三顆。干棗子一斗四升二合五勺、搗栗子二斗九升三合五勺。干栗子七斗五升。生栗子二石二斗五升、干柹子廿九連。椎子四斗五升、呉桃子一斗五升、橘子卌五蔭、撥橘子、菱子各二斗二升五合。蓮子一斗五升七合五勺、帛七尺、拭ニ金銀朱漆御坏一料。燈油六升、盛所、進物所各三升。箸竹四百五十株、九十株山城國乙訓園、三百六十株相樂郡鹿鷺園。

右月料、小月減ニ卅分之一一。

炭一石四斗、盛所四斗、進物所并菓子所各五斗、松明三把、盛所、進物所菓子所各一把。薪一百廿斤、大炊所并煮雜物所各六十斤。造雜所料糯廿[illegible]一升。

右日料。

盛餅甜物菓子ニ柳筥各二合、各長一尺、廣九寸。麁筥廿一合、圓櫃廿四合、檳榔葉十枚。

右起ニ七月七日一盡ニ十月一供料。

荷葉。

黑漆臺盤二面。（潔齋所。）

金銀朱漆甆雜器。

右供御雜器從藏人所請。但尋常料、臺盤二面吧料油絁二丈五尺二寸、隨破損申官請受內藏寮。

朱漆椀五口。各徑三寸五分。（日料一尺一寸。）中宮東宮各三口。金銅界文臺五基。各高一尺。（日料八尺。）中宮東宮各三基。

右日供青節通用、並隨破請換。

荷襀三具。（御并中宮東宮日供料。）長襀四合。（盛汚盃盤瓷并諸節雜菜料。）中取一脚。（芼御菜料。）酒槽一口。（洗御菜料。）中荷水桶一合。（洗御菜水料。）布一端。

二丈芼洗御菜夫二人襷料。二丈二尺荷襀同合帶料。

右每年請用。但長襀酒槽三年一請。

凡擇菓子并雜穀雜料帛布四段。三年一請。

凡供雜物擇帛一十六條。（各長一尺九寸。廣五寸五分。）每年請內侍所、以內侍印印之。

造粉熟料。

白米四石。大角豆一石八斗。漉粉薄絹袋水篩各二口。（袋各長六尺。篩各一尺五寸。）干粉暴布帳一條。（長三丈。）吧水槌暴布一條。（長四尺。）學粉暴布袋二口。（各長六尺。）水槌席一口。酒槽一隻。由加二口。杓一柄。席二枚。簀二枚。薪日別卅斤。

右起三月一日盡八月卅日供之。

供奉雜菜。

日別一斗。蒜料三升。生瓜卅顆。（准三升。自五月迄八月所進。）茄子卅顆。（准二升。六七八九月。）莧四升。（五六七八月。）薊六把。（准六升。自二月迄九月。）蕗二把。（准二升。五六七八月。）蔓菁四把。（准四升。自正月迄十二月。）蕺立四把。（准四升。二三月。）薺四升。（正二十一十二月。）萵苣四把。（准二升。三四五月。）葵

〔文臺〕机の一種にて、書籍、硯筥等を載する臺也、新儀式に「置御硯筥等、二人舁ニ文臺ニ」と見ゆ、後世は二種に分れ、詩歌の會等に懷紙短冊等を置くのみに用ふるものを專ら文臺と稱し、形も小さくなれり。

〔芼〕爾雅釋言に、「芼搴也」とあり、註に「皆擇ニ菜也」と見えたり。

〔擇〕原本撰、雲本により改む。

〔粉〕原本篩に作る、京貝二本により改む。

〔莧〕「ヒユ」又た「ヒヨウ」といふ、田圃に自然に生じ又は培養するものあり、食用とす。

〔蒜〕和名抄に「蒜唐韻云、蒜、音算、和名比流、葷菜也楊氏漢語抄云、蒜顆、比流佐木、今按顆小頭也、音果、見二玉篇一」とあり。

〔波々古〕和漢三才圖會に「按鼠麴、俗云二母子草一、和名抄、以二菴蘆子一訓二波々古一者非也、今患二痰咳一人採二其花一、代二煙草一、其本二於三奇散方意一矣、又上巳日用レ之和レ粋、近世多用二艾粋一用二鼠麴一者少」とあり。

〔子〕出雲本に據りて補ふ。

〔斗〕恐らく衍字なるべし。

〔斛〕恐らくは稱の誤なるべし。

四把。准二二升一。五八九十月。羊蹄四把。准二一升一。四五八九十月。韮二把。准二二升一。自二二月一迄二九月一。葱二把。准二一升一。正四五九十十一十二月。蒜一百根。准二二升一。正二三四十一十二月青進。五六七八九月干進。生薑八房。准二二升一。六七八月。蜀椒二合。三四月稚葉。五六月子。蓼十把。准二二升一。自二四月一迄二九月一。蘭二把。准二一升一。自二正月一迄二十二月一。胡蔆二合。正二九十十一十二月。蘘荷根四把。准二四升一。十十一十二月。芹四把。准二四升一。自二正月一迄二六月一。水葱四把。准二四升一。五六七八月。芋茎二把。六七八九月。雜菓子五升。生大豆小豆各六把。並六七八九月。生大角豆六把。六七月。芋子四升。正九十十一十二月。波波古五升。二三月。熟瓜八顆。六七八月。栗子三升。七八九月。桃子四升。七八九月。柚子十顆。九十十一月。柿子二升。九十十一月。枇杷十房。五六月。李〔子〕二升。五六月。覆盆子二升。五月。笋四把。五六月。中宮准レ此。其東宮雜菜五升。蘸料二升。雜菓子三升。生大豆小豆大角豆各三把。波波古芋子各二升、栗子一升、桃子二升、柚子五顆。柿子李子各一升。枇杷十房。笋二把。

年中七節料生菜、節別一石五斗九合。本司五斗一升。中宮亦同。東宮二斗四升九合。

五月五日。山科園進二早瓜一捧一。若不レ實者獻二花根一。

年料雜菜八十四石四斗。

凡量二年中所レ供雜菜一、停「斗」用レ稱。其斗斛所レ准。本司與二受レ物所司一相共量定。

凡行幸料雜菜預備二供之一。

漬年料雜菜、

蕨二石。料鹽一斗。薺蒿一石五斗。料鹽六升。薊一石四斗。料鹽七升二合。芹十石。料鹽八斗。蕗二石五斗。料鹽一斗。米六升。蘇羅自六斗。料鹽二升四合。虎杖二斗、料鹽一升二合。多多良比賣花搗三斗。料鹽三升。龍葵味葅六斗。料鹽四斗八合。楡三升。瓜味漬一石。料鹽三斗。蒜房六斗。

「須々保利」な[illegible]に「新撰字鏡に葅の字をすゞほり、[illegible]の字をすゞほりとよめれば、古へ漬物の名なるべし」と見えたり。

〔龍葵〕「いぬほゝづき」の古名也

〔芡〕說文に「雞頭也」とあり、又た古今註に「葉似荷而大、葉上蹙皺如沸、實有芒刺、其中如米、可以度飢、卽今雞子也」とあり、我國にては「みづふぶき」又「みづぶきこ」といふ、「おにばす」ともいふ。

〔子〕京、貞の二本に據りて補へり。

〔二石〕注文に據りて補ふ。

析鹽五升。蒜英五斗、析鹽四升四合。韮搗四斗、析鹽四升。蔓菁黃菜五斗、析鹽三升、粟三升。

右漬春菜新。

瓜八石、析鹽四斗八升。糟漬瓜九斗、析鹽一斗九升八合、汁糟一斗九升八合、[illegible]二斗七升。醬漬瓜九斗、析鹽醬滓醬各一斗九升八合。糟漬冬瓜一石、析鹽二斗二升、汁糟四斗六升。醬漬冬瓜四斗、析鹽八升八合、醬滓醬末醬各一斗六升八合。楡葅二石、析鹽二斗四升、楡一斗五升。蔓根須須保利六石、析鹽六升、大豆一斗五升。蔓菁葅十石。析鹽八升、楡五升。菁根搗五斗、析鹽三升。菁根須須保利一石、析鹽六升、米五升。醬菁根二斗、析鹽五升四合、滓醬二斗五升。糟菁根五斗、析鹽九升、汁糟一斗五升。蔓菁切葅一石四斗、析鹽二升四合、楡二升。茄子五石、析鹽三斗。醬茄子六斗、析鹽一斗二升、汁糟味醬滓醬各一斗八升。糟茄子六斗。析鹽一斗二升。汁糟一斗八升。龍葵葅六斗。析鹽六升。楡二升四合。龍葵子漬三斗、析鹽九升。大蒜十石、析鹽七升。糟漬小蒜女一石、析鹽一斗二升。汁糟五斗。蘭葅二斗、析鹽二升四合、楡一升二合。大豆六斗、析鹽六升、汁糟一斗八升。山蘭二斗、析鹽四升。蓼葅四斗、析鹽四升。楡一升六合。芡一石五斗。析鹽一斗五升。米七升五合。蘘荷六斗、析鹽六升、汁糟一斗四升。[illegible]二斗、析鹽六升。汁糟一斗五升。[illegible]搗二斗、析鹽四升五合。和太太備二斗、析鹽二升。香附一斗。析鹽二升二合。桃子二石、析鹽一斗二升。柿子五升。析鹽二升。梨子六斗、析鹽三升六合。蜀椒子一石。析鹽二斗四升。荏裹二石、六斗、析瓜九斗、冬瓜七斗、茄子六斗。菁根四斗。鹽一斗二升、醬末醬滓醬各一石。

右漬秋菜新。

生薑四石五斗、析鹽一石四斗二升、汁糟四石二斗。柏卅五把、叱漬口析。匏一柄。析漉汁。擇菜女孺單五十人、女丁十二人半給間食。人別日八合。

右年新請內侍司漬造。至于明年三月更易鹽糟。數隨殘多少。假如殘菜一石、析鹽一斗、糟五斗之類。始當年九月迄明年七月

〔楡皮〕和漢三才圖會に「本綱、有數十種、莢楡、白楡皆大楡也云々、今人采其白皮濕搗、如糊用粘瓦石、極有力、或以石爲碓臂、用此膠之」と見えたり。

〔布〕此の上恐らくは商の字脫漏せしなるべし。

〔伊具比〕また「うぐひ」といふ、鯇（[illegible]）に似たる淡水魚也、體に淡黑と紅色との三條ありて、下の鰭赤きより、赤はらともいひ、また「くき」とも稱す、又た石斑魚に作る。

〔玉〕恐らくは串の誤りなるべし。

供之。

楡皮一千枚。（別長一尺五寸、廣四寸。）搗得粉一石、（枚別二合。）

右楡皮年中雜御菜并羮等料、

山城國、（山蘭二斗、大和國。）乾蕨四擔。（已上年料所進。）

造雜味鹽魚廿石六斗、（和泉國網曳厨所進。）料商布十六段、信濃麻百斤、鹽一石、

造雜魚鮨十石味醬魚六斗。（河內國江厨所進。）料、布十六段、信濃麻百斤、白米一石、鹽一石三斗。

造醬鮒鮨鮒各十石、味鹽鮒一石四斗。（近江國筑摩厨所進。）料、缶卅口、商布十八段、信濃麻一百斤、酒五斗、米一石、鹽八石、

醬大豆二石五斗、

諸國貢進御贄、（中宮進此。）

旬料、

大和國吉野御厨所進、從九月至明年四月、年魚鮨火干、從四月至八月。月別上下旬各二擔。但蜷並伊具比魚煮凝等隨得加進。志摩國御厨鮮鰒螺起九月盡明年三月。月別上下旬各二擔。味漬腸漬蒸鰒玉貫御取夏鰒等月別惣五擔。雜魚十二擔、（重以充傜丁運進。）若狹國雜魚上下旬各七擔、（司受取課丁百十六人、以其調物交易鮮物、傜丁運進。）紀伊國雜魚上中下旬各三擔半。（司受取課丁七十四人、以其調物交易鮮物、傜丁運進。）淡路國雜魚二擔半。（一旬料。）

節料、

山城大和河內和泉攝津近江。（正月元日七日十六日、五月五日、七月七日、九月九日、十一月新嘗會節、別各七荷、並以正税交易、令傜丁運進。）志摩國（正月元日、新嘗會二節各八擔、正月七日

〔網代〕あじろ、あみしろの略、川瀬に數多の竹木を編み列ね、網に代へて、魚を捕ふるものをいふ一に滬に作る。

〔保夜〕本朝食鑑に「狀、如言海鼠之老甚而一個肉色紫赤、外雖有如纖毫之殼者而粘、若脫去、內味類海鼠而硬云々」とあり。

〔汁〕出雲本に據りて補ふ。

〔五日〕原本になし、京、貞の二本に據りて補へり。

〔作木器〕中務式には作手十七人と見ゆ。

〔卅〕上文正月三節の條に據れば恐らく卌なるべき歟。

腹赤魚筑後肥後兩國所進出。其數隨得。已上別貢。

右諸國所貢。並依前件。仍收贄殿擬供御。但腹赤魚收司家。

山城國江御贄者。國司率預人漁捕進之。

山城國近江國氷魚網代各一處。其氷魚始九月迄十二月卅日貢之。

參河國保夜一斛。

土佐國醬漬小鰒四缶。缶別納三斗。每年交易進上。

凡伊豆國貢進堅魚煎汁一斛四斗六升。以中男作物內進之。

凡諸國貢進御厨御贄結番者。和泉國子巳。紀伊國丑午酉。淡路國寅未戌。近江國卯。若狹國辰申亥。每當件日依次貢進。預計行程莫致闕怠。

山城國所進供御薪青榊每日一荷。五十把。始五月五日終十一月四日。丹波國干榊每日一荷。始十一月五日終五月四日。中宮准此。

木盤一百廿口。新理所雜用新。木工寮每年所進。

作木器二人。一人贄殿。一人司家。作土器九人。月別一人所造。所積卅合。土器七百八十口。大坏中坏淮坏平坏垸形片盤瓷堝等類。作土器人充商布九段料。壇器鍬九口。納舊請新。粮人別日黑米二升。鹽二勺。時服夏各絁四丈五尺。冬絁一疋三丈。綿四屯。膳部卅人粮。白米人別日一升。鹽一勺。仕丁十八人粮。黑米人別日二升。鹽二勺。膳部卅人給衣服。

仕丁十七人。紺布衫一領。別二丈。調布袴一腰。別七尺。調布帶一條。別長八尺四寸。中割。三年一請。

凡山城河內攝津和泉等國。江網曳御厨所請徭丁。江卅人。網曳五十人。

營小豆一段。種子五升五合。惣單功十三人半。耕地一遍把犁一人。駕牛一人。牛一頭。斫理一人。畦上作二人。五月。下子半人。芸二遍四人。採功二人。打功二人。

營大角豆一段。種子八升。惣單功十三人。耕地一遍把犁一人。駕牛一人。牛一頭。斫理一人。畦上作二人。殖功二人。芸一遍二人。採功三人。

營蔓菁一段。種子八合。惣單功卅二人半。耕地五遍把犁「十」二人半。駕牛二人半。牛二頭半。斫理平和一人。糞「十一」百廿擔。擔別准重六斤。運功廿人。人別日六度。從左右馬寮運北園。下皆准此。下子半人。七八月。採功六人。

營蒜一段。種子三石。惣單功九十三人。耕地七遍把犁三人半。駕牛三人半。牛三頭半。斫理平和二人。分畦三人。糞二百十擔。運功卅五人。殖功六人。八月。芸三遍第一遍十人。第二遍八人。第三遍七人。採功十五人。

營韮一段。種子五石。惣單功七十五人。耕地三遍把犁二人半。駕牛一人半。牛一頭半。斫理平和一人。畦上作二人。糞二百十擔。運功卅五人。擇苗子功六人。殖功六人。九月。芸三遍廿一人。度別七人。

營葱一段。種子四升。苗一千二百把。惣單功八十七人半。耕地三遍把犁一人半。駕牛一人半。牛一頭半。斫理平和一人。畦上作二人。糞二百十擔。運功卅五人。下子半人。八月。殖功廿人。二月。芸三遍第一遍十人。第二遍九人。第三遍七人。

營薑一段。種子四石。惣單功七十八人。耕地五遍把犁二人半。駕牛二人半。牛二頭半。斫理平和二人。糞二百十擔。運功卅五人。分畦四人。殖功四人。四月。芸三遍第一遍九人。第二遍七人。第三遍六人。採擇功六人。

營蕗一段。種子二石。惣單功卅四人。耕地一遍把犁一人。駕牛一人。牛一頭。斫理平和二人。糞百廿擔。運功廿人。殖功二人。九月。芸二遍第一遍二人。三月。第二遍二人。六月。苅功四人。三年一殖。

〔芸〕除草なりといふ。論語に「植其杖而芸」とありて、何晏の註に「除草曰芸」と見えたり。耘に通じ用ふ。

〔十〕京、貞二本にはなし、恐らくは衍字なるべし。

〔十一〕京、貞の二本になし、衍字なるべし。

〔葱〕ねぎといふ、玉篇に「葱、俗作葱」とあり。

〔半〕下文によりて補へり。

〔薊〕玉篇に「同∨薊」と見ゆ、あざみをいふ。

〔廿〕京、貞の二本に據りて補へり。

〔上〕一本には此の下に旬の字を補へり。

〔下〕一本にはこの下に旬を補へり。

〔把犂〕手に持つ「からすき」也。

〔蘿菔〕今の所謂大根をいふ。

營薊一段、種子三石五斗、惣單功卌四人、耕地二遍把犂一人、駈牛一人、牛一頭。新理平和二人、糞百廿擔、運功廿人、殖功二人、芸二遍第一遍二人、（二月）第二遍一人（七月）、刈功四人、擇功八人、二年一度還殖、

營早瓜一段、種子四合五勺、惣單功卌六人、耕地二遍把犂一人、駈牛一人、牛一頭、新理平和一人、堀畦溝一人、糞七十五擔、運功十二人半、位三百六十座、蹈位一人、下子半人（二月）、拂虫十二人、牽井芸三遍第一遍五人・上（三月）、第二遍四人、（三月下）第三遍三人、（四月）

營晩瓜一段、種子四合五勺、惣單功卌五人半、耕地二遍把犂一人、駈牛一人、牛一頭、新理平和三人、堀畦溝三人、位三百六十座、蹈位一人、下子半人、葦一人。（三月度）、芸三遍第一遍十人。（三月）、第二遍八人、（四月）。第三遍七人。（五月）。

營茄一段、種子二升、惣單功卌一人。耕地二遍把犂一人。駈牛一人。牛一頭、畦新理平和二人、下子半人（三月）。採苗一人半、殖功十人（四月）、芸二遍第一遍二人（五月）、第二遍三人、（六月）、芸三遍十六人、（別度六人）。

營蘿菔一段、種子三升、惣單功十八人半、耕地三遍把犂一人半。駈牛一人半、牛一頭半、新理平和一人、下子半人、（六月）、採功十四人。

營萵苣一段、種子三升、苗一千五百把、惣單功卌九人半、耕地二遍把犂一人、駈牛一人、牛一頭、新理平和二人、畦上作二人、糞百卌二擔、運功廿二人、下子半人（八月）、採苗功二人、殖功六人（九月）、芸一遍三人、

營葵一段、種子二升、惣單功卌一人半、耕地二遍把犂一人、駈牛一人、牛一頭、新理平和二人、畦上作二人、糞百卌二擔。運功廿二人。下子半人。（八月）。芸一遍三人。

營胡荽一段、種子二斗五升、物單功廿八人。耕地二遍把犂一人。駈牛一人、牛一頭、新理平和二人、畦上作二人、糞百卌二擔、運功廿二人、下子半人。（三月、八月）。

營蕓薹一段。種子一升。惣單功廿八人。耕地二遍把犂一人、馭牛一人、牛一頭、耕理平和二人、畦上作二人、糞百卌二擔。運功廿二人。下子半人。三月。八月。

營蘇良自一段。種子三石五斗。惣單功卅五人。耕地二遍把犂一人馭牛一人牛一頭。耕理平和二人。畦上作二人。糞百卌二擔。運功廿二人。殖功三人、九月。芸一遍二人、刈功二人。

營蘘荷一段。種子三石。惣單功卅五人。耕地二遍把犂一人、馭牛一人。牛一頭。耕理平和二人、畦上作二人。九月。糞百卌二擔。運功廿二人。殖功三人。芸二人。採功二人。

營芋一段。種子二石。惣單功卅五人。耕地二遍把犂一人、馭牛一人。牛一頭。畦上作耕理功四人。殖功三人。三月。壅功六人、芸三遍六人。五六七月。度別二人。掘功四人、擇功十人。

營葱一段。苗廿圍。惣單功五十三人。耕地二遍把犂一人、馭牛一人、牛一頭、耕理平和一人、糞百廿擔。運單功廿人。殖功十五人。五月。播殖三度十五人。度別五人。採功十五人。三度。

營芹一段。苗五石。惣單功卌四人。耕地二遍把犂一人、馭牛一人、牛一頭、耕理平和一人。糞百廿擔。運單功廿人。殖功六人。二月。採苗功十人。刈功五人。

延喜式卷第三十九

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

〔蕓薹〕あぶらなを云ふ。古名「なち」蕓薹油菜とも書す、實より油を搾り取る。

〔蘇良自〕又た藁本に作る、莖、葉、根、味、ほゞ川芎に似て、葉稍細し、夏の交、白花を開き秋實を結ぶ、根は紫なりといふ、又た「ささはそらし」ともいふ。

〔蘘荷〕めうが也、茗荷とも書す。

〔單功〕功數を計算すれば六十八人となる、或は「播殖三度十五人、度別五人」が殖功の注ならんか。

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔酒彌豆男神〕酒部公の遠祖なる麻呂を祀れる也、仁德天皇の御代、韓人兄曾々保利、弟曾々保利、酒を造る才あるを以て酒を作らしめ、麻呂及び山鹿比咩に酒看都子、酒看都女と云ふ名を賜ひ、其事を掌らしむ、之を造酒司に祭るは此の故也、清和天皇の貞觀元年從五位下を賜ひ、三年從五位上を加ふ、後世終に廢す。

〔大邑刀自〕大邑刀自、小邑刀自、次邑刀自の三壺が三條帝の時酒殿倒れ破碎せる事、續古事談に見えたり。

延喜式卷第四十 造酒 主水 采女

造酒司

祭神九座。春秋並同。

二座 酒彌豆男神・酒彌豆女神 並從五位上。

座別五色薄絁各五寸。倭文五寸。木綿麻各大八兩。紫絁二尺五寸。蓋表一尺二寸五分。衣折一尺二寸五分。緋絁二尺五寸。蓋裏一尺二寸五分。衣折一尺二寸五分。帛二尺二寸五分。衣裏并袴折。雜腊十兩。雜鮨三斤。堅魚四斤八兩。雜鰒海藻相盛各三斤。鹽五合。糯米一斗五升。米一斗。酒三斗。大豆小豆各二升。祝史析膚布二段。鍬二口。

四座 竈神

座別五色薄絁各一尺三寸。木綿一兩。麻一兩。猪宍雜腊各二斤八兩。東鰒六兩。堅魚海藻各五兩。鹽一合。米酒各一升。稻一束。祝史析膚布一段。鍬四口。

三座 從五位上大邑刀自。從五位下小邑刀自。次邑刀自

座別五色絁各五寸。倭文五寸。木綿麻各大八兩。紫絁二尺五寸。一尺二寸五分蓋表析。一尺二寸五分衣析。緋絁二尺五寸。一尺二寸五分蓋裏析。一尺二寸五分衣析。帛二尺二寸五分。衣裏并袴析。雜盛一籠。堅魚四斤八兩。海藻三斤。雜腊十兩。雜鮨二斤。鹽五合。糯米五升。白米一斗。大豆小豆各一升。酒一斗五升。祝史析膚布一段。鍬二口。

年新釀酒數。

〔省營田〕省に於て營作せしむる田をいふ。

〔國營田〕國衙に於て營作せしむる田をいふ。

〔醴酒〕一夜酒也、漢書の注に、一宿而熟と見えたり、今俗にいふ所の甘酒也、日中行事に六月一日より七月晦日まで、一夜ざけを供すと見えたり。

〔九〕京、貞の二本には六に作れり。

御酒料一百十二石九斗二升六合九勺七撮、山城國六十石八斗七升二合四勺七撮、大和國廿五石六斗二升二合四勺、河內國廿六石六斗二升二合五勺、和泉國廿石一斗二升五合、攝津國七十九石二斗二升二合五勺、醴、白、黑等酒、就中割二十石一付二東酒殿一、但山城攝津國省營田稻、大和河內兩國正稅稻、和泉國三石一斗二升五合國營田稻、十七石正稅稻。

御井酒料十九石五斗。

擣糟料卅八石。

釀酒料三石六斗。

三種糟料八斗、五斗糟料、三斗三種料各一斗料。糯米五斗、粱米五斗、小麥二斗。

右擣糟以上三種料、二百七十五石一斗、白米就中糯十五石、畿內諸國所進、起二七月下旬一限二九月下旬一。司家撿納隨レ事出充、若有二未進一申レ省移二式部省一不レ預二國司於新嘗會饗一、但醴酒并三種料米小麥別請二大炊寮一。

酒醅料八百八十八石三斗七升七合、

內膳司供御唐菓子料甘糟料七斛六斗。

雜給酒料六百十五石七斗七升七合。

造レ醅料六十五斛。

右以二庸米一受二民部省一。

造二御酒糟一法、

酒八斗料、米一石。糵四斗、水九斗、

御井酒四斗料。米一石、糵四斗、水六斗。

醴酒九升料、米四升、糵二升、酒三升、

〔糵〕玉篇に「麴也」とあり、かうぢをいふ。

〔萌〕籾を十分に水に浸して、筵に捲きて芽をもやしたるものをいふ。

〔笭〕正韻に「取魚竹器」とあれども、茲にては、酒を汲み出すために酒槽に入るゝ、竹製の「ざる」の一種をいふなるべし。

頓酒各五十、

一種料、米五斗、糵一斗、小麥萌一斗、酒五斗。

一種料。糯米五斗。糵一斗。小麥萌一斗。酒五斗。

一種料。精粱米五斗。糵一斗。小麥萌一斗、酒五斗。

擣糟一石料。米一石。糵七斗。水一石七斗。

造雜給酒及酢法。

頓酒八斗料、米一石、糵四斗、水九斗。

熟酒一石四斗料米一石、糵四斗、水一石一斗七升。

酢一石料、米六斗九升、糵四斗一升、水一石二斗、

汁糟一斛、粉酒一石料、並准酒八斗法。

糵一石三斗料、米一石、白米加糵一斗。糵米一石料、薪六十斤。

右依前件。其酒起十月、酢起六月、各始釀造、純句當、並限四度、其頓酒糟、預前儲備、正月三節供之。醴酒者米四升、糵二升。酒三升。和合釀造得醴九升、以此爲率、日造一度。起六月一日盡七月卅日、供日六升、中宮准之。御井酒起七月下旬釀造。八月一日始供。日五升、

造酒雜器。

中取案八脚。木臼一腰、杵二枚。箕廿枚、槽六隻。雨損請換。簀一百枚、三年一請。槽十口、水甕十口、水麻笥廿口、小麻笥廿口、笭百口。匏十口、已上供本酒料。籠料絹五尺、匜二口、帊羃布二條。別二尺。麻笥盤一口、洗盤一口、明櫃一合、韓竈

右九月二日省并神祇官赴集司家卜定。酒部官人仕丁各二人。（若當子日聽省處分。其人在者。先卜官人、後及酒部。）舂稻仕女四人、即祭其殿地神所須五色薄絁各一尺、倭文一尺、木綿一斤五兩、庸布一丈四尺、鍬一口、東鰒十兩、堅魚一斤五兩、腊二斤、鹽二合、海藻一斤五兩、米酒各二升、祭訖木工寮造酒殿一宇、臼殿一宇。（並二間）麴室一宇、（草葺）搆以黑木、掃部寮以苫八枚葺二殿。（別當四枚）十月上旬擇吉日始釀。十日内畢。酒部二人官人各給潔衣。料絁一疋、綿二屯。仕丁二人各庸布一段、調布頭巾六條。（別二尺）褌六條。（別六尺）釀酒日給間食。（舂稻女丁亦同）其造酒者米一石、（合女丁）舂官田稻。以二斗八升六合爲糵。七斗一升四合爲飯、合水五斗、各等分爲二甕、甕得酒一斗七升八合五勺。熟後以久佐木灰三升（採御生氣方木）和合一甕、號稱黑貴。其一甕不和、是稱白貴。（其踐祚大嘗會造酒部二人於齋場院以預其事）又酒一石均入二缶。並齋會及井解齋日供之。畢後二殿給神祇官副已上中臣、一室給宮主。

新嘗會直相（ナホラヒ）日雜器。

瓫四口。（盛參議已上白貴黑貴酒。并煖酒料。）炭一斛。（五位已上煖酒料受直買用）酒坏五合。備臺。筥坏九口、加盤、瓫四口、匏四柄、（已上二位女一人三位女四人料）筥坏百十九口。加盤、瓫九口、匏廿五柄、（已上有位女王卅五人同命婦五十五人料）

踐祚大嘗祭供神料、

等呂須伎十六口、（日別酒五升）都婆波卅二口、（十六口別酒一斗、十六口五升。）各以八口置於一案。肥絁卅八條。（十六條別二尺。十六條一尺八寸、十六條一尺四寸、）陶鉢十六口、絁篩十條。（別一尺）縫篩絲二分、木綿二斤八兩、（着篩并供物料）麻六斤十兩、（一分結周中取案高橋料）浮麟鰕甘依、韓櫃二合、中取案六脚。小楷十二擔、（中取案高橋料）檜葉、眞木葉各五擔、弓弦葉、寄生各十擔、菖蒲、葛、日陰山孫組二擔、山橘子、薹等蕢草各二擔、已上九種、畿内所進。簀五枚、（中取案下敷料）折薦五枚（而已理供神物人等座料）

右九月中旬木工寮於司家内搆造黑木舍一宇。（長四丈八尺、廣二丈）十月上旬掃部寮以苫八枚葺其上、以薦六

「酒部」さかべと訓ず、上代酒を釀す事を掌る、初め酒部君ありて、酒部を率ゐて釀酒を掌りしが大寶令後酒造司に屬せり。

「久佐木灰」くさぎ即ち常山の根を焼きたる灰をいふ、常山は和漢三才圖會に「本綱常山生山谷間、莖圓有節、高者不過三四尺、葉似茗而狹長、兩々相當、二月生白花青蕚、五月結實、青圓二子爲房」云々、根似荊根黃色而細實、黃者爲雞骨常山云々」と見えたり。

「直相」又た直會直禮に作る、神祭の後に行ふ解齋の式をいふ。後世は其饗膳に神饌の下物を以て充てたり

〔三津野柏〕日本紀には御綱葉とあり又た御角ともいふ柏葉に三岐の鋒ありて尖れる故に、三角の義をとりて名けたるもの歟、袖中抄には、三葉柏の義と爲せり。

〔四〕古寫本及び注に據りて補へり。

〔長女柏〕「ながめかしは」と訓ず、柏の一種ならんか。

〔卄〕原本手に作る京貞二本により改む。

〔缶〕京貞二本鈎に作る。

枚。部作其下。十一月中戌日始料理供神物。丑日畢。卯日申時執供神物。入自朝堂院東中門。陳於昌福堂內以南。(神部等設之。)辰日平旦撤。并北野齋地。先是卯日平明小齋官人一人。史生一人。酒部二人。交名進省。卽令卜食。卽赴入悠紀神殿之盛所受取干柏十把。刀子二枚。小坏四口。匜四口。竹二株。白筥二合。白木別脚案二脚。木綿一兩。手巾料調布一丈二尺。(人別二尺。)食薦一枚。長疊一枚。各依職掌備。以亥一刻隨神祇官宮主與齋司共引入神殿供奉。訖退出。卽雜物返送神祇官。又丑刻入主基神殿之盛所行事並如悠紀。畢各退本司。

供奉料。

酒一石二斗。(日別四斗。)三津野柏廿[四]把。(日八把。)長女柏卌八把。(日十六把。)𤭖四口。坩二口。酒盞八口。高盤八口。匜八口。小坏八口。片坏八口。乳盆二口。擇盤一口。麻笥盤一口。陶臼一口。陶鉢一口。水𤭖一口。明櫃二合。柳筥一合。(長二尺。廣一尺。深四寸。)別脚案六脚。(各長三尺一寸。廣一尺七寸五分。厚一寸二分。高一尺八寸五分。)三種糟料。白米一石。糯米一石。粱米一石。小麥六斗。醴酒二石一斗。𤭖三口。韓櫃二合。食薦四枚。明櫃二合。韓竈二具。絹平篩一條。(長五尺。)小坂平絁篩一條。(長五尺。)𤭖把調布單三條。(別二尺。)調布褌十三條。(別八尺。)青揩調布衫𠦃領。(四領著赤紐。小齋人四人料。卌六領大忌人卌六人料。)

右依例設備。卽悠紀主基二國御酒各日二缶。(盛二國進壺。)二種酒各日二缶。(盛本司器。)前一日酒案雜器等受收內藏盛所。與司供物共奉。其小齋大齋人充青摺調布衫。(人數見宮內式。)

東宮料。

酒六斗。(日別二斗。)三津野柏廿四把。(日八把。)長女柏卌八把。(日十六把。)

雜給料。

缶卌口。都婆波廿五口。𤭖廿五口。還盖五口。短女坏十口。土盞二百口。坏三百口。乳盆五口。坩九口。別脚案四

〔宇岐筥〕酒盞を入るゝ筥也、宇岐とは酒盞をいふ、筑後風土記に「昔景行天皇巡國云々、天皇勅曰、惜乎朕之酒盞（俗語云、酒盞爲宇枳）因曰宇枳波夜那云々」と見ゆ。

〔新〕古本に據りて補へり、而して古本には此の下に「口」の字あり。

〔釀〕古寫本に據りて補ふ、出雲本亦同じ。

〔二〕諸本皆三に作る、今出雲本の意に從ひて改めたり

脚、炭三石、已上視王已下所。缶六十口。酒盞六百口、匏百柄、輿籠十口。已上六位已下雜色人雜給料。中取案四脚。宇岐筥二十合、納匜小斉坏一枚。一合。納三津野柏一料。陶匜六十口、小坏六十口、調布一丈。覆宇岐筥一料。別一丈、筐竹卅株作匜口及篩柄一料。殿醸酒十缶。白黒酒各十缶。二國所進。調布褌十條、各長八尺。縣釀酒卌八石。畿内所進。

右豐樂日料。其給酒者、三位已上日二升、五位已上一升。並醸酒。六位已下并歌儛人等六合。並縣醸酒。

園韓神祭料。春冬同。

酒二石。絁三尺。篩三柄料。細布二尺。酒臺二具折敷料。調布二丈六尺。一丈四尺缶七口覆料。二丈二尺机二前覆并折敷料。別二尺。坩二合。缶七口。酒坏二合。備臺。窪坏卅口。盤卅口。瓮四口。八足机二前。一前五位已上料。一前命婦料。匏七柄。黒葛三斤。缶絡結料。

平野神祭料。夏冬同。

酒四石。絁篩五條。別一尺。案二脚。覆敷料暴布四條。覆別六尺。敷別五尺。缶十八口。帊暴布十八條。別二尺。酒盞六合。加臺。暴布三條。別一尺。敷三酒臺料。坩二口。窪坏九十口。盤五十口。匏十五柄。黒葛六斤。中取案四脚。別脚案二脚。瓮四口。

右案缶坩等隨損請受。餘條准此。

松尾神祭料。

酒二斛五斗。曝布三丈八尺。貲布三尺。篩絹五尺。八足机二前。缶八口。匏十五柄。酒臺二具。坩二合。窪坏盤各五十口。黒葛二斤。

賀茂神祭料。

酒一石二斗。絁四尺。篩料。暴布三丈二尺。二尺酒臺二具折敷料。八尺缶四口覆料。二丈二尺机二前覆并折敷料。缶四口。坩二合。酒臺二具。窪坏卅口。盤廿五口。匏四柄。八足机二前。

諸節日酒四斗。擣糟三升。正月三節以二三種御糟一代二擣糟一播磨柏廿把、五月七月九月・一把、笋竹六株、䤄酒五升、五月七月九月十一月各一斗。濁酒五升、十一月一斗五月七月「一斗」九月不レ供。酢五升五月九月各一升。

東宮。

日酒六升。諸節別二斗、已上付二主酒監一。汁糟五合、䤄酒四合、酢四合。

右䤄、斯酒汁糟並付二彼宮進物所一。

伊勢齋內親王新。向二伊勢一後不レ行。

日酒八升、二斗、諸節別。酢五合、汁糟五合。

賀茂齋內親王新。

日酒八升、二斗、諸節別。酢五合。

諸節會新酒

正月元日一斛八斗。七日三石四斗。十六日一斛三斗。十七日一斛四斗。五月五日一斛八斗。相撲節一斛八斗。九月九日一斛六斗。十一月新嘗會四斗。若可レ過二此限一聽二辨官處分一。

供二奉神事一諸司給酒法

親王已下三位已上二升。四位五位一升。六位已下五合。五位已上命婦一升。六位已下女孺并御巫五合。

凡縣釀酒。山城國四斛二斗一斤五合。大和河內攝津等國各四斛。並十一月廿日以前進訖。給二諸王已下國栖已上一祈。

諸節供御酒器。中宮准レ此。

銀盞一合。金銅酒海一合。金銅杓一柄。加二銀盞一金銅胡𨍏一口。白銅風爐一具。白銅銚子一口。朱漆臺盤二面。鳥形頭

〔月〕この下恐らくは各の字脫漏なるべし。

〔濁酒〕和名抄に「醅、醨字附、說文云、醅音與レ盃同、漢語抄云、加須古女、俗云糟交、醇未レ醨也、唐韻云、醨、下酒也」と見えたり。

〔二斗〕衍字なるべし。

〔廿日〕案ずるに、十月二十日か、或は十一月十日の誤なるべし、祭日は十一月中卯日也、民部式には月日を書かず。

〔白銅風爐〕白銅にて作りたる風爐をいふ、風爐とは茶爐也、茶を煎るに用ふる火鉢の一種也。

〔盤〕頁、京二本に據りて補ふ、

子八枚。朱漆大盤一枚。朱漆大盤一枚。朱漆韓櫃一合。炭取桶一口。

右供奉御器依前件。

諸節雜給酒器。

四尺臺盤三面。七月加一面。朱漆酒海三口。七月加一口。朱漆椀四口。加盤五月析。盞卌枚。五月減十枚。七月加十枚。八寸盤卌口。五月減十口。七月加十口。金銀杓二柄。七月加耶子一柄。白銅提壺二口。五月減一口。七月加一口。白銅匜子六合。五月減二合。七月加二合。平文胡䤬六口。五月減二口。並居菓子臺。短榻二脚。餘節准此。大酒罇二合。五月九月各減二合。中酒罇四口。五月九月各減二合。並居漆大案。餘節准此。鎗子二口。五月七月九月不設。鐵火爐二口。正月十一月析。並居高榻。八尺毯一領。五月九月不設。布畫毯代一領。納炭畫櫃三合。正月十一月析。餘節不設。

右左位已上新。其日正給。客盞（コウセン）稱食日客盞亦同。

四尺臺盤一面。朱漆酒海一口。盞二枚。正月四節各加一口。五寸盤四枚。銀盞一枚。加盤。瓷盞二口。金銀胡䤬一口。提壺一口。四尺毯四領。風爐一具。正月四節十一月節。餘節不設。

右内命婦已上新。並請內藏寮。事畢返上。

供奉年新。中宮准此。

缶二口。覆二條。長各七尺。三幅。新兩面油絁各二丈［一尺］。並表。東絁四丈二尺。裏。新絲一兩。結綱一條。長一丈四尺。新緋東絁七尺割二條。調布七尺割二條。負䤬二口。受各二升。儲酒析。納平䤬二口。受各二升。納御糟坩二口。結綱二條。長各七尺。新調布七尺割二條。筥形三具。二具二缶析。一具䤬析。檜杋三枚。二枚各一丈一尺。一枚長八尺。臺盤一面。朝夕析。覆三條。一條朝夕析。二條諸節析。新甲纈油絁一疋三尺。別二丈一尺。絲一分。絁大篩十二條。別五尺。絁小篩廿四條。別一尺。縫篩絲二分。［敷］納盞筥綦布單十二條。別二尺。布篩十二條。

〔幍甲〕原本幍帀に作る、京、貞の二本に據りて改む、卽ち帽額の假字なり。

〔一尺〕貞、京の二本に據りて補ふ。

〔枚〕此の下當に長の字あるべき也。

〔長〕京、貞の二本に據りて今之れを補ふ。

〔甲纈〕からけち、染模樣の名、纐纈の假借字也。

〔敷〕貞、京の二本に據りて補へり。

〔匜〕半挿也、はにざふ、又はんざふとも云ふ、柄有り半ば其の内に挿し半ば、其の外にあり、故に其の名ありといふ、水を盛りて物に注ぐ器、柄に水を通す道あり、和名抄に「匜、波邇佐布、俗用半挿」とあり。

〔明櫃〕類聚名物考に「明櫃、あかひつとよむべき歟、素木櫃なり」と見えたり。

〔端〕原本は段に作る、今出雲本に從つて改めたり。

別五尺。筥一合。韓櫃三合。陶𨋳一合。乳盆三合。二口朝夕料。一口節料。小𤭯四口。坩二合。陶鉢一口。洗盤一口。𤭯一口。上片坏一百八十口。明櫃二合。食薦二枚。中取案二脚。刀子一枚。調布澤各襷十一條。襷別四尺、三人酒部四人取甕四人料。襷別六尺、垂官人其造醴酒部二人潔衣各絁三丈。調布七尺。袴料。官人三人各絁二丈五尺。調布頭巾一條。別三尺。仕丁一人調布二丈二尺。頭巾一條。三尺。

右料物依前件。但臺盤等隨損請替。

諸節裝束。

正月三節酒部八人紺調布衫八領。人別二丈。御并中宮各四領。五月節亦同。但十一月新嘗會襖布襷二條。別八尺、酒部一人料。

供奉諸節并行幸仕丁十五人布衫十五領。料紺布六端。別一丈六尺八寸。袴十五腰。料布二端六尺。別六尺。布帶十五條。料布一端一丈八尺。別四尺。縫衣袴料絲一兩。並隔三年一申省請受。

雜給年料。

絹篩十條。別一尺。縫篩料絲一分。輿籠五脚。缶十六口。坩五合。小𨋳十五口。土片盤卅口。土盞七百廿口。別脚案六脚。四脚三位已上節料。二脚侍從料。食薦廿枚。

正月十五日收薪所雜器。

四尺臺盤一脚。朱漆酒海一口。盞十枚。杓二柄。鐺子一口。中酒罇一合。

同日撿納御薪所。五位四人。六位已下官人廿七人。

酒一斗二升一合。五位別一升。六位已下三合。炭五斗。煖酒料。請直用。本司六位已下官人一人、參省給奏盞。

正月最勝王經齋會佛聖僧沙彌料。酢一斗三升七合二勺。

七月十五日盂蘭盆料、醴二斗五升二合、糟二斗九升一合、十四日進ニ大膳職ニ

嘉祥寺春冬地藏悔過料、醴各四升、

延曆寺試年分度者僧幷使等二度料、醴一斗二升、

同寺西塔院試同度者僧幷使等料、醴三升、

海印寺試年分度者僧幷使等料、醴二升、

大安寺四月大般若經御齋會供養料、醴一斗一升二合八勺、佛聖二座、僧百五十口、供料寺使來受、

聖神寺佛聖二座一季供養料、醴一斗六升四合、常住寺准ㇾ此、並寺使來受、

侍從所

月料酒一斛九斗、日別一斗三升、仕丁一人朝夕運送、但史生人料酒九升、日別三合、有行在所進物所者酒四升、醴一升、雜給酒一石、每ㇾ有ㇾ行幸、爲ㇾ例充ㇾ之、幕三條、絁一條、布二條、廿年一請。

運ㇾ造ニ御酒ㇾ料薪、牛一頭、受ニ右馬寮ニ、充ニ部直丁ニ受用。

采女司

凡神今食新嘗會官人二人。各給ニ細布褌一條ニ。采女八人。新嘗會十人、各給ニ調布褌一條ニ、別六尺、以下條褌皆准ㇾ此、其新嘗會給ニ布衫ニ、見ニ中務式ニ。

凡諸節會日、正及令史供ニ奉御膳前ニ、令史用ニ采女朝臣氏ニ、

凡正月三節采部三人。各給ニ紺調布衫一領ニ、五月節亦同、七月廿五日、九月九日通用、月粮白米九斗、一人別日三升、鹽九合、一人別日一勺、

凡采女卅七人賜ニ近ニ宮城ニ地。

〔佛聖二座〕今、出雲本の意に從つて補へり、宜しく大膳式の條を參照すべし。

〔行在所〕天皇御幸の時、其の所に設けられたる假宮をいふ、儀制令に「赴ニ車駕ニ所ニ曰ニ行在所ニ者」と見ゆ。

〔采女司〕宮内省の被官にして諸國より貢する采女等を撿校する事を掌る正、佑、令史、史生、采部、使部、直丁などの職名あり。

〔別〕今、出雲本の意に從つて之れを補へり。

采女

〔采女養田〕采女に班給する田、不輸租田也、今の化粧料と云ふが如し、一に采女田、又は采女肩巾（ヒレ）田とも云ふ。

〔采女〕後宮の官女、天皇に侍御し飯饌の事を掌る。

〔庸・綿一屯〕例に據れば、庸の下に「布二段」の三字を脱せり。

〔主水〕

「牟義都首」古事記に「大碓命（景行天皇第一皇子）娶兄比賣、生子押黒弟日子王、此者牟宜都君等之祖」と見え、又景行紀に「大碓皇子云々、是身毛津（ムゲツ）君、守君二族之始祖也」とあり。

凡采女養田各三町。事見民部式。

凡采女月料、各日米四斗五升（日一升五合）、鹽四合五勺（日一勺五撮）。

凡采女無故不上一百廿日已上者解任。但依身病及親病不仕者、雖過限日、臨時聽裁。其解任之代、以當郡氏女補之。

凡采女不仕祿物、半分充司家雜用、半分充采女等夏頓給料。

凡采女各充樵丁一人・守廬丁一人。其樵丁毎月黒米六斗、鹽六合。守廬丁春夏月別庸布一段、秋冬月別庸、綿一屯。

主水司

御井神一座祭。春秋並同。

五色薄絁各一尺、倭文二尺、木綿一斤、鍬一口、酒五升、糟米飯各一斗、鰒・堅魚・腊各一斤、海藻一斤、鹽一升、麻笥一口。杓一柄。祝料商布一段。

御生氣御井神一座祭。中宮准此。

五色薄絁各一尺、倭文二尺、木綿一斤、鍬一口、酒五升、糟米飯各一斗、鰒・堅魚・腊各一斤、海藻二斤、鹽二升、商布一段。已上祭料。細布一尺五寸、缶一口、土椀一合（加盤下皆准此）、片盤五口。已上汲水料。

右隨御生氣、擇宮中若京内一井堪用者定。前冬土王、令牟義都首渫治。即祭之。至於立春日昧旦、牟義都首汲水、付司擬供奉。一汲之後、蓋而不用。

〔鳴雷神〕和訓栞に「なるかみ、鳴神也、雷の聲を稱する也、萬葉集に動神とも書けり」河圖帝通記に「雷天地之鼓也」と見えたり。式に「主水司神一座鳴雷神社」とあり。神社覈錄に紀伊國名草郡鳴神社の祭神を「速秋津日子神、速秋津比賣神」二座とせり。共に水に緣ある神なれば、この神も右二神を祭りしなるべし。

〔五色薄絁〕靑黃赤白黑の五色に染め分けたる薄絁也。

春宮坊御生氣汲水料器

絹篩一口。一尺五寸。缶一口。土垸一合。備盤。片盤五口。

鳴雷神一座祭。春秋同。

五色薄絁各一尺、木綿、麻各一斤、倭文一尺、鍬一口、鐵一口、白米、酒各一斗、糯米六升、大豆、小豆各一升、鰒一斤、腊

海藻各三斤。鹽一升、祝史料商布一段、

氷池神十九座祭、

座別五色薄絁各五寸、木綿一兩、鹽一升、白米、酒各一升、鰒、堅魚各五兩、腊十一兩、海藻、滑海藻各五兩、鹽五合、坩一口。

右每年十一月祭之。

氷池風神九所祭。山城國五所、大和國一所、河内國一所、近江國一所、丹波國一所。

所別五色薄絁各一尺、米一升、酒一升、海藻一斤、雜魚一斤、祝詞料商布一段、

右若有年遇氷薄、即祭之、尋常之歳不在此限例、

神今食料。新嘗會踐祚大嘗會亦同。

絹篩一口、一尺五寸。木案一脚、紀帛布一條、長六尺。下居案一脚、土埦一合、水盆一合、官人一人、水部五人、各褌一條。但新嘗會加布衫一領。見中務式。

右依件具錄色目、申省請受。

同祭解齋御粥料。新嘗會亦同。

〔七種御粥〕後世宮中行事に、正月七日に七種の若菜を調じ、粥にして食するとは、趣異れり、此時の粥は多く穀類を用ゐたり、即ち、米、粟、黍子、稗子、葟子、胡麻子、小豆の五種を以つてつくれり。

〔阿世利盤〕和訓栞に「あせりさら、延喜式に阿世利盤七口と見えたり、淺の義、りは休め字にや」とあり。

〔麻笥盤〕麻笥を載する臺也。

〔中取案〕食器を舁き、又は絛錦等を積むに用ふる机也。

鮑一斤、堅魚八兩、和布一斤、鹽五合、堝二口。

右自内膳司受之供奉、但米用官供内。

踐祚大嘗會解齋七種御粥料、

米粟黍子稗子葟子胡麻子小豆各二斗、鹽一顆、陶盆堝各七口、土椀七合、鋺、片坏各十口、阿世利盤七口、洗盤四口、麻笥盤二口、中取案切案各二脚、陶臼土火爐各二口、炭一斛、白米九升、饌料箸、足土椀四合、瓫三口、炭六斗、親王已下五位已上通用。

諸祭雜給料、

園韓神祭料、春冬並同。

饌料米四升、高盤四口、土椀四合、陶椀六合、瓫四口、布餔一口、四尺、匏二柄、炭五斗。

春日祭料、春冬並同。

饌料米一斗、盤五口、高盤二口、土椀四合、瓫四口、巾二條、別五尺、布餔一口、四尺、杓二柄、炭五斗。

平野祭料、夏冬並同。

饌料米四升、高盤二口、土椀二合、瓫三口、匏一柄、炭三斗。

大原野祭料、春冬並同。

饌料米四升、高盤二口、土椀二口、瓫三口、匏一柄、炭二斗、巾料調布一丈。

松尾祭、料物同平野祭。

右件祭、官人一人率水部一人及仕丁等向祭所供事。

〔御〕貞京本二本に據り補ふ。
〔徳岡氷室〕山城志に據れば、龍安寺村の西、住吉山にありし也と云ふ。
〔愛宕郡〕和名抄に「蓼倉、栗野（クルスノ）上粟田、下粟田、大野、小野、錦織、八坂、鳥戸、愛宕、上出雲、下出雲、賀茂」等の鄉名を載す。
〔山邊郡〕和名抄に「都介、星川、服部、長屋、石成、石上」等の鄉名を載す。
〔都介〕今大和國山邊郡に都介野村あり。
〔讃良郡〕今大坂府北河内郡に併合せらる。
〔部花〕江次第「龍華」に作る。
〔臨〕京貞二本により補ふ。

升、瓮三口。著足土埦十二合。炭九斗。
　右依前件。但五月七月九月三節各除瓮炭。
供御月料。（中宮亦同。）
御粥漿料日米一斗。〔御〕澡豆料小豆二升五合。（小月亦同。）麻笥盤二口。洗盤一口。陶鉢二口。臼一口。土盆五口。堝十口。
諸節用此内。
凡供御氷者。起四月一日盡九月卅日。其四九月日別一駄。（以八顆為駄。准一石二斗。）五月八月。二駄四顆。六七月三駄。進物所冷料。五八月二顆。六七月四顆。御醴酒幷盛所冷料。六七月一顆。
凡供中宮氷者。五八月日別四顆。六七月六顆。進物所冷料。五八月二顆。六七月三顆。御醴酒幷盛所冷料。六七月一顆。
凡東宮氷者。五六月日別四顆。六七月日別六顆。
凡齋内親王妃夫人尚侍。起五月盡八月。日別一顆。
凡雜給氷者。起五月五日盡八月卅日。侍從料五八月日別三顆。六七月五顆。
凡儲氷者。五八月各日別四顆。六七月各日別一駄四顆。
凡運氷駄者。以徭丁充之。山城國葛野郡徳岡氷室一所。（一丁輸一駄。）愛宕郡小野一所。栗栖野一所。土坂一所。賢木原一所。（並二丁輸一駄。）同郡石前一所。（一丁半輸一駄。）大和國山邊郡都介一所。（六丁輸一駄。）河内國讃良郡讃良一所。（四丁輸一駄。）近江國志賀郡部花一所。（三丁輸一駄。）丹波國桑田郡池邊一所。（五丁輸一駄。）率駄丁給食一人日米四合。〔臨〕五撮。駄別秣稻二把。摠計所須每年申省請受。氷標幡十二流。（各長二尺。）料緋帛八尺。（幡料六尺。緒料二尺。）三年一請。

〔氷室〕氷を貯藏する處を云ふ、仁德紀六十二年五月の條に、額田大中彥皇子闘雞野に獵したる時、氷室の氷を得て、天皇に奉りし事見えたるを初見とす、大寶令制に宮內省主水司をして掌らしめたり。

〔鉇〕此の條氷室の雜用たるより推意すれば「鉇（カンナ）」の謬也。

〔所〕貞享本に據りて補ふ。

〔氷池〕土を掘りて氷を貯藏し置く穴也。

〔御匜料〕匜は、柄に水を通はす道ありて、水を盛り、物に注ぐ器也、和名抄に「匜、和名波通佐布、柄中有道、可以注水之器也」とあり。

氷室雜用料。

氷刀子十二枚。鉇廿一口。已上年料。鍬五十六口。掃氷池料。砥一顆。已上三年一請。氷室廿一所。山城十室大半。大和二室半。河内二室。近江二室小半。丹波三室半。

以見役徭丁內隨損修之。其收氷夫。室別一百卅人。給間食人別日米一升四合。飯料四合。糟料一升。

徭丁七百九十六人半。山城四百十四人半。大和百人半。河内七十五人。近江八十八人。丹波百十八人半。散百七十五人半。副丁作之中。長六十七人半。執鑰五十四人。守野山五十四人。見役六百廿一人。山城三百十六人半。大和八十一人。河内五十五人半。近江六十九人。丹波九十九人。氷池五百卅處。山城二百九十六處。大和卅處。河内五十八處。近江六十六處。丹波九十處。

供御年料。中宮亦同。

御手巾紵四條。各九尺。貲布篩卅二口。各二尺。磨御粥料。絹大篩四口。各八尺二重。絹小篩廿口。各一尺六寸。絹井篩四口。各七尺二重。缶杷二條。各一尺寸。曝布二條。各二尺三寸。絹小篩四口。各一尺五寸。乳并御澡豆料。牛絁大篩十四口。各四尺。絁小篩十二口。各二尺。刷料生絲一兩一銖。縫篩并杷料絲一兩二分。洗器曝布二條。各五尺。籠杷曝布二條。各三尺六寸。冷氷槽二口。氷槽四口。槽二隻。切案擇案洗案各二脚。中取案六脚。輿籠四脚。簀二枚。置簀四枚。木臼一口。杵二枚。竹百廿株。匏百廿柄。大杓四柄。水瓱麻笥四口。匜六口。缶土湯瓮大盞陶川盆各二口。手湯戶一具。加臺并杓。手洗槽三口。已上三口隨損請替。明櫃四合。筥六合。土火爐二口。轆轤木盞五口。桶三口。各受一斗。檳榔葉四枚。行幸儲料。緋帊兩面覆二條。一條御膳櫃料。一條牙床料。兩面袋二口。一口御匜料。一口御盥料。油絁覆二條。一條御膳櫃料。一條牙床料。油絁袋二口。一口御匜料。一口御盥料。已上四物並著絁裏。緋絁綱五條。一條長三丈。四條各長一丈三尺。紺布一丈。煖御盥水釜覆料。紺布衫八領。布袴八腰。布帶八條。並仕丁八人料。

右便納司家隨時出用。

五位已上并內命婦等年料。

岳十口。陶椀一百口。盤卅口。明櫃六合。

司家年料。中宮亦同。

水部曝布潔襷五領。別四尺。襷五條、手巾一條。六尺。采女女孺手巾四條。別六尺。陶由加一口。汲采女女孺手水料。守御井二人。各日黒米一升。中宮東宮亦同。

凡水部仕丁等不仕料物者、充司中公用。

凡中宮水部六人。御井守二人。衣服並巾、省充之。

延喜式卷第四十

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔襷〕諸義あり、袖狭くして袂なき單衣とも、臂衣（ウデヌキ）とも、襷衣（アハセ）とも云ふ、何れにしても常服也。
〔襷〕ちはやと訓む、逸速（イチハヤ）の約にて、衣袖を收めて働くに便にする意といふ、襷の類か、詳ならず、後世稱するは、巫女の服にて、小忌衣の類をいふ。

延喜式卷第四十一

彈正臺

凡臺彈人者。詞容端嚴依理糺彈。其受彈者。敬愼容止。恭聲稱唯乃陳所問。違者復彈。

凡臺糺彈不當者。卽有得彈之官。其臺彈不論合不。愼須受彈。

凡彈正不得彈太政大臣。太政大臣得彈彈正。其左右大臣與彈正。若有非違者。各得互彈。

凡彈親王及左右大臣者。弼已上在臺座而遣忠一人於堂上彈之。諸王諸臣三位已上及參議者。就其前座彈之。（預仰所乘令設座。）四位已下不問王臣。皆喚其身於臺彈之。（設座。）五位已上其被彈人者。起座稱唯。彈竟之後。亦起稱唯。若不起者亦彈之。

凡彈大納言以下者。就第一堂座彈之。太政官廳不得。

凡爲彈參議已上。差忠一人令度馳道。（嚴敬後步。）

凡親王諸王諸臣威儀進退不合禮。若式部不糺者。喚省而彈之。

凡三位已上有可糺彈而其身不在朝座者。臺喚家令勘問。若家令告於本主。猶不首答。如此之類。遣忠已下就其家對彈。若事大者奏聞。

凡臺奏彈事者。不經太政官而直奏聞。（將奏事者。忠詣閤門告大舍人令伺奏事狀。有可召者。尹已下忠已上共入上聞。若御大極殿者。忠就大舍人處伺奏事狀。舍人召臺者。准前上聞。但臨時奏事者。忠以上一人詣內侍所令內侍奏聞之。）

〔彈正臺〕和名抄に「彈正臺、太々須豆加佐」とあり、唐名御史臺、霜臺、憲臺と云ふ、廳大內裏兵部省の西、刑部省の東にあり、內外の非違を糺彈す、風俗を肅清し、內外の非違を糺彈することを掌る。

〔弼〕彈正臺の次官也、大弼一人從四位下、少弼一人正五位下、公達諸大夫之に任す、大弼は參議を兼ることあり。

〔忠・一人〕要略に「忠若巡察一人」に作る、忠は彈正臺の丞官にて、大忠一人正六位上、少忠二人正六位下、にて、六位諸大夫侍等之に任す。

〔尹〕彈正臺の長官也、定員一人、從四位上、後世多くは親王を任じ、或は大納言以上之を兼ぬ。

〔起座〕起立に同じ、姿勢を正して、禮に代ふる也。

〔磬折〕起座の禮中の動作の一にして、立ちながら、腰を前へ折りまげて禮すること也、磬屈といふも同じ。

〔修式堂〕大内裏八省院十二堂の一、暉章堂の西十一丈、延祿堂の東六丈、永寧堂の北九丈五尺の處にあり。

〔承光堂〕一に承香堂に作る、大内裏八省院十二堂の一、院の東方、含章堂の南四丈の處にあり。

凡臺聞官司枉判及閭里犯法者、追所由人勘問、其由得實應奏者、隨即奏聞。

凡彈官人及雜色人者、具錄犯狀、移刑部省令斷罪狀、應附考殿、即移本司幷式兵部等省。

凡諸司人等就臺、版位皆向正北。

凡尹若有犯者、弼以下忠以上共判奏彈。彈當埋者下座而退。其彈正之内有非違者、各相彈之。

凡親王太政大臣左右大臣入朝堂者、諸司皆起座。親王太政大臣者、磬折而立。坐定乃以次復座、退出亦同。

凡開門時者、令忠已下立會閤門、糺彈非違。

凡親王就廳座者、前階後階隨便、但五位以上初終必自前階。

凡申政於太政官者、外記立於辨官史上、八省亦立丞史下。唯依考選事被率之日、外記史並立式部下。

凡含嘉堂幷顯章堂官人不得從暉章堂修式堂後通東門、承光堂官人不得通西門。

凡官政未竟、諸司不得退座、若有違者、即糺彈之。

凡諸司官人開門以後就朝座者、即加糺彈。但參議已上左右大辨八省卿彈正尹不在彈限。

凡諸司官人等未閉門閒下去、宜嚴糺之。

凡京官五位已上先參朝堂、後赴曹司、或三日頻不參、而式部不勘者、臺喚式部勘之。

凡諸司或空朝座、臺即彈之。

凡朝庭容儀若有怠緩者、可彈彈之、可笞笞之。

凡致敬禮者、三位已下拜親王大臣及一位。參議已上唯拜親王大臣。四位拜一位幷三位參議已上、五位拜三位幷四位參議、六位拜四位、七位拜五位、神祇官祐史拜次官已上、太政官外記拜少納言、左右史拜辨、省臺職坊使寮司

判官主典諸衞府監曹尉志太宰監典拜次官已上。助教直講拜博士。東宮官人拜傅。六位已下拜學士。國介拜守。鎭守監曹拜將軍。官人見本國守。官卑者致敬。位同者不拜。若就國見猶拜。（諸司諸國史生及諸衞府府生已下二宮舍人等於判官已上。不論位高卑。皆拜。）以外任隨私禮。不拘此制。

凡親王大臣及一位二位。於五位以上答拜。於六位以下不須。五位以上於六位以下答拜。（低頭高下亦同上。）

凡三位已下於路過親王者。下馬而立。但大臣斂馬側立。

凡四位已下逢一位。五位已下逢三位已上。六位已下逢四位已上。七位已下逢五位已上。皆下馬。餘應致敬者。皆不下。（其不下者斂馬側立。）應下者。乘車及陪從不下。（中宮東宮陪從准此。）

凡無位孫王逢三位已上下馬。六位已下逢無位孫王不下。

凡元正之日。糺彈五位以上諸王諸臣威儀。幷著用物色違制。及朝拜刀禰等非違。（諸節准此。）

凡朝拜之時。式部省引刀禰列朱雀門外。訖忠以下左右分列糺彈非違。

凡正月十五日。忠以下向主殿寮糺撿文武官人等進薪違制。

凡春秋釋奠撿察祭儀。

凡二季大祓日。（六月十二月晦日。）忠以下向祓所糺彈非違。

凡京中弼以下每月巡察勘彈非違。（東西市幷諸寺非違。及客館路橋破穢之類。）

凡巡撿之日。京職若承勘當者。依下馬法行之。其史生坊令不論位階皆下馬。

凡宮城內外非違及汚穢者。每日忠已下糺察。但禁中者不須。

凡諸國調宿處者。忠已下執問非違。

〔判官〕四等官の第三位、「ジョウ」と訓む、諸省の丞の音を以て一般の稱とせし也、大少佑、少納言、左右大中少辨、大少丞大小進、大小允、佑、典膳、典侍、大少忠の總稱也、和名抄には「判官云々、神祇曰祐、省曰丞、彈正曰忠、勘解由曰判官、寮曰允、司曰佑、內膳曰典膳云々皆萬都利古止比止」とあり。

〔主典〕四等官の第四位、「サクワン」と訓む、蓋し佐官の音を假りし也、大少の史、外記、錄、屬、疏、志及び令史、主典等の總稱也、和名抄に「神祇官曰史、省曰錄云々、皆佐官」とあり。

〔臺疏〕彈正臺の判官也、大疏一人正七位上、少疏一人正八位上なり。

〔牙笏〕象牙にて作れる笏也、令制に天皇及び親王一品以下臣下の五位以上牙笏を執ると定めたり、本式亦之れに據れり。

〔白木笏〕柞、櫟、柊、榎、杉等にて作れる生地の儘なる笏を云ふ、令制に、六位以下初位以上木笏を用ひしむと定めたり。

〔幞頭〕朝服に用ふる頭巾也、令制に五位以上皂羅頭巾、六位以下皂縵頭巾とあり、和名抄に「幞頭、加宇布利、今按ニ漢語抄ニ說同ニ唐令等こ」とあり、廣韻に「幞頭周武帝所レ製裁ニ幅巾ニ出ニ四脚ニ」と見ゆ。

凡賜ニ位祿季祿一者。向ニ大藏省一撿ニ察非違一。若有ニ五位以上不參者一。臺即勘錄移ニ刑部省一。但左右近衞不レ在ニ此限一。

凡臺疏以上。自レ非ニ別勅一。不レ得ニ權任ニ他務一。

凡臺召ニ式部省一只可レ稱レ省。若省召レ臺者。可レ稱ニ疏名一。

凡新有レ立レ制宣旨一者。告ニ示撿非違使一。

凡宮中諸司。各令ニ本司掃ニ除其廻一。所所亦同。

凡八省院廻。左右衞門相分掃除。豐樂院亦同。

凡諸司官人等曹司。或馬子或女人居住。運ニ出穢物一置ニ其垣外一。宜ニ重加ニ禁斷一。

凡臺官人不レ得レ充ニ所別當一。

凡臨時別勅莫レ承ニ辨史傳宣一。

凡五位以上通ニ用牙笏白木笏一。前詘後直。六位以下官人用レ木。前挫後方。

凡諸王諸臣衣服食物。不レ得ニ盛レ藥以行ニ宮中一。違者彈レ之。

凡朝庭儀式、衣冠形製。臺幷式部惣知糺正。

凡衣袖口闊(ヒロヒ)無レ問ニ高下一。同作ニ一尺二寸已下一。其腋闊者一尺四寸。其表衣長纔著レ地。

凡除ニ禮服幷參議已上半臂。五位已上幞頭(カウフリ)之外。不レ得レ著レ羅。

凡無品親王諸王内親王女王等衣服色。親王著レ紫。以下孫王准ニ五位一。諸王准ニ六位一。其服色者用レ紵一。

凡婦人得レ著ニ夫衣服色一。但節會之日。不レ在ニ此例一。

凡大臣帶ニ二位一者。朝服著ニ深紫一。諸王二位已下五位已上。諸臣二位三位著ニ中紫一。

凡庶人以上不得襖子重著。
凡綾者。聽用五位已上朝服。六位以下不得服用。
凡五位以上女依父蔭得著禁物。雖嫁六位以下妻。「著」猶得依父蔭。
凡紵布衣者。雖深退紅白非輕細不在制限。
凡摺染成文衣袴者。並不得著用。但緣公事所著并婦女衣裙不在禁限。
凡淺杉染袴。朝座公會悉聽服用。
凡錦衣者。內命婦及女王并五位以上嫡妻子。並節會之日聽通服。綺者不在聽限。
凡深淺紫裙者。聽庶女以上通著。
凡蘇芳色者。親王以下參議以上。非參議三位及嫡妻女子。并孫王並聽著用。
凡衛府舍人刀緒。左近衛緋[illegible]。右近衛緋纈。左兵衛深綠。右兵衛深綠纈。左門部淺綠。右門部淺綠纈。
凡囚獄司物部橫刀緒色胡桃染。帶刀資人黃。
凡諸禁色者。總雖下衣不聽服用。
凡支子染深色可濫黃丹者。不得服用。
凡滅紫色者。參議已上聽通用。五位已上聽著半臂。
凡赤白橡袍。聽參議已上著用。
凡公私奴婢服。黃橡商淺紅赤練橡白橡墨染。全裙青赤絁布等色聽之。紫緋綠紺縹等不須全色。唯得纈裙裁縫。

〔襖子〕和名抄に「阿乎之」と訓めり、下重の衣の名、後世の布子に同じ田安宗武の說に「襖子は躰製位襖の如く、上に着るをば襖と云ひ、下に重ぬるをば襖子と云ふのみ」とあり。
〔「著」〕衍字也、貞京二本に无し。
〔胡桃染〕胡桃の核の色の如き色合に染めたるを云ふ。
〔深〕京本に據りて補ふ。
〔半臂〕和名抄に「半臂、名如字但下比」とありて、「ハンヒ」と訓めり、兩袖の幅極めて狹く、丈短き衣也、束帶の時、袍と下襲との間に着す。

凡親王以下車馬從服色通著皂及鄒蹋染青褐。自餘色。皆斷之。其女從衣者。通著黃赤纁𧄍蔔退紅中緑淺緑橡白橡墨染等色。

凡親王以下五位以上。及內親王孫王女御內命婦并參議以上。非參議三位嫡妻女子大臣孫。女藏人等從並聽著染袴。

凡金銀薄泥。不得爲服用并雜器飾。但五月五日諸衞府甲冑之飾。不在制限。

凡純素金銀及白鑞。聽爲五位已上服用之餝。

凡纈色以藍揩者。衞府舍人等儀服。他人不得輙用。

凡畫餝太刀。五位以上聽之。

凡刻鏤太刀。非新作聽五位已上著用。

凡刀子及長五寸以上。不得輙帶。但衞府者聽之。

凡內命婦三位以上聽用象牙櫛。

凡五位以上聽用虎皮。但豹皮者。參議以上及非參議三位聽之。自餘不在聽限。

凡白玉腰帶。聽三位以上及四位參議著用。瑪瑙斑犀象牙沙魚皮紫檀。五位已上通用。

凡紀伊石帶隱文玉者及定摺石帶。參議已上。刻鏤金銀帶及唐帶五位已上並聽著用。紀伊石帶白哲者六位已下不得用之。

凡烏犀帶。聽六位以下著用。但有通天文者。不在聽限。

凡魚袋者。參議已上。及著紫諸王五位已上金裝。自餘四位五位銀裝。

〔皂〕黑きを云ふ、正字通に「皂、俗皁字」とありて、玉篇に「皁、色黑也」とあり。

〔餝太刀〕裝飾を施したる太刀、勅授帶劔の人、公事の時佩用す。

〔白玉腰帶〕束帶に用ふる帶を云ふ、寶玉白石等を以て飾る故に石帶とも玉帶とも云ふ、又革にて作れる故に革帶、腰に帶ぶる故に腰帶とも云ふ也。

〔「玉」〕衍字也、古本及京貞二本に無し。

〔魚袋〕束帶の時、石帶の右に着けて帶ぶる者、面に魚形を飾り付くるに依りて名付く、金銀の二種あり。

〔鞍褥〕鞍の上に敷くしとね也、鞍敷とも云ふ、和名抄に「鞍褥、久良之岐、俗云宇波之岐」とあり。

〔鞦〕和名抄に「鞦、和名、之利加岐」とあり、今「シリガイ」と云ふ、鞍を動搖せざる爲に馬の尻より鞍のかたに懸くる組緒を云ふ。

〔障泥〕和名抄に「障泥、和名、阿布利、俗用脂緜二字」とあり、馬の脇腹を覆ふもの、革皮の類を用ひて作れり。

〔丁〕京式に「凡京中衛士仕丁寺坊不得商賈」とある文を案じて補ふ。

凡以獨窠錦爲鞍褥者禁之。

凡六位以下鞍韉總不得連著。但聽著韉衢及後末葉鞍褥紫泥頭鞍肥緋纈等。皆禁斷之。纐纈者不在制限。

凡參議已上。檢非違使別當已下。府生已上。聽著緋韉。

凡貂裘者。參議已上聽著用之。

凡羆皮障泥聽五位以上著之。

凡內親王孫王女御及內命婦。并參議以上非參議三位嫡妻女子大臣孫。並聽乘用金銀裝車屋形。

凡內親王三位已上內命婦及更衣已上。並聽乘綿胄有庇之車。并著緋牛鞦。

凡市人不得以白綾夾纈等爲車屋形裏。以雜揩色爲從者衣。以綵色編竹成文爲簾。及將從四人以上。

凡車馬從者。親王及左右大臣十四人。大納言十二人。中納言十人。參議八人。一位十二人。二位十人。三位八人。四位六人。五位四人。隨從之日。二位已上八人。三位六人。四位五位四人。六位以下二人。其妃廿二人。夫廿二人。嬪十八人。女御十六人。內親王廿人。二世女王十人。內命婦一位十八人。二位十六人。三位十四人。四位十人。五位八人。隨從之日。內親王十人。三位已上六人。四位五位四人。六位以下四人。更衣十人。女藏人六人。女孺四人。庶女二人。外命婦准夫從數。左右大臣女九人。大納言八人。中納言七人。參議六人。一位八人。二位七人。三位六人。四位五人。五位四人。女孺亦四人。女從者各減車馬從半。

凡東西仕〔丁〕坊販鬻者。一切禁斷。但酒食者不在禁限。

凡禁斷刈大小麥青苗爲馬草賣買并桑棗木鞍橋。

凡純縹并寶髻及紕褶剪綵作絧等莫禁。

凡婦人袷裳。不論貴賤。一裳之外。不得重著。單裳不在制限。

凡裁絹絁爲獵衣袴。縫白絹纈着從女衣裳。以絲葺車。及用金銀餝等。悉皆禁斷。但金泥釘非制限。

凡雙六者。無論高下。一切禁斷。

凡京都踏歌。一切禁斷。

凡私養鷹鷂。臺加禁彈。

凡右大臣已上薨者。發哀三日內諸司理事如常。不可問獄行刑。

凡喪葬盛餝奢僭及淫祀之類。左右京職若不禁者彈之。

凡進告朔函時者。辨官式部兵部彈正五位已上者。立本司廳前。他司五位已上者。立東西廳前。諸六位已下立辨官式部廳後。

凡五月五日。五位以上諸王諸臣獻走馬時。兵部省分頭陣列朱雀東西。訖省申臺云。列馬訖。即忠以下分立左右巡撿禁物。其走馬裝束聽用純素金銀。乘人裝束不聽禁色。若有違犯。兵部不勘者。喚省及主彈之。五品以上走馬裝束禁色亦准此。

凡五月五日供節諸衛府官人以下。除甲冑餝之外。不聽用金銀。縱有違犯。只彈禁色。不得抑留。

凡市人集時。入市召市司。令市廛靜定。每肆巡行糺彈非違。謂錦紗綾羅若闕不盈一尺九寸。長不盈六丈。又賣物者有行濫及横刀鞍等不顯鑑造者姓名之類。

又問有皇親及五位以上遣帳內資人若家人奴婢等興販與百姓俱爭利者耶。

凡大臣已上覆鞍者用淺紫。參議已上深緋。諸王五位以上綠色。諸臣黄色。六位已下不得用。

凡神泉苑廻地十町內令京職栽柳。町別七株。

凡神泉大學廻地。令京職掃除之。穀倉院亦同。

〔雙六〕和名抄に「雙六、俗云、須久呂久」と訓めり、今「すごろく」と云ふ、これに盤雙六と紙雙六との二種あり、後者は近代のものにて此の時なし、前者は支那よりの傳來なるも年月不詳也、持統天皇紀三年十二月の條に「丙辰禁斷雙六」とあれば、其れ以前の渡來たるは明なり、基の類にて、盤の左右に目盛りして、石を並べ、二箇の賽を振出し、其の目の數に合はせて、石を動かし、勝負を爭ふ也。

〔鄽〕廛に同じ、店をいふ。

〔肆〕店舖也、轉じて物を陳列する臺の意にて「クラ」（座）と訓めり。

凡諸司勘收諸國貢物、不合留難。若有作逗留、百姓辛苦者、臺即巡捡、隨事糺彈。但忠已下之外、弼時時監臨。

凡巡捡左右京之日。革非決罸。

凡東西二寺齋會日。四月八日、七月十五日。忠已下向寺糺彈非違。糺衆僧及男女禁色、并男女交雜之類。前三日喚左右京職云、將依例巡捡。宜使條令告寺家辨備之。

凡臺官等捡挍獄中非違。謂杖笞大小、安置罪人、及給薦席衆食、合法以不之類也。

凡禁色惣從破却。但五位已上并律師已上、錄名奏聞。僧尼依法苦使。

凡喚左右京職云、將遣忠以下捡京中非違道橋及諸寺。宜職仰條令預定便處會集男女、亦告諸寺三綱等、令辨備如上。即忠以下到彼會所、問云、有京職官人及坊令等。寃枉百姓、凌侮長幼耶。又有孝子順孫義夫節婦以不。又有惡女擾亂閭巷以不。又到寺家、遣條令告三綱、即擊鐘會僧。訖條令申云、坐定。即忠以下入著座、問衆僧云。三綱供養衆僧、有所闕失耶。又有罵辱衆僧并將三寶物餉送官人耶。又有三寶燃燈所闕失耶。次問三綱云。有衆僧乖違法式、擾亂徒衆、及罵詈三綱、凌突長宿、好小道卜吉凶、懷巫術救疾病者耶。又有飲酒醉亂、及與人闘亂者耶。又有著禁色者耶。謂綾羅錦綺之類。

凡大營造時、工匠役夫之處、遣忠以下糺彈非違。仰所司、令移役夫散帳并人數、遣忠糺戸部郡司部領等勘糺私驅役之類。

凡有非違人、召其本司及管省而彈之。

凡記非違者。不必封記。

凡僧尼等不可賣買。但隨身品物使得賣買。又藥丹等聽賣耳。

凡宮城四面墻內、不得積物、不聽停馬。

（東西二寺）即ち東は東寺（教王護國寺）西は西寺也。

（四月八日）灌佛會あり。

（七月十五日）盂蘭盆供會あり。

（杖笞）五刑の一たる、笞刑に用ゆる笞と、杖刑に用ゆる杖との意也。

（坊令）王朝時代、左右京を各九區劃せり、其の一區劃を坊と稱す、每坊に一人を置く。八三九頁坊長參照。

（散帳）注意事項或は諸達示等を記し又は課役勤惰の備忘を控ゆる爲めに役夫に配付せる帳簿の意なるべし。

凡娶宮人爲妻妾者。容隱私舍不肯出仕者。依法科罪。及娶親王及諸臣等賜使婦女不令仕其上者、令本主具錄狀送京職量加決罰。

凡除使內有非違而不辨姓名者。直至使頭就主司問之。

凡在京倉藏。並令臺巡撿之。

凡決死囚、皆令臺左右衛門府臨決。若囚有冤枉灼然者、停決奏聞。

凡遣臺官人於五畿內之儀。預定忠一人、然後尹若弼一人。忠一人。參太政官請進止。訖即參入被唱定。訖還出卽作下國符請官印及官符訖。致使忠云。除致罪之外悉決之。

凡被遣隣國之使。着正官座者不禁。

凡辨官有犯、擧辨官名喚之。若有身犯指其人喚之。

凡中納言以上召臺者、疏以上參。

「凡巡撿左右京之日量狀決罰」

凡諸司五位以上。其率僚下日就朝座、後然行曹司政。怠慢政事有闕、嚴加禁制。

凡侍醫近衛府生以上、幷撿非違使等者、並除節會之外。不必着朝服。申諸司政之日。不在此限。

凡聽左右近衛兼雅樂伎才長上者令帶劔把笏。

凡蕃客朝拜之日、假內舍人得着金銀飾仗。

凡建禮門南庭者、除中央之外。悉令生草。

凡諸衛府五位以上通着朝服。其著胡𥿻幷立仗之日着位襖。但參議已上不在此例。

〔灼然〕あきらかなるさま也。

〔致〕殺の古文也。

〔凡巡撿云々〕以下十二字、既に上文に見えたり、重複したる也。

〔朝服〕男子にては朝廷の公事に、女子にては四孟に着用する服裝をいふ。その制、令に見ゆれども、今之れを略す。

〔侍醫〕天皇御不豫の時御脈を診候し御藥を奉る、平日は安福殿の藥殿につめ居り、主上殿上に出御の時は小板敷に參して龍顏を拜し奉り御座近く進むを得ず。「オホトクスシ」「オモトクスシ」とも、又半昇殿ともいふ。

凡內外諸司。不論把笏非把笏者。公事公會之所悉著靴。自餘時著履。（把笏者雖非公會。而此八日聽著靴。）又庶人等通著履。

凡文武官人以上。把笏番上以上。八位以下之輩。每年待式兵兩省移。遣忠等就本司糺彈其服色違濫。

凡一世源氏有犯。遣疏就彈之。

凡犯重應捕而拒捍者。發當處兵捕之。若犯狀灼然不肯伏。辨事爭訴者。奏加本罪。

凡犯人逃走。令撿非違使追捕。

凡運民部廩院米車馬。自美福門脇門。運大膳職雜物大炊寮米幷雜穀。自郁芳門。運在中院西木工寮木屋材瓦造酒司米。自談天門。運春宮坊雜物。自待賢門。並聽出入。

凡王臣馬數依格有限。過此以外。不聽蓄馬。

凡隨身之兵。各有儲法。過此以外。不聽貯蓄。

凡六位七位朝服。同著深綠。八位初位。共服深縹。

凡三位以上聽建門屋於大路。四位參議准此。其聽建之人。雖身薨卒。子孫居住之間亦聽。自餘除非門屋不在制限。其坊城垣不聽開。

凡職事親王及三位以上諸王諸臣者。各以所職官名爲號。

凡聽座者。親王及中納言已上倚子。五位以上漆塗床子。自餘素木床子。

凡諸衞府生以上。（左右馬寮准此。）除衞仗日之外皆著靴。但著布帶時。須用麻鞋。

凡除著靴之外。通著麻鞋。

凡臨時撿校鴻臚館。

〔靴〕和漢三才圖會に「按靴今多以錦作。其色隨老若有異。其裏靴曰靴氈。用絲所以繫靴跟者。曰靴條。或以革爲之。喚云靴帶。天子赤朝賀小朝拜、節會、內宴等著之」とあり。

〔履〕和名抄に「履 唐韻云、草曰屝、麻曰屨、革曰履。（音李、和名久豆、用鞋字）」云々と見えたり。

〔依格有限〕養老三年の詔に依れば親王大臣二十疋、諸王諸臣三位以上十二疋、四位六疋、五位四疋、六位以下庶人に至る三疋以上を過ぐるを得ざる制なりき。

凡聽內外諸司人等著薄朝服。

凡部內百姓出弃病人者。五位以上取名奏聞。六位以下不論蔭贖決杖一百。其職司知而不糺。及條令坊長隣保相隱不告。並與同罪。

凡散齋之內。不得弔喪問疾食宍。不判刑殺。不決罸罪人。不作音樂。不預穢惡之事。若有違犯嚴。加禁制。

凡十一月中卯日。應宿官人歷名上左辨官。

凡臺有所犯者。式部省加教正。

凡宮城衛廬。東面五宇。南北面各二宇。東北東南隅各曲舍一宇。西面五宇。南北面各二宇。西北西南隅各曲舍一宇。並檜皮葺。但直南一面廬四宇。東西兩隅曲舍二宇。特瓦葺。

凡臺巡行京裏。嚴加決罸。令掃淸在宮外諸司并諸家掃除當路。又置樋通水。勿露汚穢。又條令坊長等依例每旬巡撿催掃。若不從此制。諸家司并內外主典以上移式部兵部貶考奪祿。四位五位錄名奏聞。無品親王家及所所院家以其別當官准諸家司。亦移省貶奪。其雜色番上以下不論蔭贖決笞。

凡男入尼寺。女入僧寺之事。除非夜時任「莫」令出入。

凡彈正者月別三度巡察諸司糺正非違。若有廢闕者。乃具錄事狀移式部。考日勘問。

凡闕官不仕要劇者充臺中雜用。

延喜式卷第四十一

延長五年十二月廿六日

〔出弃〕弃は棄の俗字なり、今の遺棄の意なるべし。

〔左辨官〕職員令の義解に「太政官內惣有三局、少納言、左辨官、右辨官是也」とあり、諸官諸國より申達せる庶務を辨理して納言に上申し、官旨、官符、官牒を書き、其他、太政官內の文書の事を掌る所也」

〔莫〕京、貞の二本になし、衍字なるべし。

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十二　左右京　東西市

左京職　右京職准此

凡毎年九月幣帛使向伊勢者。史生一人將坊令二人。兵士四人前驅。臨時幣帛使亦同。

凡齋王臨河祓除。及向伊勢者。進屬各一人。史生一人。將坊令二人。兵士十人前驅。出雲國造奏神壽詞。遣大唐渤海等國使。祭天神地祇。若上道等日。及蕃客入朝之時亦同。

凡賀茂齋内親王祓除。及向齋院者。進屬史生各一人。率坊令二人。兵士十人前驅。預營作道橋泥塗等。

凡踐祚大嘗大祓所須。馬一疋。劍九口。鍬九口。鹿皮九張。紙四百五十張。木綿六十三枚。苧小九斤。稻九束。米鹽各九斗。鮭九隻。堅魚鰒海藻各九連。柏九把。食薦九枚。條別均分買備之。其價充傜錢。但馬申官請受。官人率坊令坊長姓於羅城外。東西相對分列。左京西面北上。右京東面北上。朝使者坐中央南向。訖即解除。其齋内親王入太神宮時大祓料并儀式亦准此。

凡六月十二月大祓預令掃除其處。亦兵士禁人往還。元日質明掃除芻靈。

凡毎年九月神祇官畿内堺祭。差擔夫五人已上送之。

凡毎年二月八月。前上丁三日。各雇夫掃除大學。二月五十人。八月一百人。前享一日夕差兵士四人令衛廟門。

凡東寺文殊會日。進屬各一人。史生一人。坊令二人。兵士六人。向會所供事。右京供西寺會。

凡正月十七日於豐樂院有射禮節。自豐樂門迄儀鸞門左右京職中分其庭東西掃除。其夫功食料充調傜

伊勢幣　齋王祓　大嘗大祓　二季大祓　堺祭　大學掃除　文殊會　射禮

〔羅城〕茲にては平安京の廓をいふ、日本紀には「ソトグルワ」と訓ぜり、秉燭談に「唐書高宗時、築京師羅郭、又通鑑唐懿宗紀注羅城外大城也、子城内小城也、又朝鮮崔世珍訓蒙字會曰、郭俗稱羅城、由是觀之、羅周、網羅羅之義、謂羅城門者、郭門也」と見ゆ。

〔儀鸞門〕大内裏豐樂院十九門の一、豐樂院南面の内門にて豐樂門と相對す。

〔北邊坊〕平安京の一條より土御門に至る六保二十四町を云ふ、九坊の中に入らず。

〔市司〕京都市內の事を掌る、即ち市店の財貨交易、器物の眞僞、度量の輕重、賣買の估價、非違を禁察する事を掌る、京職の下に屬す。

〔斷丁〕召使をいふ、汲炊、火燒等の雜役に使はるゝもの也。

掃清丁卅六人。（條別四人。但一二條各三人。北邊坊二人。）

市司執鑑二人。

右依前件雇使。功食以脩錢充。其食人日米一升二合。鹽一勺。（但兵士日米二升。鹽一勺。）功錢並依當時法行之。（但掃清丁功錢不行。）

兵士當色

凡兵士以淺桃染為當色。不得與衛士雜亂。

授口帳

勘造授田口帳書生四百二人。紙三千八百帳。墨四挺。筆五十管。

右當班田年勘造件帳。其紙筆等價用脩錢。食法同上。唯不給功。

班田祇承

班田使祇承。屬一人。（從二人。）史生三人。（從各一人。）書生十四人。（從各一人。）擔夫丈夫四人。斷丁四人。紙八千九百廿五帳。（中八千四百廿五張。下五百張。）墨九挺。筆七十九管。

右依前件。經國之間供給。准國司巡行法充。用職寫田直。其紙筆等以脩錢充。

田籍

田籍造二通。其帙料小町席一枚。緣料黃帛三丈八尺。黃絲一兩三分半。褾紙料厚紙五十三張。緒料革一張。軸料檜榑一材。（已上申官請用。）作軸工二人。縫帙女五人。功食並以脩錢充。

戶籍

戶籍帙料。小町席帛黃絲洗鹿革盛韓櫃。裝潢手書手功食並申官請用。其紙筆墨並准令條。但紙隨戶口數。（十五人紙三張。）不進計帳戶料紙筆墨亦申官。紙一千張。充墨一挺。一百五十張充筆一管。（寫書并裝潢功程。并見圖書式。）

計帳

凡責計帳手實者。進屬各一人為別當。史生二人為預。但書生條別充二人。起六月一日。盡九月卅日責訖。大帳十月卅日以前進之。其書生食限三箇月給之。

凡不進計帳者。職錄交名及口分田數進官。即下畿內諸國。其料物并雇書生功食每年申官請用。

〔職寫田〕左右京職にて六年以上計帳不進の戸の田を沒して、公用に充てたる田地をいふ、京職にて計帳を造らんため毎年六月三十日前、所部の手實を進らしむる日に其の調錢を貢せしむ、然るに六年以上計帳を進らざる戸は逃亡の例に准じ、帳より除きて其田地を沒收せり。

〔貢擧〕大寶令の制にて大學國學より試驗を受けて出身することをいふ。

職寫

凡進計帳戸誤置職寫者。進帳之後六十日內一度覺擧。若過此程令計帳所官人以下備償其直。餘官不預。

凡五畿內職寫戸田價。令當國司收彼地子。

凡職寫田帳十二月十日以前進之。同月內下諸國。其沽田帳副直錢明年五月卅日 不沽田地子帳十一月卅日以前進之。絕戸田准此。

凡職寫不沽田例損者。率不沽帳田數除一分不堪三分損之外。全收地子。其所收稻數載帳進官。但有損之年。當國申損。依官勘定。職亦徵免。

厨新

凡厨新者。每年以職寫田一百町直充之。

造橋新

凡每年出擧造橋新錢二百貫。取其息利隨事充用。官人遷替依數付領。

傜錢

凡傜分錢者。載調帳進之。

凡調傜錢用帳者。每年起正月一日盡六月卅日。起七月一日盡十二月卅日。二度進之。

錢文

凡錢文以一字明。皆令通用。若有擇弃者。隨狀科責。

義倉用帳

凡義倉用度帳。每年三月進之。

課傜

凡京戸課丁年傜。六日爲限。

諸王歲滿

凡諸王歲滿十二。每年十二月錄名送宮內省。

貢擧

凡三位已上子孫。並四位五位子。年到廿一已上者。貢擧式部省。

堀川杭

凡堀川杭者。不論課不課戸。皆令戸頭輸之。其戸十九人已下一株。廿人已上二株。卅人已上三株。長八尺以下。七尺以上。本徑五寸。末徑三寸。

凡闕官新要劇田地子者、充職家公用。

凡兵士并坊長等不仕新物、充職中用。

凡在施藥院東兒、合藥道場、不在禁限。

京程

南北一千七百五十三丈。

北極并次四大路、廣各十丈。

宮城南大路十七丈。

次六大路各八丈。

南極大路十二丈。

羅城外二丈。垣基半三尺。溝廣一丈。犬行七尺。

路廣十丈。

小路廿六。廣各四丈。

町卅八。各卅丈。

東西一千五百八丈。通計東西兩京。

自朱雀大路中央至東極外畔、七百五十四丈。

朱雀大路、半廣十四丈。

次一大路十丈。

「要劇田」王朝時代、劇務ある官職を帶ぶる者に特に官田を割きて要劇料に充てたる田をいふ。

闕官要劇　不仕新　院道場　京程

〔垣基〕垣の根柢をなす部分をいふ。

〔犬行〕又た、犬走、に作る、築地の外なる溝と築地との間にある狭き空地をいふ、後世は城廓の墻にのみ其制殘れり。

〔各〕今、出雲本の意に從ひて補へり以下[各]は皆同じ。

次一大路十二丈。

次二大路各八丈。

東極大路十丈、

小路十二、各四丈。一路加堀川東西邊各二丈。

町十六。各卅丈、

右京准此、

朱雀路廣廿八丈。

自垣半至溝邊各一丈八尺。垣基三尺。犬行一丈五尺。

溝廣各五尺。

兩溝間廿三丈四尺。

大路廣十丈。

自垣半至溝邊[各]八尺。垣基三尺。犬行五尺。

溝廣四尺。

兩溝間七丈六尺。

宮城東西大路廣十二丈。

自宮垣半至隍外畔三丈八尺。

自傍町垣半至溝外畔一丈二尺。

隍溝間七丈。
大路廣「各」八丈。
自垣半至溝邊「各」八尺。垣基三尺。犬行五尺。
溝廣「各」四尺。
兩溝間五丈六尺。
小路廣四丈。
自垣半至溝邊「各」五尺五寸。垣基二尺五寸。犬行三尺。
溝廣「各」三尺。
兩溝間二丈三尺。
宮城四面。自垣半至隍邊三丈。垣基三尺五寸。壖地廣二丈六尺五寸。
宮城南大路廣十七丈。宮垣半三尺五寸。壖地廣二丈六尺五寸。
隍廣八尺。
南垣半三尺。
犬行五尺。
溝廣四尺。
隍溝間十二丈。
凡町内開小徑者。大路邊町。廣一丈五尺。市人町。廣一丈。自餘町。廣一丈五尺。

〔各〕出雲本之れを削る、衍字なるべし。

〔壖地〕壖は正韻に「廟外垣内游地」とあり。

〔隍〕說文に「城地也、有水曰池、無水曰隍」とあり、からぼりをいふ。

〔町内小徑〕

凡築垣功程牓示條坊。莫令違越。其法見木工式。

東市司 西市司准此。

凡市皆每廛立牓題號。各依其廛。隨色交關。不得彼此就便違越。

凡每月勘造沽價帳三通送職。職押署即以職印印之。一通進官。一通留職。一通付司。

凡賣買不和較固者。市司追捉勘當。

凡商賈之輩。沽價之外。若有妄增物直者。不論蔭贖。登時見決。

凡六衛府舍人等不得帶劔入市。

凡市人籍帳。每年請進。

凡市裏有淩奪之輩者。奏任已上准狀散禁請裁。判任已下杻禁。隨犯決罰。

凡決罰罪人者。官人與使相對樓前罰之。

凡市町准市裏。本司加勘糺。隨犯科責。

凡居住市町之輩。除市籍人。令進地子。即以充市司廻四面泥塗道橋。及當掘河等造新。其用帳年終申送。

凡闕官要劇新充司中修理雜用。

凡每月十五日以前集東市。十六日以後集西市。

凡絹雜染物土器聽迦賣。

東絁廛。　雜廛。　絲廛。　錦廛。　幞頭廛。　巾子廛。

市司　廛牓　沽價帳　賣買　增直　六衛入市　市籍　淩奪　決罰人　市町　闕官新　集東西　染物土器　東廛

〔奏任〕令制にて、任官の等級の三の一、大臣の奏聞によりて官を授くるを云ふ、内外諸官の主典以上、及び郡領軍毅等をいふ。

〔散禁〕罪人に刑具を加へずして囚禁するをいふ。

〔判任〕令制にて任官の四等級の一太政官にて任補するをいふ。

〔杻禁〕罪人にかせをはめて囚禁する事をいふ。

〔鞍橋〕鞍の前輪、後輪の山木をいふ。類聚名物考に「思ふに鞍橋は前後の輪なり、丸く高ければ橋に似たればいへる物なるべし」とあり。

〔鞍褥〕八三〇頁頭注を見よ。

〔障泥〕雨天乘馬の時、衣服に泥のはねつくを防ぐ爲め、鞍に用ふる者にて、後には晴天にも用ひて一の裝飾となせり。

〔蒜〕玉篇に「俗蒜字」とあり、七九五頁頭注參照。

縫衣廛、帶廛、紵廛、布廛。苧廛、木綿廛、
櫛廛。針廛。脊廛。菲廛、筆廛。墨廛、
丹廛。珠廛。玉廛。藥廛。太刀廛。弓廛。
箭廛。兵具廛。香廛。鞍橋鐵。鞍褥廛。廛韉。
鐙廛。障泥廛、鞦廛、鐵并金器廛、漆廛。油廛。
染草廛。米廛、木器廛。鹽廛。醬廛。索餅廛。
心太廛。海藻廛。菓子廛。蒜廛、干魚廛。馬廛。
生魚廛。海菜廛。麥廛。

右五十一廛東市。

西廛

絹廛。錦綾廛。絲廛、綿廛。紗廛、橡帛廛。
幞頭廛。縫衣廛。裙廛。帶幡廛。紵廛。調布廛。
麻廛。續麻廛。櫛廛。針廛。菲廛。雜染廛。
蓑笠廛。染草廛。土器廛。油廛。米廛。鹽廛。
未醬廛。索餅廛。糖廛。心太廛。海藻廛。菓子廛。
干魚廛。生魚廛。牛廛。

右卅三廛西市。

延喜式卷第四十二

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

〔進〕東宮坊の官人にて、大進、權大進、少進あり、宮中公事を奉行し、最も重任とす。

〔主藏佑〕主藏監の佑也主藏監とは内藏寮の如く金玉寶器、錦綾、裝束の裁縫及び玩具などを掌る役所にて佑とは主藏監の次官也。

〔帶刀舍人〕略して帶刀ともいふ、舍人の内兵杖を帶する故に名づく、春宮に侍して非常を警衞す、舍人監の舍人より武藝に長じたる者を選び帶刀試を經て之れを任す。

〔則〕京本によりて補へり。

延喜式卷第四十三 春宮 主膳 主殿

春宮坊

元日

元日遲明二日三日准此。主殿署立火爐於殿庭。進一人主藏佑已上一人。率典藥官人舁御藥案出自東細殿南。進立殿庭版南。典藥寮官人侍醫等就案下。即調藥酒。侍醫先嘗、次進嘗之。然後授典藥。典藥率女孺等幷主膳供御肴。采女四人候殿東廂。便從東方進供事。訖主藏典藥等官人共舁案退出。至于三日賜祿。官人一人侍醫一人各絹一疋。若五位者賜衾一條。史生一人醫生八人各細布一端。典藥一人衾一條。女孺八人綿各五屯。並用坊物。

朝賀

朝賀儀。

前一日。坊官率屬官設東宮次於太極殿東廊昭訓門外北掖。所司各供其職。大藏設東宮幄於太極殿東南。掃部寮施黃端帖於幄下。傅大夫及侍從四人座於幄東西向北上。傅座去幄八尺。大夫座去傅三尺。侍從幷退左右分設。主藏設胡床於幄下帖上西向。坊宮設亮及帶刀舍人胡床於幄北。南向西上。其日依時刻。傅以下諸侍從內舍人各著朝服。參詣共候。東宮駕輦以下出。帶刀舍人服上儀服。被甲脚纏末額列立前後。左右兵衞尉志各率兵衞陣列門外立前後。至東廊外降輦。就次著禮冠若未冠者則雙童髻。禮服帶劍。又謁者著禮服。無者仰四位得之、以坊大夫爲之。若與侍從進引東宮出。次舍人二人。執紫蓋以隨之。亮帶仗率帶刀舍人等在前行。諸衞亦如常儀。自東廊昭訓門入就幄座。執蓋者立於幄後。傅以下以次就座。亮率帶刀舍人等就幄北胡床。坊官率史生幷舍人十人簡容止合禮者擬雜役。侍郎

〔西細殿〕細殿は、和訓栞に「ほそどの、倭名抄に廊を訓せり、細殿と江次第に書せり、延喜式に夾舍とも訓せり」とあり、こゝは大極殿の西廊にて、壽成門に近づる處を云へり。

宮臣拜賀

〔南階〕會昌門を隔てゝ、應天門に對する方にあり、一階九段にして、三處にあり。

〔面〕下文に依りて補ふ。

〔跪賀〕跪座の禮を致して、賀辭を奏するを云ふ。

群官賀

内東北庭。群官入就位。訖傳進引東宮出。事見儀式。朝拜訖還宮如來儀。是日設御次於豐樂院。依時刻東宮更服朝服。亮已上若諸侍從入候宮西細殿南。主殿署設輦於南階下。舍人六人相分隨輦前後。東宮駕輦。進一人執笏。主藏佑已上一人執履。若徵雨主殿令史以上一人執大笠。帶刀舍人行立前後。亮已上若諸侍從奉引東宮出自西門。左右侍衛如常。至宮門外東宮降輦就次。留門外。左右兵衛各候時昇東階。就殿上座。學士并藏人亮進。及主藏佑已上各一人。帶刀舍人六人。並候近衛陣頭。主膳入就內膳。內膳供御膳。主膳隨即奉膳。諸節并每月一日。五日十一日十六日廿一日廿六日。參入內裏儀亦如之。其二日東宮拜中宮儀見中宮式。

二日受宮臣朝賀儀。

其日遲明。主殿署設東宮座於前殿東廂。西向。典儀坊進。出自東細殿南。設宮臣版位於殿庭。坊官在東。管監署在西。舍人分列東西。俱異位重行北西相對爲首。設典儀位於群官東北。贊者屬方在南。差退俱西向北上。又設宮臣次於門外坊官東管監署西。重行相向。以北爲上。左右兵衛各屯門外。列仗如常。宮臣依時刻集南門外。各服其服就位。亮啓請中嚴。近仗就陣。東宮朝服以出。近仗時動。東宮即座西向。亮啓外辦。左右兵衛尉各一人率兵衛二人開門。典儀贊者共入就位。宮臣上下以次入就位。立定典儀曰再拜。贊者承傳。宮臣在位者皆再拜。宮臣爲首者前昇自西階。當西第三間北折進東宮座前東面跪賀。其詞曰。新年能新日爾萬福乎持參來波拜供奉登良久申。賀訖俛伏。興復位。宮臣俱再拜。東宮即令喚亮。亮稱唯昇自西階。當東宮座前。東面跪承令。降詣宮臣西北。東面宣令。其詞曰。御命有利登宣。訖宮臣稱唯俱再拜。訖宣令曰。新年能新日爾萬福乎平久受賜禮登宣。訖宮臣稱唯再拜。舞蹈再拜。亮復位。典儀曰再拜。贊者承傳。宮臣在位者皆再拜。訖以次退出。兵衛闔門。東宮降座以入。近仗罷陣。典儀徹版位。

同日受群官賀儀。

〔東宮杖〕東宮より天皇に捧ぐる卯杖の意也。

踏歌

〔卯杖〕卯杖は、正月初の卯日色々の木を五尺三寸に切りて、一株或は二三株宛結びて、諸衛府より朝廷に進るに依りて名付く。

卯杖

〔日華門〕一に日華門と書す。「ジツクワモン」と訓むべき例とす。内裡の門、又中門と云ひ、左近衛の陣とも称す、南殿前の大庭の東向の門也

射禮

釋奠

〔姓丸〕姓名の意也、丸は[illegible]男子の[illegible]称に[illegible]

春日

凡十六日踏歌妓、自内裏退出、從東南門入、候殿東庭。近仗分居東西細殿廂。東宮朝服把笏即座。妓出自東。

踏歌畢、即於殿上賜酒肴。其祿細屯綿五百屯。（請内裏節祿賜之。）内裏女藏人四人在妓中、別給衾各一條。（用坊物。）

凡正月上卯日、東宮獻卯杖於内裏。坊官率舍人四人（預定容貌端正六位者。）舁御杖案隨之。天皇御紫宸殿。坊官大夫以下四人舁案、東宮獻杖入自[illegible]門、昇自南階。安案子敷上退出。即入中宮獻亦如之。訖還宮。左右兵衛各屯門外。左右衛門府[illegible]帶刀舍人[illegible]中儀、分頭陣階下。主殿署官人率舍人等舁机、參入自南門、安庭中罷出。坊官并舍人等各執杖、東西相分入、立庭中。大夫進啓曰。正月能上卯日能御杖供奉氐進良久登申給登申。令日傳之。主典已上供[illegible]安案上退出。次大舍人寮、次兵衛府。並無啓辭。

凡正月十七日射禮、東宮參豐樂院、步射。射手帶刀十人著末額脛巾。坊進一人執帶刀歷名札、趁就左近陣西南頭、西面立。（[illegible]）其詞曰、御子乃宮乃司劍波岐舍人姓丸。事畢還宮如常。

凡春秋二仲月上丁、東宮釋奠講說。享畢木工掃部設東宮床於執經高座東、南向。坊官設東宮次於堂院東北。其日候時刻。侍從四位一人、五位一人。入候西細殿南。主殿署設輦如常儀。亮啓請發、引東宮駕輦以出。大夫以下[illegible]帶刀舍人各[illegible]如常儀。侍從俱引東宮出自西門。左右兵衛亦如常儀。至大學東門降輦以入。先升廟堂[illegible]。訖入自講堂南東掖門就次。式部率刀禰列門外。東宮乃入、自堂北東戶就座。講畢還宮

[illegible]

凡二月上申、十一月上申、奉春日祭幣帛。五色薄絁各八尺、裹以調布、并薦。差亮令奉。（亮若有障、差藤原氏五位以上。）差加史生一人舍人一人[illegible]侍從持幣帛入、自東門安東細殿南案上。（預置賛上。）主殿署設東宮座於正殿南面。舍人[illegible]立庭中[illegible]人等昇自南階、使者相副扶之。樹廂座南。使者等退出。更捧幣參入安机。使者

降侍階下。舍人退出。東宮服朝服。就廂座。宮主捧麻入跪庭中。解除退出。東宮兩段再拜。舍人入昇幣案。使官隨卽退出。東宮待使者過細殿南。卽復本座。使者更集於坊廳前庭。宮主捧麻解除。訖遂前所。主馬署官人牽御馬二疋。與使共參於社下。御馬毛付籠舍人名簿。前一日進坊。

凡二月上卯十一月中子亦同。奉大原野祭幣。五色薄絁各八尺。調布二丈一尺。裹幣新。其儀同春日祭。但使進一人。差加舍人一人。

使等裝束新。

六位一人。當色一具。絹三疋。綿六屯。細布四端。八位一人。當色一具。絹一疋。細布一端。曝布三端。持幣丁新絹調布一端。

大神

凡四月上卯十二月准之。奉進大神祭幣帛。五色絹各八尺。裹用調布并薦。遙拜儀一同春日祭之儀。使進一人。冬屬。舍人一人。幣帛持一人。申送辨官下知當國。

平野

凡同月上申十一月亦同。奉平野祭幣帛。五色薄絁各六尺。裹以調布。其日平旦大藏木工設東宮次幄床於神殿東庭。坊官設座於床上。掃部設東宮座於神殿前。西向。依時刻。坊官幷侍從以下入候西細殿南。人數同上。主馬設駕列立殿庭。舍人八人從之。東宮御駕帶刀舍人行立如常。二人步行。坊官以下進引。東宮出自東門。左右兵衞陣列如常。坊官以下於宮城門外騎馬。至神院外東宮下駕。神祇官迎供神麻灌鹽湯。訖人就次。親王已下就座之後。出自次就幄西座。神祇官就祝詞座。大藏輔供木綿鬘於東宮。神祇官兩段再拜。東宮亦拜。群官同拜。讀祝詞。訖神祇官兩段再拜。東宮亦拜拍手。群官俱拜禮亦如之。畢卽還宮如來儀。中臣預候宮外。供神麻。東宮有障差進已上一人奉之。主馬署供奉御馬同春日祭。

〔御馬毛付籠舍人名簿〕御馬の毛色、籠（八百七十頁參照）及舍人の名簿の意也、毛付は、和訓栞に「けつげ　公事根源、白馬の節會に、つけげの奏と云ふ事見えたり、毛色を書付る義とすれども、東鑑に、馬の毛付と見えて、たゞ毛色の事を云へり」とあり。

〔四月上卯〕公事根源に「大神祭、是れは上の卯の日に行はる、もし卯の日三つあらば、中のにあるべし」とあり。

〔使進〕幣を捧ぐる使也、公事根源に「先づ丑の日使立つ」とあり。

賀茂

〔凡同月中酉云々〕公事根源には、中酉は賀茂社の祭にて松尾祭は上申日とあり。

最勝會

〔王氏中宮云々〕王氏にして、中宮たる時は、東宮坊より奉る外に、中宮よりも獻幣るる意也

牽駒

五月

天武紀に、九年十一月癸未，皇后體不念、則不念、則爲皇后誓願之とありて、天武天皇の皇后、〔天智天皇第二皇女也〕此寺に祈りて病氣を癒させ給ふ、其の緣によりて王氏中宮たる時は此の例ある也。

凡同月中酉奉賀茂下上松尾三社幣帛。社別五色薄絁各三尺。調布一端。裹以調布幷薦。差亮令奉。亮若有障差學士。若加史生一人走馬舍人二人。卽申送辨官下知當國。其日遲明。使史生率舍人裹幣六捧。社別二捧。使官率史生等令持幣帛入自東門安東細殿南案上。預樹二高案於二簀上。主殿署設東宮座於前殿南廂。北向。史生及舍人惣八人俱昇幣案進昇自南階。使官相副扶之。樹廂座北。使官降侍階下。史生舍人退出。東宮服朝服就座。宮主捧麻入跪庭中。解除退出。卽東宮南拔再拜。史生舍人入昇幣案。使官隨卽退出。東宮待使人過細殿南。卽復本座。使官史集於坊廳前庭。宮主捧麻解除。畢使官以下向內藏就庭座。松尾社禰宜祝二人候于內藏。史生一人。舍人一人。各捧幣帛進授禰宜祝等。卽內藏給饌。畢各達前所。

凡藥師寺最勝會講師布施絁六疋。綿卅五屯。調布十端。韓櫃一合。加奉。每年送彼寺。但有王氏中宮者。彼職送之。

凡四月廿八日牽駒。前一日設次於武德殿南。所司立幄。坊官設御座。當日東宮先就次。候時昇殿。

凡五月五日典藥寮進菖蒲。官人率侍醫一人藥生等。持菖蒲案候西門外。坊官令舍人引迎。入就西細殿南。典藥官人以下昇徃新雜給新案各一脚。進立殿庭退出。主藏官人舍人惣八人。入昇案退出附藏人所。雜給新附坊官。前一日設次於武德殿南。所司立幄。坊官設御座。當日東宮先就次。候時昇殿。

凡同月六日東宮參入如昨日。騎射射手帶刀十人著小松指衣。射五寸的。坊進一人執歷名札。自左右近衞陣南頭趁當於殿東南階。西向立奏。

凡六月一日。十二月一日亦同。內藏寮充屬各一人納御櫛卅枚於柳筥。居高案而昇之。入自西門立於前庭退出。主殿署官人一人。率舍人三人自東細殿南參入。昇案退出。御櫛收藏人所。案返寮。

凡六月十二月晦日未刻。主殿署樹班幔於南庭東。鋪席一枚於南階下。神祇官縫殿寮官人以下辨備雜物。入候西細殿南。于時東宮就座。縫殿官人持荒世服參入。喚縫二人。和世服從於其後。各置席上。（荒世服東。和世服西。）退出。宣旨率女孺三人出自殿南戸。宣旨進侍於東宮座。西面。女孺昇自南階。一人取篁。二人取荒世服昇殿授。宣旨受之。奉量身體返授。女孺受之降置席上。結裹如初。次供和世服。其儀如前。訖宣旨以下退歸。縫殿寮及喚縫參入撤之。進以上二人進立庭中啓曰。御麻又御贖進止神祇官姓名候登申。令曰。喚。稱唯退出。揚聲喚神祇官。稱唯捧麻進庭中。令曰。參來。神祇官稱唯昇自南階供之。訖退出。次供御贖物。（事見神祇官式。）事畢給祿。神祇官五位一人絹四疋。（若六位二疋。）中臣女二人二疋。（十二月准之。）

凡七月廿五日相撲節。前一日設次於神泉苑。當日東宮參入如常。

凡九月九日平旦。典藥率女孺等供呉茱萸。訖賜祿。（典藥御衣。若帶五位御衣一領。女孺等細屯綿卅屯。）是日東宮參入節會如相撲日。

凡十一月一日陰陽寮進曆。其日允以上二人率曆博士史生等。持安曆函案候西門外。坊官令舍人引迎。入就西細殿南。陰陽允以上共舁案。進立殿庭退出。主藏佑以上二人率舍人出自東細殿前。進舁案退出。即曆收藏人所。案返本寮。

凡東宮鎭魂日。所司裝束宮內省向御。戌刻主膳監官人二人（佑已上一人。令史一人。）率膳部八人舁御膳高机二脚。主藏監官人二人（佑已上一人。令史一人。）率舍人八人舁御服高机二脚。坊官二人（進屬各一人。）行列。主殿署官人二人秉燭相從。左右兵衛各四人陣列前後。向祭處入自南門到堂南東階前而留立。舍人昇階。陳高机於東壁前。訖官人以下相率而出。宣旨量時乃參就座。式部引刀禰參入就座。坊官已下相從就東細殿。所司給木綿鬘。訖坊官率屬官等移就堂東幄。神祇官二人。宮內丞一人。侍從二人。坊進已上一人。內舍人大舍人坊舍人各二人和舞。訖坊官已

〔荒世服〕和訓栞に「あらよ、にごよ荒世和世と書けり」清涼抄に六月神祇官奉荒世和世御贖」等と見え、臨時祭式に、荒世和世御服とも見えたり、公事根源節折の條に、あらよ、にごよの御裝束と云ひ、江次第に、荒世卜部進置竹夜於庭中席上」云云、次和世參入如荒世儀」と云へるは、竹の節をもて大御身の長を度る也、此皆中臣の女奉仕す、荒世和世は荒妙和妙を云ふ成べし」とあり。

〔進曆〕

〔鎭魂〕

〔世〕上文に據りて補ふ。

〔絁〕京本に據りて補ふ。

〔白散屠蘇〕山椒、防風、肉桂等を刻みて製す、本草綱目に「飲之辟疫癘一切不正之氣」とあり。

〔丸藥〕散藥に對して、練り固めて丸形となしたる藥也 和名抄に「丸藥、諸家方云、七氣丸理中丸、乾薑丸」等六十九種を擧げたり。

〔儺聲〕年中行事抄に「金谷云黃帝使方相氏黃金四目、身着朱衣手把楯櫓、口作儺々之聲、以駈疫癘之鬼」とある、儺々之聲の意にて疫癘を逐ふ詞を云ふ也

〔宣旨命婦〕宣旨を取次ぐ命婦の意にて、一定の職名に非ず。

下率舍人參入立階前。令舍人昇机。退出如初儀。絲綿賜御巫。御衣奉返御匣殿。高机收坊。

進白散

凡十二月晦日。典藥寮進白散屠蘇一案。雜給料丸藥一案。其日平旦宮人率侍醫藥生等進之。如五月五日供菖蒲儀。但屠蘇者。進與侍醫比封漬御井。

凡十二月晦日戌時追儺。坊官率品官舍人等候南門外。兵衞開門如常。內裏儺聲始發。大夫以下各執桃弓葦矢入立庭中。倶作儺聲。分出諸門。

凡行幸之時。預宣可擇監署。各供其職。隨地便宜張設幄幔。

凡東宮初立頓料絹一百五十疋。調布五百端。調綿五百屯。錢百五十貫文。白米百斛。黑米百斛。鹽卅斛。油八斗。

凡東宮湯沐二千戶。

凡六月一日內藏寮供御櫛卅枚。十二月亦同。

凡八月二日御燈料。長絹廿疋。白綿二百屯。申宮請受。

凡十二月二日。來年雜用料絹二百疋。綿七百屯。絲五百絇。調布一千端。鍬一千口。錢五百疋。御履革四張。皺文革二張。白革二張。申宮請受。

凡十二月十一日。陰陽寮啓來年御忌。

凡晦日昏時。神祇官祐以上一人。必用中臣氏。坊官無此氏。聽便用之。坊官令持神麻。候西細殿南。東宮把笏著座。訖進止神祇官大中臣ム麻呂候止申。令云召。進稱唯退出。立上聲召之。大中臣稱唯。捧麻趁立。令云參來。稱唯昇自南階供之。東宮取撫。門度。訖退出如御。於北殿者。進迎引參入至中殿前。進更參入供。舊例宣旨。命婦受取供之。訖退出。授大中臣。受退出。訖御巫備御贖。候宣旨所。宣旨命婦率御巫參入。供訖退出。

凡御薪一千三百卅七荷。以得考舎人並雜色人所進供用。五百廿一荷主膳監料。八百十六荷主殿署料。

凡月料紙百八十張、筆四管。墨一廷、請圖書寮。帳幄一具、斑幔十條、長八條、幅二幅。黄幔六條、縁絲十四斤、[illegible]、桂一百四枚、斑幔料五十枚、幔料五十四枚。黄紺幕廿條、幕十四條、布六條。幕料廿枚、桂料[illegible]。

右帳幔料、主殿署造、坊官隨損請換。

紫端帖四枚、厚薄各二枚。緑端卅二枚、厚薄各十六枚。黄端卅二枚、厚薄各十六枚。簀料黄帛三丈六尺八寸六分。紫絲一兩二分。緑黄帛各三疋五尺一寸二分。緋六疋四丈七尺一寸。緑絲八兩、黄絲八兩。紫革卅條、二條各方七寸、十五條各方六寸、十三條各方五寸。黄革卅二條、十六條各方五寸、十六條各方四寸。調布廿三端三丈八尺。薦[illegible]六斤十三兩。出雲席卅枚、四枚各長五尺、廿六枚各長四尺。東席廿二枚、薦一百十八枚、折薦三十六枚。

右年料坊官請受供之。

黄端茵二枚、四位一人五位一人料。折薦帖廿三枚、監署各三人、署官十七人料。並隔三年申官請受。

凡正月廿二日爲請新官人一人參大藏省、七月亦同。

凡二月廿二日賜季祿、坊官五位并六位已下率監署官人等參大藏省。若五位有障其次官率之。八月亦同。

凡十一月中卯日、大宿（オホイトノヰ）官人歴名申辨官。

凡帯刀舎人卅人分配侍衛。

凡帯刀舎人卅人節服、紺襖卅領、黄袍卅領料、紺絁十五疋。黄絁十五疋。帛卅疋。大夫料調布十五端、綿百五十屯、並申官受大藏省。

凡二月十日啓帯刀舎人春夏祿文、人別絹二疋。調布三端。

〔班幔〕和名抄に、「班幔、萬久、万多良萬久」とあり、一幅は黒く、一幅は白き色の布を用ひたる幕也。

〔東席〕東國より織り出す席の意也。

〔季〕京本に據りて補ふ。

〔大宿官人〕大宿直所に詰むる、夜勤直宿の官人也。大宿直所は、大内裏主殿寮の南、梨本曹司の北、内教坊の西、率分藏の東にあり、方四十丈の地を占む。

〔節服〕時服に同じ其の季節の服の意也。

〔紺〕京本に據りて補ふ。

〔祿文〕祿の目錄を記したる文也。

八月十日秋冬祿文。加二綿二屯一。並用二坊物一。同月二日春秋新盛申レ官請受。各六石。

凡帶刀舍人、步射騎射各十人。亮定二手番一記設レ饗給レ祿。步射人別衾一條。長加二袷小袖衣一領一。騎射半臂汗衫各一領。長加二單小褂衣一領一。亮若有レ故。大夫代レ之。

凡四月十一日請二騎射節主殿署一（イテ、イリ）良當色新調布一端。紺布四端二丈。解文申二辨官一。

凡雜色人百五十人。式兵二省相通與レ考。

凡坊舍人六百人。帶刀舍人卅人在二此中一。取二蔭子孫及位子一。但外散位帳內職分位分資人一百人。隨レ闕通補。又取二白丁一百人二補。每年卅人內選二任把笏并諸衛府舍人一之類。並隨レ闕補替。自餘依レ理解却之罷待二考解一補。但白丁舍人未敘之前。無レ故不レ上番聽レ補二白丁一。其敘位之後依レ病不レ上并遷レ他之替以二雜色人一補レ之。並在二六百人內一。

凡舍人五十人糧受二大炊寮一。

凡五月廿一日請二舍人百人衣服一解文進二中務省一。十一月廿一日。

十二月四日造二年中藥一新草藥受二典藥寮一。

主膳監

日新。

米七升九合八勺四撮。粟子二升五合。

右自二大炊寮一進レ之。

月新。

〔步射〕貞丈雜記に「すべて步立にて射る大的、小的、草鹿、圓物などの總名なり、騎射に對して云ふ、奉射とは別也」とあり

〔手番〕射手の番に當る人の意也。

〔散位〕位のみありて職司なき者也。

〔主膳監〕「ミコノミヤノカシハデノツカサ」と訓む、唐名、典膳局、東宮の膳部の事を掌る、職員令義解に「掌二進食先嘗及諸飲膳事一」とあり、長官を正となす、一人從六位上、次官を佑となす、一人正八位下、次に、令史一人少初位上、史生二人、膳部六十人及び、使部、直丁等あり。

主膳

〔粟子糒〕粟の乾し飯也、粟は和名抄に「粟、和名阿波禾子也」とあり、糒は同書に「糒、和名、保之以比、乾飯也」とあり。

〔秫〕粟の類にて、粘氣のあるを云ふ爾雅の釋草の疏に「秫、謂二黏粟一也」とあり。

〔脯〕和名抄に「脯、和名、保之々、乾肉也」とあり。

〔醬菰〕菰草の實のひしほ也、菰は淮南子天文訓の註に「菰生二水上一相連特大而薄者也」とありて、周禮天官膳夫註に「六穀稌黍稷粱麥菰」ともあり。

〔「二升」〕京本無し

糯米九升、糯糒一斗一升二合五撮。粟子糒三升三合七勺五撮、米秫各一斗一升二合五勺、粟子三斗四升九合九勺、黍子二斗九升二合五勺、小麥二斗四升七合五勺、薑子五升六合四勺。大豆小豆各九升七合五勺。胡麻子一升五合一勺、花子四升九合五勺、酒一斗五升、醋一斗二升、糖一斗四升八勺五撮、油一斗六升。一斗二升供料。四升盛所燈料。醬五斗二升五合、末醬一斗一升二合五撮、滓醬七升五合一勺五撮、豉三升三合六勺七撮。鹽四斗六升三合五勺。鳥腊十五斤七兩二分、脯八斤七兩、東鰒卅六斤九兩、薄鰒八斤七兩。隱岐鰒廿五斤五兩。堅魚一百五斤七兩二分、煮堅魚熬海鼠各七斤二分、鮹烏賊各廿二斤八兩、螺卅斤、押年魚十五斤七兩二分、雜魚腊廿斤八兩。鮭廿二隻半、能登鯖一百卅五隻、鮫楚割卅斤、久惠膓十二斤十兩、乞魚皮十四斤一兩。鮨皮十五斤十一兩、醬鰒廿條、堅魚煎汁三升一合五勺、海鼠腸三升八合二勺七撮、腸漬鰒、貽貝鮨、雜鮨各二斗二升五合、醬菰廿顆半、芥子二升九合九勺三撮、紫菜十一兩一分、海松一斤二兩二分、海藻五斤七兩。小凝菜八斤四兩二分。於期菜四斤三兩三分。鹿角菜十一斤四兩、滑海藻十二斤十兩二分、干棗子一斗三升、搗栗子二斗八升七合三勺一撮、干栗子六斗七升五合。生栗子一石八斗七升五合、干柿子廿七連半、胡桃子一斗四升九合。椎子二斗九升二合五勺。橘子廿五蔭。掇橘子二斗「二升」二合五勺、並小月減二一日料。

年料、

御手巾紵四條別長九尺。絹大篩二口、別長八尺。絹小篩十口。別長一尺六寸。絹小豆篩二口、別長一尺五寸。絹井篩二口。別長七尺爲レ袷。漿缶

絹帊一條。長一尺五寸。絁大篩六口、別長四尺。絁小篩六口。別長二尺。生絲一兩二分四銖、刷料三分二朱。縫料、簁井杷料三分二朱。曝布單三條。漿缶一口

覆料四尺六寸。拭布五尺、籠蓋料三尺五寸。板蓋後盤各五口徑八寸。盛二水、鏡鞘鞘料、冷水槽一口。口闊二尺。深六寸。膳案二脚。一脚長四尺。弘二尺。高八寸。一脚長三尺二寸。弘一尺八寸。高八寸。外居案一脚。長三尺六寸。弘一尺八寸。高三尺二寸。巾案一脚。長二尺六寸。弘一尺六寸。高一尺六寸。盛案一脚。長八尺。弘二尺。高一尺。擇案一脚。長二尺九寸。弘一

〔主殿署〕春宮坊の被官にして、東宮の湯沐、燈燭、酒掃、鋪設等の事を掌る。

主殿

〔底〕雲本になし

〔洗〕雲本に據りて補ふ。

〔燈炷脂燭布〕俗に云ふ燈心の用に充つる布也、脂燭は松を細くさき、或は紙帛の類に油を浸して燈火としたるもの、燈炷は燈心也。

尺七寸。高一尺八寸。洗案一脚。長三尺九寸。弘一尺六寸。高八寸。中取案二脚。各長六尺八寸。弘八尺九寸。高一尺九寸。手長一尺六寸。御水案一脚。臼一腰。杵二枝。箕一枚。筋竹五十株。篦竹八十株。雑用新。瓠八十柄。明櫃四合。筥四合。御巾新。匏筥二合。新。擇菓缶四口。二口納菓。二口汲水部手水。新。陶由加二口。手湯戸一口。口闊九寸。底闊一尺一寸。腹徑一尺九寸。深一尺三寸。手水槽一口。口闊二尺四寸。弘一尺八寸。深七寸。居手水槽案一脚。長三尺五寸。弘二尺二寸。高五寸。轆轤木盞五口。各加底盤。膳部六人。各襷一條。長各四尺。水部五人襷新各八尺。襷五條新曝布各四尺。巾一條。女孺等巾四條新二丈四尺。望陀布一端一丈二尺。薪五百卅一荷。

右坊依主膳監解申宮中受。餘監署所請物准此。

主殿署

年新。

沐槽一隻。加案。覆絁一條。長八尺。弘三幅。浴槽一隻。加案。覆暴布一條。長五尺。弘二幅。〔底〕洗牀一脚。覆暴布一條。長六尺。弘二幅。池由加二口。覆絁二條。各長五尺。弘三幅。由加廿一口。覆廿一條。表暴布各長三尺。弘一幅。裏絁各長三尺。弘一幅半。圓槽一隻。加案。覆暴布一條。長五尺。弘二幅。椙案一脚。覆暴布一條。長六尺。弘二幅。絁篩七口。圓篩五口各四尺。甘篩一口三尺。油篩一口一尺。薄絁篩二口。各長一丈。唾盤巾布一條。長一丈三尺。簀敷布一條。長一丈一尺。弘二幅。打掃巾一條。六尺。拭巾一條。二丈。筥二合。匏筥二合。御巾紵布六尺。生絲一絇。土鋺形一口。土唾盤二口。土盤二口。土瓮八口。𤭯二口。覆暴布二條。各二尺。乳缶四口。覆布四條。各一尺。陶瓮六口。叩瓮十口。洗盤二口。明櫃二合。油瓶二口。足短坏十口。加盤。燈炷脂燭布一端一丈四尺八寸。燈油月別三斗。小月減一升。簀敷布一條。長八尺。弘三幅。洗拭御殿庸布二段。鍬五口。返舊請新。他亦准此。稾七百八圍。

延喜式卷第四十三

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十四

〔勘解由使〕唐名、拘勘、使廳は、太政官の乾角、中務の正南に在り、南北二十四丈、東西十四丈の地を占む。官人の遷替の時、前官の人任中公事の雜怠、官物の欠負なければ、新官より解由狀を與ふるを、此使局にて勘撿するを職掌とす。

〔外題〕下より解狀を奉りて、裁許を請ひし時、直に其解狀の端に書したる裁決文を云ふ。

勘解由使（カゲユシ）（トクルヨミヲカンカフルツカサ）

凡勘下內外諸司所レ進不與前司解由狀。令任用分付實錄帳。撿交替使帳等上者。辨官外題下二於使局一。卽率二解文紙數一。令三本司本國進二料紙一。其料紙百帳加二筆四管墨一廷一。勘知帳會敎帳等亦同。但諸寺諸司不レ備二筆墨一。諸國七通。上紙五通。奏幷內案。端書長案解文等料。凡紙二通、草案幷勘判等料。諸司五通。上紙三通。奏幷端書長案等料。凡紙二通。草案幷勘判等料。先書二其草案一。而隨二解文所レ載事條一。召二緣事所司一令レ勘二申之一。被管諸司不レ經二惣官一直喚令レ勘。主典已上次官已下次第勘判。其後長官閲二彼此之所執一。定二勘判之得失一。卽書二熟紙一。長官已下共署進。撿按覆勘。既訖捺二使印一爲二長案一。更書二奏文幷內案及解文等一。在京諸司不レ修二內案幷解文一。次官已下相共按讀竟則加レ署。署式在レ左。大臣奏聞之後錄二奏了狀一副二解文一進レ官。解文捺二使印一。其奏文踏レ印訖。下二外官一踏二內印一。下二內官一踏二外印一。副二之官符一更下二使局一。符直注下奏文解文下二其司某國及所司一之狀上。使局受取頒行。下二諸司一奏文幷解文副二官符一召二惣官一付レ之。下二諸國一召二雜掌一付レ之。

奏式

奏式。

勘解由使謹奏

勘某寺某司某國不與解由狀事 撿交替使幷實錄等帳准レ此注レ之。

前官位姓名 年月日任幷到來年月日解

合若干條

一某物若干

右寺司國官位姓名等年月日解（寺則牒代解）偁云云交替帳注云撿交替致使位姓名等年月日解偁云云實錄帳注云

國官位姓名年月日解偁被太政官月日符偁云云

以前事條所勘如件謹以申聞謹奏

年月日

長官位姓名

次官位姓名

次官位姓名

撿挍

官位姓名

官位姓名宣〔奉〕勅依奏

年月日

內案式。

勘解由使謹奏

勘某國不與解由狀事

前官位姓名年月日幷到來年月日解

右國官位姓名等年月日所言上

一前司可辨濟

〔牒〕牒の形式をとらざる通知文を云ふ、增韻に「官府移文謂ㇾ牒」とあり。

〔撿挍〕僧官、社寺にありて一山の事を監督する職、僧侶官位志に「撿挍の字據る處を考へず、字義を案ずるに、撿とは物を一つ〳〵に手に取て吟味する事、挍とは物を見糺す事なり、此の職は一山の上首にして衆僧を撿挍する意也」とあり、寬平年中初めて此れを補ふ。

〔內案〕

〔奉〕雲本に據りて補ふ。

〔長案式〕長官の案文の形式の意也、案とは、草案たり下書を云ふ、義解に「文案者施行曰レ文、籍置曰レ案」とあり。

〔不與解由狀〕任期充ちて其交替の際に、任官中公事の取扱上に付き過失不行屆等の事ありて、解由狀を出す能はざる場合に、與ふる狀を云ふ。

貞
長案

某物若干

一後司可二辨濟一

某物若干

一前後司共可二辨濟一

某物若干

一可レ從二恩免一

某物若干

以前事條所レ勘如レ件謹以申聞謹奏

年月日

署名同上。

長案式。

勘解由使

勘某寺某司某國不與解由狀事

前官位姓名年月日拜任到來年月日解

合若干條

一某物若干

右寺司國官位姓名等年月日解寺以レ牒代レ解偁云云

〔謹奏〕謹しみて天子に申上ぐる意にして、下より上に奏上する時に用ふ公式令に、論奏式奏事式等の條に、「太政官謹奏」等と見ゆ。

以前事條所レ勘如レ件

年月日

長官位姓名　　主典位姓名
次官位姓名　　判官位姓名
次官位姓名　　判官位姓名
　　　　　　　判官位姓名
　　　　　　　主典位姓名
　　　　　　　主典位姓名

貞

勘不與狀奏

〔上奏式〕上に申し上ぐる形式を定めたるもの也、謹奏は臣下より云ふ語上奏と云ひしは上よりして、謹奏のことを定めたる式なれば敬語を省けり、令には、論奏、奏事、使奏及び上式等の別あり。

勘解由使謹奏
勘某寺某司某國不與解由狀事
前官位姓名年月日任幷到來年月日解
合雜事若干條
色目云云
以前事條所レ勘如レ件謹以申聞謹奏
年月日
署名如二上奏式一
官位姓名宣奉　勅依レ奏
年月日

〔實錄帳〕解由狀を渡す時に、前司の任中の巨細の事を錄したる帳簿を云ふ。

〔撿交替使帳〕官人の交替の時、これを檢閲せし使の調書を云ふ。

〔前〕京貞二本に據りて補ふ。

〔恩赦〕祥瑞慶賀、疾病、災異等ある時、特恩により輕犯の者を釋するを云ふ。「ユルシモノ」とも云ふ。

〔拒捍〕ふせぎ、こばむを云ふ。

依次奏　載一狀　貞　超次奏　不會赦　貞　貞勘文署　租舂未進　召仰諸司

右奏聞了日於二長案後紙一記レ之。

凡不與解由狀并實錄帳等依レ次勘奏。但卷小事小。勘判易レ決。及所司勘申無二稽擁一者。不三必據二次。特以勘奏。

凡言二上不與前司解由狀并實錄帳一之後。前司之間任相尋解任亦修二不與解由狀一言上。所レ載雜事及所執不レ異者。合レ載二一人狀一。不二再煩奏聞一。但其除弃之狀。詳注二奏文一。若前後之狀。色目所執相違。事不レ獲レ已。可二共報下一。不レ據二次第一。一度勘奏。

凡內外官人。或自二內官一遷二於外任一。或未レ終二外任一遷二於內官一。其不與解由狀。內官卅日。外官六十日內。不レ論二前後一。超次勘奏。若可レ過二程期一者。注下可レ被二拘留一之色目上。期日已前且以申レ官。

凡不與前司解由狀并令下任用分二付實錄帳及撿交替使帳等一未中勘奏上之前。前司雖逢會赦不會之由不レ可二勘申一。

凡諸寺諸司諸國遷替之人。或不レ待二與不一。任意歸散。或所執無道不レ加二署名一。如レ此之輩。不與解由狀。隨レ下直以勘奏。

凡諸國所レ進撿交替使并實錄帳等所レ載國內雜物者。修二奏文一日只載二欠失之類一。不レ注二見在之物一。但新勘ニ附スル公益之色目等ハ不レ省二除之一。在京諸司准レ此。

凡辨官所レ下臨時勘文者。判官主典各一人加レ署進レ之。若事緣レ徵二免官物一者。得二上宣一乃勘申。次官以上一人亦同加レ署。

凡諸國租舂米未進者。雖レ會二免租稅未進之恩赦一不レ可二原免一。

凡緣二解由并年終帳等事一。任レ得レ召二仰諸司一。其勘申狀判官主典各一人署レ之。一日受レ事。二日令レ申。雖レ云二多條一不レ過二五日一。違レ此稽留。卽責二過狀一以進レ官。若拒捍不レ進。及不レ應レ召者。獨指二某人一別錄申レ官。抑二留要劇馬新季祿等一。其身參進辨申之

〔弘仁十三年云々〕弘仁十三年八月二十八日及天長三年十月七日太政官符、「應下申預叢務未得解由人解任上事」とあるものに準據するの意也。

〔證帳〕證據文也、よりどころの文とするを云ふ。

〔獲頭硯〕瓦の一種に、「久都賀太（鶏尾）」とて、丸みありて長く、そりて沓形なるものあり、之に似たる硯なるにより、「クツガタ」と訓みしなるべし。

後可追給狀。吏亦申官。

年終帳　凡年終帳、以弘仁十三年天長四年爲證帳。自餘三年一除。

貞　凡勘諸司年終帳者。據去年帳幷證帳計會今年帳。若有勘出者。召彼本司告知其由。即錄後年帳。可改正狀。長官已下主典已上共署進之。

勘判程　凡勘判程限公文四百張已上者。發勘卅日。續勘各廿日。二百張已上者。發勘廿五日。續勘各十五日。二百張已下者。發勘廿日。續勘各十日。

按讀　凡按讀始自二月迄于八月合七箇月。日別廿五枚已上。始自九月迄于正月合五箇月。日別廿枚已上。

書寫　凡書寫功程始從二月迄于八月合七箇月。日別奏文六枚。長案幷諸司承知七枚。草案九枚。始從九月迄于正月合五箇月。奏文五枚。長案幷諸司承知六枚。草案八枚。若其手迹狼藉文字脫誤者。從追上日。

官舍　凡使局官舍隨損申官令加修理。

時服　凡賜時服。春夏長官次官各絹五丈二尺。判官已下使掌以上各四丈五尺。秋冬長官次官各一疋四丈四尺。綿五屯。判官已下使掌以上各一疋三丈。綿四屯。使修解文進官。官下符大藏省充之。

凡給熱食者。據前月上日。移送宮内省。長官已下書生已上日米一升二合。酒六合。魚四兩。鹽二勺。滓醬一合。但參議長官不在此限。

貞雨日奏　凡雨日覆奏新。油絹三尺。納公文幷紙新。調韓櫃十合。並隨破損申官請換。

貞硯文杖　凡獲頭硯（クツカタ）幷奏新挿文杖隨破損申官。官仰所司作充。

貞年新　凡年新炭者。從十一月一日迄二月卅日。日別三斗。但有閏月者隨加給之。夏月申官。官下符大藏省。即准當時沽以直充之。黑葛筥二合。砥一顆。絁端茵一枚。撿挍座新。黃端茵三枚。長官次官新。紺布端茵六枚。判官主典新。折薦帖八枚。史生使掌書手等新。席六枚。次官已上並土敷新。

使部

〔凡使部云々〕使部に給する新は、直丁の中にて實際職を務めざるものの分を充つる意也

三年一度申レ官請換。

凡使部二人衣食以二直丁不仕物一給レ之。

延喜式卷第四十四

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十五

左近衞府（右近衞府准レ此）

大儀。（謂二元日卽位及受二蕃國使表一。）

其日寅二尅。始擊二動鼓三度一。度別平聲九下。卽令二裝束一。大將著二武禮冠淺紫襖錦裲襠將軍帶（飾以二金銀一。）金裝橫刀靴一。策著二䩞𩋾一。中將武禮冠深緋襖錦裲襠將軍帶金裝橫刀靴。策著二䩞𩋾一。少將武禮冠淺緋襖錦裲襠將軍帶金裝橫刀靴。策著二䩞𩋾一。（但供二奉御輿一少將皁緌挂甲帶二弓箭一。）將監將曹並皁緌深緣襖錦裲襠白布帶橫刀弓箭緋脛巾麻鞋。府生近衞並皁緌深緣襖挂甲白布帶橫刀弓箭白布脛巾麻鞋（近衞加二朱末額一。）卯一尅擊二列陣鼓一度。平聲九下。卯三尅擊二進陣鼓三度。度別九下。（初發二細聲一漸至二大聲一。）仗初進擊二行鼓三度。度別變聲二下。皆就二隊下一。中將率二將監以下一隊二於太極殿南階下一。大少將率二將監以下一隊二於中務陣以北。（若蕃客朝拜者降二隊於龍尾道下一。）其隊幡小幡各倍レ數。龍像纛幡一流。加レ鞍。（其管頂南儲備。餘皆准レ此。）鷹像隊幡日旗。小幡卌一旒。（緋黃各廿一旒。）鼓著レ鞍。（餘亦准レ此。）鉦鼓各一面。（面別加二擔其鞍笛一。餘亦准レ此。）將監率二將曹以下一隊二於太極殿以北後殿南一。並居二胡床一。少將以下胡床各敷二虎皮一。預奏請二內藏寮一。永收二本府一。餘府准レ此。其供二奉駕陣一者。駕御二後殿一卽就二本隊一。還畢駕還供奉如レ初。兵庫寮擊二退鼓一。群官退出。訖擊二退隊鼓三度一。度別九下。（初發二大聲一漸至二細聲一。）餘府以レ次相應。還二入本府一。各擊レ鉦五下。解陣。

中儀。（謂二元日宴會。正月七日。十七日大射。十一月新嘗會。及饗賜蕃客一。）

少將已上並著二位襖橫刀靴一。策著二䩞𩋾一。將監已下府生已上並皁緌位襖白布帶橫刀弓箭麻鞋。近衞皁緌緣襖白布帶橫刀弓箭麻鞋。（大射幷饗賜蕃客之時著二脛巾末額一。）

〔大儀〕卽位、拜賀等の節會を云ふ、參列者は上下禮服を着用するを式とす。

〔寅二尅〕今の午前五時也。

〔擊二動鼓一云々〕陰陽寮式に「諸時擊レ鼓、其數子午九、丑未八、寅申七、卯酉六、辰戌五、巳亥四」とあれば、こゝは七鼓を三回打つを云ふ。

〔度別平聲九下〕打出しは平聲とし九打目には弱むる也、鼓の單位は九打なるにより、鼓號を明にする爲也

〔中儀〕白馬端午豐明等の節會これに屬す、刀禰以上これに列す、服裝は常袍也。

〔小儀〕元日踏歌等の節會これに屬す、大夫以上參列す、服は小儀に同じ。

〔授位〕正月五六日の敍位を云ふ。

〔任官〕正月十一日の縣召除目を云ふ。

〔冊命〕定め立つるを云ふ。

〔之〕京貞二本に據りて補ふ。

〔凡大雷時云々〕此の條雷鳴陣のことを述べたり。

小儀

小儀、謂告朔。正月上卯日。臨軒授位任官。十六日踏歌。十八日賭射。五月五日。七月廿五日。九月九日。出雲國造奏神壽詞。冊命皇后。冊命皇太子。百官賀表。遣唐使賜節刀。將軍賜節刀。

大將已下亦准中儀。但正月上卯。授位任官。十八日少將已上帶弓箭。其大中將帶參議已上者不執弓箭。其近衛黃袍。

節會

凡節會御紫宸殿。中將已下率近衛等入自日華門。將曹一人前行。(右入自月華門。)居胡床。(少將已上胡床各敷虎皮。)

裝束

凡裝束紫宸殿。少將將監相共行事。

殿上

凡殿上之事。少將以上督察。

參議以上

凡參議以上。聽陪陣邊出入自宣政門度紫宸殿階下。行幸列輦綱末。

出居侍從

凡出居侍從十二人聽昇殿。但其交名臨時仰下。

凡出居侍從無非御膳時。而御紫宸殿。即聽昇殿。

侍從敍四位

凡次侍從四位已上聽昇殿。其左位新敍四位者侍宜陽殿。殿上侍臣候進止召之。一昇殿後則侍直昇。

凡東宮人朝學士亮進並藏人各一人。主藏佑已上一人。帶刀舍人六人。聽侍陣邊。

外記

凡節會日及臨時就事外記率史生一二人聽陪陣邊。(史同之。)

史

凡外記史已上就事聽度紫宸殿階下。(太政官史生亦得。)

上日

凡出居侍從及內記上日於陣給之。其內記聽度紫宸殿階下。

勘解由

凡勘解由使侍奏之間聽陪陣邊度紫宸殿階下。

侍醫

凡侍醫就事聽陪陣邊。

內藏掃除

凡內藏掃部寮官人已下聽出入陣。

雷

凡大雷時左右近衛陣御在所。又左右兵衛直參入陣紫宸殿前。內舍人立春興殿西廂。不必待闈司奏。

凡闇門者。將曹一人率近衞八人開閉（五人開闇門。三人開掖門。）

凡每月一日十六日。具錄當番近衞歷名。次官已上奏進。（若無次判官亦奏。）其宿衞者。日別錄見宿數。次官以上一人署名申送。闈司惣取奏之。餘府准此。

凡正月七日青馬籠近衞。著皂縵末額細布青摺衫紫小袖（其頭結小袖。若當番衞府官著袍。）白布帶横刀緋脛巾（右緋脛巾。）帛襪麻鞋。（不帶弓箭。）其馬前陣近衞十人。（右近衞十人夾陣之。）裝束同籠。（但帶弓箭。）

凡大射人。預前於本府射場教習。正月十四日以前試定。其歷名預移兵部省。官人二人著皂縵緋襖。白布帶横刀弓箭緋脛巾麻鞋。近衞廿人（府生若預射手在此數內。下亦准此。）白縵末額緑襖白布帶横刀弓箭白布脛巾麻鞋。其後參官人二人。近衞廿人。

凡十八日賭射射手官人。近衞惣十人。（必備當時。）當日錄交名奏聞。

凡賭射取箭近衞八人。分爲二番。番別四人。不帶弓箭。

凡騎射人於本府馬場教習。其歷名移兵部。前節一日同移馬寮。又前節七日車駕幸射殿。試閱御馬。訖將監已下惣廿人。便供騎射。（官人緋布衫。近衞青摺衫。兵衞准此。）當衞判官一人。立殿庭奏射手姓名。五日質明各就馬寮騎馬。陣列共進馬埒。官人二人。著皂縵緋布衫。金畫絹甲形。金畫布胄形。白布帶横刀弓箭行縢麻鞋。近衞卅人。皂縵緋大纈布衫（前後各一人紫大纈。）細布甲形（銀畫布胄形白布帶横刀弓箭行縢麻鞋。）（衫青內藏。横刀緒布帶請大藏。並四月十四日以前奏請。事了便給。唯大纈衫還上內藏。其甲形胄請求數。）本府充用。

凡騎射近衞隨中的數賜祿。（數見兵部式。）兵衞准此。

凡騎射的百卅六枚受木工寮。但騎寮并六日的當府備之。

〔青馬〕一に白馬とも書く、こゝは其の節會に出る馬の儀也。

〔籠〕下鞍にて、一にシツクラ（鎭鞍の義）とも云ふ、馬具の名、鞍の下にて、馬背に當つるもの、藁にて作り、革帛等にて被む、今云ふ切付也。

〔射殿〕弓殿也、校書殿の後にあり。

〔騎射〕禮式の一、馬射とも云ふ、步射に對して、馬上にて弓を射て禮を表する也。

青馬　大射　賭弓　騎射　的祿　的

〔駒牽〕諸國の牧場より貢進せる御馬を、天皇の御覽ぜらるゝ儀を云ふ、毎年四八月兩度に行はる。

〔六日〕正月六日の叙位の儀を云ふ。

〔柴摺背衫〕山路の摺形ある背衫也 柴摺は、和訓栞に「しばすりころも、柴摺衣の義、山路の躰也」とあり。

〔大齋〕小齋（をみ）に對して、其れより輕き忌を云ふ、大は粗の義也

立的　勝負記　騎射　行幸　執物　留宿　大嘗小齋　神今食

凡騎射立的者、簡近衛容貌端正者九人用之。著黄袍。駒牽及六日並著青摺衫。

凡五月五日五位已上競馬、將監就標下記勝負。

凡五月六日騎射官人近衛惣十人、（六人五寸的。四人六寸的。）並著深緑布衫、錦甲形、白布帶、横刀、弓箭、行縢、麻鞋。其交名當府判官立殿前奏之。訖供雜戲。（兵衛准此。）

凡供奉行幸大將以下少將以上、（幸遠著摺衣。幸近臨時處分。）並著皂緌、横刀、弓箭、行縢、草鞋。（幸近除行縢著靴。）將監以下府生以上並著皂緌、布衫、白布帶、横刀、弓箭、行縢、麻鞋。（幸近以蒲脛巾代行縢。）近衛皂緌、青摺布衫、白布帶、横刀、弓箭、蒲脛巾、麻鞋。（騎隊廿五人。堪騎射少將以下在此中。皆用官馬。以行騰代脛巾。幸近省五人。自餘府生已上及近衛並乘私馬。）

凡行幸者、將監一人、升自西階、受取御劍供奉。即率近衛一人護之。亦令近衛一人護印鈴。

凡行幸還宮、少將已上與近臣換取内竪執物。

凡行幸之時御輿長五人。擇近衛膂力者、預前注交名奏之。並著紅染布衫、不帶弓箭。其料細布三端一丈四尺。紅花十五兩。隔三年請。

凡車駕行幸經宿者、從行及留守並具數奏。（主典已上具顯交名。）餘府准此。

凡供奉踐祚大嘗會禊、少將已上並著皂緌、位襖、横刀、弓箭、靴。將監深紅衫。將曹柴摺背衫。醫師府生黄色柴摺背衫。並行縢。近衛青摺衫、蒲脛巾、草鞋。（騎隊行縢。）並著皂緌、白布帶、横刀、弓箭。

凡踐祚大嘗會小齋官人已下並著青摺布衫。餘裝束如元日。陣於齋院内。其大齋裝束亦如元日。齋院以外隊之。但除纛隊幡鉦鼓、又辰日除武禮冠緌鞴襠挂甲。巳午日除脛巾末額。

凡神今食及新嘗會、陣小齋近衛已上隊於齋院内。大齋隊院外。

〔春日社〕祭日は二月、十一月共に上申日也。

〔大原野〕祭日は二月は上卯日、十一月は中子日也。

〔大神社〕祭日は四月上卯日也。

〔賀茂社〕祭日は、四月中申日也。

〔三牲〕三種の生贄の意也、牲は神に献する生肉を云ふ。

〔藥玉〕種の香燻物を入れたる袋也邪氣を拂ふと云ふ。

小忌裝束新

凡供奉十一月新嘗會小齋官人并近衞青摺衫布衫卅五領、細布五領。作物所造各領。但有中宮饗之時加十二領。並請縫殿寮。

凡供奉六月十二月神今食小齋官人近衞裝束料、六月人別調布一丈八尺、紅花大一兩。十二月人別貲布各三丈、綿二屯。細布七尺、並二百五十人請大藏省。

祭使

凡諸祭供走馬者、春日社使少將已上一人、但幣帛使奉儀者不須。賀茂亦同。近衞十二人。大原野社將監一人、近衞十人。大神社將監一人、近衞十人。賀茂社少將已上一人、近衞十二人。二人先參松尾社供走馬。並每祭左右遞供之。其裝束預奏請受。色數見內藏式。

三牲

凡二月八月上丁進釋奠三牲。大鹿小鹿豕各一頭加五臟。並前日進大學寮。莵一頭醢料。潔清乾曝。前祭三月進大膳職。其貢進之次。以左近衞府為一番。諸衞府遞輪。終而更始。若事在新年春日大原野園韓神等祭之前。停供三牲代之以鯉鮒。諸衞准此。

御齋會

凡正月最勝王經齋會所、進雜花一櫃。諸衞府別一日。依次供之。

藥玉

凡五月五日藥玉料、菖蒲艾惣盛一輿。雜花十捧。盛臺居。五日平旦申內侍司、列設南殿前。諸府准此。

雜菜

凡國忌日并御清食日。前一日貢雜菜。

番長駕輿丁

凡番長八人、近衞六百人、駕輿丁百一人。二人隊正。十人火長。一人直丁。八十八人丁。

擬近衞

凡擬近衞者。預擇定便習弓馬者。入色卅人已下。白丁十人已下。修奏進內侍。奏訖即遣勅使試其才藝。騎射一尺五寸的。皆中者為及第。步射卅六步十箭。中的四已上者為及第。若一箭不中皮者。以二的准折。

異能

凡近衞武藝優長。性志耿介。不閇水火。必達所向。勿顧死生。以一當百者。號為異能。兵衞准此。其祿及食法見兵部大膳等式。

〔亥一尅〕今の午后十時也。
〔子四尅〕今の午前一時半也。
〔丑一尅〕今の午前二時也。
〔寅四尅〕今の午前五時半也。
〔戌一尅〕今の午後八時也。
〔亥二尅〕今の午後十時半也。
〔子二尅〕今の午前一時也。
〔番長〕「ツガヒノチサ」と訓む、近衛の長也。定員六人、舍人の中より撰定す。

凡看督二人、簡近衛性識强幹者充之。左右相交作二番。毎日一番候内裏。一番巡察京内非違。其馬寮充之、永置本府騎用。（簡見馬寮式。）

行夜

凡行夜者、内裏官人一人、近衛一人。（起亥一尅、迄子四尅。但右起丑一尅、迄寅四尅。）大藏近衛二人、内藏近衛一人。（起戌一尅、迄亥一尅。但右起亥二尅、迄子二尅。）

傳夜記

凡傳夜分遣近衛四人、聞夜中事、記奏之。

長上番

凡長上番長近衛、不得預他事差遣。

節會襖袍

凡節會所著襖袍、廿年一換。當府請新裁縫。永收本府。臨時出用。若破損者、申官請換。餘府准此。

大儀

凡大儀所須擊鉦鼓人及執夫者。移請兵庫。（其數幷裝束見兵庫式。）餘府准此。

器杖

凡威儀及行幸所須器仗者。收於府庫。臨時出用。但甲楯不在此限。餘府准此。

甲楯

凡車駕巡幸應須甲楯者、預前申奏請受兵庫。其數臨聽勅。餘府准此。

雜藥

凡年新所須雜藥者。申官請受。（數見典藥式。）餘府准此。

胡床

凡胡床三百基、緒新緋絲、基別八兩。塗新漆、基別一合。隨損申官請。

大衣

凡大衣者、將監已下府生已下。人別橡帛三丈一尺。帛三丈一尺、綿十屯、近衛二百人。紺細布白細布各二丈一尺。綿十屯、横刀緒近衛四百八人。（八人番長。）緋帛各七尺五寸。（右近緋纈。）皆三年一給。預錄奏請。

行幸靑揩

凡臨時行幸新靑揩衫二百領。新細布一百端。（衫別二丈一尺。）絲一斤九兩、（別三銖。）生藍卌圍、直。並隔三年申官請受。染揩裁縫、常有四百領。

駕輿丁裝束

凡供奉行幸駕輿丁者。駕別廿二人。（十二人擎御輿、自餘執前後綱。）皆著皀頭巾、皀縵。緋帛衫、調布襖、貲布衫、紫大纈褶、白布袴。

〔白布脛巾〕白布の脚絆也、脛巾、和名抄に「脛巾、俗云波々岐」とあり。

〔正月廿一日〕仁壽殿にて內々の節會ありて文人どもに題を賜はり詩を作りなどする日也。

〔年終帳〕其年の締くゝりをつけたる帳簿也。

月糧　祿物日糧　年終帳　威儀奏　衣服　給糧　蔣陸田　幕

白布帶、白布脛巾一惣廿一具。中宮亦准此。貯收府庫臨時充用。若有損破申官請換。但笠纓請內藏寮。

凡近衛駕輿丁直丁等月糧米鹽、每月請受。唯資丁新糧春秋請之。數見大膳式。餘府准此。

凡近衛駕丁祿物糧米府物請取頒給。其不仕新幷御服及青摺衫大衣駕丁裝束舊破之物、並充府中雜用。兵衛亦同。

凡正月廿一日年終帳進辨官。諸衛准此。

凡十二月廿七日進請充日威儀料挂甲奏、幷御輿長歷名。

凡駕輿丁百人除正二人、火長十人。丁八十八人。衣服新、夏除正火長各庸布一段、丁別商布一段。冬除正火長各庸布二段、綿三屯。丁別商布二段、綿三屯。

凡從行官人已下、執夫已上、竝計路程給糧。人別日米一升六合、鹽一勺六撮。馬子數見彈正式。米一升。鹽一勺。餘府准此。

凡府蔣陸田十町、獲蔣四千斤。營刈運賃幷食料二月一日申官請受。町別營夫六十人。醬丁四人。夫日米二升。鹽一勺。海藻二兩。醬滓一合。糟三合。醬丁日米一升二合。鹽一勺。海藻一兩。醬滓一合。糟三合。功錢、駄賃臨時量定。駄別運蔣十二斤。其蔣者町別二口、三年一請。但蔣左府送左馬寮、右府送右馬寮。衛門兵衛各亦准此。

射田左右近衛府各十町。在近江國。地子充教習騎射步射用。

幕卅條、絁十條。調布十條。並廿年一度申官作換。

延喜式卷第四十五

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行
從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永
從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則
大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫
左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十六

左衛門府（右衛門府准此）

大儀（謂元日即位及受蕃國使表）

其日寅一剋、近衛府始擊動鼓、以次相應、即令裝束、督著武禮冠深緋襖繡裲襠將軍帶（帶以金銀）、金裝橫刀靴、策著幟殳、佐武禮冠緋襖繡裲襠將軍帶金裝橫刀靴、策著幟殳、尉志並皂綾深緑襖（志紺襖）錦裲襠白布帶橫刀弓箭緋脛巾麻鞋、府生門部並皂綾紺襖挂甲白布帶橫刀弓箭白布脛巾麻鞋（門部加末額）、衛士皂綾末額桃染布衫挂甲白布帶橫刀弓箭白布脛巾麻鞋、卯一剋近衛府擊動陣鼓、以次相應、卯二剋擊進陣鼓、使初進擊行鼓、各相應如前、皆就隊下、督率尉以下隊於會昌門外左（若衆立南門外者、隊於應天門內）、樹鷹像纛幡一、竪鷹像隊幡一旒、小幡卌九旒、鉦鼓各一面、伴氏五位一人（右佐伯氏）各服禮服、率門部三人（裝束同上、不著弓箭）、入自腋門居會昌門內左廂（門部在門下）、依時剋令開門。佐率尉以下隊於應天門外左、隊幡一旒、小幡卌五旒、尉一人率門部二人居門下。開門畢還本陣、又尉率志以下隊於朱雀門外、隊幡一旒、小幡卌八旒、志一人率門部九人居門下、開門畢還本陣、自朱雀門外至于第一坊門傍路、衛士隊之、又尉率衛士已上隊於龍尾道門南諸門、小幡四旒、志率衛士已上隊於東西諸門及餘腋門、其供奉鶴陣者、駕御後殿、各就本隊、儀畢駕還、供奉如初、兵庫寮擊退鼓、諸官退出、其隊進退准近衛府。

中儀（謂元日宴會、正月七日、十七日大射、十一月新嘗會、及饗賜蕃客）

督佐並著位襖金裝橫刀靴、策著幟殳、尉志並皂綾位襖白布帶橫刀弓箭麻鞋、府生門部並皂綾紺襖白布帶橫

〔布〕京貞二本及び兵衛式に據りて補ふ。

大儀

〔伴氏〕道臣命の後にて大伴氏と同族也、代々衛門を掌る、姓氏錄、大伴宿禰の條に「雄略天皇御世、以天靫負賜大連公、奏曰、衛門闇之務、於職已重、若一身難堪望、與愚兒語相伴奉衛左右、勅依奏、是大伴佐伯二氏、掌左右開闔之縁也」とあり。

〔佐伯氏〕伴氏と同じく、道臣命の後也。

中儀

〔臨軒〕軒は大極殿の東西の廊を云ふ、其れに臨むは、大極殿に臨御の意也。

〔行縢〕行縢也、騎射の時、腰部より脚部に係けて、衣服の上に纏ふもの、向脛の義、鹿、熊、虎、狗等の皮にて作る。

〔會所〕衆人の寄合ふ場所を云ふ。

〔兕像〕兕は野牛に似たる一種の獸なりと云ふ。說文に「兕狀如野牛而青」とあり。

刀弓箭麻鞋。衛士皂緌桃染布衫白布帶横刀弓箭麻鞋、並居胡床。門部衛士大射並[illegible]賜蕃客時著脛巾末額。隊幡四旒。小幡六十旒。大射准之、小儀。謂告朔。正月上卯日。臨軒授位任官。十六日踏歌、十八日賭射。五月五日。七月廿五日。九月九日出雲國造奏神壽詞。冊命皇后。冊皇太子。百官賀表。遣唐使賜節刀。將軍賜節刀。府生以上並准近衛府。門部黄袍、衛士桃染布衫。餘准中儀。但除末額。其蕃客上表天皇不臨軒者、亦准小儀。兵衛府准此。

行幸　凡供奉行幸官人以下。府生以上並准近衛府。門部皂緌緋布衫白布帶横刀弓箭行縢麻鞋。幸近以蒲脛巾代行縢。衛士皂緌桃染布衫白布帶横刀弓箭白布脛巾草鞋。

大嘗會陣　但踐祚大嘗會供奉用鷹像纛幡一旒。其執纛一人、著末額緋行縢領袍帛博帶騎馬。執纛綱二人、黄布衫布帶步行、並用兵庫寮夫。他皆准此。鷹像幡四旒。小幡擁旗。少兵衛於成儀幡。他亦准此。鉦鼓各一面。其用雜物。及執鉦鼓一人。執纛夫等裝束、並見兵庫式。

凡踐祚大嘗會齋院屯陣裝束。一如元日。但除纛隊幡鉦鼓。

大射　凡大射官人二人。著皂緌位襖白布帶横刀弓箭緋脛巾麻鞋。門部十人。皂緌末額緋袍白布帶横刀弓箭白布脛巾麻鞋。衛士十人。皂緌末額桃染布衫白布帶横刀弓箭白布脛巾麻鞋。其次第者在兵衛府後。

御齋會　凡正月講最勝王經所進衛士十五人。并雜花一櫃進之。諸衛以次。其種子稻五十束請山城國便郡。簡脩爲十三荷。亦進會所。

梅柳　凡正月講最勝王經所進梅柳各八株。七日節舞臺裝束新各四株。

鮮鮒　凡鮮鮒御贄。隔三日進藏人所。左寅午戌。右卯未亥。

閤門　凡宮門者。門部開。

出入　凡黄昏之後。出入内裏。五位已上稱名。六位已下稱姓名。然後聽之。其宮門皆令衛士炬火。閤門亦同。

兕像　凡大儀之日居兕像於會昌門左。事畢返收本府。右府居右。

節蔭　凡諸節會之日蔭、令衛士運進。

〔小安殿〕大極殿を、大安殿と云ふに對して、其の後房を云ふ。

〔上西門〕大內裏外郭門の一、「西土ノ門」とも云ふ、外郭十二門の別にある、衞服也。

〔偉鑒門〕大內裏外郭門の一、不開〔アケズ〕門とも云ふ、北面の一門にて、一條大路に通ずる方に在り、達智門の西に位す。

秉燭　三牲　衞士替　大替兵具　檢非違　別當　防援　釋奠　衞門　守屋

凡諸衞會日若入夜者、令衞士進秉燭、其數十人、若有蕃客者卅人。

凡臨時伊勢奉幣、及神今新甞會諸節日、掃除小安殿廻並豐樂院中院前庭等。

凡二月八日上丁進釋奠三牲大鹿小鹿猪各一頭。加五臟。並內日送大學寮莵一頭。醢料。潔淸乾曝。前祭三日送大膳職。其貢進之次、以左近衞府爲一番、諸衞爲轉。終而更始。若享在新年春日大原野園韓神等祭之前、停供三牲、代之以鯉鮒。諸衞准此。

凡衞士相替者、一國來訖且奏。不須必待諸國悉到。若有舊人身材及便弓馬情願留者、移兵部省便配。其諸國皆悉替訖、定第物奏。

凡大替衞士兵仗戎具隨身領遣。不得勘收本府。

凡檢校左京非違者、佐一人。尉一人。志一人、府生一人。火長九人。二人看督。一人案主。四人佐尉從各二人。志從一人。府生從一人。

凡檢非違使別當充隨身火長二人。

凡捉人防援火長七人。三人守獄所未彈人。四人領著鈦囚。

凡釋奠祭日、都堂講宴之時、左右檢非違使禁過堂下濫行之輩。

凡宮城門者、幷令衞士衞之。美福郁芳待賢陽明上東達智等門左府衞之。皇嘉談天藻壁殷富上西安嘉等門右府衞之。但朱雀門左右相共衞之。偉鑒門左右隔年遞以衞之。

凡宮城諸門守屋者、各本府修造。

凡督絁袷袍一領。絁黑緋綾四丈。緣絹四丈。佐絁袷袍二領。絁緋綾一疋二丈。緣絹一疋二丈。錦襴襠廿五領。三領督佐絁。七領尉絁。十五領志絁。尉絁袷袍七領、絁深緑絹四疋四丈。淺緑絹四疋四丈。志絁袷袍十五領、絁深縹絹十疋。練絹十疋。門部絁袷袍七十六領、絁紺絹卅八疋。練絹卅八疋。門部絁黃袷袍一百領、絁黃絹五十疋。練絹五十疋。門部絁黃單

〔靑揩衣〕靑揩は、一に靑草揩とも云ふ、藍を揩り付けて染むる也。

〔初齋〕齋宮撰定なりて宮城内の便所に遷り潔齋するを云ふ。

〔左華樓〕栖霞樓の別稱一に東樓とも云ふ、大内裏豐樂院内二樓の一豐樂院の東（左）方に在り。

緋細 靑揩　末額　大衣　初齋　守取　行夜　行幸　内馬場

袍五十領。緋絹廿五疋。衞士三百卄人。衣幷袴緋布二百卌八端。練絲十三絇四兩。

右節服。廿年一換。

凡番長二人門部一百人。横刀緒緋淺縹東絁十二疋四丈五尺。人別七尺五寸。但右淺縹纈。門部青揩衣五十領。緋細布廿五端。練絲六兩一分。門部大襖十領。緋細布紺白各五端。綿一百屯。別十屯。

右隔三年請。

凡緋末額七百條。布帶三百卄條。緋白布卅四端。以八尺二寸爲二條。脚纏五十具。緋布一端一丈八尺。以三尺充二具。

右隔五年請。

凡門部十人。三年一給大衣。並錄奏請。

凡伊勢齋内親王初齋之時。差門部二人。衞士一人爲門衞。門部直陣。衞士炬火。其賀茂齋院門衞准此。但雖遷齋院猶充之。

凡門部一人衞士四人守八省院。門部一人守豐樂院。但左華樓下所收最勝王經齋會辨官行事所雜物者。令守八省院左門部衞士掌守。武德殿幷後殿及廻廊令右衞門衞士守。

凡行夜者。八省院豐樂院。門部毎夜各一人。起戌一尅迄亥一尅。但右起亥二尅訖子二尅。

凡行幸之日。召集散所衞士令供奉。若致闕怠。毎一日怠奪五斗粮。

凡狩子五十人。冠幷衣袴布卌端三丈之中。紺布一端一丈五尺冠料。桃染布廿五端。白布十四端一丈五尺。練絲十八兩三分。

凡内馬場埒料糯二百卌荷。葛廿荷。其用途並充府物。自四月十二日始掃除並造埒。

晦掃　凡毎月晦日掃ニ除宮中一者、差ニ將領府生一人、火長四人一、送ニ民部省一。

八省掃除　凡八省院廻左右相分掃除。豐樂院亦同。

雜用　凡舊破節服、並紺衣大衣衛士衣、及衛士不仕料、並充ニ府中雜用一。

廐亭　凡諸門廐亭、便令ニ守門火長衛護一。若致ニ非理損一者、令ニ其粮料充ニ修理料一。

蒭秣　凡府生蒭秣請ニ左馬寮一。事見ニ馬寮式一。但青蒭者令ニ衛士刈飼一之。

勅旨蒭畠廿町。在ニ山城國一。

鍬八十口。營レ畠料。但隔三年請。

射田　射田十四町二段百九十六歩。四町在ニ山城國一、十町二段百九十六歩在ニ近江國一。右府射田十四町一段百七十歩。在ニ攝津近江兩國一。

幕　幕卅條。絁十條、調布十條。並廿年一度申レ官作替。

〔火〕東貞二本に據りて補ふ。

〔青蒭〕乾さざる生のままの秣也。

〔右府〕右衛門府也、其の射田、左衛門府見えざるは、上文「射田十四町二段百九十六歩」とある文の上に「左府」を脱せるなるべし。

延喜式卷第四十六

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十七

左兵衛府〈右兵衛准此〉

大儀。〈謂元日即位及受蕃國使表〉。其日寅一剋、近衛府始撃動鼓。相應装束。督著武禮冠深緋襖繍裲襠將軍帶〈以金銀飾〉金装横刀靴。策著纛殳。佐著武禮冠緋襖錦裲襠將軍帶金装横刀靴。策著纛殳。尉志並皀緌深緑襖〈志著緑襖〉錦裲襠白布帶横刀弓箭緋脛巾麻鞋。府生兵衛並皀緌緋襖挂甲白布帶横刀弓箭白布脛巾麻鞋。〈兵衛加末額〉。卯一剋近衛府撃列陣鼓。即次相應。卯三剋撃進陣鼓。使初進撃行鼓。各相應如前。皆就隊下。督佐率尉以下隊於龍尾道東階下。〈督著緋襖者隊於會昌門內外〉。廣像纛幡一旒。熊像・幡四旒。小幡九十六旒。鉦鼓各一面。又尉率志已下隊於北殿門左。〈右府亦於同門右准此〉。小幡十八旒。志率兵衛以上隊於北掖門東廂門。其供奉駕陣者、駕御後殿。各就本隊。殿畢駕還、供奉如初。兵庫寮撃退鼓。群官退出。其隊進退准近衛府。

中儀。〈謂元日宴會。正月七日。十七日大射。十一月新嘗會。及饗賜蕃客〉。督佐並著位襖金装横刀靴。策著纛殳。尉志並皀緌位襖白布帶横刀弓箭麻鞋。府生兵衛並皀緌紺襖白布帶横刀弓箭麻鞋。兵衛大射饗賜蕃客時著脛巾末額。小幡卅旒。〈大射建之〉。

小儀。〈謂告朔。正月上卯日。臨軒授位任官。十六日踏歌。十八日賭射。五月五日。七月廿五日。九月九日。出雲國造奏神壽詞。册命皇后。册皇太子。百官賀表。遣唐使賜節刀。將軍賜節刀〉。督以下並准中儀。但兵衛准近衛。

〔繍裲襠〕五彩の色絲を以つて模様を縫ひ取りせる打掛也、裲襠は、和名抄に「宇知加介、其一當胸、其一當背也」とあり。

大儀

〔著纛殳〕纛は、說文に「旄旗之屬」とあり、殳は竿梃にて、纛を吊す竿也。〔使〕雲本に據り補ふ。

〔卯一剋〕今の午前六時也、下の「卯三剋」は、七時也。〔陣鼓〕軍勢の驅引を指令するに用ふる鼓也。

中儀

〔熊像・幡〕熊像を上に畫ける大旗也。文安御即位調度圖に「熊形纛幡 兵衛府」とあり。

小儀

〔虎像纛幡〕虎の形を畫ける大旗也。武備志に「旌旗之上、文以熊虎者、取其猛也」とあり。
〔鷹像隊幡〕鷹の形を畫ける隊旗也。武備志に「文以鶡雞者、其鬪并死不止也」とある意などに依れる也。
〔榠樝〕蘇頌に「榠樝木葉花實酷類木瓜」とあり、今「くわりん」と云ふ木是也。果實は食用又は藥用に供せらる。

行幸　凡供奉行幸官人以下裝束、並准近衞府。但踐祚大嘗會禊用虎像纛幡一旒、鷹像隊幡四旒、小幡廿旒。鉦鼓各一面、其用度准衞門府。

大嘗小忌　凡踐祚大嘗會小齋官人兵衞裝束、並准近衞府。陣於齋院諸門。其大嘗屯陣裝束、一如元日。但除纛隊幡鉦鼓。

撰兵衞　凡擇兵衞者、預擇定便習弓馬者入色廿人已下、白丁五人已下。修奏進內侍、奏訖即遣勅使試其才藝。騎射一尺五寸的、皆中者爲及第。步射卅六步十箭。中的四已上者爲及第。若一箭不中皮者、以二的准折。

大射　凡大射官人二人、皂緌位襖白布帶横刀弓箭緋脛巾麻鞋。兵衞廿人。皂緌末額紺襖白布帶横刀弓箭白布脛巾麻鞋。其後參官人二人。兵衞十人亦同。

賭射　凡十八日賭射、射手官人兵衞惣七人。必儲射。其取箭兵衞四人。二番。番別二人。

駒牽　凡四月廿八日小月廿七日。乘輿幸武德殿。騎射官人兵衞惣六人。

五月節　凡五月五日騎射官人二人、皂緌深緋貲布衫佐著緋衫。金畫緋布甲形金畫冑形白布帶横刀弓箭行縢麻鞋。兵衞十人、皂緌緋大纈布衫其頭二人紫大纈。丹畫細布甲形冑形白布帶横刀弓箭行縢麻鞋。横刀緒請大藏。

六日　凡五月六日騎射官人兵衞惣六人。四人五寸的。二人六寸的。

卯杖　凡五月上卯、督以下兵衞已上、各執御杖一束、次第參入、立定佐一人進奏。其詞曰、左右兵衞府申、正月能上卯日能御杖仕奉兵進良久申。勅曰、置之。醫師已上共稱唯、獻畢以次退。其御杖榠樝三束。一株爲束。木瓜三束。比比良木三束。牟保己三束。黑木三束。桃木三束。梅木二束。已上二株爲束。椿木六束。四株爲束。中宮東宮別榠樝一束。二株爲束。木瓜二束。比比良木二束。牟保己一束。黑木二束。桃木三束。梅木二束。椿木二束。並各長五尺三寸。

行幸分配　凡駕行之日、分配兵衞者、御輿長二人。不帶弓箭。御膳前二人。御馬副二人。自餘陪陣。

〔大衣〕衣服に同じ、賜はるものなれば「大」字を添ふ。〔色同二近衛府一〕左近衛府式に「凡大衣者、云云、近衛二百人、紺細布、白細布各二丈一尺、綿一屯、横刀緒、近衛四百八人、（八人番長）緋帛各七尺五寸、（右近緋纈）」皆三年一給並錄奏請とあり〔駕輿丁〕和漢三才圖會に「駕輿丁乃里毛能加木」と訓めり、白丁の類にて駕輿を舁く役也

分配 凡分配諸處者、東宮官人一人、兵衛廿人。其行夜者、中隔二人。〈左起亥一剋訖子四剋。右起丑一剋訖寅四剋。〉但八省院豐樂院各一人。〈左起子三剋訖丑三剋。但右起丑四剋訖寅四剋。〉大藏二人。內藏一人、〈左起子三剋訖丑三剋。但右起丑四剋訖寅四剋。〉馬行二人巡行京中。〈左起亥一剋訖寅四剋。〉其馬者、馬寮每夜加救幷衛士送穀倉院一人。〈分番差送。〉

三種 凡二月八月上丁。進釋奠三牲。〈大鹿小鹿猪各一頭。加五臟。〉並丙日送大學寮。兎一頭。〈醢料。〉潔清乾曝。前祭三日送大膳職。其貢進之次。以左近衛府為一番、諸衛輪轉、終而更始。若享在祈年春日大原野園韓神等祭之前、停供三牲、代之以鯉鮒。諸衛准此。

鮮 凡鮮鮒御贄隔二日進。〈左子辰申。右酉巳丑。〉

掃除 凡每月晦日、掃除宮中者、差將領府生一人、兵衛四人、送兵部省。

大衣 凡兵衛卅人、三年一給大衣。錄奏請。〈色同近衛府。〉兵衛四百人、番長四人、橫刀緒料、深綠帛。人別七尺五寸。隔三箇年奏請。〈但右兵衛深綠纈。〉

青揩 凡臨時行幸青揩衫二百領、料細布一百端。〈衫別二丈一尺。〉絲一斤九兩、〈衫別三銖。〉生藍蒭圍。〈並。〉並隔三年申官請受。染揩裁縫。常有四百領。

捉人 凡捉人將領兵衛二人、每番移送京職。

晦夜 凡十二月晦日、差兵衛四人、令聞夜中變異。其名簿午剋以前進內侍、日暮候陣。隨召帶兵仗、參入近衛陣、分頭退出。元日平旦錄夜中見聞之事、進近衛陣。

駕輿丁 凡駕輿丁五十人。

凡供奉行幸駕輿丁裝束十一具。〈中宮准此。〉

葛島　葛島七町五段。在山城國。

射田　射田十町。在近江國。其地子者充試習騎射步射用。但右府射田在播磨國。

蓆　蓆卅條。絁十條。調布十條。並廿年一度申官作替。其儀服已下破損物充府中雜用。

延喜式卷第四十七

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權守臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十八

左馬寮 右馬寮准レ此

〔穗坂〕今北巨摩郡穗坂村也。
〔「野」〕和名抄になし、眞衣野は今巨摩郡牧野原村也。
〔由比〕今南多摩郡由井村也。
〔山鹿〕今諏訪郡山鹿村也。
〔鹽原〕今同郡鹽原大鹽村也。

御牧

〔岡屋〕今同郡岡谷村也。
〔宮處〕今伊那郡宮所村也。
〔埴原〕今筑摩郡埴原村也。
〔「手」〕政治要略になし、平井手は、今諏訪郡平出村也
〔有馬「島」〕今群馬郡古巻村有馬也、「島」字拾芥抄なし
〔沼尾〕今吾妻郡長野原羽根尾也。

不課

〔牝馬・〕要略「牝馬牛」に作る。

年貢

御牧、

甲斐國。柏前牧。眞衣野牧。穗坂牧

武藏國。石川牧。小川牧。由比牧。立野牧。

信濃國。山鹿牧。鹽原牧。岡屋牧。宮處牧。埴原牧。大野牧。平井手牧。笠原牧。高位牧。新治牧。大室牧。猪鹿牧。萩倉牧。鹽野牧。長倉牧。望月牧。

上野國。利刈牧。有馬島牧。沼尾牧。久野牧。市代牧。大藍牧。拜志牧。新屋牧。鹽山牧。

右諸牧駒者、毎年九月十日國司與牧監若別當人等、信濃甲斐上野三國任牧監。武藏國任別當。臨牧檢印。共署其帳。簡繋齒四歲已上可堪用者。調良。明年八月附牧監等貢上。若不中貢者。便充驛傳馬。信濃國不在此限。若有賣却、混合正稅。其貢上馬、路次之國各充秣芻并牽夫、遞送前所。其國解者。主當寮付外記進大臣、經奏聞分給兩寮。開定其品。

凡牝馬・歲卅已上不在責課之限。

凡年貢御馬者。甲斐國六十疋、眞衣野柏前兩牧卅疋。穗坂牧卅疋。武藏國五十疋。諸牧卅疋。立野牧廿疋。信濃國八十疋。諸牧六十疋。望月牧廿疋。上野國五十疋、

繋馬 〔駿河〕兵部式に「岡野牧」あり。〔相模〕同式に「高野馬牛牧」あり。

課缺 〔上總〕同式に「大野牧、負野牧牛」あり

飼馬 〔下總〕同式に「高津牧、大結牧、大島牧、長洲牧、浮島牛牧」等見ゆ。

祭馬 〔常陸〕同式に「信太牧」あり〔周防〕同式に「竈合牧、垣島牧」あり。〔長門〕同式に「宇養牧、角島牧」あり。〔伊豫〕同式に「忽那島馬牛牧」あり

凡諸國所貢繋飼馬牛者、二寮均分換領、訖移兵部省。其數遠江國馬四疋。駿河國牛四頭。相摸國馬四疋、牛八頭。武藏國馬十疋。上總國馬十疋。下總國馬四疋、常陸國馬十疋、上野國馬卅五疋、牛六頭、下野國馬四疋、周防國馬四疋、長門國牛二頭、讃岐國馬四疋、伊豫國馬六疋。牛二頭。每年十月以前長牽貢上。路次之國不充秣芻牽夫。並放飼近都牧。

凡諸國貢繋飼馬。各隨馬數備刷梳麻籠頭共進。

凡課欠駒、價稻。每駒徵七十束。

凡細馬十疋、中馬五十疋。下馬卅疋。牛五頭、每年四月十一日始飼青草。十月十一日以後飼乾草。馬日二束半、牛二束。束別重十斤二兩。其飼丁馬別一人、以衛士充、但刈青草丁並飼牛丁惣七十四人、並充仕丁。其飼秣者、冬細馬日米三升、大豆二升、中馬下馬各米一升、大豆一升。牛米八合、夏細馬日米二升、中馬一升、下馬及牛不須。

凡年中諸祭秡馬者、二月祈年祭十一疋。六月十二月月次祭各二疋。六月十二月晦秡各三疋。四月七月廣瀨龍田兩社祭各三疋。四月左二疋、右一疋、七月左一疋、右二疋、增減之數平以[illegible]前祭二日差馬部一人進之。九月伊勢太神宮神嘗祭一疋。齋宮寮主神司六疋。齋內親王遷野宮秡一疋、並覆奏以後、遣近都牧繋飼馬充、自餘所用、臨時聽處分。

凡平野夏冬祭權飼馬四疋。二疋東。二疋內。園韓神祭二疋內。藏人疋別馬部二人、每祭官人一人牽馬部供奉。其馬祭畢並還本寮。

凡賀茂二社祭走馬十二疋、松尾二疋在此內也。馬別轡鞍韉調布四尺二寸。表腰帶七尺、結額髮絲二兩。餘祭馬裝准此。其使五位已上官一人、使者裝束之數見內藏式。皇后宮走馬二疋。馬裝同上。並一寮遷供奉。餘祭准此。又女騎新四疋、內侍已上新。前祭二日經御覽定能否。兩祭之間點齋院女騎新八疋。屬馬醫史生各一人、共預供之。

〔走馬〕競ひ馬。王朝時代儀式の一に用ふる馬を云ふ。文武天皇の大寶元年詔して五位以上に走馬を出さしめたることを記せるを初見とす。

齋王遷

〔神馬〕神の騎乘に供する意にて神社に奉納する馬を云ふ。又「カミコマ」とも云ふ。神社に參詣する時、或は祈禱の爲めに供進す。祈雨に黑毛馬、祈晴に赤毛馬を獻ずるを例とす、これに永く神廐に飼養すると、一旦進獻して畢りて後本牧に還附するとの二種あり。

返却

御馬

國飼

巡幸

凡大神社夏祭走馬十二疋、二疋儲料。其使充一人率馬醫馬部供奉。

凡春日社春冬祭神馬四疋。事訖放本收。走馬十二疋、其使五位以上官一人率馬醫一人馬部八人供奉、但馬部各青揩布衫一領、申官請受。事訖返上。

凡率川春冬祭神馬二疋、差馬醫一人令牽貢。

凡大原野春冬祭神馬四疋。事訖放本收。走馬十疋、其使充一人率馬醫一人馬部八人供奉。

凡當宗杜本山科等社夏冬祭走馬十疋。其使屬一人率馬醫騎士馬部等供奉。

凡齋王遷野宮日、鞍馬十疋、乳母已下御厠人以上料。車二兩。寮官二人陪從。其向伊勢者。鞍馬十二疋。迄近江國府。藏人已下女孺已上料、永充四疋、一疋御馬。自餘女騎料。其鞍官備、若有闕失、隨即補之。

凡諸祭幷大祓料繫飼馬及給人馬者、皆燒返印、但臨時奉名神馬非此限。

凡行幸御馬鞍一具、深紫緂一條、二幅長八尺。御笠袋胡床袋鞭袋筥袋各一口、並各加油絹帊。儲人錦小袖二口、若有穢損、返故請新。

凡行幸御馬一疋。馬子八人、右兵衞二人、馬部六人。其裝束人別緋袍衣、夏單。襖子、夏不須。帛汗衫各一領。調布袴一腰。細布帶一條。長一丈、並隨穢損申官請受。狩野行幸之日、著緋細布袍袴。

凡諸節及行幸應用國飼御馬者、量須數奏聞。乃下官符令進。唯牧放飼馬者。寮移當國。國即令牧子牽送。但攝津國鳥養牧、豐島牧。不移當國、寮直放索。

凡車駕巡幸鈴印馱、用擇飼強壯者充之、籠人二人以飼丁充之。於宮門外負馱、以列駕前。駕輿丁騎馱一疋。其女騎十八疋。走馬廿五疋。近幸走馬廿疋。自餘馬數臨時聽處分。

凡行幸經宿須用幕及行槽者、御馬四疋、布幕二口、行槽一枚。（枚別商布四段。緒析資塩一斤。）其行槽者收寮。但幕臨時請受。

凡供行幸馬籠頭刷梳等具、皆駄放飼馬、但近幸者疋別飼丁齎歩。

覽駒

四月廿八日御監駒式。（小月廿七日。）

右當日早朝調列櫪飼御馬八十疋。國飼卅一疋。車駕幸武德殿。登時官人率御馬自便門出至於馬出埓下。寮頭以御馬名奏進於御監。御監即執奏。而後左右寮頭左右分立於御馬之前。允一人執簿進立殿前。乃從埒西外御馬稍進比至御前奏馬名。詞云某司御馬合若干、寮飼若干。某國御馬駒若干。若臣下貢者稱姓名貢御馬。度盡退出。次右寮御馬如前。左右寮助亦左右分立。度畢即左兵衛陣前。（預前兩寮立鞍於不調馬之柱各一座。以備鞍騎之便。五月四日以前各抽收。）鞍不調馬騎以騎士。但允以下率近衛兵衛官人舍人等還至於寮家。悉鞍馬令騎。其不堪騎者騎以騎士。但不誤次第入埓盡度。度畢登時寮官率馬醫并近衛兵衛官人等就於馬留埓西邊。點定馬走出。寮屬一人執馬簿立馬出埓西邊。每馬出奏。內豎傳奏。馬馳畢更遣寮簡定騎射新馬。

五日式

五月五日節式。

右當日早朝鞍簡定馬授二府騎射官人率舍人到來裝束。居駕幸武德殿。左右各以奏文附御監。（一寮奏載射手官人以下官姓名。一寮奏載所出之國毛色。左右隔年互奏。）其後騎馬陣列而行。寮五位以上官一人、騎馬在前。諸衛射人皆以次列向於馬場。御馬度畢。右五位以上官一人在後而行。其所須裝束新物疋別結額髮新緋絲大一分四銖。韉乾新調布四尺二寸。表腹帶新七尺。馬幷舍人名札二枚。御新緋油絹一丈。裏絹筆縫奏請之。

六日

同月六日競馬幷騎射式。

〔刷〕馬刷也。毛をはく具也。

〔梳〕馬梳也、馬の毛をすく具也。

〔御監駒式〕別本に「御覽駒式」となす、駒牽の時に、天皇武德殿に臨御して諸國の牧場より貢進せる御馬を御監（御覽）せらるゝ式を云ふ

〔櫪飼〕厩飼に同じ櫪は、厩棧にて、「ウマヤノネタ」を云ふ、其れの中に飼育する郎ち厩飼也。

〔國飼〕諸國の御牧にて飼育する意也

〔五月五日節式〕此の日天皇武德殿に出御なりて、宴會を行はれ、群臣に酒を給ふ也。

〔細馬〕最もよき馬—上馬に同じ、書紀に「天武天皇朱鳥元年四月庚子、新羅進調、從筑紫貢上細馬一疋云云」とあるを初めとす。

〔國飼御馬〕諸國牧にて飼育する御馬也。

〔大和〕本式に「京南庄、率川庄、栗栖庄」等の牧名など載せたり。

〔攝津〕同式に「鳥養牧、豐島牧、爲奈野牧」等の名見ゆ。

〔近江〕同式に「甲賀牧」の名あり。

〔丹波〕同式に「胡麻牧」など載す。

〔二〕京貢二本、內裏式等に據りて改む

右當日早朝鞍細馬十疋。（競有駿馬、不載騎、幸奏文、莫預此列。）車駕幸武德殿、登時寮頭以御馬名簿進於御監、則傳奏、寮官率近衛十人令騎細馬。即以次度。度畢頭已下從殿後至於馬出埒下、左右近衛中少將與寮頭助共令競走。左右寮充各一人。立馬出埒左右側奏馬名、詞云某牧若干、某毛御馬若干、有臣下貢者、同上條。內豎傳奏左右近衛將監、左右馬寮充屬各一人率馬寮號馬留標下、注勝負丈尺。競走畢退、寮近衛兵衛官人率舍人等列來裝束。而騎調馬陣列向射場、騎射訖諸衛更亦騎御馬供奉雜戲。

國飼

凡國飼御馬者、山城國六疋、（左寮）大和國五疋、（右寮）河內國六疋、（右寮）攝津國十疋、（右寮）伊勢國十疋、（左寮）近江國十疋、（左寮）美濃國十疋、（右寮）丹波國五疋、（左寮）每年預前五月五日節差專當國司牽進。

青馬

凡青馬廿一疋、自十一月一日至正月七日二寮半分飼之。（一疋五飼。）其粁日秣米五升。大豆二升。灯油一合。奏聞請受。因飼以正稅充之。

凡正月七日青馬結頭鑣一疋（前頭及最後馬尾、俗當額花形　各着錦。）別著金裝、自餘鳥裝。（已上二種、及寮人錦紫兩色小袖。紺絁脛巾、並收寮家。）出用、但轡鞍紺細布（以一端充二疋）結額髮尾、綾絣、臨時請受、其寮人以左近衛充之。着本府青摺衫末額寮小袖。第一者紫袍。自餘緋袍。同收寮家。

蕃客

凡若蕃客入朝之日、着寮緋紫袍。（第一者紫袍、自餘緋袍。同收寮家。）其前陣、左近衛舍人、次左右寮頭、次馬七疋、次左右允、次馬七疋。次左右屬。次馬七疋。次左右助、次後陣右近衛舍人。（近衛裝束見各本府式。）

凡蕃客乘騎唐鞍寮家掌收。若有壞損、隨即修理。其馬子簡飼丁容貌端正者充。（大使副使各四人、判官錄事各二人、使丁各一人。）其裝束、黃袍汗衫調布袴革帶布襪長緒幞頭巾子麻鞋、並請受大藏、事畢返上。但幞頭巾子襪麻鞋不在此限。

衛府馬牛

凡馬牛分充衛府者、左近衛右將馬二疋、（權同一疋）放飼一疋。左兵衛行夜二疋、（權同加鞍并衛士。每夜充之。）左衛門牛四頭。其櫪飼充秣草。牛亦充草。

撿非違使馬　寮用　父馬　馬藥　車　釜　皮　馬引具

〔[illegible]〕[illegible]に對して、牧場に放し飼ひにせるを云ふ。

〔屋形〕車蓋を云ふ、家の形に造る故に名付く

〔秣豆〕馬草や豆也、共に馬糧に供するものを云へり、秣は說文に「食馬穀也本作䬴、今借作秣」とあり。

〔鑣〕集韻に「同鏣銀鑣也」とあり、卽ち鑣と鑣と相貫きて連條をなしたるを云ふ。

凡撿非違使馬四疋、並飼。其冬月便割左衛門乾芻內四百斤充之。右寮割右衛門芻充之。
凡頭已下、史生已上、聽騎用放飼御馬、各一疋。
凡應放父馬者、其錄色數、奏訖卽申官施行。
凡馬藥每季胡麻油一斗二升五合、樓椒油六升二合五勺、猪脂三升二合五勺、硫黃一升六合、每年作馬蹄料紙二顆。並申官請受。但麻大四斤、干薑小十斤、奏請隨用盡請、不限年月。
凡車五兩、屋形五具、鞦五具料、纈染調布四端、其別二丈七尺五寸纏絲大二分四銖、敷茵五枚、並支度、三年一申官儲備。但車油一斗八升、每年請受。其鋼取舊廻充料。隨損乃請、不必限年。
凡煮秣豆釜一口、若有損壞、申官、返舊請替。
凡養馬牛皮者、以其皮充鞍調皮并籠頭等料。唯御鞍料牛皮七張半分內藏寮。年中神事料馬皮一張充木工寮。騎射的料馬皮各二張充近衛兵衛等府。其除年中用之外、賣却充寮中用。
凡櫪飼馬籠頭鑣、若有破損者、取諸國貢馬籠頭鑣充用。
凡櫪飼馬每年料續料熟麻三斤、分爲三度、疋別一斤。申官請受。
凡剗槽者、十疋充二口。方一丈、深二尺、若有壞損、莫加修理。刷梳疋別各一枚、剗二疋一枚、並有破壞、斟量充之。但礪寮採備之。
凡馬底板者。廣一尺。厚六寸。長一丈一尺。疋別十枚。櫪長一丈六尺、以一艘充二疋。若有朽損者。申官修理。但底板亦令諸國採進。
凡馬水桶杓杁帚及炬苫寮斟量儲充。

〔牧監〕御牧の長なり、令に牧長と云ふ。
〔別當〕武藏國に限りて牧長を稱せり。
〔鳥飼〕今の島下郡上中下鳥飼諸村に亘りて稱せり。
〔豐島〕今の豐島郡牧村也。
〔爲奈野〕今河邊郡猪名村也。
〔甲賀〕今甲賀郡牧村也。
〔胡麻〕今船井郡胡麻村也。
〔垂水〕今明石郡垂水村也。
〔小名庄〕和名抄に「越前國足羽郡小名」の郷あり。

凡騎士十人、隨其才移兵部。勘籍即預寮考。若無故不上者還本。其衣服夏冬二季申官。

凡馬部卅人取負名入色者充之。

凡甲斐信濃兩國牧監左寮。武藏國別當。上野國牧監右寮。各換功過上日寮考。十一月卅日以前移兵部省。

凡官牧馬帳甲斐國信濃上野附牧監、武藏國附別當進寮。寮勘損益移主計寮。

凡非色之人所著用緋鞦者。勘收以充寮用。

凡放播磨國家島御馬。寮直移國放繫。寮別卅疋。從當年十月始放飼。來年三月下旬繫取。其路次之國各充使等食并牽夫遞送。

攝津國鳥養牧右寮。豐島牧右寮。爲奈野牧右寮。近江國甲賀牧左寮。丹波國胡麻牧左寮。播磨國垂水牧左寮。

右諸國所貢馬牛。各放件牧。隨事繫用。

大和國京南庄、并率川庄墾田卅四町一段一百卅五步。佃十六町一段一百卅五步。攝津國二町。信濃國一百八十四町五段二百五十三步。越前國少名庄卅五町八段二百九十六步。佃十町。播磨國一町。

右左馬寮每年依件營種。自餘皆收地子以充秣料及雜用。其遠國地子者、交易輕物進寮、運功便割其內。

但信濃國馬冬蒭并貢馬籠頭料亦用地子。所殘交易進之。

大和國京南庄一處。墾田卅四町一段一百卅五步。佃十六町一段一百卅五步。與栗栖庄一處。地十五町。栗林一町。信濃國一百八十四町五段二百五十三步。越前國桑岡尾箕兩庄卅五町八段二百九十六步。佃八町。播磨國一町。

右右馬寮竝准上條。

諸國每年進秣䉼。

〔畠蒭〕蒭畠に栽殖したる馬糧の草也

〔野蒭〕野生の馬草也。

〔蒭畠〕蒭と畠也、畠には蒭畠を云ふ、蒭を耕作する爲に置く、蓋し、馬を飼ふ置所、馬寮之れを督す、

〔閑月新〕左右馬寮の御監各一人

〔諸衛營〕各其の所屬の廐畠を掌れり、これ

〔廐畠〕を「ゴケン」とも「ミカン」とも云ふ、後世には近衛大將の兼任となれり、上代の馬養部等は、此の遺蹟にて、令に馬飼造あり、元明天皇の朝始めて、御監を置く。

近江國米百九十斛、備前國大豆八十斛。

右左右馬寮所申、正月春備、并交易充之、若有未進者、毎年十二月卅日以前具錄其數進官、官下所司拘調帶返抄。

播磨國米百五十斛。阿波國大豆八十斛。

右右馬寮新亦准上條。

諸衛府幷國年新蒭。

左近衛府四千斤。左衛門府八千斤。左兵衛府三千斤。山城國六千八百卅三斤、（畠蒭五千八百斤、野蒭一千卅三斤。）攝津國千斤。

右左馬寮年中蒭新、右寮准此。

凡閑月新御馬蒭者、申官令畿内國進之。

凡諸衛府營作蒭畠、二月耕種、七月以前苅收、不得申草損。

山城國美豆廐畠十一町、野地五十町餘。

右一寮夏月簡御馬不肥者遣飼。亦諸祭新馬同令放飼。

畿内畠

山城國十四町六段一百八十歩。大和國二町五段。

右左馬寮毎年耕營。充年新蒭不足及寮雜用。

山城國十四町六段一百八十歩。大和國二町五段。

右右馬寮並准上條。

公廨　〔飼戸〕馬寮の所管にして、御馬飼育を擔當する家族也、令には「飼造戸、左二百三十六戸、右二百三十戸、馬甘（馬飼の義）左右三百二戸」と見えたり。

飼戸

造御鞍　〔鞍橋〕和名抄に「鞍橋、久良保禰、一云鞍瓦」とあり鞍の一部分にて、前後輪と山木とを云ふ。

〔障泥皮〕馬具の一馬の側腹を被ふに用ふ、和名抄に「障泥、和名、阿布利、鞍飾也」とあり。

公廨田大和國七町。山城國三町。左馬寮五町。右馬寮五町。

右宮人公廨若有ニ不仕輩一者充ニ寮中雜用一。

飼戸。

山城國六烟。大和國卅烟。河内國一百八烟。美濃國三烟。尾張國九烟。

右隷ニ左馬寮一。毎年當國計帳進レ官。官先下ニ民部省一令レ勘ニ損益一。乃下レ寮。

右京職三烟。山城國五烟。大和國卅九烟。河内國五十一烟。攝津國十六烟。美濃國三烟。

右隷ニ右馬寮一。並准ニ上條一。

凡飼戸計帳者。國司毎年勘造進レ寮。其絶戸田毎年賃租送レ官。

造御鞍一具料。

鞍橋（クラボネ）一架。奏請。打立。内匠寮造送。韉皮。奏請。障泥（アフリ）皮。數隨ニ大小一。紫革四條。各長二尺已上。廣一寸。鞍橋料。並請ニ内藏寮一。結ニ緋革十條一。鞍貫鞘緒著レ韉（クラシキ）障泥結料。牛革四條。各長四尺已下二尺四寸已上。廣三寸已下一寸已上。鐙靻并力革料。並請ニ大藏省一。錦三尺二寸。二尺二寸鞍褥表料。一尺脊櫲端料。紫絲大一斤六兩一分四銖。一兩二銖鞍褥料。一斤五兩一分二銖鞦料。一兩韉料。一兩二分四銖脊櫲料。并請ニ内藏一。緋帛二尺二寸。鞍褥裏料。練絁二丈三尺四寸。四尺四寸鞍褥料。七尺脊櫲料。一丈二尺輕鞍料。細布二丈八尺四寸。四尺四寸鞍褥料。七尺脊櫲料。五尺小腹帶料。一丈二尺輕鞍[料]。信濃調布一丈六尺五寸。一丈三尺障泥裏料。三尺五寸脊櫲料。商布一丈七尺九寸。四尺四寸鞍褥料。七尺脊櫲料。六尺五寸韉料。生絲大二兩。一兩韉料。一兩脊櫲料。苧大二兩二分。一兩四銖鞍褥韉料。一兩一分二銖脊櫲料。一鐵三延半。一延鑣料。二延半鐙料。和炭十石。三石鑣料。七石鐙料。漆一升三合五勺。一升二合障泥料。一合鐙料。五勺鑣料。並請ニ大藏省一。擲九把。四把韉料。五把脊櫲料。請ニ大膳職一。東席一枚。一枚鞍褥料。一枚脊櫲料。並請ニ掃部一。作縫工單六十六人。鞍褥三人。韉四人。脊櫲五人。貫鞦廿二人。鑣十人。鐙七人。障泥二人。靻一人。絡ニ鞦料絲一女十二人。食料工別日一升六合。女一升二合。

〔新〕六所共に雲本により補ふ。

〔唐鞍〕美麗に装飾を施したる鞍、他に勝れて美麗はしき鞍なるを以て名付く、唐「カラ」はすべて、古勝れたるものに冠せたり、必ずしも、唐より傳來の意に非ず、此鞍、御禊行幸の時、節下の左大臣一ノ上の乘鞍なり、又賀茂祭の使も乘用すと云ふ

尺。六尺構折。七尺脊縢折。生絲一兩二銖。一兩構脊縢折。二銖接繫折。練絲大一斤六兩一分二銖。一兩脊縢折。一分二銖繫折。一斤五兩二兩一分二銖。兩一構折。一兩一分二銖脊折。鐙鐙新鐵一廷。和炭一石。作鐙。鐙折。鞦裏馬革准長。漆五合五勺。一合三勺鞍折。二勺鑣折。五勺貫鞘折。三五勺鐙折。東席一枚半。構九把。持壁五勺。請圖書寮。櫻樹油一升。塗馬皮折。請主殿寮。黃三斤。染繫折。請大藏省。縫備功單卌一人。其功食准上條。

凡唐鞍者、十年一度作替五十具。其十具用舊樣。但唐鞍隨損臨時申官修理。

延喜式卷第四十八

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第四十九

〔兵庫寮〕左右あり、唐名武庫署、大内裏安嘉門の西方、諸陵寮の東方にあり、兵庫の儀仗及び兵器の出納を掌る、勅により兵器を請ふ者あれば、覆奏して渡すを職とす。

〔寶幢〕「はたぼこ」也、烏形幢、日像幢、月像幢・鷹像、幢等の種類あり。

〔烏像幢〕幢に五彩を以つて雲の形を畫き更に金銀の烏を臺に据ゑて頂上に載す、臺の圍りは纓絡を以て飾り幢の柄は黒塗也。

兵庫寮

ツハモノ、クラノツカサ

凡元日及即位構建寶幢等者、預錄色目牒送兵部。前十五日復請夫單卅人、各日飯五升、鹽二勺、鍬十五口。事訖返上。待官符到、寮與木工寮共建幢柱於太極殿前庭龍尾道上。前一日率內匠寮工一人、鼓吹戸卅人、構建寶幢。從殿中階南去十五丈四尺建烏像幢。左日像幢、次朱雀旗、次青龍旗。此旗當殿東頭楹。右月像幢、次白虎旗、次玄武旗。玄武旗當西頭楹。相去各二丈許。與蒼龍白虎兩樓南端楹平頭。訖並返納。

大儀

凡大儀立鼓鉦者、太極殿東南閣內大臣幄西南去一丈立鉦。又南去一丈立鼓。鉦加角槌一柄。鼓木槌二柄。並有簨簴。下皆准此。擊人各一人。長一人。用寮頭着朝服。以下皆准此。次會昌門外東去九丈、自廊南去五丈立鉦。又去一丈立鼓。用允為長。次栖鳳樓西南角壇以西相去一丈立鼓。以北相去六尺立鉦。用少屬為長。次朱雀門內東去十丈、自垣北去七丈立鉦。又去一丈立鼓。用大屬為長。所須鉦鼓簨簴槌等、預前申請用。事訖返上。

分配夫

凡大儀分配擊鉦鼓人及執夫者、太極殿及會昌門以外二門別擊鉦鼓人各一人。執夫四人。中務擊鉦鼓人各二人。執夫八人。諸衛別擊鉦鼓人一人。執夫四人。執纛四人。左右衛門府執纛夫各十六人。執戟四人。大儀擊鉦鼓人著平巾冠。漆[illegible]開頂緋大纈袍絛褌子帛博帶長五尺。廣四寸。以布為心。以帛為表裏。其二端各著細帶。長各五尺。大口帛袷袴白布襪烏舄。執鉦鼓夫著皂縵頭巾皂縵末額緋大纈袍白布帶長八尺。廣四寸。四重為疊。白布袴緋布脛巾鞋並收寮庫。臨時出用。但分配中務衛府擊人執夫裝束者、省府充之。

〔鉦鼓〕樂家譜には、鉦及び鐃なる者あれど鉦鼓なし鉦と鼓とは別にて鉦は軍器なり、本邦音樂に金聲なし、故にこれを假りに樂器とし鼓と稱せしか、と云へり。

〔雙聲〕一打に餘音を數打の如く響かしむる打方也。

〔花槍〕武家名目抄に、儀仗の矛にて鋒先に花形を付けたるものならんと云へり。

〔纛〕纛は軍中の大旗也、巢韻に「纛軍中大旗也」とあり。

〔度〕雲本に據りて補ふ。

鉦鼓節

凡大儀擊鉦鼓節。群官陣列畢。閤外大臣仰兵部省。省令寮擊外辨鼓。平聲九下。諸門依次相應。（殿下鼓不應。）開門畢寮頭進中閤内大臣令擊殿下喚鼓。雙聲九下。諸門依次相應。群官入就位。畢殿下擊警御座帳鉦。平聲三下。（諸門鉦不應。）禮畢擊下帳鉦如初。即殿下擊退鼓。雙聲九下。諸門依次相應。群官退出。訖外門擊鉦五下。諸門鉦依次相應。（殿下鉦不應。）然後諸衛擊退隊鼓。（事見衛府式。）

大射

凡大射建纛幡者。鳥羅十二旒。旒別張竹二株。著鈴二口。帛巾二條。（六旒赤。六旒緋。各長八尺。廣八寸。）阿膠幡十二旒。各著柄。（左第一紫色。次深緑。次緋。次緑。次黄。次淺緑。右方准此。）花槍廿口。幡廿旒。旒別著柄。（建兵部及寮官人等率工。）預前十日移送兵部木工寮。於豐樂殿之前量定步數。便建標杭。當日質明列建纛幡。訖即返上。其所須木綿黑葛請受大藏。大甞第一第二侯。侯別鉦鼓各一面。（並在之傍。）引鉦一面。（在射頭南左邊。）外辨鼓一面。擊者各一人。射手人等列立。訖擊外辨鼓平聲九下。即擊喚群官鼓雙聲無算。群官就座。擊鉦平聲二下乃止。（並便用第一侯鉦鼓。）射手人入。引鉦在前。且擊且進。鉦留庭中。第一射手將至射位。擊鉦二下。引鉦聲止。還而退出。射手依次就位射之。若中的者擊鉦。外院一下。中院二下。内院三下。如著侯者。度別擊鼓一下。射畢擊鉦三下。訖擊退鼓。雙聲無算。群官退出。畢擊鉦五下。（若射手未盡唯三下。）

行幸

車駕行幸執纛一人。（騎馬。牧子二人執轡。）著皂・末額緋大纈袍布汗衫帛袴布帶鞋行縢。執纛綱二人。著桃染布衫布袴布帶。執戟一人。（從執纛人。）執鉦一人。執鼓二人。以熊皮蓋鉦鼓。擊者二人。（已上服色同執纛人。）鉦鼓師各一人。（騎馬。服色同執纛人。）寮官二人。著公服行縢。（騎私馬。）並陣大臣前。其所須裝束。申官請受。事訖返上。

行幸擊鉦鼓節。其日質明寮承大臣命擊動鼓三度。度別平聲九下。即裝束訖擊列陣鼓一度。平聲九下。諸司陣列訖擊進鼓三度。（初擊細聲。漸登大聲。）度別九下。次擊行鼓三度。度別雙聲二下。（陣列或遲相承擊之。）御行宮擊靜陣鉦三下。（還本宮亦如之。）次擊喚隊司（謂諸衛次官已上。）鼓三下。訖擊解陣鉦五下。並諸衛相應。

〔具〕三和名抄に「鼓、和名、都々美、黄帝臣、岐伯所レ作也」とあり、古事記傳に「古に凡て鼓と云ひしは、今の世の大鼓のことにて、今鼓と云ふ物は、鼓の中の一種なり」とあり〔大歌〕五節の時、舞妓殿上人等の奏する歌曲を云ふ、續萬葉論に「大歌は、おほやけうた也」とあり。〔一撿〕本は京貞二本に據つて削れり。

儺鼓　大儀鉦鼓　御齋會　節會夫　鼓吹　損甲　雜器仗　大歌　御弓

年終行レ儺者。鼓十二面付ニ左右京職一。（職別六面、撃者各一人。夫一人。但夫馬具行。）

大儀及行幸諸衛府所レ須撃ニ鉦鼓一人及執夫、本府臨時具錄ニ其數一申レ官。然後分配。

毎年正月講ニ最勝王經一所。充ニ鼓吹夫卅人一。（駈使七日）

凡節會日、大歌雜樂器令ニ養夫運一。

凡出ニ充諸衛及中務省一元日儀仗、並待ニ官符一充行。

凡鼓吹雜生習ニ業一所レ須。鉦一口、大鼓一面、楯領鼓一面・多良羅鼓四面。答鼓一面、大角廿口、小角卅口。大笛四口。緋幡二管。鉦鼓臺九脚、並待ニ官符一充レ之。

凡破損甲。毎年五十領。待ニ官符到一。請レ新修理。卽返ニ納本庫一。

凡諸國樣器仗。皆先進ニ兵部一。卽與ニ寮官一共加ニ「撿」一。校閱御覽訖乃勘收。（事見ニ兵部式一。）

凡器仗應レ須ニ曝涼一者。預移ニ兵部一。諸司兵部就レ庫監曝。十日內令レ了。曝涼隨レ時辨ニ置異所一。所レ須人力寮申レ官。官仰ニ衛門府一。奏聞然後充レ之。

凡六月十二月大祓太刀并弓箭等。隨ニ官符到一卽充。

凡出納雜器仗者。皆寮官隨レ事覆奏。訖與ニ諸司一出收。

凡伊勢太神宮祭所レ須。女鞍一具。毎年造備。九月五日送ニ神祇官一。其料牛革一條。（長五尺。廣二尺。）申レ官請受。（但打立受ニ木工寮一。自餘料物見ニ藏寮式一。）造功十五人。（採材五人。作十人。）但廣瀨龍田祭鞍隨レ損作送。

凡御梓弓一張。以ニ寮庫弓一充レ之。（修造功五人。）箭四具。一具角太伊多都伎。一具角細伊多都伎。一具木太伊多都伎。（一具[illegible]庸伎。各五十隻爲ニ一具一。具別功五十人。）鞆一枚。（功一人。）其料桑三分四銖。（弦料。）鹿角一隻。（弭料。）長木賊小一兩三分。（料。鑄レ弓）箆二百廿隻。（廿隻損分。）大和國十一月以前進納。雉羽四百廿隻。（廿隻損分。）受ニ進物所一。

〔伊多都伎〕和名抄に「平題箭云々、鏃不鋭者、謂之平題、和名、以太都岐、郭璞曰題猶頭也、今之射也」とあり、總べて切先の鋭からぬ鏃を付けたる箭を云ふ。

〔鞆〕和名抄に「韝和名止毛、楊氏漢語抄、日本紀等、用鞆字、亦俗用之、本文未詳、在臂避弦具也」とあり、弓を射る時に左臂に付け、弦の手に觸るゝを防ぐ具也。

〔[illegible]〕貞丈雜記に「まゝきや云云、眞卷弓に取り付くる矢なるべし、征矢の類に非ずして、的矢也」とあり。

〔料〕例により補ふ。

鹿角木末各五十四隻。伊多都伎料。熊革一條。長九寸、廣五寸。牛革一條。長五寸、廣三寸。鐵十二兩二分。熟銅三分。已上鞆料。用寮家物。漆一合九勺二撮。漆箭并金漆二合。黃箭料。生絲小二兩一分。纏箭并鞆料。生絁五寸。調布五寸。白綿小二兩。已上絞漆料。木綿七兩。纏箭料。弓袋料紫表緋裏帛各一條。各長一丈一尺三寸、廣八寸。鞆袋料紫表緋裏帛各一條。各長二尺三寸、廣一尺一寸。縫紫絲二銖。纏弭料緑組一條。長四丈五尺。纏弓弦料緑幅一條。長六尺。鞆緒料紫組一條。長二尺五寸。塗金漆横二合。納弓箭料。漆塗簗一隅。安弓箭櫃料。其料物每年申官請受。正月七日供進。事見儀式。但簗就內藏寮請受、永收寮家臨時出用。

大祓横刀

凡三年大祓横刀八口。金裝二口、烏裝六口。其料鐵廿四斤。口別三斤。熟銅四斤。鍊金一分。銀一兩。水銀一兩。鹿革八條。各長二尺五寸、廣四寸。生絲小十五兩。纏柄料。漆八合。膠四兩。已上鞘料。當藥五合。瑩刀料。胡麻油一合。洗刷料。生絁一尺五寸。調布一尺五寸。白綿小九兩。已上拭漆料。伊豫砥一顆。龜砥二顆。藁八圍。已上磨刀料。作功一百五十人。金裝口別卅六人、烏裝口別廿三人。請料造備。六月十二月廿八日進神祇官。

大嘗會

凡踐祚大嘗會新造神楯四枚。各長一丈二尺四寸。本闊四尺四寸五分。中闊四尺七寸。末闊三尺九寸。厚二寸。丹波國楯縫氏造。戟八竿。各長一丈八尺。紀伊國忌部氏造。其料黑牛皮八張。各長八尺、廣六尺。掃墨一斗三升六合。楯別二升八合、戟別三合。膠一斤十二兩。以二兩和酒六升八合。以二升和掃墨三升。商布四段四尺。裏料。楯別二丈六尺。糯米六升二合。着裏料。漆二合。燒塗料。商金四枚。長各四尺、廣五寸、厚一分。料鐵卅九斤十二兩。和炭十二石。工十二人。手力十二人。六寸平釘六十四隻。楯別十六隻。料鐵十六斤。和炭五石。工五人。手力五人。二寸平釘七百八十隻。楯別百九十五隻。料鐵廿四斤六兩。和炭十一石五斗。工十九人。手力十五人。戟鋒八隻。料鐵廿六斤八兩。和炭十二石。工廿人。手力十二人。食料一人日米二升。鹽二勺。海藻一把。醬滓二合。功錢隨時。其數並申官請受。

梓弓一張(長七尺六寸。槻柘弓准此。)長功十五日、中功短功遞加一日。削成三日。(一日小斧削。二日鐁。)作本一日。瑩理一日。造弭角裁韋纏弭漸理桒續弦著弓一日、勾木合熟三日、塗漆三遍、毎遍乾二日。造弭角長功日十枚、中功日八枚、短功日六枚、裁弭韋長功七十條、中功六十條、短功五十條、纏弭長功卅五張、中功廿五張、短功十五張、漸理桒續弦長功五條、中功四條、短功三條。

征箭五十隻、長功廿二日大半、中功廿五日。短功廿九日。篦截大半日。削節洗磨一日。精揉一日。精磨半日。漸理羽搓線二日、着羽一日、造管一日。初漆幷乾一日、中漆一日。乾一日。裁羽大半日。次中漆一日。乾一日。花漆一日。乾一日。削箭本搓線纏一日。打箭鏃錯磨二日。着箭鏃一日、漆本三遍。毎遍乾一日、金漆箭鏃乾一日。

烏裝横刀一口。長功廿一日、中功廿五日、短功廿八日、打坏一日。(手力一人。)鉸渠合棄並打刄二日。(別手力一人。)剪幷錯一日、麁砥磨一日、熔幷中磨一日、精磨一日、瑩一日。鐫鞘裹革一日、元漆三遍、毎遍塗乾一日。中漆二遍。毎遍塗乾一日、作鉸具二日、麁錯精錯幷熔塗漆二日、搓線幷纏柄中漆一日。梢鞘花漆一遍一日、着鉸具及柄二日。

挂甲一領、(札八百枚。)長功百九十二日、中功二百廿日、短功二百六十五日。打札廿日、麁磨卅日。穿孔廿日。錯穴幷裁札卅五日、錯稜十三日。砥磨青砥磨幷瑩卅日。横縫幷連七日。縫頸牒幷纔著二日。著縁一日。擘拘幷裁韋四日。(擘拘有手力。下同。)中功日打札廿三日。麁磨卅六日、穿孔廿三日。錯穴裁札五十二日。錯稜十五日。砥磨青砥磨幷瑩卅六日。横縫幷連八日。縫頸牒幷纔著二日。著縁一日。擘拘幷裁韋四日。短功日打札廿七日。麁磨五十六日。穿孔廿八日。錯穴裁札六十三日。錯稜十八日、砥磨青砥磨幷瑩五十六日、横縫幷連九日、縫頸牒幷纔著二日。著縁一日。擘拘並裁韋五日。

修理挂甲一領、漸、漆四合、金漆七勺六撮。緋絁二尺五寸。緋絲三銖、綵五銖。調綿一屯六兩。商布一丈三尺。洗革

〔梓弓〕梓の木にて造りたる弓也、梓は、和名抄に「梓、和名、阿豆佐、木名、楸之屬也」とあり、今赤芽柏と稱する木なるべしと云ふ。

〔弭角〕弭に付くる角也、弭は「ユツカ」(弓柄)と訓む、一に握(ニギリ)とも云ふ、弓幹の中央の、手に執る處を云ふ、其の角は其處へ餝りに用ひし也。

〔征箭〕和名抄に「征箭、曾夜」とあり、「直矢(スグヤ)」の義にて、雁股、尖矢等に對する名也、常に戰陣に用ひる矢の稱也

〔掃墨〕和名抄に「掃墨、和名、波伊須美」とあり、油烟を掃き落してとりたるもの、膠を和して、墨に製し、又は酒、漆等に和して、塗料とす、重量甚だ輕き故に「カルメ」とも云ふ。

〔大門楯〕

〔雜工戸〕

〔驛傳牧等死馬〕驛馬、傳馬、牧馬の死せるものゝ意也

〔弩〕和名抄に「弩、和名、於保由美」とあり、大弓の義、弓の甚だ大なるもの、數十人にして發するものあり、其の製法久しく絶えて今傳はらず、神功紀に始めて此の名あり。

四張半。掃墨一合。馬革一張半。絲一兩三銖。單功卅一人。

凡諸國所進修理甲料馬革者。尾張六張。近江十七張。美濃廿四張。但馬十一張。播磨卅二張。阿波十張。並以驛傳牧等死馬皮熟而進之。若不足者。買備濟數。

造弩一具。單功六百卅三人。爲丁十二人五十分丁之卅三。

建大門楯六枚。戟十二竿。若有破損者。待衛門府移寮即修理。其料物隨損多少請受。

雜工戸。

左京廿五烟。今絶戸。　右京卅九烟。今絶戸。

大和國六十九烟。　攝津國五十烟。

河内國七十一烟。　和泉國五烟。

伊勢國四烟。　尾張國四烟。

遠江國廿烟。　近江國十八烟。

美濃國卅二烟。　丹波國七烟。

播磨國四烟。　紀伊國廿六烟。

右雜工戸免調庸。每年自十月一日至二月卅日役使。雜作人別不得過五十日。其役分物每年附貢調使進之。但攝津國有馬郡羽束工戸役十五日。不免其調。若有絶戸。其口分田准價賃租。充雜工食。不給公粮。

凡雜工部廿人簡取戸内百姓藝業勝衆者。移兵部省勘籍補之。

鼓吹戸。

山城國七十五烟。　攝津國二烟。

河內國廿三烟。烟別六丁。

右起十月一日盡二月卅日。以十人爲一番。番別卅日。更代敎習。若有破除隨即補之。其始終并日申官待報。三月一日錄官并兵部省官人就省簡試能不。記乃放却。

凡鼓吹戸計帳之日。留已上一人到國。與國司共以中上戸充之。莫令他役。長上四人。大小角鉦鼓各一人。

凡鼓吹部者。簡取戸內百姓才業秀衆者。移兵部省勘籍補之。大角生十人。小角生八人。大笛生二人。鼓生十人。鉦生四人。

凡鼓吹生等年料。万病藥神明膏百毒散茯苓散各一劑。清酒五斗。並申官請受支給。

鼓吹戸

〔大小角〕大角、小角也　大角は、和名抄に「大角、波良乃布江」とあり戰爭に用ふる會圖の笛也、小角は、同書に「小角、久太能布江」とあり竹筒の如き形の笛にて、これも專ら戰場に用ふ。〔鉦生〕鉦の擊手也　鉦は、說文に「鐃類也、似鈴柄中上下通」とあり、又玉篇には「鉦以靜之、鼓以動之、一云鐲也」とも云へり。

延喜式卷第四十九

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衞大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

延喜式卷第五十

雜式

〔稽首〕頭を下げて拜をなすこと、拜の一種、古語ヌカヅクと云ふ、釋氏要覽に「稽首、謂屈頭至地、故云稽首、稽留少時也、此卽周禮九拜之初拜也」とあり。

〔跪拜〕座拜に對して云ふ、跪きながら拜するを云ふ。

〔晷景〕日影に同じ、晷は、說文に「日景也」とあり、又景は、說文に「光也」とあり、卽ち光のかきらふ也。

鎭害氣

凡諸國鎭害氣者、於國郡鄕邑每年正月上旬日作坑、深一尺。取東流水沙三斛置坑內、以醇酒三斗灌沙。然後以土覆之、大小各隨其土、以柞築之各十七杵、呪曰害氣消除、人無疾病、五穀成熟。

凡太宰府應奏神事者、帥獨署。若帥有故者、少貳以上一人署奏。

稽首

凡御所及中宮東宮稽首、餘皆跪拜、但頭高下隨人貴賤。

凡授位任官及別有恩命者儛蹈。中宮東宮准此。

凡公宴賜酒食、親王以下皆列庭中再拜、謂之謝座。訖行酒人把空盞授貫首人、跪受盞再拜、謂之謝酒。中宮東宮賜宴准此。自餘謝座訖就座後、把巡盞起拜。若三位以上在座者、四位參議同此、五位以上堂上拜、六位以下堂下拜。若四位五位在座者、判官以上堂上拜、主典以下堂下拜。若本司長官在座者、次官堂上拜、判官以下堂下拜。六位長官在座、判官以上堂上拜。次官在座者、判官以下拜准上。若次官六位者、判官主典堂上拜。判官在座者、主典堂上拜、史生堂下拜。

凡諸司公廨限二箇年出擧。其本依數返納、仍以利爲本出息。每年十二月錄定本數、申送於官。交替官長分明付領、然後放還。其處分法者、長官五分、次官四分、判官三分、主典二分、史生一分。若無次官或判官者、止准見官爲差。

度量權衡

凡度量權衡者、官私悉用大。但測晷景、合湯藥、則用小者。其度以六尺爲步、以外如令。

凡未着輦車出入内裏者、妃限曹司、夫人及内親王限温明後涼殿後。命婦三位限兵衛陣。但嬪女御及孫王大臣嫡妻乘輦限兵衛陣。

凡乘車出入宮城門者、妃已下大臣嫡妻已上限宮門外。四位已下及內侍者、聽出入土門、但不得至陣下。

凡大嘗會妃已下三位已上及大臣嫡妻、其烏尾扇聽四位及參議已上嫡妻及女子自持。不得令人執翳。

凡諸司官人或率嫡女及馬宿於曹司、忽有疾病不速出卸、以穢宮中、隨事重科。

凡內外諸司解文不得用薄惡紙。其字必令分明。不得一行過十三四箇字。

凡出納蕃客儲新雜物、遣行事史檢行。

凡故僧正行基泥陽陸雜事者。攝津國司與別當僧共知檢校。

凡細碎事類、不得輙稱勅旨。謂勅旨交易、及勅旨田之類。但中務奉勅、其錄勅狀。申送辨官。施行之日、當言勅旨。

凡遣鑄錢司舊錢、路次國差加丁壯健兒遞送。若致亡失者、令當國司塡之。

凡女官厨年新雜物者、隔三年一充。

凡美濃國互差掾若目一人、令檢按土岐惠奈兩郡驛事、并驛家遞送事。

凡越前國松原客館、令氣比神宮司檢按。

凡諸司及有封所所。不得責取諸國前分。

凡京職諸國造過所者、具錄馬毛尺寸歲齒、依實勘過、以糺姧來。

凡天下百姓、親勤農業、貯積雜穀、救濟窮獨、戶口增長、夫婦和順。名聞鄉里。親疎相識者。長官歷門訪審。的知虛實。具錄姓名年紀。附便使申送官。

輦

〔妃〕令制にて、皇后の次位にありて、天皇の御寢に侍するものを云ふ、二人を以つて定員とし其の位を四品以上と定めたり。

〔夫人〕令制にて、妃の次位にありて天皇の御寢に侍するものを云ふ三人を以つて定員とし三位以上と定む。

〔嬪〕令制にて夫人の次位にありて天皇の御寢に侍するものを云ふ、四人を定員とし、四位五位と定む。

〔必〕京本に據りて補ふ。

諸司解文

出納蕃客儲新

細事類

遣錢司舊錢

女官厨

封前分

造過所

凡國司等各不得置資養郡。

凡國司等就使、及請假入京。過限未還者、錄名申送。若隱忍不告者、事覺之日、准狀科附。

凡公私運米五斗爲俵。仍用三俵爲駄。自餘雜物亦准此。其違路國者、斟量減之。

凡朝使到國。國司不得迎送。各著當色候待國府。但於堺郡司率騎馬子弟四人迎送。服色如常。其充馬子者。五位已上四人。五位已下二人。

凡國司一任之內。不得所部交關。但聽買衣食。其私物運京者。除公廨外不得更加。若有違犯。依法科罪。

凡諸國驛路邊植菓樹。令往還人得休息。若無水處。量便掘井。

凡百姓被雇刈稻之日。不得奪人拾穗。

凡解移者。史生以上隨狀送之。

凡驛使過應致敬者不下馬。若急速不下。

凡難波津頭海中立澪標。若有舊標朽折者。搜求拔去。

凡太宰貢雜官物船。到緣海國。澪引令知泊處。

凡太宰貢御贄使。不得私持他物以致人患。

凡運漕對馬嶋粮者。每國作番以次運送。

凡對馬嶋銀者。任聽百姓私採。但馬國司不在此例。

凡王臣家使。不得到對馬嶋私買眞珠擾亂百姓。

凡王臣家及諸商人船。許出入太宰部內。但不得自此擾勞百姓及糴米買馬。若有違者。依法科罪。

諸國請假　半俵　朝使到國　國司不交關　驛路邊菓　百姓刈稻　解移　驛使致敬　難波澪標　太宰貢物船　御贄使　對馬粮　對馬島銀　眞珠

〔運米〕自家用とせずして、他へ搬出する米。卽ち賣買の用となし、或は租米となすを云ふ。運は證文に「移徙也」と、又正韻に「行也、用也」等とありて、はこび出し又用途に充つるを云ふ。

〔馬子〕馬方に同じ、馬を取り扱ふ者を云ふ。

〔解移〕解狀と移文也、解と移は、同じく公文書の一、官署相互の通達文を云ふ。

凡對馬嶋朝集計帳。並附一使。

凡太宰於兩島樹牌、具題著島名。及泊船處。有水處。幷去就國行程。遙見島名。仍令漂著船人必知有所歸向。

凡太宰貢綿穀船者、擇貫勝載一百五十石以上三百石以下。不著拖進上。便即令習用拖、其用度充正税。

凡監臨主守以官物私自貸若貸人所貸之人不能備償、及身死者、並徵判署之人。即判署亦死後免。

凡國司不乘傳馬。但正税大帳朝集等使乘驛馬。國司新向國乘傳馬。其太宰以管內諸國向府准此。

凡諸國運送須夫。皆以近及遠、均通差充。其發遣之日。及綱典幷初給運粮。先申應差車馬人夫數幷發處時日預定行程。先與前所國郡相知明爲期會。不得預集妨廢生業及致侵冤。

凡國司遷代者皆給夫馬。長官夫卅人、馬廿疋。六位以下長官幷次官夫廿人、馬十二疋。判官夫十五人、馬九疋。主典夫十二人、馬七疋。史生以下夫六人。馬四疋。其取海路者、水手之數准陸道夫。太宰帥七十人以下。少貳以上五十人以下。判官以下卅人。史以下史生十人以下。並量事給之。不必滿數。但依犯解任之輩、不在給限。

凡陸奥出羽兩國。國司幷鎭守府官人已下給遷替料夫馬。但廷任之輩不在此限。

凡鑄錢司官人已下准國司給遷替料夫馬。

凡諸國貢御馬者、路次國馬別差牽夫一人。但長率不在此限。其使牧監別當、幷人別差夫二人馬三疋。馬醫書生等每二人差夫一人。人別馬一疋。

凡山城國宇治橋敷板、近江國十枚、丹波國八枚。長各三丈。弘一尺三寸。厚八寸。山崎橋攝津伊賀等國各六枚。播磨安藝阿波等國各十枚 長各二丈四尺。弘厚並同上。並以正税充新。每年採送山城國。國取返抄、備所司勘會。

〔兩島〕壹岐對馬の二國を云ふ。

〔朝〕貞京二本に據りて補ふ。

〔遷代者〕前國司と新國司を云ふ、他に遷るもの、他より代りて來る者の意也。

〔夫馬〕役夫と傳役に使驅する驛馬を云ふ。

〔宇治橋〕宇治郡と久世郡との郡界（今は久世郡宇治町）を流るゝ宇治河に架す、孝德天皇大化二年始めて架す。

〔山崎橋〕乙訓郡山崎驛を流るゝ淀川に架けたる橋也。

對馬朝集計帳　太宰牌　太宰綿船　國運　遷替夫馬　諸國貢御馬　宇治山崎橋

〔泉河〕木津川の別名、山城國四大河の一、水源を伊賀國に發し、流域十三里、一名輪韓川、甕川、山城川等の別稱あり。

〔菟瀨〕今相樂郡木津町を中心とせる附近一圓の古稱也、和名抄に「山城國相樂郡水泉、（伊豆美）」とある地是也。

凡山城國泉河樺井渡瀨者。官長率東大寺工等。毎年九月上旬造假橋。來年三月下旬壞收。其用度以除帳得度田地子稻一百束充之。

（泉河假橋）

國司上下相牒式。

（國司相牒）

某事

牒云云。今以狀牒。牒至准狀。故牒。

年月日　主典位姓名牒

守姓名

右守在治部。牒入部内介以下。或若守入部内。牒在治部介以下云。撿調物所牒國衙頭介以下報云。國衙頭牒上撿調物所案典等。若長官不在者。以介准守。餘官不在。節級相准亦同。年月日下署者典准此之。

撿調物使　牒上國衙頭

（調物使牒）

某事

牒云云。具錄事狀。謹請進止。謹牒。

年月日　主典位姓名牒

介姓名

右介入部内。牒在治部守。亦掾以下署如令。

諸國釋奠式。

（諸國釋奠）

釋奠二座。先聖文宣王。先師顏子。但太宰府者。先聖先師閔子騫三座。

器數。

籩十六。座別八。竹豆謂二之籩一。其實石鹽乾魚乾棗栗黃榛人菱人芡人鹿脯、

豆十六。座別八。木豆謂二之豆一。其實韭菹醓醢菁菹鹿醢芹菹兔醢筍菹魚醢。

簠四。座別二。外方內圓謂二之簠一。其實黍飯稷飯。

簋四。座別二。外圓內方謂二之簋一。其實稻飯粱飯。

俎六。座別各三。其實大鹿小鹿豕。

樽罍四。座別各二。其實醴齊。

杓四。樽別加レ上。

篚二。座別各一。其實幣幷祭文版。

爵八。座別各三。福酒二。

坫一。亞獻同レ坫。

胙宍俎一。

篚一。

盥罍一。實水。

杓一。

洗一。

爵巾篚一。

〔竹豆〕竹にて造りたる盛物にて、籩を稱す、爾雅に「竹豆謂二之籩一」とあり（本文下註參照）籩は、爾雅の釋器の疏に「籩以レ竹爲レ之、口有二縢緣一、形制如レ豆、亦受二四升一、盛二棗栗桃梅菱芡脯脩膴鮑糗餌之屬一、祭祀燕享所レ用」とあり。

〔菱人〕菱の實也、和名抄に「菱、和名、比之」とあり

〔芡人〕水蕗の實也和名抄に「芡、和名、三豆布々木、一名雞頭草、其實似二鳥頭一、故以名之」とあり

〔玄酒〕黑酒也、白酒に對して云ふ。

〔楸〕諸説あり、梓の屬とも、槐の屬とも云ふ、和名抄には「楸、漢語抄云、比佐木、木名也」とあり。

〔厚〕大學式に據りて補ふ。

〔石鹽〕石の如く固まりたる鹽也、正字通に「鹽種類非レ一、或出二於鹵地一、或出二於井一、出二於崖一、或出二於石一、出二於木一」とあれば、岩石の中に天然に結晶せる卽出二於石一鹽を云ひし也。

〔下〕大學式に據りて補ふ。

幣帛二條。各長一丈八尺。

巾二條。各長四尺。

楸版二枚。書二一座祭文一料。各長一尺二寸。弘七寸。厚六分。

筥二合。盛レ幣料。

炭一斗。燒二祭文一料。

松明卅把。

油一升。廟中燈料。

盞四口。燈盞料。

凡盛レ籩實。石鹽五顆。乾魚。乾棗。栗黄。榛人。菱人。芡人各一升。鹿脯一斤八兩。豆實。韮葅一升。醓醢五合。菁葅一升。鹿醢五合。芹葅一升。兎醢五合。筍葅一升。魚醢五合。簠簋實。稷飯用米六合。黍稻粱飯各用米七合。樽罍皆一斗爲レ量。牲者。皆載二右胖一。前脚三節。肩臂臑節一段。皆載レ之。後脚三節。節一段。去二下一節一。載二上肫骼二節一。又取二正脊脡脊横脊短脇正脇代脇各二骨一以並。餘皆不レ設。若土無者。皆以二其類一充レ之。

儀式。

三獻官三人。守爲二初獻一。介爲二亞獻一。博士爲二終獻一。若守介有レ故。並以レ次差擇。博士有レ故。取二史生以上一擇。

參軍事一人。掌下請謁幷導二引初獻一事上。

贊禮二人。掌下導二引亞獻終獻一事上。

祝二人。掌下授レ幣讀二祭文一賜二福酒一事上。

掌事一人。掌下設二幣神位一及陳二饌器一行中酒禮等上事。
贊唱一人。掌下唐禮諸位及儀式上事。
協律郎一人。掌下執レ麾節レ樂事上。
贊引一人。掌下導二引學生一事上。
執樽四人。先聖二人。先師二人。
洗所三人。一執洗。一執巾。一執爵掌二獻官盥具事一。
執俎二人。掌二賜レ胙事一。
執籩一人。掌同レ上。
執饌十人。掌下奠二俎豆一事上。
前レ享三日。守散齋於廳別寢二日。致齋於廳事一日。亞獻以下預レ享之官。散齋二日。各於正寢。致齋一日。於二享所一。散齋理レ事如レ舊。唯不レ弔レ喪問レ疾。不レ作レ樂。不レ判二署刑殺文書一。不レ行二刑罰一。不レ預二穢惡一。致齋享事得レ行。其餘悉斷。其享官已齋而闕者。通攝行レ事。其諸學生皆清齋於學館一宿。若上丁當二國忌及祈年祭一。改用二中丁一。其諒闇之年雖レ從二吉服一。一從二停止一。
前レ享二日掃二除廟內外一。設二樂懸於廟庭一。又爲二瘞埳於院內堂之壬地一。方深取レ足レ容レ物。南出レ陛。設二守以下次於門外一。隨二地之宜一。
前レ享一日晡後令二健兒守二廟門一。享官以下習レ禮設レ位。贊唱者設二三獻位於東階東南一。每レ等異レ位。俱西面。設二參軍事位於守之左一。差退設二掌事位〔於〕三獻東南一。西面北上。設二望瘞位於堂東北一。當二瘞埳一西面。設二贊引位於西階西南一。

「胙」、注文に「祭福肉也」と見え、爾雅釋天の疏に「胙祭肉也、以二祭之日一復陳二其祭肉一以賓レ尸也」とあり、我國にて「ヒモロギ」（夫木集）ともそうめい膽明」（袖草紙）とも云へり。

〔享〕周禮秋官小司寇の註に「致レ牲也」とあいて、祭りて牲を獻ぐるを云ふ。

〔丁〕大學式に據りて補ふ。

〔內堂之壬地〕內堂の北方の地也、內堂は廟內の意、壬は北方也、註文に「壬位北方也」とあり。

〔於〕京貞二本に據りて補ふ。

〔近〕京貞二本及び大學式に據りて補ふ。

〔莞筵〕ゐぐさにて作りたる席也、周禮にも「設莞筵紛純」などと見ゆ、筵字原本なし、今貞本に據りて補ふ。

〔入〕大學式に據りて補ふ。

〔凡導引者云々〕導引とは、案內の意、參軍事、贊唱、贊引の諸職掌者之れを分掌す。「每一曲」とは、各自分擔の事終る每に也。「一逡巡」とは、後退りする也、案內して位を示し、着席を乞ふ時の揖禮の作法也。

〔俛伏〕首を垂れうつ伏す狀にて、禮容の一也。

當掌事位。設學生位於贊引之後。俱東面北上。設贊唱者位於三獻西南。西面。又設贊唱者於瘞埳東北。南向。設祝二人位於瘞埳西南。東面。設協律郎位於廟堂上前楹之間〔近〕西。東向。設三獻門外位於道東。（每等異位。俱西面。）掌事位於終獻之後。北上。執儐位於掌事之後。重行西面北上。執罍執篚在其中。陳設掌事者以樽坫升設於堂上前楹間。北向。（自東階升。）先聖之樽在西。先師之樽在東。俱西上。皆加冪。（玄酒在上。）坫在兩楹之間。（先聖酒爵一。先師爵三。）福酒爵一。（並在其上。）設篚於樽所。設洗直東榮北向。南北以堂深。罍水在洗東。篚在洗西南肆。實爵三巾二加冪。爵三。（但先聖三獻爵也。）巾二者。（一拭爵所。一執者拭手所。）執樽罍篚者各位於樽罍洗篚之後。享日未明。享特於廚。掌事者服其服。升設先聖神席於堂上兩楹間南向。設先師神席於先聖神座東南向。席皆以莞〔筵〕。饋享質明。諸享官各著當色服。掌事者入實樽罍及幣。祝版各置於篚。贊唱者先入就位。（入自南門。）祝二人與執樽罍篚者入立於庭。重行北面西上。（入自東門。）立定贊唱者曰。再拜。祝以下皆再拜。訖執樽罍篚者各就位。祝升自東階。行掃除於上。降行樂懸於下。訖就門外之位。贊唱者次還門外之位。守將至。贊禮者引享官以下。俱就門外位。贊引學生並入就門內位。協律郎帥樂人次〔入〕自南門。就位。守至。參軍事引之次。贊唱者先入就位。後升自東階。各立於罇後。守停於次。少頃服當色出。次參軍事引守入就位西向立。參軍事退立於左。贊禮者引享官以下次就位。（凡導引者。每一曲一逡巡。）立定贊唱者曰。再拜。守以下皆再拜。參軍事少進守左北面白。請行事。退復位。協律郎跪俛伏舉麾。（凡取物者皆俛伏而取以興。奠物則奠訖俛伏而後興。）樂作三成。偃麾樂止。贊唱者曰再拜。守以下皆再拜。祝俱跪取幣於篚興。各立於樽所。掌事者出帥執饌者奉饌陳於門外。參軍事引守升自東階。入自中戶進先聖神座前。北面立。祝以幣入自中戶。東向授守。守受幣。登歌作樂。參軍事引守進北向跪奠於先聖神座。興少退北向再拜。參軍事引守當先師座前北向立。祝以幣入自東戶。西向授守。守受幣。參軍事引守進北向跪奠於先師神座。興少退北向再拜。（登歌止。）參軍事引守

〔掌事〕釋奠の時、幣帛位を設け、及び樽罍坫爵を陳べ又饌を辨備するを掌る。

〔祝〕釋奠の時幣を授け、祭文を讀み福酒を賜ふ事を掌る。

〔引〕京貞二本及び大學式に據りて補ふ。

〔參軍事〕釋奠の時諸謁并に初獻を導引することを掌る

〔守〕諸國の長官也釋奠の時、三獻の大儀に當り、其の初獻を擔任す。

〔亞獻〕諸國の次官〔郡介〕之れに當る三獻の第二番目に先聖先師に供饌を獻ず、初獻に亞ぐを以つて名付く。

降復位。掌事引執饌入升自東階。祝迎引於階上。各設於先聖座前。〈籩豆簠簋先設乃升。簠簋既奠卻其蓋於下。籩居右。豆居左。簠簋居其間。大籩小籩二組橫而重於右。腥豕特於左。〉訖掌事與執饌者降出復位。掌事引守詣罍洗。執罍者酌水。執洗者跪取盤。興承水。守盥手。執篚者跪取巾於篚。興進。守拭手。訖執篚者受巾。跪奠於篚。遂取爵興以進。守受爵。執罍者酌水。守洗爵。執篚者又跪取巾於篚。興進。守拭爵。訖執篚者受巾。跪奠於篚。興。承盤者跪奠盤興。參軍事引守升自東階。詣先聖罇所。執罇者舉冪。守酌醴齊。樂作。參軍事引守入自中戶。詣先聖神座前北向跪奠爵。興少退北向立。樂止。祝持版進於神座之右。東向跪讀祝文。訖祝興。守再拜。初讀祝文訖樂作。祝進跪奠版於神座。興還罇所。守拜。訖樂止。參軍事引守詣先師酒罇所。取爵於坫。執罇者舉冪。守酌醴齊。樂作。參軍事引守進先師神座前北向跪奠爵。興少退北向立。樂止。祝持版進於神座之左。西向跪讀祝文。訖興。守再拜。初讀祝文訖樂作。祝進跪奠版於神座。興還罇所。守拜。訖樂止。參軍事引守詣東廂西向立。祝各以爵酌福酒。合置一爵。一祝持爵進守之左。北向立。守再拜受爵。跪祭酒。啐酒奠爵。俛伏興。祝帥執俎者進俎。跪減取一座所胙肉。〈各取前脚第二骨。〉共置一俎。又以籩取黍稷飯。共置一籩。興。祝先以飯進。守受以授執籩者。又以俎進。守受以授執俎者。〈執籩者等廻參軍事左。到獻者後受取。隨行到獻者位後立。〉守跪取爵。遂飲卒爵。祝進受爵復於坫。守興再拜。參軍事引守復位。樂作。立定樂止。初守獻將畢。贊者引亞獻詣罍洗。盥手洗爵。訖贊禮者引升自東階。詣先聖酒罇所。執罇者舉冪。亞獻酌醴齊。訖樂作。贊禮者引亞獻進先聖神座前北向跪奠爵。興。贊禮者引少退北向再拜。訖贊禮者引詣先師酒罇所。取爵於坫。執罇者舉冪。亞獻酌醴齊。贊禮者引進先師神座前北向跪奠爵。興少退。亞獻再拜。訖贊禮者引詣東廂西向立。祝各以爵酌福酒。合置一爵。一祝持爵進亞獻之左。亞獻再拜受爵。跪祭酒。遂飲卒爵。祝進受爵復於坫。亞獻興再拜。贊禮者引降復位。初亞獻將畢。贊禮者引終獻詣罍洗。盥洗訖。升酌醴齊。各如亞獻之

〔酒〕貞、京の二本に無し。出雲本に據りて之を刪る。

〔瘞〕原本埳に作る。今出雲本の意に從ひて改めたり。

〔子〕諸本王に作る。大學式に據りて改めたり。

〔從〕諸本禮に作る。今、大學式に據りて改めたり。

引除復位。樂止。各進神座前。跪徹豆籩、還罇所。徹者進豆各一、少移於故處。賛唱者曰、賜胙。再拜。諸在位者皆再拜。已飲福受胙者不拜。凡過者不拜。樂一成止。參軍事少進北面白。請就望瘞位。參軍事引守就望瘞位。西向立。賛唱者轉就瘞埳東北位。初在位者將拜。祝各以篚進神座前、跪取幣、降自西階、詣瘞坎。以幣置於坎。訖賛唱者曰可瘞埳。東西廂各二人、實土半坎。埋訖塡土者以次出。參軍事少進北面白禮畢。遂引守出。賛禮者各引享官以下以次出。初白禮畢、賛門者還本位。祝與執罇罍篚者復廷中位、立定、賛唱者曰再拜。祝以下共再拜。以次出。其祝版燔於齋所。

祝文

維某年歲次月朔日。守位姓名敢昭告于先聖文宣王。維王固天攸縱。誕降生知。經緯禮樂、闡揚文教。餘烈遺風、千載是仰。俾茲末學。依仁遊藝。謹以制幣犧齊、粢盛庶品、祗奉舊章、式陳明薦。以先師顏子配、尚饗。維某年歲次月朔日。守位姓名敢昭告于先師顏子。爰以仲春、仲秋、率遵故實、敬修釋奠于先聖文宣王。惟子庶幾體二。德冠四科。服道聖門、實臻壺奧。謹以制幣犧齊、粢盛庶品、式陳明薦、從祀配神。尚饗。

延喜式卷第五十

延長五年十二月廿六日

外從五位下行左大史臣阿刀宿禰忠行

從五位上行勘解由次官兼大外記紀伊權介臣伴宿禰久永

從四位上行神祇伯臣大中臣朝臣安則

大納言正三位兼行民部卿臣藤原朝臣清貫

左大臣正二位兼行左近衛大將皇太子傅臣藤原朝臣忠平

書新雕延喜式後

本朝之昔。比年聘歲、與中華往來。風化不絕、雖不堪滄溟道有変遷、其德文章以傳于時。其業則法以準擬焉。李唐則
書有四。曰律令格式。令者尊卑之等數、國家之制度也。格者百司之所常行事也、式者其所常守之法也。凡政事由
此三者、若有所違、人入于罪者、一斷以律。其中有祖武德式、太宗貞觀式、高宗永徽式。玄宗開元式、各若干卷。皆
時宰奉敕撰之。

本朝有弘仁貞觀延喜三代之式。蓋準擬而爲之者乎。始創于嵯峨、討論于清和。修飾潤色于醍醐。時貞信公奉詔
與名臣博士等、歷於三代損益沿革、隨時隨宜、以行于世。蓋唐式不可以加也。欲知朝儀者、可不考乎。頃年中原
萃義職忠使曰孫校讎延喜式、清原前給事中兼日藥令賢忠朝臣見而嘉之、歷稔四十九卷共卒。于會劇闕氏求之
鏤梓。其文字鮮明、讀者便焉。但一部五十卷。內第十三卷闕。此一卷既在九條殿下、不能容易啓覽。偶會其有事故
而罷、可勝歎哉。多方求之不克得也。聞尾陽亞相源君嘗寫殿下之本、屢就求以請之、遂得之源君。以其廣世搢後
之可遠及、故聽而出之、於是五十卷全備。可謂幸矣。上之用焉、則
朝廷之法奉於舊章、下之由焉、則百官之職存於有司。矧又令臨時處事者、可以識物名乎。不亦偉乎。何愧唐禮哉。
庶乎使自中華至者見之。知
本朝有所矜式于有道也。若此一卷文字脫落、或有焉、它日參諸異本以補之。可也。然及史之闕文。雖聖人所以闕
疑也、況後學乎。滸中二氏請余書其後弗措、余想二氏者四道家流。其居共一。勉哉、復古之業有待焉。遂書。

慶安元年戊子

戸部法印道春在判

延喜式附錄

〔二〕下文に據りて補ふ。〔本紀〕日本紀也。〔彥〕原文に據りて補ふ。〔西土〕西方の國の意、日向國を云へり。〔太子〕古は天子諸侯の長男を云ふ、漢以後、天子のみに云ふ、名物帖に「春秋之時、天子諸侯嗣子、皆稱二世子一、稱二太子一云、後世則唯天子得レ稱二皇太子一」とあり。〔筑紫日向宮〕高千穗宮を云ふ、今の大隅國霧島山麓に在りしは疑なきも其の確かなる所在は明かならず、或は霧島神宮（始良郡田口）或は鹿兒島神宮（同郡西國分村）の所在地なりと云ふ。

歷運記　今名二公卿記一

天皇五十二代起二神武天皇元年一。至二今上弘仁二年一。歷二一千四百七十〔二〕年一。　男帝卌三。　女帝八。二帝重治二天下一者。　皇后一。

案本紀幷諸書、昔者天津彥〔彥〕火瓊々杵尊初從降始王二西土一。次彥火々出見尊。次彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊。惣三代、經二一百七十九萬二千四百七十餘歲一、並時世遐遠。事迹神異、其于舊記、更不レ煩レ述。但葺不合尊之太子神倭磐余彥天皇年十五爲二太子一。四十五歲甲寅從二筑紫日向宮一船師東征。至二庚申年一平二定中國一。辛酉年正月即二天皇位一。是爲レ元。惣計從二天皇元年辛酉一至二今上弘仁二年辛卯一。合一千四百七十一年也。其天皇元年辛酉准二計漢地年代一。當二周僖王三年辛酉一。周代三十七王。八百十八年。自二武王元年戊寅一。至二僖王二年庚申一。凡十六王四百六十三年。自二僖王三年辛酉一。至二赧王滅年一。凡二十王、四百十年。則自二僖王三年一以降歷二九代百五王。一千四百七十一年也。今都 自二僖王二年庚申一以往、神武元年丁亥以降、則歷二二皇五帝三王一、惣十代。七十九王、加二帝摯及吳一則八十三帝也。二千四百卌四年也。此天皇元年以往漢地歷二年代一之數也。但伏犧氏以前、天皇以還、年代綿邈。更無二詳錄一。案二帝系譜等諸書一、惣歷二八代九百六十八萬餘歲一。既非二經史一。未レ爲二實錄一。聊復存之。以廣二異同一。

大臣五十三人。從二武内宿禰命爲二棟梁臣一至二今二年一。歷二六百九十一年一。經二代四十一帝一。

在官卌五人。大臣七人。大連七人。執政三人。內大臣一人。太政大臣二人。贈太政大臣四人。左大臣八人。右大臣十三人。

贈官七人　贈太政大臣四人。贈右大臣三人。

同朝天之眞宗豐祖父天皇（文武）五年。大寶元年三月罷中納言。同朝九年慶雲二年更置中納言。自此年至今年一百七年。

慶雲二年四月十七日　勅曰。依官員令。大納言四人。職掌既比大臣。官位亦超諸卿。朕顧念之。任重事密。充員難滿。宜廢省二員爲定兩人。更置中納言三人。以補大納言不足。其職掌敷奏宣旨待問參議。其官位料祿准令商量施行者。於時准正四位上官。別封二百戶。資人卅人。勅員依奏。卽以阿倍朝臣宿奈麿正四位下粟田朝臣眞人從四位上高向朝臣麿等三人任之。天平寶字五年二月一日　勅改從三位官。

參議五十九人。

案藤原朝庭天之眞宗豐祖父天皇六年大寶二年始置參議。自此年至今年一百十年。大寶二年五月九日　詔曰。從三位大伴宿禰安麿。正四位下粟田朝臣眞人。從四位上高向朝臣麿。從四位下下毛野朝臣古麿。小野朝臣毛野等。宜參議朝政。本官如元者。養老二年始宜論奏。天平三年十二月四日　勅始給食封八十戶。依延曆八年八月廿日符。致仕之封准減。大同元年五月廿四日改號爲觀察使。畿內七道各一人。加判官主典各一人。弘仁元年九月十日復爲參議。初任四人。正四位下藤原緒嗣朝臣。正四位下巨勢野足朝臣。從四位上秋篠安人朝臣。從四位下紀廣濱朝臣。

神武天皇御世有爪牙之臣。無臣連之任。初　天皇東征之時勅大伴氏遠祖日臣命。帥大來目。督將元戎。遂誅諸虜。忠功尤盛。而未立官號。

和名考異

諸本旁注和名。或同或異。或有或无或誤或不然。又有同物異名。異物同名。蓋當時詳乎可辨。而方今有可

〔阿部朝臣宿奈麿〕比羅夫の子、初め引田朝臣と稱す、慶雲元年改めて阿部姓を賜ふ。

〔粟田朝臣眞人〕姓氏錄に「粟田朝臣天足彦國押人命（孝昭天皇第一皇子）三世孫、彦國葺命之後也」とあり、眞人は好學能文、進止容あるを以て一世に鳴りたり。

〔高向朝臣麿〕姓氏錄に「高向朝臣、石川、同祖、武內宿禰六世孫、猪子臣之後也」とあり。

〔參議〕續日本紀、文武天皇大寶二年五月丁亥の條に「令參議朝政」とあり、同書傍註に「五月丁卯朔」とあれば、丁亥は九日なり、本文之れを引けり。

〔本草和名〕二卷、大醫博深江（一に深根に作る）輔仁の撰、本草内藥八百五十種、諸家食經一百〇五種、本草外藥七十種を、いろは順に列し、一に別名又は割註等を入れたり、勅撰なりといふ、寛政八年丙辰、丹波元簡の序あり、源順の和名抄も之を採れり。

〔康頼〕丹波康頼也、丹波國矢田の醫、天元、永觀頃の人、姓丹波宿禰を賜り、官鍼博士左衞門兼丹波介となる。

〔醫心方〕三十卷、康頼の著、病源候論、主療諸方、本草藥性、明堂養生、服石食餌等を網羅す、永觀二年成功奏進す。

辭者、有不可辭者、名物自異于古、故按之輔仁本草和名、康頼醫心方、雅忠醫略抄、旁及順和名抄、以其合者爲正、不合者次之、諸書合者脚注輔仁和名等云、不下存字者否、又世所傳有康頼和名本草、序云康頼撰、跋云、自明徳元年注釋了、康暦年中從西南寺得和名、載丹波長平長家弘家備前存希益葉益信等名、又有撰字鏡、序云、以寛平四年草已畢、昌泰中再増補加本草文。其所載數有可疑者、故難據以爲證、然諸本所注和名、與之一其可證者及之。

芒硝朴消青礬石白礬石已上肆種、諸本不注和名、礬石、順抄、此間云、閼尺。康頼和名、濱支太宇左。

黄礬石　保於衛伊豆貞享本　案保於恐倒置、諸書不注和名。

滑石　見周防紀伊、諸本及輔仁本草和名醫心方等不注和名、康頼和名御之也久。

白石脂、赤石脂、禹餘粮、已上三種、諸本及諸書不注和名。

水銀　諸本不注和名、案輔仁和名等、美都加禰

雄黄　伎俉貞享本伊勢輔仁和名等同

石硫黄　由保宇貞享本胡黄、順抄由王、案輔仁和名、由乃阿加。醫心方、由乃阿和。和名抄同

石膏　之良以之京本備中、醫心方同　案輔仁和名、无和名。

鍾乳床　諸本及諸書不注和名、順抄醫心方共云、鍾乳和名伊之乃知、案輔仁和名。孔公孽注、陶景云。今鍾乳床也。出備中長門國。

醫心方云、出備中英賀郡。案神名帳同郡有鍾乳穴神社二社。和名本草云、出長門國美牟郡。案民部式。无美牟郡。有美禰郡。　唐愼微證類本草。

陶隱居云、從石室上汁溜積久盤結者爲鍾乳。床即此孔公孽也。

代赭　阿加都知京貞享二本、太宇。輔仁和名等同。案兼名苑、一名赤土。

銅牙　諸本及諸書不注和名。康頼和名、金牙、和名、加古也世支。案陶景云、金牙似粗金。大如碁子而方、又有銅牙。亦相似。但外黑内色小淺。不入藥用。案輔仁和名醫心方共

云金牙出二但馬上野國一。式上野播磨國有二銅牙一以レ之覘レ此。式所謂銅牙者、二書所謂金牙也。

赤箭　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名等云、乎止乎止之。又加美乃也、醫心方云。出二和泉一。式不レ載二和泉國一無レ可レ攷。

但出雲國赤箭一合、他無所見一。

天門冬　須末呂久佐。貞享本。播磨紀伊阿波。○輔仁和名等皆同。醫心方一呂作レ比。須波留久佐。京刻二本殖藥様。案或引レ式云須陪留久佐。未レ知二何本一。

恐波中脱而爲陪乎。須末呂須波留、是叶音。

麥門冬　也末須介　刻本藥様新羅使伊賀。京本藥様遠江。貞享本新羅伊賀○輔仁和名等皆同。

萱草　和須禮久佐　京刻二本藥様○順抄同。案輔仁和名醫心方康頼和名等不レ載二和名一。順抄。又云俗如二環藻二音一。

白朮　於介良　刻本元日中宮齋宮近衞山城駿河。京貞享二本元日中宮山城○輔仁和名等皆同。　宇介良　京本中宮齋宮

女萎　惠美　貞享本備中　案輔仁和名等、惠美久佐　康頼和名云。惠比禰久佐。一名阿末爾　順抄作レ奈　醫心方云、萎、於苑反。

黄精　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名等。也末惠美。一名阿末奈　康頼和名有二久佐二字一　醫心方順抄共於保惠美　康頼美作レ比

地黄　佐保比女　京本元日中宮藥様木工。貞享本臈月。刻本臈月中宮雜給在久佐二字　案輔仁和名等不レ注二和名一。

昌蒲　阿也女久佐　刻本臈月。貞享本臈月山城○輔仁和名等皆同　案康頼和名。一名奴美久佐。

澤寫　奈末爲　貞享本唐使。京本若狹。○輔仁和名等皆同　案輔仁康頼和名醫心方。一名於毛多加。

署預　也末都伊毛　貞享本木工寮○輔仁和名等同　也末乃伊毛　京本木工○康頼和名同。順抄。俗云也末乃伊毛。

黄菊花　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名。加波良於波伎　醫心方同。順抄。加波良與毛木。醫心方。又伎久。字鏡。辛與毛支。

康頼和名无。

〔和名〕本草和名の略也。

〔叶音〕音相通するを云ふ、叶は、玉篇に「古文協字」とあり。

〔順抄〕和名類聚抄の略也、二十卷、延長年中（醍醐天皇御宇）源順の撰也。

〔環藻〕「クワンサウ」也、藻は、干禄字書に「藻、俗作レ藻」とあり、蓋萱草の音讀の假字也。

〔女萎〕和名抄に「女葳蕤、和名、惠美久佐、一云安麻奈」とあり。

〔黄菊花〕和名抄に「菊、本草註云、菊有二白菊紫菊黄菊一、和名、加波良與毛木、一云可波良於波岐、俗云本音之音」とあり。

〔甘草〕和漢三才圖會に「此草治二七十二種乳石毒一、解二一千二百般草木毒一」とあり、又云ふ、「往昔日本有二甘草一、延喜式云々、今絕不レ出、雖二希有一而細硬不レ佳」とあり。

〔宇鏡〕字鏡集也、二十卷、菅原爲長の集、漢字を偏傍により集めたる字書、每字片假名にて音訓を附したり天象、地儀、植物、動物、人體、人事、飲食、雜物、辭字等に分類せり、應永二十四年に成る

〔伊與〕伊豫也。

〔宇止〕「ウト」と訓むべし。

〔升麻〕本草綱目に「其葉似レ麻、其性上升、故名二升麻一」とあり。

甘草 阿末支京本中宮。○輔仁和名等皆同 案康賴和名、之呂不知乃禰。

人參 仁古太久左貞享本萬月齋宮○輔仁康賴和名醫心方同 加乃仁介久左京本中宮雜給近衞。貞享本東宮兵衞甲斐陸奧伊與(輔仁康賴和名順抄醫心方同 案輔仁和名、一名久末乃井、康賴和名順抄醫心方同

石斛 須久奈比古乃久須禰貞享本木工。刻本備後。輔仁和名木石二斛同名。 案伊波久須利刻本渤海使

木斛 須久奈比古乃久須禰刻本伊賀 伊波久須利京本下總備後

牛膝 爲乃久都知京本木工。○輔仁和名等皆同。貞享本囚獄。 爲乃古都知京本山城越前。刻本尾張。 古末乃比左京本木工○康賴和名同 都不禰久左貞享本木工

案輔仁和名、一名都奈佊久左、醫心方都作以 字鏡。一名爲乃伊比。

卷栢 以波久美刻本備中。京本美濃。美作レ爾○輔仁和名等同 案輔仁和名。一名以波古介。同 順抄醫心方。一名伊岐古介。

細辛 比佊乃比太以久左京本萬月雜給中宮齋宮。○輔仁和名等皆同 比佊比太以刻貞享二本齋宮。木工。○康賴和名同 京本 美良乃禰久左貞享本臨月新羅中信濃守後美作主門阿波。京本內匠。刻本美作。○輔仁和名醫心方順抄字鏡同 美良禰久左貞享本雜給越後 美也末奴奈波貞享本元日東宮○康賴和名醫心方同 美乎乃久左京本內匠。案美良禰久左之誤

獨活 都知太良貞享本元日萬月中宮唐使安房丹波美作安藝紀伊伊與。京本萬月木工近江山城越前石見。刻本元日萬月雜給近衞唐使山城伊賀尾張安房越前丹波但馬石見○輔仁和名等皆同 宇止○刻本中宮○輔仁和名等同 无末太良貞享本元日

升麻 止利乃阿之久左貞享本元日萬月中宮雜給甲斐上野美作備前紀伊伊與土佐。京本元日萬月中宮新羅使伊勢越前。刻本元日萬月中宮雜給新羅使攝津尾張甲斐上野。○輔仁和名等同 止利阿之久左京本近衞讚岐○字鏡同 案輔仁和名、一名宇太加久佐、醫心方順抄同醫心方。一名止利乃禰久佐。又於之久左。

柴胡　乃世利京本中宮本工近衞尾張。刻本中宮雜給近衞丹波播磨。貞享本雜給播磨備前阿波。○輔仁和名等同。波末阿加左京本蔣月案輔仁和名等。一名波末阿加奈。順抄。一名阿末安加奈。

防葵　阿乎都々良刻貞享二本蔣月案輔仁康頼和名順抄醫心方等皆云。也末奈須比。而無安乎都々良之名。據和名則防葵卽防己之誤。據防葵卽和名誤。防葵非蔓生。何得都々良之名。

菴蘆子又作菴閭比支末支京本菴蘆、貞享本相模。末支々與毛支貞享本相模我光之支末伎京本播磨案輔仁和名等已上三名光云。比支與毛支。一名波々古。字鏡二名大蓬。

薏苡花　都之太末京本大和○輔仁和名等同都々太末刻本大和○古語拾遺。薏子ノ注。古語以薏曰都須。貞享本音讀。和名光字鏡。玉豆志。

車前子　於保波古京本大和若狹丹波。刻本大和近江若狹丹波。貞享本近江丹波伊與。○輔仁和名等皆同案二本於作乎。貞享本伊與作於。輔仁康頼和名順抄醫心方亦作於。字鏡於保波古乃彌。

充尉子　女波之伎京貞享二本大和。貞享本女誤作太。○輔仁和名等同

青木香　諸本及輔仁和名不注和名。順抄。俗云象日。醫心方木香。和名。佐宇毛久。康頼和名作佐宇毛久佐又輔仁康頼和名共云。出播磨。案後世青木香土青木香混用。此所謂青木香卽眞木香而非土青木香。康頼和名於防已辨青木香者。亦眞土相混。且其文不分明。輔仁於木香云出播磨。於土青木香云唐。是可證當時無以爲土青木香者。又案內藏式民部式。尾張相模美濃別貢中有青木香。

龍膽　惠也美久佐貞享本伊勢若狹出雲美作。刻本伊勢丹後。○輔仁和名等同太都乃波久佐京刻二本蔣月案輔仁和名。一名爾加奈。康頼和名。一名利牟多宇。字鏡太豆乃爲久佐。又山比古奈。

菟絲子　爾奈之加都良貞享本唐使紀伊。京本美濃。刻本唐使美乃。案輔仁康頼和名醫心方。共爾奈之久左。字鏡。爾奈志乃彌。

〔柴胡〕和漢三才圖會に「治傷寒寒熱、爲最要之藥」とあり。

〔菴蘆子〕和漢三才圖會に「菴閭、俗云比木與毛木、子氣味、苦微溫、入足厥陰經血分、治瘀血及產後血氣痛、按菴閭原野有之、用其爲帚耐之」とあり。

〔充尉子〕益母草の果實也、和漢三才圖會に「益母草、茺蔚」とありて「子、甘微辛溫云々、若治厥陰經血分風熱、明目益精調女人經脈、則單用茺蔚子爲良」とあり。

〔芎藭〕和名抄に「芎藭、和名、本草於無奈加豆良、香草也」今、川芎と稱す、繖形科に屬する草、高さ一、二尺、葉は芹に似て香氣強し、秋の頃當歸に似たる形の果實を結ぶ、根葉は共に藥用とす

〔也末阿佐美〕和名抄には「大薊、和名、夜萬阿佐美、生山谷間者也」とあり、薊の一種、或は鬼薊とも云ふ

〔也波良久左〕和名抄に「黃耆、和名、夜波良久佐」とあり、下文に加波良布知は、同書に「萆薢、和名、加波良布知、此俗云蛇結」とあり、今前者を「ワヲキ」と云ひ、後者を「川原藤」と云ひ、別種也。

芎藭　乎武奈加都良（貞享本武藏下野播磨。京本武藏加賀丹波。刻本近江武藏下野丹波。○順抄同）　乎无奈加都良久左（京本萬月齋宮○輔仁和名醫心方同）　乎宇奈加都良久左（貞享本中宮内匠乎宇作手末木工。京本木工、）

續斷　也末阿佐美（貞享本下總美濃。京本下總。刻本美濃○康頼和名同）　波美（貞享本伊與○輔仁和名順抄同。康頼和名醫心方共云波美久左。）案輔仁和名等、一名於爾乃也加良、字鏡。一名牟我多。

黃耆　也波良久左（貞享本渤海使上野甲斐播磨刻本雜給渤海使上野。京本雜給、輔仁和名等同）加波良布知（貞享本萬月）　加波良久左（貞享本唐使。刻本近衞唐使。案加也相誤未可知之。）　爾波良久左（京本近衞）案輔仁和名醫心方、一名加波良左々介、康頼和名、一名加良奥毛支。

蛇床子　比留无之呂（貞享本唐使近江美濃長門伊與阿波。京本相模。刻本常陸相模美濃、○輔仁和名等同。）　比留无之須（貞享本尾張。案須者呂轉誤。）　末伎乎左（貞享本武藏。案在子地唐子次。而和名錯地）　案輔仁和名、一名波末世利、（康頼和名醫心方同）

茵蔯蒿　加良奥毛支（貞享本尾張○康頼和名同）　阿良奥毛支（刻本尾張）　比良奥毛支（京刻二本讚岐）　案輔仁和名等。比伎奥毛伎、字鏡。加良乎波支。

漏蘆　久呂久左（京本齋宮唐使丹波美作。貞享本唐使。刻本唐使若狹。刻京二本萬月雜給、共呂作須誤。○輔仁和名等同。）　阿利久左（貞享本齋宮○輔仁和名等同）案字鏡。奈々美久左。

茜根　阿加爾（貞享本安藝。○輔仁和名等同）

𤗉薇根　無波良（京貞享二本攝津○輔仁和名等同）

五味子　佐爾加都良（貞享本安藝。刻本渤海使新羅使。○輔仁和名等同）

當歸　也末世利（京本元日中宮祈雨使、貞享本兵部伊賀甲斐上野安藝。刻本齋宮祈雨使伊勢上野備後、○輔仁和名等同）　於保世利（貞享本萬月内匠近衞。刻本萬月木工近衞。○康頼和名順抄醫心方醫略抄同。）

加波世利（京刻二本中宮）案輔仁和名等。一名宇末世利。一名加波佐久。醫心方。阿末世利。

〔黃芩〕和名抄に「黃芩、和名、比比良木、楊氏漢語抄云、杜谷樹、和名上同、一云巴戟天」とあれども、「巴戟天本」本書九百二十一頁に別に載せ別種となせり、今柊と書く、木犀科に屬し、其葉常綠にして厚く、鋸齒の如く端末針狀をなすを珍とす

〔加佐毛知〕和名抄には「白芷、一名白茝、和名、加佐毛知、一云與呂比久佐」とありて、「藁本」は別に「和名佐々波會良之、一云會良之、根上苗下似藁、故以名之」とあり。

秦膠　久末波之加美刻本近衞乃左波之加美京本近衞。案乃左者。久左。或久末之誤。　案秦膠不可名以波之加美。蓋秦膠秦椒混誤也。
輔仁和名等。都加利久佐。又波加利久左。醫心方同。

黃芩　比々良支貞享本藕月合藥齋宮唐使新羅使上野。京本合藥上野。刻本雜給兵衞新羅使尾張遠江上野。○輔仁和名等同。也末比々良支京本元日齋宮藥樣近衞。貞享本元日中宮。刻本元日臘月藥樣中宮近衞。案輔仁和名。一名波比之波醫心方同字鏡。佊佐乃木。

芍藥　惠比須久須利貞享本藕月齋宮近衞長門○京本上野長門。刻本近衞。○輔仁和名等同。惠比須久左刻本藕月。貞享本雜給。○字鏡同　案輔仁和名等。一名奴美久須利。字鏡。一名山佐介。

干薑　諸本不注和名。案順抄。保之波之加美。輔仁康賴和名醫心方等。久禮乃波之加美。醫心方。又乎保波之加美。

藁本　加佐毛知刻本大和○輔仁和名等同　佐波會良之貞享本伊與○輔仁和名等同　案順抄。佐々波會良之。一名會良之。字鏡。乃會良之。

麻黃　加都禰久佐貞享本東宮齋宮○輔仁康賴和名等同　阿末奈也。貞享本元日東宮。刻本東宮阿作　輔仁康賴和名醫心方等同　加都良久佐京本元日　加久佐久左京本東宮　加利奈久左京本齋宮　加利麻久左京本藥樣　加都波久左刻本元日　加久末久左貞享本藕月。刻本藥樣。　案加都良久左以下六名。烏焉魚魯之轉耳。

葛根　久須乃禰京刻二本山城○輔仁和名等同　案順抄。久豆加豆良乃禰。

葛花　諸本不注和名。

前胡　乃世利京刻二本中宮○輔仁和名等同　古末世利貞享本藕月。京刻二本近衞。　案輔仁和名。一名宇多奈。醫心方。一名久知多介。或引式云。美都波久左。未見其本。

茹蕳　夜末之磨貞享本武藏丹波播磨○順抄醫心方同　也末止古呂毛貞享本攝津　案輔仁康賴和名醫心方字鏡共也末止古呂。康賴和名。一

名伊末止古呂。案伊者也之誤

大青　波止久左 貞享本大和紀伊。京刻二本伊賀。○輔仁和名等同 案順抄醫心方輔仁和名等、一名久流久左。康頼和名。一名久呂久左。

貝母　波々久利 京本美濃○輔仁和名等同 加波久爾 京本美濃。案並行、卷柏ノ和名錯誤 案字鏡。於比。一云波末久利。案二名共有二誤字一

括樓　加良須宇利 京本伊賀石見伊與。貞享本伊與。刻本伊賀石見。○輔仁和名等同。乎之乃比太比 京本伊勢美濃 宇之乃比太比 貞享本紀伊

括樓根　加良須宇利乃禰 貞享本藺月○康頼和名同

玄參　於之久左 貞享本唐使渤海使攝津出雲播磨紀伊。京本雜給內匠攝津尾張丹波出雲安藝。刻本內匠伊賀攝津。○輔仁和名等同 支之久左 貞享刻二本中宮 保之久左 京本中宮 案支保共二於之誤。

苦參　久良々 京本藺月出雲。刻本藺月渤海使山城丹後播磨。貞享本播磨安藝紀伊伊與土佐。○輔仁和名等同。 案輔仁和名順抄。一名末比里久左。康頼和名醫心方。一名末止利久左。康頼和名。加都禰久左。醫心方。一名爾加奈。

石葦　伊波加之波 京本唐使。刻本唐使近江。貞享本近江。○康頼和名等同。 案輔仁和名醫心方。以波乃加波。一名以波之。一名以波久左。順抄。一名以波久美。康頼和名。一名比止都波。字鏡鹿耳草（カノカ、クヒ）。又鹿舌草（カノシタ）。一云公彌乃加志波。案貞享本渤海使副罨加波。恐伊波乃加波誤。

女葦　見二出雲國一恐石葦之誤。案風土記卷柏石葦神門郡所レ產

狗脊　於保和良比 貞享本雜給若狹 和良比 刻本雜給 案輔仁和名等、於爾和良比。一名以奴和良比。醫心方、一名久末和良比。康頼和名。一名也末和良比。字鏡同

萆薢　止古呂 京本出雲阿波。貞享本紀伊阿波、刻本攝津阿波、 於爾止古呂 貞享本近江○輔仁和名等同 於須比古須 貞享本攝津。案不レ爲レ語。恐於爾止古呂之誤。 順抄並和名。土古呂。俗用二薢字一。漢語抄用二野老二字一。按所出並未レ詳。

〔貝母〕和名抄に「貝母、和名、波波久里、形似二聚貝一故以名レ之」とあり今、編笠百合と云ふ、百合科に屬す其の球根蛤殼の形をなす、觀賞用又は藥用として栽培す。

〔括樓〕和名抄に「括樓、一名𤬪瓠、和名、加良須宇里」とありて、別に「石龍芻」を「和名、宇之乃比太比、一名太都乃比計」とあり、今、前者は「烏瓜」又は「土瓜」と稱し、葫蘆科に屬し、後者を「牛額」と云ひ、「とうしん草」の一種とせり。

〔於爾和良比〕和名抄に「貫衆、和名、於爾和良非」とし「微蕨、和名、和良比」と別に擧ぐ。

〔澤蘭〕和名抄に「澤蘭、和名、佐波阿良々木、一云阿加末久佐、生二澤傍一故以名レ之」とあり、一に「虎蘭」とも記す、蘭の類にて、秋の頃、薄荷に似たる淺紫色の花を開く。

〔土瓜〕（九二五頁括樓參照）訓二比佐古一は證し「けふがほ」「ふくべ」等の總稱也、土瓜は今專ら、烏瓜を云ふ。

〔也以久左〕燒草（ヤキクサ）の音便也、下文「也以波久左」卽ち「燒葉草」の音便也、點灸に用ふる蓬草の乾したるを云ふ。

〔甘遂〕一に「夏燈臺」とも云ふ、大戟科に屬する草本也

木防已　阿乎都々良（刻京二本近衞。京本駿河。貞享本伊豆。）　阿乎加都良（貞享本安房○輔仁和名等同）案醫心方。一名佐爾加都良。字鏡佐奈葛　康頼和名。

一名都々良。一名波末布支。字鏡一云神衣比。

澤蘭　佐波阿良々支（京刻二本大和○輔仁和名等同）案輔仁和名。一名阿加末久左。順抄醫心方同

地楡　恵比須爾（貞享本紀伊。刻本肯羅使山城出雲安藝、刻本安房。京本紀伊作二恵比不爾一○輔仁和名等同。）　阿也女久佐（京本山城大和攝津。貞享本伊勢）　阿也女太毛（貞享本攝津○輔仁和名醫心方順抄毛作レ无）阿古佐（貞享本中宮。字形不レ詳。）案醫心方。一名衣比須久左。康頼和名。一名也末不之。

白前　乃加々美（貞享京二本近江○輔仁和名等。乃加々牟）案醫心方加々牟爵床。乃加々毛。康頼和名。加々美久左乃爾。

百部根　保止都良（刻本出雲○保。輔仁和名醫心方作レ布、順抄作レ保。康頼和名良作レ留。）

土瓜　比佐古（貞享本阿波○輔仁和名等。古作レ久。康頼和名。比佐己宇利之爾。）

薺苨　左支久左（刻本肯羅使山城三河。貞享本阿波。貞享本渤海使。亦附二和名一。其字形不レ詳。）案輔仁和名。一名美乃波。醫心方順抄同。康頼和名美乃波久左。

高粱薑　諸本不レ注二和名一。案據二豈羲子旁注一當レ呼如二香蓮香一。輔仁和名等。加波爾久左。一名久禮乃波之加美乃宇止、康頼和名乃宇止三字无

蕭艾　也以久左（京刻二本中宮）　也以波久左（刻本縫殿）

大黄　於保之（京本葛月東宮雜給、貞享本中宮齋宮尾張陸奥。刻本近衞右門（輔仁和名等同）

桔梗　阿利乃比布支（刻本元日葛月東宮雜給參河播磨伊與、京本葛月山城播磨安藝、貞享本葛月東宮雜給（輔仁和名等同）　阿利乃比布支久左。（貞享本元日齋宮。京本齋宮。）
（刻本近衞兵衞。）乎加止々支（貞享本元日○輔仁和名等同）

甘遂　仁波曾（貞享本雷前渤海使戒裝、輔仁和名、順抄醫心方同。康頼和名、波作レ和。）案輔仁和名等。一名爾比曾。

亭藶子　波末多加奈（京本中宮參河安藝紀伊。貞享本唐使尾張美濃安藝長門紀伊。刻本丹波駿河美濃丹後。輔仁和名等同）波末多加奈乃美（貞享本攝津）　波末加良之（京本中宮。刻本中宮雜給。貞享本雜給。）　加良之（刻本萬月近衛）　案輔仁和名等、一名阿之奈都奈。一名波末世利。

澤柒　波也比止久左（貞享刻二本近江。康賴和名同）波也比止久左乃爾（貞享本近江）　案爾當レ作レ女、輔仁和名、一名柒莖。大戟苗也　和名波也比止久左乃女。（醫心方和名同。康賴和名亦云、大戟苗也）字鏡、大戟苗生時、波衣草苗。證類本草、陶隱居云、此是大戟苗。（圖經本草同）

大戟　波也比止久左（京本中宮美作、刻本中宮阿波、貞享本美作阿波。輔仁和名等同。刻本元日。也作レ末。誤。）比々良支（貞享本元日、京本元日萬月雜給近衛、刻本萬月雜給。）　大比々良支（貞享本萬月）　案字鏡。念毘須、一云波良草。

旋覆花　加末乃都保（京貞享二本安房○康賴和名同。輔仁和名醫心方无ニ乃字ニ）案輔仁和名。一名加末保。（醫心方同）

藜蘆　也末宇波良（貞享本唐使渤海使伊勢、輔仁和名等同）之々乃久比伎（刻本唐使、輔仁和名順抄、久比乃岐、醫心方之々乃久比久左）之々乃宇波良（貞享本唐使○醫心方合藥新理。也末无久良。）　康賴和名　於毛止久左。

烏頭。天雄。附子。已上三種、諸本不レ注ニ和名一。醫心方輔仁和名三種共和名於宇。

躑躅花　都々之乃波奈（貞享本出雲、同本紀伊无ニ乃波奈三字一。○輔仁和名等、羊躑躅、以波都々之。一名之都々之。一名毛知都々之。）

茵芋　爾波都々之（京本近衛播磨。刻本近衛。）　案輔仁和名等、爾都々之、一名乎加都々之。

夜干　加良須阿布支（貞享本木工唐使山城伊勢、刻本木工唐使駿河石見、京本唐使新羅使駿河越前石見。○輔仁和名等同）

貫衆　於備和良比（貞享本播磨）　案輔仁和名等、於備和良比

半夏　加多保曾（刻本中宮東宮近衛、京本東宮齋宮。貞享本雜給。）保曾久美（貞享本中宮。刀作レア。誤○輔仁和名等同）　保曾久佐（貞享本齋宮。京本新羅使。）

莨菪子　於保美留久左（貞享本伊豆○輔仁和名等同）於備美留久左（貞享本伊豆）　乎爾之留久左（刻本伊豆。案之美相誤。）　於保之久左（貞享本近江）　乎保

〔亭藶子〕和名抄に「亭藶子、和名、波末太加奈、一云阿之奈豆奈、又云波末世里」とあり、今「濱高菜」と云ふ、高さ二三寸、薺に似て、春の末野菊に似たる黄色の小花を開く、其一名「波末世里」は今別種として、「濱芹」又は「蛭子席」（ヒルムシロ）と稱し、之れに似たる海岸植物あり

〔大戟〕今、高燈臺と云ふ、其根は、痢尿に効ありと云ふ。

〔附子〕和漢三才圖會に「附子、別有ニ草烏頭白附子一、故呼レ之爲ニ黑附子川烏頭一」とあり。

〔久佐支〕和名抄に「蜀漆、和名、久佐木、一云、夜末宇豆木乃爾、恒山苗也」とあり、今臭木又は常山に作る、馬鞭草科に屬する草、葉は、あづさの葉の如く、圓くして尖れり、夏の末、五瓣の白き花を開く、包惡臭あるを以て名付く、嫩葉は食用に供せらる。

〔連翹〕和名抄に「連翹、一名三廉草、和名、以多知久佐、一云、以太知波勢」とあり、今「レンゲウ」と云ふ、木犀の類にて、枝條は蔓狀をなす、春の頃四瓣黄色の花を開く、觀賞用として栽培せらる。

美久左貞享本安房。刻本相模安房。案此亦之美相誤未ㇾ知二孰是一。 案醫心方。一名於爾保美久左。康頼和名、於爾比留久左。

恒山　久左支京刻二本伊勢丹波〇輔仁和名等同　案輔仁和名。一名宇久比須乃以比爾、宇鏡。山宇豆支。

狼牙　古末都奈支貞享刻二本常陸阿波〇輔仁和名等。古作ㇾ宇。順抄作ㇾ古。　於保加美久左貞享本常陸

白斂　也末加々美刻本中宮雜給尾張備中。貞享本唐使。〇輔仁和名等同。康頼和名、美作ㇾ毛。加々牟貞享本薦月齋宮　也末加良京本齋宮案加良者。加々美之誤。

蝕銜　宇都末女久左京本元日薦月中宮近衞。貞享本元日薦月中宮雜給。刻本元日薦月雜給近衞。〇康頼和名同　宇都末女貞享本渤海使武藏備前。刻本武藏。醫心方同。　阿知末久左貞享本齋宮

連翹　伊多知久左刻本中宮齋宮尾張丹波出雲阿波。貞享本阿波。〇輔仁和名等同　伊多知波世貞享本中宮〇輔仁和名等同　波多个久左貞享本臘月。案恐字誤。

白頭公　於支奈久左貞享本中宮相摸下總。刻本中宮雜給相模美濃。京本雜給美濃〇輔仁和名等同　不都久左貞享本中宮。案奈加久左之誤。奈加久左見二輔仁和名等一。

藺茹　爾阿佐美京本内匠信濃。貞享本唐使渤海使新羅使信濃美作〇輔仁和名等同　阿末井貞享本内匠　爾比末久左貞享本内匠。末作ㇾ介。誤。〇輔仁和名等同。

蘆茹　也末阿佐美貞享本中宮、京本齋宮近衞、刻本中宮齋宮　阿左美京本雜給

鼠尾草　美曾波支京貞享二本山城〇輔仁和名等同

蒴藋　都知比止加多貞享本薦月中宮齋宮。刻本薦月中宮、京本齋宮。　都都乃止良京本齋宮　案輔仁和名等曾久止久。醫心方卷廿七止久久作ㇾ宇　康頼和名曾久都、輔仁和名云、楊玄操音、上朔。下濁、順抄同　案藋、徒弔直角二切。曾久止久卽朔濁之轉音、曾久止宇、卽藋。徒弔切。共是也。

牽牛子　阿佐加保京刻二本雜給〇輔仁和名等同

〔安加太末〕和名抄に「虎魄、和名、阿加多末、一名阿末多末」とあり、陸中國の山中より產する一種の香料色は黑く、質は、琥珀に似て下品也松の雫の變化したるものにて、夏は溶解すと云ふ。

〔枸杞〕和名抄に、「枸杞、根下潤ニ黃泉ヘ、其精德多爲ニ犬子ヘ、或爲ニ小兒ヘ、和名、沼美久須利、俗云、久古」とあり、蒲の類にて、一に「天精」とも云ふ、葉は食用に供し、又茶に代用せらる。

寄生　也止利支（貞享刻二本阿波）　案輔仁康頼醫心方共云、桑上寄生、和名、久波乃支乃保也、順抄、寄生。和名、夜止里木。一名保夜。

茵茹（尾張國作茵茹皮）　牟古支（京本伊勢美作○輔仁和名等同）○牟古支乃加波（京刻二本尾張）

黃蘗　伎波太（京本中宮近衞。○輔仁和名等同）

木蘭（太宰作木蘭皮）　諸本及輔仁和名不注和名。醫心方順抄。和名如字。

薰陸香　諸本及輔仁和名不注和名。康頼和名、安加太末。出奧州。

檢皮　伊陪爾禮（貞享本伊勢加爾禮（醫心方同）加爾禮乃加波（貞享本紀伊○輔仁和名醫心方順抄共也爾禮）案加也、假字無混誤、然於其義則有不可改者。此加字、亦猶家鷄之加。）康頼和名。爾禮。

枸杞　久古（刻本相模。京本甲斐出雲。貞享本武藏下野。○康頼和名字鏡同。順抄俗云久古）　案輔仁和名醫心方。奴美久須爾。順抄云。奴美久須利。

橘皮　諸本及輔仁和名不注和名。醫心方順抄。橘。和名太知波奈。順抄、甘皮。和名木加波。

厚朴　保々乃加波（貞享本萬月、刻本萬月近衞、京本齋宮近衞、康頼和名順抄同。）　案輔仁和名醫心方順抄、保々加之波乃木。醫心方（卷第二十）阿都保保。

枳實　加良多知（刻本萬月攝給近衞。京本齋宮（○輔仁和名醫心方同））　加良久曾知（貞享本萬月）

枳殼　加良多知（京刻二本加以）

案輔仁和名醫心方諸書和名、有枳實、而無枳殼。康頼和名。枳實。加良太知乃和加支。枳殼。加良多知。醫心方諸方中、枳實。加良多知乃美、枳殼。加良多知乃加波。

〔山茱萸〕本草和名に「山茱萸、和名以多知波之加美、一名、加利波乃美」とあり、今「サンシュユ」或は「犬山椒」と云ふ、山椒の類にて、觀賞用として栽培せられ、又實は藥用とす。

〔秦皮〕和名抄に「秦皮、一名、石檀、和名、止禰利古乃木、一云太無乃木、葉似檀、故以名之」とあり、玉勝間に「美濃國の飯木(ハンキ)村と云ふ地に、多くある木にて、本の色白く、葉は榎の木の葉に似て、實は(ヒサゴ)の如き形にて、上の方は、葉の樣に平なるものなり」とあり。

山茱萸　以多知波之加美京本作○輔仁和名等同　也末波之加美京刻一本作榛　加良波之加美貞享本工　案輔仁和名。一名加利波乃美。康頼和名醫心方同　廣韻利名。一名佐波久美。

吳茱萸　加良波之加美京本萬月内匠。○輔仁和名等同。刻貞享二　加波々之加美刻本中宮近衛雜給兵衛渤海使新羅使丹波。京本雜給新羅使出雲、貞享本兵衛渤海使丹波、○順抄同

波之加美刻本内匠　案康頼和名。一名伊太知支。

秦皮　止禰利古乃木乃加波貞享本伊勢若狹、伊勢、木作□非。○輔仁和名等。止禰利古乃支。　案輔仁和名等。一名多牟支。

支子　久知奈之刻貞享二本萬月○輔仁和名等同

檳榔子　布知末女貞享本雜給　輔仁和名等。阿知末佐。案貞享本。左。誤作女。

秦椒　加波々之加美京本美濃播磨紀伊上左○輔仁和名等同　刻古布之波之加美京刻二本播磨。古作加。○醫心方同　久末波之加美京本美濃　案字鏡。

伊太知椒。一名鹿椒。

鬼箭　於爾乃也加良貞享刻二本大和　加波良都々良貞享本播磨　案輔仁和名。加波久末都々良。醫心方同　一名久曾末由美。二名順抄

同　醫心方。今案新埋　加波良久末都々良。一名久曾末由美乃加波。

蕪荑　比佐久良京本信濃　比佐久良久左京本信濃　案京本。比佐久良久左。疑比支左久良之誤。貞享本。信濃　爾阿美。又爾比奈久左。爾阿美者。爾阿左美之誤。爾比奈久左者。爾比末久左之轉語。共並行。廣和名錯附。又案輔仁和名等。蕪荑和名。比支左久良。一名也爾禮乃美。

桑根白皮　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名。久波乃加波。久波乃下。醫心方有二禰乃二字一。康頼和名有二支乃禰乃四字一。

桑茸　久波乃美貞享本出雲　案美下脫二一美字一。是據二字鏡一也。字亦作二耳篤一、正作二茸者一。石韋々作二韋之類。

〔松蘿〕和名抄に「松蘿、一名、女蘿、和名、萬豆乃古介、一云、佐流乎加世」とあり、今下苔（サガリゴケ）と云ふ、菌の中にて、地衣の類に属し、多く樹梢に寄生し、恰も絲を垂れたるが如し一に、日蔭蔓とも云ふ。

〔巴豆〕音讀して「ハヅ」と云ふ、大戟の類にて、小木本也、果實は豆に似て長く、仁は藥用とし或は油を搾取す、支那の巴蜀より多く産出するが故に名付く。

松蘿　末都乃古希京刻二本攝津。京貞享刻三本近江。○輔仁和名等同　左加利古希京貞享二本近江　左留乎加世京本伯耆○順抄同

石南草　止比良乃支京刻貞享三本唐使○輔仁和名等同　佐久奈牟久左貞享本美濃○順抄同　案康頼和名。止扁良。字鏡。一名志麻木。

巴豆　諸本及輔仁和名等不レ注二和名一。

蜀椒　奈留波之加美刻本元日藺月伊賀遠江若狹。貞享本伊賀紀伊。○康頼和名順抄同　波之加美京本元日案輔仁和名。布左波之加美。醫心方順抄同

菵草　之支美京本藺月内匠近衞。貞享本渤海使。刻本雜給近衞山城○順抄同　波波久左刻本中宮　案輔仁和名等。之支美乃木。康頼和名、之支美之波。

榧子　加陪貞享本大和伊豆甲斐若狹○輔仁和名等。加陪乃美。

小蘗　諸本及輔仁和名不レ注二和名一。醫心方。加波宇須伎々波多。康頼和名。安末支之也久留。案小蘗有二山石榴之名一。因以爲二石榴子嫩者一。而名物共訛。

皂莢　加波良布知貞享本藺月齋宮。京本齋宮。刻本近衞門渤海使。○順抄康頼和名同。輔仁和名等。加波良布知乃支。案康頼和名。左伊加知。順抄。俗云蛇結。據レ抄皂角雲實相混。

龍骨　多都乃保禰刻貞享二本藺月○輔仁和名等同

牛乳　諸本不レ注二和名一。醫心方食性。宇之乃知。

阿膠　爾加波刻本雜給、輔仁和名等同。康頼和名。宇之乃仁加和。　美加波京貞享二本雜給

犀角　諸本及輔仁和名等不レ注二和名一。

零羊角　加末之々乃都乃刻本渤海使。○輔仁和名等同　加作レ也。

鹿角　諸本不レ注二和名一。

鹿茸　加乃和加都乃（貞享本信濃○輔仁和名等同○貞享本美濃鹿茸ノ旁注所謂房角）加乃都乃（京本美濃播磨）

狸骨　諸本不ㇾ注和名。案輔仁和名等。多々介、順抄、太奴木、康頼和名爾已、又太々計。蓋以ㇾ有猫狸之名混誤。

熊掌　久末乃多奈古々呂（貞享刻二本美濃）

熊膽　久末乃葦（貞享刻二本美濃）

猪蹄　爲乃都女（京刻二本相模）

猪膏　爲乃阿布良（京本元日薦月陸奥。刻本元日薦月雜給。貞享本薦月陸奥。）膏陸奥國作ㇾ脂。

獺肝　乎會乃支毛（貞享本下總。刻本美濃。）案輔仁和名、乎會、康頼和名、加和於會。

蜜　諸本及輔仁和名等不ㇾ注和名。案順抄、美知。

蜂房　波知乃須（刻本攝津伊勢。京本攝津。○輔仁和名等。露蜂房。於保波知乃須。）

牡礪　乎加支乃加比（貞享刻二本伊勢○輔仁和名等同）加支乃加良（貞享本伊勢○康頼和名同）

桑螵蛸　於保知加布久利（貞享本攝津○輔仁和名等同）於支奈乃布久利（刻本尾張遠江近江石見京本備前。貞享本石見。）

海蛤　波末久利（京刻二本尾張）案輔仁和名。宇牟支乃加比。醫心方。海蛤、宇牟支乃加比、蜂蛤、波末久利乃加比。康頼和名。海蛤。波末久利乃波之良。（案波之良未ㇾ穩。）

白殭蠶　古多禰乃加良（貞享本伊勢近江）加比古乃之末多留（京本播磨。案末恐爾或之之誤。）案貞享本所ㇾ云當蠶退之和名。京本得其義。而其語氣卑陋。輔仁和名等云。加比古。

䗪蟲　阿久多牟之（刻本薦月○康頼和名同○京本誤作阿利久牟之）案輔仁和名等。於女牟之。（案䗪。諸本作ㇾ塵。貞享本塵音陳。）

〔鹿茸〕和名抄に「鹿茸、和名、鹿乃和加豆乃、鹿角初生也」とあり、蓋「鹿の若角」の意也。

〔多々介〕塵添壒嚢抄に「狸又猫なりとも云へり」とあり。

〔於保知加布久利〕和名抄に「螵蛸、和名、於保知加不久里、蟷螂（かまきり）子也」とあり、又、字鏡に「螵蛸、蜣蜋（黄金蟲）之子、阿志萬支、又、阿志加良女、又、於保地不久利」とあり。

〔阿久多牟之〕本草和名に「蜚蠊、和名阿久多牟之」とあり、卽今の「あぶらむし」是也。

鼈甲　加波加女京本山城○輔仁和名等同　加女乃甲貞享刻二本藺月

烏賊骨　以加乃古布貞享本播磨。刻本攝津。

蚫脱皮　久知奈波乃毛奴介刻貞享二本伊賀　案輔仁和名。陪美乃毛奴介。醫心方同。

馬刀　末天貞享本伊勢　案輔仁和名醫心方。末天乃加比。康頼和名。末天乃加良。

貝子　貞享本和名如レ音。案輔仁和名等。牟末乃都保加比。都保。順抄作二久保一。

荳蓑子　加宇禮牟加宇乃美貞享本武藏○輔仁和名等同

大棗　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名等。於保奈都女。

軋棗　保之奈都女京刻二本丹後

鷄頭子　美津布々支貞享刻二本阿波○輔仁和名等同　案康頼和名。美都不支。醫心方。美津布々支乃美。

烏梅　諸本不レ注二和名一。案醫心方。保之牟女。醫略抄。宇女保之。

白花木瓜實　之土美刻本大和○康頼和名同　案輔仁和名等。毛介。康頼和名同

杏人　加良毛々乃左袮貞享本藺月。刻本藺月山城。

桃人　毛々乃左袮豆貞享本中宮伊。刻本中宮。毛々乃美貞享刻二本尾張。案桃子和名錯附。

桃子　見二三本尾張。貞享本近江。共梱子之誤。

桃花　貞享本如レ音。京刻二本不レ注二和名一。三本攝津

胡桃子　久留美貞享本伊勢阿波

〔加波加女〕川龜の義、池沼に棲息する故に名付く、一に「泥龜」とも云ふ。

〔馬刀〕和名抄に「蟶、萬天、蚌屬也、本草云、馬刀一名、馬蛤、和名同上」とあり。

〔牟末乃都保加比〕下注に據れば、一に「牟末乃久保加比」とも云ふ也、和名抄に「紫貝、和名、宇萬乃久保加比」あり、寶貝に似たりと也、而して寶貝は一に子安貝とも云ひ、子安貝は貝子（バイシ）也と云ふ、然れども今其名毎に別種の貝あり、混誤して各れに當れるか詳ならず。

瓜蔕　宇利乃保曾貞享本渤海使案輔仁和名等。前加宇利乃保曾。

蕪菁子　奈太爾貞享本伊與案輔仁和名等、蕪菁、阿乎奈。

荏子　衣乃美貞享本攝津刊模。京本攝津。案輔仁和名等、於保衣乃美

蓼子　諸本不レ注ニ和名。案輔仁和名等。多天。

薤白　爾良乃之呂美刻本元日美良乃之呂伎京貞享二本元日、刻本中宮、作ニ爾良乃白一。萬月。京本作ニ爾良乃久支一。貞享本作ニ爾良乃比伎一。誤。案輔仁和名等、於保美良、康頼美作レ仁醫心方。又於保美良乃爾。

葵子　安不比乃美貞享刻二本攝津○輔仁和名等同

紫蘇　以奴衣貞享本伊勢、京本讃岐。○輔仁和名等同乃良衣貞享本輔仁和名等同○奴加衣貞享本尼張○醫心方順抄同

香薷　以奴阿良々支刻本攝津○輔仁和名等同○輔以奴衣貞享本山城輔仁和名等同○奴加衣貞享本山城

大蒜　諸本不レ注ニ和名。案輔仁和名等。於保比留。

胡麻　古末京刻貞享三本攝津順抄。宇古末。醫心方同

麻子　阿左乃美京刻二本萬月○輔仁和名等。麻蕡。阿左乃美。蘇敬注曰。麻蕡即是實也。陶景爲レ花大誤也。阿左多爾貞享本丹波

黑大豆　久呂末女京本河内

赤小豆　諸本不レ注ニ和名。案輔仁和名等。阿加阿都支。

豉　久京本萬月。刻本萬月雜給相模。貞享本造藥相模。○輔仁和名等同

小麥　諸本不レ注ニ和名。案輔仁和名等。古牟支。

〔宇利乃保曾〕宇利は瓜也、保曾は蔕の訓、俗に「ヘタ」と云ふ、和名抄に「蔕、和名、保曾、今按、蔕相通」とあり。

〔於保美良〕和名抄に「薤葷菜也、本草云、薤、味苦無毒、和名、於保美良」とあり。

〔紫蘇〕和名抄に「葉細而香、其實黑者、曰レ蘇、和名乃良衣、一云以加衣」とあり、即ち今云ふ「紫蘇」也。

〔香薷〕和名抄に「香薷（薷一作レ）和名、以沼衣」とあり、今「犬荏」と云ふ、唇形に類する草本にて、花に似て細小也。

粟　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名等、阿波乃宇留之爾順、抄阿、阿波

白粟　諸本不レ注二和名一。案輔仁和名等、白粱米、和名。之呂支阿波、又芑。粟粱之莖白者、出二崔豹一。案説本二爾雅一

糵　毛也之（京刻二本雜給○輔仁和名等同）

麴　加宇太知（貞享本合業）加牟太知（京本近衞○醫心方順抄同）

糯米　諸本不レ注二和名一。案和名抄。毛知乃與禰

苦酒　久須（京本元日）案輔仁和、須

白粉　諸本不レ注二和名一。順抄（服玩部引二輔仁和名醫心方一）陰瘡門）波布爾、醫心方（諸藥和名）康頼和名、己布爾。案波布爾者、白粉之器也。己布爾卽胡粉也。共鉛粉而非二米粉一也。又案鉛花弗レ御之語。雖三已見二雄畧紀一。是修辭而非二眞用一。沙門觀成造二鉛粉一見二持統紀一。蓋用二鉛粉一創二于此一。而二粉兼用乎。此所謂白粉者。急就篇曰。脂粉、小顏注、粉謂二鉛粉及米粉一。皆以傅レ面。取二光潔一也。韵會、古傅レ面亦用二米粉一。是也。

藍漆　也末阿左（京本王、作井本）未レ詳。其證近レ左、而違レ井）案輔仁名和。本草外中藏レ之。不レ注二和名一。醫心方所レ引。范汪方。治レ疥、水銀膈方中有二藍漆一。亦不レ注二和名一。順抄云。藍漆實治二疥瘡一。蓋同方。藍漆其物未レ詳。

僕奈　久留陪支久左（京本豈爾衞後、貞享本裁店）波末（貞享本唐使）也之末（貞享本唐使）也末止古呂毛（貞享本攝津知母旁注云、僕奈同）。案輔仁和名　本草外中藏レ之。和名久留陪支奈。方今攝後國有下稱二久留米支奈一者上。採藥家者流以爲二王孫一者。是也。當時呼爲二僕奈一。而後世僕奈之名亡、僅存二其和名一否。未レ可レ知レ之。草木之名、眞云訛云。其論古今如二聚訟一。其實草木不レ言。但隨レ呼耳。

〔阿波乃宇留之爾〕「粟の糯」の意也、本式に「秫」を「アハノモチ」（粟の餅）と訓めり、卽ち黏粟也、これに對して、ねばりけの無き、種類の「あは」を云ふ。

〔爾雅〕周公の作と傳ふれども、詳ならず、釋詁、釋言、釋訓、釋親、釋宮より釋鳥、釋獸、釋畜に至る十九篇あり、支那にありて訓詁の祖とせらる、

〔加宇太知〕麴（カム）立（タチ）の轉音也、今約めて、「カウヂ」と云ふ。

〔須〕和名抄に「酢和名、須」とあり。

〔王孫〕和名抄に「王孫、一名黃孫、雎名、沼波利久佐」とあり、今、衝羽根草と云ふ。

渡邊　享　校

延喜式　終

昭和貳年十一月二十五日印刷
昭和貳年十一月三十日發行

（新註皇學叢書　第三卷）

著作者　物集高見

東京市小石川區竹早町三十二番地
發行者　川俣馨一

東京市小石川區[illegible]町五十六番地
印刷者　松浦政吉

東京市小石川區竹早町三十二番地
發行所　廣文庫刊行會
電話小石川（一一）五四番　（三二二）六九番
振替東京二八七九〇番

常磐印刷所印刷